

林中原Ⅱ遺跡(1)

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第47集

2016

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

林中原Ⅱ遺跡(1)

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第47集

2016

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



1. 林中原Ⅱ遺跡遠景・丸岩を望む(東から)



2. 51区280号土坑出土土器



3. 51区297号土坑出土土器



4. 51区156号土坑(左)・171号土坑(中)・172号土坑(右)出土土器



5. 51区309号土坑遺物出土近撮(燒骨出土)



6. 51区309号土坑(左)・166号土坑(右)出土土器



7. 51区17号住居跡遺物出土状況



8. 51区17号住居跡出土土器

序

ハッ場ダムは、首都圏の利水および治水を目的として計画され、吾妻郡長野原町を中心に工事が進められています。

ハッ場ダムの建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は、当事業団が平成6年度から実施し、本年度で22年目を迎えます。林中原Ⅱ遺跡は平成20・21年度に発掘調査を行った遺跡です。ダム建設に伴う生活再建事業の一環として、水没する国道145号線の代替道路としてのハッ場バイパス建設と町道建設に先立ち調査されました。

調査の結果、縄文時代から中世・近世に至る、良好な埋蔵文化財包蔵地であることが解りました。特に、縄文時代中期～後期にかけての集落跡として住居跡100軒以上が発見され、縄文時代の大型集落跡として位置付けられました。

本書は、その縄文時代集落跡のうち、国道建設に伴う調査区を扱った縄文時代編です。中期～後期の住居跡群とその豊富な出土遺物をはじめ、焼骨を出土した土坑や弧状に並んだ列石遺構などを掲載しました。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、国土交通省ハッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、および長野原町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者のみなさまには、多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

また本書が吾妻郡内、ひいては群馬県の歴史を解明する上で未永く活用されることを願います。

平成28年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 中野 三智男

例 言

1. 本書は、ハツ場ダム建設工事に伴う事前調査として、平成20年度と21年度に発掘調査された『林中原Ⅱ遺跡』の発掘調査報告書である。本書は林中原Ⅱ遺跡で検出された縄文時代の集落跡を中心とした遺構・遺物および遺構外出土遺物を掲載しており、林中原Ⅱ遺跡の発掘調査報告書の第1冊目である。
2. 林中原Ⅱ遺跡は群馬県吾妻郡長野原町大字林984・985-1・985-2・986・988・989・990・991・992・993・1002-1-3・1003・1004-2・1005-1・1006-1・1007・1008・乙1009・1009-1・1011・1012・1018-1・1023・1024に所在し、長野原町教育委員会と協議の結果、本遺跡名が決定された。
3. 本発掘調査は、群馬県教育委員会の調整に基づき、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が国土交通省関東地方整備局（平成13年1月までは建設省）の委託を受けて実施した。平成14年度からは、ハツ場ダム地域埋蔵文化財調査を目的に設置された、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団ハツ場ダム調査事務所が担当している。
4. 発掘調査は、平成20年10月14日から平成20年12月26日・平成21年3月1日～平成21年10月31日まで実施しており、今回報告する遺構・遺物は、調査対象区のうち、国道145号線（ハツ場バイパス）部分にあたる調査区の、縄文時代に該当する資料を対象としている。
5. 発掘調査体制は以下のとおりである。

調査担当 平成20年度：飯田陽一、飯森康広、宮下 寛

平成21年度：飯田陽一、坂口 一、麻生敏隆、飯森康広、須田正久、宮下 寛、平井 敦

遺跡掘削工事 平成20年度：吉澤建設株式会社

平成21年度：株式会社歴史の杜

6. 整理期間は平成25年4月1日から平成27年3月31日である。
7. 整理体制は以下のとおりである。

編集 黒澤照弘・山口逸弘

執筆 横崎修一郎（第4章）

岩崎泰一（遺物観察表―石器の一部）

谷藤保彦（遺物観察表―土器の一部）

黒澤照弘（本文原稿―遺構説明の一部）

山口逸弘（上記以外）

石材同定 飯島静男（群馬県地質研究会）・松村和男

遺構写真撮影 各調査担当者

遺物写真撮影 岩崎泰一・谷藤保彦・山口逸弘

委託 遺構測量および遺構図デジタル編集 株式会社測研

礫石器実測 株式会社測研

人骨鑑定 横崎修一郎（生物考古学研究所）

平成25年度は事業団本部で、平成26年度はハツ場ダム調査事務所で開催作業を実施した。

8. 出土遺物及び記録図・写真などの記録類は、すべて群馬県埋蔵文化財センターで保管している。
9. 発掘調査および調査報告書作成には、次の関係機関、諸氏にご助言をいただいた。記して感謝いたします。
国土交通省関東地方整備局ハツ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、長野原町教育委員会、設楽博巳

凡 例

1. 挿図中に使用した方位は、座標北を表している。本書で使用する測量図の座標はすべて、2002年4月改正以前の日本測地系を用いている。
2. 調査範囲には4×4mのグリッド方眼を設定し、各グリッド呼称は南東隅の交点を充てている。
3. 遺構図の縮尺は、各挿図に示している。
4. 遺構番号は、基本的に調査時の番号を用いた。しかしながら、整理段階で各遺構の再検討を行っており、遺構名、遺構番号の変更も一部ある。変更した場合、その都度本文中に記した。
5. 遺構図面中における遺物番号は遺物実測図の番号と一致する。また●は土器、○は石器を表し、図示した遺物でこの表示のない遺物、遺構図中に番号の無い遺物は出土位置を記録しなかったものである。
6. 遺物図の縮尺は、各挿図に示している。
7. 写真図版中の遺物縮尺は、概ね遺物実測図と同縮尺としたが、一部変更している。
8. 遺物観察表及び計測表の計測値単位はcmである。石器等の重量はすべて残存値である。色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修の新版標準土色帖に基づいている。
9. 遺構図・遺物図中の網掛け部分は図中に説明を記している。
10. 遺構名称で、竪穴住居一般に関しては、住居跡あるいは号住、住と記す。土坑跡は土坑あるいは号坑、坑、焼土遺構は焼土、集石遺構は集石と記している。
11. 本文中、「郷土式」の名称に関しては、

桜井秀雄 2000 「郷土遺跡」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書19—小諸市内3—』長野県埋蔵文化財センター

綿田弘実 2003 「長野県千曲川流域の縄文中期後葉土器群」『第16回 縄文セミナー 中期後半の再検討』縄文セミナーの会 p.105-159

関根慎二 2008 「浅間山を廻る縄文土器」『研究紀要』26 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

綿田弘実 2009 「郷土式・圧痕隆帯紋土器・大木系土器」『綜覧縄文土器』小林達雄編 アム・プロモーション p.444-449

藤森英二他 2011 「特集 郷土式は成立するか」『佐久考古通信№107』佐久考古学会

山口逸弘 2015 「吾妻川中流域における「郷土式」の様相」『研究紀要』33 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

上記文献を元に、「郷土式」として呼称している。

目次

序

例言

凡例

目次

挿図目次

表目次

写真図版目次

第1章 調査経過と調査の方法

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の経過	1
第3節 発掘調査の方法	2
第4節 整理業務の経過	4

第2章 周辺の環境

第1節 遺跡の位置と地形	5
第2節 周辺の遺跡	5
第3節 林地区の縄文時代遺跡	9

第3章 発見された遺構と遺物

第1節 遺跡の概要	15
第2節 基本土層	15
第3節 住居跡	27
第4節 土坑	213
第5節 竪穴状遺構	308
第6節 埋設土器	310
第7節 灰跡	310
第8節 焼土遺構	310
第9節 集石遺構	331
第10節 列石遺構・配石遺構	338
第11節 ビット	352
第12節 遺構外出土遺物	359

第4章 分析

第1節 林中原Ⅱ遺跡出土縄文焼骨について	401
----------------------	-----

第5章 総括

第1節 各時期の様相	407
第2節 墓塚と思われる土坑について	413
第3節 小結	417

遺構計測表・遺物観察表

写真図版

報告書抄録

奥付

挿図目次

第1図	林中原Ⅱ道跡 位置図(国土地理院5万分の1地形図「草津」使用)……………	1	第63図	51K13号住居跡(1)……………	79
第2図	林中原Ⅱ道跡調査区区分割(国道部分)……………	2	第64図	51K13号住居跡(2)……………	80
第3図	調査区の設定……………	3	第65図	51K13号住居跡出土遺物(1)……………	81
第4図	周辺の道跡(国土地理院2万5千分の1地形図「長野原」使用)……………	7	第66図	51K13号住居跡出土遺物(2)……………	82
第5図	林中原Ⅱ道跡周辺道跡及び地形図……………	折り込み	第67図	51K13号住居跡出土遺物(3)……………	83
第6図	51K区基本上期図……………	16	第68図	51K15号住居跡(1)……………	85
第7図	林中原Ⅱ道跡全体図(51・52・61・62区)……………	折り込み	第69図	51K15号住居跡(2)……………	86
第8図	林中原Ⅱ道跡全体図(国道部分)……………	折り込み	第70図	51K15号住居跡(3)・15号住居跡出土遺物(1)……………	87
第9図	林中原Ⅱ道跡全体図(国道部分)……………	折り込み	第71図	51K15号住居跡出土遺物(2)……………	88
第10図	林中原Ⅱ道跡道構配置図1……………	23	第72図	51K15号住居跡出土遺物(3)……………	89
第11図	林中原Ⅱ道跡道構配置図2……………	24	第73図	51K16号住居跡(1)……………	90
第12図	林中原Ⅱ道跡道構配置図3……………	25	第74図	51K16号住居跡(2)・16号住居跡出土遺物(1)……………	91
第13図	林中原Ⅱ道跡道構配置図4……………	26	第75図	51K16号住居跡出土遺物(2)……………	92
第14図	51K区1号住居跡・1号住居跡出土遺物……………	27	第76図	51K17号住居跡(1)……………	93
第15図	51K区2号住居跡(1)……………	28	第77図	51K17号住居跡(2)……………	94
第16図	51K区2号住居跡(2)・2号住居跡出土遺物(1)……………	29	第78図	51K17号住居跡(3)……………	95
第17図	51K区2号住居跡出土遺物(2)……………	30	第79図	51K17号住居跡出土遺物(1)……………	96
第18図	51K区2号住居跡出土遺物(3)……………	31	第80図	51K17号住居跡出土遺物(2)……………	97
第19図	51K区3号住居跡……………	33	第81図	51K17号住居跡出土遺物(3)……………	98
第20図	51K区3号住居跡出土遺物(1)……………	34	第82図	51K17号住居跡出土遺物(4)……………	99
第21図	51K区3号住居跡出土遺物(2)……………	35	第83図	51K17号住居跡出土遺物(5)……………	100
第22図	51K区4号住居跡(1)……………	30	第84図	51K17号住居跡出土遺物(6)……………	101
第23図	51K区4号住居跡(2)……………	37	第85図	51K17号住居跡出土遺物(7)……………	102
第24図	51K区4号住居跡……………	38	第86図	51K17号住居跡出土遺物(8)……………	103
第25図	51K区4号住居跡(1)……………	39	第87図	51K18号住居跡(1)……………	104
第26図	51K区4号住居跡(2)……………	40	第88図	51K18号住居跡(2)・18号住居跡出土遺物(1)……………	105
第27図	51K区4号住居跡出土遺物(1)……………	41	第89図	51K18号住居跡出土遺物(2)……………	106
第28図	51K区4号住居跡出土遺物(2)……………	42	第90図	51K18号住居跡出土遺物(3)……………	107
第29図	51K区4号住居跡出土遺物(1)……………	43	第91図	51K19号住居跡・19号住居跡出土遺物……………	108
第30図	51K区4号住居跡出土遺物(2)……………	44	第92図	51K20号住居跡(1)……………	110
第31図	51K区4号住居跡出土遺物……………	45	第93図	51K20号住居跡(2)……………	111
第32図	51K区5号住居跡(1)……………	46	第94図	51K20号住居跡出土遺物(1)……………	112
第33図	51K区5号住居跡(2)……………	47	第95図	51K20号住居跡出土遺物(2)……………	113
第34図	51K区5号住居跡出土遺物(1)……………	48	第96図	51K21号住居跡・21号住居跡出土遺物……………	114
第35図	51K区5号住居跡出土遺物(2)……………	48	第97図	51K22号住居跡・22号住居跡出土遺物……………	115
第36図	51K区6号住居跡(1)……………	50	第98図	51K23号住居跡……………	116
第37図	51K区6号住居跡(2)……………	51	第99図	51K23号住居跡出土遺物……………	117
第38図	51K区6号住居跡出土遺物……………	52	第100図	51K24号住居跡・24号住居跡出土遺物……………	118
第39図	51K区7号住居跡(1)……………	53	第101図	51K25号住居跡……………	120
第40図	51K区7号住居跡(2)……………	54	第102図	51K25号住居跡出土遺物……………	121
第41図	51K区7号住居跡(3)……………	55	第103図	51K26号住居跡……………	122
第42図	51K区7号住居跡出土遺物……………	56	第104図	51K26号住居跡出土遺物……………	123
第43図	51K区8号住居跡(1)……………	58	第105図	51K27号住居跡……………	124
第44図	51K区8号住居跡(2)・8号住居跡出土遺物……………	59	第106図	51K27号住居跡出土遺物……………	125
第45図	51K区9号住居跡・9号住居跡出土遺物(1)……………	60	第107図	51K28号住居跡(1)……………	127
第46図	51K区9号住居跡出土遺物(2)……………	61	第108図	51K28号住居跡(2)……………	128
第47図	51K区10号住居跡(1)……………	63	第109図	51K28号住居跡(3)……………	129
第48図	51K区10号住居跡(2)……………	64	第1100図	51K28号住居跡出土遺物(1)……………	130
第49図	51K区10号住居跡出土遺物(1)……………	65	第1110図	51K28号住居跡出土遺物(2)……………	131
第50図	51K区10号住居跡出土遺物(2)……………	66	第1120図	51K28号住居跡出土遺物(3)……………	132
第51図	51K区10号住居跡出土遺物(3)……………	67	第1130図	51K29号住居跡・29号住居跡出土遺物……………	133
第52図	51K区11・14号住居跡(1)……………	68	第1140図	51K30号住居跡……………	134
第53図	51K区11・14号住居跡(2)……………	69	第1150図	52K1号住居跡(1)……………	135
第54図	51K区11・14号住居跡(3)……………	70	第1160図	52K1号住居跡(2)……………	136
第55図	51K区11・14号住居跡(4)……………	71	第1170図	52K1号住居跡(3)……………	137
第56図	51K区11号住居跡出土遺物(1)……………	72	第1180図	52K1号住居跡出土遺物(1)……………	138
第57図	51K区11号住居跡出土遺物(2)……………	73	第1190図	52K1号住居跡出土遺物(2)……………	139
第58図	51K区11号住居跡出土遺物(3)……………	74	第1200図	52K2号住居跡(1)……………	141
第59図	51K区11号住居跡出土遺物(4)……………	75	第1210図	52K2号住居跡(2)……………	142
第60図	51K区11号住居跡出土遺物(5)……………	76	第1220図	52K2号住居跡出土遺物……………	143
第61図	51K区14号住居跡出土遺物……………	76	第1230図	52K3号住居跡(1)……………	144
第62図	51K区12号住居跡・12号住居跡出土遺物……………	78	第1240図	52K3号住居跡(2)……………	145
			第1250図	52K3号住居跡(3)……………	146
			第1260図	52K3号住居跡出土遺物(1)……………	147
			第1270図	52K3号住居跡出土遺物(2)……………	148
			第1280図	52K4号住居跡(1)……………	150
			第1290図	52K4号住居跡(2)……………	151
			第1300図	52K4号住居跡(3)……………	152

第131图	52区4号住居跡出土遺物(1).....	153	第197图	土坑1	51区出土遺物(2).....	232
第132图	52区4号住居跡出土遺物(2).....	154	第198图	土坑1	51区出土遺物(3).....	233
第133图	52区4号住居跡出土遺物(3).....	155	第199图	土坑1	51区出土遺物(4).....	234
第134图	52区5号住居跡・5号住居跡出土遺物.....	156	第200图	土坑1	51区出土遺物(5).....	235
第135图	52区6・10号住居跡(1).....	157	第201图	土坑1	51区出土遺物(6).....	236
第136图	52区6・10号住居跡(2).....	158	第202图	土坑1	51区出土遺物(7).....	237
第137图	52区6・10号住居跡出土遺物(1).....	159	第203图	土坑1	51区出土遺物(8).....	238
第138图	52区6・10号住居跡出土遺物(2).....	160	第204图	土坑1	51区出土遺物(9).....	239
第139图	52区6・10号住居跡出土遺物(3).....	161	第205图	土坑1	51区出土遺物(10).....	240
第140图	52区7号住居跡(1).....	162	第206图	土坑1	51区出土遺物(11).....	241
第141图	52区7号住居跡(2).....	163	第207图	土坑1	51区出土遺物(12).....	242
第142图	52区7号住居跡(3).....	164	第208图	土坑1	51区出土遺物(13)・52区出土遺物(1).....	243
第143图	52区7号住居跡(4)床下.....	165	第209图	土坑1	52区出土遺物(2).....	244
第144图	52区7・11号住居跡.....	166	第210图	土坑1	61区出土遺物.....	245
第145图	52区7号住居跡出土遺物(1).....	167	第211图	土坑2	51区(1).....	247
第146图	52区7号住居跡出土遺物(2).....	168	第212图	土坑2	51区(2).....	248
第147图	52区8号住居跡・8号住居跡出土遺物.....	169	第213图	土坑2	51区(3).....	249
第148图	52区9号住居跡(1).....	170	第214图	土坑2	51区(4).....	252
第149图	52区9号住居跡(2).....	171	第215图	土坑2	51区(5).....	253
第150图	52区9号住居跡(3).....	172	第216图	土坑2	51区(6).....	254
第151图	52区9号住居跡出土遺物.....	173	第217图	土坑2	51区(7).....	257
第152图	52区11号住居跡(1).....	175	第218图	土坑2	51区(8).....	258
第153图	52区11号住居跡(2).....	176	第219图	土坑2	51区(9).....	261
第154图	52区11号住居跡(3)床下.....	177	第220图	土坑2	51区(10).....	262
第155图	52区11号住居跡出土遺物.....	178	第221图	土坑2	51区(11).....	265
第156图	52区12号住居跡(1).....	179	第222图	土坑2	51区(12).....	266
第157图	52区12号住居跡(2).....	180	第223图	土坑2	51区(13).....	269
第158图	52区12号住居跡出土遺物(1).....	181	第224图	土坑2	51区(14).....	270
第159图	52区12号住居跡出土遺物(2).....	182	第225图	土坑2	51区(15).....	273
第160图	52区13号住居跡(1).....	183	第226图	土坑2	51区(16).....	274
第161图	52区13号住居跡(2).....	184	第227图	土坑2	51区(17).....	277
第162图	52区13号住居跡(3).....	185	第228图	土坑2	51区(18).....	278
第163图	52区13号住居跡出土遺物(1).....	186	第229图	土坑2	51区(19).....	281
第164图	52区13号住居跡出土遺物(2).....	187	第230图	土坑2	51区(20).....	282
第165图	52区13号住居跡出土遺物(3).....	188	第231图	土坑2	51区(21).....	285
第166图	52区13号住居跡出土遺物(4).....	189	第232图	土坑2	51区(22).....	287
第167图	52区14号住居跡(1).....	190	第233图	土坑2	51区出土遺物(1).....	288
第168图	52区14号住居跡(2).....	191	第234图	土坑2	51区出土遺物(2).....	289
第169图	52区14号住居跡(3)床下・14号住居跡出土遺物(1).....	192	第235图	土坑2	51区出土遺物(3).....	290
第170图	52区14号住居跡出土遺物(2).....	193	第236图	土坑2	51区出土遺物(4).....	291
第171图	52区15号住居跡.....	194	第237图	土坑2	51区出土遺物(5).....	292
第172图	52区15号住居跡出土遺物.....	195	第238图	土坑2	51区出土遺物(6).....	293
第173图	52区16号住居跡.....	196	第239图	土坑2	51区出土遺物(7).....	294
第174图	52区17号住居跡.....	197	第240图	土坑2	52区(1).....	296
第175图	52区18号住居跡(1).....	199	第241图	土坑2	52区(2).....	297
第176图	52区18号住居跡(2)・18号住居跡出土遺物(1).....	200	第242图	土坑2	52区(3).....	301
第177图	52区18号住居跡出土遺物(2).....	201	第243图	土坑2	52区(4).....	302
第178图	61区5・13号住居跡(1).....	203	第244图	土坑2	52区出土遺物(1).....	303
第179图	61区5・13号住居跡(2)・5・13号住居跡出土遺物(1).....	204	第245图	土坑2	52区出土遺物(2).....	304
		205	第246图	土坑2	61区(1).....	305
第180图	61区5・13号住居跡出土遺物(2).....	205	第247图	土坑2	61区(2).....	306
第181图	61区6・15号住居跡・6号住居跡出土遺物.....	206	第248图	土坑2	61区出土遺物.....	307
第182图	61区14・15号住居跡(1).....	208	第249图	52区1号整穴遺構・1号整穴遺構出土遺物.....	308	
第183图	61区14・15号住居跡(2)・14・15号住居跡出土遺物(1).....	209	第250图	51区1号埋設土器・1号埋設土器出土遺物 52区1号埋設土器・1号埋設土器出土遺物.....	309	
第184图	61区14・15号住居跡出土遺物(2).....	210	第251图	伊勢・51区焼土(1).....	312	
第185图	61区25号住居跡(1).....	211	第252图	51区焼土(2).....	313	
第186图	61区25号住居跡(2)・25号住居跡出土遺物.....	212	第253图	51区焼土(3).....	316	
第187图	土坑1 51区(1).....	215	第254图	51区焼土(4).....	317	
第188图	土坑1 51区(2).....	216	第255图	51区焼土(5).....	320	
第189图	土坑1 51区(3).....	219	第256图	51区焼土(6).....	321	
第190图	土坑1 51区(4).....	220	第257图	51区焼土(7).....	322	
第191图	土坑1 51区(5).....	221	第258图	51区焼土(8).....	326	
第192图	土坑1 51区(6).....	225	第259图	52区焼土.....	327	
第193图	土坑1 51区(7).....	226	第260图	伊勢出土遺物・51区焼土出土遺物(1).....	328	
第194图	土坑1 51区(8)・52区(1).....	229	第261图	51区焼土出土遺物(2).....	329	
第195图	土坑1 52区(2)・61区.....	230	第262图	51区焼土出土遺物(3).....	330	
第196图	土坑1 51区出土遺物(1).....	231	第263图	52区焼土出土遺物.....	331	

第264回	51区集石(1).....	334
第265回	51区集石(2).....	335
第266回	51区集石(3)・52区集石.....	336
第267回	51区集石出土遺物(1).....	337
第268回	51区集石出土遺物(2).....	338
第269回	51区1号列石・1号集石配置図.....	339
第270回	51区1号列石・1号集石.....	340
第271回	51区2号列石配置図.....	340
第272回	51区2号列石.....	342
第273回	51区3号列石配置図.....	343
第274回	51区3号列石.....	344
第275回	51区列石出土遺物(1).....	345
第276回	51区列石出土遺物(2).....	346
第277回	51区列石出土遺物(3).....	347
第278回	51区列石出土遺物(4).....	348
第279回	51区列石出土遺物(5).....	349
第280回	51区列石出土遺物(6).....	350
第281回	51区1号配石.....	351
第282回	51区ビット(1).....	354
第283回	51区ビット(2)・52区ビット.....	355
第284回	51区ビット出土遺物(1).....	356
第285回	51区ビット出土遺物(2).....	357
第286回	51区ビット出土遺物(3)・52区ビット出土遺物.....	358
第287回	道構外出上遺物1 51区(1).....	361
第288回	道構外出上遺物1 51区(2).....	362
第289回	道構外出上遺物1 51区(3).....	363
第290回	道構外出上遺物1 51区(4).....	364
第291回	道構外出上遺物1 51区(5).....	365
第292回	道構外出上遺物1 51区(6).....	366
第293回	道構外出上遺物1 51区(7).....	367
第294回	道構外出上遺物1 51区(8).....	368
第295回	道構外出上遺物1 51区(9).....	369
第296回	道構外出上遺物1 51区(10).....	370
第297回	道構外出上遺物1 51区(11).....	371
第298回	道構外出上遺物1 51区(12).....	372
第299回	道構外出上遺物1 51区(13).....	373
第300回	道構外出上遺物1 51区(14).....	374
第301回	道構外出上遺物1 51区(15).....	375
第302回	道構外出上遺物1 51区(16).....	376
第303回	道構外出上遺物1 52区(1).....	379
第304回	道構外出上遺物1 52区(2).....	380
第305回	道構外出上遺物1 52区(3).....	381
第306回	道構外出上遺物1 52区(4).....	382
第307回	道構外出上遺物1 52区(5).....	383
第308回	道構外出上遺物1 52区(6).....	384
第309回	道構外出上遺物1 52区(7).....	385
第310回	道構外出上遺物1 52区(8).....	386
第311回	道構外出上遺物1 52区(9).....	387
第312回	道構外出上遺物1 52区(10).....	388
第313回	道構外出上遺物1 52区(11).....	389
第314回	道構外出上遺物1 52区(12).....	390
第315回	道構外出上遺物1 52区(13).....	391
第316回	道構外出上遺物1 52区(14).....	392
第317回	道構外出上遺物1 52区(15).....	393
第318回	道構外出上遺物1 52区(16).....	394
第319回	道構外出上遺物1 61区(1).....	395
第320回	道構外出上遺物1 61区(2).....	396
第321回	道構外出上遺物2(1).....	397
第322回	道構外出上遺物2(2).....	398
第323回	道構外出上遺物2(3).....	399
第324回	林中原Ⅱ道跡51区 骨類出土遺物配置図.....	400
第325回	中期後葉前半.....	408
第326回	中期後葉中頃.....	409
第327回	中期後葉後半.....	410
第328回	中期末葉 後期初頭 後期前葉.....	412
第329回	林中原Ⅱ道跡 土坑諸例(1).....	414
第330回	林中原Ⅱ道跡 土坑諸例(2).....	415
第331回	林中原Ⅱ道跡 土坑諸例(3).....	417

表目次

表1	周辺の主な道跡一覧.....	8
表2	林中原Ⅱ道跡縄文時代骨まとも.....	405
表3	北村道跡築坑平均値と林中原Ⅱ道跡土坑規模の比較.....	406
表4	道構計測表.....	421
	住居跡.....	421
	土坑1.....	423
	土坑2.....	424
	堅穴状道構.....	426
	埋設土器.....	426
	枡跡.....	426
	焼土.....	426
	集石.....	427
	列石.....	427
	配石.....	427
	ビット.....	427
表5	遺物観察表.....	435
	51区1号住居跡.....	435
	51区2号住居跡.....	435
	51区3号住居跡.....	436
	51区4号住居跡.....	437
	51区5号住居跡.....	440
	51区6号住居跡.....	441
	51区7号住居跡.....	442
	51区8号住居跡.....	442
	51区9号住居跡.....	443
	51区10号住居跡.....	443
	51区11号住居跡.....	445
	51区12号住居跡.....	447
	51区13号住居跡.....	448
	51区14号住居跡.....	449
	51区15号住居跡.....	450
	51区16号住居跡.....	451
	51区17号住居跡.....	452
	51区18号住居跡.....	456
	51区19号住居跡.....	458
	51区20号住居跡.....	458
	51区21号住居跡.....	459
	51区22号住居跡.....	459
	51区23号住居跡.....	460
	51区24号住居跡.....	460
	51区25号住居跡.....	460
	51区26号住居跡.....	461
	51区27号住居跡.....	461
	51区28号住居跡.....	461
	51区29号住居跡.....	463
	52区1号住居跡.....	463
	52区2号住居跡.....	464
	52区3号住居跡.....	465
	52区4号住居跡.....	466
	52区5号住居跡.....	466
	52区6号住居跡.....	467
	52区7号住居跡.....	468
	52区8号住居跡.....	468
	52区9号住居跡.....	469
	52区10号住居跡.....	469
	52区11号住居跡.....	470
	52区12号住居跡.....	471
	52区13号住居跡.....	471
	52区14号住居跡.....	474
	52区15号住居跡.....	475
	52区18号住居跡.....	475
	61区5-13号住居跡.....	476
	61区6(2)号住居跡.....	477
	61区14号住居跡.....	477

61区15号住居跡	477
61区25号住居跡	478
土坑1 51区	478
土坑1 52区	482
土坑1 61区	483
土坑2 51区	483
土坑2 52区	489
土坑2 61区	491
52区1号型穴状遺構	492
埋設土器	492
51区1号炉	492
焼土 51区	492
焼土 52区	494
集石 51区	494
列石 51区	495
ピット 51区	497
ピット 52区	498
道橋外出土遺物1 51区	499
道橋外出土遺物1 52区	508
道橋外出土遺物1 61区	518
道橋外出土遺物2	519

写真図版目次

P.L. 1	1	林地遠景 (南から)
P.L. 2	1	林中原Ⅱ道橋遠景 (西から)
P.L. 2	2	51区道橋全景 (真上から)
P.L. 2	3	51区列石道橋全景 (真上から)
P.L. 3	1	51区1号住居跡全景 (西から)
P.L. 3	2	51区2号住居跡全景 (西から)
P.L. 3	3	51区2号住居跡遺物出土状態 (北から)
P.L. 3	4	51区2号住居跡遺物出土状態 (西から)
P.L. 3	5	51区2号住居跡炉跡 (東から)
P.L. 3	6	51区3号住居跡遺物出土状態 (東から)
P.L. 3	7	51区4A・4B号住居跡 (南から)
P.L. 3	8	51区4A・4B号住居跡床下調査 (南から)
P.L. 4	1	51区4A・4B号住居跡遺物出土状態 (南西から)
P.L. 4	2	51区4B号住居跡炭化材出土状態 (東から)
P.L. 4	3	51区4A号住居跡遺物出土状態 (西から)
P.L. 4	4	51区4B号住居跡炉跡 (北東から)
P.L. 4	5	51区5号住居跡全景 (南西から)
P.L. 4	6	51区5号住居跡炉跡 (南から)
P.L. 4	7	51区5号住居跡床下全景 (南から)
P.L. 4	8	51区5号住居跡遺物出土状態 (南から)
P.L. 5	1	51区6号住居跡全景 (北から)
P.L. 5	2	51区6号住居跡炉跡 (西から)
P.L. 5	3	51区7号住居跡全景 (南から)
P.L. 5	4	51区7号住居跡炉跡 (南から)
P.L. 5	5	51区8号住居跡遺物出土状態 (南から)
P.L. 5	6	51区8号住居跡炉跡 (南から)
P.L. 5	7	51区8号住居跡埋設土器 (南西から)
P.L. 5	8	51区9号住居跡 (東から)
P.L. 6	1	51区10号住居跡全景 (北から)
P.L. 6	2	51区10号住居跡炉跡 (南から)
P.L. 6	3	51区10号住居跡遺物出土状態 (北から)
P.L. 6	4	51区10号住居跡遺物出土状態 (南から)
P.L. 6	5	51区11・14号住居跡全景 (南から)
P.L. 6	6	51区11・14号住居跡遺物出土状態 (南から)
P.L. 6	7	51区11号住居跡炉跡 (南から)
P.L. 6	8	51区11号住居跡出入口部埋設 (南から)
P.L. 7	1	51区12号住居跡全景 (南から)
P.L. 7	2	51区13号住居跡全景 (南から)
P.L. 7	3	51区13号住居跡炉跡 (南から)
P.L. 7	4	51区13号住居跡炉内土器 (南から)
P.L. 7	5	51区13号住居跡西壁彫刻石状況 (南から)
P.L. 7	6	51区13号住居跡東壁彫刻石状況 (南から)
P.L. 7	7	51区15号住居跡全景 (南から)
P.L. 7	8	51区15号住居跡炉跡 (西から)
P.L. 8	1	51区16号住居跡全景 (南東から)
P.L. 8	2	51区16号住居跡炉跡 (南東から)
P.L. 8	3	51区17号住居跡全景 (南から)
P.L. 8	4	51区17号住居跡炉跡 (西から)
P.L. 8	5	51区17号住居跡出入口部埋設 (西から)
P.L. 9	1	51区17号住居跡遺物出土状況 (南から)
P.L. 9	2	51区17号住居跡遺物出土状況 (南から)
P.L. 9	3	51区17号住居跡遺物出土状況 (南から)
P.L. 9	4	51区17号住居跡遺物出土状況 (南から)
P.L. 9	5	51区18号住居跡遺物出土状況 (北から)
P.L. 9	6	51区18号住居跡炉跡 (南から)
P.L. 9	7	51区18号住居跡炉内土器 (南から)
P.L. 9	8	51区18号住居跡出入口部埋設 (東から)
P.L. 10	1	51区18号住居跡 (左)・19号住居跡 (右) (北から)
P.L. 10	2	51区20号住居跡全景 (南東から)
P.L. 10	3	51区20号住居跡炉内土器 (東から)
P.L. 10	4	51区20号住居跡遺物出土状況 (南東から)
P.L. 10	5	51区21号住居跡全景 (南から)
P.L. 10	6	51区22号住居跡全景 (南東から)
P.L. 10	7	51区23号住居跡全景 (北から)
P.L. 10	8	51区23号住居跡炉跡 (南から)
P.L. 11	1	51区24号住居跡遺物出土状況 (南から)
P.L. 11	2	51区25号住居跡全景 (東から)
P.L. 11	3	51区25号住居跡炉跡 (東から)
P.L. 11	4	51区25号住居跡遺物出土状況 (東から)
P.L. 11	5	51区26号住居跡全景 (東から)
P.L. 11	6	51区26号住居跡炉跡 (南東から)
P.L. 11	7	51区27号住居跡遺物出土状況 (南東から)
P.L. 11	8	51区27号住居跡炉内土器 (南から)
P.L. 12	1	51区28号住居跡全景 (南から)
P.L. 12	2	51区28号住居跡遺物出土状況 (南から)
P.L. 12	3	51区28号住居跡炉跡 (南から)
P.L. 12	4	51区28号住居跡遺物出土状況 (南から)
P.L. 12	5	51区28号住居跡遺物出土状況 (南から)
P.L. 13	1	51区29号住居跡全景 (南から)
P.L. 13	2	51区29号住居跡炉跡 (南から)
P.L. 13	3	51区30号住居跡炉跡 (東から)
P.L. 13	4	51区調査風景 (4号住居周辺)
P.L. 13	5	52区1号住居跡全景 (南から)
P.L. 14	1	52区1号住居跡遺物出土状況 (南から)
P.L. 14	2	52区1号住居跡炉内土器 (南から)
P.L. 14	3	52区1号住居跡炉内土器近接 (東から)
P.L. 14	4	52区1号住居跡遺物出土状況 深鉢と釣り手土器 (南から)
P.L. 14	5	52区1号住居跡遺物出土状況 伏農 (南から)
P.L. 14	6	52区1号住居跡立石出土状況 (東から)
P.L. 14	7	52区2号住居跡全景 (西から)
P.L. 14	8	52区2号住居跡炉跡 (北から)
P.L. 15	1	52区3号住居跡全景 (北から)
P.L. 15	2	52区3号住居跡炉跡 (南から)
P.L. 15	3	52区3号住居跡出入口部埋設 (西から)
P.L. 15	4	52区3号住居跡調査風景
P.L. 15	5	52区4号住居跡全景 拡張後 (北から)
P.L. 15	6	52区4号住居跡全景 (北から)
P.L. 15	7	52区4号住居跡炉跡 (南から)
P.L. 15	8	52区4号住居跡西壁彫刻石出土状況 (南から)
P.L. 16	1	52区5号住居跡全景 (西から)
P.L. 16	2	52区6・10号住居跡全景 (南東から)
P.L. 16	3	52区6・10号住居跡遺物出土状況 (南から)
P.L. 16	4	52区6・10号住居跡埋設土器 (南から)
P.L. 16	5	52区7号住居跡全景 (南から)
P.L. 17	1	52区7号住居跡炉跡1 (東から)
P.L. 17	2	52区7号住居跡炉跡2 (南から)
P.L. 17	3	52区7号住居跡出入口部埋設と立石 (南から)
P.L. 17	4	52区7号住居跡出入口部埋設と立石 (西から)
P.L. 17	5	52区7号住居跡出入口部埋設 (西から)
P.L. 17	6	52区8号住居跡全景 (南東から)
P.L. 17	7	52区8号住居跡炉跡 (西から)

P.L. 17	8	52区9号住居跡調査風景	P.L. 27	2	51区241号土坑遺物出土状態 (東から)
P.L. 18	1	52区9号住居跡全景 (北から)	3	51区256号土坑遺物出土状態 (南東から)	
	2	52区9号住居跡跡跡 (南から)	4	51区256号土坑完掘 (北から)	
	3	52区9号住居跡跡跡 (西から)	5	51区261号土坑全景 (南から)	
	4	52区9号住居跡跡跡内土器近接 (東から)	6	51区267号土坑遺物出土状態 (南から)	
	5	52区11号住居跡全景 (南から)	7	51区267号土坑完掘 (南から)	
	6	52区11号住居跡遺物出土状況 (北から)	8	51区273号土坑全景 (南から)	
	7	52区12号住居跡全景 (西から)	P.L. 28	1	51区280号土坑遺物出土状態 (東から)
	8	52区12号住居跡全景 (東から)	2	51区280号土坑完掘 (東から)	
P.L. 19	1	52区13号住居跡全景 (南から)	3	51区284号土坑遺物出土状態 (南東から)	
	2	52区13号住居跡跡跡 (北西から)	4	51区284号土坑完掘 (南東から)	
	3	52区13号住居跡遺物出土状態 (南西から)	5	51区297号土坑遺物出土状態 (南東から)	
	4	52区13号住居跡遺物出土状態 (南から)	6	51区297号土坑遺物出土状態 (東から)	
	5	52区13号住居跡遺物出土状態 (南から)	7	51区297号土坑遺物出土状態 (北から)	
P.L. 20	1	52区14号住居跡全景 (南から)	8	51区297号土坑遺物出土状態 (南東から)	
	2	52区14号住居跡遺物出土状態 (南から)	P.L. 29	1	51区309号土坑遺物出土状態 右は308坑 (南から)
	3	52区14号住居跡跡跡 (南から)	2	51区309号土坑遺物出土状態 (南から)	
	4	52区15号住居跡全景 (東から)	3	51区309号土坑遺物出土状態 (南から)	
	5	52区15号住居跡跡跡 (北東から)	4	51区309号土坑遺物・焼骨片出土状態 (北から)	
P.L. 21	1	52区16号住居跡全景 (東から)	5	51区315号土坑全景 (西から)	
	2	52区17号住居跡全景 (東から)	6	51区315号土坑遺物出土状態 (近接)	
	3	52区18号住居跡全景 (東から)	7	52区74号土坑全景 (南から)	
	4	52区18号住居跡跡跡 (東から)	8	52区74号土坑遺物出土状態 (近接)	
	5	61区5号住居跡全景 (東から)	P.L. 30	1	52区78号土坑全景 (南から)
	6	61区5号住居跡跡跡 (南から)	2	52区78号土坑完掘 左77坑・右79坑 (南から)	
	7	61区6号住居跡全景 (南から)	3	61区42号土坑全景 (南から)	
	8	61区6号住居跡跡跡 (東から)	4	61区42号土坑遺物出土状態 (東から)	
P.L. 22	1	61区14号住居跡全景 (東から)	5	61区42号土坑遺物出土状態 (北から)	
	2	61区14号住居跡跡跡 (南から)	6	61区42号土坑遺物出土状態 (南から)	
	3	61区14号住居跡遺物出土状態 (南から)	7	61区42号土坑遺物出土状態 (南から)	
	4	61区14号住居跡跡跡遺物出土状態 (南から)	8	61区42号土坑完掘 (南から)	
	5	61区15号住居跡全景 (東から)	P.L. 31	1	51区1号土坑全景 (西から)
	6	61区15号住居跡全景 (南から)	2	51区2号土坑全景 (南から)	
	7	61区25号住居跡全景 (東から)	3	51区4号土坑全景 (南から)	
	8	61区25号住居跡遺物出土状態 (南から)	4	51区5号土坑全景 (南から)	
P.L. 23	1	51区65号土坑跡出土状態 (南から)	5	51区6号土坑全景 (南から)	
	2	51区65号土坑完掘 (南から)	6	51区10号土坑土層 (南東から)	
	3	51区81号土坑全景 (北から)	7	51区11号土坑全景 (北西から)	
	4	51区81号土坑遺物出土状態 (北から)	8	51区13号土坑全景 (南西から)	
	5	51区118号土坑全景 (西から)	9	51区18号土坑全景 (北から)	
	6	51区118号土坑遺物出土状態近接 (南から)	10	51区21号土坑土層 (南から)	
	7	51区143号土坑遺物出土状態 (南から)	11	51区22号土坑全景 (西から)	
	8	51区143号土坑完掘 (南から)	12	51区29号土坑全景 (南東から)	
P.L. 24	1	51区153号土坑全景 (南から)	13	51区30号土坑全景 (東から)	
	2	51区153号土坑焼骨片・炭化物出土状態 (西から)	14	51区31号土坑全景 (南から)	
	3	51区156号土坑全景 (南から)	15	51区32号土坑土層 (南から)	
	4	51区156号土坑遺物出土状態 (西から)	P.L. 32	1	51区33号土坑全景 (南から)
	5	51区159号土坑焼骨片出土状態 (西から)	2	51区34号土坑全景 (南から)	
	6	51区159号土坑焼骨片出土状態 (近接)	3	51区35号土坑全景 (南から)	
	7	51区164号土坑焼骨片出土状態 (西から)	4	51区36号土坑全景 (北から)	
	8	51区164号土坑焼骨片出土状態 (近接)	5	51区37号土坑全景 (南から)	
P.L. 25	1	51区166号土坑遺物出土状態 (南から)	6	51区38号土坑全景 (南から)	
	2	51区166号土坑焼骨片出土状態 (南から)	7	51区39号土坑全景 (南から)	
	3	51区166号土坑下層遺物出土状態 (南から)	8	51区40号土坑全景 (南から)	
	4	51区166号土坑完掘 (南から)	9	51区41号土坑土層 (南から)	
	5	51区171号土坑遺物出土状態 (南から)	10	51区42号土坑全景 (南から)	
	6	51区171号土坑浅鉢下胴骨残存状況 (南から)	11	51区43号土坑全景 (西から)	
	7	51区172号土坑遺物出土状態 (北から)	12	51区44号土坑全景 (南から)	
	8	51区172号土坑全景 (北から)	13	51区45号土坑全景 (東から)	
P.L. 26	1	51区215号土坑遺物出土状態 (南から)	14	51区49号土坑全景 (南から)	
	2	51区215号土坑跡出土状態 (西から)	15	51区50号土坑全景 (東から)	
	3	51区226号 (右)・227号 (左) 土坑全景 (南から)	P.L. 33	1	51区51号土坑全景 (東から)
	4	51区227号土坑遺物出土状態 (南から)	2	51区52号土坑全景 (東から)	
	5	51区230号土坑遺物出土状態 (南から)	3	51区53号土坑全景 (西から)	
	6	51区230号土坑焼骨片出土状態 (南から)	4	51区54号土坑土層 (南から)	
	7	51区239号土坑全景 (東から)	5	51区54坑 (左)・55坑 (右) 全景 (南から)	
	8	51区239号土坑遺物出土状態 (南から)	6	51区56号土坑全景 (東から)	
P.L. 27	1	51区241号土坑全景 (東から)	7	51区57号土坑全景 (東から)	

- P.L. 33 8 51区58号土坑全量 (南から)
 9 51区59号土坑全量 (南東から)
 10 51区60号土坑全量 (南から)
 11 51区62号土坑全量 (南東から)
 12 51区63号土坑全量 (南から)
 13 51区64号土坑全量 (南から)
 14 51区66号土坑全量 (南から)
 15 51区66坑 (右)・67坑 (左) 全量 (南から)

- P.L. 34 1 51区68号土坑全量 (南東から)
 2 51区69号土坑全量 (南から)
 3 51区70号土坑全量 (南から)
 4 51区72号土坑全量 (南東から)
 5 51区72号土坑立石出土状態 (南から)
 6 51区73号土坑全量 (南から)
 7 51区74号土坑全量 (南から)
 8 51区75号土坑全量 (南から)
 9 51区76号土坑全量 (南から)
 10 51区77号土坑全量 (南から)
 11 51区78号土坑全量 (南から)
 12 51区79号土坑全量 (南から)
 13 51区80号土坑全量 (東から)
 14 51区85号土坑全量 (西から)
 15 51区86号土坑全量 (西から)

- P.L. 35 1 51区87号土坑全量 (南から)
 2 51区88号土坑全量 (東から)
 3 51区89号土坑全量 (西から)
 4 51区90号土坑全量 (南から)
 5 51区91号土坑全量 (北から)
 6 51区92号土坑全量 (東から)
 7 51区93号土坑全量 (西から)
 8 51区94号土坑全量 (西から)
 9 51区95号土坑全量 (南から)
 10 51区96号土坑全量 (南から)
 11 51区99号土坑全量 (南から)
 12 51区100号土坑全量 (南から)
 13 51区101号土坑全量 (南から)
 14 51区104号土坑全量 (南から)
 15 51区105号土坑全量 (南から)

- P.L. 36 1 51区108号土坑全量 (西から)
 2 51区111号土坑全量 (南から)
 3 51区113号土坑全量 (南から)
 4 51区114号土坑全量 (西から)
 5 51区116号土坑全量 (南から)
 6 51区117号土坑全量 (北東から)
 7 51区119号土坑全量 (南から)
 8 51区120号土坑全量 (南から)
 9 51区121号土坑全量 (北から)
 10 51区122号土坑全量 (南から)
 11 51区124号土坑全量 (南から)
 12 51区125号土坑全量 (南から)
 13 51区126号土坑全量 (南から)
 14 51区127号土坑全量 (南から)
 15 51区128号土坑全量 (東から)

- P.L. 37 1 51区129号土坑全量 (南から)
 2 51区131号土坑全量 (南から)
 3 51区132号土坑全量 (南から)
 4 51区133号土坑全量 (南から)
 5 51区136号土坑全量 (南から)
 6 51区138号土坑全量 (南から)
 7 51区139号土坑全量 (南から)
 8 51区141号土坑全量 (南から)
 9 51区142号土坑全量 (南から)
 10 51区144号土坑全量 (西から)
 11 51区145号土坑全量 (西から)
 12 51区146号土坑全量 (西から)
 13 51区147号土坑全量 (西から)
 14 51区148号土坑全量 (北から)
 15 51区149号土坑全量 (南から)

- P.L. 38 1 51区151号土坑全量 (南から)
 2 51区152号土坑全量 (南から)
 3 51区154号土坑全量 (南から)
 4 51区155号土坑全量 (南から)
 5 51区157号土坑全量 (南から)
 6 51区158号土坑全量 (南から)
 7 51区161号土坑全量 (南から)
 8 51区162号土坑全量 (南から)
 9 51区163号土坑全量 (南から)
 10 51区165号土坑全量 (南から)
 11 51区167号土坑全量 (南から)
 12 51区168号土坑全量 (南から)
 13 51区169号土坑全量 (南から)
 14 51区169号土坑完掘 (南から)
 15 51区173号土坑全量 (南から)

- P.L. 39 1 51区174号土坑全量 (南から)
 2 51区177号土坑全量 (南から)
 3 51区182号土坑全量 (南から)
 4 51区191号土坑全量 (南から)
 5 51区192号土坑全量 (北東から)
 6 51区192号土坑完掘 (南東から)
 7 51区193号土坑全量 (東から)
 8 51区194号土坑全量 (南から)
 9 51区195号土坑全量 (南から)
 10 51区196号土坑全量 (南から)
 11 51区197号土坑全量 (南から)
 12 51区198号土坑全量 (南から)
 13 51区199号土坑全量 (南から)
 14 51区203号土坑全量 (東から)
 15 51区203号土坑完掘 (南から)

- P.L. 40 1 51区204号土坑全量 (南から)
 2 51区206号土坑全量 (南から)
 3 51区207号土坑全量 (南から)
 4 51区208号土坑全量 (南から)
 5 51区209号土坑全量 (南から)
 6 51区210号土坑全量 (南から)
 7 51区211号土坑全量 (南から)
 8 51区212号土坑全量 (南から)
 9 51区213号土坑全量 (南から)
 10 51区214号土坑全量 (南から)
 11 51区216号土坑全量 (南から)
 12 51区217号土坑全量 (西から)
 13 51区218号土坑全量 (南から)
 14 51区219号土坑全量 (南から)
 15 51区220号土坑全量 (南から)

- P.L. 41 1 51区221号土坑全量 (南から)
 2 51区222号土坑全量 (南から)
 3 51区224号土坑全量 (南から)
 4 51区225号土坑全量 (南東から)
 5 51区228号土坑全量 (南から)
 6 51区229号土坑全量 (南から)
 7 51区235号土坑全量 (南から)
 8 51区238号土坑全量 (南から)
 9 51区240号土坑全量 (東から)
 10 51区246号土坑全量 (東から)
 11 51区247号土坑全量 (東から)
 12 51区248号土坑全量 (南から)
 13 51区249号土坑全量 (南から)
 14 51区250号土坑全量 (東から)
 15 51区251号土坑全量 (南から)

- P.L. 42 1 51区252号土坑全量 (北から)
 2 51区254号土坑全量 (西から)
 3 51区258号土坑全量 (南から)
 4 51区259号土坑全量 (北西から)
 5 51区260号土坑全量 (南から)
 6 51区262号土坑全量 (南から)
 7 51区263号土坑全量 (南から)
 8 51区264号土坑全量 (南から)

P.L. 42 9 51K265号土坑全景 (南から)
10 51K266号土坑全景 (南から)
11 51K268号土坑遺物出土状態 (東から)
12 51K270号土坑全景 (南から)
13 51K271号土坑全景 (西から)
14 51K272号土坑全景 (南から)
15 51K274号土坑全景 (南東から)

P.L. 43 1 51K275号土坑全景 (南から)
2 51K276号土坑全景 (南から)
3 51K277号土坑全景 (南から)
4 51K278号土坑全景 (南から)
5 51K279号土坑全景 (南から)
6 51K281号土坑全景 (南東から)
7 51K282号土坑土層 (南から)
8 51K283号土坑全景 (南から)
9 51K285号土坑全景 (南から)
10 51K286号土坑全景 (北東から)
11 51K287号土坑全景 (南から)
12 51K288号土坑全景 (南から)
13 51K289号土坑全景 (南から)
14 51K290号土坑全景 (北から)
15 51K291号土坑全景 (南から)

P.L. 44 1 51K292号土坑全景 (東から)
2 51K293号土坑全景 (東から)
3 51K294号土坑全景 (東から)
4 51K295号土坑全景 (北から)
5 51K296号土坑全景 (西から)
6 51K298号土坑全景 (南から)
7 51K299号土坑全景 (南から)
8 51K300号土坑全景 (南から)
9 51K301号土坑全景 (南から)
10 51K302号土坑全景 (南から)
11 51K303号土坑全景 (南から)
12 51K304号土坑全景 (南から)
13 51K305号土坑全景 (南から)
14 51K306号土坑全景 (南から)
15 51K307号土坑全景 (南から)

P.L. 45 1 51K310号土坑全景 (南から)
2 51K311号土坑全景 (南から)
3 51K312号土坑全景 (南から)
4 51K313号土坑全景 (南から)
5 51K314号土坑全景 (南から)
6 51K316号土坑全景 (南から)
7 51K317号土坑全景 (南から)
8 51K318号土坑全景 (南から)
9 51K319号土坑全景 (南から)
10 51K320号土坑全景 (南から)
11 51K321号土坑全景 (南から)
12 51K322号土坑全景 (南から)
13 51K323号土坑全景 (東から)
14 52区土坑群全景 (西から)
15 52区土坑群 (西から)

P.L. 46 1 52K39号土坑全景 (南東から)
2 52K48号土坑全景 (東から)
3 52K49号土坑全景 (東から)
4 52K53号土坑全景 (東から)
5 52K54号土坑全景 (東から)
6 52K55号土坑全景 (東から)
7 52K56号土坑全景 (西から)
8 52K57号土坑全景 (北から)
9 52K58号土坑全景 (西から)
10 52K59号土坑土層 (東から)
11 52K61号土坑土層 (南から)
12 52K62号土坑土層 (南から)
13 52K63号土坑土層 (南から)
14 52K64号土坑全景 (東から)
15 52K65号土坑全景 (北から)

P.L. 47 1 52K66号土坑全景 (南から)

P.L. 47 2 52K67号土坑全景 (南から)
3 52K68号土坑全景 (北から)
4 52K69号土坑土層 (北から)
5 52K70号土坑全景 (西から)
6 52K71号土坑全景 (南から)
7 52K72号土坑全景 (東から)
8 52K73号土坑全景 (南から)
9 52K75号土坑全景 (南から)
10 52K76号土坑全景 (南から)
11 52K80号土坑全景 (南から)
12 52K81号土坑全景 (南から)
13 52K82号土坑全景 (南から)
14 52K83号土坑土層 (南から)
15 52K84号土坑全景 (南から)

P.L. 48 1 52K87号土坑全景 (南から)
2 52K90号土坑全景 (北から)
3 52K92号土坑全景 (南から)
4 52K94号土坑全景 (南から)
5 52K100号土坑全景 (南から)
6 52K101号土坑土層 (南から)
7 61K40号土坑全景 (北から)
8 61K47号土坑全景 (南から)
9 61K48号土坑全景 (南から)
10 61K49号土坑全景 (南から)
11 61K50号土坑全景 (南から)
12 61K51号土坑全景 (南西から)
13 61K53号土坑全景 (北から)
14 61K55号土坑全景 (南から)
15 61K56号土坑全景 (南から)

P.L. 49 1 52K1号彫穴遺構全景 (西から)
2 51K1号埋設土器全景 (西から)
3 52K1号埋設土器全景 (西から)
4 52K1号埋設土器全景 (南から)
5 51K1号彫跡土層 (南から)
6 51K1号彫跡全景 (南から)
7 51K1号彫跡完掘 (南から)
8 51K1号調査風景

P.L. 50 1 51K1号焼土土層 (南から)
2 51K4号焼土土層 (南から)
3 51K5号焼土土層 (南から)
4 51K6号焼土土層 (南東から)
5 51K8号焼土土層 (西から)
6 51K9号焼土土層 (南から)
7 51K10号焼土完掘 (北から)
8 51K12号焼土完掘 (西から)
9 51K18号焼土土層 (東から)
10 51K19号焼土土層 (東から)
11 51K22号焼土土層 (南から)
12 51K23号焼土完掘 (東から)
13 51K29号焼土土層 (西から)
14 51K31号焼土土層 (南から)
15 51K32号焼土土層 (南から)

P.L. 51 1 51K33号焼土完掘 (南から)
2 51K34号焼土土層 (南西から)
3 51K36号焼土土層 (南から)
4 51K36号焼土遺物出土状態 (南から)
5 51K37号焼土土層 (北東から)
6 51K38号焼土土層 (南西から)
7 51K42号焼土土層 (南から)
8 51K43号焼土土層 (南から)
9 51K46号焼土完掘 (南から)
10 51K47号焼土完掘 (南から)
11 51K50号焼土土層 (南から)
12 51K51号焼土土層 (南から)
13 51K54号焼土遺物出土状態 (南から)
14 51K57号焼土土層 (西から)
15 51K57号焼土遺物出土状態 (南から)

P.L. 52 1 51K59号焼土土層 (南から)

- P.L. 52 2 51区59号焼土遺物出土状態 (南から)
 3 51区60号焼土完掘 (南から)
 4 51区63号焼土上層 (南から)
 5 51区64号焼土上層 (南から)
 6 51区65号焼土完掘 (南から)
 7 51区66号焼土上層 (南から)
 8 51区68号焼土上層 (西から)
 9 51区69号焼土完掘 (西から)
 10 51区71号焼土上層 (南から)
 11 51区72号焼土上層 (東から)
 12 51区75号焼土完掘 (西から)
 13 51区76号焼土輸出面 (南から)
 14 51区78号焼土上層 (東から)
 15 51区79号焼土上層 (南から)
- P.L. 53 1 51区80号焼土上層 (南から)
 2 51区81号焼土完掘 (南から)
 3 51区82号焼土輸出面 (北東から)
 4 51区86号焼土上層 (西から)
 5 51区87号焼土輸出面 (南から)
 6 51区90号焼土上層 (東から)
 7 52区5号焼土上層 (東から)
 8 52区7号焼土上層 (南から)
 9 52区9号焼土上層 (南西から)
 10 52区11号焼土輸出面 (北から)
 11 52区12号焼土上層 (北から)
 12 52区16号焼土上層 (南から)
 13 52区17号焼土輸出面 (南から)
 14 52区17号焼土完掘 (南から)
 15 52区19号焼土完掘 (南から)
- P.L. 54 1 51区2号集石上層 (南から)
 2 51区4号集石全層 (東から)
 3 51区6号集石遺物出土状態 (東から)
 4 51区6号集石黒曜石出土状態 (南から)
 5 51区8号集石全層 (南から)
 6 51区8号集石完掘 (南から)
 7 51区9号集石全層 (南から)
 8 51区11号集石全層 (南から)
 9 51区12号集石全層 (南から)
- P.L. 55 1 51区13号集石全層 (南から)
 2 51区14号集石全層 (南から)
 3 51区16号集石全層 (南から)
 4 51区16号集石完掘 (南から)
 5 51区17号集石全層 (南から)
 6 51区17号集石全層 (南から)
 7 51区19号集石全層 (南から)
 8 51区20号集石完掘 (南から)
- P.L. 56 1 52区1号集石全層 (南東から)
 2 52区2号集石全層 (南東から)
 3 52区3号集石全層 (南から)
 4 52区4号集石全層 (東から)
 5 52区5号集石全層 (南から)
 6 51区1号列石西に付帯する1号集石全層 (西から)
 7 51区1号列石より2号列石・3号列石を望む (東から)
- P.L. 57 1 51区1号列石全層 (北西から)
 2 51区1号列石近接 (北西から)
 3 51区1号列石近接 (西から)
 4 51区1号列石基盤 (東から)
 5 51区2号列石全層 (南から)
 6 51区2号列石近接 (南西から)
 7 51区2号列石近接 (南から)
 8 51区2号列石近接 (南から)
- P.L. 58 1 51区3号列石全層 (南から)
 2 51区3号列石近接 (南から)
 3 51区3号列石近接 (南から)
 4 51区3号列石近接 (南から)
 5 51区1号配石輸出面全景 (南西から)
 6 51区1号配石下部上層 (北から)
 7 51区1号配石下202坑石組上面 (南から)
 8 51区1号配石下202坑石組下面 (南から)

- P.L. 59 1 51区56号ピット全層 (南から)
 2 51区102号ピット全層 (南から)
 3 51区125号ピット全層 (南から)
 4 51区135号ピット全層 (南から)
 5 51区189号ピット全層 (東から)
 6 51区244号ピット全層 (南から)
 7 51区297号ピット上層 (東から)
 8 51区297号ピット全層 (東から)
 9 51区325号ピット全層 (南から)
 10 51区431・432号ピット上層 (西から)
 11 51区431号ピット全層 (東から)
 12 51区451号ピット上層 (東から)
 13 51区471号ピット全層 (南から)
 14 51区563号ピット上層 (南から)
 15 51区563号ピット全層 (南から)
- P.L. 60 1 51区607号ピット遺物出土状態 (南から)
 2 51区607号ピット全層 (南から)
 3 51区639号ピット全層 (西から)
 4 51区714号ピット上層 (南から)
 5 51区714号ピット全層 (南から)
 6 51区719号ピット上層 (南から)
 7 51区756号ピット上層 (北から)
 8 51区756号ピット全層 (北から)
 9 51区784号ピット遺物出土状態 (南から)
 10 51区784号ピット全層 (南から)
 11 52区111号ピット全層 (北から)
 12 52区115号ピット上層 (南から)
 13 52区127号ピット全層 (南から)
 14 52区135号ピット全層 (南から)
 15 51区ピット群全層 (南から)
- P.L. 61 1 51区包含層 (X列) 遺物出土状態 (南東から)
 2 51区包含層 (Y-13) 遺物出土状態 (南から)
 3 51区包含層 (Q-22) 遺物出土状態 (南から)
 4 51区包含層 (M-17) 遺物出土状態 (西から)
 5 51区包含層 (Y-13) 遺物出土状態 (南から)
 6 52区包含層 (A-13) 遺物出土状態 (南東から)
 7 52区包含層 (B-12) 遺物出土状態 (南から)
 8 52区包含層 (Y-14) 遺物出土状態 (南東から)
- P.L. 62 51区1・2号住居跡出土遺物
 P.L. 63 51区2・3号住居跡出土遺物
 P.L. 64 51区3号住居跡出土遺物
 P.L. 65 51区4A号住居跡出土遺物
 P.L. 66 51区4A・4B号住居跡出土遺物
 P.L. 67 51区4B・4号住居跡出土遺物
 P.L. 68 51区5・6号住居跡出土遺物
 P.L. 69 51区6～8号住居跡出土遺物
 P.L. 70 51区8・9号住居跡出土遺物
 P.L. 71 51区10号住居跡出土遺物
 P.L. 72 51区11号住居跡出土遺物
 P.L. 73 51区11号住居跡出土遺物
 P.L. 74 51区11号住居跡出土遺物
 P.L. 75 51区11号住居跡出土遺物
 P.L. 76 51区12～14号住居跡出土遺物
 P.L. 77 51区13号住居跡出土遺物
 P.L. 78 51区15号住居跡出土遺物
 P.L. 79 51区15・16号住居跡出土遺物
 P.L. 80 51区17号住居跡出土遺物
 P.L. 81 51区17号住居跡出土遺物
 P.L. 82 51区17号住居跡出土遺物
 P.L. 83 51区17号住居跡出土遺物
 P.L. 84 51区17号住居跡出土遺物
 P.L. 85 51区17号住居跡出土遺物
 P.L. 86 51区17号住居跡出土遺物
 P.L. 87 51区18号住居跡出土遺物
 P.L. 88 51区18～20号住居跡出土遺物
 P.L. 89 51区20～22号住居跡出土遺物
 P.L. 90 51区23～25号住居跡出土遺物
 P.L. 91 51区25～27号住居跡出土遺物

P.L. 92	51K27・28号住居跡出土遺物		P.L. 159	道構外出土遺物1	52区
P.L. 93	51K28号住居跡出土遺物		P.L. 160	道構外出土遺物1	52区
P.L. 94	51K28・29号住居跡出土遺物	52区1号住居跡出土遺物	P.L. 161	道構外出土遺物1	52・61区
P.L. 95	52区1・2号住居跡出土遺物		P.L. 162	道構外出土遺物1	61区
P.L. 96	52区3号住居跡出土遺物		P.L. 163	道構外出土遺物2	
P.L. 97	52区3・4号住居跡出土遺物		P.L. 164	道構外出土遺物2	
P.L. 98	52区4・5号住居跡出土遺物		P.L. 165	道構外出土遺物2	
P.L. 99	52区6・10号住居跡出土遺物				
P.L. 100	52区6・10号住居跡出土遺物				
P.L. 101	52区7号住居跡出土遺物				
P.L. 102	52区7～9号住居跡出土遺物				
P.L. 103	52区9・11号住居跡出土遺物				
P.L. 104	52区12号住居跡出土遺物				
P.L. 105	52区13号住居跡出土遺物				
P.L. 106	52区13号住居跡出土遺物				
P.L. 107	52区13・14号住居跡出土遺物				
P.L. 108	52区14・15・18号住居跡出土遺物				
P.L. 109	52区18号住居跡出土遺物	61区5・13号住居跡出土遺物			
P.L. 110	61区5・6・13～15号住居跡出土遺物				
P.L. 111	61区14・15・25号住居跡出土遺物	土坑1 51区出土遺物			
P.L. 112	土坑1	51区出土遺物			
P.L. 113	土坑1	51区出土遺物			
P.L. 114	土坑1	51区出土遺物			
P.L. 115	土坑1	51区出土遺物			
P.L. 116	土坑1	51区出土遺物			
P.L. 117	土坑1	51区出土遺物			
P.L. 118	土坑1	52・61区出土遺物			
P.L. 119	土坑2	51区出土遺物			
P.L. 120	土坑2	51区出土遺物			
P.L. 121	土坑2	51区出土遺物			
P.L. 122	土坑2	51区出土遺物			
P.L. 123	土坑2	51・52区出土遺物			
P.L. 124	土坑2	52・61区出土遺物			
P.L. 125	土坑2	61区出土遺物 竪穴状道構・埋設土器・灰磔・51区境上出土遺物			
P.L. 126	51区境上出土遺物				
P.L. 127	51・52区境上出土遺物				
P.L. 128	51区集石出土遺物				
P.L. 129	51区列石出土遺物				
P.L. 130	51区列石出土遺物				
P.L. 131	51区列石出土遺物				
P.L. 132	51区列石出土遺物				
P.L. 133	51区ビット出土遺物				
P.L. 134	51・52区ビット出土遺物	道構外出土遺物1 51区			
P.L. 135	道構外出土遺物1	51区			
P.L. 136	道構外出土遺物1	51区			
P.L. 137	道構外出土遺物1	51区			
P.L. 138	道構外出土遺物1	51区			
P.L. 139	道構外出土遺物1	51区			
P.L. 140	道構外出土遺物1	51区			
P.L. 141	道構外出土遺物1	51区			
P.L. 142	道構外出土遺物1	51区			
P.L. 143	道構外出土遺物1	51区			
P.L. 144	道構外出土遺物1	51区			
P.L. 145	道構外出土遺物1	51区			
P.L. 146	道構外出土遺物1	51区			
P.L. 147	道構外出土遺物1	51区			
P.L. 148	道構外出土遺物1	52区			
P.L. 149	道構外出土遺物1	52区			
P.L. 150	道構外出土遺物1	52区			
P.L. 151	道構外出土遺物1	52区			
P.L. 152	道構外出土遺物1	52区			
P.L. 153	道構外出土遺物1	52区			
P.L. 154	道構外出土遺物1	52区			
P.L. 155	道構外出土遺物1	52区			
P.L. 156	道構外出土遺物1	52区			
P.L. 157	道構外出土遺物1	52区			
P.L. 158	道構外出土遺物1	52区			

第1章 調査経過と調査の方法

ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査は、建設省関東地方建設局（現 国土交通省関東地方整備局）と群馬県教育委員会、長野原町教育委員会、吾妻町（現 東吾妻町）教育委員会が協議し、平成6年3月18日「ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定書」を、建設省関東地方建設局と群馬県教育委員会の両者で締結し、発掘調査事業の実施計画が決定された。同年4月1日、建設省関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長との間で調査受託契約を締結し、同日同教育長と（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長の両者で発掘調査委託契約が締結され、調査が開始された。

第1節 調査に至る経緯

林中原Ⅱ遺跡の発掘調査は、国道145号線バイパス（ハッ場バイパス）と町道建設に伴い実施された。

既に、周知の遺跡として周辺は長野原町教育委員会が発掘調査を行っており、縄文時代中～後期の遺構・遺物を検出していた遺跡である。国土交通省より当遺跡内の国道及び町道建設に伴う埋蔵文化財調査の照会があり、平成20年3月、群馬県教育委員会文化財保護課が試掘調査を行った。その結果、縄文時代中期の住居跡の存在が明らかになり、林中原Ⅱ遺跡事業対象地の殆どが、本調査が必要と判断された。平成20年4月国土交通省関東地

方整備局と平成20年度の発掘調査受託契約を締結し、平成20年10月より本調査に着手した。

第2節 発掘調査の経過

発掘調査は、平成20年10月、調査対象地の南西部である52区より着手した。表土はバックホウにより遺構確認面まで掘り下げ、その後人力による遺構確認、掘削、精査を重ねた。遺構確認面は、遺跡全体に黒色土の堆積が厚く、中世建物跡や縄文時代の敷石住居跡など掘り込みの浅い遺構の存在が予想されたため、黒色土～黒褐色土中とローム漸移層、ローム層上面を各々確認面とし遺構検出に努めた。文化層としては2面調査であるが、確認面は複数枚が存在した調査である。平成20年度の調査は10月～12月、及び3月である。本来ならば、当地域の発掘調査は、凍結や積雪のため、1～3月間の冬季は行わない方針であるが、当該年度に限り、国道建設が急がれており、埋蔵文化財調査も急進、冬季凍結の心配が若干ながら少なくなる、3月の1ヶ月間に調査を行った。

平成21年度は、調査区内未買地の問題も片付き、徐々に調査を本格化した。調査は国道部分の51区・61区南、町道部分である61区北と62区が対象となり、調査班を2班体制として順次進めていった。

4月は、近隣住民に本遺跡の重要性を理解してもらう



第1図 林中原Ⅱ遺跡 位置図（国土地理院5万分の1地形図「草津」使用）

第1章 調査経過と調査の方法

調査日誌抄（国道部分を中心とする）

平成20年度	
10月14日	調査班1班（担当者3名）で調査着手。52区中世面調査
10月20日	52区縄文住居跡調査着手
11月10日	51区調査着手。2面調査となる。中世～近世土坑、縄文時代遺構検出。縄文時代中期集落跡を主とする
12月24日	52区1・2面調査終了
12月26日	12月の調査を終了とする
3月1日	地元要望の強い機能保証道路部分調査区（北側）を優先して調査を着手する。51区北側で縄文後期の列石遺構を検出
平成21年度	
4月1日	前年度調査の継続。調査班2班5名体制。国道部分及び町道部分の調査を同時に着手する 51区中央部から北部を中心に列石遺構、敷石住居跡、焼物を伴う土坑が検出される。縄文時代遺構の密度は濃い
4月14日	高所作業車による列石を中心とした全景写真撮影
4月25日	林地区住民対象の現地説明会を開催する
5月8日	51区東調査着手。近世土坑などの調査
5月13日	52区南調査終了
6月13日	51区北西部調査終了 51区縄文時代遺構調査住居境
7月1日	調査担当者2名増員
7月2日	61区空撮
7月14日	国道部分61区・51区東調査終了
7月22日	国道部分51区南東部調査終了 豪雨が続き、雨対策に迫られる
7月31日	51区高所作業車による全景写真撮影
8月7日	国道部分51区北、調査終了
8月19日	国道部分51区東・西重機によるローム層上層まで掘り下げ遺構最終確認
8月26日	国道部分51区南西部調査終了
9月4日	国道部分51区南中央部3面目の調査着手
9月8日	町道部分を中心に空撮
9月29日	51・52区 調査区を東西に縦断する現道下の調査着手
10月9日	51・52区東西現道下の住居跡等調査
10月23日	東西現道下の調査を終了する。住居跡2軒などを検出した
10月31日	全地区の調査を終了する。烈熱など取扱い。調査終了

ために現地説明会を行っている。

なお、51区南西部で南北に、51区東部で東西に未調査区を残す。これは、地域住民の現道保護の要望が強く、やむなく調査が及ばなかった箇所である。

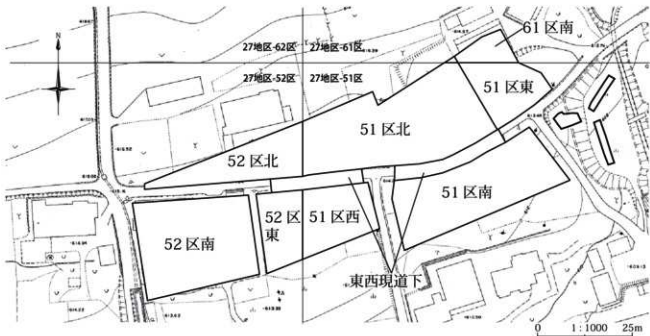
第3節 発掘調査の方法

本書は、平成20・21年度における林中原Ⅱ遺跡発掘調査のうち、国道部分で検出された縄文時代遺構・遺物を扱っている。国道部分の調査は、平成20年度に着手されているが、工事工程の都合と調査による排土置場の確保のため、調査区内を幾つかに分割して調査を進めた経緯がある。この分割調査により、発掘調査は円滑に進んだが、同時に遺構も分割されることになり、例えば、51区18号住は、敷石住居跡出入口部を把握することができず、整理段階で出入口部を推定復元することになった。また、土坑も半割状態で調査された土坑もある。さらに、国道部分全体の全景写真は撮れなかった。

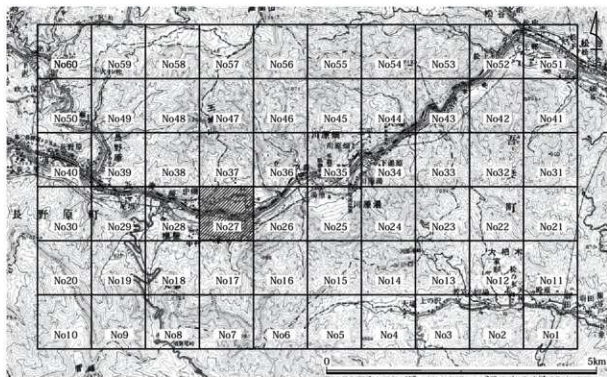
1 調査の手順

発掘調査はバックホウによる表土掘削を行い、順次作業員による遺構確認、遺構調査へと進んでいった。遺跡の現況は宅地・畑・道路であった。

遺構から出土した遺物は、その遺構番号を付し、さらに図面上に出土位置を記録したものについては個別番号を付し、標高を測定して取り上げた。遺構外から出土し

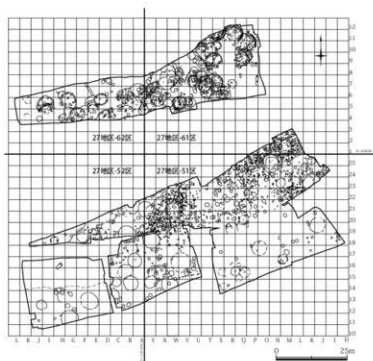
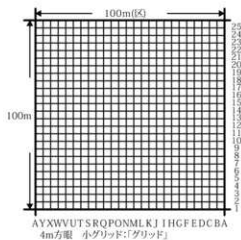


第2図 林中原Ⅱ遺跡調査区区分（国道部分）



		1km(地区)											
		NO.27地区											
NO.28 地区	91	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	NO.26 地区	
	81	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81		
	71	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71		
	61	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61		
	51	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51		
	41	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41		
	31	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31		
	21	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21		
	11	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11		
	1	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		

100m方眼 中グリッド:「区」



第3図 調査区の設定

第1章 調査経過と調査の方法

た遺物については、後述するグリッド単位で取り上げた。さらに出土位置を記録したものは遺構出土のものと同様に個別番号を付し取り上げた。遺構測量は、主に測量会社に委託して測量した。縮尺については、住居跡・土坑・配石等は1/20、炉・埋裏・埋設土器等は1/10、その他の遺構も1/20を原則としたが、溝・石垣・列石等規模の大きい遺構については1/40とした。全体図は1/100、1/200で作成した。

遺構の個別写真は、各調査担当者によるもので、主にデジタルカメラ35mmと6×7判モノクロームフィルムを用いた。

2 調査区の設定

調査区の設定については、1994（平成6）年度から始まったハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査における「ハッ場ダム関係埋蔵文化財発掘調査方法」に基づき実施されてきた。この方法については、『長野県一本松遺跡（1）』（群研文2002）に詳しいので、詳細はそちらを参照していただきたい。ここでは概略を記す。

調査区については、ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査対象地内を国家座標（2002年4月改正以前の日本測地系）を使用し、吾妻郡吾妻町（現東吾妻町）大柏木の東部付近を基点（ $X=58000.00$, $Y=-97000.00$ ）とした。そして、まずこの基点から1km四方の「地区」（大グリッド）を西に10区画、北に6区画の60地区を設定した。次に各地区を100m四方の「区」（中グリッド）に区分し、東南隅から西に1～10区、次の列を11～20区の

ように100区に区分した。さらに各区を4m四方のグリッドに細分した。グリッドは東南を基点に西へA～Y、北へ1～25までの番号を付し、組み合わせでグリッド名としている（例20区A-1グリッド）。

林中原Ⅱ遺跡国道部分の調査区は、「地区」では「27地区」に相当し、「区」では「51・52・61区」にあたる。

遺構名称は区ごとに連続する番号を付し、区をまたぐ遺構の場合は遺構の主体となる区の番号を優先している。

第4節 整理業務の経過

本遺跡の整理作業は平成25年度に着手された。検出された遺構・遺物は膨大な量であり、縄文時代を中心とする住居跡も127軒を数えた。このような、大型遺跡の整理にあたり、整理期間も数年次にわたり、平成25年～平成29年の5年間で予定した。報告書も、縄文時代編国道部分を第1分冊（本書）とし、第2分冊を縄文時代編国道部分、弥生時代以降編を第3分冊とし、3冊に分けた刊行を計画した。

第1分冊の整理作業にあたり、平成25年度は（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団本部で行った。

平成26年度は、整理作業を（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団ハッ場ダム調査事務所に移し、前年度の継続で遺構・遺物の整理、報告書編集を行った。この際、遺構図面のデジタル編集と出土石器実測・トレース業務を委託して、整理作業の迅速化を図った。なお、出土人

骨の分析も依頼している。

平成27年度は、前年度、前々年度に整理した出土遺物などの資料と本文原稿・観察表、写真図版を併せて、報告書としてデジタル編集し、刊行に至っている。



グリッド方眼に即した遺構確認調査風景

第2章 周辺の環境

第1節 遺跡の位置と地形

林中原Ⅱ遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町林に所在する。林地区からは直接目視できないが、南西に浅間山(2,568m)、北西に草津白根山(2,171m)という活火山を中心とした山脈が連なり、上信国境の分水嶺を構成している。分水嶺の一つであり上信国境をなす鳥居峠(1,362m)付近に源を発する吾妻川は嬭恋村を経て、長野原町、東吾妻町を東流し、渋川市白井で利根川と合流する。

本遺跡が所在する長野原町林地区は、長野原町北部で東流する吾妻川左岸にあたる。周辺は吾妻川を挟み北に高間山(1,342m)、王城山(1,123m)、南に丸岩(1,124m)、管峰(1,473.5m)などが聳える峡谷地形が連続する。特に下流にある吾妻峡は国の名勝に指定されている。また、王城山と丸岩は当地域の示標でもあり、地元に密着した山々である。このような山々と分水嶺により流れ下る吾妻川とその支流によって、峡谷を地勢とする当地域の地理的特徴が景観となっている。

長野原町域に分布する遺跡の多くが、吾妻川が形成した河岸段丘に立地しており、近年の調査によって丘陵、山麓斜面にその分布域を広げている。吾妻川が形成した段丘面としては、最上位段丘面、上位段丘面、中段丘面、下位段丘面が挙げられている。ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財包蔵地もこれら段丘面に位置しており、その対象地は広く、各段丘面を包括した面的な発掘調査が及ぶ地域でもある。発掘調査によって各段丘面の遺跡相が複雑に絡み合う様相が明らかになるものと期待されよう。また当地域は、川原畑、川原湯、林、横壁、長野原という5箇所の大字が存在する。各大字は河川・段丘・道路などで区分されており、それぞれが特徴ある遺跡を包蔵する地区となっている。段丘様相と併せて各大字が包括する小地域様相が把握される地域である。

林中原Ⅱ遺跡は、大字林に所在し、最上位段丘面に占地する集落遺跡である。周辺段丘面の中では最も広い段丘面であり、緩やかな南への斜面地形が広がる居住地形としては、最適の環境を示す。この緩斜面地形の上位は王城山南斜面に繋がり、斜面端部より扇状地形に近い広がりを見せる。林地区の遺跡の多くは上位段丘面に立地しているが、東側の山地斜面上には立馬Ⅰ～Ⅲ遺跡や

西側には榎木Ⅰ・Ⅱ遺跡などあり、時代・時期よっての古地状況に差が窺われる。なお、林地区は最上位段丘面以下の上位段丘面を持たず、南側の段丘崖以下は中段丘面と低位段丘面が広がる。

このように、長野原町林地区は吾妻川最上位段丘面にあり、南側への緩斜面地形を展開し多くの包蔵地を有しながらも、東側や西側の山地斜面地形にも遺跡が点在する様相を示す。ハッ場ダム調査対象地域の中でも、濃密な遺跡分布地域といえよう。

本遺跡は、林地区南緩斜面地形にあり、東を埋没谷、北側と西側を町道、南側を段丘崖に画された範囲を遺跡地としている。標高は612～619mである。

第2節 周辺の遺跡

本節では、ハッ場ダム建設に伴う調査対象地域の周辺の主な遺跡分布図と一覧表を掲載し、当地域の遺跡を概観したい。

旧石器時代：長野原町内では、現在のところ旧石器時代の遺跡は確認されていない。吾妻川流域は応桑泥流や浅間一板岩色軽石群(As-BPG)、浅間草津黄色軽石(As-YPK)によって厚く覆われており、各層序を示標とする調査は安全上の問題などから、極めて困難な状況である。また、後述するが本遺跡のように、二次堆積ロームの存在から、旧石器を対象とした確認を行っても、文化層の把握に至らない場合が多い。ただし、柳沢城跡(39)から遺構外出土ながら細石器文化に伴うと考えられる珪質頁岩製のスクレイパーが出土している。より山間部の遺跡などで、これらの堆積物下位の調査が実施できれば、当該期の遺跡が確認される可能性があろう。

縄文時代：長野原町内の遺跡地の約半数に縄文時代の遺構・遺物が確認されているように、濃密な分布を示す。

草創期の遺跡としては、石畑Ⅰ岩陰が挙げられる。奥行4m以上、幅40mの大規模な岩陰遺跡であり、草創期の表裏縄文などの出土が知られる。ごく一部の調査に止まっており、今後の本格的な調査に期待が集まる。

早期の遺跡は吾妻川左岸に多く見られ、特に山間地の急傾斜面地形中の狭小な平地や緩傾斜面に占地する傾向が見られる。林地区では榎木Ⅱ遺跡(30)、立馬Ⅰ遺跡

(10)、立馬Ⅲ遺跡(12)、中期Ⅰ遺跡(26)が知られる。また長野原地区では、長野原一本松遺跡(33)、幸神遺跡(32)、尾坂遺跡(34)で出土が報告されている。尾坂遺跡は中位段丘での鶴ヶ島台式の出土であり、中位段丘の離水時期を窺う良好な資料である。川原畑地区では三平Ⅰ遺跡(1)、三平Ⅱ遺跡(2)でも当該期の資料を見る。

前期の遺跡数は少ないが漸増の傾向である。前期初頭の集落跡が調査されている。上原Ⅰ遺跡は花積下層式期の住居跡15軒が調査された該期の集落跡としては屈指の規模である。長野原町教育委員会と事業団が隣接した地点を調査・報告している。

前期前葉～中葉段階では、大規模な集落跡は検出されていない。石畑遺跡で関山Ⅱ式や黒浜式が出土している。また、林中原Ⅰ遺跡(21)では黒浜式期の住居跡1軒が検出されており、周辺への広がり予想される。

前期後葉段階でも、平野部の例に反して、当地域の集落規模は小規模に止まるようだ。諸磯式期の集落跡としては、三平Ⅰ遺跡、楡木Ⅱ遺跡、川原湯勝沼遺跡(9)等で数軒単位の住居跡・土坑が調査されている。林中原Ⅱ遺跡でも土坑を報告する。また楡木Ⅲ遺跡(31)では、包含層出土ながら諸磯b式土器がまとまる。

中期初頭段階の遺跡としては、上原Ⅱ遺跡(18)が挙げられる。五領ヶ台Ⅱ式の遺構・遺物の良好な出土が知られる。また同じ林地区の立馬Ⅱ遺跡、楡木Ⅱ遺跡でも該期土器資料が充実するが、急傾斜地形の影響から遺構としての把握が困難であり、遺構一括資料としては確定できない。本遺跡も土坑出土資料を見ることが出来る。

中期前葉段階のまとまった資料は少ない。前述の立馬Ⅱ遺跡、楡木Ⅱ遺跡で良好な土器の出土が見られるが、遺構に伴っておらず、初頭段階と同様に、一括資料としての確定性に乏しい。楡木Ⅰ遺跡(29)では1個体ながら土坑から出土が報告されている。また本遺跡でも、土器2個体が共存する土坑が調査されている。

中期中葉段階では、阿玉台Ⅰb式～Ⅱ式段階の住居跡として、林中原Ⅰ遺跡に住居跡、本遺跡で土坑が検出されている。幸神遺跡では「焼町類型」を器体土器とする住居跡が報告されている。中葉後半段階の資料としては、上ノ平Ⅰ遺跡(3)に充実する。中葉末とも言うべき段階であるが、31号住居跡に良好な土器群がまとまる。同

様な段階では横壁中村遺跡でも、土坑出土土器が見られる。

中期後葉段階は、当地域で大型集落が点在する様相を見せる。長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡(45)が環状集落の好例として知られ、その他に本遺跡及び尾坂遺跡や石川原遺跡(8)も大型集落跡となるだろう。このように、近接した地点で大型集落が群在する様相は中期集落群の在り方として検討を重ねなければならないだろう。また、中期末葉段階の集落は確実に敷石住居跡を伴い、前述の後葉段階の集落から継続する様相を示す。

後期も中期集落から継続する様相が見られるが、各段丘面に広がる傾向も予想される。敷石住居跡は、長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡の他に本遺跡、林中原Ⅰ遺跡、久々戸遺跡や向原遺跡や榎Ⅱ遺跡などで調査されている。いずれも後期初頭から前葉段階の集落跡であり、称名寺式土器、堀之内式土器が充実し、「茂沢類型」や三十稲場式など長野県や新潟県域を中心とする土器群も見られる。

後期中～後葉段階になると遺跡数は激減する。上原Ⅳ遺跡(20)、横壁中村遺跡で加曾Ⅱb式期の住居跡や掘立柱建物跡が、後葉段階では横壁中村遺跡で住居跡が検出されているが、他の遺跡では遺構は見られず、集落分布域は狭まる様相を示す。

晩期前半段階の遺構としては、横壁中村遺跡に土坑を見るのみである。同遺跡では、佐野式などの出土が報告されているが、住居跡など居住痕跡は見出せなかった。晩期末葉の資料はやや増える。立馬Ⅰ遺跡、横壁中村遺跡で住居跡が、川原湯勝沼遺跡では再葬墓の要素を持つ土坑が検出されている。終末段階の土器の多くが氷Ⅱ式あるいは弥生時代前期に比定される可能性もあり、慎重な研究が必要とされる。

弥生時代：遺跡数は希薄である。前期～中期の住居跡としては横壁中村遺跡と立馬Ⅰ遺跡で住居跡1軒が知られる。立馬Ⅰ遺跡では土器棺墓も併せて検出されており、上原Ⅰ遺跡では土坑より短頸壺が出土している。本遺跡でも、住居跡や土坑が調査されている。

弥生時代後期となると、さらに遺跡数は減る。石畑遺跡で土坑が、二社平遺跡で後期～古墳時代前期とされる樽式系土器片が出土している。

古墳時代：現状では、吾妻溪谷上流において古墳そのもの

の存在は疑われている。墳丘状の高まりを幾つか見ることが、古墳としての確定性に乏しい。集落遺跡では、上原Ⅰ遺跡で前期と考えられる住居跡からS字状口縁土付甕や卍形土器が出土している。また後期の住居跡としては、上原Ⅳ遺跡で2軒、林宮原遺跡で1軒、下原遺跡で1軒が調査されているように、古墳時代における居住は果たされているようだ。

奈良・平安時代：奈良時代に比定される遺跡は希薄で、現状では調査遺跡は無い。長野原町教育委員会が行った分布調査では、羽根尾Ⅱ遺跡が相当するが詳細には至っていない。

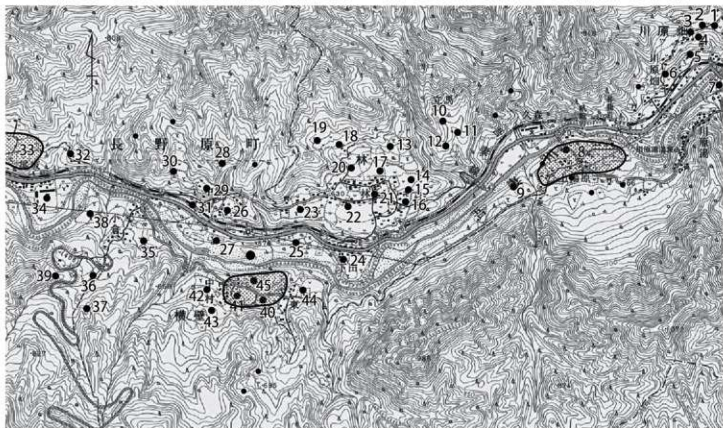
平安時代、特に9世紀後半代に至ると遺跡数は増える。長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡、尾坂遺跡、中棚Ⅰ遺跡、上原Ⅰ遺跡、上原Ⅲ遺跡(19)、上原Ⅳ遺跡、上ノ平Ⅰ遺跡、林宮原遺跡、榎木Ⅰ遺跡、榎木Ⅱ遺跡、下湯原遺跡など、各地区で集落跡が調査されている。横壁中村遺跡以外は、吾妻川左岸に偏る傾向が見られ、注意を要しよう。これらの集落遺跡の出土遺物としては、羽口、鉄滓、鎌、刀子、砥石などの鍛冶関連遺物や鉄製品の出土が目立つ。生産遺構としての鍛冶関連施設が各地区に点在していたようだ。併せて、林宮原遺跡や榎木Ⅰ遺

跡で出土した小型鎌や芋引き状金具の出土は、麻、芋などの生産・加工に関わる製品として位置付けられよう。

当該地域の特徴的な該期遺構として、「陥穴状土坑」が挙げられよう。イノシシ・シカなどを捕獲する罾掘遺構であるが、縄文時代の所産として見られていた例から、一転して平安時代～中世に比定されている。花畑遺跡(13)の調査では、陥穴状土坑掘削に伴う工具痕を検出している。この陥穴状土坑も該期集落遺跡と同様に、吾妻川左岸側に設けられる傾向がある。

中世：吾妻川流域には中世城館跡が点在する。金花山砦跡、柳沢城跡、長野原城跡、丸岩城跡、羽根尾城跡が挙げられよう。林地区では最近発掘調査で明らかになった林城跡がある。これらは、当時の道と関連した交通の要衝に設けられたようである。城館跡以外には、三平Ⅰ遺跡、三平Ⅱ遺跡、東原Ⅰ遺跡(14)、東原Ⅱ遺跡(15)、東原Ⅲ遺跡(16)、林中原Ⅰ遺跡、林宮原遺跡、下原遺跡、二反沢遺跡、榎木Ⅱ遺跡、尾坂遺跡などで掘立柱建物跡や土坑、畑跡が調査されている。

近世：当該地域の江戸時代遺跡の多くが、天明三年(1783)における、浅間山噴火に伴う泥流堆積物下の遺跡群と位置付けられよう。民家跡としては東宮遺跡(5)、西宮



第4図 周辺の遺跡 (国土地理院2万5千分の1地形図「長野原」使用)

第2章 周辺の環境

表1 周辺の主な遺跡一覧

No.	遺跡名	所在大字	段丘面	概要	文献など
1	三平Ⅰ遺跡	川原畑	最上位段丘面	縄文時代早期～前期集落跡、住居跡2軒。弥生時代前期～中期土坑。平安時代以降の竪立柱建物跡3棟・焼土10基など	9・26
2	三平Ⅱ遺跡	川原畑	最上位段丘面	縄文時代包含層（草創期～前期）、竪立柱建物跡7棟などの中世屋敷跡	26
3	上ノ平Ⅰ遺跡	川原畑	最上位段丘面	縄文時代中期中葉集落跡、住居跡16軒。平安時代集落跡、住居跡20軒など	36
4	上ノ平Ⅱ遺跡	川原畑	最上位段丘面	縄文・平安の散布地とされる	
5	東宮遺跡	川原畑	中段段丘面	天明記流下屋敷跡7棟、建物の構造と性格が把握できる良好な遺存状態であり、礎石と供に東・土台・大引・床板が出土している。酒甕、樽場跡も検出されている	15・49・51
6	西宮遺跡	川原畑	中段段丘面	天明記流下の屋敷跡・小屋・畑跡。畑跡には復旧土を含み	
7	西ノ上遺跡	川原畑	中段段丘面	天明記流下畑跡	17
8	石川原遺跡	川原畑	中段段丘面	縄文時代中期・後期集落跡、配石遺構など。近世畑・屋敷跡など	
9	川原岡勝沼遺跡	川原畑	中段段丘面	縄文前期埋蔵2基。平安時代集落跡、住居跡3軒。天明記流下畑跡など	19
10	立馬Ⅰ遺跡	林	山地斜面	小規模な縄文時代早期集落跡、戦前集落跡、弥生時代中期集落跡・貫石墓、平安時代集落跡、陥伏状土坑など	24
11	立馬Ⅱ遺跡	林	山地斜面	縄文時代早期包含層、中期前葉～後葉集落跡、住居跡11軒。陥伏状土坑など	21
12	立馬Ⅲ遺跡	林	山地斜面	縄文時代早期集落跡、住居跡3軒。中期住居跡1軒。良好な早期包含層、陥伏状など	39
13	花畑遺跡	林	最上位段丘面	縄文時代中期初頭包含層。平安時代集落跡、住居跡3軒。陥伏状土坑など	15
14	東原Ⅰ遺跡	林	最上位段丘面	縄文時代上坑及び包含層。平安時代以降の陥伏状土坑。中・近世の竪立柱建物跡2棟など	48
15	東原Ⅱ遺跡	林	最上位段丘面	縄文時代包含層。陥伏状上坑9基。中・近世での竪立柱建物跡1棟など	48
16	東原Ⅲ遺跡	林	最上位段丘面	縄文時代早期～後期包含層。中・近世の竪立柱建物跡4棟、内耳竪や古瀬戸など出土。江戸後期礎石建物跡1棟	48
17	上原Ⅰ遺跡	林	最上位段丘面	縄文時代前期初頭集落跡、中期後葉住居跡1軒。平安時代集落跡。陥伏状土坑を調査	
18	上原Ⅱ遺跡	林	最上位段丘面	2011年度、町教委調査。縄文時代中期初頭の集落跡など	
19	上原Ⅲ遺跡	林	最上位段丘面	2011年度、町教委調査。平安時代集落跡など	
20	上原Ⅳ遺跡	林	最上位段丘面	縄文時代包含層。中・近世土坑など	
21	林中原Ⅰ遺跡	林	最上位段丘面	町教委調査では、縄文時代後期前期集落跡。住居跡1軒。配石遺構など。注：口土器などの良好な出土遺物を見る。事業団調査では、縄文時代前期～中期集落跡。中・近世竪立柱建物群などを調査	3・7・8・9・10
22	林中原Ⅱ遺跡	林	最上位段丘面	縄文時代中期～後期の大型集落跡、弥生中期墓塚、住居跡4軒。中・近世竪立柱建物群を調査している	6・11
23	林宮原遺跡	林	最上位段丘面	西方表地域で初出の古墳時代後期住居跡を見る。平安時代集落跡、住居跡14軒など。字引金具の出土	3・7・9・12
24	下田遺跡	林	中段段丘面	天明記流下の民家1軒、畑跡、竪を出土する	15
25	下原遺跡	林	下位段丘面	古墳時代中期・平安時代集落跡。住居跡各1軒。中世屋敷跡。中～近世畑跡など	25
26	中郷Ⅰ遺跡	林	上位段丘面	縄文時代早期包含層。平安時代住居跡1軒など。2011年度 町教委調査	
27	中郷Ⅱ遺跡	林	下位段丘面	天明記流下の畑跡及び安永9年埋没と想定される畑跡など	17
28	一反沼遺跡	林	山地斜面	石函を付設する中世土坑。竪穴関連遺物出土。近世畑跡	22
29	榎木Ⅰ遺跡	林	上位段丘面	縄文時代中期Ⅰ基。平安時代集落跡、近世屋敷跡など	52
30	榎木Ⅱ遺跡	林	山地斜面	縄文時代早期～中期前葉集落跡、住居跡30軒。平安時代集落跡、住居跡38軒。中世竪立柱建物群など	31・40
31	榎木Ⅲ遺跡	林	上位段丘面	縄文時代前期～後期包含層。弥生時代中期包含層	15
32	幸神遺跡	長野原	上位段丘面	縄文時代中期集落跡。住居跡2軒。早期～後期包含層。近世以前の畑跡など	30
33	長野原一本松遺跡	長野原	上位段丘面	縄文時代中期～後期の環状集落。その他に平安時代集落、陥伏状土坑など	14・28・32・37・41・53
34	尾取遺跡	長野原	中段段丘面	縄文時代中期集落跡。早期～後期包含層。中世竪立柱建物群。天明記流下の畑跡など	15
35	西久保Ⅰ遺跡	横壁	中段段丘面	縄文時代中期末葉集落跡。住居跡1軒。水場遺構など	15
36	西久保Ⅱ遺跡	横壁	山地斜面	平安時代の散布地とされる	
37	西久保Ⅲ遺跡	横壁	山地斜面	散布地	
38	西久保Ⅳ遺跡	横壁	中段段丘面	縄文時代建物跡。平安時代住居跡・焼土。近世畑など	52
39	柳沢城跡	横壁	山地斜面	中世城郭。堀切・土層・礎石・腰曲輪・石垣遺構。陶磁器・鉄製品・銅製品・白土などを出土	2
40	山組Ⅰ遺跡	横壁	中段段丘面	平安時代散布地とされる	
41	山組Ⅱ遺跡	横壁	中段段丘面	散布地	
42	山組Ⅲ遺跡	横壁	中段段丘面	縄文時代中期後葉集落跡。住居跡3軒。土坑39基。中・近世溝1条など	15・30
43	山組Ⅳ遺跡	横壁	中段段丘面	縄文・平安の散布地とされる	
44	横壁勝沼遺跡	横壁	中段段丘面	船先形尖頭器の出土（表採）。縄文時代土坑。平安時代住居跡1軒	15
45	横壁中村遺跡	横壁	中段段丘面	縄文時代中期～後期の大型集落跡。平安時代集落跡。中・近世の竪立柱建物群、礎石建物跡・土坑墓など	16・18・20・23・27・33・35・42・43・46・47・50・54

遺跡(6)、石川原遺跡、下田遺跡、榎木1遺跡、尾坂遺跡、町遺跡などが挙げられよう。また、小林家住宅跡も長野原町教育委員会が調査した良好な民家跡で、東宮遺跡と並び、民家の規模のみならず生業や性格までを窺わせる資料が出土しており、極めて重要な在り方を示している。さらに石川原遺跡でも、民家跡以外に当時の寺跡の調査に至っており、注目を集めよう。

この他に当地域の天明泥流下の遺構としては、畑跡が各遺跡で調査されている。主に中位段丘面と下位段丘面に集中しており、生産遺構として畑跡研究には欠かせない遺跡群となっている。

墓塚も多い。林中原1遺跡と本遺跡以外にも、上ノ平1遺跡や横壁中村遺跡でまとまった墓塚群が調査されている。当時の埋葬事例を窺う資料群である。

天明三年以前の遺構・遺物も当地域の近世史研究では重要な資料である。例えば中棚Ⅱ遺跡(27)では安永期とされる畑跡、町遺跡では泥流下畑跡下位層から製鉄関連遺構が調査されている。また時期は確定できないが、横壁中村遺跡における一字一石経の出土も近世社会における宗教様相の一端を知る資料である。

第3節 林地区の縄文時代遺跡

前節では、周辺の遺跡としてハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財対象地域を中心に、各時代の分布を紹介した。ここでは、本遺跡が位置する長野原町林地区における調査遺跡、特に縄文時代の遺構・遺物を検出した遺跡を中心に述べる。

先述したように、林地区は吾妻川左岸にあり、河岸段丘面のうち最上位段丘面を主とする。林地区中央部は緩やかな南側への斜面地形が広く展開し、その間を押手沢など南流する小河川が開析する。周辺は山地斜面が迫る吾妻川流域の中であって、平坦地形に近い緩斜面を広く保つ地区ともいえる。

このように、平坦地形が広がる林地区中央部の景観だが、東側は折の沢を挟み急勾配の山地斜面となる。この山地斜面の中に狭小な緩斜面地形を呈する地点が立馬Ⅰ～Ⅲ遺跡である。

立馬Ⅰ遺跡からは、長方形住居跡である17区6号住より早期中葉の土戸下層式や含繊維の中部高地系の土器を主体とした出土土器が見られた。17区7号住からは稲荷

台式がまとまる。この他に、黒沢式を出土する土坑などが見られる。包含層からは早期の土器片を主体にするが、草創期の表裏縄文も見られ、前期～晩期までの資料が充実する。調査は、平成13・14・17年度に事業団が調査している。

立馬Ⅱ遺跡は、立馬沢を挟んで立馬Ⅰ遺跡の対岸にある。北側山岳部から延長する瘦根状の台地に立地するが、傾斜のやや緩やかな南斜面に中期初頭～前葉の集落跡が占地する。立馬Ⅰ遺跡と同様に早期資料が出土する。特に沈線文系土器に関しては、関東地方より長野県域の該期土器群に近い様相を示す。中期集落は11軒の住居跡を数える。斜面に立地するため住居跡の遺存状態は良くないが、出土土器は豊富であり、五領ヶ台Ⅱ式、阿玉台Ⅰa～Ⅱ式、勝坂Ⅰ式などを見る。また、10号住からは加曾利Ⅱ式段階の土器が出土している。瘦根状の台地に中期後葉の住居が占地する状況は希少である。平成14年度に事業団が調査している。

立馬Ⅲ遺跡も早期を中心とする集落跡である。早期住居跡3軒、中期後葉住居跡1軒を見る。包含層出土遺物も早期を中心に良好な様相を示す。その他に竪穴状遺構や、集石、土坑などを検出している。平成19年事業団が調査している。

立馬Ⅰ～Ⅲ遺跡が占地する山地斜面と折の沢を挟んで、林地区の南緩斜面地形が広がる。長野原町内でも有数の遺跡包蔵地区である。西端には花畑遺跡、東原Ⅰ～Ⅲ遺跡が占地する。

花畑遺跡は平成10年～12年度に事業団が調査している。縄文時代遺構は無いが、包含層で五領ヶ台Ⅱ式を中心にした中期初頭の資料が少量ながら出土している。

東原Ⅰ遺跡、平成17、18、24年度に町教委が調査し、陥穴状土坑の時期を前期～後期と比定されているが、検討を要する。20年度には事業団が調査している。包含層出土遺物で諸磯b式の破片数点報告されている。また、土坑出土であるが、後期の底部破片を見るが、遺構に伴う例では無いようだ。

東原Ⅱ遺跡、平成20年度に事業団が調査している。土坑出土遺物として前期後半の土器片を見るが、遺構に伴う例では無い。包含層出土遺物として、諸磯b式や加曾利Ⅳ式、堀之内Ⅱ式が報告されているが、量は多くない。

東原Ⅲ遺跡の縄文遺構は検出されていない。包含層出

土遺物として早期条痕文系土器群や、前期初頭～後葉の破片数点が報告されている。

林地区の緩斜面地形東側は、山地地形にある立馬Ⅰ～Ⅲ遺跡に比して、縄文時代の資料がやや貧弱な傾向を見せる。特に早期資料は山地斜面に偏る分布が特徴的である。

林地区の中心をなす、傾斜も緩やかな中央部分は大型の遺跡が連続する。上原Ⅰ・Ⅳ遺跡、林中原Ⅰ・Ⅱ遺跡、林宮原遺跡である。

上原Ⅰ遺跡は近年調査が集中した。特に平成23・24年度の町教委の調査と平成24年度の事業団調査によって、前期初頭の集落跡が報告されている。花積下層式及び信州地方に見られる塚田式、中道式が出土している。また、少量ながら新潟県域に見られる布目式と目される破片2点も報告されている。前期住居跡15軒、中期後葉住居跡4軒が検出されている。中期後葉の住居跡からは加曾利EⅡ式や曾利Ⅱ式、「柵倉式」、「郷土式」が出土するが、加曾利EⅡ式がやや客体的な様相を示す。包含層出土遺物は、前期前半段階の資料が多い。なお、町教委調査で打製石斧4点を埋納したピットが検出されている。

上原Ⅳ遺跡も町教委調査（平成14・18・20・24年度）、事業団調査（15・21年度）が重なる。このうち事業団調査では、堀之内2式期の住居跡4軒や列石遺構、配石遺構が報告されている。同様に、町教委調査でも堀之内2式を出土する住居跡2軒を検出している。事業団調査で出土した注口土器に「福田類型」が傑出する傾向が見られた。町教委調査包含層で、堀之内2式の他加曾利BⅠ式や晩期末の土器が出土している。

林中原Ⅰ遺跡の調査は、昭和37年度群馬大学調査を嚆矢とする。中期住居跡1軒が確認されたとされる。その後、町教委の調査が平成14年に着手され、15回にわたる調査が重なる。事業団は平成16・19・21年度の調査を行っている。町教委の調査では中期後葉～後期の集落跡を検出している。特に、後期資料では堀之内2式段階の特徴的な深溝が出土しており、注目されている。また注口土器も釣手付の例や上原Ⅳ遺跡に見られた「福田類型」が出土している。中期後葉の集落資料は現在整理中で詳細を控えるが、大木9式との関連性の深い「屋代類型」の逸品が見られる。事業団調査では、前期初頭、前期前葉、前期後葉、中期前葉の住居跡各1軒を検出している。花

積下層式期の資料は上原Ⅰ遺跡でも調査されており、分布の広がり予想されよう。竪穴状遺構からは加曾利EⅣ式が、遺構外からは諸磯式出土を見る。町教委調査と合わせると、多時期にわたる拠点的な集落様相が窺われよう。

林中原Ⅱ遺跡も平成15～19・21・22年度に町教委が13回にわたる調査を重ねている。事業団は、平成16・20・21年度に調査を行った。事業団20・21年度分は本書で報告する。町教委の調査では、中期後葉～後期前葉の列石、配石3基の他、中期後葉の住居跡1軒を見る。

林宮原遺跡は、平成14～16・18～20・24年度に町教委が調査を行い、24年度と27年度に事業団が調査した。縄文時代の遺構は見られず、中期～後期包含層からの出土遺物が報告されている。

これら大型遺跡群の北側に目を向けると、北に聳える王城山南麓部に繋がる。山地斜面際に上原Ⅱ遺跡と上原Ⅲ遺跡が位置する。林地区の平坦地形を概観すると扇状地状の広がりを見せるが、扇端部にあたる地点である。

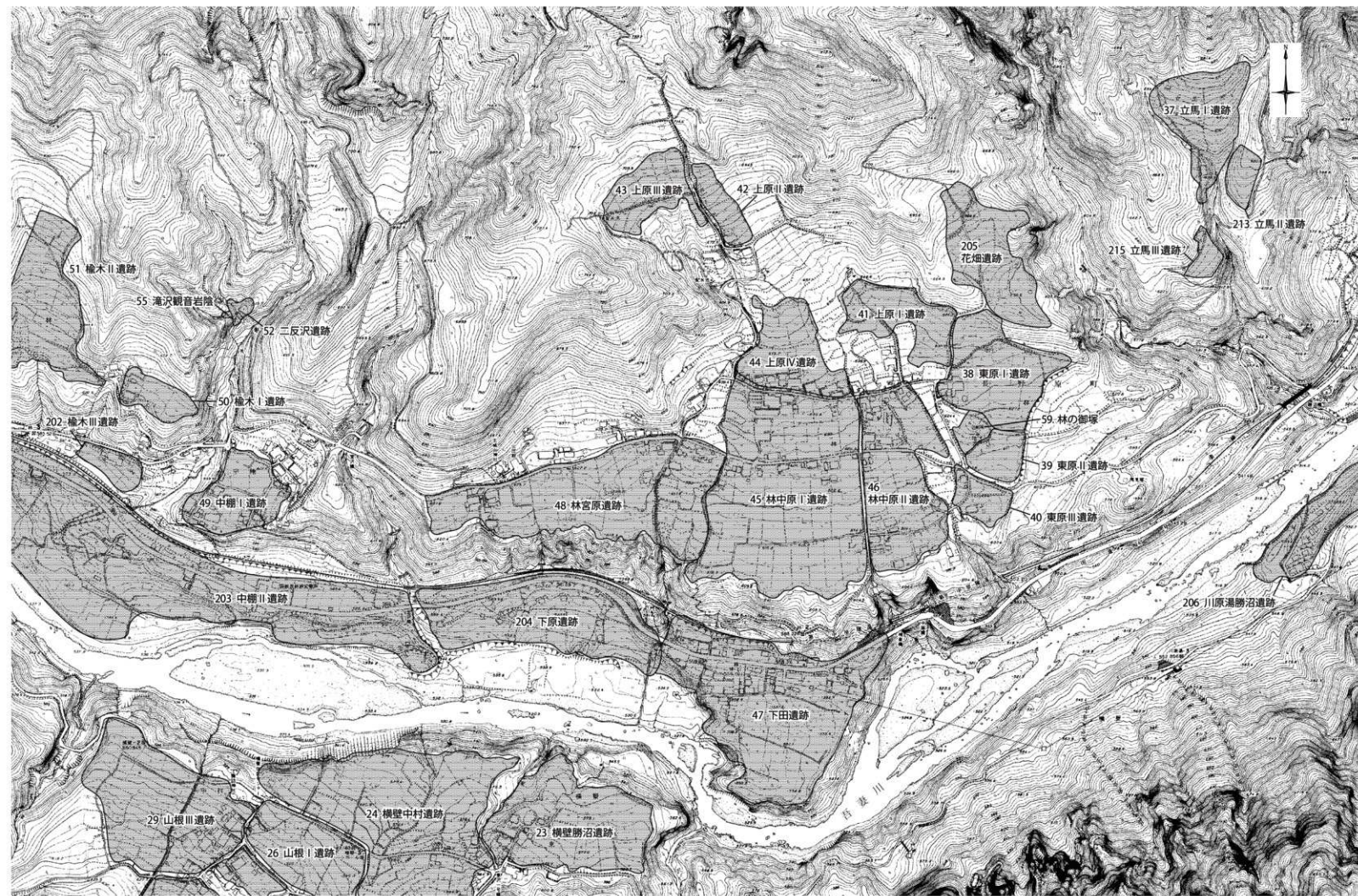
上原Ⅱ遺跡、平成23年度に町教委が調査を行っている。斜面地形の著しい遺跡ながら、中期初頭竪穴状遺構、焼土遺構、土坑などが調査された。五領ヶ台Ⅱ式～阿玉台Ⅰa式土器が良好に出土している。先述した立馬Ⅱ遺跡、後述する榎木Ⅰ・Ⅱ遺跡に類例があるが、いずれも斜面地形のため遺構一括性の確定性に乏しく、上原Ⅱ遺跡の出土様相が優れる。

上原Ⅲ遺跡は平成23年度に町教委が調査しており、隣接地点を25・27年度に事業団が調査した。包含層出土遺物として、少量ながら前期初頭～後期前葉の土器が見られる。中期後葉の「郷土式」を見る。

林地区中央部より西側は室沢と山地を挟み、中朝Ⅰ遺跡がある。さらに西側には榎木沢が流れ、再度山地斜面が聳えるが、この山地斜面中に榎木Ⅰ～Ⅲ遺跡が点在する。

中朝Ⅰ遺跡は林地区では数少ない上位段丘面に占地する。早期末葉の絡条体圧痕を施す条痕文系土器などが土坑から出土している。その他に早期中葉の野島式や鶴ヶ島台式を見ることができる。平成23年度に町教委が調査した。

榎木Ⅰ遺跡及び榎木Ⅱ遺跡は最上位段丘面に位置するとされるが、ほぼ周辺は険しい山地斜面に囲まれ、斜面



第5図 林中原II遺跡周辺遺跡及び地形図(番号は長野原町遺跡台帳番号)

中腹にある平坦地を選んだ各時代の集落跡などが発見されている。楡木Ⅰ遺跡は平成21年度に事業団が調査している。中期前葉に比定される土器が土坑1基より出土している。包含層からは少量ながら黒浜式、五領ヶ台Ⅱ式～阿玉台Ⅰa式の破片が出土している。

楡木Ⅱ遺跡は楡木Ⅰ遺跡上位の平坦地に占地する。比較的広い山地緩斜面である。事業団が平成12・13・16・17年度に調査を行ない、早期前葉住居跡31軒をはじめ、前期住居跡や中期初頭住居跡を見ている。早期住居跡は摺糸文系土器を主体とし、石囲いが付帯する例もあった。該期住居跡内に石囲いや設けた例は極めて希少例で、今後さらなる検討を重ねなければならないだろう。前期住居跡は黒浜式、中期初頭の住居跡は五領ヶ台Ⅱ式を出土している。包含層遺物も豊富で、摺糸文系土器に加えて押型文や沈線文系土器が加わる。草創期に比定される表裏縄文も1点ながら出土している。前期に比定した土器には数点だが中越式が見られる。中期は初頭～前葉段階の土器資料が充実する。

楡木Ⅲ遺跡は第5図に位置を示せなかったが、楡木Ⅰ遺跡より標高の低い上位段丘面にあたる。平成10年度事業団が調査し、諸磯b式が比較的まとまり、堀之内Ⅱ式や加曾利B式が出土する包含層を得ている。

林地区中央部をなす上位段丘南側は、段丘崖が連なる。崖下は中段段丘面となり、下田遺跡と下原遺跡、中棚Ⅱ遺跡が占地する。下田遺跡は中段段丘面、下田遺跡、中棚Ⅱ遺跡は下位段丘面である。

下田遺跡は平成6・7・9年度及び平成26年度に事業団が調査している。近世畑跡や民家跡の調査が主体だったが、加工痕ある剥片石器の出土を見ることから、今後下面調査を重ねることによって縄文時代遺跡の検出も予想されよう。

下原遺跡も事業団が平成12・13・15・16年に調査している。古墳時代住居跡や包含層で弥生前期資料が出土している。縄文土器も僅かながら、前期末葉や後期前葉の破片が出土している。

中棚Ⅱ遺跡は平成11～13年度事業団が調査した。近世畑跡を主体とするが、晩期末葉の土器片の出土も見ている。今後の調査に期待したい。

以上のように、林地区の縄文時代遺跡を概観した。長

野原町教育委員会と事業団による多くの調査歴が蓄積した地区である。縄文時代遺跡も数多く調査され、各時期の様相も豊けながら、明らかになりつつある。

草創期の資料は極めて少ない。楡木Ⅱ遺跡と立馬Ⅰ遺跡に表裏縄文各1点を見るのみである。まとまった資料を見ないが、今後も注意深く調査を重ねることによって、実像が明らかになるものと思われる。

早期の資料としては、立馬Ⅰ～Ⅲ遺跡と楡木Ⅱ遺跡にまとまる。その他では、中棚Ⅰ遺跡でも条痕文系土器などを見る。いずれも、林地区の中央部の広い台地からの出土ではなく、立馬Ⅰ～Ⅲ遺跡、楡木Ⅱ遺跡のように、最上位段丘よりさらに標高の高い、山地斜面中にある痩せ尾根や馬の背状の台地地形を選ぶ傾向がある。また、上位段丘面にある中棚Ⅰ遺跡も注意しなければならない。おそらく、楡木Ⅲ遺跡などへの広がりや、さらに中段段丘面・下位段丘面にある下田遺跡・下原遺跡・中棚Ⅱ遺跡にも出土が見込まれる。中位・下位段丘面における離水時期や人間活動の初現を明らかにできよう。

前期は林地区全域に広がる。下位段丘面の下原遺跡にも前期末葉の破片が見られる。その中で、前期初頭に位置づけられる、花積下層式期の集落跡が上原Ⅰ遺跡で検出された例は、大きな評価が与えられよう。該期資料は、各遺跡でも少量が確認されており、林地区に集中する傾向も窺われる。

前葉～後葉の集落跡は、平野部に見る大規模な集落跡は見られず、数軒単位の小規模な集落跡が点在する様相を示す。その中で、黒浜式や諸磯b式土器の出土量が多い。

中期も林地区全域に広がるとはいえ、初頭～前葉段階の集落跡が立馬Ⅱ遺跡と上原Ⅱ遺跡、楡木Ⅱ遺跡に偏る様相は興味深い。林地区中央部の大型遺跡では、少数の遺構検出に止まる。早期遺跡のように広い台地を選ばず、山地斜面上の狭小な台地や急斜面地形に占地する要因は不明だが、五領ヶ台式が林地区に濃密に分布する傾向と併せて今後の課題となろう。中葉の集落跡も立馬Ⅱ遺跡と楡木Ⅱ遺跡に限られる。林中原Ⅰ・Ⅱ遺跡も数軒が検出されているが、前者が狂倒する。前葉段階の集落設置手段が継続する傾向である。

中後葉は、中央部にある林中原Ⅰ・Ⅱ遺跡に大型集落が営まれ、周辺では上原Ⅰ遺跡や立馬Ⅲ遺跡のような

小規模な遺跡が点在する様相である。広い台地上に集落を営む時期として、横壁地区や長野原地区など各地区と共通する。今後は、隣り合う林中原Ⅰ・Ⅱ遺跡の規模や性格を明らかにしなければならないだろう。

中期末葉～後期初頭の遺跡は少ない。林中原Ⅰ・Ⅱ遺跡と重複する傾向があるが、おそらく、林地区中央部に分散すると思われる。敷石住居跡としての居住痕跡であるので、広がり具合はたやすいだろう。

後期前葉の遺構は上原Ⅳ遺跡、林中原Ⅰ・Ⅱ遺跡で調査されている。上原Ⅳ遺跡や林中原Ⅰ遺跡では注口土器「福田類型」への偏在が目立つ。また林中原Ⅰ遺跡では在地系と考えられる深鉢が出土している。この段階の遺構・遺物は横壁中村遺跡や長野原一本松遺跡でも多く見られている。将来的に、林地区の該期資料と併せて、後期地域性が具体的にになるだろう。

主な参考文献

1. 長野原町教育委員会（以下長野原町教委）1990 『長野原町の遺跡一町内遺跡詳細分布調査』長野原町埋蔵文化財調査報告第1集
2. 長野原町教委1995 『柳沢城 長野原町埋蔵文化財調査報告第4集
3. 長野原町教委2004 『町内遺跡Ⅰ』長野原町埋蔵文化財調査報告第13集林宮原遺跡Ⅱ・林中原Ⅰ遺跡Ⅰ・外輪Ⅰ遺跡・長畠Ⅰ遺跡Ⅱなど
4. 長野原町教委2002 『林宮原遺跡Ⅱ』長野原町埋蔵文化財調査報告第14集
5. 長野原町教委2005 『町内遺跡Ⅴ』長野原町埋蔵文化財調査報告第15集船木Ⅰ遺跡・立石遺跡・林宮原遺跡など
6. 長野原町教委2006 『町内遺跡Ⅵ』長野原町埋蔵文化財調査報告第16集林中原Ⅱ遺跡Ⅵ・東原Ⅰ遺跡・林中原Ⅰ遺跡Ⅵなど
7. 長野原町教委2007 『町内遺跡Ⅶ』長野原町埋蔵文化財調査報告第17集林中原Ⅰ遺跡Ⅶ・林宮原遺跡Ⅵ・東原Ⅰ遺跡Ⅱ・上原Ⅳ遺跡・林中原遺跡Ⅲ・林中原Ⅱ遺跡Ⅴ・中樞Ⅰ遺跡・上原Ⅲ遺跡・上原Ⅱ遺跡など
8. 長野原町教委2009 『町内遺跡Ⅷ』長野原町埋蔵文化財調査報告第18集林中原Ⅰ遺跡Ⅷ・久々戸遺跡など
9. 長野原町教委2010 『町内遺跡Ⅷ』長野原町埋蔵文化財調査報告第19集京本遺跡Ⅱ・三平Ⅰ遺跡・古屋敷遺跡・林宮原遺跡Ⅷ・林中原Ⅰ遺跡ⅧⅠ・上原Ⅳ遺跡ⅧⅠなど
10. 長野原町教委2010 『林中原Ⅰ遺跡Ⅳ』長野原町埋蔵文化財調査報告第20集
11. 長野原町教委2010 『町内遺跡ⅧⅡ』長野原町埋蔵文化財調査報告第21集林中原Ⅱ遺跡ⅧⅡ
12. 長野原町教委2011 『林宮原遺跡Ⅷ』長野原町埋蔵文化財調査報告第23集
13. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団（以下群馬文）1998 『長野原久々戸遺跡』
14. 群馬文2002 『長野原一本松遺跡（Ⅰ）』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告第1集（以下ハッ場〇集）
15. 群馬文2002 『ハッ場ダム発掘調査集（Ⅰ）』ハッ場2集 東宮遺跡・石畑遺跡・川原湯勝沼遺跡・横壁勝沼遺跡・西久保Ⅰ遺跡・山根Ⅲ遺跡・下田遺跡・花畑遺跡・船木Ⅲ遺跡・尾坂遺跡など
16. 群馬文2003 『久々戸遺跡・中樞Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』ハッ場3集
17. 群馬文2004 『久々戸遺跡（Ⅱ）・中樞Ⅱ遺跡（Ⅱ）・西ノ上遺跡・上郷A遺跡』ハッ場4集

18. 群馬文2005 『横壁中村遺跡（Ⅱ）』ハッ場5集
19. 群馬文2005 『川原湯勝沼遺跡』ハッ場6集
20. 群馬文2006 『横壁中村遺跡（Ⅲ）』ハッ場7集
21. 群馬文2006 『立馬Ⅱ遺跡』ハッ場8集
22. 群馬文2006 『上郷Ⅲ遺跡・廣石A遺跡・二反沢遺跡』ハッ場9集
23. 群馬文2006 『横壁中村遺跡（Ⅳ）』ハッ場10集
24. 群馬文2006 『立馬Ⅰ遺跡』ハッ場11集
25. 群馬文2007 『下原遺跡Ⅱ』ハッ場12集
26. 群馬文2007 『三平Ⅰ・Ⅱ遺跡』ハッ場13集
27. 群馬文2007 『横壁中村遺跡（Ⅴ）』ハッ場14集
28. 群馬文2007 『長野原一本松遺跡（Ⅱ）』ハッ場15集
29. 群馬文2007 『上郷阿原遺跡（Ⅰ）』ハッ場16集
30. 群馬文2008 『山根Ⅲ遺跡（Ⅱ）・上原Ⅳ遺跡・幸神遺跡』ハッ場17集
31. 群馬文2008 『船木Ⅱ遺跡（Ⅰ）』ハッ場18集
32. 群馬文2008 『長野原一本松遺跡（Ⅲ）』ハッ場19集
33. 群馬文2008 『横壁中村遺跡（Ⅵ）』ハッ場20集
34. 群馬文2008 『上郷阿原遺跡（Ⅱ）』ハッ場21集
35. 群馬文2008 『横壁中村遺跡（Ⅶ）』ハッ場22集
36. 群馬文2008 『上ノ平Ⅰ遺跡（Ⅰ）』ハッ場23集
37. 群馬文2008 『長野原一本松遺跡（Ⅳ）』ハッ場24集
38. 群馬文2008 『上郷西遺跡』ハッ場25集
39. 群馬文2009 『立馬Ⅲ遺跡』ハッ場26集
40. 群馬文2009 『船木Ⅱ遺跡（Ⅱ）』ハッ場27集
41. 群馬文2009 『長野原一本松遺跡（Ⅴ）』ハッ場28集
42. 群馬文2009 『横壁中村遺跡（Ⅷ）』ハッ場29集
43. 群馬文2009 『横壁中村遺跡（Ⅷ）』ハッ場30集
44. 群馬文2009 『上郷阿原遺跡（Ⅲ）』ハッ場31集
45. 群馬文2009 『上郷A遺跡（Ⅱ）』ハッ場32集
46. 群馬文2010 『横壁中村遺跡（Ⅹ）』ハッ場33集
47. 群馬文2010 『横壁中村遺跡（Ⅺ）』ハッ場34集
48. 群馬文2010 『東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡』ハッ場35集
49. 群馬文2011 『東宮遺跡（Ⅰ）』ハッ場36集
50. 群馬文2012 『横壁中村遺跡（Ⅻ）』ハッ場37集
51. 群馬文2012 『東郷阿原遺跡（Ⅱ）』ハッ場38集
52. 群馬文2012 『船木Ⅱ遺跡（Ⅲ）』ハッ場39集
53. 群馬文2012 『船木Ⅱ遺跡（Ⅲ）』ハッ場39集
54. 群馬文2013 『長野原一本松遺跡（Ⅵ）』ハッ場40集
55. 群馬文2013 『横壁中村遺跡（Ⅼ）』ハッ場41集
56. 群馬文2011 『年報30』尾坂
57. 長野原町教委2012 『町内遺跡ⅧⅢ』長野原町埋蔵文化財調査報告第22集
58. 長野原町教委2013 『林宮原遺跡ⅧⅡ』長野原町埋蔵文化財調査報告第23集
59. 長野原町教委2013 『町内遺跡ⅧⅣ』長野原町埋蔵文化財調査報告第25集
60. 長野原町教委2013 『町内遺跡ⅧⅤ』長野原町埋蔵文化財調査報告第27集
61. 長野原町教委2014 『町内遺跡ⅧⅥ』長野原町埋蔵文化財調査報告第28集
62. 長野原町教委2015 『林地区遺跡群』長野原町埋蔵文化財調査報告第30集
63. 群馬文2014 『長野原一本松遺跡（Ⅶ）』ハッ場42集
64. 群馬文2014 『長野原城跡・林中原Ⅰ遺跡』ハッ場43集
65. 群馬文2014 『横壁中村遺跡（Ⅽ）』ハッ場44集
66. 群馬文2015 『町遺跡』ハッ場45集
67. 群馬文2015 『上原Ⅰ遺跡・上原Ⅲ遺跡・林宮原遺跡』ハッ場46集

第3章 発見された遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

林中原Ⅱ遺跡は、吾妻郡長野原町北部の吾妻川左岸上位段丘面にある。周辺は南側への緩斜面地形にあり、南端部は段丘崖が東西に連続する。本遺跡はこのような緩斜面上に占地された集落遺跡の一つである。隣接する遺跡として、林中原Ⅰ遺跡や東原Ⅰ～Ⅲ遺跡、上原Ⅰ遺跡があるが、その中でも傑出した遺構量を誇る内容を示す。主な遺構としては縄文時代中期～後期の住居跡、土坑、列石などであり、その他には中世～近世、建物跡や墓壇などがある。本書はこの遺構群のうち、調査対象区の南側にあたる国道部分（51区・52区・61区南）を対象としている。北側の町道部分（61区・62区）は、現在整理中であり、第2分冊で扱うことになっている。また、弥生時代以降の遺構・遺物は第3分冊で報告する。

ここでは、本書で扱う国道部分で検出された縄文時代の遺構・遺物の概要を述べる。

縄文時代草創期と早期の遺構・遺物は確認されていない。本遺跡のある林地地区では、草創期資料は未見であるが、隣接地区の川原畑地区で著名な石畑Ⅰ岩陰があり、当地域の草創期遺跡として知られている。林地地区の早期の遺跡としては、楡木Ⅱ遺跡、立馬Ⅰ遺跡、立馬Ⅲ遺跡が挙げられよう。

本遺跡の前期資料としては、51区24号住と52区5号住が挙げられる。前期初頭の深鉢体部破片が出土した住居跡である。前期後半の住居跡は見られないが、諸磯b式土器を伴う土坑が3基（51区261坑・51区267坑・51区292坑）が見られる。

中期は住居跡を中心とした資料である。径約80mの環状集落の一部の調査である。中期後葉を主体としており、住居跡40軒を数える。出土遺物も豊富で、土器は加曽利EⅡ式、EⅢ式、「郷土式」、「唐草文土器」が見られ、少数ながら大木8b式や9式も混じる。土坑は中期初頭の例から見られる。51区280坑・51区315坑が該当する。前葉～中葉段階の例は、51区143坑・51区227坑・51区239坑・51区297坑などがある。いずれも、土器が個体として出土したため判断した。

後葉初頭～中頃段階の土坑の中には特徴的な例が、見られた。焼骨片を伴う例で、人骨として分析結果を得て

いる。その中で、明瞭に土器個体を伴う例として、51区166坑・51区309坑は大型深鉢を伴い、焼骨片が出土している。時期が確定できる内陸部墓壇として希少な例と評価されよう。これとは別に、完形土器を伴わない焼骨片を出土した土坑は51区153坑・51区159坑・51区164坑・51区230坑・51区259坑が見られる。これらも中期後葉の所産と捉えられよう。

中期末～後期の住居跡としては、51区13号住・51区18号住・51区19号住・51区27号住・61区5・13号住・61区14・15号住が挙げられる。このうち51区19号住と51区27号住以外は敷石住居跡として位置付けられており、該期集落跡の特徴を具体化している。中期末葉の土坑としては、51区280坑、後期の土坑としては、51区156坑・51区171坑・51区172坑・61区42坑などが挙げられる。51区156坑・51区171坑・51区172坑は完形土器が逆位で出土しており、墓壇としての位置付けを考えた。

時期を後期に求めているが、列石が3基検出されている。51区1号列石は51区13号住西で東西の方向性を持つ。51区2号列石は51区と52区の境で南北を基調とした弧状の走行を見せている。3号列石も南北方向の走行を見せる。いずれも2・3単位の配石や列石で構成されている。遺構外出土土器として取り上げたが、堀之内Ⅰ式土器が列石周辺より出土している。

第2節 基本土層

林中原Ⅱ遺跡が位置する吾妻川左岸上位段丘は、段丘面が安定しており、南側への緩斜面が大きく広がる。洪積台地であり、基本層序としては基盤に応答泥流上に乗るローム層と上位に堆積する黒褐色土が基準となる。しかしながら、当地区は南流する小河川に画された洪積台地が東西に連続する景観であり、各台地の基本層序は若干ながら様相を異にする。これは、斜面地形に伴う地滑りなどの二次堆積土が複雑に重なるためで、各遺跡で得られた層序は単純な層位を示していない。

本遺跡においても、調査区内の各地点で観察された層位は異なる。ここでは、代表的な層位を示す51区南壁の土層を基本土層としたい。

表土は地点によって、層厚が著しく異なるが概ね20

～30cmの堆積である。

II層は比較的厚く堆積し、黒褐色～黒色を呈す。比較的軟質で白色粒を含む。中世～近世遺構の多くは、II層下位で確認できる。

III層は地点によって層厚が異なり、2～3層に細分できるが、細分層位が出土土器の細分時期とは対応できない。おそらく、人為的な土壌の移動が頻繁に行われた証左と考えられよう。やや硬質となり、黄色粒(As-YPk)を含む。縄文時代後期以降の遺構確認面である。

IV層は、いわゆるローム漸移層に対応する。暗褐色～黄褐色を呈し、硬質で黄色粒を顕著に含む。縄文時代前期以降の遺構が確認でき、本遺跡の中期に比定される遺構の大半は、この層位で検出している。

V層は二次堆積ロームないしは軟質ローム層である。黄褐色を呈し礫を含む。二次堆積ロームは傾斜や谷地形に伴う崩落土とされるが、検討を要する。なお、本文では軟質ロームとして一括した。最終的な遺構確認面である。

VI層も二次堆積ロームである。V層に比して礫の含有量が多い。軟質ロームに相当する。

VII層は黄色ロームや黄色粒を多く含む。硬質ロームに相当する。陥穴状土坑など深度の大きい遺構はこの層位を掘り抜き、VIII層まで達していた。

VIII層は浅間板鼻褐色軽石(As-BP)を主体とした幾つかの層位がまとまる。

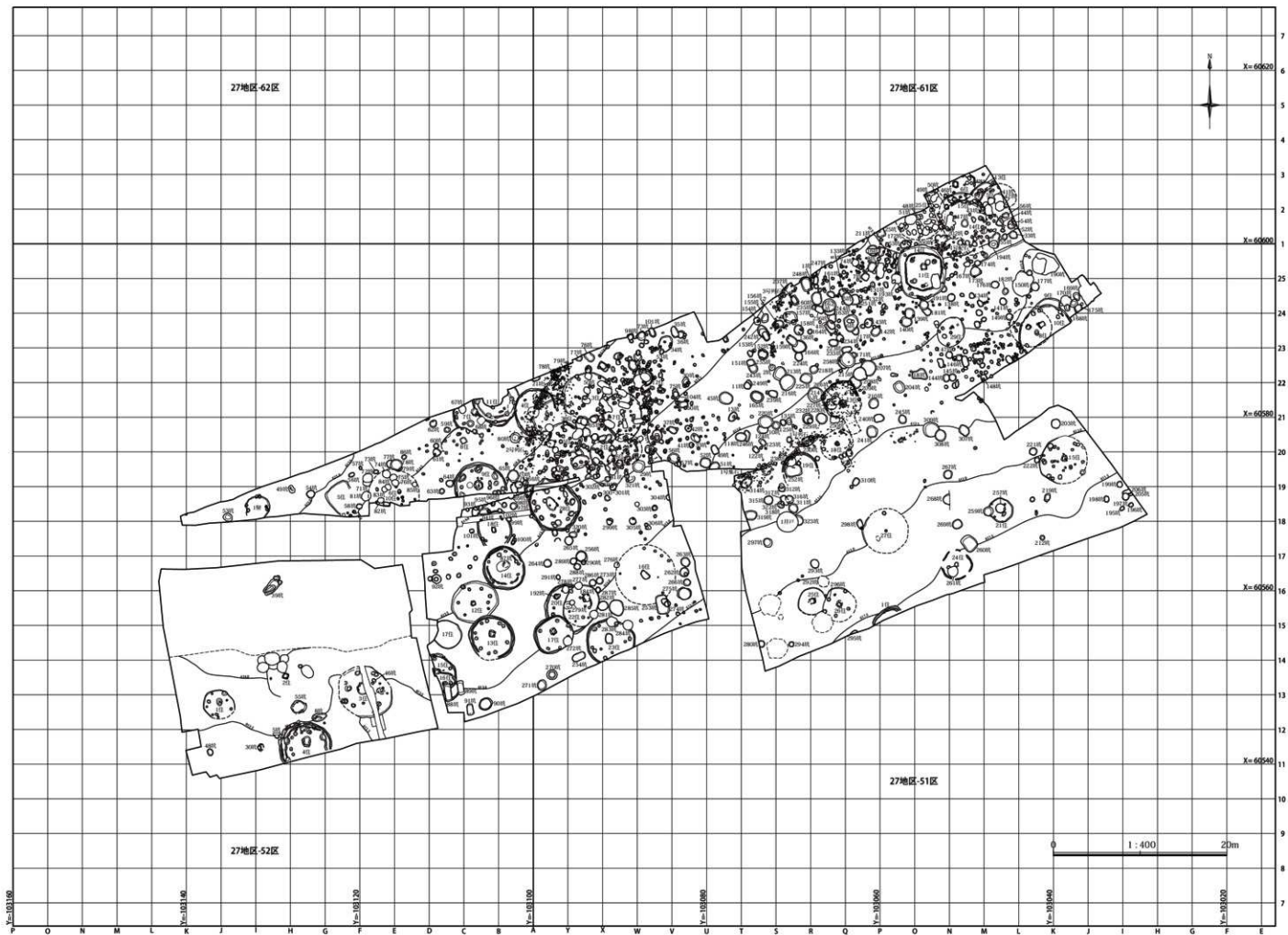
IX層、応桑泥流である。



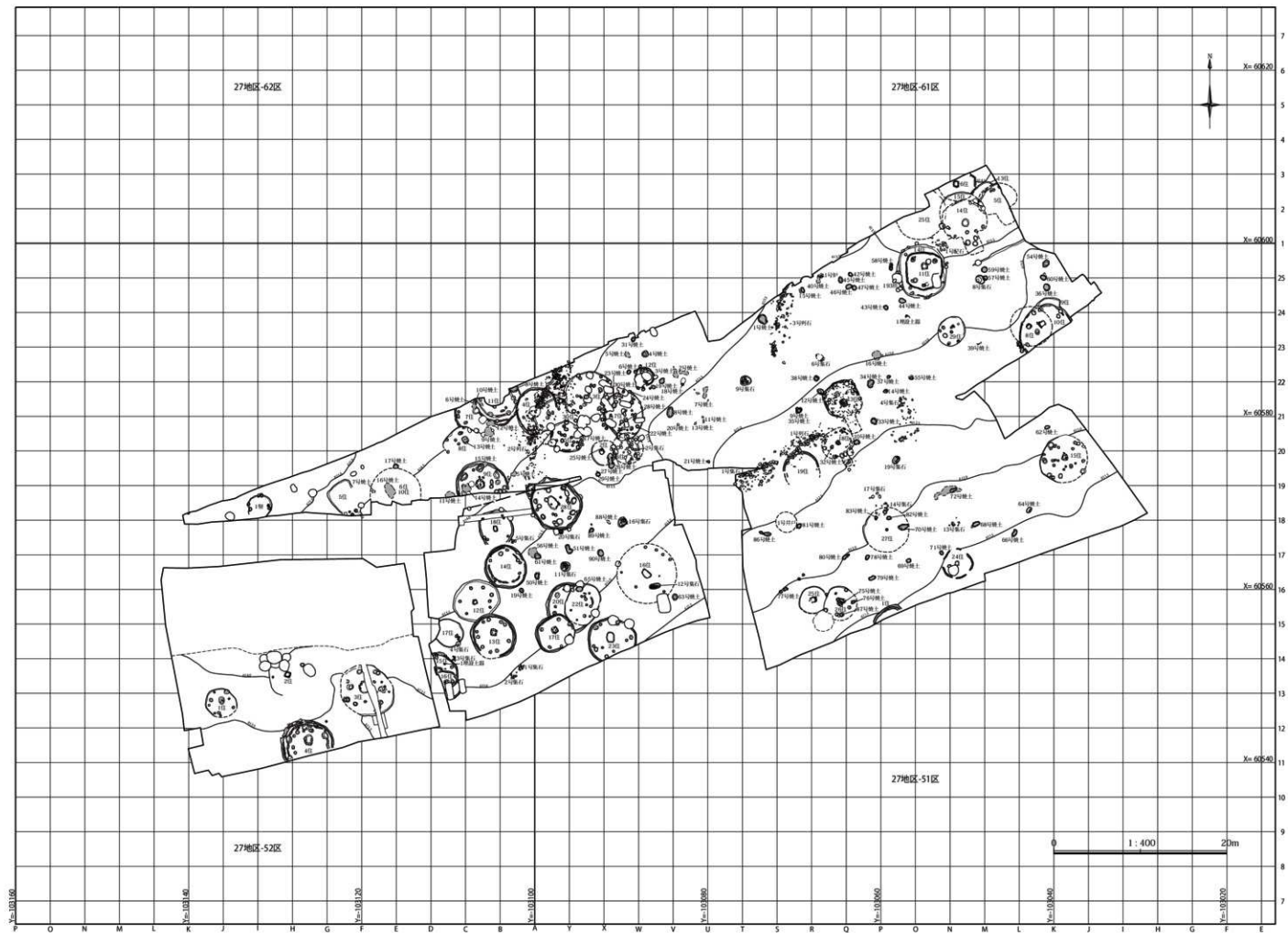
第6図 51区基本土層図



第7图 林中原Ⅱ遺跡全体图(51・52・61・62区)



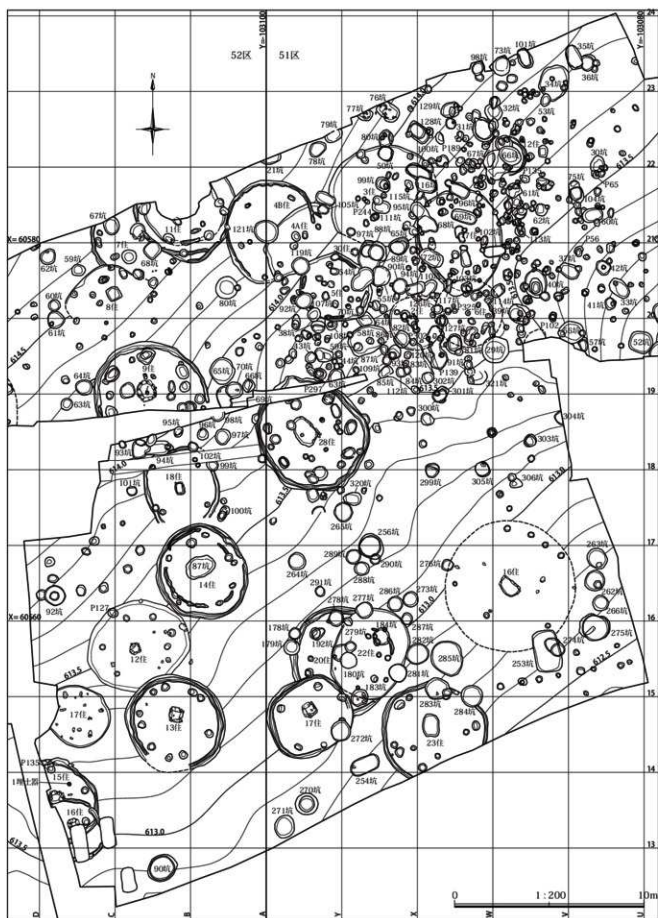
第8図 林中原Ⅱ遺跡全体図(国道部分)



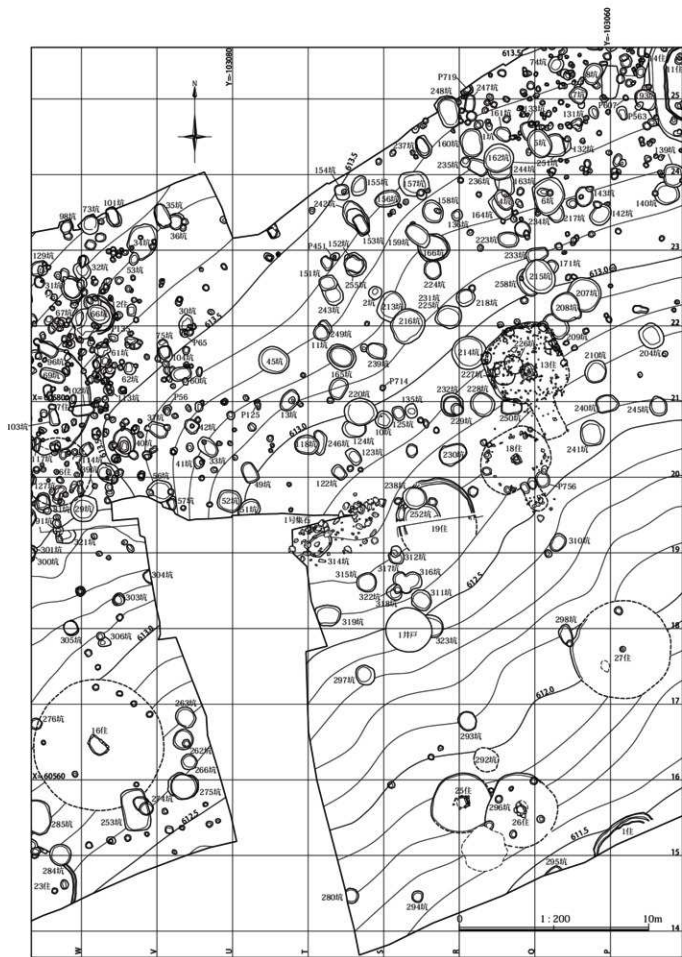
第9図 林中原Ⅱ遺跡全体図(国道部分)



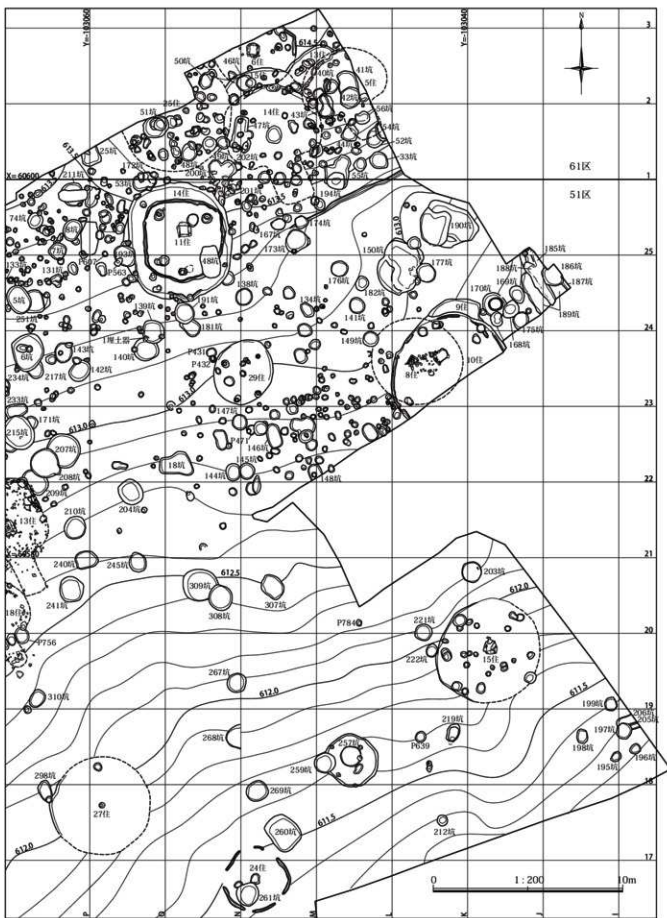
第10図 林中原Ⅱ遺跡遺構配置図1



第11図 林中原Ⅱ遺跡遺構配置図2



第12図 林中Ⅱ遺跡遺構配置図3



第13図 林中原Ⅱ遺跡遺構配置図4

第3節 住居跡

ここでは、検出された竪穴住居跡を述べる。例言でも触れ得たが、いわゆる竪穴住居跡を住居跡として位置付け、本文・挿図・表・写真図版中では*号住居跡あるいは*号住、*住として記している。

また、整理作業を進める上で、調査時は竪穴状遺構とされていた例を51区29号住居跡、集石遺構として位置付けられていた石囲いかを51区30号住居跡として、新たに加えている。また、調査時に住居跡として記録した遺構は基本的に住居跡として報告した。

51区1号住居跡(第14図 PL. 3・62)

位置: 51区O・P-15グリッド。調査区中央南壁際に位置する。周辺は緩やかな南東への緩傾斜地形で、単独の占拠と考えられる。

経過: 調査当初は溝状遺構として確認されていた。その後、溝規模や形態から、住居跡周溝として捉えられ、縄文時代に帰属する1号住居跡として位置付けた。しかしながら、調査時の記録が著しく少なく、住居跡全体を示す断面図などは無い。

規模: 周溝のみの検出のため、全容は把握できない。おそらく、径3~4m前後の小型の住居跡と思われる。壁も検出されず、周溝の深さも5cm程度である。

重複: 単独の検出である。北西約2.5mに26号住居跡が位置する。

床面: 軟質ローム層を地床とする。東西方向はほぼ平坦と考えられる。

施設: 壁周溝以外には柱穴・炉跡などを確認していな

い。

遺物: 埋土中より、中期土器片(1・2)、後期土器片(3・4)が出土している。混在様相が顕著で、良好な一括とはいえない。

所見: 調査着手時に溝として捉えたため、住居跡としての壁の検出に至らなかった。大半を南側の調査区域外に延ばすため、全容の把握には至らず、出土遺物も少量のため、時期も特定できない。小型の円形を呈する中期後葉の住居跡であろうか。

51区2号住居跡(第15~18図 PL. 3・62・63)

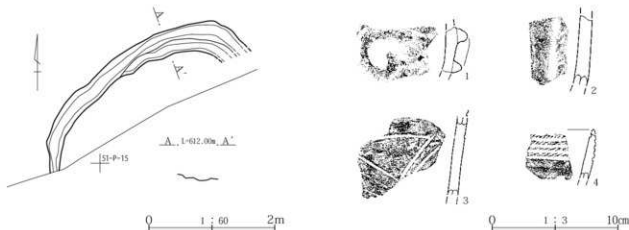
位置: 51区W・X-19・20グリッドに位置する。調査区北西寄りの52区に接する遺構密集地点の中で調査された。周辺はほぼ平坦地形を呈し、そのため住居跡や土坑が群在する様相を示す。

経過: 工事工程上北側の2/3が先行調査され、南側を追加する調査工程となった。また、確認面を当初黒褐色土中においたため、明瞭な平面形の把握が果たせず、さらに土坑群の重複のため、壁の一部を確認できなかった。また、検出当初は径5m程度の円形住居跡を想定していたが、最終的に径3mの小型住居跡となっている。

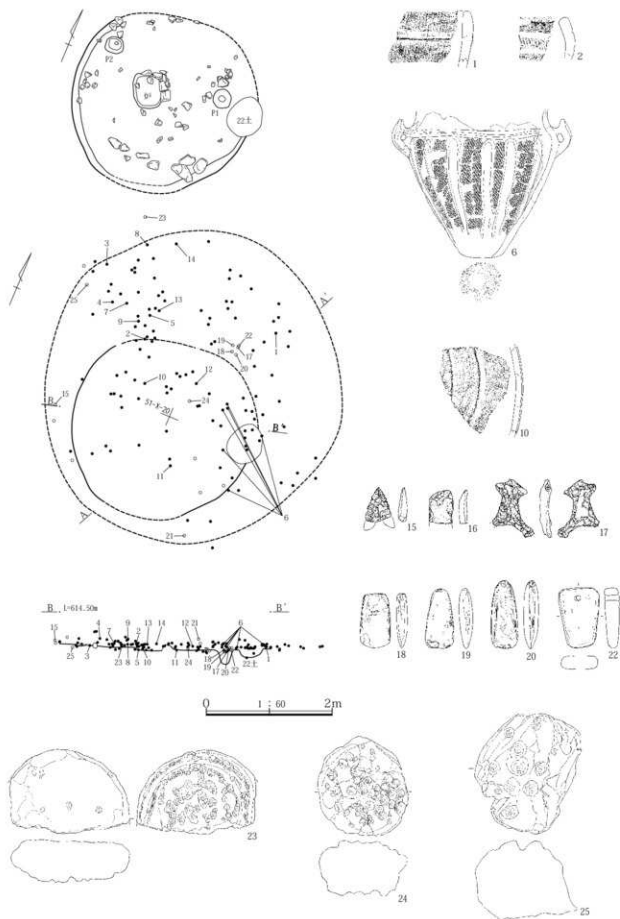
規模: 主軸方位は不明であるが、炉長軸方位からは、北北西を向くと捉えた。平面形規模は約3.0×2.9mを測る小型の円形住居跡である。深さは10cm以下で残存状態は悪い。

重複: 東側に6号住が重なる他、22坑、82坑、126坑が重複する。新旧は不明である。

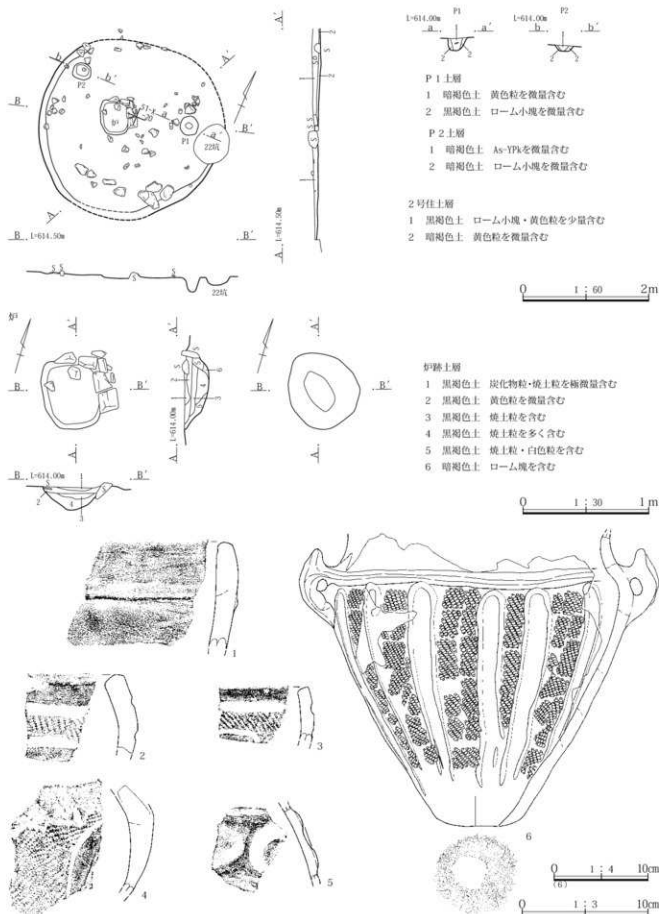
床面: ローム漸移層である暗褐色土を地床としており、



第14図 51区1号住居跡・1号住居跡出土遺物



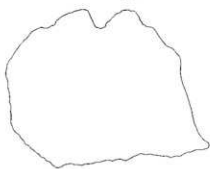
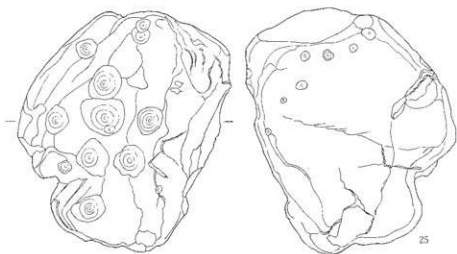
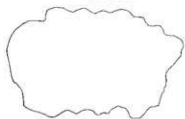
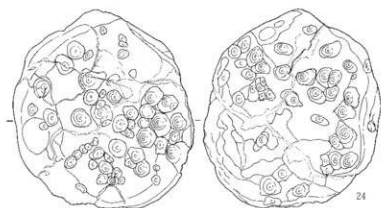
第15図 51区2号住居跡(1)



第16図 51区2号住居跡(2)・2号住居跡出土遺物(1)



第17図 51区2号住居跡出土遺物(2)



0 1 : 4 10cm

第18図 51区2号住居跡出土遺物(3)

ほぼ平坦面を築くが僅かに東側へ傾く。硬化面は顕著ではなかった。

施設：炉とピット2基を検出した。

炉跡：床面中央やや西寄りに石囲い炉を見る。方形を基調とし、北辺と東辺に石囲いがなされていた。規模は約56×45cmを測る。掘り込みは50cm程の不整形の土坑で、深さは60cm程である。底面にかけて焼土が堆積していた。西辺と北辺の石囲いは抜き取りを想定できるが、掘り込みにその痕跡は見出せなかった。

柱穴：床面でピット2基を確認した。いずれも径約25～30cmの円形のピットで、深さはP1が約22cm、P2は9cmを測る。P2がやや浅いが、配置から柱穴として位置付けたい。

遺物：大型自然礫など、調査着手時より礫の出土が多く、おそらく埋没過程で周辺からの廃棄が行われたと考える。前述のように、検出当初は住居跡範囲を広く考えていたため、本住居跡に帰属する遺物の多くが、住居跡外に位置する。緻密な一括性は低いが、両耳壺(6)が床面北側から東側に個体を中心としてまとまって出土している。また、黒曜石製の異形石器(17)、磨製石斧(18～20)、軽石製品(22)は北東壁周辺で一箇所にまとまった出土を見せている。

所見：黒色土中の確認のため平面規模が変わり、最終的に小型円形住居跡となった。また重複遺構も多く、周辺にも土坑・住居跡が重複する遺構密集地点での検出であるため、住居跡としての遺存度は低い。石囲い炉を見るが、北辺と東辺のみの石囲いで、西・南辺は抜き取られた可能性もあるが、検討を要する。また異形石器や磨製石斧、軽石製品の集中は北壁周辺の儀礼の所産であろうか。

時期は、加曽利EⅢ式中段階に比定される両耳壺の出土から中期後葉新段階と捉えられよう。

51区3号住居跡(第19～21図 PL. 3・63・64)

位置：51区2号住と同様に、調査区北西寄りの遺構密集地点で調査された。周辺は南東への緩傾斜地形にあり住居跡や土坑が密集している。51区W～Y-21・22グリッドに位置する。

経過：黒褐色土中の確認となった。炉跡を見る事はできなかったが、遺物の集中が一定範囲にまとまり、北側の壁が確認されたことから、住居跡として調査した。また南東側の傾斜のため、東～南壁は検出されず平面形は推定線となった。

規模：径約5.5mを測る不整形の平面形を呈す。北側壁の遺存が比較的良く約25cmの深さを示したが、東～南側壁の壁高は無い。

重複：多くの遺構と重複する。南東を7号住、南西に4A号住と重なる。また、50坑・65坑・88坑・95坑・99坑・111坑・115坑が床面、壁と切り合う。新旧は層位的には把握できなかった。

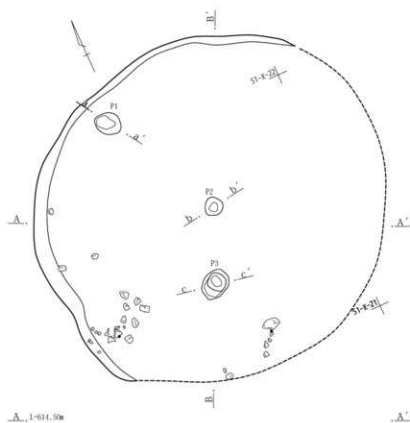
床面：ローム漸移層である暗褐色土を地床とし、ほぼ平坦面を築く。顕著な硬化面は見られなかった。

施設：前述のように炉跡を検出できなかった。これは床面中央に重複する95坑や111坑に壊された可能性もある。その他にピット3基を確認した。

柱穴：P1～P3に可能性を考えた。配置的にはP2は床面中央に位置し妥当性を欠く。しかしながら3基とも深さが27～38cmで比較的深く、柱穴としての位置付けも可能であろう。なお、図示し得なかったがP2土層には柱痕を見る。

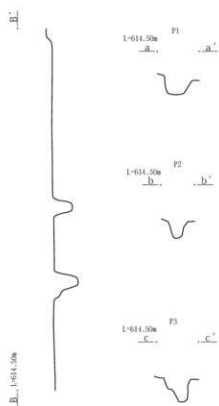
遺物：埋土中より人頭大の自然礫と混在して土器片・石器が出土している。多くが埋土中の出土であり、居住に伴う床面上の出土は見られなかった。時期も混在しており、加曽利EⅢ式(1～19)を主体として、中期中葉の破片(20・25)、末葉(22)、後期初頭(23・24)が見られた。三十稲場式(26)も出土している。

所見：炉跡が存在しないため、住居跡としての位置付けに躊躇するが、床面中央部分の重複などにより炉跡を見出せなかったと判断し、住居跡とした。出土遺物も流入・廃棄の様相を呈しており、確定的な出土状態を示していない。ここでは、主体的な出土を示す加曽利EⅢ中期を考えておきたい。



A., 1:614.50m

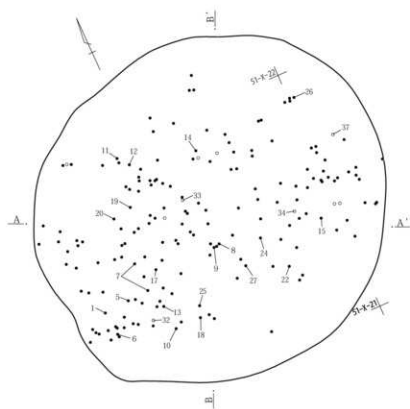
A'



B., 1:614.50m

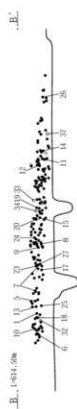
3号住上層

- 1 黒褐色土 白色粒を含む
- 2 黒褐色土 ローム粒・白色粒を含む



A.

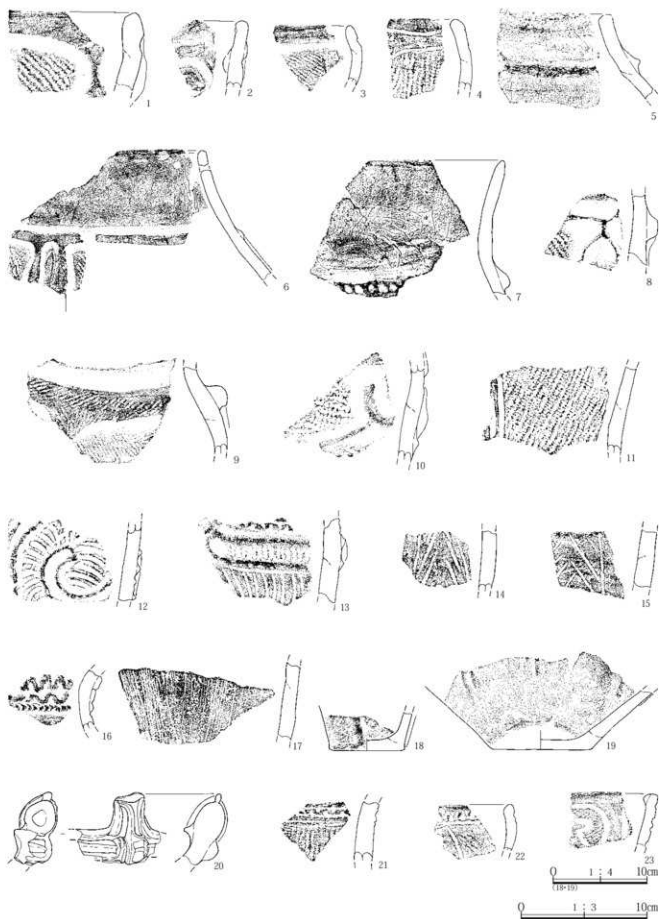
A'



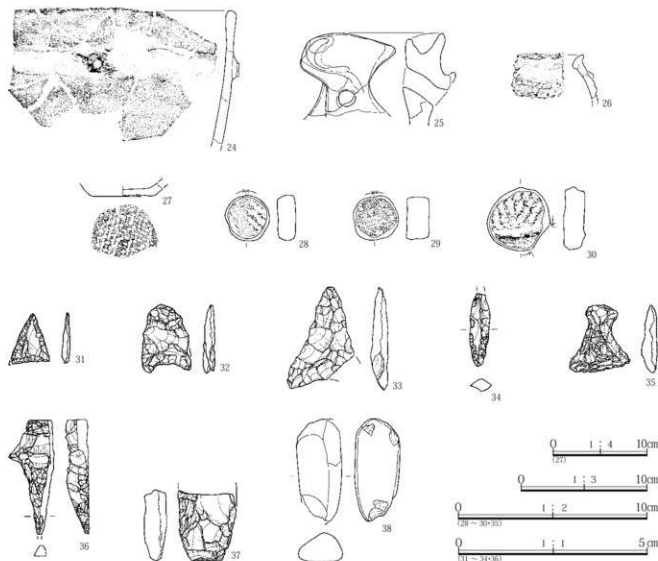
B., 1:614.50m

0 1:60 2m

第19図 51区3号住居跡



第20図 51区3号住居跡出土遺物(1)



第21図 51区3号住居跡出土遺物(2)

51区4号住居跡(第22・23・31図 PL. 3・4・65～67)

52区との境界で調査された2軒の重複住居跡である。2軒の時期も大きく隔たりがあり、本来ならば別住居跡として報告するべきであるが、発掘調査で取り上げた遺物の分別も定かではなく、混乱も予想されたため、1軒の住居跡番号で報告する。

南北に切り合う2軒の住居跡である。北側を4B号住、南側を4A号住として報告する。

4A号住居跡(第24・27・28図 PL. 3・4・65・66)

位置: 調査区北西の遺構密集地点で調査された。51区Y-20・21、52区A-20グリッドに跨がる。

経過: 着手当初は、1軒の住居跡として扱っていたが、床面の段差や4B号住で出土した炭化材の広がりや南側で途絶えることから、4B号住を切る住居跡の存在が明らかとなり、調査の段階で新たな住居跡として捉えられ

た。

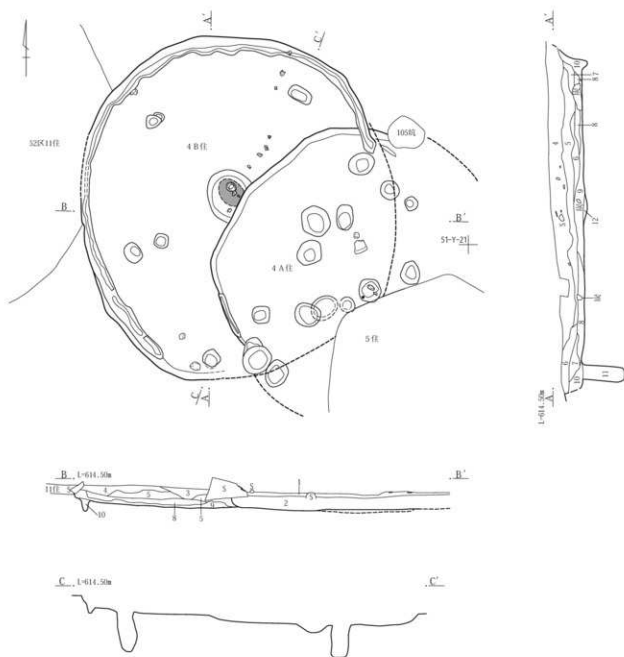
規模: 約径4.5mの円形を基調とする平面形である。南側に小規模な張り出し部や出入口部が付帯する可能性があるが、5号住との重複で判断できなかった。

重複: 北側の4B号住を切る。さらに北東に3号住、南側に5号住との重複が見られる。土層による新旧は捉えられなかったが、出土遺物は4A号住が新しい様相を示す。

床面: 軟質ロームを地床とし、ほぼ平坦面を築く。炉跡周辺に備かながら硬化面を見る。

施設: 炉・ピット6基を検出した。

炉跡: 床面中央の北西寄りに設けられる。地床炉である。周辺のローム地床もやや焼けていたが、約50×40cmの楕円状の平面形で深さ約14cmの皿状の掘り込みを持つ。下面に焼土が堆積していた。



4 A・B号住上層

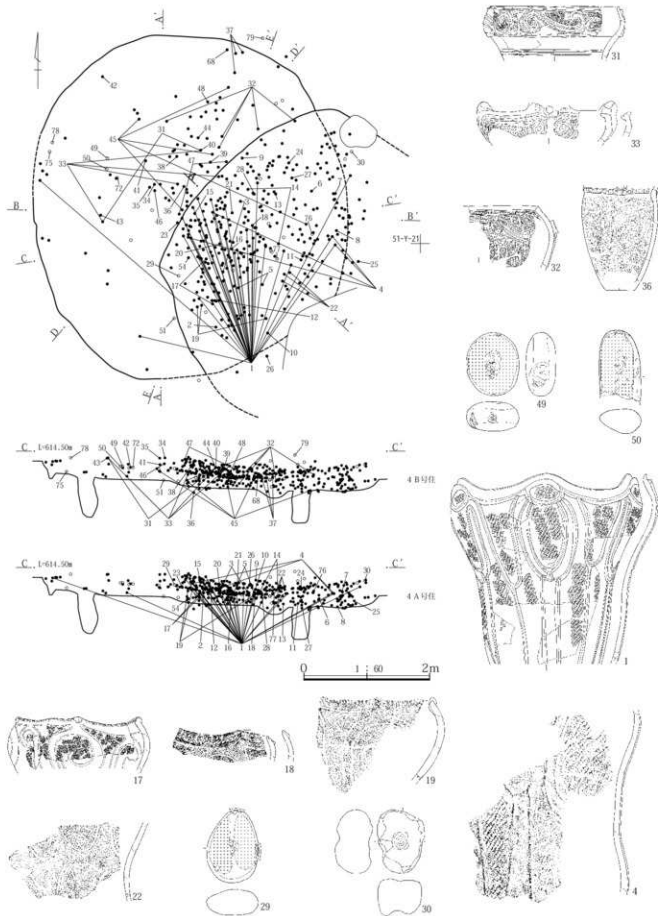
- 1 褐色土 やや明るい。黄色粒・炭化物を微量含む
 - 2 暗褐色土～黒褐色土 4 A住埋土。白色粒を少量含む
- 以下4 B号住埋土上層
- 3 褐色土 やや明るい。黄色粒・ローム小塊を微量含む
 - 4 褐色土 炭化物小塊を少量含む
 - 5 褐色土 炭化物大塊・焼土粒を含む

- 6 褐色土 焼土粒を少量、黄色粒を微量含む
- 7 褐色土 ローム大塊を多く含む
- 8 暗褐色土 白色粒・焼土大塊を少量含む
- 9 黒褐色土 炭化材を主体にする
- 10 暗褐色土 ローム粒を多く含む。しまり強い
- 11 黒褐色土 P I埋土。黄色粒・ローム小塊を含む
- 12 暗褐色土 黄色粒・焼土粒を少量含む

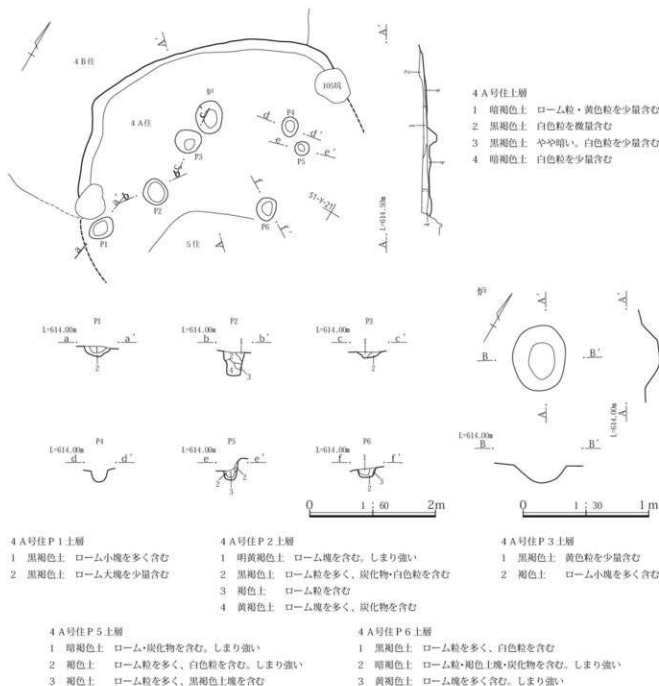
トーン部は焼土

0 1 : 60 2m

第22図 51区4号住居跡(1)



第23圖 51区4号住居跡(2)



第24図 51区 4 A 号住居跡

柱 穴：床面上に不規則な配置で6基のピットを確認したが、P2以外は深さ20cmに満たず、柱穴としては確信性に乏しい。P2は柱穴として位置付けられるが、他は検討を要する。

遺 物：埋土中より多くの出土量を見た。4 A 住に帰属する遺物も見られるが、加曽利EⅢ式の波状口縁深鉢(1)が住居跡全域より出土する状況を示すことから、一括廃棄に近い様相と見られる。また、加曽利EⅣ式(17～22)も混在しており、時間幅のある廃棄と考える。

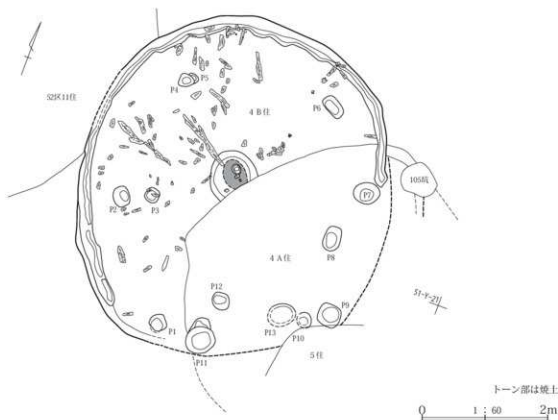
所 見：炉の配置、出土遺物から敷石住居跡の可能性も

ある。床面上に敷石はなく、出入口も南側斜面地形のため確認できなかった。出土土器の中では、「郷土式」の欠落が特徴である。おそらく時的な要因と思われる。時期は、中期後葉後半段階から中期末葉段階と考えておきたい。

4 B 号住居跡(第25・26・29・30図 PL. 3・4・66・67)

位 置：調査区北西壁に接する。4 A 号住の北側に重なり、52区に跨がる。51区Y-20・21、52区A-20・21グリッドに位置する。

経 過：4 A 号住と同様に1軒の住居跡として調査を着



第25図 51区4B号住居跡(1)

手したが、前述のように本住居跡の存在から、2軒の住居跡となった。焼失住居跡であり、夥しい炭化材の出土を調査した。

規模：南東側壁を4A号住居に切られるため、柱穴配置と壁周溝の様相から推定線を施した。約 5.4×4.9 mの卵形の平面形を呈する。壁は南東側を4A号住居との重複で逸するが北西～南西壁はしっかりした立ち上がりを示していた。深さは約43cmを測り良好な遺存度といえよう。

重複：4A号住居に切られる他、北西壁で52区11号住居と重なる。土層での新旧は把握できなかったが、52区11号住居が新しい。また、本住居跡北東から南西にかけて、2号列石遺構が横切る。4号住居調査着手前の列石遺構の検出であり、列石遺構の先行が理解できよう。土坑の重複では51区121坑が炉跡と重なる。この土坑も炉跡調査後に確認されたもので、諸磯b式土器が出土している。

床面：軟質ロームを地床とし、ほぼ平坦面を築く。また、焼土が床面上に数箇所確認されたが、焼失による影響であろう。

炭化材：埋土中より炭化物の出土が多く、床直上より炭化材が床面全域より出土している。焼失による所産である。建築材を示唆する放射状の出土ではなく、北西から

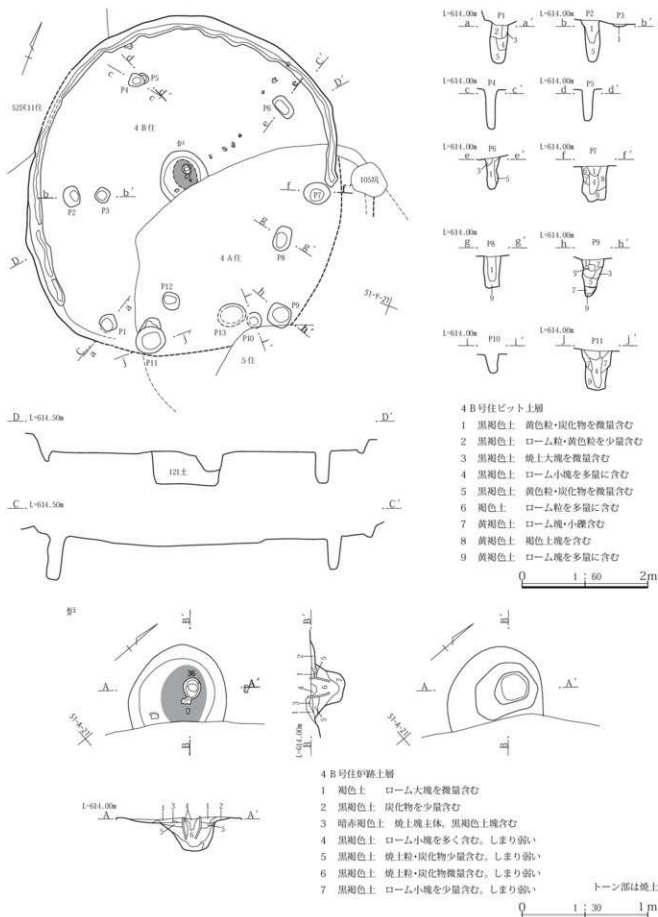
南東への平行状の出土である。炭化した建築材が同一方向に倒れたのであろうか。大型の炭化材は長さ約1m、幅約10cmを測る大きさである。

施設：炉、ピット13基、壁周溝を検出した。

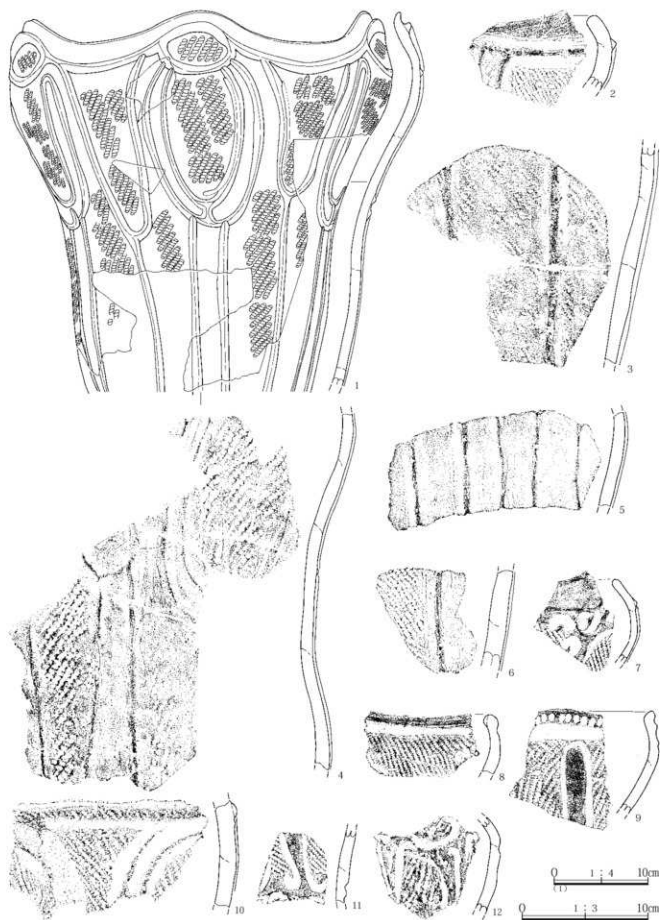
壁周溝：東壁～北壁～南西壁下に壁周溝が確認された。南東壁下は4A号住居との重複のため確認できなかったが、南西壁際はP1西で途切れる。おそらく南側には出入口が存在し、壁周溝を設けなかったであろう。

炉跡：床面ほぼ中央に地床炉を設ける。南東側を4A号住居に切られるが主軸を北西に向けた楕円状の掘り込みで、主軸長は約78cm、深さ約26cmを測る。上層に焼土が集中し、底面よりやや北寄りに炉内土器(36)を埋設していた。土器は小型深鉢体部で底部を欠く。

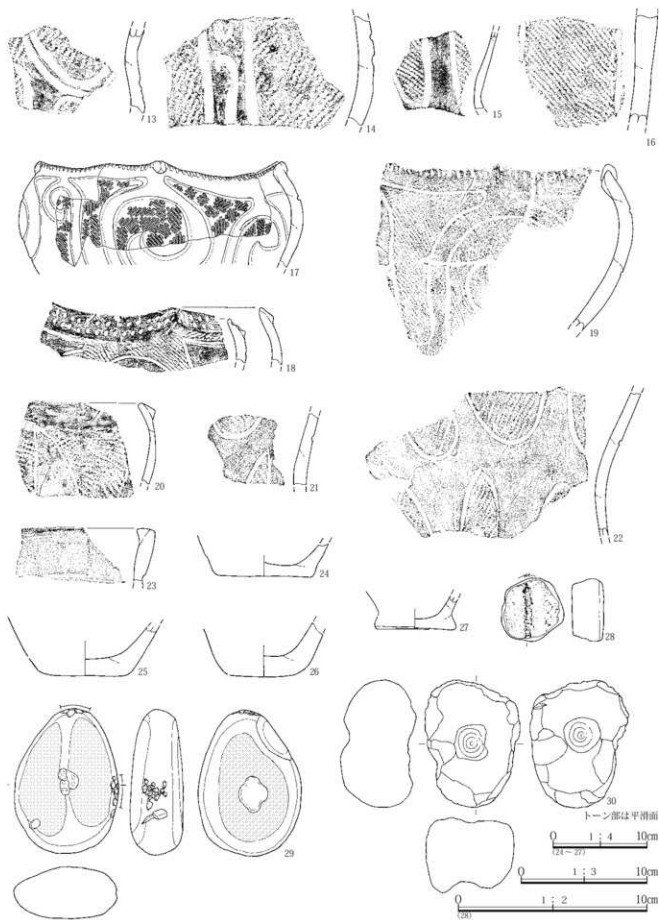
柱穴：床面で検出された13基のピットのうち、9基(6箇所)を配置・規模から主柱穴として位置付けた。P1・P2・P4～P7・P9～P11が相当し、(P1・P11)－P2－(P4・P5)－P6－P7－(P9・P10)を繋ぎ、六角形の柱穴配置が捉えられる。P8に関しては、柱痕も観察されており柱穴と思われるが、P7と(P9・P10)の間を補強する柱の存在が想定できる。また、(P1・P11)と(P9・P10)は出入口施設の柱穴配置と考えた。P12とP13も深さ、規模と



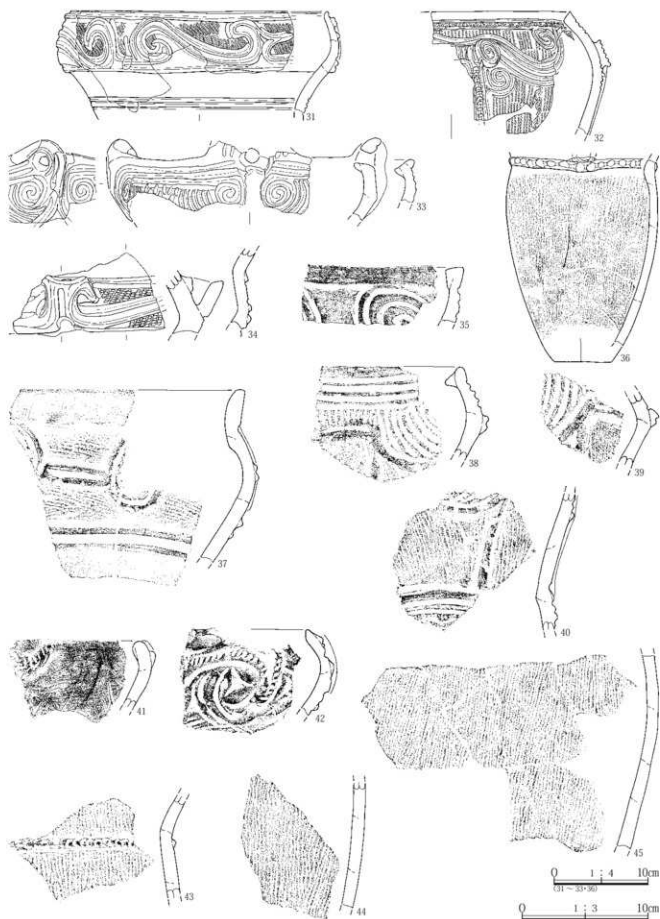
第26図 51区4B号住居跡(2)



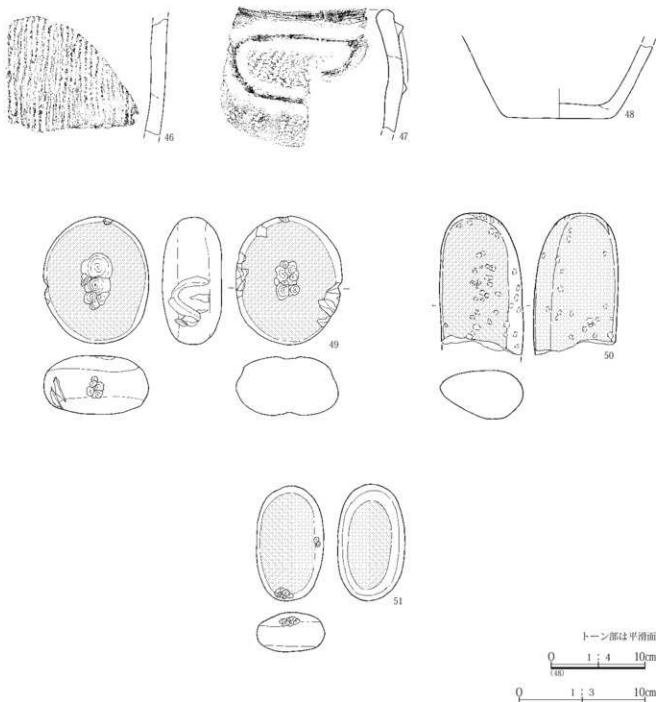
第27图 51区4A号住居跡出土物(1)



第28図 51区4A号住居跡出土遺物(2)



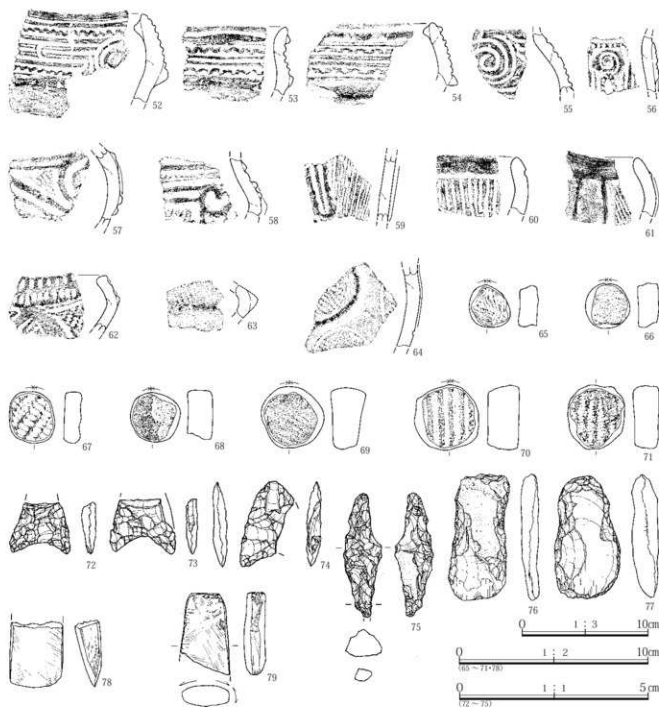
第29回 51区4B号住居跡出土物(1)



第30図 51区4B号住居跡出土遺物(2)

も良好で出入口部に設けられる柱穴と考えられよう。
 遺物：炉内土器は、加曾利EⅠ式新段階の例であろう。
 その他の遺物は埋土中からの出土が主で、4A号住と同様の様相を示す。おそらく埋土中への廃棄あるいは流入による所産である。EⅢ式(47)の混在が見られるが、多くの土器片がEⅠ式に比定され、短時間のうちに廃棄・流入が行われたと思われる。さらに焼失住居跡という属性を踏まえると、良好な一括性が窺える。中期中葉末に比定される勝坂3式終末期の例(37・41・42)を見るが、

これらも加曾利EⅠ式古段階～新段階に含まれよう。なお、34は大木8b式か、また33も異系統の様相を示す。
 所見：4A号住との重複状態で確認された住居跡であるが、平面形・規模・柱穴配置とも良好な様相を示す。同時に焼失住居跡であり、出土遺物の一括性はある程度保証されよう。時期は中期中葉前半段階の所産と考えた。



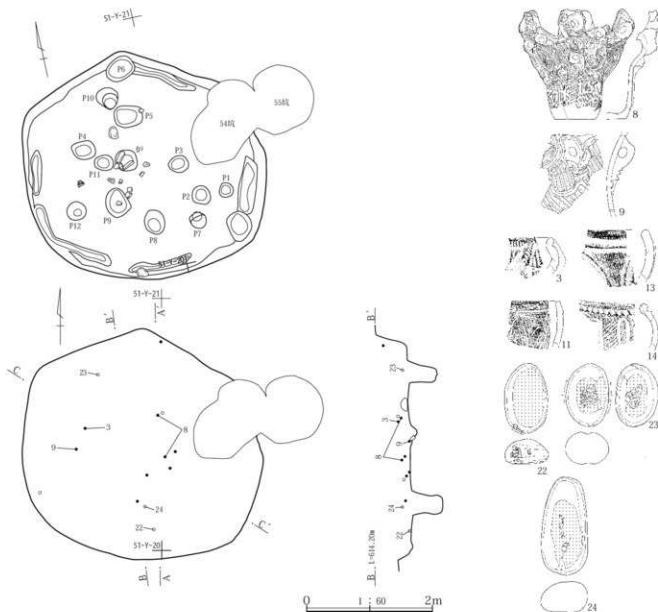
第31図 51区4号住居跡出土遺物

51区5号住居跡 (第32～35図 PL. 4・68)

位置：調査区北西部の遺構密集地点で確認された。4A号住の南に接する。51区X・Y-19・20グリッドに位置する。周辺は緩やかな南東斜面であり、平坦地形に近い。
経過：ローム漸移層上層で平面形を確認した。黒褐色土中の検出だったが、掘り込みも深いため、床面・平面形を良好に捉えることができた。ただ、遺構密集地点のため、重複する土坑との新旧は把握できなかった。
規模：主軸をほぼ北に向けた、やや歪な六角形の平面

形を示す。規模は約3.8×3.6mを測りやや小型の住居跡である。深さは30cmで良好な遺存度といえよう。

重複：北壁が4A号住南と重なるが、4A号住南壁は逸失しており、土層による新旧は捉えられてない。出土土器は4A号住が新しい様相を示している。その他に、土坑の重複が多く、54坑、92坑、107坑、119坑が床面や住居跡壁と重なるが新旧は明瞭ではない。特に119坑は4A号住との重複部にあり、住居跡調査を優先したため、後の調査となり、柱穴配置を捉える意味で障害となって



第32図 51区5号住居跡(1)

しまった。

床 面：漸移層下層～軟質ローム上層である暗褐色土～黄褐色土を地床としている。ほぼ平坦面を築き、炉跡周辺に僅かな硬化面を見る。

施 設：炉跡、壁周溝、ピットを床面上で確認している。

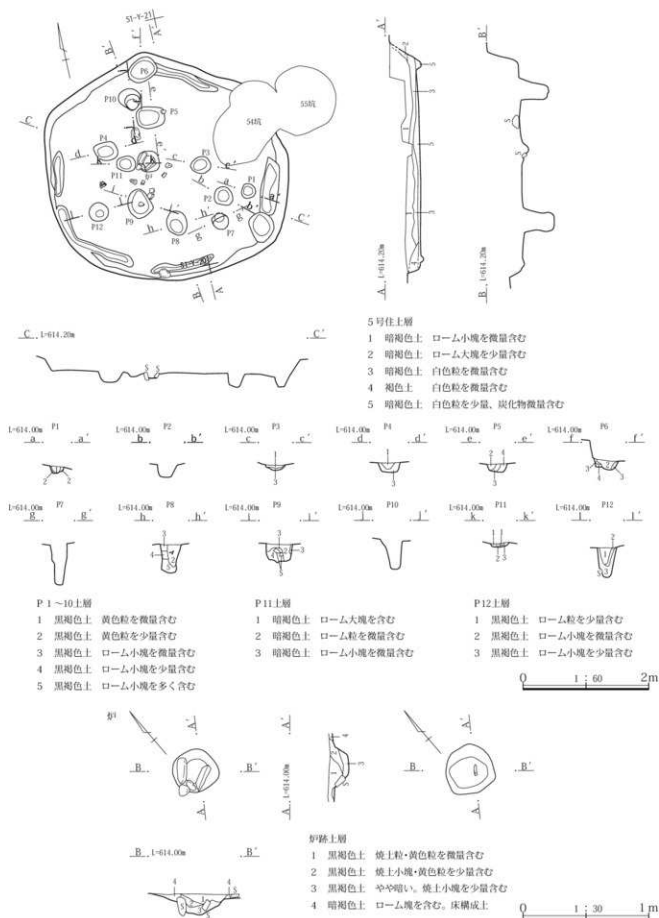
炉 跡：床面ほぼ中央に小型の石囲い炉を設ける。規模は軸長35cm前後の極めて小型で深さ10cm程の円形の掘り込みを有す。3石の自然石で囲われる平面図を示したが、北東側にも小型の自然石が置かれており、あるいは4石による石囲い炉の可能性もある。焼土は上層から散布しており、壁も焼土化していた。

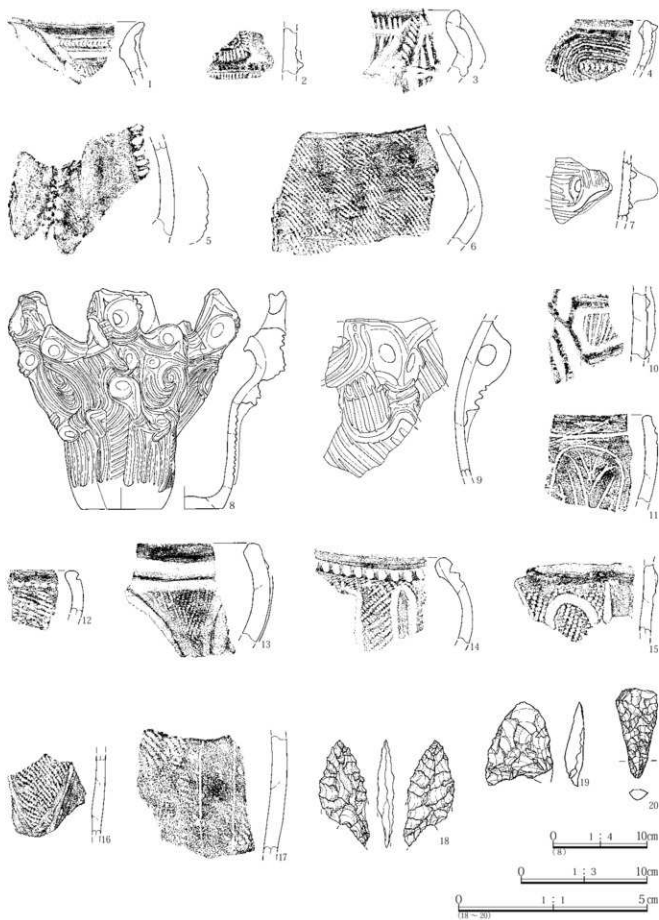
柱 穴：12基のピットを検出した。柱穴に相当する例は、配置・規模からP2・P6～P10・P12と考えられる。また、住

居跡平面形から、各隅に柱穴が設けられると考えられ、P6・P12・P8・P2が隅部に対応する柱穴と位置付けられよう。北西隅と北東隅の柱穴は土坑との重複のため、検出できなかった。

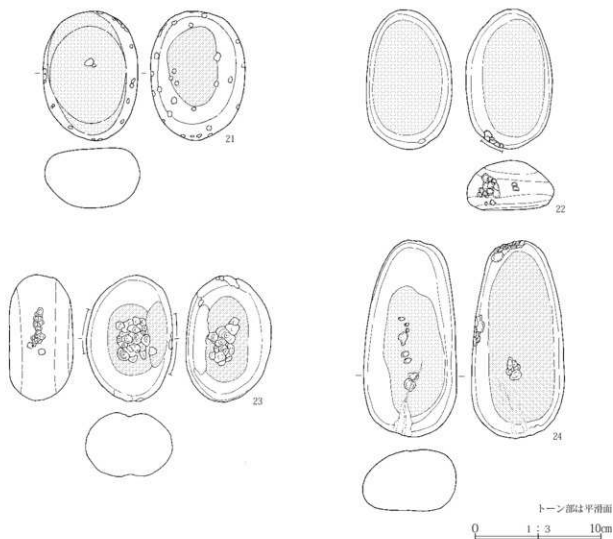
壁周溝：土坑との重複のため、平面図では途切れた表現になっているが、おそらく全周するのであろう。その中で、南壁周辺の断絶は、出入口部の存在を想起させる。

遺 物：良好な遺存度の割には出土遺物量が少なく、さらに時期も中期中葉の勝坂1式(1～3)や阿玉台Ⅱ式(4・5)、中葉末の「焼町類型」(7・8)、後葉の「郷土式」(10・11)、加曾利EⅢ式(12～15)、末葉のEⅣ式(16・17)と多時期にわたる。おそらく重複する4A号住や土坑の影響によるものと考えられる。この中で、個体図示し得





第34図 51区5号住居跡出土遺物(1)



第35図 51区5号住居跡出土遺物(2)

た「焼町類型」(8)と破片状態ながら9は埋土下層から床直の出土で、住居跡帰属時期に近い出土状態と判断した。

所見：小型ながら、六角形の平面形を呈す住居跡は、本遺跡でも例が無い。柱穴配置など検討要素は多いが、良好な住居跡平面形として位置付けられよう。時期は、個体として出土した「焼町類型」(8)を重複して、中期中葉末と考えておきたい。

51区6号住居跡(第36～38図 PL. 5・68・69)

位置：調査区北西部の遺構密集地点で検出された。51区V-W-19-20グリッドに位置する。周辺は緩やかな南東斜面で平坦地形に近い。

経過：重複する51区2号住や7号住などの検出作業と同時に調査された。検出面はローム漸移層下位の暗褐色土である。焼土がまとまり、地床がとして位置付け、断

絶的ながら壁周溝やピットもまとまり、出土遺物も集中することから、住居跡として調査した。ただし、壁は検出できず、図示した平面図は住居跡範囲を破線で表現することになった。

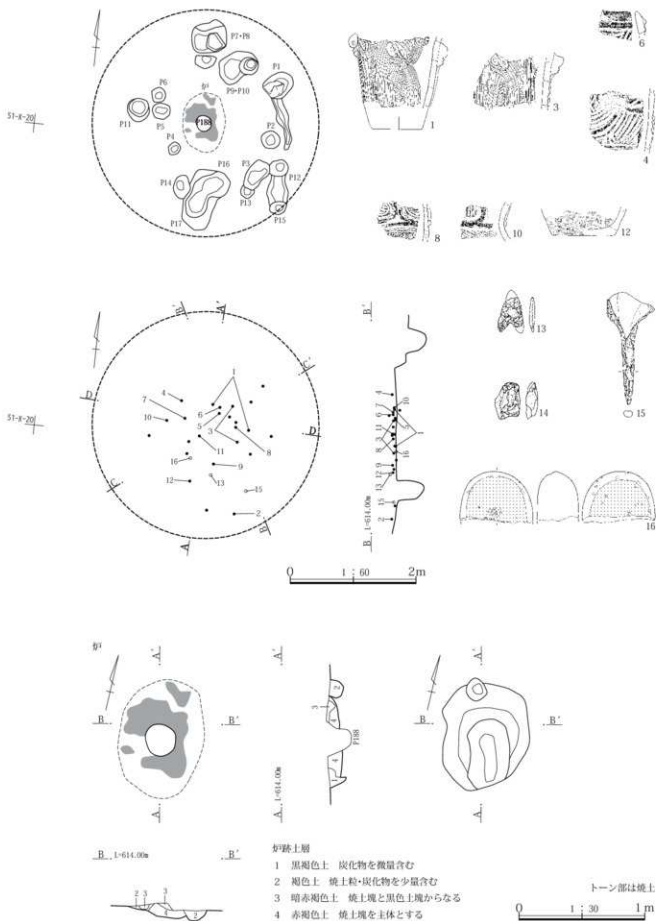
規模：約3.6mの円形の範囲を住居跡平面形と推定した。これはが跡を中心に東壁周溝の位置から推定した範囲である。

重複：北側を7号住、西側を2号住と重なる。土層による新旧は不明である。また、29坑、81坑、114坑、117坑、127坑など土坑・ピットとも多くの小遺構と重複しており、新旧や同時性の把握は困難だった。

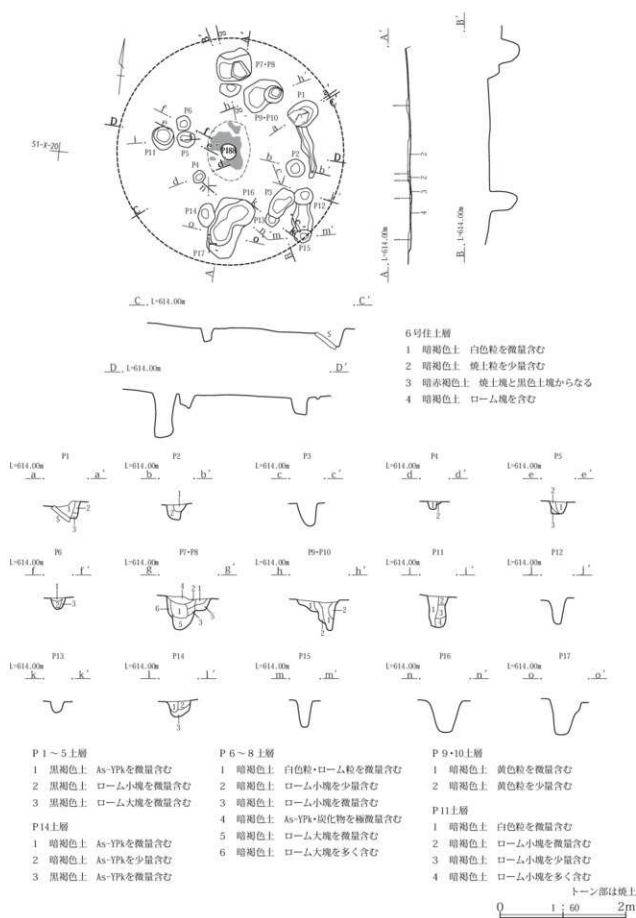
床面：ローム漸移層下位の暗褐色土を地床とする。軟質ローム面にも達する箇所もあるが、ほぼ平面面を築く。硬化面などは顕著ではなく、軟質な床面といえよう。

施設：が跡、壁周溝、ピットを床面上で確認した。

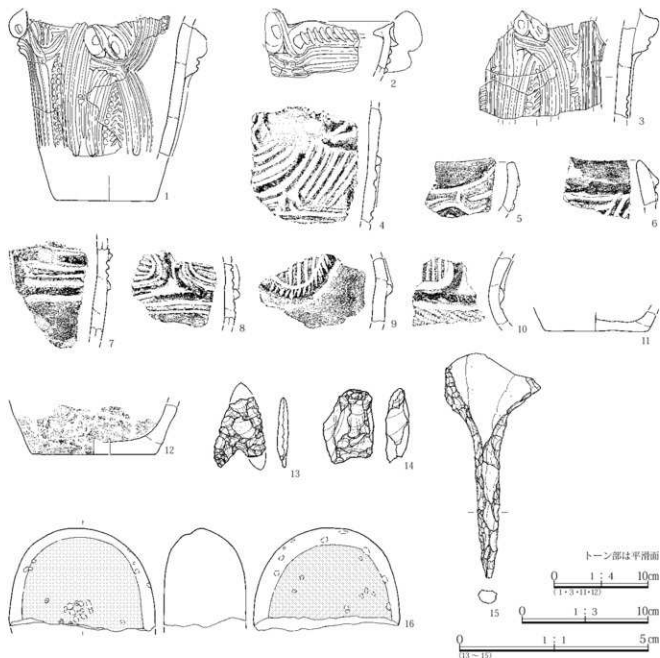
が跡：床面中央に地床がを位置付けた。平面規模は約



第36図 51区6号住居跡(1)



第37図 51区6号住居跡(2)



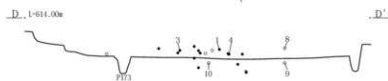
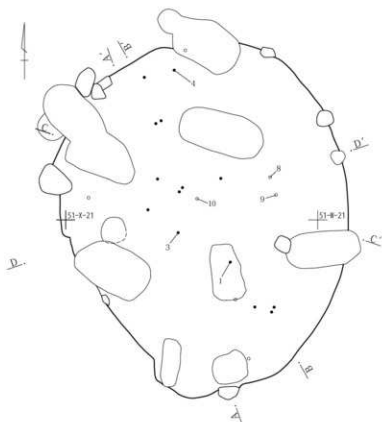
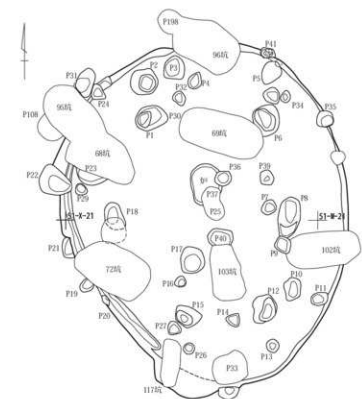
第38図 51区6号住居跡出土遺物

84×66cm、深さ約18cmを測る楕円状の掘り込みを持ち、上面に焼土塊がまとまる。主軸方位はN-3.5°-Eで北を向く。なお、中央に中世～近世に比定される小ピットが重なる。

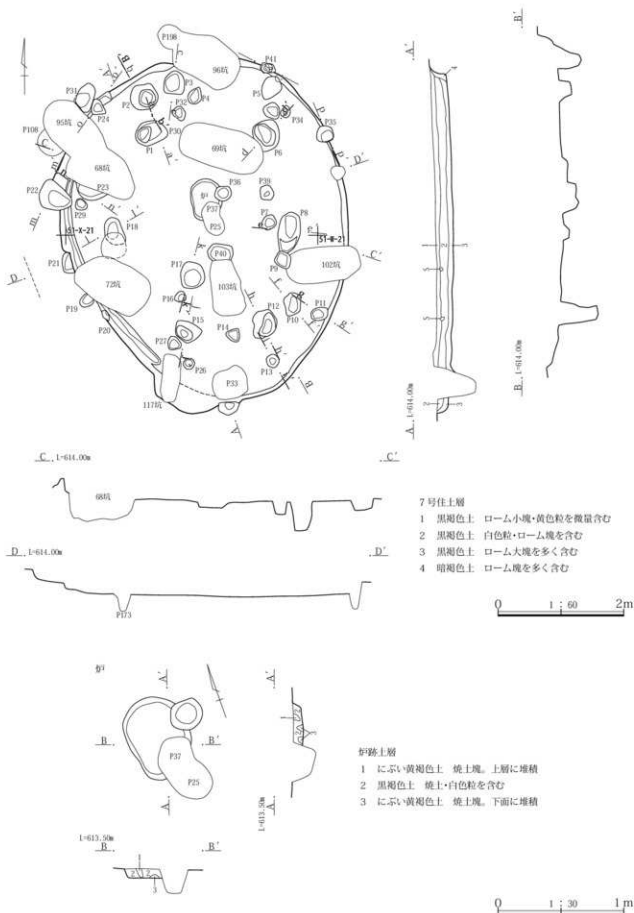
柱 穴：床面上で検出した17基のピットを本住居跡に帰属するピットとした。このうち規模から、P1～P3、P7・P8～P12、P14～P17が柱穴としての深さに相応する。配置としては、P7・P8を奥壁柱穴と位置付けると、P11、P14、P12、P1の5基を主柱穴として位置付けたい。また、P13、P15～P17は南壁周辺に集中しており、あるいは出入口施設に伴う柱穴として可能性を指摘したい。

遺 物：床面中央に土器片、石器が集中する。床直出土として位置付けられよう。出土土器は中期中葉末の「焼町類型」（1～4・7～9）、勝坂3式（6・10）、信州地域の井戸尻式（5）を見る。石器は石錐（13）、楔形石器（14）、石錐（15）、磨石（16）がある。

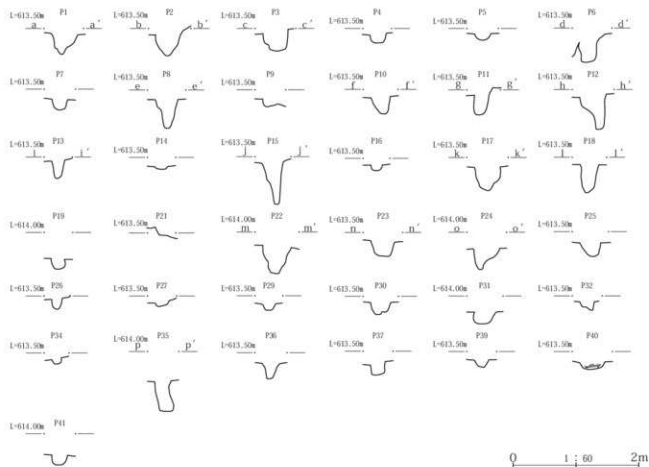
所 見：壁が検出されず、炉跡、壁周溝などから平面形を推定したように、遺存度は良くないため、出土土器の一括性などは保証できない。ただし、出土土器は中期中葉末にまとまるため、住居跡帰属時期をその段階に求めておきたい。



第39圖 51区7号住居跡(1)



第40図 51区7号住居跡(2)



第41図 51区7号住居跡(3)

51区7号住居跡(第39～42図 PL. 5・69)

位置：調査区北西部の遺構密集地点西側で調査された。51区V～X-20・21グリッドに位置する。周辺は緩やかな南東斜面地形で、平坦地形に近い。

経過：ローム漸移層下位で確認した。周辺は土坑群、ピット群の重複が著しく、平面形の確定に苦慮したが、床面が軟質ローム層にまで達していたため、壁が検出でき平面形の確定に至った。

規模：長軸を北北東に向ける楕円状の平面形を呈す。約5.4×4.5m、深さ38cmを測る。比較的遺存度の良好な住居跡である。

重複：北西側で3号住と南側で6号住と重なる。土層による新旧は確定できないが、出土土器からは6号住を切る重複関係である。3号住とは不明である。土坑・ピットとの重複が著しい。68坑、69坑、72坑、95坑、96坑、102坑、103坑、117坑が床面、壁と切り合う。新旧は確定できないが、おそらく土坑群が新しいものと考えている。

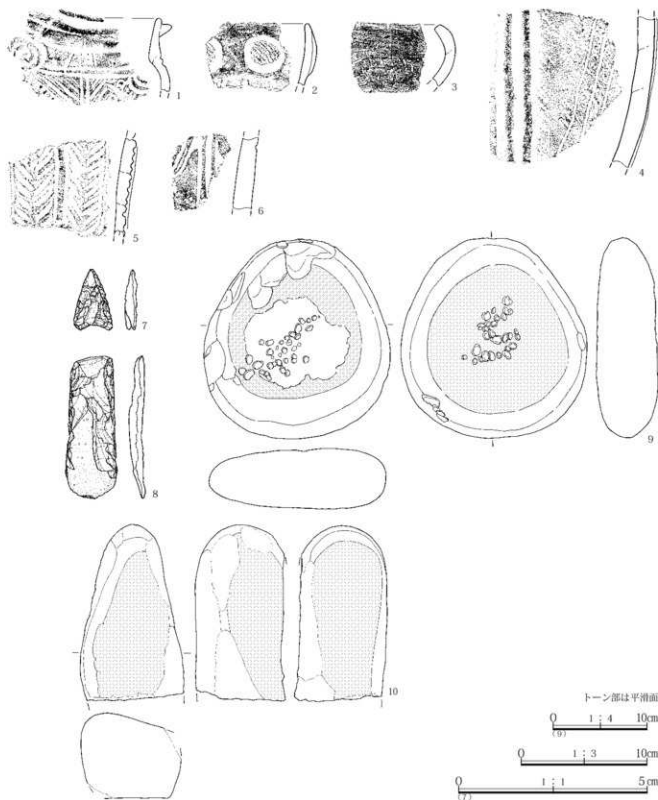
床面：軟質ローム上面の黄褐色土を地床とする。ほぼ

平坦面を築き、中央部分を中心に弱い硬化面を見る。

施設：炉跡、壁周溝、ピット41基を床面で検出している。炉跡：床面中央やや北寄りに設けられる。小型の地床炉で楕円状の掘り込みを有する。平面形規模は約65×50cm、深さ10cmを測る。少量の焼土塊が堆積していた。P25、P36、P37が重複するが炉跡を切る新旧と判断した。壁周溝：西壁際から南西壁際に見る。比較的しっかりと掘り込まれており、西壁中心に設けられたものと考えられる。

柱穴：41基のピットを検出したが、全てが住居跡に伴う例ではないだろう。例えば、P33は住居跡埋土を切る重複関係である。柱穴として良好な深さを呈すピットは、P1～P3、P6、P8、P10～P13、P15、P17、P18、P22～P24が相応する。このうち配置を見るとP1、P6、P8、P12、P15、P18が規則的な配置を見せており、支柱穴として位置付けられる。また、奥壁の柱穴としてはP1、P2が位置的に妥当性を帯びる。

出入口部：南壁に重複するP33と117坑の間に壁の乱れが生じている。調査による掘り過ぎではなく、出入口に



第42図 51区7号住居跡出土遺物

よる壁の凹みとして想定できる。また、主軸には乗らないがP10～P13も出入口施設を構成する柱穴の可能性はある。

遺物：良好な遺存度の割には出土遺物が少ない。10点を図示したが、個体としては資料化できなかった。1～

5は加曾利EⅡ式に併行する土器片で、1は「唐草文系土器」として位置付けられる。6は「焼町類型」であり混入である。石礫(7)はP32より出土している。台石(9)、磨石(10)は床面出土である。

所見：楕円状の平面形で、柱穴配置など良好な遺存度

を示す。時期は出土遺物量が少なく、確定的には判断できないが、中期後葉中頃と判断したい。

51区8号住居跡 (第43・44図 PL. 5・69・70)

位置：調査区東端で調査した。南端を調査区域外に接する。51区K・L-23グリッドに位置する。ほぼ平坦地形にある。

経過：軟質ローム上層で確認した。本住居跡周辺及び南東側に広く遺構平面形が確認され、住居跡として調査にあたった。その結果、遺構平面形上層において石囲い跡が検出され、同時に埋設土器も同レベルで確認された。そのため、遺構平面形上層において住居跡1軒を確定することになり、8号住居跡として調査を進めた。なお遺構平面形の広がりには9号住と10号住になり、8号住調査後に着手した。

規模：石囲い跡と埋設土器のみの検出のため、平面形の確定には至らなかった。遺物の広がりや僅かな床面の痕跡で、概ね4.8×4.5m程の円形を基調とした範囲を平面形として推定した。

重複：東側に9号住、床面下に10号住と重複する。層位的に本住居跡が最も新しい位置にある。土坑では北西部で149坑と重なる。新旧は不明である。

床面：跡検出面を使用面と考えた。これは10号住埋土上層を地床とすることになり、柱穴・壁周溝などの遺構色調差が顕著ではなく、柱穴などの確認が果たせなかった。床面は、平坦面を基調とするが、硬化面も顕著では無く、確定性に乏しい。

施設：跡と埋設土器を検出した。

跡：石囲い跡が設けられる。北辺にやや扁平な亜角礫、西辺と東辺には板石が据えられていた。西辺は板石が二重に設けられている。南辺は板石片や角礫が散乱しており、抜き取られた痕跡とも捉えられた。規模は60×56cmで、不整形の掘り込みを持ち、深さは約32cmを測る。

柱穴：10号住埋土を床面とするため、色調差が顕著ではなく、柱穴は検出できなかった。

埋設土器：跡東南東約1mに、体部下半より底部を欠損した逆位埋設土器(5)を見る。長軸を北に向ける楕円状の掘り込みを持つ。掘り込みの平面規模は68×52cm、深さは32cmを測る。跡の長軸線延長上には乗らず、出

入口埋土とは性格を異にする。また、掘り込みを有することから、床面上に置かれる伏襲とも大きな差が見られる。

遺物：跡検出面を床面とし、遺物の広がり度で出土遺物を確定している。14点を図示した。加曾利EⅢ式(1～6)、「郷土式」(7～10)、石錐(11)、打製石斧(12)、磨製石斧(13)、石製品(14)である。住居跡自体が示す一括性は低いが、出土土器はほぼ同時期と判断できる。所見：10号住埋土上層で調査された住居跡である。逆位埋設土器を附帯し、特殊な在り方を示す。出入口埋土や床面倒置土器(伏襲)とは異なった性格と思われる。

壁も把握できず、遺物の一括性に乏しいが、時期は、概ね中期後葉新段階に相当しよう。なお土器、石器以外にも扁平な板石片が複数出土している。敷かれた状況ではなく、敷石住居跡としては位置付けられなかった。

51区9号住居跡 (第45・46図 PL. 5・70)

位置：調査区東端で調査した。北端を除き、殆どを10号住埋土上層に乗る。51区J・K-23・24グリッドに位置する。周辺はほぼ平坦地形にある。

経過：前述の8号住と同様に、軟質ローム層上層を確認面とし、10号住埋土上層で9号住居跡として調査した経緯を持つ。

規模：小型の住居跡である。軸長としては不明だが、径約2.5m前後の不整形円形を平面形として推定した。

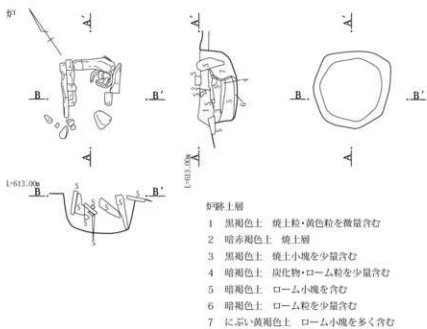
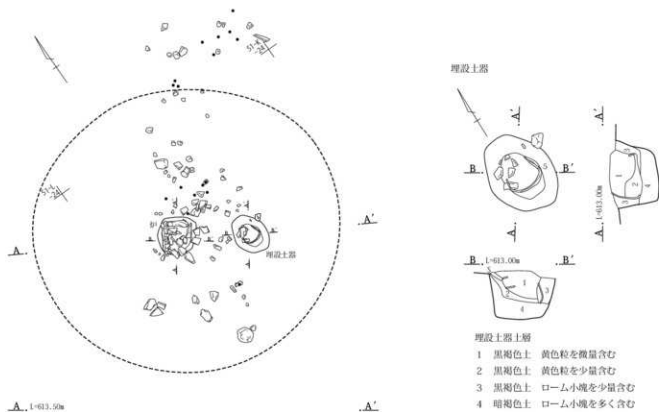
重複：8号住と10号住に重なる。8号住との新旧は不確定である。

床面：北側は軟質ローム上層の黄褐色土を地床とする。南側の大半は北側で把握した床面を延長したが、10号住埋土を地床とするため、良好には検出できなかった。緩やかな血状の断面形を呈す床面である。

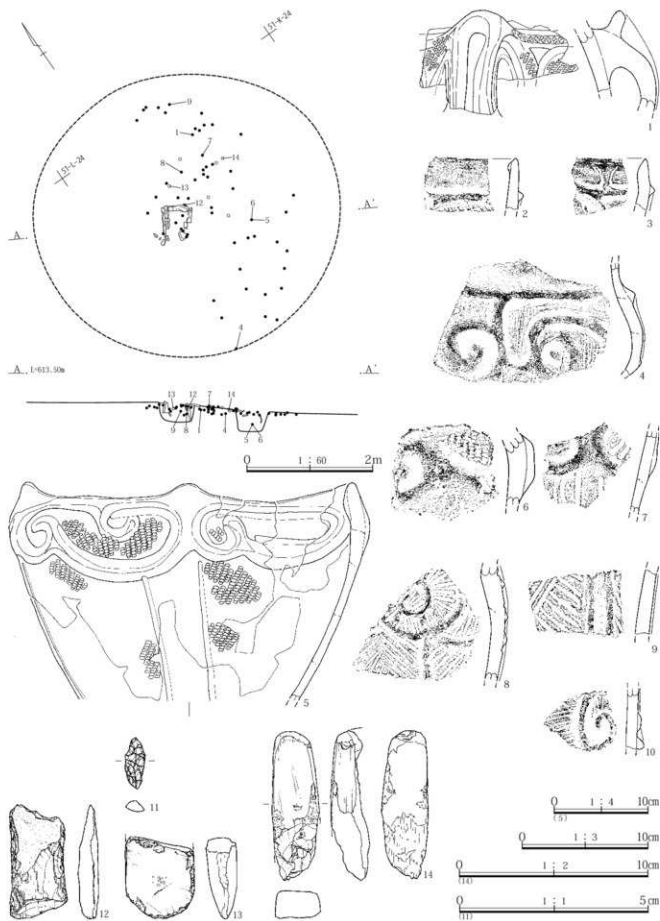
施設：床面上に跡、柱穴など掘り込みを有する施設は見出せなかった。

遺物：土器片、石器はある程度の層厚をもって、埋土中より出土した。平面的にも住居跡全域から出土している。土器片の多くが、加曾利EⅢ式古段階の所産と考えた。主体は「郷土式」(4～15)で、加曾利EⅢ式(1～3)は少ない。5～9の「郷土式」は同一個体と考えた。10～15もあるいは同一個体の可能性がある。

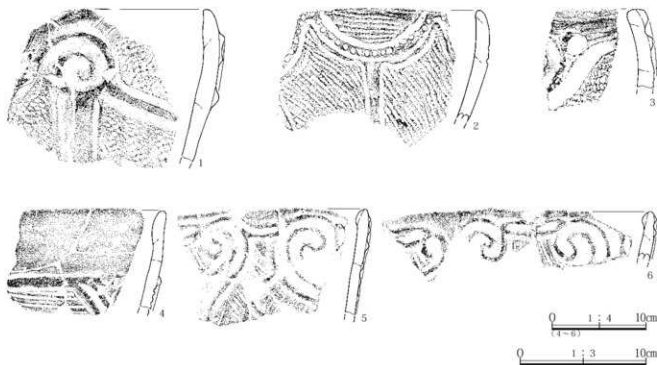
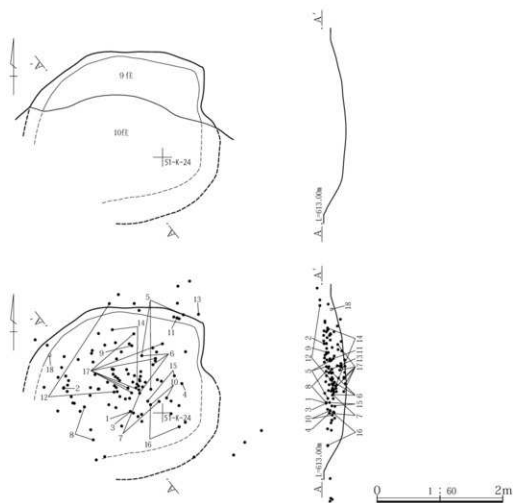
所見：ここでは、住居跡として報告したが、跡・柱



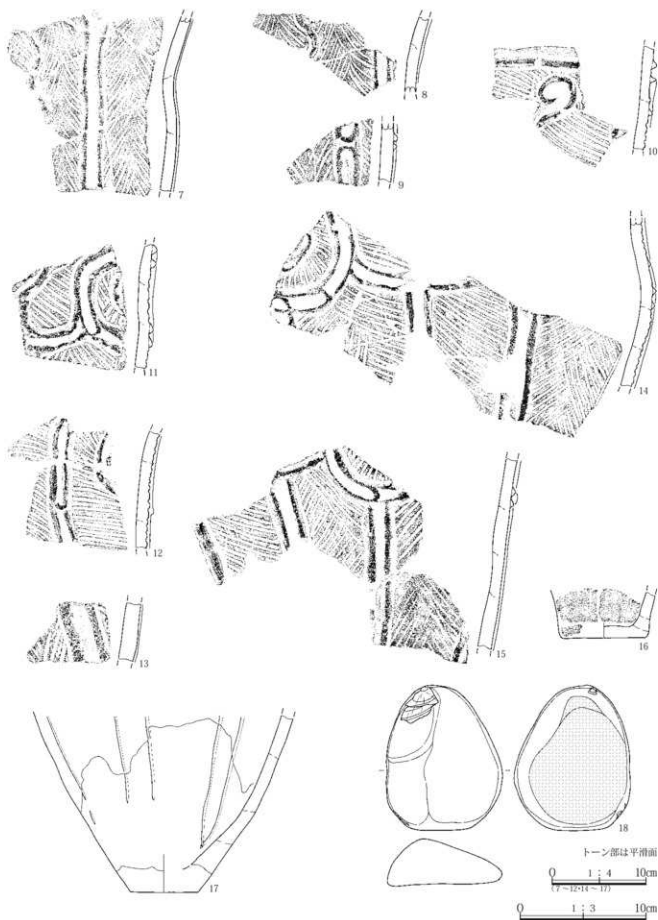
第43図 51区8号住居跡(1)



第44図 51区8号住居跡(2)・8号住居跡出土遺物



第45図 51区9号住居跡・9号住居跡出土遺物(1)



第46図 51区9号住居跡出土遺物(2)

第3章 発見された遺構と遺物

穴も検出されておらず、竪穴状遺構としての位置付けが妥当と思われる。出土遺物は同時性が窺われ、時期も加曽利EⅢ式古段階を中心とした中期後葉後半段階に充てたい。

51区10号住居跡 (第47～51図 PL. 6・71・72)

位置：調査区東端の51区J・K-22・23に位置する。北半のみの検出で、南半を調査区域外に延ばす。周辺はほぼ平坦地形となる。

経過：8号住、9号住の調査終了後着手した。確認面は軟質ローム上層で、床面、壁はローム層で占められていたため、比較的容易に平面形、床面の検出が果たされた。

規模：平面形は円形と思われ、東西軸長約6.5mを測る比較的大型の住居跡である。深さは約35cmで良好な遺存度といえよう。

重複：8号住、9号住が乗ることから、本住居跡が先行する様相を示している。

床面：軟質ローム層下位～硬質ローム上層を地床とする。ほぼ平坦面が築かれ、中央部分にかけてやや盛り上がる傾向を見せる。硬化面は炉跡周辺及び東側にかけて顕著に見られた。

施設：炉跡、壁周溝、ピット7基を床面上で検出した。炉跡：床面中央やや北西寄りに石囲いが設けられる。不整形の掘り込みを持ち、断面形は有段を示す。石囲いの平面規模は、80×55cmで比較的大型の例であろう。

西辺から北辺にかけて、大型の垂円礫を中核にした石囲いが据えられていたが、東辺から南辺には見られなかった。抜き取り痕も顕著では無く、西辺のみの石囲いとも捉えられる。焼土は上層から底面にかけて堆積していた。

壁周溝：北壁の3箇所断絶が見られるが、その他は全周する様相を示す。特に奥壁に相当するP3・P4周辺の断絶は、奥壁施設の存在も想定できよう。

柱穴：ピット7基を確認したが、柱穴に相当する深さを示す例はP1～P5があげられる。奥壁柱穴としてP3が位置付けられ、P1、P2、P5が配置から柱

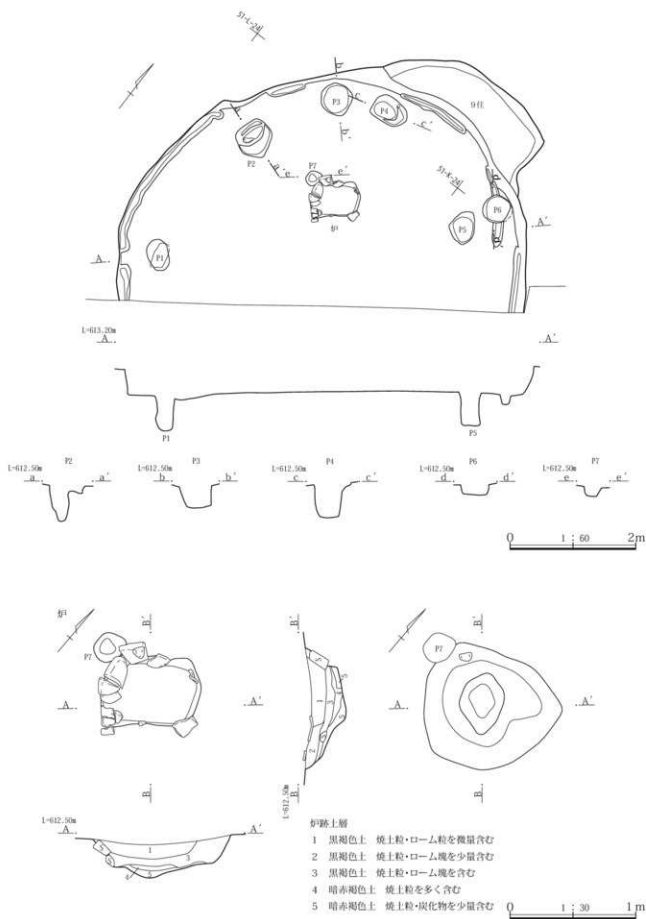
穴と捉えられる。P4は先に述べたが、P3とともに奥壁施設の一部を構成するピットと考えた。

遺物：出土遺物量は多い。33点を図示した。埋土上層より出土が見られ、下層で量的にまとまる出土傾向があった。平面的には東側へ偏る分布状況を見せ、上層から埋土下位あるいは床直上への流入・廃棄を想起させる出土状況である。おそらく時間幅の短い廃棄と考えられよう。1の「郷土式」および4の「坪井類型」は床面よりやや浮いた状態で出土した。「郷土式」などの信州系がやや量的に多く1～15までまとめた。関東系の加曽利EⅡ式を16～18に並べたが、18の体部は「郷土式」の一部の文様要素を受容しており、本住居跡出土土器は信州系に傾斜した様相といえよう。石器は、石鎌(23～25)、打製石斧(27～30)、凹石(31)、敲石(32)、多孔石(33)を見る。黒曜石の原石(26)も図示した。素材としての搬入だろうか。

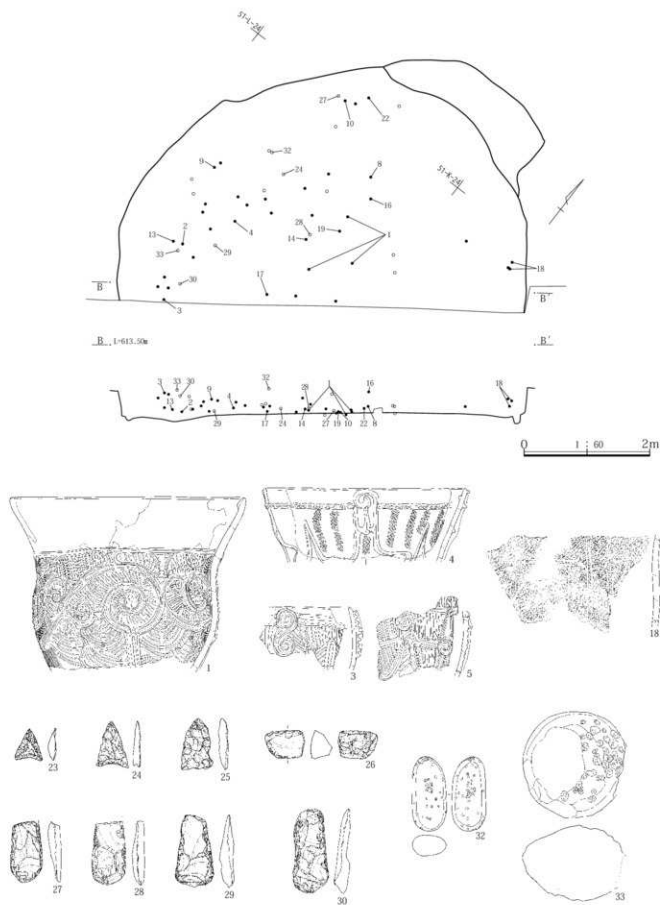
所見：北半分のみの調査となったが、遺存度も良く、良好な柱穴配置及び出土遺物の様相が把握できた。円形的大型住居跡で、炉が奥壁側へ偏り、五角形ないしは六角形の柱穴配置が想定できる。加えて奥壁の2基の柱穴配置は奥壁儀礼空間も可能性を示唆する。また、出土遺物も、住居跡遺存度から良好な同時性に富む資料と評価されよう。さらに、信州系の土器に偏る傾向があり、伴出する加曽利EⅡ式土器との関連も興味深い。時期は、床直上出土である1や4の様相から中期後葉中頃の所産と捉えた。



遺物出土状態



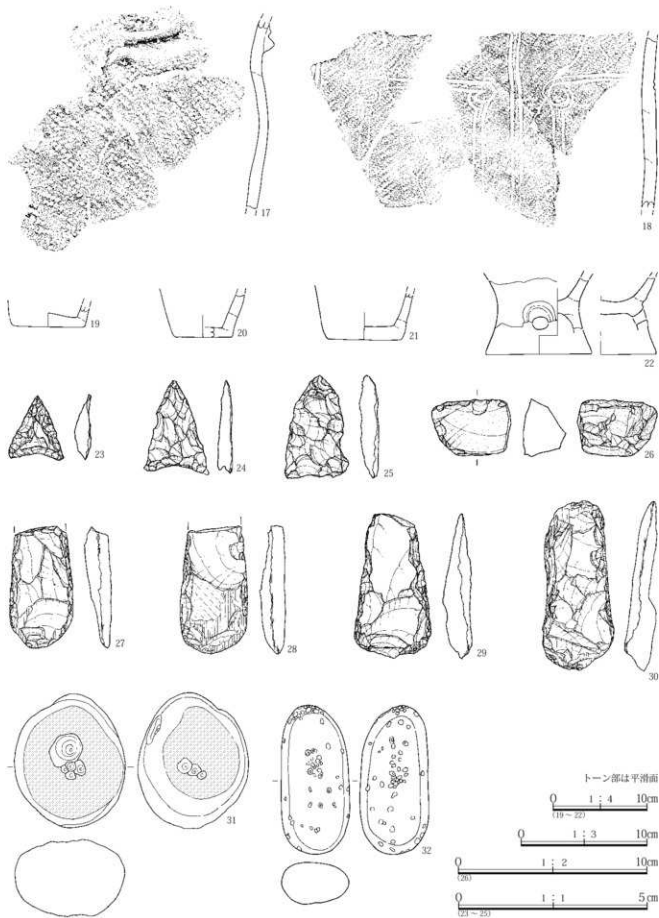
第47図 51区10号住居跡(1)



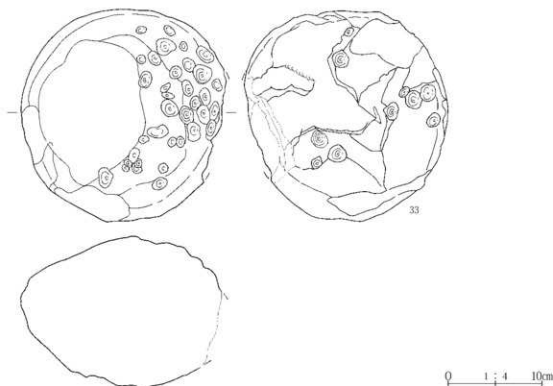
第48図 51区10号住居跡(2)



第49圖 51区10号住居跡出土遺物(1)



第50図 51区10号住居跡出土遺物(2)



第51図 51区10号住居跡出土遺物(3)

51区11・14号住居跡(第52～61図 PL. 6・72～76)

位置：調査区北東部の61区境に接して調査された。北側には61区の遺構密集地点がある。51区N・0-24・25グリッドに位置する。周辺は緩やかな南東斜面だが、ほぼ平坦地形に占地する。

経過：ローム漸移層下位で確認した。2軒の住居跡を同時に調査する結果となった。調査着手時は14号住平面形を確定していたが、下層に至り11号住の検出に至った。11号住は焼失住居であり、床面上に炭化材の出土を見た。発掘調査の土層記録では14号住→11号住という縮小住居跡である。

規模：11号住は主軸を北に向けた、五角形の平面形を呈し規模は約4.4×4.2mを測るやや小型の住居跡である。深さは53cmと深く、良好な遺存度である。

14号住も主軸を北に向け、やや乱れた隅丸方形を呈し、平面規模は約6.16×5.47m、深さは約48cmを測る大型の住居跡である。

11号住、14号住とも南壁が僅かに突出する形態を見せ、この部分を出入口部として位置付けた。

重複：2軒は等質に重なりあい、同一居住者による建て替えに伴う重複様相と把握できた。その他に中世～近世に比定される48号坑が床面上で重複し、中期と思われる

193坑、61区53坑が西壁から北壁にかけて重なる。また北東には1号配石遺構が接する。

床面：11号住、14号住とも軟質ロームである黄褐色土を地床とする。ほぼ平坦面を築き、11号住は全面に硬化面が観察された。11号住と14号住床面の段差は4～7cm程度である。

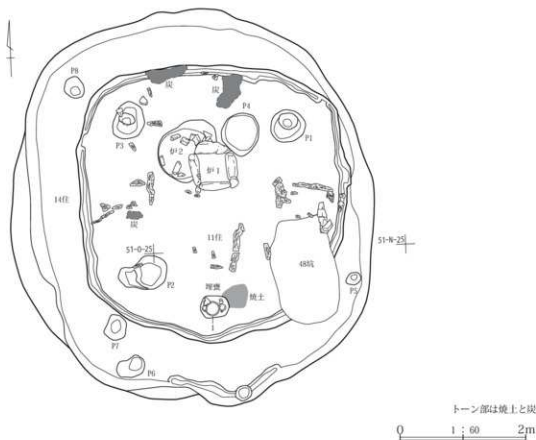
炭化材は11号住床面のみで出土している。材の方向は東西と南北方向に分かれ、良好な例は80cm近く、建築材が炭化したものであろう。

施設：炉跡2基、出入口埋塞1基、ビット8基、壁周溝を床面上で検出した。

炉跡：2基とも住居跡床面中央やや北寄りに設けられる。重複状態で検出され、石囲いの炉1が炉2の上に乗ることから、炉1を新しく捉えた。

炉1は、四辺を自然石で囲まれる。平面規模は78×77cmで深さは34cmを測る。不整形の掘り込みを持つ。南西隅と南東隅にも自然礫が置かれ、特に南東隅の石は立石状に設けられていた。が石及び南東隅の石には被熱による黒変が観察された。

炉2は、炉1北西に重複状態で検出された。不整形円状の深い掘り込みを有す地床炉で、平面規模は104×94cm、深さは54cmを測る。炉としてはやや深く、土坑状の



第52図 51区11・14号住居跡(1)

掘り込みである。底面からは、破砕礫が数点出土しており、このことから、炉2→炉1への移動に伴い、炉2に設置されていた炉石を炉1へ移動した可能性も想起される。

壁周溝：11号住は、北東隅と北西隅で短く断絶するがほぼ全周する。特筆すべきは出入口部に相当する南側壁も壁周溝を設ける例である。14号住も南側の一部にのみ壁周溝を設ける。

柱 穴：11号住床面上に4基、14号住床面上に4基のピットを確認した。このうちP4は配置上、P6は規模から柱穴としては相応しくなく、P1～P3を11号住柱穴、P5・P7・P8を14号住柱穴として位置付けた。11号住南東隅の柱穴は48坑によって逸失し、14号住北東隅の柱穴は検出されなかったと考えた。いずれも4本柱穴と捉えられよう。

埋 裏：11号住南壁際に出入口埋裏(1)が設けられる。体部下半を意図的に欠いた深鉢を逆位に埋設し、上部に板石や凹石(73)を置く。径約45×39cmの円形で断面袋状の掘り込みを持ち、深さは約43cmと深い。底面に埋裏に供された深鉢底部が出土しており、埋設行為直前に、

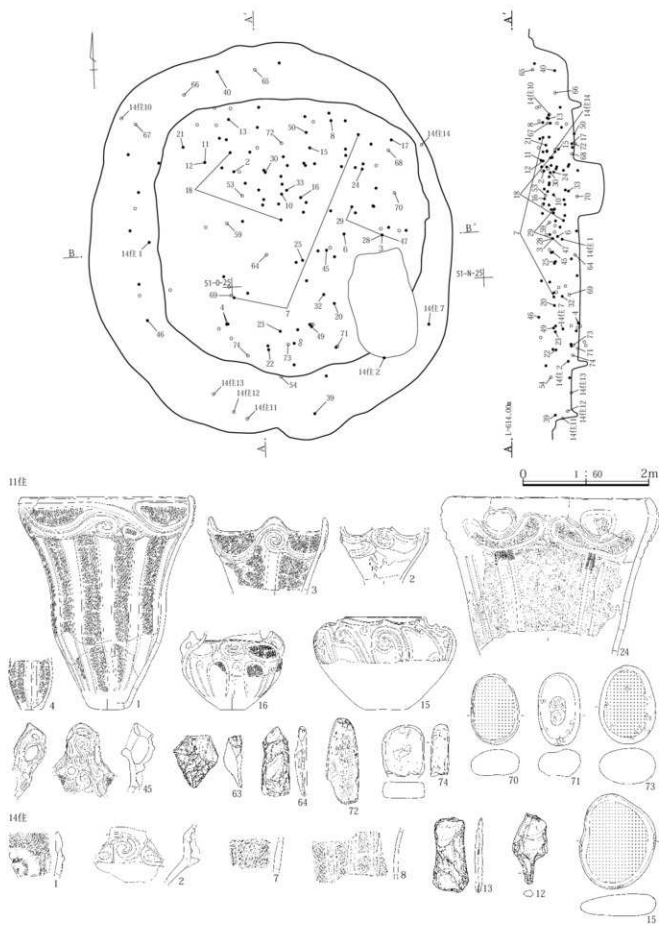
深鉢体部下半が破砕され、同時に埋置されたものと捉えられた。

遺 物：11号住範囲で74点、14号住範囲で15点を図示した。埋土中より床面まで多量の遺物が出土している。

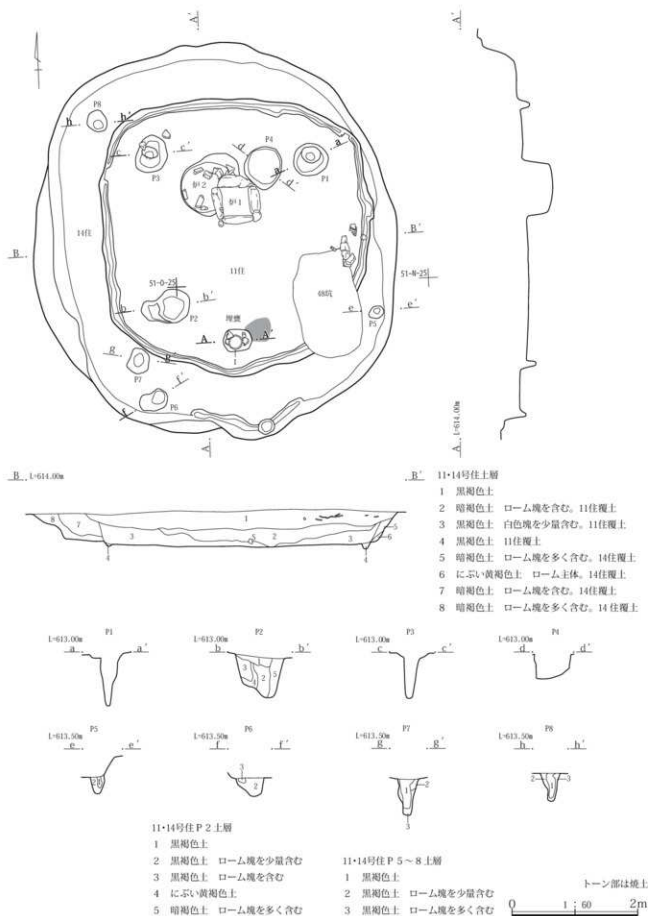
特に11号住埋土中の出土が多く、一括廃棄(流入)の様相を示している。出入口埋裏(1)をはじめ、加曾利EⅢ式土器の卓越した出土が目立つ。1、3～38が挙げられ、磨消懸垂文や箆手状懸垂文を配す深鉢(3～28)や体部に渦巻文を配す無頸壺(15～18)などが目立つ。密接条線を施す一群(24～32)も量的にまとまる。26は「埋井類型」の変形形であろうか。

一方の「郷土式」としては、2、34～43が上げられるが、2以外は破片資料である。また、客体的ではあるが、「屋代類型」の口縁部突起(45)が出土している。その他では、加曾利EⅣ式(46・47)、堀之内2式(48・49)が出土しているが混入である。埋土上層の出土である。

石器は、石鏃が7点(51～57)を挙げたように量がまとまる。56・57は未製品である。石錐(58・59)、楔形石器(61)、削器(63)、打製石斧(64～68)、敲石(69)、磨石(70)、凹石(71・73)、乳棒状磨製石斧(72)、軽石

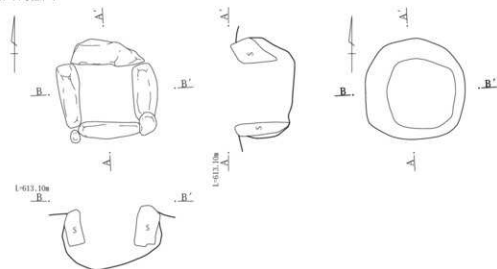


第53圖 51区11・14号住居跡(2)

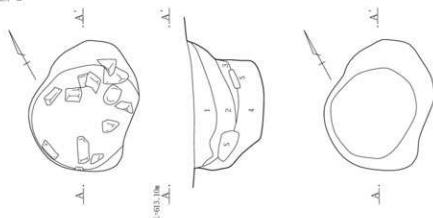


第54図 51区11・14号住居跡(3)

11・14号住炉1



11・14号住炉2



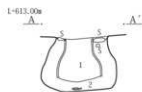
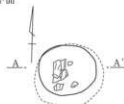
11・14号住炉跡2上層

- 1 黒褐色土 黒色土粒と炭化物を少量含む。As-YPkを多量に含む
- 2 暗褐色土 炭土粒を微量含む。As-YPkを多量に含む
- 3 黒褐色土 ローム塊を含む
- 4 にぶい黄褐色土 ローム塊を主体とする

埋裏



埋裏下面

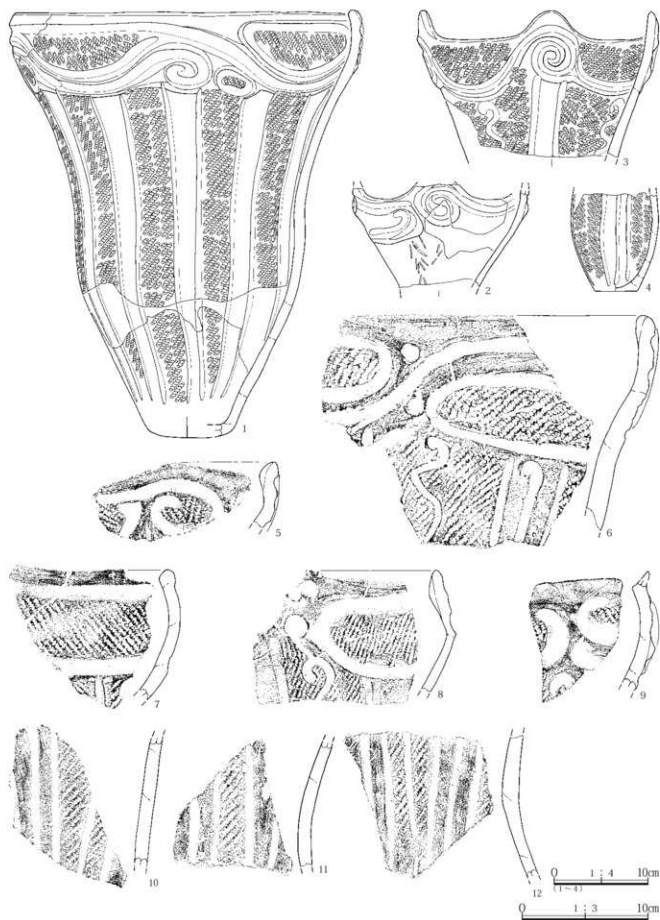


11・14号住埋裏上層

- 1 黒褐色土 As-YPkや多く含む
- 2 にぶい黄褐色土 ローム主体



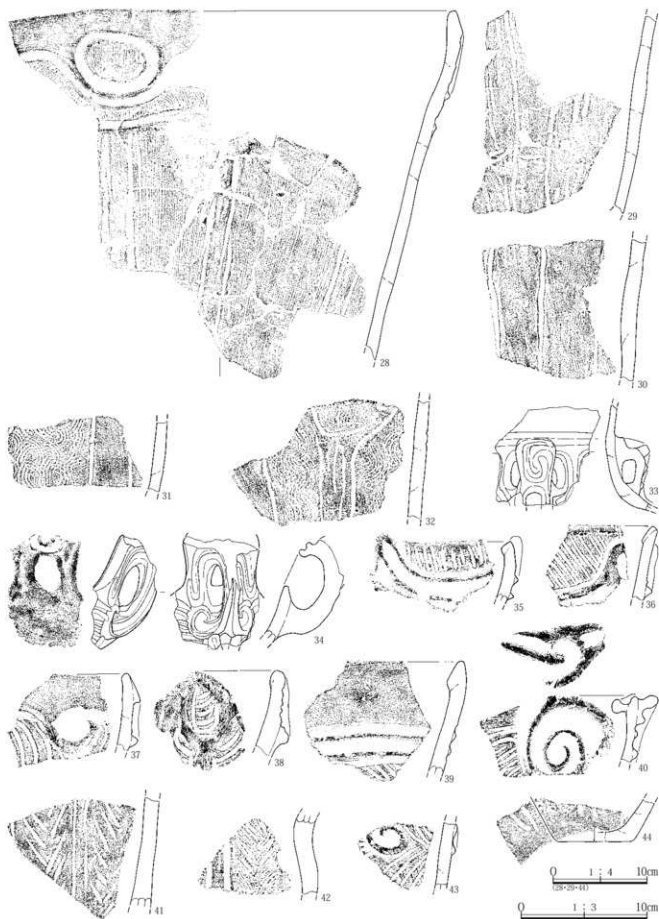
第55図 51区11・14号住居跡(4)



第56図 51区11号住居跡出土遺物(1)



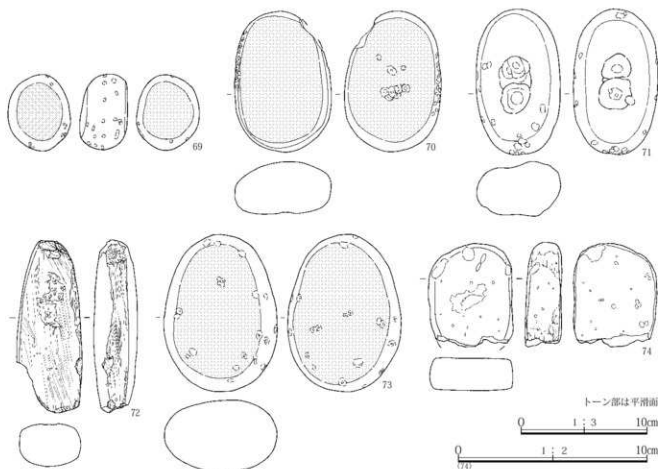
第57回 51区11号住居跡出土遺物(2)



第58図 51区11号住居跡出土遺物(3)



第59図 51区11号住居跡出土遺物(4)



第60図 51区11号住居跡出土遺物(5)

製品(74)を図示した。

14号住出土土器は、9点を図示した。いずれも破片資料である。11号住出土土器と时期的に差は無いと捉えた。石器は6点を見た。石鎌(10)、石錐(11・12)、打製石斧(13・14)、台石(15)である。

所見：規模が縮小された住居跡として位置付けたい。この場合、石囲い等の位置が14号住より11号住に妥当性があること、さらに出入口埋喪が11号住で検出されたことなどが理由となる。反面、広く床面を設けた14号住を埋め戻して新たに11号住を設営する行為は不合理であり、なぜ別の場所に11号住を作らなかったのか疑問が残る。編者の解釈としては、14号住廃棄後11号住を内縁に設営した後に14号住との隙間を埋め戻せば、本住居跡のような重複形態になるのではと考えた。炭化材の在り方、加曽利EⅢ式に偏る出土土器様相など、検討を要する課題が多い住居跡である。

時期は出土土器から11号住、14号住ともに中期後葉後半段階と位置付けた。

51区12号住居跡(第62図 PL. 7・76)

位置：51区V・W-21・22グリッドに位置する。調査区北西部の遺構密集地点西端で調査された。南西に7号住が近接する。周辺は緩やかな南東斜面地形で、平坦地形に近い。

経過：遺構密集地点の調査中に壁周溝のみで検出した住居跡である。軟質ロームを確認面としている。周辺は土坑、ピットが群生しており、そのため壁のみならず、炉跡、柱など主要な施設は検出できなかった。

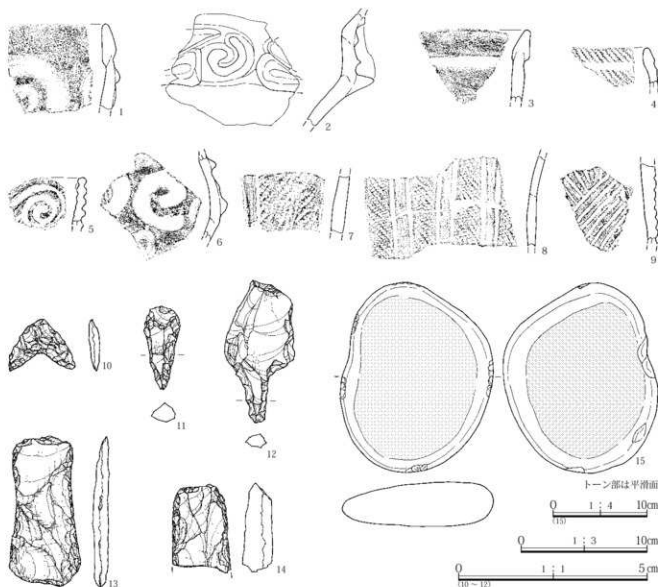
規模：平面形は径約2.3mの不整形円形を呈す。

重複：66坑、67坑、197号ピットが重複し、床面を大きく壊す。新旧は不明である。

床面：軟質ロームを地床とする。硬化面は把握できなかった。

施設：壁周溝のみの検出である。

壁周溝：全周する形態か。南側と北側の一部が土坑重複のため確認できなかった。北西部にある228号ピットと249号ピットを繋ぐ形態でも溝を検出したが、これを住居跡壁周溝とすると歪な平面形となる。



第61図 51区14号住居跡出土遺物

遺物：出土量は極めて少ない。楔形石器(1)、燧石(2)を図示したのみで、出土土器は時期不明の細片を見るのみである。

所見：小型住居跡であるが、枡跡、柱穴などが土坑で逸失されているため、全容は判然としない。規模からは竪穴状遺構の可能性もある。時期は不明であるが中期の可能性はある。

51区13号住居跡 (第63～67図 PL. 7・76・77)

位置：調査区中央で調査した。51区P-Q-20～22グリッドに位置する。周辺は南への緩斜面ながら、顕著な傾斜地形を呈す。

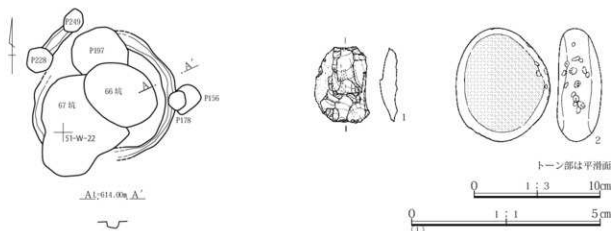
経過：敷石住居跡である。斜面地形のため黒色土の堆積が厚く、黒褐色土中での確認・検出となった。確認作

業の際、遺物と伴に敷石部と炉石が検出されたため、住居跡として確定した。

規模：主軸を北北西に向ける。主軸長6.3m、短軸長が4.1mを測る。深さは約17cmで遺存度は悪い。特に南側は斜面地形のため、多くが逸失しており壁の検出は果たせなかった。平面形は住居部分がやや崩れた六角形を呈し、南側は張出部を附帯する。いわゆる柄鏡形敷石住居跡であるが、張出部には敷石やピットが無く、規模や形態は推定である。

重複：住居相互の重複は無く、南西に18号住が近接する。周辺には、土坑が群在しており、226坑、227坑が床面と、209坑、214坑、250坑が住居跡壁と重なる。いずれも、本住居跡が新しい重複関係と捉えた。

床面：暗褐色土を地床とし、敷石が東壁と西壁を中心



第62図 51区12号住居跡・12号住居跡出土遺物

に明瞭に設けられていた。いずれも安山岩製の板石を主体とした敷石で、大型の板石を組み合わせ、隙間に小型の板石や自然礫を充填する敷石である。西側の敷石には大型の扁平な垂円礫を置いていた。また、壁際には小型の板石や円礫が並び、北側壁に延長していた。また、炉跡北側にも大型の板石2石が敷かれるが、これも敷石の一部と判断できる。炉跡西側に、焼土が集中していた。掘り込みは有さず、焼土塊が堆積した様相を示す。

施設：敷石以外では、炉跡、出入口部石囲い施設を床面で検出した。また柱穴のいくつかを下層調査で得られたピットを検討し、本住居跡柱穴として位置付けた。

炉跡：住居部中央やや南東りに石囲い葺が設けられる。主軸を住居とほぼ同一に北北西に向ける方形の炉である。平面規模は約90×82cm、深さは約39cmを測る。方形の掘り込みを有す。石囲いは、被熱のため、破砕していたが、安山岩製の角礫3石をもって、東辺を除き圍繞する。東辺も扁平な板石が置かれており、さらに他にも板石が散布することから、四辺を囲う意識は強かったものと捉えられる。炉内は焼土粒・焼土塊が堆積しており、中心に上半を欠いた深鉢が正位で置かれていた。炉内土器は内外面とも上半に被熱痕跡を見る。

柱穴：床面が黒褐色を呈していたため、柱穴の把握には至らなかった。住居跡調査後、土坑、ピットの調査によって得られたピットの幾つかを、住居跡平面形に併せ、柱穴として妥当なピット5基を示した。いずれも、確認面からは浅いが、本来の床面からの深さを推定すると20cm近くは深く、柱穴として良好な深さと思われる。P2を奥壁の柱穴と位置付け、P1、P3、P5が各隅に設けられた柱穴と判断できよう。また、P4は東辺中位の壁際柱穴と

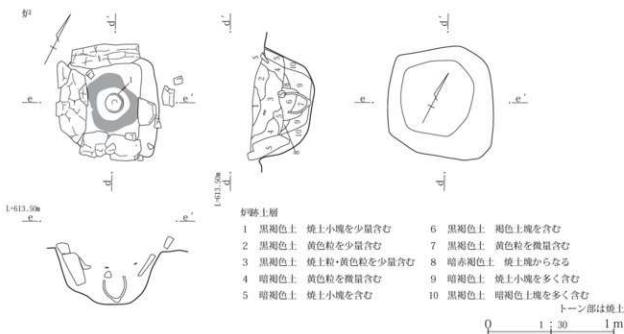
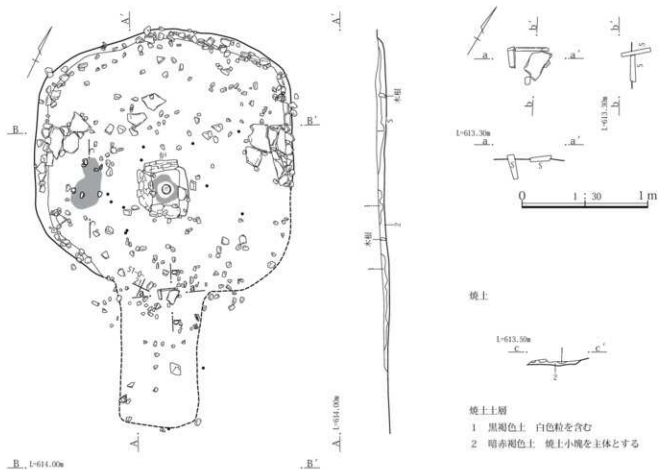
して配置的には良好であるが、東壁に接する敷石下に位置し注意を要しよう。残念ながら南側の各隅の柱穴、出入口部対ピットは検出できなかった。

出入口部石囲い施設：住居部と引出部の連結部中央に小型の石囲いを検出した。南北長2.5×東西長3.2mの規模で方形を基調とした石囲いであるが、東辺の石は内側に倒れ、南辺は石囲いがされていない。出入口埋裏と同等の性格が指摘されているが、本例は掘り込みが検出できず、詳細は不明である。

遺物：ほぼ床直、床直上の出土といえよう。出土量は多く44点を図示し得た。出土土器の時期も称名寺式期にまとまる。堀之内1式1点(29)を図示したが混入と思われる。個体は炉周辺に集まる傾向がある(1~3)。15は炉内と東壁際に散布する出土状態を見せる。その他の破片の多くは、壁際の自然礫に混在して出土する傾向がある。特に礫石器(36・37・39~44)に顕著である。石鉄は玉髄製の30が赤褐色を呈し良品である。32は未製品である。その他ではミニチュア台付き土器脚部(26)、不明土製品(27・28)、不明土製品(36)、磨製石斧転用の敷石(38)が見られ、多様性を含む出土遺物様相である。

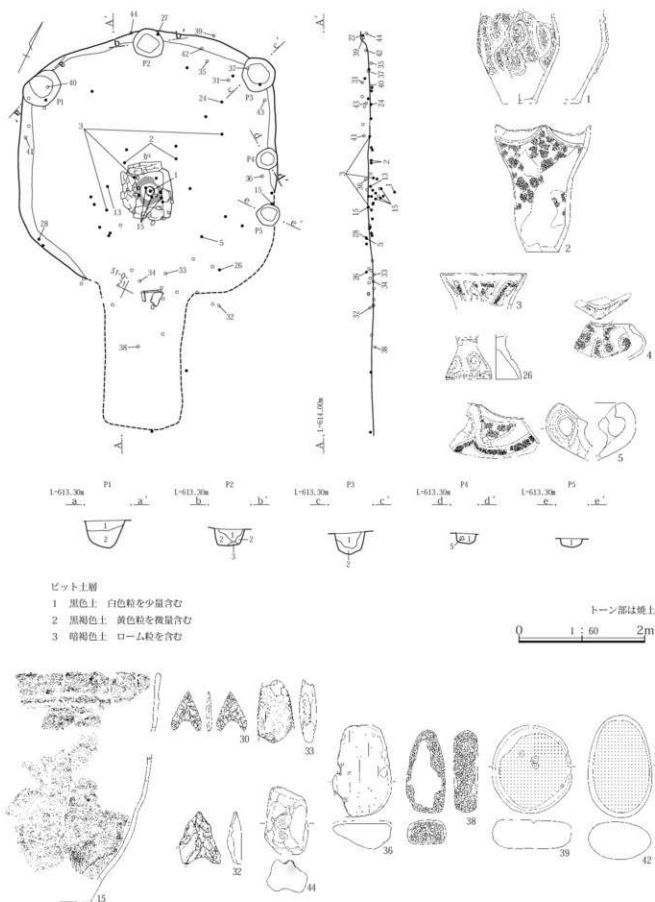
所見：遺存度が良くない敷石住居跡である。黒色土~黒褐色土中の調査となったため、掘り込みの検出も容易ではなく、さらに周辺地形が南側傾斜のため、引出部周辺の壁・施設が検出できなかった。敷石は部分敷石で東西壁際に配置する傾向が見られた。また、壁際の礫集中も後期初頭の敷石住居跡に特徴的な要素である。石囲い炉の炉内土器の在り方も、当欄の例に合致しよう。

時期は、出土土器の様相から後期初頭中段階の所産と捉えたい。



第63図 51区13号住居跡(1)

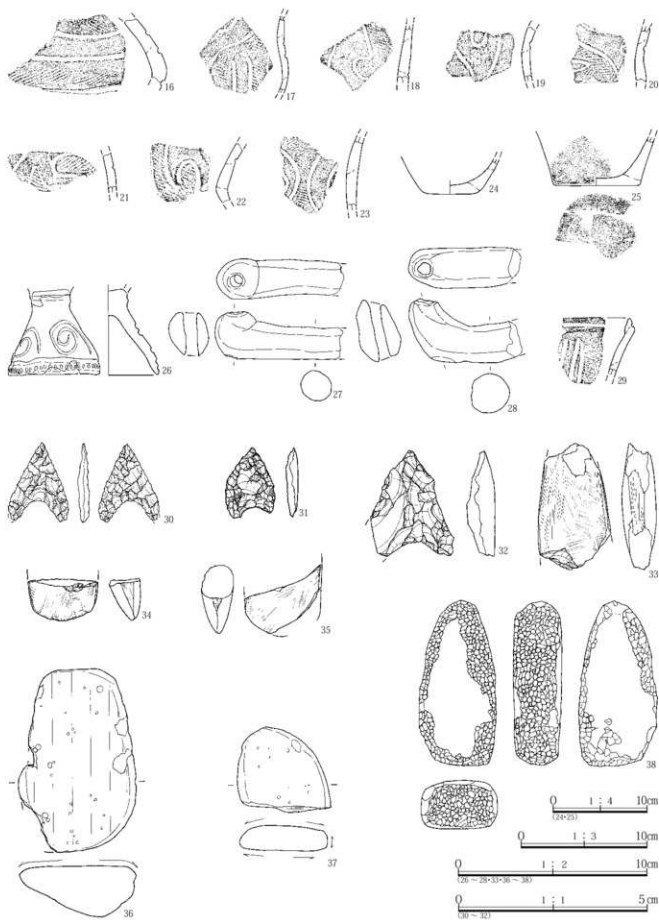
第3章 発見された遺構と遺物



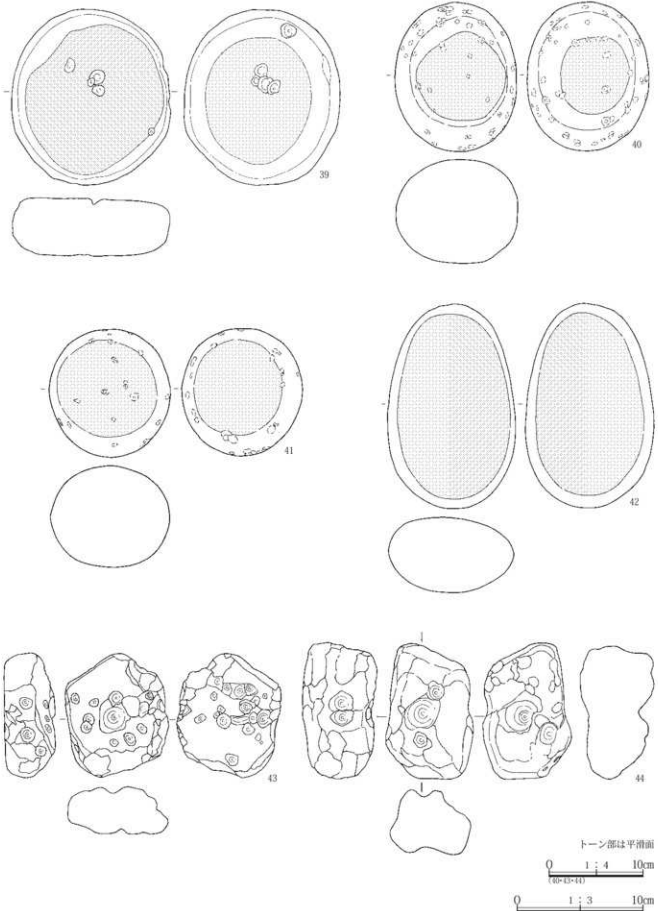
第64図 51区13号住居跡(2)



第65図 51区13号住居跡出土遺物(1)



第66図 51区13号住居跡出土遺物(2)



第67図 51区13号住居跡出土遺物(3)

51区15号住居跡 (第68～72図 PL. 7・78・79)

位置：調査区東南隅で調査された。51区J・K-19・20グリッドに位置する。周辺は南東への緩やかながら顕著な斜面地形を呈す。

経過：黒褐色土中の確認・検出となった。床面を構成する黄褐色土が検出され、さらに石囲い戸を見たことから住居跡と確定した。

規模：径約5.5mの不整形円形を呈する平面形である。主軸方位を北東と考えた。東側から南壁は斜面地形のため壁を逸失しており、黄褐色土床面と柱穴配置から平面形を確定した。深さは約20cmを測るが、東側は壁を見ないため遺存度は良くない。

重複：単独の検出である。他の住居跡からも距離を置く。土坑との重複も無い。

床面：か跡を中心に広く貼床が見られる。軟質ロームで構成され、か跡周辺に硬化面が観察できた。ほぼ平坦面を築くが、東側に僅かに傾斜する傾向がある。周辺地形の影響であろう。

施設：か跡、ピット24基を床面上で検出した。

か跡：床面中央に、北北東に主軸を傾ける石囲い戸を設ける。円礫・垂円礫を周縁に囲うが北西側が空き、北～北東側の礫も原位置を移動した様相を示す。住居廃棄時の所産であろうか。不整形円状の掘り込みを持ち、下層に焼土を堆積する。焼土化は基盤層にまで及び、黒褐色土が焼土化していた。

柱穴：床面上で検出された24基のピットのうちの、柱穴として妥当な深さを示すピットは、P3・P7～P9・P12・P13・P15・P16・P18～P24である。このうち、良好な配置を示すピットは、(P19・P23)・(P22・P20)・(P21・P13)・(P12)・(P18・P24)である。(P19・P23)を奥壁の柱穴、(P21・P13)を出入り口の柱穴と捉え、南壁に柱穴を想定すれば、六角形を描く柱穴配置となる。

遺物：遺物量は多く、41点を図示した。埋土下位出土が目立つが、土器は全て破片状態の出土で、原位置を止める例はない。おそらく、流入・廃棄による所産と考えた。また、縄文施文をする破片は1・4・24と少なく、多くが垂下隆線による懸垂文構成で縦矢羽状短沈線をやや密接に施す一群である。加曾利EⅡ式併行の「柵倉式」あるいは「郷土式」古段階の様相と捉えられる。その他では、称名寺式(33)を見るが混入と判断した。石器は、

石鐮(34・35)、打製石斧(36・37)、凹石(38・40)、石皿片(39)、敲石(41)を図示した。

所見：床面に軟質ロームによる貼り床を施す例である。掘り込みが黒褐色土中にとどまるため、床面を構成する硬質土としてローム層土が選ばれたのであろう。東壁を逸失する遺存度の悪い住居跡であるが、か跡と柱穴を検出し得た。時期は中期後葉中頃であろう。

51区16号住居跡 (第73～75図 PL. 8・79)

位置：51区U～W-15～17グリッドに位置する。調査区中央南西側で調査された。周辺は平坦ながら、南東への緩やかな傾斜地形に占地する。

経過：黒褐色土下層で確認、検出した。遺構確認作業において石囲い戸を検出し、住居跡として確定したが、黒褐色土中の検出のため、壁や壁周溝などが確認できず、か跡を中心とした範囲を住居跡として把握した。

規模：主軸方位を北西に向けた径約6.9mの円形住居跡を想定した。これはか跡を中心に、柱穴と捉えたP1～P4、P6を範囲内に納めた規模である。主軸もか跡に沿っている。壁は検出できなかったが、か跡に向かって緩やかに凹み、深さは約12cmを測る。

重複：住居跡相互の重複は無く、253坑が南側に、276坑が北西側に重なる。また南西には、17号住、20号住、22号住、23号住が近接する。

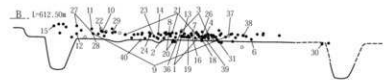
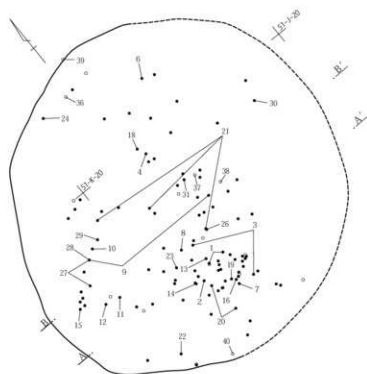
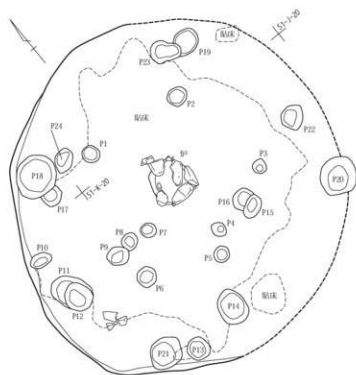
床面：黒褐色土を地床とする。全体に軟質で硬化面も見ない。平坦面を基調としている。

施設：石囲い戸、ピット6基を床面上で確認した。

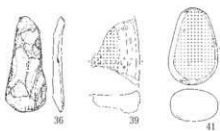
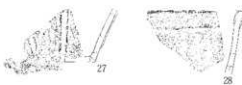
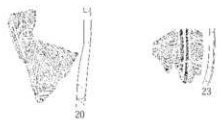
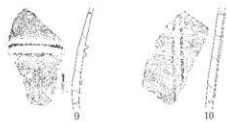
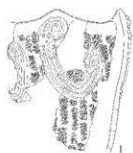
か跡：やや大型の安山岩製角礫7個を北辺と東辺を中心に並べられる。平面形は長方形を呈し、規模は約121×58cmで、深さは上層使用面までは約6cm、掘り込み底面までは23cmを測る。焼土塊を多く堆積していた。

柱穴：P1～P4・P6を配置から柱穴として捉えたが、P4・P6以外は浅く、柱穴としての位置付けに問題が残るだろう。

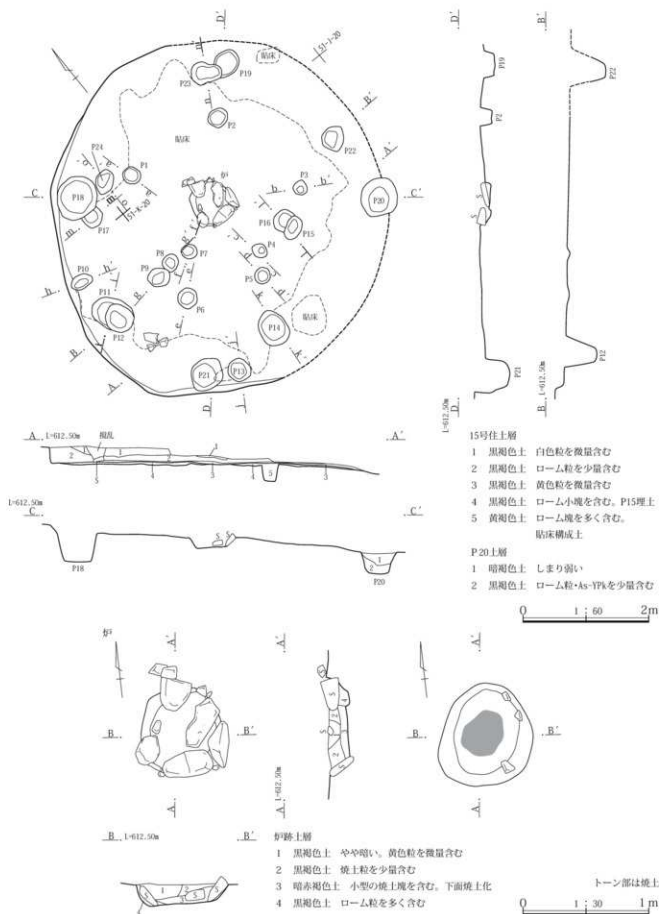
遺物：比較的多くの遺物を出土している。23点を図示した。土器片が多く、個体としての図示は果たせなかった。床面のみを検出のため、ほぼ床直出土といえよう。時期もまとまり、加曾利EⅢ式(1～12)、「郷土式」(13～19)が出土している。石器は石鐮(20)、打製石斧(21)、粗粒輝石安山岩製の不明石製品(22)、多孔石(23)を



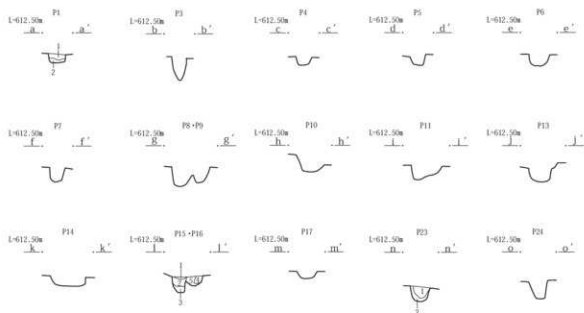
0 1 : 60 2m



第68図 51区15号住居跡(1)



第69図 51区15号住居跡(2)



P 1 土層

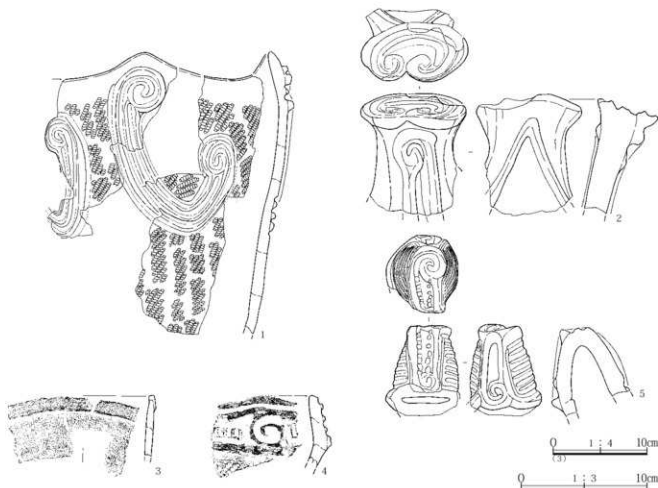
- 1 暗褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 黒褐色土 ローム粒・As-Ykを少量含む

P 15・16土層

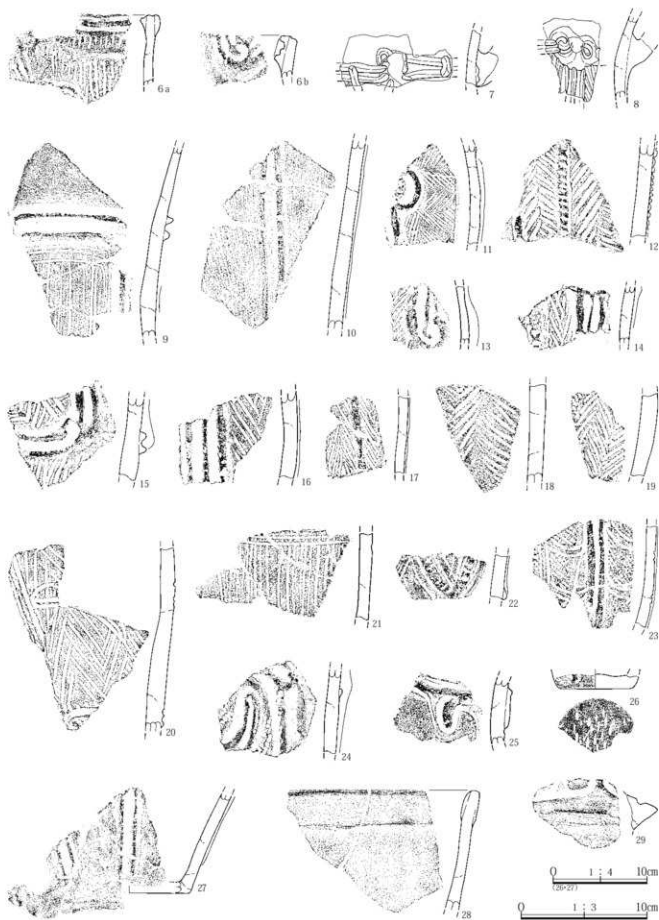
- 1 黒褐色土 P 15埋土
- 2 黒色土 白色粒を少量含む。P15埋土
- 3 黒色土 白色粒・黄色粒少量含む。P15埋土
- 4 黒色土 P 16埋土
- 5 黒褐色土 P 16埋土

P 23土層

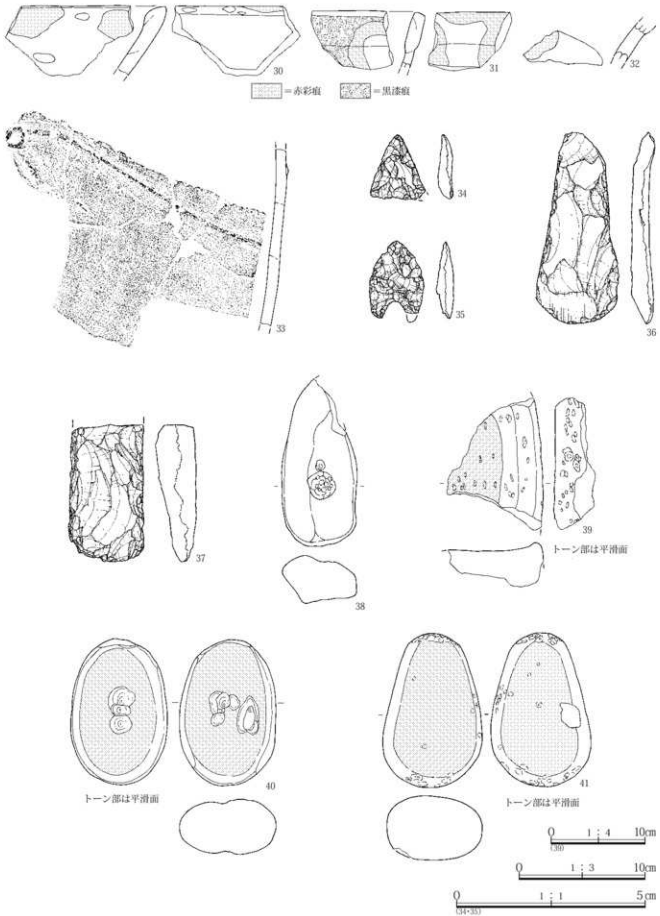
- 1 黒褐色土 しまり弱い
- 2 黒褐色土 ローム塊を多く含む



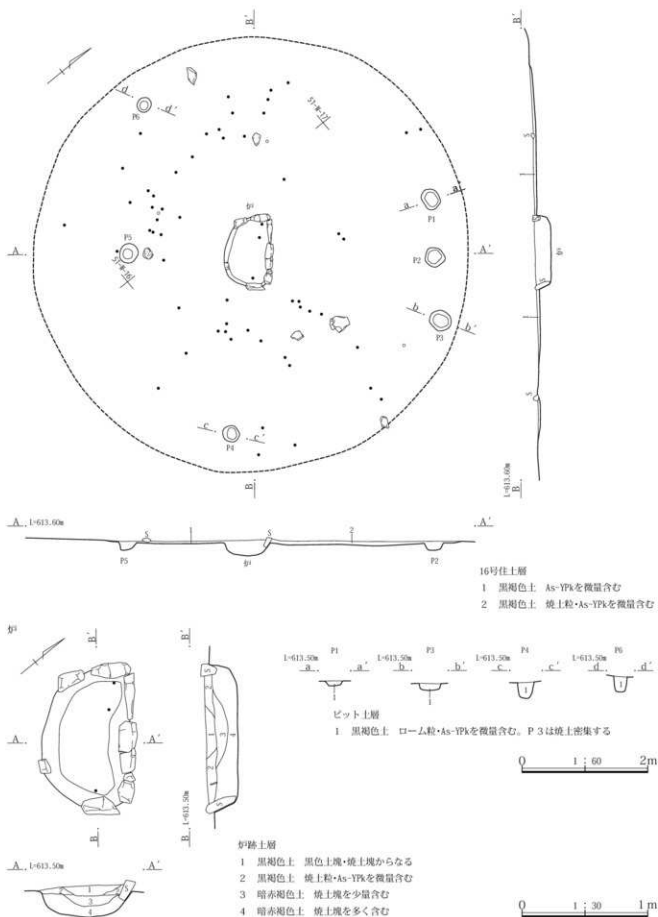
第70図 51区15号住居跡(3)・15号住居跡出土遺物(1)

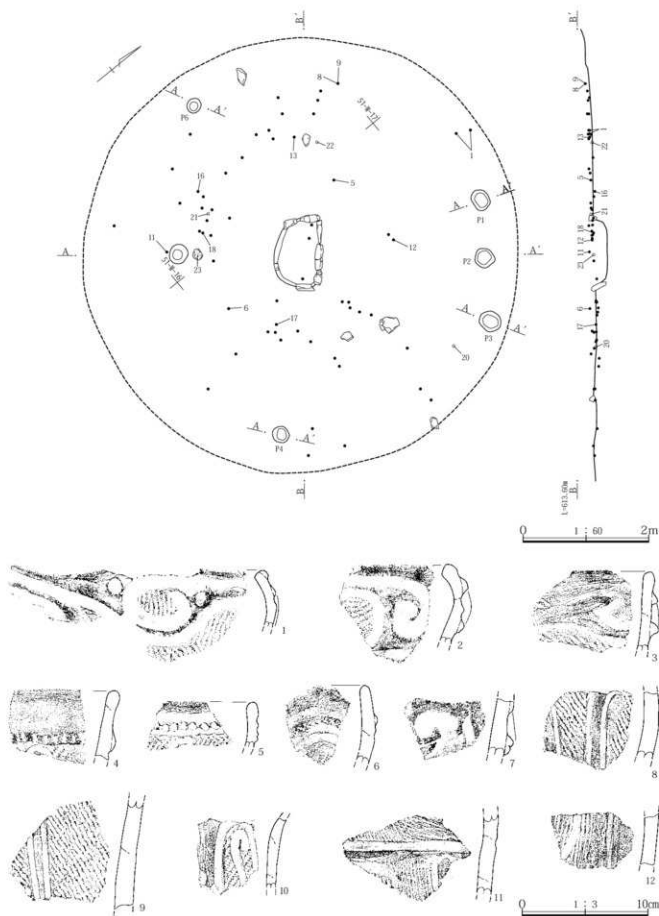


第71図 51区15号住居跡出土遺物(2)

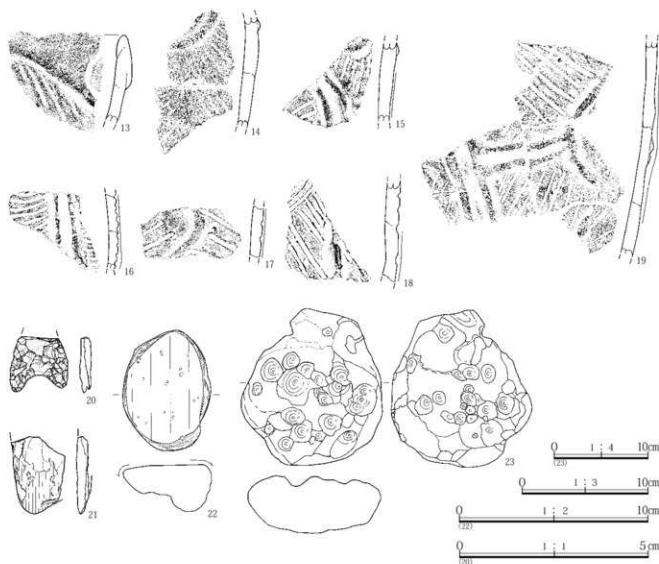


第72図 51区15号住居跡出土遺物(3)





第74図 51区16号住居跡(2)・16号住居跡出土遺物(1)



第75図 51区16号住居跡出土遺物(2)

見る。土器、石器とも短い時間幅の所産と思われるが、破片状態の遺物が多く、居住に伴う例ではない。流入・廃棄による出土状態と捉えられよう。

所見：跡のみが確定し、柱穴としたピットの幾つかにも疑問が残る。検討を要する住居跡である。しかしながら、時期はまとも中期後葉後半段階と捉えられる。

51区17号住居跡 (第76～86図 PL. 8・9・80～86)

位置：調査区中央西部の52区との境で調査した。51区Y-14・15グリッドに位置する。周辺は緩やかな傾斜地形が南東へ広がり、ほぼ平坦地形といえよう。

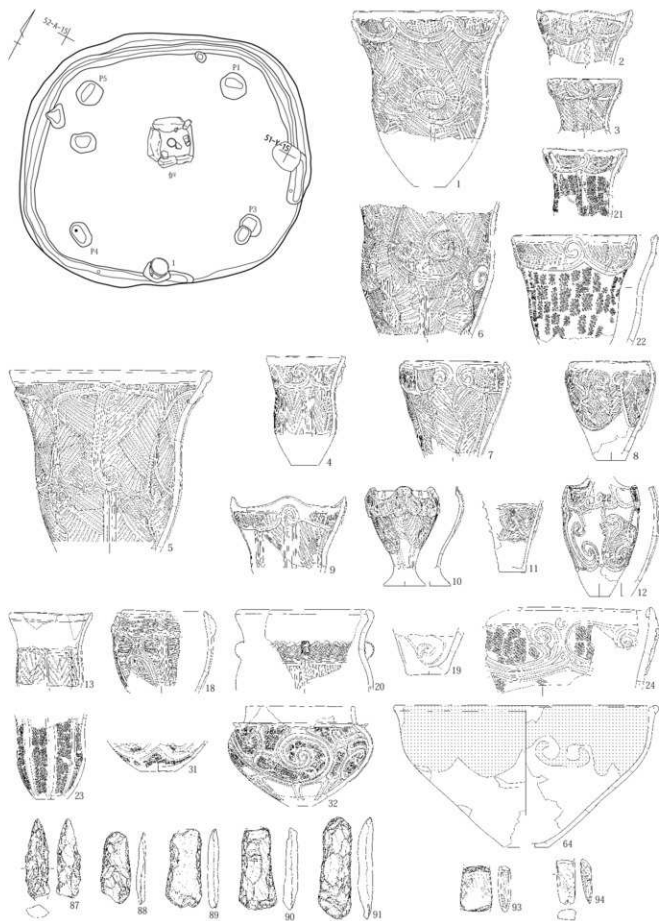
経過：重複する20号住、22号住に先行して調査した。遺構確認面はローム漸移層上層で暗褐色土を基調とする。平面形確認当初より、遺物のまとまった広がりが見られ、住居跡の存在を予想して調査を進めた。その結果、

床面と壁周溝、石囲いが、出入口埋塞を検出し、1軒の住居跡として確定できた。

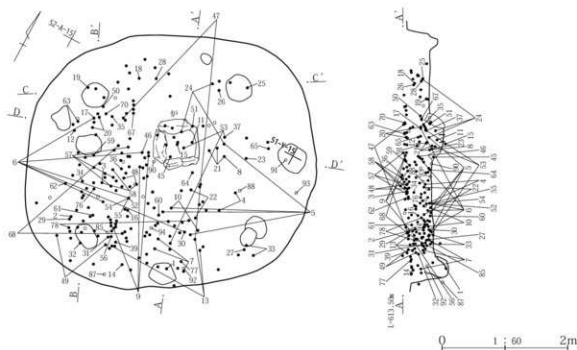
規模：出入口埋塞と石跡の延長を主軸とした。主軸方位を北北西に向けた、やや横長の隅丸方形を平面形とする。平面規模は4.5×4.0mで深さは40cmを測る。床面は軟質ローム層にまで達しており、良好な遺存度を誇る。

重複：20号住が北東側に重複する。同様に22号住も北東壁に接する位置にある。2軒とも中期後葉に比定される土器を出土するが、本住居跡出土土器がやや新しい様相を示す。20号住との重複は、調査時の土層観察においても、新旧が把握されている。その他に前期後葉の土器を出土した272坑が南東隅で重複している。また、東壁際中位にピット1基が重なるが、これは20号住に帰属する。

床面：軟質ローム上層のにぶい黄褐色土を地床として



第76图 51区17号住居跡(1)



第77図 51区17号住居跡(2)

いる。ほぼ平坦面を築き、硬化面は炉周辺で観察されたが、顕著では無く全体に軟質な床面である。

施設：炉跡、壁周溝、出入口埋裏、ピット4基を床面上で検出した。

炉跡：床面中央やや北西寄りに石囲い炉を設ける。主軸を北北西に向けた方形炉で、平面規模は約65×62cm、使用面までの深さは約10cm、掘り込みまでは21cmを測る。掘り込みは、不整形の平面形で皿状の断面形を示す。炉石は東辺が抜け、その他は安山岩製の板石や亜角礫を使って圍繞していた。炉土層による東辺の様相が記録化されなかったため、東辺の炉石が抜き取りなのかは不明である。炉中央に炉内土器を据える。口縁部と底部を欠した深鉢体部中位(15)を正位で置く。内面上半に被熱痕跡を見る。また、東辺下位に小型深鉢(11)が横位で出土している。底面に炭化物が付着していた。

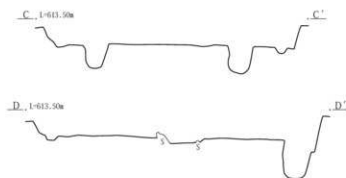
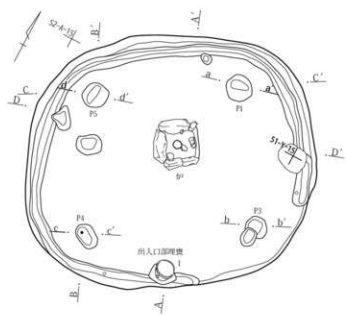
壁周溝：東南隅で断絶するが、その他の壁下には設けられる。出入口埋裏も跨っており、壁周溝の在り方から出入口部の推定には至らなかった。

柱穴：当初は東壁際のピットをP2としていたが、調査によって20号住柱穴として確認されたため、P2を除外した。そのため、4基のピットを確認し、配置から全てを柱穴と判断した。P3がやや浅く18cm程度であるがP1・P4・P5とも30cm以上の深さがあり、柱穴として位置付けられよう。

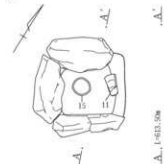
埋裏：出入口部埋裏(1)が南壁際で出土している。不整形の掘り込みを持ち、体部下半を欠した深鉢が、口縁を住居内側に向け斜位に埋められていた。前述のように、壁周溝が埋裏掘り込みに接しており、明瞭な出入口施設を示唆していなかった。また、埋裏も斜位に設けられたため、口縁部片側が壁際で床面レベルより突出しており、正位埋裏と違い、生活面で埋裏の存在が解る様相であった。

遺物：多量の遺物が、埋土層から出土した。平面的には床面中央から南側にかけて、やや分布が偏る傾向があり、また垂直分布を見ても、埋土層と床直上の間に若干ながら出土量の希薄な層の存在も窺われた。ここでは、94点を図示した。出入口埋裏(1)、炉内土器(15)、炉出土土器(11)は住居生活痕跡を示唆する出土状態である。上層の出土遺物は2・3・9・13・14・18・20・26・29・32・36・39・47～49・56～59・61～63・68・70・77・78・92などが見られる。それ以外は、覆土下位～床直上出であるが、時期的には大きな差が無く、住居廃絶後に比較的短期間に一括廃棄が行われたと考えられている。

出土土器の傾向を見ると、信州系の一群とりわけ「郷土式」の出土量が卓越する(1～17・33～40・45～58)。その他に曾利式(20・59)、唐草文系土器(18)などが見られる。一方、関東系である加曾利EIII式古段階

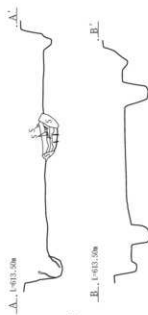


伊



伊基盤

- 1 黒褐色土 焼土粒・黄色粒を少量含む
- 2 褐色土 焼土小塊を含む
- 3 黒褐色土 焼土粒を多く含む
- 4 暗褐色土 ローム小塊を含む



P 1 土層

- 1 黒褐色土 軽石を微量含む
- 2 黒褐色土 軽石を微量含む。軟質
- 3 黒褐色土 ローム塊との混土

P 3 土層

- 1 黒褐色土 ローム粒多く含む
- 2 黄褐色土 ローム塊と黒褐色土塊を含む

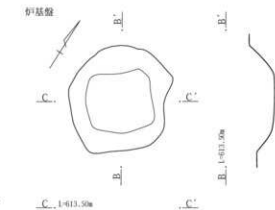


P 4 土層

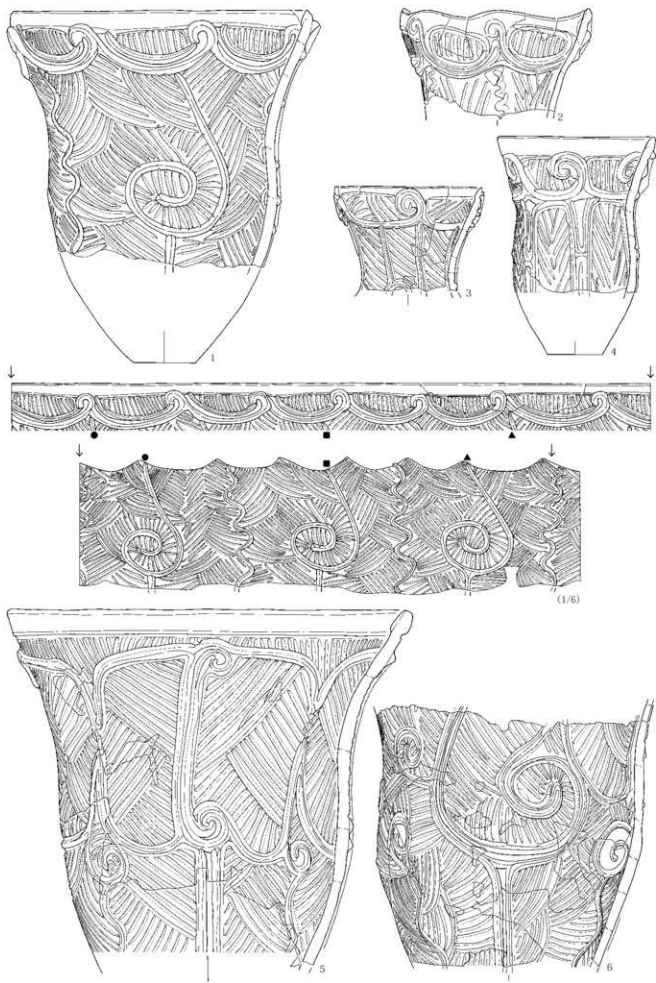
- 1 黒褐色土 ローム粒を多く含む
- 2 黒褐色土 ローム粒を少量含む
- 3 黄褐色土 ローム塊と黒褐色土塊を含む

P 5 土層

- 1 黒褐色土 微小軽石を微量含む
- 2 暗褐色土 焼土、ローム粒を少量含む

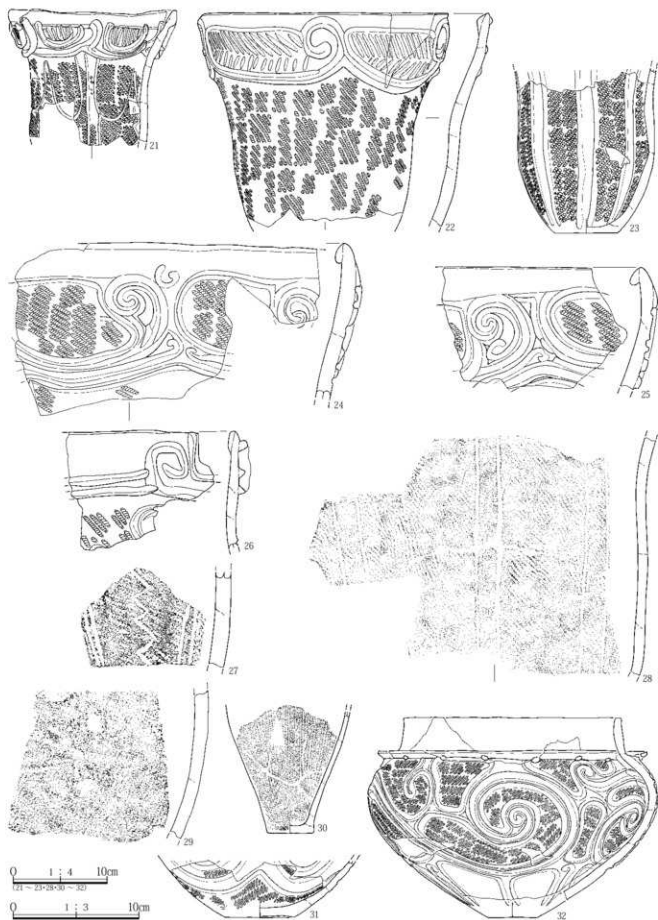


第78図 51区17号住居跡(3)

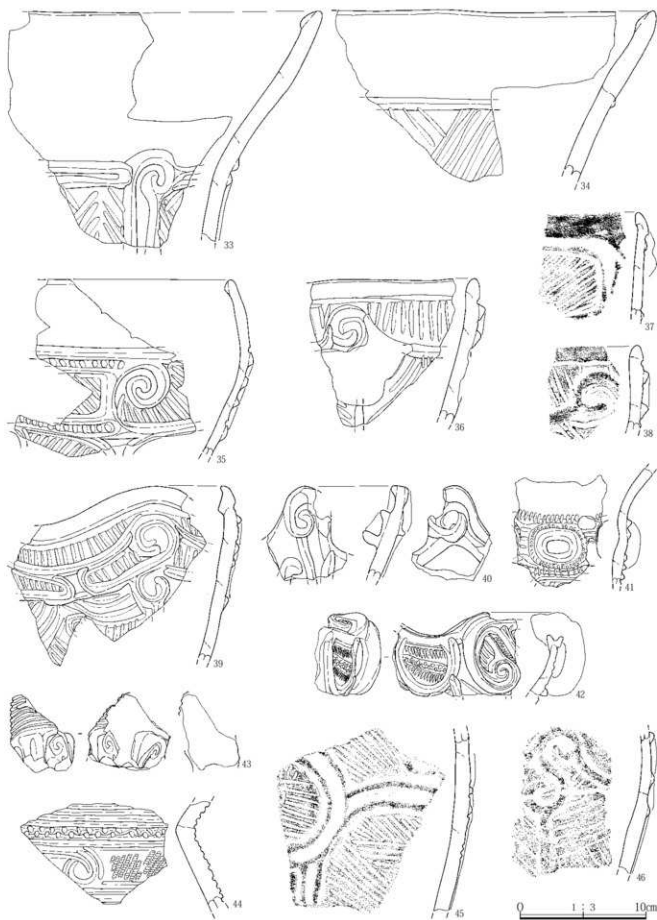




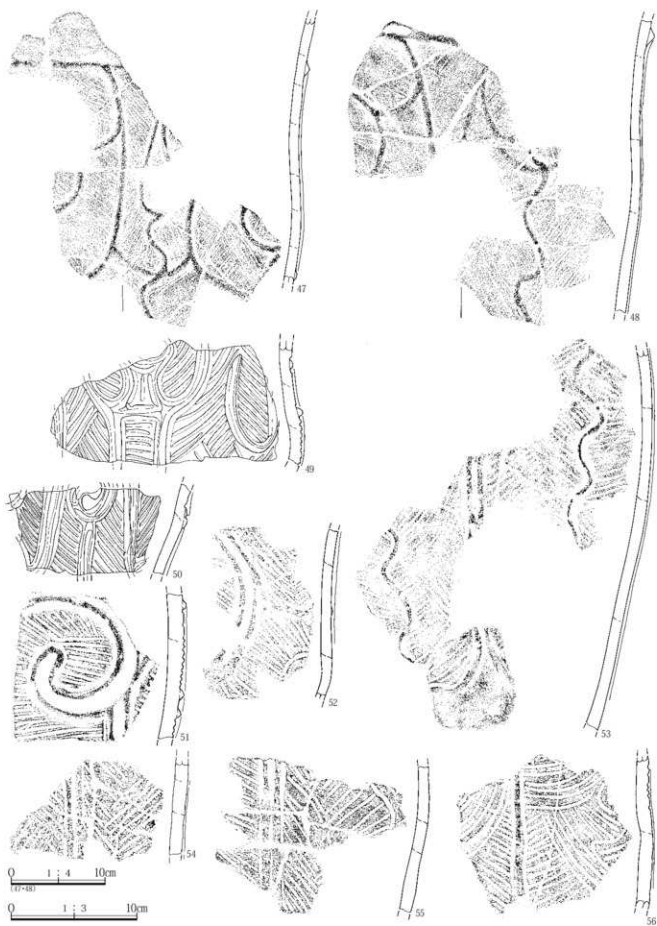
第80图 51区17号住居跡出土遺物(2)



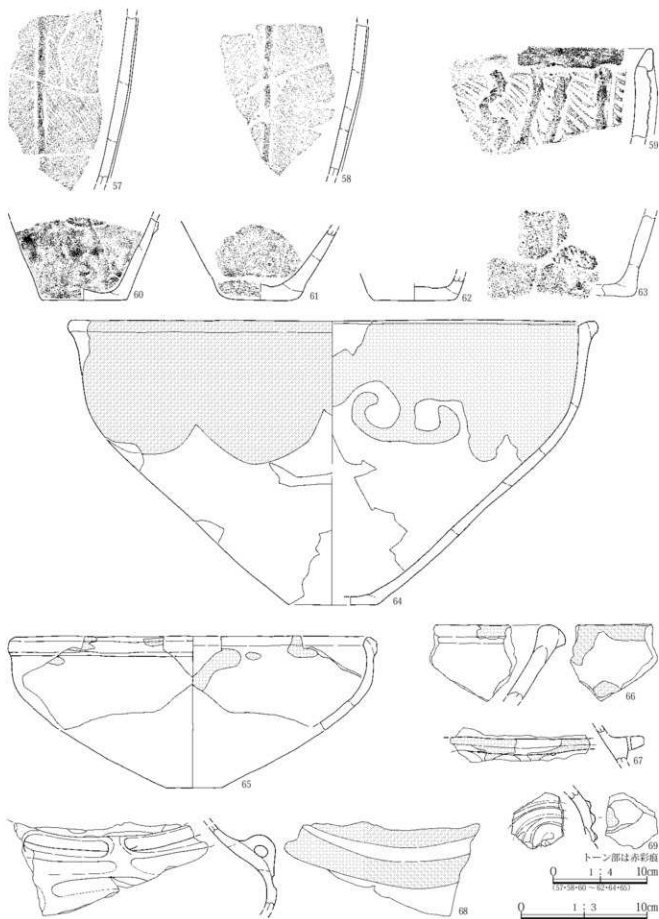
第81図 51区17号住居跡出土遺物(3)



第82図 51区17号住居跡出土遺物(4)

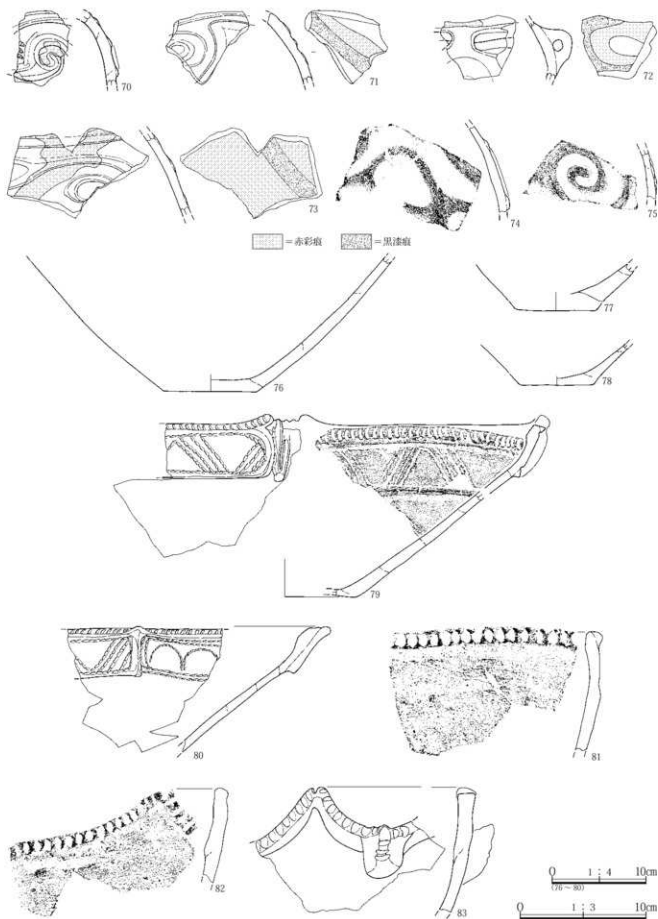


第83図 51区17号住居跡出土遺物(5)

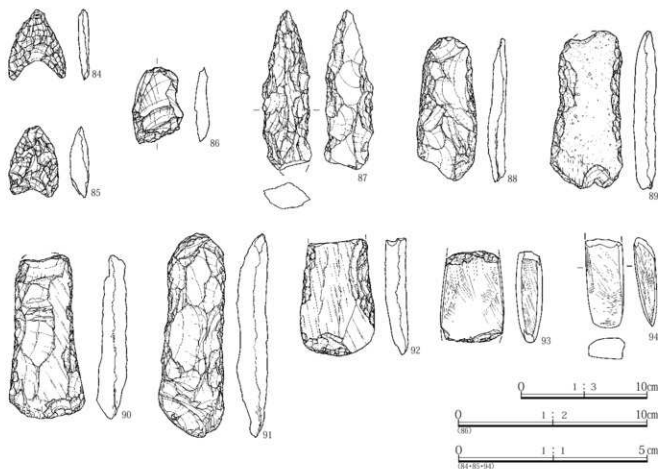


第84図 51区17号住居跡出土遺物(6)

第3章 発見された遺構と遺物



第85図 51区17号住居跡出土遺物(7)



第86図 51区17号住居跡出土遺物(8)

の一群は量が少なく(21~28)、浅鉢や鉢、無頸壺(64~78)を加えたとしても、「郷土式」の優位性が際立つ。时期的な差と思われるが、先に述べた51区11号住出土土器組成とは対称的な在り方を示す。

なお、31、32は大木9式に比定される鉢、無頸壺である。19はミニチュア土器で、沈線で「郷土式」の体部下半を描いた例と考えた。

混在例としては、41が勝坂3式、44が加曾利E1式、40・42・43が「橋倉式」であろうか。また79~83は量がまとまるか阿玉台1b式である。

石器では、石鏃(84・85)、楔形石器(86)、石槍(87)、打製石斧(88~92)、磨製石斧(93・94)を見る。85は石鏃未製品、94はミニチュアの磨製石斧である。石器については、剥片石器のみの出土で礫石器を見ない。極めて特殊な在り方であり、検討を要する。

所見：遺存度の良好な住居跡である。が跡、柱穴、出入口埋塞が揃い典型的な住居内施設を揃える。ただ、奥壁柱穴を欠く4本柱穴であり、これも検討を要しよう。出土土器の大半が「郷土式」に占められる土器組成は注

目されよう。时期的な要因なのか、居住者を原因とするのかは今後の課題であるが、本住居跡出土土器は、「郷土式」と加曾利EⅢ式古段階の標準的な様相として、今後位置付けられるだろう。

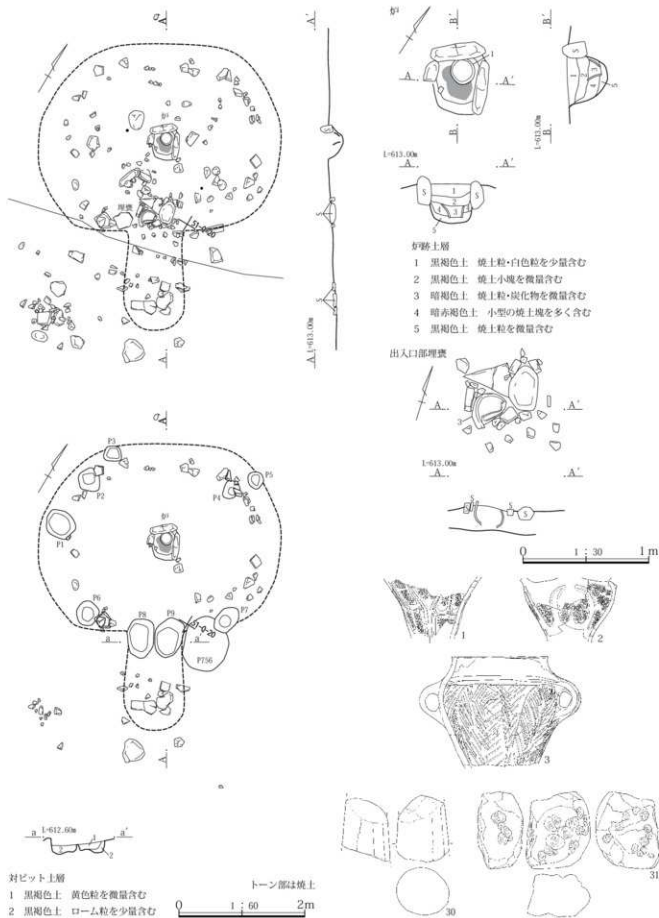
時期は中期後葉中頃~新段階と判断した。

51区18号住居跡(第87~90図 PL.9・10・87・88)

位置：調査区中央やや西寄りに検出した。51区P-Q-19・20グリッドに位置する。周辺は南への緩斜面ながら、顕著な傾斜地形を呈す。

経過：黒褐色土中でが跡や小規模の敷石を確認・検出した。そのため、壁や壁周溝の検出が果たせず、加えて、工事工程上の都合で分割調査となり、調査では南側の張出部を把握できなかった。本住居跡を敷石住居跡としたのは整理作業によるものである。

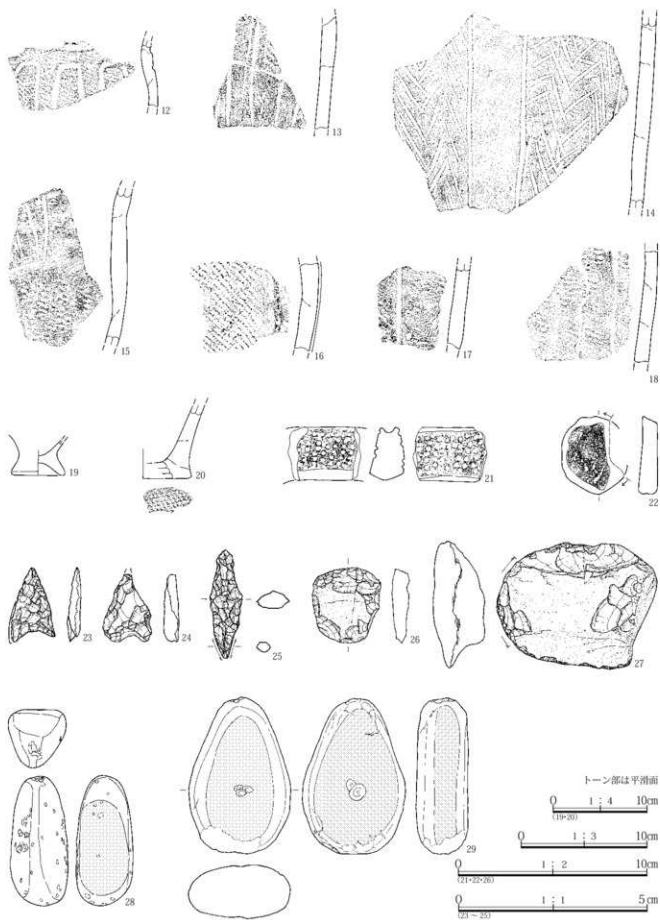
規模：主軸長約4.5m、短軸長約3.8mの小型の敷石住居跡である。住居部は約3.0×3.8mを測るようやや横長の形態が推定された。壁を検出できなかったため、深さに値は無い。



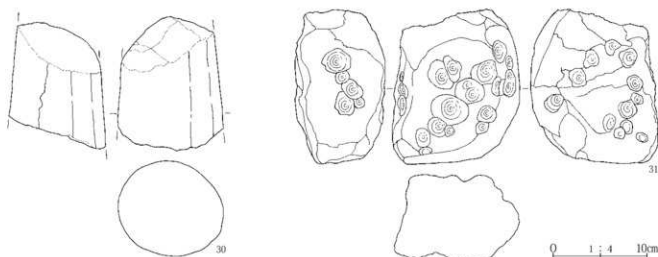
第87図 51区18号住居跡(1)



第88図 51区18号住居跡(2)・18号住居跡出土遺物(1)



第89図 51区18号住居跡出土遺物(2)



第90図 51区18号住居跡出土遺物(3)

重複：住居跡との重複は無いが、北東に13号住が近接する。本住居跡が先行する時期だが、敷石住居跡が近接する様相は注意したい。その他では756号ピットが南東部に重なる。中期中葉の所産であり本住居跡が新しい。床面：黒褐色土を地床とし、壁に沿って小規模環状に敷石を見る。北側の敷石の一部は立位に出土しており、何らかの構築材の存在が想起されよう。敷石がまとまるのは連結部の埋裏周辺である。大型の垂円礫と板石からなり、埋裏を囲む様に配されていた。また出入口部端部にも敷石が見られる。大型の板石を主体としていた。いずれの敷石も出土レベル差が無く、本住居跡に伴う敷石と判断できた。また、住居跡南西にも敷石状に自然石が集まる箇所がある。住居跡に関連する施設の可能性もあるため、平面図に併せて掲載したが、北側にある1号列石遺構との関連も想定されよう。

施設：床面上で弁跡、ピット、対ピット、出入口埋裏を検出した。

炉跡：住居部中央に石囲い炉を設ける。大型の円礫による囲繞であるが、南辺と西辺の一部が欠落する。方形の平面形で、規模は54×51cm、深さは使用面で13cm、掘り込み下端までは約30cmを測る。北側に偏り深鉢体部中位のみの中土器を埋置する。内面上半部に被熱痕跡があり、周辺には焼土も濃密に堆積していた。

柱穴：9基のピットを検出した。住居跡調査時の段階では黒褐色土の地床のため、ピットの検出は果たせなかったが、その後下層調査の際に得られたピットを整理段階で住居跡に対応させた。その結果、連結部の対ピットであるP8・P9が得られ、西壁際と並ぶP1～P3、

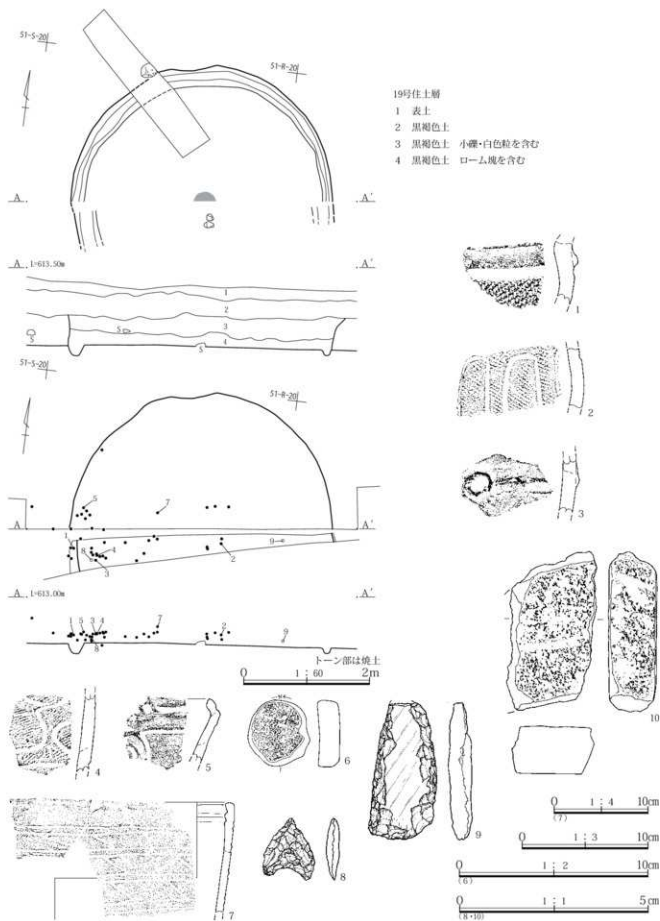
北東壁にP4・P5、南壁のP6・P7が配置的に柱穴の可能性を想定した。西壁のP1・P2に対応する東壁ピットや奥壁柱穴に相当するピットも得られなかった。深さでは、P2・P4・P6・P7が約40～70cmと深く、柱穴として確定できよう。対ピットであるP8・P9は20cmに満たない深さを測るが、これは確認面が下がったためで、床面からの深さを推定すると40cmを超える掘り込みと捉えられた。

埋裏：出入口埋裏(3)が連結部のやや西にずれた位置に設けられる。底部を欠した「郷土式」の両耳歯を正位に埋置する。周辺には板石と大型の垂円礫が敷かれ、出入口部敷石と一体化した様相を示す。

遺物：住居確認時より埋土上層より比較的多く出土が見られた。31点を図示した。炉周辺から引出部にかけての出土が多く、南への傾斜に沿った出土傾向を見せる。おそらく居住に伴う遺物は、炉内土器(1)と出入口埋裏(3)だけで、他は流入による所産と捉えた。2も埋土上層で破片状態の出土である。石棒(30)、多孔石(31)も上層出土である。出土土器の傾向は、加曾利Ⅲ式新段階に比定されるが、EN式(2・4)、称名寺式(20・21)も少量ながら混在する。出入口埋裏(3)は「郷土式」の両耳歯で、比較的類例が少ない。石器としては、石鏃(23・24)、24は未製品である。石錐(25)、楔形石器(26)、加工痕ある剥片石器(27)、敲石(28)、凹石(29)、石棒(30)、多孔石(31)を見る。多様性のある石器組成といえよう。

所見：黒褐色土中の検出となり、加えて分割調査のため、全容把握が困難な住居跡となった。小型の敷石住居跡である。壁下に巡る環状小礫と連結部の埋裏周辺の敷

第3章 発見された遺構と遺物



第91図 51区19号住居跡・19号住居跡出土遺物

石、張出部の部分敷石からなる。石囲いも設けられ、初現期の敷石住居跡が具体化した例と評価されよう。時期は中期後葉新段階から中期末葉段階と考えた。

51区19号住居跡 (第91図 PL.10-88)

位置：調査区中央やや西寄りで検出した。51区Q-R-19・20グリッドに位置する。周辺は南への緩斜面ながら、顕著な傾斜地形を呈す。13号住、18号住と並列して西端の位置にある。

経過：黒褐色土中で検出した。18号住よりも確認面が高く、壁周溝のみの確認に止まっている。また、顕著な灰跡、ピットが検出できなかった。しかし住居跡土層では、明瞭に壁立ち上がりが把握されたため、住居跡として確定したが、有機的な遺物出土状態を呈さず、壁周溝以外の施設を見ないため、住居跡詳細は不明である。加えて工事工程の都合上、南半が分割調査となっており住居平面形も確認できなかった。

規模：径約4.2mの円形住居か。南側の平面形が把握できなかったため、敷石住居跡の可能性も残す。

重複：1号列石遺構が北壁に接する。層的には1号列石が新しい。238坑と252坑が北壁と床面中央にかけて重複するが、新旧は不明である。238坑は中期前葉の所産と思われるため、本住居跡を新しく捉えた。

床面：黒褐色土を地床と捉えたが、前述のように、明瞭な灰跡、柱穴の検出が果たせなかったため、確実性に乏しい。硬化面は見られなかった。

施設：壁周溝のみが確認された。南半部に延びる様相は見られたが、全容は把握できなかった。灰跡と思われる焼土が僅かに床面中央で確認されたが、南半の調査においては検出できなかった。これも確実性に乏しい。

遺物：南側にかけて、少量の遺物を出土している。破片状態で土層の出土である。7点を図示したが、出土土器の時期は時間幅がある。加曾利EⅢ式(1)、堀之内1式(2・3・5)、加曾利B1式(4・7)が見られた。石器は石畿(8)、打製石斧(9)、軽石製品(10)を図示した。出土状態からも、住居跡の時期を示唆する遺物も見られなかった。

所見：壁周溝と少量の出土遺物のみで、住居跡として見られる。13号住と18号住に並列する位置に占地しており、また1号列石下で検出された関連性が注意を要する。出

土土器の時間幅が大きく、時期は確定できないが、2軒の敷石住居跡と並列する様相から、後期と考えておきたい。

51区20号住居跡 (第92～95図 PL.10-88-89)

位置：調査区中央南西部の52区との境で調査した。51区X・Y-14～16グリッドに位置する。周辺は緩やかな傾斜地形が南東へ広がり、ほぼ平坦地形といえよう。17号住、22号住と重複していたが、本住居跡床面にも同心円状に壁周溝が検出されたため、拡張住居跡として判断できた。住居跡が密に重複する地点といえよう。

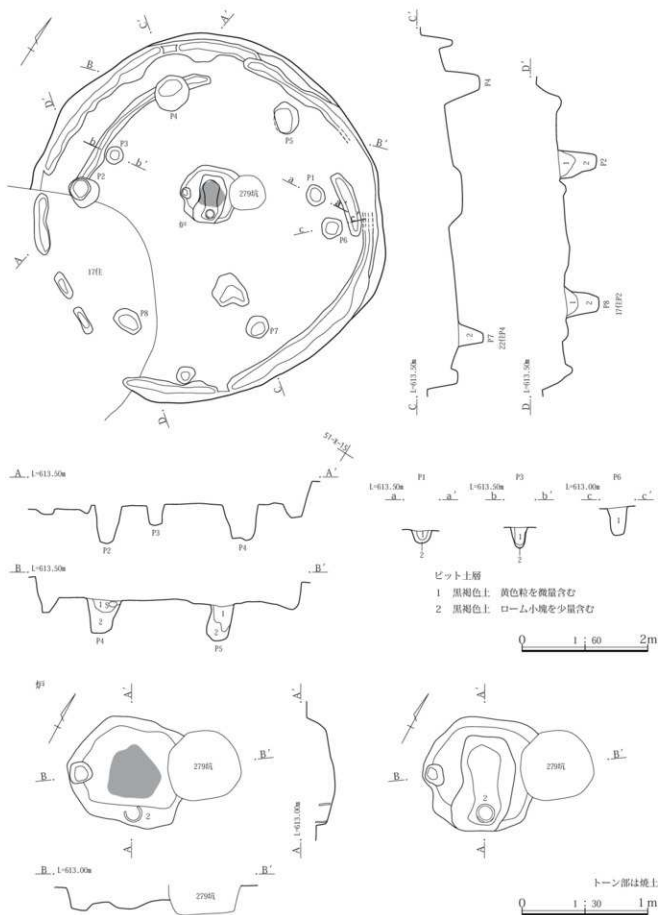
経過：遺構確認面はローム漸移層土層で暗褐色土を基調とし、17号住調査後に本住居跡を調査し、その後22号住を検出した。17号住との新旧は土層観察を基に判断し、また本住居跡床面に灰跡を見たため、22号住との新旧も把握されたためである。

規模：主軸を北北西に向ける円形の住居跡である。平面規模は径約5.8mを測り主軸がやや長い。深さは約70cmで良好な遺存といえよう。床面内縁に新たに壁周溝を見る。こちらは径5.2m程の大きさで、北側へ小規模な拡張が果たされたと考えられる。

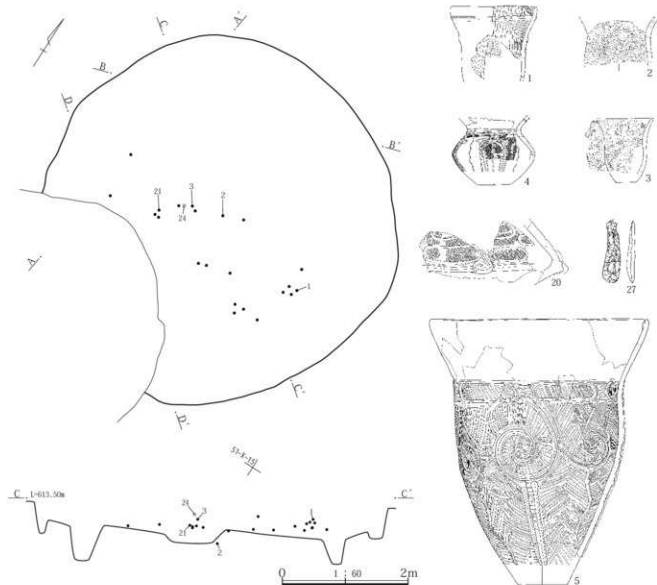
重複：17号住と22号住以外に、184坑・192坑・277～279坑・281坑と重複する。新旧は17号住に切れ、22号住に先行する様相が土層、灰の在り方から判断される。184坑は中世～近世の所産と捉えられている。その他の土坑との新旧は、292坑以外は本住居跡が新しい時期を充てている。

床面：軟質ローム土層と22号住埋土土層を地床としている。硬化面は顕著では無いが、灰跡周辺及び南西部の床面が硬く締まる。22号住との重複は地方的に硬い箇所が見られた。なお、17号住床面とは軟質ロームで構成され、レベル差は少なく、やや本住居跡床面が高い。

施設：灰跡、壁周溝、ピット8基を床面上で検出した。灰跡：床面中央のやや北西寄りに設けられる地床灰である。主軸を北北西に向け、約90×79cmを平面規模とする不整形の掘り込みを有す。深さは約20cmを測る。東側に279坑が重複するが新旧は不明である。掘り込み南壁際に、灰内土器(2)が出土している。深鉢体部のみの埋置で外面に被熱痕跡が見出された。また底面の基盤は焼土化が著しかった。



第92図 51区20号住居跡(1)



第93図 51区20号住居跡(2)

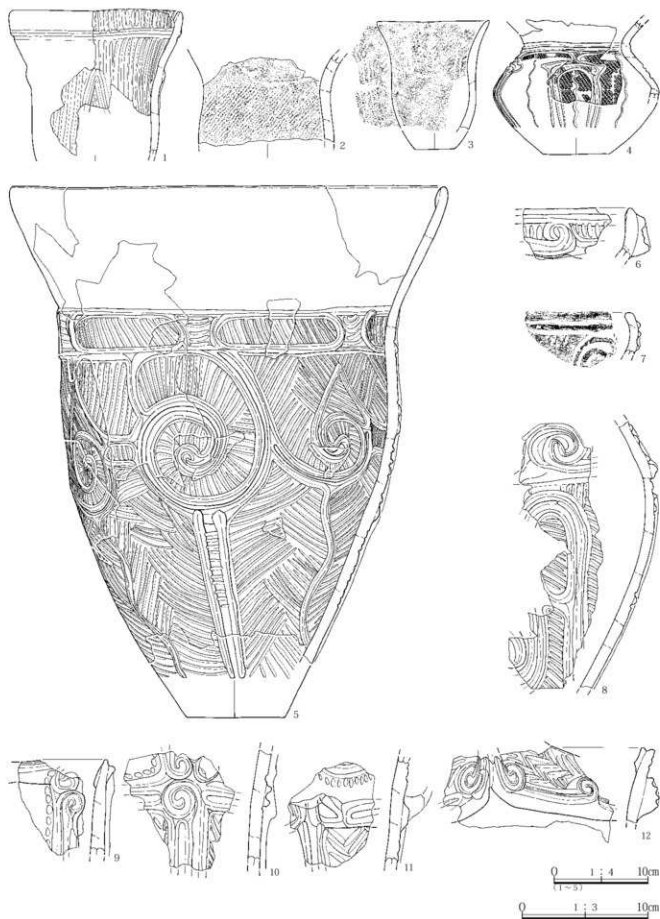
壁周溝：数箇所の断続部を見るがほぼ全局する様相を示す。東壁下と南西壁下の断続が顕著だが、東壁下は20号住、南西壁下は17号住との重複のため、明瞭に把握できなかったためである。また、床面北西側と東側に内側を巡り新たな壁周溝が検出された。南側には見られなかったため、北半分にかけての拡張が示唆されよう。住居跡土層において、床面縮小の観察がないため、拡張と判断した。

柱 穴：8基のピットのうち、柱穴として規模・配置から妥当性を持つピットは、P2・P4～P8が挙げられよう。6基の柱穴として、比較的整った六角形に配置されている。

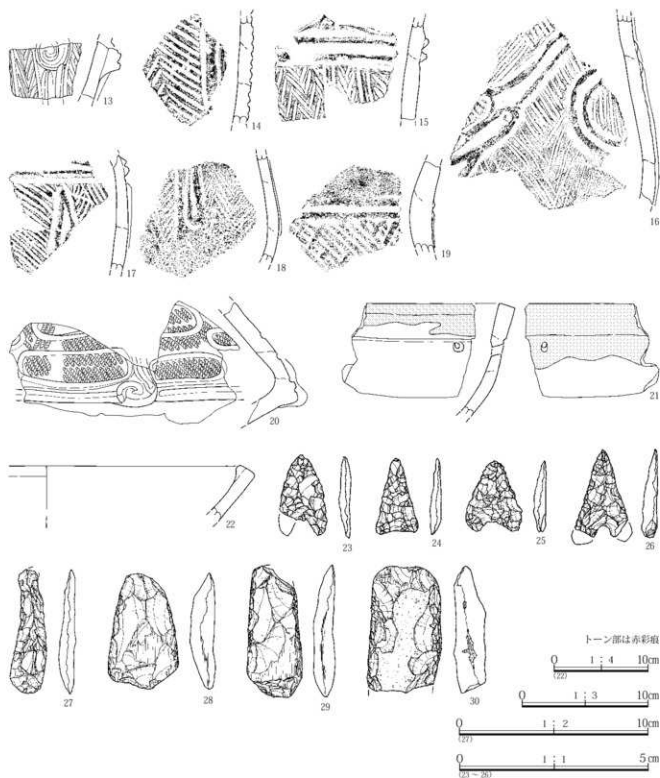
遺 物：重複する17号住出土遺物の影響もあり、埋土中からの出土が多かった。埴内土器(2)は体部縄文施文

のみの文様要素だが、おそらく加曾利EⅡ式と捉えた。その他の縄文施文を施す土器(3・4・6・7・20)もEⅡ式古段階の所産であろう。1は「柵倉式」の可能性もある。同様に12・13も「柵倉式」と捉えた。その他の綾杉状短沈線や鱗状短沈線を施す一群は「鸕土式」と見られよう。短沈線の施文間隔が狭く、やや古手の様相を示す。「柵倉式」の残映も踏まえておきたい様相である。その中で、5の大型深鉢は土器片注記が遺構名のみで、出土位置が不明瞭であった。17号住に帰属する可能性もあるが、検討を要する。

所 見：拡張痕跡を持つ住居跡である。床面ほぼ中央に炉跡が検出され、6基の柱穴と壁周溝を見ることが出来る。出入口埋塞は無かったが、該期住居跡の典型的な形態を示す。時期は中期後葉中頃と判断し、重複する17号



第94図 51区20号住居跡出土遺物(1)



第95図 51区20号住居跡出土遺物(2)

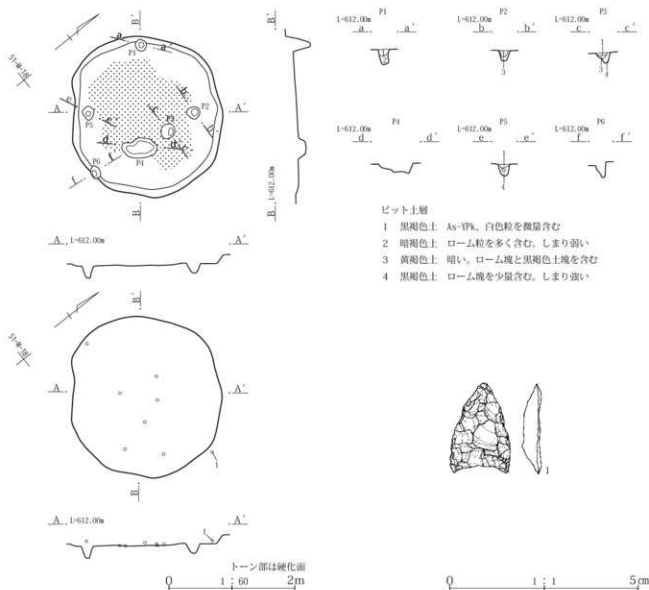
住に先行する位置を与えた。また、後述する22号住に乗る層位を観察した。

51区21号住居跡(第96図 PL.10-89)

位置:調査区南東部で調査された小型の住居跡である。グリッドは51区L-17・18に位置する。周辺は南側への緩

斜面地形にあり、ほぼ平坦地形といえよう。

経過:軟質ローム上層である黄褐色土で確認・検出をした。ローム漸移層調査後の検出である。遺物の出土も少なく、お跡を見ないことから土坑、竪穴状遺構としての位置付けも考えられたが、床面中央部に著しい硬化面をみたため、住居跡として調査を進めた。



第96図 51区21号住居跡・21号住居跡出土遺物

規模：不整形円の平面形を呈し、規模は径約2.5mを測る小型住居跡である。深さは約23cmを測り、北側から東側にかけて明瞭に壁の立ち上がりが出た。

重複：257坑、259坑が重複する。いずれも本住居跡確認前の調査で得られた土坑である。257坑は中世～近世の所産で、おそらく本住居跡を切る新旧関係と思われる。また両土坑とも本住居跡床面や確認面まで達していなかった。

床面：軟質ローム上層の黄褐色土を地床とする。ほぼ平坦面を築き、中央部分が硬く締まっていた。

施設：炉跡、壁周溝を見ないが、ピット6基を確認した。このうち配置、規模からP1～P3・P5・P6が柱穴に相当すると思われるが、やや小型であり、東壁にP6に対応する柱穴が見られないことから、確定はできない。

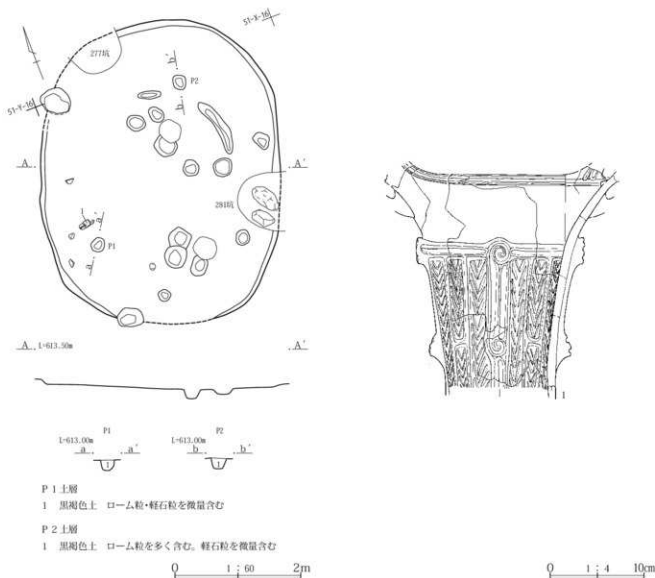
遺物：出土遺物は石器片が少量出土した。土器片は見られず、東壁外で出土した石鏃1点を図示した。

所見：発掘調査では床面上に広がる硬化面から住居跡としたが、平面規模も小型で、炉跡を見ないことから竪穴状遺構としての位置付けも可能である。時期も不明である。

51区22号住居跡 (第97図 PL.10-89)

位置：調査区中央西部の52区との境で調査した。51区X・Y-14～16グリッドに位置する。周辺は緩やかな傾斜地形が南東へ広がり、ほぼ平坦地形といえよう。

経過：重複する20号住居跡後に検出した。北側から東側はローム漸移層下面を確認面としたが、それ以外は20号住居との重複部分であり、軟質ローム上層を確認面とし



第97図 51区22号住居跡・22号住居跡出土遺物

た。

規模：長軸長を北北東に持つ楕円状の平面形を呈し、平面規模は約4.8×3.9m、深さは約30cmを測るが重複部分が多く、遺存度は良くない。

重複：20号住床面下で検出されたため、本住居跡が古い。また、184坑・277坑・279坑・281坑と重複するが、調査では新旧は把握できず、出土遺物からも明確には判断できなかった。184坑は中世～近世と考えている。

施設：炉跡、壁周溝を見ず、ピットを床面上で検出した。いずれも、浅く柱穴としての妥当性は低い。規模等から柱穴に相当する例を幾つか見たが、多くは重複する20号住に帰属するものと判断した。

遺物：床面南東部に深鉢1個体(1)が出土している。それ以外は、本住居跡出土遺物としては明瞭ではなく、

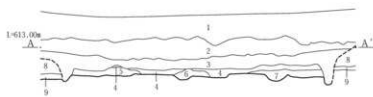
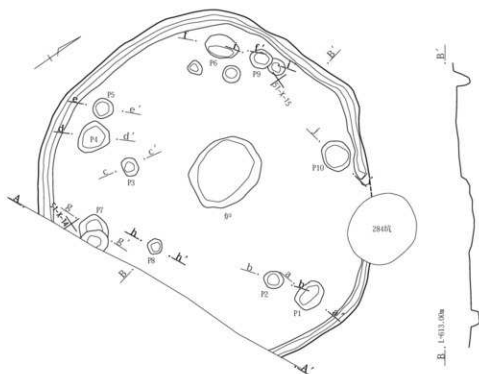
確定できなかった。

所見：重複する20号住下で検出された竪穴状遺構に近い住居跡である。出土土器1個体から、中期後葉中頃と判断できるが、20号住との時期差は顕著ではない。

51区23号住居跡 (第98・99図 PL.10・90)

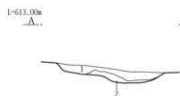
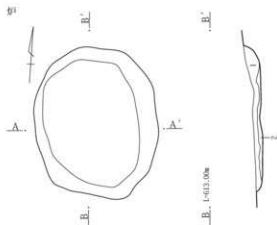
位置：調査区中央南西部で調査された。南側を調査区域外に延ばし、北西側では、17号住、20号住、22号住が近接する。51区W-X-13～15グリッドに位置する。周辺は南東への緩やかな傾斜地形が広がり、ほぼ平坦地形といえよう。

経過：ローム漸移層下層の暗褐色土を基調として確認・検出した。283坑や284坑と共に平面形を確認し、炉跡、床面、壁周溝を検出したため、住居跡として確定した。



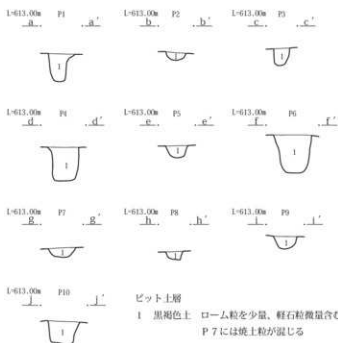
23号住居層

- 1 表土 耕作上、しまり著しく弱い
- 2 黒褐色土 軽石粒を微量含む
- 3 黒褐色土 軽石粒を少量含む
- 4 暗褐色土 ローム塊と黒褐色土塊からなる
- 5 暗褐色土 ローム粒を少量含む
- 6 暗褐色土 ローム粒を多く含む
- 7 暗褐色土 ローム粒を含む
- 8 暗褐色土 基礎層である漸移層
- 9 黄褐色土 基礎層であるローム層



9号住居層

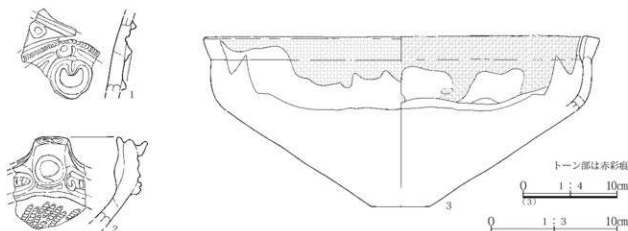
- 1 黒褐色土 焼土粒を含む、ローム粒微量含む
- 2 黄褐色土 黒褐色土塊を少量含む



ピット土層

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量、軽石粒微量含む
P7には焼土粒が混じる

第98図 51区23号住居跡



第99図 51区23号住居跡出土遺物

規模：南側を調査区域外に延ばすため、全容は把握できないが、主軸を北西に向けた六角形を平面形とする。平面規模は径約5.6m、深さ26cmを測る。

重複：住居跡との重複は見られない。283坑と284坑が重なる。284坑は出土遺物から、本住居跡を切る新旧が把握された。

床面：軟質ローム層上層の黄褐色土を地床とする。ほぼ平坦面を築くが、小規模な凹凸を見る。硬化面は炉跡周辺と北側に広がるが、顕著では無い。

施設：炉跡、壁周溝、ピット10基を床面上で検出した。炉跡：床面中央やや北西寄りに地床炉を設ける。楕円状の掘り込みを持ち、主軸を北に向ける。平面規模は約117×86cmで、深さは17cmを測る。断面形は浅い皿状を呈し、焼土の堆積はやや少ない。

壁周溝：検出された床面壁下は全周する傾向を見せる。北東側で途切れる様相を見せるが、重複する284坑の影響と思われる。

柱穴：10基のピットのうち、規模・配置から柱穴に相当する例は、P1・P4・P6・P7・P10が挙げられる。P7がやや浅いが、調査区域外に延びるピットが重複しており、これと併せて柱穴の可能性が高い。おそらく調査区域外に1基の柱穴が予想され、6基の柱穴配置が想定されよう。P6を奥壁柱穴として位置付け、P4、P10、P7は住居平面形の各隅にあたる箇所での検出と判断できよう。

遺物：出土遺物量は少ない。3点を図示し得た。1は勝坂1式で、P7埋土中の出土である。流入と捉えた。2・3は埋土下位で破片状態の出土であり、居住に伴う例ではない。2は大木8b式深鉢口縁部突起、3は加曾利E1式の浅鉢である。

所見：六角形の平面形を呈する住居跡である。南側が未調査で全容も捉えられず、加えて出土遺物量も少ないため、詳細は把握できない。時期は出土土器2・3から中期後葉前半段階の所産と捉えたい。

51区24号住居跡（第100図 PL.11・90）

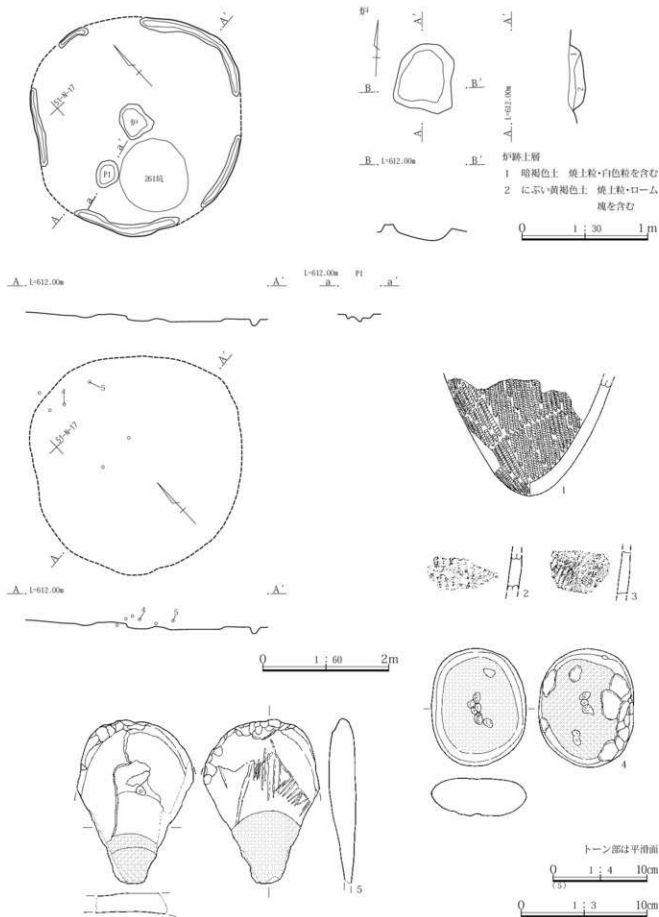
位置：調査区南東部で調査した。51区M・N-16・17グリッドに位置する。周辺は南側への緩斜面地形にあり、ほぼ平坦地形といえよう。また基礎層としての、黒色土～黒褐色土上の堆積が厚く、そのため平面形の確認に苦慮した地点である。

経過：ローム漸移層下位で確認、検出した。少量ながら遺物の出土がまとまり、軟質ローム上位において、炉跡、壁周溝を見たことから、住居跡として調査を進めた。規模：明瞭な壁の検出に至らず、壁周溝で得られた規模は約3.6×3.4mの不整方形を平面形とする小型住居跡である。平面形長軸から主軸を想定し、北東を向く方位を導き出した。

重複：住居跡相互の重複は無い。床面南西から炉跡に接して261坑が重なる。261坑からは土器片ながら諸儀b式が出土しており、本住居跡を切る新旧が示唆された。

床面：炉跡が確認された軟質ローム上面を床面と捉えた。ほぼ平坦面を築くが、凹凸が顕著だった。硬化面は無く、全体に軟質な印象を得る。

施設：炉跡、壁周溝、ピット1基を床面上から得た。炉跡：床面ほぼ中央に地床炉が設けられる。長軸を北に向けた平面形は不整方形で、約55×45cmを測る。深さは約10cmで浅く皿状の断面形を示す。焼土粒が堆積していた。



第100図 51区24号住居跡・24号住居跡出土遺物

壁周溝：断絶をもって5箇所を確認された。おそらく全周する様相を示す。

柱 穴：ピット1基を得たが、深さ4cmと浅く柱穴とは確定できない。対応するピットも検出が果たせず、良好な例ではない。

遺 物：出土遺物は少量で、5点を図示したのみである。残念ながら土器片の出土位置が記録化されておらず、いずれも埋土下位出土とした。1は尖底深鉢底部である。2・3も繊維を含み1と同様に前期初頭に比定されよう。あるいは、塚田式であろうか。石器は、磨石(4)、石皿片(5)が出土している。5は扁平で中央部にかけて磨面がある。緑色片岩製で搬入品と見なせよう。

所 見：本遺跡で最も古い時期である前期初頭の住居跡である。林地では、上原1遺跡でまとまった集落が報告されている。地点の差はあるが、本住居跡の調査は、該期集落の分布を示しており、極めて重要である。

51区25号住居跡(第101・102図 PL.11・90・91)

位 置：調査区南側で調査した。51区Q・R-15・16グリッドに位置する。周辺は南側への緩斜面地形にあり、ほぼ平坦地形といえよう。しかしながら当地点は、黒色土～黒褐色土の堆積が厚く、そのため平面形の確認に苦慮した地点である。

経 過：黒褐色土中での確認・検出である。遺物が比較的集中したため、住居跡を想定し、サブレンチを東西に設定し、平面形の把握に努め、炉跡を検出したため住居跡として調査した。

規 模：大型木根の抜痕坑が群在する箇所でもあり、そのため南側を中心として壁が逸失しており、全容は把握できなかった。残存部の推定からやや小型の円形住居跡を捉えた。主軸方位を炉跡方位とし、北北西を向く。平面規模は径約3m、深さは28cmを測る。遺存度はやや悪い。重 複：東側を26号住が重複する。重複部分が狭く、土層軸からずれてしまったため、新旧は不明であるが、出土土器からの判断では、本住居跡が新しい。

床 面：ローム漸移層まで掘り込み、暗褐色土を基調とするが、黄褐色土を全面に貼床していた。貼床構成土は薄く、ほぼ平坦面を築くが、顕著な硬化面は見られなかった。

施 設：炉跡を確認した。壁周溝、ピットなどは床面検

出面が暗褐色土のため、検出できなかった。また、貼床構成土除去後、軟質ローム上で数段の床下様相が把握できた。

炉 跡：床面中央に設けられる石囲い炉である。不整形の掘り込みを持つ。石囲い規模は径約56cmで、深さは使用面まで約4cmを測る。主軸方位はN-24°-Wであり、住居跡長軸と差が見られる。石囲いは北辺と東辺に残り、南辺と西辺は中型自然石が散乱するのみである。東辺の残りが良く、自然石が並列する様相が把握された。

遺 物：床面北側を中心に平面分布が見られた。確認面が低いため、埋土下位～床直上の出土といえよう。1は床面東側の床直上でまとまった出土を示す。縄文施文のため、加曾利Ⅱ式併行と考えたが、信州系の影響が強い。同様に2～4・6・8も信州系の縄文施文土器と位置付けた。5・7は「柵倉式」と判断したが、斜位短沈線の間隔が広く、やや新しい様相を示す。出土土器として、石籤(9)を挙げた。

所 見：石囲い炉と壁の立ち上がりのみで住居跡とした。やや小型円形の平面形を呈し、26号住と重複する。本住居跡を新しく見たが、26号住出土遺物は希薄であり、問題は残る。時期は出土土器から、中期後葉前半～中頃としたい。

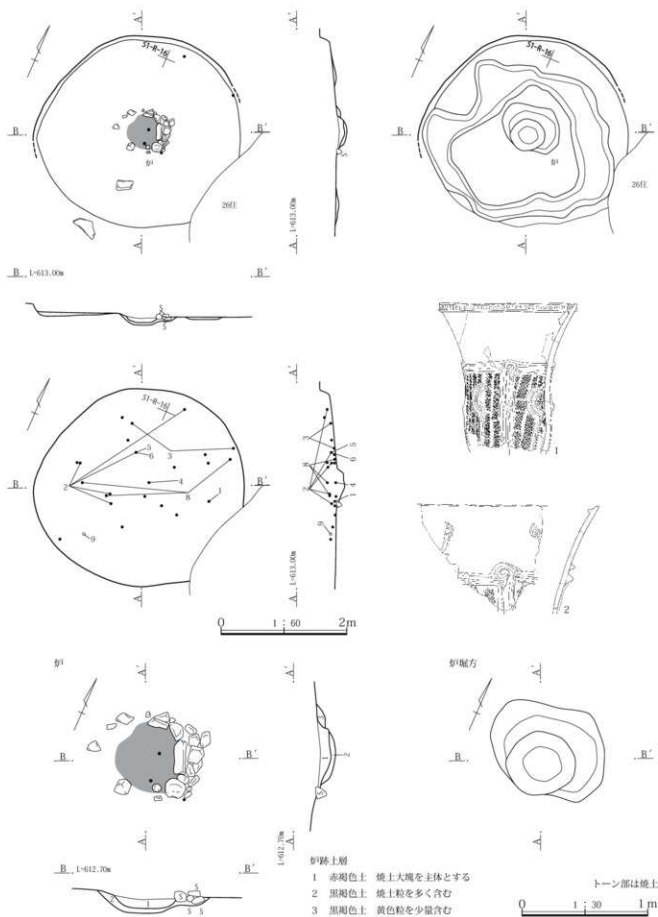
51区26号住居跡(第103・104図 PL.11・91)

位 置：調査区南側で調査した。前述の25号住と西壁を接して検出されており、51区P・Q-15・16グリッドに位置する。周辺は南側への緩斜面地形にあり、ほぼ平坦地形であるがやや傾斜が強くなる地点である。当地点は、黒色土～黒褐色土の堆積が厚く、そのため平面形の確認に苦慮した。

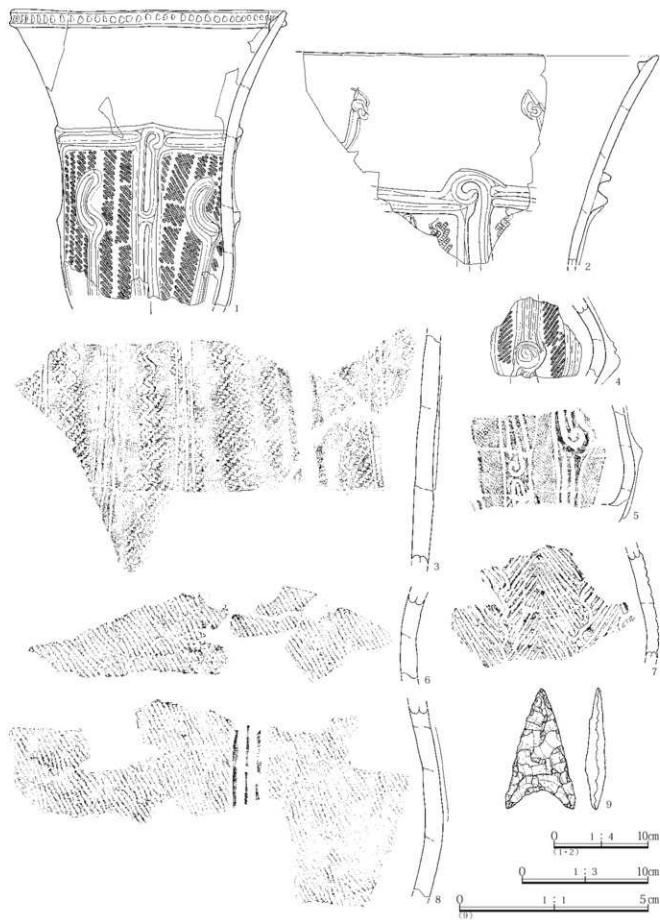
経 過：黒褐色土で確認、検出した。少量ながら遺物の散布が見られ、黒褐色土下位で炉跡を検出したため、住居跡として調査を進めた。土層観察用のベルトを設定し、壁の検出を試みたが、住居跡東側から南側にかけては、傾斜地形が強く、そのため壁の検出が果たせなかった。さらに、西壁は大型木根の抜痕坑のため、掘乱されていた。

規 模：南側壁は逸失しているため、炉跡と北側壁の距離を考慮して、南側範囲を推定した。主軸は炉跡長軸を優先し北西を向く。平面形はおそらく不整形円で、規模

第3章 発見された遺構と遺物

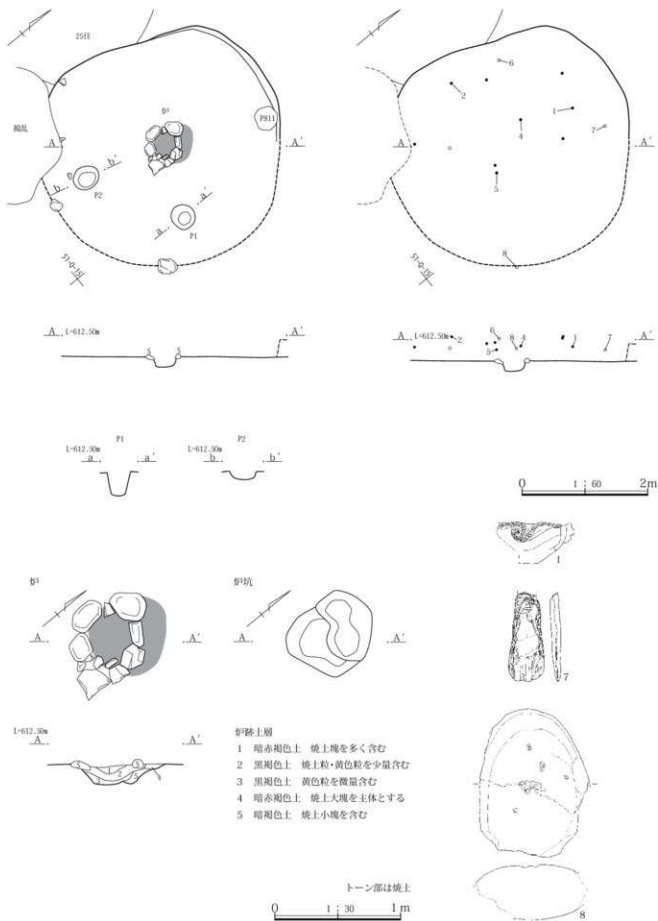


第101図 51区25号住居跡

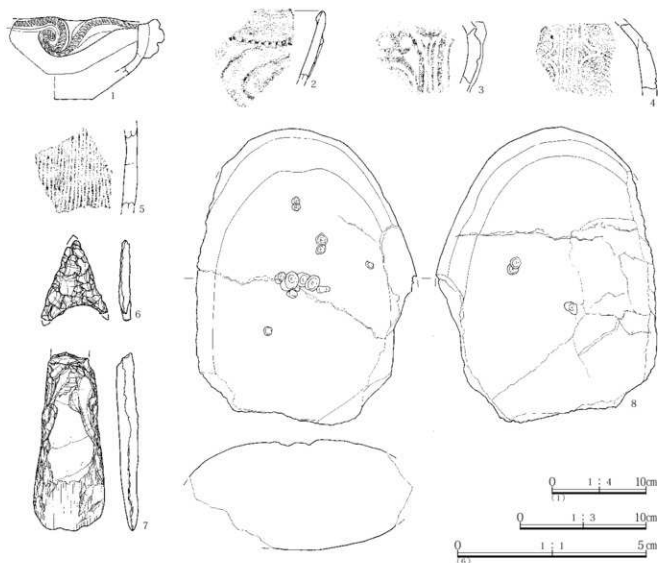


第102図 51区25号住居跡出土遺物

第3章 発見された遺構と遺物



第103図 51区26号住居跡



第104図 51区26号住居跡出土遺物

は約3.9×3.7m、深さ25cmを測る。土層ベルトの観察では、50cm以上の深さを見たが、黒褐色土中の掘り込みであり、確定性に乏しい。

重複：西側壁を25号住と接する以外は、重複遺構は見られなかった。

床面：黒褐色土中に構築された地床である。ほぼ平坦面を築くが、これはか跡が検出された面を優先したためであり、確定的ではない。硬化面は見られなかった。

施設：か跡、ピット2基を床面上で検出した。

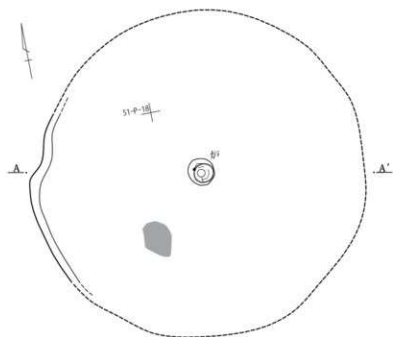
か跡：床面中央に小規模な石囲いかを設ける。不整形の掘り込みを持ち、焼土塊が多く堆積していた。石囲いの主軸はN-53°-Wで、平面規模は約95×57cmを測り、深さは使用面までが2cmを測り、極めて浅い。

柱穴：P1・P2を検出しているが、規模・配置で妥当性のある例はP1のみである。北壁際にもピットが重なるが、

調査時に住居跡に帰属しておらず、深さも浅いため、除外している。

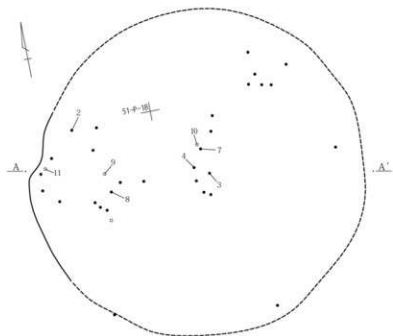
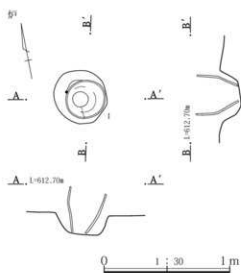
遺物：散漫な出土状態であり、8点を図示した。すべて、平面形確認段階で得た例であり、居住に伴う遺物ではない。土器片は、中期中葉～中葉末に比定される1・3～5、中期末葉の2があり時間幅が見られる。石器は石鏃(6)、打製石斧(7)、台石(8)を見る。台石は住居跡推定線南限で出土している。

所見：南半を逸失し全容も把握できなかった住居跡である。石囲いか自体は良好な遺存度であったが、出土遺物も少なく、居住に伴う例は見られなかった。時期は、2が中期末葉であるが、混入と判断し、1・3～5から中期中葉と考えた。



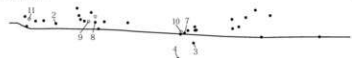
A. L=613.00m

A.



A. L=613.00m

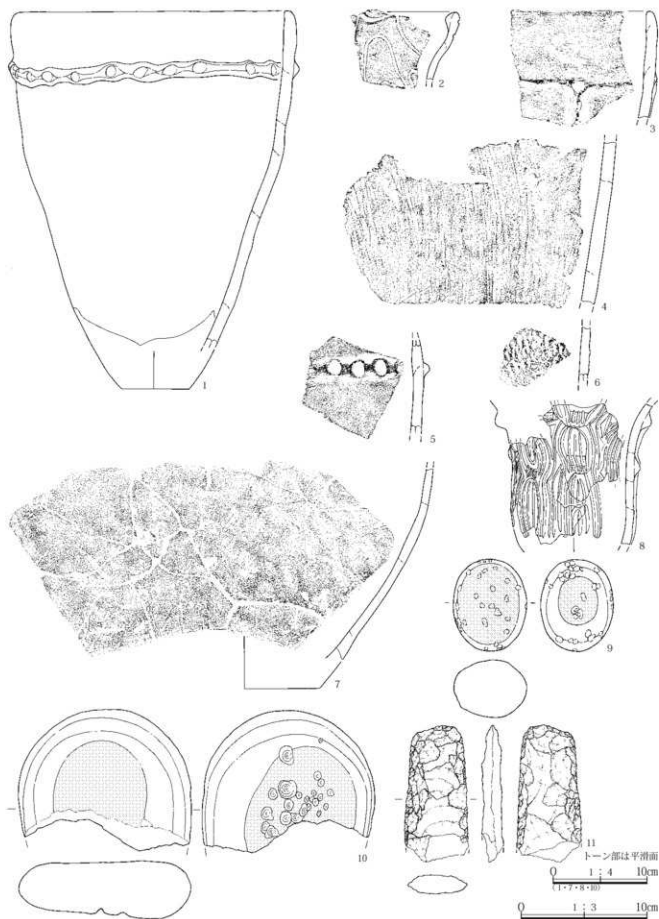
A.



トーン部は黄土



第105図 51区27号住居跡



第106図 51区27号住居跡出土遺物

511区27号住居跡 (第105・106図 PL.11・91・92)

位置：調査区南側で調査した。51区0-P-17・18グリッドに位置する。周辺は南側への緩斜面地形であるが、東側から南側への傾斜がやや強い。当地点は、黒色土～黒褐色土の堆積が厚く、そのため平面形の確認が困難であった。

経過：黒褐色土で確認、検出作業を行った。周辺は木根が夥しくはびこり、平面形の把握が困難だった。そのため、西側の壁の立ち上がりを見る事ができたが、それ以外は、微少な痕跡を得るのみで、平面形は判然としなかった。調査着手時より、炉跡として埋裏が検出されたため、住居跡として調査した。

規模：埋裏炉と西壁を基準とし、径約5.3×5.1mの円形の平面形を推定した。深さは西壁付近で28cmを測るが、遺存度は良くない。

重複：住居跡相互の重複は無く、北西壁に298坑が接する。新田は不明である。

床面：炉検出面を重視した床面検出である。黒褐色土を地床とする。木根の攪乱が多く、硬化面などは確認できなかった。

施設：炉跡、焼土を床面上で検出した。壁周溝、ピットは確認できなかった。

炉跡：床面中央に埋裏炉を見る。円形の掘り込みを有し、中央に底部を欠いた深鉢を正位で埋置する。埋裏内及び周辺には少量の焼土の堆積を見たため、炉跡と判断した。

焼土：床面南西部に約64×46cmの範囲で小型の焼土塊がまとまる。掘り込みを持たず、焼土の散布と捉えた。

遺物：出土遺物は少なく、11点を図示した。称名寺式を主とし、三十稲場式体部破片(6)も作出する。分布としては、埋裏炉(1)とその周辺にまとまる。3・4は炉掘り込みより出土している。7は炉北側で石皿(10)の下位に接していた。その他は西壁際周辺で埋土下位の出土で、「焼町類型」(8)は混入であろう。

所見：埋裏炉、出土土器の時期ならば、敷石住居跡を構築するが、周辺には敷石は見られなかった。円形の平面形を推定したが、検討を要しよう。柱穴もなく、住居跡としての位置付けに疑問が残る。時期は後期初頭と判断した。

511区28号住居跡 (第107～112図 PL.12・92～94)

位置：51区X・Y-17～19、52区A-17～19グリッドに位置する。調査区北西寄りの52区に接する遺構密集地点南西で調査された。周辺はほぼ平坦地形を呈し、そのため住居跡や土坑が群在する様相を示す。

経過：南北に分割調査された地点である。北側が先行し、南側との境界に空白部が生じてしまった。また、北側調査時には、本住居跡北端を1号竪穴状遺構として調査しており、南側の大半を調査した際に住居跡として位置付けられた。黒褐色土中の確認、検出である。平面形確認時より出土遺物量が多く、住居跡を想定して調査にあたった。

規模：主軸を北西に向けた楕円状の平面形を呈す。平面規模は約6.2×5.5mで深さは約40cmを測る。やや大型の住居跡で壁の立ち上がりもしっかりしており、良好な遺存度を示す。

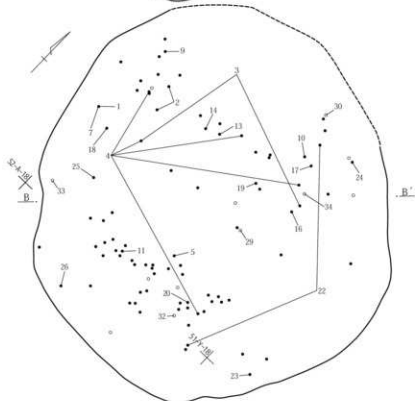
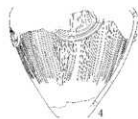
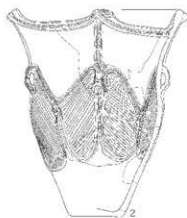
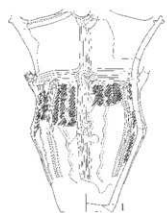
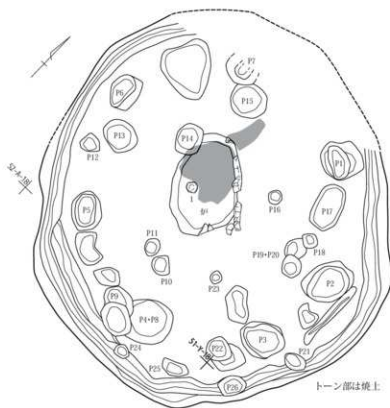
重複：住居跡相互の重複は無く、周辺は土坑群、ピット群が群在するが、本住居跡との重複は見られなかった。単独の検出といえよう。

床面：軟質ローム上層の黄褐色土を地床とする。凹凸は見られるものの、ほぼ平坦面を築く。硬化面は炉跡周辺で顕著だった。

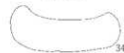
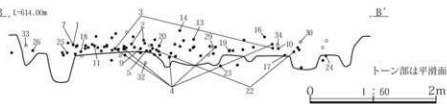
施設：炉跡、壁周溝、ピット26基を床面上で検出した。炉跡：床面中央やや北西寄りに石囲い炉を設ける。平面規模は、約155×107cmで極めて大型である。深さは約9cmを測る。東辺に炉石の角礫が並ぶが、他辺には炉石は見られなかった。また、西壁寄りに炉内土器を埋置している。深鉢底部(1)である。不整形の掘り込みを持ち、各辺に炉石を設置した溝状の小坑を検出した。各辺にも当初は炉石が設けられていたと判断できる。炉内は焼土が堆積していた。

壁周溝：北端の1号竪穴遺構に相当する壁下では、検出に至らなかったが、ほぼ全周する様相を見せる。また東壁下と南壁下内縁にも別の溝が確認された。おそらく拡張前の壁周溝であろう。

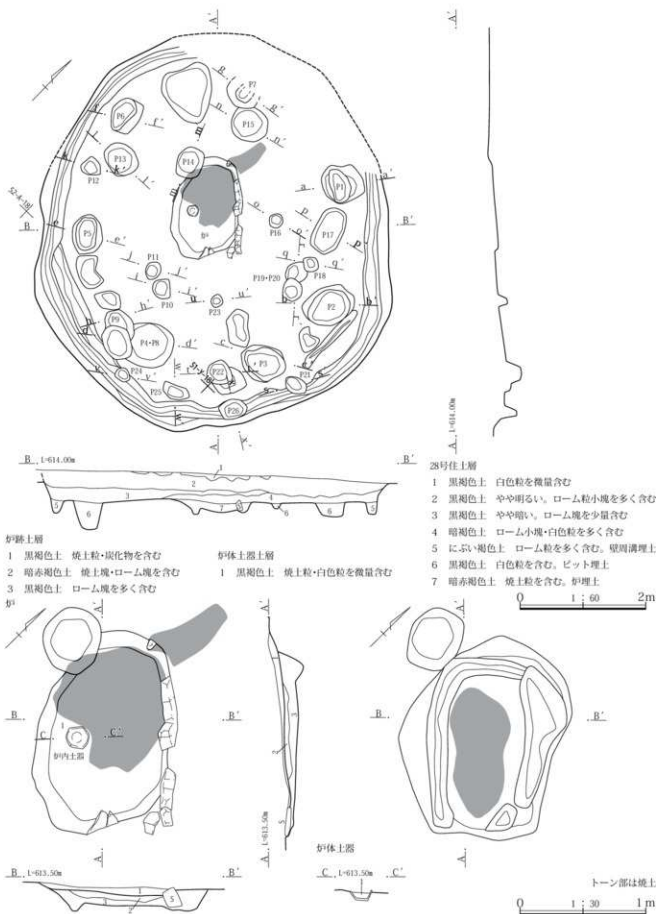
柱穴：26基のピットのうちの、柱穴として規模・配置から相当な例は、P1～P9である。P4・P8・P9は重複しており、拡張に伴う柱の再設定であろうか。柱穴配置から、七角形の平面形が想定されるが、P3とP4は出入口部の柱穴と捉え、変則六角形と考えた。



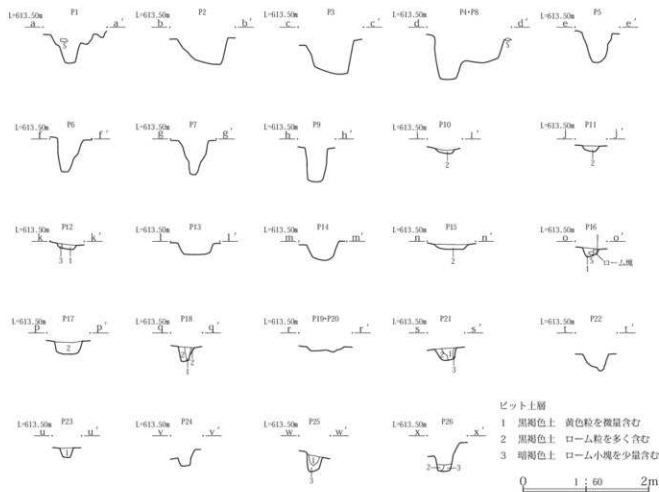
B., 1:614.00m



第107図 51区28号住居跡(1)



第108図 51区28号住居跡(2)



第109図 51区28号住居跡(3)

遺物：床面直上～埋土下位の出土を主とする。平面的には全面から出土しており、量も多い。34点を図示した。縄文を施す加曾利Ⅱ式は少なく、1・5・6が見られる程度である。その他は、信州系で「棚倉式」直後の土器群(2～4・7～17)や曾利式(18～21)が見られる。浅鉢(23)は「郷土式」に近い文様構成である。24は加曾利E式系の浅鉢である。石器は、石鏃(27)、石錐(28)、打製石斧(29～31)、磨石(32)、凹石(33)、石皿(34)を図示した。34は小型ながら完形で縁の様相も良好である。

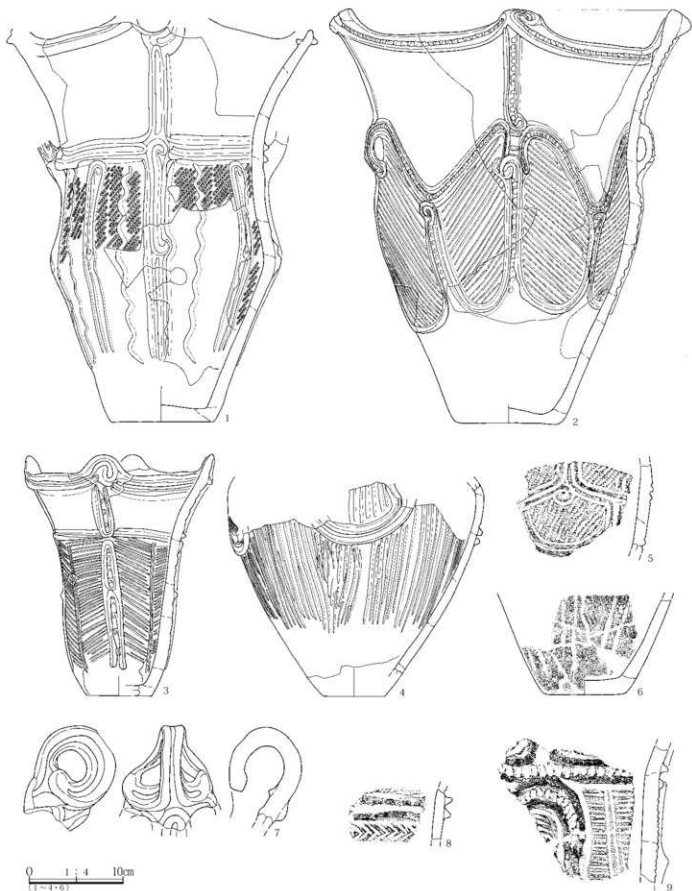
出土状態では、1・3は西壁下でまとまった出土を見せる。なお、炉内土器である深鉢底部は、西壁際で出土した1の口縁～体部破片と接合しており、住居廃絶と遺物廃棄の時間差に隔たりが少ないと考えられた。検討を要しよう。

所見：分割調査のため、北端の一部が不明瞭になってしまった。軸長6mを超えるやや大型の住居跡で、大型の炉跡、拡張を示す壁周溝、良好な柱穴配置を得ること

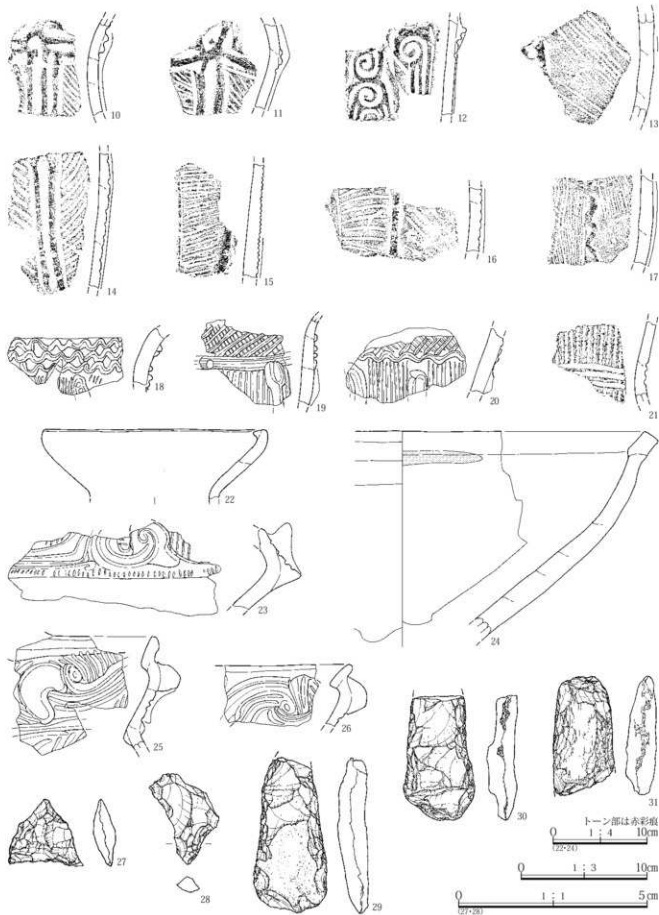
ができた。出土土器は信州系を主とするが、加曾利Ⅱ式との共伴も果たす。炉内土器と埋土中の個体が接合し、住居廃絶と埋土堆積～遺物廃棄の関係性に問題が残る。さらに検証が必要であろう。

52区28号住居跡出土土器(第112図35)

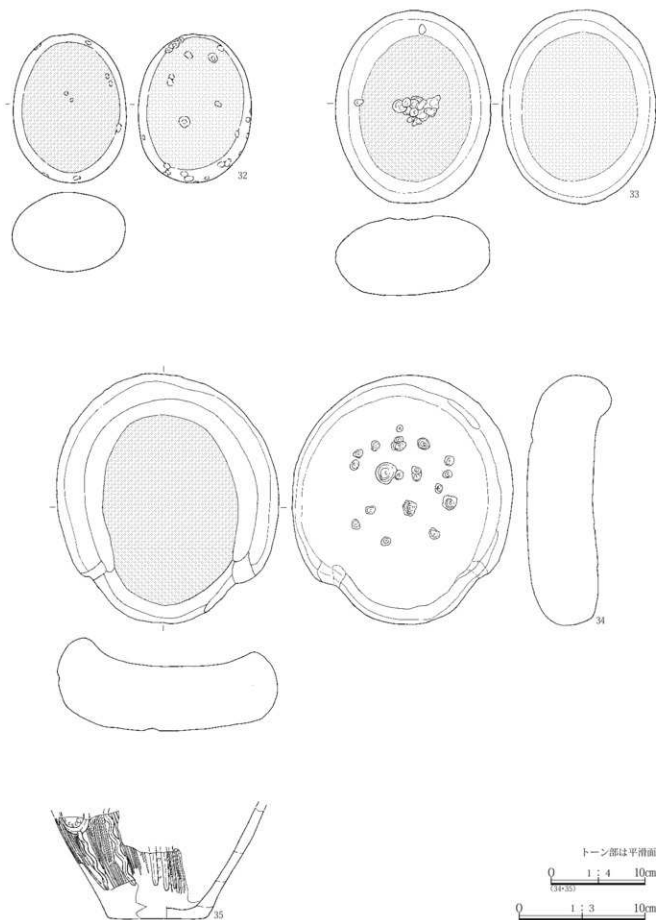
52区では18軒の住居跡が調査されている。しかしながら、資料として残された写真記録と遺物に52区28号住居跡がある。当初は52区18号住居の記載ミスかと考えたが、18号住居出土土器とは時期差が認められた。また、土器注記の取り上げ番号は№83であり、52区18号住居出土点数以上の数字である。おそらく51区28号住居に帰属すると思われるが、確定性に乏しいため、参考資料として別に掲載する。



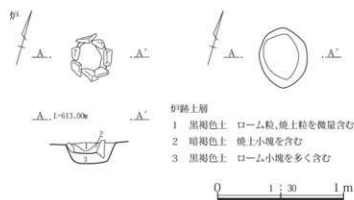
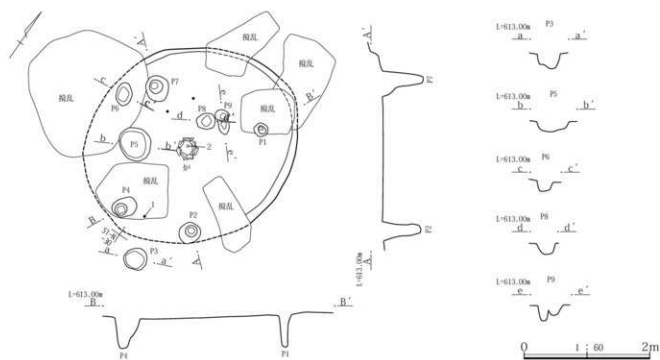
第110図 51区28号住居跡出土遺物(1)



第111図 51区28号住居跡出土遺物(2)

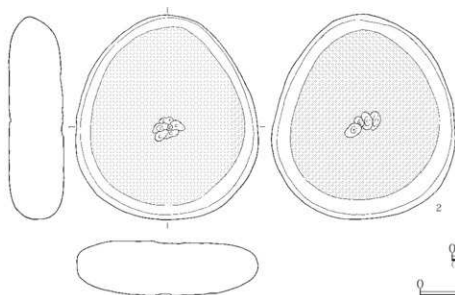
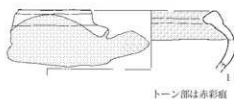


第112図 51区28号住居跡出土遺物(3)



如跡上層

- 1 黒褐色土：ローム粒、焼土粒を微量含む
- 2 暗褐色土：焼土小塊を含む
- 3 黒褐色土：ローム小塊を多く含む



第113図 51区29号住居跡・29号住居跡出土遺物



第114図 51区30号住居跡

3号集石土層

- 1 赤褐色土 焼土層。遺灰が見られる
- 2 赤褐色土 焼土塊を多く含む
- 3 オリーブ褐色土 焼土塊・ローム塊を含む
- 4 オリーブ褐色土 ローム小塊を多く含む

トーン部は焼土

0 1:40 1m

51区29号住居跡 (第113図 PL.13-94)

位置：51区M-23グリッドに位置する。調査区東部にあたり、周辺は緩やかな南東斜面だが、ほぼ平坦地形である。

経過：軟質ローム上面で確認、検出した。周辺は抜根による攪乱坑が多く、そのため平面形の確認などに苦慮した。この攪乱坑と南東斜面地形のため南側壁は遺失しており、明瞭に検出できなかった。

平面形が小規模なため、調査時は2号竪穴状遺構とされていたが、整理段階で住居跡とした。

規模：平面形は竪跡と北側壁、各ピットの配置から南側を推定した。主軸方位を竪跡に重ね、北西を向く円形の平面形を呈す。平面規模は約3.4×3.1mで小型である。深さは約11cmを測り、浅く遺存度は悪い。

重複：単独の検出である。攪乱坑の破壊が著しかった。

床面：攪乱坑は床面にまで達していたが、強い掘り込みではなく、床面全体像は把握できた。軟質ローム上層の黄褐色土を地床とする。凹凸が多く、僅かに南側へ傾くがほぼ平坦面を築く。硬化面は見られなかった。

施設：竪跡、ピット9基を床面上で検出した。

炉跡：床面中央に小型の石囲い炉を設ける。規模は約31×28cmで極めて小型である。深さは9cm程度である。不整形の掘り込みを持ち、焼土が堆積する。深さは約17cmを測る。

柱穴：9基のピットのうち、P1・P2・P4・P7が規模から柱穴として妥当である。

遺物：出土遺物は少量で、平面形確認作業中の出土である。浅鉢口縁部破片(1)と凹石(2)の2点を図示した。

所見：竪穴状遺構として調査されたが、整理段階で住

居跡に変更した。小型ながら石囲い炉が検出され、柱穴も見られたためである。出土遺物が少ないため、時期は判然としない。浅鉢口縁部破片の様相から中期後葉前半段階が想定されるが、確定性に乏しい。

51区30号住居跡 (第114図 PL.13)

位置：調査区北西部の遺構密集地点にある。3号住と5号住の間で検出した。51区X-20グリッドに位置する。周辺は緩やかな南東斜面であり、平坦地形に近い。

経過：周辺の住居跡、土坑群の中であって、3号集石として調査された石囲い炉である。確認面はローム漸移層上層である。周辺は遺構が密集しており、そのため単独の検出を呈している。

規模：石囲い炉のみの検出で、軸長約54cmの規模を測る。深さは約18cmで浅い。

重複：住居跡本体の平面形が確定できなかったが、3号住、4号住、5号住と重なる。新旧は不明である。

床面：竪跡周辺は確認面の暗褐色土である。おそらく地床であろう。

施設：石囲い炉のみで、対応する壁周溝やピットを検出できなかった。小型の石囲い炉で、周辺を自然礫6石で囲繞する。大型の円礫を主体とし、被熱痕跡も顕著であった。円形の掘り込みを持ち、底面から炉石の痕跡が見出せた。焼土塊の堆積を見る

遺物：竪跡内からも遺物は出土していない。

所見：調査時は、集石遺構として捉えられていたが、石囲い炉を重視し住居跡として報告する。時期は不明である。

52区1号住居跡 (第115～119図 PL.13・14・94・95)

位置：調査区最西端で調査された。52区1・J-12・13グリッドに位置する。周辺は谷地形に近く、南側への緩斜面地形が顕著な地形を示す。

経過：発掘調査着手時、最初に確認・検出した住居跡である。周辺の谷地形の影響から、黒色土の堆積が厚く、平面形の確認は黒褐色土で行った。平面形確認時より遺物が集中し、住居跡の存在が予想されたため、1号住居跡として調査を進め、炉跡、伏襲などが検出されたため、住居跡として確定した。

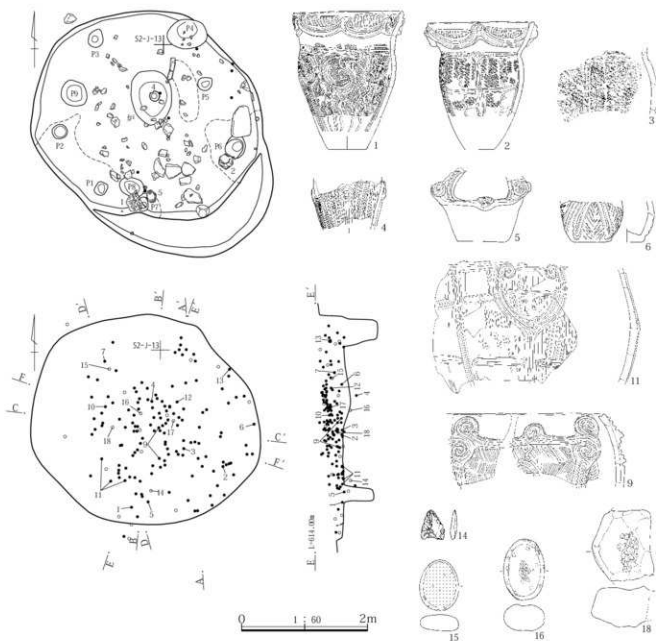
規模：主軸をほぼ北に向けた不整六角形の平面形を呈し、平面規模は約3.7×3.3mを測るやや小型の住居跡で

ある。深さは50cmを超え、良好な遺存度を誇る。

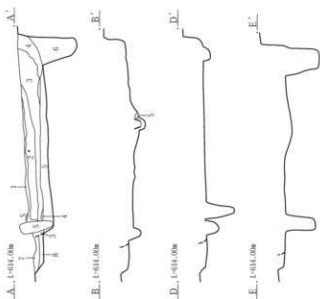
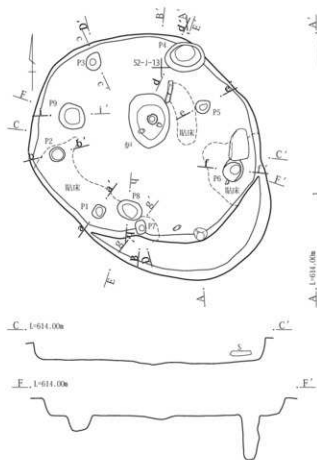
重複：単独の検出だが、本住居跡南東部に浅い住居跡状の落ち込みを見る。住居跡の重複の可能性もある。これは、住居平面形確認時に、遺物の分布が広がるため、本住居跡平面形として調査したもので、後に本住居跡とは別の遺構と判断したものである。

床面：ローム漸移層である暗褐色土を基調に、黄褐色ローム塊を貼床する。炉跡東、東壁際、南西壁際に顕著であるが、炉跡側にも薄く貼床が見られた。硬化面は貼床がなされる3箇所を確認された。ほぼ平坦面を築くが、炉跡周辺にかけて僅かに凹む傾向がある。

施設：炉跡、ピット9基、伏襲、釣り手土器、立石、

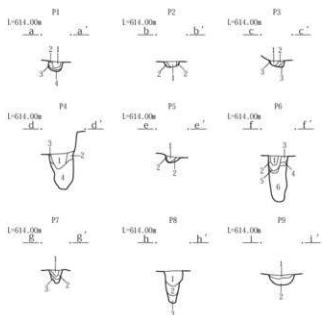


第115図 52区1号住居跡(1)



1号住上層

- 1 黒褐色土 白色粒少量含む。しまりやや弱い
- 2 黒褐色土 As-YPK少量含む。しまり強い
- 3 黒褐色土 白色粒少量含む
- 4 黒褐色土 大型の褐色土塊少量含む
- 5 黒褐色土 黄色粒微量含む。黄褐色粘土による床構成上が下面に点在する
- 6 黒褐色土 P 4 土層
- 7 黒褐色土 As-YPKを含む。しまり強い
- 8 暗褐色土 均質。基盤層土に近似



P 8 土層

- 1 灰褐色土 ローム小塊微量含む
- 2 灰褐色土 ローム小塊少量含む
- 3 灰褐色土 ローム大塊微量含む

P 9 土層

- 1 灰褐色土 黄色粒少量含む
- 2 灰褐色土 ローム大塊少量含む

P 1 土層

- 1 黒褐色土 ローム粒多く含む。軽石、礫含む
- 2 黒褐色土 黄褐色粘土を多く含む
- 3 黒褐色土 軽石含む
- 4 灰黄褐色土 しまり強い

P 2 土層

- 1 黒褐色土 軽石少量含む
- 2 黒褐色土 ローム粒を多く含む

P 3 土層

- 1 黒褐色土 軽石含む
- 2 灰黄褐色土 しまり強い
- 3 灰黄褐色土 ローム小塊含む

P 4 土層

- 1 黒褐色土 軽石含む
- 2 黒褐色土 ローム小塊、礫含む
- 3 黒褐色土 ローム小塊含む
- 4 黒褐色土 ローム粒多く含む。しまり弱い

P 5 土層

- 1 黒褐色土 軽石少量含む
- 2 黒褐色土 ローム大塊含む

P 6 土層

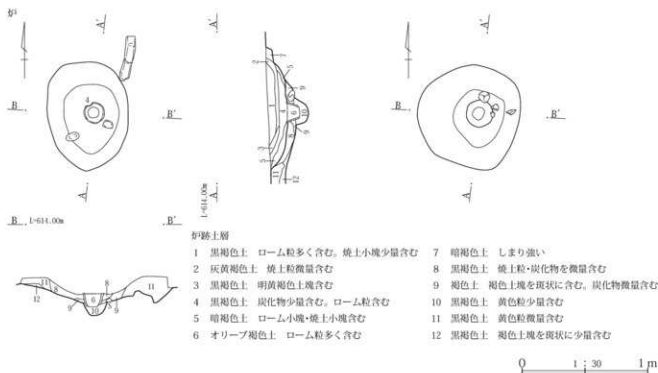
- 1 黒褐色土 軽石、ローム粒含む
- 2 黒褐色土 黄褐色粘土を少量含む
- 3 黒褐色土 軽石含む
- 4 黒褐色土 ローム小塊含む
- 5 黒褐色土 ローム粒含む
- 6 黒褐色土 ローム粒含む

P 7 土層

- 1 黒褐色土 ローム小塊、軽石含む
- 2 黒褐色土 ローム粒含む
- 3 灰褐色土 ローム塊、小礫含む



第116図 52区1号住居跡 (2)



第117図 52区1号住居跡(3)

平石を検出している。

炉 跡：床面中央やや北寄りに地床炉を設ける。不整楕円形の平面形を呈し、平面規模は約80×64cm、深さは16cmを測る。炉北東側には安山岩製の板石が立っており、あるいは炉施設の可能性も想起された。炉床中央には炉内土器(4)が埋置される。深鉢体部のみの残存で、内外面とも被熱痕跡を見る。炉跡は円形掘り込みを下位に持つ。このことから、あるいは石囲いから地床炉への変化も予想されるが、確定的ではない。掘り込み底面には炉内土器の埋置坑が見られる。

柱 穴：9基のピットを検出した。柱穴としての深さに該当する例は、P4・P6・P8があった。P9もやや浅いが柱穴と考えた。4基のピットを柱穴と捉えたが、配意的にはP1～P3も可能性は高い。また、南東隅にもあるいは柱穴を想定することも可能である。

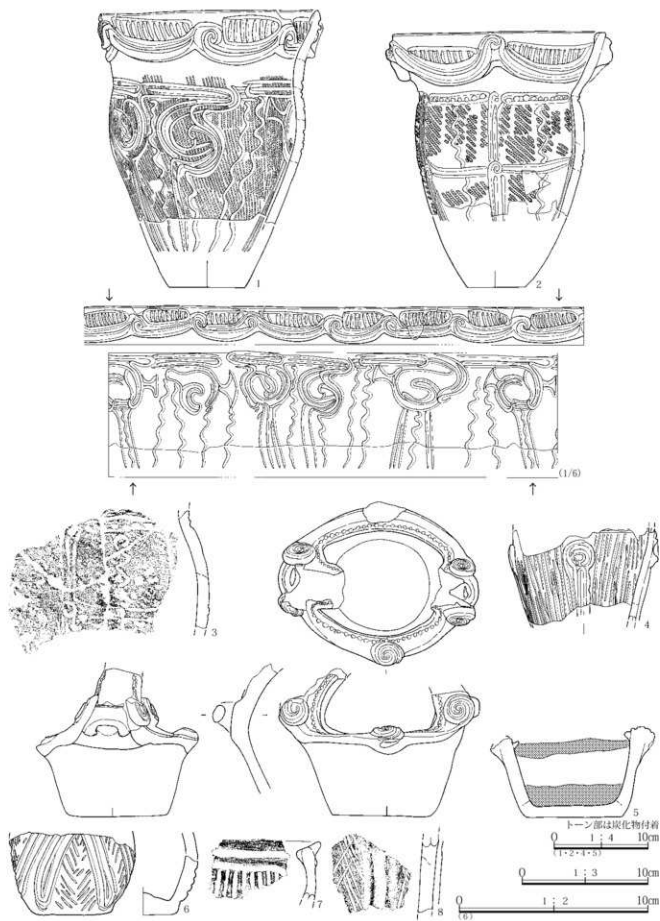
伏 襲：P6南西に接して、伏襲(2)が出土している。体部下半～底部を欠した深鉢が逆位に置かれていた。おそらく、廃屋に伴う所産と考えるが、後述する釣り手土器との関連も検討しなければならない。

釣り手土器：南壁際のP8南東、P7上に釣り手土器(5)と深鉢(1)が出土している。いずれもほぼ床直からの出土で、釣り手土器は上部をやや北へ傾けて、深鉢は横位に出土している。釣り手土器は釣り手部分が、深鉢は

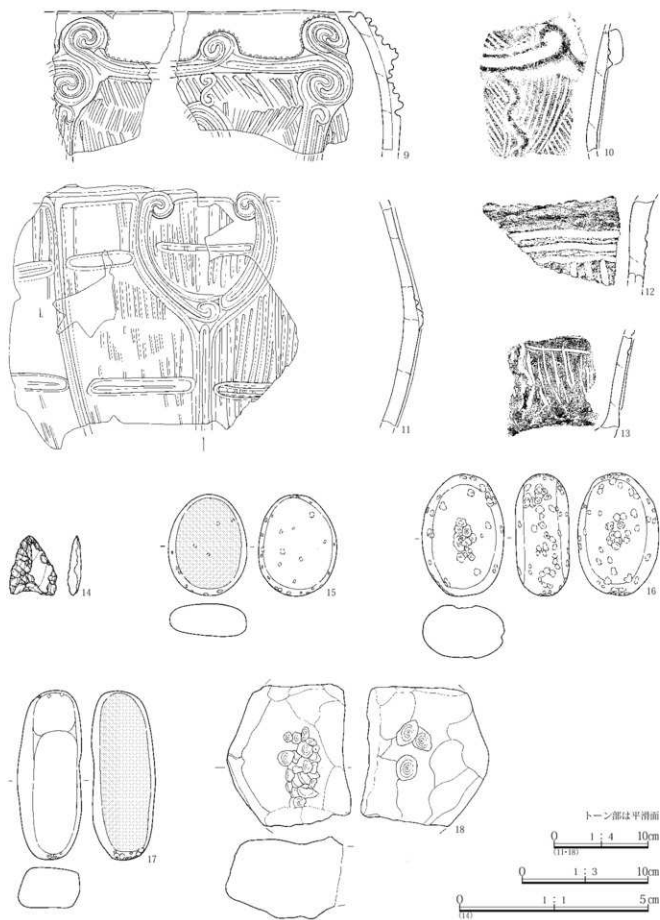
体部下半～底部を欠している。釣り手土器は廃屋儀礼に伴う儀器としての位置付けも知られる。また横位で出土した深鉢も、前述したP6脇の伏襲と同様に体部下半を逸している。あるいは伏襲が横位倒立した可能性もある。立石：南東壁際に立石(20)を見る。長さ約52cm、厚さ約17cmの棒状自然礫で、壁の傾斜に沿って立てられていた。顕著な掘り込みを持たず、廃屋または廃屋後に伴う立石の可能性もある。

平石：東壁際P6北に大型の板石が置かれる。扁平な長方形の板石で約58×28cmの大きさである。床面にほぼ水平に置かれ、居住に伴う床面上の施設として位置付けた。

遺物：埋土中の出土遺物は多く、住居廃絶後の遺物一括廃棄を想起させる。また、南側に大型で扁平な自然石がまとまって出土したが、居住に伴う例ではなく、廃棄時の所産と考えた。居住～住居廃絶時の遺物としては、炉内土器(4)、伏襲(2)、釣り手土器(5)と横位深鉢(1)が挙げられる。1・2は加曾利EⅡ式古段階と位置付け、4は曾利Ⅱ式と考えた。釣り手土器は信州系であろうか。6～13は信州系と思われるが、「桶倉式」～「郷土式」に位置付けられよう。9は棒状の器形を呈し、「唐草文系土器」との関連も深い。石器は石礫未製品(14)、磨石(15)、凹石(16)、敲石(17)、多孔石(18)



第118図 52区1号住居跡出土遺物(1)



第119図 52区1号住居跡出土遺物(2)

が見られ、礫石器が充実する。

所見：小型の住居跡ながら、施設、出土遺物とも充実した様相を示す。中央やや北寄りに地床炉を設け、4基の主柱穴を配す。出土遺物も、炉内土器や伏襲、釣り手土器、立石など、居住～住居廃絶に至る土器相が具体化されている。この中で、住居廃絶時の所産と考えた、伏襲、釣り手土器、横位深鉢、立石の位置を見ると、床面南半に偏る傾向が理解される。主柱穴P6に伏襲、P8に釣り手土器と横位深鉢、南東隅に立石が見られた。同時共存の遺物と捉えた場合、住居廃絶時の儀礼が南壁周辺に集中したのであろうか。

時期は、中期後葉中頃と判断した。

52区2号住居跡（第120～122図 PL.14・95）

位置：調査区西側で調査した。52区G・H-13・14グリッドに位置する。周辺は南側への傾斜がやや強い箇所、さらに基盤礫が多数露出する地点である。

経過：ローム漸移層である暗褐色土中で確認、検出した。遺構確認作業中に石囲い炉を検出し、住居跡として確定した。床面の検出を試みたが、基盤礫の露出が著しく、良好な床面は把握できなかった。

規模：炉跡軸に主軸を求め、西北西に主軸を定めた。炉跡と西側の壁からの距離を踏まえ、径約4.6mの円形住居跡を想定した。深さは残存する西壁付近で約26cmを測る。遺存度は悪い。

重複：北側を中世～近世に比定される土坑群に大きく攪乱される。また、32号坑も東壁周辺を切る。

床面：暗褐色土を地床とするが、基盤礫が露出し、極めて不安定な様相を示す。平坦面が意識されるも、全体的な傾向では、緩やかに南側に傾く。

施設：炉跡、ピット2基を検出した。

炉跡：床面中央に相当する箇所に、大型の石囲い炉を設ける。平面規模は約70×67cm、深さは26cmを測る。基盤礫を掘り抜き、円形の掘り込みを持つ。炉石は、自然石により、四辺を囲む。大型角礫を北・東・西辺に置き、南辺は5石を並べていた。

柱穴：2基のピットを得たが、いずれも柱穴相応の規模を呈さない。配置からは妥当性を帯びるが、確信性に乏しい。

遺物：出土量は少ないが、石器を中心に13点を図示し

た。土器は全て破片出土で、炉跡周辺に集中し、床面相当レベルよりやや浮いた状態で出土している。出土遺物は3の阿玉台Ⅱ式以外は、中期後葉に比定できよう。1・2・4が「郷土式」、5・6が「橋倉式」と捉えられる。時間幅のある出土土器様相である。石器は石鏃？（7）、打製石斧（8・9）、凹石（10）、デイスイト製の石製品（11）、磨石（12・13）を挙げる。11は砥石であろうか。

所見：斜面地形と基盤礫が災いし、石囲い炉と西壁のみの検出に止まった遺存度の悪い住居跡である。平面形など検討を要しよう。時期は中期後葉中頃と考えた。

52区3号住居跡（第123～127図 PL.15・96・97）

位置：調査区西側で調査した。52区E・F-12・13グリッドに位置する。周辺は南側への緩斜面が展開するが、本住居跡は鞍部にあたる平坦地形に占地する。

経過：ローム漸移層上層である暗褐色土で確認、検出作業を進めた。埋土上層より出土遺物が濃密で住居跡の存在が予想されていた。床面、炉、壁の検出に至り、住居跡として確定した。その際、西壁の検出は基盤礫が露出していたため、明瞭な壁が把握できなかった。なお、住居跡中央を南北に水道管が走り、生活用水のため調査に至らなかった。そのため、炉跡東側や埋襲、P4に関しては、半割調査に止まった。

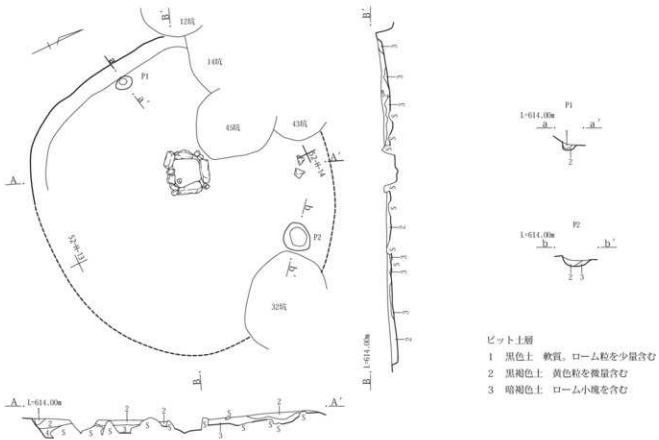
規模：北北東に主軸を持つ不整形円形の平面形を呈す。平面規模は約6.3×5.7m、深さは55cmを測る。遺存度は良好である。

重複：住居跡相互の重複は無い。床面中央やや北東寄りに46坑が重なるが、中世～近世に比定される土坑である。

床面：ローム漸移層下位の暗褐色土を地床とする。その他に基盤礫が露出する箇所もあり、床面としての安定性に欠ける。ほぼ平坦面を築くが、南側へ緩やかに傾斜する傾向が見られた。硬化面は顕著ではなかった。

施設：炉跡、ピット13基、出入口埋襲を床面上で検出した。

炉跡：床面ほぼ中央に地床炉を設ける。主軸を北北東に向けた不整形の平面形を呈し、平面規模は126×94cm、深さは11cmを測る。西辺から北辺にかけて中型の自然礫が散布するが、石囲い炉としての確信性に乏しい。焼土の堆積が顕著だった。掘り込み下位は不整形の平面



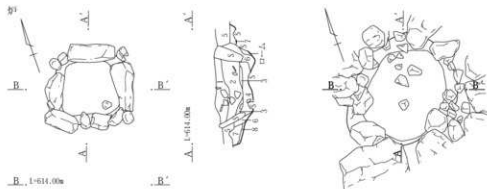
ピット土層

- 1 黒色土 軟質。ローム粒を少量含む
- 2 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 3 暗褐色土 ローム小塊を含む

2号住土層

- 1 黒色土 均質。木の根か
- 2 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 3 黒褐色土 ローム大塊を多く含む
- 4 暗褐色土 ローム粒を含む

0 1 : 60 2m

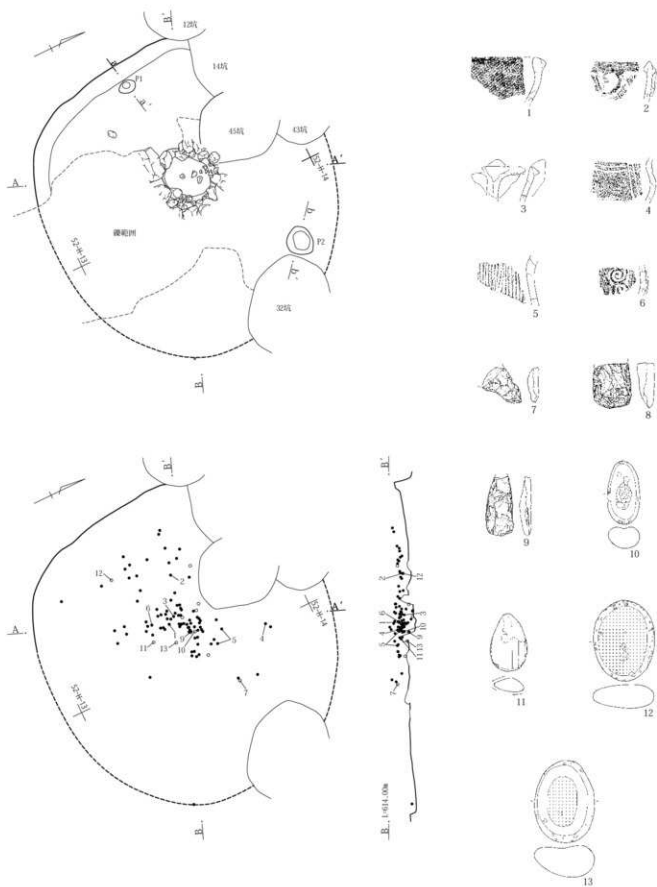


炉跡土層

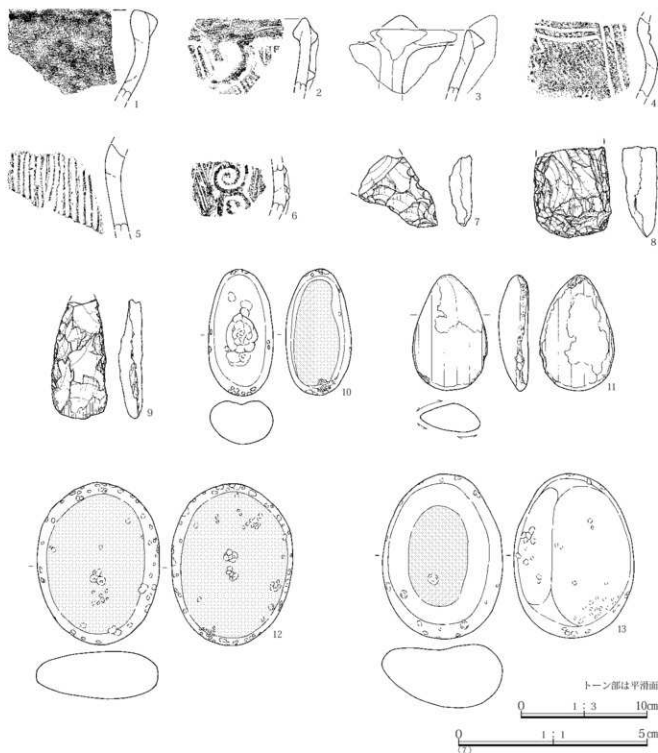
- 1 黒褐色土 礫・軽石を含む。炭化物少量含む。遺物多く含む
- 2 黒褐色土 ローム小塊・礫・遺物含む
- 3 黒褐色土 黄色粒・炭化物微量含む
- 4 黒褐色土 ローム小塊少量含む
- 5 黒褐色土 黄色粒微量含む
- 6 暗褐色土 ローム塊を斑状に含む
- 7 暗褐色土 黄色粒少量含む
- 8 暗褐色土 白色粒・黄色粒微量含む

0 1 : 30 1m

第120図 52区2号住居跡(1)



第121図 52区2号住居跡(2)



第122図 52区2号住居跡出土遺物

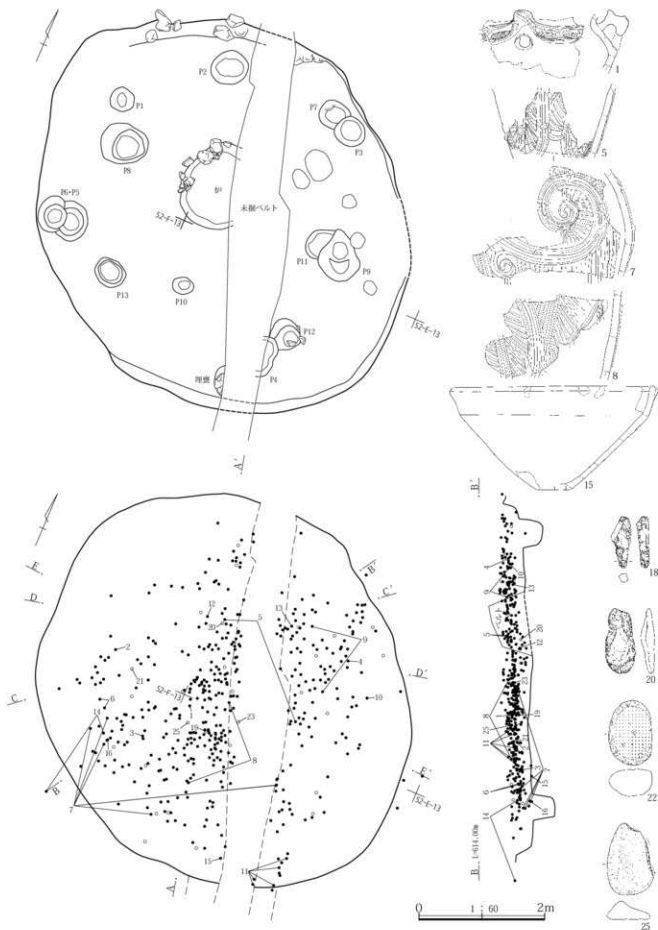
形を示すが、基盤礫の影響であろう。

柱 穴:13基のピットのうち、柱穴に相当する例は規模、配置から、P1～P9を挙げる。このうち、P2を奥壁柱穴と捉え、(P1・P8)、(P5・P6)、(P4・P12)、(P9・P11)、(P3・P7)は、2基1対の柱穴として位置付けたい。おそらく建て替えが行われたのであろう。

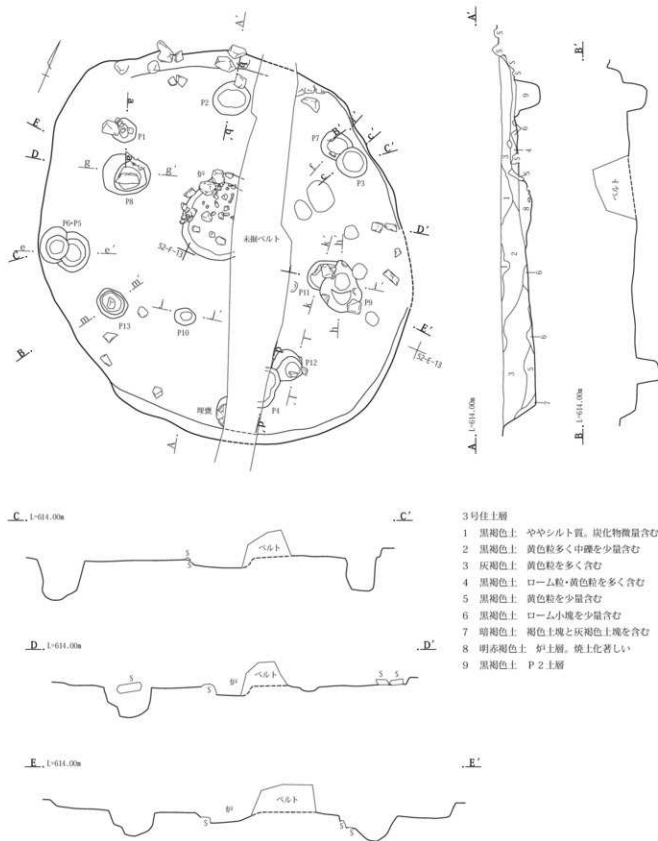
埋 裏:南側壁際に浅鉢(15)が埋置されており、これ

を出入口埋裏と考えたい。水道管による未掘部分のため掘り込みの東半は未調査に終わったが、径50cm程の円形の掘り込みに浅鉢口縁部～底部約2/3が出土している。通常、出入口埋裏に供される器種として深鉢が充てられるが、出土位置を重視して浅鉢による出入口埋裏と判断した。

遺 物:出土遺物は埋土中より多く出土したが、土器は



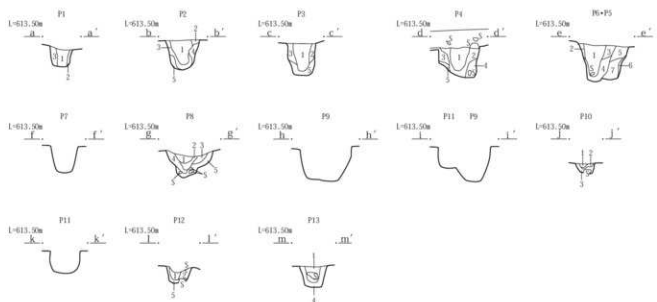
第123図 52区3号住居跡(1)



第124図 52区3号住居跡(2)

0 1 : 60 2m

第3章 発見された遺構と遺物



P 2 土層

- 1 黒褐色土 礫・軽石含む
- 2 黒褐色土 ローム粒少量含む
- 3 暗褐色土 軽石含む
- 4 暗褐色土 ローム大塊・ローム粒含む
- 5 暗褐色土 ローム小塊含む

P 6・5 土層

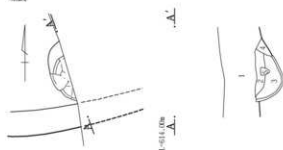
- (P 6)
- 1 黒褐色土 ローム塊少量含む
 - 2 黒褐色土 ローム粒少量含む
 - 3 暗褐色土 ローム大塊・礫含む
 - 4 暗褐色土 ローム粒多く含む
- (P 5)
- 5 黒褐色土 軽石含む
 - 6 暗褐色土 ローム塊含む
 - 7 黒褐色土 ローム大塊・礫含む

ビット土層

- 1 黒褐色土 軽石少量含む
- 2 黒褐色土 ローム小塊を多く含む
- 3 黒褐色土 ローム小塊を少量含む
- 4 暗褐色土 ローム粒多く含む
- 5 暗褐色土 ローム大塊・礫含む



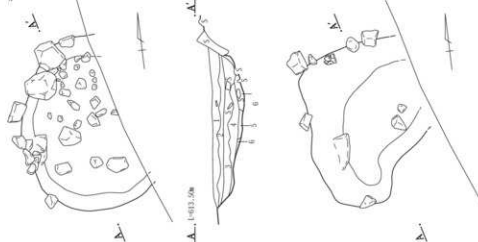
埋炭



埋炭土層

- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む
- 2 暗褐色土 褐色土塊・ローム粒少量含む
- 3 暗褐色土 炭化物・ローム粒微量含む
- 4 暗褐色土 ローム粒微量含む

炉跡

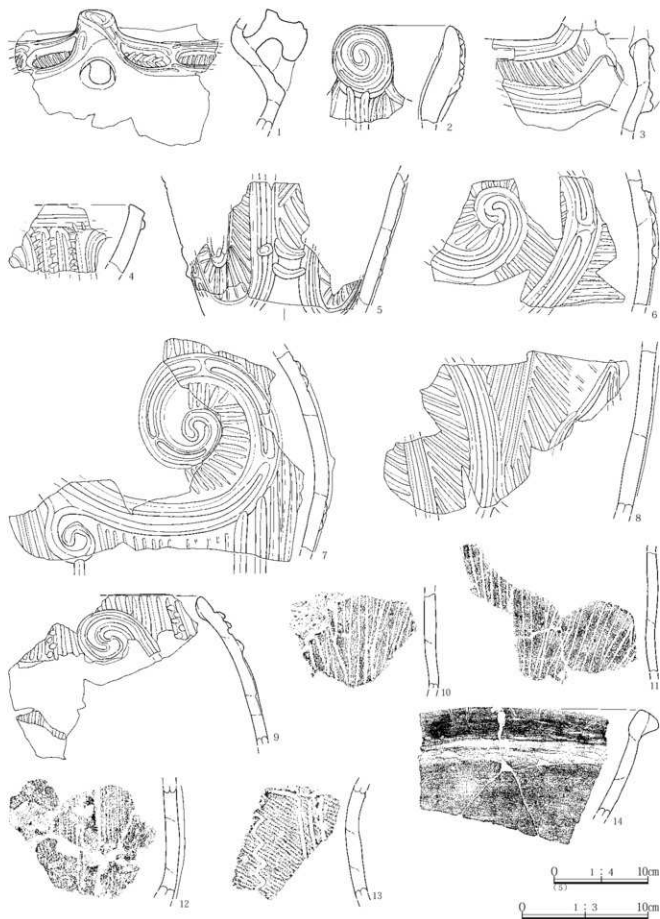


炉跡土層

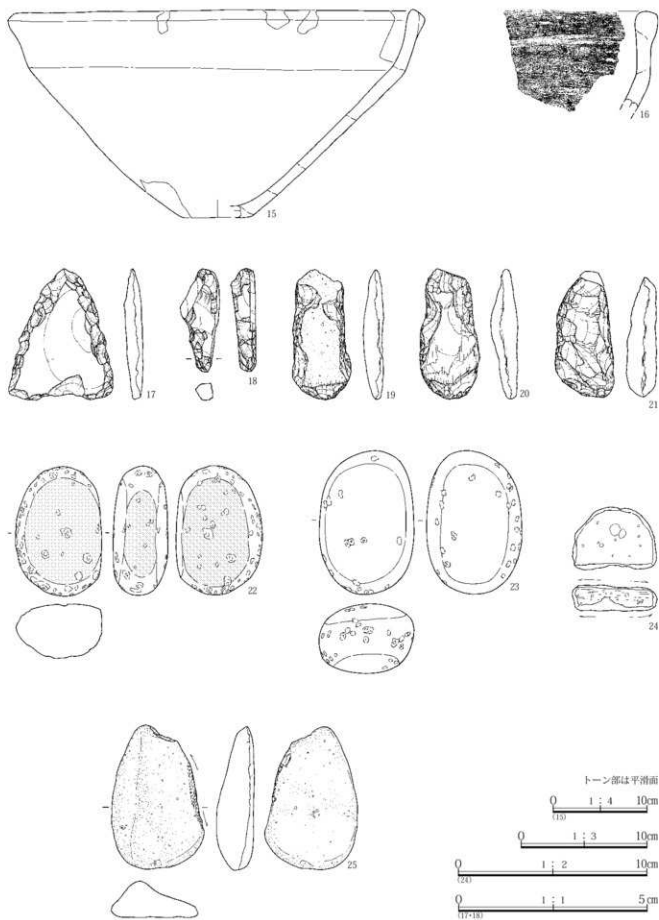
- 1 黒褐色土 ローム粒・炭化物微量含む
- 2 褐色土 焼土粒少量含む
- 3 褐色土 焼土粒を含む
- 4 赤褐色土 焼土粒を多く含む
- 5 明赤褐色土 焼土上体層
- 6 オリーブ褐色土 焼土含む。大礫含む



第125図 52区3号住居跡(3)



第126图 52区3号住居跡出土遗物(1)



第127図 52区3号住居跡出土遺物(2)

破片状態で、居住に伴う例は出入口埋塞の浅鉢のみである。また、出土土器の大半が「郷土式」(1~9)と曾利式(10・12)であり、加曾利EⅡ式は13と浅鉢(14~16)で客体的である。石器では、石鏃未製品(17)、石錐(18)、打製石斧(19~21)、磨石(22)、敲石(23)、石製品(24・25)を見る。24は軽石製品である。25は粗粒輝石安山岩製で右側縁が刃部状を呈す。

所見：住居跡南北に未掘部分を残す。また基盤礫の露出などにより、壁、床面の検出に苦慮している。その中で、建て替えを示唆する柱穴配置、浅鉢を供する出入口埋塞を把握できた。出土土器は破片中心ながら、信州系に比重が偏る組成を見せていた。時期は中期後葉中頃と考えた。

52区4号住居跡(第128~133図 PL.15・97・98)

位置：調査区西側で調査した。周辺は南側への緩傾斜地形が広がるが、ほぼ平坦地形にある。52区F~H-10~12グリッドに位置する。

経過：ローム漸移層上層の暗褐色土で確認、検出作業を行った。埋土上層より出土遺物が集中したため、住居跡の存在を予測し調査を進めた。床面、炉跡、壁の検出後住居跡南側が調査区域外に延びる様相を見せたため、南側調査区境を端部まで拡張し、南側壁の検出に努めた。その結果、南壁や壁周溝、出入口埋塞などを得ることができた。

規模：主軸をほぼ北に向け、径約6mを超える不整形円形でやや大型の平面形を呈する。深さも約58cmを測り、良好な遺存を誇る。

重複：住居跡相互の重複は無く単独の検出である。土坑との重複もなく、出土遺物の一括性は高い。

床面：軟質ローム上層の黄褐色土を地床とする。南東への僅かな傾きを見せるが、ほぼ平坦面を築く。硬化面は床面全域にわたって確認された。

施設：炉跡、壁周溝2条、ピット22基、出入口埋塞を床面上から検出した。

炉跡：床面中央北寄りに石囲い炉を設ける。長方形の平面形を呈し、平面規模は約121×92cm、深さは36cmを測る。炉石は北辺から東辺北半が抜けていたが、その他の5石を見ることができた。すべて角礫が充てられており、南辺は板石1枚が斜位に設けられていた。掘り込み

は不整形で西側へ広がる形態である。焼土は南側の堆積が顕著で、床面中央部分にまで達していた。

壁周溝：数箇所に僅かな断絶を見るが、壁下で全周する。また、床面北半にかけて内側にも周溝が確認され、拡張に伴う所産として位置付けた。

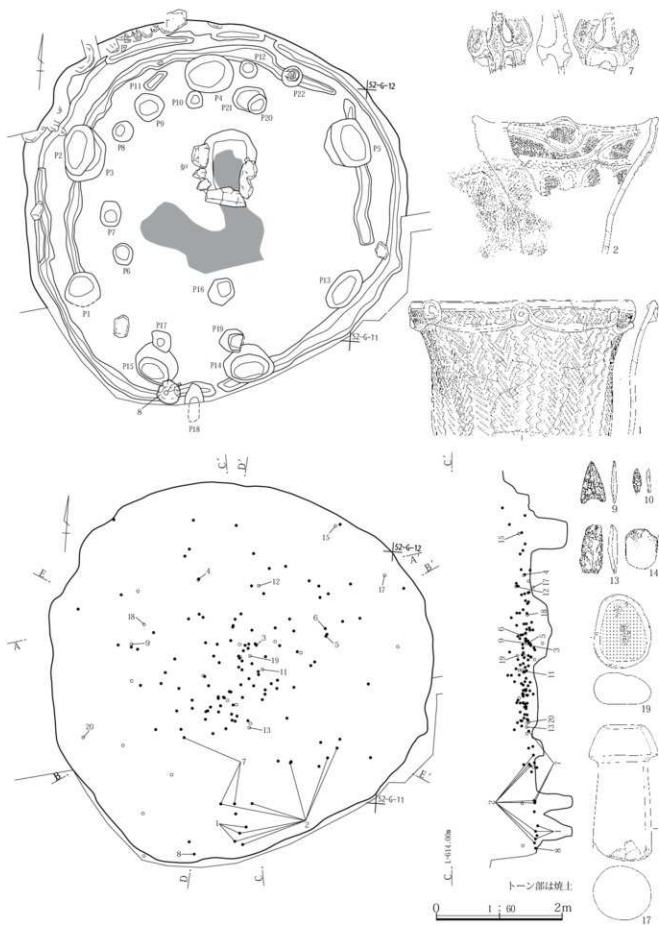
柱穴：検出されたピット22基のうち、配置から柱穴に相当するピットは、P1~P5、P13~P15である。P4が奥壁の柱穴、P14とP15が出入口部の柱穴と捉えられよう。その他の柱穴も配置・規模とも良好な位置を示し、六角形を示す主柱穴として位置付けた。その他のピットも、小規模ながら、主柱穴が配される内側で確認されており、壁周溝が北半で二重になる様相も併せて、拡張に伴う旧住居跡柱穴と考えた。

埋塞：出入口埋塞として、南壁際とP15の間で出土した深鉢体下半(8)を考えた。掘り込みを有さず、壁周溝の凹みに正位で置かれた出土状態だったが、出土位置を重視し出入口埋塞と判断した。底部を欠ており無文の体部下半である。被熱のため体部に変色が見られた。

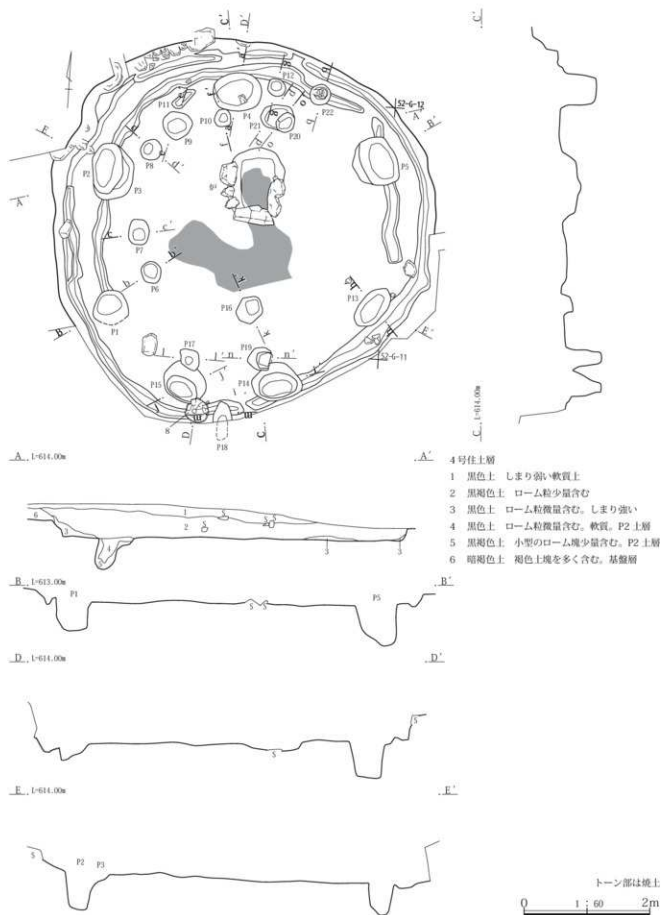
遺物：出土遺物は多く20点を図示した。1・2が床面南側でまとまった出土を示す。「郷土式」(1)と加曾利EⅢ式(2)の共伴といえよう。その他では「郷土式」の口縁部突起が目立つ(5~7)。石器は、石鏃(9)、石錐(10)、打製石斧(11~13)、磨製石斧(14)、磨石(15)、敲石(16・18)、石棒(17)、凹石(19)、石皿(20)を掲載した。石棒は北東壁際で壁に傾斜して出土している。

所見：二重に検出された壁周溝と柱穴配置から拡張住居の可能性が高い。柱穴規模も良好で整った配置を見せる。特に出入口部の対ピットは、敷石住居跡との関連を示唆する好資料である。出入口埋塞とした深鉢体下半(8)も掘り込みを持たず、検討課題の一つである。

時期は、床面上で出土した「郷土式」(1)と加曾利EⅢ式(2)から、中期後葉後半段階と判断した。

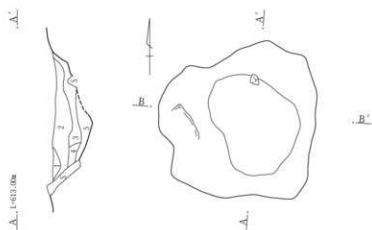
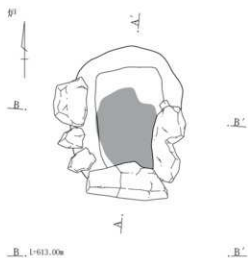
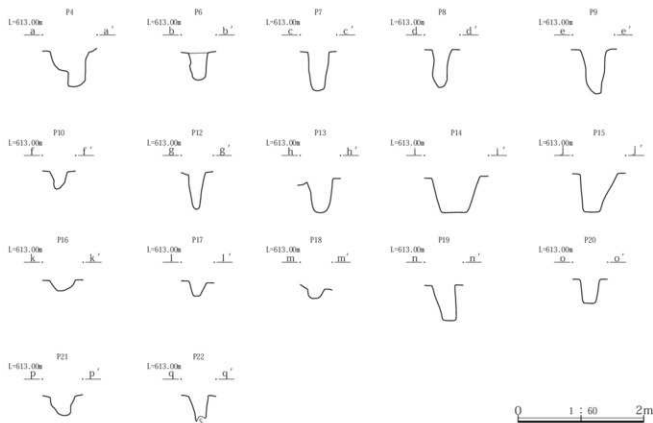


第128図 52区4号住居跡(1)



第129図 52区4号住居跡(2)

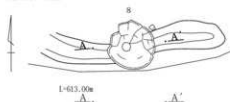
第3章 発見された遺構と遺物



炉跡上層

- 1 黒褐色土 炭化物・ローム粒を含む
- 2 黒褐色土 焼土粒を少量含む
- 3 暗赤褐色土 焼土大塊を多く含む
- 4 赤褐色土 焼土塊を主体とする
- 5 暗褐色土 ローム小塊を多く含む
- 6 黒褐色土 ローム粒を微量含む

南壁跡の土層



1-613.00m
A-A'



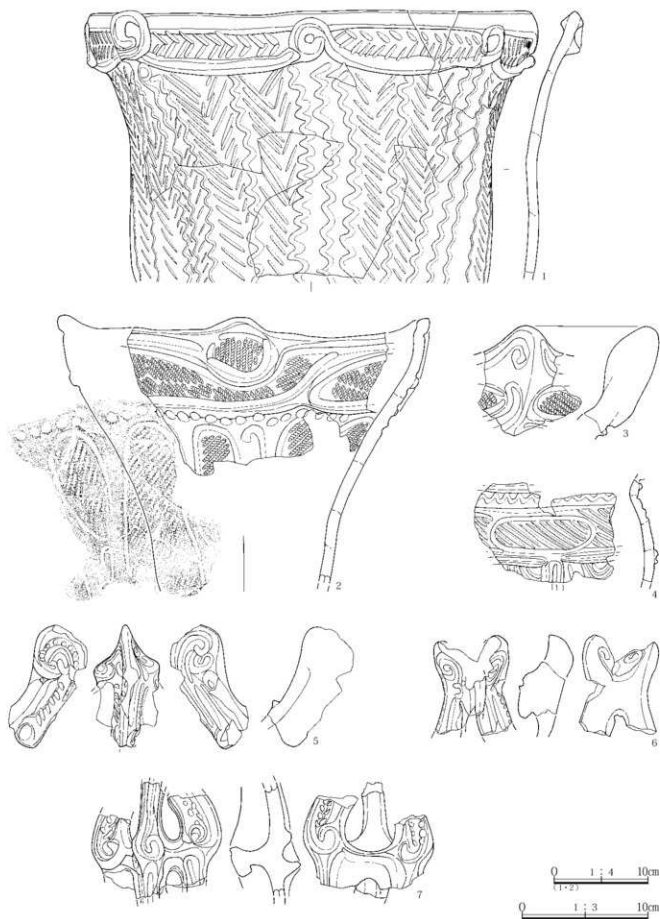
南壁跡の土層下土層

- 1 黒褐色土 ローム小塊を含む

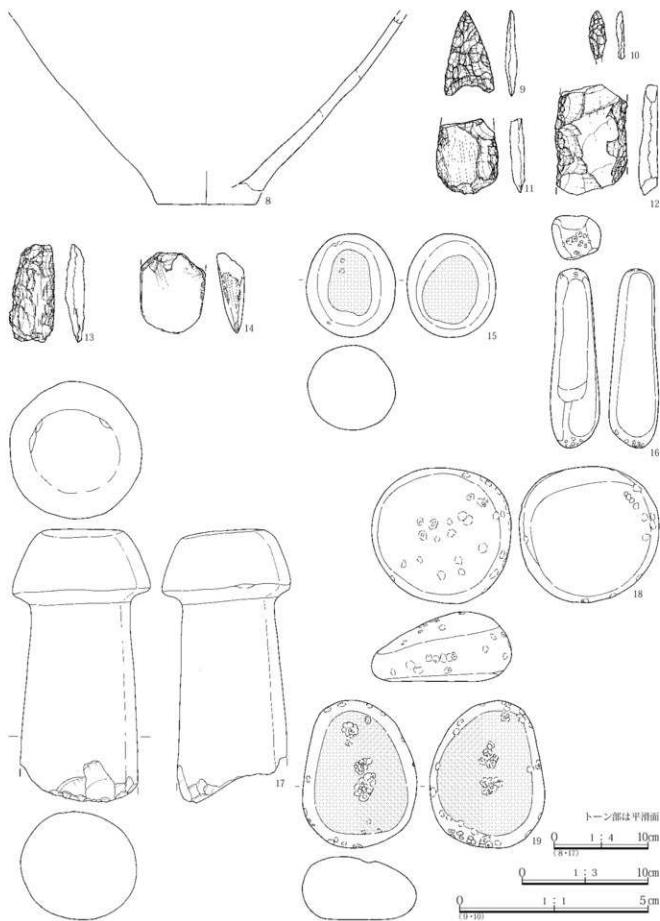
トーン部は焼土

0 1:30 1m

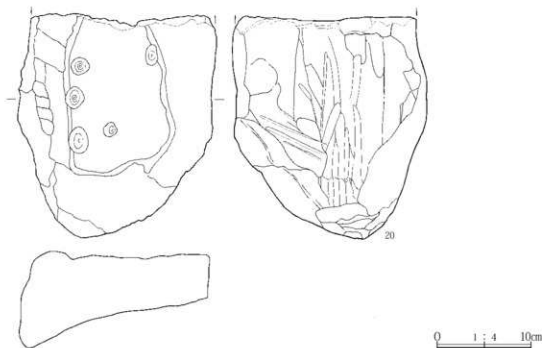
第130図 52区4号住居跡(3)



第131图 52区4号住居跡出土遗物(1)



第132図 52区4号住居跡出土遺物(2)



第133図 52区4号住居跡出土遺物(3)

52区5号住居跡(第134図 PL.16・98)

位置：調査区西側で調査した。52区F-18・19グリッドに位置する。周辺は緩やかな南東への斜面地形が顕著で、そのため、本住居跡の南東側は消失した状態で検出された。

経過：ローム漸移層下位で調査をした。少量ながら遺物が見られ、平面形も不明ながら把握されたため、住居跡として調査をした。

規模：長軸を北西に向けた方形の平面形を呈す。軸長約3.6×3.4m、深さは約30cmを測る。深さは北西部分での計測であり、南東部分の遺存度は悪い。

重複：58坑が南壁で重複する。出土遺物からは、本住居跡が古い。

床面：軟質ローム層上層の黄褐色土を地床とする。僅かに南側に傾斜するが、ほぼ平坦面を築く。硬化面は見られなかった。

施設：床面上には炉跡、柱穴などは見られなかった。遺物：少量の出土遺物である。4点を図示した。1は埋土上層から出土した深鉢体部破片で、前期初頭の所産である。石器は床面上から出土している。礫石器3点を掲載した。

所見：炉・柱穴を持たず、住居跡としての確定性に乏しい。出土遺物から、時期は前期初頭に求めておきたい。

52区6・10号住居跡(第135～139図 PL.16・99・100)

位置：調査区北西端で調査された。52区D・E-18・19グリッドに位置する。周辺はほぼ平坦地形に占められる。経過：ローム漸移層下位の褐色土で確認、検出した。壁、柱穴も確認されず、焼土の集中と遺物の広がりで住居跡とした。発掘調査では、遺物の分布を踏まえ、東側に6号住、西側に10号住を位置付けたが、整理段階で、2軒分の施設を抽出し得ず、1軒の住居跡として報告するに至った。

規模：出土土器の分布から径5.8mの円形の範囲を住居跡とした。壁を見出せなかったため、深さは計測できなかった。

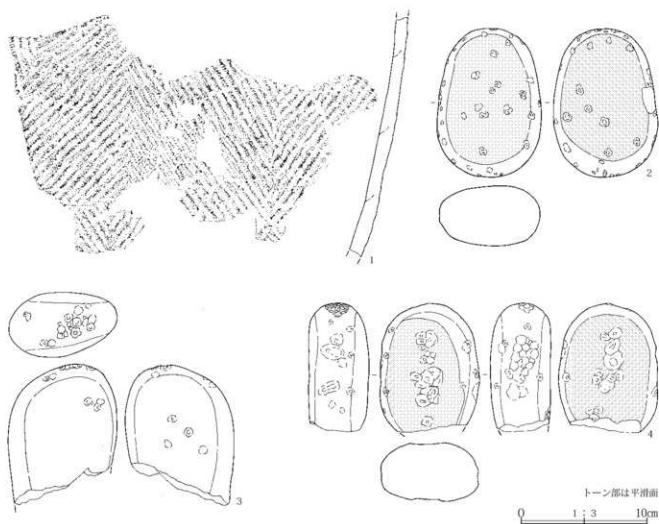
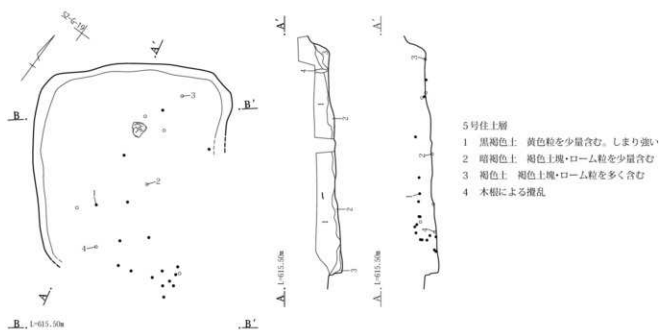
重複：71～79坑・81～85坑が重なる。新旧は不明である。

床面：焼土、埋設土器検出面である暗褐色土を基調とし、地床と捉えた。平坦面を築くが、床面範囲など判断とせず、確定性に乏しい。

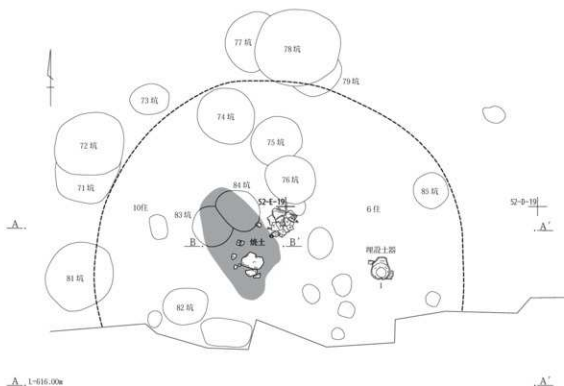
施設：中央やや西側に焼土がまとまるが明瞭な掘り込みも持たず、炉跡としては位置付けられない。ピットも本住居跡に該当する土坑、ピットを重ねたが、柱穴に相当するピットは見られなかった。その他に、東側に埋設土器を見る。これも掘り込みを検出していないため、出入口埋裏とは捉え難く、住居施設とは判断できない。

遺物：出土遺物が多い。前述のように、東側に6号

第3章 発見された遺構と遺物

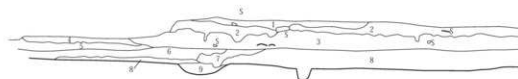


第134図 52区5号住居跡・5号住居跡出土遺物



A. 1:616.00m

A'



焼土

1:615.00m



6・10号住居焼土層

- 1 にぶい赤褐色土 焼土化したローム塊
- 2 暗褐色土 焼土粒を少量含む
- 3 暗褐色土 焼土粒を多く含む
- 4 暗褐色土 ローム粒・焼土粒を少量含む

6・10号住土層

- 1 黒色土 しまり強い軟質土
- 2 黒色土 白色粒・黄色粒少量含む
- 3 黒色土 ローム粒微量含む
- 4 黒褐色土 ローム粒少量含む
- 5 黒褐色土 ローム小塊を少量含む
- 6 黒褐色土 黄色粒・ローム粒を少量含む
- 7 にぶい赤褐色土 焼土化したローム塊を多く含む
- 8 黒褐色土 焼土粒・炭化物を少量含む
- 9 赤褐色土 焼土粒を多く含む

0 1:60 2m

埋設土器



1:615.00m

6・10号住埋設土器層

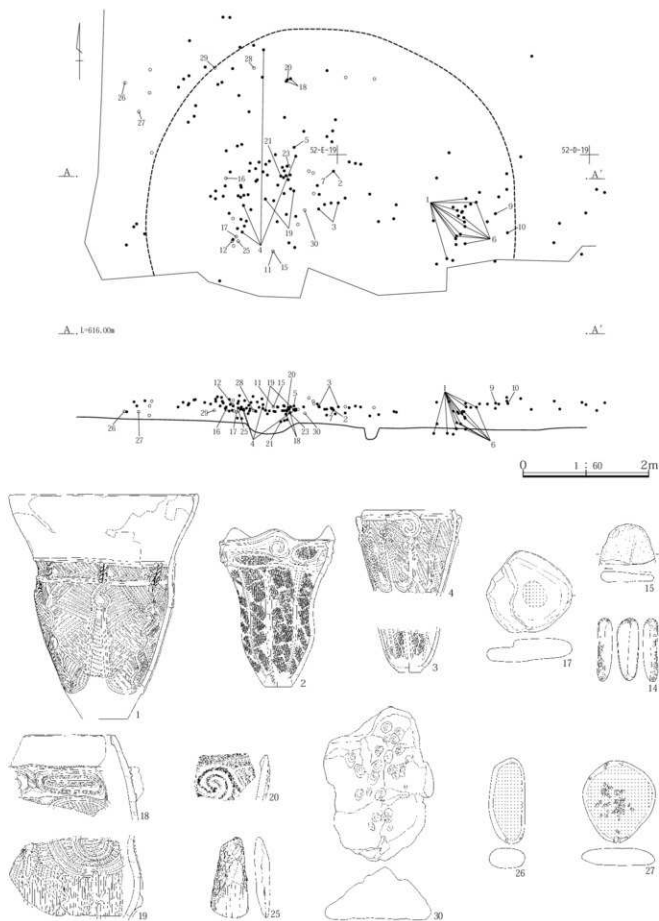
- 1 黒褐色土 ローム粒を含む、軟質
- 2 黒褐色土 ローム粒を少量含む



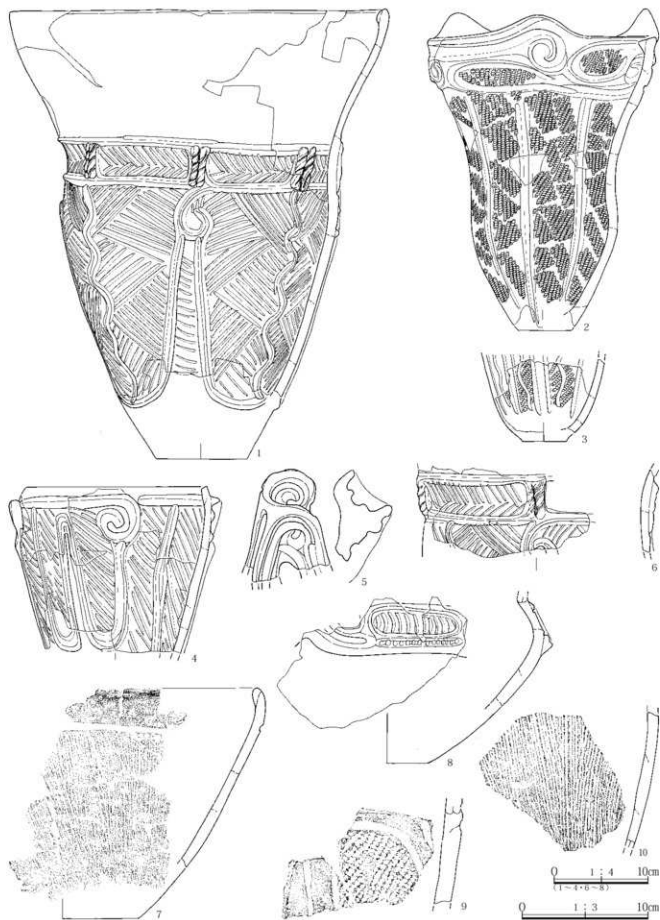
トーン部は焼土

0 1:30 1m

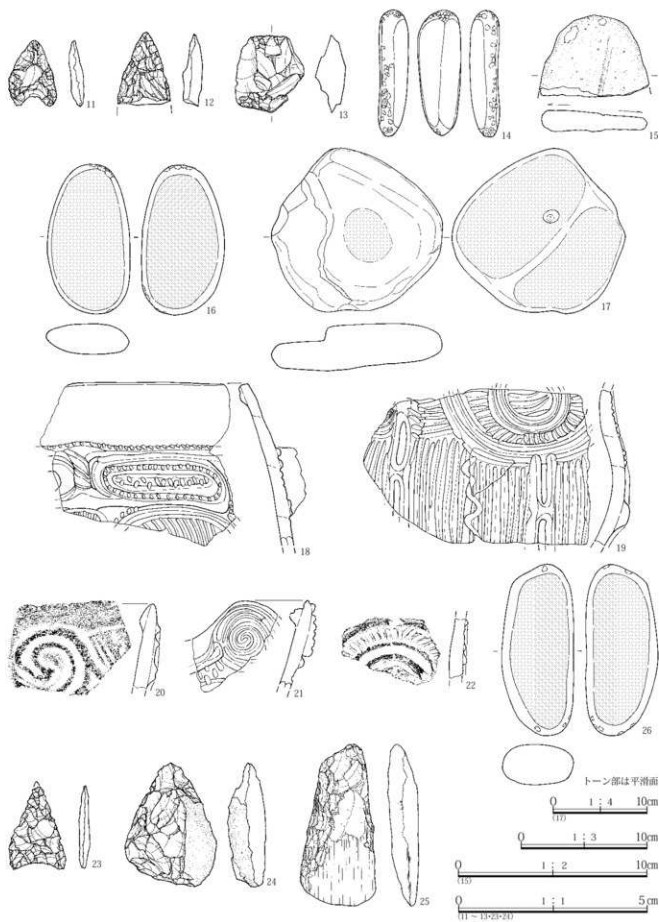
第135図 52区6・10号住居跡(1)



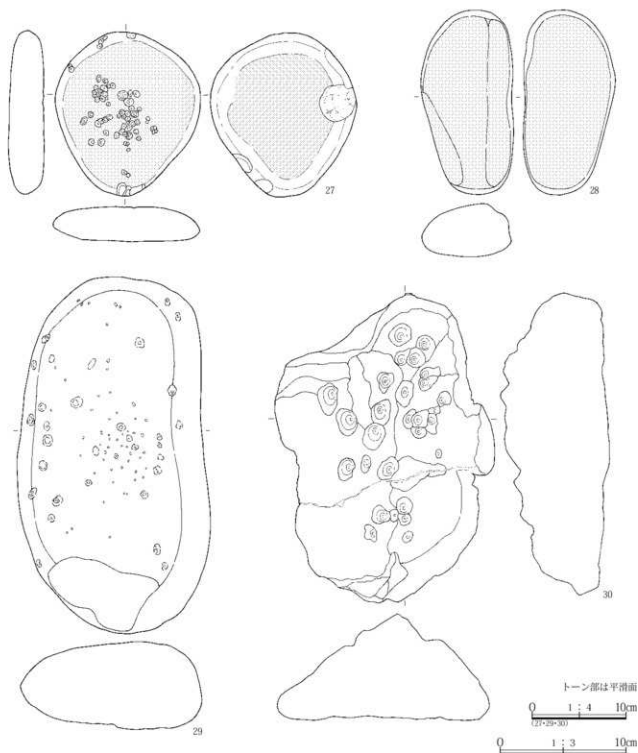
第136図 52区6・10号住居跡(2)



第137図 52区6・10号住居跡出土遺物(1)



第138図 52区6・10号住居跡出土遺物(2)



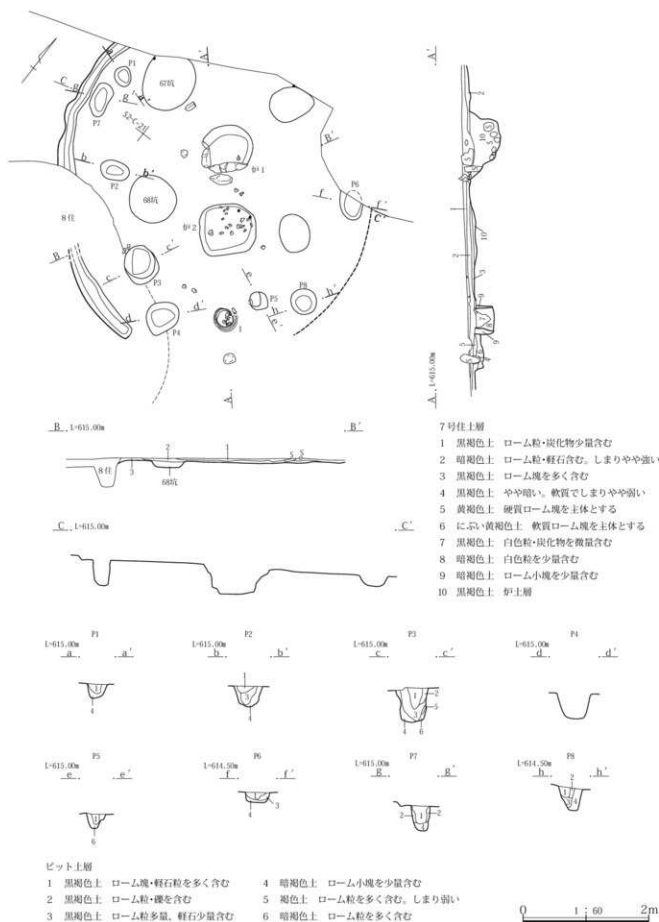
第139図 52区6・10号住居跡出土遺物(3)

住、西側を10号住と位置付けた発掘調査が行われているため、ここでも、掲載は別にする。1は東側で埋設土器として調査された「郷土式」の深鉢である。2は焼土北東部でまとまった出土を示す加曾利EⅢ式古段階の3単位波状口縁深鉢である。その他でも「郷土式」を中心に出土が見られたが、6号住、10号住とも時間差を見出せなかった。

所見：壁を検出できず、炉跡や柱穴も検出されなかったため、確定性の乏しい住居跡として報告せざるを得ない。埋設土器にしても、掘り込みを持たず、周辺に散らばる土器片と接合することから、埋裏としての位置付けはできない。遺物がまとまって出土する何らかの遺構としての位置付けとなる。時期は中期後葉の広い時間幅に納めたい。

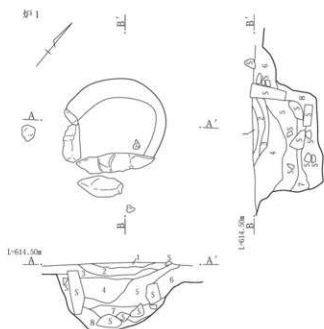


第140図 52区7号住居跡(1)



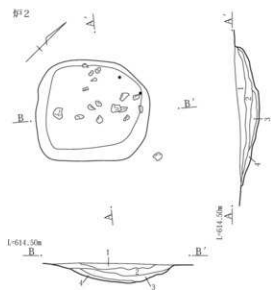
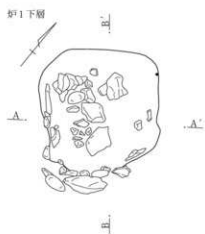
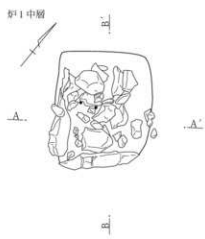
第141図 52区7号住居跡(2)

第3章 発見された遺構と遺物



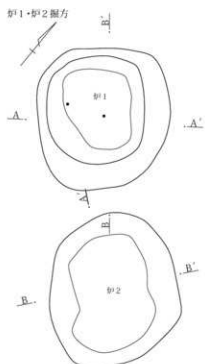
B1 1上層

- 1 黒褐色土 炭化物・黄色粒を少量含む
- 2 黒褐色土 焼土粒・黄色粒を少量含む
- 3 黒褐色土 焼土粒少量、炭化物を多く含む
- 4 黒褐色土 焼土小塊・炭化物を少量含む
- 5 黒褐色土 焼土小塊を多く含む。礫は少量
- 6 暗褐色土 ローム小塊を少量含む
- 7 暗褐色土 ローム小塊、大型礫を含む
- 8 暗褐色土 ローム粒・大型礫を多く含む

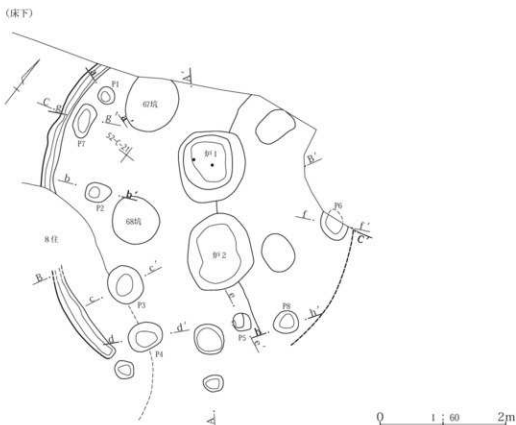


B2 2上層

- 1 黒褐色土 焼土粒・ローム大塊を少量含む
- 2 黒褐色土 焼土粒を多く含む
- 3 にぶい、黄褐色土 焼土小塊・ローム粒を含む
- 4 明黄褐色土 ローム小塊を多く含む



第142図 52区7号住居跡(3)



第143図 52区7号住居跡(4) 床下

52区7号住居跡(第140～146図 PL.16・17・101・102)

位置：調査区北西部で確認、検出した。51区で見られた遺構密集地点の西側にあたる。周辺は南東への緩傾斜地形が顕著で、そのため本住居跡南東側の壁は確認できなかった。52区B-C-20・21グリッドに位置する。

経過：黒褐色土下位で調査を進めた。東側で重複する11号住、南側の8号住と同時に着手し、炉跡、壁周溝を検出したため、住居跡として確定した。なお、北側壁は調査区域外に延びるため未検出である。

規模：短軸長約5.3mを測る。長軸長は推定で5.5m前後と思われる。主軸がやや長い不整形形を呈する。深さは約17cmで遺存度はやや悪い。主軸は立石、出入口埋裏、炉1・2を延長し、北西に向ける方位を導いた。

重複：8号住、11号住と重なる。本住居跡炉跡が11号住上に乗る新旧関係を示す。8号住とは不明である。また、67坑・68坑が床面上で重複している。土層観察では、68坑が本住居跡床面下にあるが、新旧は不明としておきたい。

床面：ローム漸移層の暗褐色土を地床とする。南東への傾斜も見られるが、ほぼ平坦面を築く。硬化面は顕著では無かった。

施設：炉跡2、壁周溝、ピット8基、出入口部埋裏、立石を検出した。

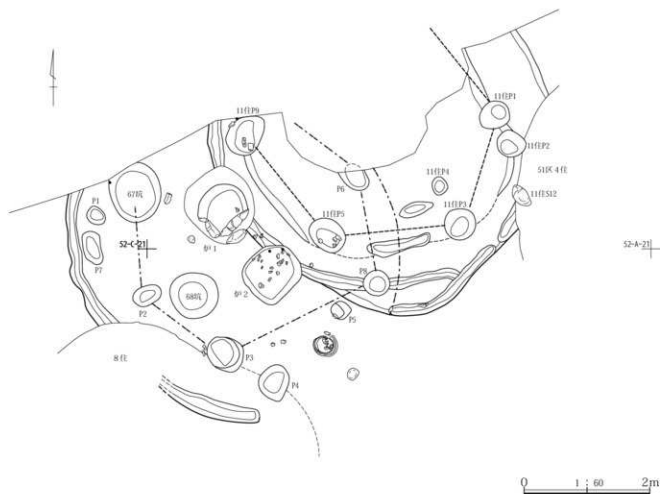
炉跡：2基検出した。炉1は床面中央よりやや北西側に設けられる石囲い炉である。不整形の平面形を呈し、規模は約80×74cmである。深さは使用面まで約20cm、掘り込み下端までが約50cmを測る。炉石は南辺と西辺南半に認められたが、他辺は炉廃棄時に抜き取られた可能性がある。掘り込みは方形を呈し、底面近くに自然礫がまとまる。廃棄時の北辺、東辺の炉石であろうか。

炉2は炉1の南東約50cmで検出された地床炉である。不整形の平面形で、平面規模は90×80cmで、深さは7cmを測る。浅い皿状の掘り込みを有す。

炉1、炉2とも住居跡主軸線上に乗り、本住居の居住に伴う所産と考える。新旧は確定できないが、おそらく炉2→炉1とした炉新設が想定される。

壁周溝：西壁下で検出された。8号住との重複部分も一部で認められたが、南壁や東壁下は傾斜地形のため、逸失していた。

柱穴：8基のピットを見たが、調査時では11号住に付属していたピットを本住居跡に含めた。P6・P8があたる。柱穴に相当するピットとしては、P2～P4・P6～P8と考



第144図 52区7・11号住居跡

えた。また、P1やP5に柱状の土層が観察されており、柱穴から除外できない。奥壁柱穴が調査区域外のため、良好な配置が把握できないが、五角形あるいは六角形の配置を示す例と判断した(第144図)。

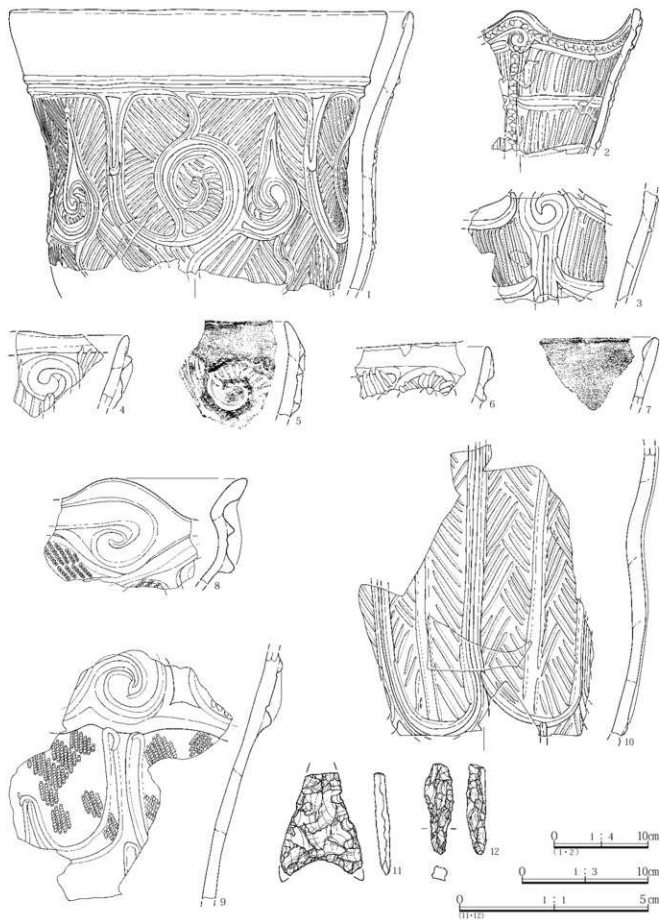
出入口部埋裏：南東部に埋裏を見る。後述する立石と住居主軸線に乗り、居住に伴う施設として位置付けられる。掘り込みを持ち、大型の深鉢(1)が逆位で埋置されていた。

立石：出入口埋裏南東に35cmほど近接して立石を見る。長さ30cm、厚さ13cm程の棒状自然礫がやや北側に傾いて出土した。おそらく壁に接する位置と思われ、出入口埋裏と同様に住居跡主軸に乗ることから、出入口部の儀礼に伴う施設と考えた。

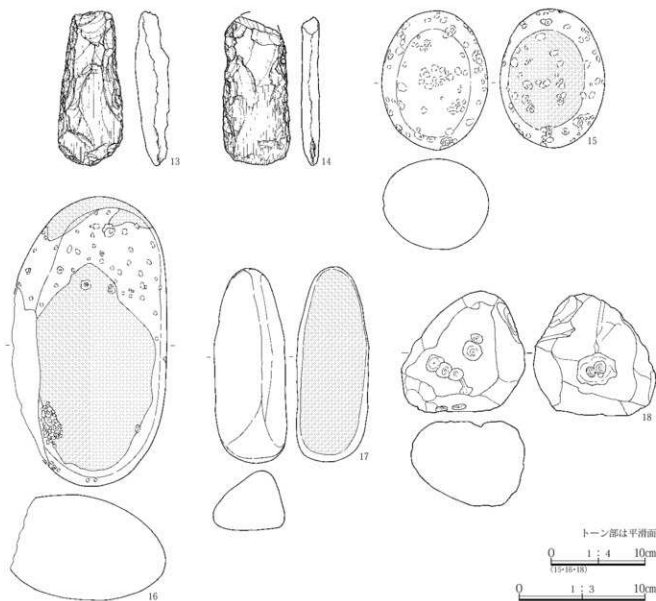
遺物：住居跡全域より出土し、偏りは見られなかった。住居確認面が低いため、ほぼ床直、床直上の出土といえよう。18点を図示した。1～7・10は「郷土式」であろう。2・3は曾利Ⅲ式の影響が窺われよう。加曾利EⅢ式として8・9が挙げられるが、9はあるいは「郷土式」

の縄文施文する一群に含まれる可能性がある。石器は石鏃(11)、石錐(12)、打製石斧(13・14)、磨石(15・16)、敲石(17)、多孔石(18)が出土している。

所見：やや浅く遺存度の悪い住居跡だが、炉跡を2箇所、出入口埋裏、立石と住居跡主軸線に乗る施設を検出できた。柱穴は重複する11号住居ピットとの操作が必要であり、配置案を掲げたが、更に検討を要しよう。時期は出土土器から中期後葉後半段階においた。



第145图 52区7号住居跡出土遗物(1)



第146図 52区7号住居跡出土遺物(2)

52区8号住居跡(第147図 PL.17・102)

位置：調査区北西部で調査した。51区の遺構密集地点の西側にあたり、52区7号住と重複して検出された。周辺は南東への緩傾斜地形が顕著で、そのため本住居跡は北側壁のみの検出にとどまった。52区B・C-19・20グリッドに位置する。

経過：黒褐色土下位で確認、検出した。平面形確認中に焼土が見られたため、周辺の小ピットと併せて住居跡として調査した。

規模：北壁際のP10を奥壁柱穴と位置付け、炉との延長を主軸とし、径約4.5mの不整形円形を推定平面形とした。深さは良好な北壁付近で約20cmを測る。

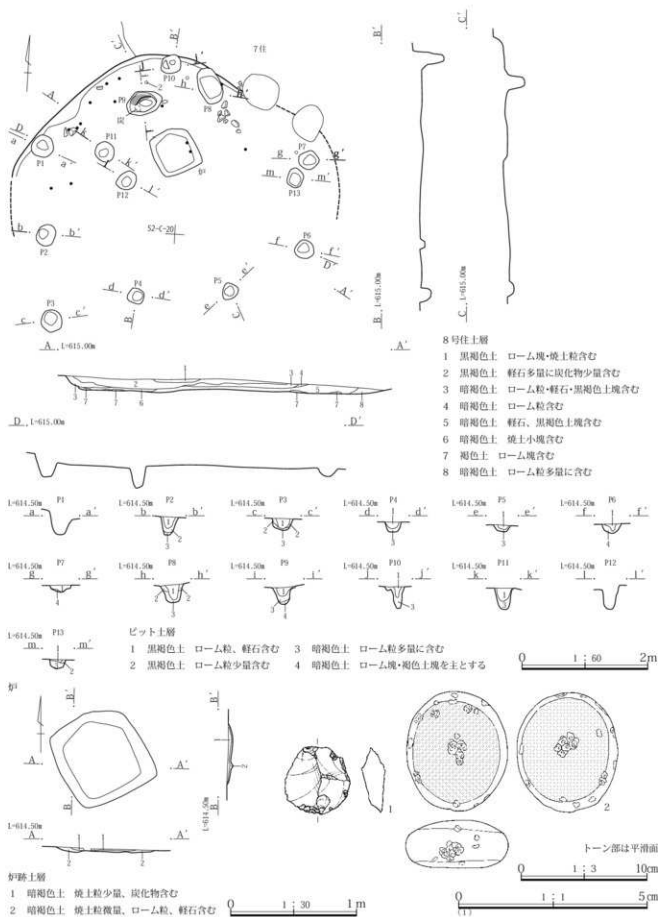
重複：東側で7号住と重複する。新旧は不明である。

床面：暗褐色土を地床とする。ほぼ平坦面を築き、硬化面は見られなかった。

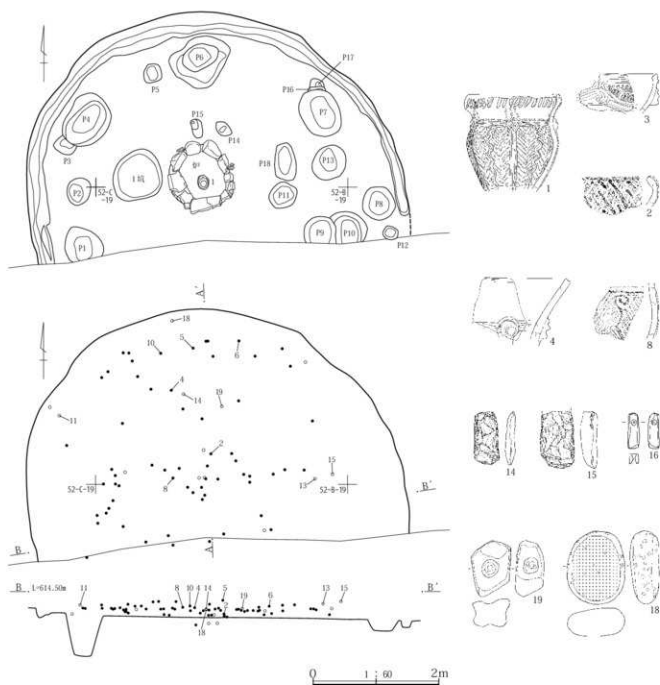
施設：床面上に焼土、ピット13基を見たが、焼土を炉跡として位置付けた。

炉跡：北西寄りに焼土を検出し、地床がとして位置付けた。平面形は方形で、浅い掘り込みを有す。平面規模は72×69cm、深さ4cmを測る。炉跡としては、掘り込みの深さが貧弱であり、検討を要しよう。焼土も少量が堆積する。

柱穴：13基のピットののうち、配置から柱穴を想定した。P1・P2・P4～P7・P10の7基を柱穴と考えた。P4・P5を出入口部と捉え、六角形の配置とした。なお、P4～P7は浅く柱穴として不適当な規模であるが、検出面が多少



第147図 52区8号住居跡・8号住居跡出土遺物



第148図 52区9号住居跡(1)

下がっているため、P1・P2などと同等の規模を推定した。

また、P8、P11・P12も深さは良好なピットである。

遺物：出土遺物は極めて少なく、土器片も小片のため図示に耐えなかった。楔形石器(1)、凹石(2)の2点を図示した。

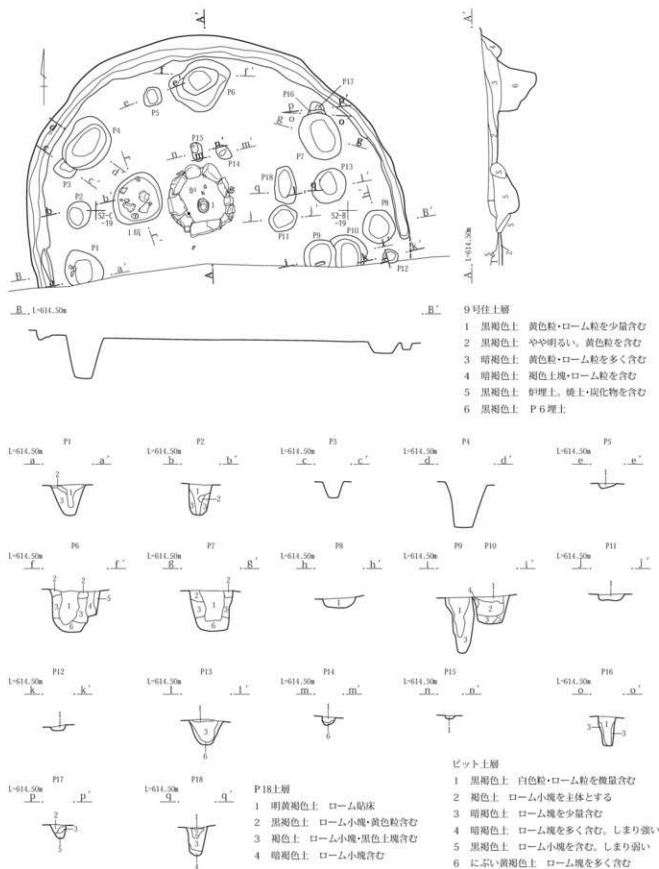
所見：住居跡として遺存度は悪く、出土遺物量も少ない。炉跡を検出したが、掘り込みも浅く明瞭ではない。時期は不明だが、柱穴配置から中期後葉であろうか。

52区9号住居跡(第148～151図 PL.17・18・102・103)

位置：調査区中央やや北西寄りに位置する。51区遺構密集地点の西側にあたり、周辺は南東への緩傾斜地形が顕著な地点である。

経過：ローム漸移層である暗褐色土で確認、検出した。分割調査地点であり、北半が先行して調査されたが、南半は調査区境界の誤差で調査が及ばなかった。反省点である。掘り込みは深く、南東側の床面や炉跡の検出に至り、住居跡として確定した。

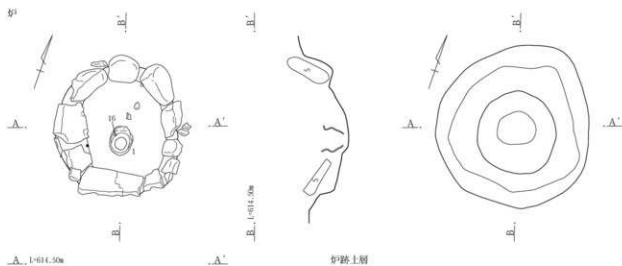
規模：南半の様相が不明だが、北半では径約6mを測



第149図 52区9号住居跡(2)

0 1:60 2m

第3章 発見された遺構と遺物



炉跡土層

- 1 黒褐色土 焼土粒少量・炭化物・軽石含む
- 2 黒褐色土 焼土粒・軽石を少量含む
- 3 黒褐色土 焼土粒微量・褐色土塊含む
- 4 暗褐色土 焼土粒含む
- 5 黒褐色土 ローム粒・炭化物含む
- 6 褐色土 焼土小塊含む
- 7 明赤褐色土 焼土大塊含む
- 8 明褐色土 焼土化したローム塊を含む
- 9 黒褐色土 ローム粒少量含む。しまり強い
- 10 褐色土 ローム粒少量含む。しまり強い
- 11 にぶい黄褐色土 ローム粒を多く含む。軽石含む
- 12 黄褐色土 褐色土塊含む。しまり強い
- 13 黄褐色土 ローム塊を多く含む。しまり強い

0 1 : 30 1m

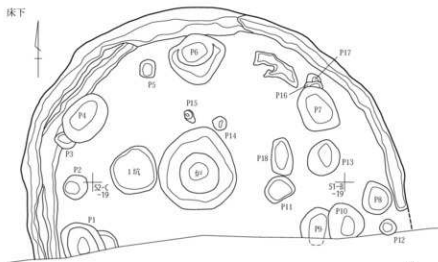
1号土坑

l=614.50m



9号住居内1号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム小塊・軽石少量含む
- 2 にぶい黄褐色土 黄白色軽石粒を多く含む
- 3 褐色土 ローム粒を多く含む



0 1 : 60 2m

第150図 52区9号住居跡(3)



第151図 52区9号住居跡出土遺物

る円形住居跡である。深さは33cmで、良好な遺存度だが南東側は傾斜のため、検出された壁は浅い。主軸はほぼ北を向く。

重複：住居跡相互の重複は無く、単独の検出といえよう。土坑との重複もないが、床面上で調査された1号坑は本住居跡に伴う例ではないかもしれない。

床面：ローム漸移層下位と軟質ロームからなる褐色土を基調とした地床である。ほぼ平坦面を築き、炉跡から北側に硬化面が認められた。

施設：炉跡、壁周溝、ピット18基を床面上で検出した。1号坑も見したが、本住居跡に伴う例かは検討を要す。

炉跡：床面中央やや北寄りに石囲い炉を設ける。炉主軸は北北西を向き、住居跡主軸とは差が見られる。楕円状の平面形を呈し、規模は約111×100cmを測りやや大型の平面規模を誇る。深さは使用面まで約12cmである。炉石は全周し、南辺に大型の板石を配し、他は北辺が円礫、東辺と西辺が角礫で圍繞される。抜き取られた痕跡は見られなかった。底部は中央に炉内土器を埋置する。底部を欠した小型深鉢を正位に置き、口縁部には強く被熱痕跡が見られた。不整形の掘り込みを持ち、約40cmの深さで皿状の断面形を示す。

壁周溝：ほぼ全周する様相を示す。南東側での断絶が見られるが傾斜のための逸失と捉えた。

柱穴：検出されたピットのうち、柱穴として確定できるのが、P1・P2・P6・P7・(P9・P10)・P13である。P2とP13が主柱穴間の柱穴と位置付け、主柱穴配置は五角形あるいは六角形と想定できる。

床下調査：明瞭な貼床は見られなかったが、床面下層の調査を加えた結果、西壁及び北東壁周溝内縁に新たな壁周溝を検出できた。拡張を示唆する例と判断した。

遺物：平面的には住居跡全域から出土が見られ、埋土中の出土を主体とする。炉内土器(1)は曾利Ⅱ式であろう。その他の土器片はまとまりを持たない。2は曾利Ⅱ式で4・6・8・9は「郷土式」、3・5・10は加曾利Ⅱ式と多様性を含む。7は中期中葉末の所産で混在であろう。石器では、石畿(11)、石錐(12)、削器(13)、打製石斧(14・15)、垂飾(16)は玉髓製で炉内より出土している。磨石(18)、多孔石(17・19)は各面に単孔を配す。

所見：北半の検出に止まったが、良好な柱穴配置と石囲い炉を検出した。また、床下調査では内縁の壁周溝を

検出でき、拡張住居としての位置付けが可能になった。また、炉内より小型深鉢(1)と伴に垂飾(16)が出土している。出土状態として例の無い共伴と考える。時期は炉内土器から中期後葉中頃と捉えた。なお、南側に距離を置いて95号坑がある。柱痕を持つ土坑で本住居跡に帰属する可能性もある。

52区11号住居跡(第152～155図 PL.18・103)

位置：調査区北西部で確認、検出した。51区で見られた遺構密集地点の西側に継続する。周辺は南東への緩傾斜地形が顕著で、そのため本住居跡南東側の壁は確認できなかった。52区A-B-20・21グリッドに位置する。

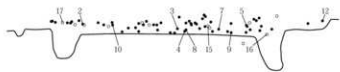
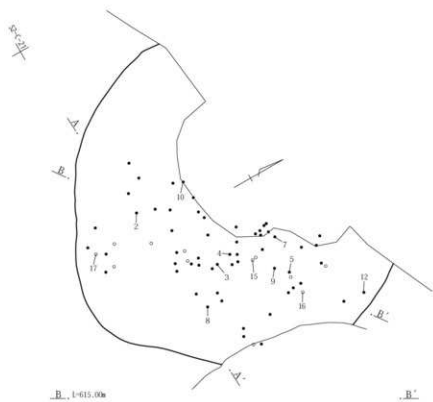
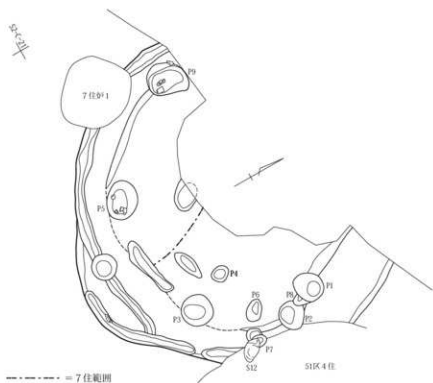
経過：黒褐色土下位で調査した。東側に51区4B号住、西に52区7号住が重複し、同時に調査着手された。北側を調査区域外に延ばし、加えてコンクリート構築物の存在があり、その部分を調査から除外せざるを得なかった。床面と柱穴、壁周溝が検出されたため、住居跡として確定した。

規模：北側を区域外に延ばすため、短軸規模のみの計測となったが、主軸を西北西に向けた、径5.7m程の円形あるいは六角形の平面形を呈す。深さは26cmを測る。重複：7号住と51区4B号住と重複する。7号住が本住居跡を切る新旧関係を示し、出土土器からは、51区4B号住が古い様相が把握された。なお、51区4B号住との重複部分は、ほぼ同時に調査が着手されたため、詳細が不明となった。

床面：ローム漸移層から軟質ローム上層の褐色土を地床とする。中央部分が1段低くなり、有段の床面となる。段下は硬化面が広く認められた。また、少量ながら炭化材の出土も認められた。焼失住居と位置付けられよう。

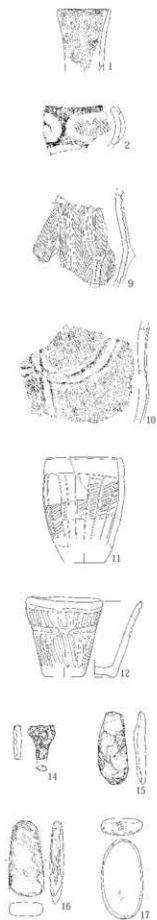
施設：炉跡は調査区域外になる。壁周溝、ピット9基を床面上で検出した。壁周溝：南壁から西壁にかけて壁周溝を見る。東壁には見られなかった。また南壁隅部の周溝が二重となっている。拡張に伴う例とも考えたが、その他に拡張の痕跡を見出せず、判断としない。隅部施設の存在も考えておきたい。またP3とP6の間に小溝を見るが、壁周溝ではなく、有段床面との境界と考えた。

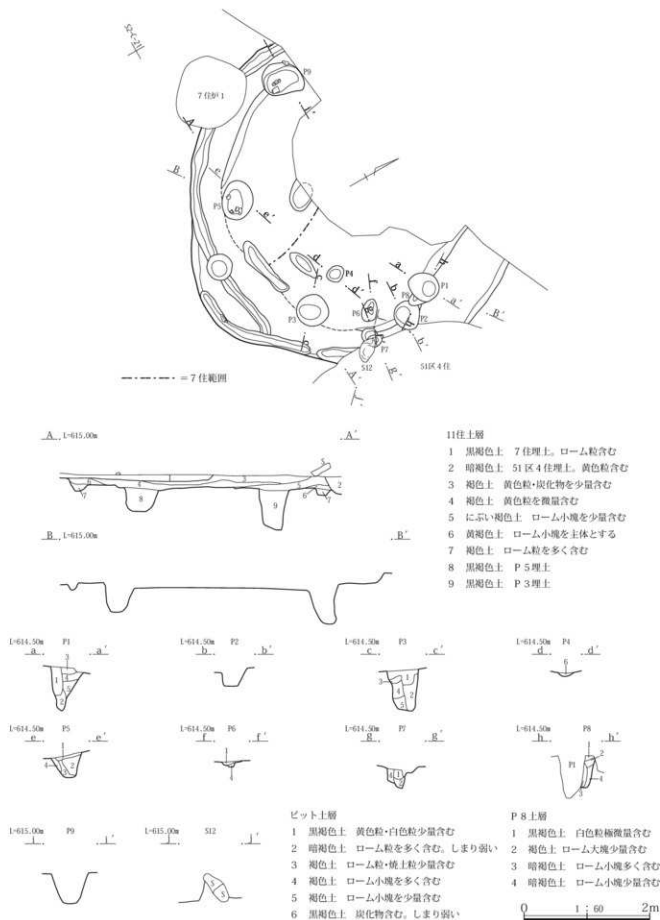
柱穴：主柱穴はP1・P3・P5・P9を考えた。北側調査区域外に2基の柱穴を想定し、6本柱穴が位置付けられる。



0 1 60 2m

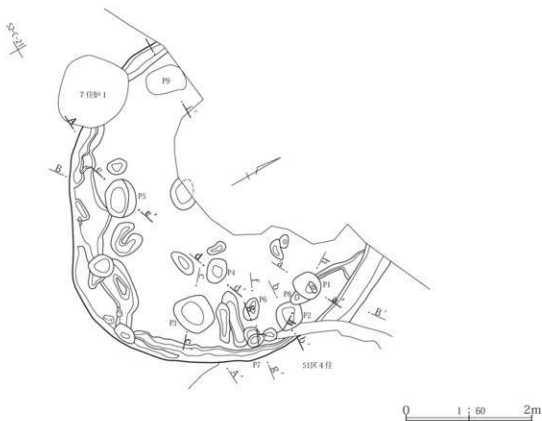
第152図 52区11号住居跡(1)





第153図 52区11号住居跡（2）

(床下)



第154図 52区11号住居跡(3)床下

P1とP3の間が南側の出入口部と考え、P6・P7及び立石を出入口部の施設として位置付けられよう。

立石：東壁際の51区4号住との境に立石の出土を見る。51区4号住と同時に調査されたため、その帰属は不明であったが、P1・P3間を出入口部と位置付けることによって、立石に儀礼的な立場を与えることになった。検討を要するが、本遺跡の1事例として考えておきたい。

遺物：出土遺物量はやや少なく17点を図示した。居住に伴う遺物は見られず、流入、廃棄による所産と捉えた。「焼町類型」(7・8)や加曾利EⅡ式(4)、曾利Ⅱ式(5)、加曾利EⅢ式(1～3)、「郷土式」(9～12)が見られ、時間幅も大きい。ミニチュア土器(11・12)が目ざされよう。石器は石鏃(13)、石錐(14)、打製石斧(15)、磨製石斧(16)、敲石(17)がある。

所見：北側に未調査区を多く残し、炉跡を確認できなかった住居跡であるが、有段の床面、整った主柱穴の配置、出入口部の立石が検出された。時期は、出土土器の多くを占める加曾利EⅢ式と「郷土式」から中期後葉後半段階に求めておきたい。

52区12号住居跡(第156～159図 PL.18・104)

位置：調査区南西部に位置する。グリッドは52区B・C-15・16である。周辺は緩やかな南東への傾斜地形ながら、ほぼ平坦地といえよう。

経過：暗褐色土中で調査を進めた。平面確認中に炉跡が検出され住居跡として確定した。南側に13号住が重なるが、本住居跡を先行して調査をした。

規模：東北東に長軸を向ける鶏卵状の平面形を呈す。平面規模は約5.4×4.8m、深さは約27cmを測る。

重複：13号住が重複する。土層による新旧は把握できなかった。その他にP127が重なる。

床面：暗褐色土を地床とする。ほぼ平坦面を築き、硬化面は顕著では無かった。

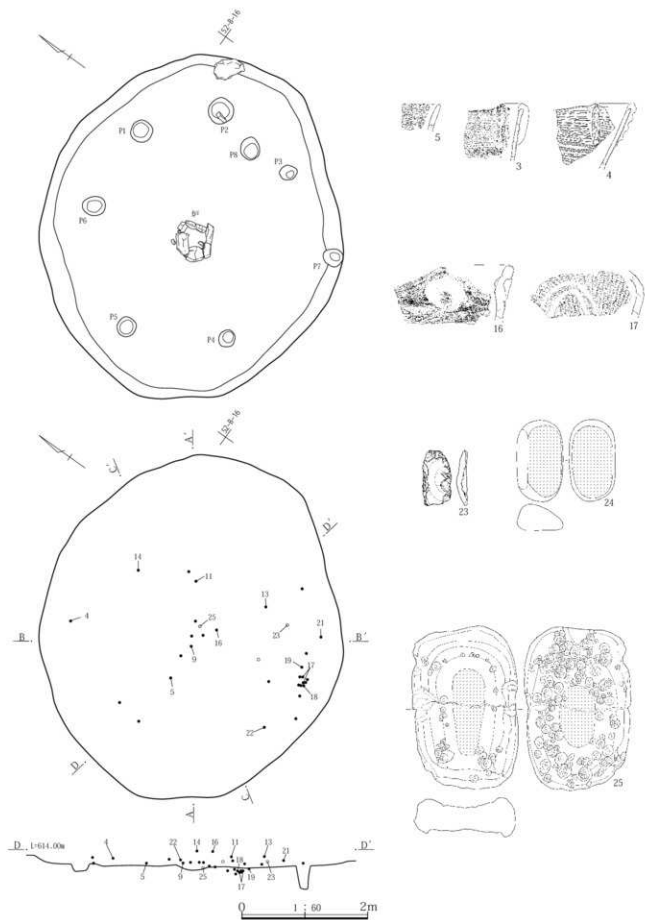
施設：炉跡、ピット8基を床面上で検出した。

炉跡：石囲い炉を床面ほぼ中央に設ける。方形の平面形で四辺を圍繞する。規模は軸長約60cmで、使用面までの深さは12cmを測る。不整楕円状の掘り込みを持ち、深さは約24cmで皿状の断面形を呈す。炉石は東片に大型石皿(25)を転用していた。他辺は安山岩製の板石を充てていた。炉内南側に炉内土器を見る。

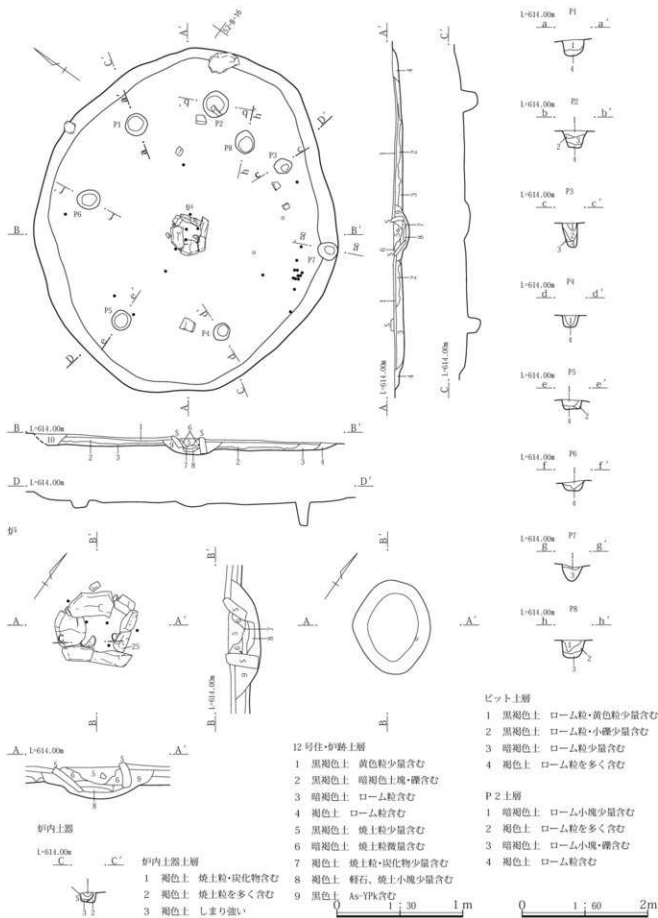
第3章 発見された遺構と遺物



第155図 52区11号住居跡出土遺物



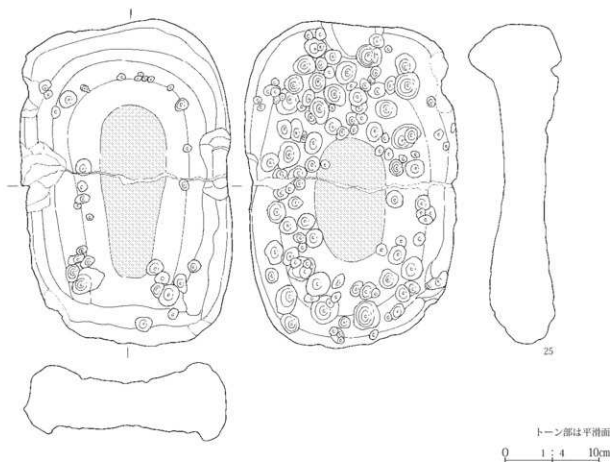
第156図 52区12号住居跡(1)



第157図 52区12号住居跡(2)



第158図 52区12号住居跡出土遺物(1)



第159図 52区12号住居跡出土遺物(2)

柱 穴：8基の柱穴ともP3以外は30cm以下の深さで、柱穴としてやや浅いが、配置からP1～P7までを充てたい。P2を奥壁柱穴と位置付け、南壁際に3基、北壁際に3基を対称的で整った配置を見せる。

遺 物：出土遺物は少量で、25点を図示し得た。土器はすべて破片状態で、時期差も幅広く、居住に伴う例ではなく流入を主とする。1は前期初頭の例か。花積下層と思われる。2～7は黒浜式併行と捉えた。3・4は甲信地方の影響が見られる。8は諸磯B式。9～13・22は中期中葉の所産である。9は社内出土であるが、細片であり流入の可能性が高い。14～21は中期中葉に比定される。加曽利EⅢ式古段階にあたる17～19は、南壁際の床面上でまとまった出土を示す。同一個体であろう。なお、社内土器であるが、極めて脆弱な土器のため取り上げ後原型を止めず詳細が不明となった。時期を決定できる資料であり残念である。

所 見：小型の石囲い炉を設け、柱穴の配置も規則性に富み良好な様相を示す。時期は床面上で出土した土器から中期中葉後半段階におきたい。

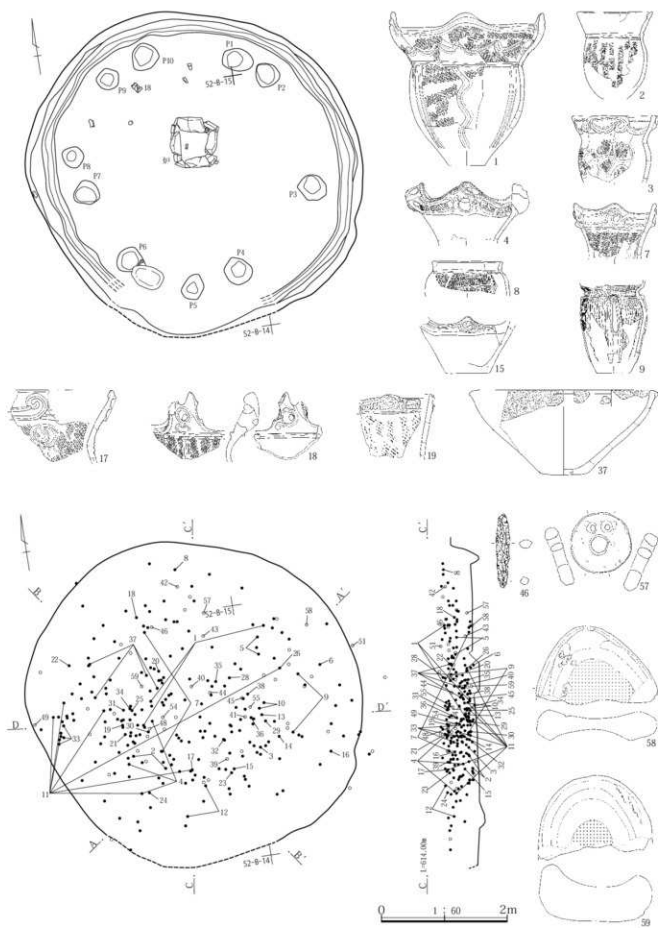
52区13号住居跡(第160～166図 PL.19・105～107)

位 置：調査区南西部で調査された。51区との境界に近く、52区A・B-14・15グリッドに位置する。周辺は緩やかな南東への傾斜地形を呈し、顕著な傾斜を見る。

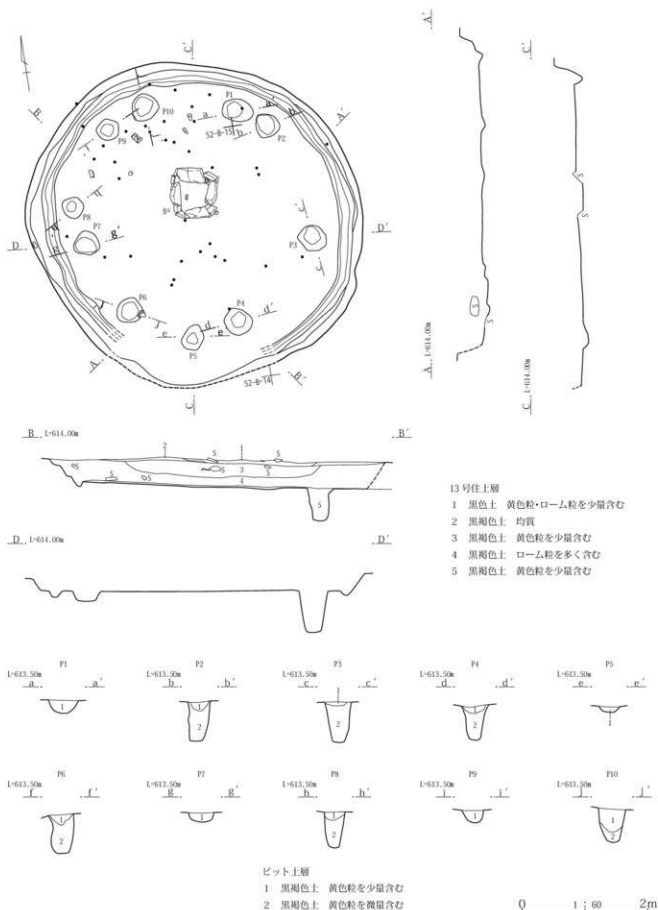
経 過：ローム漸移層の暗褐色土で確認、検出した。上層の黒褐色土における遺構確認作業の段階から、出土遺物量が多く、住居跡の存在を予想して調査を進めた。炉跡、良好な北壁周辺を検出し、住居跡として確定した。なお、南壁周辺は、傾斜地形も影響し良好な壁検出に至らなかったが、土層観察を反映し推定線を描いている。壁周溝に関しては、土層観察用の試掘坑が跨がったため、延長が不明である。

規 模：主軸をほぼ北に向けた。円形住居跡である。平面規模は5.3×5.1m、深さは42cmを測る。良好な遺存度である。南壁は検出が果たせなかったが、僅かな下端の残存で緩やかに突出する様相が把握された。

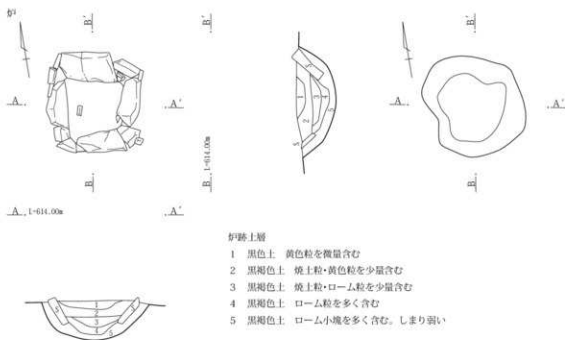
重 複：北側で12号宅と重複する。土層の観察は果たせなかったが、12号住居や柱穴が検出できたことから、12号宅に切られる新旧を考えたい。



第160图 52区13号住居跡(1)



第161図 52区13号住居跡(2)



枳跡上層

- 1 黒色土 黄色粒を微量含む
- 2 黒褐色土 焼土粒・黄色粒を少量含む
- 3 黒褐色土 焼土粒・ローム粒を少量含む
- 4 黒褐色土 ローム粒を多く含む
- 5 黒褐色土 ローム小塊を多く含む。しまり弱い

第162図 52区13号住居跡(3)

床 面：軟質ロームである黄褐色土を地床とする。ほぼ平坦面を築き、硬化面は中央部分に顕著に認められた。
 施 設：枳跡、壁周溝、ピット10基、平石を床面上で検出した。

枳 跡：石囲い枳を床面中央やや北寄りに設ける。方形の平面形を呈す。四辺を大型の板石で囲み、隅部も小型板石が充てられる構成で、強く開く傾斜で埋められている。平面規模は80×73cm、深さは11cmを測る。不整形の掘り込みを持ち、深さは30cm程である。下層に焼土の堆積が著しかった。

壁周溝：ほぼ全周する様相を示す。南壁周辺は未検出でおそらく延長すると思われるが、P5南周辺は断絶する可能性も想定したい。

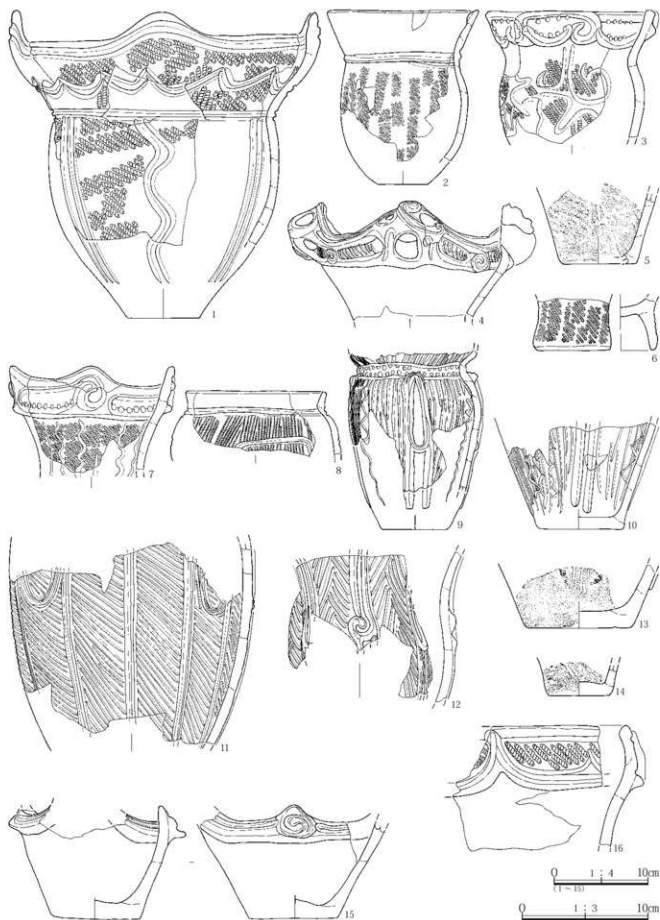
柱 穴：10基のピットのうち、柱穴に相当する規模、位置を示す例は、P2～P4・P6・P8・P10である。6本柱穴として良好な配置を示す。なおP1・P7・P9も深さは浅いが良好な位置に開けられ、補助柱穴などの性格が想起される。また、P5であるが出入口部に相当する箇所位置する。有機的な関連を示唆する。

平 石：床面上、P6東に接して大型の扁平な円礫が出土している。周辺は出入口部でもあり、何らかの意図を持った設置と思われる。

遺 物：埋土上層より出土が多い。少量の混入もある

が、一括廃棄の様相を呈する。59点を図示した。加曾利EⅡ式は1・5～8・14・16・17・19・35～37がある。4も加曾利EⅡ式古段階の可能性もある。その他に曾利Ⅱ式(2・9・30・32～34)、「郷土式」(3・10～13・22～24・27・28・31)、唐草文系土器(21・25・26・29)、大木8b式新(27)などが見られ多様性を含み、系統への偏りは見られない。釣り手土器(15)は、南側で埋土下位から出土しており、床面からではない。38は中期中葉の所産で混入と判断した。阿玉台Ⅱ式である。石器の出土量も多く、石鏃(39～45)、石錐(46)、打製石斧(47～52)、磨製石斧(53)、磨石(54)、凹石(55・56)、軽石製品(57)、石皿(58・59)を図示した。石皿はほぼ床直出土である。環状の軽石製品は2孔を穿ち、垂飾様の機能が想起される。

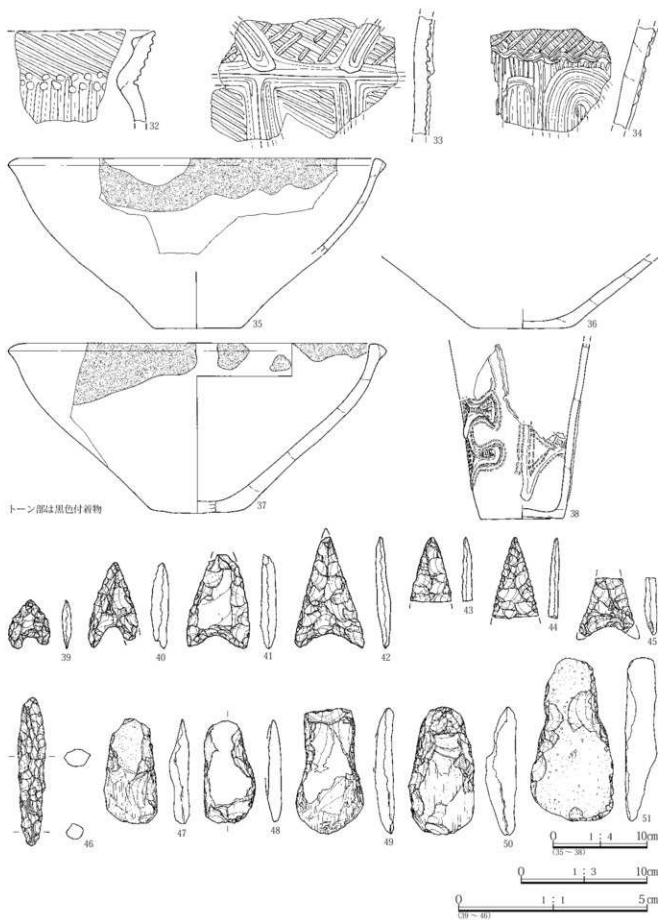
所 見：円形の整った形態を示す住居跡である。6本柱穴が規則性を保ち、床面北よりの方形石囲い枳も良好に検出された。出土遺物は豊富ながら、厳密に居住に伴う例は少ないと考える。一括廃棄の様相を主とする。時期は中期後葉中頃と考えた。



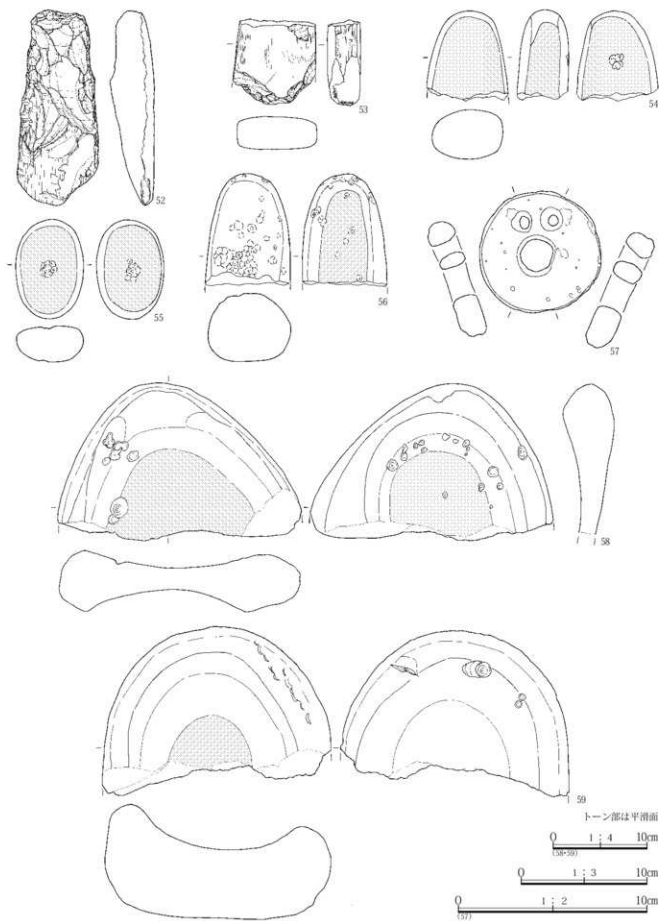
第163図 52区13号住居跡出土遺物(1)



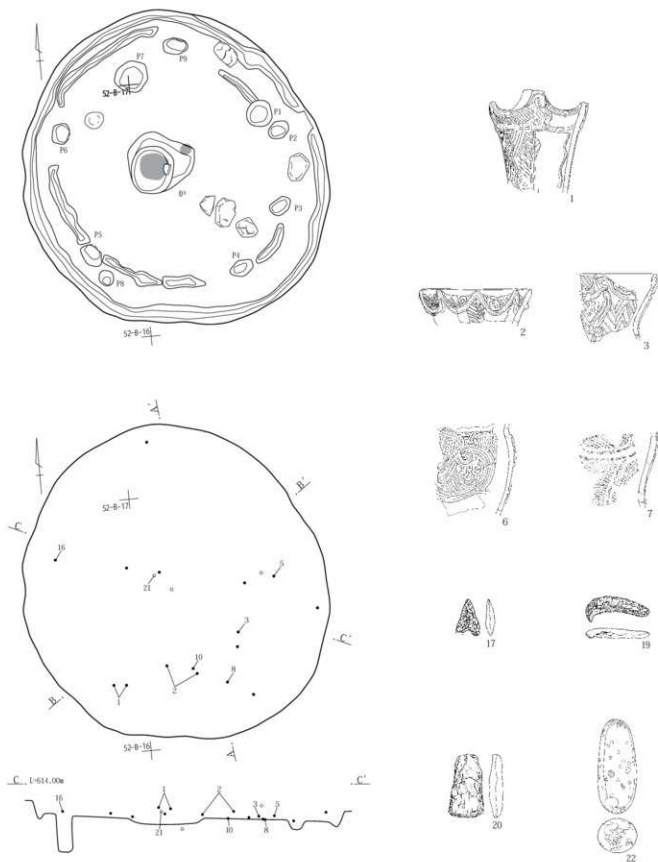
第164图 S2区13号住居跡出土遗物(2)



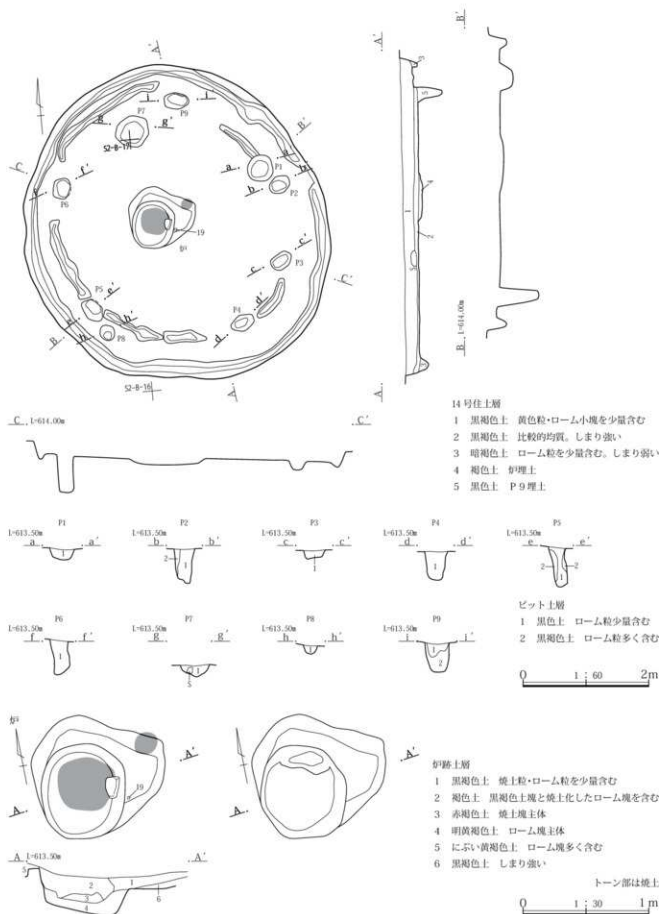
第165図 52区13号住居跡出土遺物(3)



第166図 52区13号住居跡出土遺物(4)



第167図 52区14号住居跡(1)

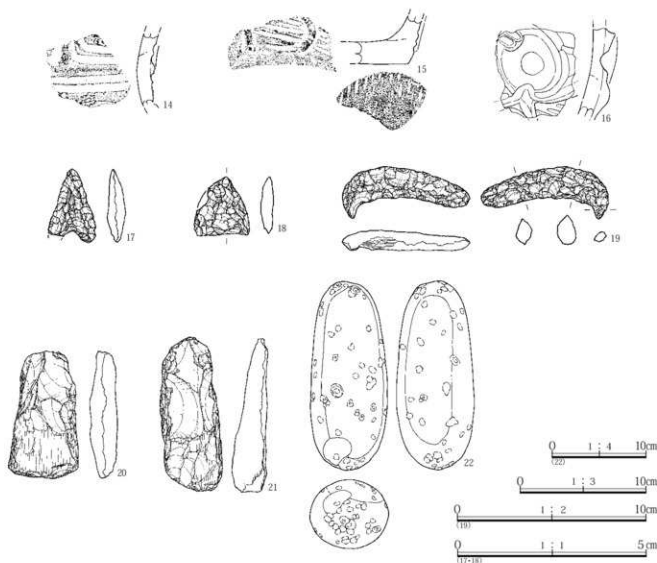


第168図 52区14号住居跡(2)

(床下)



第169図 52区14号住居跡(3) 床下・14号住居跡出土遺物(1)



第170図 52区14号住居跡出土遺物(2)

52区14号住居跡 (第167～170図 PL.20・107・108)

位置：調査区南西部で調査された。51区との境界に接しており、52区A・B-16・17グリッドに位置する。周辺は緩やかな南東への傾斜地形を呈し、顕著な傾斜を見る。

経 過：ローム漸移層下位の暗褐色土で確認、検出した。少量の遺物の散布と平面形を確認したため、住居跡を想定し調査を進め、炉跡、床面などの検出に至った。

規模：主軸を北に向けた円形住居跡である。平面規模は5.1×4.8m、深さは37cmを測る。良好な遺存度である。重複：住居跡相互の重複は無いが、12号住が南西に、18号住が北に近接する。また炉跡に切られて、87坑が床面上で確認されている。

床 面：軟質ローム上層の黄褐色土を地床とする。ほぼ平坦面を築き、硬化面を全域に広げていた。

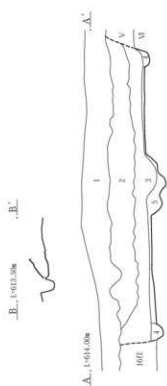
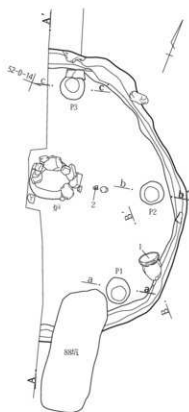
施設：炉跡、壁周溝、ピット9基を床面上で検出した。

炉 跡：床面中央やや西寄りに地床炉を設ける。不整形の掘り込みを持ち、平面規模は約106×97cm、使用面までの深さが約21cmを測る。主体部というべき掘り込みは楕円状で規模は約75×66×30cmである。焼土の堆積が顕著だった。

壁周溝：壁下をほぼ全周する。また内縁を断続的に小溝が周る。やや北西に偏りが見られ、このことから南側への拡張を主とした、拡張住居として位置付けられる。柱 穴：ピット9基のうち、規模、配置から主柱穴とされる例が、P2・P4～P6・P9である。5本柱穴の整った配置といえよう。P1、P8が主柱穴に近接するが、浅く拡張に伴う柱の移動は観察されなかった。

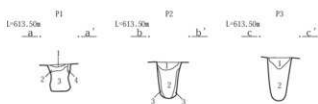
床下遺構：内縁の周溝に対応する柱穴の検出を試みたが、良好な例は見られず、炉北東部やP4周辺に土坑を確認した。あるいは住居跡以前の土坑の可能性もあり、床下土

第3章 発見された遺構と遺物



15号住居

- 1 黒褐色土 ローム粒極微量含む。耕作土
- 2 黒褐色土 軽石粒を少量含む
- 3 黒褐色土 軽石粒を微量、焼土粒を極微量含む
- 4 黒褐色土 ローム塊を含む
- 5 暗褐色土 ローム塊と黒褐色土塊の混土
- 基本土層V 黒色土 軽石微量含む
- 基本土層VI ローム塊と黒色土塊との混土。軽石粒極微量含む



P 1 土層 (133号ピット)

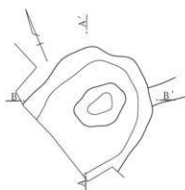
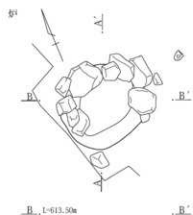
- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む
- 2 黒褐色土 ローム粒多く含む
- 3 黒褐色土 ローム粒極微量含む
- 4 黒褐色土 ローム粒含む

P 2 土層 (134号ピット)

- 1 黒褐色土 軽石粒極微量含む
- 2 黒褐色土 ローム粒少量含む
- 3 暗褐色土 ローム塊と黒褐色土塊の混土

P 3 土層 (135号ピット)

- 1 黒褐色土 軽石粒極微量含む
- 2 黒褐色土 ローム粒少量含む

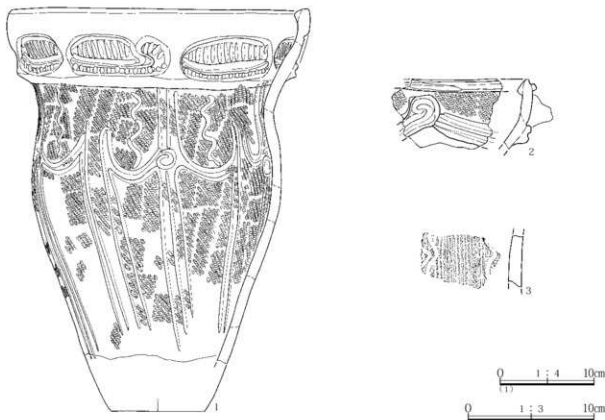


伊路土層

- 1 黒色土 軽石粒極微量含む
- 2 黒褐色土 ローム塊含む



第171図 52区15号住居跡



第172図 52区15号住居跡出土遺物

坑としての位置付けは控えない。

遺物：出土遺物は多くはなく、全体に散漫な分布状態を示す。その中で、大型の円礫が床面及び床直上より出土している。施設としての有機性を見出せないが、何らかの機能が推定される。出土遺物は、22点を図示した。埋土下位～床面出土が多いが、土器はすべて破片状態の出土で個体図示し得た1・2も接合資料である。居住に伴う例ではなく、流入、廃棄によるものと考えた。比較的「郷土式」の出土が目立つ。加曾利EⅡ式は11～13のみで、「郷土式」主体の出土組成といえよう。11も口唇部の肥厚が「郷土式」にも見られる特徴で、加曾利EⅡ式と断定はできない。なお、14・16は「新巻類型」であり混入であろう。石器は石鏃(17・18)、異形石器(19)、打製石斧(20・21)、敲石(22)を図示した。19は、炉内より出土しているため、住居跡時期に近い所産と思われる。

所見：整った円形を基調とする住居跡である。石囲い炉を設け、5本柱穴を配す。壁周溝が内礫にも検出されたため、拡張住居跡と判断できる。時期は、出土土器から中期後葉中頃と考えた。

52区15号住居跡(第171・172図 PL.20・108)

位置：調査区南西部で調査された。52区C-12～14グリッドに位置する。周辺は南への緩斜面地形が顕著で、黒褐色土の堆積が厚い地点である。

経過：黒褐色土中では確認が果たせず、ローム漸移層下位の暗褐色土で確認、検出した。西側は分割調査で先行しており、その際には本住居跡と16号住は確認されていない。そのため、本住居跡の調査は東半の調査に止まる結果となった。

規模：主軸を北北西に向け、軸長約4.6mを測る円形住居跡である。深さは17cmを測るが、土層観察では50cmを超える壁高を示す。

重複：南側を大きく16号住と重複する。本住居跡が跡が16号住壁周溝を切る新旧関係を示す。また、黒褐色土調査中に1号埋裏を調査している。本住居跡に乗る新旧を示すが、土器様相からは確定できない。南壁を切る88坑は中世～近世の所産である。

床面：黄褐色ロームを基調とした貼床土を見る。おそらく基盤礫が露出するため、床面を整えたと思われる。硬化面は炉跡周辺から北側に広がりを見る。

施設：炉跡、壁周溝、ピット3基、壁下深鉢を床面上

より検出した。

炉 跡：床面ほぼ中央に石囲い炉を設ける。炉石が崩れた状態で整った形態ではない。板石を主としており、南辺の炉石が抜かれる。不整楕円状の平面形で、約80×68cmの平面規模を呈す。深さは22cmを測る。埋土中の焼土の堆積は希薄だったが、底面の一部が焼土化していた。壁周溝：北壁にやや乱れを見るが、東半の調査では壁下に周溝が巡る様相を示す。

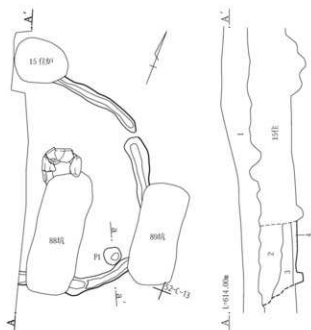
柱 穴：検出された3基のピットを主柱穴として捉えた。P2を奥壁柱穴と考え、配置からは5～6本柱穴を想定さ

れよう。

壁下深鉢：厳密な施設ではないが、東壁際に底部を欠する深鉢が横位の状態出土した。口縁～体部はほぼ完形で、底部は意図的な欠損と見られる。体部下半の内面に煤が付着する様相から、煮沸後の転用と思われる。

遺 物：出土遺物は極めて希薄である。Iは縄文施文ながら、口縁部文様帯の様相から「郷土式」と考えた。

所 見：東半の調査に止まった住居跡であるが、平面形、柱穴の配置も整っており、良好な遺存度といえよう。時期は深鉢1から中期後葉中頃としたい。



16号住居層

- 1 黒褐色土 軽石粒・ローム粒を極微量含む。耕作土
- 2 黒褐色土 軽石粒を少量含む
- 3 黒褐色土 軽石粒・焼土粒を少量含む
- 4 暗褐色土 ローム塊を含む

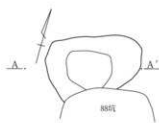
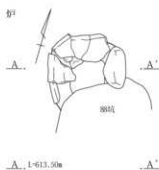
P1
A-A', 1-613.50m



P1土層

- 1 暗褐色土 ローム粒少量、軽石粒を微量含む

0 1 2m



A-A', 1-613.50m

炉跡土層

- 1 暗褐色土 軽石粒少量、焼土粒を微量含む
- 2 褐色土 ローム塊を多く含む



0 1 30 1m

第173図 52区16号住居跡

52区16号住居跡 (第173図 PL.21)

位置：調査区南西部端で確認、検出された。52区C-12・13グリッドに位置する。周辺は南への緩斜面地形が顕著で、黒褐色土の堆積が厚い地点である。

経過：15号住と同様に東半の調査に止まっている。平面形などの確認は、黒褐色土中では果たせず、ローム漸移層下位の暗褐色土で調査を進めた。加えて北を15号住、南を土坑に切られるため、全容の把握に手間取った。

規模：主軸を北北西に向ける。平面形は円形を呈し、規模は径約3.6mを測る小型の住居跡である。深さは約13cmと浅いが、土層の観察では15号住同様に50cm前後の壁高を誇る。

重複：北側を15号住跡に切られる。南側及び南東部は中世～近世の所産である88坑と89坑に壊される。88坑は長方形土坑で北端が本住居跡跡跡にまで達している。床面：暗褐色土塊とローム塊からなる。15号住と同様に、基盤礫の露出を補うための貼床と考えた。ほぼ平坦面を築き、硬化面は炉跡北側の狭い範囲に認められた。施設：炉跡、壁周溝、ピット1基を床面上で検出した。炉跡：床面ほぼ中央に石囲い炉を設ける。南側を88坑に壊されていた。平面形はおそらく方形であろう。軸長約61cm、深さは23cmを測る。少量の焼土を見た。炉石は、北辺と西辺が板石、東辺が棒状の円礫で構成される。石材の差は注意しておきたい。

壁周溝：88・89坑、15号住炉との重複部分以外で壁周溝

が巡る様相が把握された。北側の壁周溝は、15号住床下で検出されている。

柱穴：東南隅に小型のピット1基を確認した。床面上で把握できたピットはこの1基のみで、柱穴配置としても適当ではない。おそらく、調査区域外や土坑重複部に配置されると思われるが、小型住居のため、柱穴間の距離が空くかもしれない。

遺物：出土遺物は見られなかった。

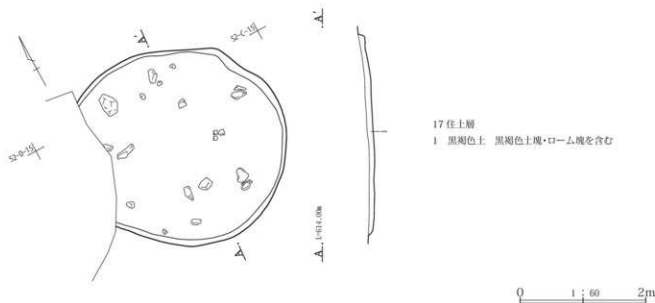
所見：東半の調査に止まった住居跡である。小型円形を呈し、石囲い炉を設ける。出土遺物もなく時期の確定に苦慮するが、15号住に切られる新旧関係から、中期後葉前半～中頃の所産と考えた。

52区17号住居跡 (第174図 PL.21)

位置：調査区南西部端で調査した。52区C-14・15グリッドに位置する。周辺は南への緩斜面地形が顕著で、黒褐色土の堆積が厚い地点である。

経過：平面形の確認はローム漸移層下位の暗褐色土で行った。円形の落ち込みを確認し、住居跡として調査を進めたが、炉跡、柱穴などの検出を果たせず、住居跡としての位置付けに疑問が持たれたが、底面に広がる硬化面の存在があり、住居跡と考えた。なお、西側は現代構築物があり、調査できなかった。

規模：平面形は不整形円形で、軸長約3.1mの小型住居跡である。深さは最深部で27cmを測るが、全体に浅く残



第174図 52区17号住居跡

りは良くない。

重複：単独の検出である。東に12・13号住、南西に15・16号住が近接する。

床面：ローム漸移層下位～軟質ローム上層の褐色土を地床とする。平坦面を築き、床面中央に硬化面を見る。

施設：炉跡、壁周溝、柱穴などは見られなかった。

遺物：床面上から、板石破片など自然礫が出土したが、土器、石器の出土は見なかった。

所見：炉跡など住居跡として主要施設を持たない。発掘調査では、硬化面を持つ床面の存在から住居跡として調査を進めたが、確信性に乏しい。竪穴状遺構としての位置付けが妥当であろう。時期も不明である。

52区18号住居跡（第175～177図 PL.21・108・109）

位置：調査区中央やや北西寄りに位置する。51区遺構密集地点の南西側にあたり、周辺は南東への緩傾斜地形が顕著な地点である。52区A・B-17・18グリッドに位置する。

経過：ローム漸移層下位の暗褐色土で確認、検出作業を進めた。北側を試掘トレンチが横走し、壁と床面の一部を壊していた。少量ながら遺物の出土が集中し、炉跡の検出に至り住居跡として調査を進めた。

規模：主軸を北北西に向ける楕円状の平面形を呈すが南側は斜面地形のため逸失しており、把握できなかった。短軸長は約3.9m、深さ15cmを測る。浅く、遺存度は良くない。

重複：住居跡相互の重複は無いが北側に9号住、南に14号住が接する。土坑は99坑、102坑が北東壁に重なる。新田は不明である。

床面：軟質ローム上層の褐色土を地床とする。ほぼ平坦面を築き、硬化面は見られなかった。

施設：炉跡、壁周溝、ピット5基、丸石を床面上で検出した。

炉跡：床面ほぼ中央に石囲い炉を設ける。平面形は

方形を呈し、規模は約68×52cm、深さ10cmを測る。四辺を中型の棒状円礫で囲み、短辺2石、長辺3石の10石からなる。ほぼ同規模の掘り込みを有し、焼土が明瞭に堆積していた。

壁周溝：南側壁、トレンチ部分では未検出だが、壁下に設けられる。

柱穴：5基のピットのうち、P1～P3・P5の4基を柱穴として捉えた。規模、配置とも主柱穴として位置付けられよう。

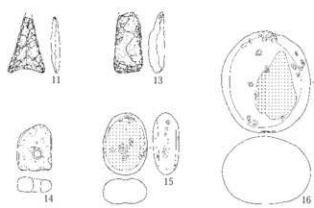
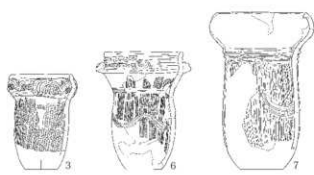
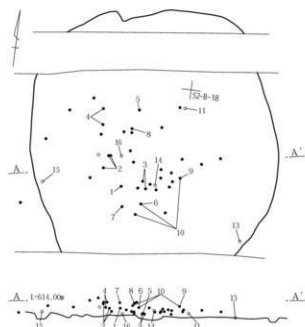
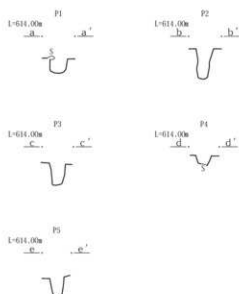
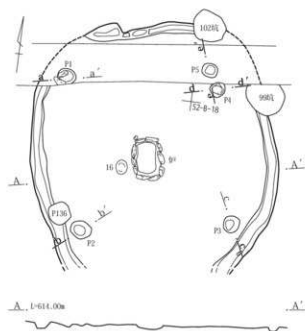
丸石：炉跡西に床直で丸石が出土している。僅かな平滑面や敲打痕を持つが、大型品として注意を要する。炉周辺の儀礼に供されたのであろうか。

遺物：少量ながら、住居跡中央やや南寄りに偏りを見せる。住居跡遺存度も悪く、短時間の廃棄、流入と捉えた。16点を図示した。加曾利I式（1～5・9・10）の出土が目立つ。6は中韓式であるが、口縁部文様帯の交互刺突文に簡素化が見られる。7・8は曾利I式であろう。石器は石鏃（11）、楔形石器（12）、打製石斧（13）、軽石製品（14）、凹石（15）、丸石として出土した磨石（16）がある。

所見：石囲い炉を中央に設け、4本柱穴を配置する整った形態を示す。炉西脇には丸石が置かれる特徴があり、炉周辺の儀礼も考えられる。時期は、中期後葉前半段階と思われる。



調査風景

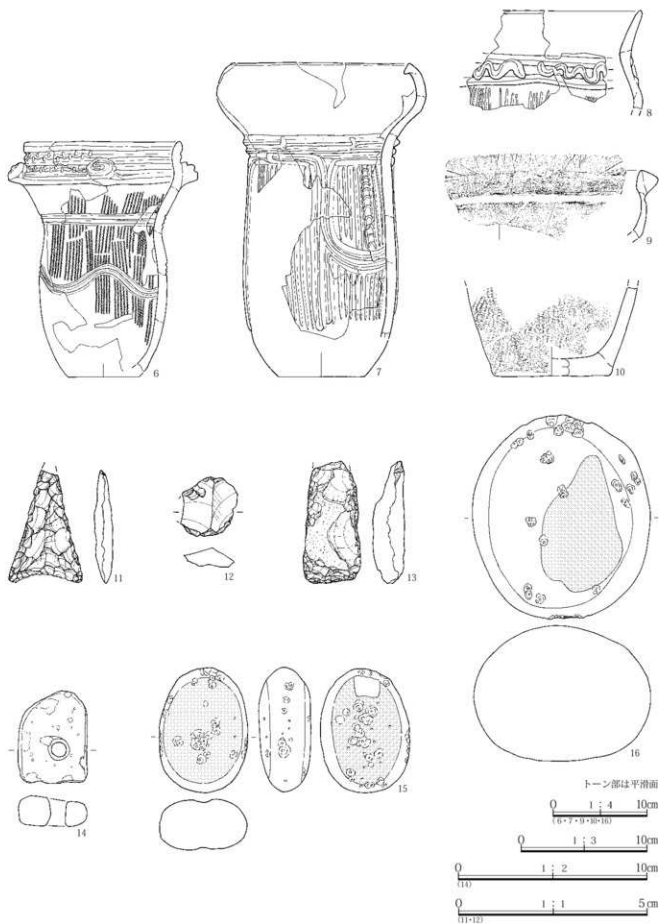


第175图 52区18号住居跡(1)

第3章 発見された遺構と遺物



第176図 52区18号住居跡(2)・18号住居跡出土遺物(1)



第177図 52区18号住居跡出土遺物(2)

61区5号・13号住居跡

調査区北東部端で調査された重複住居跡である。5号住が13号住を切る新田で検出されている。

5号住居跡（第178～180図 PL.21・109・110）

位置：61区L-1・2グリッドに位置する。周辺は南側への緩斜面地形が顕著だが、遺構が密集する地点である。

経過：黒褐色土中の確認・検出である。遺構確認中に、敷石の一部や炉跡が露出したため、住居跡として調査を進めた。しかしながら、東側は調査区域外に延長し、北壁の一部と周辺の敷石、炉跡は検出できたが、西壁や南壁は斜面地形のため逸失しており、整理段階で推定線を施した。

規模：長軸長は5mを超える規模を推定した。深さは残りの良い北壁付近で13cmを測るが、その他は床面が露出、逸失しており、遺存度は良くない。

重複：北壁に13号住を重ねる。土層の観察では13号住を切る新田関係である。また西壁周辺で15号住と重複する。土層による新田は不明だが、出土遺物からは本住居跡が新しい。また、床面には40坑～43坑が重なる。出土土器からは40坑と41坑が本住居跡より古く、42坑が新しい。

床面：北壁から西壁に沿って、敷石が置かれる。ほぼ同一レベルでの敷石のため、住居跡外縁に付設されたものと判断した。炉跡周辺は暗褐色土を地床とする。硬化面は見られず、南側へ傾斜する傾向が強い。

施設：炉跡、ピットを検出した。

炉跡：床面中央に石囲い炉を見る。大型の垂円礫1、垂円礫3で四辺を囲い、上層中央に扁平な円礫を置く。円礫はおそらく廃棄後に設置したものであろう。炉跡平面規模は約88×76cm、深さは27cmを測る。

柱穴：床面及び周辺で検出されたピット13基を掲載したが、規模・配置からは、P1・P5・P13が床面上のピットで良好な例である。

遺物：北側から西側にかけて遺物出土が見られた。傾斜に沿った流入と思われるが、出土土器の時間幅は短く、堀之内1式に比定される。石器は磨製石斧（11）、敲石（12・15）、磨石（13・14）が見られた。

所見：敷石住居跡である。傾斜地形のため、南側の詳細が把握できなかったが、北側壁に沿う敷石、石囲い炉を抽出できた。石囲い炉上部を覆う扁平な自然石は炉廃

棄時の所産と考えたが、確証はなく今後の課題としたい。13号住居跡（第178～180図 PL.21・109・110）

位置：61区L・M-2グリッドに位置する。周辺は南側への緩斜面地形が顕著である。

経過：南側の5号住居跡と重複状態で調査された。黒褐色土中で確認・検出作業を進めた。

規模：弧状の北側壁の検出に止まったため、形状は不明である。深さも9cm前後で、遺存度は良くない。

重複：南側を5号住、西側を15号住に切られる重複関係である。

床面：軟質ローム上層の黄褐色土を地床とする。凹凸を持ち、南東側への緩やかな傾斜が見られた。

施設：床面上にピットを検出したが、浅く柱穴ではない。壁周溝や炉跡も見られない。

遺物：石礫（10）1点の図示に止まった。未製品である。所見：5号住と15号住に大きく切れ、全容は把握できないが、平面形の規模から住居跡と考えた。時期は不明である。

61区6号住居跡（第181図 PL.21・110）

位置：調査区北東端に位置する。北側を調査区域外に延ばす。周辺は南側への緩傾斜地形が顕著である。61区M-2・3グリッドに位置する。

経過：軟質ローム上面で調査した。表土からの堆積が比較的薄く、遺構確認時に既に炉と床面が露出したため、住居跡として確定した。北側は調査区域外、南側と東側は15号住、13号住に切られるため、位置関係を重視して推定線を施した。なお、発掘調査では南側にある14号住敷石を本住居跡に帰属していたが、整理時に分離した。

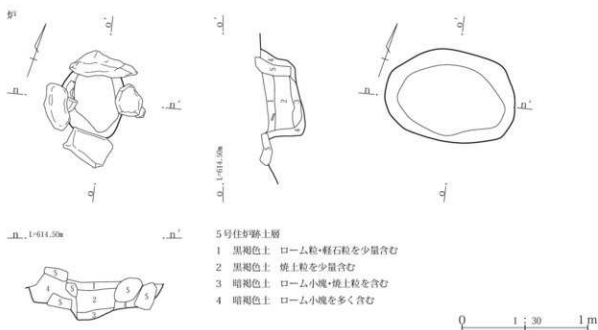
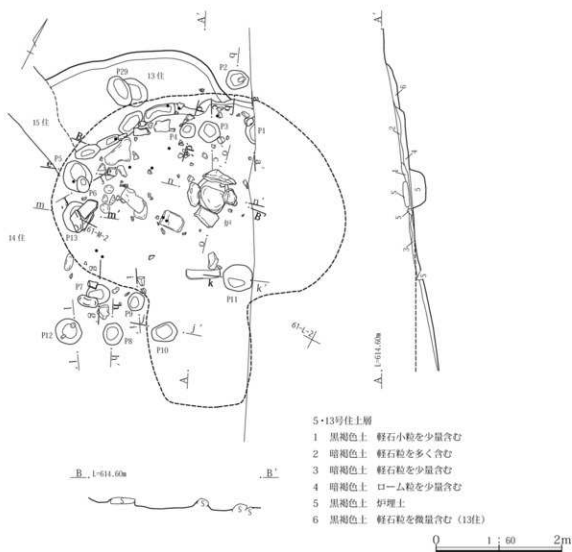
規模：短軸長約4mの小型の住居跡と思われる。確認時で壁は無く、深さは測れなかった。

重複：13号住、15号住に切られる。また46坑が南側で重複するが新旧は不明である。

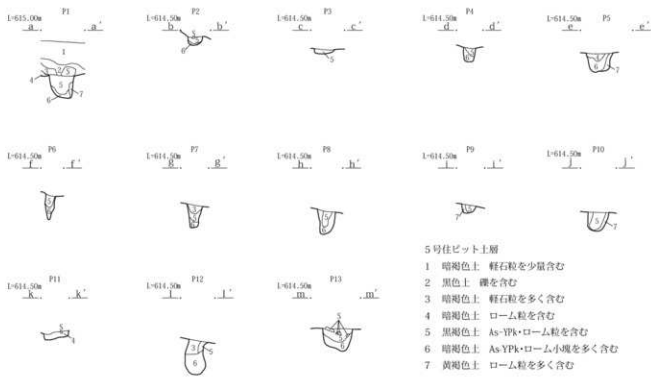
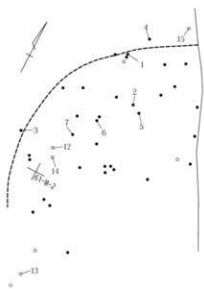
床面：軟質ロームの黄褐色土を地床とする。平坦面を築くが、硬化面は見られなかった。

施設：炉跡、壁周溝、ピットを床面上で検出した。

炉跡：主軸をほぼ北に向けた方形の石囲い炉を床面中央に設ける。炉石は安山岩製の板石を用い、四辺を圍繞する。強く開き気味に埋められ、上端及び内面には被熱



第178図 61区5・13号住居跡(1)

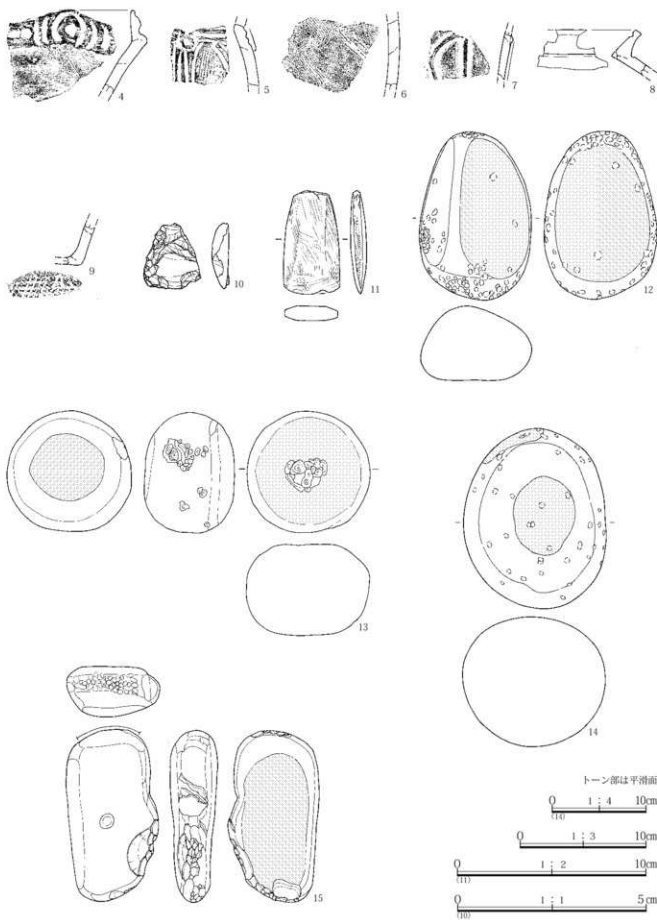


0 1:60 2m

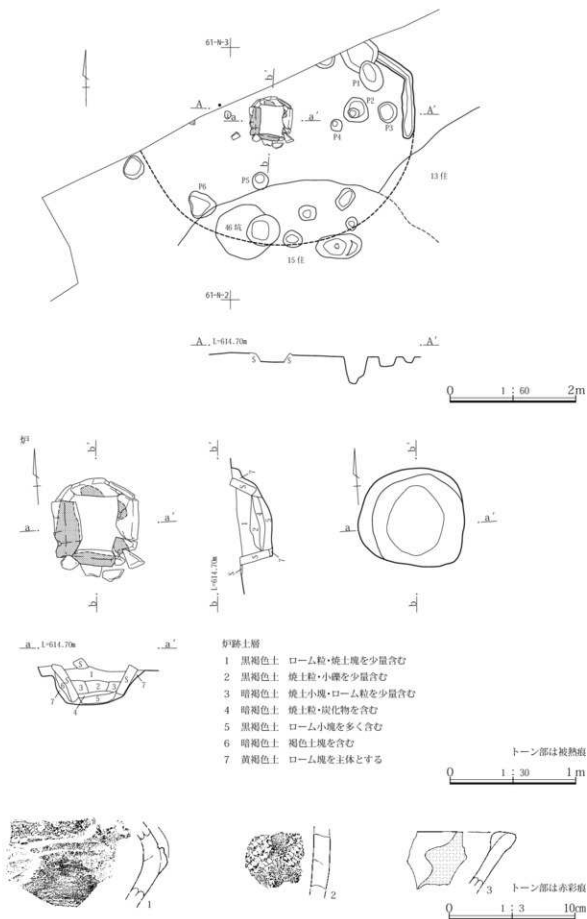


0 1:3 10cm

第179図 61区5・13号住居跡(2) 5・13号住居跡出土遺物(1)



第180図 61区5・13号住居跡出土遺物(2)



第181図 61区6号住居跡・6号住居跡出土遺物

痕跡が観察された。不整形形の掘り込みを有し、焼土の堆積も顕著だった。

壁周溝：北東部に屈曲した形態で周溝を検出した。形態から、住居跡平面形は五角形あるいは六角形と思われる。その他は、重複遺構のため検出できなかった。

柱 穴：床面上にピットを検出したが、規模、配置ともに良好な例は少ない。P1～P3が北東壁周辺の柱穴と考えられる。それ以外は、重複する14・15号住に帰属し得る例もあり、確定できない。

遺 物：出土遺物量は少ない。3点を図示した。出土地点の記録は無いが、埋土下位～床面出土で破片資料である。加曾利E1式である。

所 見：径4m程度の小型の住居跡と思われる。良好な石囲い壁を検出したが、周辺住居跡との重複により、壁周溝、柱穴などはやや貧弱な様相を示す。時期は少量の出土遺物のため確定性に乏しいが、中期後葉前半段階と考える。

61区14・15号住居跡（第182～184図 PL.22・110・111）

調査区北東部端で調査された重複住居跡である。両住居跡の新旧は判然とせず、15号住が14号住の北側外縁に位置する形態から、1軒の住居跡としての可能性も踏まえておきたい。

位 置：51区に跨って検出された。51区L・M-25、61区L～N-1・2グリッドに位置する。

経 過：周辺は南側への傾斜が顕著で、この斜面地形に沿って、多くの自然礫と遺物が出土した。住居跡を想定し、南北に土層ベルトを設定し、検出に努め、住居跡壁2段を見ることができた。上位の壁を15号住北壁、下位を14号住北壁と2軒の住居跡を確定した。また、南側ではか跡が確認でき、これを14号住か跡とした。

規 模：出入口部を推定し、長軸長約6.4m、短軸長約5.1mの敷石住居跡を復元した。深さは北壁からか跡辺までが50cmを超えるが、北壁周辺では25cm程度である。

重 複：北西に25号住、東側に5号住、13号住が重複する。5号住を切る新旧は

把握できたが、13号住、25号住とは不明である。

床 面：15号住が軟質ローム、14号住がローム漸移層を地床とする。南側への傾斜に沿う形態で、極めて不安定な様相を呈す。14号住西壁際に敷石を見る。大型の角礫や扁平な自然礫を主としており、殆どが同レベルで出土していたが、幾つかはやや浮いた状態だった。

施 設：か跡、ピットを検出した。

か 跡：14号住床面中央に地床か跡を設ける。径90cm程の不整形形の平面形を呈し、深さ28cmを測る皿状の断面形である。焼土の堆積を見た。

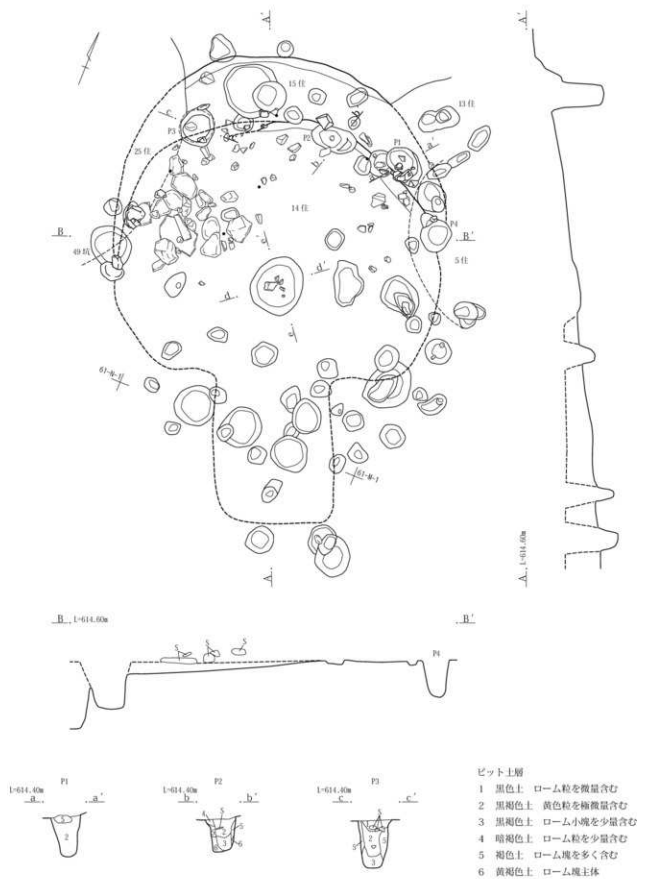
柱 穴：床面及び周辺のピットを掲載したが、P1～P4を柱穴としたい。その他では、西壁に重複する49坑も規模、配置から柱穴に相当しよう。南側の柱穴は相応するピットが無く、特定は控えたい。対ピットも確認できなかった。

遺 物：両住居に跨って遺物が集中した。24点を図示した。14号住居跡として取り上げられた土器の多くが、称名寺式に比定される（1～4）。一方15号住は小破片ながら堀之内1式を主体とする。なお10は堀之内2式、19～21は加曾利EIII式である。

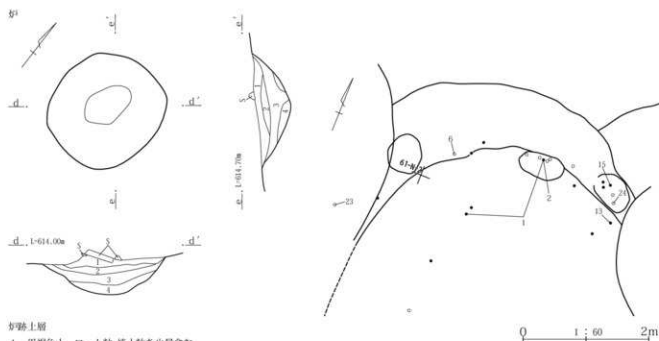
所 見：以上のように2軒には時期差が見出せるが、おそらく、斜面地形における遺物の流入で、混在化した様相と把握できよう。時期は14号住が後期初頭、15号住が後期前葉としておきたい。古相を示す14号住の遺存度が優れており、15号住の多くが斜面地形に流失したと考えられるべきだろうか。



調査風景

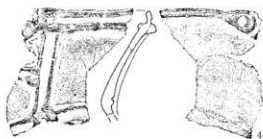
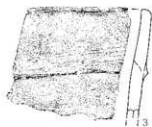
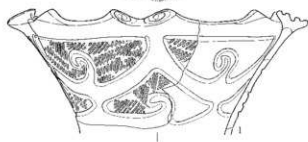
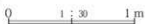


第182図 61区14・15号住居跡(1)



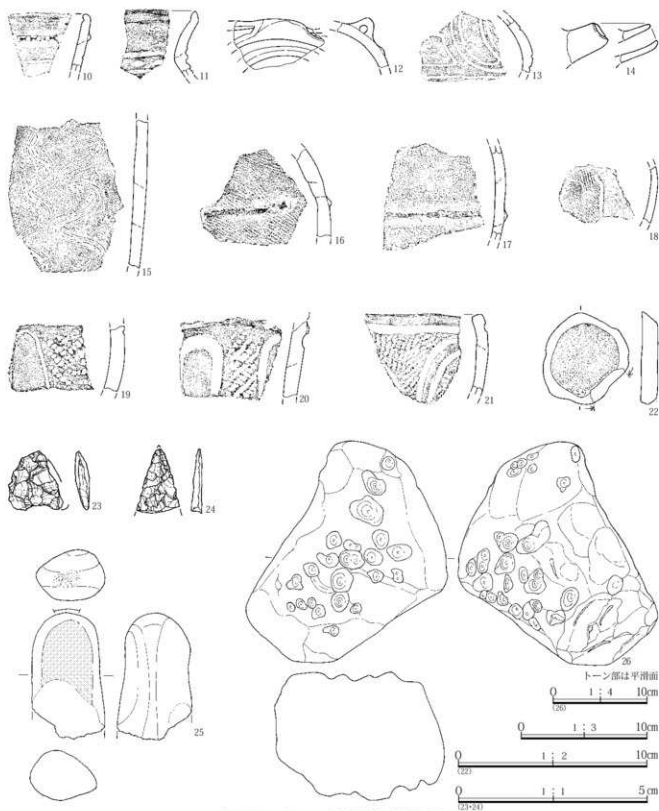
跡層上層

- 1 黒褐色土 ローム粒・焼土粒を少量含む
- 2 黒褐色土 焼土粒を多く、炭化物を少量含む
- 3 暗褐色土 ローム小塊・褐色土塊を含む
- 4 褐色土 ローム小塊を多く含む



第183図 61区14・15号住居跡(2) 14・15号住居跡出土遺物(1)

第3章 発見された遺構と遺物



第184図 61区14・15号住居跡出土遺物(2)

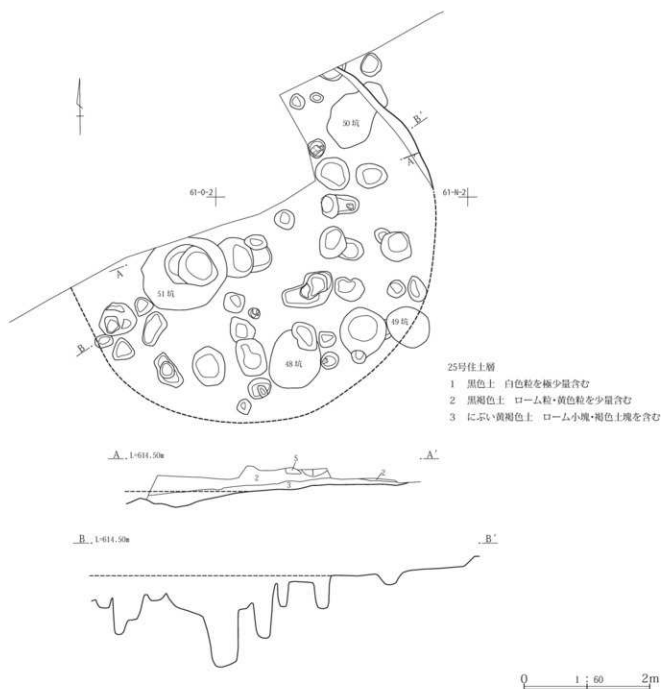
61区25号住居跡(第185・186図 PL.22・111)

位置: 調査区北東端に位置する。北側を調査区域外に延ばす。周辺は南側への緩傾斜地形が顕著である。61区N-0-1・2グリッドに位置する。

経過: 軟質ローム上層の黄褐色土で確認・検出作業を

進めた。強い傾斜地形に沿って、自然礫とともに遺物の出土が見られ、北東側に壁を検出したため、住居跡として調査した。

規模: 北東側の壁を基準に径約6mの円形住居跡を想定した。斜面地形のため、深さは判然としないが壁下で



第185図 61区25号住居跡(1)

約18cmを測る。

重複：14号住と15号住が東側で重複する。土層の観察、出土遺物の様相からも新旧は把握できない。土坑は48坑～51坑が重なる。新旧は不明である。

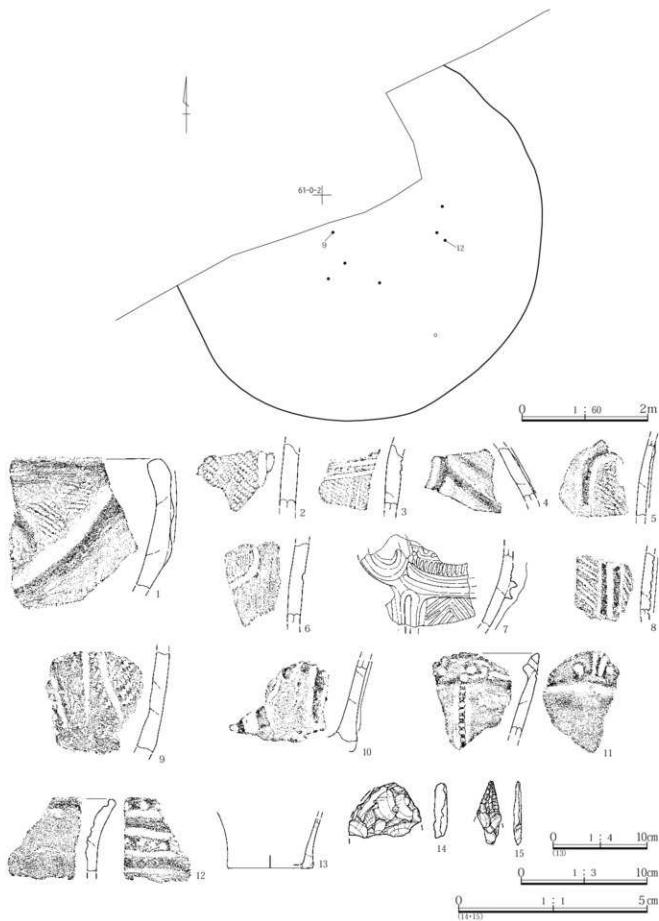
床面：北東壁周辺に平坦面を見るが、他は斜面地形のため判断としない。黄褐色土を地床とし硬化面などは観察されなかった。

施設：跡を検出していない。床面範囲にピットを多く検出したが、すべて斜面地形に開く不定型のピットである。柱穴は特定できなかった。

遺物：斜面地形に流入する様相で遺物の出土を見る。

15点を図示したが、居住に伴う例ではなく、流入による出土状況と判断できる。時期も中期後葉から後期中葉まで幅広く、住居跡時期の特定には至らなかった。

所見：跡が無く、柱穴の特定も果たせなかった。住居跡ではなく、土坑、竪穴状遺構としての性格も位置付けられよう。時期も不明である。



第186図 61区25号住居跡(2)・25号住居跡出土遺物

第4節 土坑

林中原Ⅱ遺跡では、600基以上の土坑が発掘調査で確認されている。そのうち、本報告書が対象としている国道部分では453基の土坑が調査された。ここでは、縄文時代に比定される土坑313基を対象に報告するが、出土遺物や土層の特徴から時代を導き出したため、弥生時代、中世～近世に属する土坑も混在する可能性もある。弥生時代以降を扱う、報告書第3分冊で修正が必要となる。

本書では縄文時代の土坑のうち、人骨や遺物を主体的に出土した土坑を土坑1とし、それ以外の土坑を土坑2と分けて報告する。

土坑1

51区65号土坑 (第187・196図 PL.23・111)

位置・重複：51区X-20・21グリッド。調査区北西寄りの遺構密集地点にある。周辺は南東への緩傾斜地形にあり住居跡や土坑が密集している。

3号住南で重複する。新旧は土層で確認されていないが、出土遺物からは、3号住の方が新しい。

経過・規模：ローム漸移層の暗褐色土で確認し、坑底面は軟質ローム下層にまで達す。

北東に長軸を向けた不整楕円状の平面形を呈し、平面規模は108×86cm、深さは約75cmを測る。断面形は袋状でしっかりした掘り込みである。

遺物・所見：上層に頭部と基部を欠いた石棒(6)を見る。埋土中から下層にかけて加曾利EⅡ式の土器片(1・2)、石匙(3)、打製石斧(4)、凹石(5)が出土している。

断面形状は貯蔵穴としての性格が想起されるが、石棒の出土から、墓塚としての位置付けも可能である。時期は出土土器片から中期後葉中頃としたい。

51区81号土坑 (第187・196図 PL.23・111)

位置・重複：51区W-19グリッドに位置する。調査区北西寄りの遺構密集地点にある。周辺は南東への緩傾斜地形を呈し住居跡や土坑が密集する。

本土坑も6号住南西部に重なる。土層による新旧は不明だが、出土土器からは本土坑が6号住を切る。また、ピット2基(P281・P300)も重なるが新旧は不明である。経過・規模：ローム漸移層下位の暗褐色土で確認した。坑底面は軟質ローム下位にまで達し、As-Ypkの堆積も基

盤層に見られた。

南北に長軸を持つ不整楕円状の平面形を呈す。平面規模は約107×82cmで、深さは75cmを測る。深くしっかりした掘り込みで、箱形の断面形状を示す。

遺物・所見：大型の板石と円礫直下に大型深鉢(1)が横位に潰れた状態で1/2個体分がまとまって出土した。体部下半～底部を欠する。加曾利EⅡ式であろう。また打製石斧(4)も深鉢上位に接していた。深鉢下位から方形の垂角礫が出土している。

自然礫に挟まれた状態で大型深鉢が出土した状況は注意したい。深鉢は完形ではなく口縁～体部約半個体分を対象物を被覆した可能性もある。性格は不明だが、墓塚の可能性もあるだろう。時期は深鉢から中期後葉中頃と考えた。

51区118号土坑 (第187・197図 PL.23・112)

位置・重複：調査区中央南寄りの51区S・T-20グリッドに位置する。周辺は南東への緩傾斜地形だが、ほぼ平坦地形が広がる。

東に246坑が重なるが、比較的遺構密度は低く、近接する住居跡も無い。246坑との新旧は不明である。

経過・規模：分割調査境界での調査で確認されている。西側は軟質ローム上面で先行して調査され、完形土器の出土が見られ、東半はローム漸移層上層で平面形を確定した。

平面形は、東西に長軸を持つ楕円状を呈す。平面規模は約129×101cm、深さは40cmである。断面形は箱形を示し、しっかりした掘り込みである。底面は平坦面を保つ。遺物・所見：坑底面西側で、完形の小型深鉢(1)が横位に出土した。加曾利EⅠ式古段階の例である。内面に煤が付着することから、生活具の転用を示唆する。

性格は特定できないが、完形個体の出土から墓塚の可能性が高い。

51区143号土坑 (第187・197図 PL.23・111)

位置・重複：調査区北東部の51区P-23グリッドに位置する。周辺は南への緩斜面が広がり、土坑が群在する。住居跡との重複や近接はなく、142坑が南東に近接する。本土坑にはP542が北東壁に重なる。新旧は不明である。また、底面にも小ピットが開くが、これは本土坑に伴う

ビットと考えた。

経過・規模：軟質ローム上層の黄褐色土で確認した。坑底面も軟質ロームに止まる。長軸を北に向けた不整形円形を平面形とし、規模は約105×93cmを測る。深さは約21cmでやや浅く、皿状の断面形を呈す。また底面には径約36cm、深さ約10cmの小ビットが開く。性格は不明だが、埋土が覆うことから重複ではないと判断した。

遺物・所見：北西隅壁際で小型深鉢（1）の出土を見る。ほぼ底面に接する。破片状態だったがほぼ一個体がまとまっていた。阿玉台1b式と判断した。

やや浅い土坑であるが、口縁部の一部を欠く完形個体が壁際から出土している。土坑の形態、土器の出土状況から墓塚の可能性もある。

51区153・242号土坑（第188・197図 PL.24・112）

位置・重複：調査区北側の51区S-23グリッドに位置する。周辺は南東への緩斜面地形が広がり、ほぼ平坦地形である。重複・近接する住居跡はない。土坑が群在しており、242坑が北側に重複する。

経過・規模：ローム漸移層下位の褐色土で確認した。掘り込みは深く、硬質ローム上面にまで達していた。242坑と同時に調査され、中層から下層において炭化物と骨片が出土し、方形の平面形が明確になったため、土坑2基の重複として調査を進めた。土層では242坑が本土坑を切る重複関係である。

153坑の平面形は長軸を北北西に向ける長方形を呈す。平面規模は約105×63cm、深さは68cmを測る。深くしっかりとした掘り込みで、下半は直線的に立ち上がる箱形を呈す。坑底面はほぼ平坦面を築く。

また、骨片は人骨で焼けており、人骨と炭化材は土坑北側に偏りを見せ、北壁を中心に焼土化した痕跡が見出された。出土した炭化材と共に注目されよう。

遺物・所見：人骨片は極めて小さく、調査段階では部位など詳細の把握に至らなかった。出土遺物は少なく、「郷土式」口頸部破片（1）と叢石（2）のみである。

焼骨を出土した土坑として注意を要する。焼骨は人骨で少量の出土であるが、焼土化した壁や炭化材も併せて、特異な様相である。類例も少ない。土坑の性格としては、人骨の出土、平面形などからも墓塚として位置付けられる。時期は出土土器から中期後葉前半であろうか。

51区156号土坑（第188・197図 PL.24・112）

位置・重複：51区R-S-23グリッドに位置する。153号土坑の北東に近接する。周辺は南東への緩斜面地形が広がり、ほぼ平坦面である。重複・近接する住居跡はなく、土坑が群在する箇所である。

経過・規模：ローム漸移層下位の褐色土で確認した。坑底面はローム漸移層上層に止まる。

平面形は、長軸を東北東に向けた楕円状を呈し、平面規模は約133×85cm、深さは約27cmを測る。掘り込みは明瞭で、箱形の断面形を示すがやや浅い。坑底面はほぼ平坦面を築く。

遺物・所見：堀之内1式の鉢が東壁際で逆位に出土している。いわゆる「土器被り葬」を想起させる出土状態である。口縁と体へ底部の一部を欠するが、意図的な破壊とは判断できない。また、埋土から人骨小片が出土している。

「土器被り葬」を想起させる鉢の出土状態と人骨の出土から、後期前葉に比定される墓塚と位置付けたい。

51区159号土坑（第188・197図 PL.24・112）

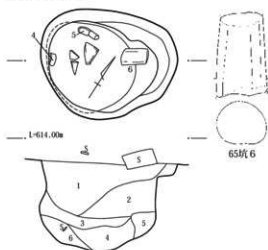
位置・重複：調査区北側の51区R-23グリッドに位置する。周辺は南東への緩斜面地形が広がり、ほぼ平坦地形である。土坑が群在し、本土坑の南東側に166坑が重複する。平面的には本土坑が166坑を切るが、新旧は不明である。

経過・規模：軟質ローム上層の黄褐色土で確認し、重複する166坑と同時に調査を進めた。掘り込みは深く、硬質ローム上層にまで達していた。

長軸を北西に向けた楕円状を呈し、平面規模は約145×93cm、深さ63cmを測る。箱形の断面形でしっかりした掘り込みを呈す。

遺物・所見：東壁上端から三つ稲場式（1）の出土を見るが、加曾利EⅠ式（2・3）が破片ながら下層から出土している。1を混在と考えたい。下層からは板石など自然礫や少量の炭化物と共に焼骨の出土を見た。51区153坑と同様に北側壁が焼けていた。さらに、長軸も同様に北西を向くことから、中期後葉前半段階の墓塚と位置付けたい。

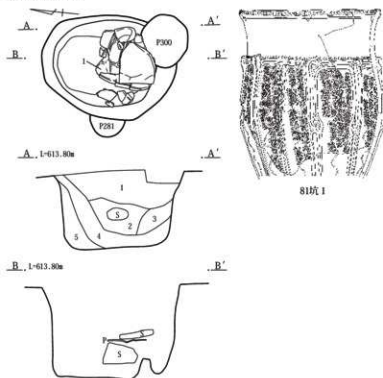
51区65号土坑



51区65号土坑土層

- 1 暗褐色土 黄色粒・炭化物含む。上面に石棒を出土
- 2 にぶい黄褐色土 炭化物・ローム粒・黄色粒を多く含む
- 3 暗褐色土 黄色粒を少量含む
- 4 にぶい黄褐色土 ローム粒・暗褐色土塊・黄色粒を含む
- 5 明黄褐色土 ローム大塊主体
- 6 にぶい黄褐色土 ローム大塊を含む

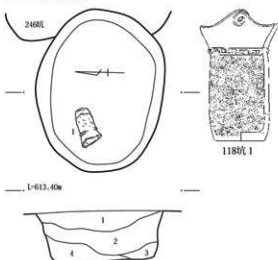
51区81号土坑



51区81号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色大粒を多く含む
- 2 黒褐色土 ローム小塊・黄色大粒を含む
- 3 黒褐色土 ローム小塊・黄色大粒を少量含む
- 4 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を微量含む
- 5 黒褐色土 ローム大塊を含む

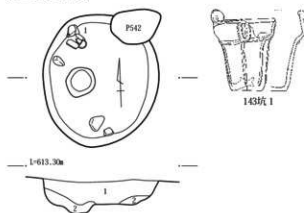
51区118号土坑



51区118号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム粒・黄色粒少量含む
- 2 黒褐色土 黄色粒多く含む
- 3 暗褐色土 均質。暗い
- 4 暗褐色土 ローム塊を多く含む

51区143号土坑



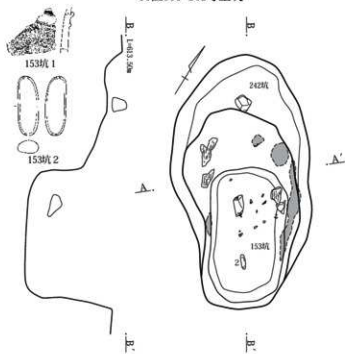
51区143号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を多く含む
- 2 黒褐色土 黄色粒を微量含む



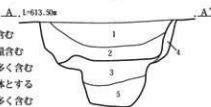
第187図 土坑1 51区(1)

51区153・242号土坑



51区153・242号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 黒褐色土 ローム粒を少量含む
- 3 暗褐色土 ローム小塊を多く含む
- 4 黄褐色土 ローム塊を主体とする
- 5 暗褐色土 ローム大塊を多く含む

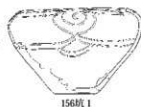


51区156号土坑

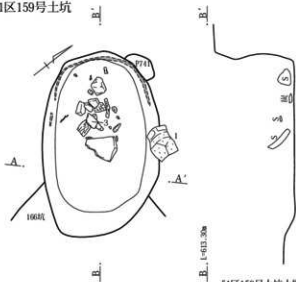


51区156号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 黒褐色土 ローム小塊を含む

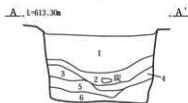


51区159号土坑



51区159号土坑上層

- 1 に近い褐色土 ローム小塊を多く、炭化物を少量含む
- 2 褐色土 ローム粒・炭化物を多く含む
- 3 に近い黄褐色土 ローム大塊を多く含む
- 4 暗褐色土 黒褐色土塊・ローム小塊・少量の炭化物を含む
- 5 暗褐色土 明るい。ローム粒を多く含む。炭化物を少量含む
- 6 に近い黄褐色土 ローム小塊・炭化物を多く含む。骨小片の出土を見る



159坑1



159坑2

159坑3

トーン部は焼土 0 1 : 30 1m

第188図 土坑1 51区(2)

51区164号土坑 (第189図 PL.24)

位置・重複：調査区北側の51区Q-23グリッドに位置する。周辺は緩やかな南斜面が広く、ほぼ平坦地形といえよう。土坑が群在する地点であり、本土坑にも時期不明の4坑が重なり、163坑が北壁に、P723とP726が南壁と東壁に重複するように、多くの土坑、ピットが検出されている。経過・規模：ローム漸移層下位の褐色土で確認した。掘り込みは深く、軟質ローム下層にまで及ぶ。163坑と同時に調査されたが、163坑は浅く、本土坑北壁上位を壊す程度で検出された。

平面形は長軸を北西に向けた不整形長方形で、規模は約150×93cm、深さは55cmを測る。坑底面は中央がやや盛り上がるものの、全体に平坦面を維持する。断面形は箱形で直立気味の壁が保たれ、しっかりした立ち上がりである。

また、顕著では無いが北壁を中心に、僅かに焼土化した痕跡が認められた。

遺物・所見：坑底面より僅かに浮いて、焼骨の出土を見る。また、大型の角礫が北壁際で中層より出土している。土器は、焼骨と同レベルで無文の細片が出土しているが、図化には至らなかった。中期後葉の深鉢体部破片である。

人骨を出土したことから、墓壇として位置付けられる。前述の153坑や159坑と同様に、壁が僅かではあるが焼土化しており、同様の性格が充てられよう。時期は、中期後葉と推定した。

51区166号土坑 (第189-198図 PL.25・112)

位置・重複：調査区北側の51区R-22・23グリッドに位置する。周辺は南東への緩斜面地形が広がり、ほぼ平坦地形である。土坑が群在し、本土坑の北西側に159坑、南側に224坑が重複する。新旧は不明である。

経過・規模：重複する159坑と同時に軟質ローム上層の黄褐色土で確認した。掘り込みは深く、硬質ローム上層にまで達していた。上層より土器の出土が集中し、そのため詳細な土層観察が果たせなかった。黄色粒を含む暗褐色土の堆積である。

径約173×147cmを測る大型の円形土坑である。深さは約52cmで、壁の立ち上がりも直立気味で箱形の断面形を示す。坑底面は木の根による小穴があるが、平坦面を築く。また、一部の壁に僅かに焼土化が観察された。

遺物・所見：上層から中層にかけて、中型の自然礫と伴に大型深鉢が潰れた状態で出土した。口縁部の一部と底部を欠する加曾利E1式土器で、底部の欠損は意図的な所産と捉えられる。その他に、石皿片も埋土中より出土している。この大型深鉢周辺及び下位に骨片が伴出した。人骨で焼けた痕跡を有する焼骨である。炭化物も見られ、焼骨との関連も想定されよう。

大型円形土坑を供した墓壇である。土坑平面形や大型深鉢の出土という差があるが、153坑、159坑、164坑と同様の様相を呈す。時期は中期後葉前半段階を充てる。

51区171号土坑 (第190-199図 PL.25・113)

位置・重複：調査区北側の51区P-22グリッドに位置する。周辺は緩やかな南斜面が広く展開し、平坦地形といえよう。土坑が群在する地点である。住居跡との重複は無いが、本土坑南西に215坑が大きく重複する。土層では新旧は判断できなかったが、出土遺物は本土坑の方が新しい。

経過・規模：ローム漸移層上層の黒褐色土で確認した。遺構確認作業において、土器底部が出土したため、当初は単独埋土として調査したが、最終的に土坑となった。

発掘調査の段階では、円形土坑として捉えられていた。しかしながら、整理段階で重複する215坑の時期が中期に比定されることから、本土坑が新しく、本土坑南西部が大きく215坑埋土に延長すると予想した。実際に215坑埋土土層には、本土坑に相当する層位が観察されたため、本土坑南西部の推定線を加えた。長軸を北東に向ける長楕円状の平面形を推定し、規模は約(189)×65cmと考えた。深さは約23cmを測る。なお、171坑埋土は黒褐色土で215坑1層に近似する。

遺物・所見：土坑北東側上層に逆位の浅鉢(1)を見る。51区156坑と同様に「土器被り葬」を想起させよう。堀之内1式に比定される注口付浅鉢で外面上半に少量の煤が付着している。また、浅鉢取り上げ後、直下より人骨頭部の出土を見た。遺存度は極めて悪く、詳細の把握まで至らなかったが、僅かに残存する歯が分析の対象となった。

本土坑は円形土坑とされていたが、楕円状の平面形を推定し、逆位浅鉢の出土から「土器被り葬」による墓壇と考えた。時期は後期前葉の所産である。

51区172号土坑 (第190・200図 PL.25・112)

位置・重複：調査区北東で調査された。51区と61区の境に跨がり、51区11・14住、61区25号住の間にある。51区0-25、61区0-1グリッドに位置する。周辺は南への傾斜地形が顕著で、遺構も密集する。本土坑にも61区53坑やP90が重複する。53坑との重複は、本土坑が切る様相を示している。またP90との重複部は壁の検出が不鮮明のため調査時に推定線を施した。

経過・規模：ローム漸移層下位の暗褐色土で検出した。53坑より先行した調査を行った。遺構確認時に土器底部が出土し、平面形の確認を行った。土器は堀之内Ⅰ式の逆位深鉢で、土坑掘り込みは53坑に重なるように検出された。

平面形は不整形を呈する。平面規模は約51×40cm、深さは24cmを測る。やや小型の土坑である。坑底面は、僅かな凹凸をみるが、ほぼ平坦面を築く。

遺物・所見：小型の土坑に逆位深鉢を埋置する例である。あるいは、逆位深鉢を「土器被り葬」とし、61区53坑と一体化した墓壇も想定したが、土層による新旧が観察されていたため、発掘時の所見を尊重した。時期は後期前葉である。

51区215号土坑 (第190・200・201図 PL.26・113)

位置・重複：調査区北側の51区P-Q-22グリッドに位置する。周辺は緩やかな南斜面が広く展開し、平坦地形を呈す。土坑が群在する地点で、本土坑東に前述の171坑、北側に233坑、西に258坑が重複する。土層では新旧は判断できなかったが、出土遺物からは171坑の方が新しい様相を示す。233坑は土層から中世～近世の所産と判断した。258坑との新旧は不明である。

経過・規模：ローム漸移層下位の暗褐色土で確認した。171坑や258坑と同時に調査を進め、本土坑の掘り込みは軟質ローム下位にまで達していた。

径約184×170cmを測る不整形平面形とする大型の土坑である。深さは54cmで箱形の断面形を呈し、しっかりした掘り込みだった。坑底面は平坦面を築く。

遺物・所見：埋土中層から自然礫と伴に、土器片、石棒などが出土した。1は「焼町類型」の口縁部突起である。2は加曾利Ⅰ式の体部破片で古段階の所産か。凹石(3)、台石(4)、石棒(5)の出土が見られ、多様

な出土様相である。石棒は埋土中位の出土で、流入とは捉え難い。埋置によるものと考えられる。頭頂部に円形の凹みを有する。また、坑底面からはベンガラとされる赤色付着物を見た。性格は不明である。なお、171坑との推定重複部分に大型の角礫など自然石が出土している。本土坑ではなく171坑に帰属する礫かもしれない。

石棒が出土した大型円形土坑である。石棒の出土は貯蔵穴には相応しくなく、墓壇などの宗教的な施設と思われる。坑底面で検出したベンガラも、儀礼に伴う所産であろうか。時期は出土土器から、中期中葉末～中期後葉前半段階に置きたい。

51区226・227号土坑 (第191・201図 PL.26・113)

重複する2基の土坑だが、浅鉢を出土した227坑を主に報告する。

位置・重複：調査区中央で、敷石住居跡である13号住下で調査した。51区Q-21グリッドに位置する。周辺は南への緩斜面ながら、顕著な傾斜地形を呈す。

13号住が重複するが、住居跡調査後に土坑検出に至ったように、時期的には土坑が先行する位置にある。また、周辺には同規模の土坑が群在する。重複する226坑と227坑であるが、土層観察からも226坑が227坑を切る新旧関係をj得ている。

経過・規模：ローム漸移層中位の暗褐色土で確認した。2基をほぼ同時に調査したが、226坑が深く、新旧関係に沿った形態で検出を果たした。

226坑は不整形平面形を呈し、規模は108×93×61cmを測る。箱形の断面形を呈し、しっかりした掘り込みを呈す。

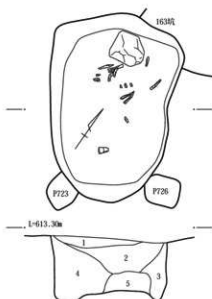
227坑は北東部を226坑に壊される。平面形は径約130cm円形を呈し、深さは26cmを測る。浅い皿状の断面形を示す。両土坑とも坑底面は平坦面を築く

遺物・所見：226坑埋土からは加曾利Ⅰ式の深鉢口縁部破片1点が出土している。

227坑底面北西部から、波状口縁浅鉢が逆位で出土した。潰れた状態で出土しており、口縁部の半分と、底部を欠する。遺存度は良くないが、赤彩された阿玉台Ⅱ式の浅鉢である。

227坑の浅鉢は、半完形土器ながら「土器被り葬」に伴う例と思われる。北西部に頭部を置いた埋葬を想定した。時期は226坑が中期後葉前半段階、227坑が中期中葉

51区164号土坑

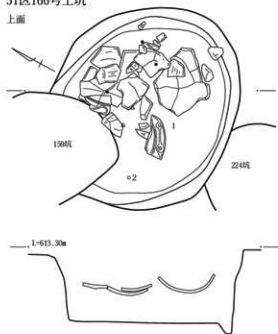


51区164号土坑土層

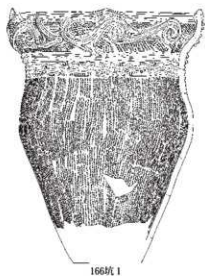
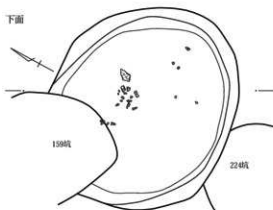
- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む
- 3 暗褐色土 ローム小塊・炭化物を含む
- 4 黒褐色土 ローム大塊・炭化物を多く含む
- 5 黄褐色土 ローム大塊を主とする。炭化物を含む

51区166号土坑

上面



下面



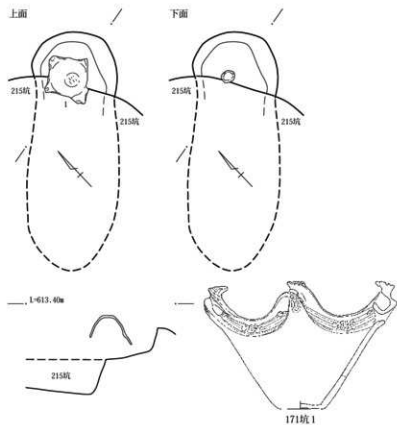
166坑 1

0 1 : 30 1 m

第189図 土坑1 51区(3)

第3章 発見された遺構と遺物

51区171号土坑



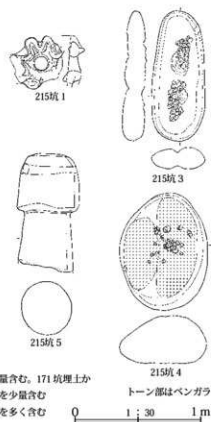
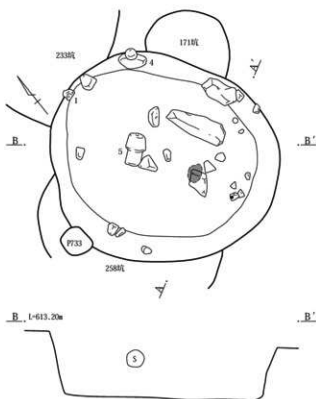
51区172号土坑



51区172号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 2 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を多く含む
- 3 黄褐色土 ローム塊からなる

51区215号土坑

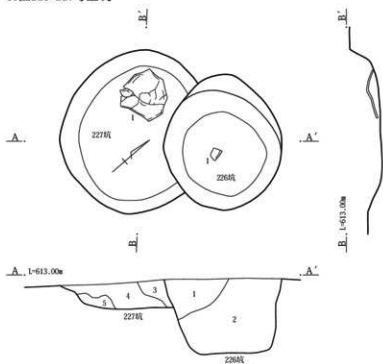


51区215号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む, 171坑埋土か
- 2 黒褐色土 ローム小塊を少量含む
- 3 黒褐色土 ローム小塊を多く含む

第190図 土坑1 51区(4)

51区226・227号土坑



51区226・227号土坑土層
(226坑)

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 2 暗褐色土 ローム大塊を多く含む

(227坑)

- 3 黒褐色土 ローム小塊を含む
- 4 黒色土 均質。微量の黄色粒を含む
- 5 暗褐色土 ローム粒を少量含む

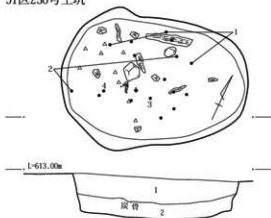


226坑 1



227坑 1

51区230号土坑



230坑 1



230坑 2



230坑 3

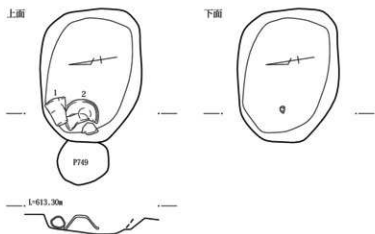


230坑 4

51区230号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量。炭化物、骨片を含む
- 2 暗褐色土 ローム粒を含む

51区239号土坑



239坑 1



239坑 2



第191図 土坑1 51区(5)

と判断した。

51区230号土坑 (第191・201図 PL.26・113)

位置・重複：調査区中央やや西寄りで見出した。51区Q-R-20グリッドに位置する。周辺は南への緩斜面ながら、顕著な傾斜地形を呈す。南には18号住、19号住が近接し、土坑も群在するが単独の検出となった。

経過・規模：黒褐色土で確認作業を行ったが、最終的にはローム漸移層下位の褐色土で確定できた。掘り込みは軟質ローム上面で止まる。

平面形は長軸を西南西に向けた不整形円状を呈す。平面規模は約148×100cm、深さは約22cmを測る。底面は僅かな凹凸を持ち、緩やかに東へ傾斜する。

遺物・所見：埋土下位より、骨片や炭化物の出土を見た。焼土は確認できなかった。土器片は上層より中層にかけて数点の出土を見た。おそらく人為埋没の際の流入であろう。破片出土であるが同時性は高いと考えた。

骨片は人骨であり焼けていた。土坑の性格も墓塚と考えて良いだろう。先に述べた51区153坑、159坑、164坑などと同様な性格を示す。時期は中期後葉前半段階から中頃と判断した。

51区239号土坑 (第191・202図 PL.26・114)

位置・重複：調査区中央やや北西寄りの51区R-S-21グリッドに位置する。周辺は南東への緩斜面が広がり、傾斜も顕著である。土坑、ピットが群在する地点で、本土坑にもP749が重複する。新旧は不明である。

経過・規模：ローム漸移層下位の褐色土で確認した。掘り込みは軟質ローム上層に止まる。

主軸を北北西に向けた楕円形の平面形を呈す。平面規模は約109×82cm、深さは17cmを測る。やや小型の平面形で浅い皿状の断面形を示す。坑底面はほぼ平坦面を築く。

遺物・所見：西壁際の坑底面に逆位浅鉢(2)と横位深鉢(1)が出土した。両個体とも口縁部の一部を欠くがほぼ完形で小型品である。阿玉台Ⅱ式に比定されよう。石器は石鏃(3)が出土しているが、流入の可能性もある。また、逆位浅鉢直下には、人骨頭部と思われる骨粉が見られた。遺存度は不良で、詳細な特定には至らなかった。

小型の楕円状土坑に、小型土器2個体が埋置された出

土状態である。逆位浅鉢からは「土器被り葬」が想起され、骨粉の出土からも墓塚として位置付けられよう。時期は中期中葉である。

51区241号土坑 (第192・202図 PL.27・114)

位置・重複：調査区中央の51区P-20グリッドに位置する。13号住南東にある。周辺は南への緩斜面ながら、顕著な傾斜地形を呈す。13号住、18号住、240坑が近接するが、遺構密度はやや希薄な地点で、本土坑との重複遺構は無く単独の検出である。

経過・規模：ローム漸移層下位の暗褐色土で確認した。掘り込みは軟質ローム上層に至る。平面形確認と同時に遺物の出土が見られた。

不整形円の平面形を呈し、平面規模は139×128cm、深さは約29cmを測る。掘り込みはやや浅いが、壁は良好に検出された。坑底面は中央部にかけてやや凹む傾向が見られた。

遺物・所見：上層に遺物が集中した。平面的には南側に若干偏る傾向が見られるが、全体に散布する状況である。土器が主体であり、緩波状緑5単位の深鉢(1)、平縁深鉢(2)が大破片の状態で見出している。体部下半を欠しており、1は2/3、2は1/2の残存である。その他に破片資料の3・4も埋土上層より出土している。1~4とも「郷土式」と考えた。この他に大型礫も伴出している。

不整形円を呈す土坑で、深さはやや浅いが「郷土式」2個体を大破片状態で出土している。上層で土坑全体から出土する状況は、墓塚被葬者の位置を示唆していない。ここでは、墓塚としての性格は控えるが、土器の一括性は極めて高いものと評価したい。時期は中期後葉後半段階である。

51区256号土坑 (第192・202図 PL.27・114)

位置・重複：調査区中央部南西寄りに調査された。51区X-16・17グリッドに位置する。周辺は南東緩斜面が広がり、ほぼ平坦地形にある。やや遺構密度の低い地点ながら、本土坑の南には288~290坑が近接、重複する。

経過・規模：ローム漸移層上層の黒褐色土で確認した。周辺は黒色土や黒褐色土の堆積が厚く、平面形確認が難しかった地点である。故に当初の平面形と実際の確定した平面形には差がある。南側に突出した形態を示すが、

この部分は掘りすぎである。

径125cm程の整った円形土坑である。掘り込みも深く約94cmを測る。断面形は下半が袋状を呈するが、壁の立ち上がりはしっかりしている。底面はほぼ平坦である。遺物・所見：上層に土器が集中する。8点を図示したが、すべて加曾利EⅢ式である。1と3は中央やや東寄りにとままり、2は北壁寄りで出土した。1は体部下半を欠する半完形個体だが、2・3は大型の破片である。密接した出土であり、出土層位も1層に集中することから、土器の一括性は高いと捉えられる。

おそらく、土坑埋没過程で上位に形成された凹みに、土器を一括廃棄したと考えられる。あるいは上層における儀礼行為も想定しておきたい。土坑下半が袋状を呈することから、貯蔵穴としての性格も充てられる。ここでは、性格を確定できないが、貯蔵穴埋没途中で土器を使用した儀礼あるいは一括廃棄が行われたと考えておきたい。時期は中期後葉後半段階である。

51区261号土坑（第192・203図 PL.27・115）

位置・重複：調査区南東部の51区M-N-16グリッドに位置する。周辺は南側への緩斜面が広がり、ほぼ平坦地形といえよう。また、黒色土～黒褐色土の堆積が厚く、そのため平面形確認が難しい地点である。

重複する遺構は24号住であり、床面上で検出された。新旧は上層では把握されなかったが、おそらく本土坑の方が新しい。その他の遺構は260坑が北東に近接するが、遺構密度の低い箇所である。

経過・規模：24号住とほぼ同時に調査され、最終的には、軟質ローム上面の黄褐色土を確認面とした。24号住床面でもある。掘り込みは軟質ローム中層にまで至る。

平面形は不整円形で平面規模は約125×118cm、深さ約46cmを測る。坑底面は皿状の断面形を示し、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物・所見：東壁際に諸磯b式の深鉢口縁部～体部破片（1～3）がほぼ底面に接して出土していた。その他では、中型の自然礫が中層から出土しているが、流入の可能性もある。

不整円形土坑で皿状の断面形を示す。焼土、炭化物などは検出されず、出土土器も示唆的な在り方ではないため、土坑の性格特定には至らない。時期は前期後葉中頃

である。

51区267号土坑（第192・203図 PL.27・115）

位置・重複：調査区南東部の51区M-N-19グリッドに位置する。周辺は南東への緩斜面地形にあり、傾斜の顕著な地点である。重複遺構は無く、単独の検出となった。

経過・規模：調査工程上分割調査となったが、土坑東端が調査区壁にかかったため、そのまま調査を継続した。

ローム漸移層下位の褐色土で確認した。掘り込みは硬質ローム上位にまで達していた。

径100cm前後の不整形を平面形とする。深さは約58cmで箱形のしっかりした断面形を呈す。坑底面はほぼ平坦面を築く。

遺物・所見：土坑中央に大型自然石がある。流入とは考え辛く、廃棄によるものか。土器は諸磯b式の深鉢口縁部（1）や体部破片（2～4）が埋土中位～下位で出土している。加曾利EⅣ式の体部破片があるが上層の出土である。混入であろう。

土坑の性格は不明である。大型自然石や土器片の出土を見るが、出土状態から廃棄の所産と考えられる。貯蔵穴廃棄後の埋土に伴う例であろうか。時期は前期後半中頃と考えた。

51区273号土坑（第193・203図 PL.27・115）

位置・重複：調査区中央南西部の16号住と22号住の間で調査された。51区W-X-16グリッドに位置する。周辺は緩やかな傾斜地形が南東へ広がり、ほぼ平坦地形といえよう。住居跡や土坑が群在する箇所であり、本土坑西にも286坑が接する。

経過・規模：ローム漸移層下位の暗褐色土で確認した。周辺の土坑とほぼ同時に調査を進め、顕著な重複遺構も無く、ほぼ単独の検出となった。

径80cm前後の円形の平面形を呈す。小型の土坑である。深さは約32cmを測り、直立気味の壁で、箱形のしっかりした断面形を示す。

遺物・所見：東壁際の埋土上層より小型深鉢の口縁部が内側に口縁を向け正位で出土している。加曾利EⅠ式である。頸部以下は意図的な欠損であろうか。流入ではなく、埋置と考えたい。内外面に少量の煤が付着することから、転用行為を経た埋置であろう。

小型の円形土坑で深鉢口縁部のみが埋置されていた。土坑の性格にまでは言及できないが、墓塚などの宗教的な背景が想起できよう。時期は出土土器から、中期後葉前半段階と考えた。

51区280号土坑 (第193・204図 PL.28・115)

位置・重複：調査区南側で調査した。51区S-14グリッドに位置する。周辺は南側への緩斜面が広がり、ほぼ平坦地形といえよう。しかしながら当地点は、黒色土～黒褐色土の堆積が厚く、そのため平面形の確認に苦慮した地点である。また、西壁は調査区域外にある。

単独の検出で重複遺構は無い。北東約6mに25号住・26号住があるが、他の遺構とは距離を置く。

経過・規模：黒褐色土で確認した。平面形確認時より遺物が集中し、集中範囲から土坑として調査した。掘り込みはローム漸移層に止まるため、壁の確認が難しかった。

平面形は、径80cm前後の小型円形を呈す。深さは、土層観察から70cmを測り、壁は黒褐色土で終止したが、掘り込みはしっかりしていた。底面は暗褐色土で凹凸が見られた。

遺物・所見：上層より土器が集中した。2個体の深鉢である。2個体とも破砕された状態で、土坑中央にまとまる。1が西側に、2が東側に偏る傾向は見られた。両個体とも中期前葉の所産で、1は五領ヶ台Ⅱ式の系譜を引く例、2は阿玉台Ⅰa式である。口縁と体部、底部の一部を欠くが、ほぼ完形の出土である。

小型円形土坑に深鉢2個体が埋置された状態と考えたが、破片状態での出土を勘案すると、一括廃棄の可能性もある。検討を要する。時期は中期前葉であろう。

51区284号土坑 (第193・205図 PL.28・116)

位置・重複：調査区中央南西部で調査された。51区W-14・15グリッドに位置する。周辺は南東への緩やかな傾斜地形が広がり、ほぼ平坦地形といえよう。

23号住北東に重複する。土層での新旧の把握には至らないが、出土土器の様相から本土坑の方が新しい。北西に17号・20号・22号住、北東に16号住が近接する。土坑では283坑・285坑が北西に接する位置にある。比較的遺構密度の高い箇所である。

経過・規模：漸移層下層の暗褐色土で確認した。掘り込

みは軟質ローム上層で止まる。

平面形は径113cm程の整った円形を呈し、深さは約39cmを測る。壁の立ち上がりは明瞭で、坑底面もほぼ平坦面を築く。

遺物・所見：中層から坑底面にかけて土器（1～4）、石皿（5）が出土する。土器は加曾利EIV式であろう。1は東壁際の個体と西壁際の破片が接合する。西壁際の破片は石皿と共に出土しており、1個体を分割して、埋置した可能性もある。石皿は完形である。

円形土坑で半完形の深鉢と石皿が出土している。両者はおそらく埋置と思われ、墓塚として確定できないが、何らかの宗教的な儀礼の所産と位置付けたい。時期は中期末葉である。

51区297号土坑 (第193・206・207図 PL.28・116・117)

位置・重複：調査区南側で調査した。51区S-17グリッドに位置する。周辺は南側への緩斜面が広がり、ほぼ平坦地形といえよう。

北～北東約4mに311坑・317～319坑などが群在するが、本土坑には重複遺構は無く、単独の検出である。

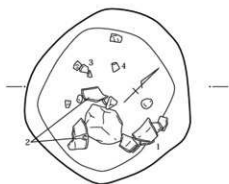
経過・規模：ローム漸移層下位の暗褐色土で確認した。掘り込みは軟質ローム上層に止まる。平面形確認時より土器の出土が集中し、集中範囲から土坑として調査を進めた。

径約110cmの円形を呈す。深さは22cmを測り、やや浅く皿状の断面形を示す。壁の立ち上がりはやや緩やかだが明瞭に確認できた。坑底面は東南に傾く傾向が見られた。

遺物・所見：3個体の完形個体（1・2・4）を出土する。平面形確認時より出土が見られたが、ほぼ底面に接する状況である。1は土坑中央に横位に潰れた状態で、2は北東壁に接して分割された状態でまとまる。4は南西壁際で横位に出土している。3個体とも埋置された例として位置付け、2のように分割埋置する要素は注意したい。出土土器は「新巻類型」と勝坂Ⅰ式と判断した。

円形土坑に3個体の土器を埋置する例である。土坑の性格は特定できないが、仮に墓塚とすると3個体が底面に接することから、遺体を置く場所が無い。遺体を置いた後に3個体を遺体の上に置いた可能性もあるが、問題は多い。検討を要する。時期は中期中葉前半段階である。

51区241号土坑



L=612.70m



51区241号土坑土層

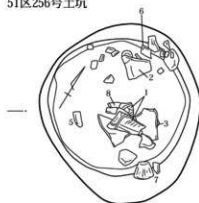
1 黒褐色土 ローム塊・炭化物を含む



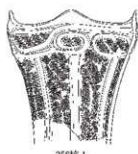
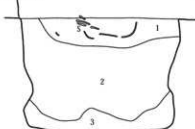
241坑1

241坑2

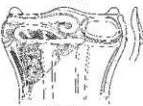
51区256号土坑



L=613.30m



256坑1



256坑2

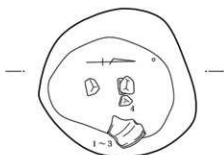
51区256号土坑土層

1 黒褐色土 黄色粒を微量含む

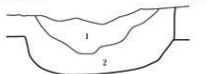
2 黒褐色土 黄色大粒を少量含む

3 黒褐色土 ローム小塊を少量含む

51区261号土坑



L=611.80m



51区261号土坑土層

1 黒色土 黄色粒を極微量含む

2 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む

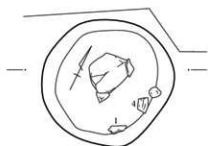


261坑1

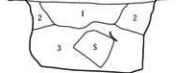


261坑2

51区267号土坑



L=612.10m



51区267号土坑土層

1 黒褐色土 黄色粒を少量含む

2 暗褐色土 ローム小塊・黄色粒を含む

3 暗黄褐色土 ローム大塊を多く含む



267坑1



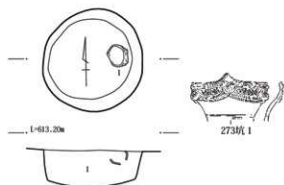
267坑4



第192図 土坑1 51区(6)

第3章 発見された遺構と遺物

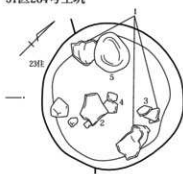
51区273号土坑



51区273号土坑上層

1 黒褐色土 ローム粒・焼土粒を微量含む

51区284号土坑

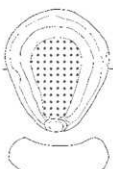
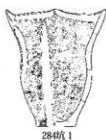


1-612.70m



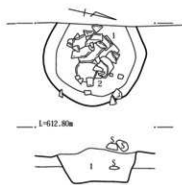
51区284号土坑上層

1 暗褐色土 やや明るい、ローム粒・黄色粒を含む
2 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む



284坑 5

51区280号土坑

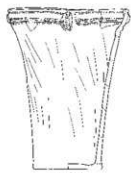


51区280号土坑上層

1 黒褐色土 黄色粒を少量含む



280坑 1



280坑 2

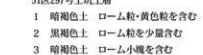
51区297号土坑



1-612.60m

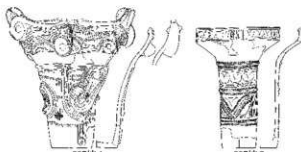


1-612.60m



51区297号土坑上層

1 暗褐色土 ローム粒・黄色粒を含む
2 黒褐色土 ローム粒を少量含む
3 暗褐色土 ローム小塊を含む



297坑 1

297坑 2



297坑 4

0 1 : 30 1m

第193図 土坑1 51区(7)

51区308・309号土坑 (第194・208図 PL.29・117)

重複土坑であるが、出土遺物の顕著な309坑を主に報告する。

位置・重複：調査区南東部の51区N-20グリッドに位置する。周辺は南東への緩斜面地形にあり、傾斜の顕著な地点である。

土坑2基の重複以外は、近接する遺構も少ない。遺構密度の低い箇所である。土層の観察では、308坑が309坑を切る新旧関係である。なお、309坑の底面西に攪乱坑が開く。おそらく近代～現代の所産であろう。

経過・規模：両土坑ともローム漸移層下位の褐色土で確認され、軟質ロームまで掘り込む。

308坑は円形で、約136×124×40cmの規模を測る。深くしっかりした掘り込みである。

309坑は、大型の円形土坑である。平面規模は約183×170cmで深さは約30cmを測る。やや浅いが壁は明瞭に検出された。底面は僅かな凹凸を見るが、ほぼ平坦面を築く。

遺物・所見：308坑からは遺物を出土しておらず、詳細な時期は不明である。縄文時代の所産である。

309坑は上層から下層にかけて、大型深鉢(1)が出土している。加曾利E1式古段階の土器である。在地化した中韓式「三原田類型」である。破片資料も伴出しており、2は大木8b式と考えた。3～5は加曾利E1式と判断した。また、大型深鉢の周辺から坑底面にかけて、人骨片が出土している。焼けており、壁の焼土化と炭化物の出土も関連性が深い。焼土化した壁は、北西壁に集中する。炭化物も埋土中から坑底面にかけて北側に偏る出土傾向を見せた。

重複土坑のうち、309坑に大型深鉢と人骨片が出土した。焼骨であり、壁の焼土化と炭化物の出土は、前述した51区153坑・159坑・164坑・166坑などと類似する。このうち166坑は大型深鉢を伴出する共通性があり、注意を要する。時期は出土土器から、中期後葉前半段階と考えた。

51区315号土坑 (第194・208図 PL.29・117)

位置・重複：調査区南側に調査した。51区S-18グリッドに位置する。周辺は南側への緩斜面が広がり、ほぼ平坦地形といえよう。

重複遺構は無く、単独の検出である。近接する土坑は東に317坑・318坑・322坑が重複状態で見る。

経過・規模：ローム漸移層下位の暗褐色土で確認した。掘り込みは軟質ローム上層にまで及ぶ。

平面形は円形を呈す。平面規模は約116×101cm、深さは約42cmを測る。箱形の断面形を示し、壁も直立気味でしっかりした掘り込みである。坑底面は僅かな凹凸を見るが、ほぼ平坦面を築く。

遺物・所見：土坑中央やや東寄り上層から、五領ヶ台Ⅱ式の深鉢が横位でやや潰れた状態で出土している。また底面からやや浮いた状態で大型の角礫の出土を見る。土器の器形は類例が無く、希少な資料となるだろう。出土遺物は他には無く、単体の出土である。

円形土坑上層に横位深鉢が出土した土坑である。土坑の性格は特定できないが、深鉢の出土状態からおそらく埋置された土器と捉えられ、儀礼に伴う所産と考えられよう。墓域とすれば、土坑規模がやや小型で、小児埋葬あるいは屈葬などの被葬形態が想定される。時期は出土土器から、中期初頭後半段階と捉えた。

52区74号土坑 (第194・208図 PL.29・118)

位置・重複：調査区北西端で調査された。52区E-19グリッドに位置する。周辺はほぼ平坦地形に占められる。52区6・10号住と重複し、ほぼ同時に調査された。新旧関係は不明である。また、土坑が集中する箇所でもあり、71～73坑、75～79坑などが近接する。多くが円形土坑である。

経過・規模：ローム漸移層下位の褐色土で確認した。掘り込みは軟質ローム上層に止まる。

平面形は径90cm前後の小型の整った円形を呈す。深さは27cmを測り、やや浅いが掘り込みは顕著で、箱形の断面形を呈す。

遺物・所見：埋土下位から坑底面にかけて中央に深鉢(1)、東壁際に大型の板石、中央やや北寄りに亜円礫が出土した。おそらく埋置による所産と考えられる。深鉢は小型で体部下半を欠するが、意図的な欠損とは判断できない。坑底面中央にまとまるが、破片状態での出土である。口縁部内外面に煤が付着しており、転用と考えられる。曾利Ⅱ式である。

円形の小型土坑に、深鉢と大型自然礫2石が出土した。

土坑の性格は判然としないが、埋置行為によるものである。墓塚などに伴う儀礼行為が想定されよう。時期は中期後葉中頃とした。

52区77～79号土坑（第195・208・209図 PL.30・118）

土坑3基の重複であるが、78坑を主に報告する。
位置・重複：調査区北西端で調査された。52区D・E-19グリッドに位置する。周辺はほぼ平坦地形が広がる。

6・10号住北に接しており、南に74～76坑、北に86坑が近接する。77～79坑の3基が重複するが、土層の観察では79坑が最も新しく、77坑が古い新旧関係を得た。78坑は東南側を79坑に切られ、西側で77坑を壊す。

経過・規模：ローム漸移層の暗褐色土で確認した。土層の観察を経て、3基をほぼ同時に調査したため、79坑の平面形などが把握できなかった。

77坑は径約100cm、深さ34cmを測る円形土坑である。底面は平坦である。

78坑は大型の円形土坑である。径約134×122cm、深さは55cmを測る。硬質ローム面上層で構築される坑底面は平坦面を築き、壁の立ち上がりもしっかりしていた。

79坑は土層からの推定値になる。径80cm前後の円形土坑か。深さは37cmを測る。

遺物・所見：77坑からは「郷土式」の体部小破片（77坑1）、打製石斧（77坑2）が出土する。おそらく埋土中の流入だろう。

78坑からは、加曽利EⅡ式の体部小破片（78坑1）、「郷土式」の体部小破片（78坑2）が埋土中より出土している。特筆すべきは、坑底面中央よりやや浮いて石皿（78坑3）と台石（78坑4）の重なりあった出土状態である。石皿が台石の西側端に斜めに重なった様相で、坑底面より浮いた状態とはいえ、明らかに意図的に置かれた状態を示す。石皿は上下端部が欠損するが、台石は完形である。

79坑からは上層に拳大の礫が出土したが、図化する遺物の出土が見られなかった。

78坑は坑底面中央に石皿と台石を置く出土状態を示す。意図的な埋置といえるが、類例が無く、性格の確定には至らない。儀礼を伴う埋置と考えた。時期は77坑と78坑が出土土器と土層から中期後葉中頃、79坑が後葉中頃以降と判断したが、土器片が小破片のため確定性に乏しい。

61区42号土坑（第195・210図 PL.30・118）

位置・重複：調査区北東部の61区L-1・2グリッドに位置する。周辺は南側への緩斜面地形が顕著だが、遺構が密集する地点で、本土坑も61区5号住居跡と重複する。土坑との重複は北側に41坑が重なる。おそらく本土坑が新しい。

経過・規模：5号住居床面で確認された。本土坑の大型自然礫が5号住居床面に露出しており、精査を重ねた結果、土坑検出に至った。

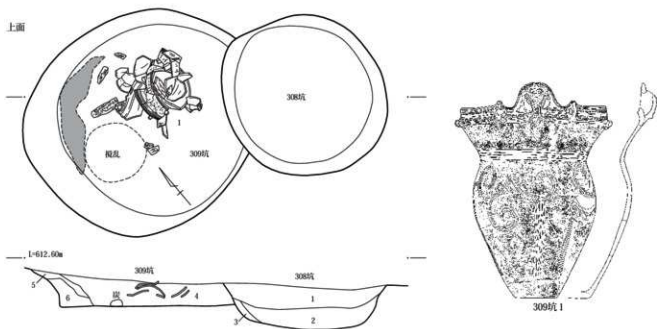
平面形は六角形に近い不整形で、平面規模は115×103cm、深さは78cmを測る。深く箱形の断面形を示し、坑底面は平坦面を築く。

遺物・所見：土坑内上層で、北側を除く東西南辺に大型の自然礫3石が、20cm前後の深さに埋められていた。土坑内の石組施設と捉えられる。また、東辺の自然石下に堀之内2式の小型深鉢（1）が横位に出土している。さらに小型深鉢下位より乳棒状磨製石斧（6）が、北壁奇りの埋土中位より深鉢底部（3）が出土した。その他に、深鉢底部（2）や石鏃（4）、挿器（5）、磨石（7）の出土を見る。2の深鉢底部は流入の可能性がある。

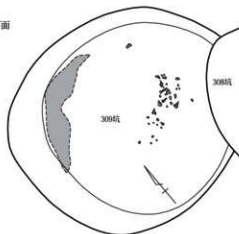
石組を附帯する土坑である。小型深鉢や磨製石斧など出土遺物も多様性を見せる。儀礼施設と思われるが、特殊な例で性格の特定にまでは至らない。

整理段階で、5号住居の出入口施設の可能性を模索したが、規模が大きくさらに掘り込みが深いため、確定に至らなかった。また5号住居出土土器とも時期差が認められたため、別個の遺構としたい。小型土器と石組施設を附帯する土坑として報告する。同様な石組例は南西に近距離にある1号配石遺構にも見られ、注意を要しよう。

51区308・309号土坑



下面



51区308・309号土坑土層

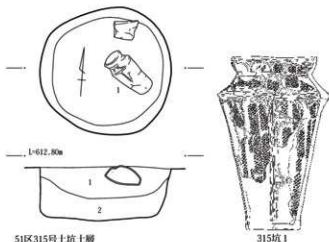
(308坑)

- 1 黒褐色土 黄色大粒を含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊・黄色大粒を少量含む
- 3 黒褐色土 ローム粒・炭化物を含む

(309坑)

- 4 黒褐色土 ローム小塊・黄色粒を多く含む。土器・骨片・炭化物を出上する
- 5 暗褐色土 焼土小塊・ローム粒を少量含む
- 6 黒褐色土 ローム小塊を含む

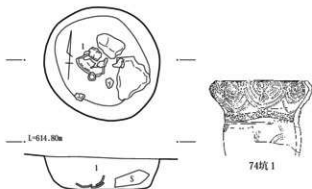
51区315号土坑



51区315号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を微量含む
- 2 黒褐色土 黄色粒を微量含む

52区74号土坑



52区74号土坑土層

- 1 暗褐色土 白色粒を少量含む

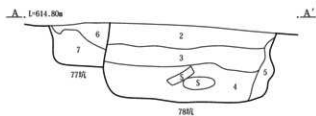
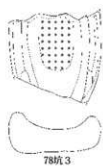
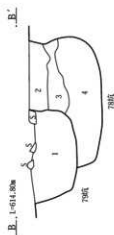
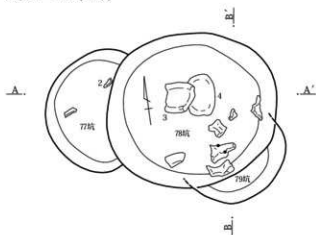
トーン部は焼土

0 1 : 30 1m

第194図 土坑1 51区(8)・52区(1)

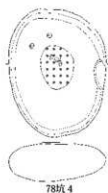
第3章 発見された遺構と遺物

52区77～79号土坑

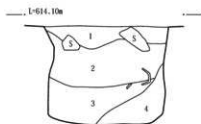
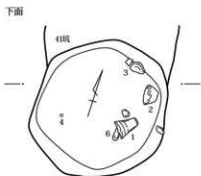
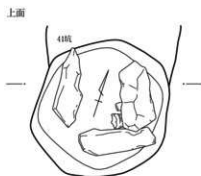


52区77～79号土坑土層

- (79坑)
1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
(78坑)
2 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む
3 暗褐色土 ローム小塊を多く含む
4 黒褐色土 ローム粒を多く含む
5 褐色土 ローム大塊を含む
(77坑)
6 黒褐色土 黄色粒を少量含む
7 暗褐色土 褐色土塊を含む

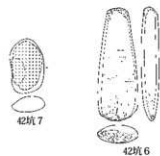


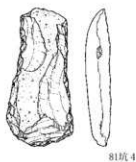
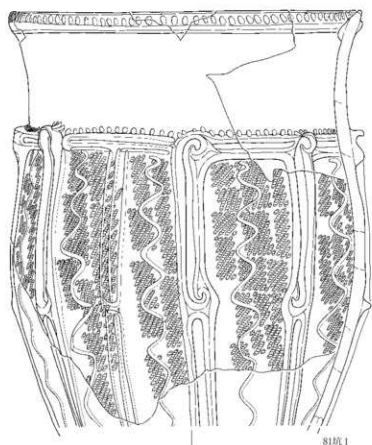
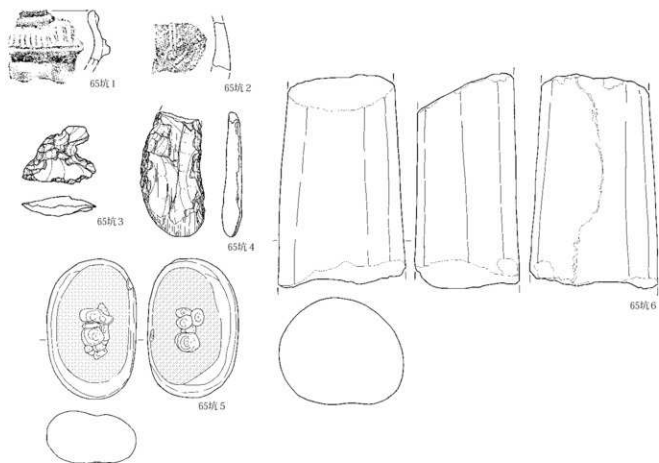
61区42号土坑



61区42号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
2 黒褐色土 ローム粒・炭化物を少量含む
3 暗褐色土 ローム粒多く含む
4 暗褐色土 ローム大塊を多く含む





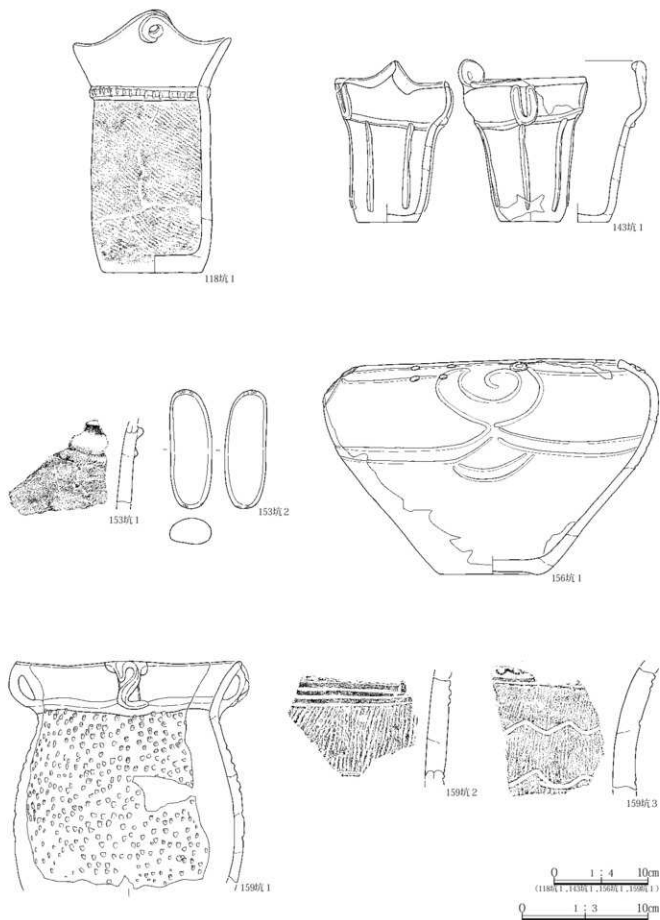
トーン部は平滑面

0 1 : 4 10cm

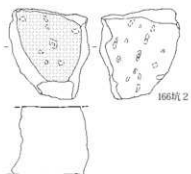
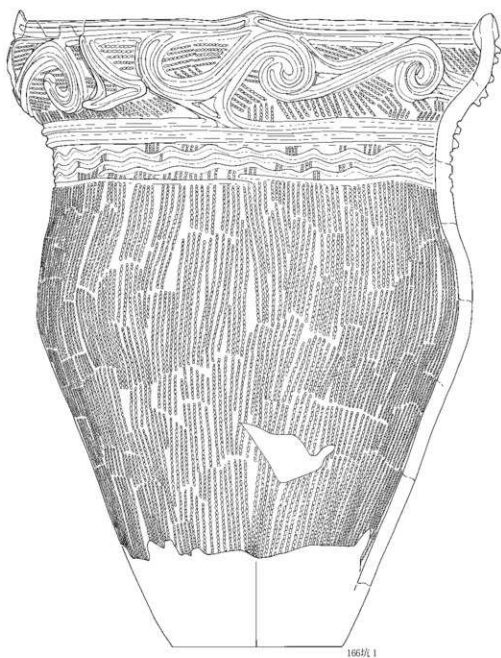
0 1 : 3 10cm

0 1 : 1 5cm

第196図 土坑1 51区出土遺物(1)

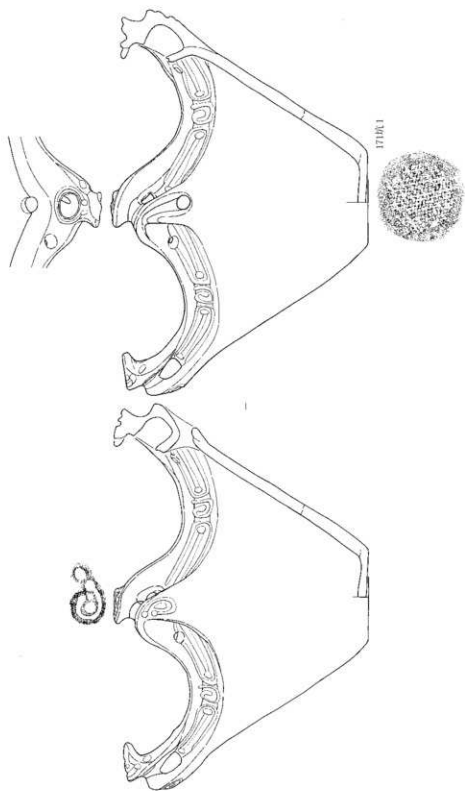


第197図 土坑1 51区出土遺物(2)

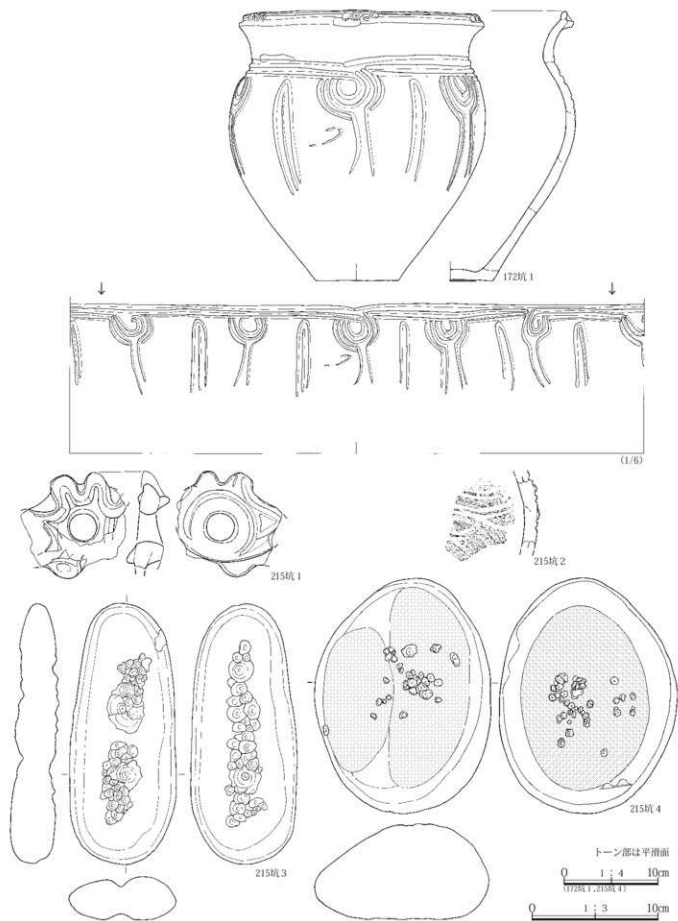


トーン部は平滑面
0 1:4 10cm

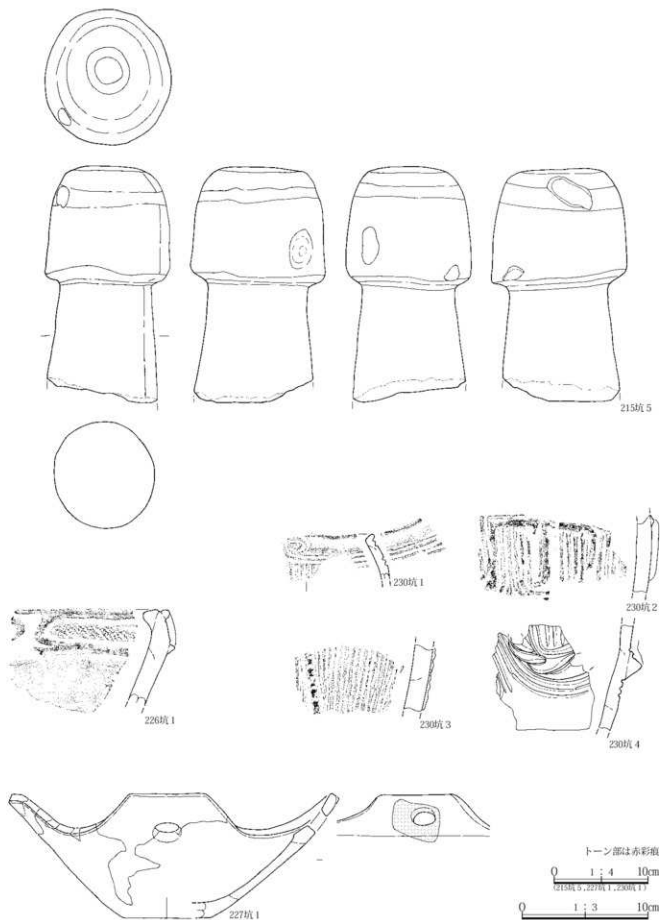
第198図 土坑 1 51区出土遺物 (3)



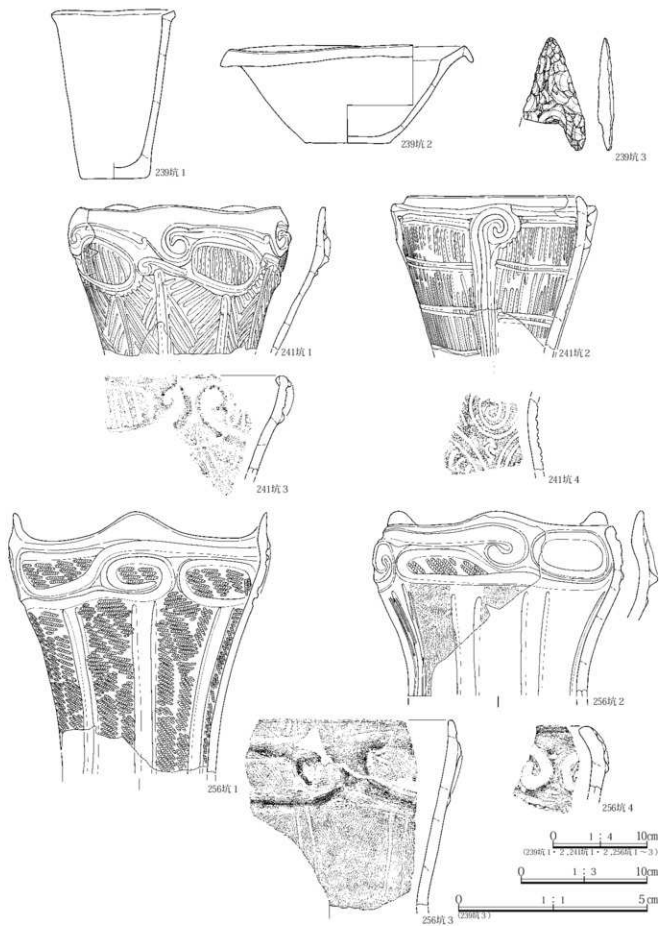
第199図 土坑1 51区出土遺物(4)



第200図 土坑1 51区出土遺物(5)

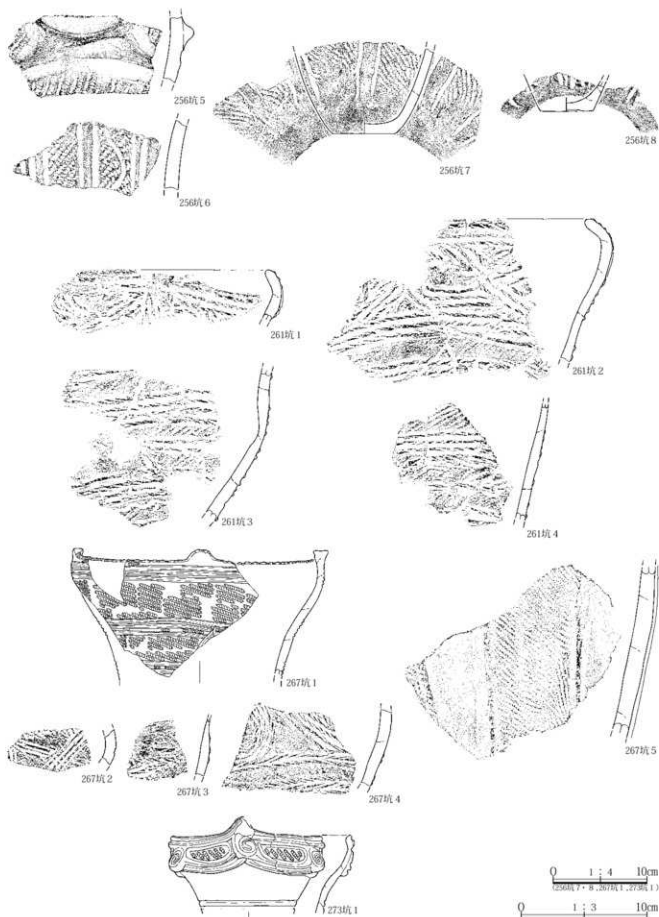


第201図 土坑1 51区出土遺物(6)

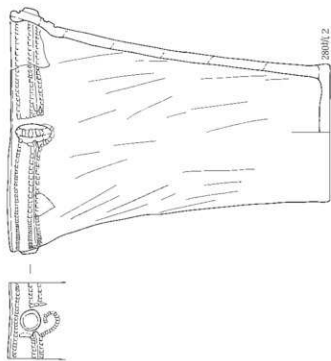
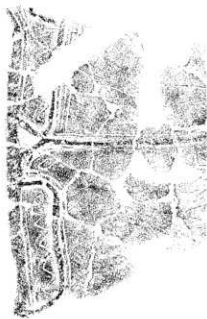
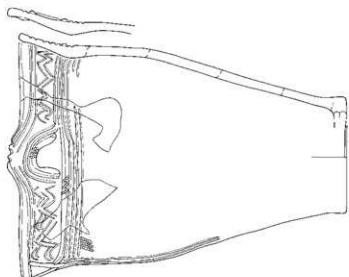
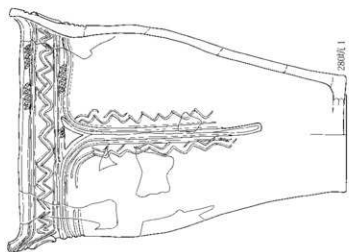


第202圖 土坑1 51区出土遺物(7)

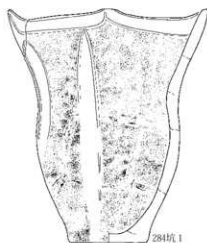
第3章 発見された遺構と遺物



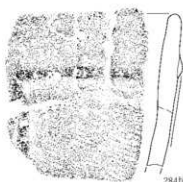
第203図 土坑1 51区出土遺物(8)



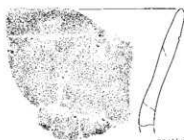
第204图 土坑1 51区出土器物(9)



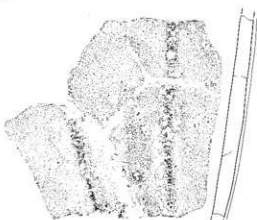
284坑1



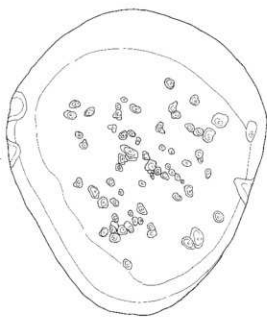
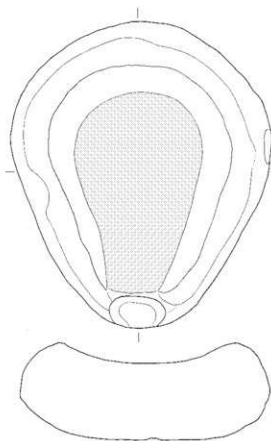
284坑2



284坑3



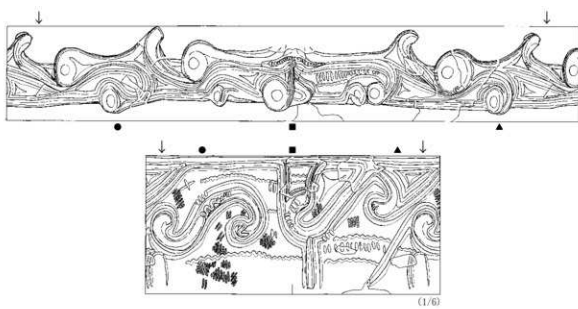
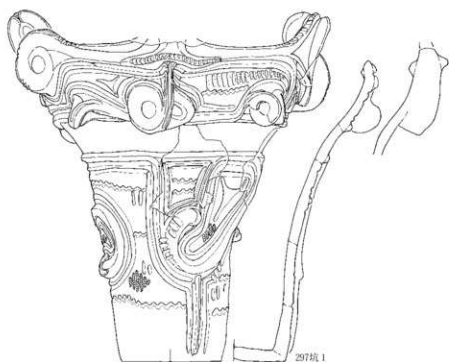
284坑4



284坑5



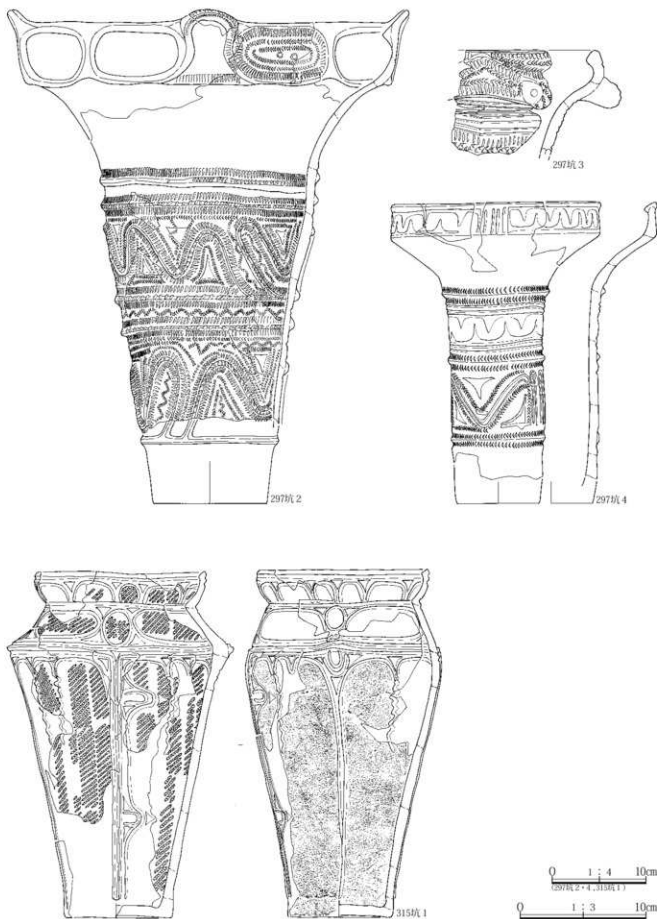
第205図 土坑1 51区出土遺物(10)



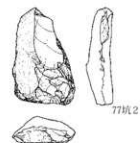
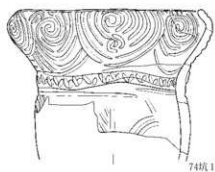
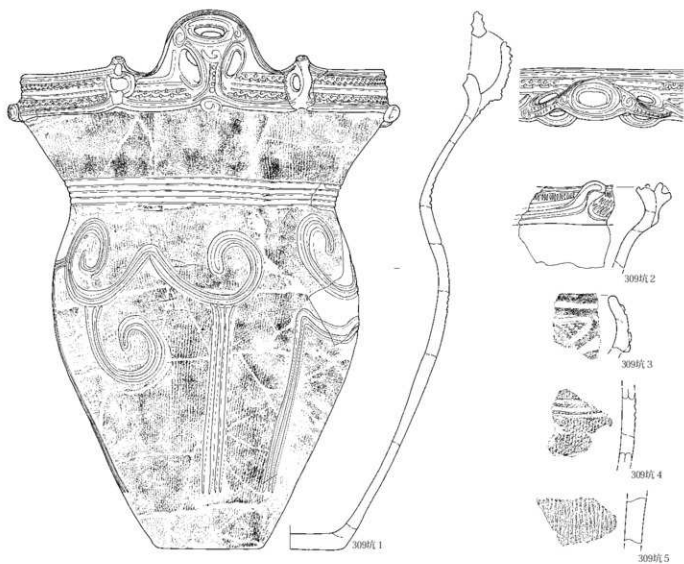
(1/6)

0 1 : 4 10cm

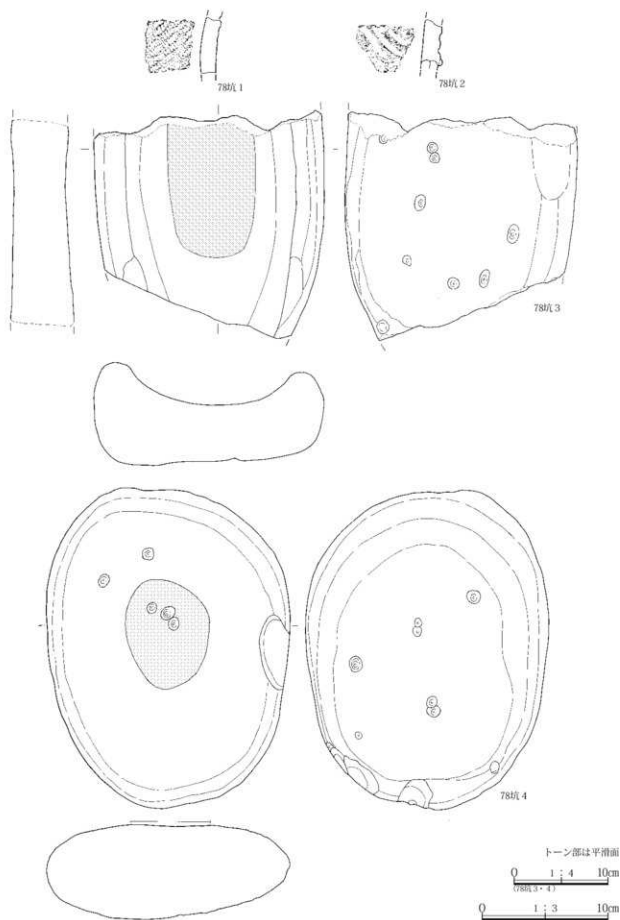
第206图 土坑1 51区出土遗物(11)



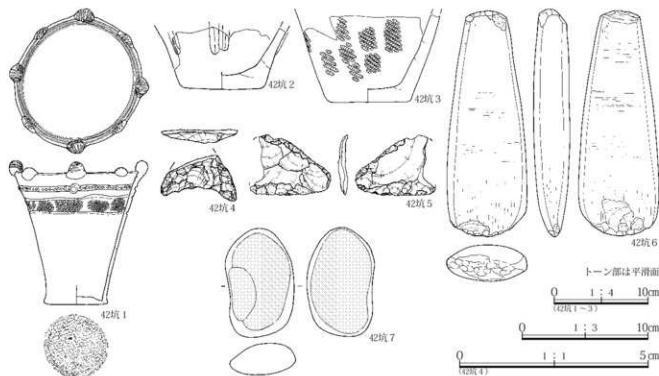
第207図 土坑1 51区出土遺物(12)



第208圖 土坑1 51区出土遺物(13)・52区出土遺物(1)



第209図 土坑1 52区出土遺物(2)



第210図 土坑1 61区出土遺物

土坑2

ここでは、遺物を主体的には出土しなかった土坑を中心に報告する。しかしながら、整理の不幸際で本来は土坑1として掲載すべき土坑も含まれており、本文中に注意を促したい。

なお、計測値や土坑グリッド位置など詳細は省略する。巻末の遺構計測表を参考にいただきたい。

51区1号土坑(第211・233図 PL.31・119)

調査区北側に位置する小型の円形土坑である。黒褐色土中で中世遺構とともに調査された土坑だが、堀之内1式土器腰部破片を出土するため、掲載に至った。

51区2号土坑(第211図 PL.31・119)

調査区北側に位置する小型の円形土坑である。黒褐色土中で中世遺構とともに調査された土坑だが、埋土の様相から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区4号土坑(第211図 PL.31)

調査区北側に位置する楕円状の小型土坑である。164坑の上に乗る。黒褐色土中で調査されているが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区5号土坑(第211図 PL.31)

調査区北側に位置する楕円状の土坑である。132坑・133坑の上に乗る。黒褐色土中の調査である。埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区6号土坑(第211・233図 PL.31・119)

調査区北側に位置する不整楕円状の土坑である。やや大型の規模を呈す。217坑の上に乗る。黒褐色土中の調査であるが、五領ケ台Ⅱ式口縁部破片を出土することから、厳密な時期特定は控えるが縄文時代の所産とした。

51区7号土坑(第211図)

調査区北側に位置する不整形の土坑である。黒褐色土中の調査で検出したが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区8号土坑(第211図)

調査区北側に位置する楕円状の小型土坑である。黒褐色土中の調査で検出したが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区10号土坑(第211・233図 PL.31・119)

調査区中央やや西寄りに位置する小型円形土坑である。黒褐色土中の調査で、埋土から称名寺式(10坑1・2)や三十稲場式(10坑3・4)の出土をみることから、後期初頭～前葉の所産とした。

51区11号土坑(第211図 PL.31)

調査区中央やや北西寄りに位置する。小型の不整形土坑である。黒褐色土中の調査だが、埋土の様相から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区13号土坑(第211図 PL.31)

第3章 発見された遺構と遺物

調査区中央やや北西寄りに位置する。小型の不整楕円状を呈する土坑である。黒褐色土中の調査だが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区18号土坑(第212・233図 PL.31・119)

調査区東部に位置する。29号住南西にあたる。不整形を呈する大型土坑である。黒褐色土中の調査で、調査時は攪乱と位置付けられていたが、埋土下位から加曽利EⅢ式(18坑1)を主体的に出土したため、縄文時代中期後葉の所産とした。なお、前期初頭の土器片(18坑3・4)も混入する。

51区21号土坑(第212図 PL.31)

調査区北西部で52区境に跨がる位置である。4B号住が南に近接する。ローム漸移層で検出された。北側を調査区域外に延ばす。埋土の特徴、断面形からも縄文時代の所産であろう。時期は不明である。

51区22号土坑(第212・233図 PL.31・119)

調査区北西寄りの52区に接する遺構密集地点の南側に位置する小型の円形土坑である。127坑の上に乗る。黒褐色土中で調査されたが、拳大の角礫数個とともに加曽利EⅢ式土器腰部破片(22坑1・2)が出土している。土坑の時期は中期後葉後半段階と考えた。

51区29号土坑(第212・233図 PL.31・119)

調査区北西部の遺構密集地点に位置する。6号住の南東に接する大型の円形土坑である。径1.5mを測る。黒褐色土中の調査で、掘り込みは軟質ローム上層にまで達する。深さは60cmを超え、加曽利EⅢ式の口頸部破片(29坑1)が出土しているが時期の特定は控える。中期後葉以降の所産であろう。

51区30号土坑(第212図 PL.31)

調査区北西部の遺構密集地点から、やや距離をおいた東側に位置する不整形土坑である。黒褐色土中の調査だが、埋土の様相から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区31号土坑(第212・233図 PL.31・119)

調査区北西部の遺構密集地点北東側に位置する。径130cm前後の不整形を呈する集石土坑である。埋土中位より夥しい角礫が出土した。断面形は下半が袋状を呈し、北側壁は更に突出したオーバーハング状を呈する。深さ65cmを測る。あるいは貯蔵穴に角礫を廃棄したもののか。遺物は加曽利EⅢ式口頸部破片が出土している。時

期は中期後葉後半段階以降としたい。

51区32号土坑(第212図 PL.31)

調査区北西部の遺構密集地点北東側に位置する。31坑北東に接する。ローム漸移層の暗褐色土中で確認された不整形を呈する小型土坑で、埋土の特徴から縄文時代とした。

51区33号土坑(第213図 PL.32)

調査区北西部の遺構密集地点東に位置する。軟質ローム上面で確認した不整楕円状の小型土坑である。坑底面北東に小ピットが開く。土坑形状、埋土の様相から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区34号土坑(第213・233図 PL.32・119)

調査区北西部の遺構密集地点北東に位置する。ローム漸移層で検出された不整形の大型土坑である。浅く、壁も弱い印象であるが、「郷土式」の深鉢口縁突起片(34坑1)や打製石斧(34坑3)が出土している。中期後葉後半段階以降の所産と考えた。

51区35号土坑(第213図 PL.32)

調査区北西部の34坑北東に接する不整楕円状の土坑である。ローム漸移層下位で重複する36坑とともに調査された。新旧は不明である。坑底面から大型自然礫が出土している。形状、深さから平安時代～中世に比定される陥穴状土坑に似るが、やや小型で、埋土がローム塊を主体とすることから、縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区36号土坑(第213図 PL.32)

調査区北西部で35坑と重複して調査された円形の小型土坑である。P50、P53とも重複するが新旧は不明である。深さは15cmと浅く、壁も不明瞭である。埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区37号土坑(第213・233図 PL.32・119)

調査区北西部の遺構密集地点西に位置する。ローム漸移層で調査された不整楕円状の小型土坑である。図示した出土土器(37坑1・2)は2点だが小片で判然としない。おそらく中期後葉に比定されるが、土坑時期の特定は避ける。

51区38号土坑(第213図 PL.32)

調査区北西部の遺構密集地点南西部寄りに位置する。5号住南に接する。ローム漸移層下位で調査された不整形の小型土坑である。底面から浮いて自然礫2石が出

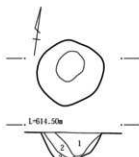
51区1号土坑



51区1号土坑上層

- 1 黒褐色土 やや粘質。中角礫多く含む

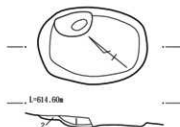
51区2号土坑



51区2号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を極微量含む
2 黒褐色土 小礫を少量含む
3 暗褐色土 黄色粒を微量含む

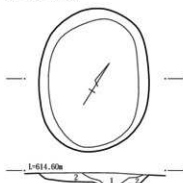
51区4号土坑



51区4号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
2 暗褐色土 黒色土小塊を多く含む

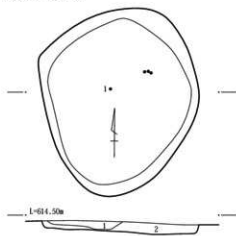
51区5号土坑



51区5号土坑上層

- 1 黒褐色土 中礫を少量含む
2 灰褐色土 中礫を少量含む

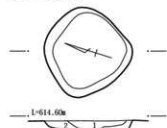
51区6号土坑



51区6号土坑上層

- 1 暗褐色土 焼土小塊を少量、炭化物を微量含む
2 暗褐色土 小礫を微量含む

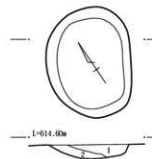
51区7号土坑



51区7号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
2 暗褐色土 黄色粒をごく微量含む

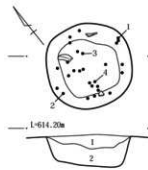
51区8号土坑



51区8号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
2 暗褐色土 黄色粒をごく微量含む

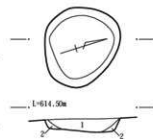
51区10号土坑



51区10号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
2 暗褐色土 黒色土小塊を多く含む

51区11号土坑



51区11号土坑上層

- 1 黒褐色土 やや粘性强い
2 暗褐色土 白色粒を極微量含む

51区13号土坑



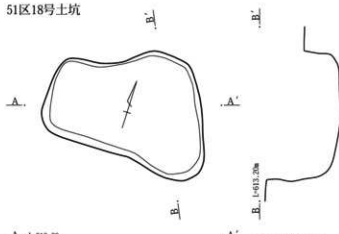
51区13号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
2 暗褐色土 黄色粒を極微量含む

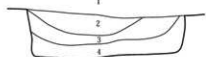
0 1 : 40 1m

第211図 土坑2 51区(1)

51区18号土坑



A., L=613.20m



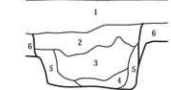
51区18号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 2 暗褐色土 黄色粒を多く含む
- 3 黒褐色土 黄色粒を少量、炭化物を極微量含む
- 4 黒褐色土 ローム大塊を少量、黄色粒を微量含む

51区21号土坑



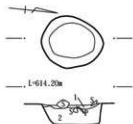
L=615.20m



51区21号土坑土層

- 1 黒色土 白色粒を微量含む。軟質
- 2 黒色土 白色粒を少量、黒色土塊を多く含む
- 3 黒色土 白色粒を多く、黒色土塊を少量含む
- 4 黒色土 白色粒・黒色土塊を少量含む
- 5 黒褐色土 白色粒・暗褐色土塊を少量含む
- 6 暗褐色土 基盤層。ローム漸移層

51区22号土坑

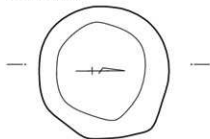


L=614.20m

51区22号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 2 暗褐色土 黄色粒を少量含む

51区29号土坑



L=614.00m



51区29号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 2 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 3 黒褐色土 黄色粒を多く含む
- 4 黄褐色土 黄色粒主体。黒褐色土塊を含む
- 5 暗褐色土 基盤。ローム漸移層

51区30号土坑



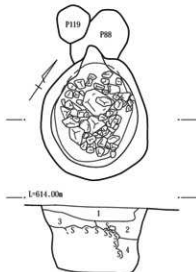
L=613.70m



51区30号土坑土層

- 1 暗褐色土 白色粒を微量含む
- 2 黒褐色土 白色粒を微量含む
- 3 暗褐色土 黄色粒を極微量含む
- 4 暗褐色土 ローム大塊を多く含む

51区31号土坑

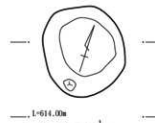


L=614.00m

51区31号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 2 黒褐色土 小礫を少量・黄色粒を極微量含む
- 3 暗褐色土 ローム粒を多く含む
- 4 暗褐色土 ローム小塊を多く含む

51区32号土坑



L=614.00m



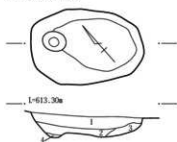
51区32号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 2 暗褐色土 黒色土塊・褐色土塊を含む
- 3 暗褐色土 ローム粒を多く含む
- 4 褐色土 ローム小塊を多く含む

0 1:40 1m

第212図 土坑2 51区(2)

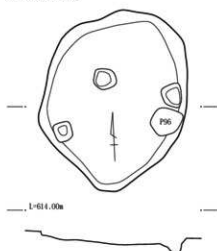
51区33号土坑



51区33号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 2 黒褐色土 黄色粒を極微量含む
- 3 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
- 4 暗褐色土 ローム粒子を多く含む

51区34号土坑



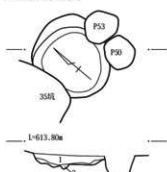
51区35号土坑



51区35号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム小塊・小礫を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊を多く含む
- 3 黄褐色土 ローム大塊からなる
- 4 黄褐色土 ローム塊、基盤土に近似

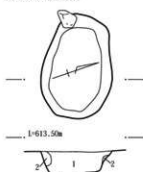
51区36号土坑



51区36号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊を少量含む

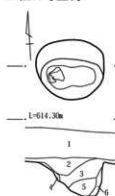
51区37号土坑



51区37号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 褐色土 ローム大塊を含む

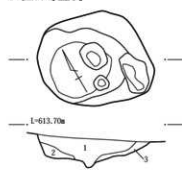
51区38号土坑



51区38号土坑土層

- 1 黒色土 黄色粒を少量含む
- 2 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 3 暗褐色土 ローム粒を少量含む
- 4 暗褐色土 ローム小塊を含む
- 5 暗褐色土 やや軟質。ローム粒を含む
- 6 褐色土 ローム小塊を含む

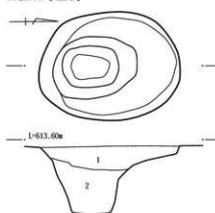
51区39号土坑



51区39号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 黒色土塊・黄色粒を含む
- 3 黄褐色土 ローム塊・黒色土塊からなる

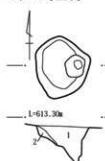
51区40号土坑



51区40号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊を多く含む

51区41号土坑



51区42号土坑土層

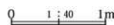
- 1 黒褐色土 ローム小塊・黄色粒を少量含む
- 2 黒褐色土 ローム粒を少量含む

51区42号土坑



51区41号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒を少量含む



第213図 土坑2 51区(3)

土する。土層、土坑形状から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区39号土坑(第213図 PL.32)

調査区北西部の遺構密集地点西側に位置する。6号住東に近接し、不整楕円状の平面形を呈す。ローム漸移層下位で調査され、坑底面や東壁に小ピットを開ける。埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区40号土坑(第213・233図 PL.32・119)

調査区北西部の遺構密集地点西側に位置する。周辺はピットが群在し、本土坑にも数基が重なる。大型の不整楕円状の平面形で、断面形は漏斗状を呈す。遺物は土器小破片3点を図示した(40坑1～3)。小破片のため詳細は不明だが、おそらく「郷土式」(1・2)、加曾利EⅢ式と思われる。時期は中期後葉後半段階としたい。

51区41号土坑(第213図 PL.32)

調査区北西部の遺構密集地点からやや距離をおいて西側に位置する。33坑の南西に近接する。不整形を呈す小型土坑である。底面は東側に偏り、土層は縄文時代の特徴を有するが、あるいは風倒木の一部ともとれる様相である。

51区42号土坑(第213図 PL.32)

調査区北西部の遺構密集地点からやや距離をおいて西側に位置する。33坑の北西に近接する。不整形を呈する小型土坑で、底面に小ピットを開ける。埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区43・44号土坑(第214・233図 PL.32・119)

調査区北西部の遺構密集地点南西よりに位置する近接する2基の土坑である。43坑は不整形、44坑は不整形の平面形を呈す。44坑は深く箱形の断面形を示し、加曾利EⅡ式の体部破片(44坑1)と打製石斧(44坑2)が出土した。43坑は時期不明であるが、44坑は中期後葉後半段階以降と思われる。

51区45号土坑(第214図 PL.32)

調査区中央北寄りに位置する大型の円形土坑である。径160cmを超えるが、断面形は南側から東側がやや不安定である。重複、近接する遺構は無く、ローム漸移層で単独で調査された。埋土の特徴から縄文時代の所産と考えた。時期は不明である。

51区49号土坑(第214図 PL.32)

調査区中央部に位置する不整楕円状の小型土坑であ

る。南に51・52坑が近接するが、重複遺構は無く、ローム漸移層下位で単独で調査された。浅く、壁の立ち上がりも弱い、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区50号土坑(第214図 PL.32)

調査区北西部の遺構密集地点の北側にあり、3号住北壁や80坑と重複する。ローム漸移層下位で調査された。小型の不整形の平面形を呈し、掘り込みは深く、壁も良好である。遺物は出土していないが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区51・52号土坑(第214図 PL.33)

調査区中央部に位置する近接する土坑2基である。軟質ローム上層で調査され、51坑は南側が調査区域外に延長する。両土坑とも不整楕円状を呈し、深さはやや浅いが壁は明確に把握された。遺物の出土は無いが、埋土の特徴から縄文時代の所産と考えた。時期は不明である。

51区53号土坑(第214・233図 PL.33・119)

調査区北西部の遺構密集地点北東側に位置する。34坑と重複するが、34坑が先行すると思われる。ローム漸移層下位で調査した不整楕円状の小型土坑で、深くしっかりした掘り込みを呈す。土器片1点の出土を見るが、細片であり詳細は不明である(53坑1)。加曾利EⅢ式深鉢橋状把手破片と思われるが問題が多い。土坑は縄文時代の所産であるが、時期は特定できない。

51区54・55号土坑(第214・233図 PL.33・119)

2基の重複土坑である。調査区北西部の遺構密集地点にあり、5号住東壁に重複して調査された。その他に89坑が北側に重なる。54坑が55坑を切る新旧関係を土層観察から得ている。ローム漸移層下位で確認され、54坑は不整楕円状、55坑は不整形の平面形を呈し、両土坑とも掘り込みはしっかりしていた。遺物は54坑が加曾利EⅡ式の深鉢体部破片(54坑1)、55坑が勝版1式の深鉢破片(55坑1～3)を出土しており、土層観察と合致する。時期は54坑が中期後葉以降、55坑が中期中葉と判断した。

51区56号土坑(第214図 PL.33)

調査区北西部の遺構密集地点南東部に位置する。南西部は調査区域外に延びる。遺構密度はやや低く、57坑が南東壁に接し、P107が東壁、P120が西壁に重なる。軟質ローム上層で確認され、底面は硬質ローム上面に達す。不整楕円状の平面形で、掘り込みも良好である。遺物は

出土していないが、埋土の特徴などから縄文時代の所産とした。

51区57号土坑(第215図 PL.33)

調査区北西部の遺構密集地点南東部に位置する。南側が調査区域外に接する。重複遺構として56坑が北壁に重なるが新旧は不明である。軟質ロームで確認された不整形土坑で、断面形も不連続である。遺物は出土していないが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区58・59号土坑(第215・233図 PL.33・119)

調査区北西部の遺構密集地点にある。64坑底面で確認されたピット状の土坑である。土層の観察では59坑が64坑を切り、58坑は64坑に切られる新旧を示す。遺物は58坑から黒浜式深鉢体部破片(58坑1)、59坑からは加曾利EⅢ式体部破片(59坑1・2)が出土している。時期は58坑が前期中葉以降、59坑が中期後葉以降と考えた。

51区60号土坑(第215・234図 PL.33・119)

調査区北西部の遺構密集地点東にやや距離を置く位置である。周辺には小ピットが群在し、本土坑にも幾つかが重複する。ローム漸移層下位で確認された不整形円状の小型土坑である。掘り込みは良好で、壁の立ち上がりも明瞭である。遺物は加曾利EⅠ式頸部・体部破片(60坑1～3)が出土する。時期は中期後葉前半段階か。

51区61号土坑(第215図)

調査区北西部の遺構密集地点東に位置する。土坑、ピットと重複・近接しており、P134・P135・P310と重複する。ローム漸移層下位で確認された不整形円形の土坑である。掘り込みはしっかりしているが、断面形はピット状である。遺物は出土しておらず、埋土の特徴から縄文時代とした。なお、重複するP135からは中期後葉の深鉢体部破片が出土している。

51区62号土坑(第215図 PL.33)

調査区北西部の遺構密集地点東に位置する。周辺は土坑ピットが群在する。ローム漸移層下位で確認した不整形円形を呈す小型土坑である。掘り込みは深い。遺物は出土していない。時期は不明だが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区63号土坑(第215図 PL.33)

調査区北西部の遺構密集地点南西に位置する。分割調査境にあり、そのため南半を調査できなかった。28号住北東に近接する。ローム漸移層下位で確認された。楕円

状の平面形か、断面形は箱形を呈し良好な掘り込みである。遺物は出土しておらず、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区64号土坑(第215図 PL.33)

調査区北西部の遺構密集地点にある。58坑・59坑・86坑と重複する。ローム漸移層下位で確認された大型の不整形土坑で、断面形も皿状を呈し浅い。遺物は出土しておらず、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区66・67号土坑(第215・234図 PL.33・119・120)

調査区北西部の遺構密集地点北東部にあたる。重複する2基の土坑である。12号住やP197・P221と重複する。66坑が67坑を切る新旧関係である。12号住が跡などが確認されなかったことから、12号住より新しい土坑と思われる。ローム漸移層下位での確認で、66坑は不整形円状、67坑は不整形な平面形を呈す。66坑の断面形は箱形を呈すが、67坑はやや不安定な壁が巡る。遺物は66坑に曾利Ⅱ式(66坑1)と中葉末の体部破片(66坑2・3)、67坑に中葉末の体部破片(67坑1)が出土した。時期は66坑が中期後葉中頃以降、67坑が中葉末以降と考えた。

51区68号土坑(第216図 PL.34)

調査区北西部の遺構密集地点にある。7号住床面に重なり、北側を95坑と重複する。7号住床面である黄褐色土で確認された不整形土坑である。掘り込みはしっかりしており、壁も直立気味に立ち上がる。遺物は出土しておらず、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区69号土坑(第216・234図 PL.34・120)

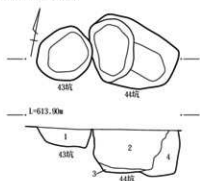
調査区北西部の遺構密集地点の7号住床面で確認された。新旧は不明である。黄褐色土で確認された楕円状の土坑である。掘り込みは深く箱形の断面形を示す。遺物は加曾利EⅡ式深鉢体部破片(69坑1)が出土しているが、1点のみの出土で土坑時期の特定は避けたい。中期後葉中頃以降と考えた。

51区70号土坑(第216・234図 PL.34・120)

調査区北西部の遺構密集地点にある。5号住南東、64坑北側と重複する。新旧関係は不明である。ローム漸移層で確認された不整形土坑である。おそらく楕円状か。断面形は不安定で底面には基盤露が露出していた。遺物は縄文施文のみの体部破片(70坑1)を見るのみである。おそらく加曾利EⅡ式か。時期は中期後葉中頃以降と考

第3章 発見された遺構と遺物

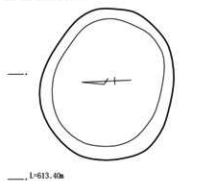
51区43・44号土坑



51区43・44号土坑土層

- 1 黒褐色土 白色粒を微量含む。43坑埋土
- 2 黒褐色土 ローム大塊・黄色粒を少量含む。44坑埋土
- 3 暗褐色土 ローム小塊を少量含む
- 4 黒褐色土 ローム小塊を多く含む

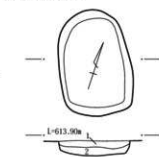
51区45号土坑



51区45号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム小塊を多く含む
- 2 黒褐色土 ローム大塊を含む
- 3 黒褐色土 暗い。ローム粒を少量含む
- 4 褐色土 ローム大塊・黒褐色土塊からなる

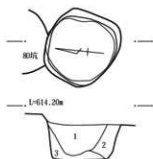
51区49号土坑



51区49号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム小塊を微量含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊・黄色粒を含む

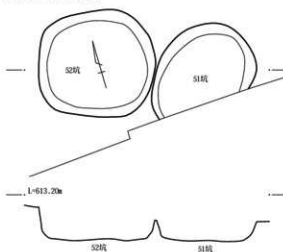
51区50号土坑



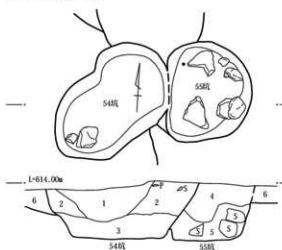
51区50号土坑土層

- 1 黒褐色土 褐色土塊を少量含む
- 2 暗褐色土 褐色土塊を含む
- 3 黒褐色土 ローム小塊を含む

51区51・52号土坑



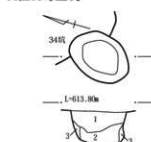
51区54・55号土坑



51区54・55号土坑土層

- (54坑)
- 1 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む
 - 2 暗褐色土 ローム小塊を少量含む
 - 3 暗褐色土 明るい。ローム塊を含む
- (55坑)
- 4 暗褐色土 黄色粒を多く含む
 - 5 暗褐色土 大礫を含む
 - 6 暗褐色土 白色粒・炭化物を少量含む

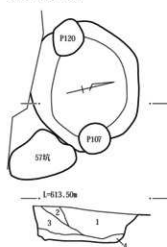
51区53号土坑



51区53号土坑土層

- 1 黒褐色土 褐色土塊・黄色粒を少量含む
- 2 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 3 暗褐色土 ローム塊を多く含む

51区56号土坑



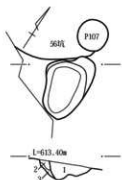
51区56号土坑土層

- 1 暗褐色土 ローム大塊を含む
- 2 黒褐色土 白色粒を少量含む
- 3 暗褐色土 ローム大塊を多く含む
- 4 暗褐色土 ローム小塊を多く含む

0 1:40 1m

第214図 土坑2 51区(4)

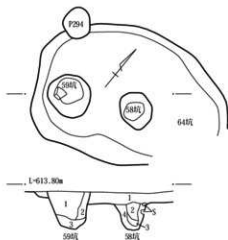
51区57号土坑



51区57号土坑上層

- 1 黒褐色土 白色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒を多く含む
- 3 黄褐色土 ローム塊からなる

51区58・59号土坑



51区59号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒多く含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊・黄色粒を含む
- 3 暗褐色土 ローム粒・黄色粒を多く含む

51区58号土坑上層

- 1 黒褐色土 ローム粒を含む
- 2 暗褐色土 ローム粒・礫を含む
- 3 暗褐色土 ローム粒を多く含む
- 4 黄褐色土 ローム塊を多く含む

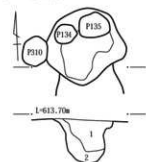
51区60号土坑



51区60号土坑上層

- 1 黒色土 白色粒を微量含む。やや軟質
- 2 黒褐色土 ローム大塊を多く含む
- 3 暗褐色土 ローム小塊を少量含む
- 4 暗褐色土 ローム小塊を多く含む
- 5 褐色土 ローム大塊を主体とする

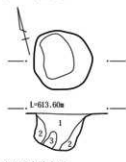
51区61号土坑



51区61号土坑上層

- 1 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒・黄色粒を多く含む

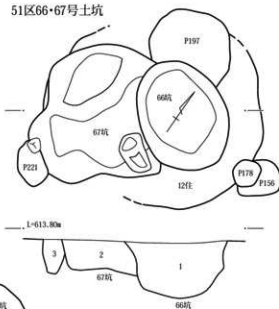
51区62号土坑



51区62号土坑上層

- 1 黒褐色土 ローム小塊・黄色粒を多く含む
- 2 黒褐色土 ローム粒を微量含む
- 3 黄褐色土 ローム塊からなる

51区66・67号土坑



51区66・67号土坑上層

- 1 暗褐色土 黒色上にローム塊を多く含む (66坑)
- 2 暗褐色土 ローム塊と白色粒を含む (67坑)
- 3 暗褐色土 均質土 (別遺構ヒット)

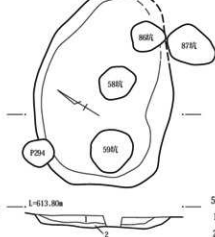
51区63号土坑



51区63号土坑上層

- 1 黒褐色土 小礫・黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊を少量含む
- 3 にぶい黄褐色土 ローム小塊を含む
- 4 にぶい黄褐色土 ローム粒を多く含む
- 5 暗褐色土 基礎。ローム漸移層

51区64号土坑



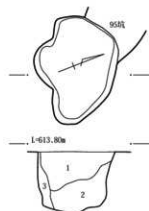
51区64号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊含む

第215図 土坑2 51区(5)

0 1 : 40 1m

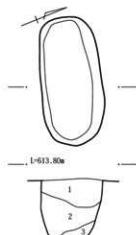
51区68号土坑



51区68号土坑上層

- 1 暗褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 黒褐色土塊・ローム塊を含む
- 3 褐色土 ローム小塊を多く含む

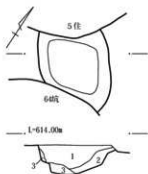
51区69号土坑



51区69号土坑上層

- 1 暗褐色土 ローム小塊・黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 黒褐色土塊・ローム大塊を多く含む
- 3 褐色土 ローム大塊を多く含む

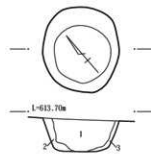
51区70号土坑



51区70号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒・黄色粒を微量含む
- 3 暗褐色土 ローム粒を多く含む

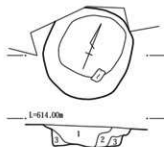
51区74号土坑



51区74号土坑上層

- 1 暗褐色土 ローム小塊・黄色粒を多く含む
- 2 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む
- 3 褐色土 ローム粒・黄色粒を含む

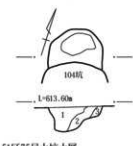
51区73号土坑



51区73号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 2 黒褐色土 ローム小塊を多く含む
- 3 暗褐色土 ローム塊を多く含む

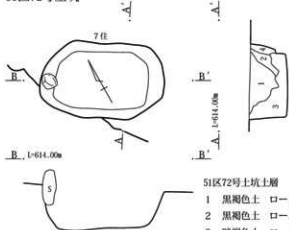
51区75号土坑



51区75号土坑上層

- 1 黒褐色土 ローム大塊を少量含む
- 2 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 3 暗褐色土 ローム粒を多く含む

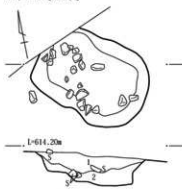
51区72号土坑



51区72号土坑上層

- 1 黒褐色土 ローム小塊・黄色粒を多く含む
- 2 黒褐色土 ローム小塊を少量含む
- 3 暗褐色土 ローム大塊を多く含む
- 4 黒褐色土 均質。黄色粒を微量含む

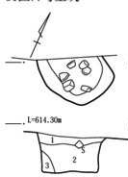
51区76号土坑



51区76号土坑上層

- 1 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒を多く含む

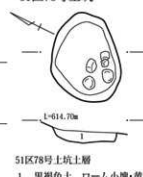
51区77号土坑



51区77号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム塊・礫を含む
- 3 黒褐色土 均質。黄色粒を微量含む

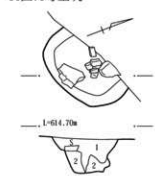
51区78号土坑



51区78号土坑上層

- 1 黒褐色土 ローム小塊・黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊を多く含む

51区79号土坑



51区79号土坑上層

- 1 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊を多く含む

0 1 : 40 1m

第216図 土坑2 51区(6)

えた。

51区72号土坑(第216・234図 PL.34・120)

調査区北西部の遺構密集地点にある。7号住床面西側で重複する。新旧は不明であるが、7号住が新しいか。7号住床面の黄褐色土で確認された楕円状の土坑である。壁は直立し断面形は箱形を呈す。北西壁土坑長軸上に立石を附帯する。掘り込みは持たず、おそらく埋土の最終段階に設けられたと考えられる。遺物は阿玉台Ⅰa式口頸部破片(72坑1)を図示した。時期は、出土土器から中期前葉としたが、検討を要する。

人骨や土器個体が出土していないが、土坑形態や立石から、墓塚としての位置付けも検討すべきであろう。

51区73号土坑(第216・234図 PL.34・120)

調査区北西部の遺構密集地点よりやや距離を置いた北東に位置する。北端を調査区域外に延ばす。軟質ローム上面で調査した不整形土坑である。掘り込みはやや浅く断面形もやや不安定である。遺物は加曾利EⅡ式体部破片(73坑1)が出土した。時期は中期後葉中頃以降か。

51区74号土坑(第216・234図 PL.34・120)

調査区北側で調査された。周辺は土坑、ピットが群在し、距離を置いて11・14号住西に位置する。ローム漸移層で確認した不整形土坑である。掘り込みは深く、箱形の断面形を呈す。遺物は加曾利EⅢ式体部破片(74坑1)、「郷土式」体部破片(74坑2)を図示した。小破片であるため特定できないが、土坑時期は中期後葉後半段階以降におきたい。

51区75号土坑(第216図 PL.34)

調査区北西部の遺構密集地点東に位置する。周辺は土坑、ピットが群在し本土坑南にも104坑が重複する。新旧は不明である。ローム漸移層で確認された不整形土坑である。断面形はやや不安定で、壁の立ち上がりも凹凸が目立つ。遺物は出土していない。土層の特徴から縄文時代の所産とした。

51区76号土坑(第216・234図 PL.34・120)

調査区北西部の遺構密集地点北に位置する。北側を調査区域外に延ばす。軟質ローム上面で調査した不整形楕円状の土坑である。掘り込みはしっかりしているが、坑底面は南東に傾斜するように不安定である。遺物は、中層から下層にかけて、小型の自然礫の出土を見る。これは周辺の基盤礫の様相と同様で、流入と捉えた。上層から

は、「郷土式」(76坑1)や加曾利EⅡ式(76坑2)深鉢体部破片が出土している。土坑時期は中期後葉中頃の所産であろうか。

51区77号土坑(第216・234図 PL.34・120)

調査区北西部の遺構密集地点北に位置する。76坑西に並列して、北側を調査区域外に延ばす。軟質ローム上面で調査した不整形楕円状の小型土坑である。断面形は箱形でしっかりした掘り込みである。遺物は深鉢体部破片(77坑1)が出土している。細片で判断としないが中期中葉末であろうか。土坑時期は中期中葉末以降になるが、あるいは、76坑との近縁性から、中期後葉の可能性もある。

51区78号土坑(第216図 PL.34)

調査区北西部の遺構密集地点北に位置する。79坑が近接するが単独の検出である。軟質ローム上面で確認した不整形土坑で、浅く壁も明瞭ではない。埋土中より自然礫の出土を見るが、土器、石器の出土を見ない。時期は不明であるが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区79号土坑(第216図 PL.34)

調査区北西部の遺構密集地点北に位置する。北側を調査区域外に延ばし、78号土坑が近接するが単独の検出である。軟質ローム上面で確認した不整形楕円状の小型土坑である。断面形は不安定で、壁の立ち上がりも凹凸が目立つ。大型礫の出土はあるが周辺基盤礫からの流入と考えた。出土遺物は無く時期は不明だが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区80号土坑(第217・234図 PL.34・120)

調査区北西部の遺構密集地点北に位置する。南側に50坑と3号住が接する。ローム漸移層を確認面とした不整形楕円状の土坑である。浅く坑底面も南東に傾くように断面形も不安定である。遺物は加曾利EⅢ式体部破片(80坑1)、「郷土式」体部破片(80坑2・3)、石鏃(80坑4)を図示した。時期は中期後葉後半段階と考えるが、土坑そのものに有機性が乏しい。

51区82～84号土坑(第217・234図 PL.120)

83坑に重複する82坑と84坑である。調査区北西部の遺構密集地点南に位置する。ローム漸移層下位で確認された。82坑は円形土坑で、しっかりした掘り込みである。加曾利EⅡ式(82坑1・3)、「郷土式」(82坑2)、打製石斧(82坑4)を出土する。83坑は大型の不整形土坑で掘り

込みも浅く、不安定な形状である。中期後葉の土器細片(83坑1・2)を出土する。84坑は小型の円形土坑で、P171に切られる。遺物は出土していない。3基の土坑の新旧は判然としなが、82坑が83坑を切る新旧関係を土層観察で得ている。時期は中期後葉以降であろう。

51区85号土坑(第217・234図 PL.34・120)

調査区北西部の遺構密集地点南に位置する。ローム漸移層下位で確認された不整形の小型土坑である。南端は分割調査のため検出されていない。掘り込みは浅く、皿状の断面形を呈し不安定である。遺物は縄文施文の体部破片1点を図示した。加曾利Ⅱ式か。時期は中期後葉中頃以降と考えた。

51区86・87号土坑(第217図 PL.34・35)

調査区北西部の遺構密集地点南に位置する2基のピット状の土坑である。重複する64坑を切る新日で、86坑が87坑を切る新旧関係を土層から得ている。ローム漸移層下位で確認され、両土坑とも30cm前後の深さを測る。遺物は出土しておらず、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区88・89・97号土坑(第217・234図 PL.35・120)

調査区北西部の遺構密集地点にあり、3号住と5号住の間で調査された重複土坑である。89坑南には54坑と55坑が重複する。88・89坑はローム漸移層下位で確認され、97坑は89坑底面で検出した。89坑が88坑を切る新旧関係は土層の観察で得たが、97坑は新旧を土層では判断できなかった。おそらく、89坑に切られる新旧と考える。88坑は円形土坑で掘り込みが深く、やや袋状の断面形を示す。遺物は「焼町類型」(88坑1)、加曾利Ⅱ式(88坑2)、「郷土式」(88坑3)、打製石斧(88坑4)、凹石(88坑5)が出土している。出土土器の時間幅があり、土坑の時期は中期後葉後半以降としたい。89坑は、不整形楕円状で浅い。壁もやや不明瞭な立ち上りを示す。97坑は不整形円形で、箱形の断面形を呈し、底面に自然礫を置く。89坑、97坑は時期不明である。

51区90号土坑(第217・234図 PL.35・120)

調査区北西部の遺構密集地点にある。5号住と7号住の間で調査された。確認面はローム漸移層で、円形の小型土坑である。掘り込みはしっかりしており、袋状の断面形を示す。遺物は深鉢体部破片(90坑1)を図示した。加曾利Ⅱ式であろう。土坑時期は中期後葉中頃以降を

考えた。

51区91号土坑(第217・235図 PL.35・120)

調査区北西部の遺構密集地点南側に位置する。6号住南に近接し、周辺は土坑・ピットが群在する。本土坑北にP182が重複する。ローム漸移層下位で確認した小型のピット状土坑である。南側にオーバーハングし、斜位の断面形を示す。遺物は塚田式(91坑1)、「焼町類型」(91坑2・3)、打製石斧(91坑4)が出土する。土坑の時期は出土土器の時間幅があり、特定はできない。中期中葉以降と考えた。

51区92号土坑(第218・235図 PL.35・120)

調査区北西部の遺構密集地点西側に位置する。5号住西壁やP199に重複し、P183と北側で接する。ローム漸移層で確認された不整形の土坑である。掘り込みも深く硬質ロームにまで達す。箱形の断面形を示す。遺物は「郷土式」体部破片1点を図示した。土坑時期は中期後葉後半以降と考えた。

51区93号土坑(第218・235図 PL.35・120)

調査区北西部の遺構密集地点南に位置する。ローム漸移層下位で確認された不整形を呈す土坑である。土坑、ピットが群在し82坑や109坑が近接する。本土坑にもピットが重複する形態となる。遺物は磨石(93坑1)を1点図示した。土坑時期は中期後葉であろうか。

51区94号土坑(第218図 PL.35)

調査区北西部の遺構密集地点にある。2号住の北で90坑や110坑と重複して調査された。新旧は本土坑が古く土層観察されている。ローム漸移層で確認された不整形方形土坑で、比較的深く、しっかりした掘り込みを呈す。出土遺物は無く、土層や重複状態から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

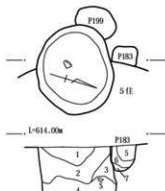
51区95号土坑(第218図 PL.35)

調査区北西部の遺構密集地点にある。3号住と7号住の間に重なり、南側を68坑、北側に115坑と重複する。新旧は不明である。ローム漸移層で確認した不整形円状土坑である。掘り込みは深く、壁も直立する。遺物は出土しておらず、詳細な時期は不明だが、埋土の特徴から縄文時代の所産と考えた。

51区96号土坑(第218図 PL.35)

調査区北西部の遺構密集地点にある。7号住北壁に重なり、西側にP198が重複するが新旧は不明である。不整

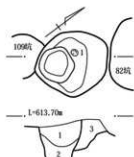
51区92号土坑、P183



51区92号土坑、P183土層

- (92坑)
- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
 - 2 暗褐色土 ローム塊を多く含む
 - 3 褐色土 ローム大塊を多く含む
 - 4 にぶい黄褐色土 ローム大塊を主体とする
- (P183)
- 5 黒褐色土 黄色粒を微量含む
 - 6 黒褐色土 ローム粒を多く含む
 - 7 暗褐色土 ローム小塊を少量含む

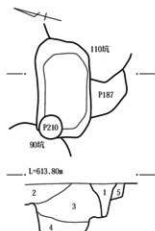
51区93号土坑



51区93号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む
- 2 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 3 黒褐色土 均質、ローム粒を微量含む

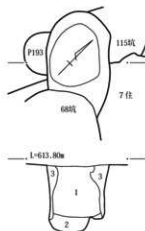
51区94号土坑



51区94号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む、110坑埋土
- 2 黒褐色土 均質上、別種遺構か
- 3 暗褐色土 ローム小塊を多く含む
- 4 黒褐色土 ローム粒を少量含む
- 5 暗褐色土 ローム小塊を含む、P187埋土

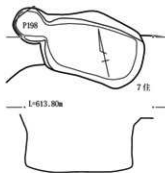
51区95号土坑



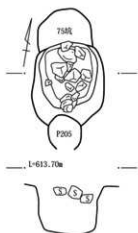
51区95号土坑土層

- 1 にぶい黄褐色土 小型のローム塊を主とする
- 2 にぶい黄褐色土 明るい、ローム粒を主とする
- 3 暗褐色土 褐色土大塊を含む

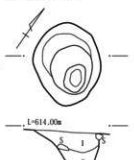
51区96号土坑



51区104号土坑



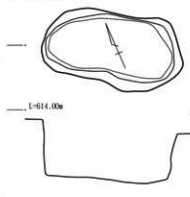
51区99号土坑



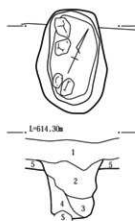
51区99号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒を少量含む

51区100号土坑



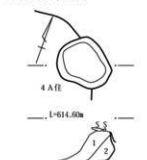
51区101号土坑



51区101号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 にぶい黄褐色土 ローム粒を多量に含む
- 3 暗褐色土 ローム塊少量を含む
- 4 暗褐色土 ローム粒・礫を含む
- 5 にぶい黄褐色土 ローム漸移層

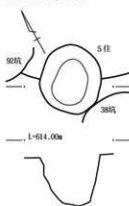
51区105号土坑



51区105号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 黒褐色土 ローム粒を少量含む

51区107号土坑



0 1 : 40 1m

第181図 土坑2 51区(8)

方形を呈する。掘り込みは深く、箱形の良好な断面形を示す。出土遺物は見られず、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区99号土坑(第218・235図 PL.35・120)

調査区北西部の遺構密集地点にある。3号住床面に重複する。新旧は不明である。地床暗褐色土を確認面とした不整形のビット状の土坑である。比較的深い掘り込みだが、やや不安定な断面形である。遺物は自然礫が出土し、堀之内1式の口縁部小破片(99坑1)が出土した。土坑時期は後期前葉以降としたいが、小破片のため判断としない。

51区100号土坑(第218・235図 PL.35・120)

調査区北西部の遺構密集地点やや北側にある。3号住床面さらに116坑とも重複する。新旧は不明である。3号住地床暗褐色土を確認面とした不整形円状の土坑である。掘り込みは深く、陥穴状土坑としての位置付けも考えたが、「郷土式」深鉢破片(100坑1・2)の出土から、中期後葉後半に時期を求めた。検討を要する。

51区101号土坑(第218図 PL.35)

調査区北西部の遺構密集地点よりやや距離を置いた北東に位置する。北端を調査区域外に延ばすが全掘できた。軟質ローム層上層を確認面とした楕円状土坑で、壁は凹凸があるものの深く、しっかりした掘り込みを見せる。自然礫を底面に見るが、おそらく基盤礫の露出・流入であろう。この土坑も陥穴状土坑の可能性を考えたが、埋土の状態から縄文時代の所産とした。

51区104号土坑(第218図 PL.35)

調査区北西部の遺構密集地点東に位置する。周辺は土坑、ビットが群生し本土坑北にも75坑が重複する新旧は不明である。ローム漸移層で確認された不整形円状の土坑である。掘り込みは深く箱形の断面形を示す。人頭大の角礫が上層に集中した。廃棄の所産であろうか。出土土器は無いが、埋土の特徴から縄文時代とした。

51区105号土坑(第218図 PL.35)

調査区北西部の遺構密集地点西側に位置する。4A号住東壁に重複する。新旧は不明である。ローム漸移層下位で確認した不整形の小型土坑である。深さも浅く、西側の壁はやや不明瞭だった。出土遺物は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区107号土坑(第218・235図 PL.120)

調査区北西部の遺構密集地点西側に位置する。5号住南壁に重複する他38坑と接する。ローム漸移層で確認された不整形の小型土坑である。掘り込みは深く軟質ロームにまで達す。出土遺物はミニチュア土器口縁部破片(107坑1)、加曾利EⅡ式体部破片(107坑2)を図示した。細片である。土坑の時期は中期後葉中頃以降に置きたい。

51区108号土坑(第219図 PL.36)

調査区北西部の遺構密集地点西側に位置する。5号住南壁やP201と重複する。新旧は不明である。また西側に38坑が接する。ローム漸移層で確認された不整形の小型土坑である。掘り込みは浅く、皿状の断面形を呈す。出土遺物は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区109号土坑(第219図)

調査区北西部の遺構密集地点南に位置する。2号住南西で93坑と重複する。85坑や87坑が近接する。ローム漸移層下位で確認された小型円形土坑である。掘り込みは浅く北側壁は不明瞭である。出土遺物は無く、土層の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区111号土坑(第219図 PL.36)

調査区北西部の遺構密集地点北側に位置する。3号住床面上で確認され、北壁をP203と重複する。P203が本土坑を切る土層を得ている。3号住地床であるローム漸移層下位を確認面とした。小型の楕円状土坑である。掘り込みは浅いが、壁は明瞭に立ち上がる。出土遺物は無いが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区112号土坑(第219図)

調査区北西部の遺構密集地点南側に位置する。2号住南西で84坑と重複する。新旧関係は不明である。ローム漸移層で確認された小型の不整形土坑である。掘り込みは浅く皿状の断面形を示す。遺物の出土は見られなかったが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区113号土坑(第219・235図 PL.36・120)

調査区北西部の遺構密集地点東側に位置する。7号住の東に近接し、P211・P330と近接する。新旧関係は不明である。ローム漸移層で確認されたビット状の土坑である。周辺のビットと群をなすものであろう。遺物は加曾利EⅢ式の深鉢体部破片(113坑1)を得たが、小破片であり、重複ビットとの関連も不明である。時期は判断とし

ないが、縄文時代の所産である。

51区114号土坑(第219図 PL.36)

調査区北西部の遺構密集地点東側に位置する。6号住東側に重なり39坑と近接する。ローム漸移層下位で確認された不整楕円状土坑である。深く約57cmを測り、土層には柱痕が確認された。柱穴と捉えられよう。出土遺物は無いが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区115号土坑(第219図)

調査区北西部の遺構密集地点やや北側に位置する。3号住と7号住に跨がり、95坑とも重複する。新旧関係は不明である。ローム漸移層で確認した。重複遺構のため形状は不明で、深さも22cmと浅い。遺物も出土しておらず、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区116号土坑(第219図 PL.36)

調査区北西部の遺構密集地点やや北側に位置する。3号住床面北東部で100坑と重複する。3号住地床のローム漸移層で確認された不整楕円状の土坑である。掘り込みは深く、60cmを超える。断面形は東側にやや膨らむ袋状を呈する。出土遺物は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区117号土坑(第219図 PL.36)

調査区北西部の遺構密集地点やや南側にある。7号住床面南端に位置し6号住北側とも重なる。新旧は不明である。7号住地床である軟質ローム上面で確認した。小型の溝状の土坑である。出土遺物は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。整理段階で、7号住南側出入口施設としての性格を考えたが、確認に至らず土坑として報告する。

51区119号土坑(第219・235図 PL.36・120)

調査区北西部の遺構密集地点西側に位置する。5号住北西隅にあたり、4A・4B号住とも重なり、本土坑内に4B号住柱穴が重なる。本土坑が古い土層である。ローム漸移層で確認された円形土坑である。掘り込みはしっかりしており、壁も良好に立ち上がる。出土遺物は加曾利EⅡ式の体部破片(119坑1)を図示した。細片であり時期の特定には至らない。本土坑の時期としては、中期後葉中頃以降と考えた。

51区120号土坑(第219図 PL.36・120)

調査区北西部の遺構密集地点南側に位置する。2号住南に近接し、83坑・93坑とも近距離にある。ローム漸移層で確認されたビット状の土坑である。土層に柱痕は観察されなかったが、柱穴としての位置付けも可能である。遺物は加曾利EⅡ式の深鉢同一個体部破片3点(120坑1～3)と底部(120坑4)が上層より出土している。土坑の時期は中期後葉中頃と捉えた。

51区121号土坑(第219・235図 PL.36・120)

調査区北西部の遺構密集地点北西にやや距離を置いて位置する。4A号住と4B号住の間に重複する。4B号住床下の調査で得られたため、軟質ロームを確認面とする。径130cm程の円形土坑で、50cmを超える深さを測る良好な掘り込みである。壁も直立気味に立ち上がる。遺物は諸磯b式の体部破片(121坑1)を図示した。土坑の時期は前期後半中頃以降と思われる。

51区122号土坑(第220図 PL.36)

調査区中央南寄りに位置する。単独の検出で重複遺構は無い。長軸を同じにする123坑が北東に近接する。黒褐色土で確認された不整形を呈する小型土坑である。やや浅いが壁は明確に把握した。遺物の出土は無く、埋土の特徴から縄文時代としたが、中世遺構埋土と差は無く、確認はない。

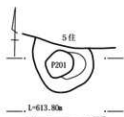
51区123号土坑(第220図)

調査区中央南寄りに位置する。単独の検出で重複遺構は無い。長軸を同じにする122坑が南西に近接する。黒褐色土で確認された不整形を呈する小型土坑である。やや浅いが壁は明確に把握した。遺物の出土は無く、埋土の特徴から縄文時代としたが、中世遺構埋土と差は無く、確認はない。

51区124号土坑(第220・235図 PL.36・120)

調査区中央やや西に位置する。220坑と重複し、123坑・125坑・246坑が近接するように、土坑が点在する地点である。220坑は前期初頭に比定されるため、本土坑が新しい。ローム漸移層上層で確認された不整楕円状の土坑である。壁は直立し、箱形の断面形を呈す。埋土中位に大型の板石が置かれる。遺物は加曾利EⅣ式深鉢体部破片(124坑1)と凹石(124坑2)が出土している。土坑時期は、中期末葉以降におきたい。

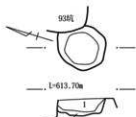
51区108号土坑



51区108号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 黒褐色土 ローム小塊を少量含む

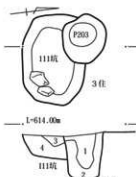
51区109号土坑



51区109号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊を少量含む

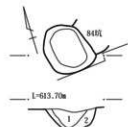
51区111号土坑、P203



51区111号土坑、P203土層 (P203)

- 1 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を微量含む
- 2 暗褐色土 褐色土塊・ローム粒を少量含む (111坑)
- 3 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 4 暗褐色土 ローム小塊を含む

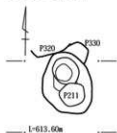
51区112号土坑



51区112号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊を含む

51区113号土坑



51区113号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム大塊を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊を多く含む

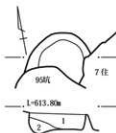
51区114号土坑



51区114号土坑土層

- 1 暗褐色土 ローム粒多く含む
- 2 褐色土 ローム小塊を含む
- 3 明黄褐色土 ローム大塊を含む

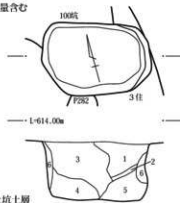
51区115号土坑



51区115号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 2 黒褐色土 ローム小塊を少量含む

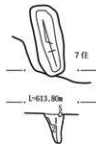
51区116号土坑



51区116号土坑土層

- 1 にぶい黄褐色土 ローム大塊・褐色土塊を多く含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊を多く含む。筋状に堆積
- 3 暗褐色土 ローム小塊を少量含む
- 4 黒褐色土 ローム大塊を少量含む
- 5 褐色土 褐色土塊を多く、ローム塊を少量含む
- 6 褐色土 ローム粒を多く含む。塊状の堆積

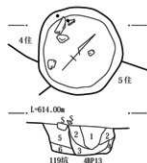
51区117号土坑



51区117号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む
- 2 黄褐色土 ローム小塊を多く含む

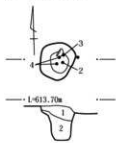
51区119号土坑



51区119号土坑、4住内ビット土層 (4住内ビット)

- 1 黒褐色土 ローム小塊・黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒を多く含む
- 3 黄褐色土 ローム大塊を主体とする
- 4 黒褐色土 ローム粒を少量含む (119坑)
- 5 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 6 暗褐色土 ローム粒を多く含む

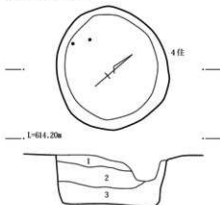
51区120号土坑



51区120号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊を含む

51区121号土坑



51区121号土坑土層

- 1 黄褐色土 ローム塊と黒色土塊を含む
- 2 にぶい黄褐色土 ローム塊と褐色土塊を含む
- 3 暗褐色土 ローム小塊を多く含む



第219図 土坑2 51区(9)

第3章 発見された遺構と遺物

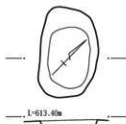
51区122号土坑



51区122号土坑上層

1 黒褐色土 白色粒を微量含む

51区123号土坑



51区123号土坑上層

1 黒褐色土 白色粒を微量含む

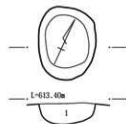
51区124号土坑



51区124号土坑上層

1 暗褐色土 白色粒を少量含む
2 黒褐色土 白色粒を微量含む
3 暗褐色土 ローム粒を微量含む

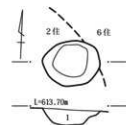
51区125号土坑



51区125号土坑上層

1 黒褐色土 白色粒を少量含む

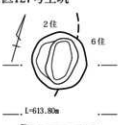
51区126号土坑



51区126号土坑上層

1 黒褐色土 白色粒を少量含む

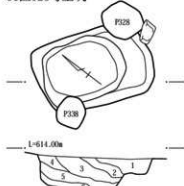
51区127号土坑



51区127号土坑上層

1 黒褐色土 白色粒を微量含む

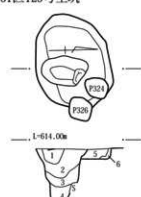
51区128号土坑



51区128号土坑上層

1 暗褐色土 黒褐色土塊・ローム塊を多く含む
2 暗褐色土 ローム粒を含む
3 褐色土 ローム大塊・黄色粒を含む
4 褐色土 ローム粒を含む
5 黄褐色土 褐色土塊・ローム小塊を含む
6 黄褐色土 ローム塊を多く含む

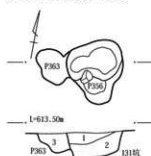
51区129号土坑



51区129号土坑上層

1 黒褐色土 ローム粒を含む
2 暗褐色土 礫・黄色粒を含む
3 褐色土 礫・ローム塊を少量含む
4 褐色土 暗褐色土塊を含む
5 黄褐色土 ローム塊を含む
6 暗褐色土 ローム塊を少量含む

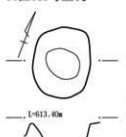
51区131号土坑、P363



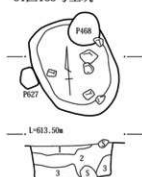
51区131号土坑、P363上層

1 黒褐色土 ローム小塊・黄色粒を少量含む
2 黒褐色土 黄色粒を微量含む
3 暗褐色土 ローム塊を少量含む (P363)

51区135号土坑



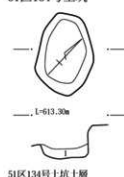
51区133号土坑



51区133号土坑上層

1 黒褐色土 ローム粒・小礫を少量含む
2 暗褐色土 ローム小塊を多く、礫を少量含む
3 黒褐色土 ローム小塊・中礫を少量含む

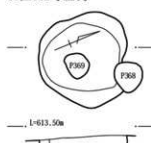
51区134号土坑



51区134号土坑上層

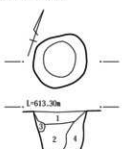
1 暗褐色土 ローム粒・黄色粒を多く含む

51区132号土坑



51区132号土坑上層

1 黒褐色土 ローム塊を少量含む
2 黒褐色土 黄色粒を極微量含む
3 暗褐色土 ローム粒を少量含む
4 暗褐色土 ローム粒を多く含む



51区136号土坑上層

1 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を微量含む
2 黒褐色土 黄色粒を極微量含む
3 暗褐色土 ローム粒を少量含む
4 暗褐色土 ローム粒を多く含む



第220図 土坑2 51区(10)

51区125号土坑(第220図 PL.36)

調査区中央に位置する。単独の検出で135坑・220坑が近接する。黒褐色土中で確認された、不整楕円状の小型土坑である。掘り込みは浅く、皿状の断面形を示す。遺物の出土は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区126号土坑(第220図 PL.36)

調査区北西部の遺構密集地点に位置する。2号住と6号住の重複部分にあり、127坑が南に近接する。ローム漸移層下位で確認された不整形の小型土坑である。掘り込みは浅く皿状を呈す。遺物は出土しておらず、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区127号土坑(第220図 PL.36)

調査区北西部の遺構密集地点に位置する。2号住と6号住の重複部分にあり126坑が北に近接する。ローム漸移層下位で確認された不整形の小型土坑で、浅く断面形は不安定である。出土遺物は無く、埋土の特徴から縄文時代とした。時期は不明である。

51区128号土坑(第220・235図 PL.36・120)

調査区北西部の遺構密集地点北側に位置する。3号住北東に近接し、P328・P338と重複する。新旧は不明である。ローム漸移層下位で確認された不整形を呈する土坑で底面が有段に下がる。掘り込みはしっかりしており、壁も直立気味である。遺物は加曽利EⅢ式体部小破片(128坑1)が出土した。小破片のため土坑時期は特定できない。中期後葉以降の所産としたい。

51区129号土坑(第220・235図 PL.37・120)

調査区北西部の遺構密集地点北側に位置する。128坑が南西に近接し、P324・P326が重複する。新旧は不明である。軟質ローム上面で確認された不整形土坑である。坑底面にビットがあり、おそらく周辺ビット群と同様の性格であろう。土坑壁も不明瞭である。遺物は曾利式体部破片(129坑1)を出土するが、時期を示唆するものではない。土坑時期を中期後葉以降と考えた。

51区131号土坑(第220・235図 PL.37・120)

調査区北側に位置する不整形土坑である。周辺はビットが群在し、本土坑にもP363が重複する。新旧関係は本土坑が切る。ローム漸移層で確認し軟質ローム上面に達す掘り込みで、壁は明瞭に立ち上がる。遺物は加曽利EⅢ式体部小破片(131坑1)が出土するが、土坑時期を示

唆するものではなく、中期後葉以降の所産としたい。

51区132号土坑(第220・235図 PL.37・120)

調査区北側に位置する。251坑と重複するが、本土坑の方が新しい。その他にP368・P369も重なるが新旧は不明である。ローム漸移層で確認した不整形土坑である。掘り込みはしっかりしており、壁は直立する。遺物は加曽利EⅢ式口頸部小破片(132坑1)が出土した。土坑時期は特定できないが、中期後葉以降としたい。

51区133号土坑(第220図 PL.37)

調査区北側に位置する。5号土坑が重複するが、おそらく本土坑の方が古い。その他にP468・P627が重複・近接する。ローム漸移層下位で確認された不整楕円状の土坑である。掘り込みは良好で、壁も直立する。埋土中から底面にかけて小型の自然礫が出土した。時期は不明だが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区134号土坑(第220図)

調査区東部に位置する。周辺は比較的遺構密度が低く、単独の検出となった。ローム漸移層下位で確認された不整楕円状の小型土坑である。掘り込みは良好で壁も直立気味である。遺物は出土しておらず、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区135号土坑(第220・235図 PL.120)

調査区中央に位置する。単独の検出で125坑が西に近接する。比較的遺構密度は低い地点である。黒褐色土中で確認された不整形の小型土坑である。掘り込みはやや浅いが壁は直立気味に立ち上がる。出土遺物は加曽利EⅢ式の体部破片(135坑1・2)、「郷土式」の破片(135坑3)が埋土中より出土している。土坑の時期は中期後葉後半段階に求めたい。

51区136号土坑(第220図 PL.37)

調査区中央北東寄りに位置する。近接する住居跡は無く、158坑・164坑・166坑などが群在する地点である。ローム漸移層下位で確認した。小型の円形土坑で、掘り込みも深く明瞭な壁である。出土遺物は無いが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。平面規模、深さから柱穴の可能性もある。

51区138号土坑(第221・235図 PL.37・121)

調査区北東部に位置する。11・14号住の南東に近接するが単独の検出である。軟質ローム上面で確認した。径90cm前後の整った円形土坑である。掘り込みも良好で壁

は直立し、箱形の断面形を示す。遺物は打製石斧(138坑1)が出土しているが土器は見られず、時期の特定に至らない。中期後葉であろうか。

51区139号土坑(第221図 PL.37)

調査区中央やや北東寄りで、11・14号住南西に近接し、140坑やP433・P598と重複する。また、1号埋設土器が上に乗る重複関係である。140坑との新旧は不明である。軟質ローム上面で確認した不整形の土坑である。掘り込みは良好で壁も直立気味に立ち上がる。箱形の断面形を呈す。出土遺物は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区140号土坑(第221図)

調査区中央やや北東寄りで、139号土坑と重複して調査された。新旧は不明である。軟質ローム上面で確認された不整形土坑である。掘り込みは良好だがやや浅い。出土遺物は見られず、土坑の時期は埋土の特徴から縄文時代と判断した。

51区141号土坑(第221・235図 PL.37・121)

調査区東部に位置する。8号住北西にあたる。周辺は土坑が点在するが単独の検出である。ローム漸移層下位で確認された円形土坑である。やや浅いが掘り込みも良好で箱形の断面形を示す。遺物は曾利式(141坑1・2)や加曾利EⅢ式(141坑3)が出土している。土坑の時期は中期後葉後半段階であろう。

51区142号土坑(第221図 PL.37)

調査区中央やや北東よりに位置する。土坑、ピットが点在する箇所、北西に143坑が近接し、P540・P541が重複する。軟質ローム上面で確認された不整形楕円状の土坑である。掘り込みもしっかりしており、箱形の断面形を示す。出土遺物は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産と判断した。時期は不明である。

51区144号土坑(第221・235図 PL.37・121)

調査区東部で145坑と接して調査された。北に146坑や147坑があるが、遺構密度は高くない。145坑との新旧は不明である。ローム漸移層で確認した不整形楕円状の土坑である。掘り込みはしっかりしており壁も直立する。遺物は黒浜式(144坑1)、五領ヶ台Ⅱ式(144坑2)が出土するが、いずれも細片で流入・混入と思われる。土坑の時期は特定できないが、縄文時代の所産と捉えた。

51区145号土坑(第221図 PL.37)

調査区東部で144坑と接している。ローム漸移層で確認した円形土坑で、掘り込みも良好な箱形の断面形を示す。遺物は出土しておらず、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区146号土坑(第221図 PL.37)

調査区東部で29号住南東に近接する位置にある。周辺には土坑、ピットが群在し、本土坑の北西にはP472が重複する。ローム漸移層で確認した楕円状の土坑である。やや浅く皿状の断面形を示す。出土遺物は無く、埋土の特徴から縄文時代と判断した。

51区147号土坑(第221図 PL.37)

調査区東部の29号住南に近接する位置にある。周辺は土坑、ピットが点在するが本土坑は単独の検出である。また試掘トレンチが東西に跨ぐ。ローム漸移層での検出で、小型円形の平面形を呈す。断面形は箱形を示す。出土遺物は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産と判断した。時期は不明である。

51区148号土坑(第221図 PL.37)

調査区東部に位置し、南側を調査区域外に延ばす楕円状の土坑である。ローム漸移層下位で確認され、掘り込みは浅く皿状を呈す。出土遺物は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区149号土坑(第221図 PL.37)

調査区東部の8号住北西部に重複する。新旧は不明である。軟質ローム上面で確認されたピット状の土坑である。掘り込みは深く80cmを超え、埋土に柱痕を見ることが柱穴として位置付けられよう。しかしながら、周辺に対応するピットも見られず、単独の柱穴となる。出土遺物は無いが、縄文時代の所産である。

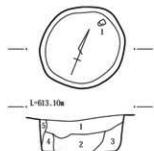
51区151・243号土坑(第222・236図 PL.38・121)

調査区北側に位置する重複土坑2基である。新旧は不明である。周辺には土坑が点在し、152・255坑や249坑が近接する。ローム漸移層で確認した。151坑は不整形形、243坑は不整形形を呈す。掘り込みは両者とも良好で、明瞭に壁が確認できた。出土遺物は少なく、151坑埋土上層より凹石(151坑1)を図示した。両土坑の時期は特定できず、縄文時代とする判断に止まる。

51区152・255号土坑(第222図 PL.38)

調査区北側で調査された重複土坑2基である。同心円状の重複で内縁の152坑が新しい。ローム漸移層で確認

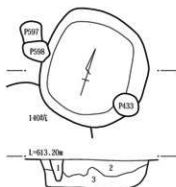
51区138号土坑



51区138号土坑土層

- 1 暗褐色土 ローム粒・黄色粒を多く含む
- 2 にぶい・黄褐色土 ローム大塊からなる
- 3 黒褐色土 ローム小塊・黄色粒を少量含む
- 4 にぶい・黄褐色土 ローム小塊を多く含む
- 5 黄褐色土 ローム塊からなる

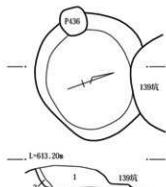
51区139号土坑



51区139号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム粒を微量含む。別遺構埋土
- 2 暗褐色土 ローム大塊・黄色粒を多く含む
- 3 黒褐色土 ローム大塊を含む

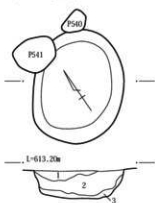
51区140号土坑



51区140号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒・黄色粒を多く含む

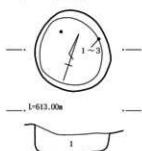
51区142号土坑



51区142号土坑土層

- 1 暗褐色土 ローム小塊を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム塊を多く含む
- 3 黒褐色土 ローム粒を少量含む

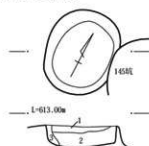
51区141号土坑



51区141号土坑土層

- 1 暗褐色土 ローム粒・黄色粒を多く含む

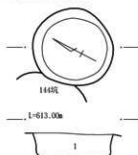
51区144号土坑



51区144号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を含む
- 3 暗褐色土 ローム粒を多く含む

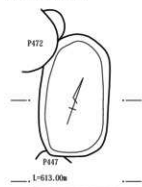
51区145号土坑



51区145号土坑土層

- 1 黒褐色土 黒色土塊・黄色粒を含む

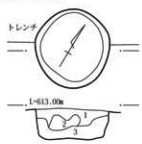
51区146号土坑



51区146号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む

51区147号土坑



51区147号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒・黄色粒を多く含む
- 3 暗褐色土 ローム粒・黄色粒を含む

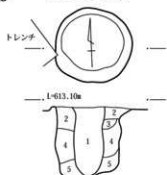
51区148号土坑



51区148号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む

51区149号土坑



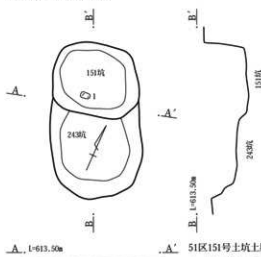
51区149号土坑土層

- 1 黒色土 均質。黄色粒を微量含む
- 2 暗褐色土 ローム塊を多く含む
- 3 黄褐色土 ローム塊からなる
- 4 黒褐色土 ローム小塊を少量含む
- 5 黒褐色土 ローム粒を含む

第221図 土坑2 51区(11)

0 1 : 40 1m

51区151・243号土坑



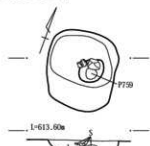
51区152・255号土坑上層
(152坑)

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 2 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む
- 3 暗褐色土 ローム塊を多く含む
- 4 黒褐色土 ローム粒を少量含む

51区151号土坑上層

- 1 黒褐色土 均質。別遺構か
- 2 暗褐色土 ローム大塊を多く含む
- 3 黒褐色土 ローム小塊を含む
- 4 暗褐色土 ローム粒を含む

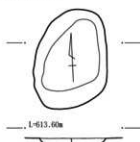
51区154号土坑



51区154号土坑上層

- 1 暗褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む

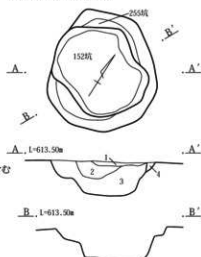
51区155号土坑



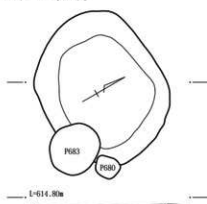
51区155号土坑上層

- 1 暗褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む

51区152・255号土坑



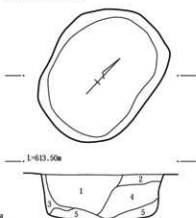
51区157号土坑



51区157号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊を多く含む
- 3 暗褐色土 ローム大塊を多く含む

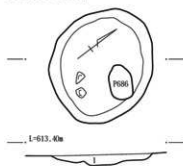
51区160号土坑



51区160号土坑上層

- 1 黒褐色土 均質。黄色粒を微量含む
- 2 黒褐色土 均質。黄色粒を微量含み粘性強い
- 3 黒褐色土 ローム粒を微量含む
- 4 黄褐色土 ローム大塊を多く含む
- 5 暗褐色土 ローム粒を多く含む

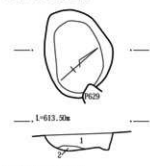
51区158号土坑



51区158号土坑上層

- 1 暗褐色土 ローム粒を少量含む

51区161号土坑



51区161号土坑上層

- 1 暗褐色土 ローム粒を多く含む
- 2 暗褐色土 黒色土塊を少量含む



第222図 土坑2 51区(12)

した。両者とも不整形の土坑である。掘り込みは良好で軟質ローム中位にまで達す。遺物は出土しておらず、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区154号土坑(第222・236図 PL.38・121)

調査区北側端に位置する。P759と重複し、153・242坑や155坑に近接するが遺構密度はやや低い。ローム漸移層下位で確認した不整形の土坑である。掘り込みも浅く皿状の断面形を示す。遺物は自然礫とともに、加曽利EⅡ式体部破片(154坑1)を図示した。土坑の時期は中期後葉中頃以降とした。

51区155号土坑(第222図 PL.38)

調査区北側端に位置する。154坑・156坑が近接するが単独の検出である。ローム漸移層で確認した不整形の土坑である。掘り込みは浅く、皿状の断面形を示す。出土遺物は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区157号土坑(第222図 PL.38)

調査区北側に位置する。P680・P683が重複し、156坑・158坑・237坑が近接する。ローム漸移層で確認した。不整形の土坑で坑底面も凹凸が多い。浅い皿状の断面形を示す。壁もやや不明瞭である。遺物の出土は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区158号土坑(第222図 PL.38)

調査区北側に位置する。周辺は土坑、ピットが点在し、比較的遺構密度は高い。P686が底面に重複し、136坑・157坑・159坑が近接する。ローム漸移層で確認された不整形土坑である。掘り込みは浅く、底面の凹凸も顕著で壁も不明瞭である。遺物の出土は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区160号土坑(第222図)

調査区北側に位置する。周辺は土坑・ピットが点在し、遺構密度の高い箇所である。162坑・235坑・248坑などが近接する。特に248坑とは土坑規模や長軸方位が近く、注意を要する。ローム漸移層を確認面とした楕円状の土坑である。長軸長は約146cmで掘り込みは深く47cmを測る。坑底面もほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる箱状の断面形を示す。遺物の出土は無く、埋土の特徴や周辺土坑の様相から縄文時代の所産と考えた。時期は248坑との関連を踏まえると、後期前葉であろうか。

51区161号土坑(第222図 PL.38)

調査区北側に位置する。周辺は土坑が点在し、160坑

や162坑が近接する。本土坑東壁にはP629が重複する。ローム漸移層で確認された不整形の土坑である。掘り込みは浅く皿状の断面形を示す。遺物は出土しておらず、埋土の特徴で縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区162・163・244号土坑(第223図 PL.38・121)

調査区北側に位置する3基の重複土坑である。周辺には土坑、ピットが点在し、164坑や236坑も重複する。ローム漸移層で確認した。162坑は径約165cmの大型円形土坑、163号土坑は不整形長方形か。244号土坑は不整形を呈す。いずれも掘り込みはしっかりしており、壁も直立気味に立ち上がる。土層の観察では、162坑と244坑の新旧が明確ではない。底面に段差が見られるが、新旧を示唆する要素ではない。また、162坑南壁に立石が出土している。72坑同様に壁際に埋土と同時に埋められたと考えられよう。3基とも出土土器が無く、詳細な時期は判断できない。縄文時代の所産とした。また162坑の立石は墓塚などに伴う儀礼行為による例であろうか。72坑とともに検討を要する。

51区165号土坑(第223図 PL.38)

調査区中央やや北側に位置する。周辺は土坑が点在し、220坑・239坑が近接する。重複する遺構は無く単独の検出である。ローム漸移層で確認した楕円状を呈する大型土坑である。掘り込みも60cmを超え硬質ロームにまで達するように深い。形態・深さから中世～近世の陥穴状土坑の可能性もあるが、縄文時代の土坑と考えた。遺物の出土は無く、詳細な時期には至らない。

51区167号土坑(第223・236図 PL.38・121)

調査区北東部のやや傾斜の強い地点にある。11・14号住の東に位置する。周辺は土坑、ピットが点在し、173坑・174坑が近接する。軟質ローム上面で確認された不整形の小型土坑である。掘り込みはしっかりしており、壁も直立する。遺物は加曽利EⅢ式鉢口頸部破片(167坑1)が出土している。土坑の時期は中期後葉後半以降と考えた。

51区168号土坑(第223図 PL.38)

調査区北東端に位置する。9号住・10号住の東に近接し、170坑・175坑と重複する。新旧は不明である。ローム漸移層下位で確認された不整形の土坑で、掘り込みも良好で壁も明確に立ち上がる。出土遺物は無く、埋土の

特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区169号土坑(第223図 PL.38)

調査区北東端に位置する。西に168坑が近接し、東には近世土坑群の185～189坑がある。ローム漸移層下位で確認された楕円状の集石土坑である。集石は小型の角礫を主体として上層より坑底面にまで出土が見られた。土器の出土が無いため、時期は確定できないが、埋土の特徴から縄文時代とした。周辺の近世土坑との関連もあり検討を要するだろう。

51区173号土坑(第223・236図 PL.38・121)

調査区北東部のやや傾斜の強い地点にある。南壁にP519が重複し、北には167坑・174坑が近接する。ローム漸移層下位で確認された不整形土坑で、掘り込みは極めて深く、底面は硬質ロームにまで及び、約90cmを測る。遺物は「郷土式」体部破片(173坑1)が出土するが細片で、時期の特定には至らない。中期後葉以降の所産として止めたい。

51区174号土坑(第223・236図 PL.39・121)

調査区北東部のやや傾斜の強い地点で調査された。南に173坑が近接するが単独の検出である。ローム漸移層下位で確認された不整形土坑で、袋状の断面形を示す。掘り込みはしっかりしており、壁も湾曲気味に立ち上がる。遺物は中期中葉末に比定される2点(174坑1・2)と定角式の磨製石斧(174坑3)が出土した。土坑の時期は中期中葉末に求めたい。

51区175号土坑(第223図)

調査区北東端に位置する。北側に168坑が重複し、南側を調査区域外に延ばす。ローム漸移層下位で確認された不整形土坑である。掘り込みは良好で壁も直立した箱形の断面形を示す。出土遺物は無いが、土坑形状、規模から縄文時代の所産とした。

51区176号土坑(第223図)

調査区北東部に位置する。周辺は遺構密度がやや低く、南東に182坑が近接する程度である。単独の検出である。ローム漸移層下位で確認された小型の円形土坑である。整った平面形で掘り込みも深く、箱形の断面形を示す。出土遺物は見られなかったが、土坑形状、規模から縄文時代の所産とした。

51区177号土坑(第223図 PL.39)

調査区北東端に位置する。北西に中世～近世に比定さ

れる大型の150坑が接する。南東には36号焼土が近接する。ローム漸移層下位で確認された円形土坑である。整った平面形で、掘り込みも深く箱形の断面形を示す。遺物は出土していないが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。また、近接する36号焼土からは「郷土式」の浅鉢が出土しており、位置・形態に共通性のある本土坑との関連性も考えなければならない。

51区181号土坑(第224図)

調査区中央やや北東寄りの11・14号住南に近接し、191坑と重複する。新旧関係は不明である。ローム漸移層下位で確認された不整形楕円状の土坑である。掘り込みは比較的しっかりしており、やや袋状の断面形を示す。遺物は出土していないが、形状、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区182号土坑(第224・236図 PL.39・121)

調査区北東部に位置する。単独の検出で、141坑・176坑が近接する。ローム漸移層下位で確認された円形の小型土坑である。掘り込みは深く78cmを測る。断面形状は柱穴状といえよう。出土遺物は「郷土式」体部破片(182坑1)が出土している。土坑の時期は中期後葉後半段階以降におきたい。

51区191号土坑(第224図 PL.39)

調査区中央やや北東寄りの11・14号住南に近接し、181坑、P514・P553と重複する。新旧は不明である。ローム漸移層下位で確認された円形土坑である。掘り込みは深く約51cmを測り箱形の断面形を示す。出土遺物は見られなかったが、形状・規模などから縄文時代の所産とした。

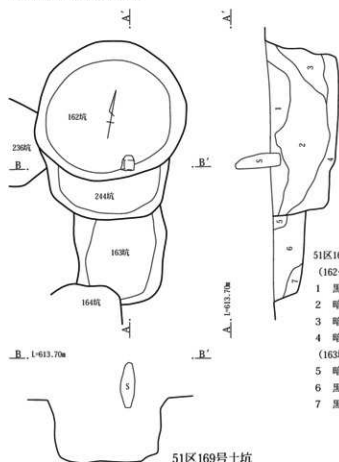
51区192号土坑(第224・236図 PL.39・121)

調査区中央南西部の52区との境で、20号住に先行して調査された。20号住を切る新旧関係である。黒褐色土を確認面とし、上層より遺物が集中して出土したため土坑として位置付けた。楕円状の小型土坑で、断面形は箱形を呈す。出土遺物は土器片3点を図示した。諸磯b式(192坑1)、勝坂1式(192坑2)、加曾利EⅡ式(192坑3)と時間幅が著しい様相である。土坑時期も確定できず、周辺の近世～近代土坑との関連も想定されるため、縄文時代の所産としても疑問が残る。

51区193号土坑(第224・236図 PL.39・121)

調査区中央やや北東寄りで、11・14号住西壁に重複した位置にある。新旧は不明だが、おそらく11・14号住に

51区162・244・163号土坑



51区162・244・163号土坑土層

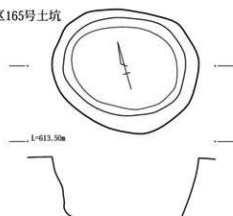
(162・244坑)

- 1 黒褐色土 白色粒を微量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む
- 3 暗褐色土 ローム小塊を少量含む
- 4 暗褐色土 ローム小塊を多く含む

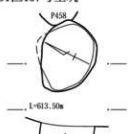
(163坑)

- 5 暗褐色土 ローム大塊を含む
- 6 黒褐色土 ローム粒を少量含む
- 7 黒褐色土 ローム大塊を多く含む

51区165号土坑



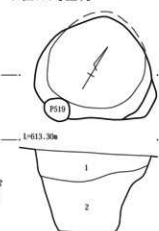
51区167号土坑



51区167号土坑土層

- 1 黒褐色土 褐色土塊・ローム塊を多く含む

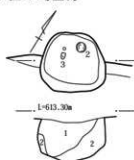
51区173号土坑



51区173号土坑土層

- 1 黄褐色土 褐色土塊を含む
- 2 黄褐色土 ローム塊を主体とする

51区174号土坑



51区174号土坑土層

- 1 暗褐色土 ローム粒を少量含む
- 2 黒褐色土 ローム塊を含む

51区177号土坑

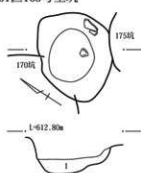


51区177号土坑土層

- 1 褐色土 黒褐色土塊と黄褐色土塊との混土
- 2 暗褐色土 ローム粒を少量含む
- 3 暗褐色土 ローム小塊を少量含む

0 1 : 40 1m

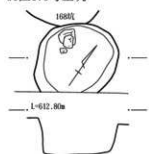
51区168号土坑



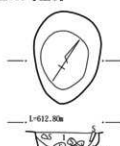
51区168号土坑土層

- 1 暗褐色土 ローム粒・小塊を含む

51区175号土坑



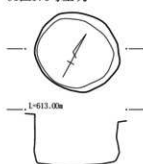
51区169号土坑



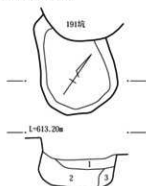
51区169号土坑土層

- 1 暗褐色土 ローム粒・礫を多く含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊を少量含む

51区176号土坑



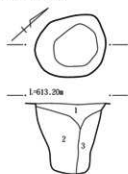
51区181号土坑



51区181号土坑土層

- 1 黄褐色土 ローム大塊を多く含む
- 2 黒褐色土 ローム小塊を多く含む
- 3 黄褐色土 ローム大塊を主体とする

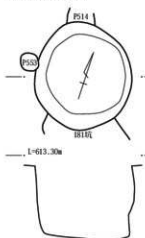
51区182号土坑



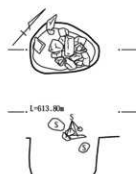
51区182号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 褐色土塊・黄色粒を含む
- 3 暗褐色土 褐色土大塊を多く含む

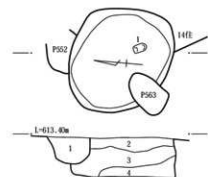
51区191号土坑



51区192号土坑



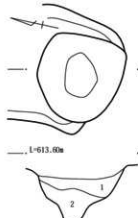
51区193号土坑、P552



51区193号土坑、P552土層

- 1 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を含む (P552)
- 2 黒褐色土 ローム小塊・黄色粒を少量含む (193坑)
- 3 黒褐色土 ローム大塊を多く含む
- 4 黒色土 ローム粒を少量含む

51区194号土坑



51区194号土坑土層

- 1 黄褐色土 暗褐色土小塊を含む
- 2 黄褐色土 ローム塊を主体とする

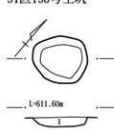
51区195号土坑



51区195号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む

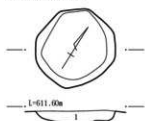
51区196号土坑



51区196号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む

51区197号土坑



51区197号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む

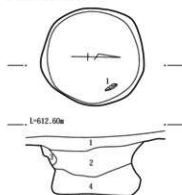
51区198号土坑



51区198号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む

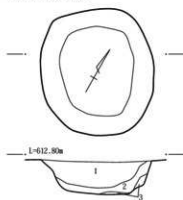
51区203号土坑



51区203号土坑土層

- 1 黒色土 軟質、白色粒を微量含む
- 2 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む
- 3 黒褐色土 塊状の堆積。ローム小塊を含む
- 4 黒褐色土 ローム塊を多く含む

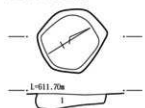
51区204号土坑



51区204号土坑土層

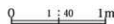
- 1 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊を少量含む
- 3 黄褐色土 ローム塊

51区199号土坑



51区199号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む



第224図 土坑2 51区(14)

切られる重複と思われる。また、P552・P563にも切られる新旧関係である。ローム漸移層で確認された。不整楕円状の平面形を呈し、掘り込みも良好な箱形の断面形を示す。遺物は凹石を1点図示した。埋土上層の出土である。土坑の時期は出土遺物と埋土から縄文時代の所産とした。

51区194号土坑(第224・236図 PL.39・121)

調査区北東部の61区との境に位置する。61区14号住南東に近接し、浅い不整形土坑と重複する。軟質ローム上面で確認された不整形土坑である。掘り込みもやや不安定である。遺物は中期中葉末に比定される口縁部破片を図示したが、土坑の時期を反映するものではない。埋土の特徴や出土土器から、縄文時代の所産としたが、時期は不明である。

51区195号土坑(第224図 PL.39)

調査区南東端に位置する。単独の検出で、196～199坑が近接する。黒褐色土下層で確認した不整楕円状の土坑で、浅く皿状の断面形を示す。出土遺物もなく、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区196号土坑(第224図 PL.39)

調査区南東端に位置する。単独の検出で、195坑・197～199坑が近接する。黒褐色土下層で確認した不整楕円状の土坑で、浅く皿状の断面形を示す。出土遺物もなく、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明。

51区197号土坑(第224図 PL.39)

調査区南東端に位置する。単独の検出で、195坑・196坑・198坑・199坑が近接する。黒褐色土下層で確認した不整楕円状の土坑で、浅く皿状の断面形を示す。出土遺物もなく、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明。

51区198号土坑(第224図 PL.39)

調査区南東端に位置する。単独の検出で、195坑・196坑・197坑・199坑が近接する。黒褐色土下層で確認した不整楕円状の土坑で、浅く皿状の断面形を示す。出土遺物もなく、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明。

51区199号土坑(第224図 PL.39)

調査区南東端に位置する。単独の検出で、195～198坑が近接する。黒褐色土下層で確認した不整楕円状の土坑で、浅く皿状の断面形を示す。出土遺物もなく、埋土

の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区203号土坑(第224・236図 PL.39・121)

調査区南東端に位置する。単独の検出で15号住北に近接する。黒褐色土下層で確認した径約110cmの円形土坑である。掘り込みは深く軟質ロームまで達し、袋状の断面形を示す。遺物は、埋土上層より定角式の磨製石斧(203坑1)が出土している。土坑の時期は出土土器が見られないため不明だが、磨製石斧の特徴から縄文時代中期以降と考えられよう。

51区204号土坑(第224図 PL.40)

調査区東部に位置する。距離を置くが、13号住と29号住の間にある。単独の検出である。ローム漸移層下位で確認された不整楕円状の大型土坑である。断面形は皿状を呈すが、掘り込みはしっかりし、壁も明瞭である。出土遺物は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区205・206土坑(第225図 PL.40)

調査区東部にある。北東部を調査区域外に延ばす2基の重複土坑である。205坑が新しい。長楕円状の平面形を呈し、掘り込みも浅く、壁の立ち上がりも緩やかである。出土遺物は無く、埋土の特徴から縄文時代としたが、確定性に乏しい。

51区207～209号土坑(第225・236図 PL.40・121)

調査区中央に位置する13号住北東で重複する3基の土坑である。208坑が207坑と209坑に切られる新旧関係である。3基とも径150cm前後の大型円形土坑で、ローム漸移層で確認された。209坑がやや浅いが、壁は明瞭に立ち上がる。遺物は207坑で石鏃(207坑1)、208坑で加曾利EⅢ式破片3点(208坑1～3)が出土している。土坑の時期は208坑が中期中葉後半段階に比定されるため、207坑と209坑はそれ以降の所産となる。

51区210号土坑(第225図 PL.40)

調査区中央の13号住東に近接する。204坑・207～209坑・240坑が近接するが、単独の検出である。ローム漸移層で確認された浅い皿状の断面形を示す円形土坑である。出土遺物は無く、時期は不明だが埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区211号土坑(第225図 PL.40)

調査区北側に位置する。61区との境界に接して調査された。中世～近世に比定される16号土坑に切られる。ロー

ム漸移層下位で確認された不整形円形を呈する土坑である。掘り込みはやや浅いが壁は明瞭で、皿状の断面形を示す。出土遺物は無く時期は不明である。埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区212号土坑(第225図 PL.40)

調査区南東部に位置する。近接遺構も無く、単独の検出である。黒褐色土で確認された小型の円形土坑である。やや浅いが壁は明瞭で、しっかりしていた。出土遺物は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区213号土坑(第225図 PL.40)

調査区中央やや北西寄りに位置する。216坑と重複して調査された。216坑が新しい。上層調査で得られた2坑が北西に近接する。ローム漸移層下位で確認された不整形円形を呈する。掘り込みはやや緩やかに皿状の断面形を示すが、壁は明瞭である。出土遺物は見られず、埋土の特徴や216坑との重複から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区214号土坑(第225図 PL.40)

調査区中央に位置する13号住北西に重複する。13号住が本土坑に乗る新田である。ローム漸移層で確認された径180cmの大型円形土坑である。掘り込みもしっかりしており、箱形の断面形を示す。出土遺物は無く、時期は不明だが、埋土の特徴と13号住との新旧により、後期以前の所産と考えられる。

51区216号土坑(第226・236図 PL.40・121)

調査区中央やや北西寄りに位置する。213坑と重複して調査された。本土坑が新しい。ローム漸移層で確認された大型の不整形円形土坑である。掘り込みも良好で箱形の断面形を呈す。出土遺物としては、大型磨石(216坑1)が213坑重複部上層で出土している。213坑との粉属判断は、調査時に磨石下位の土層観察で判断した。磨石は横位で出土したが、立石の可能性も考えておきたい。土坑の詳細な時期は不明だが、おそらく中期後葉と考える。

51区217号土坑(第226図 PL.40)

調査区中央やや北東寄りに位置する。上層で調査された、6坑下位にあたる。軟質ローム上面で調査された楕円状の土坑である。掘り込みも良好で、壁の立ち上がりも明瞭である。埋土中位～下位にかけて小型の自然礫が土坑中央から東壁でまとまる。出土遺物は無く、時期は不明だが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区218号土坑(第226図 PL.40)

調査区中央に位置する13号住北に位置する。P712が重複し、225坑・231坑が西に近接する。ローム漸移層で確認された不整形円形を呈する土坑である。皿状の断面形を示すが、壁は良好に立ち上がる。遺物の出土は無く、時期は不明だが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区219号土坑(第226図 PL.40)

調査区南東部に位置する。単独の検出で北東に15号住が近接する。遺構密度は低い。ローム漸移層で確認された不整形楕円状の小型土坑である。掘り込みは深く南側へ強くオーバーハングする。出土遺物は見られないが埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区220号土坑(第226・237図 PL.40・121)

調査区中央やや西寄りに位置する。124坑に切られる重複関係を示す。ローム漸移層上層で確認された大型円形土坑である。深さも約60cmを測り、しっかりした掘り込みである。大型円礫2石が北壁際と土坑中央やや南寄りから出土していた。いずれも埋土下位である。出土土器として前期初頭に比定される土器片3点(220坑1～3)を図示した。おそらく土坑時期を表す例であろう。

51区221号土坑(第226図 PL.41)

調査区南東部に位置する。遺構密度の低い地点で単独の検出で重複・近接遺構は無い。ローム漸移層下位で確認された円形土坑である。掘り込みはしっかりしており、壁も良好である。遺物の出土は無く、埋土下位より自然礫数点の出土を見るのみである。埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

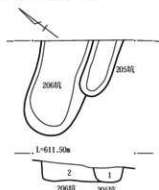
51区222号土坑(第226図 PL.41)

調査区南東部に位置する。遺構密度の低い地点で単独の検出で重複・近接遺構は無い。ローム漸移層下位で確認された小型円形土坑である。掘り込みはしっかりしており、壁も直立気味に立ち上がる。遺物の出土は無く、時期は不明である。埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区223・234号土坑(第226図)

調査区中央やや北寄りに位置する。ローム漸移層下位で確認された近接する2基の土坑である。234坑にはP681が重複する。223坑は小型の楕円状を呈し、浅い皿状の断面形を示す。234坑は小型円形土坑で、浅く皿状の断面形を呈す。両土坑とも遺物の出土は無く、埋土の

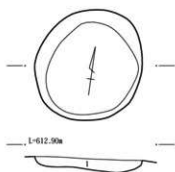
51区205・206号土坑



51区205・206号土坑上層

- 1 暗褐色土 ローム粒・黄色粒を多く含む
- 2 黒褐色土 黄色粒を極微量含む

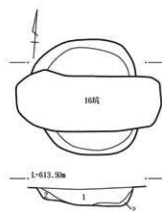
51区210号土坑



51区210号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む

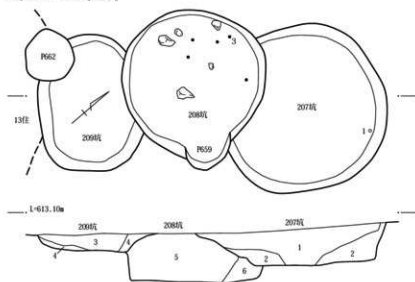
51区211号土坑



51区211号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊を少量含む

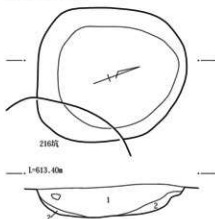
51区207～209号土坑



51区207～209号土坑上層

- (207坑)
- 1 黒褐色土 黄色粒を多く含む
- 2 暗褐色土 ローム塊を含む
- (209坑)
- 3 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 4 暗褐色土 ローム小塊を多く含む
- (208坑)
- 5 黄褐色土 ローム塊・黄色粒を多く含む
- 6 黄褐色土 ローム粒を多く含む

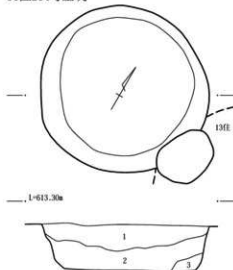
51区213号土坑



51区213号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 黒褐色土 ローム小塊を微量含む

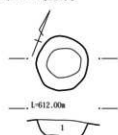
51区214号土坑



51区214号土坑上層

- 1 黒褐色土 ローム大塊を少量含む
- 2 黒褐色土 ローム小塊を含む
- 3 暗褐色土 ローム塊を主とする

51区212号土坑



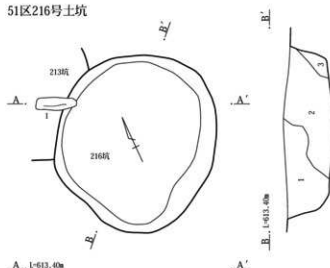
51区212号土坑上層

- 1 暗褐色土 黄色粒を多く含む



第225図 土坑 2 51区(15)

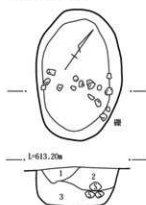
51区216号土坑



51区216号土坑上層

- 1 黒色土 黄色粒を少量含む
- 2 黒褐色土 ローム大塊を多く含む
- 3 暗褐色土 ローム小塊を含む

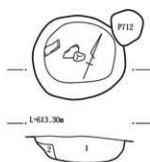
51区217号土坑



51区217号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊を多く含む
- 3 黒褐色土 ローム粒を少量含む

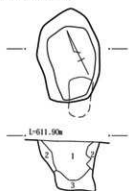
51区218号土坑



51区218号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒を含む

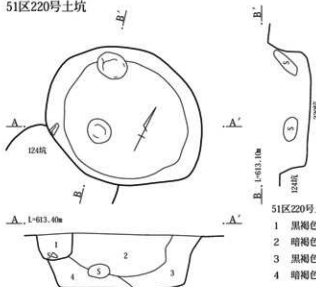
51区219号土坑



51区219号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒を多く含む
- 3 黒褐色土 均質

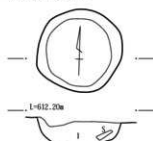
51区220号土坑



51区220号土坑上層

- 1 黒褐色土 白色粒を微量含む。124坑埋土か
- 2 暗褐色土 ローム塊を多く含む
- 3 黒褐色土 ローム塊を少量含む
- 4 暗褐色土 ローム小塊を少量含む

51区221号土坑



51区221号土坑上層

- 1 暗褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む

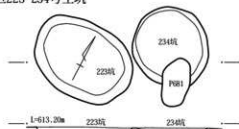
51区222号土坑



51区222号土坑上層

- 1 黒色土 軟質
- 2 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を微量含む
- 3 暗褐色土 ローム粒を少量含む

51区223・234号土坑



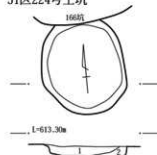
51区223号土坑上層

- 1 褐色土 ローム塊を少量含む

51区234号土坑上層

- 1 黒褐色土 白色粒を微量含む

51区224号土坑



51区224号土坑上層

- 1 褐色土 白色粒を微量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒を少量含む



第226図 土坑2 51区(16)

特徴から縄文時代の所産とした。

51区224号土坑(第226図 PL.41)

調査区中央やや北寄りに位置する。166坑と重複する。新旧は不明である。軟質ローム上層で確認された不整楕円状の土坑である。掘り込みは浅く、皿状の断面を示す。壁は明瞭である。遺物は出土せず、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区225・231号土坑(第227図 PL.41)

調査区中央やや北西寄りに位置する重複する2基の土坑である。新旧は225坑が新しいが、225坑が多くを占める重複のため、平・断面図とも、両土坑とも一体化した形態で図示した。ローム漸移層下位で確認された。225坑平面形は不整楕円状を推定する。231坑の平面形は不明であるが両土坑とも掘り込みはしっかりしていた。遺物は出土しておらず、埋土の特徴から、縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区228号土坑(第227図 PL.41)

調査区中央の13号住西に近接する。重複遺構は無く単独の検出である。ローム漸移層中層で確認された不整円形土坑である。浅く、皿状の断面形を示すが壁は明瞭である。出土遺物は無く時期は不明だが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区229・232号土坑(第227図 PL.41)

調査区中央やや西りに位置する。重複土坑2基である。229坑が新しい重複を土層観察で得た。228坑が東に近接する。ローム漸移層で確認された。229坑がビット状、232坑が円形の土坑である。両土坑とも掘り込みはしっかりしており、壁も良好である。229坑は柱穴の可能性もある。遺物の出土は無く、埋土の特徴から縄文時代とした。

51区233号土坑(第227図)

調査区北側に位置する。215坑と重複し、171坑と近接する。215坑とは新旧は確定しないが、土層の様相は215坑より新しい。ローム漸移層下位で確認された不整楕円形土坑である。掘り込みはしっかりしており、明瞭な壁を検出した。遺物の出土は無く、埋土の特徴から縄文時代と考えたが、あるいは中世～近世の可能性もある。

51区235・236号土坑(第227図 PL.41)

調査区北側に位置する2基の重複土坑である。ローム漸移層で確認された。周辺には土坑、ビットが群在し、

236坑には162坑も重複する。土層の観察では236坑が235坑を切る。235坑はビット状で236坑は浅い楕円状を呈す。両土坑とも遺物を出土しておらず、時期は不明だが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区237号土坑(第227図)

調査区北側に位置する。周辺は土坑、ビットが群在し、157坑・160坑が近接するが単独の検出である。ローム漸移層下位で確認した不整楕円状の土坑である。掘り込みは深い、坑底面は不安定で凹凸が多い。出土遺物は無く土層の記録もないため、時期は不確定だが、周辺土坑との関連も考え、縄文時代の所産と考えた。

51区238号土坑(第227・237図 PL.41・121)

調査区中央やや南西寄りに位置する。19号住と252坑と重複する。土層では252坑を切る新旧だが、重複部分が少なく確定性に乏しい。19号住は出土遺物から、本土坑が古いと考えた。ローム漸移層で確認された円形土坑である。掘り込みもしっかりしており、下位は袋状を呈す断面形である。遺物は上層より大木7b式同一個体破片2点(238坑1・2)を出土する。土坑の時期は中期前葉～中葉としたい。

51区240号土坑(第227図 PL.41)

調査区中央に位置する13号住南東に近接する。210坑・241坑・245坑が近接するが、単独の検出である。ローム漸移層下位で確認された不整形土坑である。掘り込みも浅く、坑底面は凹凸が多い。壁も不明瞭である。出土遺物は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区245号土坑(第227図)

調査区中央に位置する13号住南東に近接する。240坑が西に近接するが、南側へは近接遺構を見ない。単独の検出である。ローム漸移層で確認された不整形土坑である。浅く坑底面も凹凸が多い。壁も不明瞭である。遺物の出土も見られず時期は不明だが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区246号土坑(第227図 PL.41)

調査区中央南寄りに位置する。西側に118坑が重複し、東側には122～124坑が近接する。118坑との新旧は不明である。ローム漸移層で確認された不整楕円状の土坑である。掘り込みも弱い印象で、立ち上がりも不明瞭である。遺物の出土は無く、埋土の特徴から縄文時代とした。時期は不明である。

51K区247号土坑(第228・237図 PL.41・121)

調査区北側に位置する。周辺は土坑・ピットが群在し、160坑・161坑・248坑・P719が近接する。また、上層調査では1坑が上位に乗る。ローム漸移層下位で確認された楕円状の小型土坑である。掘り込みは深く、約55cmを測り箱形の断面形を示す。出土遺物は上層より自然礫と伴にミニチュア土器口縁部破片(247坑1)、凹石(247坑2)が出土している。1は無文で詳細な時期は不明であるが、おそらく中期後葉に比定されよう。

51K区248号土坑(第228・237図 PL.41・121)

調査区北側に位置し、北側を調査区域際線に延ばす。160坑・247坑が近接し、P752・P753・P760が重複する。ローム漸移層下位で確認された楕円状の土坑である。長軸長約160cm、深さ約66cmを測り、掘り込みはしっかりした箱形の断面形を示す。出土遺物は、細片ながら堀之内2式の深鉢破片2点(248坑1・2)を図示した。土坑の時期は後期前葉以降におきたい。

51K区249号土坑(第228図 PL.41)

調査区中央やや北西寄りに位置する。周辺は土坑が点在する箇所、165坑・239坑・243坑が近接し、9号集石が北西端で重複する。また上層では11坑が重なる。ローム漸移層下位で確認された不整楕円状の小型土坑である。やや浅く皿状の断面形を呈すが壁は顕著に検出された。出土遺物は無く時期は不明だが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51K区250号土坑(第228・237図 PL.41・122)

調査区中央に位置する13号住南西に重複する。13号住調査後の検出で、西にある228坑・238坑と同時に調査された。ローム漸移層下位で確認された不整長方形土坑である。深さ約18cmと浅く、壁は明瞭に把握できた。出土遺物は埋土土であるが、黒浜式体部破片(250坑1)を図示した。土坑の時期は前期中葉以降に求めたい。

51K区251号土坑(第228・237図 PL.41)

調査区北側で調査された。周辺は土坑、ピットが群在し、本土坑東には132坑が重複する。おそらく132坑が新しい。また、上層調査で5坑が重なっている。ローム漸移層下位で確認された不整形を呈する土坑である。掘り込みは深く、壁も直立気味で箱形の断面形を呈す。出土遺物としては、諸磯a式初期段階の深鉢体部破片(251坑1)を見る。また、東壁際の坑底面にベンガラが小範

間でまとまっていた。土坑の時期は前期後葉前半段階以降に求めたい。

51K区252号土坑(第228図 PL.42)

調査区中央やや南西寄りに位置する19号住床面下で調査された。238坑・P736・P748と重複するが、新旧は不明である。また分割調査された地点で、南半調査では本土坑を検出していない。ローム漸移層下位で確認された軸長200cm近い大型土坑である。おそらく楕円状の平面形であろう。掘り込みはしっかりしており、壁も明瞭である。遺物は東壁際で自然石数点と無文の土器細片が出土した。土器片の図示は適わなかったが、中期後葉に比定されよう。土坑の時期も出土土器に従いたい。

51K区254号土坑(第228・237図 PL.42・122)

調査区中央南西部に位置する23号住と17号住の間で調査された。単独の検出である。ローム漸移層上層の暗褐色土で確認された不整楕円状の土坑である。掘り込みはしっかりしており箱形の断面形を示す。出土遺物は、加曾利EⅡ式体部破片2点(254坑1・2)を図示した。土坑の時期も出土土器から中期後葉中頃に置きたい。

51K区258号土坑(第228図 PL.42)

調査区中央やや北東寄りに位置する。215坑と重複する。新旧は不明である。ローム漸移層で確認された浅い不整楕円状の土坑である。壁も明瞭ではなく、底面の凹凸も強い。出土遺物も無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

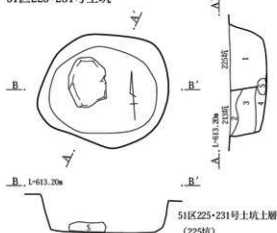
51K区259号土坑(第228・237図 PL.42・122)

調査区南東部に位置する。周辺の遺構密度は低く、中世～近世に比定される257坑が東に近接する。単独の検出である。黒褐色土を確認面とする径110cm前後の円形土坑である。整った平面形を呈し、掘り込みも良好で断面形は箱形を示す。埋土中より人骨片が出土している。焼骨で遺存度は良くなかった。遺物は埋土下位より出土した土器片4点を図示した。259坑1・3・4は堀之内2式である。2はあるいは中期後葉の例か。土坑の時期は、出土土器の様相から後期前葉に求めたい。

51K区260号土坑(第228・237図 PL.42・122)

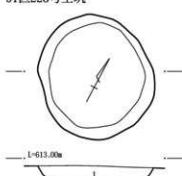
調査区南東部に位置する。南西に24号住、北西に269坑が近接するが、遺構密度は比較的低い。ローム漸移層上層で確認した不整形土坑である。軸長約187cmを測り、深さ約40cmを測るしっかりした掘り込みを呈す。坑

51区225・231号土坑

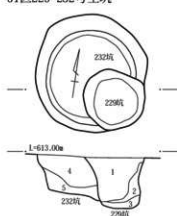
51区225・231号土坑土層
(225坑)

- 1 黒褐色土 ローム粒を微量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒を少量含む
- 3 褐色土 ローム大塊を多く含む
- 4 黄褐色土 ローム塊を主とする

51区228号土坑

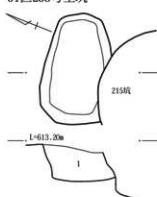
51区228号土坑土層
1 黒褐色土 黄色粒を少量含む

51区229・232号土坑

51区229・232号土坑土層
(229坑)

- 1 黒色土 黄色粒を微量含む
- 2 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む
- 3 黒褐色土 ローム小塊を少量含む
- 4 黒色土 均質
- 5 黒褐色土 ローム粒を少量含む

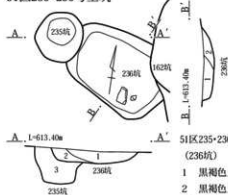
51区233号土坑



51区233号土坑土層

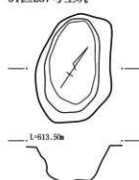
- 1 黒褐色土 褐色土塊を多く含む

51区235・236号土坑

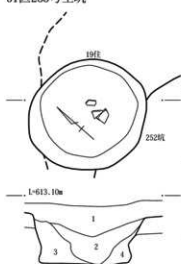
51区235・236号土坑土層
(236坑)

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 黒褐色土 ローム塊を少量含む
- 3 黒褐色土 ローム小塊を多く含む

51区237号土坑



51区238号土坑



51区238号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 黒色土 黄色粒を微量含む
- 3 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 4 黒褐色土 ローム塊を少量含む

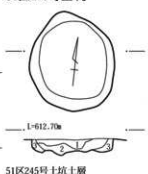
51区240号土坑



51区240号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム塊を含む

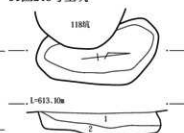
51区245号土坑



51区245号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム塊を含む
- 3 暗褐色土 ローム小塊を多く含む

51区246号土坑



51区246号土坑土層

- 1 暗褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む
- 2 暗黄褐色土 ローム塊を主とする

0 1:40 1m

第227図 土坑2 51区(17)

第3章 発見された遺構と遺物

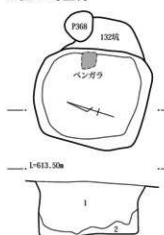
51区247号土坑



51区247号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を含む
- 2 暗黄褐色土 ローム塊を含む

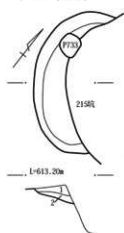
51区251号土坑



51区251号土坑土層

- 1 暗褐色土 ローム大塊を多く含む
- 2 黒褐色土 ローム小塊を少量含む

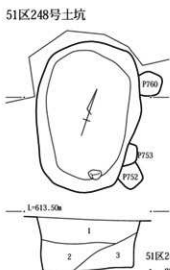
51区258号土坑



51区258号土坑土層

- 1 黒褐色土 白色粒を微量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒を少量含む

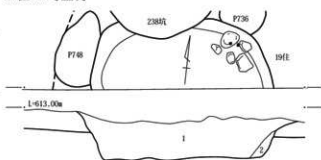
51区248号土坑



51区248号土坑土層

- 1 暗褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 黒褐色土塊・ローム塊を少量含む
- 3 暗黄褐色土 ローム塊を主とする

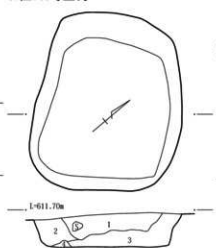
51区252号土坑



51区252号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム小塊を少量含む
- 2 黒褐色土 ローム粒を多く含む

51区260号土坑



51区260号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム塊・黄色粒を少量含む
- 3 暗褐色土 ローム小塊・黄色粒を多く含む
- 4 黄褐色土 ローム塊を主とする

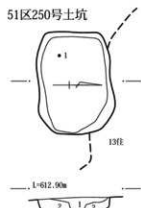
51区249号土坑



51区249号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む

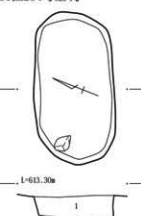
51区250号土坑



51区250号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 黒褐色土 ローム小塊・炭化物を少量含む

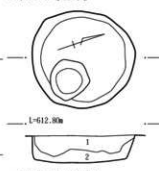
51区254号土坑



51区254号土坑土層

- 1 黒色土 ローム粒・黄色粒を少量含む

51区262号土坑



51区262号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒・黄色粒を多く含む



第228図 土坑2 51区(18)

底面はほぼ平坦面を築く。遺物は自然石と伴に多孔石(260坑1)が出土している。土器片の出土を見ないため、時期は判断としないが、埋土の特徴も併せて縄文時代の所産とした。

51区262号土坑(第228・237図 PL.42・122)

調査区中央南西部に位置する。西に16号住が近接し、263坑・266坑・275坑などが存在する。ローム漸移層で確認された径105cm前後の円形土坑である。整った平面形を呈し、掘り込みも良好で箱形の断面形を示す。坑底面も平坦面を築く。遺物は埋土中より、勝坂1式に比定される小型器種破片(262坑1)が出土している。壺であろうか。土坑の時期としては、出土土器から中期中葉を充てたい。

51区263号土坑(第229図 PL.42)

調査区中央南西部に位置する。西に16号住が近接し、262坑・266坑・275坑などが存在する。ローム漸移層で確認された不整形円形土坑である。掘り込みはしっかりしており箱形の断面形を示す。埋土中層より、大型の円礫を出土する。使用痕跡が無いため石器ではないが、意図的な埋置と捉えられよう。土器の出土は無く時期は不明だが、土坑形状、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区264号土坑(第229図 PL.42)

調査区中央南西部の52区との境で、南に20号住が近接する位置にある。周辺に291坑などが点在するが、単独の検出である。ローム漸移層下位で確認された円形土坑である。整った平面形で径91cm前後を測る。深さも50cmで硬質ローム面にまで達す。直立気味の壁で、箱形の断面形状を示す。出土遺物は無く、埋土下位より自然礫を見るが意図的な埋置とは捉え難い。土坑の時期は形状・埋土の特徴から、縄文時代の所産と考えた。

51区265号土坑(第229・237図 PL.42・122)

調査区中央南西部に位置する28号住南に近接する。北側には住居跡・土坑などが密集する。本土坑には320坑が北東に接する。ローム漸移層下位で確認された不整形円形土坑である。掘り込みも良好で箱形の断面形状を示す。遺物は「焼町類型」(265坑1)、勝坂3式(265坑2・3)、石礫(265坑4)を図示した。いずれも埋土中位～下位出土である。また、大型自然礫が埋土下位より出土している。あるいは埋置の可能性もある。土坑の時期は出土土器から中期中葉末に求めたい。

51区266号土坑(第229・237図 PL.42・122)

調査区中央南西部に位置する。西に16号住が近接し、262坑・263坑・275坑などが存在する。ローム漸移層で確認された不整形円形土坑である。掘り込みも良好で軟質ローム中層にまで達する。遺物は埋土中より、「新巻類型」(266坑1)、打製石斧(266坑2)が出土している。土坑の時期は出土土器が1点のため、中期中葉以降に求めたい。

51区268号土坑(第229・238図 PL.42・122)

調査区南東部に位置する。周辺の遺構密度は低く、北に267坑、南に269坑が点在する。分割調査された箇所、東半を把握できなかった土坑である。黒褐色土で確認され、掘り込みはやや浅く壁も明瞭ではない。遺物も埋土中より自然礫を伴った出土状態を示すが、時間幅が観察される。268坑1は「郷土式」、2は弥生時代前期か?、3は加曾利B1式である。石礫(4)、巖石(5)も伴出するが、出土土器の時間幅が広く、土坑時期の確定には至らない。縄文時代の所産と思われるが時期は不明である。

51区270号土坑(第229・238図 PL.42・122)

調査区中央南西部に位置する17号住南西に近接する。52区境界に接する箇所である。271坑が南西に近接するが、単独の検出となった。軟質ローム上面で確認された径120cm程の円形土坑である。掘り込みは深く100cmを超え硬質ローム面にまで達している。断面形は漏斗状といえよう。出土遺物として、有尾式体部破片(270坑1)を図示した。出土土器から土坑時期を前期中葉以降とするが、検討を要する。

51区271号土坑(第229・238図 PL.42・122)

調査区中央南西部に位置する17号住南西に近接する。52区境界に接する箇所である。270坑が北東に近接するが単独の検出である。軟質ローム上面で確認された不整形円形土坑である。掘り込みは良好で、断面形状も箱形を呈す。出土遺物として、加曾利EⅡ式体部破片2点(271坑1・2)を挙げた。土坑時期も中期後葉中頃に充てたい。

51区272号土坑(第229・238図 PL.42・122)

調査区中央南西部で17号住南東壁に重複して調査された。新旧関係は不明である。ローム漸移層を確認面とした円形土坑である。掘り込みは浅く皿状の断面を示すが、壁は明瞭だった。遺物は土器細片(272坑1)と凹石(272坑2)を図示した。1は加曾利EⅢ式であろうか、判断と

しない。土坑時期は時間幅を持たせて中期後葉以降としておきたい。

51区274号土坑(第229・238図 PL.42・122)

調査区中央南西部に位置する。北に16号住が近接する。また中世～近世の253坑が上に乗る。おそらく2基の重複土坑であろう。楕円状と円形の土坑を同時に調査した。新旧は不明である。掘り込みは浅く、皿状の断面形であるが壁は明瞭だった。遺物は木木7b式の体部破片(274坑1)を図示した。土坑時期は出土土器から中期前葉に
おいたが、確定的ではない。

51区275号土坑(第229・238図 PL.43・122)

調査区中央南西部にある16号住南東に位置する。北に266坑、西に274坑が近接する。ローム漸移層を確認面とした径約166×130cmの不整形円形土坑である。深さは約36cmを測り、掘り込みは良好である。坑底面に角柱状の自然礫を見る。性格は不明だが意図的な埋置と捉えた。出土遺物として塚田式(275坑1)と「郷土式」(275坑2)を図示したが、土坑時期を反映する資料としては2を優先したい。中期後葉後半段階であろう。

51区276号土坑(第229・238図 PL.43・122)

調査区中央南西部にある16号住北東に接する。ローム漸移層で確認された小型の円形土坑である。浅く皿状の断面形を示し壁もやや不明瞭である。遺物は「郷土式」体部破片(276坑1)が出土している。土坑の時期は出土遺物から中期後葉後半段階に置くが確定的ではない。

51区277号土坑(第229・238図 PL.43・122)

調査区中央南西部の52区との境にある20号住・22号住北端の重複部に重なる。新旧は不明である。周辺は土坑が多く群生し278坑・286坑などが近接する。ローム漸移層で確認された不整形円形土坑である。掘り込みは深く40cmを測り、箱形の断面形を示す。遺物は勝坂3式体部破片(277坑1)を図示した。土坑の時期は出土土器が細片のため中期中葉以降として、詳細は控えたい。

51区278号土坑(第229・238図 PL.43・122)

調査区中央南西部の20号住北側床面である軟質ロームで確認された。新旧は不明である。小型の円形土坑である。掘り込みはやや浅いが壁は明瞭に検出された。出土遺物は黒浜式体部破片(278坑1)を見るが、土坑時期を反映するものではない。判断を控えたい。埋土の特徴からは、中期後葉の可能性が高い。

51区279号土坑(第229・238図 PL.43・122)

調査区中央南西部の22号住西側床面で確認された。新旧は不明である。確認面は22号住地床の軟質ロームで、小型円形の平面形を得た。掘り込みはしっかりしており、壁も直立する。遺物は加曾利EⅡ式体部細片(279坑1)を図示した。土坑時期を直接反映していないが、埋土の特徴からは、中期後葉の可能性が高い。

51区281号土坑(第230・238図 PL.43・123)

調査区中央南西部の22号住南東壁に重なる。新旧は不明である。近接遺構としては、183坑・282坑・283坑が見られるように、土坑群の中にある。ローム漸移層を確認面とする円形土坑である。径91cmの整った平面形を呈し、深さは73cmを測る。緩やかな袋状を断面形とし、坑底面は硬質ローム上面に違い平坦である。遺物は加曾利EⅡ式(281坑1・3・4)、「郷土式」(281坑2)、石籬(281坑5)を図示した。土坑の時期は中期後葉中頃であろう。

51区282号土坑(第230・238図 PL.43・122)

調査区中央南西部の22号住東壁に接する。281坑・283坑・285坑が近接するように土坑群の中にある。ローム漸移層で確認された円形土坑である。掘り込みは浅く皿状の断面形を呈すが壁は明瞭である。遺物は深鉢体部破片だが、「焼町類型」(282坑1)、加曾利EⅠ式(282坑2)が見られる。土坑の時期は中期中葉末～後葉初頭を充てたい。

51区283号土坑(第230・238図 PL.43・123)

調査区中央南西部の23号住北東壁に重複する。近接する土坑としては、281坑・282坑・284坑・285坑があり、土坑群の中にある。また、小ピットが東壁に重複するが、新旧は不明である。確認面はローム漸移層だが、23号住に重複する部分は軟質ロームとなる。径120cm程の不整形円形を平面形とし、掘り込みはしっかりし、深さ56cmを測る。遺物は「焼町類型」(283坑1)、「郷土式」(283坑2)、石籬(283坑3)を図示した。出土土器の時間幅があるため、土坑時期の確定には至らず、中期後葉以降の所産としたい。

51区285号土坑(第230・238図 PL.43・123)

調査区中央南西部の22号住東、23号住北東、16号住南西に近接する。282坑・283坑が近接するように土坑群の中にある。ローム漸移層で確認された大型の不整形円形土坑である。平面規模は192×167cm、深さは52cmを測る。

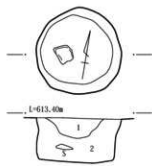
51区263号土坑



51区263号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を含む
- 2 暗褐色土 ローム粒を多く含む

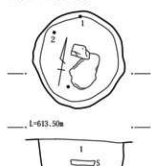
51区264号土坑



51区264号土坑土層

- 1 褐色土 褐色土塊・ローム塊からなる
- 2 黒褐色土 黄色粒を少量含む

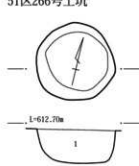
51区265号土坑



51区265号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量、
焼土を微量含む

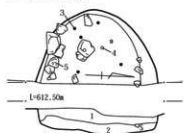
51区266号土坑



51区266号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム塊・黄色粒を少量含む

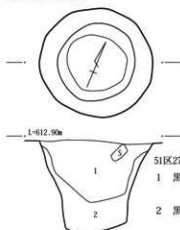
51区268号土坑



51区268号土坑土層

- 1 黒褐色土 白色粒を微量含む
- 2 暗褐色土 ローム塊を少量含む

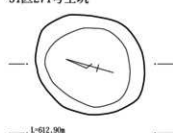
51区270号土坑



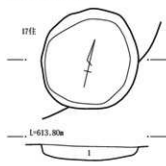
51区270号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム粒・小礫を微量含む
- 2 黒褐色土 ローム塊を多く含む

51区271号土坑



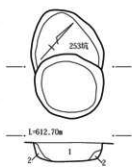
51区272号土坑



51区272号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む

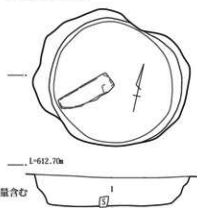
51区274号土坑



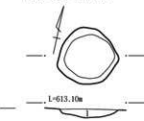
51区274号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む
- 2 黄褐色土 ローム塊を主とする

51区275号土坑



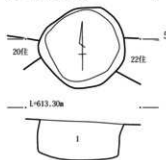
51区276号土坑



51区276号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む

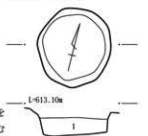
51区277号土坑



51区277号土坑土層

- 1 暗褐色土 黄色粒を少量含む

51区278号土坑



51区278号土坑土層

- 1 暗褐色土 黄色粒を少量含む

51区279号土坑



51区279号土坑土層

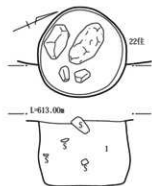
- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む



第229図 土坑 2 51区(19)

第3章 発見された遺構と遺物

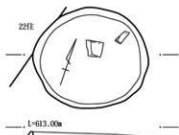
51区281号土坑



51区281号土坑土層

1 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む

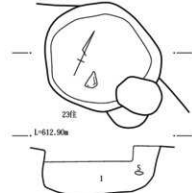
51区282号土坑



51区282号土坑土層

1 黒褐色土 黄色粒を少量含む

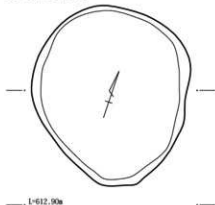
51区283号土坑



51区283号土坑土層

1 黒褐色土 ローム小塊・黄色粒を多く含む

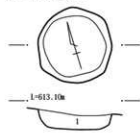
51区285号土坑



51区285号土坑土層

1 黒色土 黄色粒を微量含む
2 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む

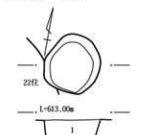
51区286号土坑



51区286号土坑土層

1 黒褐色土 黄色粒を少量含む

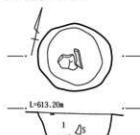
51区287号土坑



51区287号土坑土層

1 黒褐色土 ローム小塊・黄色粒を多く含む

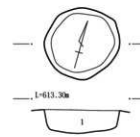
51区288号土坑



51区288号土坑土層

1 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を含む

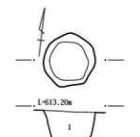
51区289号土坑



51区289号土坑土層

1 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む

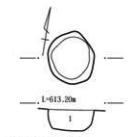
51区290号土坑



51区290号土坑土層

1 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を微量含む

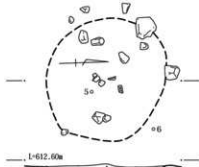
51区291号土坑



51区291号土坑土層

1 黒褐色土 ローム小塊・黄色粒を含む

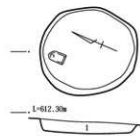
51区292号土坑



51区292号土坑土層

1 黒褐色土 黄色粒を微量含む

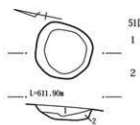
51区293号土坑



51区293号土坑土層

1 黒褐色土 黄色粒を微量含む

51区294号土坑



51区294号土坑土層

1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
2 暗褐色土 ローム大塊を多く含む



第230図 土坑 2 51区(20)

掘り込みは深く、箱形の断面形を示す。埋土中位で大型の板石がほぼ水平に出土するが、埋置としての判断は控えたい。出土土器として、黒浜式深鉢破片(285坑1~3)を図示した。土坑時期も前期中葉に求めたい。

51区286号土坑(第230図 PL.43)

調査区中央南西部の22号住北東に位置する。土坑群の中にあり、273坑・277坑・287坑が近接する。ローム漸移層下位で確認された不整円形土坑である。掘り込みはやや浅いが、壁は明瞭である。出土遺物は見られないが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区287号土坑(第230図 PL.43)

調査区中央南西部22号住北壁に僅かに重複する。新旧は不明である。273坑・282坑・286坑が近接する。ローム漸移層を確認面とする小型の不整円形土坑である。掘り込みは良好で箱形の断面形を示す。遺物の出土は無く時期は特定できないが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区288号土坑(第230・239図 PL.43・123)

調査区中央南西部の20号住・22号住北に位置する。土坑群の北側にあたり、256坑・289坑・290坑が近接する。ローム漸移層下位で確認された径75cm前後の円形土坑である。掘り込みは良好で箱形の断面形を示す。埋土中位から坑底面にかけて角礫を見る。性格は不明である。出土遺物として、「郷土式」深鉢口縁部破片(288坑1)と加曾利EⅡ式深鉢体部破片(288坑2)を図示した。いずれも埋土中の出土である。土坑の時期は、出土土器から中期後葉中頃に求めたい。

51区289号土坑(第230・239図 PL.43・123)

調査区中央南西部の20号住・22号住北に位置する。土坑群の北側にあたり、256坑・288坑・290坑が近接する。ローム漸移層下位で確認された円形土坑である。掘り込みは良好で断面形は箱形を呈す。出土遺物として、称名寺式口縁部把手(289坑1)を図示した。1点のみの出土であり、土坑の時期を後期初頭以降におきたい。

51区290号土坑(第230図 PL.43)

調査区中央南西部に位置する288坑・289坑と近接し、256坑と重複する。256坑調査後の検出であり、256坑より古い可能性がある。ローム漸移層下位で確認された小型の円形土坑である。掘り込みはしっかりしており、箱

形の断面形を示す。出土遺物は無く、時期は不明だが埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区291号土坑(第230図 PL.43)

調査区中央南西部の20号住北に位置する。264坑・278坑と近接するが、やや距離を置き単独の検出である。ローム漸移層下位で確認された小型の円形土坑である。掘り込みはしっかりしており、箱形の断面形を示す。出土遺物は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区292号土坑(第230・239図 PL.44・123)

調査区南側に位置する25号住・26号住北に近接する。土坑は293坑が北にあるが距離を置き単独の検出である。遺構密度の低い箇所である。黒褐色土中での確認、検出である。径約150cmの範囲に自然礫、土器片が集中するため、土坑として調査したが、明瞭な掘り込みを見出せず、遺物の範囲を平面形とし、僅かな掘り込みを断面形に表した。出土遺物は諸磯b式(292坑1・2)を主体とする。浮線文を施す1は土坑全面に広がる。292坑3は有尾式で時期差を見る。292坑4の内面は凹凸が著しく、あるいは異系統の土器か。石礫(292坑5・6)も出土している。土坑の時期は、出土土器から前期後葉以降と考えた。

51区293号土坑(第230・239図 PL.44・123)

調査区南側の25号住・26号住北に位置する。292坑を南に見るが距離を置く。ローム漸移層中位で確認した円形土坑である。掘り込みは浅く皿状を呈するが壁は明瞭に把握できた。底面より中型の自然礫が出土するが、意図的な埋置とは判断できない。出土遺物として阿玉台Ia式体部破片(293坑1)を図示したが、土坑時期を反映するものではなく埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区294号土坑(第230図 PL.44)

調査区南側に位置する。25号住・26号住南西にあるが近接遺構も無く、単独の検出である。ローム漸移層で確認された小型の円形土坑である。掘り込みは浅く皿状の断面形を示す。壁もやや不明瞭である。出土遺物は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区295号土坑(第231・239図 PL.44・123)

調査区南側の25号住・26号住南東に位置する。軟質ローム正面で確認され、南側を調査区域外に延ばす。そのため、平面形、断面形状とも判然としない。出土遺物は五領ヶ台Ⅱ式の口縁部破片(295坑1)を得ている。土坑時

期は、土坑自体の様相が判然とせず、出土土器も1点のみのため、確定はできない。縄文時代の所産とした。

51K296号土坑(第231図 PL.44)

調査区南側に位置する26号住床面下で調査された。軟質ローム上面で確認された小型の土坑である。柱穴とするには浅いため土坑とした。出土遺物も無く、時期は不明である。埋土の特徴と26号住床面下の検出層位から縄文時代の所産とした。

51K298号土坑(第231図 PL.44)

調査区南側にある27号住北西壁に重複する。新旧は不明である。ローム漸移層で確認された不整形円状の土坑である。掘り込みも浅く皿状を呈し、壁も明瞭ではない。出土遺物は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51K299号土坑(第231図 PL.44)

調査区北西寄りの52区に接する遺構密集地点より距離を置いた南側に位置する。近接遺構は少なく305坑が東に近接する。ローム漸移層下位で確認された不整形円形土坑である。掘り込みは深いが、断面形状は不安定である。坑底面より大型の垂角礫が出土するが、埋置としては確定できない。出土遺物は無く、時期は不明である。埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51K300・301号土坑(第231図 PL.44)

調査区北西寄りの52区に接する遺構密集地点南に位置する2基の重複土坑である。301坑が新しい。またP825が重複するが新旧は不明である。ローム漸移層下位で確認された不整形土坑である。301坑は浅く、300坑上層を切る形態である。出土遺物は無く、時期は不明である。埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51K302号土坑(第231図 PL.44)

調査区北西部の遺構密集地点南側に位置する。300・301坑・83坑・84坑と近接する。ローム漸移層で確認された不整形の小型土坑である。掘り込みは良好で、鍋底状の坑底面を呈す。大型の垂円礫を埋土下位で出土したが、性格は不明である。遺物の出土は見られず、時期は不明である。埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51K303号土坑(第231・239図 PL.44・123)

調査区北西部の遺構密集地点より南東に距離をおいて位置する。304～306坑が近接するが、遺構密度は低い。ローム漸移層で確認された不整形円形土坑である。掘り込

みは良好で、壁も明瞭である。出土遺物として、「郷土式」と思われる口縁部破片(303坑1)を図示した。1点のみのため土坑の時期は特定できない。埋土の特徴と併せて中期後葉以降の所産とした。

51K304号土坑(第231図 PL.44)

調査区北西部の遺構密集地点より南東に距離をおいた位置にあり、西に303坑が近接する。東側を調査区域外のため、西半の調査となった。平面形は不整形円形。掘り込みも浅く、断面形も不安定である。出土遺物は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51K305号土坑(第231・239図 PL.44・123)

調査区北西部の遺構密集地点より南に距離を置いた位置になる。306坑・299坑と近接する。ローム漸移層下位を確認面とする円形土坑である。径約83cmの整った形状で、深さも88cmを測り良好である。断面形状は下半がやや緩やかな袋状を呈す。埋土下位より自然礫が出土するが、埋置の可能性は低い。出土遺物として、加曾利I式(305坑1)、「桁倉式」(305坑2・3)を図示した。出土遺物の様相から、土坑時期を中期後葉前半段階におきたい。

51K306号土坑(第231図 PL.44)

調査区北西部の遺構密集地点より南に距離を置いた位置になる。P826と重複し、303坑・305坑と近接する。新旧は不明である。ローム漸移層で確認された不整形土坑である。掘り込みも浅く皿状の断面形を呈す。出土遺物は無く時期は不明だが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

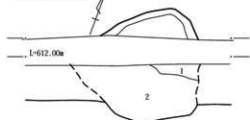
51K307号土坑(第231図 PL.44)

調査区南東部に位置する。遺構密度は低く、西に308・309坑が近接するのみである。ローム漸移層下位で確認された不整形土坑である。掘り込みは浅く、底面も凹凸が多い。遺物は出土しておらず、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51K310号土坑(第231図 PL.45)

調査区中央やや南寄りに位置する。18号住南東に近接し単独で調査された。ローム漸移層で確認された不整形円状の土坑である。掘り込みも浅く皿状の断面形を呈す。出土遺物は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51区295号土坑



51区295号土坑土層

- 1 暗褐色土 黄色細粒を含む
- 2 黒褐色土 黄色粒を極微量含む

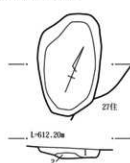
51区296号土坑



51区296号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム小塊・黄色粒を多く含む
- 2 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む

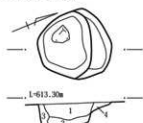
51区298号土坑



51区298号土坑土層

- 1 黒色土 黄色粒を微量含む
- 2 黒褐色土 ローム粒を微量含む

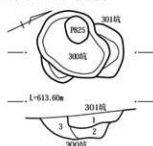
51区299号土坑



51区299号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム粒を多く含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊を少量含む
- 3 暗褐色土 ローム大塊を少量含む
- 4 褐色土 ローム小塊を多く含む。
別遺構か

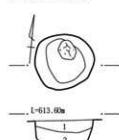
51区300・301号土坑



51区300・301号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム小塊を多く含む (300坑)
- 2 黒褐色土 ローム粒を少量含む (300坑)
- 3 暗褐色土 ローム小塊を少量含む (301坑)

51区302号土坑



51区302号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊を微量含む

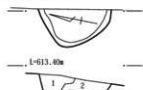
51区303号土坑



51区303号土坑土層

- 1 黒褐色土 均質。白色粒を微量含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊を少量含む

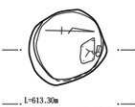
51区304号土坑



51区304号土坑土層

- 1 暗褐色土 黄色粒を微量含む
- 2 暗褐色土 ローム大塊を少量含む

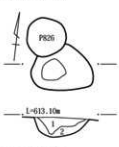
51区305号土坑



51区305号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 黒色土 ローム粒を少量含む
- 3 黒色土 黄色粒を微量含む

51区306号土坑



51区306号土坑土層

- 1 暗褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒を微量含む

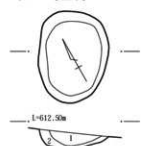
51区307号土坑



51区307号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む

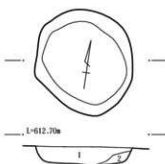
51区310号土坑



51区310号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗黄褐色土 ローム塊を含む

51区311号土坑



51区311号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム塊を含む



第231図 土坑 2 51区(21)

51K311号土坑(第231図 PL.45)

調査区中央やや南西寄りに位置する。19号住の南にあり315～319坑・322坑・323坑が近接する。小規模な土坑群の中にある。ローム漸移層下位で確認された不整形円形土坑である。掘り込みは浅いが、壁は明瞭に検出できた。出土遺物は無く土坑時期は不明だが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51K312号土坑(第232図 PL.45)

調査区中央に位置する。19号住・317坑が近接する。ローム漸移層下位で確認されたピットと小土坑の重複である。相互の新旧は不明である。掘り込みも浅く、底面の凹凸も多い。遺物の出土は見られず、土坑の時期は不明である。埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51K314号土坑(第232図 PL.45)

調査区中央やや西寄りに位置する。1号集石遺構の下層にあたる。ローム漸移層で確認された楕円形の土坑である。掘り込みは浅いが、壁は明瞭である。坑底面も平坦面を築く。遺物の出土は無く、時期の特定はできない。埋土の特徴から縄文時代としたが、1号列石と同時期の可能性もある。

51K316・317号土坑(第232図 PL.45)

調査区中央に位置する。ローム漸移層で確認された2基の重複土坑である。土層では317坑が新しい。317坑には318坑・322坑も重複するが、新旧は不明である。316坑は不整形円形、317坑は不整形円状を呈し、両者とも掘り込みは浅く、皿状の断面形を示す。遺物の出土は見られず、埋土の特徴から縄文時代と位置付けた。

51K318号土坑(第232図 PL.45)

調査区中央に位置する。317坑西壁や322坑と重複する。322坑に切られる新旧関係である。ローム漸移層で確認された小型の円形土坑である。掘り込みは良好で壁も明瞭である。遺物の出土は無く、土坑の時期は不明である。埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51K319号土坑(第232図 PL.45)

調査区中央やや南西寄りに位置する。西側を調査区域外に延ばす。

315坑が北東にあるが距離を置く。ローム漸移層で確認された不整形円状の土坑で、掘り込みも良好である。出土遺物も無く、埋土の記録も無いため、時期は不詳だが、規模、確認面から縄文時代の所産と考えた。

51K320号土坑(第232図 PL.45)

調査区中央南西部に位置する28号住南に近接する。北側には住居跡・土坑などが密集し、本土坑には265坑が南西に接する。ローム漸移層下位で確認された不整形円状の土坑である。掘り込みは良好で壁も明瞭に検出した。遺物の出土は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。時期は不明である。

51K321号土坑(第232図 PL.45)

調査区北西寄りの遺構密集地点南に位置する。北側は試掘トレンチにより判然としなかった。ローム漸移層で確認された、浅い皿状の断面形を示す土坑である。出土遺物は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51K322号土坑(第232図 PL.45)

調査区中央に位置する。317坑西壁や318坑と重複する。318坑を切る新旧関係である。ローム漸移層で確認されたピット状の土坑である。出土遺物も無く、時期は不明だが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

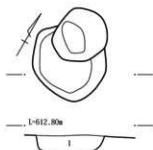
51K323号土坑(第232図 PL.45)

調査区中央より南側に位置する。近代～現代に比定される1号井戸に大きく切られる。平面形は不明で断面形状も浅く不明瞭である。出土遺物も無く、時期は不明だが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。



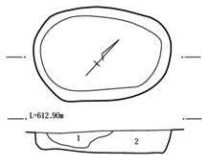
調査風景

51区312号土坑



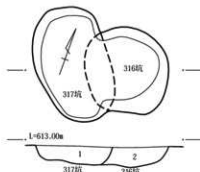
51区312号土坑土層
1 黒褐色土 黄色粒を微量含む

51区314号土坑



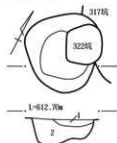
51区314号土坑土層
1 黒色土 黄色粒を微量含む
2 黒褐色土 ローム塊・黄色粒を少量含む

51区316・317号土坑



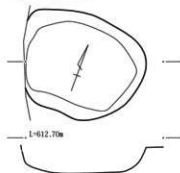
51区316・317号土坑土層
1 黒褐色土 ローム塊・白色粒を少量含む
2 黒褐色土 白色粒を微量含む

51区318号土坑

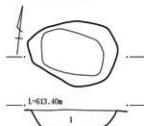


51区318号土坑土層
1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
2 暗褐色土 ローム塊・黄色粒を含む

51区319号土坑

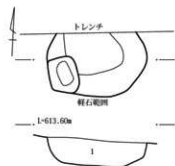


51区320号土坑



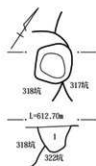
51区320号土坑土層
1 黒褐色土 黄色粒を微量含む

51区321号土坑



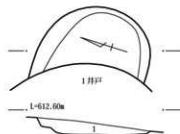
51区321号土坑土層
1 黒褐色土 黄色粒を多く含む。しまり弱い。
基礎はAs-YPk

51区322号土坑



51区322号土坑土層
1 黒褐色土 褐色土塊を少量含む

51区323号土坑



51区323号土坑土層
1 黒褐色土 白色粒を微量含む

0 1 : 40 1m

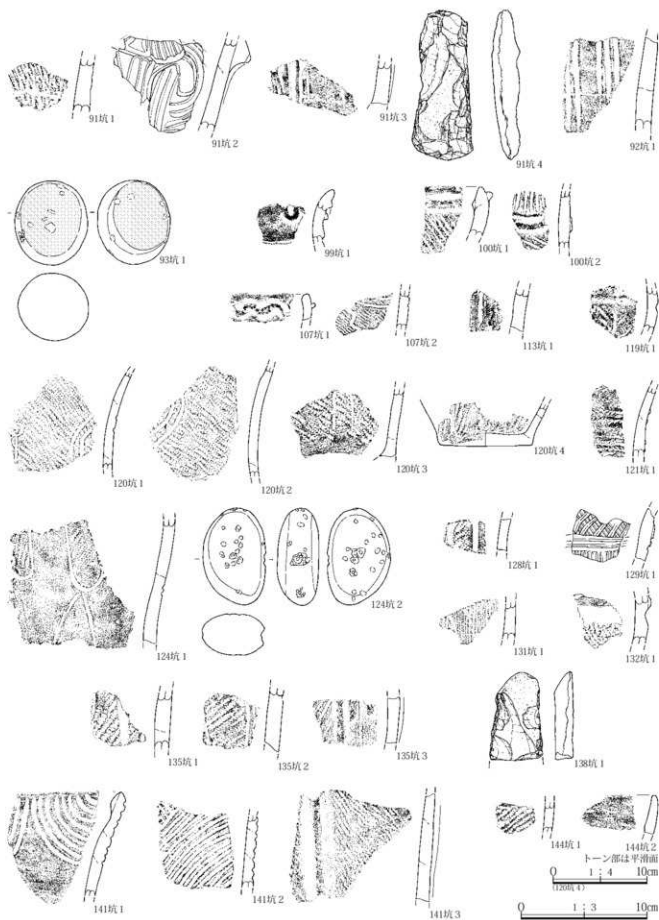
第3章 発見された遺構と遺物



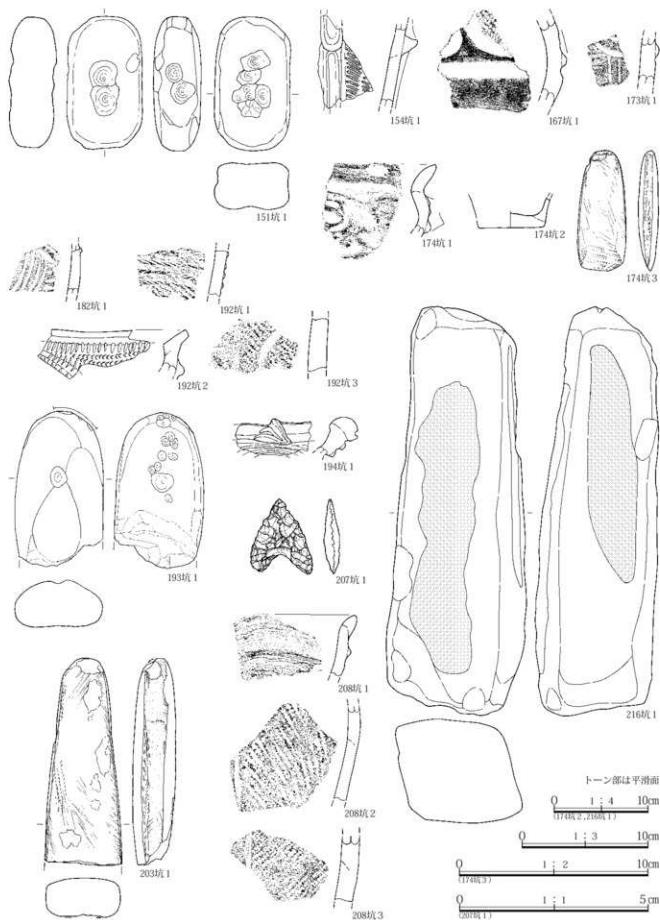
第233図 土坑2 51区出土遺物(1)



第234図 土坑2 51区出土遺物(2)



第235図 土坑2 51区出土遺物(3)

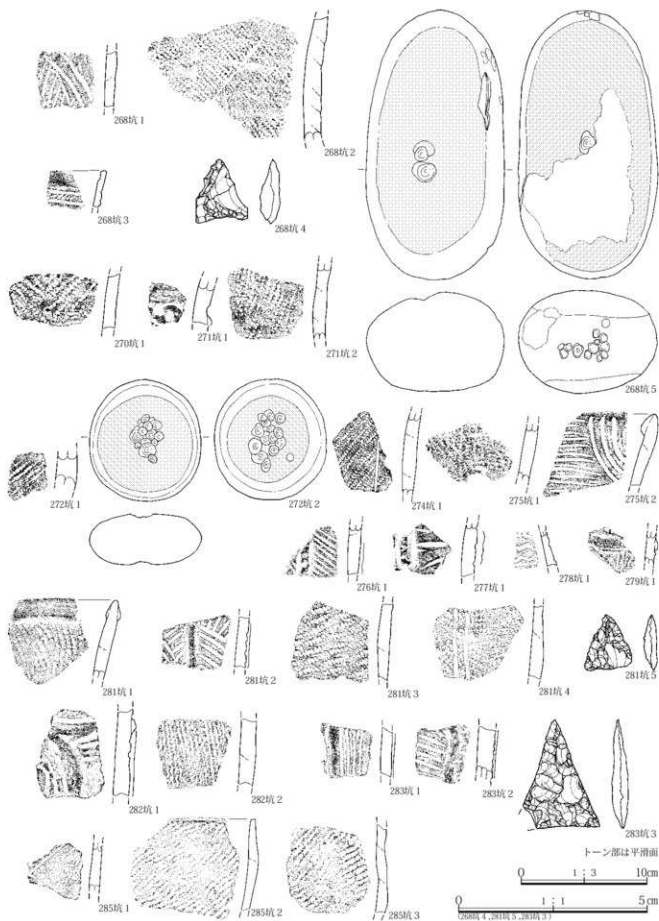


第236図 土坑2 51区出土遺物(4)

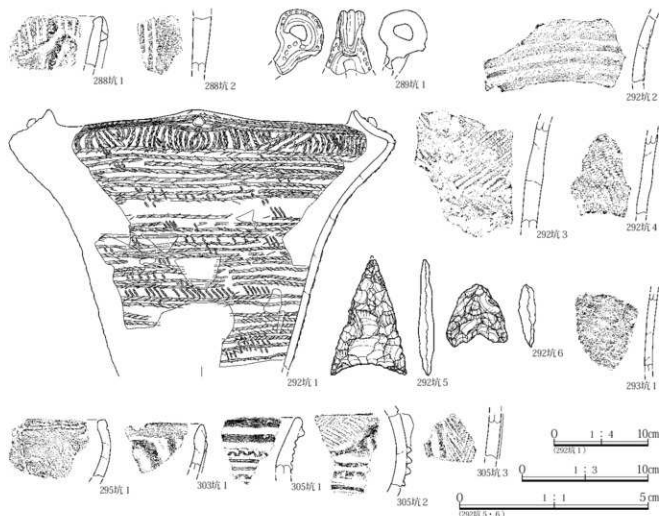
第3章 発見された遺構と遺物



第237図 土坑2 51区出土遺物(5)



第238図 土坑2 51区出土遺物(6)



第239図 土坑2 51区出土遺物(7)

52区5号土坑(第240図)

調査区南西端の52区4号住に近接する。調査面としては1面目で黒褐色土を確認面とする。調査時で時期不明とされたが、本書で掲載する。出土遺物もなく、埋土の記録も無いため、時期不明である。

52区8号土坑(第240図)

調査区西端に位置する。4号住が南西に近接する。ローム漸移層を確認面とする不整形土坑である。これも時期不明であり、本書で掲載となった。出土遺物はなく、埋土の特徴も中世～近世の可能性ある。

52区30号土坑(第240・244図 PL.123)

調査区南西端に位置する。4号住が東に近接し、近世に比定される25坑が東壁に接する。黒褐色土中の確認である。上層に自然石の出土を見るが、流入の可能性が高い。出土遺物として、唐草文系土器(30坑1)と堀之内2式(30坑2)を掲載した。いずれも体部破片である。出土土器の時間幅があり時期の特定はできないが、埋土の特

徴から縄文時代の所産と考えた。

52区39号土坑(第240図 PL.46)

調査区西端に位置する。P63・P64・P68が重複する。新旧は不明であるが、ピットが新しい様相を示す。ローム漸移層で確認された不整形土坑である。南西よりがさらに凹み有段となるが、断面形状は不安定な皿状を呈す。出土遺物は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

52区48号土坑(第240図 PL.46)

調査区南西端に位置する。1号住南に距離を置く。ローム漸移層下位で確認面された不整形円状の土坑である。掘り込みは浅いが、壁は明瞭である。遺物の出土は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

52区49号土坑(第240図 PL.46)

調査区北西部に位置する。遺構密度は低く54坑が東に近接する。ローム漸移層で確認された不整形土坑である。掘り込みも浅く、壁も不明瞭である。埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

52区53号土坑(第240図 PL.46)

調査区北西端に位置する。東に1号竪穴状遺構が近接するが、遺構密度は低い。黒褐色土中で確認された不整形円形土坑である。掘り込みは良好で、壁も明瞭である。出土遺物は見られないが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

52区54号土坑(第240・244図 PL.46・123)

調査区北西部に位置する。52坑が西に近接するが遺構密度は低い。ローム漸移層で確認された不整形円形土坑である。掘り込みは良好で箱形の断面形を示す。出土遺物として、塚田式深鉢体部破片(54坑1)を図示した。土坑時期は出土土器が1点のため控えるが、近接する5号住との関連も念頭に置きたい。埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

52区55号土坑(第240・244図 PL.46・123)

調査区西端に位置する。2号住と4号住の間にある。周辺は基盤礫が露出しており、その中で確認となった。大型の不整形円形土坑で、掘り込みは良好なもの、基盤礫の影響で壁は不明瞭となった。出土遺物は流紋岩製の石匙(55坑1)を図示した。埋土の特徴と石匙の出土から縄文時代の所産とした。

52区56号土坑(第240図 PL.46)

調査区北西部に位置する。5号住の北東にある。ローム漸移層で確認された小型の不整形円状土坑である。掘り込みは深くしっかりしている。埋土中位より小型の自然礫が出土したが、流入の可能性が高い。出土遺物は無く時期は不明だが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

52区57号土坑(第240図 PL.46)

調査区北西部に位置する。56坑、71・73坑が近接する。ローム漸移層で確認されたビット状の小土坑である。掘り込みは良好で壁も直立する。出土遺物は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

52区58号土坑(第240・244図 PL.46・123)

調査区北西部に位置する。5号住、71・73坑と近接する。軟質ローム上層で確認された不整形円状の小型土坑である。掘り込みはしっかりしており、断面形も袋状を呈す。出土遺物として、「郷土式」体部破片(58坑1)を図示した。1点の出土のため土坑時期は不確定だが、中期後葉の可能性もある。

52区59号土坑(第241・244図 PL.46・123)

調査区北西部に位置する7号住と8号住西側に近接する。単独の検出である。黒褐色土中で確認された小型の不整形円形土坑である。掘り込みは浅く皿状の断面形を示す。出土遺物は加曽利B1式鉢口縁部破片(59坑1)を見る。土坑時期を特定する例では無いが、埋土の特徴も踏まえて、後期中葉の可能性はある。

52区60号土坑(第241図)

調査区北西部の8号住西に近接する。南に61坑が接する。ローム漸移層で確認された小型の円形土坑である。掘り込みはしっかりしており、皿状の断面形を示す。遺物は埋土中より細片の出土を見たが、いずれも無文で時期の特定には至らない。土坑時期は縄文時代の所産で止めたい。

52区61号土坑(第241・244図 PL.46・123)

調査区北西部の8号住西で60坑と接して調査された。坑底面にP106を重複するが、新旧は不明である。ローム漸移層で確認された不整形円形土坑である。掘り込みはしっかりしており、壁も明瞭である。出土遺物は打製石斧(61坑1)を図示したが、土坑時期を反映していない。埋土の特徴と併せて縄文時代の所産とした。

52区62号土坑(第241・244図 PL.46・123)

調査区北西部に位置する。南東に59坑があるが、周辺の遺構密度は低い。ローム漸移層で確認された不整形円形土坑である。掘り込みも良好で箱形の断面形を示す。北壁際で石皿(62坑1)が出土した。おそらく埋置に伴う例と位置付けたい。土坑時期は、石皿の様相から中期以降の所産としたい。

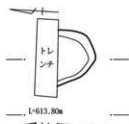
52区63号土坑(第241図 PL.46)

調査区北西部のやや南寄りに位置する。9号住、64坑が東に近接する。ローム漸移層下位で確認された小型の円形土坑である。掘り込みも良好で箱形の断面形を示す。遺物は出土しておらず、時期の特定に至らないが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

52区64号土坑(第241・244図 PL.46・124)

調査区北西部のやや南寄りに位置する。9号住、64坑が近接する。ローム漸移層下位で確認された不整形円形土坑である。掘り込みは良好で箱形の断面形を示す。埋土中より、小型の自然礫と伴に「郷土式」口縁部破片(64坑1)、凹石(64坑2)が出土した。土器片1点のみのため、

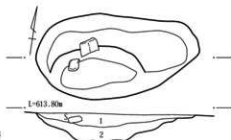
52区5号土坑



52区5号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を含む

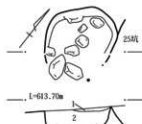
52区8号土坑



52区8号土坑上層

- 1 暗褐色土 砂や砂質
2 黒褐色土 黄色粒を極微量含む

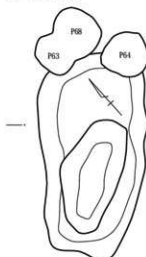
52区30号土坑



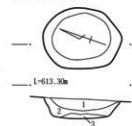
52区30号土坑上層

- 1 黒褐色土 ローム小塊・小礫を少量含む
2 黒褐色土 ローム小塊を含む

52区39号土坑



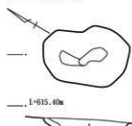
52区48号土坑



52区48号土坑上層

- 1 黒褐色土 白色粒を微量含む
2 褐色土 ローム小塊を少量含む
3 褐色土 ローム大塊を含む

52区49号土坑



52区49号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
2 暗褐色土 ローム小塊を少量含む

52区53号土坑



52区53号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
2 黒褐色土 ローム小塊を少量含む
3 暗褐色土 ローム大塊を含む

52区54号土坑



52区54号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
2 黒褐色土 ローム粒を少量含む

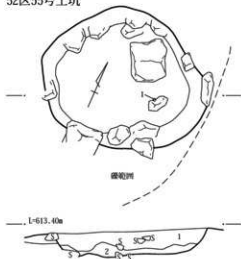
52区56号土坑



52区56号土坑上層

- 1 暗褐色土 ローム粒を少量含む
2 暗褐色土 ローム小塊を多く含む

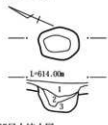
52区55号土坑



52区55号土坑上層

- 1 黒色土 粘性やや強い、黄色粒を微量含む
2 黒褐色土 ローム小塊を微量含む

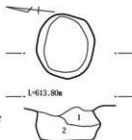
52区57号土坑



52区57号土坑上層

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む
2 黒褐色土 ローム小塊を多く含む
3 褐色土 ローム大塊を少量含む

52区58号土坑



52区58号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
2 暗褐色土 黄色粒を極微量含む



第240図 土坑2 52区(1)

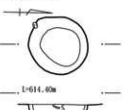
52区59号土坑



52区59号土坑土層

- 1 黒色土 均質。白色粒を微量含む

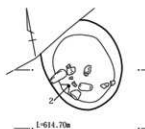
52区63号土坑



52区63号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
2 黒褐色土 ローム粒を少量含む

52区67号土坑



52区67号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
2 黒褐色土 ローム粒を多く、炭化物を少量含む
3 暗褐色土 黄色粒を多く含む
4 褐色土 ローム粒・礫を含む

52区70号土坑



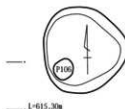
52区60号土坑



52区60号土坑土層

- 1 黒褐色土 焼土粒を微量含む
2 黒褐色土 黄色粒を微量含む

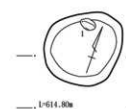
52区61号土坑



52区61号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
2 暗褐色土 ローム小塊を含む

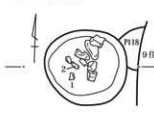
52区62号土坑



52区62号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
2 黒褐色土 ローム粒を少量含む

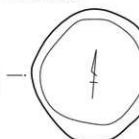
52区64号土坑



52区64号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
2 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む

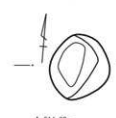
52区65号土坑



52区65号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む
2 暗褐色土 ローム粒・黄色粒を多く含む

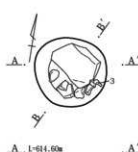
52区66号土坑



52区66号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
2 黒褐色土 ローム粒・小礫を少量含む

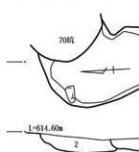
52区68号土坑



52区68号土坑土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
2 黒褐色土 黄色粒を少量含む
3 暗褐色土 ローム粒を少量含む

52区69号土坑



52区69号土坑土層

- 1 黒褐色土 ローム小塊・黄色粒を少量含む
2 黒褐色土 黄色粒を微量含む

第241圖 土坑2 52区(2)

0 1:40 1m

第3章 発見された遺構と遺物

詳細は控えるが、土坑の時期は中期後葉以降におきたい。

52区65号土坑(第241・244図 PL.46・124)

調査区北西部の9号住束に位置する。66坑・70坑が南東に近接する。ローム漸移層下位で確認された大型不整形円形土坑である。掘り込みは深く40cmを超え、断面形は箱形を呈す。出土遺物として、曽利Ⅱ式体部破片(65坑1)と磨石(65坑2)を図示した。土器片1点の出土のため土坑時期は不確定だが、中期後葉の可能性もある。

52区66号土坑(第241図 PL.47)

調査区北西部にある9号住と51区28号住の間に位置する。70坑が近接する。ローム漸移層下位で確認された不整形円形の土坑である。掘り込みはしっかりしており、鍋底状の坑底面を呈す。出土遺物は無く、時期の特定はできない。埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

52区67号土坑(第241・244図 PL.47・124)

調査区北西部に位置する7号住床面で調査された。新旧は不明である。距離を置いて68坑が南東に近接する。7号住地床であるローム漸移層を確認面とする。小型の不整形円形土坑で掘り込みも良好で袋状の断面形を呈す。小型礫が埋土上層～中層にかけて集まり、「郷土式」体部破片(67坑1・2)、加曾利Ⅱ式体部破片(67坑3)も混在していた。土坑の時期は出土土器から中期後葉中頃としたい。

52区68号土坑(第241・244図 PL.47・124)

調査区北西部の7号住と11号住重複部分に位置する。土層の観察では7号住床下に位置付けたが、不確定要素が多い。新旧は不明としたい。ローム漸移層で確認された小型の円形土坑である。径約78cmを測る。深さは70cmを超え、しっかりした掘り込みである。上層から下層にかけて大型の板石が斜位で出土している。上層に置かれた蓋石が内容物の腐食に伴い落盤したのであろうか。出土遺物として「郷土式」体部破片(68坑1)、加曾利Ⅱ式体部破片(68坑2)、打製石斧(68坑3)を図示した。土坑の時期は、中期後葉中頃と考えた。

52区69号土坑(第241図 PL.47)

調査区北西部にある9号住と51区28号住の間に位置する。70坑と重複するが、本土坑自体も重複土坑の様相を示す。浅い土坑2基の重複と捉えられる。出土遺物は無く、時期の特定はできないが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

52区70号土坑(第241図 PL.47)

調査区北西部にある9号住と51区28号住の間に位置する。69坑と重複するが新旧は不明である。ローム漸移層で確認された径87cm前後の小型円形土坑である。掘り込みは良好で下位は袋状の断面形を示す。出土遺物は見られず、時期は不明である。埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

52区71・72号土坑(第242・244図 PL.47・124)

調査区北西部に位置する2基の重複土坑である。新旧は不明である。周辺は土坑が群在し、56坑・57坑・73坑・81坑が近接する。ローム漸移層を確認面とする。71坑平面形は不明で、やや浅い掘り込みだが、72坑は不整形円形で、箱形の断面形を示す。72坑より黒浜式体部破片(72坑1)と加曾利Ⅱ式体部破片(72坑2)が出土した。時間幅のある出土土器様相のため、土坑の時期を特定できないが、中期後葉中頃以降の所産としたい。

52区73号土坑(第242図 PL.47)

調査区北西端に位置する。72坑・74坑が近接する。ローム漸移層で確認された小型不整形円形土坑である。掘り込みは良好で、深さは50cmを超える。土層には柱痕状の黒色土が観察されることから、柱穴の可能性もある。出土遺物は無く時期は不明だが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

52区75・76号土坑(第242・244図 PL.47・124)

調査区北西端に位置する6・10号住範囲内で調査された重複土坑2基である。76坑が75坑を切る重複関係である。74坑・84坑が近接し、P115が76坑と重複する。新旧は不明である。ローム漸移層を確認面とする。両土坑とも平面形は円形を呈し、75坑は25cm、76坑は54cmの深さを測る。出土遺物は、75坑で「埴野型」口縁部破片(75坑1)、76坑は「郷土式」の体部破片(76坑1)が出土した。出土遺物が少量のため時期の特定は避けたい。75坑が中期中葉以降、76坑が中期後葉以降とする。

52区80号土坑(第242・244図 PL.47・124)

調査区北西部に位置する11号住南東、51区4B号住南西に近接する。重複遺構としてはP120が東壁に重なるが新旧は不明である。ローム漸移層で確認された不整形円形土坑である。鍋底状の坑底面ながら、掘り込みはしっかりしている。遺物は加曾利Ⅲ式体部破片(80坑1)を図示したが、1点のみで土坑時期を反映していない。土坑

時期は、埋土の特徴と併せて、中期後葉以降の所産としたい。

52区81号土坑(第242・245図 PL.47・124)

調査区北西端に位置する。土坑群の中にあり71坑・82坑・83坑が近接する。ローム漸移層で確認された径110cm程の円形土坑である。掘り込みは良好で、箱形の断面形を示す。出土遺物として、釣り手土器口縁部破片(81坑1)、「郷土式」体部破片(81坑2)、加曾利EⅢ式体部破片(81坑3)、打製石斧(81坑4)を図示した。すべて埋土上層の出土である。1は土坑南西外の出土であり、厳密な伴出ではない。土坑の時期は、出土遺物から中期後葉中頃に充てたい。

52区82号土坑(第242・245図 PL.47・124)

調査区北西端に位置する6・10号住範囲にある。81坑・83坑と近接し、南東にP111が接する。ローム漸移層で確認された不整形の小型土坑である。断面形は不連続で、深さ15cmとやや浅い。遺物は加曾利EⅡ式体部破片(82坑1)と「郷土式」体部破片(82坑2)を図示した。土坑の時期は、出土遺物から中期後葉中頃と考えた。

52区83号土坑(第242図 PL.47)

調査区北西端に位置する6・10号住範囲にある。84坑と重複し、81坑・82坑と近接する。84坑との新旧は不明である。径70cm程の小型円形土坑で、掘り込みは浅く鍋底状の断面形を示す。遺物の出土は無く土坑の時期は不明である。埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

52区84号土坑(第242図 PL.47)

調査区北西端で83坑と重複する。東に74～76坑が近接する。ローム漸移層で確認された径約65cmの小型円形土坑である。鍋底状の断面形だが、掘り込みはしっかりしていた。出土遺物は無く、埋土の記録もないため時期は不明である。土坑位置や形状から縄文時代の所産としている。

52区85号土坑(第242図)

調査区北西端に位置する6・10号住範囲の東で調査された。ローム漸移層で確認された小型の円形土坑である。掘り込みは浅く、皿状の断面形を示す。出土遺物は無く、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

52区86号土坑(第242・245図 PL.124)

調査区北西端に位置する。南に77～79坑が近接する。ローム漸移層で確認された小型の円形土坑である。掘り

込みは浅く、皿状の断面形を示す。埋土中より、加曾利EⅠ式体部小破片(86坑1)が出土している。土坑時期は出土土器が小破片のため確定できないが、おそらく中期後葉であろう。

52区87号土坑(第242図 PL.48)

調査区南西部の14号住床下で調査された。住居跡が密接する箇所、重複・近接する土坑は無い。軟質ローム上面を確認面とする。不整形土坑である。浅く、壁も不明瞭である。確認時に東側で焼土が少量ながら散布していたため、土坑として位置付けられたが、焼土遺構としての位置付けが妥当と思われる。また14号住居跡の下位に位置することから、炉跡の掘り込みの一部とも捉えられよう。検討を要する。

52区90号土坑(第243図 PL.48)

調査区南西端に位置する。北西に15号住・16号住が距離を置いて見られる。ローム漸移層下位で確認された大型の不整形土坑である。掘り込みも良好で箱形の断面形を示す。出土遺物は見られないが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

52区92号土坑(第243・245図 PL.48・124)

調査区南西部に位置する。周辺はピットが点在するが、土坑は本土坑のみの検出となった。断面図にも重複する中世～近世のピット土層が重なる。東に12号住、14号住を見る。ローム漸移層下位で確認された円形土坑である。掘り込みは浅く皿状の断面形を示す。諸磯式の体部破片を見るが1点のみの出土である。前期後葉以降の所産としたい。

52区93・94号土坑(第243・245図 PL.48・124)

調査区中央やや北西寄り調査された重複土坑2基である。ローム漸移層で確認している。18号住北西に重なり、その他にP138など小ピットが重複する。新旧関係は不明である。93坑は不整形土坑で掘り込みも深く箱形の断面形を示す。94坑は楕円状の土坑か。やや浅く坑底面も凹凸が多い。遺物は、93坑より阿玉台1b式口縁部破片(93坑1)、94坑からは「橋倉式」の体部破片(94坑1)が出土している。いずれも1点の出土で、土坑時期を反映するものではない。93坑は中期中葉以降、94坑は中期後葉以降の所産とした。

52区95号土坑(第243図)

調査区中央やや北西寄りに位置する。9号住と18号住の間にある。ローム漸移層で確認された不整楕円状を呈すピット状の土坑である。掘り込みは深く70cmを超える。土層では柱痕を観察できた。柱穴としての可能性は高い。特に9号住の南側柱穴としての可能性は高い。出土遺物は無いが、9号住柱穴とすれば中期後葉中頃に比定されよう。

52区96号土坑(第243・245図 PL.124)

調査区中央やや北西寄りに位置する9号住と18号住の間にある。単独の検出だが、97・99坑・102坑が近接する。ローム漸移層で確認された不整形土坑である。掘り込みは良好で鍋底状の断面形を示す。遺物は埋土中より打製石斧(96坑1)が出土した。詳細な土坑時期は特定できないが、中期後葉の可能性が高い。

52区97号土坑(第243図)

調査区中央やや北西に位置する。9号住と51区28号住の間にあり、96坑・98坑と近接する。単独の検出である。ローム漸移層で確認された不整形土坑である。掘り込みは良好で箱形の断面形を示す。出土遺物は見られないが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

52区98号土坑(第243図)

調査区中央やや北西寄りに位置する。分割調査の境界にあたるため、北半分が把握できなかった。おそらく円形土坑であろう。掘り込みも良好で箱形の断面形を示す。遺物の出土は無く、時期の特定には至らないが、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

52区99号土坑(第243図)

調査区中央やや北西寄りに位置する18号住東壁に重複して調査された。新旧は不明である。また北側は試掘トレンチのため把握されていない。ローム漸移層で確認された不整形

形土坑である。断面形は箱状を呈し、壁も直立気味である。遺物の出土は見られず、時期は不明である。埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

52区100号土坑(第243図 PL.48)

調査区中央やや北西寄りに位置する。18号住と14号住東に近接する。ローム漸移層下位で確認されたピット状の土坑である。南側をP139に大きく壊されるが、新旧は不明である。遺物の出土も無く、時期は不明である。埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

52区101号土坑(第243図 PL.48)

調査区中央やや北西寄りにある18号住西に近接する。単独の検出でローム漸移層で確認された小型土坑である。掘り込みは浅く、遺物の出土も見られない。埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

52区102号土坑(第243図)

調査区中央やや北西寄りにある18号住北東壁に重なる。新旧は不明である。95・99坑が近接する。ローム漸移層で確認された小型の土坑である。掘り込みは浅いが、壁は明瞭に検出された。出土遺物も無く、埋土の記録も乏しいため、確定できないが縄文時代の所産と考えた。



調査風景

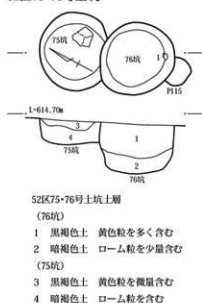
52区71・72号土坑



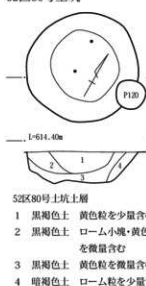
52区73号土坑



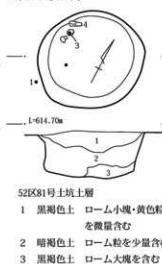
52区75・76号土坑



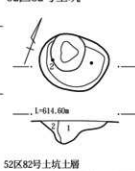
52区80号土坑



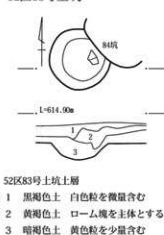
52区81号土坑



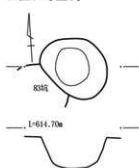
52区82号土坑



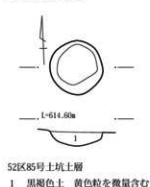
52区83号土坑



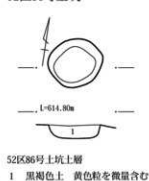
52区84号土坑



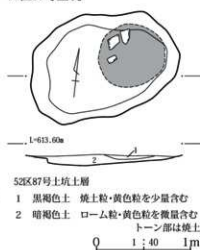
52区85号土坑



52区86号土坑

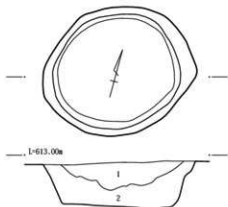


52区87号土坑



第3章 発見された遺構と遺物

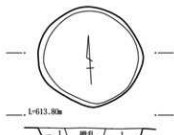
52区90号土坑



52区90号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒を多く含む

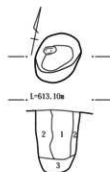
52区92号土坑



52区92号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む

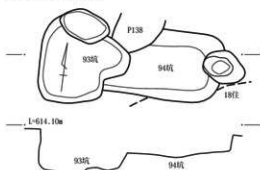
52区95号土坑



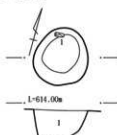
52区95号土坑上層

- 1 黒褐色土 ローム粒を微量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒を多く含む
- 3 黒褐色土 ローム小塊を含む

52区93・94号土坑



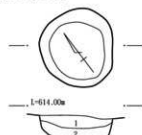
52区96号土坑



52区96号土坑上層

- 1 暗褐色土 ローム粒・黄色粒を多く含む

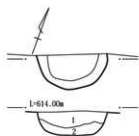
52区97号土坑



52区97号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 2 黒褐色土 ローム小塊・黄色粒を含む

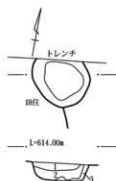
52区98号土坑



52区98号土坑上層

- 1 暗褐色土 ローム粒・黄色粒を多く含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊を少量含む

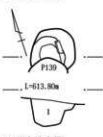
52区99号土坑



52区99号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を多く含む
- 2 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を含む
- 3 褐色土 ローム大塊を多く含む

52区100号土坑



52区100号土坑上層

- 1 暗褐色土 黄色粒を微量含む

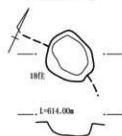
52区101号土坑



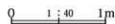
52区101号土坑上層

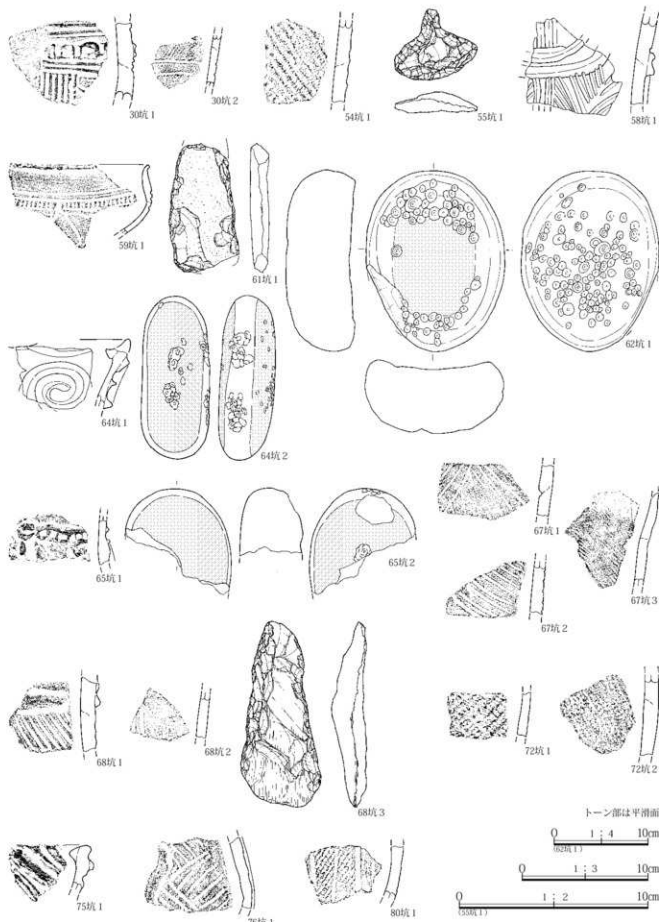
- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む

52区102号土坑

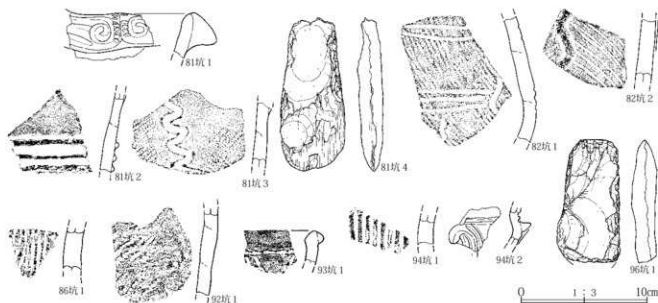


第243図 土坑2 52区(4)





第244圖 土坑2 52区出土遺物(1)



第245図 土坑2 52区出土遺物(2)

61区25号土坑(第246図)

調査区北東端に位置する。北側を調査区域外に延ばす。上層調査で得られた土坑である。黒褐色土を確認面としており、中世～近世の可能性もある。平面形はおそらく不整形で断面形は箱形を呈す。遺物の出土はなく、埋土の特徴から縄文時代としたが、検討を要する。

61区33号土坑(第246図)

調査区北東端に位置する。25坑と同様に上層の黒褐色土を確認面としているため、中世～近世の可能性がある。平面形は不整形を呈し、箱形の断面形を示す。掘り込みも良好で箱形の断面形を示す。遺物の出土はなく、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

61区40号土坑(第246・248図 PL.48・124)

調査区北東端に位置する。61区5号住床面下のローム漸移層下位で確認された。不整形土坑である。掘り込みは深いが、断面形は凹凸が多く不安定である。自然礫と伴に「郷土式」体部破片(40坑1)、凹石(40坑2)が出土した。土坑の時期は出土土器から中期後葉後半段階と考えた。

61区41号土坑(第246・248図 PL.124)

調査区北東端に位置する。5号住床面下のローム漸移層下位で確認された不整形土坑である。42坑と重複し、42坑が新しい。断面形は箱形を呈するが、壁はやや不明瞭である。出土遺物は加曾利EⅡ式の口頸部破片(41坑1)を図示したが、土坑時期を反映するものではない。また、本土坑は5号住が跡下に位置し、あるいは掘り込

みの可能性もある。土坑時期は中期後葉～後期前葉としたい。

61区46号土坑(第246・248図 PL.124)

調査区北東端に位置する。15号住と重複して確認された不整形土坑である。P56・P105と重複する。15号住、ピットともに新旧は不明である。掘り込みは良好で、箱形の断面形を示す。出土遺物として、加曾利EⅡ式体部破片(46坑1)、五領ヶ台式体部破片(46坑2)を図示したが時間幅がある。土坑の時期は中期後葉以降となる。

61区47号土坑(第246・248図 PL.48・124)

調査区北東端の14号住床面で調査された。複数のピットが重複するが、P70が本土坑を切り、P71が古い新旧関係を土層から得ている。不整形長方形土坑で、掘り込みは深い。出土遺物として、諸磯b式体部破片(47坑1)、堀之内2式(47坑2)を図示したが、時間幅があるため、土坑時期は後期前葉以降と考えた。

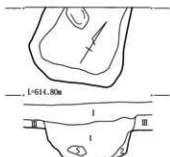
61区48号土坑(第246図 PL.48)

調査区北東部にある25号住床下で確認された。P126が重複し、P44が近接する。新旧は不明である。不整形土坑で、掘り込みは浅く皿状の断面形を示す。出土遺物は見られず、埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

61区49号土坑(第246・248図 PL.48・125)

調査区北東部の14号住と25号住に重なる。47坑と東壁が接する。ローム漸移層で確認された不整形土坑である。掘り込みは良好で箱形の断面形を示す。加曾利EⅡ式口頸部破片(49坑1)が出土した。土坑の時期は中期後

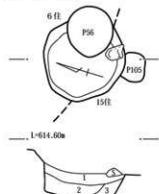
61区25号土坑



61区25号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒を少量含む

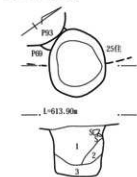
61区46号土坑



61区46号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を多く含む
- 2 暗褐色土 ローム小塊を少量含む
- 3 暗褐色土 ローム大塊を多く含む

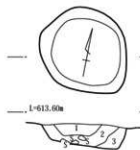
61区49号土坑



61区49号土坑上層

- 1 黒褐色土 ローム小塊・黄色粒を多く含む
- 2 黒褐色土 ローム粒を少量含む
- 3 暗褐色土 ローム粒を多く含む

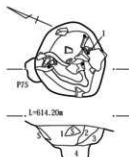
61区33号土坑



61区33号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を多く含む
- 2 黒褐色土 ローム小塊・礫を含む
- 3 暗褐色土 ローム粒を多く含む

61区40号土坑



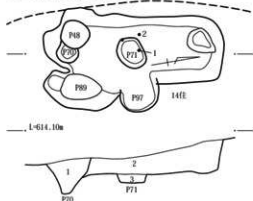
61区40号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を多く含む
- 2 暗褐色土 ローム大塊を含む
- 褐色土 ローム大塊を多く含む
- 4 暗褐色土 ローム大塊を多く含む

61区41号土坑



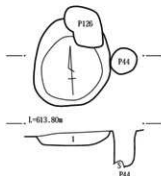
61区47号土坑、P70-71



61区47号土坑、P70-71 上層

- 1 暗褐色土 ローム大塊・黄色粒を多く含む (P70)
- 2 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を多く含む (47坑)
- 3 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を少量含む (P71)

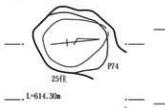
61区48号土坑



61区48号土坑上層

- 1 暗褐色土 ローム粒・黄色粒を多く含む

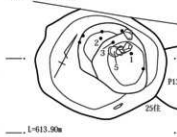
61区50号土坑



61区50号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム塊・黄色粒を含む
- 3 暗褐色土 ローム粒を多く含む

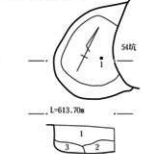
61区51号土坑



61区51号土坑上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム塊・黄色粒を少量含む
- 3 黒褐色土 ローム粒を少量含む
- 4 暗褐色土 ローム小塊を多く含む

61区52号土坑



61区52号土坑上層

- 1 黒褐色土 ローム粒・黄色粒を多く含む
- 2 黒褐色土 ローム小塊・黄色粒を多く含む
- 3 にぶい・黄褐色土 ローム塊主体

0 1 : 40 1m

第246図 土坑2 61区(1)

葉以降としたい。

61区50号土坑(第246・248図 PL.48・125)

調査区北東部の25号住床面で調査された。P74が重複するが25号住と共に新旧は不明である。ローム漸移層で確認された不整形円形土坑である。掘り込みは深く柱穴状となる。出土遺物は埋土土であるが、「郷土式」体部破片(50坑1)、加曾利EⅢ式体部破片(50坑2)、打製石斧(50坑3)を図示した。土坑の時期は出土土器から、中期後葉後半段階におきたい。土坑の性格としては柱穴としての位置付けもある。

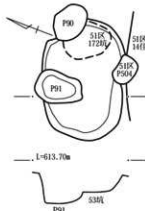
61区51号土坑(第246・248図 PL.48・125)

調査区北東部25号住床面で調査された。北側の一部を調査区域外に延ばすが、大型の不整形円状土坑である。掘り込みも良好で壁も直立気味に立ち上がる。また坑底面にピットが重複する。土層からは本土坑が新しい。出土遺物として、「郷土式」の口縁部破片(51坑1)、体部破片(51坑2)、堀之内1式の体部破片(51坑3)、打製石斧(51坑4)、凹石(51坑5)を図示した。出土土器に時間幅があるため、土坑時期は後期前葉以降と考えた。また、坑底面のピットは深く、柱穴の可能性が高い。

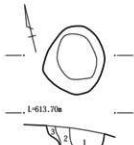
61区52号土坑(第246・248図 PL.125)

調査区北東部5号住範囲に重なる。東側を54坑と重なるが、54坑は中世～近世の所産とされている。重複のため平面形は不明だが、おそらく不整形形を呈する。掘り込みも良好で箱形の断面形であろう。出土遺物は、堀之内1式体部破片(52坑1)、加曾利EⅡ式体部破片(52坑2)を見る。土坑の時期は出土土器の時間幅があるため、後期前葉以降としたい。

61区53号土坑



61区55号土坑



61区55号土坑土層

- 1 黄褐色土 黒色土塊とローム塊からなる
- 2 褐色土 褐色土塊とローム塊を含む
- 3 黄褐色土 ローム塊主体

61区56号土坑



61区56号土坑土層

- 1 暗褐色土 ローム小塊・黄色粒を含む
- 2 褐色土 ローム大塊を多く含む
- 3 黒色土 均質。別種遺構埋土



61区53号土坑(第247・248図 PL.48・125)

調査区北東部に位置する。51区境界に跨がり、51区14号住北に接する。51区172坑やP90・P91が重複するが、詳細な新旧は不明である。ローム漸移層下位で確認された不整形円状土坑である。掘り込みはやや浅く、皿状の断面形を示す。出土遺物として、加曾利EⅡ式体部破片(53坑1)、加曾利EⅠ式体部破片(53坑2～4)、勝飯3式(53坑5)を図示した。出土遺物の時間幅があり、土坑時期の特定には至らない。中期後葉以降と考える。また、51区172坑は堀之内1式の逆位小型深鉢を出土している。172坑を墓塚として位置付けた場合、本土坑と一体化となる可能性も指摘したい。

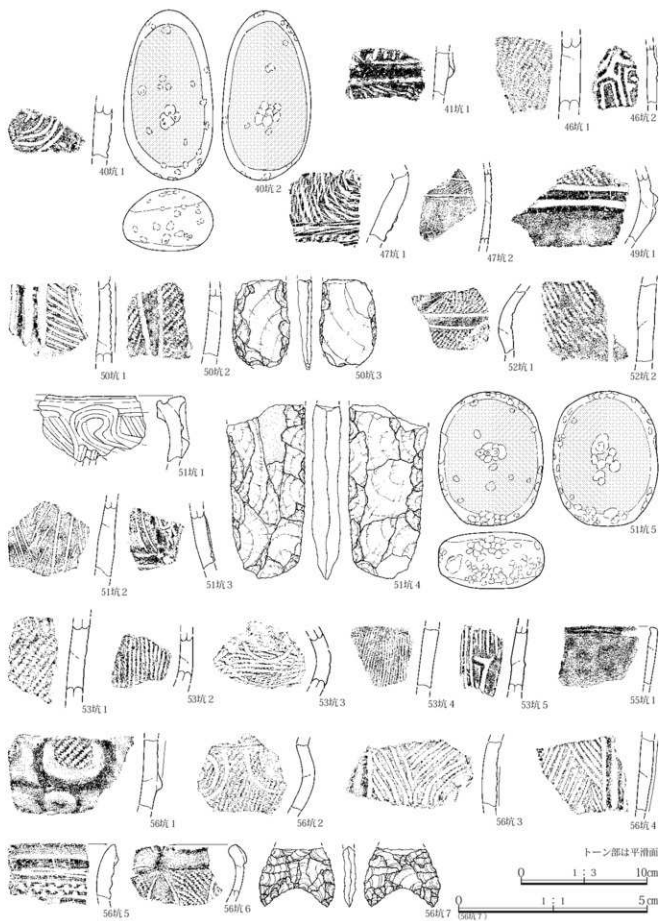
61区55号土坑(第247・248図 PL.48・125)

調査区北東部に位置する。52区南西に近接する。ローム漸移層下位で確認された不整形円形土坑である。掘り込みはやや浅く、鍋底状の断面形を示す。出土遺物は、堀之内1式の口縁部破片(55坑1)を見る。1点のみの出土で土坑時期は確定できず、後期前葉以降の所産と考えた。

61区56号土坑(第247・248図 PL.48・125)

調査区北東部に位置する。5号住範囲内にある。42坑・44坑が近接する。ローム漸移層下位で確認された不整形円状土坑である。掘り込みは浅く、鍋底状の断面形を示す。出土遺物として、加曾利EⅢ式体部破片(56坑1・2)、「郷土式」体部破片(56坑3・4)、加曾利EⅠ式口縁部破片(56坑5)、加曾利EⅣ式口縁部破片(56坑6)、石鏝(56坑7)を図示した。土坑時期は5・6を混入と考え、中期後葉中頃～後半段階におきたい。

第247図 土坑2 61区(2)



第248図 土坑2 61区出土遺物

第5節 竪穴状遺構

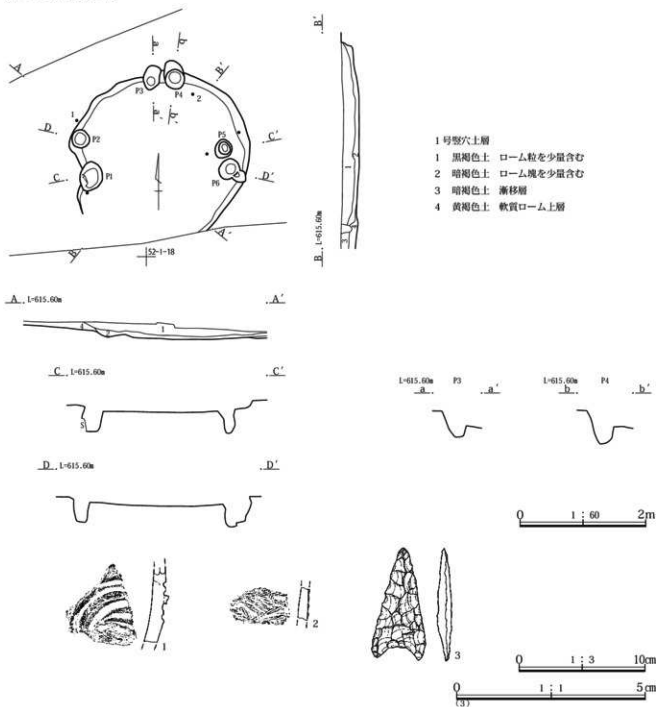
ここでは、炉跡を持たず、径2m以上で底面が比較的平坦な竪穴状遺構の遺構を扱う。おそらく上屋が想定され、居住に伴う施設と思われるが、詳細な性格までは特定できなかった。

本遺跡では竪穴状遺構として51区1号竪穴状遺構、2号竪穴状遺構が調査されていた。しかしながら、整理段

階で1号竪穴状遺構は28号住北壁に、2号竪穴状遺構は29号住に変更した。1号竪穴状遺構は、分割調査において28号住調査に先行したため、住居跡の一部と把握できずに竪穴状遺構として調査されていた。2号竪穴状遺構は、底面中央に小型の炉跡を見るため、住居跡として遺構名を変更した。

ここでは、あらためて52区1号竪穴状遺構を報告する。

52区1号竪穴状遺構



52区1号竪穴状遺構は、調査段階では52区50号土坑とされていたが、整理作業で土坑としての位置付けより竪穴状遺構としての報告が妥当と判断した遺構である。

52区1号竪穴状遺構(第249図 PL.49・125)

位置・重複：調査区北西部の52区H・I-18グリッドに位置する。重複遺構は無く単独の検出である。49坑・53坑・54坑が近接するが距離を置く。周辺は南側への緩斜面地形が広がり、そのため本遺構の南側壁の検出は果たせなかった。

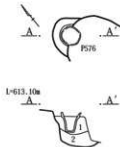
経過・規模：ローム漸移層を確認面とした、径約290×270cmの不整形形を平面形とする。深さは約30cmを測り、軟質ローム上面を底面とする。底面はほぼ平坦面を築く。

焼土や硬化面は見られなかった。

北・東・西壁にピットが2基一对で検出されている。2基のピットの新旧は不明だが、壁際の柱穴として位置付けられよう。南側は検出が果たせなかったが、斜面地形による逸失とするより、南側には柱穴を設けず、出入口部を大きく開口する構造も想定できる。

遺物・所見：出土遺物は少なく、「新巻類型」体部破片(1)、諸磯b式体部破片(2)、石鏃(3)を図示した。遺構の時期は出土土器の時間幅があるため特定できないが、中期中葉以降と考えた。

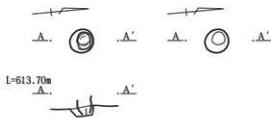
51区1号埋設土器



51区1号埋設土器土層

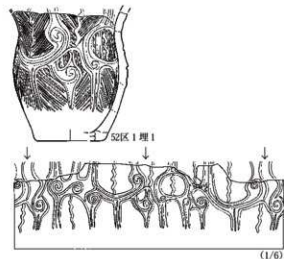
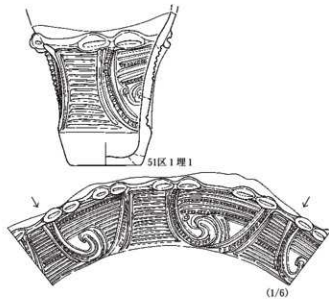
- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒を少量含む

52区1号埋設土器



52区1号埋設土器土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を微量含む。軟質



第250図 51区1号埋設土器・1号埋設土器出土遺物 52区1号埋設土器・1号埋設土器出土遺物

第6節 埋設土器

ここでは、住居跡や土坑など竪穴遺構以外から出土した土器を扱う。しかし、掘り込みを持たずにまとまった出土を示した土器は除外し、遺構外出土として扱った。

また調査では、ここでいう埋設土器を埋裏として遺構番号を付していたが、本書では埋裏は住居跡内の例に限り、住居跡や土坑外の例を埋設土器とした。

51区1号埋設土器(第250図 PL.49・125)

位置・重複：51区0-23グリッドに位置する。調査区中央やや北東寄りあたり、139坑と140坑の間にあり、土坑より上層の調査で検出されているが、新旧は不明である。またP576が南側に重複しており、埋設土器の掘り込みを壊す。

経過・規模：確認面としてローム漸移層で、埋設土器上端部を見た。掘り込みは小規模で、径約30cmの不整形円形を呈し、深さは約32cmを測る。壁はしっかりとした立ち上がりを示す。土器は口縁部を欠き正位で埋設されていた。底部も残存する。

遺物・所見：単独の出土で伴遺物は無い。埋設された土器は勝坂3式の小形深鉢である。口縁部を欠くが体部～底部は残存している。内面体部下に煤が付着することから、転用による埋設と考えられよう。

52区1号埋設土器(第250図 PL.49・125)

位置・重複：調査区南西部の52区C-13グリッドに位置する。重複遺構としては15号住があるが、15号住に先行した検出であり、新旧は埋設土器が新しいことになる。また、本例は遺構外出土遺物として扱われていたが、掘り込みや土層図があるため、整理段階で埋設土器として位置付けた経緯がある。

経過・規模：15号住上層で調査されたため、黒褐色土が確認面である。掘り込みは小型で浅い。基盤土に比してやや軟質な黒褐色土を埋土とする。

遺物・所見：口縁～体部上半を欠する小型深鉢が、若干東に傾く正位で埋設されていた。底部の一部を欠くが、意図的な欠損としては判断が付かなかった。「郷土式」初現期の様相を示す個体である。体部中位に煤が付着しており、転用による埋設と考えた。

第7節 灰跡

住居跡内で検出されず、焼土を堆積した施設を灰跡と

位置付けた。51区30号住居跡とした石囲いの中も本節で扱うことも考えたが、30号住は住居跡群内にある石囲い灰のため、独立した灰跡とせず、住居跡として報告した。

51区1号灰跡(第251・260図 PL.49・125)

位置・重複：調査区北側の51区Q-25グリッドに位置する。周辺は土坑、ピットが群在し、南西に247坑が重複する。新旧は不明だが、土坑群調査前の検出である。

経過・規模：黒褐色土の調査中に焼土と埋設土器を検出し、住居跡の可能性を踏まえて、周辺を精査したが、住居跡平面形、柱穴も見出せず、単独の灰跡として位置付けた。その際、灰跡断ち割り調査のため、南側に試掘坑を設けたため、掘り込みの南半は調査できなかった。

径約67cmの不整形円形を平面形とする掘り込みを有す。深さは約20cmを測る。大型深鉢体部下半が正位で埋設され周辺に焼土塊が環状に見られた。土層では、環状焼土塊を掘り込む様相を示しており、さらに土器内部にも焼土の堆積が見られることから、加熱施設として位置付けられよう。

遺物・所見：埋設土器は加曾利EⅢ式深鉢体部下半である。内面に器壁剥落痕跡を見ることから、灰体土器として使用されていたようだ。周辺の焼土塊と灰体土器の在り方から、おそらく埋裏灰として位置付けられ、住居跡の存在も予想されよう。時期は中期後葉後半段階である。

第8節 焼土遺構

前節に述べた灰跡と同様に、焼土を堆積しながらも、配置上から灰跡として位置付けられなかった例を、焼土遺構として本節で報告する。

本書で扱う地点では130近い焼土遺構(以下焼土)が対象である。そのうち、明らかに中世～近世の焼土は省略し、第3分冊で報告することとし、縄文時代に比定される例と時期不明の焼土を扱った。

51区1号焼土(第251・260図 PL.50・125)

調査区北側の51区S-23グリッドに位置する。上層の調査で下位には153～155坑がある。東側には3号列石が弧状に近接する。黒褐色土で確認された。不整形円形の平面形で浅い皿状の断面形を呈す。焼土は塊状に全面に広がる。遺物として、焼土南の遺構外から出土した2点を図示した(1焼1・2)。焼土内出土の破片は小片のため図示に堪えなかった。1は堀之内2式、2は堀之内1

式であろう。焼土時期は特定できないが後期前葉の可能性がある。

51区2号焼土(第251図)

調査区北西部の遺構密集地点より東に距離を置く。51区U-22グリッドに位置する。3号焼土が西に近接する。確認面は黒褐色土中である。焼土塊がまとまるため、断面を観察したが、掘り込みは持たず、焼土塊の堆積が確認できた。遺物の出土は無く、時期は不明である。

51区3号焼土(第251図)

51区U-22グリッドに位置する。2号焼土西に近接する。黒褐色土中で2号焼土と同時に確認された焼土塊の集中である。掘り込みを持たない、焼土の堆積によるものである。遺物の出土は無く、時期は不明である。

51区4号焼土(第251・260図 PL.50・126)

51区V-22グリッドに位置する。調査区北西部の遺構密集地点北東にあたる。12号住、5号焼土・6号焼土が近接する。上層の黒褐色土で確認した。掘り込みを持ち、不整形形で浅い皿状の断面形を示す。焼土塊が中央部分と底面にも見られた。出土遺物として称名寺式の口頸部破片(4焼1・2)を図示した。焼土の時期を後期初頭に求めたい。

51区5号焼土(第251・260図 PL.50・126)

51区W-22グリッドに位置する。調査区北西部の遺構密集地点にある。12号住、4号焼土・6号焼土が近接する。黒褐色土で焼土塊の集中が確認された。不整形の平面形を呈し、掘り込みを持つが不連続な断面形を示す。遺物は称名寺式の頸部破片(5焼1)が出土した。焼土の時期は後期初頭としたい。

51区6号焼土(第252・260図 PL.50・126)

調査区北西部の遺構密集地点にある。51区W-22グリッドに位置する。12号住、5号焼土が近接する。黒褐色土で焼土塊の集中が小範囲で確認された。不整形円状で浅い皿状の断面形の掘り込みを持つ。出土遺物として称名寺式体部破片(6焼1・2)を図示した。焼土の時期としては後期初頭を充てたい。

51区7号焼土(第252図)

51区T-U-21グリッドに位置する。遺構密集地点の東にやや距離を置く。近接遺構はなく、北西に2号焼土・3号焼土、南に11号焼土を見る。上層の黒褐色土で確認された焼土塊の散布である。掘り込みの確認を行ったが、

焼土塊の堆積を見たのみである。遺物の出土はなく、時期は不明とした。

51区8号焼土(第252・260図 PL.50・126)

遺構密集地点東の51区V-20・21グリッドに位置する。西に7号住が近接する。黒褐色土中で、遺物と伴に大型の焼土塊が集中して検出された。浅い皿状の断面形を呈す楕円状の掘り込みを持つ。出土遺物は、称名寺式頸部破片(8焼1)と加曾利EⅡ式体部破片(8焼2)が出土した。時間幅があるため、焼土の時期としては後期初頭以降としたい。

51区9号焼土(第252・260図 PL.50・126)

調査区中央の51区R-21グリッドに位置する。東～南東に13号住や18号住が近接する。黒褐色土で焼土塊が点在した状態で確認された、浅い楕円状の掘り込みを持つ焼土である。出土遺物として、堀之内1式の口縁部突起片(9焼1)を図示した。焼土の時期は後期前葉以降と考えたい。

51区10号焼土(第252・260図 PL.50・126)

調査区中央に位置する13号住南、18号住東に近接する。グリッドは51区P-20である。黒褐色土中で土器片と伴に検出された焼土塊を主体とする。浅い不整形の掘り込みを持つ。出土遺物として称名寺式口縁部小破片2点(10焼1・2)を図示した。焼土の時期は後期初頭と考えた。

51区11号焼土(第252図)

遺構密集地点東の51区U-20グリッドに位置する。西に13号焼土が近接する。黒褐色土中の確認で溝状に焼土塊が連続する。掘り込みの確認をしたが、焼土塊の堆積を見るのみである。出土遺物も無く、時期は不明である。

51区12号焼土(第252・260図 PL.50・126)

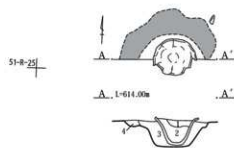
調査区中央に位置する13号住北西隅に接する。51区Q-21グリッドに位置する。黒褐色土中で小範囲に焼土塊が確認された。不整形円状で浅い掘り込みを持つ。出土遺物は5点を図示したが、堀之内式の口縁部破片(12焼1・2)は同一個体、体部破片(12焼3・4)も同一個体であろう。他に石鏃未製品(12焼5)もある。焼土時期としては、後期前葉と考えた。

51区13号焼土(第252図)

遺構密集地点東の51区U-20グリッドに位置する。東に11号焼土、西に20号焼土が近接する。黒褐色土中で焼土塊が小規模に確認された。掘り込みを持たず、遺物の出

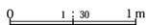
第3章 発見された遺構と遺物

51区 1号炉跡

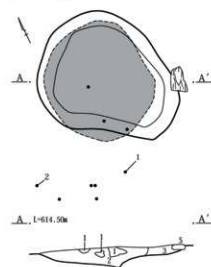


51区 1号炉跡土層

- 1 暗褐色土 焼土粒を少量含む
- 2 暗褐色土 焼土粒・ローム粒を含む
- 3 黒褐色土 白色粒を少量含む
- 4 暗褐色土 焼土塊を多く含む



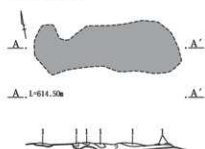
51区 1号焼土



51区 1号焼土土層

- 1 赤褐色土 焼土塊を主体とする
- 2 暗褐色土 焼土粒を少量含む
- 3 暗褐色土 ローム粒を微量含む

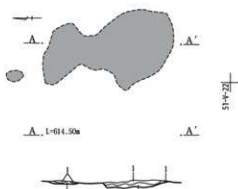
51区 2号焼土



51区 2号焼土土層

- 1 赤褐色土 焼土塊を主体とする
- 2 暗褐色土 焼土粒を含む

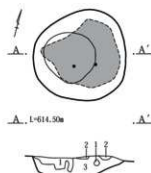
51区 3号焼土



51区 3号焼土土層

- 1 赤褐色土 焼土塊を主体とする
- 2 暗褐色土 焼土粒を少量含む

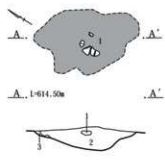
51区 4号焼土



51区 4号焼土土層

- 1 赤褐色土 焼土塊を主体とする
- 2 黒褐色土 少量のローム粒・炭化物を含む
- 3 黒褐色土 焼土塊を多く含む

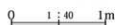
51区 5号焼土



51区 5号焼土土層

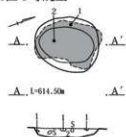
- 1 赤褐色土 焼土塊
- 2 暗褐色土 焼土粒を含む
- 3 黒褐色土 ローム小塊を少量含む

トーン部は焼土



第251図 炉跡・51区焼土(1)

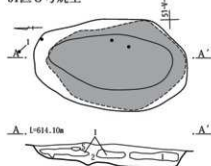
51区6号焼土



51区6号焼土上層

- 1 赤褐色土 焼土塊を主体とする
- 2 暗褐色土 焼土粒を含む

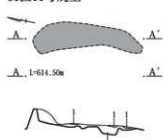
51区8号焼土



51区8号焼土上層

- 1 赤褐色土 焼土塊を主体とする
- 2 暗褐色土 焼土粒を含む

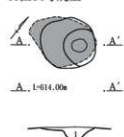
51区11号焼土



51区11号焼土上層

- 1 赤褐色土 焼土塊を主体とする
- 2 黒褐色土 ローム粒を少量含む

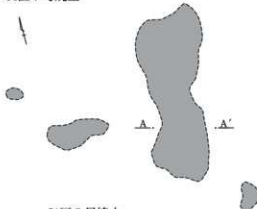
51区14号焼土



51区14号焼土上層

- 1 黒褐色土 焼土粒を含む

51区7号焼土



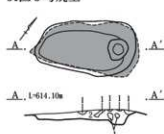
51区7号焼土上層

- 1 赤褐色土 焼土塊を主体とする
- 2 黒褐色土 焼土粒を含む
- 3 暗褐色土 焼土粒を微量含む

A., L=614.50m A.′



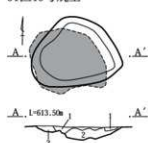
51区9号焼土



51区9号焼土上層

- 1 赤褐色土 焼土塊
- 2 黒褐色土 焼土粒を少量含む

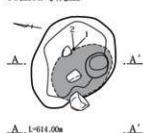
51区10号焼土



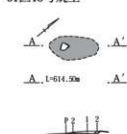
51区10号焼土上層

- 1 暗褐色土 焼土粒を少量含む
- 2 赤褐色土 焼土塊を多く含む

51区12号焼土



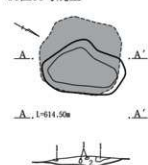
51区13号焼土



51区13号焼土上層

- 1 黒褐色土 焼土粒を含む
- 2 暗褐色土 焼土粒を多く含む

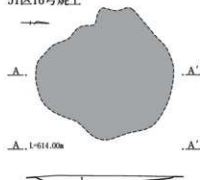
51区15号焼土



51区15号焼土上層

- 1 赤褐色土 焼土塊を主体とする
- 2 黒褐色土 焼土粒を少量含む

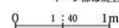
51区16号焼土



51区16号焼土上層

- 1 赤褐色土 焼土粒を多く含む

トーン部は焼土



第252図 51区焼土(2)

土を見ないため、時期は不明とした。

51区14号焼土(第252図)

調査区中央の51区O-21グリッドに位置する。13号住の東にあたり、34号焼土・37号焼土、4号集石が近接する。黒褐色土中で焼土粒が集中して確認された。浅い円形の掘り込みを持ち、東側はピット状に凹む。出土遺物は無く、時期は不明である。

51区15号焼土(第252図)

調査区北東部の51区R-24グリッドに位置する。西に3号列石、北東に40号焼土、1号がが近接する。確認面は黒褐色土中で、焼土塊が小範囲にまとまる。浅い皿状の掘り込みを持つ。遺物の出土は無く、時期は不明である。

51区16号焼土(第252図)

調査区中央やや北東寄りの51区P-22グリッドに位置する。距離を置いて、13号住、34号焼土・37号焼土を見る。黒褐色土中で焼土粒が薄く堆積して確認された。周辺には土器片が散布していたが、いずれも小片のため、図化に至らなかった。中期後葉の所産である。

51区17号焼土(第253図)

調査区北西部の遺構密集地点の51区X-20グリッドに位置する。5号住と重なるが上層の黒褐色土中で確認されている。焼土粒が薄く小範囲にまとまる。南側に大型自然石を見るが、被熱痕跡も無く、炉石の類ではない。出土遺物は無く、時期は不明である。

51区18号焼土(第253図 PL.50)

調査区北西部の遺構密集地点東の51区U-21グリッドに位置する。30号土坑と重複し北側を壊されるが、新旧は不明である。2号焼土・3号焼土・7号焼土が近接する。黒褐色土中で確認された小ピット状の掘り込み上層に焼土がまとまる。出土遺物は無く、時期は不明である。

51区19号焼土(第253図 PL.50)

調査区北西部の遺構密集地点東の51区V-21・22グリッドに位置する。12号住が西に、3号焼土が北東に近接する。ローム漸移層で焼土塊のまとまりとして確認された。不整形で浅い皿状の掘り込みを持つ。出土遺物は無く、時期は不明だが、縄文時代の所産であろう。

51区20号焼土(第253図)

遺構密集地点東の51区U-20グリッドに位置する。8号焼土・13号焼土が近接する。黒褐色土中の確認で小規模な範囲で焼土塊がまとまる。出土遺物は無く、時期は不

明である。

51区21号焼土(第253図)

調査区中央部の51区T・U-19グリッドに位置する。近接遺構は見られないが、下層調査で51坑・52坑が調査されている。黒褐色土中で小規模な範囲で焼土塊がまとまる。遺物の出土は見られず、時期は不明である。

51区22号焼土(第253図 PL.50)

調査区北西部の遺構密集地点の51区V・W-20グリッドに位置する。7号住上層の調査である。7号住埋土である暗褐色土中で小規模な範囲で焼土塊がまとまる。円形で浅い皿状の掘り込みを持つ。出土遺物は無く、時期は不明であるが、縄文時代の所産であろう。

51区23号焼土(第253図 PL.50)

調査区北西部の遺構密集地点東の51区W-21グリッドに位置する。7号住上層の調査で、7号住埋土である黒褐色土で小規模な範囲で焼土粒がまとまる。不整形皿状で皿状の掘り込みを持つ。遺物の出土は無く、時期は不明であるが、縄文時代の所産であろう。

51区24号焼土(第253図)

調査区北西部の遺構密集地点東の51区W-21グリッドに位置する。7号住北壁上で7号住埋土である暗褐色土で小規模な焼土塊がまとまる。不整形で皿状の掘り込みを持つ。出土遺物は無く、時期は不明であるが、縄文時代の所産であろう。

51区25号焼土(第253図 PL.126)

調査区北西部の遺構密集地点の51区X-20グリッドに位置する。2号住上層の暗褐色土で小規模な焼土塊がまとまる。掘り込みはなく、薄い堆積を示す。遺物は石鏝未製品(25焼1)が出土している。出土土器を見ないため時期は不明だが、縄文時代の所産であろう。

51区26号焼土(第253図)

調査区北西部の遺構密集地点の51区W-19グリッドに位置する。2号住と6号住重複部分上層の暗褐色土で小規模な焼土塊の点を見つめた。掘り込みは無く、薄い堆積を示す。出土遺物は無く時期は不明だが、縄文時代の所産であろう。

51区27号焼土(第254図)

調査区北西部の遺構密集地点の51区W-19グリッドに位置する。2号住南側に重なる。ローム漸移層で焼土塊のまとまりが広範囲に見られた。不整形の平面形で浅い皿

状の掘り込みを示す。おそらく2、3基の焼土遺構の重複と思われるが、新旧は不明である。出土遺物は土器細片の出土を見るが、無文で判断できなかった。縄文時代の所産である。

51区28号焼土(第253区)

調査区北西部の遺構密集地点の51区W-20グリッドに位置する。7号住を切る103坑上層で確認された。103坑は中世～近世に比定されており、本焼土遺構は縄文時代の所産ではない。

51区29号焼土(第253区 PL.50)

調査区北西部の遺構密集地点南の51区X-19グリッドに位置する。北東に2号住、27号焼土が近接する。ローム漸移層で焼土塊のまとまりとして確認された。径68cm程の円形で浅い掘り込みを持つ。出土遺物は無く、時期は特定できないが、縄文時代の所産であろう。

51区30号焼土(第254区)

調査区北西部の遺構密集地点の51区W-21グリッドに位置する。7号住北壁に重複する96坑上層で調査された。96坑埋土である暗褐色土中に焼土塊のまとまりとして確認された。浅い掘り込みを持つ。出土遺物は無く、時期は不明である。

51区31号焼土(第254・260区 PL.50・126)

調査区北西部の遺構密集地点北東の51区W-23グリッドに位置する。調査区北壁に接する。4号焼土・5号焼土が南に近接する。ローム漸移層で焼土塊のまとまりとして確認された。土坑状の掘り込みを持ち、調査では98坑としても調査されている。径約70×57cmの不整形を平面形とし、深さは51cmを測る。焼土は上層に集中していた。出土遺物として、堀之内1式の口縁部破片(31焼1)と注口土器底部(31焼2)を図示した。焼土の時期としては後期前葉を充てたい。

51区32号焼土(第254・260区 PL.50・126)

調査区中央の51区Q-20グリッドに位置する。18号住埋土中で、掘り込みを持たない小型の焼土塊のまとまりとして確認された。遺物は中期後葉の破片3点(32焼1～3)を図示したが、18号住が中期後葉新段階～後期初頃におかれる敷石住居跡のため、焼土遺構の出土土器は混入・混在としたい。

51区33号焼土(第254・261区 PL.51・126)

調査区中央部の51区P-20グリッドに位置する。13号住

南東に近接する。ローム漸移層で遺物と焼土塊のまとまりが見られた。掘り込みは不整形で浅く皿状を呈す。上層より出土遺物が見られた。3点を図示したが、おそらく同一個体であろう(33焼1～3)。堀之内1式に比定される。出土土器から焼土の時期は後期前葉に求めたい。51区34号焼土(第254・261区 PL.51・126)

調査区中央部の51区P-21・22グリッドに位置する。西に13号住、東に14号焼土・37号焼土が近接する。ローム漸移層で焼土塊のまとまりが見られた。掘り込みは不整形円状で浅く皿状を呈す。出土遺物として、堀之内1式の口縁部破片(34焼1)を図示した。1点のみの出土のため、詳細な時期特定は避けるが、後期以降の所産と考えられる。

51区36号焼土(第254・261区 PL.51・126)

調査区東端の51区K-24グリッドに位置する。9号住・10号住を南に、60号焼土を北に近接する。軟質ローム上層で確認された。径約115×98cmの円形を平面形とし、深さは104cmを測る円柱状の断面形を呈す。焼土は上層に塊状に堆積していた。約20cmの層厚である。下位層はローム塊を主体とした埋土である。出土遺物として底面より「郷土式」の浅鉢(36焼1・2)、焼土層下より小型石皿(36焼3)の出土を見る。墓域あるいは貯蔵穴が埋没後上層で焚火が行われたのであろうか。時期は中期後葉中頃と考えた。なお、調査時において本遺構は137号土坑としても記録されている。

51区37号焼土(第254区 PL.51)

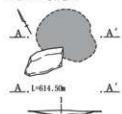
調査区中央の51区O-22グリッドに位置する。14号焼土・37号焼土などが近接する。ローム漸移層で焼土塊のまとまりとして確認された。浅い皿状の掘り込みで遺物の出土は無い。時期は不明だが、縄文時代の所産であろう。51区38号焼土(第254区 PL.51)

調査区中央の51区Q-22グリッドに位置する。13号住、12号焼土の北に近接する。ローム漸移層で大型の焼土塊を主体として確認された。掘り込みは浅く皿状の断面形を示す。出土遺物は無く、時期の特定はできないが、縄文時代の所産であろう。

51区39号焼土(第254区)

調査区東側の51区M-23グリッドに位置する。29号住南東に距離を置く。ローム漸移層で焼土粒のまとまりを確認した。ピット状の掘り込みだが、浅く不安定である。

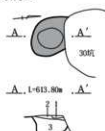
51区17号焼土



51区17号焼土土層

- 1 黒褐色土 焼土粒を含む

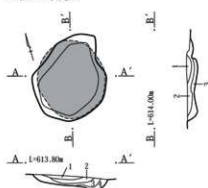
51区18号焼土



51区18号焼土土層

- 1 赤褐色土 焼土。連続的な濃淡を見る
2 オリーブ褐色土 焼土粒を少量含む
3 オリーブ褐色土 ローム小塊を少量含む

51区19号焼土



51区19号焼土土層

- 1 赤褐色土 焼土。連続的な濃淡を見る
2 オリーブ褐色土 焼土粒を少量含む
3 オリーブ褐色土 黄色粒を少量含む
4 オリーブ褐色土 ローム小塊を少量含む

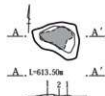
51区20号焼土



51区20号焼土土層

- 1 赤褐色土 焼土塊
2 黒褐色土 焼土粒を含む

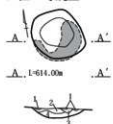
51区21号焼土



51区21号焼土土層

- 1 赤褐色土 焼土塊
2 黒褐色土 焼土粒を多く含む

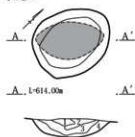
51区22号焼土



51区22号焼土土層

- 1 橙色土 焼土塊。白色粒を微量含む
2 暗褐色土 焼土粒・白色粒を微量含む
3 暗褐色土 焼土粒・白色粒を含む
4 暗褐色土 明るい。焼土粒含む

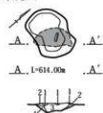
51区23号焼土



51区23号焼土土層

- 1 暗褐色土 白色粒・炭化物を微量含む
2 橙色土 焼土。連続的な濃淡を見る
3 暗褐色土 焼土小塊を少量。炭化物を微量含む
4 暗褐色土 ローム粒を少量含む

51区24号焼土



51区24号焼土土層

- 1 明褐色土 焼土塊
2 暗褐色土 焼土塊を線状に見る
3 オリーブ褐色土 白色粒を微量含む
4 オリーブ褐色土 ローム小塊を少量含む

51区25号焼土



51区25号焼土土層

- 1 橙色土 焼土塊
2 黒褐色土 焼土大塊を多く含む
3 暗褐色土 焼土大塊を少量含む

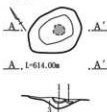
51区26号焼土



51区26号焼土土層

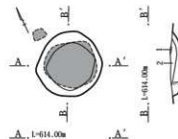
- 1 黒褐色土 焼土大塊を多く含む
2 橙色土 焼土塊
3 黒褐色土 焼土粒を微量含む。基盤土に類似

51区28号焼土



51区28号焼土土層

- 1 にぶい赤褐色土 焼土塊
2 暗褐色土 焼土を線状に見る
3 暗褐色土 白色粒・焼土粒を微量含む



51区29号焼土土層

- 1 赤褐色土 焼土塊
2 暗褐色土 焼土粒を多く含む。トーン部は焼土白色粒少量
3 暗褐色土 白色粒少量含む

第253図 51区焼土(3)

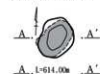
51区27号焼土



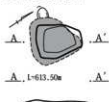
51区27号焼土上層

- 1 黒褐色土 焼土粒を微量含む
- 2 褐色土 焼土小塊・ローム小塊を少量含む
- 3 赤褐色土 やや暗い、焼土塊と褐色土塊
- 4 赤褐色土 焼土小塊を多く含む

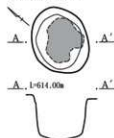
51区30号焼土



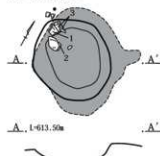
51区32号焼土



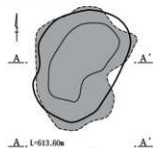
51区31号焼土



51区33号焼土



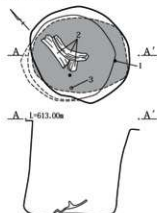
51区34号焼土



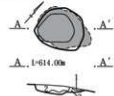
51区34号焼土上層

- 1 赤褐色土 焼土塊を主体とする
- 2 黒褐色土 焼土粒を含む

51区36号焼土



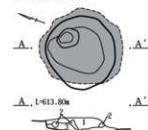
51区37号焼土



51区37号焼土上層

- 1 赤褐色土 焼土塊
- 2 暗褐色土 焼土小塊を含む
- 3 黒褐色土 焼土粒を少量含む

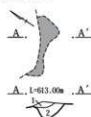
51区38号焼土



51区38号焼土上層

- 1 褐色土 焼土粒を多く含む
- 2 赤褐色土 焼土塊
- 3 暗褐色土 焼土粒を含む

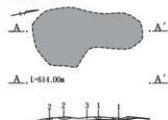
51区39号焼土



51区39号焼土上層

- 1 黒褐色土 焼土粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒を少量含む

51区40号焼土



51区40号焼土上層

- 1 赤褐色土 焼土塊を主体とする
- 2 赤褐色土 焼土塊・炭化物を含む
- 3 黒褐色土 焼土粒を少量含む

トーン部は焼土

0 1 : 40 1m

第254図 51区焼土(4)

出土遺物も無く、時期は不明である。

51区40号焼土(第254図)

調査区北東部の51区Q-24・25グリッドに位置する。埋喪炉である1号炉に接する。おそらく1号炉に関連する焼土であろう。ローム漸移層で焼土塊のまとまりを確認した。掘り込みは持たず堆積は薄い。出土遺物は無く、時期の特定はできない。1号炉の関連を踏まえると中期後葉後半段階と捉えられる。

51区42号焼土(第255図 PL.51)

調査区北東部の51区P-25グリッドに位置する。西側から南側へ45～47号焼土が近接し群をなす。ローム漸移層で焼土塊が環状にまとまった。掘り込みは浅く堆積は薄い。遺物の出土も無く、時期は不明だが、縄文時代の所産であろう。

51区43号焼土(第255図 PL.51)

調査区中央やや北東寄りの51区O-24グリッドに位置する。北東に11・14号住、44号焼土が近接する。ローム漸移層で焼土塊のまとまりを確認した。掘り込みは極めて浅く、堆積も薄い。出土遺物は無く、時期は不明だが縄文時代の所産とした。

51区44号焼土(第255図)

調査区中央やや北東寄りの51区O-24グリッドに位置する。北東に11・14号住、南西に43号焼土が近接する。ローム漸移層で小型の焼土塊のまとまりを確認した。掘り込みは極めて浅く、堆積も薄い。遺物は出土せず、時期は不明だが縄文時代の所産とした。

51区45号焼土(第255図)

調査区北東部の51区Q-24・25グリッドに位置する。東に42号焼土、南東に46号焼土・47号焼土が近接する。ローム漸移層で黒色灰と焼土粒のまとまりを確認した。掘り込みは浅く皿状を呈す。出土遺物は無く、時期の特定はできない。縄文時代の所産であろう。

51区46号焼土(第255図 PL.51)

調査区北東部の51区P-24グリッドに位置する。47号焼土が接し、42号焼土・45号焼土が近接する。ローム漸移層で黒色灰と伴に焼土塊のまとまりを確認した。掘り込みを持たず、堆積も薄い。遺物の出土は無く、時期は不明である。おそらく縄文時代の所産であろう。

51区47号焼土(第255図 PL.51)

調査区北東部の51区P-24に位置する。42号焼土・45号

焼土・47号焼土が近接する。ローム漸移層で黒色灰と伴に焼土塊のまとまりを確認した。掘り込みを持たず、堆積も薄い。出土遺物は無く、時期の特定はできないが、おそらく縄文時代の所産であろう。

51区50号焼土(第255図 PL.51)

調査区中央南西部の52区との境に位置する。51区Y-16グリッドにあたる。南東に20号住、北西に52区14号住が近接する。黒褐色土中でローム塊のまとまりを確認した。浅い不整形円状の掘り込みを持ち、底面まで焼土を堆積する。遺物の出土は無く、時期の特定はできないが、縄文時代の所産とした。

51区51号焼土(第255図 PL.51)

調査区中央南西部の51区X・Y-17グリッドに位置する。北に28号住、南に20号住・22号住が近接する。黒褐色土中で炭化物と伴に焼土塊のまとまりを確認した。平面形は不整形で浅い皿状の掘り込みを持つ。出土遺物は無く、時期の特定はできないが、縄文時代の所産とした。

51区54号焼土(第255・261図 PL.51・127)

調査区東端の51区K-25グリッドに位置する。南に60号焼土が近接する。中世～近世に比定される190坑底面で焼土粒のまとまりを確認した。浅い皿状の掘り込みを持つ。中層より遺物が出土した。「郷土式/体部破片(54焼1)」と底部(54焼2)を図示した。焼土の時期は確認面が中世～近世土坑底面であり、確定できない。縄文時代の所産とした。

51区55号焼土(第256図)

調査区中央東寄りの51区O-22グリッドに位置する。比較的遺構密度の低い箇所、西に37号焼土が近接する。ローム漸移層下位で焼土粒のまとまりを確認した。掘り込みは浅く皿状の断面形を示す。出土遺物は無く時期の特定はできないが、縄文時代の所産であろう。

51区56号焼土(第256図)

調査区中央南西部の52区との境に位置する。51区Y-16・17、52区A-16・17に跨がる。ローム漸移層で焼土塊のまとまりを確認した。掘り込みは深い平面図の記載が乏しいため、詳細は避ける。出土遺物は無く、周辺から陶磁器片の出土を見るため、縄文時代の所産とは言い難い。

51区57号焼土(第256・261図 PL.51・127)

調査区北東端の51区L・M-24・25グリッドに位置する。

北に59号焼土が近接する。ローム漸移層下位で焼土塊のまとまりを確認した。径70cm前後の円形土坑上層に焼土の堆積を見た。掘り込みは深く65cmを測り箱形の断面形を示す。中層から下層にかけて大型自然石の出土を見た。流入とは捉えられず、埋置であろうか。遺物は中層出土の「郷土式」体部破片(57焼1)と口縁部破片(57焼2・3)の出土を見た。2・3は同一個体である。36号焼土と同様な在り方であり、土坑上層による焼火行為が想起されよう。時期は中期後葉中頃と考えた。

51IK58号焼土(第256図)

調査区中央やや北東寄りの51IK0-25グリッドに位置する。11・14号住西に近接する。周辺は土坑、ピットが群在する箇所、本焼土遺構上層に焼土粒のまとまりが見られ、下位は重複した小ピット2基がある。おそらく焼土の散布とピットは別の性格によるものと思われ、分離すべきであろう。出土遺物は無い。

51IK59号焼土(第256図 PL.52)

調査区北東端の51IKL-M-25グリッドに位置する。南に57号焼土が近接する。ローム漸移層下位で焼土塊のまとまりを確認した。径87cm程の円形を平面形とし、深さ約81cmを測り、箱形の断面形を示す。上層に焼土塊の堆積を見る。中層から下層に角縁数個が出土したが、埋置の可能性もある。出土遺物も無く時期も不明だが、36号焼土と57号焼土との類似性は極めて重要である。

51IK60号焼土(第256・262図 PL.52・127)

調査区北東端の51IKK-24・25グリッドに位置する。36号焼土・54号焼土が近接する。軟質ローム上層で焼土粒のまとまりを確認した。掘り込みは約94×73cmの不整楕円状を平面形とし、深さは37cmを測る。箱形の断面形を示す。焼土は上層にまとまり、下層はローム粒を主体とした埋土である。出土遺物は曾利皿式であろうか、口縁部破片2点(60焼1・2)が出土している。本遺構も36号焼土や57号焼土との類似性を考えたい。時期は出土土器から中期後葉後半段階とする。

51IK61号焼土(第256・262図 PL.127)

調査区中央南西部の52区との境に位置する。51区Y-16・17に位置する。先に述べた56号焼土南東に接する。ローム漸移層で大型の焼土塊やローム塊のまとまりを確認した。不整形の掘り込みで、浅く皿状の断面形を示す。遺物は「郷土式」口縁部破片(61焼1)を図示した。時期は

特定できないが、中期後葉以降と判断した。

51IK62号焼土(第256図)

調査区南東部にある15号住北に位置する。51IKK-20グリッドにあたる。以降密度の低い箇所東に203坑が近接する程度である。ローム漸移層で焼土塊のまとまりを確認した。掘り込みは不整楕円状の平面形で、皿状の断面形を示す。遺物の出土は無く時期は特定できないが、縄文時代の所産とした。

52IK63号焼土(第257・262図 PL.52・127)

調査区中央南西部の51IKU-V-15グリッドに位置する。16号住南東にあり、253坑・274坑・275坑が近接する。ローム漸移層で焼土粒の集中を確認した。掘り込みは不整楕円状の平面形を呈し、断面形は皿状を示す。出土遺物として「郷土式」体部破片(63焼1)、打製石斧(63焼2)を図示した。出土土器1点のみの出土のため、遺構時期は中期後葉以降と考えた。

52IK64号焼土(第257図 PL.52)

調査区南東部の51IKK-18グリッドに位置する。15号住南西にあたり、219坑が近接する程度の遺構密度である。黒褐色土を確認面とする。焼土塊がまとまり焼土遺構として調査した。浅い楕円状の掘り込みを持ち、堆積も薄い。出土遺物は無く時期の特定はできないが、縄文時代の所産とした。

52IK65号焼土(第257図 PL.52)

調査区中央南西部にある22号住床面下で検出した。51区X-15・16グリッドに位置する。暗褐色土を確認面とし、浅い楕円状の掘り込みを持つ。堆積も薄い。出土遺物は見られず、時期の特定はできない。22号住が中期後葉中頃と考えたため、それ以前と捉えるべきか。

52IK66号焼土(第257図 PL.52)

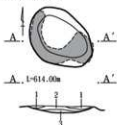
調査区南東部の51IKL-17グリッドに位置する。近接遺構は無く、南西に24号住を見る。黒褐色土中で大型の焼土塊のまとまりを確認した。不整形の平面形を呈す掘り込みで、浅く皿状の断面形を示す。出土遺物は無く、時期の特定には至らないが、縄文時代の所産である。

51IK68号焼土(第257・262図 PL.52・127)

調査区南東部の51IKM-17グリッドに位置する。比較的遺構密度は低く、259坑・260坑・269坑が近接する。黒褐色土中で焼土塊のまとまりを確認した。掘り込みは不整楕円状を呈すが、顕著では無く壁も不明瞭だった。出

第3章 発見された遺構と遺物

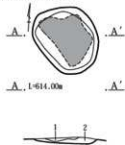
51区42号焼土



51区42号焼土層

- 1 赤褐色土 焼土塊
- 2 褐色土 焼土粒・炭化物を含む
- 3 暗褐色土 焼土粒を少量含む

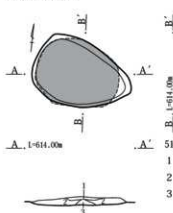
51区43号焼土



51区43号焼土層

- 1 赤褐色土 焼土塊を含む
- 2 褐色土 ローム粒を少量含む

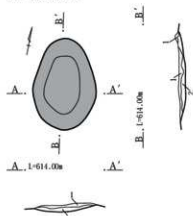
51区44号焼土



51区44号焼土層

- 1 暗褐色土 焼土小塊含む
- 2 褐色土 焼土粒含む
- 3 黒褐色土 ローム粒含む

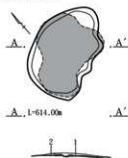
51区45号焼土



51区45号焼土層

- 1 暗褐色土 黒色灰混じりの焼土層
- 2 暗褐色土 焼土粒含む。基盤に近似

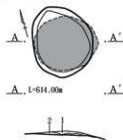
51区46号焼土



51区46号焼土層

- 1 赤褐色土 焼土塊と黒色灰を含む
- 2 暗褐色土 焼土粒・炭化物を微量含む

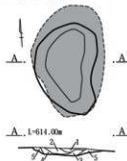
51区47号焼土



51区47号焼土層

- 1 赤褐色土 焼土塊・黒色灰を含む
- 2 暗褐色土 焼土粒・炭化物を微量含む

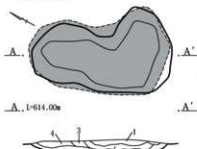
51区50号焼土



51区50号焼土層

- 1 黒褐色土 焼土粒を多く含む
- 2 黒褐色土 焼土塊・炭化物含む
- 3 黒褐色土 焼土小塊を含む
- 4 暗褐色土 ローム粒・焼土粒を含む
- 5 にぶい黄褐色土 焼土粒多く、炭化物を微量含む

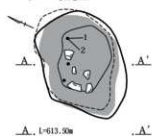
51区51号焼土



51区51号焼土層

- 1 黒褐色土 焼土粒・炭化物含む
- 2 暗褐色土 焼土粒を多量に含む
- 3 暗褐色土 しまり弱い。焼土粒を少量含む
- 4 明赤褐色土 焼土塊・褐色土塊を含む
- 5 褐色土 焼土小塊を少量含む

51区54号焼土

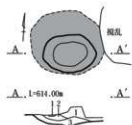


トーン部は焼土



第255図 51区焼土(5)

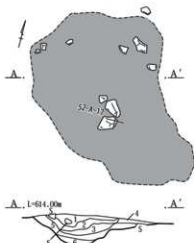
51区55号焼土



51区55号焼土土層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 赤褐色土 焼土粒を多く含む
- 3 暗褐色土 ローム粒・焼土粒を少量含む

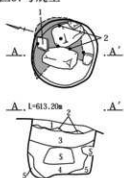
51区56号焼土



51区56号焼土土層

- 1 暗褐色土 礫、焼土少量含む
- 2 赤褐色土 焼土塊・ローム大塊・礫含む
- 3 褐色土 焼土塊編状に含む
- 4 暗褐色土 褐色色の灰含む
- 5 暗褐色土 焼土粒少量含む
- 6 褐色土 ローム塊を含む

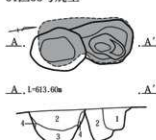
51区57号焼土



51区57号焼土土層

- 1 暗褐色土 焼土粒を含む
- 2 赤褐色土 焼土塊を主体とする
- 3 暗褐色土 焼土粒・炭化物を含む
- 4 黒褐色土 ローム小塊を少量含む
- 5 暗褐色土 ローム塊を多く含む

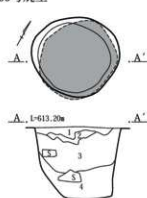
51区58号焼土



51区58号焼土土層

- 1 黒褐色土 焼土粒を含む
- 2 暗褐色土 上層に焼土粒を見る
- 3 黒褐色土 ローム粒を少量含む
- 4 褐色土 ローム粒を多く含む

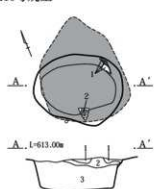
51区59号焼土



51区59号焼土土層

- 1 暗褐色土 焼土粒を多く含む
- 2 赤褐色土 焼土塊を主体とする
- 3 暗褐色土 暗い、焼土粒少量・As-YPk微量含む
- 4 暗褐色土 焼土粒微量・As-YPk少量含む

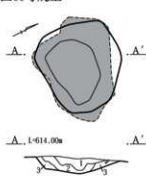
51区60号焼土



51区60号焼土土層

- 1 黒色土 しまり弱い
- 2 暗褐色土 焼土粒を含む
- 3 暗褐色土 ローム粒を主体とする。粘性あり

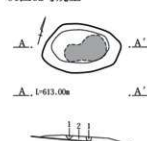
51区61号焼土



51区61号焼土土層

- 1 赤褐色土 焼土大塊・黄褐色土塊を含む
- 2 褐色土 焼土小塊を多く含む
- 3 暗褐色土 焼土粒を少量含む

51区62号焼土



51区62号焼土土層

- 1 赤褐色土 焼土塊を主体とする
- 2 黒褐色土 焼土粒を少量含む

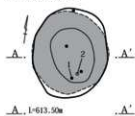
トーン部は焼土

0 1 : 40 1m

第256図 51区焼土(6)

第3章 発見された遺構と遺物

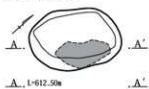
51区63号焼土



51区63号焼土土層

- 1 褐色土 焼土粒を含む

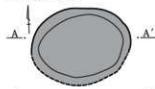
51区64号焼土



51区64号焼土土層

- 1 赤褐色土 焼土塊
2 黒褐色土 焼土粒を含む

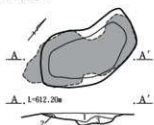
51区65号焼土



51区65号焼土土層

- 1 褐色土 焼土粒を含む

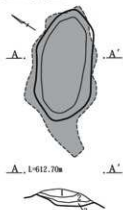
51区66号焼土



51区66号焼土土層

- 1 赤褐色土 焼土化したローム塊を主体とする
2 黒褐色土 焼土粒・黒色灰を含む
3 黒褐色土 焼土塊を含む

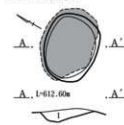
51区68号焼土



51区68号焼土土層

- 1 赤褐色土 焼土塊を主体とする
2 暗褐色土 焼土粒・黒色灰を含む
3 黒褐色土 焼土粒少量含む

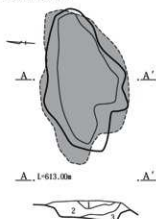
51区69号焼土



51区69号焼土土層

- 1 暗褐色土 焼土小塊を含む

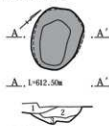
51区70号焼土



51区70号焼土土層

- 1 黒褐色土 しまり弱い
2 赤褐色土 焼土塊と黒褐色土塊を含む
3 黒褐色土 焼土粒を少量含む

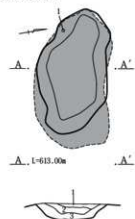
51区71号焼土



51区71号焼土土層

- 1 黒色土 しまり弱い
2 赤褐色土 焼土粒を含む
3 黒褐色土 焼土粒を少量含む

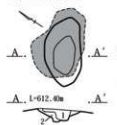
51区75号焼土



51区75号焼土土層

- 1 暗褐色土 焼土粒を含む
2 赤褐色土 焼土層
3 暗赤褐色土 焼土粒・軽石を多く含む

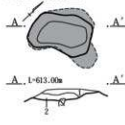
51区76号焼土



51区76号焼土土層

- 1 暗褐色土 焼土粒を含む。別遺構か
2 赤褐色土 焼土小塊を多く含む

51区77号焼土



51区77号焼土土層

- 1 赤褐色土 焼土塊を主体とする
2 黒褐色土 焼土粒を少量含む

トーン部は焼土



第257図 51区焼土(7)

土遺物は、阿玉台1b式の口縁部破片と体部破片(68焼1・2)の出土を見た。同一個体であろう。遺構時期として、出土土器から中期前葉以降を充てたい。

51区69号焼土(第257図 PL.52)

調査区南側の51区O-16グリッドに位置する。近接遺構は無く、27号住を北に見るのみである。黒褐色土中で小型焼土塊のまとまりを確認した。不整楕円状で浅い掘り込みを持つが堆積は薄い。出土遺物は無く、時期の特定は控えるが縄文時代の所産である。

51区70号焼土(第257図)

調査区南側の51区O-17グリッドに位置する。27号住床面下で調査された。暗褐色土中で大型焼土塊のまとまりを確認した。周辺は木根が著しく、確認に手間取った。不整形の掘り込みで皿状の断面形を示す。出土遺物は無く、時期の特定はできないが縄文時代の所産である。後期の可能性もある。

51区71号焼土(第257図 PL.52)

調査区南側の51区N-17グリッドに位置する。24号住が南に近接する。黒褐色土中で小型焼土塊のまとまりを確認した。掘り込みは小型楕円状を呈し、皿状の断面形を示す。出土遺物は無いが、縄文時代の所産である。

51区72号焼土(第258・262図 PL.52・127)

調査区南東部の51区M-N-18グリッドに位置する。黒褐色土中の確認で大型の焼土塊が広く東西に分布していた。掘り込みは東側に偏り、不整形の平面形で浅い。出土遺物として、「新巻類型」体部破片2点(72焼1・2)を図示した。遺構の時期も中期中葉以降に求めたい。

51区75号焼土(第257・262図 PL.52・127)

調査区南側の51区Q-15グリッドに位置する。26号住跡下で調査された。暗褐色土中に焼土粒の集中を確認した。不整楕円状で浅い掘り込みで、中層に焼土層が堆積する。出土遺物は打製石斧(75焼1)の出土を見た。遺構の時期としては、26号住の時期から中期中葉以前か。また、26号住跡の掘り込みとは一致していないが、何らかの関連性を考えるべきであろう。

51区76号焼土(第257図 PL.52)

調査区南側の51区P-15グリッドに位置する。26号住床面下で調査された。暗褐色土中に焼土塊の集中を確認した。掘り込みは小型の不整楕円状を呈すが、土層では別遺構の重複が観察される。性格は不明である。出土遺物

は見られず時期は不明だが、26号住床面下の検出から中期中葉以前の可能性はある。

51区77号焼土(第257図)

調査区南側の51区R-15・16グリッドに位置する。25号住北西に近接する。黒褐色土中で焼土塊のまとまりを確認した。掘り込みは不整形で浅い皿状の断面形を示す。出土遺物は見られず、時期は不明である。縄文時代の所産と考えた。

51区78号焼土(第258図 PL.52)

調査区南側の51区P-16グリッドに位置する。26号住と27号住の間で、79号焼土・80号焼土が近接する。黒褐色土中で大型の焼土塊が主体にまとまる。不整形の掘り込みを持ち、浅く堆積も薄い。遺物は出土しておらず、時期の特定はできない。縄文時代の所産とした。

51区79号焼土(第258図 PL.52)

51区P-16グリッドに位置する。26号住と27号住の間で、78号焼土・80号焼土が近接する。黒褐色土中で焼土塊のまとまりを確認した。掘り込みは不整楕円状を呈し浅い皿状の断面形を示す。底面まで焼土粒の堆積を見た。出土遺物は無く時期の特定はできないが、縄文時代の所産と考える

51区80号焼土(第258・262図 PL.53・127)

調査区南側の51区P-Q-16・17グリッドに位置する。292坑・293坑が西に、78号焼土が東に近接する。黒褐色土中で大型焼土塊のまとまりを確認した。不整形で皿状の断面形の掘り込みを持つ。底面まで焼土塊の堆積を見る。出土遺物として、阿玉台Ⅱ式の口頸部破片(80焼1)、石簾(80焼2)、磨石(80焼3)を図示した。遺構時期は、出土土器が1点のみのため、確定性に乏しい。中期中葉以降としたい。

51区81号焼土(第258図 PL.53)

調査区南側の51区R-17グリッドに位置する。近世～近代に比定される1号井戸南にあり、297坑・323坑が近接する。黒褐色土中で焼土粒の集中を確認した。不整楕円状の掘り込みを持ち、比較的深く鍋底状の断面形を示す。出土遺物は無く、時期の特定はできないが縄文時代の所産とした。

51区82号焼土(第258・262図 PL.53)

調査区南側の51区O-18グリッドに位置する。27号住床面下で調査された。周辺には70号焼土・83号焼土、14号集

第3章 発見された遺構と遺物

石が近接する。確認面は27号住地床の黒褐色土である。掘り込みを持たず、小型の焼土塊のまとまりを見た。出土遺物は堀之内1式の底部破片の出土を見た。27号住出土土器が称名寺式であるため、27号住を切る新旧関係が予想される。遺構時期は後期前葉以降と考えた。

51区83号焼土(第258図)

調査区南側の51区P-18グリッドに位置する。27号住床面で調査された。周辺には82号焼土、14号集石が近接する。27号住地床の黒褐色土で焼土塊のまとまりを確認した。浅く不整形の掘り込みを持つ。出土遺物は無いが、おそらく、後期に比定されよう。

51区86号焼土(第258図 PL.53・127)

調査区南側の51区S-17グリッドに位置する。81号焼土が東に近接する。黒褐色土中で大型の焼土塊のまとまりを確認した。東西に1m以上連なる様相を示し、掘り込みを2箇所検出した。いずれも楕円状で皿状の断面形を示す。出土遺物は阿玉台Ⅱ式の浅鉢口縁部破片(86焼1)、石罫(86焼2)を図示した。遺構の時期は出土土器から中期中葉以降と考えた。

51区87号焼土(第258図 PL.53)

調査区南側の51区Q-15グリッドに位置する。26号住床面下で検出された。75号焼土・76号焼土が北に近接する。暗褐色土中に小型の焼土塊のまとまりを確認した。焼土塊は中央部分に集中する傾向が見られた。小型円形の掘り込みを持つが浅く堆積も薄い。出土遺物は無く、時期特定はできないが、中期中葉以前の可能性もある。

51区88号焼土(第258図)

51区W-17グリッドに位置する。調査区北西部の遺構密集地点より南に距離を置く。299号・305号焼土、16号集石と近接する。ローム漸移層で焼土塊のまとまりを確認した。掘り込みを持たず、薄い堆積を示す。出土遺物は無く、時期の特定はできない。縄文時代の所産とした。

51区89号焼土(第258図)

51区X-17グリッドに位置する。28号住南東で、88号焼土と近接する。ローム漸移層で焼土塊のまとまりを確認した。不整形円状の掘り込みで皿状の断面形を示す。底面より角礫が出土するが性格は不明である。遺物の出土も無く時期は特定できない。縄文時代の所産とした。

51区90号焼土(第258図 PL.53)

調査区南西側の51区Y-17・18グリッドに位置する。16

号住と28号住の間にあり、256号・290号焼土、51号焼土・89号焼土と近接する。ローム漸移層で焼土粒の集中を確認した。不整形円状で浅い掘り込みを持つ。遺物の出土は無く、時期は不明だが、縄文時代の所産であろう。

52区5号焼土(第259図 PL.53)

調査区北西部の9号住東の52区A-19グリッドに位置する。65号・66号・70号焼土が下層にある。黒褐色土中で焼土粒の集中を確認した。掘り込みを持たず、薄い堆積を示す。出土遺物は無く、時期の特定はできない。縄文時代の所産としたが、検討を要する。

52区6号焼土(第259図)

調査区北西部に位置する7号住と11号住の重複部に位置する。52区B-21グリッドにあたる。黒褐色土中の確認で上層調査である。掘り込みは無く、堆積も薄い。あるいは7号住と関連する可能性もある。遺物の出土は無く時期は不明であるが、縄文時代の所産であろう。

52区7号焼土(第259図 PL.53)

調査区北西端の52区E-18グリッドに位置する。6・10号住上層で調査された。黒褐色土中で焼土塊のまとまりを確認した。顕著な掘り込みを持たず、焼土塊が薄く堆積していた。出土遺物は無く時期の特定はできない。おそらく縄文時代の所産であろう。

52区8号焼土(第259図)

調査区北西部に位置する11号住東側に位置する。52区A-21グリッドにあたり、北半を調査区域外に延ばす。上層調査で黒褐色土中に焼土塊のまとまりを確認した。浅い皿状の不整形円状の掘り込みを持つ。出土遺物は無く時期の特定はできない。縄文時代の所産であろう。

52区9号焼土(第259・263図 PL.53・127)

調査区北西部の11号住南に位置する52区B-20グリッドにあたる。黒褐色土中の上層調査で、小型の焼土塊のまとまりを確認した。顕著な掘り込みを持たず、薄い堆積を示す。遺物は加曾利EⅡ式の壺体部小破片(9焼1)が出土した。時期を特定する例では無く、遺構時期は中期後葉以降とした。

52区10号焼土(第259図)

調査区北西部の52区B-21グリッドに位置する。7号住と11号住の重複部ににあたる。上層の黒褐色土中で小型の焼土塊のまとまりを確認した。顕著な掘り込みを持た

ず、堆積は薄い。出土遺物も無く時期を特定できないが、縄文時代の所産であろう。

52区11号焼土(第259図 PL.53)

調査区北西部のやや南寄りの52区C-18グリッドに位置する。9号住西に近接し南半を調査区域外に延ばす。上層調査で黒褐色土中に焼土塊のまとまりを確認した。掘り込みを持たず、堆積は薄い。遺物の出土は無く時期の特定はできない。縄文時代の所産と思われる。

52区12号焼土(第259図 PL.53)

調査区北西部の11号住南に重複する。52区B-20グリッドに位置する。黒褐色土中の上層調査で、焼土塊のまとまりを確認した。掘り込みを持たず、地点的な堆積状態だった。出土遺物は無く時期は特定できない。縄文時代の所産であろう。

52区13号焼土(第259図)

調査区北西部の8号住上層で調査された。52区B-C-20グリッドに位置する。黒褐色土中で焼土塊の散漫な分布を確認した。掘り込みを持たず、薄い堆積を示す。遺物の出土は無く、時期は不明であるが、縄文時代の所産と考えた。

52区14号焼土(第259図)

調査区北西部のやや南寄りの9号住上層で調査された。52区B-C-19グリッドに位置する。黒褐色土中で焼土塊のまとまりを確認した。掘り込みは顕著では無く、堆積も薄い。出土遺物は無く、時期は特定できない。縄文時代の所産と考えた。

52区15号焼土(第259図)

52区B-19グリッドに位置する。調査区北西部のやや南寄りの9号住北壁上層で調査された。黒褐色土中で焼土粒の小範囲の集中を確認した。掘り込みは無く堆積も薄い。遺物は出土せず、時期は不明であるが縄文時代の所産とした。

52区16号焼土(第259・263図 PL.53・127)

調査区北西端の52区E-18・19グリッドに位置する。6・10号住上層で調査された。黒褐色土中で南北に広く焼土粒の集中を確認した。浅い掘り込みを見るが、壁は明瞭ではなく平面形の把握には至らなかった。出土遺物として曾利Ⅲ式体部破片(16焼1)、「郷土式」体部破片(16焼2)を図示した。6・10号住の時期と一致することから、住居跡との関連も想起されよう。時期は中期後葉後半段階におきたい。

52区17号焼土(第259・263図 PL.53・127)

調査区北西端の52区D-E-19グリッドに位置する。6・10号住北側に近接する。南側は試掘坑により把握できなかった。上層調査で黒褐色土中に焼土粒の集中を見る。掘り込みは浅く、皿状の断面形を示す。出土遺物は曾利Ⅲ式の口縁部破片(17焼1)、加曾利EⅢ式の体部破片(17焼2)を図示した。遺構の時期としては、中期後葉後半段階を充てたい。

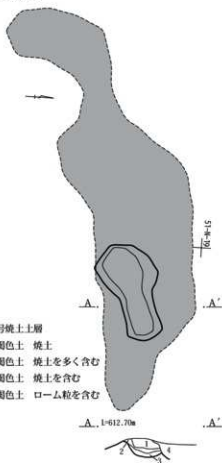
52区19号焼土(第259・263図 PL.53・127)

調査区中央南西部の51区との境に位置する。14号住が北西に、51区50号焼土が北東に近接する。黒褐色土中で焼土粒の集中を確認した。浅い不整形の掘り込みを持つ。出土遺物は有尾式体部破片(19焼1・2)を見るが、小破片である。遺構の時期は前期中葉以降と考えたい。



調査風景

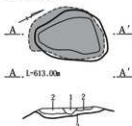
51区72号焼土



51区72号焼土土層

- 1 赤褐色土 焼土
- 2 暗褐色土 焼土を多く含む
- 3 黒褐色土 焼土を含む
- 4 黒褐色土 ローム粒を含む

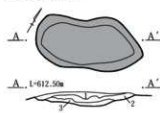
51区78号焼土



51区78号焼土土層

- 1 黒褐色土 しまり弱い
- 2 赤褐色土 焼土塊を主体とする
- 3 暗褐色土 焼土粒を少量含む

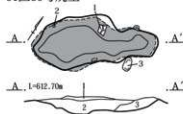
51区79号焼土



51区79号焼土土層

- 1 暗褐色土 焼土粒を含む
- 2 赤褐色土 焼土
- 3 暗褐色土 焼土粒を多く含む

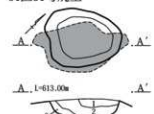
51区80号焼土



51区80号焼土土層

- 1 暗褐色土 焼土粒を含む
- 2 赤褐色土 焼土
- 3 黒褐色土 焼土粒を少量含む

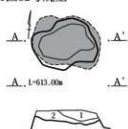
51区81号焼土



51区81号焼土土層

- 1 暗褐色土 焼土粒を含む
- 2 暗褐色土 焼土粒を多く含む
- 3 黒褐色土 ローム粒を少量含む

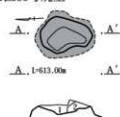
51区82号焼土



51区82号焼土土層

- 1 赤褐色土 焼土塊を主体とする
- 2 暗褐色土 焼土粒を含む

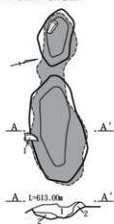
51区83号焼土



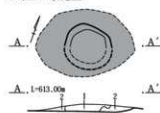
51区83号焼土土層

- 1 赤褐色土 焼土塊を主体とする
- 2 暗褐色土 焼土粒を含む

51区86号焼土



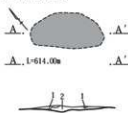
51区87号焼土



51区87号焼土土層

- 1 赤褐色土 焼土小塊を多く含む
- 2 黒褐色土 焼土粒を少量含む

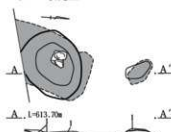
51区88号焼土



51区88号焼土土層

- 1 赤褐色土 焼土塊を主体とする
- 2 黒褐色土 焼土粒を少量含む

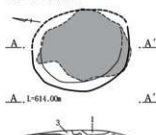
51区89号焼土



51区89号焼土土層

- 1 赤褐色土 焼土塊を主体とする
- 2 黒褐色土 焼土粒を少量含む

51区90号焼土



51区90号焼土土層

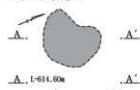
- 1 暗褐色土 焼土粒を多く含む
- 2 暗褐色土 焼土粒を少量含む
- 3 黒褐色土 ローム粒を少量含む

トーン部は焼土



第258図 51区焼土(8)

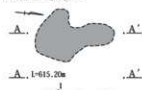
52区5号焼土



52区5号焼土上層

- 1 暗赤褐色土 焼土粒を含む

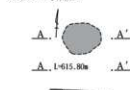
52区6号焼土



52区6号焼土上層

- 1 黒褐色土 焼土粒を多く含む

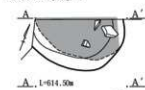
52区7号焼土



52区7号焼土上層

- 1 赤褐色土 焼土塊を主体とする

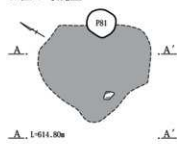
52区8号焼土



52区8号焼土上層

- 1 赤褐色土 焼土塊を主体とする

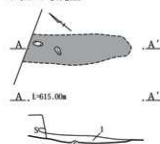
52区9号焼土



52区9号焼土上層

- 1 赤褐色土 焼土塊を主体とする
2 黒褐色土 焼土粒を少量含む

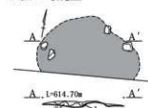
52区10号焼土



52区10号焼土上層

- 1 暗赤褐色土 焼土小塊を多く含む

52区11号焼土



52区11号焼土上層

- 1 赤褐色土 焼土塊を主体とする
2 黒褐色土 焼土粒を微量含む

52区12号焼土



52区12号焼土上層

- 1 赤褐色土 焼土塊を主体とする
2 暗褐色土 焼土粒を少量含む

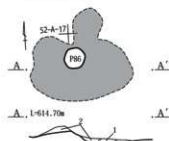
52区13号焼土



52区13号焼土上層

- 1 赤褐色土 焼土小塊
2 黒褐色土 焼土粒を含む

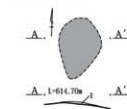
52区14号焼土



52区14号焼土上層

- 1 赤褐色土 焼土塊
2 黒褐色土 焼土粒を多く含む

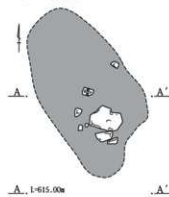
52区15号焼土



52区15号焼土上層

- 1 黒褐色土 焼土粒を多く含む

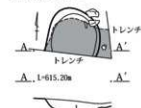
52区16号焼土



52区16号焼土上層

- 1 黒褐色土 焼土粒を少量含む
2 黒褐色土 焼土粒小塊を多く含む
3 赤褐色土 焼土主体

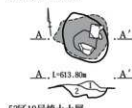
52区17号焼土



52区17号焼土上層

- 1 黒褐色土 焼土粒を多く含む

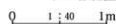
52区19号焼土

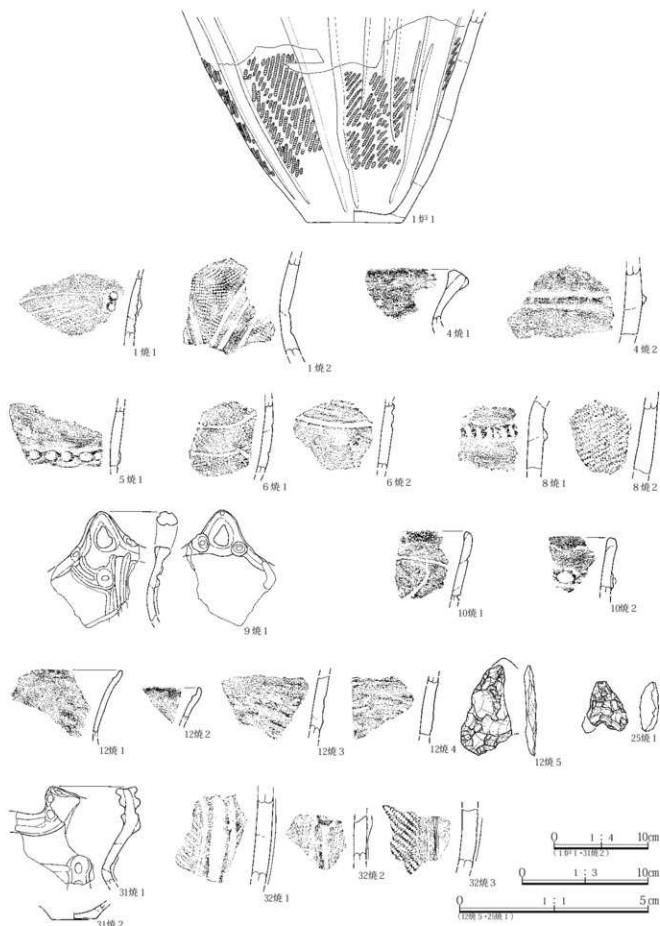


52区19号焼土上層

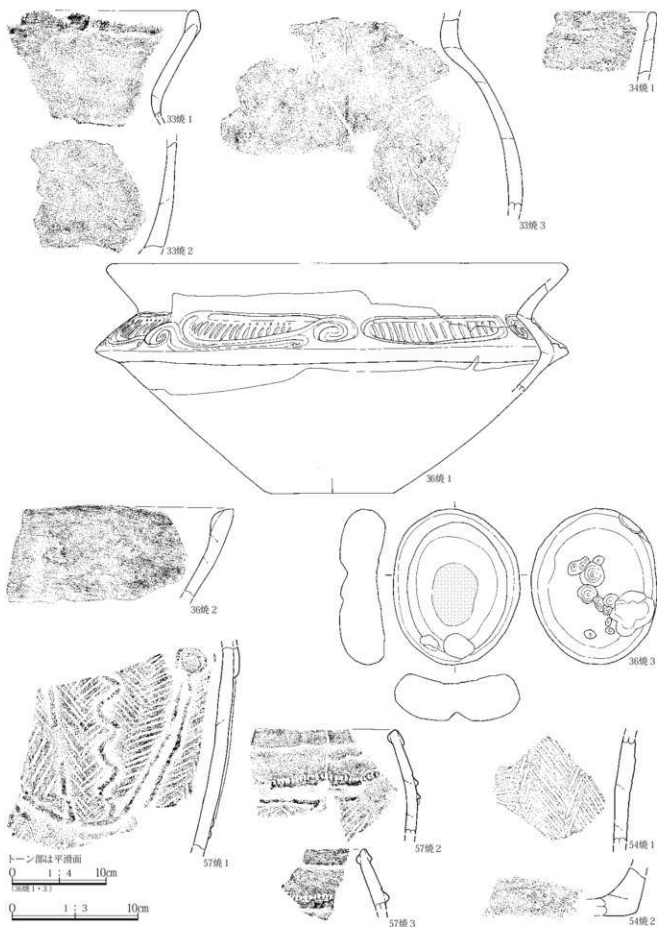
- 1 暗赤褐色土 焼土粒を多く含む
2 赤褐色土 焼土大塊を多く含む

トーン部は焼土

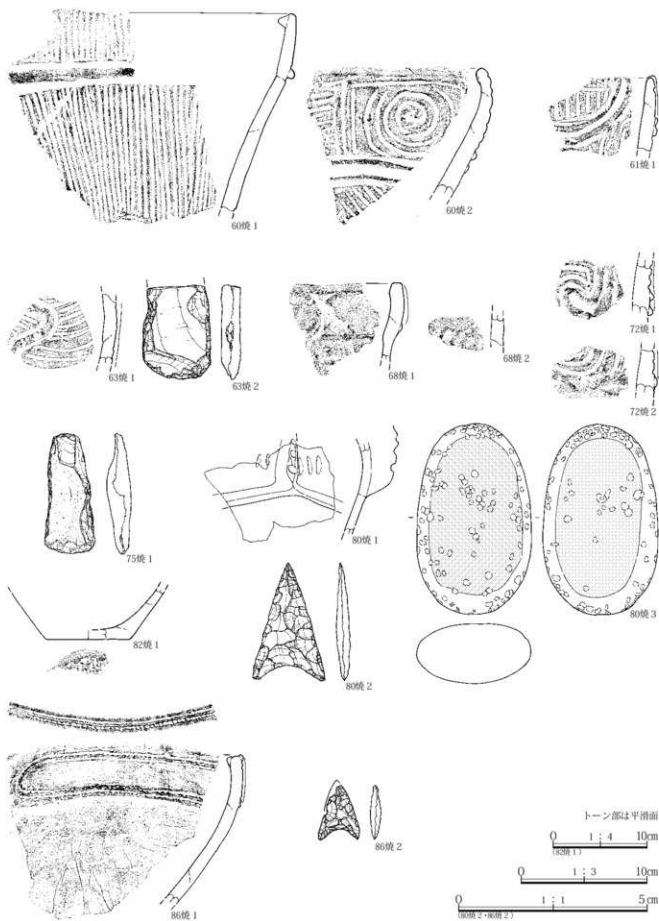




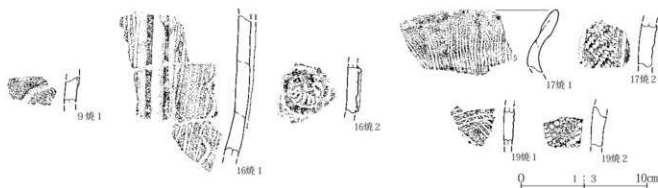
第260回 炉跡出土遺物・51区境土出土遺物(1)



第261図 51区焼土出土遺物(2)



第262図 51区焼土出土遺物(3)



第263図 52区焼土出土遺物

第9節 集石遺構

ここでは、掘り込みを持ち埋土中に礫を集中させる集石土坑と掘り込みを持たずに数個の礫を集中させた遺構をとりまとめ、集石遺構(以下集石)として報告する。発掘調査において集石とされた遺構のうち、縄文時代の例を選択して述べるが、出土遺物が無く、中世～近世の例と区別がつかなかった集石もある。また、先に述べた土坑の中には、集石が埋土中に検出された例がある。本来は集石として報告すべきであるが、ここでは、調査の段階での遺構名を優先した。なお、51区1号集石に関しては、1号列石南西部を形成するため、ここでは取り上げず、1号列石と併に述べることにする。

51区2号集石(第264・267図 PL.54・128)

位置・重複：調査区北西部の遺構密集地点の51区W-19・20グリッドに位置する。6号住・7号住に乗る新旧関係である。

経過・規模：黒褐色土中で確認された。主軸を北北西に向ける列石状の遺構である。列状に並ぶ大型の自然石9石からなる。小礫も周辺に見るが規則性を見ない。ほぼ水平面に石が並び、長さ約4.7mを測る。下部遺構は見られなかった。各自然石の被熱痕跡は見られなかった。
遺物・所見：出土遺物として、「郷土型」口縁部把手片(2集1)、加曾利EIV式口縁部破片(2集2)、多孔石(2集3)を図示した。列石面とはほぼ同レベルで出土しているとはいえ、混在の様相を示す。集石の時期としては、中期末葉以降と判断できよう。後期の可能性もある。

51区4号集石(第264図 PL.54)

位置・重複：調査区中央部やや東寄りの51区O-20・21グリッドに位置する。13号住東にあたる。204坑が北に近接し、245坑が下層で調査されている。

経過・規模：黒褐色土中で確認された。約3.3×2.0mの範囲に礫が集中する。規則性を持たず大型の角礫で占められていた。礫出土レベルも水平ではなく、南東へ傾斜する傾向を見た。また、南側にも礫が点在する延長様相が把握されたが、北側のまとまりをもって集石遺構と考えた。被熱痕跡の有無は不明である。

遺物・所見：遺物の出土は見られなかったため、詳細な時期は不明である。下層調査の245坑からも遺物は出土していない。集石の時期としては、縄文時代の所産とする。おそらく後期であろうか。

51区6号集石(第264・267図 PL.54・128)

位置・重複：調査区中央にある13号住北西に位置する。51区Q-22グリッドにあたる。重複遺構は無く、単独の検出である。

経過・規模：黒褐色土中で黒曜石の剥片や碎片の出土が集中し、黒曜石集中遺構として扱った。断面記録が無いため、黒曜石の集中層厚など不明点が多いが、平面的には楕円状の約100×70cmの範囲に黒曜石が集中し、南東には大型自然石が出土する。自然石には加工痕或使用痕は見られなかった。

遺物・所見：下層より堀之内1式口縁部破片(6集1)、体部破片(6集2)、石織未製品(6集3)を出土する。集石の時期としては出土土器から後期前葉を充てる。性格は特定できないが、黒曜石製品製作跡としての位置付けも可能であろう。

51区8号集石(第264図 PL.54)

位置・重複：調査区北東部の51区M-24・25グリッドに位置する。173坑、57号焼土と重複するが新旧は不明である。
経過・規模：ローム漸移層下位で確認された。掘り込みの平面形は径100cm前後の円形を呈し、断面形は鍋底状を示すが、壁は明瞭だった。集石は小型の角礫で占めら

第3章 発見された遺構と遺物

れ、やや南東に偏る傾向を見せ、上層から坑底面まで出土した。被熱痕跡は見出せなかった。

遺物・所見：小型角礫を主体とする集石土坑である。出土遺物を見ないため、時期の特定は難しいが、縄文時代の所産と考えた。

51区9号集石(第265図 PL.54)

位置・重複：調査区中央やや北西寄りの51区S・T-21・22に位置する。周辺は土坑が点在する箇所、249号坑が南東端で重複し、165坑・239坑・243坑が近接する。

経過・規模：ローム漸移層下位で確認した集石土坑である。径90cm程の円形を呈する平面形を呈し、浅い皿状の断面形を示す。比較的大型の自然石が土坑中央から西側に集まる。被熱痕跡の有無は不明である。

遺物・所見：大型礫主体の集石土坑である。埋土の様相から縄文時代の所産とした。

51区11号集石(第265図 PL.54)

位置・重複：51区Y-16グリッドに位置する。調査区中央南西部の52区との境で、南に20号住、東に288坑・289坑が近接する。

経過・規模：黒褐色土中で確認された。集石土坑で、径110cm程の円形を平面形とし、浅い皿状の断面形を示す。集石は中～小型の角礫を主体としており、土坑全面に広がる。被熱痕跡の有無は不明である。

遺物・所見：小型礫主体の集石土坑である。出土遺物は無く、時期の特定は難しい。埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区12号集石(第265・267図 PL.55・128)

位置・重複：調査区中央南西部の51区V-16グリッドに位置する。16号住に重なり、253坑・274坑・275坑が近接する。

経過・規模：16号住上層での調査で黒褐色土を確認面とする集石土坑である。不整楕円状の平面形を呈し、規模は127×60cmを測る。断面形は鍋底状を呈すが底面は凹凸が多い。集石は中～小型の角礫を主体とし、被熱痕跡は僅かながら見出せた。

遺物・所見：小型礫主体の集石土坑である。出土遺物として「郷土式」の体部破片(12集1)を図示したが、16号住出土土器と差は無く、時期を反映するものではない。遺構の時期としては中期後葉以降と考えた。

51区13号集石(第265・267図 PL.55・128)

位置・重複：調査区南東部の51区M-N-17・18に位置する。

中世～近世に比定される269坑が重なり、24号住、260坑、68号焼土が近接する。

経過・規模：黒褐色土中で確認された。径約120cmの範囲に集石する。西側に丸石状の凹石を置き、周辺に大～小型の自然石を集めるが、やや散漫な分布である。被熱痕跡の有無は不明である。

遺物・所見：凹石(13集2)を出土遺物とする。他に「郷土式」の突起片(13集1)の出土を見たが、集石からは距離を置くため、時期を反映していない。詳細な時期特定には至らないが、中期後葉以降の所産としたい。掘り込みを持たないこと、丸石状の凹石の存在から、集石遺構とするより、配石遺構とした位置付けが妥当かもしれない。

51区14号集石(第265・267・268図 PL.55・128)

位置・重複：調査区南側の27号住北端に重なる。51区O・P-18グリッドに位置する。北に17号集石、南に82号焼土・83号焼土が近接する。

経過・規模：黒褐色土中の確認である。径約150cmの範囲に大型の自然石を中心に集石するが散漫な分布である。被熱痕跡の有無は不明である。また集石部分より約110cm距離をおいて、立石とした自然石が立つ。性格は不明である。

遺物・所見：出土土器は見られず、多孔石(14集1)、磨石(14集2)、台石(14集3)の出土を見た。遺構の時期は特定できないが、中期後葉以降と考えたい。また、13号集石と同様に配石遺構としての位置付けも妥当である。

51区16号集石(第265図 PL.55)

位置・重複：51区W-17・18グリッドに位置する。16号住の北西、28号住東にあたる。重複遺構は無く、東西に299坑と305坑が近接する。

経過・規模：ローム漸移層で確認された集石土坑である。径約118×94cmの不整形を呈し、鍋底状の断面形を示す。大型の円礫を南西に置き、中型の角礫が集まる。上層に集中する傾向がある。角礫の一部に被熱痕跡を見るが顕著ではない。

遺物・所見：出土遺物は無く、時期の特定はできない。埋土の特徴から縄文時代の所産とした。

51区17号集石(第265図 PL.55)

位置・重複：調査区南側の51区P-18グリッドに位置する。14号集石が南に近接する。

経過・規模：ローム漸移層で確認された大型自然石3石

からなる集石遺構である。掘り込みは無くほぼ平坦面に3石が置かれていた。

遺物・所見：出土遺物は無く、時期の特定は果たせない。縄文時代の所産と思われるが、近接する14号集石と併せて、配石遺構としての位置付けも可能であろう。

51区19号集石(第266図 PL.55)

位置・重複：調査区中央やや南東寄りの51区0-19グリッドに位置する。13号住と27号住の間にあり近接遺構は無い。

経過・規模：ローム漸移層下位で確認した。不整楕円状の掘り込みを有するが、壁は不明瞭で、集石土坑としての位置付けは難しい。中～小型の角礫を主体とするが、やや疎らな集石である。被熱痕跡は見出せなかった。

遺物・所見：出土遺物は無く、時期は不明である。確認面から縄文時代の可能性は高いが、確定性に乏しい。

51区20号集石(第266・268図 PL.55・128)

位置・重複：51区Y-17グリッドに位置する。調査区中央南西部の28号住南に接する。

経過・規模：ローム漸移層下位で確認した集石土坑である。径50cm程の小型不整形の土坑に石皿片を含む大型礫が充満していた。被熱痕跡の有無は不明である。

遺物・所見：出土遺物として、石皿(2集1)を図示した。出土土器が無く時期の特定は難しいが、中期以降の所産と考える。

52区1号集石(第266図 PL.56)

位置・重複：調査区南西部の52区A-13グリッドに位置する。51区との境界付近で13号住南東に近接する。2号集石が南西にある。

経過・規模：ローム漸移層下位で確認された。約80×58cmの範囲に大型の板石西側に中～小型の自然石を集める。小規模な集石遺構である。被熱痕跡の有無は不明である。

遺物・所見：出土遺物は無く、時期の特定はできない。おそらく縄文時代の所産であろう。

52区2号集石(第266図 PL.56)

位置・重複：調査区南西部の13号住南東に近接する。52区A-13グリッドに位置する。1号集石が北東にある。

経過・規模：ローム漸移層下位で確認された。約100×75cmの範囲に中～小型の自然石が集まる。断面記録が無い

が、ほぼ平坦に集石されていた。被熱痕跡の有無は不明である。

遺物・所見：出土遺物は無く、時期は不明である。おそらく縄文時代の所産としたが、確定性に乏しい。

52区3号集石(第266図 PL.56)

位置・重複：52区C-13・14グリッドに位置する。調査区南西部にあたり15号住東壁に接する。17号住、4号集石が北に近接する。

経過・規模：黒褐色土中の確認である。径65cm前後の範囲に中～小型礫数個が集まる。断面記録は無いが、各礫の出土レベル差があり、平坦ではない。被熱痕跡は無かった。

遺物・所見：出土遺物は無く、時期の特定には至らない。おそらく縄文時代の所産であろう。

52区4号集石(第266図 PL.56)

位置・重複：調査区南西部の52区C-14グリッドに位置する。17号住にかかり、新旧は本遺構が新しい。

経過・規模：黒褐色土中の確認である。約147×65cmの範囲に大型の垂角礫数個が集まる。被熱痕跡は認められなかった。

遺物・所見：出土遺物は無い。時期は不明だが、縄文時代の所産とした。

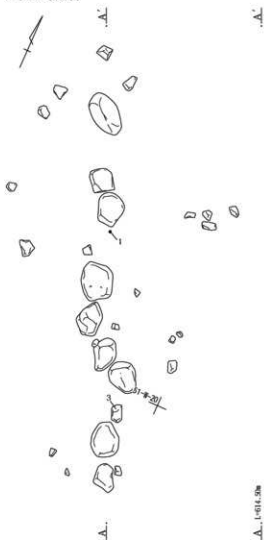
52区5号集石(第266図 PL.56)

位置・重複：調査区中央やや北西寄りの52区A-17グリッドに位置する。14号住と18号住東に近接する。100坑が下位に開くが、本遺構に伴う例かは不明である。

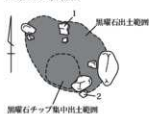
経過・規模：ローム漸移層下位で確認した。径60cm前後の範囲に大型の自然石3石が集まる。各自然石にレベル差があり、置かれた様相はない。

遺物・所見：出土遺物は無く、時期は不明である。周辺遺構の様相から縄文時代の所産としたが、確定性に乏しい。

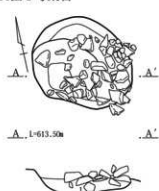
51区2号集石



51区6号集石



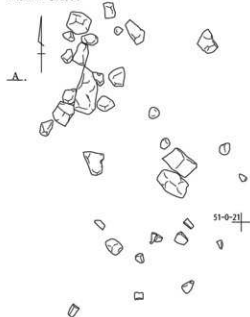
51区8号集石



51区8号集石土層

- 1 黒褐色土 ローム小塊・黄色粒を含む

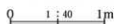
51区4号集石



51区4号集石土層

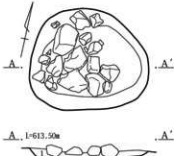
- 1 黒褐色土 III層に近似。白色粒を微量含む
 2 暗褐色土 IV層に近似するがローム状土少なく、黒色味強い
 3 黒褐色土 VI層に近似。しまり強く混入物少ない均質土

トーン部は黒曜石出土範囲



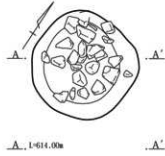
第264図 51区集石(1)

51区9号集石



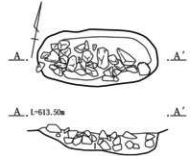
51区9号集石上層
1 黒褐色土 白色粒を微量含む

51区11号集石



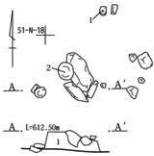
51区11号集石上層
1 黒褐色土 しまりやや強い

51区12号集石



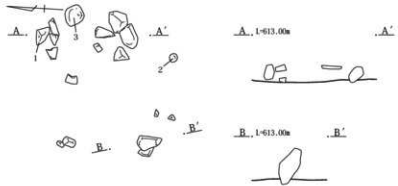
51区12号集石上層
1 黒褐色土 白色粒微量含む

51区13号集石

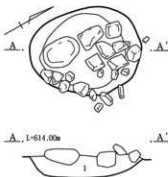


51区13号集石上層
1 黒褐色土 白色粒微量含む

51区14号集石

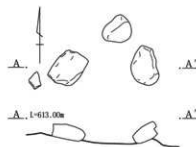


51区16号集石



51区16号集石上層
1 黒褐色土 白色粒微量含む

51区17号集石



0 1:40 1m

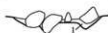
第265図 51区集石(2)

第3章 発見された遺構と遺物

51区19号集石



A. I-612.50m A'



51区19号集石上層

1 黒褐色土 黄色粒を微量含む

51区20号集石



A. I-613.50m A'



52区1号集石



A. I-613.40m A'



52区2号集石



52区3号集石



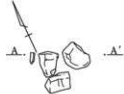
52区4号集石



A. I-613.80m A'



52区5号集石

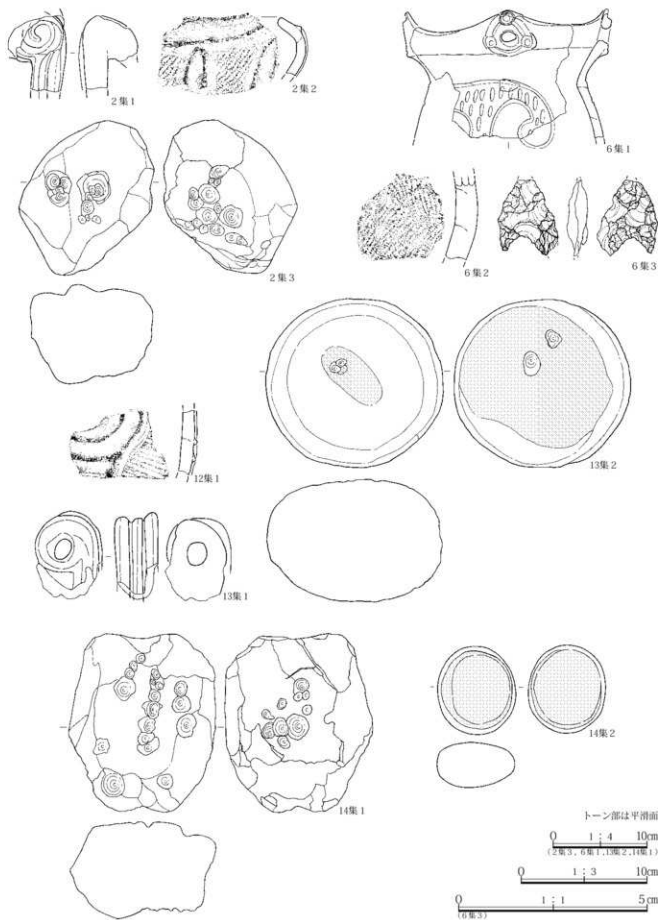


A. I-613.40m A'

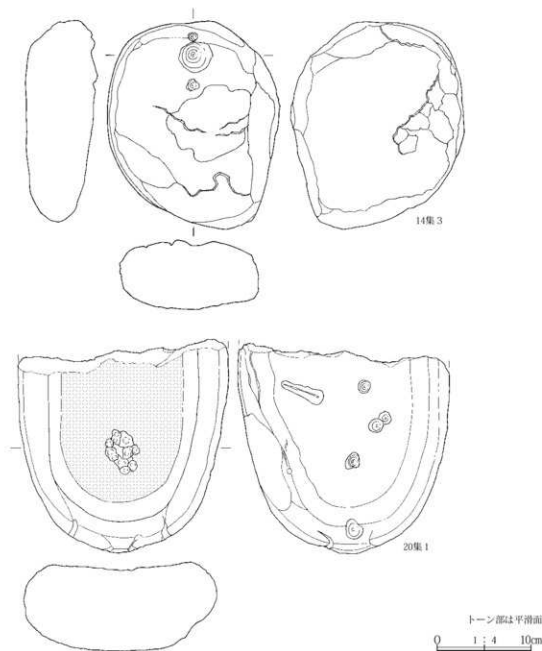


0 1 : 40 1m

第266図 51区集石(3)・52区集石



第267図 51区集石出土遺物(1)



第268図 51区集石出土遺物(2)

第10節 列石遺構・配石遺構

本節では、51区で調査された列石遺構(以下列石)3基と配石遺構(以下配石)1基を報告する。なお、52区においても列石遺構1基が調査されているが、小型礫数個と大型礫1の極めて貧弱な構成のため、列石遺構とは判断しなかった。

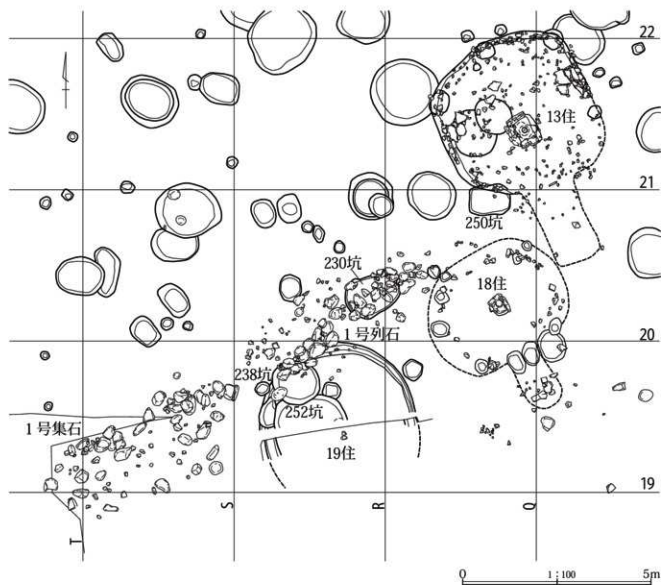
51区1号列石・1号集石

(第269・270・275図 PL.56・57・128・129)

位置・重複：調査区中央に位置する。18号住北西側から19号住北壁にかけて南西の方向に検出された。また、その延長で1号集石が南西に延びる。本遺構を切る遺構は

無く、19号住、230坑・238坑が1号列石下で、314坑が1号集石下で調査されている。また1号集石部分は分割調査となり2回に分けられて検出されている。

経過・規模：黒褐色土中で確認された。比較的大型の円礫や垂円礫が2・3列単位の様相で並ぶ。方位はN-54°-Eで東北東を向く。全長約11m90cmで、幅は約60～80cmを基準として1号集石部分は範囲を広げる。概ね列石は平坦に置かれるが、北西側がやや高く、南西側が低い傾向が見られた。おそらく、列石設置前に小規模な整地行為が行われたと考えられる。列石の配置としては、1号列石として調査された部分は比較的整った形態を呈す



第269図 51区1号列石・1号集石配置図

が、南西の1号集石部分は、崩れた積石状の箇所もあり、やや乱れた配置を示す。

遺物・所見：列石部分から石鐮(1列1)、凹石(1列2・3)、が出土している。いずれも、列石面で出土しており、同時性が窺われよう。1号集石からは、破片だが加曾利EⅢ式(1集1・5)、称名寺式(1集2・3)、堀之内1式(1集6～8)、石鐮(1集9)、凹石(1集10)の出土を見た。また、列石下の土坑からは230坑からは中期後葉、238坑からは中期前葉の土器片が出土した。おそらく列石に伴う下部遺構ではないだろう。

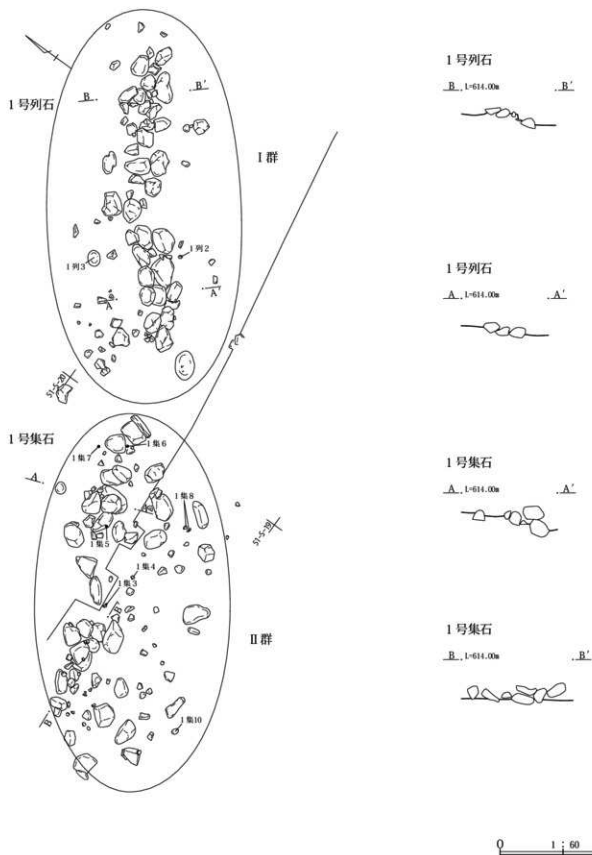
1号列石の時期としては、出土土器から後期前葉以降と考えられる。これは18号住や19号住より新しく、列石の検出層位と整合する。おそらく、13号住、18号住居住終了後に列石が構築されたと考えられる。

51区2号列石

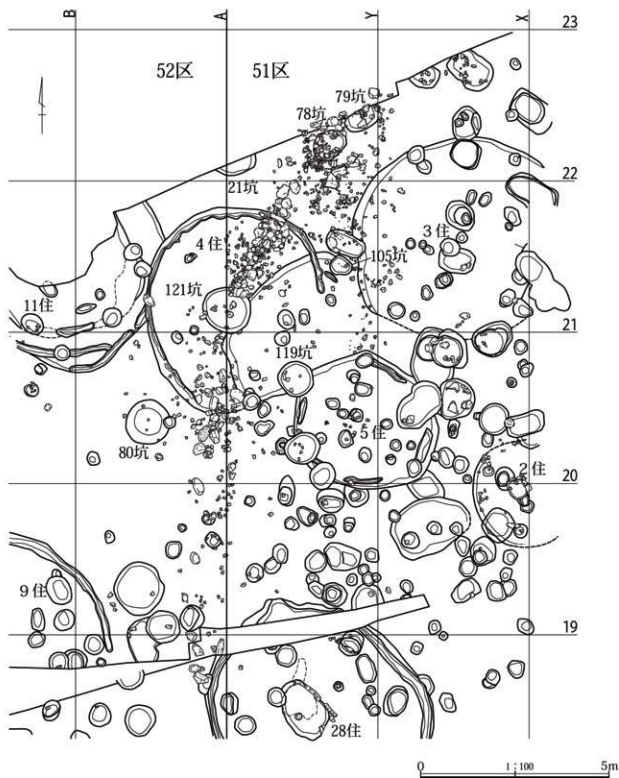
(第271・272・275～279図 PL.57・129～132)

位置・重複：調査区北西部の遺構密集地点にある。北側を調査区域外に延ばし、51区Y-20～22・52区A-19～21に位置するように、51区と52区を跨がる。重複遺構としては、51区4号住や78坑・79坑・121坑があるが、いずれも、本列石遺構の下層調査で得られた遺構である。

経過・規模：黒褐色土中の確認である。北側から南側へ緩やかな弧状を描く列石である。東側が高く、西側との比高は約20cmを測る。小規模ながら、整地行為の所産と考えた。列石は比較的垂角礫を主体とするが、部分的に円礫や垂円礫も混在する。円礫の配置などの規則性は見出せなかった。南北全長約14.3mに及ぶが、概ね3単位の群を見る(第272図)。便宜的に北からⅠ～Ⅲ群と呼称



第270図 51区1号列石・1号集石



第271図 51区2号列石配置図

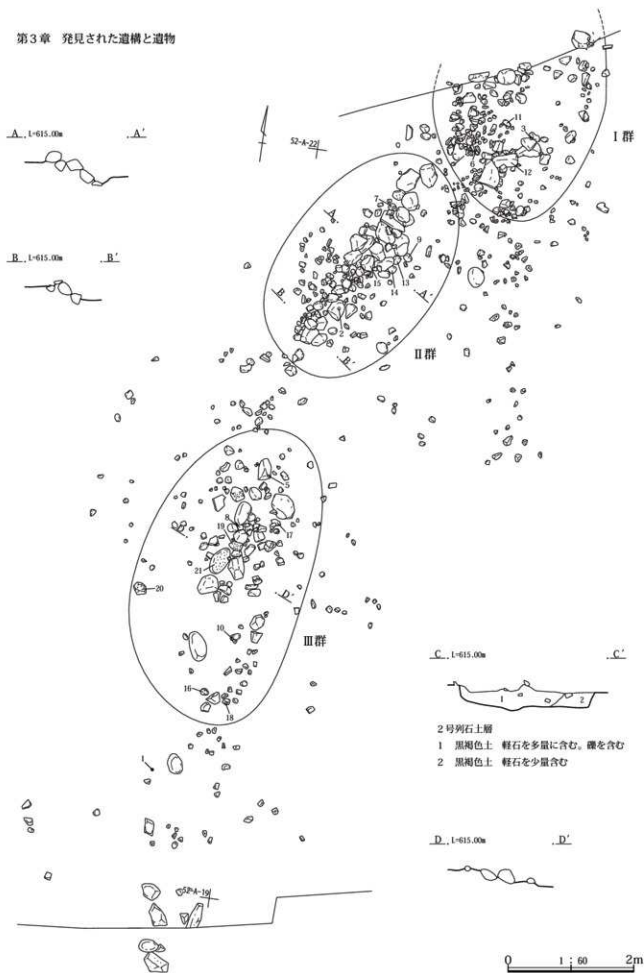
する。

I群は、北側を調査区域外に延ばすため全容は不明だが、東西約2.5m幅に大型礫を中心にした単位である。大型礫の中には、柱状の大型磨石(2列12)があり、これを含めて3石が東西に連なる様相を示す。

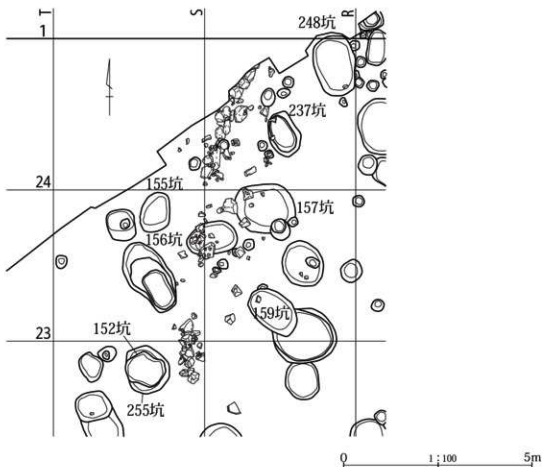
II群は中央部分になる。約4×2.2mの範囲で大型礫

が北東から南西に連なる。大型礫は北東側へやや偏る傾向があり、大型の台石片(2列15)などが含まれ、大型礫が凝集する様相を示す。石垣状に2段に積まれる箇所もある。南西側は小型礫が混じるが、北東側と併せて単位を構成している。

III群は南側の一群である。約5.1×2.6mの範囲に大型



第272図 51区2号列石



第273図 51区3号列石配置図

礫が置かれる。Ⅰ・Ⅱ群に比して、やや散漫な集中を見せるが、多孔石(2列21)を中心に大型礫が南北に配される。Ⅲ群より南は希薄な分布を示しながらも礫が点在しており、列石意識は継続していたと推測できよう。

遺物・所見:出土土器片として「郷土式」体部破片(2列1)を挙げたが、列石主体部より距離を置き、必ずしも列石遺構に伴う例では無い。おそらく混入であろう。その他は礫石器主体の遺物組成である。

下層調査で得られた78坑・79坑・121坑であるが、121坑は前期に比定される土坑で、下部遺構から除外できよう。78坑・79坑は遺物が出土しておらず、確定的ではないが、Ⅰ群直下に位置する様相から、下部土坑の可能性はある。

また、北側へ延びる様相から、第2分冊報告予定の61区1号列石との関連性が窺われる。ただし走行は一致していないことから、複数の列石遺構が北側に存在するようだ。

本列石遺構の時期は、列石を構成する礫石器の特徴から、中期後葉以降と判断でき、確認層位が黒褐色土中であることから、後期の所産と考えている。

51区3号列石(第273・274・280図 PL.58・132)

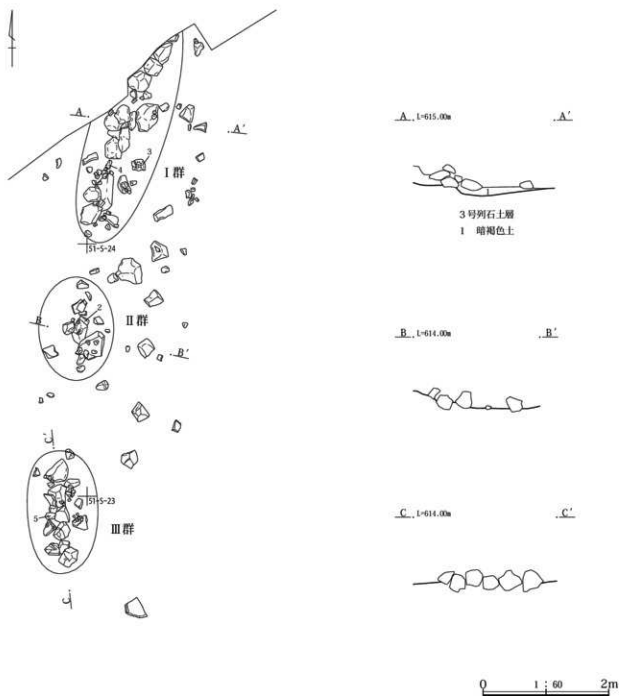
位置・重複:51区R・S-22～24グリッドに位置する。調査区北側にあたり、周辺は153坑～159坑など土坑群が群在する箇所である。これらの土坑群は本列石遺構の下層調査で得られた遺構である。

経過・規模:黒褐色土中で確認されている。主軸方位を北北東に向け、極緩やかな弧状を描き北側を調査区域外に延ばす。全長約8.5mを測り、大型礫を中心にしている。1号列石や2号列石と同様に、北西側がやや高く、南東が低い。整地痕跡と見做せよう。便宜的に3単位の群を北からⅠ～Ⅲ群に分けた。

Ⅰ群は北側を調査区域外に延ばす。東西約0.9m幅に大型礫を中心にする。一部東側の礫が立位に設けられ多段となり、立体的な石垣状の単位となる。

Ⅱ群は中央部の1.5×0.7m程の小規模な単位である。大型礫数個で構成される。礫は積まれておらず、平面的な単位である。

Ⅲ群は南側の一群で2.0×0.7mの小規模な単位である。大型礫6石を南北に並べ、西側にやや小型の礫が並



第274図 51区3号列石

列する。平面的な単位ではあるが列状となる。

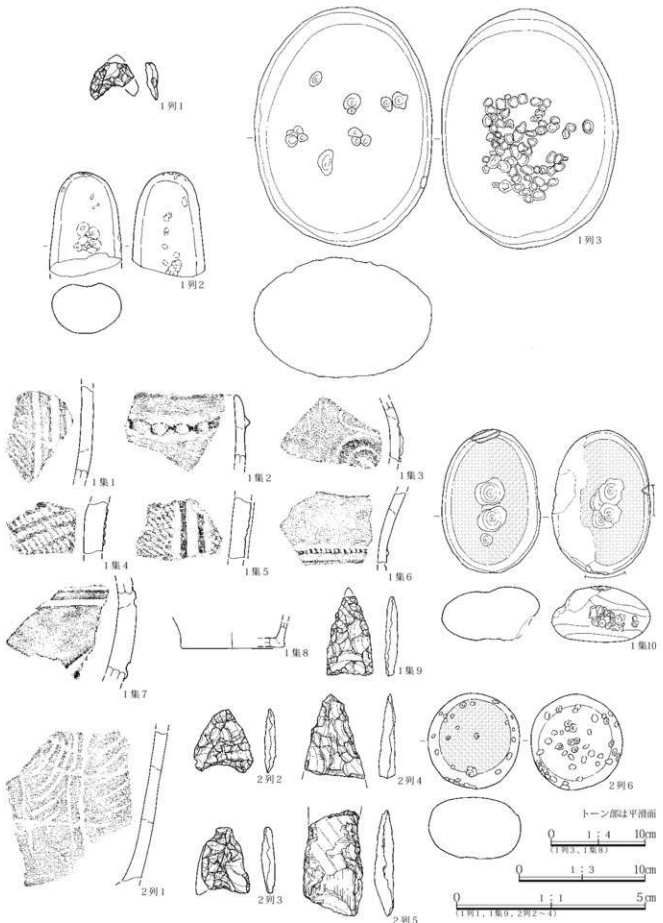
また、1～Ⅲ群東側に大型礫9石が列状に平行する。ほぼ平面的に置かれた様相であり、列石を意図した配置と思われる。

遺物・所見：多孔石が圧倒する。Ⅰ群からは3列3・4、Ⅱ群から3列2、Ⅲ群では3列5が出土している。また、

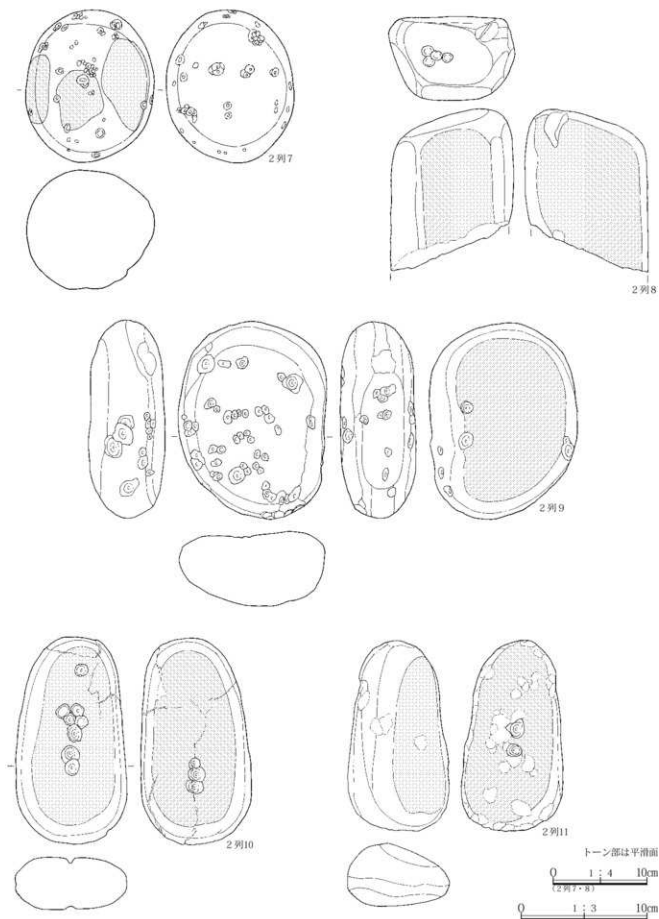
堀之内2式の深鉢底部も出土している。

下部遺構としては、156坑がⅡ群下に位置する。156坑は堀之内1式の鉢が伏裏状に出土した墓壇であり、関連性が窺われよう。

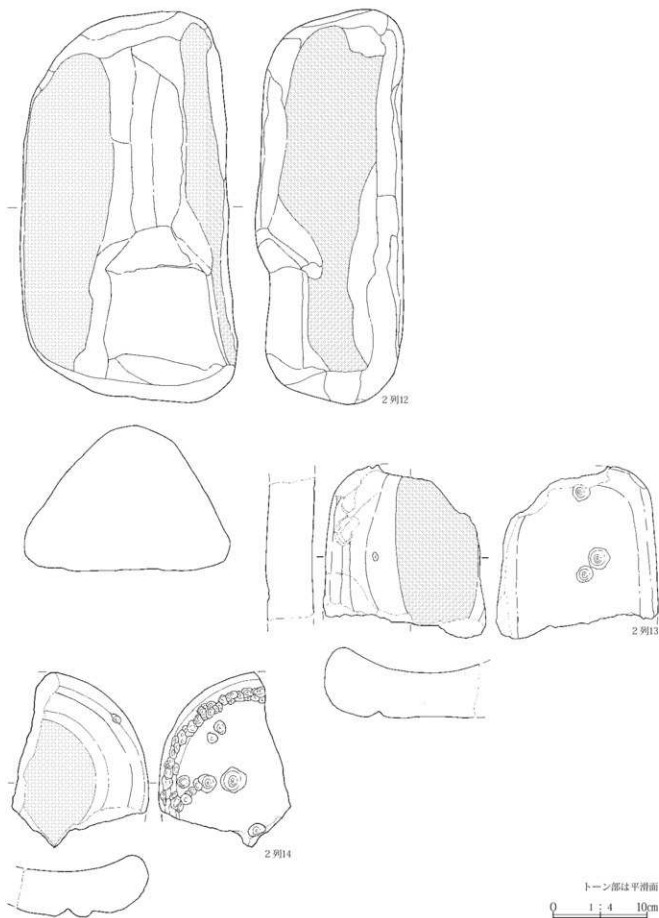
3号列石の時期としては、出土土器と156坑上に位置することから、後期前葉と判断したい。



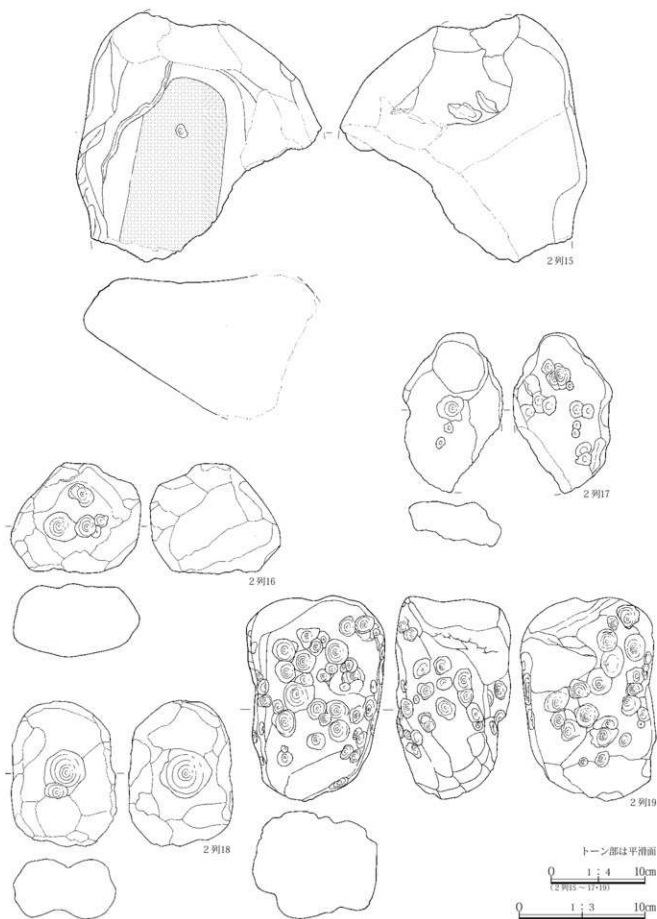
第275図 51区列石出土遺物(1)



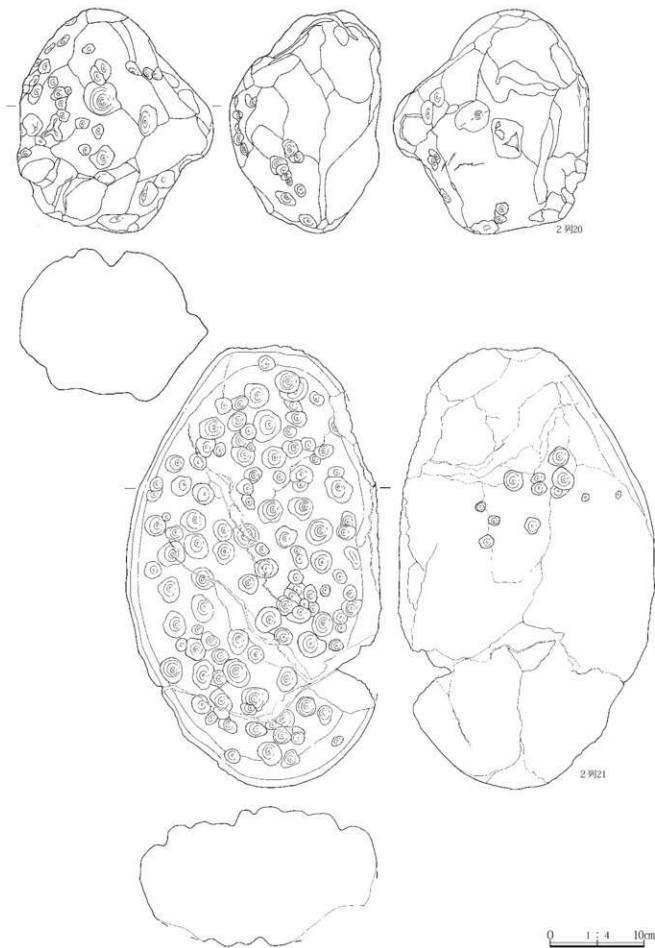
第276図 51区列石出土遺物(2)



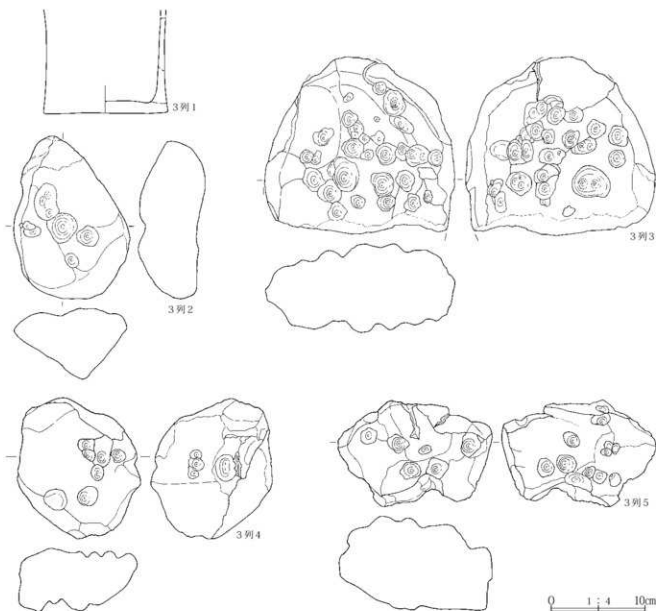
第277図 51区列石出土遺物(3)



第278図 51区列石出土遺物(4)



第279图 51区列石出土遗物(5)



第280図 51区列石出土遺物(6)

51区1号配石(第281図 PL.58)

位置・重複：調査区北東部の51区14号住と52区14号住の間にある。51区N-25・52区N-1グリッドに位置する。下部遺構として可能性のある200～202坑が14号住と重複するが、新田は不明である。

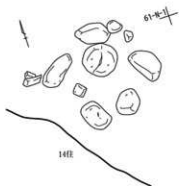
経過・規模：ローム漸移層下位で、大型の円礫を中心に、棒状の円礫5石が圍繞する形態で確認された。平面規模は121×112の範囲で、水平面を保ち置かれていた。被熱痕跡は無かった。この上位配石の北側に202坑が検出され、北壁に石組施設が検出された。東側と西側に棒状礫を立て、北壁に接するように横位2石を跨がせている。さらに、大型の扁平な板石を上位に重ねる形態であ

る。おそらく、上位配石と土坑内石組を同一遺構と考えられ、石組を主とする土坑を埋めた後、円礫を中心とした配石を設けた例と位置付けたい。

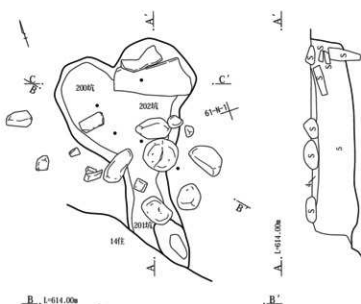
遺物・所見：出土遺物は土器細片と石器剥片を見るのみで、図示に至らなかった。性格や時期の特定にはできない。出土土器片は無文で、詳細が不明だがおそらく後期と考えた。

上位配石と土坑内石組を併せて、配石・石組を伴う儀礼施設と位置付けたい。類例ではないが、61区42坑も土坑内に石組がなされ、完形の堀之内2式土器が出土しており参考にしたい。

51区1号配石遺構（確認面）



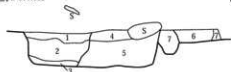
51区1号配石遺構（土坑面）



51区1号配石遺構土層
(200坑)

- 1 黒褐色土 炭化物・黄色粒を少量含む
- 2 褐色土 ローム粒を多く含む
- 3 褐色土 ローム小塊を含む
(202坑)
- 4 黒褐色土 炭化物・黄色粒を少量含む
- 5 褐色土 ローム粒・小塊を多く含む
(別遺構)
- 6 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 7 黒褐色土 黄色粒を少量含む

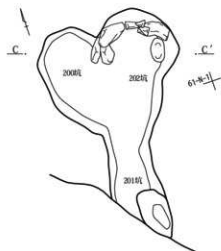
B, L=614.00m



C, L=614.00m

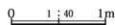


51区1号配石遺構（土坑内石組）



51区1号配石遺構（土坑内石組立面図）

C, L=614.00m



第11節 ビット

本書で扱う調査区では、1000基以上のビットが対象となる。量的に極めて多く全てを報告できず、またビット自体の時期別も困難だった。ここでは、遺物を出土したビットに限り扱うこととし、ビットの規模などは遺構計測表を参考にしていきたい。

また、ビットを組み合わせた建物跡も検出されていない。これは、建物跡の存在を否定するものではなく、調査において把握できなかったためである。整理段階でも、その検出に努めたが、残念ながら組み合うビットを見出せなかった。

51区56号ビット(第282・284図 PL.59・133)

調査区北西部の遺構密集地点東にやや距離を置く位置である。周辺には土坑・ビットが群在し、37坑が南西に近接する。ローム漸移層で確認された径50cm前後の不整形円形のビットである。深さは35cmを測る。埋土中より、中期中葉に比定される土器片4点が出土している。56ビット1・3・4は勝版2式、2は阿玉台Ⅱ式であろう。ビットの時期は中期中葉としたい。

51区65号ビット(第282・284図 PL.133)

調査区北西部の遺構密集地点東にやや距離を置く位置である。周辺には土坑・ビットが群在し、特に小ビットが密集する。北に30坑、東にP115が重複するが新旧は不明である。ローム漸移層を確認面とし、平面形は径40cm程の不整形円で、深さは30cmを測る。底面より凹石(65ビット1)が出土している。時期は中期以降であろう。

51区102号ビット(第282・284図 PL.59・133)

調査区北西部の遺構密集地点南東に位置する。土坑・ビットが群在し、56坑の北西に近接する。ローム漸移層で確認され、不整形円形の径約50×38cm、深さ約40cmの規模を測る。埋土中より諸磯b式体部破片(102ビット1)が出土した。ビットの時期は前期後葉以降であろう。

51区125号ビット(第282・284図 PL.59・133)

調査区中央やや北西寄りに位置する。周辺は土坑、ビットが点在しており、東に13坑が近接するが確認面の差がある。ローム漸移層下位で確認された不整形ビットで、断面形も不安定である。上層より叢石(125ビット1)が出土している。ビットの時期は中期以降としたい。

51区135号ビット(第282・284図 PL.59・133)

調査区北西部の遺構密集地点東側にある。7号住北東で61坑底面に重なる。新旧は不明である。ローム漸移層下位で確認された。不整形で深さ30cmを測る。埋土中より凹石(135ビット1)を出土した。ビットの時期は中期以降であろう。

51区139号ビット(第282・284図 PL.133)

調査区北西部の遺構密集地点南東に位置する。2号住範囲内にあり、遺構が密集している地点である。2号住床下のローム漸移層で確認した。径20cm程度の小ビットである。深さは30cmを超えるが柱穴としては妥当ではない。遺物は埋土中より塚田式の体部破片2点(139ビット1・2)が出土した。ビットの時期は前期初頭以降としたい。

51区189号ビット(第282・284図 PL.59・133)

調査区北西部の遺構密集地点北側にある。7号住北に位置し、ビットが密集し、P190が南に接する他、67坑・96坑が近接する。ローム漸移層を確認面とし、約55×25cmの不整形円状を呈す。深さは38cmを測る。埋土中より大型深鉢体部下半を破片状態(189ビット1)で出土した。加曾利EⅡ式に比定されよう。ビットの時期も中期後葉中頃に求めたい。

51区244号ビット(第282・284図 PL.59・133)

調査区北西部の遺構密集地点の3号住床下で調査された。P291と重複するが新旧は不明である。径20cm程の不整形円で深さも16cmと浅い小ビットである。埋土中より加曾利EⅡ式の口縁部破片(244ビット1)が出土した。ビット時期は中期後葉以降と考える。

51区297号ビット(第282・285図 PL.59・133)

調査区北西部の遺構密集地点南西部に位置する。28号住北東にあり、63坑、P298・P312と重複する。新旧は不明である。ローム漸移層で確認された径30cm程の円形小ビットである。深さは24cmを測る。遺物は埋土中位からまとまって出土している。「新巻類型」口縁部破片(297ビット1)、勝版1式口頸部と口縁部破片(297ビット2・3)を図示した。ビットの時期も中期中葉と考えられよう。

51区302号ビット(第282・285図 PL.133)

調査区北西部の遺構密集地点南東に位置する2号住床面下で調査された。ローム漸移層下位で確認された径30cm程の円形小ビットである。深さは21cmを測る。2号住

柱穴の可能性も考えられたが、規模、配置から妥当性が無く除外した。遺物は埋土中より、加曽利EⅡ式口縁部破片(302ビット1)が出土した。ビットの時期も中期後葉以降と考えられる。

51区325号ビット(第282・285図 PL.59・133)

調査区北西部の遺構密集地点南東に位置する6号住床面で調査された。ローム漸移層下位で確認された径25cm程の円形小ビットである。深さは30cmを超える。深さが6号住柱穴として妥当性があるため検討したが、奇跡に近い配置上の要素から除外した。遺物は勝坂3式の体部破片(325ビット1)を図示した。ビットの時期は特定できないが、中期中葉以降の所産としたい。

51区431・432号ビット(第282・285図 PL.59・133)

調査区中央やや北東寄りの29号住北西に接する。ローム漸移層下位で確認された重複ビットである。P432が新しい。P431は不整形形で径50cm程、深さは31cmを測る。P432は径35cmで深さ33cmの不整楕円状のビットである。P431から凹石(431ビット1)、P432からは打製石斧(432ビット1)が出土している。P432は柱痕が観察されており、柱穴の可能性が高い。時期は両ビットも中期以降としたい。

51区451号ビット(第282・285図 PL.59・133)

調査区北側に位置する。151～153坑が近接する。ローム漸移層で確認された不整形のビットであるが、深さは38cmと良好で、土層にも柱痕を見る。柱穴の可能性が高い。遺物は加曽利EⅡ式の体部上半の破片(451ビット1)を出土する。ビットの時期も中期後葉以降と考えた。

51区470・471号ビット(第282・285図 PL.59・133)

調査区東部に位置する重複ビットである。29号住南にあり、146坑・147坑が近接する。ローム漸移層下位を確認面とする。P471内にP470が重なる。P470は径23cm程の小ビットで深さは23cmを測る。P471は浅い円形ビットである。隣接するP472に切られる。遺物はP471埋土中より「郷土式」の浅鉢頸部破片(471ビット1)が出土している。両ビットの時期は中期後葉以降と考えられる。

51区563号ビット(第282・285図 PL.59・133)

調査区中央やや北東寄りで、193坑と重複して調査された。11・14号住西に近接する。193坑との新旧は不明である。ローム漸移層で確認された46×30cm程の不整楕円状ビットである。深さは40cmを測る。遺物は埋土中より

「郷土式」体部破片(563ビット1)が出土した。著しい焼か灰色を呈する。ビットの時期は中期後葉以降とした。

51区607号ビット(第282・285図 PL.60・133)

調査区中央やや北東寄りに位置する11・14号住西に近接する。前述の563号ビット、193坑も近距離にある。ローム漸移層下位で確認された径30cm程の小ビットである。深さは23cmを測る。埋土下位より石皿片(607ビット1)が出土する。ビットの時期は中期後葉以降であろう。

51区639号ビット(第283・285図 PL.60・134)

調査区南東部に位置する。単独の検出で北東に15号住、219坑が近接する。ローム漸移層で確認された径55cm程の円形ビットである。深さは23cmである。遺物は叢石(639ビット1)がほぼ底面より出土した。ビットの時期は中期以降としたい。

51区714号ビット(第283・286図 PL.60・134)

調査区中央やや西寄りに位置する。土坑が群在する箇所、220坑・239坑が近接する。ローム漸移層で確認された径30cm程の円形ビットである。深さは31cmを測る。遺物は勝坂2式体部破片(714ビット1)が埋土中より出土している。ビットの時期は中期中葉以降であろう。

51区719号ビット(第283・286図 PL.60・134)

調査区北側に位置する。周辺は土坑・ビットが群在し、247坑・248坑が近接する。ビット北半を調査区域外に延ばす。径68cm程のやや大型のビットである。深さも37cmと深い。遺物は中期中葉末に比定される深鉢体部下半破片(719ビット1)と「郷土式」(719ビット2)が出土している。ビットの時期としては、中期後葉以降としたい。

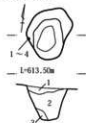
51区756号ビット(第283・286図 PL.60・134)

調査区中央の18号住南東に接する。ローム漸移層下位で確認された。78×69cmの不整楕円状の平面形を呈す。深さは浅く10cmに満たない。ビットよりも土坑としての位置付けが妥当であろう。底面よりやや浮いた状態で扁平な板石が出土している。性格は不明である。出土遺物は中期中葉に比定される深鉢体部下半2点(756ビット1・2)と「焼町類型」体部上半(756ビット3)が出土している。3は当初18号住に帰属していたが、整理段階で756号ビットに位置が求められたため、帰属遺構名を変更した。ビットの時期は中期中葉末以降と考えられる。

51区784号ビット(第283・286図 PL.60・134)

第3章 発見された遺構と遺物

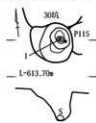
51区56号ピット



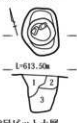
51区56号ピット上層

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む
- 2 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 3 暗褐色土 ローム小塊を少量含む

51区65号ピット



51区102号ピット



51区102号ピット上層

- 1 黒色土 ローム粒を微量含む
- 2 黒褐色土 ローム小塊を含む
- 3 黒褐色土 ローム大塊を含む

51区125号ピット



51区125号ピット上層

- 1 黒褐色土 ローム塊を少量含む
- 2 黒褐色土 ローム大塊を含む
- 3 暗褐色土 ローム塊を多く含む

51区135号ピット



51区135号ピット上層

- 1 黒褐色土 ローム粒を含む
- 2 黒褐色土 61坑埋土

51区139号ピット



51区189号ピット



51区189号ピット上層

- 1 黒色土 黄色粒を微量含む
- 2 黒褐色土 ローム粒を多く含む
- 3 暗褐色土 ローム大塊を含む

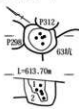
51区244号ピット



51区244号ピット上層

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む
- 2 黒褐色土 黄色粒を少量含む

51区297号ピット



51区297号ピット上層

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む
- 2 黒褐色土 黄色粒を少量含む

51区302号ピット



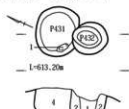
51区325号ピット



51区325号ピット上層

- 1 黒色土 黄色粒を微量含む
- 2 黒褐色土 黄色粒を多く含む
- 3 暗褐色土 ローム大塊を含む

51区431・432号ピット



51区431・432号ピット上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒を多く含む
- 3 黒褐色土 ローム塊を含む
- 4 黒褐色土 ローム粒を少量含む

51区451号ピット



51区451号ピット上層

- 1 暗褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 黒褐色土 黄色粒を微量含む
- 3 暗褐色土 ローム小塊を含む

51区470・471号ピット



51区470・471号ピット上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 黒褐色土 ローム粒を含む
- 3 黒褐色土 黄色粒を多く含む
- 4 黒褐色土 ローム小塊を含む

51区563号ピット



51区563号ピット上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒を少量含む

51区607号ピット



51区607号ピット上層

- 1 黒褐色土 黄色粒を少量含む



第282図 51区ピット(1)

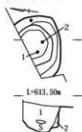
51区639号ビット



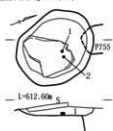
51区714号ビット

51区714号ビット土層
1 黒色土 黄色粒を少量含む

51区719号ビット

51区719号ビット土層
1 黒褐色土 ローム粒を微量含む
2 暗褐色土 ローム粒を多く含む

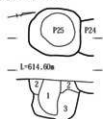
51区756号ビット

51区756号ビット土層
1 暗褐色土 黄色粒を少量含む

51区784号ビット

51区784号ビット土層
1 黒色土 白色粒を微量含む
2 黒褐色土 黄色粒を少量含む

52区25号ビット

52区25号ビット土層
1 黒色土 白色粒を微量含む
2 黒褐色土 ローム粒を少量含む
3 黒褐色土 ローム小塊を含む

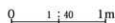
52区111号ビット

52区111号ビット土層
1 黒褐色土 白色粒を少量含む

52区115号ビット

52区115号ビット土層
1 黒褐色土 ローム塊を含む

52区127号ビット

52区127号ビット土層
1 黒褐色土 ローム粒を少量含む
2 暗褐色土 ローム粒を微量含む

第283図 51区ビット(2)・52区ビット

調査区南東部に位置する。周辺の遺構密度は希薄で、東に距離をおいて15号住を見る。ローム漸移層で平面形を確認した。径30cm程の小ビットである。浅く13cmを測る。出土遺物として、上層で出土した注口土器体部下半(784ビット1)を図示する。堀之内1式に比定され、横位に出土したが意図的な所産としては確定できない。底面に焼成後の穿孔を見るがこれも性格が不明である。時期は後期前葉と判断した。

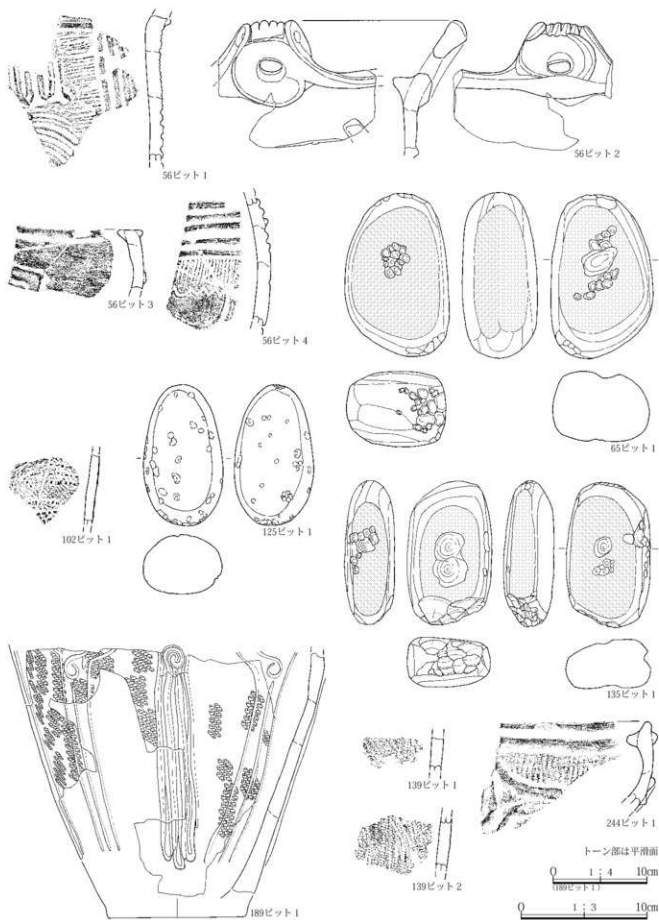
52区25号ビット(第283・286図 PL.134)

調査区西端に位置する。単独の検出で周辺には中世～近世の土坑、ビットが点在する。P24が北側で重なる。

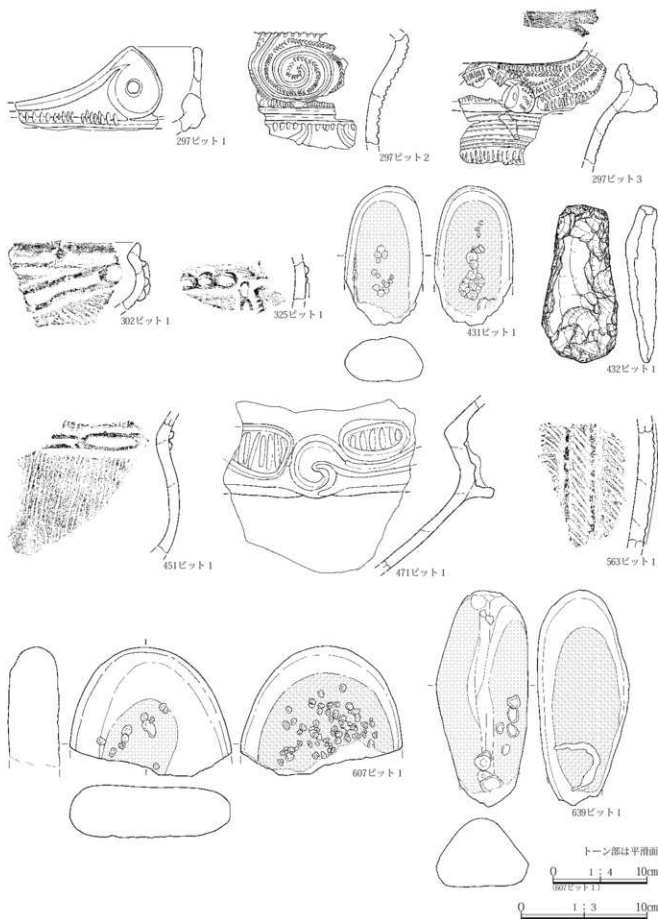
黒褐色土中で確認された径50cm程の不整形円形ビットである。深さも50cmを測り、深い。遺物は埋土中より加曾利EⅡ式口縁部破片(25ビット1)が出土した。ビットの時期は中世～近世の可能性はあるが、縄文時代中期後葉以降の所産としたい。

52区111号ビット(第283・286図 PL.60・134)

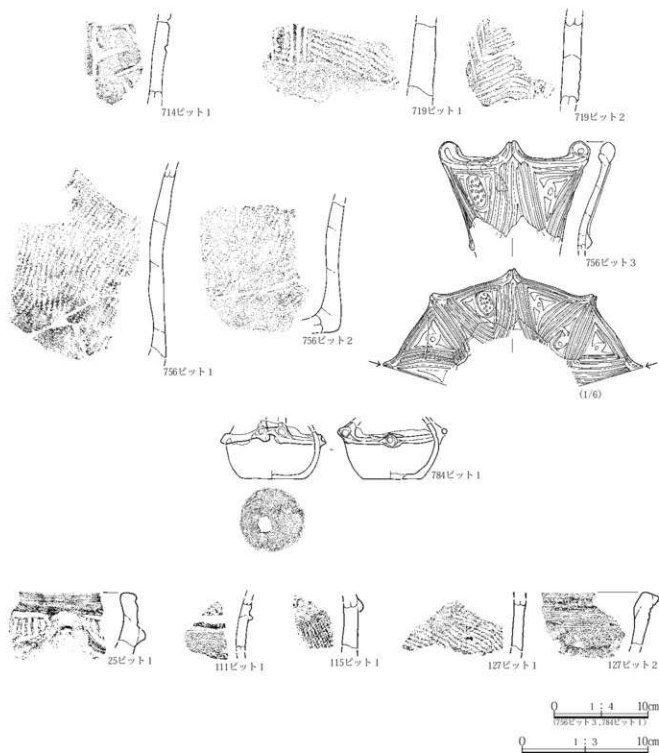
調査区北西端に位置する6・10号住範囲にある。82坑が北に近接する。ローム漸移層下位で確認された。不整形を平面形とし、深さは20cmを測る。小型の土坑とした性格が妥当と思われる。遺物は加曾利EⅡ式の口頸部小破片(111ビット1)が出土している。ビットの時期は中期後葉以降と考えられる。



第284図 51区ピット出土遺物(1)



第285図 51区ビット出土遺物(2)



第286図 51区ピット出土遺物(3)・52区ピット出土遺物

52区115号ピット(第283・286図 PL.60・134)

調査区北西端に位置する6・10号住範囲にある。76坑が北に重複するが新旧は不明である。小型ピットで径30cm程度の円形を呈し、深さ20cmを測り浅い。遺物は埋土中より加曾利E1式体部小破片(115ピット1)の出土を見た。ピットの時期は中期後葉以降である。

52区127号ピット(第283・286図 PL.60・134)

調査区南西部に位置する。周辺はピットが点在し、本ピットは12号住北壁下で調査された。ローム漸移層で確認された径50cm程の不整形円形ピットである。深さは27cmを測る。遺物は黒浜式体部破片(127ピット1)と阿玉台Ⅱ式口縁部破片(127ピット2)が出土している。ピットの時期は中期中葉以降と考えた。

第12節 遺構外出土遺物

本節では、遺構確認時に出土し、縄文時代の遺構出土として捉えられなかった土器、石器を遺構外出土遺物1として掲載する。また、中世～近世遺構出土の縄文時代遺物を遺構外出土遺物2として報告する。

遺構外出土遺物1

発掘調査において、グリッド出土遺物を中心にして報告する。51区・52区・61区毎の掲載とし、各区の通番を付している。

51区(第287～302図 PL.134～147)

51区は調査区中央から東側を占める地区である。遺構密度が高く、特に遺構外出土遺物の中でも中期後葉に比定される資料が多量に見られた。ここでは、中期後葉の土器に関しては、個体や大型破片を優先し、小破片等は割愛した。

前期：第287図1～7にまとめた。出土量は多くはない。1は前期初頭の塚田式あるいは花積下層式と考える。2・3は黒浜式であろう。前期中葉に比定される遺構は285坑があるが、距離は離れる。1～3は織維を含む。4は諸磯a式の深鉢底部であるが、該期の遺構は251坑を見るが1点のみの出土であり、距離は離れる。5～7は諸磯b式とした。調査区全体で、散漫ながら浮線文が出土する傾向がある。7は292坑と同一グリッド出土である。

中期前葉～中葉：第287図8～第288図17を挙げた。8は勝坂1式。小型深鉢で、単列の角押文と沈線による方形意匠を基準とした変則の2単位構成である。9・10は阿玉台1b式・Ⅱ式、11は勝坂2式である。12は「新巻類型」の体部下半である。判断を控えたい。懸垂文構成で縄文地に三叉文を加える。13は縄文のみで判断できないが、胎土に雲母を含み、あるいは七郎内Ⅱ群の可能性もある。14は勝坂2式の範疇に入ると思われるが、区画内を半肉彫手法による三叉文などが充填される。「焼町類型」古相に近い文様構成である。「焼町類型」は15～17にまとめた。15は体部下半に横位一次区画線をつける。15・16の沈線は1本描き施文である。17は、発掘調査段階では埋裏として、取り上げられていたが、掘り込みも無く、埋設土器としても妥当ではないため、やむなく遺構外出土とした。

中期中葉末～後葉初頭：第288図18～第289図23。18の出土グリッドには24号住が位置するが、住居跡出土土器との時期差を見る。18はあるいは付付き深鉢か。小型深鉢で鋸歯状口縁で強く内湾する口頸部、体部と一体化した弧状意匠が特徴的である。19～22は中葉末の中峠式あるいは後葉初頭段階の加曾利E1式古段階に併行する「三原田類型」等に相当しよう。19の横位S字状意匠、20の田螺状突起が特徴である。21の沈線は内皮施文で、懸垂文や弧線文を描き、22も平行沈線を分帯・区画線とする。23は突起破片で詳細は不明である。おそらく中期中葉段階の柱状突起と思われる。

中期後葉前半～中頃：第289図24～33。出土土器は全域に広がり、出土量は膨大である。紙数の都合もあるため、残存度の良好な資料を優先した。24は「筋倉式」と判断したが、綾杉状短沈線はなく、交互斜短沈線による充填である。25～28・30～32は加曾利E1新段階～Ⅱ式にあたる。27の口縁部には渦巻文を見ない。28内面に環状の黒変が観察される。29は残存度が低いが復元実測を施した。該当する型式名を充てられない。おそらく信州系と思われるが例を見ない。33は無文で、判然としなが、中期中葉に比定される可能性もある。

中期後葉後半～末葉：第289図34～第290図46。加曾利EⅢ式や「郷土式」を集めた。遺跡内で充実した出土量を誇る。34～38は加曾利EⅢ式、39～44を「郷土式」と考えた。42・44は17号住と同一グリッド出土であり、関連性が窺われよう。樽状の器形を呈し、「唐草文系土器」との関係が注意されよう。45は加曾利EⅣ式と判断した。

後期初頭：第291図47～50。4点を称名寺式とした。口縁部下に横位隆線を設ける一帯で、あるいは堀之内1式の可能性もある粗製深鉢である。49は27号住と同一グリッドである。

後期前葉～後期中葉：第291図51～第293図75。堀之内1式(51～63・66)を多く図示した。51区では、中央部の13号住周辺と北西部の遺構密集地点北側に出土分布を見る。比較的上層の黒褐色土中からの出土が多い。51は3号列石南側に出土する。おそらく3単位の双波状縁であろう。55は注口付き浅鉢。北西部の遺構密集地点北側から出土する。56・62・63・67は1号列石周辺の出土である。56～58は「茂沢類型」の変化を見ることができ、57は27号住と同一グリッドである。58は2号列石周辺出土で

ある。このように、列石周辺部に堀之内1式が出土する傾向は重視するべきであるが、調査において、列石に伴う出土として把握されていないため、遺構外扱いとなってしまう。64・65は三十稲場式としたが、65は小破片のため疑問が残る。堀之内2式(72～74)や加曾利BⅡ式(75)はやや客体的な出土量である。

土製円盤：第294図76～94。19点を図示した。比較的出土量を多く見るが、分布の偏り、用途・性格などを示唆する例は見られなかった。

石器：ここでは、器種毎に概要を述べる。

石鏃は27点を図示した(第294図95～111、PL.145・181～190)。凹基鏃が圧倒するが、未製品(97・98・108・187)も含む。平基鏃(107・190)、平基鏃未製品(110・182)、有茎鏃(111)が見られる。111の基部は変色しており、接着剤の痕跡と思われる。

石槍(第295図112)は未製品か。石匙は横型(113・114)、斜めタイプ(115)、押出型(116)、縦型(117)が見られる。116は硬質頁岩製で逸品である。搬入品か。時期も前期に比定されよう。同様に4cm近い体部を有す石錐(118)も逸品である。在地石材である珪質頁岩を使用する。120は左辺側縁上部に突出部を持ち、石錐と考えた。191～193も石錐である。121・122・194は楔形石器である。

打製石斧も多く、中期～後期集落跡である本遺跡の特徴を具体化する。短冊形(123～126・128・195～197・199)、楕円形(127・198)、分銅形(129)が見られる。198は未製品であろうか。

磨製石斧(第295図130～第296図135、PL.145・200)も該期集落跡出土遺物として定着するが、弥生時代の例もある。遺構外出土遺物の場合、注意を要する。定角式(130～133・200)、乳棒式(134・135)を見る。134・135は51区0-20グリッドで出土している。

石鏃(第296図136、PL.145・201)を図示したが、弥生時代の所産が妥当であろう。石錘(137)は当地域では比較的希少遺物である。しかしながら、中期～後期に比定できず、これも弥生時代に属するか。石製円盤(138)は緑色片岩製で当地域の石材ではない。搬入品であろう。

玉製品(第296図139・140)2点を図示した。140の石材は粗粒輝石安山岩である。希少例であろう。

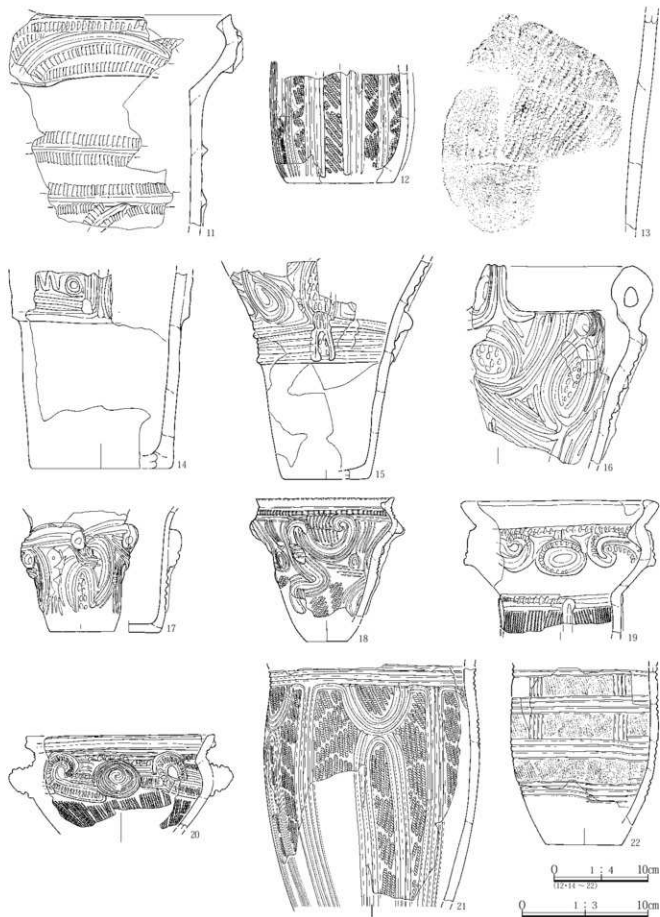
礫石器も多い。石皿(第296図141～第297図146)、台石(147・150)、磨石(148・149・第298図151～153・155)、凹石(154・156～第299図161)、敲石(162～第300図169)、多孔石(170～第301図174)、石棒(第302図175・176)、不明石製品(177～180)を図示した。141は脚付き石皿であろう。145は挿き出し口が片側へ偏る。敲石166は磨製石斧の転用であろう。169は石核状の素材の下端部に敲打痕を見る。多孔石(174)の裏面には縦位条線が刻まれる。石棒(176)は体部中位のみが残存で上下は意図的に欠している。不明石製品は用途・機能など不明である。また、中世～近世に帰属する可能性もあり、注意を要しよう。



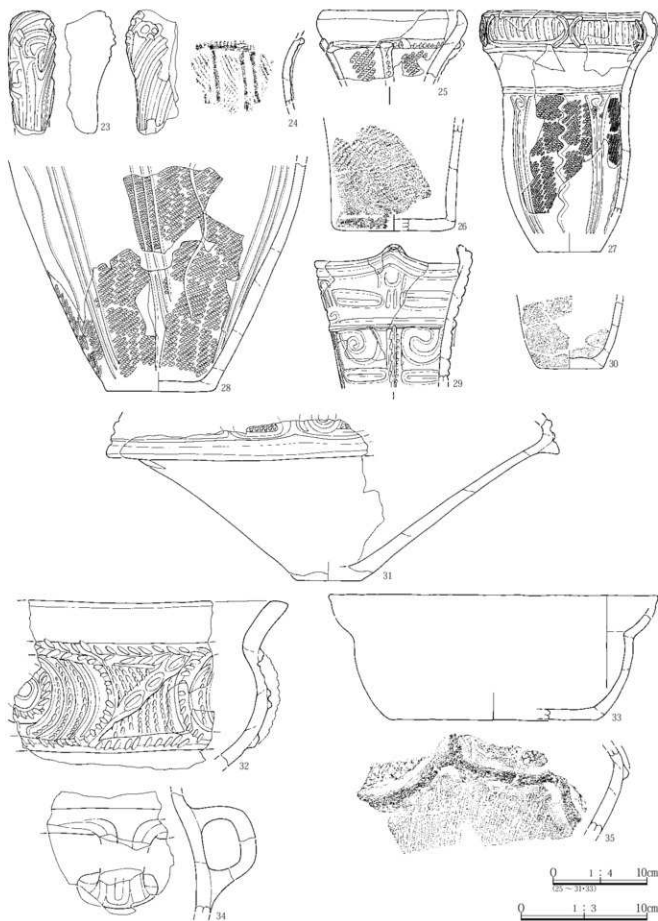
調査風景



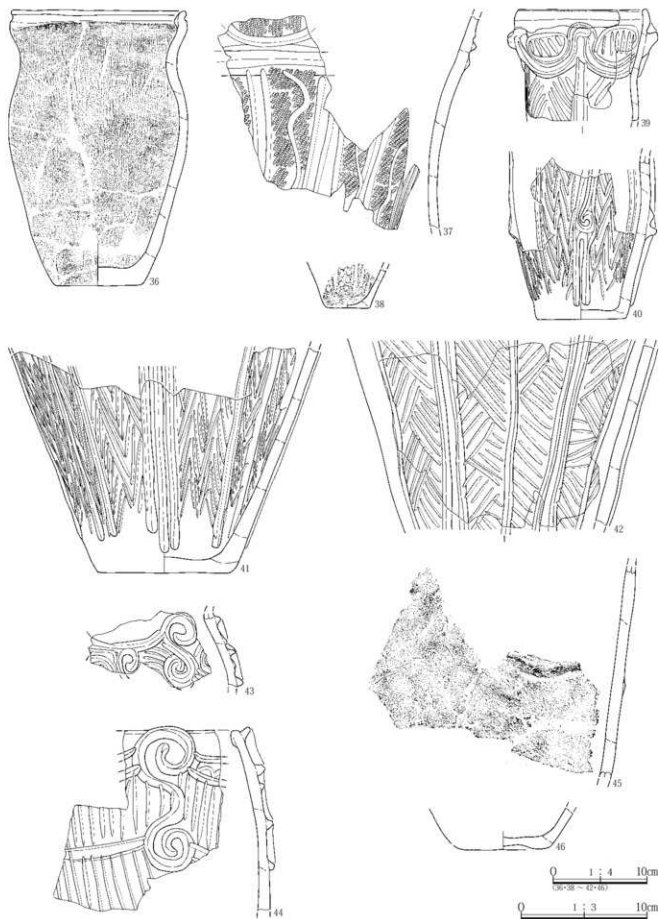
第287図 遺構外出土遺物1 51区(1)



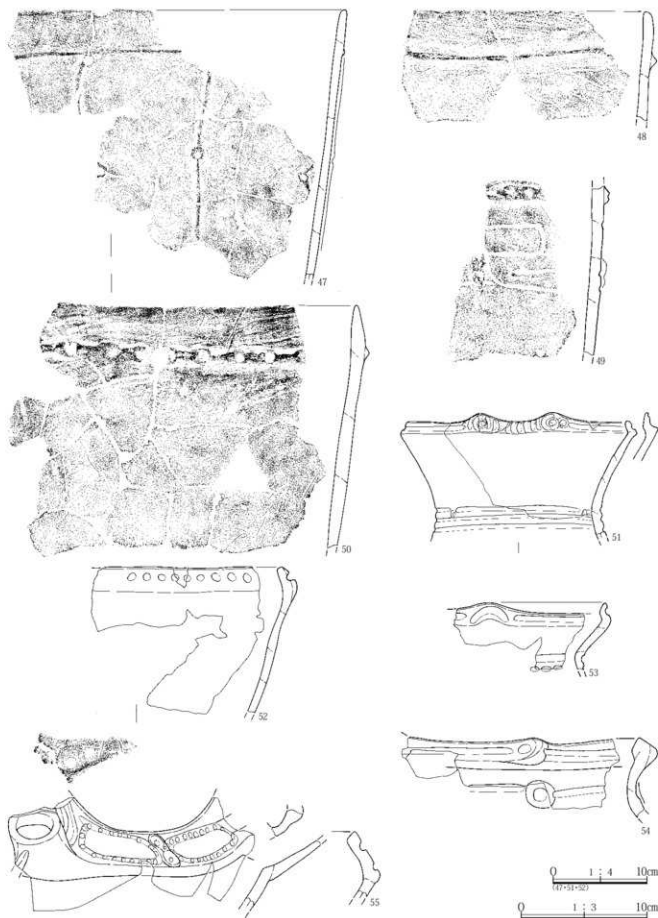
第288図 遺構外出土遺物1 51区(2)



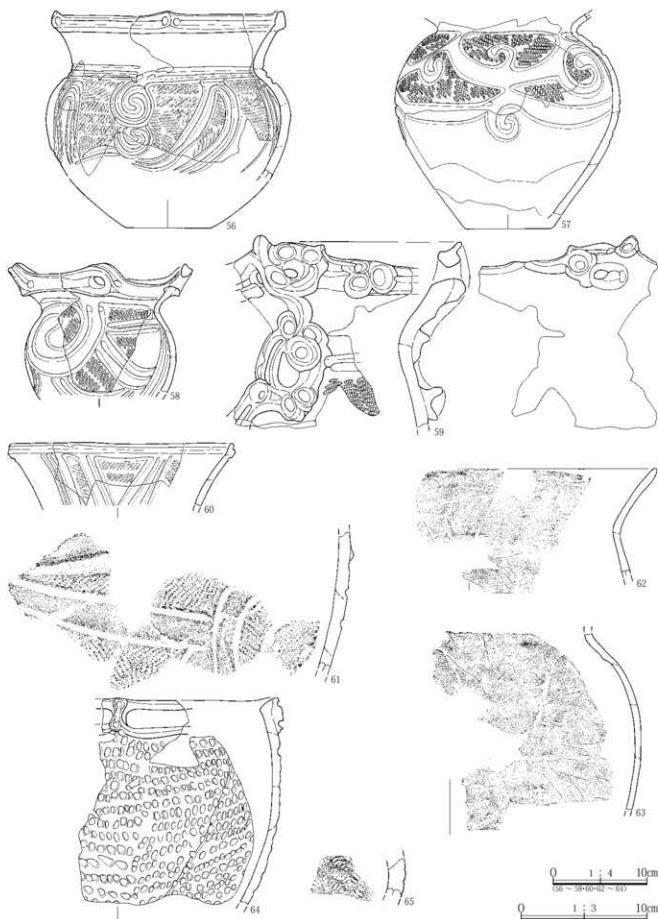
第289図 遺構外出土遺物1 51区(3)



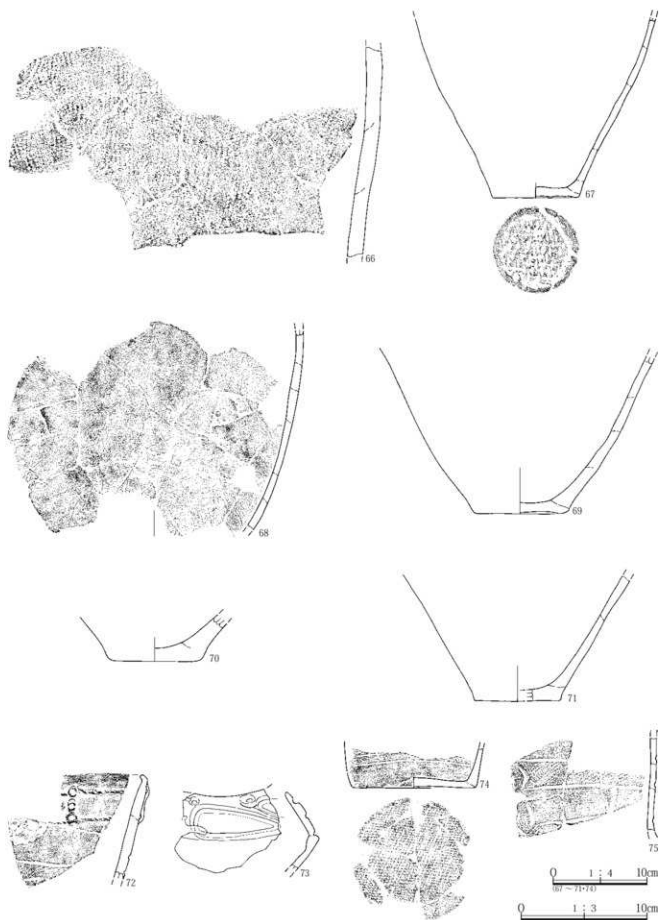
第290図 遺構外出土遺物 1 51区(4)



第291図 遺構外出土遺物1 51区(5)



第292図 遺構外出土遺物 1 51区(6)



第293図 遺構外出土遺物 1 51区(7)

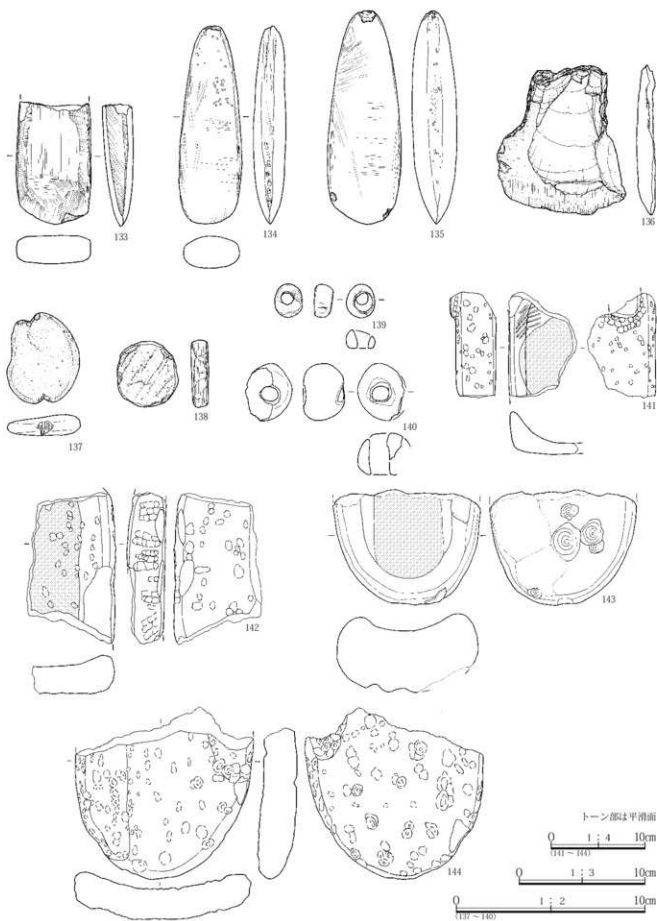
第3章 発見された遺構と遺物



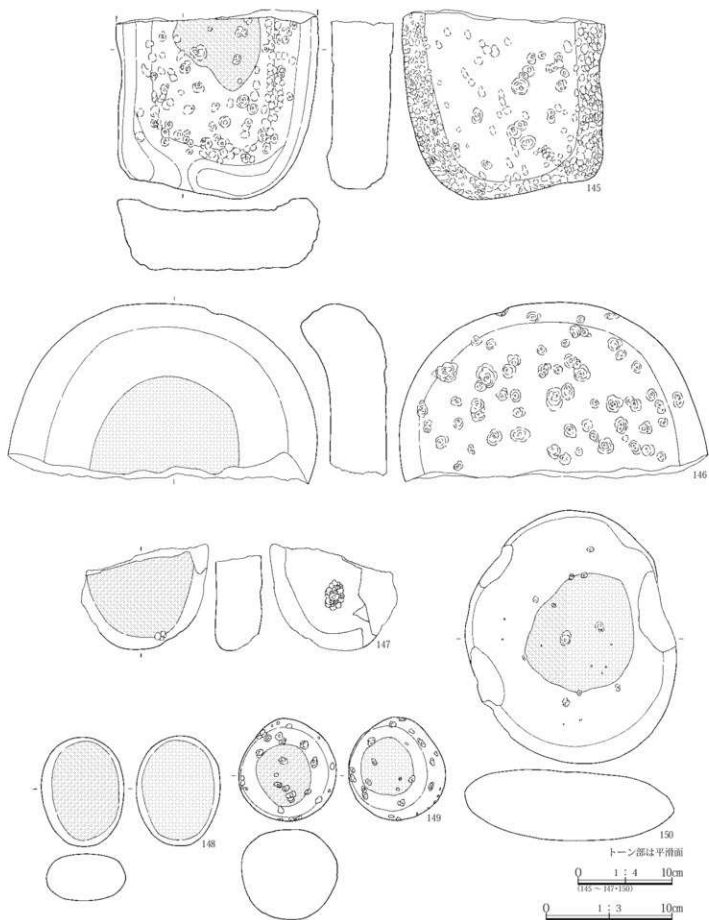
第294図 遺構外出土遺物1 51区(B)



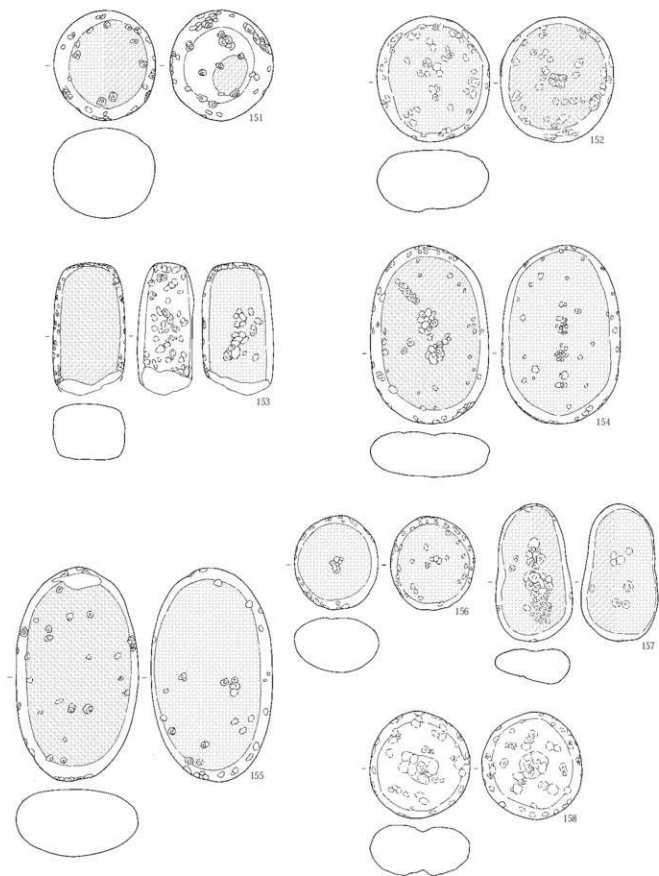
第295図 遺構外出土遺物 1 51区(9)



第296図 遺構外出土遺物 1 51区(10)



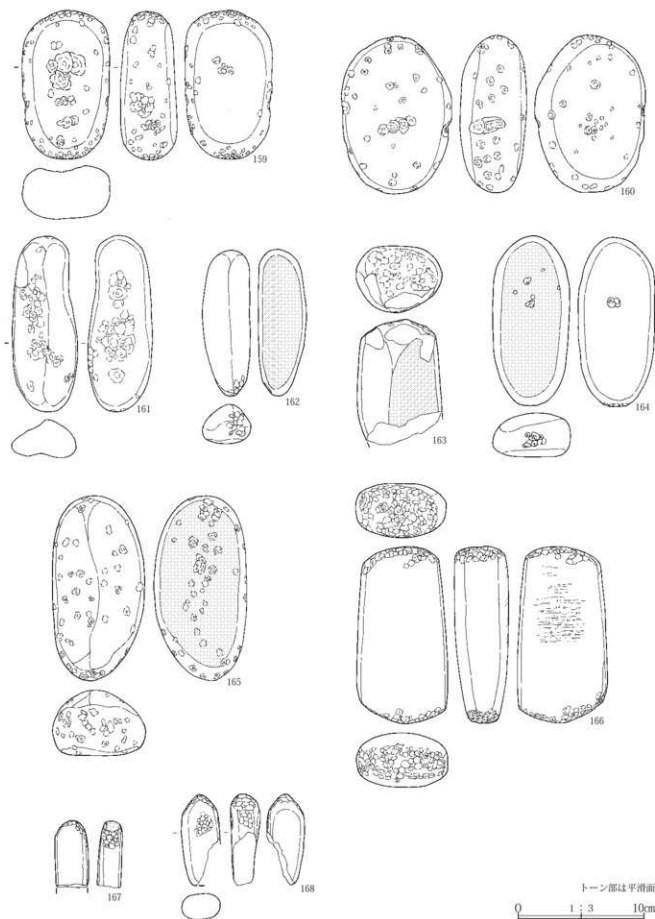
第297図 遺構外出土遺物 1 51区(11)



トーン部は平滑面

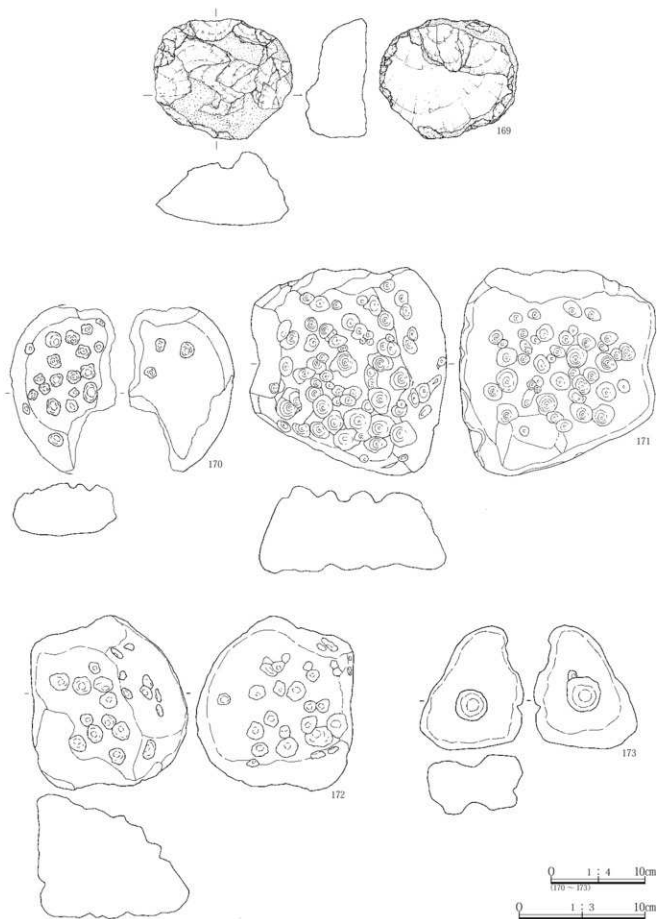
0 1 : 3 10cm

第298図 遺構外出土遺物 1 51区(12)

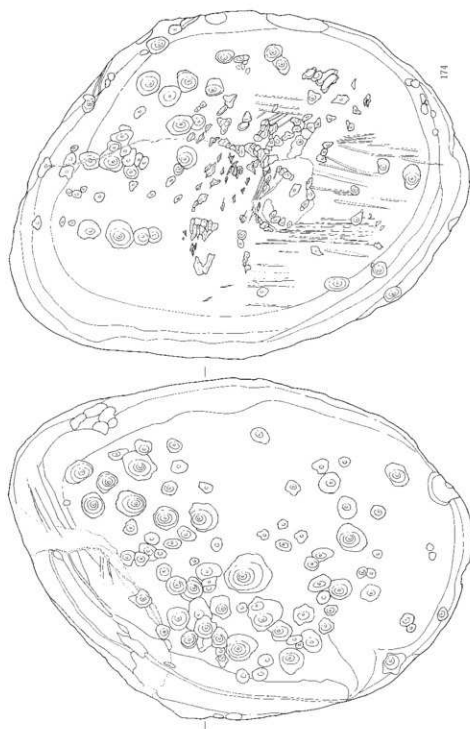


第299図 遺構外出土遺物 1 51区(13)

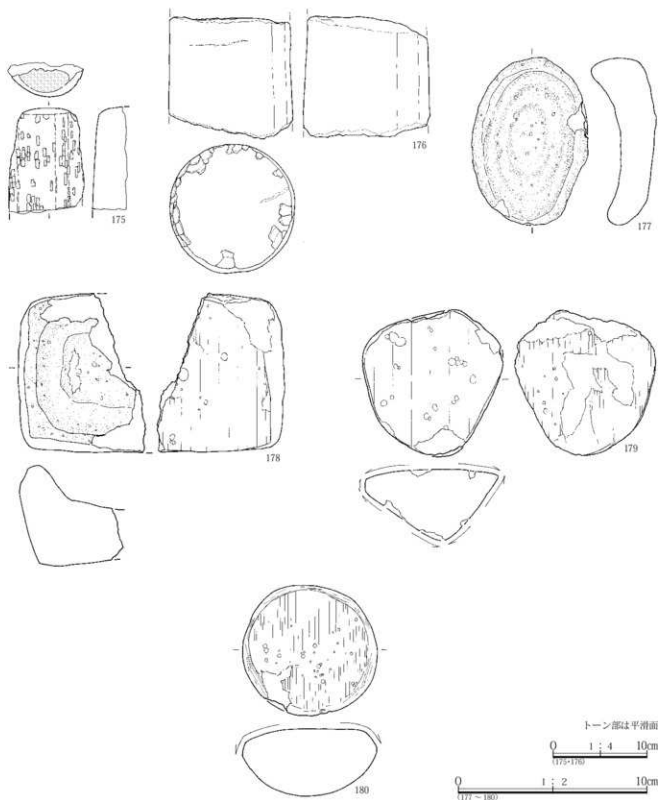
トーン部は平滑面
 0 1 : 3 10cm



第300図 遺構外出土遺物 1 51区(14)



第301図 遺構外出土遺物 1 51区(15)



第302図 遺構外出土遺物 1 51区(16)

52区(第303～318図 PL.148～161)

52区は、調査区西側にあたる地区である。51区より調査対象面積が少なく、検出遺構も密集していない。しかしながら、出土遺物数は前期と中期後葉が多く見られ、そのため抽出した遺物数も51区を凌ぐ。

前期：51区に比して、初頭～中葉段階の土器が多い。胎土中に繊維を含む。第303図1～12は初頭段階の花植下層式あるいは塚田式に比定されよう。2条一組の燃糸圧痕文と縦位羽状縄文構成を主とする。

前葉段階では13～16を関山式とした。内削状口唇部

で、ルーブ文が多段に施される文様構成である。

中葉の黒浜式や有尾式も見られる。17～25・28～31を黒浜式とした。横位羽状縄文構成あるいは斜縄文に覆われる例などが見られる。菱形の構成は有尾式の体部の可能性もある。26・27は網目状燃糸文を施す。大木2式であろう。第304図32～34・40・41を有尾式とした。口縁部に連続爪形文を施す例を集めた。

前期後葉は諸磯b式が多い。35～37を諸磯a式としたが、疑問は残る。織維は含んでいない。38・39・42～45は諸磯b式の平行沈線を施す例である。46～56は浮線文、第305図57～59は縄文施文、60～68は浅鉢である。有文の例(60～64)、無文(65～68)がある。65の口縁部に僅かに赤彩痕を見る。口縁部はおそらく有孔と思われる。

前期末葉に比定される69、中期初頭の70を図示したが客体的な存在である。

中期前葉～中葉：前葉の資料として71を挙げる。中空状の球状突起を中核に弧状隆線が配される。おそらく北信系の一群と思われる。中葉段階は多い。72・73は阿玉台Ⅱ式、75・76は「新巻類型」、77～81は勝坂1式。第306図79・80は同一個体である。82は勝坂2式であろう。83～88は勝坂3式とした。87は加曾利EⅠ古段階に比定される可能性もある。89～92は前葉～中葉段階の浅鉢。90・91には赤彩痕が僅かに認められた。92は北陸系の浅鉢口頸部破片である。

中期後葉前半：加曾利EⅠ式・EⅡ式を挙げるが主体となるのはEⅡ式である。93は口縁部文様帯が幅狭で新相を呈すがEⅠ式と判断した。区画文内が矢羽状短沈線で充填され、頸部無文帯は幅広である。94・第307図96は横位S字状意匠を配す。95は「柄倉式」の可能性が高い。縦位綾杉文を描く短沈線は細い。

加曾利EⅡ式はEⅢ式について、出土量が多い。98～第308図117を図示した。98は口縁部文様帯を持たない。突起のみの装飾である。99～103は口縁部・口頸部破片資料を集めた。いずれも隆線による渦巻文と区画文構成である。体部破片資料として104～111を挙げた。多くが隆線や沈線による懸垂文構成で、渦巻文や縦位波状沈線、沈線間を繋ぐ意匠を充てる。112・113は底部資料である。該期浅鉢として114～117を図示した。116以外は赤彩痕を見る。特に117には顕著で、環状意匠が看取される。

大木8b式として118～121を挙げたが、沈線端部などで地化した様相も見られ、変化形の可能性もある。

曾利式を122～126・130に集めた。口縁部浮線文(122)、斜位沈線文(123・124)、重爪文(125)などを見る。130は曾利Ⅲ式であろう。

「柄倉式」の突起2点を(127・128)図示した。128は質感からも異系統の様相を示す。129は判断を控えたい。51区遺構外29と同様の様相であろうか。

中期後葉後半：加曾利EⅢ式と「郷土式」が相当するが、「郷土式」の中には加曾利EⅡ式に伴う例も存在する。

一応、磨消縄文を加曾利EⅢ式の指標とし、131～第310図153に集めた。131・第309図132は波状突起を付す口縁部である。共伴する「郷土式」の影響で扁平な波状突起が見られるが、本例は立体性に富む。平縁で口縁部を持たない例(133)、区画文構成例(134)などがある。135は両耳壺あるいは鉢か。体部文様構成は沈線による磨消部懸垂文構成を基本とし(136～143)、磨消部に縦位波状沈線を加える例(138・140)、縄文施文部に加える例(139)がある。第310図144は施文部に縦位に撫でを加える例で異質である。検討を要する。145・146は密接条線を施文する一群である。曾利Ⅲ式の影響か施文が深い例(145)もある。147～153は無文浅鉢を集めたが、赤彩痕は不明瞭で151に僅かに見られるのみである。

「郷土式」は154～第313図187まで集めた。加曾利EⅢ式同様に多量の出土量を見たため、掲載点数も多くなった。「郷土式」の多くは縄文施文をしないが、古段階は縄文を施し体部に沈線意匠を配す。52区15号住Ⅰなどが好例であろう。しかし、縄文施文をする「郷土式」体部は破片資料では、加曾利EⅡ式との分別は難しい。故にここでは、縄文を施す体部破片は加曾利EⅡ式へまとめている。また、「郷土式」と相互の関係性が深い「唐草文系土器」に関して、ここでまとめて掲載した。

「郷土式」の浅鉢として154を挙げた。勾玉状の区画文配列が特徴的で赤彩処理は積極的ではないようだ。深鉢155の口縁部文様帯も勾玉状区画文が配される。第311図156～160に口縁部突起をまとめた。4単位例は少なく、156のように1・2単位が多く正面観が強調される。162～164は緩波状口縁で、加曾利EⅢ式の波状縁に比して渦巻文などがやや扁平な印象を得る。165～169は幅広の無文口縁である。体部に大柄な渦巻文を配す文様構

成を充てる例が多く、例えば、51区20住5、52区7号住1などが典型的な文様構成である。第312図170・171のように幅状の無文口縁で樽状の器形を呈す例は、「唐草文系土器」と近い。171は乱雑な交互刺突文を施し「唐草文系土器」と考えておきたい。172も樽状のため「唐草文系土器」の可能性がある。173～187に「郷土式」の体部破片を集めた。2条隆線による懸垂文構成や下端をU字状に区画する構成も見られる。充填文は斜位短沈線で、縦位矢羽状や鱗状、交互斜位に施す例が多い。縦位沈線に横位沈線を加える例(177・187)や横位弧状短沈線(第313図183)を施す一群も見られる。184・185は無文地ながら「田」字状意匠を充てる。また、体部隆線を沈線に置き換えた例(186)は「郷土式」後半段階の様相であろうか。

189・190は曾利Ⅲ式の可能性を踏まえて掲載した。施文が加曾利Ⅲ式と比して比較的深度のため、曾利式と判断した。

中期末葉：加曾利Ⅳ式をまとめた。中期末葉段階の「郷土式」など信州系の土器は客体的で、ここでは掲載に至らなかった。52区には中期末葉～後期初頭に比定される遺構は検出されていない。しかしながら、出土土器は比較的まとまり、195～204を選んだ。いずれも、縄文施文で口縁部把手を付す例(195・197)、口縁部横位隆線を設ける例(196)、口縁部横位沈線を設ける例(198・199・201)、波状縁で磨消部による意匠文を配す例(202)、体部に沈線による分岐意匠を配す例(203・第314図204)などが見られる。51区には遺構があるが、52区まで活動範囲は広がるのであろう。

後期：出土点数は少なく小破片も選び、207～220を掲載した。堀之内1式(207～212)、2式(213・215～219)、加曾利Ⅱ式(214・220)を見る。まとまった様相ではなく、出土地点も散漫に広がる。

土製円盤：221～226。6点を図示した。深鉢体部無文部分の再利用が多い。胎土や整形手法などから、すべて中期後葉の所産と判断した。

石器：器種毎に概要を述べる。

石鐮は12点を図示した(第315図227～233、PL.160 271～275)。228が平基鐮で他は凹基鐮である。230が珪質頁岩、233が珪質変質岩で他は黒曜石製である。233はおそらく未製品であろう。231は大型で丁寧な剥離に覆

われ優品の部類である。

石匙は234～236を図示した。234・236は横型石匙、235は縦型石匙である。234は流紋岩、235が黒曜石、236は珪質頁岩製である。3点とも51区との境界付近で出土しており、中期住居跡群の範囲内出土といえよう。

石鏝は3点を図示した(第315図237～239)。3点とも黒曜石製で断面三角形形状を呈す。237・238は周縁加工及び紡錘状である。239は未製品の可能性もある。

打製石斧として11点を挙げた(第315図240～243・245～247、PL.160 278～281)。多くが細粒輝石安山岩で、砂岩製の242、緑色片岩製の247がある。247は搬入品か。短冊形が主であるが、242は楕形であろうか。247は分銅型の可能性もある。

削器として244を図示する。細粒輝石安山岩製で、両側縁に使用による著しい摩擦痕を見る。

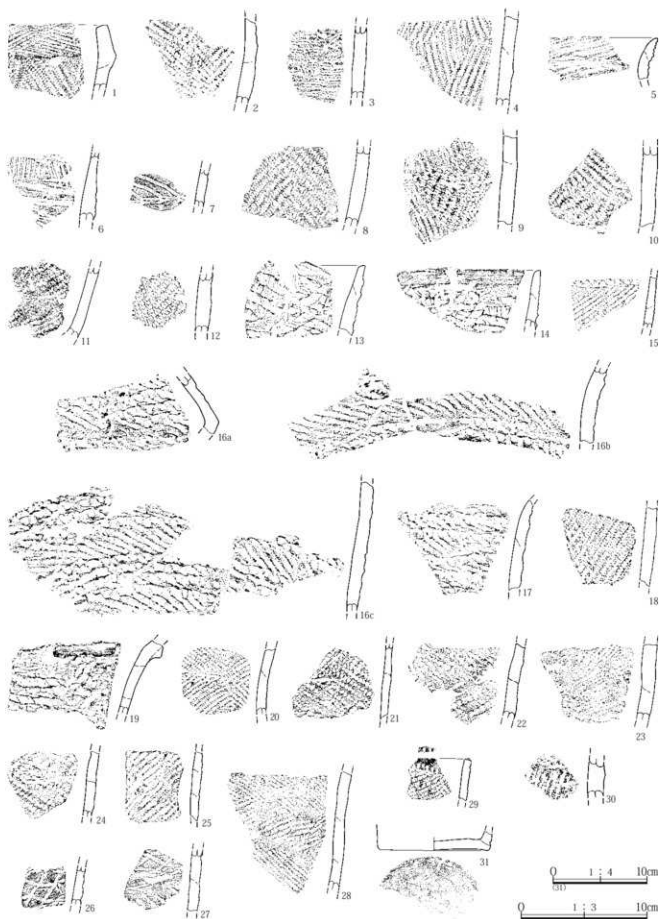
磨製石斧は4点挙げた(第316図248～250、PL.160 282)。乳棒状を呈する緑色岩製の248と249は52区B-12グリッドで重なり合って出土している。51区遺構外で扱った第296図134・135も同様な例であろうか。定角式の250は敲打痕があり、敲石としての使用が想定されるが、磨製石斧再作出時の敲打痕とも捉えられよう。同様に敲石としている251も磨製石斧からの転用であり、上半部の研磨は刃部作出としても位置付けられよう。

磨石は5点を図示する(第316図252～256)。敲打痕や凹みを有するが、明瞭な平滑面を優先した。粗粒輝石安山岩を主とし、256が石英閃緑岩製である。255は四面の磨滅が著しく、断面方形を呈する。

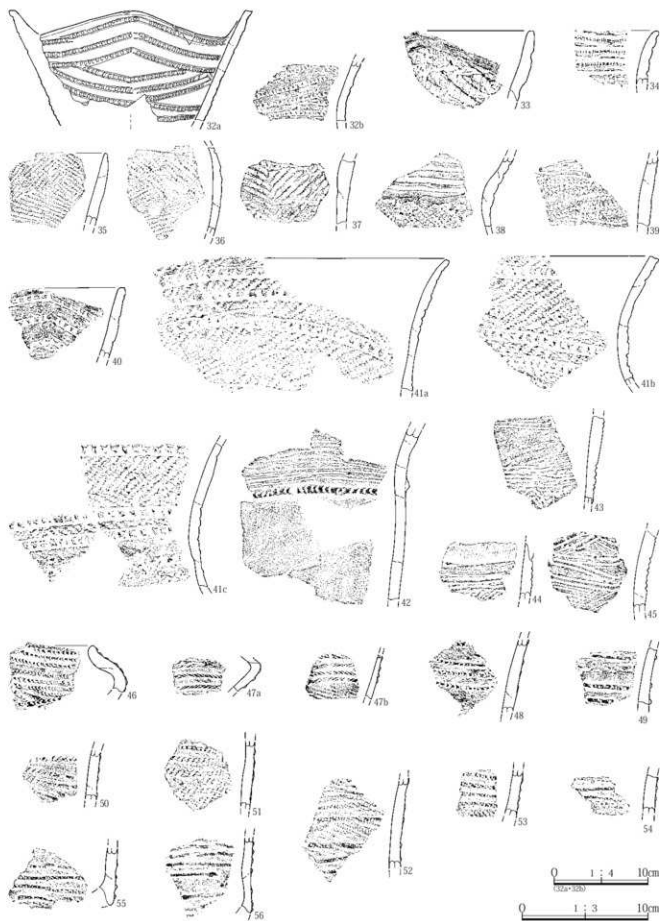
敲石としては、前述の磨製石斧転用例を除き、6点を挙げる(第316図257～第317図262)。粗粒輝石安山岩製が多いが、変質安山岩製(258・260)も見る。262は磨石として分類したが、下端部の顕著な敲打痕を優先した。

凹石は4点を挙げる(第317図263～266)。263・264が変質安山岩製、265・266が粗粒輝石安山岩製である。細かな敲打痕を集中した凹みで、263は側縁にも設けられる。

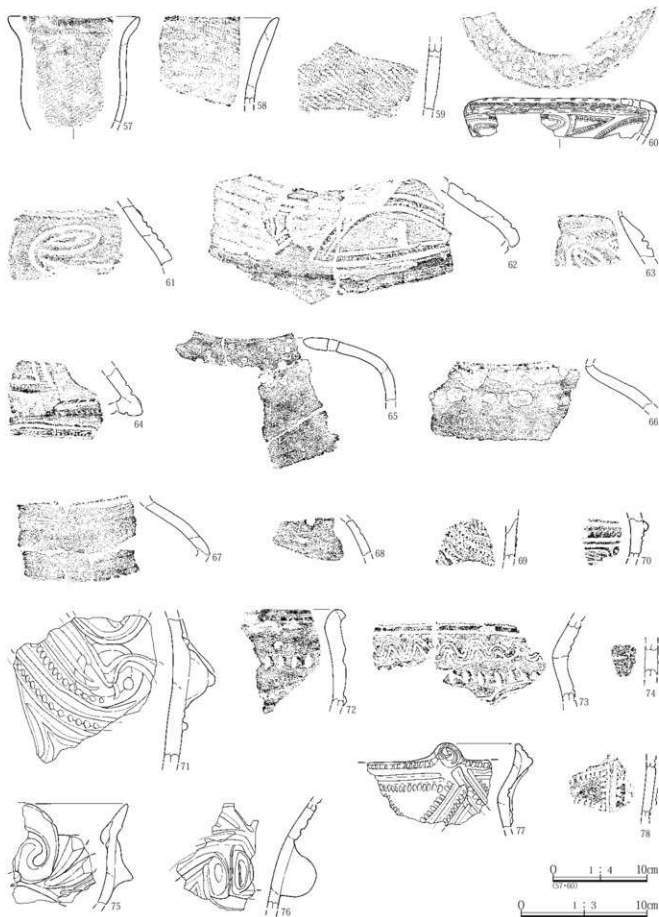
多孔石は4点を図示した(第317図267～第318図270)。すべて粗粒輝石安山岩製である。孔断面形は円錐状で、密接に設けられる例(267・270)、散漫な孔分布(268・269)がある。



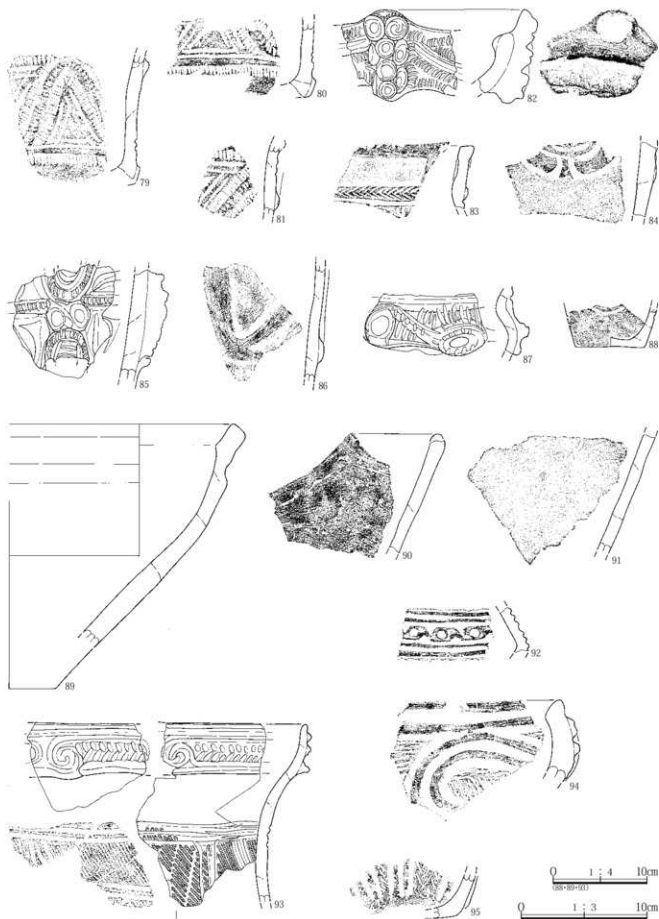
第303図 遺構外出土遺物 1 52区(1)



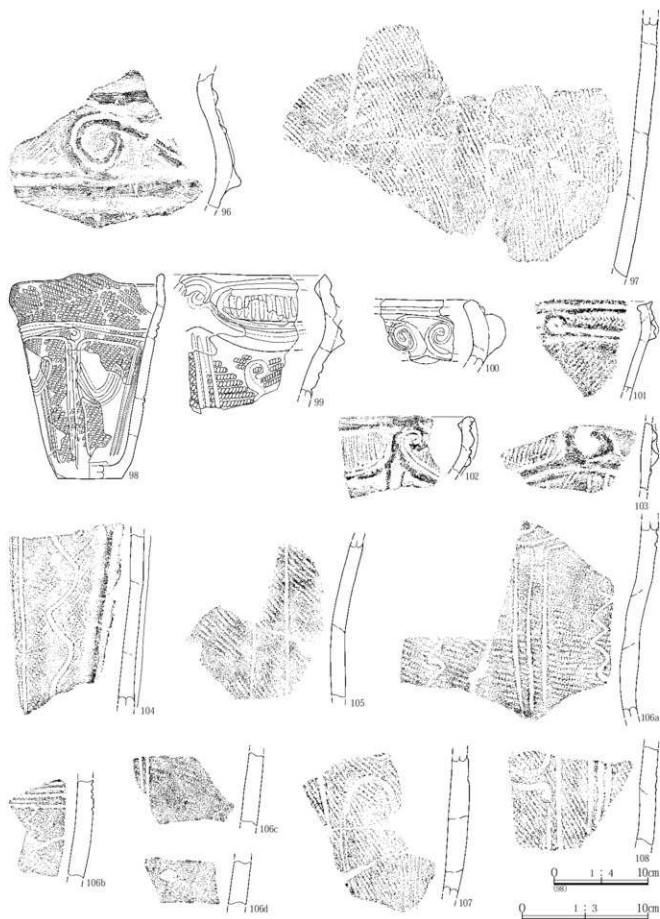
第304図 遺構外出土遺物1 52区(2)



第305図 遺構外出土遺物 1 52区(3)



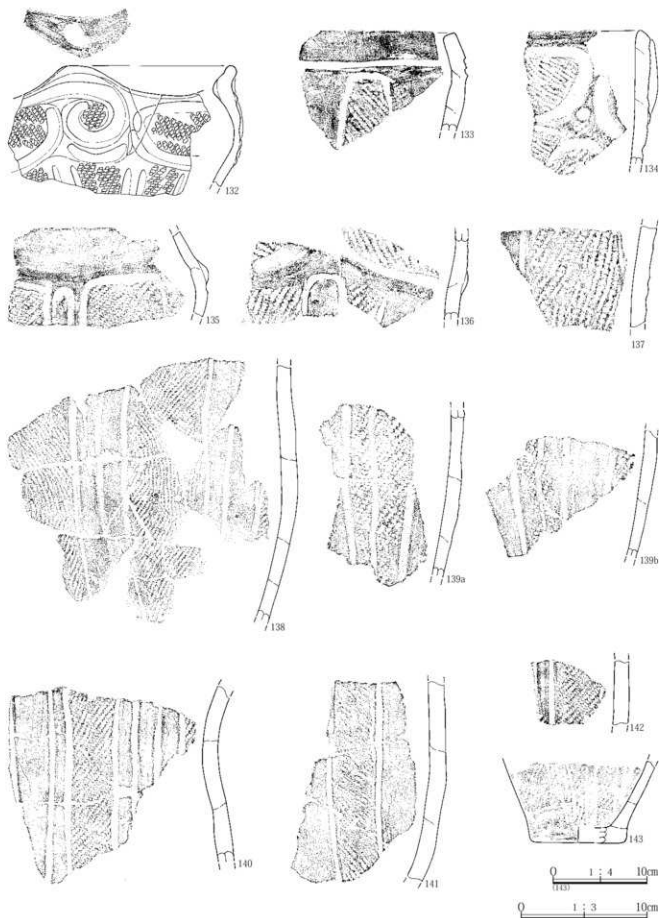
第306図 遺構外出土遺物1 52区(4)



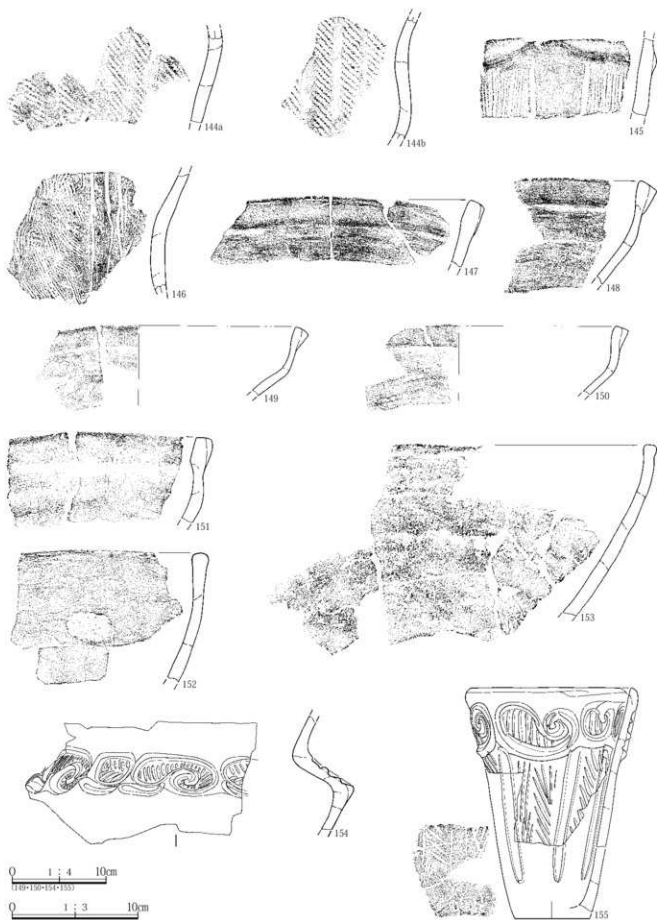
第307図 遺構外出土遺物 52区(5)



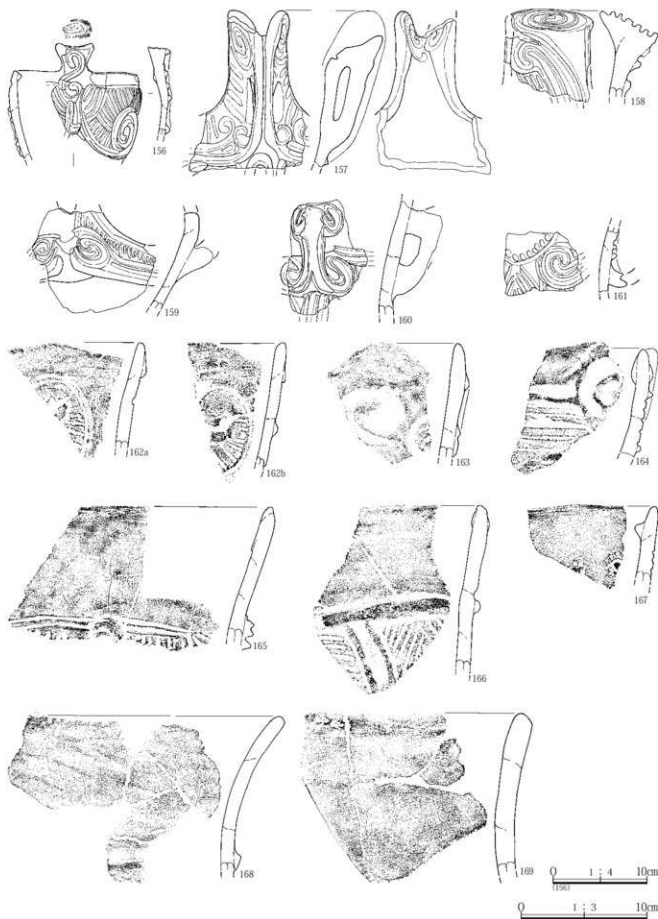
第308図 遺構外出土遺物 1 52区(6)



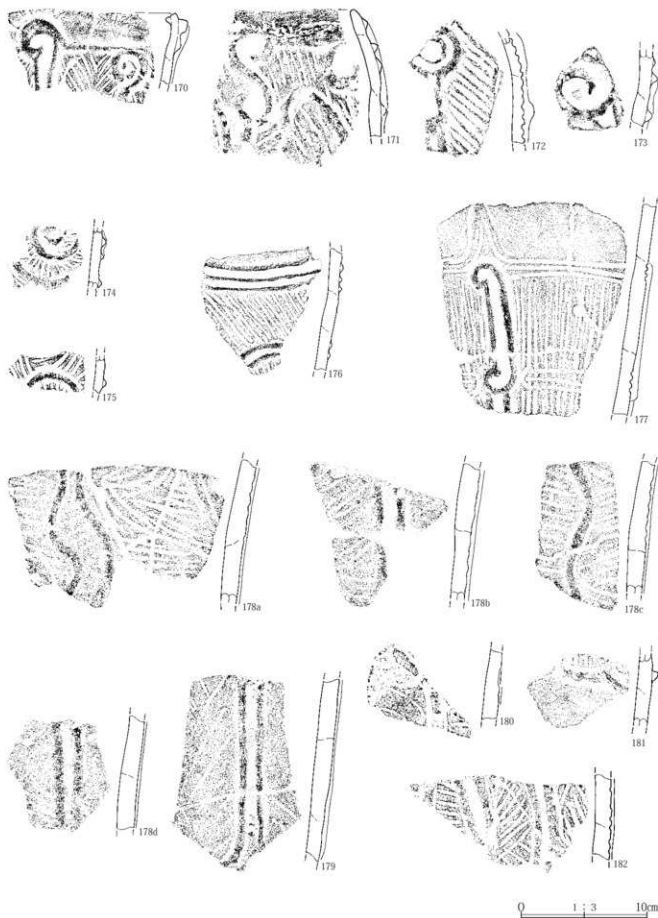
第309図 遺構外出土遺物1 52区(7)



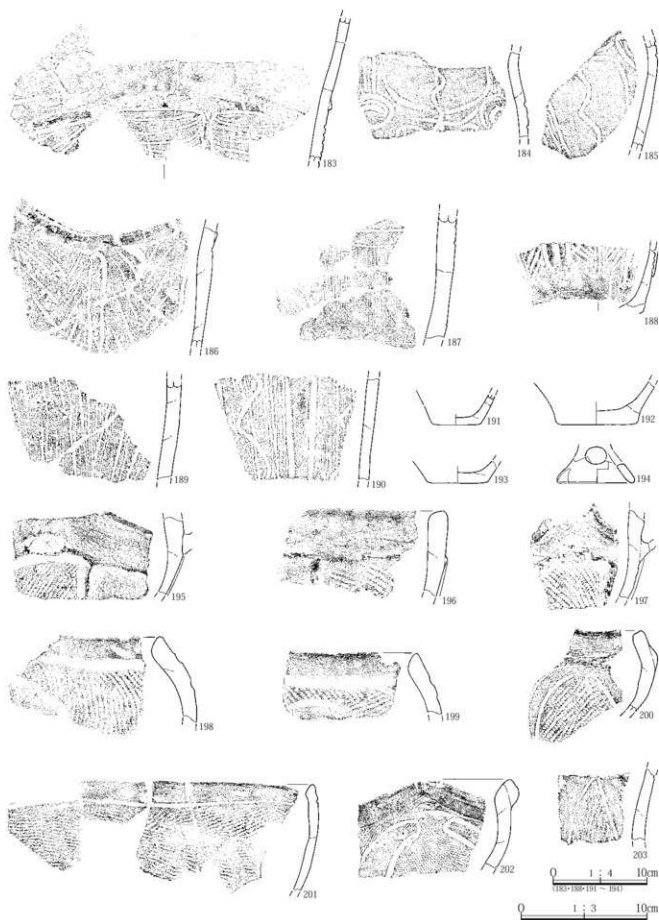
第310図 遺構外出土遺物1 52区(8)



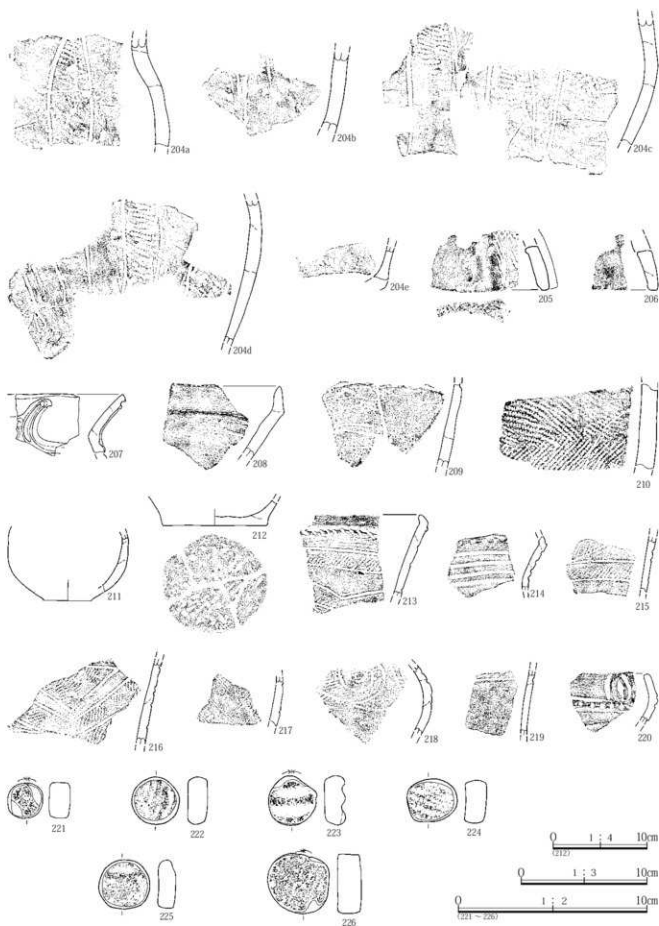
第311回 遺構外出土遺物 1 52区(9)



第312図 遺構外出土遺物1 52区(10)



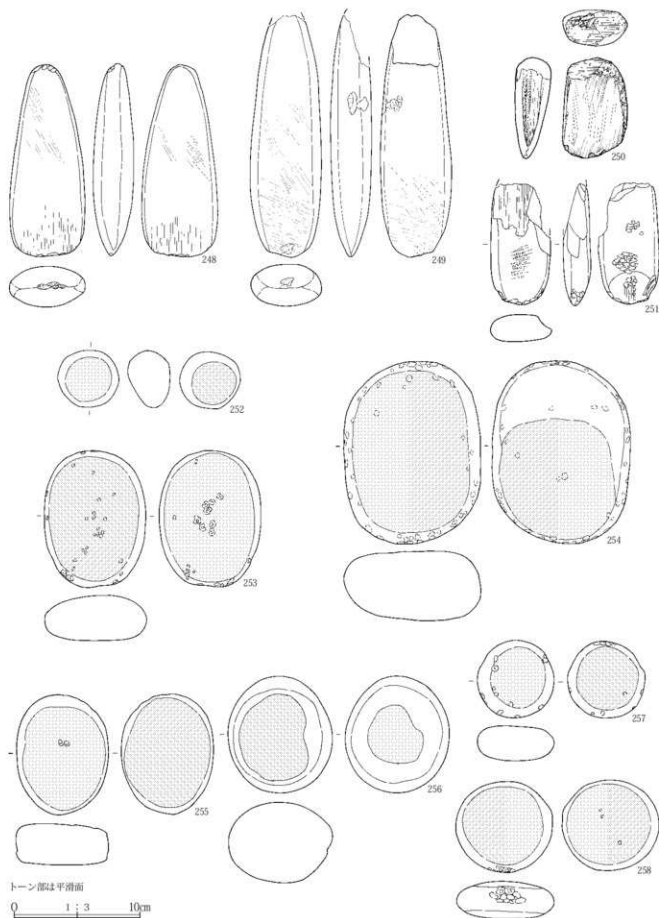
第313図 遺構外出土遺物 1 52区(11)



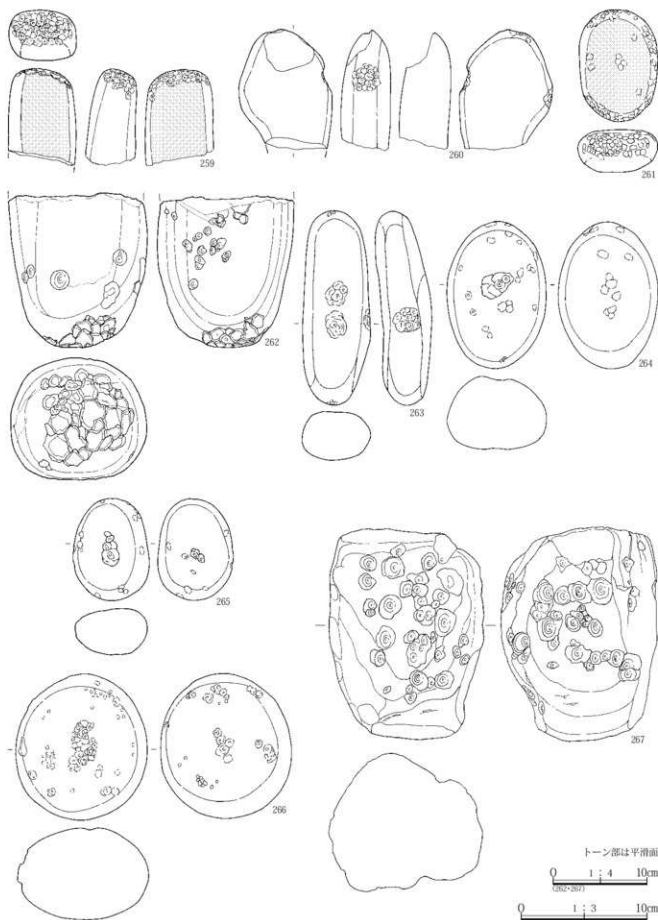
第314図 遺構外出土遺物 1 52区(12)



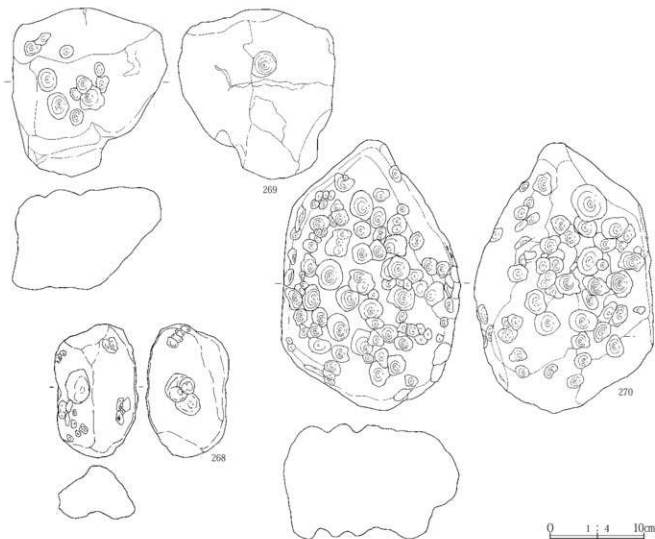
第315図 遺構外出土遺物 1 52区(13)



第316図 遺構外出土遺物 1 52区(14)



第317図 遺構外出土遺物1 52区(15)



第318図 遺構外出土遺物 1 52区(16)

61区(第319・320図 PL.161・162)

調査区北東部にあたる地区である。遺構は密集しているが、傾斜地形のため、良好に遺構単位の出土遺物を把握できなかった。後期敷石住居跡2軒相当が検出されており、遺構外出土遺物も後期を主体とする。

中期：前期に比定される資料は見られなかった。中期土器片も3点を図示するに止まる。第319図1は勝坂1式に比定される浅鉢口縁部破片である。口縁部区画内の三角連続刺突文の充填手法は比較的古相を示す要素である。2・3は「郷土式」と考えた。3は樽状を呈し「唐草文系土器」との関連を窺わせるが、体部意匠はU字状区画文が予想され、交互刺突文も施文されないため、「郷土式」と判断した。

後期：遺構外出土遺物の大半を占めた。10点を図示する(第319図4～第320図13)。すべて、堀之内式併行である。

4～10・13は堀之内1式。内屈する口唇部に沈線を施し、幅広い無文部を設ける例(4～6)。幅狭の口縁部に

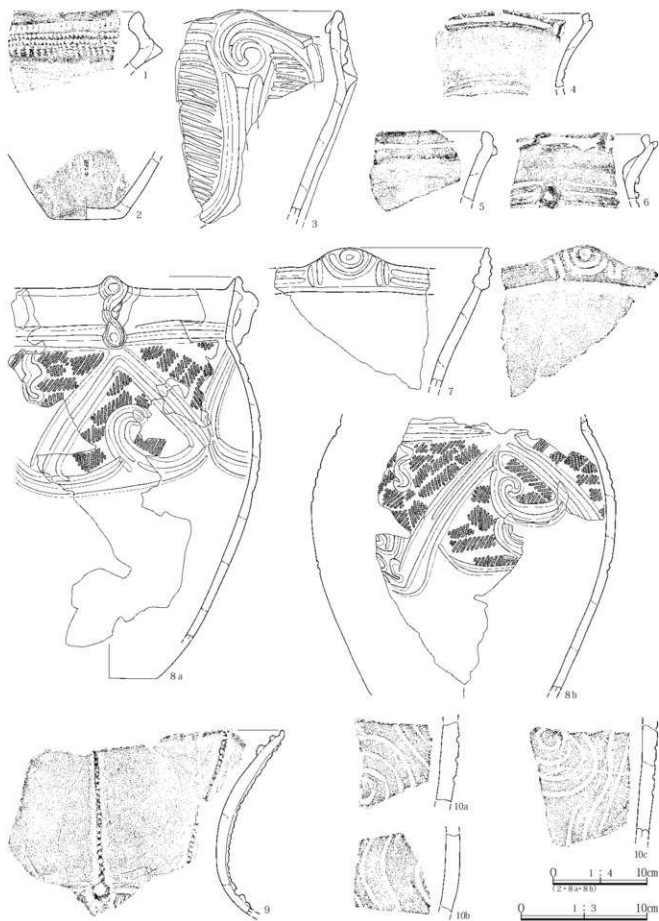
横位沈線を施す7。8は2点の実測図示となったが、大型の深鉢で口縁部8字状把手以下体部は斜位沈線3条による三角区画文が配される。9は強く外反する無文口縁部に細降線が垂下する。内面に円形貼付文と弧線文が施される。10は3点を図示したが、沈線による体部環状意匠である。13は頸部屈曲部に横位沈線による楕円状意匠を配す。

堀之内2式は2点に止まる。61区には該期の42号土坑があるが、客体的な存在なのだろう。第320図11は内面口唇部沈線を設け、体部は横位沈線を多段に配す。胎土に片岩が見られ搬入品の可能性がある。12は体部屈折鉢で幾何学文が配される。

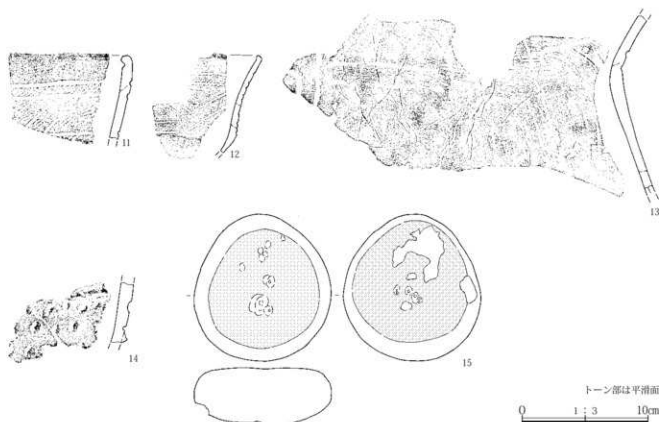
異系統土器であるが、三十稲場式(14)も見られる。

石器

凹石(第320図15)を1点図示した。平滑面を両面に持ち、浅い凹みを有す。裏面に被熱痕跡を見る。



第319図 遺構外出土遺物1 61区(1)



第320図 遺構外出土遺物 1 61区(2)

遺構外出土遺物 2 (第321～323図 PL.163～165)

ここでは、縄文時代以降の遺構より出土した縄文時代遺物を取り上げる。多くが中世～近世に属する遺構で、埋土中に縄文遺物が混入したものである。故に、全ての遺構・遺物に関する記述は避け、主な例を中心に述べることとする。

土坑出土遺物：51区9坑・17坑・19坑・20坑・23坑・24坑・27坑・46坑・48坑は、上層黒褐色土中で確認され、中世～近世に比定された土坑である。48坑は数点の土器片がまとまるが、古代～中世と思われる陥穴状土坑出土である。103坑も軟質ローム上層で確認されているが陥穴状土坑出土である。150坑は「郷土式」や加曾利EⅡ式がみられるが、坑底面より近世遺物が出土した。184坑は近世～近代の円形土坑である。190坑は中世～近世の集石土坑ながら、「郷土式」や加曾利EⅢ式が出土している。大型の土坑で、あるいは中期後葉の遺構を切っていた可能性もある。253坑も出土遺物がまとまるが、中世土坑である。

52区 6坑・7坑・11坑・12坑・13坑・15坑・16坑・21坑・24坑・25坑・27坑・28坑・34坑・35坑・38坑・41坑・45坑・47坑は黒褐色土中の確認で中世～近世に比定された土坑である。91坑は近代に比定される方形土坑である。

61区29坑は上層の黒褐色土中の確認で、中世～近世に比定されている。陶磁器の出土を見る。32坑は近世～近代の円形土坑、57坑は称名寺式の注口土器底部破片が出土しているが、残念ながら近代～現代の土坑である。59坑も同様に近代土坑と考えた。60坑も近代の方形土坑である。

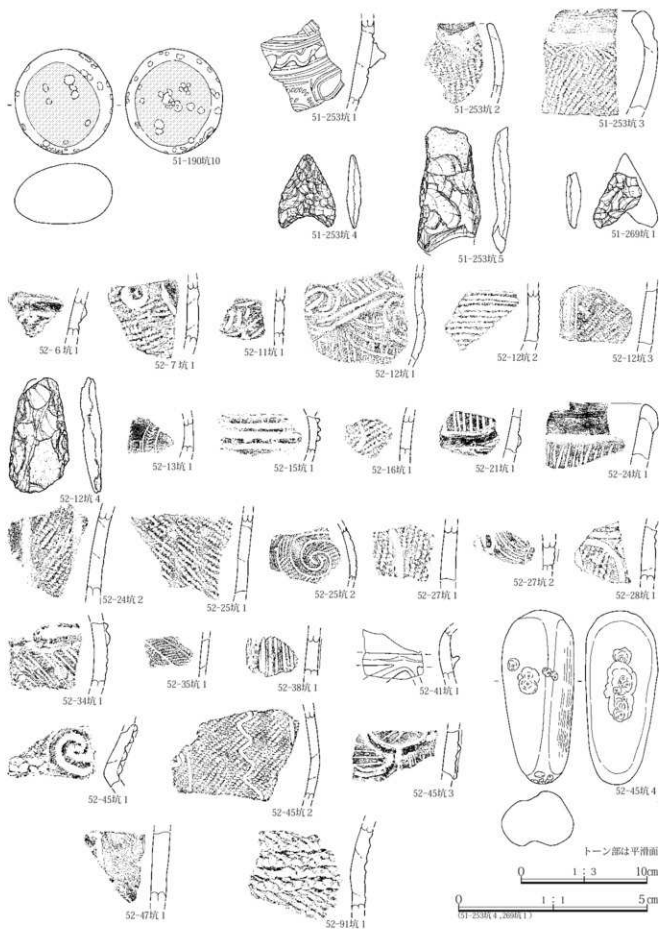
焼土遺構出土遺物：51区48号焼土からは加曾利EⅢ式や「郷土式」が出土したが、同時に陶磁器や砥石を見る。49号焼土も中世～近世と判断した。52区18号焼土からも陶磁器類の出土を見た。

集石遺構出土遺物：51区7号集石から塚田式、諸磯b式、「郷土式」、堀之内2式、打製石斧、楔形石器と豊富な出土が見られたが、土質は縄文時代の所産ではなく、大型の炭化材が出土することから、中世以降の遺構と判断した。

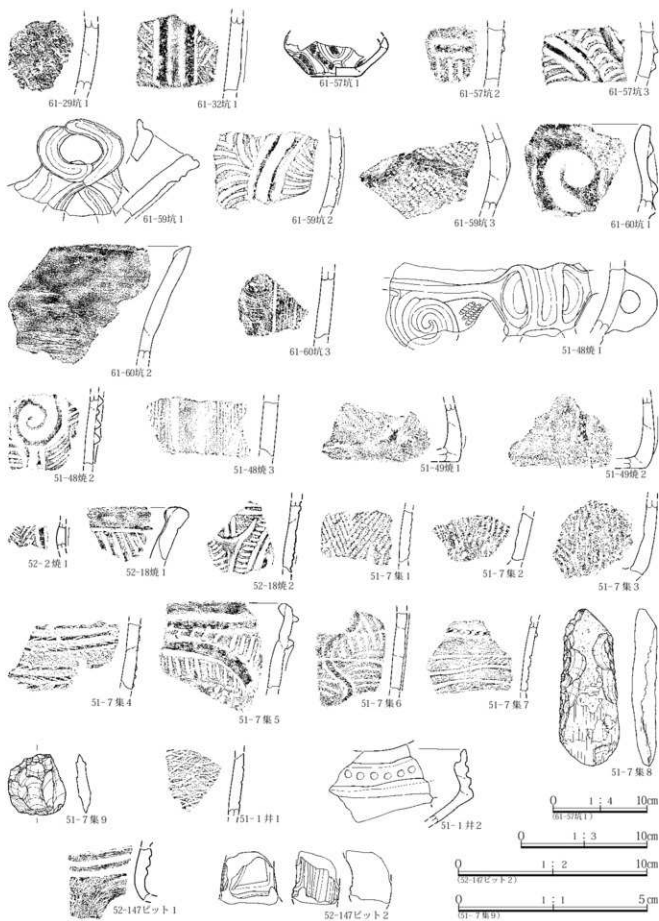
その他の遺構出土遺物：1号井戸は近代～現代に比定される。大木2式や堀之内1式浅鉢口縁部破片が出土している。52区147号ピットは遺構図、遺構写真の記録が無く、遺構出土遺物として掲載できなかった。土偶脚部の出土を見たが、極めて残念な資料である。



第321圖 遺構外出土遺物 2 (1)



第322図 遺構外出土遺物2(2)



第323図 遺構外出土遺物2(3)

第4章 分析

(分析の目的)

林中原Ⅱ遺跡では、縄文時代に比定される遺構から、少量ながら獣骨、人骨が出土している。内陸部集落遺跡一特に洪積台地上で調査された遺跡においては、台地を形成する土壌の影響で、多くの有機質が失われる傾向が強い。動植物遺体の多くは、その殆どが失われるため、埋葬人骨や骨角器、木製品などの出土は見込めず、残存する遺物としては、土器類、石器類、炭化物、自然石などが発掘調査で得られている。

その中で、本遺跡より出土した骨類は極めて貴重な存在であり、遺構の性格や遺跡を取り巻く環境復元に、重要なデータを提供することになると思われた。とりわけ、本遺跡の発掘調査では、縄文時代中期～後期の土坑から、人骨と思われる骨片が少量ではあるが出土し、その多くは焼骨として位置付けられた。整理作業では、これらの人骨を中心に、出土骨類が人骨なのか、さらに焼骨なのか、部位や年齢、性別の同定が可能かなどを主眼に、分

析・鑑定委託を行った。人骨であれば、その遺構は埋葬遺構としての可能性が強く、加えて焼骨ならば、焼失した人骨として位置付けられる。縄文時代における焼失した人骨の例は少なく、多くは生骨として貝塚遺跡などからの出土が知られている。葬法として厳密な火葬ではないかも知れないが、遺体を焼失する行為が当時の葬送儀礼の一つとして位置付けられることになる。

分析・鑑定は、生物考古学研究所 横崎修一郎氏に委託した。その結果、土坑出土の骨類は人骨であること、さらに、多くが焼骨としての特徴も見られたことが判明した。また、多くの焼骨が残存状態の悪い条件下でありながら、4点の部位が特定できた。なお、残念ながら年齢・性別までの詳細は得られなかった。次に、焼骨を出土した周辺遺跡や長野県北村遺跡の土坑墓規模との比較から、当時の埋葬方法も示唆し、さらに本遺跡の事例からは、再葬墓としての可能性も指摘している。



第324図 林中原Ⅱ遺跡51区 骨類出土遺構配置図

第1節 林中原Ⅱ遺跡出土縄文時代焼骨について

林中原Ⅱ遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字林字中原に所在する。(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が、2008(平成20)年11月から2009(平成21)年10月まで断続的に行われた。

本遺跡の51区から縄文時代の焼骨が出土したので、以下に報告する。なお、明確な意図を持って火葬にしたのかどうか否かが判断できないため、ここでは「焼骨」と記載する。

(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査で出土した焼人骨は、深沢遺跡の縄文時代後期の配石遺構で2例(宮崎 1987)が、本遺跡に近い位置にある横壁中村遺跡の縄文時代後期の30区33号住居跡から1例が出土している(橋崎 2009)。同様に、焼獣骨は、一本松遺跡の縄文時代後期の配石遺構でシカが(橋崎 2007)、横壁中村遺跡の縄文時代後期の20区382号土坑・29区3号土坑と33号土坑でイノシシとシカが(橋崎 2008)、29区6号住居跡でイノシシとシカが(橋崎 2009a)、30区33号住居跡と36号住居跡でイノシシとシカが(橋崎 2009b)出土している。但し、29区3号土坑は29区6号住居跡の可能性もあるという。また、焼骨は林中原Ⅱ遺跡の縄文時代後期の敷石住居跡から出土している(橋崎 2010)。

群馬県内における縄文時代の焼骨出土事例は、住居跡や配石遺構が中心であり、本事例のようにこれほどまとまった土坑からの出土例は初めてであると推定される。

1. 住居跡

住居遺構は、11号住居跡から焼骨が検出されている。

(1) 11号住居跡 [縄文時代中期後葉]

11号住居跡のが内から検出されている。骨は白色を呈しており、被熱を受けている。しかしながら、細片であるため、人骨か獣骨かの区別も不可能であった。恐らく、住居跡のがで調理された獣骨だと推定される。

2. が跡

が跡は、1号がから焼骨が検出されている。

(1) 1号が [縄文時代中期後葉]

縄文時代中期の加曾利EⅢ式深鉢土器から検出されている。骨は白色を呈しており、被熱を受けている。しかしながら、細片であるため、人骨か獣骨かの区別も不可

能であった。がで調理された獣骨だと推定される。

3. 土坑

土坑の時期は、縄文時代中期～後期である。153号土坑・156号土坑・159号土坑・164号土坑・166号土坑・171号土坑・230号土坑・239号土坑・259号土坑・309号土坑の10基から人骨と推定される焼骨が検出されている。

(1) 153号土坑 [縄文時代中期後葉]

① 焼骨の出土状況

本土坑は、242号土坑と重複している。焼骨は、長軸(北西～南東)105cm・短軸60cm・深さ65cmの規模の不整形円形土坑から出土している。本土坑の南部に長軸80cm・短軸38cmの規模の隅丸長方形土坑が認められ、焼骨がNa付きで10ヶ所土坑から出土している。



写真1. 153号土坑全景

② 焼骨の出土部位

Na付きで10ヶ所から取り上げられた焼骨は、細片であるため同定には至らなかった。一括として取り上げられた焼骨2点が左右側頭骨片として部位同定に至った。



写真2. 153号土坑出土焼骨(右側頭骨)



写真3. 153号土坑出土焼骨部位(右側頭骨)



写真4. 153号土坑出土焼骨(左側頭骨岩様部)



写真5. 153号土坑出土焼骨部位(左側頭骨)

③焼骨の所見

焼骨2点は、右側頭骨片と左側頭骨岩様部である。出土部位は左右側頭骨であり重複しないため、個体数は1個体であると推定される。性別は、不明である。死亡年齢推定は、恐らく成人であると推定される。なお、恐らく、死体をそのまま焼成したのではなく、白骨化したものを焼成したと推定される。

(2) 156号土坑〔縄文時代後期前葉〕

①焼骨の出土状況

焼骨は、長軸(東西)132cm・短軸84cm・深さ27cmの規模の不整楕円形土坑から出土している。土坑の東側には、縄文時代後期の鉢が逆位に土器被り状態で検出されており、頭部に被せていたのだと推定される。

②焼骨の所見

焼骨はわずかに2片が検出されている。1点は頭蓋骨片と推定される。しかしながら、小片であるため、性別・死亡年齢等の詳細は不明である。



写真6. 156号土坑全景

(3) 159号土坑〔縄文時代中期後葉〕

①焼骨の出土状況

本土坑は、166号土坑と重複している。新旧関係は、本土坑の方が新しい。焼骨は、長軸(北西～南東)145cm・短軸92cm・深さ63cmの規模の楕円形土坑から出土している。

②焼骨の所見

焼骨の内、No.6は、下顎骨片であると同定された。しかしながら、小片であるため、性別・死亡年齢等の詳細は不明である。



写真7. 159号土坑近接



写真8. 159号土坑出土焼骨（下顎骨）

(4) 164号土坑〔縄文時代中期後葉〕

①焼骨の出土状況

焼骨は、長軸（北西～南東）150cm・短軸90cm～100cm・深さ55cmの規模の不整楕円形土坑の下層から出土している。

②焼骨の所見

焼骨の内、№6は、左尺骨片であると同定された。しかしながら、小片であるため、性別・死亡年齢等の詳細は不明である。



写真9. 164号土坑出土全景



写真10. 164号土坑焼骨出土状況近接



写真11. 164号土坑出土焼骨（左尺骨）

(5) 166号土坑〔縄文時代中期後葉〕

①焼骨の出土状況

本土坑は、159号土坑と重複している。新旧関係は、本土坑の方が古い。159号土坑と重複しているため、正確な規模は不明であるが、現状で長軸（東西）173cm・短軸146cm・深さ52cmの規模の不整円形土坑から出土している。なお、本土坑の上層には、深鉢が破損状態で検出されている。



写真12. 166号土坑全景

②焼骨の所見

報告書担当者の山口逸弘氏によると、土坑から検出された深鉢が横位の破損状態で出土していることから、焼骨は深鉢内容物の可能性もあるという。但し、焼骨の残存量は非常に少ない。焼骨の内1点は、右尺骨片であると同定された。しかしながら、小片であるため、性別・死亡年齢等の詳細は不明である。但し、成人である可能性が高い。



写真13. 166号土坑出土人骨(右尺骨)

(6) 171号土坑〔縄文時代後期前葉〕

①骨の出土状況

本土坑は、215号土坑と重複している。新旧関係は、本土坑の方が新しい。骨は、直径65cm～75cm・深さ26cmの不整円形土坑から出土している。本土坑からは、浅鉢が逆位に土器被りの状態で検出されている。

②骨の出土部位

本土坑の浅鉢底部からは、歯のエナメル質が検出された。残念ながら、小片であるため歯種の同定は不可能であった。被熱を受けた場合、エナメル質は飛散して残存しないため死体をそのまま埋葬していた可能性が高い。たまたま、土器が被せられていたために、骨よりも硬度があるエナメル質のみが残存したのであろう。しかしながら、土坑の規模から、成人ではなく、小児であった可能性が高いが、土坑は大きかった可能性もあるという。



写真14. 171号土坑全景

(7) 230号土坑〔縄文時代中期後葉〕

①焼骨の出土状況

焼骨は、長軸(北東～南西)148cm・短軸100cm・深さ22cmの規模の不整楕円形土坑から出土している。

②焼骨の出土部位

焼骨は、小片であるため、性別・死亡年齢等の詳細は不明である。



写真15. 230号土坑全景

(8) 239号土坑〔縄文時代中期中葉〕

①焼骨の出土状況

焼骨は、長軸(東西)109cm・短軸82cm・深さ17cmの規模の楕円形土坑から出土している。本土坑の西側には、深鉢と浅鉢が検出されている。浅鉢は、逆位に位置しており、土器被り葬であった可能性が高い。

②焼骨の所見

骨粉の状態であるため、鑑定は不可能であった。なお、浅鉢内の土は本報告者が水洗したが、土器片のみが出土し、骨は検出されなかった。土器の検出状況から、遺体の頭部に土器を被せ、頭位を西にした屈葬で埋葬した可能性が高く、焼成していなかった可能性が高い。



写真16. 239号土坑全景

(9) 259号土坑〔縄文時代後期前葉〕

①焼骨の出土状況

焼骨は、直径110cm・深さ40cmの規模の不整形土坑から出土している。

②焼骨の所見

焼骨は被熱を受けているが、小片であるため、性別・死亡年齢等の詳細は不明である。



写真17. 259号土坑全景

(10) 309号土坑〔縄文時代中期後葉〕

①焼骨の出土状況

焼骨は、直径170cm～183cm・深さ30cmの規模の不整形土坑から出土している。

②焼骨の所見

焼骨は被熱を受けているが、小片であるため、性別・死亡年齢等の詳細は不明である。



写真18. 309号土坑全景

まとめ

林中原Ⅱ遺跡の縄文時代中期～後期の住居跡・炉跡・土坑から焼骨及び人骨が出土した。残念ながら、小片ばかりで詳細な分析は不可能であった。以下の表2にまとめを、表3に土坑の規模を長野県北村遺跡の縄文時代人骨が出土した墓坑の大きさを比較したものを示した。

表2 林中原Ⅱ遺跡縄文時代骨まとめ

遺構名	時期	骨の状態	骨の同定部位
11号住居跡	中期後葉	焼骨	獣骨？
1号炉	中期後葉	焼骨	獣骨？
153号土坑	中期後葉	焼骨	左右側頭骨
156号土坑	後期前葉	焼骨	不明
159号土坑	中期後葉	焼骨	下顎骨
164号土坑	中期後葉	焼骨	左尺骨
166号土坑	中期後葉	焼骨	右尺骨
171号土坑	後期前葉	生骨	歯
230号土坑	中期後葉	焼骨	不明
239号土坑	中期中葉	生骨	不明
259号土坑	後期前葉	焼骨	不明
309号土坑	中期後葉	焼骨	不明

縄文時代の焼骨に関する研究は、これまで、石川日出志(1988)・設楽博己(1993・2008)・内山大介(2005)等により行われており、再葬と関連づけられている。但し、この葬法は、一般的に東日本の縄文時代後晩期から多く認められており、その後、弥生時代まで続けられている。

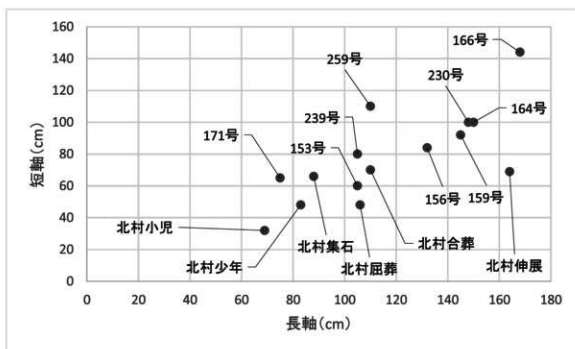
本遺跡では、縄文時代中期の土坑も多数認められている。縄文時代中期の焼骨出土遺跡としては、林中原Ⅱ遺跡と近い長野県で、幅田遺跡・円光房遺跡・込山遺跡・梨久保遺跡等が知られている。

残念ながら、群馬県において縄文時代人骨はほとんど出土していない。そこで、長野県の北村遺跡で多数出土した縄文時代中期から後期の墓坑の規模と林中原Ⅱ遺跡の土坑の規模を比較してみた。

北村遺跡の小児・少年・集石・屈葬・合葬・伸展葬が行われていた墓坑の長軸と短軸平均を、本遺跡の土坑のデータと一緒に比較したものを表3に示した。すると、比較的良く相関傾向を示しており、場合によっては、本遺跡も北村遺跡と同様に、小児・少年・屈葬・合葬・伸展葬のものが含まれていたのかもしれない。

本遺跡における土坑の性格であるが、まず、焼骨は人骨と異なり長期間溶解する事は無い。本遺跡においては、わずかな焼骨しか検出されていない事実を考慮すると、まず、土坑に死体を埋葬し、一定期間経ってから人骨を取り出し、その人骨を土坑で焼成し、ほとんどの焼骨を収得して土器等に納め、別の場所に埋納した再葬である可能性が高い。つまり、本遺跡における焼骨は取りこぼしであると考えると矛盾しない。但し、さらに多くの事例が発見されるまで結論は持ち越したい。

表3 北村遺跡墓坑平均値と林中原Ⅱ遺跡土坑規模の比較



引用文献

- 石川日出志 1988 「縄文・弥生時代の焼人骨」『畿台史学』、74：84-110
- 長野県埋蔵文化財センター編 1993 『北村遺跡』、長野県埋蔵文化財センター
- 橋崎修一郎 2007 「長野原一本松遺跡5区2号配石出土土坑件（縄文時代後期）」『長野原一本松遺跡（2）』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団、p.309
- 橋崎修一郎 2008 「横壁中村遺跡土坑出土土坑件」『横壁中村遺跡（6）』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団、pp.293-296
- 橋崎修一郎 2009a 「横壁中村遺跡29区6号住居出土土坑件」『横壁中村遺跡（8）』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団、pp.221-224

- 橋崎修一郎 2009b 「横壁中村遺跡30区33号住居出土土坑人骨」『横壁中村遺跡（9）』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団、p.348
- 橋崎修一郎 2009c 「横壁中村遺跡（9）住居出土土坑件」『横壁中村遺跡（9）』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団、p.349
- 橋崎修一郎 2010 「林中原Ⅰ遺跡Ⅳ出土土坑件」『林中原Ⅰ遺跡Ⅳ』、群馬県吉妻郡長野原町教育委員会、pp.73-74
- 設楽博己 1993 「縄文時代の再葬」『国立歴史民俗博物館研究報告』、49：7-46
- 設楽博己 2008 「弥生再葬墓と社会」 塙書房
- 内山大介 2005 「先史時代の葬送と供犠」『信濃』、57：796-821

第5章 総括

林中原Ⅱ遺跡では、平成20・21年度調査で縄文時代中期～後期を主とした集落跡が検出された。本書はこのうち、国道部分の調査区で確認された遺構・遺物を扱った。町道部分に関しては、第2分冊に掲載予定で現在整理作業を進めている。

国道部分の縄文時代遺構としては住居跡54軒、土坑313基、竪穴状遺構1基、埋設土器2基、灰跡1基、焼土遺構93基、集石遺構19基、列石遺構3基、配石遺構1基など多くの遺構が調査された。整理中の61区南と62区(町道部分)の遺構群を併せると大規模な集落遺跡と位置付けられよう。中期に関しては、おそらく径100m以上の環状・弧状規模が予想される。このような、大規模集落跡の調査は、長野原町内では、長野原一本松遺跡と横壁中村遺跡が知られ、林中原Ⅱ遺跡もこれらに匹敵する集落規模になるだろう。奇しくも3遺跡とも、大字に対応した立地をしており、各河岸段丘上の緩斜面・平坦地形に占地した中期～後期集落跡が想定できる。このように、ハツ場ダム建設地区にあたる吾妻川中流域における大規模集落跡の在り方は、これからの縄文時代研究に、重要な分析課題を提供するだろう。

本章では、51区・52区・61区南(国道部分)で検出した縄文時代遺構・遺物に限り、概要や問題点を列挙し、総括としたい。将来的には、町道部分の整理と併せて、集落様相を明らかにする所存である。

第1節 各時期の様相

1. 前期の遺構と遺物

調査区内では草創期、早期の遺物は出土しておらず、前期初頭の住居跡である51区24号住、52区5号住が初現である。両住居跡とも小型であるが51区24号住が五角形に近い不整形、52区5号住が長方形を呈すように、この段階の住居跡は定形化がされていないようだ。また剥片石器を出土しておらず、礫石のみを組成を示す。該期の土坑では51区220坑が相当しよう。土器破片資料の出土に止まるが、掘り込みも深い良好な大型土坑である。その他では51区18坑・91坑・275坑・139ピットでも該期土器片の出土が見られたが、混在あるいは小破片の出土である。周辺遺跡では上原Ⅰ遺跡において初頭に比定され

る住居跡がまとめて調査されている(長野原町教委2015・群理文2015)。また、隣接する林中原Ⅰ遺跡においても、住居跡1軒が報告されており(群理文2014)、本遺跡の様相と併せると、上原Ⅰ遺跡のような、拠点的な集落地を中心に南斜面に住居跡数軒単位の集落が点在する様相が把握されよう。

前期前葉に比定される遺構は無く、52区12号住に他時期の資料と混在して出土している。遺構外でも52区に少量が出土する。林中原Ⅰ遺跡では住居跡2軒が報告されているが、周辺では散漫な分布状況と考えられる。また、中葉段階の遺構も少なく、51区285坑、52区19号焼土が比定されるのみである。しかしながら、51区58坑・144坑・250坑・270坑・278坑・292坑・52区72坑などで1点のみの出土や混在した出土が見られることから、調査区域外に居住痕跡が見出せると思われる。

後葉段階では、住居跡は確認されなかったが、諸磯b式土器を伴出する土坑3基を確認した。261坑・267坑・292坑は調査区南側～南東部にかけて標高の低い地点に散在する。台地縁辺に居住地があるのだろうか。遺構外出土遺物では、浮線文を施す諸磯b式が多く、本遺跡が該期集落範囲に含まれると捉えられよう。

2. 中期初頭～中葉の遺構と遺物

林地区では、五領ヶ台Ⅱ式や勝坂Ⅰ式、阿玉台Ⅰb式の資料が他地区に比して充実する。例えば、立馬Ⅱ遺跡(群理文2006)、楡木Ⅱ遺跡(群理文2009)、上原Ⅱ遺跡(町教委2015)に当該期の土器群がまとまっている。他地区でも土器片などが少量ながら出土が見られるが、林地区の出土量には及ばない。林地区の傾向として、緩傾斜地形ではなく、山地斜面に近い急傾斜地形に占地する集落様相が見られる。

しかしながら、本遺跡でも当該期の遺構は土坑数基が調査されており、中期初頭～前葉段階の集落が概ね斜面地形を好んだ領域としては、判断できないだろう。緩斜面地形や平坦地形を呈する地点にも、占地が予想されよう。

中期初頭の土器を主体的に出土した例としては、51区315号坑が挙げられる。体部上半が鋭く屈曲する特異な器形の深鉢を出土する円形土坑である。その他には、51

区6坑、144坑、295坑に該期土器資料が見られるが、破片状態で混在あるいは破片1点のみの出土で確信性に乏しい。

中期前葉に比定される遺構としては、51区280坑のみであるが、阿玉台Ⅰa式と五領ヶ台Ⅱ式の系譜を引く個体が共存している。また、51区238坑、274坑で大木7b式が破片状態ながら出土しており、注意を要する。

その他では、17号住埋土中に阿玉台Ⅰa～Ⅰb式古段階の浅鉢や深鉢がまとまる。住居跡に帰属する資料ではなく、同時性の保証は無いが、まとまった状態での流入と捉えられる。また、51区72坑・83坑・293坑でも破片出土が見られる。

中葉段階前半の遺構としては、51区297号坑が挙げられる。「新巻類型」1個体、勝坂1式2個体が共存する。「新巻類型」の口縁部突起は1A+3Bという構成で、正面観の強調がなされる。さらに正面突起は埋置時に意図的な欠損を加えた可能性もあり、注意を要する。その他では、143坑で阿玉台1b式の小型深鉢の出土が見られ、227坑では阿玉台Ⅱ式の浅鉢が、239坑では阿玉台Ⅱ式と思われる深鉢と浅鉢が出土している。特に227坑と239坑

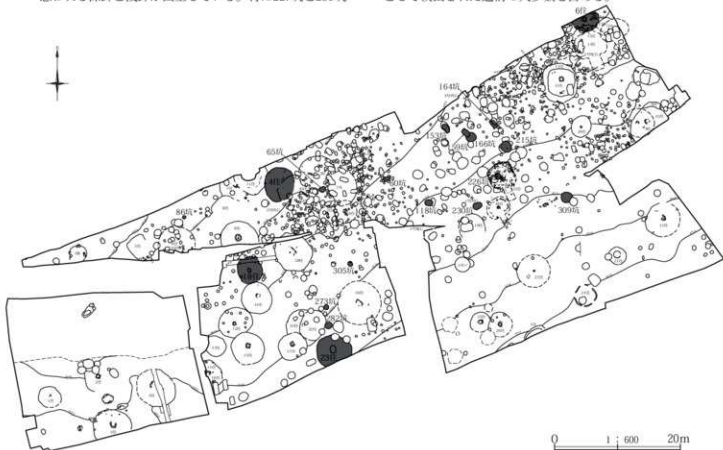
の浅鉢は逆位出土で、この段階の土器被り葬が具体化した資料として位置付けられる。

中葉後半～末段階で、住居跡が確認される。51区5号住、6号住、26号住があたる。いずれも中期中葉後半～末葉の所産と考えられる。5住、6住とも北西部の中期遺構密集地点内に近接し、「焼町類型」が個体として出土している。両者の関係性は深いと思われる。また、26号住は調査区南側にあり、5・6号住とは距離を置く。26号住がやや古い様相を見せることから、中葉末において住居占拠状況が変化し、5・6号住の在り方は、後葉段階占拠地への前駆形態と考えられよう。

ビット出土とされているが、土坑状の756号ビットで「焼町類型」古段階の土器が、また遺構外出土遺物で「焼町類型」第288図17が出土し、さらに中期後葉段階の住居跡埋土からも、流入状態で「焼町類型」などの出土が見られる。林中原Ⅱ遺跡で居住活動が遺跡全体に及んだ時期として捉えておきたい。

3. 中期後半～末葉の遺構と遺物

本遺跡の居住痕跡昇華点ともなる時期であり、集落跡として検出された遺構の大多数を占める。



第325図 中期後葉前半

(中期後葉前半段階)：加曾利EⅠ式や大木8b式が出土する遺構を概観する。住居跡では51区4B号住、23号住、52区18号住、61区6号住が相当する。4軒は見かけ上は弧状配置とも捉えられ、52区18住と61区6住間の距離は65m余りを測る。環状集落の初現形態と推測できよう。跡の形態を見ると、51区4B住・23住とも地床が有し、52区18住、61区6住は石圍いが設けている。無論、4軒が同時期併存とは捉えられず、例えば、51区4B住と52区18住は若干ながら、4B住が新しい土器組成を示している。

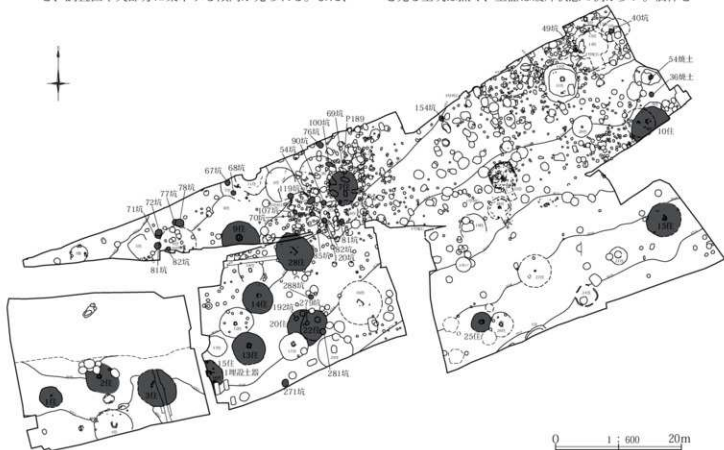
土坑は特徴的である。51区60坑・65坑・118坑・153坑・159坑・166坑・215坑・226坑・230坑・273坑・282坑・305坑・309坑が後葉前半段階に比定した。特に153坑や159坑、166坑、230坑、309坑からは焼骨の出土が見られる。墓塚としての位置付けも可能であり、後述してみたい。なお、159坑は三十稲場式が壁上より出土しているが、土坑には伴わない遺物と判断した。また、153坑出土土器は細片で詳細は不明だが、口頸部と頸部の無文部として考えた。該期土坑の配置を見ると、住居跡とは距離を置き、調査区中央部分に集中する傾向が見られる。また、

65坑、273坑、282坑は住居跡より近距離に設けられている。中央部分に集まる土坑の多くが焼骨を伴出することから、墓塚群としての位置付けも可能であろう。

(中期後葉中頃段階)：住居跡は調査区全域に広がるが西側へ偏る傾向が見られる。加曾利EⅡ式、唐草文系土器、「郷土式」、「桶倉式」の変化形などが伴出している。

住居跡としては51区7号住、10号住、15号住、20号住、22号住、25号住、28号住、52区1号住、2号住、3号住、9号住、13号住、14号住、15号住が該当しよう。破片のみの出土に止まる住居跡や51区22住のように深鉢1個体が出土する例も含めているが、林中原Ⅱ遺跡の主体となる時期といえよう。

土坑は、81坑で単体ながら加曾利EⅡ式の大型深鉢が出土している。その他では、51区54坑・69坑・70坑・76坑・82坑・85坑・90坑・100坑・107坑・119坑・120坑・154坑・192坑・271坑・279坑・281坑・288坑・36焼土・54焼土・189ピットなどで土器片の出土が見られる。また、52区1号埋設土器も当該階に比定される「郷土式」と考えた。中期中葉や中期後葉前半段階のように、完形個体を出土し、焼骨を見る土坑は無く、土器は破片状態の例が多い。個体を



第326図 中期後葉中頃

埋置する例は81坑のみで、後葉前半段階から中頃にかけて、土坑の性格変化が読み取れよう。分布も中央部分ではなく、比較的住居跡に近接した位置に占地する傾向が見られる。円形土坑が目立つことから、貯蔵穴としての性格も想定しておきたい。

再度、住居跡に目を向けたい。住居跡は調査区西側に偏る分布を見せる。これは、後葉前半段階の住居配置が拡大した形態と思われ、集落の拡大傾向と捉えられる。東側は2軒程度の分布が見られるが、埋没谷が迫っており、居住地形が狭まった結果と考えられる。おそらく、61区と62区の該期住居配置を併せると、弧状配置が看取されると予測する。

この段階の住居跡の特徴として、後葉前半段階の炉跡に比して、石囲い炉を設ける比率が高くなる。ここに挙げた14軒中5軒が地床炉ないしは炉を設けない住居跡で、9軒が石囲い炉を住居跡中央に設ける。9軒の石囲い炉のうち、廃棄時の所産か炉石を抜き取った例が5例あり、住居放棄時の炉の儀礼行為の主体的存在が看取されよう。また炉内土器も3例、出入口施設は7例見た。尚、炉内土器は炉体土器（埋喪炉）とは区別して位置付

けるべきであり、炉体とは別種の用途が想起される。出入口施設としては、出入口部埋喪が顕著な例だが、当該段階では、浅鉢を埋置した52区3号住のみに見られ、未だ普遍化していない様相が把握できた。

出土土器に特徴的な組成が見られた例としては、51区10号住が挙げられよう。「郷土式」や「坪井類型」が見られ、加曾利EⅡ式はやや客体的な存在を示す。中期後葉後半段階では、「郷土式」が主体となる例が見られるが、既に後葉中頃に信州系の土器群が土器組成の中核に座る現象として注目したい。この組成は51区25号住や28号住にも顕著で、加曾利EⅡ式の客体性が具体化した段階としたい。一方で、52区1号住や13号住では、土器組成に偏りが無く、加曾利EⅡ式、「唐草文系土器」、「郷土式」などが伴出する様相を示す。両住居跡とも釣り手土器が出土している。

52区1号住は、径3.5mほどの小型住居跡であるが出土量も多く、住居跡施設遺存度も良好である。特に、床直上に釣り手土器と伏糞が残存し、南壁に立石を有する特異な様相を示す。おそらく、釣り手土器や伏糞とも居住後に床面に置かれた例と捉えられ、立石も住居埋没後



第327図 中期後葉後半

の所産とすると、3例とも廃屋儀礼に伴うものと判断できよう。先に述べた、炬石の抜き取りもおそらく住居廃絶後の行為で、中期後葉中頃における儀礼行為の一端が窺えよう。これは、後葉前半に見られた中央土坑群における土坑儀礼から、後葉中頃における住居儀礼への変化とも捉えられよう。

(中期後葉後半段階)：中期後葉中頃の段階から続き、集落の昇昇点を維持する。1軒の住居跡内で加曾利EⅢ式と「郷土式」が共存し出土量も増える。

該期住居跡として、51区2号住、3号住、4A号住、8号住、9号住、11号住、14号住、16号住、17号住、52区4号住、6・10号住、7号住、11号住、12号住を挙げる。後葉中頃段階と大きな増減は無く、集落規模の変化は少ないと推測する。土坑は多く、51区18坑・22坑・34坑・40坑・59坑・74坑・80坑・88坑・92坑・113坑・128坑・131坑・132坑・135坑・141坑・167坑・173坑・182坑・208坑・241坑・254坑・256坑・275坑・276坑、52区58坑・64坑・74坑・76坑・77坑・80坑、61区50坑・56坑などが見られる。ただし、殆どが土器片の出土に止まり、時期の判断に不確定要素は残る。

住居跡は、中期後葉中頃の占拠状況と大きな差は無く、西側の住居群と東側に分かれる傾向は継続する。また西側への集中が顕著ながら、東側も若干ながら増加する傾向にある。おそらく、北側の61区・62区の住居跡配置もこの延長にあるものと推定されよう。あるいは環状配置の可能性も高い。土坑も中央部分に設置する例は少なく、多くが東西に分かれ、住居跡に近接して占拠する。これも、後葉中頃の様相を継続している。

この段階の埴形態は、ほぼ石囲い炬が主体を占める。51区4A号住が地床炬だが、51区11・14号住や52区7号住に見る地床炬は石囲い炬への移動のため、炬石を撤去した例と見られる。石囲い炬も多くなると、炬石の抜き取りが行われており、炬石が抜き取られていない例は51区11住と52区12号住に限られる。51区11住は焼失住居のため、炬石の抜き取りは行われなかったのかもしれない。炬内土器は2例、出入口埋裏は4例見られる。出入口埋裏は後葉中頃段階より増えており、後半段階に定着化した様相が把握できよう。なお、52区4号住の埋裏は掘り込みを持たず、南壁際に設置されており、他の出入口埋裏とは差がある。同様な例が隣接する3号住埋裏である浅鉢も掘り込みが弱く、南壁に接する共通性が見られる。3号住

は後葉中頃の所産であるが、何らかの関係性が想起されよう。さらに、4号住は出入口部の対ピットが設けられる。おそらく南壁外に出入口本体は突出すると思われ、後出する敷石住居の前駆形態と位置付けられよう。周辺の南壁も突出気味で出入口部が強く意識された平面形態で、51区11・14号住も南壁が突出しており、出入口部としての強調が窺われる。

南壁周辺の施設として、立石が挙げられよう。中期中頃段階では52区1号住の1例が認められたが、後半段階では52区7号住と11号住に2例認められた。52区1号住例は厳密な出入口部ではないが、南東壁に設けられており、52区7住(南南東)や11住(東南東)の例と極めて近い。しかし52区1住は埋土途中からの掘り込みと判断し、廃屋儀礼に伴う所産としたが、52区7住、11住は床面にまで掘り込みが達する。あるいは性格を異にするかも知れないが、52区7住と11住の立石を南壁に関わる儀礼によるものと捉え、52区1住と同様の性格を与えたい。

出土遺物として特徴的な例としては、51区17号住の豊富な出土土器が挙げられよう。「郷土式」の優位性を具体化した土器群である。出入口埋裏も「郷土式」が供されており、鱗状短沈線や縦位矢羽状短沈線を施した大型深鉢や台付深鉢などが組成の大勢を占める。共存する加曾利EⅢ式土器は、EⅢ式新段階～EⅢ式古段階に比定され、この段階の「郷土式」の量的な充実ぶりが確認できる。この他に、「唐草文系土器」、「曾利Ⅲ式」大木9式の鉢などが見られるが、「郷土式」に比して客体的である。また、本住居跡土器組成の特徴の一つに、浅鉢の問題がある。本来ならば、当該時期の「郷土式」は特徴的な勾玉状区画文を配す浅鉢が見受けられるが、本住居跡出土浅鉢は加曾利EⅢ式土器の赤彩浅鉢を主とする。浅鉢保有に関わる型式内格差が存在していたのであろうか。

後葉中頃段階で「柵倉式」や唐草文系土器、「郷土式」、曾利式など信州系の型式群からなる土器組成を見せた51区10号住があるが、後半段階で51区17号住に見るように「郷土式」主体となる土器組成への変化が捉えられよう。

さらに、51区17号住は加曾利EⅢ式古段階相当であるが、加曾利EⅢ式中段階に比定される51区11・14号住出土土器組成は、「郷土式」主体の古段階に比して、加曾利EⅢ式を主体とする土器組成である。加曾利EⅢ式の出入口埋裏をはじめ、無頸壺や両耳壺を加えた出土土器様相

で、「郷土式」は数点の破片を数えるに過ぎない。後葉後半段階において、「郷土式」主体の土器組成から、加曾利EⅢ式主体の土器組成への変化が窺われよう。同様な出土土器の組成変化は、長野原一本松遺跡や横壁中村遺跡でも観察され、当地域の中期後葉土器様相の特徴の一つとなっている。

その他の出土遺物としては、大型石棒の出土が52区4号住北西壁際で見られ、52区12号住では石皿が石に転用されていた。前者は北壁周辺の儀礼空間の所産で、後者は石に関わる儀礼によるものと考えられる。

土坑出土土器では、破片状態の出土が多数を占める中、51区241坑では「郷土式」2個体の共伴、51区256坑で加曾利EⅢ式2個体が共伴する。同系統同土の共伴現象で、埋置土器の選択行為に同系統が優先されたのか、住居跡土器組成のように、主体となる土器組成が影響したのか、課題である。また、52区74坑では曾利式が単体で出土している。

(中期末葉段階)：加曾利EⅢ式新段階～EⅣ式を出土する遺構を中心とするが、中期後葉の遺構群に比して、極

めて量は少なくなる。住居跡としては、18号住のみである。4A号住に比較的多まると、あるいは重複する住居跡の存在も予想されよう。3号住、5号住、11号住、26号住でも出土しているが、混入と判断した。土坑は51区53坑・124坑・284坑などに出土が見られるが、良好な出土を示す例は284坑に限られる。

遺構の分布配置を概観しても、極めて散漫で規則性も方向性も持たない。中期末葉における集落縮小傾向が看取されよう。

51区18号住は敷石住居跡である。石囲いが炉内土器を有し、出入口連結部に埋壘を設ける。両者とも加曾利EⅢ式新段階と捉えられ、炉内土器が加曾利EⅣ式土器で出入口埋壘が「郷土式」両耳壺という例の無い共伴を示す。

51区284坑は加曾利EⅣ式の深鉢と石皿が共伴する例である。その他の遺構とは距離を置き単独で南西部に占地する。墓域であろうか。

4. 後期初頭～前葉の遺構と遺物

後期になると遺構数は激減する。これは中期末葉の様相と同様で、遺跡周辺に小規模の集落が、点在する様相



第328図 中期末葉 後期初頭 後期前葉

が想定されよう。

遺構の分布状況を概観しても、調査区東側への偏りが見られるものの、中期末葉と継続して散漫な分布を示す。この段階になると、当地域では住居跡は敷石住居跡である。本遺跡も敷軒の敷石住居跡を検出したが、平面形の把握に至らなかった51区19号住や27号住は推定線による円形の平面形で示している。

住居跡では、後期初頭に比定した51区13号住と19号住が調査区中央に位置する。中期末葉に比定した18号住も並列して、主軸を北北西に向けた配置を示している。また、51区27号住がこの一群の南に占地する。南側への緩斜面地形に設けられた、中期末葉～後期初頭の住居跡群と捉えたい。

後期初頭の土坑は傑出した例は無く、51区10坑・289坑などが見られる程度である。中期末葉よりさらに分散化した様相である。その他では該期焼土遺構として、4～6号焼土・8号・10号焼土が挙げられる。4～6号焼土は北西部の遺構集中箇所内にあり、周辺は後期土器片の出土が遺構外ながら認められた。住居跡等の遺構は見られないが、北側への延長も考えられよう。

後期前葉に比定した住居跡は61区に集まる。しかしながら、調査区北東部にあたる61区南は、地形傾斜が強く、検出された住居跡全ての確信性に乏しい。特に平面形に関しては、推定線を重ねた提示に止まっている。該当する住居跡とし、61区5号住、15号住が挙げられるが15号住に重複する14号住には称名寺式の出土が見られ、時期の確定も困難だった。しかしながら、後期初頭～前葉にかけて、居住域が北東側へ変化した可能性が窺われよう。

土坑は、初頭段階より増加する傾向が看取される。51区1坑・99坑・156坑・165坑・171坑・172坑・248坑・259坑、61区42坑・47坑・51坑・52坑などが該当する。このうち156坑、171坑、172坑は逆位土器が埋置されており、墓塚の可能性が高い。調査区中央部～北東部に集まる傾向が見られ、後期の遺構分布内に収まる設置である。156坑は3号列石の下位で調査されている。

列石は3基が確認された。おそらく後期前葉の所産と考えている。1号列石は初頭段階の19号住上に設けられ、遺構外出土土器であるが、堀之内1式である第292図56が出土している。2号列石下は中期後葉の遺構群であるが、周辺から堀之内1式(第292図58)が出土しており、

列石の時期を示す土器と捉えられた。3号列石下には前述のように156坑がある。堀之内1式の跡が逆位に埋置されていた。3基の列石のうち2号列石と3号列石は北側の調査区域外に延びる。北に離れるが町道部分の61区と62区調査区では敷石住居跡から延びる弧状列石が調査されている。直接的な延長ではないが、走行も類似しており、関連性は高い。第2分冊で触れるべき課題である。

その他では、51区と61区境界で検出された、1号配石遺構も、出土遺物は図示できなかったが、後期の所産とした。近接する位置に61区42号土坑があり、土坑内に組石が設けられ、堀之内2式の小型深鉢が出土する。1号配石下部土坑も組石がなされ、両者の近縁性が窺われる。

このように、中期中葉末～後期初頭段階には、居住痕跡が減少する傾向が見られるが、後期前葉段階に、若干ながら遺構が増加する。このような増減が、果たして北側の調査区である町道部分でも観察されるのか、興味は尽きない。また、隣接する林中原1遺跡の町教委調査部分と併せて、林地区の縄文時代中期～後期の拠点集落跡の実像が明らかになると思われる。

第2節 墓塚と思われる土坑について

前節でも述べたように、林中原Ⅱ遺跡では縄文時代中期～後期にかけての大規模な集落跡が検出されている。住居跡以外に土坑、焼土遺構、集石遺構、列石など、各時期の集落内施設が確認され、各遺構で当地域の特徴的な様相を示している。

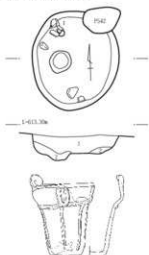
本節では、墓塚ないしは類する例と位置付けられる、骨片や遺物を主体的に出土した土坑に注目して、その特徴をまとめておきたい。なお、前章の「出土人骨の分析」において、得られたデータを元に、縄文時代土坑より出土した骨片を人骨、一部を焼骨片として判断した。

取り上げる資料は、土坑1として掲載した土坑を主にしている。

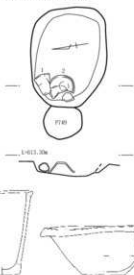
1. 前期～中期前葉

集落跡の主体ではないが、前期後葉に比定される3基の土坑が諸磯b式土器を主体的に出土している。51区261坑・267坑(第192図)・292坑(第230図)が相当する。261坑・267坑は円形土坑で掘り込みもしっかりしているが、墓塚としての性格付けは慎重にしたい。貯蔵穴の可能性もあろう。

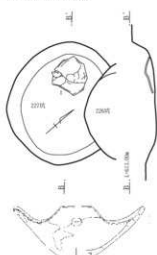
51区143号土坑



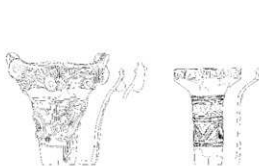
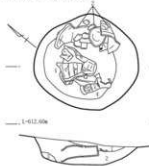
51区239号土坑



51区227号土坑



51区297号土坑



第329図 林中原II遺跡 土坑諸例(1)

中期初頭の土坑は1基、前葉に比定される土坑は2基を数える。51区315坑(第194図)は径1m程の円形土坑で、ほぼ完形の五領ヶ台Ⅱ式を上層より出土する。土器は埋置と思われ、墓塚の可能性は高い。51区280坑(第193図)は、径80cmの小型の円形土坑で、前葉段階の深鉢2個体が共伴する。土器が破砕された状況が見られたため、一概に墓塚とは位置付けられない。儀礼などに伴う一括廃棄による現象と考えている。51区238坑(第227図)も径1m程の円形土坑で掘り込みも良好である。大木7b式深鉢破片を出土するが、土坑の性格までは特定できない。貯蔵穴の可能性もある。

前期後葉から中期前葉に比定される土坑は、円形土坑が多く、貯蔵穴と墓塚の区別は難しい。その中で完形個体を出土する51区315坑や280坑は、墓塚としての可能性が高いだろう。

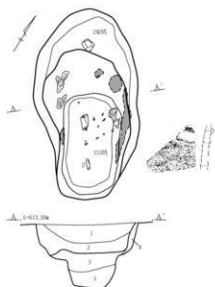
2. 中期中葉

4例を第329図にまとめた。小型楕円状を呈する51区143坑、239坑は完形土器を壁際に置く。特に239坑は小型深鉢と逆位浅鉢が置かれ、逆位浅鉢は土器被り葬に伴

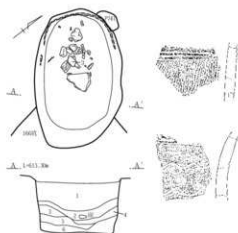
う例と位置付けられる。浅鉢下からは頭骨と思われる骨片が出土しており、墓塚として位置付けられる。143坑は骨片の出土を見ないが、楕円状を呈し北西壁際に小型深鉢を置く要素は、239坑の小型深鉢の在り方と近似する。土器被り葬では無いが、小型深鉢の脇に遺体頭部の存在が推定できよう。次に、51区227坑も径1.3m程の円形土坑ながら、坑底面に半完形の逆位浅鉢を出土する。これも骨片の出土は見られなかったが、239坑と同様に土器被り葬による墓塚と位置付けられよう。143坑・239坑・227坑出土土器は、阿玉台1b式~Ⅱ式の所産であろう。

一方、円形土坑で完形土器が複数個体埋置された例として51区297坑を挙げる。「新巻類型」1個体と勝版1式が2個体出土している。本文中に触れたが、径1.1m余りの土坑に3個体の深鉢を埋置しており、墓塚とした場合、遺体を置く空間が確保されない。遺体を坑底面におき、土器3個体を上層に埋置した後、年月により遺体消失と埋土陥没に伴い、3個体も陥没する工程が想定できるが、確定できない。おそらく、前項で扱った51区280

51区153号土坑



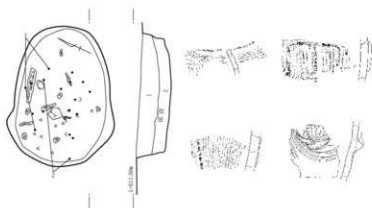
51区159号土坑



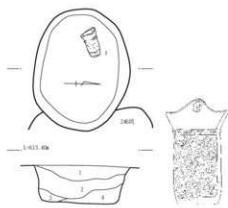
51区164号土坑



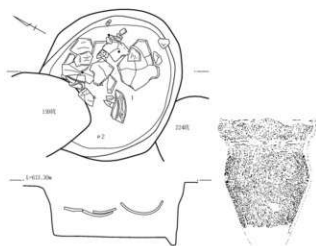
51区230号土坑



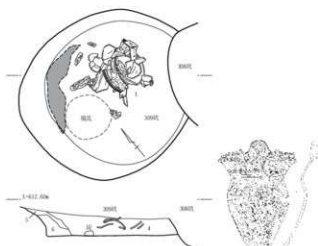
51区118号土坑



51区166号土坑



51区309号土坑



第330図 林中原Ⅱ遺跡 土坑諸例(2)

坑のように儀礼に伴う一括廃棄に類する行為と考えると、無論、儀礼には葬送儀礼も含まれるが、人骨の出土による、墓塚としての性格付けを優先したい。

中期中葉段階の墓塚の在り方として、土器被り葬2例と、頭部脇の小型深鉢埋置例を挙げた。土器被り葬は前期後葉段階から、諸磯b式浅鉢の逆位出土例から、その存在が知られているが、中期において普遍化した様相が把握されよう。土器3個体が共伴した297坑のような例は中葉段階に多い。墓塚としての性格付けも妥当ではあるが、土器被り葬とは別種の儀礼行為が伴うようだ。今後は、さらに検証を重ねたい。

3. 中期後葉前半段階

本遺跡で調査された土坑の中で、最も注目される時期である。主に焼骨を出土した例を第330図に集めた。

118坑以外は、すべて焼骨を出土する。炭化材も伴出し、壁が焼けていることから、土坑内で遺体を焼成した可能性がある。

153坑・159坑・164坑・230坑は不整楕円状を呈し、掘り込みもしっかりした箱形を呈す。完形土器を伴出せず、出土土器は破片状態で、おそらく土坑人為埋没に伴った遺物であろう。153坑・159坑・164坑は長軸方位を北北西に向けるのに対し、230坑は北東を向く。前者は調査区中央北側に偏るが、230坑はやや距離を置き、ほぼ中央部に位置する。前者の近縁性が窺われよう。

楕円状の土坑平面形は、遺体を安置するのに適した形態であり、遺体安置後に焼成が果たされたと考えられる。出土した焼骨の遺存度は悪く、遺体全体像を把握できる例は無かった。特に遺存が見込まれる歯の出土が見られず、四肢骨などの一部が認められるのみであった。遺体焼成後、骨の主要部位を選び他所へ移動した可能性もある。

118坑も距離を若干離れた古地である。楕円状の平面形で小型の深鉢を北西壁に埋置する。中期中葉段階の143坑や239坑に見た小型深鉢の出土状況に近似する。骨片は出土していないが、118坑も墓塚として位置付けておきたい。

次に、焼骨を出土した土坑として、166坑と309坑がある。2基とも径1.7m以上的大型円形土坑で、大型深鉢を伴う。楕円状を呈す153坑・159坑・164坑とも近接しており、166坑には159坑が重複する。周辺は一群の墓塚と

捉えられ、墓塚としてよいだろう。

2基とも焼骨は深鉢周辺より出土しており、深鉢に納められていた可能性も想定したいが、再葬に伴う土器棺としての深鉢であれば、土坑壁が焼けている現象に問題が残る。土坑内で遺体を焼成し、深鉢に納骨し、同じ土坑に埋置したのであろうか。通常の墓塚の場合、大型深鉢は土坑内埋葬に際しては、副葬としては適さないが、焼成人骨埋置の場合は、安置する空間も確保でき、副葬も可能である。土器棺あるいは副葬品として両者の性格が考えられよう。なお、深鉢は2個体とも加曾利E1式古段階としたい。166坑例は底部を意図的に欠損する。309坑例は正面間を強調した文様構成で「三原田類型」の系譜にある。土坑出土資料としては、横壁中村19区25号土坑（群埋文2008）などが知られる。

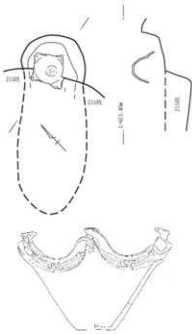
中期後葉中頃～末葉段階の土坑にも、完形、半完形土器、石棒など示唆的な出土を示す例はある。51区81坑は大型深鉢と板石、51区273坑は小型深鉢の口縁部、51区241坑は「郷土式」2個体、51区256坑は加曾利EⅢ式2個体が共伴する。52区74坑では曾利式が単体で、51区284坑は加曾利EⅣ式と石皿が共伴している。さらに、51区65坑や51区215坑では石棒が、51区78坑では石皿と台石の出土が見られた。いずれも、骨片など墓塚を示唆する例ではないが、中期土坑内及び土坑周辺における儀礼の所産と考えておきたい。

4. 後期前葉段階

3基の土坑を挙げよう。51区171坑は注口付き浅鉢が逆位に出土しており、土器被り葬の典型例として捉えられよう。浅鉢直下より、頭骨の痕跡と歯骨が見出されており、生骨を埋葬した墓塚として位置付けられる。当地域では類例は横壁中村遺跡や長野原一本松遺跡などにもあり、当該期の普遍化した埋葬形態と理解できる。なお、土坑形状は、調査段階では円形とされていたが、整理段階で重複遺構との新旧関係を吟味した結果、北東に長軸を設ける楕円状の推定線を描いた。

51区156坑も楕円状の平面形で、堀之内1式の鉢が逆位で北東壁より出土している。これも、主軸を北東に向けた土器被り葬を示唆する出土状態であり、明瞭な骨片などの出土は見られなかったが、51区171坑と同様に墓塚として捉えられる。3号列石下に位置しており、列石遺構下部墓塚として、列石を伴う儀礼行為の一つに埋

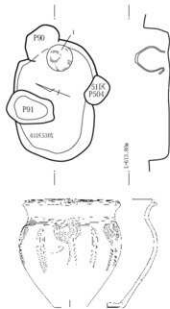
51区171号土坑



51区156号土坑



51区172号土坑



第331図 林中原Ⅱ遺跡 土坑諸例(3)

葬が加わる例として位置付けられる。

51区172坑は、円形土坑に堀之内1式の小型深鉢が逆位で出土した例である。骨片の出土もなく、短絡的に墓塚としては位置付けられないが、重複する61区53号土坑を同一遺構として扱うと、小型の楕円状土坑北東壁際に逆位土器を埋置した形態となり、墓塚としての可能性を示唆する。本文中では、発掘調査資料を優先し、別個の遺構として扱っているが、本節では2基の土坑を同一土坑とした図を加筆掲載した。ご容赦願いたい。

なお、51区259坑からは、堀之内1式に比定される土器片と共に、焼骨片が出土している。中期後葉に見られた焼骨片の出土であるが、後期土坑、それも小型円形土坑から出土する傾向は納得できない。今後再検証が必要である。また、62区42坑(第195図)からは、土坑内で組石が設けられ、堀之内2式の小型深鉢が出土する。51区1号配石でも、配石下土坑と同様に組石がされており、墓塚と断定できないまでも、儀礼を伴う土坑と位置付けられよう。

第3節 小結

以上のように、林中原Ⅱ遺跡51区、52区、61区南で検出された、縄文時代の遺構と遺物に関して、各時期の様相と墓塚と思われる土坑について述べてみた。

前期は主体となる時期ではなく、前期初頭段階の住居跡2軒を見るのみである。ただ後葉段階に至ると、諸磯b式土器が広がりを見せ、集落域の範囲内にあると推定できる。

中期初頭～中葉段階も遺構数は少ない。その中で51区315坑の五領ヶ台Ⅱ式の出土や51区280坑の阿玉台Ⅰa式と五領ヶ台Ⅱ式の系譜を引く個体の共伴は特筆されよう。また、中葉段階に比定した51区297坑では勝版1式2個体と「新巻類型」の共伴が見られた。中葉段階の土坑には逆位浅鉢を出土した51区227坑や51区239坑の様相は墓塚として位置付けられた。

中葉末になると住居が設けられる。3軒の住居跡を検出したが「焼町類型」や勝版3式を出土するが、住居跡の遺存度も悪く良好な一括資料ではない。ただこの段階より、林中原Ⅱ遺跡における中期居住が本格化したと捉えられ、中期後葉段階にみる弧状・環状配置を示す住居群の前駆形態をしめすものと考えられる。

中期後葉～末葉段階は、弧状・環状集落を形成する段階である。後葉前半段階の住居跡は調査区西側と東側に点在する様相であるが、中央部を囲む形態で、弧状配置が看取されよう。また中央部には焼骨を出土する土坑群が設けられており、中央土坑群に儀礼要素を見ることができた。

後葉中頃段階は、西側を中心に住居が構築される。東側にも数軒が設けられ、おそらく環状形態が形成されるものと考えられる。出土土器も多く、加曾利EⅡ式、「唐草文系土器」、「郷土式」あるいは「坪井類型」などが出土する。各々の住居跡出土土器組成を見ると、信州系の土器群が多く見られ、関東系である加曾利EⅡ式土器の客体化が窺えた。また、中央部に土坑が配置されず、住居跡周辺に集中する傾向が見られた。焼骨の出土は見られず、墓壙を窺わせる例が見られないことから、土坑の性格が貯蔵穴等に限定される可能性も示唆された。反面、一部の住居跡内出土遺物が特徴的で、伏俵、釣り手土器、立石など廃屋儀礼を想起させる出土例が見られた。中期後葉前半段階の屋外土坑儀礼から、後葉中頃の屋内廃屋儀礼への変化も考えておきたい。

中期後葉後半段階も検出住居跡や土坑も多く、環状集落は継続する。住居跡配置も西側を主とし、東側への居住も安定するようだ。南側施設が特徴的な住居跡も見られ、出入口埋塞と伴に南壁が突出する形態が、出入口施設の固定化も窺われる。また、南壁周辺の立石も継続しており廃屋儀礼と位置付けられた。同様に土坑の配置も住居周辺に設けられるようで、中央部への設定は少数のようだ。出土土器量は豊富である。土器組成は51区17号住のように「郷土式」主体となる様相が観察され、さらに51区11・14号住のように加曾利EⅢ式主体となる土器組成の変化もこの段階の特徴となる。加曾利EⅢ式古段階から新段階にかけての土器組成変化は、当地域の特徴の一つとなっている。

中期末葉段階になると、住居軒数は減少し、集落縮小傾向が把握される。検出した住居跡は51区18号住のみで、敷石住居跡である。加曾利EⅢ式新段階に比定される炉内土器と出入口埋塞に供された「郷土式」両耳歯の共存関係を示す。

後期初頭～前葉段階の遺構も少ない。中央部分に先述の51区18号住と共に称名寺式期の敷石住居跡が集まり、北東部の61区南に堀之内式期の住居跡を見る。地点的な分布状況であるが、第2分冊で報告する61区北側で調査された敷石住居跡との関連も併せて考えて見たい。後期前葉に比定された遺構の中に、逆位土器が埋置されていた土坑3基がある。土器被り葬と位置付けられる。その他では、3基の列石遺構があるが、これも、61区北や62

区で得られた列石遺構との関連を明らかにしたい。

次に、林中原Ⅱ遺跡の主体となる縄文時代中期～後期集落跡における墓壙と思われる土坑をまとめた。土坑内より焼骨が出土するという、希有な条件を元に、各段階の墓壙を模索してみた。

その結果、焼骨が出土する土坑は中期前半に限定され、楕円状土坑と大型円形土坑の二つのタイプを抽出できた。土坑内で遺体が焼成され、そのまま埋葬されたと思われるが、歯骨の残存が見られないことから、選別→移動の可能性を考えてみた。焼骨全体の遺存度が悪い中で、焼骨の選別行為までを類推するのは、短絡的かもしれないが、遺体焼成による遺骨選別の効率化も背景にあるかもしれない。また、焼骨を出土した土坑の多くが、調査区北東部に分布しており、弧状・環状集落の中央部が墓域として使われていたようだ。

墓壙を概観すると、中期中葉段階に、土器被り葬を施した土坑墓が見られる。これは例えば、吉岡町沼南遺跡（群理文1999）や渋川市房谷戸遺跡（群理文1989）でも報告されており、中葉段階の普遍的な墓壙として考えられている。

中期後葉段階になると、土器被り葬は見られない。楕円状の墓壙も掘り込みが深く、中葉に見られた楕円状土坑と差が見られる。副葬品なのか土器棺なのか、大型深鉢が大型円形土坑で焼骨と伴う。本遺跡では、中期後葉段階の土器被り葬を施した土坑を見ない。その要因は不明だが、前節でも述べたように、おそらく中期後葉段階は、土坑周辺の儀礼ではなく、住居内の儀礼へと変化したのではない。長野県域より「柵倉式」や「唐草文系土器」、「郷土式」といった土器群の浸透も背景に、住居を中心とした儀礼が定着化したと思われる。初期段階の中期後葉前半段階では、土器被り葬は見られないものの土坑儀礼は行われており、土坑内で遺体焼成を伴う葬送儀礼が行われたと考える。その後、後半段階に至ると、廃屋後の住居内埋葬を含む、住居を中心とした儀礼行為が定着したのではないだろうか。推測の域を出ないが、釣り手土器や伏俵の設置、住居埋没に伴う立石など、廃屋としての住居跡出土資料の在り方をさらに突き詰める必要があろう。

後期墓壙を見ると、再度、土器被り葬が復活している。歯骨を出土した51区171坑例は、堀之内Ⅰ式の注口付き

浅鉢が逆に埋置されていたが、その他にも鉢（156坑）、小型深鉢（172坑）が逆位で出土しており、これらも併せて土器被り葬を施した墓塚として位置付けた。中期後葉で途絶えた土器被り葬が、なぜ後期に再度出現するのか、これも本遺跡で得た課題の一つである。今後検証していきたい。

以上のように、林中原Ⅱ遺跡51区、52区、62区南で調査された縄文時代中期～後期の遺構・遺物を概観したが、調査と整理作業による不手際が重なり、遺跡の詳細にまで迫れないもどかしさが残る。今後は北側で調査された61区北と62区の遺構・遺物の整理を進め、林中原Ⅱ遺跡縄文時代集落跡をより明確に提示していきたい。整理作業と分析は継続しており、それ故に本章も、「まとめ」とした項目は設けなかった。61区・62区の資料を掲載した第2分冊で、本書に掲載した資料を併せ、本遺跡における縄文時代の実像を少しでも明らかにしていきたい。

遺構計測表・遺物観察表

《遺構》

住居跡

計測値： 長軸に直交する短軸を併せた数値を記述した。深さは安定した床面から、平均的な確認面までの数値を記した。壁などが残存していない場合は一で表現した。なお、単位はcmである。

方位： 主軸方位を真北からの角度で表した。

施設： 主な施設を記した。

遺物： 主な出土遺物を記した。

土坑・焼土・集石

平面形： 円形・不整形円形・楕円状・不整形楕円状・長方形・方形・不整形方形から選んだ。

計測値： 長軸と短軸は直交位置で計測した。深さは底面から確認面までの距離である。

《遺物》

出土位置： 挿図に番号が記された遺物は、平面位置と断面位置を記した。

胎土： 土器の夾雑物を記した。混和材としての砂粒が2mm以上を粗砂粒、2mm以下は細砂粒とした。混和材中の特徴的な鉱物粒として、石英、輝石を基準とし、片岩などが含まれた場合も明記した。また、繊維も胎土の一つとして記している。

焼成： 良好な例を標準とし、焼成温度が低く土器胎土が弱い順に、やや良好、脆弱あるいは不良と記した。

色調： 土器の表面色調を優先し、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）に準拠したが、色調名を優先し、マンセル値は併記していない。

石材： 石器、石製品の石材名を記した。

計測値： 土器は口径・底径・高さを基準に残存した部位を計測した。1/2以下の復元値は（）で記した。破片資料の現存値は記していない。石器は長さ・幅・厚さ・重量を計測し、現存値を（）で記した。

文様の特徴： 器形、文様構成を主とした記載で、文様要素や原体を併記した。

備考： 土器は時期の目安として、縄文時代六期区分と区分内の大凡の段階を記した。型式名は本文中に触れた。

表4 遺構計測表

住居跡

住居跡名	長軸	短軸	深さ	方位	グリッド位置	主な重複遺構	出土遺物など
51区1号住居跡	—	—	—	—	51-0-P-15	—	中・後期土器断片、壁周溝のみ、中期か
51区2号住居跡	300.0	291.0	9.0	N-16.5°-W	51-N-X-19-20	6住、22-82・126坑	両耳歯、異形石器、磨製石器、蚌、蚌石製品、中期後葉
P1=31.0×27.0×22.0	56.0	45.0	6.0	N-16.5°-W	—	—	—
P2=28.0×26.0×9.0	—	—	—	—	—	—	—
51区3号住居跡	552.0	549.0	25.5	N-23.85°-E	51-W-Y-21+22	4A・7住、50-65・88-95・99+111・115坑	土器片・土製内盤・石鏝・石鏝、中期後葉後半
P1=43.0×35.0×27.0	—	—	—	—	—	—	—
P2=29.0×28.0×30.0	—	—	—	—	—	—	—
P3=49.0×37.0×38.0	—	—	—	—	—	—	—
51区4号住居跡	452.0	—	17.0	N-46°-W	51-Y-20+21、52-A-20	3・4・B・5住、105坑	土器・土製内盤・四石、中期後葉～未葉
P1=42.0×34.0×16.0	51.0	41.0	14.0	N-30°-W	—	—	—
P2=42.0×35.0×38.0	—	—	—	—	—	—	—
P3=41.0×36.0×14.0	—	—	—	—	—	—	—
P4=30.0×29.0×18.0	—	—	—	—	—	—	—
P5=22.0×20.0×20.0	—	—	—	—	—	—	—
P6=37.0×30.0×11.0	—	—	—	—	—	—	—
51区4号住居跡	546.0	497.0	43.0	N-41°-E	51-Y-20+21、52-A-20+21	4A・52-11住、121坑	焼失住居、土器・四石・磁石、中期後葉前半
P1=43.0×35.0×31.0	78.0	—	26.0	N-49°-W	—	—	—
P2=32.0×26.0×62.0	—	—	—	—	—	—	—
P3=23.0×21.0×7.0	—	—	—	—	—	—	—
P4=24.0×20.0×65.0	—	—	—	—	—	—	—
P5=—×13.0×49.0	—	—	—	—	—	—	—
P6=39.0×21.0×52.0	—	—	—	—	—	—	—
P7=41.0×34.0×52.0	—	—	—	—	—	—	—
P8=40.0×26.0×50.0	—	—	—	—	—	—	—
P9=38.0×37.0×62.0	—	—	—	—	—	—	—
P10=26.0×24.0×29.0	—	—	—	—	—	—	—
P11=54.0×48.0×63.0	—	—	—	—	—	—	—
P12=28.0×26.0×65.0	—	—	—	—	—	—	—
51区5号住居跡	380.0	357.0	30.0	N-2°-E	51-X-Y-19+20	4A住、54-92・107・119坑	土器・石鏝・石鏝・磨石・四石、中期中葉末
P1=24.0×22.0×12.0	37.0	34.0	10.0	N-36°-E	—	—	—
P2=32.0×29.0×19.0	—	—	—	—	—	—	—
P3=30.0×27.0×10.0	—	—	—	—	—	—	—
P4=35.0×29.0×18.0	—	—	—	—	—	—	—
P5=45.0×34.0×12.0	—	—	—	—	—	—	—
P6=47.0×34.0×16.0	—	—	—	—	—	—	—
P7=26.0×25.0×62.0	—	—	—	—	—	—	—
P8=49.0×32.0×49.0	—	—	—	—	—	—	—
P9=44.0×36.0×28.0	—	—	—	—	—	—	—
P10=35.0×31.0×47.0	—	—	—	—	—	—	—
P11=30.0×24.0×9.0	—	—	—	—	—	—	—
P12=31.0×29.0×50.0	—	—	—	—	—	—	—
51区6号住居跡	360.0	360.0	—	N-3.5°-E	51-V-W-19+20	2・7住、29-81・114・117・127坑	土器・石鏝・磨石・磨石、中期中葉末
P1=47.0×37.0×30.0	84.0	66.0	18.0	N-3.5°-E	—	—	—
P2=31.0×28.0×25.0	—	—	—	—	—	—	—
P3=49.0×28.0×37.0	—	—	—	—	—	—	—
P4=21.0×17.0×21.0	—	—	—	—	—	—	—
P5=28.0×24.0×19.0	—	—	—	—	—	—	—
P6=22.0×22.0×19.0	—	—	—	—	—	—	—
P7=8-57.0×47.0×51.0	—	—	—	—	—	—	—
P8=31.0×29.0×47.0	—	—	—	—	—	—	—
P9=—×43.0×19.0	—	—	—	—	—	—	—
P10=47.0×30.0×69.0	—	—	—	—	—	—	—
P12=—×26.0×39.0	—	—	—	—	—	—	—
P13=—×21.0×16.0	—	—	—	—	—	—	—
P14=37.0×27.0×29.0	—	—	—	—	—	—	—
P15=26.0×20.0×41.0	—	—	—	—	—	—	—
P16=—×57.0×48.0	—	—	—	—	—	—	—
P17=—×51.0×56.0	—	—	—	—	—	—	—
51区7号住居跡	545.8	452.0	38.0	N-19°-E	51-V-W-Y-20+21	3・6住、68-60・72-95・96・102・103・117坑	土器片・石鏝・打斧・台石、中期中葉
P1=24.0×21.0×31.0	65.0	50.0	10.0	N-19°-E	—	—	—
P2=43.0×42.0×44.0	—	—	—	—	—	—	—
P3=36.0×33.0×36.0	—	—	—	—	—	—	—
P4=28.0×22.0×18.0	—	—	—	—	—	—	—
P5=40.0×30.0×23.0	—	—	—	—	—	—	—
P6=47.0×43.0×45.0	—	—	—	—	—	—	—
P7=25.0×21.0×19.0	—	—	—	—	—	—	—
P8=—×35.0×44.0	—	—	—	—	—	—	—
P9=26.0×24.0×13.0	—	—	—	—	—	—	—
P10=37.0×28.0×29.0	—	—	—	—	—	—	—
P11=27.0×20.0×32.0	—	—	—	—	—	—	—
P12=48.0×40.0×63.0	—	—	—	—	—	—	—
P13=20.0×19.0×31.0	—	—	—	—	—	—	—
P14=21.0×20.0×6.0	—	—	—	—	—	—	—
P15=40.0×31.0×68.0	—	—	—	—	—	—	—
P16=18.0×16.0×14.0	—	—	—	—	—	—	—
P17=42.0×38.0×45.0	—	—	—	—	—	—	—
P18=52.0×30.0×45.0	—	—	—	—	—	—	—
P19=—×20.0×18.0	—	—	—	—	—	—	—
P20=18.0×10.0×23.0	—	—	—	—	—	—	—
P21=—×33.0×13.0	—	—	—	—	—	—	—
P22=54.0×44.0×37.0	—	—	—	—	—	—	—
P23=—×46.0×25.0	—	—	—	—	—	—	—
P24=42.0×18.0×30.0	—	—	—	—	—	—	—
P25=—×30.0×24.0	—	—	—	—	—	—	—
P26=18.0×18.0×14.0	—	—	—	—	—	—	—
P27=23.0×31.0×6.0	—	—	—	—	—	—	—
P28=50.0×38.0×21.0	—	—	—	—	—	—	—
P29=20.0×18.0×9.0	—	—	—	—	—	—	—
P30=40.0×23.0×27.0	—	—	—	—	—	—	—
P31=46.0×26.0×18.0	—	—	—	—	—	—	—
P32=21.0×17.0×14.0	—	—	—	—	—	—	—
P33=—×30.0×26.0	—	—	—	—	—	—	—
P34=19.0×14.0×12.0	—	—	—	—	—	—	—
P35=26.0×25.0×53.0	—	—	—	—	—	—	—
P36=26.0×23.0×27.0	—	—	—	—	—	—	—
P37=—×30.0×26.0	—	—	—	—	—	—	—
P38=42.0×34.0×27.0	—	—	—	—	—	—	—
P39=25.0×21.0×28.0	—	—	—	—	—	—	—
P40=41.0×—×10.0	—	—	—	—	—	—	—
P41=26.0×15.0×15.0	—	—	—	—	—	—	—
51区8号住居跡	485.0	446.0	—	N-35.0°-E	51-K-1-23	9・10住、149坑	土器・石鏝・打斧・磨石、中期後葉後半
P1=60.0	56.0	32.0	N-35.0°-E	—	—	—	—
埋費	68.0	52.0	32.0	—	—	—	—
51区9号住居跡	—	255.0	29.0	—	51-J-K-23+24	8住	土器・磨石、中期後葉後半
51区10号住居跡	648.0	—	35.0	N-0°-E	51-J-K-22+23	8住	土器・石鏝・打斧・四石・多孔石、中期後葉中葉
P1=80.0	55.0	13.0	N-48°-E	—	—	—	—
P1=50.0×23.0×55.0	—	—	—	—	—	—	—
P2=56.0×54.0×59.0	—	—	—	—	—	—	—
P3=53.0×51.0×36.0	—	—	—	—	—	—	—
P4=58.0×41.0×58.0	—	—	—	—	—	—	—
P5=52.0×41.0×53.0	—	—	—	—	—	—	—
P6=44.0×43.0×22.0	—	—	—	—	—	—	—
P7=26.0×22.0×19.0	—	—	—	—	—	—	—
51区11号住居跡	439.0	425.0	53.0	N-1°-E	51-N-0-24+25	48・193-61-53坑	土器・石鏝・石鏝・磨石・磨石・磨石・磨石、中期後葉後半
P1=78.0	77.0	34.0	N-2°-W	—	—	—	—
埋費	45.0	39.0	43.5	N-88°-E	—	—	—
P1=56.0×51.0×86.0	—	—	—	—	—	—	—
P2=77.0×32.0×67.0	—	—	—	—	—	—	—
P3=60.0×49.0×72.0	—	—	—	—	—	—	—
P4=64.0×60.0×36.0	—	—	—	—	—	—	—
P5=25.0×19.0×27.0	—	—	—	—	—	—	—
P6=45.0×29.0×31.0	—	—	—	—	—	—	—
P7=40.0×30.0×4.0	—	—	—	—	—	—	—
51区14号住居跡	616.0	547.0	48.0	N-1°-E	51-N-0-24+25	48・193-61-53坑	土器片・石鏝・石鏝・打斧・台石、中期後葉後半
P1=104.0	94.0	54.0	N-30°-E	—	—	—	—
51区12号住居跡	228.0	—	7.0	—	51-V-W-21+22	66-67坑、P156・178・197	磨石・磨石・磁石、中期中葉
51区13号住居跡	632.0	412.0	17.0	N-26°-W	51-P-0-20～22	209・214・226・227・250坑	土器・ミニチュア・土製品・磨石・磨石・磨石、後期前葉
P1=62.5×48.5×41.5	90.0	82.0	38.5	N-28°-W	—	—	—
P2=50.0×43.0×24.0	—	—	—	—	—	—	—
P3=53.5×52.0×33.0	—	—	—	—	—	—	—
P4=34.0×33.5×18.0	—	—	—	—	—	—	—
P5=37.0×34.5×15.0	—	—	—	—	—	—	—
51区15号住居跡	550.0	548.0	20.0	N-45°-E	51-J-K-19+20	—	土器・石鏝・打斧・磨石・四石・磁石、中期後葉中葉
P1=29.0×27.0×17.0	—	—	—	—	—	—	—
P2=32.0×29.0×18.0	—	—	—	—	—	—	—
P3=21.0×22.0×38.0	—	—	—	—	—	—	—
P4=22.0×22.0×19.0	—	—	—	—	—	—	—
P5=26.0×24.0×19.0	—	—	—	—	—	—	—
P6=32.0×31.0×19.0	—	—	—	—	—	—	—
P7=26.0×23.0×26.0	—	—	—	—	—	—	—
P8=36.0×29.0×31.0	—	—	—	—	—	—	—
P9=26.0×25.0×25.0	—	—	—	—	—	—	—
P10=36.0×22.0×12.0	—	—	—	—	—	—	—
P11=—×45.0×16.0	—	—	—	—	—	—	—
P12=44.0×42.0×48.0	—	—	—	—	—	—	—
P13=37.0×36.0×22.0	—	—	—				

住居跡名	長軸	短軸	深さ	方位	グリッド位置	主な重複遺構	出土遺物など
51区18号住居跡	455.0	383.0		N-31°-W	51-P-Q-19-20	P756	土器・石鏝・石鏝・石棒・多孔石、中期後半～末葉
♫	54.0	51.0	30.0				
P1-47.0×42.0×22.0	P2-36.0×33.0×74.0	P3-35.0×34.0×19.0	P4-29.0×25.0×71.0	P5-28.0×24.0×17.0	P6-38.0×36.0×42.0		
P7-47.0×30.0×59.0	P8-65.0×43.0×12.0	P9-	×41.0×18.0				
51区19号住居跡	418.0		17.0	N-7°-E	51-Q-R-19-20	238・252坑	土器片・石鏝・打斧・軽石、後期初葉
♫							
51区20号住居跡	583.0		72.0	N-33°-E	51-X～Y-14～16	17・22住、184・192・277～279・281坑	土器・石鏝・石匙・打製石片、中期後葉中頃
♫	90.0	79.0	21.0	N-33°-E			
P1-33.0×30.0×20.0	P2-50.0×46.0×59.0	P3-29.0×28.0×32.0	P4-59.0×53.0×53.0	P5-50.0×37.0×56.0			
P7-36.0×35.0×40.0	P8-47.0×33.0×58.0						
51区21号住居跡	253.0	250.0	23.0	N-51°-E	51-L-17・18	257・259坑	石鏝、時期不明
♫							
P1-18.0×18.0×27.0	P2-21.0×20.0×15.0	P3-25.0×23.0×24.0	P4-56.0×32.0×12.0	P5-23.0×19.0×19.0	P6-20.0×16.0×24.0		
51区22号住居跡	484.0	398.0	32.0	N-21°-W	51-X-14～16、Y-15	17・20住、184・277・279・281坑	土器、中期後葉中頃
♫							
P1-23.0×21.0×17.0	P2-23.0×20.0×17.0						
51区23号住居跡		561.0	26.0	N-12°-W	51-W-14・15、X-13～15	283・284坑	土器、中期後葉前半
♫	117.0	86.0	17.0	N-4°-W			
P1-49.0×41.0×45.0	P2-32.0×30.0×11.0	P3-30.0×25.0×26.0	P4-49.0×44.0×54.0	P5-35.0×35.0×21.0	P6-59.0×43.0×60.0		
P7-44.0×42.0×18.0	P8-30.0×27.0×13.0	P9-36.0×31.0×22.0	P10-50.0×44.0×38.0				
51区24号住居跡	361.0	343.0	15.0	N-43°-W	51-W-X-16・17		土器・磨石・石皿、前期初頃
♫	55.0	45.0	10.0	N-0°			
P1-45.0×35.0×4.0							
51区25号住居跡	307.0		28.0	N-1°-W	51-Q-R-15・16	26住	土器・石鏝、中期後葉中頃
♫	56.0		4.0	N-24°-W			
51区26号住居跡	385.0	370.0	25.0	N-53°-W	51-P-Q-15・16	25住、P811	土器片・石鏝・打斧・台石、中期中葉
♫	95.0	57.0	2.0	N-53°-W			
P1-40.0×36.0×36.0	P2-42.0×37.0×13.0						
51区27号住居跡	532.0	518.0	28.0	N-11°-W	51-O-P-17・18		土器・打斧・石皿、後期初頃
♫	42.0	42.0	18.0	N-11°-W			
51区28号住居跡	624.5	550.0	41.0	N-44°-W	51-X・Y-17～19、52-A-17～19		土器・石鏝・石鏝・打斧・石皿、中期後葉中頃
♫	155.0	107.0	9.0	N-44°-W			
P2-82.0×58.0×44.0	P3-79.0×58.0×55.0	P4-56.0×43.0×70.0	P5-62.0×49.0×46.0	P6-58.0×45.0×58.0			
P7- ×48.0×54.0	P8- ×73.0×42.0	P9-57.0×48.0×55.0	P10-33.0×30.0×9.0	P11-29.0×27.0×10.0	P12-34.0×30.0×10.0		
P13-56.0×52.0×19.0	P14-53.0×46.0×28.0	P15-56.0×55.0×11.0	P16-25.0×23.0×17.0	P17-78.0×46.0×20.0	P18-26.0×26.0×26.0		
P19- ×26.0×11.0	P20-31.0×30.0×13.0	P21-35.0×34.0×22.0	P22-42.0×37.0×24.0				
51区29号住居跡	340.0	310.0	11.0	N-35°-E			土器片・円石、中期後葉前半？
♫	31.5	28.6	8.5				
P1-21.0×21.0×34.0	P2-35.0×34.0×58.0	P3-37.0×35.0×22.0	P4-40.0×29.0×43.0	P5-55.0×48.0×16.0	P6-37.0×25.0×16.0		
P7-41.0×36.0×45.0	P8-30.0×25.0×17.0	P9-	(23.0)×17.0×13.0				
51区30号住居跡					51-X-20	3・4・A・5住	遺物なし、時期不明
♫							
52区1号住居跡	370.0	333.0	53.0	N-6°-E	52-1・J-12・13		土器・石鏝・円石・敲石・多孔石、中期後葉中頃
♫	87.0	64.0	16.0	N-6°-E			
P1-24.0×23.0×16.0	P2-24.0×23.0×10.0	P3-26.0×22.0×13.0	P4-65.0×48.0×60.0	P5-26.0×20.0×11.0	P6-34.0×31.0×71.0		
P7-24.0×20.0×20.0	P8-41.0×28.0×47.0	P9-41.0×39.0×21.0					
52区2号住居跡		46.3		N-64°-E	52-G-H-13・14	12・14・32・43・45坑	土器片・打斧・円石・磨石・砥石？、中期後葉中頃
♫	70.0	67.0	26.0	N-21°-E			
P1-29.0×21.0×10.0	P2-44.0×42.0×16.0						
52区3号住居跡	629.0	565.0	55.0	N-23°-E	52-E-F-12・13	46坑	土器・石鏝・石鏝・打斧・磨石・石製品、中期後葉中頃
♫	126.0	94.0	11.0	N-23°-E			
P1-66.0×54.0×44.0	P2-59.0×49.0×43.0	P3-49.0×48.0×46.0	P4-54.0× ×21.0	P5-54.0× ×42.0	P6-43.0×40.0×68.0		
P7-48.0× ×39.0	P8-75.0×65.0×34.0	P9-83.0×66.0×29.0	P10-34.0×27.0×17.0	P11- ×47.0×16.0	P12-50.0× × ×28.0		
P13-50.0×43.0×37.0							
52区4号住居跡	609.0	602.0	58.0	N-4°-E	52-F-11、G-H-10～12		土器・石鏝・石鏝・打斧・磨石・石棒等、中期後葉後半
♫	121.0	92.0	36.0	N-4°-E			
P1- ×58.0×44.0	P2-80.0×48.0×58.0	P3-78.0× × ×11.0	P4-77.0×61.0×59.0	P5-80.0×66.0×65.0	P6-35.0×31.0×44.0		
P7-40.0×32.0×62.0	P8-34.0×32.0×62.0	P9-45.0×43.0×70.0	P10-27.0×26.0×30.0	P11-39.0×15.0×9.0	P12-40.0×37.0×62.0		
P13-73.0×40.0×56.0	P14-76.0×60.0×61.0	P15-79.0×60.0×62.0	P16-45.0×37.0×19.0	P17-33.0×28.0×24.0	P18- ×30.0×32.0		
P19-37.0×34.0×56.0	P20-32.0×27.0×38.0	P21-53.0×39.0×29.0	P22-34.0×32.0×35.0				
52区5号住居跡		304.0	31.0	N-36°-W	52-F-18-19	58坑	土器片・磨石・円石・敲石、前期初頃
♫							
52区6・10号住居跡					52-D-E-18-19	71～79-81～85坑	土器・石鏝・打斧・円石・多孔石、中期後葉
♫							
52区7号住居跡		527.0	17.0	N-41°-W	52-B-C-20・21	8・11住、67・68坑	土器・石鏝・打斧・磨石・敲石・多孔石、中期後葉後半
♫1	80.0	74.0	19.0	N-52°-E			
♫2	90.0	80.0	7.0	N-40°-E			
P1-31.0×26.0×23.0	P2-47.0×30.0×33.0	P3-59.0×52.0×58.0	P4-54.0×46.0×40.0	P5-29.0×27.0×32.0	P6-63.0×54.0×46.0		
P7-55.0×28.0×42.0							

住居跡名	長軸	短軸	深さ	方位	グリッド位置	主な重複遺構	出土遺物など
52区8号住居跡	—	—	26.0	N-6°-E	52-B-C-19-20	7住	礎形石造・門石、時期不明
52区9号住居跡	—	597.0	33.0	N-2°-W	52-A-C-18-19	—	土器・石造・石造・打斧・重櫛・多孔石等、中期後葉中頃
P1=35.0×34.0×28.0	P2=35.0×28.0×28.0	P3=36.0×34.0×21.0	P4=25.0×23.0×17.0	P5=26.0×24.0×11.0	P6=31.0×30.0×16.0	—	—
P7=30.0×28.0×10.0	P8=57.0×37.0×35.0	P9=38.0×38.0×32.0	P10=35.0×28.0×36.0	P11=31.0×30.0×38.0	P12=31.0×28.0×34.0	—	—
P13=31.0×21.0×16.0	—	—	—	—	—	—	—
52区10号住居跡	—	111.0	100.0	12.0	N-17.5°-W	—	土器・石造・石造・打斧・重櫛・多孔石等、中期後葉中頃
P1=—×57.0×68.0	P2=42.0×37.0×52.0	P3=—×32.0×25.0	P4=86.0×66.0×69.0	P5=30.0×29.0×8.0	P6=84.0×69.0×68.0	—	—
P7=78.0×60.0×68.0	P8=53.0×51.0×17.0	P9=—×50.0×45.0	P10=—×—×89.0	P11=43.0×40.0×12.0	P12=24.0×21.0×8.0	—	—
P13=58.0×51.0×36.0	P14=28.0×19.0×14.0	P15=30.0×16.0×5.0	P16=—×29.0×20.0	P17=—×21.0×46.0	P18=59.0×33.0×48.0	—	—
52区11号住居跡	—	570.0	26.0	N-11°-E	52-A-B-20・21	7、51-4 B住	土器・ミニチュア・石造・石造・打斧等、中期後葉後半
P1=50.0×44.0×61.0	P2=46.0×41.0×22.0	P3=51.0×50.0×67.0	P4=30.0×25.0×10.0	P5=42.0×40.0×38.0	P6=62.0×49.0×48.0	—	—
P7=—×33.0×14.0	P8=37.0×24.0×7.0	P9=33.0×27.0×40.0	P10=—×25.0×46.0	—	—	—	—
52区12号住居跡	541.0	480.0	27.0	N-55°-W	52-B-C-15・16	13住、P129	土器片・打斧・磨石・石皿、中期後葉後半
P1=35.0×34.0×26.0	P2=42.0×40.0×27.0	P3=29.0×24.0×37.0	P4=29.0×25.0×22.0	P5=31.0×30.0×13.0	P6=37.0×31.0×15.0	—	—
P7=33.0×28.0×24.0	P8=36.0×30.0×26.0	—	—	—	—	—	—
52区13号住居跡	536.0	512.0	42.0	N-9°-E	52-A-B-14・15	12住	土器・石造・石造・打斧・磨石・磨石・石皿、中期後葉中頃
P1=49.0×35.0×19.0	P2=40.0×36.0×67.0	P3=46.0×40.0×65.0	P4=43.0×40.0×57.0	P5=41.0×32.0×10.0	P6=41.0×38.0×61.0	—	—
P7=40.0×37.0×15.0	P8=34.0×33.0×66.0	P9=34.0×33.0×22.0	P10=42.0×42.0×61.0	—	—	—	—
52区14号住居跡	510.0	483.0	37.0	N-5°-W	52-A-B-16・17	87坑	土器・石造・磨石・石造・打斧、中期後葉中頃
P1=41.0×40.0×18.0	P2=35.0×26.0×52.0	P3=35.0×23.0×12.0	P4=37.0×25.0×45.0	P5=40.0×28.0×65.0	P6=33.0×26.0×61.0	—	—
P7=54.0×50.0×18.0	P8=25.0×23.0×13.0	P9=39.0×25.0×49.0	—	—	—	—	—
52区15号住居跡	464.0	—	17.0	—	52-C-12~14	16住、88坑	土器、中期後葉中頃
P1=42.0×36.0×47.0	P2=48.0×35.0×61.0	P3=38.0×—×69.0	—	—	—	—	—
52区16号住居跡	360.0	—	13.0	—	52-C-12-13	15住、88-89坑	遺物なし。中期後葉前半~中頃
P1=28.0×28.0×38.0	—	—	—	—	—	—	—
52区17号住居跡	—	315.0	27.0	N-29°-W	52-C-14・15	—	遺物なし。時期不明
52区18号住居跡	—	393.0	15.0	N-10°-W	52-A-B-17・18	99・102坑、P136	土器・石造・礎形石造・打斧・磨石・石皿、中期後葉前半
P1=29.0×25.0×22.0	P2=38.0×28.0×47.0	P3=27.0×25.0×36.0	P4=25.0×24.0×12.0	P5=25.0×21.0×30.0	—	—	—
61区5号住居跡	(502.8)	—	13.7	N-27°-W	61-L-1・2	14・15住、40~43坑	土器片・磨石・磨石・石皿、後期前葉
P1=44.0×—×35.0	P2=36.0×30.0×13.0	P3=34.0×33.0×8.0	P4=25.0×23.0×22.0	P5=—×44.0×29.0	P6=26.0×20.0×39.0	—	—
P7=37.0×31.0×36.0	P8=34.0×31.0×37.0	P9=29.0×26.0×14.0	P10=40.0×30.0×30.0	P11=46.0×42.0×9.0	P12=41.0×40.0×54.0	—	—
P13=47.0×43.0×35.0	—	—	—	—	—	—	—
61区13号住居跡	—	—	9.0	—	61-L-11・2	6・14・15住	石造、時期不明
61区6号住居跡	—	404.4	0.0	N-0°	61-W-2・3	13・15住、46坑	土器片、中期後葉中頃
P1=50.0×35.0×63.0	P2=40.0×40.0×—	P3=30.0×26.0×—	P4=20.0×16.0×—	P5=25.0×25.0×—	P6=45.0×35.0×—	—	—
61区14号住居跡	(639.4)	510.3	58.2	—	51-L-W-25、61-L-W-1・2	5・13・25住、49坑	土器・石造・打斧・磨石、後期前葉
P1=66.0×45.0×62.0	P2=73.0×38.0×52.0	P3=61.0×54.0×75.0	P4=50.0×44.0×55.0	—	—	—	—
61区15号住居跡	—	—	—	—	—	5・6・13・25住、49坑	土器片・石造・磨石・多孔石、後期前葉
61区25号住居跡	—	—	—	—	61-N-0・1・2	14・15住、48~51坑	土器片・石造、時期不明

土坑

遺構名	平面形状	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
51区					
65号土坑	不整楕円形	108.0	86.0	75.0	X-20・21
81号土坑	不整楕円形	107.0	82.0	75.0	W-19
118号土坑	楕円形	129.0	101.0	40.0	S・T-20
143号土坑	不整円形	105.0	93.0	21.0	P-23
153号土坑	方形	105.5	63.0	68.0	S-23
156号土坑	楕円形	133.0	84.5	27.0	R・S-23
159号土坑	楕円形	145.0	92.5	63.0	R-23
164号土坑	不整長方形	149.5	92.5	55.0	P-23
166号土坑	円形	173.0	146.5	52.0	R-22・23
171号土坑	長楕円形	(189.0)	(42.0)	23.0	P-22
182号土坑	不整形	(51.0)	40.0	24.0	Q-25、61-0・1

遺構名	平面形状	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
215号土坑	不整円形	184.0	170.0	54.0	P・Q-22
226号土坑	不整円形	108.0	93.0	61.0	Q-21
227号土坑	円形	131.0	(81.0)	26.0	Q-21
230号土坑	不整楕円形	148.0	100.0	22.0	Q・R-20
239号土坑	楕円形	109.0	82.0	17.0	R・S-21
241号土坑	不整円形	139.0	—	29.0	P-20
256号土坑	円形	140.5	126.0	94.0	X-16・17
261号土坑	不整円形	125.0	118.0	46.0	W・X-16
267号土坑	不整円形	101.5	97.5	58.0	W・X-19
273号土坑	円形	81.5	78.5	32.0	W・X-16
280号土坑	円形	82.0	(64.0)	70.0	S-14
284号土坑	円形	113.5	112.5	39.0	R-14・15

道橋名	平面形状	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
297号土坑	円形	110.0	99.5	22.0	S-17
308号土坑	円形	136.0	124.0	40.0	N-20
309号土坑	円形	183.0	170.0	30.0	N-20
315号土坑	円形	116.0	101.0	42.0	S-18
52区					
74号土坑	円形	93.0	89.0	27.0	E-19
77号土坑	円形	97.0	(50.0)	34.0	E-19
78号土坑	円形	134.0	122.0	55.0	D・E-19
79号土坑	円形	80.0	(23.0)	37.0	D-19
61区					
42号土坑	不整形円形	115.0	103.0	78.0	L・1・2
51区					
1号土坑	円形	55.0	51.0	9.0	Q-24
2号土坑	円形	73.0	65.0	31.0	S-22
4号土坑	楕円形	116.0	82.0	13.0	Q-23
5号土坑	楕円形	150.0	117.0	22.0	P・Q-24
6号土坑	不整形楕円形	203.5	177.5	16.0	P・Q-23
7号土坑	不整形円形	96.0	94.0	18.0	P-24・25
8号土坑	楕円形	117.0	90.0	12.0	P-25
10号土坑	円形	95.0	92.5	41.0	R・S-20
11号土坑	不整形円形	85.0	77.0	17.0	S-21・22
13号土坑	楕円形	119.0	84.5	31.0	T-20・21
18号土坑	不整形円形	167.5	87.0	77.0	N・O-22
21号土坑	—	113.0	—	66.0	Y-22, 52-A-22
22号土坑	円形	65.5	55.0	16.0	W-19・20
29号土坑	円形	150.0	141.5	60.0	V・W-19
30号土坑	不整形円形	88.0	70.5	28.0	U-21・22
31号土坑	不整形円形	143.0	112.5	65.0	V・W-22
32号土坑	不整形円形	89.0	85.0	38.0	V・W-22
33号土坑	不整形楕円形	118.0	77.5	(33.0)	U-20 27.0
34号土坑	不整形円形	193.5	151.0	(57.0)	V-22・23 26.0
35号土坑	不整形楕円形	130.0	78.0	64.0	U・V-23
36号土坑	円形	89.5	85.0	15.0	U-23
37号土坑	不整形楕円形	97.0	74.0	28.0	U・V-20
38号土坑	円形	72.5	63.0	33.0	Y-19
39号土坑	不整形楕円形	106.0	102.0	(37.0)	V-19・20 25.0
40号土坑	不整形楕円形	149.0	115.0	75.0	V-20
41号土坑	不整形円形	66.3	57.5	(25.0)	U-20 17.0
42号土坑	不整形円形	80.0	70.0	(39.0)	U-20 26.0
43号土坑	不整形円形	58.5	57.0	21.0	Y-19
44号土坑	不整形円形	97.0	66.0	53.0	Y-19
45号土坑	円形	162.5	137.5	48.0	T-21
49号土坑	不整形楕円形	112.5	76.5	18.0	T-19・20
50号土坑	不整形円形	78.0	73.0	—	X-22
51号土坑	不整形楕円形	(103.0)	(89.0)	23.0	T-19
52号土坑	不整形楕円形	124.0	112.0	36.0	T・U-19
53号土坑	不整形楕円形	67.0	48.0	36.0	V-22
54号土坑	不整形楕円形	146.0	84.0	31.0	X-20
55号土坑	不整形円形	103.0	(89.0)	44.0	X-20
56号土坑	不整形楕円形	138.0	117.0	42.0	U・V-19
57号土坑	不定形	72.0	43.0	19.0	U-19
58号土坑	不整形円形	41.0	33.0	38.0	X-19
59号土坑	円形	47.0	45.0	47.0	X-19
60号土坑	不整形楕円形	110.0	70.0	40.0	U-21
61号土坑	不整形円形	84.0	83.0	49.0	V-21
62号土坑	不整形円形	62.0	62.0	39.0	V-21
63号土坑	不明	89.0	(62.0)	29.0	X・Y-19
64号土坑	不整形円形	210.0	145.0	22.0	X-19
66号土坑	不整形楕円形	122.0	92.0	60.0	V-22
67号土坑	不整形円形	160.0	139.0	43.0	V・W-22・23
68号土坑	不整形円形	115.0	97.0	36.0	W-21
69号土坑	楕円形	137.0	64.0	37.0	W-21
70号土坑	不明	(64.0)	75.0	21.0	X-19・20
72号土坑	楕円形	132.0	78.0	47.0	W-20

道橋名	平面形状	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
73号土坑	不整形円形	99.0	81.0	18.0	V-23
74号土坑	不整形円形	85.0	77.0	23.0	P-25
75号土坑	不整形円形	58.0	(35.0)	35.0	E-21
76号土坑	不整形楕円形	122.0	83.0	35.0	X-22
77号土坑	不整形楕円形	(53.0)	64.0	34.0	X-22
78号土坑	不整形円形	97.0	73.0	16.0	Y-22
79号土坑	不整形楕円形	97.0	(52.0)	39.0	X・Y-22
80号土坑	楕円形	(88.5)	76.0	(34.0)	X-22 21.0
82号土坑	円形	85.0	81.0	31.0	X-19
83号土坑	不整形円形	36.0	30.0	19.0	X-19
84号土坑	円形	45.0	37.0	9.0	X-19
85号土坑	不整形円形	77.0	47.0	25.0	X-19
86号土坑	不整形円形	37.0	32.0	30.0	X-19
87号土坑	不整形楕円形	54.0	40.0	32.0	X-19
88号土坑	円形	102.0	(95.0)	87.0	X-20・21
89号土坑	不整形楕円形	(148.0)	115.0	20.0	X-20・21
90号土坑	円形	84.0	79.0	68.0	X-20
91号土坑	不整形円形	—	46.0	40.0	W-19
92号土坑	不整形円形	94.0	80.0	62.0	Y-20
93号土坑	不整形円形	77.0	69.0	43.0	X-19
94号土坑	不整形長方形	104.0	55.0	57.0	W・X-20
95号土坑	不整形楕円形	(90.0)	67.0	73.0	W・X-21
96号土坑	不整形円形	144.0	71.0	66.0	W-21
97号土坑	不整形円形	63.0	(40.0)	42.0	X-20
99号土坑	不整形円形	88.0	71.0	62.0	Y-21
100号土坑	不整形楕円形	145.0	74.0	64.0	W・X-21・22
101号土坑	楕円形	109.0	73.0	50.0	V-23
104号土坑	不整形楕円形	88.0	75.0	52.0	U-21
105号土坑	不整形円形	59.0	47.0	14.0	Y-21
107号土坑	不整形円形	72.0	65.0	57.0	Y-19・20
108号土坑	不整形円形	71.0	60.0	65.0	Y-19
109号土坑	円形	53.0	46.0	19.0	X-19
111号土坑	楕円形	95.0	67.0	32.0	X-21
112号土坑	不整形円形	58.0	51.0	24.0	X-19
113号土坑	不整形楕円形	68.0	53.0	46.0	Y-21
114号土坑	不整形楕円形	80.0	58.0	57.0	V・W-20
115号土坑	不明	(40.0)	(61.0)	22.0	W・X-21
116号土坑	不整形楕円形	116.0	65.0	63.0	W・X-21
117号土坑	溝形	75.0	43.0	13.0	W-20
119号土坑	円形	97.0	95.0	54.0	Y-20
120号土坑	不整形円形	40.0	36.0	36.0	X-19
121号土坑	円形	132.0	118.0	54.0	Y-21, 52-A-21
122号土坑	不整形円形	82.0	60.0	19.0	S-19・20
123号土坑	不整形円形	94.0	61.0	17.0	S-20
124号土坑	不整形楕円形	127.0	(69.0)	35.0	S-20
125号土坑	不整形楕円形	78.0	62.0	14.0	R-20
126号土坑	不整形円形	61.0	48.0	18.0	W-20
127号土坑	不整形円形	60.0	57.0	31.0	W-19・20
128号土坑	不整形円形	123.0	86.0	41.0	W・X-22
129号土坑	不整形円形	105.0	80.0	61.0	W-22
131号土坑	不整形円形	66.0	60.0	29.0	P-24
132号土坑	不整形円形	103.0	100.0	27.0	P-24
133号土坑	不整形楕円形	108.0	83.0	40.0	P・Q-24
134号土坑	不整形楕円形	86.0	59.0	37.0	W-24
135号土坑	不整形円形	75.0	61.0	22.0	R-20
136号土坑	円形	61.0	55.0	49.0	Q・R-23
138号土坑	円形	92.0	86.0	41.0	W・N-24
139号土坑	不整形円形	128.0	116.0	47.0	W-23・24
140号土坑	不整形円形	130.0	121.0	30.0	Q-23
141号土坑	円形	86.0	80.0	34.0	L-24
142号土坑	不整形楕円形	121.0	95.0	32.0	P・Q-23
144号土坑	不整形楕円形	92.0	81.0	24.0	Y-22
145号土坑	円形	86.0	81.0	27.0	W・N-22
146号土坑	楕円形	130.0	74.0	23.0	W-22
147号土坑	円形	84.0	79.0	30.0	W・N-22
148号土坑	楕円形	(74.0)	69.0	15.0	L・W-22 34.0
149号土坑	円形	84.0	82.0	88.0	L-23
151号土坑	不整形円形	90.5	76.5	45.0	S-22

道橋名	平面形状	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
152号土坑	不整形	125.0	112.5	(16.0)	S-22
154号土坑	不整形	82.5	73.5	17.0	S-23
				(55.0)	
155号土坑	不整形	111.0	78.5	11.0	S-23
157号土坑	不整形	159.0	129.0	28.0	R-23・24
158号土坑	不整形	125.5	107.0	16.0	R-23
				36.0	
160号土坑	楕円形	146.5	113.0	47.0	Q-24
161号土坑	不整形	92.5	72.5	17.0	Q-24
162号土坑	円形	165.0	146.5	78.0	Q-24
163号土坑	不整形	(96.0)	90.0	34.0	Q-23
165号土坑	楕円形	153.0	126.5	68.0	S-21
167号土坑	楕円形	77.5	59.0	43.0	W-25
168号土坑	不整形	100.0	82.5	37.0	J-24
169号土坑	楕円形	97.0	71.0	30.0	J-24
173号土坑	不整形	128.0	113.0	90.0	W-25
174号土坑	不整形	63.5	63.0	53.0	W-25
175号土坑	不整形	95.0	82.5	39.0	J-24
176号土坑	円形	90.1	82.5	56.0	L-24
177号土坑	円形	105.0	93.0	66.0	K-24
181号土坑	不整形	113.5	103.0	68.0	N-23・24
182号土坑	円形	75.0	65.0	78.0	L-24
191号土坑	円形	(78.0)	76.0	56.0	N-24
192号土坑	楕円形	73.0	52.0	40.0	Y-15
193号土坑	不整形	127.0	105.0	38.0	24・25
194号土坑	不整形	97.0	96.0	63.0	L-25, 61-L-1
195号土坑	不整形	59.5	45.5	13.0	H-18
196号土坑	不整形	58.5	50.0	10.0	H-18
197号土坑	不整形	84.5	81.5	17.0	H-1-18
198号土坑	不整形	76.0	58.0	14.0	I-18
199号土坑	不整形	73.0	68.5	15.0	I-18・19
203号土坑	円形	109.5	104.0	52.0	J・K-20
204号土坑	不整形	133.0	120.0	35.0	0-21・22
205号土坑	長楕円形	63.0	39.5	23.0	H-18
206号土坑	長楕円形	104.0	66.0	21.0	H・I-18
207号土坑	円形	186.0	(135.0)	46.0	P-22
208号土坑	円形	152.0	150.0	57.0	P-22
209号土坑	円形	145.0	(92.5)	19.0	P-21・22
210号土坑	円形	125.0	112.0	14.0	P-21
211号土坑	不整形	122.0	(110.0)	21.0	P-25
212号土坑	円形	57.5	55.0	18.0	K-17
213号土坑	不整形	157.5	(127.0)	33.0	R・S-22
214号土坑	円形	180.0	177.0	54.0	Q・R-21
216号土坑	不整形	189.0	168.0	48.0	R-21・22
217号土坑	楕円形	138.0	91.0	40.0	P-23
218号土坑	不整形	101.0	99.0	27.0	Q・R-22
219号土坑	不整形	99.0	66.0	91.0	R-18
220号土坑	円形	179.0	145.0	59.0	S-20・21
221号土坑	円形	93.0	88.5	30.0	K-19・20
222号土坑	円形	70.0	62.0	32.0	K-19
223号土坑	楕円形	112.0	79.0	15.0	Q-22
224号土坑	不整形	(96.5)	88.0	13.0	R-22
225号土坑	不整形	118.0	81.0	41.0	Q-22, R-21・22
228号土坑	不整形	134.0	115.0	17.0	Q-20・21
229号土坑	円形	65.0	61.0	54.0	Q・R-20
231号土坑	不明	—	—	—	Q-22, R-21・22
232号土坑	円形	124.0	116.0	44.0	Q・R-20・21
233号土坑	不整形	118.0	(64.0)	36.0	P・Q-22・23
234号土坑	円形	88.0	80.0	12.0	Q-23
235号土坑	円形	53.5	47.5	40.0	Q-24
236号土坑	楕円形	(102.5)	78.5	70.0	Q-23・24
237号土坑	不整形	119.0	78.0	37.0	R-24
238号土坑	円形	129.0	117.0	42.0	R-19
240号土坑	不整形	123.0	90.0	8.0	Q・P-20・21
242号土坑	不整形	200.0	107.5	(14.0)	S-23
243号土坑	不整形	(88.5)	96.5	33.0	S-22
244号土坑	不整形	129.0	(42.5)	61.0	Q-23・24
245号土坑	不整形	106.0	91.0	6.0	Q-20・21
246号土坑	不整形	132.0	(54.0)	26.0	S-20
247号土坑	楕円形	95.0	53.0	55.0	Q-24・25

道橋名	平面形状	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
248号土坑	楕円形	160.0	112.0	66.0	R-24・25
249号土坑	不整形	81.0	51.0	17.0	S-21・22
250号土坑	不整形	109.0	76.0	18.0	Q-20・21
251号土坑	不整形	120.0	103.0	58.0	P-24
252号土坑	楕円形	194.0	(54.0)	27.0	R-19
254号土坑	不整形	162.0	85.0	27.0	K-13・14
255号土坑	不整形	103.5	76.5	37.0	S-22
258号土坑	不整形	152.0	(33.5)	19.0	Q-22
259号土坑	円形	113.0	103.0	40.0	L・M-18
260号土坑	不整形	187.5	104.0	41.0	M-17
262号土坑	円形	109.0	102.5	29.0	U-16
263号土坑	不整形	115.0	99.0	35.0	U-16
264号土坑	円形	91.5	91.0	50.0	U-16
265号土坑	不整形	104.0	95.0	38.0	X・Y-17
266号土坑	不整形	86.0	81.5	39.0	U-16
268号土坑	円形	(120.0)	(79.0)	24.0	X-18
270号土坑	円形	121.0	113.5	102.0	Y-13
271号土坑	不整形	124.5	107.5	51.0	Y-13
272号土坑	円形	109.5	102.5	18.0	X・Y-14
274号土坑	円形・楕円形	115.5	73.5	(21.0)	X・Y-15
		69.0	円形	12.0	
		(47.0)	77.0 (楕円形)		
275号土坑	不整形	166.5	130.5	36.0	U-15・16
276号土坑	円形	62.5	59.5	11.0	F-16
277号土坑	不整形	92.5	84.5	40.0	X-16
278号土坑	円形	83.5	78.5	28.0	X・Y-15・16
279号土坑	円形	60.0	57.5	24.0	X-15
281号土坑	円形	95.5	94.5	73.0	X-15
282号土坑	円形	122.5	106.5	20.0	F・X-15
283号土坑	不整形	126.0	115.0	56.0	F-14・15
285号土坑	不整形	191.5	166.5	52.0	F-15
286号土坑	不整形	86.5	79.0	21.0	X-16
287号土坑	不整形	61.5	59.0	29.0	X-15・16
288号土坑	円形	78.5	71.0	34.0	X-16
289号土坑	円形	86.5	80.0	27.0	X-16
290号土坑	円形	58.0	54.0	33.0	X-16
291号土坑	円形	55.5	49.5	24.0	Y-16
292号土坑	円形	(141.0)	(123.0)	—	+1-16
293号土坑	円形	103.0	92.5	16.0	Q・R-16
294号土坑	円形	63.5	60.5	17.0	R-14
295号土坑	不明	(103.0)	(30.0)	(19.0)	P-14
296号土坑	円形	41.5	38.5	22.0	Q-15
298号土坑	不整形	110.5	67.0	85.0	P-17・18
299号土坑	不整形	88.0	73.0	30.0	F-17・18
300号土坑	不整形	78.0	65.0	29.0	F-18・19
301号土坑	不整形	57.0	(15.0)	22.0	F-18・19
302号土坑	不整形	64.0	57.0	30.0	F-19
303号土坑	不整形	70.0	63.0	38.0	F-18
304号土坑	不整形	77.0	(40.0)	17.0	F-18
305号土坑	円形	83.0	82.0	88.0	F-17・18
306号土坑	不整形	65.0	52.0	22.0	Y-17
307号土坑	不整形	127.0	105.0	18.0	W-20
310号土坑	不整形	97.0	73.0	22.0	P-19
311号土坑	不整形	115.0	106.0	22.0	R-18
312号土坑	不整形	83.0	78.0	22.0	R-18・19
				38.0	
314号土坑	楕円形	146.0	99.0	27.0	S・T-18・19
316号土坑	不整形	89.0	(88.0)	21.0	R-18
317号土坑	不整形	124.0	(60.0)	20.0	R-18
318号土坑	円形	82.0	(76.0)	31.0	R-18
319号土坑	不整形	(129.0)	(107.0)	29.0	S-18
320号土坑	不整形	96.0	69.0	25.0	X-17
321号土坑	不整形	106.0	(68.0)	33.0	F-19
322号土坑	不整形	46.0	43.0	43.0	R-18
323号土坑	不明	117.0	(62.0)	17.0	R-17・18
52区					
5号土坑	—	(60.0)	(40.0)	(13.0)	F-11
8号土坑	不整形	173.0	90.0	40.0	F・G-12
30号土坑	—	(88.0)	(73.0)	31.0	F-11

道構名	平面形状	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
39号土坑	不整形	232.0	115.0	19.0	H-15・16 41.0
48号土坑	不整形	84.0	65.0	23.0	J-11
49号土坑	不整形	91.0	55.0	26.0	G・H-18・19
53号土坑	不整形	107.0	89.0	27.0	I-18
54号土坑	不整形	93.0	90.0	21.0	G-18
55号土坑	不整形	162.0	149.0	35.0	G-12
56号土坑	不整形	69.0	48.0	42.0	F-19
57号土坑	不整形	42.0	34.0	21.0	E・F-19
58号土坑	不整形	66.0	60.0	23.0	E・F-18
59号土坑	不整形	72.0	59.0	9.0	C-20
60号土坑	円形	62.0	61.0	22.0	C-20
61号土坑	不整形	91.0	90.0	52.0	C-19・20 63.0
62号土坑	不整形	88.0	79.0	23.0	C-20
63号土坑	円形	63.0	61.0	35.0	C-18
64号土坑	不整形	89.0	87.0	30.0	C-18・19
65号土坑	不整形	141.0	134.0	44.0	A-19
66号土坑	不整形	68.0	63.0	30.0	A-19
67号土坑	不整形	94.0	85.0	41.0	B・C-21
68号土坑	円形	78.0	75.0	71.0	B-20
69号土坑	不整形	(113.0)	64.0	23.0	A-18・19
70号土坑	円形	88.0	86.0	39.0	A-18・19
71号土坑	不明	100.0	(43.0)	18.0	E-19
72号土坑	不整形	110.0	99.0	38.0	E-19
73号土坑	不整形	64.0	49.0	52.0	E-19
75号土坑	円形	84.0	76.0	25.0	D・E-19
76号土坑	円形	79.0	77.0	54.0	D・E-19
80号土坑	不整形	118.0	115.0	30.0	A-20
81号土坑	円形	113.0	103.0	49.0	E-18
82号土坑	不整形	74.0	59.0	15.0	E-18
83号土坑	円形	74.0	51.0	27.0	E-18・19

竪穴状道構

道構名	長軸	短軸	深さ	方位	グリッド位置	主な重複道構	出土遺物など
52区1号竪穴状道構	295.0	270.0	29.0	—	H・I-18	—	土器片・石鏡

埋設土器

道構名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
51区1号埋設土器	30.0	(30.0)	32.0	Q-23
52区1号埋設土器	19.0	18.0	40.0	C-13

焼土

道構名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
51区				
1号焼土	155.0	122.0	22.0	S-23
2号焼土	152.0	53.0	1.0	E-22
3号焼土	131.0	83.0	3.0	E-22
4号焼土	84.0	70.0	-2.0	V-22
5号焼土	112.0	68.0	-2.0	F-22
6号焼土	64.0	45.0	1.0	F-22
7号焼土	176.0	67.0	13.0	T・U-21
8号焼土	147.0	89.0	2.0	V-20・21
9号焼土	113.0	52.0	3.0	R-21
10号焼土	93.0	73.0	12.0	P-20
11号焼土	110.0	28.0	17.0	U-20
12号焼土	106.0	81.0	11.0	Q-21
13号焼土	52.0	25.0	1.0	U-20
14号焼土	66.0	51.0	2.0	Q-21
15号焼土	88.0	57.0	8.0	R-24
16号焼土	146.0	137.0	1.0	P-22
17号焼土	64.0	49.0	6.0	X-20
18号焼土	—	40.0	1.0	E-21
19号焼土	93.0	78.0	17.0	V-21・22
20号焼土	37.0	33.0	0.0	E-20
21号焼土	48.0	34.0	5.0	T・U-19
22号焼土	53.0	50.0	20.0	V・W-20
23号焼土	85.0	69.0	24.0	F-21
24号焼土	55.0	39.0	19.0	F-21

道構名	平面形状	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
84号土坑	円形	65.0	64.0	43.0	E-18・19
85号土坑	円形	57.0	56.0	18.0	D-18・19
86号土坑	円形	59.0	50.0	15.0	D-19
87号土坑	不整形	162.0	111.0	10.0	A・B-16
90号土坑	不整形	163.0	135.0	52.0	B-12
92号土坑	円形	112.0	106.0	16.0	C-16
93号土坑	不整形	99.0	95.0	47.0	B-18
94号土坑	楕円形	123.0	74.0	28.0	B-18
95号土坑	不整形	56.0	43.0	73.0	B-18
96号土坑	不整形	62.0	57.0	30.0	A-18
97号土坑	不整形	83.0	78.0	27.0	A-18
98号土坑	円形	75.0	(37.0)	22.0	A-18
99号土坑	不整形	61.0	(50.0)	22.0	A-17・18
100号土坑	不整形	47.0	(32.0)	30.0	A-17
101号土坑	不整形	51.0	47.0	11.0	B-17
102号土坑	不整形	56.0	51.0	14.0	A・B-18
61区					
25号土坑	不整形	(90.0)	90.0	40.0	0・P-1
33号土坑	不整形	100.0	88.0	24.0	L-1
40号土坑	不整形	78.0	74.0	40.0	L-2
41号土坑	不整形	(120.0)	104.0	23.0	L-2
46号土坑	不整形	92.0	87.0	26.0	W・N-2
47号土坑	不整形	200.0	100.0	22.0	W・N-1
48号土坑	不整形	92.0	81.0	14.0	Q-1
49号土坑	不整形	72.0	60.0	54.0	N-1
50号土坑	不整形	88.0	68.0	95.0	N-2
51号土坑	不整形	139.0	(114.0)	63.0	X・0-1
52号土坑	不整形	(104.0)	(90.0)	30.0	L-1
53号土坑	不整形	129.0	83.0	25.0	0-1、51-0-25
55号土坑	不整形	70.0	51.0	28.0	L-1
56号土坑	不整形	76.0	64.0	26.0	L-1

か跡

道構名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
51区1号か跡	67.0	—	20.0	Q-25

道構名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
25号焼土	20.0	18.0	0.0	X-20
26号焼土	41.0	30.0	2.0	W-19
27号焼土	213.0	90.0	8.0	F-19
28号焼土	58.0	44.0	18.0	W-20
29号焼土	69.0	68.0	12.0	X-19
30号焼土	44.0	34.0	9.0	F-21
31号焼土	37.0	36.0	11.0	F-23
32号焼土	48.0	36.0	1.0	Q-20
33号焼土	89.0	80.0	17.0	P-20
34号焼土	122.0	89.0	10.0	P-21・22
36号焼土	98.0	84.0	21.0	X-24
37号焼土	51.0	44.0	11.0	Q-22
38号焼土	78.0	74.0	21.0	Q-22
39号焼土	—	62.0	2.0	W-23
40号焼土	116.0	63.0	-2.0	Q-24・25
42号焼土	74.0	55.0	7.0	P-25
43号焼土	77.0	61.0	5.0	Q-24
44号焼土	105.0	71.0	4.0	Q-24
45号焼土	96.0	66.0	8.0	Q-24・25
46号焼土	100.0	66.0	4.0	P-24
47号焼土	75.0	64.0	1.0	P-24
50号焼土	95.0	64.0	9.0	F-16
51号焼土	148.0	63.0	16.0	X・Y-17
54号焼土	119.0	87.0	23.0	X-25
55号焼土	56.0	40.0	5.0	Q-22

道横名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
56号横土	200.0	150.0	2.0	Y-16・17, 52-A-16・17
57号横土	72.0	68.0	65.0	L・N-24・25
58号横土	108.0	45.0	38.0	O-25
59号横土	89.0	87.0	81.0	L・N-25
60号横土	94.0	73.0	37.0	K-24・25
61号横土	94.0	83.0	20.0	Y-16・17
62号横土	81.0	51.0	5.0	K-20
63号横土	94.0	80.0	15.0	U・V-15
64号横土	94.0	64.0	13.0	K-18
65号横土	106.0	—	11.0	X-15・16
66号横土	109.0	62.0	16.0	L-17
68号横土	119.0	59.0	12.0	M-17
69号横土	71.0	56.0	7.0	O-16
70号横土	153.0	86.0	23.0	O-17
71号横土	66.0	50.0	28.0	N-17
72号横土	106.0	56.0	13.0	M・N-18
75号横土	134.0	75.0	18.0	O-15
76号横土	73.0	39.0	13.0	P-15
77号横土	65.0	39.0	7.0	R-15・16
78号横土	75.0	53.0	6.0	P-16
79号横土	105.0	56.0	15.0	P-16
80号横土	128.0	51.0	19.0	P・Q-16・17
81号横土	76.0	61.0	12.0	R-17

集石

道横名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
51区				
1号集石	305.0	150.0		S-19
2号集石	472.0	245.0		H-19・20
4号集石	330.0	200.0		O-20・21
6号集石	100.0	70.0		Q-22
8号集石	110.0	92.0		M-24・25
9号集石	92.0	92.0		S・T-21・22
11号集石	116.0	112.0		Y-16
12号集石	127.0	60.0		Y-16
13号集石	130.0	100.0		M-17・18, N-17
14号集石	150.0	150.0		O・P-18

列石

道横名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
51区1号列石	1190			Q～T-18～21
51区2号列石	1430			Y-20～22, 52-A-19～21
51区3号列石	850			R・S-22～24

ビット

道横名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
51区				
1号ビット	25.0	22.0	23.0	S-24
2号ビット	33.0	26.0	18.0	S-23
3号ビット	40.0	34.0	29.0	S-23
4号ビット	34.0	34.0	21.0	S-23
5号ビット	37.0	32.0	8.0	S-22
6号ビット	30.0	28.0	17.0	R-23
7号ビット	36.0	40.0	29.0	R-23
8号ビット	38.0	32.0	33.0	R-23
9号ビット	25.0	19.0	18.0	R-24
10号ビット	25.0	24.0	16.0	Q-22
11号ビット	65.0	50.0	25.0	R-21・22
12号ビット	23.0	22.0	19.0	R-24
13号ビット	29.0	28.0	23.0	Q-23
14号ビット	29.0	29.0	33.0	P-22
15号ビット	24.0	21.0	14.0	V-23
16号ビット	42.0	35.0	18.0	O-22
17号ビット	28.0	22.0	20.0	O-24
18号ビット	32.0	29.0	33.0	T-23
19号ビット	29.0	25.0	38.0	T-22
20号ビット	32.0	28.0	43.0	T-22
21号ビット	32.0	26.0	19.0	T-22
22号ビット	27.0	26.0	54.0	V-22

道横名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
82号横土	61.0	48.0	11.0	O-18
83号横土	55.0	39.0	9.0	P-18
86号横土	114.0	56.0	21.0	S-17
87号横土	—	50.0	4.0	O-15
88号横土	76.0	37.0	4.0	P-17
89号横土	74.0	60.0	16.0	X-17
90号横土	103.0	—	5.0	X-17・18
52区				
5号横土	61.0	48.0	4.0	A-19
6号横土	85.0	56.0	-10.0	B-21
7号横土	41.0	33.0	0.0	E-18
8号横土	—	—	13.0	A-21
9号横土	120.0	103.0	1.0	B-20
10号横土	—	32.0	1.0	B-21
11号横土	110.0	—	3.0	C-18
12号横土	92.0	52.0	3.0	B-20
13号横土	61.0	46.0	0.0	B・C-20
14号横土	106.0	60.0	16.0	B・C-20
15号横土	65.0	45.0	-2.0	B-19
16号横土	159.0	97.0	1.0	E-18・19
17号横土	—	55.0	18.0	E-19
19号横土	58.0	46.0	19.0	A-15

道横名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
16号集石	118.0	94.0		F-17・18
17号集石	138.0	75.0		P-18
19号集石	97.0	60.0		O-19
20号集石	51.0	49.0		Y-17
52区				
1号集石	80.0	58.0		A-13
2号集石	100.0	75.0		A-13
3号集石	66.0	60.0		C-13・14
4号集石	147.0	65.0		C-14
5号集石	63.0	53.0		A-17

配石

道横名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
51区1号配石	121	112		N-25, 61-N-1

道横名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
23号ビット	40.0	35.0	53.0	Q-21
24号ビット	36.0	29.0	39.0	Q-20
25号ビット	31.0	31.0	36.0	Q-20
26号ビット	47.0	30.0	31.0	Q-21
27号ビット	29.0	24.0	29.0	F-22
28号ビット	27.0	26.0	37.0	F-22
29号ビット	36.0	27.0	24.0	X-22
30号ビット	30.0	24.0	36.0	X・Y-22
31号ビット	26.0	24.0	38.0	H-21
32号ビット	23.0	23.0	20.0	F-21
33号ビット	33.0	28.0	26.0	V-21
34号ビット	21.0	21.0	39.0	E-21
35号ビット	26.0	22.0	27.0	T-21
36号ビット	27.0	26.0	53.0	Q-21
37号ビット	31.0	26.0	41.0	Q-21
38号ビット	33.0	26.0	37.0	Q-21
39号ビット	41.0	33.0	38.0	Q-21
40号ビット	59.0	42.0	9.0	Y-19
41号ビット	38.0	33.0	23.0	Y-19
42号ビット	27.0	25.0	35.0	Y-19
43号ビット	—	37.0	18.0	Y-19
44号ビット	49.0	44.0	50.0	Y-19
45号ビット	36.0	25.0	17.0	Y-19

造構名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
46号ビット	28.0	26.0	25.0	V-22
47号ビット	30.0	24.0	21.0	V-22
48号ビット	27.0	26.0	27.0	V-22
49号ビット	33.0	26.0	25.0	V-22
50号ビット	35.0	30.0	20.0	U-23
51号ビット	42.0	38.0	49.0	Y-19
52号ビット	19.0	19.0	12.0	V・W-22
53号ビット	40.0	32.0	31.0	U-23
54号ビット	80.0	42.5	70.0	Y-19・20
55号ビット	36.0	26.0	26.0	U-20
56号ビット	53.0	45.0	35.0	U-20
57号ビット	34.0	28.0	40.0	U-20
58号ビット	30.0	23.0	19.0	U-20
59号ビット	27.0	23.0	23.0	U-20
60号ビット	26.0	25.0	17.0	U-19
61号ビット	64.0	47.0	47.0	V-22
62号ビット	51.0	30.0	44.0	U-21
63号ビット	29.0	21.0	30.0	V-20
64号ビット	38.0	27.0	26.0	Y-19
65号ビット	40.0	35.0	30.0	U-21
66号ビット	68.0	55.0	45.0	V・W-22
67号ビット	70.0	51.0	66.0	V・W-22
68号ビット	52.0	40.0	41.0	Y-19
69号ビット	—	34.0	18.0	Y-19
70号ビット	—	34.0	18.0	Y-19
71号ビット	44.0	31.0	26.0	Y-19
72号ビット	29.0	28.0	24.0	Y-19
73号ビット	45.0	36.0	13.0	V-20
74号ビット	23.0	18.0	13.0	T-20
75号ビット	44.0	41.0	33.0	T-20
76号ビット	32.0	29.0	18.0	T-20
77号ビット	34.0	32.0	26.0	T-20
78号ビット	23.0	20.0	17.0	T-20
79号ビット	21.0	19.0	17.0	T-20
80号ビット	23.0	22.0	14.0	T-19
81号ビット	23.0	21.0	8.0	T-19
82号ビット	45.0	41.0	39.0	T・U-20
83号ビット	51.0	39.0	36.0	U-20
84号ビット	22.0	20.0	27.0	V-20
85号ビット	35.0	28.0	15.0	U-20
86号ビット	28.0	25.0	34.0	T-20
87号ビット	35.0	32.0	17.0	V-20
88号ビット	70.0	45.0	20.0	W-22
89号ビット	29.0	29.0	19.0	U-20
90号ビット	31.0	27.0	27.0	U-19・20
91号ビット	45.0	37.0	8.0	U-20
92号ビット	42.0	26.0	23.0	V-20
93号ビット	49.0	48.0	38.0	V-20
94号ビット	39.0	27.0	35.0	V-22・23
95号ビット	32.0	28.0	12.0	V-22
96号ビット	32.0	31.0	35.0	V-23
97号ビット	42.0	38.0	22.0	U-20
98号ビット	65.0	59.0	66.0	Y-19
99号ビット	30.0	26.0	11.0	U-19
100号ビット	47.0	45.0	48.0	V-20
101号ビット	26.0	—	16.0	V-20
102号ビット	50.0	38.0	40.0	Y-19・20
103号ビット	51.0	45.0	11.0	V-20
104号ビット	32.0	24.0	24.0	V-20
105号ビット	31.0	27.0	52.0	V-20
106号ビット	53.0	38.0	56.0	V-20
107号ビット	33.0	31.0	20.0	U-19
108号ビット	51.0	45.0	35.0	V-20
109号ビット	34.0	28.0	29.0	V-20
110号ビット	25.0	23.0	26.0	V-20
111号ビット	45.0	27.0	54.0	V-20
112号ビット	33.0	31.0	9.0	U-20
113号ビット	—	26.0	12.0	U-20・21
114号ビット	37.0	31.0	59.0	U-21

造構名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
115号ビット	—	33.0	12.0	U-21・22
116号ビット	43.0	43.0	33.0	V-21
117号ビット	27.0	26.0	14.0	V-21
118号ビット	27.0	22.0	33.0	V-21
119号ビット	48.0	36.0	27.0	W-22
120号ビット	40.0	33.0	58.0	V-19
121号ビット	56.0	38.0	26.0	V-21
122号ビット	90.0	37.0	27.0	V-21
123号ビット	—	30.0	9.0	V-21
124号ビット	26.0	23.0	30.0	T-21
125号ビット	52.0	28.0	25.0	T-20・21
126号ビット	28.0	23.0	17.0	T-20
127号ビット	26.0	24.0	50.0	V-21
128号ビット	38.0	33.0	45.0	U-20・21
129号ビット	32.0	26.0	27.0	T-21
130号ビット	35.0	32.0	35.0	V-22
131号ビット	51.0	40.0	60.0	V-21
132号ビット	38.0	29.0	37.0	U-21
133号ビット	36.0	28.0	20.0	T-21
134号ビット	23.0	20.0	28.0	V-21
135号ビット	32.0	31.0	30.0	V-21
136号ビット	42.0	40.0	23.0	V-22
137号ビット	49.0	33.0	57.0	V-21
138号ビット	20.0	18.0	39.0	V-21
139号ビット	23.0	20.0	38.0	W-19
140号ビット	—	37.0	56.0	U-23
141号ビット	—	35.0	16.0	U-22
142号ビット	55.0	35.0	33.0	T-23
143号ビット	24.0	22.0	27.0	T-22
144号ビット	51.0	48.0	39.0	T-22
145号ビット	38.0	25.0	16.0	U-22
146号ビット	35.0	33.0	20.0	T-22
147号ビット	22.0	20.0	52.0	U-22
148号ビット	43.0	22.0	20.0	T-22
149号ビット	28.0	24.0	13.0	V-22
150号ビット	55.0	46.0	7.0	V-23
151号ビット	56.0	51.0	12.0	V-23
152号ビット	47.0	36.0	42.0	W-23
153号ビット	41.0	35.0	44.0	W-22・23
154号ビット	56.0	54.0	38.0	W-21・22
155号ビット	35.0	27.0	45.0	U-22
156号ビット	47.0	36.0	22.0	V-22
157号ビット	50.0	23.0	18.0	V-22
158号ビット	60.0	54.0	17.0	W-22
159号ビット	32.0	29.0	31.0	X-22
160号ビット	—	39.0	24.0	U-21
161号ビット	31.0	28.0	39.0	T-21
162号ビット	31.0	16.0	33.0	V-21
163号ビット	40.0	36.0	29.0	V-22
164号ビット	32.0	25.0	52.0	V-22
165号ビット	25.0	24.0	45.0	V-22
166号ビット	52.0	44.0	23.0	X-22
167号ビット	24.0	21.0	18.0	U-21
168号ビット	44.0	40.0	56.0	V-19
169号ビット	41.0	39.0	24.0	V-19
170号ビット	36.0	28.0	34.0	V-19
171号ビット	45.0	44.0	9.0	X-19
172号ビット	62.0	51.0	59.0	X-19・20
173号ビット	42.0	38.0	57.0	W-20・21
174号ビット	32.0	30.0	48.0	U-22
175号ビット	35.0	25.0	38.0	V-22
176号ビット	35.0	25.0	43.0	W-21
177号ビット	67.0	54.0	23.0	W-22
178号ビット	31.0	27.0	32.0	V-22
179号ビット	43.0	40.0	20.0	V・W-21
180号ビット	46.0	32.0	17.0	U-21
181号ビット	36.0	28.0	46.0	W-19
182号ビット	43.0	42.0	26.0	W-19
183号ビット	26.0	—	31.0	V-20

遺構名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
184号ピット	31.0	25.0	24.0	#-19
185号ピット	27.0	24.0	10.0	#-19
186号ピット	37.0	34.0	47.0	X-19
187号ピット	-	-	25.0	X-20
188号ピット	25.0	25.0	18.0	#-20
189号ピット	55.0	25.0	38.0	#-22
190号ピット	53.0	36.0	43.0	#-21・22
191号ピット	27.0	25.0	64.0	#-22
192号ピット	23.0	19.0	43.0	U-22
193号ピット	-	45.0	28.0	X-21
194号ピット	30.0	31.0	39.0	N-25
195号ピット	27.0	21.0	37.0	N-25
196号ピット	27.0	27.0	28.0	N-25
197号ピット	-	86.0	14.0	V-22
198号ピット	-	37.0	58.0	#-21
199号ピット	45.0	-	51.0	Y-20
200号ピット	52.0	26.0	22.0	Y-20
201号ピット	29.0	26.0	65.0	Y-19
202号ピット	30.0	30.0	30.0	Y-23
203号ピット	62.0	35.0	61.0	X-21
204号ピット	-	39.0	23.0	#-21・22
205号ピット	-	35.0	30.0	U-21
206号ピット	26.0	23.0	47.0	X-20
207号ピット	55.0	45.0	38.0	X-20
208号ピット	45.0	42.0	30.0	X-20
209号ピット	43.0	36.0	11.0	U-21
210号ピット	35.0	34.0	54.0	X-20
211号ピット	33.0	27.0	35.0	Y-21
212号ピット	37.0	31.0	44.0	Y-20
213号ピット	39.0	26.0	27.0	Y-20
214号ピット	30.0	29.0	35.0	Y-20
215号ピット	26.0	25.0	15.0	U-21
216号ピット	28.0	26.0	27.0	U-21
217号ピット	29.0	27.0	27.0	Y-21
218号ピット	30.0	27.0	30.0	Y-21
219号ピット	24.0	22.0	21.0	Y-21
220号ピット	21.0	20.0	29.0	Y-21
221号ピット	46.0	30.0	32.0	V・#-21
222号ピット	42.0	36.0	28.0	Y-21
223号ピット	38.0	-	18.0	U・Y-21
224号ピット	57.0	44.0	43.0	#-21
225号ピット	36.0	29.0	25.0	#-21
226号ピット	63.0	39.0	60.0	#-22
227号ピット	28.0	26.0	36.0	#-21・22
228号ピット	39.0	39.0	37.0	#-22
229号ピット	-	23.0	18.0	Y-21
230号ピット	23.0	20.0	14.0	V・#-21
231号ピット	16.0	18.0	34.0	Y-20
232号ピット	40.0	25.0	16.0	#-22
233号ピット	27.0	22.0	14.0	#-22
234号ピット	47.0	33.0	21.0	#-22
235号ピット	48.0	26.0	21.0	#-21
236号ピット	54.0	35.0	54.0	X-21
237号ピット	38.0	32.0	9.0	#-20
238号ピット	40.0	30.0	69.0	#・X-20
239号ピット	36.0	35.0	25.0	X-20
240号ピット	37.0	28.0	30.0	Y-20・21
241号ピット	-	31.0	17.0	#-20
242号ピット	70.0	60.0	60.0	#-21
243号ピット	21.0	18.0	40.0	Y-21
244号ピット	-	23.0	16.0	X-21
245号ピット	38.0	29.0	11.0	X-21
246号ピット	23.0	22.0	19.0	X-20
247号ピット	22.0	-	13.0	Y-22
248号ピット	32.0	31.0	22.0	Y-20
249号ピット	38.0	29.0	22.0	Y-22
250号ピット	36.0	32.0	50.0	Y-20・21
251号ピット	23.0	22.0	16.0	L-23
252号ピット	23.0	21.0	8.0	L-23

遺構名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
253号ピット	19.0	17.0	18.0	L-23
254号ピット	27.0	26.0	24.0	L-23
255号ピット	25.0	23.0	22.0	L-22・23
256号ピット	29.0	24.0	15.0	L-23
257号ピット	32.0	27.0	25.0	L-22・23
258号ピット	35.0	23.0	18.0	L-23
259号ピット	32.0	30.0	26.0	L-23
260号ピット	40.0	21.0	8.0	L-23
261号ピット	33.0	31.0	7.0	L-22
262号ピット	37.0	35.0	14.0	L-22
263号ピット	23.0	20.0	10.0	L-23
264号ピット	26.0	23.0	19.0	L-23
265号ピット	33.0	31.0	37.0	L-23
266号ピット	25.0	23.0	20.0	L-22
267号ピット	98.0	72.0	18.0	L-22
268号ピット	24.0	20.0	19.0	#・L-22・23
269号ピット	59.0	38.0	18.0	#-22
270号ピット	23.0	15.0	10.0	L-22
271号ピット	47.0	35.0	39.0	L-22
272号ピット	24.0	23.0	11.0	L-22
273号ピット	25.0	22.0	15.0	L-22
274号ピット	28.0	-	24.0	L-22
275号ピット	24.0	19.0	6.0	L-22
276号ピット	30.0	22.0	31.0	L-22
277号ピット	25.0	22.0	29.0	L-23
278号ピット	36.0	32.0	20.0	#・L-23
279号ピット	33.0	29.0	20.0	L-23
280号ピット	20.0	19.0	37.0	L-23
281号ピット	-	28.0	23.0	#-19
282号ピット	-	33.0	16.0	#・X-21
283号ピット	44.0	26.0	32.0	Y-20
284号ピット	28.0	25.0	15.0	#-22
285号ピット	20.0	18.0	39.0	Y-21
286号ピット	-	30.0	30.0	X-20
287号ピット	27.0	-	19.0	Y-20
288号ピット	23.0	18.0	26.0	Y-21
289号ピット	34.0	31.0	46.0	#-20
290号ピット	37.0	30.0	29.0	#-22
291号ピット	22.0	20.0	33.0	Y-21
292号ピット	31.0	28.0	35.0	#-21
293号ピット	-	30.0	35.0	Y-21
294号ピット	34.0	29.0	12.0	X-19
295号ピット	29.0	26.0	35.0	X-19
296号ピット	32.0	28.0	21.0	Y-19
297号ピット	-	29.0	24.0	Y-19
298号ピット	33.0	26.0	34.0	Y-19
299号ピット	37.0	29.0	19.0	X-19
300号ピット	42.0	36.0	70.0	#-19
301号ピット	28.0	-	18.0	Y-19
302号ピット	35.0	32.0	21.0	#・X-19
303号ピット	28.0	25.0	31.0	#-19
304号ピット	34.0	31.0	49.0	#-19
305号ピット	40.0	31.0	65.0	#-19
306号ピット	25.0	25.0	34.0	Y-19
307号ピット	33.0	28.0	19.0	Y-21
308号ピット	32.0	24.0	26.0	Y-21
309号ピット	28.0	25.0	19.0	X-21
310号ピット	31.0	26.0	8.0	Y-21
311号ピット	36.0	35.0	34.0	#-22
312号ピット	25.0	20.0	28.0	X・Y-19
313号ピット	27.0	25.0	26.0	X-21
314号ピット	41.0	26.0	31.0	Y-21
315号ピット	50.0	26.0	37.0	X-20
316号ピット	41.0	27.0	31.0	Y-21
317号ピット	25.0	24.0	36.0	X-21
318号ピット	35.0	26.0	28.0	#-21
319号ピット	34.0	32.0	23.0	#-22
320号ピット	45.0	32.0	47.0	Y-21
321号ピット	27.0	26.0	28.0	#-20

造構名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
322号ビット	19.0	—	10.0	X-20
323号ビット	45.0	43.0	13.0	X-21
324号ビット	24.0	21.0	31.0	R-22
325号ビット	27.0	23.0	32.0	R-20
326号ビット	24.0	23.0	21.0	R-22
327号ビット	30.0	24.0	31.0	X-22
328号ビット	40.0	37.0	33.0	R-22
329号ビット	35.0	—	13.0	—
330号ビット	—	25.0	10.0	Y-21
331号ビット	16.0	16.0	36.0	Y-21
332号ビット	40.0	23.0	33.0	Y-20
333号ビット	50.0	34.0	65.0	X-21
334号ビット	28.0	28.0	25.0	Y-22
335号ビット	21.0	19.0	41.0	Y-22
336号ビット	19.0	18.0	6.0	X・L-23
337号ビット	20.0	16.0	19.0	L-23
338号ビット	33.0	30.0	31.0	X-22
339号ビット	105.0	56.0	49.0	Y-21
340号ビット	33.0	22.0	12.0	P-24
341号ビット	24.0	22.0	17.0	P-24
342号ビット	48.0	33.0	29.0	P-25
343号ビット	41.0	38.0	30.0	P-24
344号ビット	25.0	21.0	41.0	P-25
345号ビット	41.0	34.0	46.0	P-25
346号ビット	17.0	15.0	33.0	P-25
347号ビット	46.0	—	33.0	Q-24
348号ビット	18.0	17.0	24.0	P-25
349号ビット	21.0	17.0	40.0	Q-25
350号ビット	26.0	24.0	17.0	Q-24・25
351号ビット	30.0	25.0	28.0	P-25
352号ビット	42.0	42.0	12.0	Q-25
353号ビット	32.0	24.0	38.0	Q-24
354号ビット	31.0	24.0	39.0	Q-24
355号ビット	19.0	16.0	19.0	Q-24
356号ビット	—	30.0	17.0	P-24
357号ビット	18.0	17.0	48.0	P-24
358号ビット	22.0	17.0	40.0	P-24
359号ビット	35.0	30.0	21.0	P-24
360号ビット	24.0	17.0	29.0	P-24
361号ビット	40.0	36.0	34.0	R-24
362号ビット	—	33.0	11.0	Q-25
363号ビット	—	25.0	23.0	P-24
364号ビット	40.0	26.0	43.0	P-24
365号ビット	35.0	31.0	12.0	P-24
366号ビット	26.0	26.0	43.0	P-24
367号ビット	35.0	27.0	40.0	Q-24
368号ビット	32.0	29.0	39.0	P-24
369号ビット	27.0	23.0	21.0	P-24
370号ビット	19.0	16.0	27.0	P-24
371号ビット	39.0	37.0	13.0	P-24
372号ビット	28.0	27.0	9.0	Q-23
373号ビット	31.0	30.0	10.0	Q・R-23
374号ビット	42.0	35.0	13.0	Q-23
375号ビット	34.0	24.0	30.0	R-24
376号ビット	—	39.0	27.0	R-24
377号ビット	27.0	23.0	45.0	R-24
378号ビット	42.0	33.0	27.0	R-23
379号ビット	25.0	21.0	23.0	N-23
380号ビット	23.0	22.0	24.0	N-23
381号ビット	33.0	25.0	14.0	L-24
382号ビット	35.0	27.0	30.0	L-24
383号ビット	35.0	24.0	19.0	L-23・24
384号ビット	82.0	62.0	72.0	R-23
385号ビット	23.0	23.0	14.0	R-24
386号ビット	22.0	19.0	12.0	R-24
387号ビット	35.0	31.0	19.0	R-24
388号ビット	22.0	20.0	28.0	R・N-24
389号ビット	22.0	21.0	16.0	N-24
390号ビット	26.0	21.0	20.0	N-24

造構名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
391号ビット	20.0	18.0	27.0	N-23
392号ビット	30.0	25.0	10.0	Q-23
393号ビット	31.0	29.0	13.0	Q-23
394号ビット	23.0	19.0	8.0	Q・P-22
395号ビット	29.0	26.0	8.0	N-22
396号ビット	40.0	26.0	28.0	N-22
397号ビット	39.0	31.0	32.0	N-22・23
398号ビット	33.0	30.0	41.0	N-23
399号ビット	31.0	24.0	10.0	N-22・23
400号ビット	56.0	52.0	13.0	N-22
401号ビット	25.0	21.0	13.0	L-23
402号ビット	32.0	31.0	17.0	L-23
403号ビット	29.0	23.0	32.0	L-23
404号ビット	33.0	28.0	19.0	L-23
405号ビット	29.0	21.0	16.0	L-22
406号ビット	27.0	24.0	20.0	L-22
407号ビット	25.0	23.0	7.0	L-22
408号ビット	45.0	30.0	20.0	L-22
409号ビット	31.0	27.0	14.0	L-22
410号ビット	21.0	21.0	10.0	N-22
411号ビット	31.0	24.0	20.0	N-22
412号ビット	41.0	39.0	9.0	N-22
413号ビット	35.0	31.0	6.0	N-22
414号ビット	30.0	22.0	13.0	N-22
415号ビット	20.0	20.0	36.0	N-23
416号ビット	39.0	32.0	16.0	N-23
417号ビット	23.0	22.0	17.0	N-23
418号ビット	25.0	24.0	12.0	N-22
419号ビット	26.0	25.0	38.0	N-22
421号ビット	42.0	25.0	24.0	L-22
422号ビット	45.0	41.0	15.0	L・N-22
423号ビット	40.0	27.0	44.0	L-22
424号ビット	37.0	28.0	19.0	N-22
425号ビット	26.0	24.0	24.0	N-22
426号ビット	36.0	31.0	22.0	N-22
427号ビット	28.0	25.0	10.0	N-22
428号ビット	58.0	57.0	37.0	N-22・23
429号ビット	45.0	39.0	55.0	N-21
430号ビット	26.0	26.0	20.0	N-24
431号ビット	53.0	43.0	31.0	N-23
432号ビット	36.0	34.0	33.0	N-23
433号ビット	28.0	24.0	61.0	N-23
434号ビット	—	20.0	10.0	Q-24
435号ビット	46.0	30.0	20.0	P-25
436号ビット	29.0	29.0	30.0	Q-23
437号ビット	38.0	35.0	21.0	Q-23・24
438号ビット	94.0	37.0	22.0	N-21・22
439号ビット	27.0	27.0	17.0	L-23
440号ビット	—	28.0	10.0	L-23
441号ビット	44.0	26.0	33.0	L-23
442号ビット	44.0	33.0	17.0	L-24
443号ビット	33.0	25.0	30.0	L-24
444号ビット	22.0	21.0	23.0	R-24
445号ビット	26.0	25.0	32.0	N-22
446号ビット	41.0	36.0	19.0	N-22
447号ビット	48.0	32.0	12.0	N-22
448号ビット	32.0	30.0	22.0	N-21
449号ビット	—	41.0	24.0	N-21
450号ビット	79.0	60.0	12.0	S-22
451号ビット	45.0	39.0	38.0	S-22
452号ビット	32.0	28.0	21.0	S-23
453号ビット	37.0	30.0	27.0	R-24
454号ビット	—	39.0	15.0	R-24
455号ビット	40.0	38.0	19.0	R-24
456号ビット	41.0	36.0	18.0	L-24
457号ビット	46.0	33.0	20.0	N-25
458号ビット	45.0	41.0	16.0	N-25
459号ビット	29.0	29.0	32.0	N-25
460号ビット	35.0	30.0	18.0	L-24

遺構名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
461号ピット	49.0	39.0	26.0	N-24
462号ピット	28.0	24.0	10.0	N-21
463号ピット	30.0	26.0	22.0	N-22
464号ピット	42.0	38.0	15.0	N-21
465号ピット	45.0	42.0	22.0	N-22
466・467号ピット	107.0	61.0	17.0	N-22
468号ピット	36.0	33.0	34.0	Q-24
469号ピット	49.0	39.0	7.0	L・N-25
470号ピット	23.0	22.0	23.0	N-22
471号ピット	52.0	39.0	13.0	N-22
472号ピット	74.0	71.0	28.0	N-22
473号ピット	67.0	—	22.0	N-22
474号ピット	90.0	—	20.0	N-22
475号ピット	77.0	66.0	52.0	N-22
476号ピット	—	55.0	12.0	N-22
477号ピット	34.0	27.0	28.0	N-23
478号ピット	35.0	30.0	32.0	N-23
479号ピット	—	—	10.0	N-23
480号ピット	27.0	24.0	25.0	N-23
481号ピット	35.0	—	16.0	N-23
482号ピット	45.0	40.0	1.0	L・N-23
483号ピット	36.0	30.0	19.0	N-23
484号ピット	22.0	21.0	13.0	O-22
485号ピット	65.0	59.0	22.0	N-25、61-N・1
486号ピット	43.0	41.0	29.0	N-25
487号ピット	47.0	30.0	57.0	O-25、61-O・1
488号ピット	40.0	26.0	30.0	O-25
489号ピット	32.0	30.0	14.0	Q-24
490号ピット	30.0	27.0	32.0	Q-24
491号ピット	35.0	29.0	32.0	Q-24
492号ピット	61.0	55.0	56.0	N-25、61-N・1
493号ピット	41.0	30.0	52.0	N-24
494号ピット	50.0	38.0	27.0	N-25
495号ピット	47.0	43.0	38.0	N-25
496号ピット	58.0	44.0	36.0	N-25
497号ピット	27.0	18.0	19.0	N-25
498号ピット	47.0	25.0	25.0	N-25
499号ピット	34.0	18.0	28.0	N-25
500号ピット	22.0	19.0	15.0	N-25
501号ピット	36.0	33.0	20.0	N-25
502号ピット	46.0	28.0	21.0	N-24・25
503号ピット	86.0	—	17.0	N-24
504号ピット	30.0	21.0	8.0	O-25
505号ピット	67.0	34.0	22.0	O-25
506号ピット	43.0	40.0	32.0	P-25
507号ピット	24.0	22.0	31.0	P-25
508号ピット	40.0	21.0	30.0	O-25
509号ピット	67.0	57.0	28.0	L・N-25
510号ピット	42.0	23.0	20.0	N-25
511号ピット	37.0	31.0	38.0	N-24
512号ピット	24.0	20.0	5.0	N-24
513号ピット	19.0	18.0	22.0	N-24
514号ピット	—	29.0	17.0	N-24
515号ピット	24.0	20.0	19.0	N-25
516号ピット	66.0	59.0	88.0	N-24
517号ピット	43.0	—	15.0	O-24
518号ピット	67.0	65.0	64.0	K-25
519号ピット	29.0	24.0	39.0	N-25
520号ピット	23.0	21.0	29.0	L-25
521号ピット	27.0	25.0	10.0	L・N-24
522号ピット	28.0	22.0	13.0	L-24
523号ピット	19.0	16.0	17.0	L-24
524号ピット	20.0	16.0	16.0	L-24
525号ピット	38.0	30.0	20.0	J-24
526号ピット	—	59.0	18.0	O-25
527号ピット	28.0	28.0	18.0	K-25
528号ピット	27.0	21.0	15.0	K-25
529号ピット	35.0	33.0	22.0	O-25
530号ピット	40.0	40.0	30.0	O-25

遺構名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
531号ピット	43.0	35.0	34.0	P-25
532号ピット	74.0	47.0	33.0	O-24
533号ピット	23.0	22.0	36.0	N-24
534号ピット	29.0	28.0	47.0	L-23
535号ピット	43.0	28.0	35.0	L-22
536号ピット	28.0	26.0	12.0	L-22
537号ピット	25.0	25.0	16.0	N-22
538号ピット	36.0	30.0	13.0	N-23
539号ピット	25.0	21.0	28.0	O-22
540号ピット	29.0	19.0	30.0	P-23
541号ピット	44.0	36.0	42.0	P-23
542号ピット	38.0	26.0	30.0	P-23
543号ピット	111.0	65.0	27.0	O・P-25
544号ピット	30.0	26.0	22.0	P-25
545号ピット	34.0	31.0	25.0	L-24
546号ピット	40.0	23.0	30.0	N-25
547号ピット	34.0	29.0	20.0	N-25
548号ピット	26.0	23.0	11.0	N-25
549号ピット	30.0	28.0	20.0	N-25
550号ピット	40.0	32.0	38.0	N-25
551号ピット	28.0	25.0	38.0	O-25
552号ピット	—	45.0	27.0	O-25
553号ピット	19.0	19.0	28.0	N-24
554号ピット	73.0	69.0	10.0	N-23・24
555号ピット	78.0	59.0	75.0	J-24
556号ピット	21.0	19.0	33.0	O-25
557号ピット	—	27.0	27.0	P-25
558号ピット	47.0	26.0	31.0	P-25
559号ピット	23.0	23.0	27.0	P-25
560号ピット	—	46.0	38.0	P-25
561号ピット	26.0	—	15.0	O-25
562号ピット	24.0	20.0	17.0	O-25
563号ピット	46.0	30.0	40.0	O-24
564号ピット	25.0	22.0	45.0	O-24
565号ピット	23.0	21.0	15.0	N-24
566号ピット	29.0	24.0	32.0	O-24
567号ピット	68.0	40.0	15.0	O-24
568号ピット	27.0	25.0	14.0	P-24
569号ピット	—	21.0	21.0	N・N-25
570号ピット	—	27.0	10.0	N・N-25
571号ピット	39.0	24.0	14.0	N-25
572号ピット	32.0	27.0	12.0	N-22
573号ピット	24.0	22.0	11.0	N-25
574号ピット	26.0	25.0	32.0	N-25
575号ピット	23.0	19.0	28.0	P-24
576号ピット	66.0	50.0	37.0	P-24
577号ピット	21.0	19.0	9.0	O-25
578号ピット	23.0	20.0	7.0	O-25
579号ピット	19.0	17.0	18.0	O-25
580号ピット	19.0	18.0	24.0	O-25
581号ピット	230	18.0	24.0	P-25
582号ピット	40.0	23.0	24.0	P-25
583号ピット	29.0	23.0	46.0	P-25
584号ピット	—	28.0	28.0	P-25
585号ピット	—	25.0	18.0	P-25
586号ピット	26.0	25.0	27.0	P-24
587号ピット	71.0	40.0	13.0	P-25
588号ピット	26.0	22.0	9.0	P-24
589号ピット	23.0	21.0	18.0	N-25
590号ピット	37.0	35.0	34.0	O-24
591号ピット	30.0	24.0	39.0	O-24
592号ピット	30.0	21.0	18.0	O-24
593号ピット	36.0	33.0	21.0	O-24
594号ピット	29.0	24.0	11.0	O-24
595号ピット	23.0	19.0	22.0	O-24
596号ピット	—	23.0	11.0	O-24
597号ピット	—	21.0	22.0	O-24
598号ピット	27.0	21.0	39.0	O-23・24
599号ピット	21.0	19.0	9.0	O-24

遺構名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
600号ビット	49.0	34.0	31.0	0-25
601号ビット	20.0	20.0	11.0	0-25
602号ビット	24.0	16.0	14.0	0-25, 61-0-1
603号ビット	20.0	20.0	14.0	0-25
604号ビット	15.0	14.0	33.0	0-25
605号ビット	19.0	10.0	14.0	0-25
606号ビット	43.0	42.0	27.0	0-25
607号ビット	30.0	26.0	23.0	0-24・25
608号ビット	-	42.0	14.0	P-24・25
609号ビット	47.0	35.0	20.0	0-24
610号ビット	29.0	27.0	20.0	0-24
611号ビット	31.0	26.0	27.0	0・P-24
612号ビット	26.0	26.0	16.0	P-24
613号ビット	27.0	25.0	29.0	P-24
614号ビット	22.0	-	不明	P-25
615号ビット	27.0	21.0	38.0	P-25
616号ビット	17.0	16.0	18.0	P-25
617号ビット	22.0	18.0	20.0	P-25
618号ビット	27.0	26.0	12.0	61-P-1
619号ビット	23.0	22.0	19.0	P-24
620号ビット	22.0	18.0	17.0	P-24
621号ビット	19.0	16.0	12.0	P-25
622号ビット	25.0	17.0	24.0	P・0-24
623号ビット	19.0	14.0	14.0	P-25
624号ビット	28.0	28.0	18.0	P-24
625号ビット	-	25.0	19.0	P-24
626号ビット	17.0	13.0	32.0	0-24
627号ビット	21.0	18.0	21.0	0-24
628号ビット	21.0	20.0	32.0	0-24
629号ビット	42.0	22.0	21.0	0-24
630号ビット	32.0	30.0	33.0	1-19
631号ビット	33.0	27.0	36.0	1-19
632号ビット	-	29.0	16.0	1-19
633号ビット	37.0	35.0	5.0	1-18・19
634号ビット	55.0	45.0	21.0	1-18
635号ビット	27.0	25.0	31.0	1-18
636号ビット	30.0	21.0	32.0	1・J-18
637号ビット	35.0	32.0	28.0	1-18
638号ビット	33.0	31.0	18.0	0・1-18
639号ビット	58.0	55.0	23.0	K-18
640号ビット	13.0	13.0	22.0	P-24
641号ビット	43.0	35.0	10.0	P-24
642号ビット	25.0	21.0	16.0	P-24
643号ビット	25.0	20.0	17.0	P-24
644号ビット	25.0	23.0	30.0	P-24
645号ビット	-	27.0	26.0	P-25
646号ビット	28.0	17.0	43.0	P-25
647号ビット	39.0	27.0	39.0	P-25
648号ビット	-	25.0	24.0	P-25
649号ビット	40.0	38.0	10.0	0-24
650号ビット	24.0	17.0	38.0	0-24
652号ビット	84.0	29.0	20.0	0-22
653号ビット	34.0	28.0	13.0	P-22
654号ビット	57.0	22.0	15.0	0・P-22
655号ビット	35.0	35.0	16.0	P-21
656号ビット	30.0	25.0	6.0	P-21
657号ビット	32.0	24.0	10.0	P-21
658号ビット	34.0	30.0	17.0	P-21
659号ビット	-	45.0	46.0	P-23
660号ビット	23.0	-	15.0	J-20
661号ビット	51.0	47.0	46.0	K-20
662号ビット	55.0	51.0	35.0	P-21
663号ビット	54.0	50.0	35.0	P-23
664号ビット	-	42.0	29.0	P-23
665号ビット	26.0	24.0	22.0	P-23
666号ビット	-	24.0	26.0	P-23
667号ビット	23.0	20.0	30.0	P-23
668号ビット	29.0	29.0	30.0	P-23
669号ビット	40.0	37.0	16.0	P-23

遺構名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
670号ビット	26.0	17.0	12.0	0-P-22
671号ビット	63.0	49.0	44.0	0-21
672号ビット	58.0	27.0	108.0	K-18
673号ビット	40.0	35.0	57.0	K-17
674号ビット	35.0	31.0	22.0	P-23
675号ビット	32.0	25.0	11.0	P-22
676号ビット	32.0	28.0	35.0	1・J-20
677号ビット	69.0	56.0	14.0	K-20
678号ビット	18.0	17.0	16.0	J-19
679号ビット	36.0	28.0	19.0	1・K-19
680号ビット	26.0	22.0	38.0	R-23
681号ビット	52.0	28.0	42.0	0-23
682号ビット	-	-	-	-
683号ビット	55.0	50.0	24.0	R-23
684号ビット	-	-	-	-
685号ビット	36.0	31.0	34.0	0-23
686号ビット	37.0	26.0	24.0	R-23
687号ビット	25.0	21.0	35.0	0-21
688号ビット	31.0	27.0	12.0	P-21
689号ビット	31.0	30.0	23.0	0-22
690号ビット	19.0	17.0	19.0	0-21
691号ビット	31.0	28.0	17.0	0-21・22
692号ビット	40.0	35.0	11.0	0-22
693号ビット	37.0	32.0	42.0	0・P-22
694号ビット	32.0	31.0	19.0	P-23
695号ビット	20.0	19.0	20.0	P-24
696号ビット	22.0	19.0	11.0	P-24
697号ビット	-	32.0	17.0	P-24
698号ビット	24.0	22.0	19.0	P-23・24
699号ビット	18.0	14.0	13.0	P-24
700号ビット	22.0	19.0	12.0	P-23
701号ビット	27.0	24.0	18.0	P-24
702号ビット	28.0	26.0	34.0	P・0-25
703号ビット	27.0	21.0	17.0	P-24
704号ビット	45.0	36.0	24.0	0-24
705号ビット	21.0	20.0	20.0	0-24
706号ビット	40.0	31.0	27.0	0-24・25
707号ビット	35.0	27.0	8.0	0-24・25
708号ビット	39.0	34.0	28.0	0-24
709号ビット	40.0	31.0	26.0	0-24
710号ビット	-	31.0	19.0	0-24
711号ビット	52.0	39.0	38.0	0-24
712号ビット	35.0	34.0	20.0	0-22
713号ビット	26.0	23.0	45.0	S-22
714号ビット	30.0	28.0	31.0	R・S-21
715号ビット	31.0	29.0	14.0	R-20
716号ビット	45.0	30.0	13.0	R-20
717号ビット	34.0	31.0	24.0	S-20
718号ビット	40.0	35.0	17.0	R-19
719号ビット	-	68.0	37.0	0-25
720号ビット	51.0	30.0	21.0	0-23
721号ビット	47.0	46.0	22.0	0-21
722号ビット	29.0	29.0	64.0	0-21
723号ビット	-	23.0	15.0	0-23
724号ビット	33.0	32.0	43.0	0-23
725号ビット	20.0	20.0	11.0	0-23
726号ビット	27.0	22.0	20.0	0-23
727号ビット	27.0	25.0	31.0	P-24
728号ビット	21.0	20.0	22.0	R-24
729号ビット	34.0	31.0	28.0	S-24
730号ビット	28.0	28.0	40.0	R-23
731号ビット	21.0	21.0	16.0	R-23
732号ビット	27.0	25.0	37.0	R-23
733号ビット	22.0	20.0	19.0	0-22
734号ビット	36.0	32.0	16.0	S-20・21
735号ビット	33.0	29.0	9.0	R-20
736号ビット	46.0	-	21.0	R-19
737号ビット	47.0	42.0	22.0	0-20
738号ビット	36.0	33.0	74.0	0-20

遺構名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
739号ビット	26.0	24.0	18.0	Q-20
740号ビット	35.0	34.0	19.0	Q-20
741号ビット	—	25.0	23.0	R-23
742号ビット	29.0	25.0	71.0	Q-20
743号ビット	28.0	24.0	17.0	Q-20
744号ビット	38.0	36.0	42.0	Q-19
745号ビット	51.0	50.0	14.0	Q-19
746号ビット	71.0	55.0	11.0	R-20
747号ビット	27.0	23.0	10.0	S-20
748号ビット	80.0	36.0	12.0	R-19
749号ビット	40.0	33.0	14.0	S-21
750号ビット	24.0	17.0	36.0	R-24
751号ビット	19.0	17.0	20.0	R-23
752号ビット	—	25.0	28.0	Q・R-24
753号ビット	—	24.0	32.0	Q・R-24
754号ビット	29.0	28.0	28.0	R-24
755号ビット	47.0	30.0	59.0	P-20
756号ビット	78.0	69.0	8.0	P-19・20
757号ビット	—	41.0	18.0	Q-19
758号ビット	65.0	43.0	12.0	P・Q-19
759号ビット	29.0	24.0	38.0	S-23
760号ビット	—	25.0	18.0	Q・R-24
761号ビット	28.0	26.0	30.0	Q-24
762号ビット	31.0	29.0	23.0	Q-24
763号ビット	—	23.0	18.0	Q-24
764号ビット	21.0	20.0	33.0	Q-24
765号ビット	28.0	26.0	11.0	V-17
766号ビット	32.0	32.0	13.0	V-17
767号ビット	37.0	37.0	12.0	V-17
768号ビット	43.0	39.0	24.0	U-15
769号ビット	28.0	22.0	31.0	U-15
770号ビット	24.0	20.0	57.0	U-15
771号ビット	31.0	28.0	21.0	U-15
772号ビット	25.0	22.0	19.0	U-15
773号ビット	25.0	22.0	36.0	U-15
774号ビット	34.0	33.0	26.0	U-15
775号ビット	60.0	54.0	20.0	L-17
776号ビット	83.0	71.0	22.0	M-17
777号ビット	65.0	61.0	17.0	M-16
778号ビット	—	44.0	9.0	M-17
779号ビット	81.0	78.0	23.0	L-17
780号ビット	25.0	21.0	17.0	V-15
781号ビット	34.0	33.0	23.0	V-15
782号ビット	48.0	37.0	44.0	V-15
783号ビット	35.0	35.0	19.0	V-15
784号ビット	34.0	28.0	13.0	L-20
785号ビット	29.0	26.0	12.0	M-19
786号ビット	46.0	40.0	26.0	L-19
787号ビット	40.0	37.0	8.0	L-19
788号ビット	28.0	26.0	14.0	L-19
789号ビット	49.0	42.0	26.0	L-18・19
790号ビット	21.0	19.0	19.0	L-19
791号ビット	48.0	44.0	23.0	L-18
792号ビット	23.0	21.0	9.0	L-18
793号ビット	70.0	65.0	33.0	M-18
794号ビット	22.0	13.0	34.0	L-19・20
795号ビット	83.0	69.0	25.0	M・N-17
796号ビット	87.0	78.0	25.0	N-17
797号ビット	95.0	82.0	14.0	M-17
798号ビット	77.0	67.0	34.0	O-16
799号ビット	67.0	67.0	40.0	N・O-15・16
800号ビット	27.0	25.0	15.0	Q-15
801号ビット	26.0	19.0	11.0	Q-15
802号ビット	24.0	17.0	28.0	N-18
803号ビット	44.0	38.0	15.0	N-18
804号ビット	—	32.0	27.0	V-17
805号ビット	—	27.0	31.0	X-13
806号ビット	35.0	30.0	16.0	R-17
807号ビット	30.0	28.0	24.0	R-16

遺構名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
808号ビット	27.0	26.0	37.0	R-16
809号ビット	37.0	35.0	28.0	R-15
810号ビット	—	45.0	13.0	R-15
811号ビット	37.0	35.0	20.0	Q-15
812号ビット	23.0	18.0	7.0	R-16
813号ビット	24.0	21.0	20.0	R-15
814号ビット	31.0	24.0	12.0	Q-15
815号ビット	43.0	40.0	18.0	R-18
816号ビット	42.0	32.0	14.0	Q-17
817号ビット	41.0	39.0	25.0	R-18
818号ビット	71.0	61.0	19.0	M-18
819号ビット	51.0	49.0	23.0	V・W-18
820号ビット	37.0	31.0	13.0	V-18
821号ビット	38.0	32.0	17.0	W-21
822号ビット	30.0	28.0	14.0	W-21
823号ビット	33.0	25.0	21.0	W-21
824号ビット	40.0	32.0	40.0	R-20
825号ビット	30.0	24.0	49.0	M-18・19
826号ビット	42.0	40.0	19.0	V-17
827号ビット	42.0	25.0	17.0	V-19
828号ビット	27.0	21.0	32.0	N-18・19
829号ビット	41.0	35.0	21.0	P-18・19
830号ビット	35.0	34.0	17.0	S-19
831号ビット	—	35.0	—	W-19
832号ビット	53.0	32.0	31.0	S2-A-18
833号ビット	45.0	38.0	22.0	S2-A-18
834号ビット	38.0	37.0	24.0	X・Y-17
835号ビット	32.0	25.0	18.0	X-17
836号ビット	46.0	43.0	27.0	X-18
837号ビット	56.0	44.0	31.0	X-18
838号ビット	—	58.0	14.0	X-18
839号ビット	32.0	27.0	24.0	X-18
840号ビット	35.0	31.0	51.0	X-19
841号ビット	21.0	21.0	24.0	X-18・19
842号ビット	51.0	34.0	27.0	X-18
843号ビット	48.0	43.0	15.0	X-18
844号ビット	50.0	36.0	54.0	M・X-19
845号ビット	29.0	28.0	11.0	X-17
846号ビット	32.0	25.0	28.0	V-18・19
847号ビット	22.0	21.0	16.0	V-18
848号ビット	30.0	26.0	19.0	V-19
849号ビット	45.0	33.0	17.0	V-19
850号ビット	30.0	27.0	20.0	V-19
851号ビット	—	69.0	17.0	V-17
852号ビット	—	57.0	25.0	V-17

52X

1号ビット	52.0	46.0	14.0	J・K-16
2号ビット	42.0	35.0	22.0	J-16
3号ビット	44.0	35.0	15.0	J-16
4号ビット	23.0	16.0	12.0	J-16
5号ビット	30.0	28.0	35.0	J-16
6号ビット	42.0	37.0	28.0	J-16
7号ビット	29.0	27.0	6.0	J-16
8号ビット	39.0	30.0	6.0	J-16
9号ビット	48.0	42.0	28.0	J-16
10号ビット	45.0	45.0	26.0	J・J-16
11号ビット	21.0	18.0	3.0	I-16
12号ビット	37.0	32.0	27.0	I-16
13号ビット	61.0	48.0	36.0	I-16
14号ビット	44.0	43.0	15.0	M-16
15号ビット	28.0	24.0	23.0	J-15
16号ビット	35.0	31.0	26.0	I-15
17号ビット	—	43.0	7.0	J-14・15
18号ビット	40.0	37.0	31.0	J-14・15
19号ビット	31.0	23.0	7.0	M-16
20号ビット	55.0	48.0	31.0	M-16
21号ビット	43.0	34.0	22.0	J-14
22号ビット	47.0	36.0	31.0	J-15
23号ビット	—	37.0	13.0	J-16

造構名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
24号ビット	—	38.0	12.0	I-16
25号ビット	55.0	50.0	50.0	I-16
26号ビット	52.0	44.0	35.0	I・T-16
27号ビット	—	29.0	11.0	I-15
28号ビット	—	38.0	12.0	I-15
29号ビット	—	35.0	18.0	I-16
30号ビット	47.0	—	21.0	I-16
31号ビット	58.0	49.0	35.0	I-16
32号ビット	—	45.0	20.0	I-16
33号ビット	33.0	33.0	7.0	I-16
34号ビット	50.0	41.0	32.0	I-15
35号ビット	42.0	39.0	33.0	I-14・15
36号ビット	40.0	35.0	11.0	I-15
37号ビット	35.0	30.0	20.0	I-15
38号ビット	38.0	36.0	21.0	I-15
39号ビット	36.0	33.0	18.0	I-15
40号ビット	35.0	25.0	34.0	I-15
41号ビット	53.0	39.0	15.0	H・I-15
42号ビット	46.0	44.0	20.0	I-15
43号ビット	42.0	34.0	16.0	I-15
44号ビット	64.0	46.0	21.0	I-16
45号ビット	—	47.0	27.0	I-16
46号ビット	62.0	46.0	28.0	I-16
47号ビット	44.0	38.0	36.0	I-16
48号ビット	—	27.0	6.0	H・T-16
49号ビット	24.0	21.0	5.0	I-16
50号ビット	53.0	50.0	15.0	I-14・15
51号ビット	59.0	55.0	15.0	I-15・16
52号ビット	52.0	40.0	15.0	I-16
53号ビット	45.0	45.0	41.0	I-15
54号ビット	—	46.0	29.0	I-15
55号ビット	47.0	—	56.0	I-14・15
56号ビット	—	40.0	58.0	I-14・15
57号ビット	75.0	62.0	58.0	I-14・15
58号ビット	45.0	—	30.0	I-15
59号ビット	—	41.0	15.0	I-15
60号ビット	—	35.0	11.0	I-15
61号ビット	37.0	36.0	19.0	H-13
62号ビット	38.0	34.0	15.0	H-14
63号ビット	—	45.0	16.0	H-16
64号ビット	50.0	47.0	42.0	H-16
65号ビット	43.0	38.0	16.0	H-15
66号ビット	52.0	42.0	28.0	H-15
67号ビット	—	—	11.0	H-15
68号ビット	—	55.0	18.0	H-16
69号ビット	30.0	27.0	21.0	H-15
70号ビット	24.0	18.0	10.0	E-13
71号ビット	24.0	21.0	22.0	E-13
72号ビット	33.0	22.0	7.0	E-13
73号ビット	25.0	23.0	23.0	E-13
74号ビット	—	23.0	57.0	I・E-18
75号ビット	22.0	20.0	14.0	G-12
76号ビット	22.0	22.0	33.0	F-18
77号ビット	38.0	36.0	47.0	F-18
78号ビット	—	35.0	54.0	F-18
79号ビット	35.0	25.0	22.0	A-21
80号ビット	37.0	30.0	38.0	B-20
81号ビット	32.0	28.0	39.0	B-20
82号ビット	17.0	16.0	5.0	C-20
83号ビット	28.0	24.0	16.0	C-20
84・85号ビット	37.0	31.0	24.0	C-20
86号ビット	25.0	24.0	50.0	B・C-18
87号ビット	51.0	43.0	14.0	D-19
88号ビット	39.0	27.0	13.0	D-20
89号ビット	38.0	35.0	34.0	C-21
90号ビット	27.0	25.0	49.0	E-19
91号ビット	22.0	20.0	14.0	C-20
92号ビット	22.0	20.0	11.0	B-19
93号ビット	27.0	26.0	16.0	B-19

造構名	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
94号ビット	25.0	20.0	17.0	B-19
95号ビット	45.0	40.0	29.0	C-19
96号ビット	21.0	20.0	4.0	A-19
97号ビット	45.0	42.0	10.0	A-19
98号ビット	34.0	27.0	7.0	A-19
99号ビット	17.0	17.0	10.0	C-19
100号ビット	32.0	25.0	33.0	B-18
101号ビット	56.0	40.0	22.0	B-18
102号ビット	35.0	30.0	23.0	B-18
103号ビット	26.0	20.0	15.0	B-20
104号ビット	34.0	24.0	11.0	B-20
105号ビット	35.0	26.0	14.0	B-19・20
106号ビット	22.0	20.0	11.0	C-19
107号ビット	34.0	26.0	26.0	B-19
108号ビット	25.0	23.0	22.0	B-18
109号ビット	28.0	27.0	15.0	B-18
110号ビット	40.0	26.0	24.0	E-18
111号ビット	79.0	45.0	20.0	E-18
112号ビット	27.0	22.0	17.0	E-18
113号ビット	32.0	24.0	20.0	A-19
114号ビット	37.0	31.0	18.0	A-20
115号ビット	—	30.0	20.0	B-18・19
116号ビット	20.0	20.0	10.0	B-18
117号ビット	—	56.0	—	B-20
118号ビット	—	44.0	22.0	C-19
119号ビット	40.0	36.0	17.0	A-19
120号ビット	31.0	30.5	19.0	A-20
121号ビット	22.0	19.0	34.0	C-13
122号ビット	51.0	47.0	21.0	B-16
123号ビット	48.0	44.0	30.0	B-16
124号ビット	51.0	45.0	23.0	C-17
125号ビット	50.0	38.0	27.0	C-16
126号ビット	56.0	47.0	32.0	C-16
127号ビット	56.0	46.0	27.0	B・C-16
128号ビット	57.0	48.0	22.0	C-16
129号ビット	53.0	48.0	15.0	C-16
130号ビット	56.0	42.0	16.0	C-16
131号ビット	46.0	46.0	31.0	C-16
132号ビット	57.0	56.0	27.0	C・D-16
136号ビット	34.0	33.0	11.0	B-17
137号ビット	33.0	33.0	32.0	A-17
138号ビット	—	47.0	29.0	B-18
139号ビット	55.0	41.0	69.0	A-17
140号ビット	41.0	33.0	25.0	B-18
141号ビット	24.0	20.0	20.0	C-17
142号ビット	27.0	24.0	13.0	B-17

61区

15号ビット	32.0	30.0	15.0	H-2
16号ビット	28.0	27.0	18.0	H-2・3
22号ビット	30.0	29.0	37.0	H-2
23号ビット	41.0	40.0	41.0	H-2
24号ビット	—	47.0	24.0	H-2
25号ビット	27.0	25.0	57.0	H-2
26号ビット	50.0	35.0	63.0	H-2
29号ビット	67.0	48.0	50.0	H-2
30号ビット	41.0	39.0	18.0	H-2
31号ビット	—	33.0	48.0	H-2
32号ビット	21.0	17.0	13.0	H-1
33号ビット	27.0	26.0	9.0	H-1
34号ビット	45.0	35.0	31.0	H-1
35号ビット	40.0	35.0	13.0	L-1
47号ビット	81.0	65.0	45.0	L・H-1
58号ビット	32.0	26.0	29.0	H-1
69号ビット	—	29.0	19.0	H-1
86号ビット	33.0	—	31.0	H-2
102号ビット	55.0	49.0	21.0	H-2
107号ビット	—	41.0	14.0	H・N-1
112号ビット	—	24.0	34.0	H-2

表5 遺物観察表

51区1号住居跡

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第14図 PL.62	1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	隆線による口縁部渦巻文	中期後葉
第14図 PL.62	2	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。縦位R L充填施文	中期後葉
第14図 PL.62	3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 黒褐色	体部上半。沈線による三角形区画基調とした幾何学文構成。区画内は無文	後期前葉
第14図 PL.62	4	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい赤褐色	横位刻み目以下横位沈線4条を配す。細縄文横位L Rを地文とする	後期中葉

51区2号住居跡

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第16図 PL.62	1	深鉢	口縁部破片	住居外	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	低位の口縁部隆線を設ける。以下は無文	後期初頭
第16図 PL.62	2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	幅広い口縁部沈線以下沈線で画された磨消部・施文部の弧状意匠。渦巻状意匠か。L R充填施文	後期初頭
第16図 PL.62	3	深鉢	口縁部破片	住居外	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	幅広い口縁部沈線を設け、体部は沈線で画された意匠文を配す。R L充填施文	後期初頭
第16図 PL.62	4	深鉢	口縁下破片	住居外	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	沈線で画された磨消部弧状意匠。施文部はR L充填施文。口内側器底部に芯材を見る	中期後葉
第16図 PL.62	5	鉢	体部破片	住居外	細砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	低位隆線による環状・渦巻状意匠を配す。無線は撫で。内外面とも丁寧な研磨を加える	中期後葉
第16図 PL.62	6	内耳壺	胴部～底部 残存	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	口径(8.0)cm。2単位の楕状把手を体部上半に付す。1単位欠損。口縁～胴部は無文で、横位隆線を設け楕状把手を配す。体部は沈線による逆U字状懸垂文と縦手状懸垂文を配す。縦位・斜位L Rを充填する。底面は磨減するが、穿孔をみることから、意図的な磨減と見られる。内面強い研磨を施す	中期後葉
第17図 PL.62	7	深鉢	体部破片	住居外	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	体部中位。沈線で画された弧状意匠・U字状区画文を配す。無節L充填施文。施文部・磨消部の交互配列を崩す	中期後葉
第17図 PL.62	8	深鉢	体部破片	住居外	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文はL R縦位充填施文	中期後葉
第17図 PL.62	9	深鉢	体部破片	住居外	粗砂粒・石英/良好/ にぶい黄褐色	垂下沈線1条による懸垂文構成。無線撫で。施文部縄文はL R縦位充填施文	中期後葉
第17図 PL.62	10	深鉢	体部破片	床直	細砂粒・石英/良好/ 褐色	細隆線による弧状意匠。無線は研磨。内外面とも丁寧な研磨を加える	後期初頭
第17図 PL.62	11	深鉢	体部破片	床直	粗砂粒・石英多/ 良好/にぶい赤褐色	内湾する体部。2条隆線による懸垂文構成。無線は撫で。縄文はR L充填施文	中期後葉
第17図 PL.62	12	深鉢	体部破片	床直上	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	低位隆線が垂下する懸垂文構成。縦位R L充填施文。内面保付着	中期後葉
第17図 PL.62	13	深鉢	体部破片	住居外	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	縦位密接条線が覆う	中期後葉
第17図 PL.62	14	深鉢	底部破片	住居外	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	垂下沈線による懸垂文構成や下部部。内外面とも弱い研磨を加える	中期後葉
第17図 PL.62	15	石灘	返し部欠損	住居外	黒曜石	長: (1.8)、幅: (1.4)、厚: 0.5cm、重: 0.8g。凹基無彫。未製品。全面が凹円錐で覆われているが、やや粗く雑な作り。無線は鋸歯状を呈する	
第17図 PL.62	16	削器?	1/2残存	埋土	変質安山岩	長: (5.3)、幅: 3.8、厚: 1.3cm、重: 36.8g。完成状態? 左辺部を長く加工して鏡形を整える。削器とした場合、刃部は微細加工した右辺部となるだろう	
第17図 PL.62	17	異形石器	完形	住居外	黒曜石	長: 3.1、幅: 2.2、厚: 0.6cm、重: 2.0g。完成状態。突出部が上端側と下端側にあり、人型に近い。背面側が剥離で覆われるのに対し、裏面側には素材材が見える	
第17図 PL.62	18	磨製石斧	完形	住居外	蛇紋岩	長: 8.6、幅: 4.8、厚: 1.7cm、重: 139.1g。定角式。全面を丁寧に研磨する。裏面とも凍てはぜ? が残る	
第17図 PL.62	19	磨製石斧	完形	住居外	珪化凝灰岩	長: 9.4、幅: 4.5、厚: 2.2cm、重: 148.5g。定角式。完成状態。全面を丁寧に研磨する。刃部に打撃時の対こぼれがある	
第17図 PL.62	20	磨製石斧	完形	住居外	変玄武岩	長: 10.7、幅: 4.2、厚: 2.4cm、重: 181.9g。定角式。完成状態。全面を丁寧に研磨する。刃部に打撃時の対こぼれがある	
第17図 PL.62	21	敲石	完形	住居外	変質安山岩	長: 13.5、幅: 6.0、厚: 3.2cm、重: 457.7g。棒状の内端下部部に敲打痕が集中する。裏面側とも強い平滑面を持つ	
第17図 PL.62	22	垂飾	完形	住居外	輝石	長: 6.3、幅: 4.2、厚: 1.6cm、重: 22.7g。上端側に最大幅を有し、径6mmの孔を内側穿孔する。全面を研磨して板状に形状を整えている	

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第178号 PL-63	23	石皿	1/2欠損	住居外	粗粒輝石安山岩	長:(17.6)、幅:(25.0)、厚:8.8cm、重:4630.0g。縁は非常に弱く、表面には磨面が広がる。裏面は縁辺に沿って同心円状に散打に近い孔が溝状に設けられる	
第188号 PL-63	24	多孔石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:20.6、幅:18.7、厚:11.7cm、重:4035.0g。表裏面全面に多くの孔を集める。孔断面形は円錐状が多い。加熱による影響か破砕した状態である	
第188号 PL-63	25	多孔石	完形	住居外	粗粒輝石安山岩	長:25.3、幅:22.5、厚:16.8cm、重:8450.0g。大型の多孔質角礫、やや大型の孔が表面に集中する。裏面・側面の孔は極少ない	
PL-63	26	磨石	完形	埋土	石英閃緑岩	長:27.9、幅:17.5、厚:14.6cm、重:11190.0g。大型の楕円状円礫。表裏面に平滑面を見る	
PL-63	27	多孔石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:17.3、幅:12.7、厚:8.8cm、重:2420.0g。不整形の垂角礫。表裏面に深い穴を縁りに設ける	
PL-63	28	磨石	半欠	埋土	石英閃緑岩	長:13.3、幅:12.5、厚:12.3cm、重:2920.0g。表面に平滑面を見る	
PL-63	29	磨石	半欠	埋土	石英閃緑岩	長:(15.8)、幅:(12.0)、厚:9.3cm、重:3000.0g。大型の円礫。表面に平滑面。裏面に僅かな散打痕を見る	

51区3号住居跡

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第208号 PL-63	1	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/灰黄褐色	口縁部凹線と隆線による楕円状区画文構成。区画内は横位R Lを充填	中期後葉
第208号 PL-63	2	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・石英/輝石/良好/赤褐色	波状突起下に低位隆線による渦巻文・弧状意匠を配す。側縁は沈線	中期後葉
第208号 PL-63	3	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/赤褐色	口縁部横位沈線を設け、以下縦位L Rを施す	中期後葉
第208号 PL-63	4	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/赤褐色	口縁部横位沈線を設け、沈線による弧状意匠を配す。区画内は縦位R Lを充填する	中期後葉
第208号 PL-63	5	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英多/良好/明赤褐色	口縁部無文。横位隆線以下浅い沈線帯を縦位に施す。口縁部無文部及び内面磨面を加える	中期後葉
第208号 PL-64	6	無頭蓋	口縁部・体部上半破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/黒褐色	無文の幅状口縁部が内傾する。頸部隆線を設け2条の隆帯が懸垂する。踵文はL R縦位無文	中期後葉
第208号 PL-64	7	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・石英/良好/赤褐色	無文の幅状口縁部が外反する。頸部に押圧を加えた横位隆線を設ける	中期後葉
第208号 PL-64	8	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/赤褐色	体部上平か。横位隆線に小突起を付し下端より隆線による分岐懸垂文が派生する。縦位L Rを充填する	中期後葉
第208号 PL-64	9	鉢	頸部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/良好/明赤褐色	口縁部は外反し頸部に横位隆線を設け、弧状隆帯が派生する。隆帯上に明文L Rを施文する	中期後葉
第208号 PL-64	10	深鉢	口頸部破片	埋土	細砂粒・石英/良好/褐色	隆線による半渦巻状意匠。区画文構成か。側縁は無文。複縦R L Rを充填する	中期後葉
第208号 PL-64	11	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/黄褐色	垂下沈線2・3条。斜位隆線による懸垂文構成か。縦位R Lを充填する	中期後葉
第208号 PL-64	12	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/良好/赤褐色	体部中位。2条隆線による大柄の渦巻文構成。側縁は沈線で弧状短沈線を充填する	中期後葉
第208号 PL-64	13	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/良好/褐色	体部上平。隆線による幅状の区画帯上位は交互斜突文、下位は弧状短沈線を施す	中期後葉
第208号 PL-64	14	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/明褐色	垂下沈線による懸垂文構成か。空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する	中期後葉
第208号 PL-64	15	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/良好/褐色	垂下沈線による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する	中期後葉
第208号 PL-64	16	深鉢	頸部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/赤褐色	内皮使用の汎形状刻みを付す横位隆線上位に斜位隆線2条を配す	中期後葉
第208号 PL-64	17	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英多/良好/灰黄褐色	縦位・斜位条線が器面を覆う	中期後葉
第208号 PL-64	18	深鉢	底部1/2残存	埋土	粗砂粒・輝石/やや軟/赤褐色	底径:8.0cm。垂下隆線下部が底部にまで達す。R L縦位無文。器面磨滅	中期後葉
第208号 PL-64	19	深鉢	底部1/2残存	埋土	粗砂粒・石英/良好/赤褐色	底径:11.0cm。強く開く体部下半。垂下隆線2条の下部面を見る。他は無文。内外面器面磨滅	中期後葉
第208号 PL-64	20	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・石英/良好/赤褐色	縦位双帯状突起。突起下部に横位コイル状突起は連続し、幅状の文様帯を配す。横位沈線を充填する	中期中葉
第208号 PL-64	21	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒/良好/赤褐色	体部上平か。内皮使用の平行沈線を多段に交互斜突文を重ねる。斜位R Lを施す	中期後葉
第208号 PL-64	22	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/赤褐色	波状縁か。口縁部横位沈線と初突文。以下沈線による分岐懸垂意匠文を配す。施文部は縦位L R充填無文	中期末葉
第208号 PL-64	23	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英多/良好/赤褐色	口頸部内傾。沈線で画された施文部と磨消部による渦巻文が配される。L R充填無文	後期初葉

種別 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第21図 PL-64	24	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英少/やや軟/にぶい黄褐色	器厚薄手。横位隆帯を有す。外部凹凸顕著	後期初葉
第21図 PL-65	25	深鉢	口縁部突起片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/良好/灰褐色	肩状突起。頂部上端を渦巻状とし、左側面より弧状隆帯が派生する。突起中位に径1.5cmの穿孔を設ける	中期中葉
第21図 PL-66	26	鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/にぶい褐色	横位隆帯剥落する。口縁部外反し体部は強く内湾する。体部刺突文は密接ながらやや密い	後期前葉
第21図 PL-67	27	注口土器	底部2/3残存	埋土	粗砂粒・石英/良好/にぶい赤褐色	口径:6.8cm。強く湾く体部下平。内面整形やや雑。底面側面直	中期前葉
第21図 PL-68	28	土製円盤	完形	埋土	粗砂粒・輝石/良好/にぶい赤褐色	径:2.4×2.3、厚:1.0cm、重:6.8g。深鉢体部破片を利用。縦位LRを施す	中期後葉
第21図 PL-64	29	土製円盤	完形	埋土	粗砂粒・輝石/良好/褐色	径:2.4×2.4、厚:1.1cm、重:9.3g。深鉢体部破片を利用。無文でおそらく磨消部	中期後葉
第21図 PL-64	30	土製円盤	一部欠損	埋土	粗砂粒・輝石/良好/にぶい褐色	径:3.3×3.3、厚:1.1cm、重:13.1g。深鉢体部中央破片を利用。隆帯とLRを施す	中期後葉
第21図 PL-64	31	石灘	完形	埋土	黒曜石	長:1.4、幅:1.1、厚:0.3cm、重:0.3g。平基無茎蓋。完成状態。表面面とも周辺加工して形状を整えており、素材面を大きく残す	
第21図 PL-64	32	石灘	ほぼ完形	埋土	黒曜石	長:1.8、幅:1.3、厚:0.4cm、重:0.6g。円基無茎蓋未製品。全面が押し割離で覆われているが、雑な作り。先端部を作出する以前に製作を放棄	
第21図 PL-64	33	石灘	返し部欠損	埋土	黒色安山岩	長:2.7、幅:(1.8)、厚:0.5cm、重:1.4g。円基無茎蓋。完成状態?全面が剥離面で覆われている。返し部の破損は、完成間隙か	
第21図 PL-64	34	石灘	ほぼ完形	埋土	黒曜石	長:2.0、幅:0.6、厚:0.4cm、重:0.3g。棒状。右側縁側に素材面が残る以外、剥離面で覆われる。側縁に明瞭な摩耗痕は見られない	
第21図 PL-64	35	石灘	完形	埋土	黒色頁岩	長:3.6、幅:3.2、厚:0.8cm、重:6.2g。棒型。完成状態。握み部に比べて刃部は小さく安定感に欠ける。本来的にはより大型品で、これが欠損したため、再加工したものと思われる	
第21図 PL-64	36	石灘	完形	埋土	黒曜石	長:3.0、幅:1.3、厚:0.6cm、重:1.5g。縦型。完成状態。左辺上端側に突出部がある。石灘としてはやや頁岩だが、先端側に機能部と推定することは確実である。左辺側は折断面を薄く剥離、裏面側は磨面で未加工	
第21図 PL-64	37	打製石斧	上半部欠損	埋土下位	黒色頁岩	長:(5.5)、幅:4.6、厚:1.8cm、重:52.0g。短形。完成状態。形態的には石斧頭部だが、裏面側に摩耗痕があり、これを刃部摩耗と捉えた	
第21図 PL-64	38	敲石	端部欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:8.0、幅:3.5、厚:2.4cm、重:94.8g。小型の棒状円盤下部部に使用による剥離痕を見る	
PL-64	39	磨石	完形	埋土	石英閃緑岩	長:14.4、幅:7.3、厚:9.4cm、重:2480.0g。円盤。表面面にやや強い平滑面を持つ	

51区4号住居跡

種別 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第27図 PL-65	1	深鉢	口縁～体部 3/4残存	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	口径:35.4cm。大型の深鉢。緩やかな波状縁。あるいは5単位か。波頂部に隆帯による環状区画を横位隆帯で繋ぐ。体部は環状区画文より派生する隆帯2条の弧状区画文と波底部対称域にU字状区画文を配し、各区画文下端より隆帯が懸垂する。縄文はLR充填施文	中期後葉
第27図 PL-65	2	深鉢	口縁部破片	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	波状縁。口縁部隆帯を設け、2条隆帯が派生する。LR充填施文。口縁部・磨消部・内面副磨消を施す	中期末葉
第27図 PL-65	3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 明褐色	体部下平。垂下隆帯による懸垂文構成。施文部は無断LR縦位充填施文。側縁は無断	中期後葉
第27図 PL-65	4	深鉢	体部大破片	埋土	粗砂粒・輝石/やや 軟/にぶい黄褐色	上半に配された2条隆帯によるU字状意匠下端より隆帯2条が懸垂する。側縁は撫で、RL充填施文。器面磨滅	中期後葉
第27図 PL-65	5	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英少/ 良好/褐色	隆帯による懸垂文構成。あるいは渦巻状意匠の一部か。施文部はなく隆帯間は無文。内面研磨、覆付着	中期後葉
第27図 PL-65	6	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	垂下隆帯による懸垂文構成。施文部縄文は縦位LR充填施文。側縁無断	中期後葉
第27図 PL-65	7	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい褐色	波状縁。波頂部に突起か。口縁部無文。体部は沈陥による弧状区画文を配す。LR充填施文	中期末葉
第27図 PL-65	8	深鉢	口縁部破片	床直上	粗砂粒・石英少/ 良好/黒褐色	平縁。口縁部沈陥を設け、以下縦位LRを施す。破片両端に沈陥を見る。U字状意匠か	中期後葉
第27図 PL-65	9	深鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	緩やかな波状縁波頂部。口縁部に刺突状と凹縁を施し、体部は沈陥による逆U字状意匠を配す。LR縦位充填施文。磨消部・凹縁内・内面研磨	中期後葉
第27図 PL-65	10	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい褐色	横位隆帯より2条隆帯が弧状に派生する。あるいは渦巻文か。縄文はRL充填施文。隆帯上にも見よ	中期後葉

種目 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄/色/調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第27回 PL_65	11	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・炭母/ 良好/にぶい/褐色	体部中位。沈殿による弧状区画意匠を上下2帯に配す。破片状沈殿を施す。L R 充填施文	中期後葉
第27回 PL_65	12	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	沈殿による弧状区画文を底部部上下に配す。破片状懸垂文を配す。縄文は縦位 L R 充填施文	中期末葉
第28回 PL_65	13	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・輝石少/良好/ 褐色	体部中位。2条の沈殿で画された弧状区画。区画内は R L を充填する	中期後葉
第28回 PL_65	14	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	重下沈殿で画された懸垂文構成。磨消部には破片状沈殿文が重なる。縄文は縦位 L R 充填施文	中期後葉
第28回 PL_65	15	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ 灰黄褐色	沈殿で画された弧状区画文と磨消部。L R 縦位充填施文	中期後葉
第28回 PL_65	16	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい/黄褐色	重下沈殿による懸垂文構成。縄文は縦位 L R 充填施文	中期後葉
第28回 PL_66	17	深鉢	口縁～体部 上半1/4残	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	口径：(26.6) cm。キャリバー状深鉢。緩やかな波状口縁。波頂部に小突起を付し口唇部に刻みを施す。体部は沈殿で画された施文部・磨消部による弧状・渦巻状意匠。L R を充填する。内面横位削り調整後鋭角研磨を加える	中期末葉
第28回 PL_66	18	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい/褐色	破状縁。波頂部に小突起を設け口縁部は2段の削突列を施す。体部は沈殿で画された磨消部区画意匠文を配す。施文部縄文は無節 L 縦位充填施文。口縁部、磨消部、内面は丁寧な研磨を加える	中期末葉
第28回 PL_66	19	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい/黄褐色	平縁。波状小突起を付す。口唇部に刻みを付し体部は沈殿で画された磨消部渦巻文構成。縄文は L R 充填施文	中期末葉
第28回 PL_66	20	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	破状縁。口縁部内屈し横位隆線を設ける。体部は沈殿による分岐懸垂状意匠を配す。縄文は L R 充填施文	中期末葉
第28回 PL_66	21	深鉢	体部破片	埋土上位	細砂粒・石英少/良好/ 灰褐色	沈殿で画された弧状区画意匠を上下2帯に配す。区画内は無節 L 縦位充填施文	中期末葉
第28回 PL_66	22	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい/褐色	体部中位で外反。沈殿で画された弧状区画意匠が上下に配される。区画内は R L 充填。磨消部は研磨を加える	中期末葉
第28回 PL_66	23	浅鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・小礫・石英/ 良好/にぶい/赤褐色	口唇部内面に突出。口縁部下位に浅い横位沈殿を設ける。外面強い研磨。内面丁寧な研磨を施す。赤彩磨飾	中期後葉古
第28回 PL_66	24	深鉢	底部1/3残	埋土上位	粗砂粒/良好/にぶい/ 褐色	体部は聞き気味。底径：(10.0) cm。外面体部～底面丁寧な研磨。内面強い撫で調整	中期後葉古
第28回 PL_66	25	深鉢	底部残存	埋土下位	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	大径深鉢か、厚手の器形を呈す。底径：9.0cm。無文で内外面とも強い撫で調整を施す。外面強い研磨が著しい	中期後葉古
第28回 PL_66	26	深鉢	底部1/3残	埋土上位	粗砂粒・小礫/やや 軟/にぶい/黄褐色	底面器厚厚手で外底面周縁の擦れ著しい。底径：(6.0) cm。内外面とも撫で調整	中期後葉古
第28回 PL_66	27	深鉢	底部残存	床直	粗砂粒・石英/良好/ 灰黄褐色	張出底部。底径：8.0cm。外面体部～底面丁寧な研磨。内面撫で調整を施す。特殊な器形か	中期後葉古
第28回 PL_66	28	土製円盤	完形	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 暗褐色	径：3.3×3.3、厚：1.7cm、重：20.0g。深鉢体部中位の破片利用。重下隆線と縦位 R L を施す。周縁は研磨磨形	中期後葉か
第28回 PL_66	29	敲石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長：11.5、幅：8.2、厚：4.1cm、重：530.9g。楕円状円盤。敲打痕は上端、右側縁に顕著。下端はやや弱い。表裏面に平滑面と敲打による浅い凹みを見る	中期後葉古
第28回 PL_66	30	円石	完形	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長：10.0、幅：7.5、厚：6.0cm、重：394.4g。小型の多孔孔角縁。表裏面に各1箇所の孔を配す。孔断面は皿状を呈す	中期後葉古
第29回 PL_66	31	深鉢	口縁部1/3 残存	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/暗褐色	口縁部2条隆線による横位 S 字状意匠を配し一部縦状意匠を付す。地文は縦位 L R。頸部は無文で下位に横位沈殿3条を施す。口径：(25.0) cm。縄状の器形を呈し口縁部に縦位沈殿と交互削突文を配す。以下環状突起を配し環状隆線と重下隆線が派生し側縁は沈殿が渦巻文と繋がる。懸糸 L を地文とする。丁寧な施文。内面も研磨を加える	中期後葉古
第29回 PL_66	32	深鉢	口縁部～体部 1/5残存	埋土上位	粗砂粒/良好/黒褐色	貫孔する口縁部突起2条を配す。下端より隆線が重下し口縁部区画文を画す。区画内は沈殿施文で渦巻文や波線文交互削突文を充填する	中期後葉古
第29回 PL_66	33	深鉢	口縁部1/3 残存	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/灰褐色	筒状の中空突起を付し、下端より2条隆線が派生する。側縁は沈殿で R L を地文とする。内面研磨。丁寧な作り	中期後葉
第29回 PL_66	34	深鉢	口頸部破片	埋土上位	粗砂粒/良好/にぶい/ 赤褐色	口縁部肥厚し内湾する。内湾部に縦位隆線による環状意匠を配す。内外面丁寧な研磨を施し赤彩磨飾を見る	中期後葉古
第29回 PL_66	35	浅鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・片岩/良好/ にぶい/黄褐色	口縁部外屈し横位隆線を設け押圧を加える。上位に弧状隆線跡付を見るが全容は不明。体部は縦位懸糸 L を施す	中期後葉古
第29回 PL_66	36	深鉢	体部のみ残存	4 B 住戸内	粗砂粒・石英/良好/ 明赤褐色	口縁部外屈し横位隆線を設け押圧を加える。上位に弧状隆線跡付を見るが全容は不明。体部は縦位懸糸 L を施す	中期後葉古
第29回 PL_66	37	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・片岩/良好/ にぶい/褐色	口縁部外屈し横位隆線を設け押圧を加える。上位に弧状隆線跡付を見るが全容は不明。体部は縦位懸糸 L を施す	中期中葉末

種別 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄/色/調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第29回 PL_67	38	深鉢	口縁部破片	埋土上位	細砂粒・石英/良好/ 褐色	3点が同一個体。平縁で口縁部内湾し、口唇部下に横位沈線4条を配す。口縁部内湾部には横位小突起を付し、弧状隆縁による区画を設ける。区画内は弧状短沈線を充填する。頸部は1・2条の垂下隆縁を配す。屈曲部横位隆縁で体部と両し、体部は横位沈線2条と波状沈線を施す、頸部～体部の地文は縦位帯系L	
第29回 PL_67	39	深鉢	口頸部破片	埋土上位	細砂粒・石英/良好/ にぶい・赤褐色		中期後葉古
第29回 PL_67	40	深鉢	頸部破片	埋土上位	細砂粒・石英/良好/ 褐色		
第29回 PL_67	41	深鉢	口縁部破片	埋土上位	細砂粒・石英/良好/ 灰褐色	平縁。口縁部内湾し弧状小突起を付す。突起には矢羽状の刻みを重ねる。他は無文。内外面研磨	中期中葉末
第29回 PL_67	42	深鉢	口縁部破片	埋土上位	細砂粒・雲母/良好/ 赤褐色	深く内湾する。波状突起を付す。隆縁による反転する渦巻状意匠を配し、太い沈線を横位とし3文を配す	中期中葉末
第29回 PL_67	43	深鉢	体部破片	埋土上位	細砂粒・石英/良好/ にぶい・赤褐色	体部中位に内皮刺突文を加えた横位隆縁を設ける。地文は縦位帯系R	中期後葉古
第29回 PL_67	44	深鉢	体部破片	埋土上位	細砂粒・石英/良好/ にぶい・褐色	体部下平か。帯系R縦位施文	中期後葉古
第29回 PL_67	45	深鉢	体部1/3残存	埋土下位	細砂粒・石英少/良好/ 黒褐色	体部下平。小径で内湾を保ち直立気味の体部形態。縦位帯系Rを施す。内面保付着	中期後葉古
第30回 PL_67	46	深鉢	体部破片	埋土上位	細砂粒・石英多/良好/ 赤褐色	帯系L縦位施文。隆縁削落を見る。弧状意匠か	中期中葉末
第30回 PL_67	47	深鉢	口縁部破片	埋土上位	細砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	隆縁による口縁部区画文構成。区画内側に平渦巻状小意匠を配す。無彫飾で、縄文は縦位R	中期後葉
第30回 PL_67	48	深鉢	底部残存	埋土上位	細砂粒・輝石多/良好/ 明赤褐色	大型深鉢。底径:11.4cm。無文で外面は縦位刷り・撫で調整を見る。内面は丁寧な撫で	中期後葉古
第30回 PL_67	49	円石	完形	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:10.0、幅:8.4、厚:4.6cm、重:573.2g。楕円状の円盤。表裏面中央に敲打による凹みを持ち、平滑面も併せる。周縁に溝状の刻みを配すが性格は不明	
第30回 PL_67	50	磨石	1/2残存	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:(11.3)、幅:6.6、厚:3.9cm、重:427.5g。表裏面に平滑面を持つ。敲打痕の顕著な集中は無いが、表面中央と上端部に偏る	
第30回 PL_67	51	敲石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:9.0、幅:5.3、厚:3.1cm、重:193.1g。小型の楕円状円盤。下端部に敲打痕を集中する。表裏面に平滑面を見る	
第31回 PL_67	52	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	平縁。内縁を付す。頸部隆縁で画された幅狭の口縁部文様。環状意匠を施した小突起を付す。横位沈線を充填し、上下に交互刺突文を重ねる	中期後葉古
第31回 PL_67	53	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石少/良好/ 褐色	平縁。隆縁で画された幅狭の口縁部文様。内皮施文による横位平行沈線を多段に施し、交互刺突文を加える。内面炭化物付着	中期後葉古
第31回 PL_67	54	深鉢	口縁部破片	床直上	細砂粒・石英/良好/ にぶい・褐色	平縁。内縁を付す。隆縁で画された幅狭の口縁部文様。横位平行沈線を多段に施し、交互刺突文を加える	中期後葉古
第31回 PL_67	55	浅鉢	口頸部破片	埋土	細砂粒・長石/良好/ 褐色	器厚薄手。沈線による渦巻文を配す。内面研磨	中期後葉古
第31回 PL_67	56	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 明赤褐色	体部下平か。刻みを付す横位隆縁以下、渦巻状意匠を付し下端より分枝懸垂文が派生する。縦位沈線を充填する	中期後葉古
第31回 PL_67	57	深鉢	口頸部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	2条隆縁による口縁部渦巻文と区画文構成。縄文は縦位L	中期後葉古
第31回 PL_67	58	深鉢	口頸部破片	埋土	細砂粒・石英少/良好/ 褐色	2条隆縁による口縁部渦巻文と区画文構成。沈線を縦帯とし縦位R Lを施す	中期後葉
第31回 PL_67	59	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 明赤褐色	体部中位か。隆縁によるU字状意匠が懸垂する。空白部は縦位沈線を充填し鋭い刺突文を加える	中期後葉古
第31回 PL_67	60	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・石英/良好/ 褐色	口縁部沈線による区画文構成か。区画内は縦位短沈線を充填する	中期後葉
第31回 PL_67	61	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい・褐色	波状縁。低位の口縁部隆縁を設け、2条隆縁が懸垂する。L R充填施文。口縁部・頸部内面研磨を施す	中期末葉
第31回 PL_67	62	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	口縁部は内屈し2段の刺突列を配す。体部は沈線で画された磨消部弧状意匠。施文部縄文は縦位R L充填施文	中期末葉
第31回 PL_67	63	浅鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英多/良好/ 灰褐色	体部屈曲部。縄文L Rを縦位施文する。図はあるいは天地逆か	中期後葉古
第31回 PL_67	64	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい・黄色	隆縁と沈線による弧状区画意匠。区画内はL R充填施文	中期末葉
第31回 PL_67	65	土製円盤	完形	埋土	細砂粒・輝石少/良好/ 褐色	径:2.2×2.0、厚:0.9cm、重:2.6g。深鉢体部破片を利用。縦位波状沈線を施す。周縁は研磨調整	中期後葉古か
第31回 PL_67	66	土製円盤	完形	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい・褐色	径:2.4×2.3、厚:1.1cm、重:8.0g。深鉢体部破片を利用。無文。周縁は丁寧な研磨調整	中期後葉古か
第31回 PL_67	67	土製円盤	完形	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい・褐色	径:2.7×2.4、厚:0.9cm、重:8.4g。深鉢体部破片を利用。縦位R Lを施す。周縁は丁寧な研磨調整	中期後葉古か
第31回 PL_67	68	土製円盤	完形	埋土上位	細砂粒・石英/良好/ にぶい・黄褐色	径:2.7×2.6、厚:1.3cm、重:11.1g。深鉢体部破片を利用。無文で器面削落。周縁は研磨整形	中期後葉古か
第31回 PL_67	69	土製円盤	完形	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい・赤褐色	径:3.3×3.3、厚:1.8cm、重:20.3g。深鉢体部上半の破片利用か。無文。周縁は研磨整形	中期後葉古か

神田 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第318回 PL.67	70	土製円盤	完形	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい黄褐色	径:3.5×3.4, 厚:1.6cm, 重:24.5g。深鉢体部中位外反部利用か、 内皮平行沈線を縦位を施す。周縁は研磨による整形	中期後葉古か
第318回 PL.67	71	土製円盤	完形	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい黄褐色	径:3.3×3.0, 厚:1.3cm, 重:16.8g。深鉢体部中位の破片利用。 縦位R Lを施す。周縁は細磨整形	中期後葉古か
第318回 PL.67	72	石鏡	先端部欠損	埋土上位	チャート	長:(1.3)、幅:1.6, 厚:0.4cm, 重:0.7g。凹基無蓋。完成状態。 全面が丁寧な研磨で覆われる。裏面側には蓋軸に対向する大きな 割離面がある。この割離面の性格は不明	
第318回 PL.67	73	石鏡	先端部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.5)、幅:1.7, 厚:0.3cm, 重:0.6g。完成状態。全体を押し 研磨が覆い、丁寧なつくり	
第318回 PL.67	74	石鏡	返し部欠損	埋土	チャート	長:2.2, 幅:(1.4), 厚:0.4cm, 重:0.9g。凹基無蓋。完成状態? 全面が押し研磨で覆われているが、未だ形状修正的な最終調整は 施されず、完成段階で破損したものか	
第318回 PL.67	75	石鏡	完形	床直上	黒曜石	長:3.3, 幅:1.0, 厚:0.8cm, 重:1.9g。棒状?完成状態。内端に 断面三角形を呈する厚い機能部を有す。右辺側は弧状を呈する反面、 左辺側は中央付近が突出、再加工等で当初の器形が変形して いる可能性がある	
第318回 PL.67	76	打製石斧	完形	埋土上位	黒色頁岩	長:10.0, 幅:4.6, 厚:1.4cm, 重:76.1g。短冊形。完成状態。刃 部摩耗が著しい。上端側の中央付近が弱く折れ、着柄部であること が分かる	
第318回 PL.67	77	打製石斧	完形	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:9.7, 幅:5.2, 厚:2.1cm, 重:119.4g。短冊形。完成状態。刃 部摩耗・穂痕が残る。素材割片の形状から、刃部再生は行われ ておらず、製作初期の状態が分かる	
第318回 PL.67	78	磨製石斧	上半部欠損	埋土上位	蛇紋岩	長:(3.5)、幅:2.8, 厚:(1.3)cm, 重:21.7g。定角式。完成状態。 全面が良く研磨されている。刃部には刃こぼれが連続して残る	
第318回 PL.67	79	磨製石斧	下半部欠損	埋土上位	変玄武岩	長:(6.4)、幅:(3.4)、厚:1.7cm, 重:73.7g。定角式。完成状態。 敲打痕が大きく残る裏面側を除いて、比較的丁寧に研磨されている	

51区5号住居跡

神田 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第348回 PL.68	1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・雲母/良好/ 黒褐色	破片残存。破片左側面は蓋軸的に内折する。あるいは注口状の突起 か、2条隆線が斜位に付され、連続的突文を側縁とする。中位 太い横位沈線を施す。内面弱い研磨	中期中葉
第348回 PL.68	2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい赤褐色	横位隆線による多段文様構成。椀口状区文を配す。区文内は 連続爪形文と三角連続的突文を側縁とする	中期中葉
第348回 PL.68	3	深鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・片岩少/良 好/褐色	斜位隆線による口縁部区文構成。側縁は沈線で縦位短沈線を充 填する。横位沈線も加わる。口唇部・隆線には短位の刻みを施す	中期中葉
第348回 PL.68	4	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい褐色	隆線による口縁部椀口状区文を施す。区文内は縦位の結節沈線を側 縁とし、中位に横位刻み列を施す	中期中葉
第348回 PL.68	5	深鉢	口縁部突起 片	埋土	粗砂粒・雲母多/良 好/灰褐色	破片頂部より弧状垂下する高い隆線。口唇部と隆線にはけりめを施 す。側縁は施さない	中期中葉
第348回 PL.68	6	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒/良好/にぶ い赤褐色	体部上半か、強く内湾する。横位沈線を上位に見るが隆線側縁で あろう。体部は縦位沈線による帯文構成か。無節Lを縦位に間 隔施文状に施す。外面横位帯状に覆付着	中期中葉
第348回 PL.68	7	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/黒褐色	片側面環状突起より横位弧状隆線が派生する。側縁は沈線。突起 上端はコイル状に縦位短沈線を施す	中期中葉
第348回 PL.68	8	深鉢	口縁3/4・体 部一底部 1/2残存	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい赤褐色	口径:14.6, 突起頂径:19.0, 底径:8.5, 器高:25.0cm。滑面直 状突起を4単位配す。1単位欠損。表面は双環状で下端より小環 状突起を連続した隆線が懸架し皮部環状突起と繋ぐ。体部下 半は分岐懸垂文構成。隆線側縁は沈線。充填文は沈線を主とし、 三文文等を充てる。内面丁寧な研磨を施し覆が付着する	中期中葉
第348回 PL.68	9	深鉢	体部破片	床直上	粗砂粒・石英・輝石・ 雲母/良好/にぶい 赤褐色	外反する体部中位か。双環状突起に端にコイル状小突起を付し、 弧状隆線が派生する。内皮沈線は側縁としての施文ではなく、充 填文として埋められる。	中期中葉
第348回 PL.68	10	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	体部上半か。2条隆線による弧状区文と区文。区文内は斜位短 沈線を充填する	中期後葉?
第348回 PL.68	11	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/灰褐色	口縁部横位沈線以下体部文様。沈線による逆U字状区文を配す。 区文内は短沈線による縦位矢羽状文を充填する	中期後葉
第348回 PL.68	12	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	口縁部内湾し小型の内形刺突文が沿う。以下無節Lを縦位・斜位 に施す。内面弱い研磨	中期後葉
第348回 PL.68	13	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	破片残存。口縁部隆線を設け弧状隆線が派生する。分岐懸垂文ある いは渦巻文か。側縁は浅い沈線及び楕。縄文はR斜位充填 施文。外面微量の覆付着。内面研磨	中期末葉
第348回 PL.68	14	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい赤褐色	口唇部肥厚。口縁部内湾し大型の内形刺突文が沿う。以下体部文 様で逆U字状区文を沈線で覆い磨消部とする。縄文はR L充填 施文	中期後葉

種目 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第34回 PL.68	15	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/灰褐色	体部上半、横位隆線以下沈線に画された磨消部懸垂文と葎手状懸垂文上端。縦位L R Lを施す	中期後葉
第34回 PL.68	16	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英/良好/ にふい・褐色	撫で状の浅い沈線による体部逆U字状意匠。意匠内縦文は縦位L Rを施す。内面強い縦位研磨	中期後葉
第34回 PL.68	17	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にふい・褐色	縦位隆線2案に画された磨消部懸垂文構成。撫文部縦文は無断Lか、磨消部内は研磨・撫で不明瞭。内面強い研磨	中期末葉
第34回 PL.68	18	石灘	左脚部欠損	埋土	黒曜石	長:(2.8)、幅:(1.4)、厚:0.4cm、重:1.2g。凹基無基跡。長身で中央にやや厚みを有する形態。押圧剥離が全面に及び、内側縁とも断面状を呈す	
第34回 PL.68	19	石灘	ほぼ完形	埋土	チャート	長:2.2、幅:(1.8)、厚:0.5cm、重:1.5g。凹基無基跡。未製品?加工は粗く、周辺加工に止まる。先端部の作出は不十分で、返し部を欠損する	
第34回 PL.68	20	石灘	ほぼ完形	埋土	黒曜石	長:2.3、幅:1.1、厚:0.5cm、重:0.9g。縦身・長身。石灘としてはやや長身に過ぎ、先端厚からみて石灘と見えた	
第35回 PL.68	21	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:10.2、幅:7.5、厚:4.7cm、重:611.8g。表面は強い平滑面を持ち縁が作られる。裏面中央に平滑面。敲打痕は僅らに見られる	
第35回 PL.68	22	敲石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:11.1、幅:6.8、厚:3.9cm、重:2417.9g。やや扁平な楕円状円錐。敲打痕は下端部左側に偏る。表裏面とも平滑面があり裏面に顕著	
第35回 PL.68	23	凹石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:7.9、幅:6.8、厚:5.1cm、重:473.0g。やや厚みのある楕円状円錐。表裏面中央に敲打による凹みを配す。左側縁にも敲打痕が集まる。強い平滑面が表裏面に広がる	
第35回 PL.68	24	敲石	完形	埋土下位	石英閃緑岩	長:15.6、幅:7.4、厚:4.9cm、重:880.0g。楕円状円錐。上下端部に敲打痕。上端に顕著。表裏面に平滑面と敲打による浅い凹みを見る	

51区 6号住居跡

種目 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第38回 PL.68	1	深鉢	体部下平 1/4残存	床直上	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	双環状突起下端にコイル状小突起を設け、分岐懸垂文が派生する。側縁は内皮沈線重複撫文、空白部は短沈線や三文文、刺突文を充填する。内面に埋付着	中期中葉
第38回 PL.68	2	深鉢	口縁部破片	床直上	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にふい・褐色	口縁部環状突起は縦位向き下端にコイル状小突起を配す。口縁部は斜位短沈線、以下コイル状小突起による縦位隆線が派生する	中期中葉
第38回 PL.68	3	深鉢	体部1/4残 存	床直上	粗砂粒・石英/良好/ にふい・赤褐色	双環状突起下端にコイル状小突起を設け、分岐懸垂文が派生する。側縁は内皮沈線重複撫文、空白部は短沈線や三文文、刺突文を充填する。内面埋付着。厚手の器厚	中期中葉
第38回 PL.68	4	深鉢	体部破片	床直上	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にふい・褐色	派生する突起の中核に隆線が弧状に派生する。内皮沈線を深く撫文し、交互刺突文を加える。下縁の横位沈線は区画線か	中期中葉
第38回 PL.68	5	深鉢	口縁部破片	床直上	粗砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	波状縁か。側縁縁が沿い、弧状隆線と1本並し沈線が施される。丁寧な作り	中期中葉
第38回 PL.68	6	深鉢	口縁部破片	床直上	粗砂粒・石英/良好/ にふい・赤褐色	口縁部内傾する筒状の器形か。肥厚口縁部以下は横位・斜位沈線を施す	中期中葉
第38回 PL.68	7	深鉢	体部破片	床直上	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にふい・褐色	体部下平に設けられた隆線による区画文。区画内は横位沈線を充填する	中期中葉
第38回 PL.68	8	深鉢	体部破片	床直上	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にふい・褐色	体部下平に設けられた隆線による楕円状区画文。側縁は平行沈線。区画内は横位沈線を充填する	中期中葉
第38回 PL.68	9	深鉢	体部破片	床直上	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	体部下平の弧状区画下縁。隆線には刻みが施され、区画内は縦位沈線が充填される。内面埋付着	中期中葉
第38回 PL.68	10	深鉢	体部破片	床直上	粗砂粒・石英・雲母/ 良/にふい・赤褐色	外反する体部中央。横位隆線により分帯。楕円状区画文を配す。区画内は縦位沈線を埋める。縦文はR L	中期中葉
第38回 PL.68	11	深鉢	底部4/5残 存	床直上	粗砂粒・輝石/良好/ 明赤褐色	底径:11.0cm。大型の深鉢。外面無文で平滑な撫で・研磨。底面にも及ぶ。内面撫で、踵しを受け埋付着する	中期中葉か
第38回 PL.68	12	深鉢	底部1/2残 存	床直上	粗砂粒・石英/良好/ 赤褐色	底径:13.0cm。大型の深鉢。無文で体部下平の縦位研磨面を見る。内面焼熱により器壁堅く。底面平滑な研磨	中期中葉か
第38回 PL.69	13	石灘	4/5残存	埋土下位	黒曜石	長:(1.9)、幅:(1.4)、厚:0.3cm、重:0.7g。凹基無基跡。未製品?周辺加工により概形を作出。右辺は断面状を呈している。先端部と右辺の返し部を欠損	
第38回 PL.69	14	楔形石器	完形	埋土	黒曜石	長:2.0、幅:1.3、厚:0.6cm、重:1.5g。上端部が打撃されたことによる「潰れ」があり、背面側に対向する剥離面が生じている	
第38回 PL.69	15	石灘	完形	埋土下位	黒色頁岩	長:5.9、幅:2.5、厚:0.5cm、重:3.3g。完成状態。断面菱形を呈し、機能部は長い。石材が粗く、機能部の摩耗は不明瞭。組み込み未加工	
第38回 PL.69	16	磨石	半欠	床直上	粗粒輝石安山岩	長:(8.2)、幅:11.6、厚:6.5cm、重:955.5g。表裏面に平滑面を持つ。敲打痕は表面中央に集中する	

51区7号住居跡

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第42図 PL.69	1	深鉢	口縁部破片	埋上下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/暗赤褐色	波状縁か。頸部で緩やかに括れる。口縁部隆縁突出し、波部下に沈線による渦巻文を配す。頸部は横位沈線2条を設け、体部は縦位沈線で区画される。区画内は斜位短沈線や内皮連続刺突文を充填する。体部内面厚付着	中期後葉
第42図 PL.69	2	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	低位隆縁による口縁部区画文。側縁は沈線。体部は縦位沈線2条に画された渦巻部懸垂文構成。R1充填備文。内外面研磨を施す	中期後葉
第42図 PL.69	3	深鉢	口縁部破片	埋上下位	細砂粒・石英/良好/ 褐色	内湾する無文の口縁部。内外面研削	中期後葉
第42図 PL.69	4	深鉢	体部破片	埋上下位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	垂下隆縁3条による懸垂文構成。地文は無彫1層位備文。斜位沈線3条を加える	中期後葉
第42図 PL.69	5	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	垂下隆縁1条による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状沈線を埋める。内面研磨。少量の厚付着	中期後葉
第42図 PL.69	6	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	厚手で直線的な体部器形。縦位・弧状内皮沈線文を施す。隅部は半肉彫に磨削する。内面丁寧な研磨	中期中葉
第42図 PL.69	7	石鏡	完形	ビット32	黒曜石	長:1.6、幅:1.0、厚:0.3cm、重:0.4g。円盤無彫。完成状態。縁り部の割離を先行させ、無縁加工を行い器体を作成する	
第42図 PL.69	8	打製石斧	完形	埋上下位	粗粒輝石安山岩	長:11.2、幅:4.0、厚:1.3cm、重:57.6g。短冊形。完成状態。継身で、刃部は未加工。刃部や無縁厚削は見られない。未使用ということも可能性として否定できない	
第42図 PL.69	9	台石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:21.0、幅:19.8、厚:6.4cm、重:4145.0g。扁平大型円盤。縁打痕を表裏面中央に集中する。磨面も表裏面に広がり平滑面は表面に面置。表面には白色付着物を見る	
第42図 PL.69	10	磨石	1/2残存	床直	粗粒輝石安山岩	長:(13.9)、幅:8.1、厚:6.7cm、重:1121.8g。棒状円盤。裏面の表皮は剥落する。他の3面には平滑面を見る	

51区8号住居跡

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第44図 PL.	1	両耳直	把手破片	床直	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/橙黄色	大型の橋状把手上端部。側面は丁寧な環状で沈線が縁取る。R1充填備文。隆部にまで及ぶ。内面弱い研磨	中期後葉
第44図 PL.69	2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	無文1層部下位に横位隆縁を設け弧状隆縁が派生する。斜位沈線を施す	中期後葉
第44図 PL.69	3	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・石英/良好/ 暗褐色	小型深鉢。横位隆縁で口縁文様帯を画し沈線による文字状意匠を配す。体部は弧状隆縁が派生し縦位沈線を施す	中期後葉
第44図 PL.69	4	鉢	頸部～体部破片	床直	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	頸部外反し体部は強く内湾する。頸部隆縁以下隆縁による渦巻文・弧線文を配す。空白部は縦位条線を充填する。頸部は丁寧な研磨を施す	中期後葉
第44図 PL.69	5	深鉢	口縁～体部 1/3残存	埋設土器	粗砂粒・輝石/軟質/ 明黄褐色	口径:(34.7)cm。残存不備で器形に歪みが生じている。口縁部は隆縁による渦巻文と区画文構成。体部は沈線による懸垂文構成。R1充填備文。磨面も磨滅し全容は判然としない	中期後葉
第44図 PL.69	6	深鉢	口頸部破片	埋設土器内	粗砂粒・輝石/やや 軟/にぶい黄褐色	隆部による口縁部渦巻文と区画文構成。区画内側縁は沈線でR1を充填する	中期後葉
第44図 PL.69	7	深鉢	口頸部破片	床直	細砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	低位隆帯による口縁部区画文。区画内は斜位短沈線を充填。体部は2条沈線による懸垂文構成。弧状沈線を施す	中期後葉
第44図 PL.69	8	深鉢	体部破片	床直	粗砂粒・石英/良好/ にぶい赤褐色	隆縁による大柄な渦巻文より弧状隆縁が派生する。短沈線を充填する	中期後葉
第44図 PL.70	9	深鉢	体部破片	床直	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	2条隆縁による懸垂文構成。空白部は斜位短沈線を充填	中期後葉
第44図 PL.70	10	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	隆縁による渦巻文が懸垂する。側縁は沈線で空白部は斜位短沈線を充填する	中期後葉
第44図 PL.70	11	石鏡	先端部欠損	埋土	黒曜石	長:1.4、幅:0.5、厚:0.3cm、重:0.2g。裏面側を薄く、背面側を厚く割離して機能部を作成。概して小形で、単独使用できないため、輪縁に差し込込で使用したものか	
第44図 PL.70	12	打製石斧	下半部欠損	砂層 床直	黒色頁岩	長:(9.0)、幅:4.5、厚:1.6cm、重:78.0g。短冊形。完成状態。両側縁とも磨削痕が著しい。破損部には厚縁痕があり、破損後再利用された可能性がある	
第44図 PL.70	13	磨製石斧	上半部欠損	床直	変玄武岩	長:(6.5)、幅:5.5、厚:2.5cm、重:131.1g。定角形。刃部には刃こぼれがあり、これを磨削した痕跡も残る。破損部には最打痕・研磨痕が残る。敲き石として再利用したものだろう	
第44図 PL.70	14	不明石製品	完形?	床直	ようろう石	長:7.9、幅:2.5、厚:1.8cm、重:50.6g。未製品。軟質石材を用いており、当初から石製品の製作を目的としたもの。形態的には磨製石斧に近く破損したため、これを再加工しようとしたものだろう	

51区9号住居跡

探検 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第45区 PL.70	1	深鉢	口縁部破片	埋土上位	細砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	波状突起。波頂部に配された隆線による渦巻文と区画文構成。側 縁は沈線。渦巻文下端より垂下沈線2条に画された磨消部が懸垂 する。縄文はR1充填施文	中期後葉
第45区 PL.70	2	深鉢	口縁部破片	埋土上位	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	口縁部連弧文。内形剛突文も重なる。連弧状意匠下端より2条沈 線に画された粗粒の磨消部が懸垂する。縄文はR1充填施文。内面T 彫を施す	中期後葉
第45区 PL.70	3	深鉢	口縁部破片	埋土上位	細砂粒・輝石/良好/ 灰黄褐色	隆線による口縁部区画文。区画境目に大型の内文を配す。隆線側 縁は幅広い沈線。縄文はR1充填施文	中期後葉
第45区 PL.70	4	深鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・石英/良好/ にぶい・赤褐色	口縁部内面肥厚。無文で幅広い口縁部。横位隆線以下2条隆線が 斜位に派生する。空白部には横位短沈線を充填する	中期後葉
第45区 PL.70	5	深鉢	口縁部破片	埋土上位	細砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい・褐色		
第45区 PL.70	6	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい・褐色	破片5点を同一個体と考えた。出土地点も同一、近接している。 口縁部外傾し体部中位で括れを設け下半は緩やかな内湾を持たせ る。口縁部区画はなく、2条隆線による渦巻文を口縁部に配し、 下端より派生する垂下隆線2条と蛇行隆線1条による体部無文 構成。隆線側縁は沈線。空白部は短沈線による縦位矢羽状文が充 填される。垂下隆線2条は有節部を持つ	中期後葉
第46区 PL.70	7	深鉢	体部破片	埋土上位	細砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい・褐色		中期後葉
第46区 PL.70	8	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい・褐色		
第46区 PL.70	9	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色		
第46区 PL.70	10	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 明赤褐色	体部上半に横位隆線を設け、以下隆線による縦位短沈線を配す。 空白部には弧状短沈線を充填する。無縁沈線	中期後葉
第46区 PL.70	11	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 明赤褐色	連節する2条隆線による大柄な渦巻状意匠を同隆線で横位に連続 する。空白部には斜位短沈線を充填する。無縁沈線	中期後葉
第46区 PL.70	12	深鉢	体部破片	埋土下位・K-24	粗砂粒・石英/良好/ 明赤褐色	連節する2条隆線による大柄な渦巻状意匠が。横位短沈線を空白 部に充填する。無縁は沈線	中期後葉
第46区 PL.70	13	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英/良好/ 明赤褐色	2条隆線による弧状意匠が。無縁は沈線で空白部に斜位短沈線を 充填する	中期後葉
第46区 PL.70	14	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・石英/良好/ 明赤褐色	体部中位の内湾部。連節する2条隆線による大柄な渦巻文下端よ り2条隆線が懸垂する。空白部は斜位短沈線を充填	中期後葉
第46区 PL.70	15	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・石英/良好/ 明赤褐色	体部下下。連節する2条隆線による大柄な渦巻文下端より派生垂 下する2条隆線。空白部は斜位短沈線を充填する	中期後葉
第46区 PL.70	16	深鉢	底部残存	埋土上位	粗砂粒・石英/良好/ にぶい・赤褐色	垂下沈線下端部を有する。内面体部下下に僅少量付着	中期後葉
第46区 PL.70	17	深鉢	体部下平 3/4残存	床直上	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	底面を欠損する。大型の深鉢体部下平〜底部。2条沈線による懸 垂文構成。4単位か。内・外面磨削。内面体部中位に少量の厚付着 長:11.4、幅:9.0、厚:3.6cm、重:528.0g。端部に使用による磨蝕 及び敲打痕を見る。裏面に平滑面	初期後葉
第46区 PL.70	18	敲石?	完形	床直上	粗粒輝石安山岩		

51区10号住居跡

探検 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第49区 PL.71	1	深鉢	口縁部4/5・ 体部1/2残 存	床直上	粗砂粒・石英・輝石/ やや軟/褐色	口径:(50.0)cm。大型の深鉢。口縁部は強く聞き無文。頸部隆 線以下2条隆線を中心とした大柄な渦巻文を配す。単位は不明。渦 巻文は隆線により繋ぎ、小渦巻文が付設される。体部下平は渦巻 文下端より垂下する2条隆線や蛇行隆線による懸垂文構成。空白 部は斜位・弧状短沈線を充填する。内外面磨削	中期後葉
第49区 PL.71	2	深鉢	口縁部突起	埋土下位	細砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	双波状突起を付し頂部に渦巻文を配す。斜位隆線が派生する	中期後葉
第49区 PL.71	3	深鉢	口縁部破片	埋土上位	細砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	隆線による縦位連続渦巻文を配し、2条隆線が派生する。体部には 逆U字状懸垂文が設けられる。短沈線を充填する。内面磨削・研 磨	中期後葉
第49区 PL.71	4	深鉢	口縁〜体部 1/3残存	床直上	粗砂粒・石英/良好/ 暗褐色	口縁部隆線に深い刻みを加える。隆線による口縁部渦巻状意匠向 下端より背高隆線が懸垂し波状意匠へと変化する。おそらく4単 位。L長を縦位間隔施文法に施す文	中期後葉
第49区 PL.71	5	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	隆線による渦巻文を中核に懸垂状意匠や剛光状意匠を配す。横位 沈線3条で連続し、短沈線を充填する	中期後葉
第49区 PL.71	6	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/灰褐色	隆線による渦巻文と区画文構成。側縁は沈線。区画内は縦位短沈 線を充填する。口縁部内外面に厚付着	中期後葉
第49区 PL.71	7	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	隆線による口縁部渦巻文と粗粒区画文。区画内は沈線を側縁とし 縦位短沈線を埋める。外面厚付着	中期後葉
第49区 PL.71	8	深鉢	口縁部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	口縁部無文。横位隆線に5字状意匠を配し下端より2条隆線が懸 垂する。渦巻文小突起も付す。斜位短沈線を充填	中期後葉
第49区 PL.71	9	深鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒/良好/にぶ い・黄褐色	口唇部隆線を設け、弧状隆線で画す。区画内は内皮沈線による横 位蛇行文と横位平行沈線を埋める	中期後葉

種別 PL No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄/赤/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第49回 PL-71	10	深鉢	体部破片	床直上	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/赤褐色	体部上半の楕状把手下端部。渦巻文を配した双環状突起。楕状沈線 で区画され縦短沈線を充填する	中期後葉
第49回 PL-71	11	深鉢	突起破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/明赤褐色	突起部のみ。隆線による双環状突起。1・2条の沈線が重なり渦 巻状意匠を描く	中期後葉
第49回 PL-71	12	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい黄褐色	隆線による渦巻文を配し横線降線が派生する。無線に沈線や切突 文。斜位沈線は浅く、交互突文は深い施文	中期後葉
第49回 PL-71	13	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英/良好/ 明赤褐色	横線降線2条以下2条降線による渦状あるいは渦巻状意匠を配 す。空白部は弧状短沈線を埋める	中期後葉
第49回 PL-71	14	深鉢	頸部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい褐色	頸部無文。横線降線で幅狭の文様帯を画し、区画文を配す。区画 内は斜位短沈線を充填する。無線沈線	中期後葉
第49回 PL-71	15	深鉢	口頸部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい褐色	振り状突起と頸部降線による口縁部区画文。区画内は細降線で画 され斜位短沈線を充填する	中期後葉
第49回 PL-71	16	深鉢	口縁部1/3 残存	埋土上位	粗砂粒・石英/少/ 良好/にぶい褐色	口径:14.2cm。口縁部肥厚し無文。3条の沈線による懸垂文 構成か。地文は無文	中期後葉
第49回 PL-71	17	深鉢	口頸部〜体 部破片	床直上	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	2条降線による口縁部下端区画か。体部はLRL短位施文。内面 体部下半に覆付着	中期後葉
第50回 PL-71	18	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・石英/良好/ にぶい赤褐色	垂下沈線2条による懸垂文構成。沈線2条による意匠文が配され る。意匠文は曲渦巻文部分のみ半截竹管による施文。地文は無文 R L	中期後葉
第50回 PL-71	19	深鉢	底部残存	床直上	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/赤褐色	底径:8.0cm。直立気味に開く体部下平か。僅かに短位R L下端面 を見る	中期後葉
第50回 PL-71	20	深鉢	底部4/5残 存	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/赤褐色	底径:6.0cm。小型深鉢か。外面丁寧な撫で、内面弱い撫で調整	中期後葉
第50回 PL-71	21	深鉢	底部残存	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	底径:8.0cm。直立気味に開く体部下平。外縁弱い研磨、内面撫で 調整	中期後葉
第50回 PL-72	22	深鉢	底部残存	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	頸部欠損。円孔を2単位配す。孔周辺は沈線を施す。他は無文	中期後葉
第50回 PL-72	23	石鏡	完形	埋土下位	黒曜石	長:1.7、幅:1.5、厚:0.5cm、重:0.7g。円基無葉鏡。完成状態? 表裏面とも未加工部分を残す。平面的な鏡形は完成されているが、 先端部は反り、石鏡としての機能は果たせる状態にはない	
第50回 PL-72	24	石鏡	完形	埋土下位	黒色安山岩	長:2.4、幅:1.7、厚:0.4cm、重:1.0g。円基無葉鏡。完成状態。 加工が粗く、鏡形を整えた程度。裏面側には階段状に未加工部が 残る	
第50回 PL-72	25	石鏡	ほぼ完形	埋土下位	黒曜石	長:2.7、幅:1.7、厚:0.5cm、重:2.0g。円基無葉鏡。未製品。全 面に剥離が及んでいるが、概して加工は粗い。最終的な形状修正 の加工は施されていない	
第50回 PL-72	26	原石	完形	埋土下位	黒曜石	長:2.9、幅:4.2、厚:2.3cm、重:31.2g。背面側上新鮮な小割 離痕があるほかは、擦れた風化剥離面で覆われている	
第50回 PL-72	27	打製石斧	上半部欠損	床直上	黒色頁岩	長:(9.5)、幅:5.0、厚:2.2cm、重:102.7g。短冊形。完成状態。 対部摩耗が著しい。摩耗した対部は部分的に再生加工の痕跡を残 している	
第50回 PL-72	28	打製石斧	上半部欠損	埋土下位	粗粒輝石安山岩	長:(10.2)、幅:5.3、厚:2.0cm、重:139.3g。短冊形。完成状態。 対部摩耗が著しいほか、擦り痕が残る。摩耗した対部は再生され ていないが、背面側割部が右側縁側から剥離され、大きく変形し ている	
第50回 PL-72	29	打製石斧	完形	埋土下位	変質安山岩	長:11.3、幅:6.0、厚:2.3cm、重:149.0g。短冊形。完成状態。両 側縁がハノ字状に弱く開く。対部再生されているが、右側縁側の 対縁に摩耗痕が残る	
第50回 PL-72	30	打製石斧	完形	埋土上位	黒色頁岩	長:13.4、幅:5.6、厚:2.5cm、重:179.5g。短冊形。完成状態。対 部摩耗が著しい。対部再生が明らかである。再生された対部は厚 く、摩耗痕が残る	
第50回 PL-72	31	凹石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:10.5、幅:8.8、厚:6.1cm、重:497.0g。多孔質円盤。表裏面、 右側面に敲打による凹みを設ける。表裏面とも弱い平滑面を持つ	
第50回 PL-72	32	敲石	完形	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:11.7、幅:5.5、厚:3.3cm、重:357.8g。表裏面中央・端部に敲 打痕が集中する	
第51回 PL-72	33	多孔石	側縁欠損	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:22.2、幅:(21.5)、厚:15.6cm、重:9280.0g。大型の円盤。表 面片側に孔が偏り集中する。孔断面形状は円錐形を呈す。裏面の 孔は散在。縁面の割痕多い	

51区11号住居跡

神岡 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第568号 PL.72	1	深鉢	口縁部1/5・ 体部1/3欠損	埋裏	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	口径:36.0, 底径:9.0, 高さ:45.0cm。大型の深鉢。埋裏として口縁～体部下下が逆位で供される。体部下半～底部は土坑出土とされる。口縁部は低位隆線による渦巻文と楕円状区画文構成。側縁は太い沈線。横位R.Lを充填する。体部は2条沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位R.L充填施文。磨消部及び内面は研磨が加わる	中期後葉
第568号 PL.72	2	深鉢	口縁～体部 3/4残存	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	歪みを見る。口径は残存部で(15.4) cm。波状4単位。波頂部は意図的な欠け。波頂部下に隆線による渦巻文を配す。口縁部区画意識は弱く、充填文を充てない。体部は縦位矢羽状沈線を備すが磨消により希薄となる。内外面研磨	中期後葉
第568号 PL.72	3	深鉢	口縁～体部 上半残存	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	口径:25.4cm。波状4単位。隆線による口縁部渦巻文構成。体部は沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部には縦位蛇行沈線を重ねる。縄文はR.L充填施文と判断した。あるいはR.Lか。内面横位削り調整痕	中期後葉
第568号 PL.72	4	深鉢	体部～底部 残存	床直上	粗砂粒・輝石/良好/ 浅黄褐色	体部中に内湾を有する小型の深鉢。底径4.4cm。垂下沈線3条による懸垂文構成。縄文は縦位R.L充填施文	中期後葉
第568号 PL.72	5	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/やや 軟/浅黄褐色	波状縁波頂部に低位隆線による渦巻文を配す。側縁は太い沈線。縄文はR.L充填施文	中期後葉
第568号 PL.73	6	深鉢	口縁～体部 破片	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	低位隆線による口縁部区画文構成。円文を配し太い沈線を側縁とする。体部は垂下沈線による磨消部懸垂文構成。横手状懸垂文も加わる。縄文は縦位R.L充填施文	中期後葉
第568号 PL.73	7	深鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良/にぶい黄褐色	波状縁。太い沈線による口縁部区画。体部は沈線に画された磨消部懸垂文構成。縄文はR.L充填施文	中期後葉
第568号 PL.73	8	深鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	波状縁。太い沈線による口縁部区画。円文や渦巻文が充てられる。体部は垂下沈線による磨消部懸垂文構成。横手状懸垂文も加わる。縄文は縦位R.L充填施文。内面研磨	中期後葉
第568号 PL.73	9	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/灰褐色	口縁部欠損。口縁部は低位隆線による区画文構成。太い沈線を側縁としR.Lを充填する。体部は横手状懸垂文か	中期後葉
第568号 PL.73	10	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	3条の沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文はR.L縦位充填施文。施文部には垂下波状沈線が加わる	中期後葉
第568号 PL.73	11	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	沈線で画された施文部、磨消部懸垂文構成。磨消部には横手状沈線が加わる。縄文はR.L縦位充填施文	中期後葉
第568号 PL.73	12	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	3条の沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文はR.L縦位充填施文。施文部には垂下沈線が加わる。10と同一	中期後葉
第578号 PL.73	13	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明褐色	隆線による渦巻文意匠と変状意匠。側縁は沈線。縄文は横位・横位R.Lの縦位別状構成を示す	中期後葉
第578号 PL.73	14	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	隆線による渦巻文。側縁は沈線。縄文は縦位R.L充填施文	中期後葉
第578号 PL.73	15	無頭壺	口縁～体部 上半1/2残存	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	口径:17.4cm。口縁部短く肩部強く張る。横位隆線2条が寄り小型の楕状把手2種を付す。体部は低位隆線による渦巻文を配す。器面やや磨滅し赤彩痕跡は不明。内面強い研磨	中期後葉
第578号 PL.73	16	両耳壺	体部1/3残存	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	小型品。おそらく2単位の楕状把手か。体部上半に楕円状区画文、渦巻文を設け、下半は沈線による逆U字状懸垂文と横手状懸垂文を配す。R.L充填施文	中期後葉
第578号 PL.73	17	鉢	体部破片	床直上	粗砂粒・石英/良好/ にぶい黄褐色	低位隆線による大柄の渦巻文を配す。側縁は沈線。内面は強い研磨。赤彩痕跡は確認認められる	中期後葉
第578号 PL.73	18	両耳壺	体部破片	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	体部上半に縦位2連の渦巻文を配り楕状把手を付す。体部は沈線による大柄の渦巻文を設ける。内面研磨	中期後葉
第578号 PL.73	19	無頭壺?	体部	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 黒褐色	肩部か。低位隆線による区画文構成。区画内側縁は沈線だが充填文を見ない。内外面に僅かに赤彩痕跡。内面研磨	中期後葉
第578号 PL.73	20	深鉢	底部1/2残存	埋土上位	粗砂粒・小礫・輝石/ 良好/褐色	底径:7.2cm。2条一組の垂下沈線による懸垂文構成。おそらく4単位か。地文縄文は縦位L.R	中期後葉
第578号 PL.73	21	深鉢	底部1/2残存	埋土上位	粗砂粒・石英・雲母/ 良/にぶい赤褐色	底径:7.4cm。垂下沈線群による懸垂文構成で下部。縄文は縦位L.R	中期後葉
第578号 PL.73	22	深鉢	底部残存	埋土上位	粗砂粒・輝石/やや 軟/にぶい黄褐色	底径:8.0cm。2条沈線に画された磨消部懸垂文構成。被熱のため器面剥落著しい	中期後葉
第578号 PL.73	23	深鉢	底部1/3残存	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	底径:(9.6) cm。2条隆線による懸垂文構成。側縁は沈線。縄文は縦位R.L充填施文	中期後葉
第578号 PL.74	24	深鉢	口縁～体部 上半1/3残存	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	大型の深鉢。口径:(42.0) cm。口縁部欠損・割落部多く判然としない。隆線による区画文構成。おそらく半渦巻状構成も加わるか。円文を配し区画内は縦位磨消部懸垂文を充填する。体部は2条沈線による磨消部懸垂文構成	中期後葉
第578号 PL.74	25	深鉢	口縁部突起	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良/灰褐色	波状突起。横位沈線を設け以下3条単位の条線が連続弧状に施される	中期後葉

種目 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄/色/調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第578回 PL.74	26	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・石英/良好/ 明褐色	口縁部横位隆線に刻みを付し、以下5条一組の条線による横位波 状文を施す	中期後葉
第578回 PL.77	27	深鉢	口頸部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	隆帯による口縁部区画文。区画下部に格鬥文を配す。側縁は沈線 半回転。施文の条線を充填する。内面強い研磨	中期後葉
第580回 PL.74	28	深鉢	口縁～体部 1/6残存	埋土上位	細砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	口径:(50.0)cm。大型の深鉢。隆帯による口縁部区画文。隆線 側縁は太い沈線。区画内は縦位・弧状条線を充填する。体部は2 条沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位条線を密に 充填する	中期後葉
第580回 PL.74	29	深鉢	体部破片	埋土上位	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	体部下部。下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦 位条線を施し、縦位波状沈線を加える	中期後葉
第580回 PL.74	30	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ 赤褐色	2条の沈線で画された施文部と磨消部懸垂文構成。施文部は7・ 8条単位の条線による縦位波状文。波状文はコンパス状の反転施 文	中期後葉
第580回 PL.74	31	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	重下沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文部は4・5条単位の 条線による縦位波状文を施す	中期後葉
第580回 PL.74	32	深鉢	体部破片	埋土下位	細砂粒・輝石/良好/ 明褐色	沈線で画された施文部・無文部の交互配列。施文部は6・7条単 位の縦位波状文。無文部には縦位沈線が加わる。内面厚付す	中期後葉
第580回 PL.74	33	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	小径で筒状の頸部。体部は深く内湾する。小型の横状把手を付し、 小渦巻文を配す。内面強い縦位研磨	中期後葉
第580回 PL.74	34	深鉢	口縁部突起 片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい赤褐色	立体的な横状把手。裏面孔も設けられる。把手両下縁は半渦巻状 意匠を配し隆線が垂下する。裏面上縁は沈線による渦巻文が施さ れる	中期後葉
第580回 PL.74	35	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	口縁部小突起より2条隆線が派生し口縁部区画文を画す。区画内 は縦位短沈線を充填する	中期後葉
第580回 PL.74	36	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	口頸部尖る。隆線による口縁部渦巻文。区画内は沈線を側縁と し斜位短沈線を充填する	中期後葉
第580回 PL.74	37	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良にぶい黄褐色	隆線による口縁部渦巻文。側縁は沈線、弧状短沈線を充填する。 内面強い研磨	中期後葉
第580回 PL.74	38	深鉢	口縁部突起 片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	隆帯による紡錘状意匠を配した波状突起。下部より隆線が垂下す る。弧状短沈線を充填する	中期後葉
第580回 PL.74	39	深鉢	口縁部破片	埋土上位	細砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	口縁部内面肥厚し内縁に近い。無文の口縁部下横位隆線2条を 設け、斜位沈線を施す。無紋沈線	中期後葉
第580回 PL.74	40	深鉢	口縁部破片	埋土下位	細砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	隆線による口縁部渦巻文。頂部が突出し上端面に小渦巻文を配す。 区画内は短沈線を充填する	中期後葉
第580回 PL.74	41	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英/良好/ 褐色	2条の重下沈線による懸垂文構成。空白部は短沈線による縦位矢 羽状文を充填する	中期後葉
第580回 PL.74	42	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	2条の重下沈線と波状沈線による懸垂文構成。空白部は短沈線に よる細かな縦位矢羽状文を充填する	中期後葉
第580回 PL.74	43	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	隆線による渦巻文を配し、空白部は弧状短沈線を充填する。隆線 側縁は無い	中期後葉
第580回 PL.74	44	深鉢	底部1/2残 存	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい赤褐色	底径:8.0cm。重下沈線2条による懸垂文構成で下部部。縄文はL R 縦位充填施文	中期後葉
第580回 PL.75	45	深鉢	口縁部突起 片	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ 灰黄褐色	中空状突起。孔は多方向から設けられる。隆線による小渦巻文を 各所に配す。側縁は沈線。凹形区画内はR Lを施す	中期後葉
第580回 PL.75	46	深鉢	体部中位の み残存	埋土上位	細砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	体部中位の括れ部。沈線で画された磨消部H状意匠。施文部は 分岐状意匠。磨消部は研磨。施文部はL R縦位充填施文。内面も 研磨を施す	中期末葉
第580回 PL.75	47	深鉢	体部1/4・底 部残存	埋土上位	細砂粒・輝石/良好/ 明黄褐色	小型深鉢。底径:6.6cm。体部上半で外反し体部は筒状を呈す。細 沈線による分岐懸垂文を配す。縦位L R充填施文。内面体部下半 に縦を付着する	中期末葉
第580回 PL.75	48	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英/やや 軟/にぶい黄褐色	口頸部内折。口縁部2条隆線を設け、体部横位隆線による縄文施 文部を配す。縄文は無部L横位充填施文	後期前葉
第580回 PL.75	49	深鉢	口縁～体部	埋土上位	細砂粒・石英/良好/ にぶい褐色	口縁部2条隆線と8字状貼付を設ける。体部は横位沈線で下端区 画画され、3条の沈線で三角区画文構成をなす。区画内は無文。口 頸部内面沈線を施す	後期前葉
第580回 PL.75	50	深鉢	底部1/3残 存	床直	粗砂粒・石英/良好/ にぶい赤褐色	底径:12.0cm。大型の深鉢か。底面に網代残存	中期か
第580回 PL.75	51	石鏡	ほぼ完形	埋土上位	黒曜石	長:1.6、幅:1.3、厚:0.5cm、重:0.6g。凹基無芽織。完成状態? 全面が押圧剥離で覆われているが、器体は厚く、対称性に欠け	
第580回 PL.75	52	石鏡	完形	埋土上位	黒曜石	長:1.7、幅:1.0、厚:0.3cm、重:0.3g。凹基無芽織。完成状態。 全面が押圧剥離に覆われ、丁寧な作り	
第580回 PL.75	53	石鏡	ほぼ完形	埋土上位	黒色頁岩	長:1.6、幅:1.3、厚:0.2cm、重:0.4g。平基無芽織。未製品。彫り 細片を用い薄く剥離して、その鏡形を演出している。裏面側には 素材割離面が大きく残る	
第580回 PL.75	54	石鏡	完形	埋土上位	黒曜石	長:2.3、幅:1.5、厚:0.4cm、重:0.7g。凹基無芽織。完成状態。 薄身で丁寧な作り。先端部のみやや厚く尖り気味である	

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第59回 PL.75	55	石鉢	先端部欠損	埋土	黒曜石	長:1.8、幅:1.7、厚:0.3cm、重:0.8g。凹基無茎器。未製品。 背面側は押圧剥離で覆われているが、裏面側は周辺加工されたのみで、素材面を大きく残す	
第59回 PL.75	56	石鉢	返し部欠損	埋土上位	黒曜石	長:2.5、幅:(1.7)、厚:0.4cm、重:1.1g。凹基無茎器。未製品。 全面が押圧剥離で覆われる。右側縁の形状は不安定で、最終加工の直前で破損したものとみられる	
第59回 PL.75	57	石鉢	完形	埋土上位	チャート	長:3.2、幅:1.8、厚:0.6cm、重:2.3g。凹基無茎器。未製品。加工は粗く、先端部の作出しに至らず、その観形を整えた程度である	
第59回 PL.75	58	石鉢	ほぼ完形	埋土	黒曜石	長:2.3、幅:0.8、厚:0.5cm、重:0.6g。完成状態?石対縁の小形 剥片を用い側縁を粗く剥離して観形を整える。側縁摩擦は見られない。先端部を欠く	
第59回 PL.75	59	石鉢	ほぼ完形	埋土上位	黒曜石	長:2.1、幅:0.7、厚:0.5cm、重:0.4g。完成状態?裏面側を薄く 背面側を厚く剥離、断面三角形の機能部を作出している。加工が粗い印象を受ける。側縁の摩擦は見られない。先端部を欠く	
第59回 PL.75	60	原石	完形	埋土	黒曜石	長:4.0、幅:3.9、厚:2.8cm、重:48.8g。角錐。裏面側に古い原礫 面を残す。各面には剥片を剥離したような痕跡はなく、石核として消費されていない	
第59回 PL.75	61	楔形石器	完形	埋土	黒曜石	長:1.8、幅:2.1、厚:0.5cm、重:1.7g。表裏面とも上下両端から 対向する剥離がある。観形は方形状を呈している	
第59回 PL.75	62	原石	完形	埋土	黒曜石	長:3.2、幅:5.8、厚:2.3cm、重:43.2g。角錐。径5mmの球磨を含ん でいるが、球磨は少なく石材としては良質。石核としての磨耗はほとんど消費されていないように見える	
第59回 PL.75	63	削器	完形	埋土上位	黒曜石	長:2.8、幅:2.1、厚:0.9cm、重:4.8g。小形幅広剥片を横位に用い 背面側のみ加工、石鉢様の先端部を作出する。対部角度は厚く、削器と捉えた	
第59回 PL.75	64	打製石斧	上半部欠損	埋土下位	粗粒輝石安山岩	長:11.0、幅:4.4、厚:1.8cm、重:120.3g。短冊形。完成状態。対部 摩擦・擦痕が著しい。頭部側を大きく欠損する	
第59回 PL.75	65	打製石斧	対部欠損	埋土上位	変質安山岩	長:(9.8)、幅:5.1、厚:1.9cm、重:97.2g。短冊形。完成状態。 両側縁に摩擦痕が残る、対部再生は明らか。擦痕が著しいほか、石斧頭部に詳細不明な摩擦痕が残る	
第59回 PL.75	66	打製石斧	上半部欠損	埋土下位	粗粒輝石安山岩	長:(11.4)、幅:7.3、厚:2.9cm、重:302.0g。短冊形。完成状態。 やや幅広く、表裏面とも著しく摩擦する。背面側対部の摩擦が広く、両面側のその倍はある	
第59回 PL.75	67	打製石斧	上半部欠損	埋土上位	黒色頁岩	長:(9.5)、幅:4.8、厚:2.0cm、重:92.0g。短冊形。完成状態。 側縁は聞き気味で、対部は尖り気味。対部摩擦・擦痕が著しい	
第59回 PL.75	68	打製石斧	上半部欠損	床直	粗粒輝石安山岩	長:(8.1)、幅:6.3、厚:2.1cm、重:133.7g。短冊形。完成状態。 粗く周辺加工して石斧を作出する。対部摩擦は不明瞭だが、弱く摩擦するように見える。やや幅広い部類	
第60回 PL.75	69	敲石	完形	埋土下位	変質安山岩	長:6.0、幅:5.0、厚:3.8cm、重:180.0g。小型の円錐側縁・下端部に 敲打痕を見る。表裏面は弱い平滑面	
第60回 PL.75	70	磨石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:11.1、幅:7.7、厚:4.0cm、重:569.1g。平滑面は表裏面にある。 表面は光沢を持つ。敲打痕は裏面中央と左側縁に集中する	
第60回 PL.75	71	凹石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:11.5、幅:6.6、厚:4.3cm、重:464.5g。浅い凹みが表裏面とも 縦位2連に設けられる。下端部に敲打痕を見る	
第60回 PL.75	72	磨製石斧	下半部欠損	床直	変玄武岩	長:(13.0)、幅:5.1、厚:3.5cm、重:425.6g。観形は乳棒状を呈す 細身・長身の石斧。肉肉が厚く側面を下りに研削している。破損後に敲き石として使用されており、敲打・摩擦痕が広がる	
第60回 PL.75	73	凹石	完形	埋土下位	粗粒輝石安山岩	長:12.5、幅:9.0、厚:5.7cm、重:946.1g。幅広い敲打痕が散漫に 見られる。顕著な凹みは見られない。弱い平滑面を表裏面に持つ	
第60回 PL.75	74	石製品	1/2残存	埋土下位	輝石	長:(5.5)、幅:4.4、厚:1.9cm、重:18.2g。欠損部を除く、各面 を研磨整形した板状を呈した石製品	
PL.75	75	多孔石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:14.8、幅:11.2、厚:11.1cm、重:1990.0g。表裏面に疎らに孔を 設ける	
PL.75	76	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:54.3、幅:22.3、厚:18.7cm、重:30700.0g。大型棒状円錐。器 表面剥離多い。表裏面に強い平滑面	

51区12号住居跡

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第62回 PL.76	1	楔形石器	完形	埋土	黒曜石	長:2.0、幅:1.5、厚:0.5cm、重:1.3g。背面側剥離面に 薄く剥離痕が並ぶ。裏面側にも同様な剥離痕がある	
第62回 PL.76	2	敲石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:9.0、幅:7.4、厚:3.7cm、重:334.2g。扁平な円錐右側面に細 かな敲打痕の集中を見るが、密集はしない。表面に平滑面を持つ	

51区13号住居跡

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第65区 PL.76	1	深鉢	体部中位～ 底部残存	炉内	細砂粒・石英/良好/ 褐色	隆線による筋線状意匠を縦位に連続する。2単位を敷入る。隆線には円形刺突文や沈線を重ねる。沈線で画された磨消部による半満巻状意匠が配される。施文部は加飾Lを充填する。内外面上半は被熱による変色を見る	後期初頭
第65区 PL.76	2	深鉢	口縁～底部 1/3残存	床直	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	口径:(20.2)、底径:6.6、器高:26.8cm。緩やかな波状線を呈し、体部中位に括れを持つ。口縁部隆線は波状に設けられ以下Lを横位・斜位に施す。底面副代直磨滅。内面口縁部と底部に保付着	後期初頭
第65区 PL.76	3	深鉢	口縁部1/3 残存	床直	細砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	口径:(18.4)cm。口唇部僅かに内折。沈線で画された施文部意匠文が配される。LR充填施文。内外面強い研磨。少量の保付着する	後期初頭
第65区 PL.76	4	深鉢?	口縁部破片	床直	粗砂粒・石英/良好/ 浅黄褐色	口縁は小径で垂状の器形か。強く内湾して突出する。沈線で画された施文部・磨消部の交互意匠。LR充填施文。内面整形は雑な態で調整	後期初頭
第65区 PL.76	5	浅鉢	口縁部破片	床直上	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	波状線波頂部に横状把手を設ける。把手内面も円孔を穿つ。深い沈線で画された横位弧状意匠が配される。縄文はLR充填施文。内外面赤彩痕を見る	後期初頭
第65区 PL.76	6	深鉢	口縁部突起 片	埋土	細砂粒/良好/にぶい 黄褐色	突出する波頂部突起。中空の柱状で上端は小波状を呈す。刻みを施す隆線を懸垂する。施文部は沈線で画されLRを充填する	後期初頭
第65区 PL.76	7	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒/良好/にぶい 黄褐色	口縁部内折。沈線で画された施文部と磨消部による反転する弧状意匠。LR充填施文。口唇部・内面研磨	後期初頭
第65区 PL.76	8	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	口縁部内折。波状小突起を設け頂部に円文を配す。体部は沈線による意匠文上端を見る。口唇部・内面研磨	後期初頭
第65区 PL.76	9	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 褐灰色	口縁部内折。沈線で画された施文部と磨消部による弧状意匠。LR充填施文。口唇部・内面強い研磨	後期初頭
第65区 PL.76	10	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	口唇部僅かに内折。横位沈線を設け以下横位LRを見る。内外面研磨	後期初頭
第65区 PL.76	11	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい赤褐色	口縁部内折。横位沈線間に円形刺突文を充填する。施文は深い	後期初頭
第65区 PL.76	12	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	口縁部内折。浅い横位沈線を設け、弧状沈線を加える。磨消部のみの構成か。内面研磨	後期初頭
第65区 PL.76	13	深鉢	口縁部破片	床直	細砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい黄褐色	口唇部角頭状をなす。口縁部内面削り調整後、口縁部横位隆線を設け、他は無文。外面強い研磨	後期初頭
第65区 PL.77	14	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	口縁部内面削り調整後、幅広い無文口縁部下に横位隆線を設ける。口唇部・内面強い研磨	後期初頭
第65区 PL.77	15	深鉢	口縁部1/5 残存・体部 破片	床直	粗砂粒・石英/やや 軟/にぶい黄褐色	口径:(46.0)cm。幅広い無文部以下横位隆線を設ける。体部は無文。体部下平に歪みを見る。内面凹凸顯著。内外面とも器面磨滅	後期初頭
第66区 PL.77	16	深鉢	胴部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/灰黄褐色	沈線で画された弧状意匠と横位帯状意匠。LRを充填施文する	後期初頭
第66区 PL.77	17	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英/良好/ にぶい黄褐色	器厚やや薄手。沈線で画された施文部・磨消部弧状意匠。LRを充填する	後期初頭
第66区 PL.77	18	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	沈線で画された施文部・磨消部による筋状意匠。LR充填施文。内面研磨	後期初頭
第66区 PL.77	19	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	沈線で画された施文部・磨消部による弧状意匠。満巻状意匠の下端か。施文部原体は態で調整のため不明	後期初頭
第66区 PL.77	20	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	沈線で画された施文部・磨消部による弧状意匠。LRを充填施文する。内面研磨。少量の保付着	後期初頭
第66区 PL.77	21	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	沈線で画された施文部・磨消部による弧状意匠。LRを充填施文する。内面強い研磨	後期初頭
第66区 PL.77	22	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英/良好/ にぶい黄褐色	沈線で画された施文部・磨消部による半満巻状意匠。LRを充填施文する。内面丁寧な研磨で平滑	後期初頭
第66区 PL.77	23	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	沈線で画された磨消部弧状意匠。LRを充填施文する。あるいは満巻状意匠か。内面研磨。外面に少量の保付着	後期初頭
第66区 PL.77	24	深鉢	底部残存	埋土	細砂粒・石英/やや 軟/にぶい黄褐色	口径:5.6cm。器面磨滅し詳細は判然としない	後期初頭か
第66区 PL.77	25	深鉢	底部1/3残 存	埋土	粗砂粒・石英/やや 軟/にぶい黄褐色	底径:(9.0)cm。僅かに外反気味に開く体部下平。底面に副代部を見るが磨滅のため判然としない	後期初頭
第66区 PL.77	26	小型土器	台部2/3残 存	埋土下位	細砂粒/良好/にぶい 黄褐色	台付き深鉢ミニチュアか。底径4.8cm。横位沈線と刺突文を最下段に設け基部は細沈線による満巻文を配す	後期初頭か
第66区 PL.77	27	土製品	軸部欠損	北壁上	粗砂粒・石英/軟/黄 褐色	屈曲する柱状の土製品。屈曲部はやや短いが、径約7mmの小貫孔を穿つ。器面磨滅	後期初頭か
第66区 PL.77	28	土製品	軸部欠損	埋土	粗砂粒・石英/明 黄褐色	屈曲する柱状の土製品。屈曲部に径約7mmの小貫孔を穿つ。器面磨滅	後期初頭か
第66区 PL.77	29	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・石英/良好/ にぶい黄褐色	口縁部沈線を設け屈折部以下垂下沈線3条による懸垂文構成。無筋Lを縦位充填施文する。口唇部・内面研磨	後期前葉

採回 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第66回 PL.77	30	石鐮	左脚端部欠損	床直	玉髄	長:2.1, 幅:(1.7), 厚:0.3cm, 重:0.4g。凹基無芽線。丁寧な押圧割離で覆われ薄手に仕上げられる。基部の湾曲も強い。光沢ある赤褐色を呈し逸品といえよう	
第66回 PL.77	31	石鐮	完形	床直	黒曜石	長:1.8, 幅:1.3, 厚:0.3cm, 重:0.7g。凹基無芽線。表面とも割離前の研磨面が残る。先端部に近い左辺部は破損した再加工されたものと見られる	
第66回 PL.77	32	石鐮	完形	床直	玉髄	長:2.8, 幅:2.2, 厚:0.7cm, 重:3.4g。凹基無芽線。未製品。加工は粗く。観形を整えたのみで石磨製作を経たもの	
第66回 PL.77	33	磨製石斧	下半部欠損	床直	変玄武岩	長:(6.6), 幅:(3.8), 厚:1.8cm, 重:67.2g。定角式。各面ともよく磨き込まれている。稜上には打痕があり、破損部にも再加工した痕跡が残る	
第66回 PL.77	34	磨製石斧	対部破片	床直	変輝緑岩	長:(3.4), 幅:(5.5), 厚:2.4cm, 重:66.4g。定角式。対部には対こぼれがあり、これが摩耗している。破損は使用中のアクシデントによるものか	
第66回 PL.77	35	磨製石斧	対部破片	床直	珪化凝灰岩	長:(5.1), 幅:(6.3), 厚:2.5cm, 重:82.6g。定角式。各面ともよく磨き込まれている。本道跡出土の同型式の磨製石斧としては大型品。破損状態からみて凍て凍て背面側を研磨、平坦面を作り出している。裏面側には確執部が残されている	
第66回 PL.77	36	不明石製品	完形	床直	輝石	長:9.7, 幅:6.2, 厚:1.8cm, 重:62.0g。背面側を研磨、平坦面を作り出している。裏面側には確執部が残されている	
第66回 PL.77	37	不明石製品	完形?	床直	輝石	長:4.5, 幅:4.9, 厚:1.4cm, 重:9.8g。石材が粗く研磨度は確認できないが、各面とも研磨され、全体として半円状に整形されている。垂磨り等の装飾品製作が目的か	
第66回 PL.77	38	敲石?	完形	床直	変玄武岩	長:8.8, 幅:4.2, 厚:2.6cm, 重:175.0g。磨製石斧同様確かな敲打が覆う。磨製石斧の形用と考えられるが、周縁敲打が著しい事から、敲石ではなく他の器種への未製品状態とも捉えられる	
第67回 PL.77	39	凹石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:13.9, 幅:12.5, 厚:4.7cm, 重:915.8g。扁平な円盤。表裏面に平滑面と浅い凹みを持つ。表面は使用により平坦面を築く	
第67回 PL.77	40	磨石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:15.8, 幅:12.9, 厚:11.0cm, 重:3410.0g。丸石。表裏面中央にやや強い平滑面を持つ。敲打痕は浅く中央に見る	
第67回 PL.77	41	磨石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:10.1, 幅:9.6, 厚:8.1cm, 重:1052.2g。球状を呈し。表裏面中央に平滑面を持つ。中心にかけ積状になる	
第67回 PL.77	42	磨石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:16.0, 幅:10.0, 厚:5.9cm, 重:1492.0g。やや大型の円盤。表裏面に光沢を持つ平滑面を見る。表面に縦磨	
第67回 PL.77	43	多孔石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:12.6, 幅:11.0, 厚:5.0cm, 重:730.0g。やや扁平な多孔質の表面面-左側面に孔を設ける。裏面に意図的な平坦面を作出する	
第67回 PL.77	44	多孔石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:14.4, 幅:9.2, 厚:6.7cm, 重:1020.0g。表面及び左側面にやや大型の孔を各1箇所設け、小孔が周辺に散らばる。孔断面は浅く皿状を呈す	

51区14号住居跡

採回 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第61回 PL.76	1	深鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/良好/褐色	緩やかな波状縁で口縁部低位に肥厚する。隆線による渦巻文構成。無顔沈線	中期後葉
第61回 PL.76	2	浅鉢	口頸部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/やや軟/褐色	口縁部外反。口頸部は隆線による渦巻文と区画文2段か。下位区画内は粗縁。体部は無文。器面磨滅	中期後葉
第61回 PL.76	3	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/褐色	口縁部内外面折り返し状に肥厚。肥厚部下端に沈線が沿う。他は無文	中期後葉
第61回 PL.76	4	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/黒褐色	口頸部肥厚し内湾する口縁部。縦位沈線1条を設け、横位R.Lを施す	中期後葉
第61回 PL.76	5	深鉢	突起片	埋土	粗砂粒/良好/にふい褐色	低位隆線による渦巻文。内面は刻落	中期後葉
第61回 PL.76	6	深鉢	口頸部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/褐色	口縁部内湾。隆線による渦巻文と区画文構成。無顔無文。区画内隆文はL.R充填か	中期後葉
第61回 PL.76	7	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・輝石/やや軟/にふい前褐色	垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位R.L充填施文。器面磨滅	中期後葉
第61回 PL.76	8	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/にふい赤褐色	器厚薄手。2条沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文部縦文はL.R縦位充填施文	中期後葉
第61回 PL.76	9	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/にふい赤褐色	垂下隆線による懸垂文構成か。空白部は斜位沈線群を交互に充填する	中期後葉
第61回 PL.76	10	石鐮	完形	埋土上位	黒曜石	長:1.4, 幅:0.8, 厚:0.3cm, 重:0.5g。凹基無芽線。完成状態。横割線が大きく「ハ」字状に開く。基部を深く挟り込み、長く大きな返し部を作出する	
第61回 PL.76	11	石鐮	完形	埋土上位	黒曜石	長:2.2, 幅:0.9, 厚:0.7cm, 重:1.1g。板状割片を用い、両側縁を厚く割離して機能部を作出する。側縁に回転穿孔して生じる摩耗痕は見られない	

種別 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第61回 PL.76	12	石鐘	ほぼ完形	埋土下位	黒曜石	長:3.8、幅:1.9、厚:0.4cm、重:2.4g。縦型。大きな柄み部に細い縄部が付く。側縁の両サイドは強く摩擦する。	
第61回 PL.76	13	打製石斧	完形	床直上	細粒輝石安山岩	長:11.9、幅:5.6、厚:1.3cm、重:93.6g。短冊形。完成状態。やや幅広く、刃部に強い摩擦痕が生じている。	
第61回 PL.76	14	打製石斧	下半部欠損	埋土上位	変質安山岩	長:(7.0)、幅:4.6、厚:2.4cm、重:97.0g。短冊形。未製品?刃部側を欠け詳細は不明だが、側縁のエッジは新鮮で、未製品として捉えた。	
第61回 PL.76	15	台石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:20.2、幅:16.2、厚:4.7cm、重:2358.0g。扁平な円盤。表面とも平滑面を有す。側縁には僅かな敲打痕を見る。	

51区15号住居跡

種別 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第70回 PL.78	1	深鉢	口縁～体部 破片	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ 赤・褐色	緩やかな波状縁。波頂部直下より渦巻文と3条の隆線による胸片状意匠が配られる。隆線には沈線が配る。縄文は縦位R L充填施文。内面研磨。内外面に埋付着	中期後葉
第70回 PL.78	2	深鉢	口縁部突起	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母 多/良好/黒褐色	強く突出する口縁部突起。上端は沈線による双渦巻文。外面は2条隆線による渦巻文を配す。おそらく胸片文か。内面は分岐意匠が配られる	中期後葉
第70回 PL.78	3	深鉢	口縁～体部 1/4残存	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/黒褐色	口径:(12.8)cm。口唇部内面直上。口縁部外面折り返し状に肥厚。体部は内皮層沈線を縦位に連続する。断面状沈線も施されるが、規則性を持たない。内面強い研磨	中期後葉
第70回 PL.78	4	深鉢	口縁部破片	床直上	粗砂粒・石英/良好/ 黒褐色	口唇部隆線を設け以下隆線による渦巻文と区画文構成。区画内側縁は沈線を明確に施し、縦位短沈線を充填する。頸部は縦位R Lを施す。内面強い研磨	中期後葉
第70回 PL.78	5	深鉢	口縁部突起	ビット18	粗砂粒・石英・雲母 多/良好/褐色	中空状突起。上端から表面は隆線による縦位連続渦巻文を配す。剣状文を側縁とする。断面は連続しない。内側面は横位沈線を充填する	中期後葉
第71回 PL.78	6 ab	深鉢	口縁部破片	床直上	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	口縁部内外面肥厚。口唇部上端に面を持ち沈線を施す。口縁部に凹孔を設け、内面には渦巻文を配す。口縁部は浅い切みを備し剣状文が沿う。体部は隆線による弧状意匠を設け、縦位短沈線を充填する	中期後葉
第71回 PL.78	7	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/暗褐色	体部上。頸部は無文。横位把手下端部。横位隆線2条が派生し、瘤状小突起を付す。内面強い研磨	中期後葉
第71回 PL.78	8	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良/赤・褐色	体部上。双環状突起を中核に縦位に2条隆線を配し、突起下端より縦位に3条の隆線が垂下する。空白部は斜位沈線を埋める。内面強い研磨	中期後葉
第71回 PL.78	9	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	体部上。頸部無文。横位隆線2条を配し垂下隆線が派生する。浅い密接条線を横位・縦位に施す	中期後葉
第71回 PL.78	10	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/赤・褐色	体部下。垂下隆線2条による懸垂文構成。浅い密接条線を縦位に施す	中期後葉
第71回 PL.78	11	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・雲母/少/ 好/褐色	隆線による渦巻文と懸垂文構成。あるいは胸片文か。側縁は沈線。横位矢羽状短沈線を充填する	中期後葉
第71回 PL.78	12	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/明赤褐色	垂下隆線による懸垂文構成。空白部は切みを付す隆線で再区画し、縦位矢羽状短沈線を充填する	中期後葉
第71回 PL.78	13	深鉢	体部破片	床直上	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	3条の垂下隆線と渦巻文。あるいは胸片状意匠か。斜位短沈線を施す	中期後葉
第71回 PL.78	14	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・雲母/良好/ 褐色	縦位隆線3条の上端は渦巻文か。切みを付す隆線も懸垂し断面を分割する。縦位矢羽状短沈線を充填する	中期後葉
第71回 PL.78	15	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/黒褐色	2条隆線による弧状区画。下端部が渦巻状で突出する。区画内は縦位沈線2条で再区画され矢羽状短沈線を充填	中期後葉
第71回 PL.78	16	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒/良好/灰褐色	3条の太い隆線による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する。外面埋付着	中期後葉
第71回 PL.78	17	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良/赤・褐色	垂下隆線による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する。内面研磨	中期後葉
第71回 PL.78	18	深鉢	体部破片	床直上	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/明赤褐色	縦位矢羽状短沈線を施す。器面磨滅	中期後葉
第71回 PL.78	19	深鉢	体部破片	床直上	粗砂粒・石英・雲母/ 良/赤・褐色	縦位矢羽状短沈線を施す。やや細身の沈線	中期後葉
第71回 PL.78	20	深鉢	体部破片	床直上	粗砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	垂下沈線2条による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線を充填し、沈線による弧状区画意匠を加える。剣状文を最表状に沿う意匠もある。内面強い研磨	中期後葉
第71回 PL.78	21	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/黒褐色	やや幅広い浅い条線を横位・縦位に施す。内面磨滅脱落著しい	中期後葉
第71回 PL.78	22	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ 赤・褐色	切みを付す隆線による横位波状文か。側縁は内皮沈線。内面強い研磨	中期後葉

種別 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
71710 PL.78	23	深鉢	体部破片	埋上下位	細砂粒/やや軟/に ぶい、黄褐色	小径で筒状の体部器形。2条隆線による懸垂文構成。2条垂下沈線により再区画され、弧状短沈線2条により小区画する。縦位L R	中期後葉
71710 PL.78	24	深鉢	体部破片	埋上下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	有部2条隆線による渦巻状意匠か。無線沈線及び撫で。R Lを充填施文し隆線に上まで及ぶ	中期後葉
71710 PL.78	25	深鉢	体部破片	埋上下位	細砂粒・石英/良好/ にぶい、赤褐色	体部上平か。横位隆線より、弧状突起が顕著する。あるいは平渦巻文か。無線は沈線で丁寧な施文。内面研磨	中期後葉
71710 PL.78	26	深鉢	底部1/4残存	床直上	粗砂粒・石英・雲母/ 多/良/にぶい、赤褐色	底径：(8.0) cm。垂下隆線下端を見る。無線は沈線か。底面に帯状痕	中期後葉
71710 PL.78	27	深鉢	体部下平～ 底部破片	埋上下位・K-19	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい、褐色	底径：(13.0) cm。垂下隆線2条による懸垂構成で下端、浅い縦接条線が縦位に施す	中期後葉
71710 PL.78	28	浅鉢	口縁部破片	埋上下位	粗砂粒・石英・雲母/ 多/良/にぶい、赤褐色	器形の開きは強くない。口縁部内外面肥厚。無文で内外面とも弱い研磨を加える	中期後葉
71710 PL.78	29	浅鉢	頸部破片	埋上下位	細砂粒・輝石/良好/ にぶい、褐色	浅鉢屈曲部の剥落。太い沈線による区画文構成か。赤彩痕残る	中期後葉
72710 PL.78	30	浅鉢	口縁部破片	床直上	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	口縁部内外面肥厚。無文で内外面丁寧な研磨。赤彩痕を僅かに見る	中期後葉
72710 PL.78	31	浅鉢	口縁部破片	床直	細砂粒・輝石・雲母/ 良好/にぶい、褐色	口縁部内外面肥厚。無文で内外面を研磨し、赤彩痕・漆痕を見る	中期後葉
72710 PL.78	32	浅鉢	体部破片	埋上	細砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	体部上平。縦やかに外反する。無文で内外面研磨し赤彩痕を見る。外面に顕著	中期後葉
72710 PL.79	33	深鉢	体部破片	ビット21・埋上	粗砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	体部上平。横位弧状隆線を設け、円形貼付文を付す。下端より弧状隆線が顕著する	後期初葉
72710 PL.79	34	石鏡	完形	埋上	黒曜石	長:1.7、幅:1.4、厚:0.4cm、重:0.8g。平基無葉鏡。完成状態。概ね全面に剥離が及んでいるが、部分的に素材面が残る	
72710 PL.79	35	石鏡	完形	埋上	黒曜石	長:2.0、幅:1.4、厚:0.4cm、重:1.0g。円基無葉鏡。完成状態。概ね押圧剥離に覆われているが、表裏側に素材面を大きく残す。基部はU字状に深く持ち込まれる	
72710 PL.79	36	打製石斧	完形	埋上下位	珪質頁岩	長:15.1、幅:6.5、厚:1.9cm、重:179.7g。短冊形。完成状態。側縁はハ字状に開き、刃部に最大幅がある。刃部摩耗・擦痕ももあり、サイズの的には製作使用初期の状態にある	
72710 PL.79	37	打製石斧	上半部欠損	埋上下位	変質安山岩	長:(10.7)、幅:6.0、厚:3.2cm、重:277.4g。短冊形。未製品。刃部側を破損するため詳細は不明。側縁のエッジが新鮮であるところを踏まえれば製作途中に破損したものと推定することができよう	
72710 PL.79	38	凹石	上端部欠損	埋上下位	粗粒輝石安山岩	長:13.2、幅:5.8、厚:3.8cm、重:303.8g。表面中央に最打痕が集中し凹みとなる	
72710 PL.79	39	石皿	破片	床直上	粗粒輝石安山岩	長:(13.8)、幅:(10.0)、厚:(4.0) cm、重:460.4g。外表面は欠損する。内底面中央に平滑面。側面は最打による作出	
72710 PL.79	40	凹石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:11.5、幅:7.6、厚:4.6cm、重:515.3g。楕円状円盤。表裏面中央に凹みを有す。側面上下端部に最打痕を見る。磨面は表裏面にあるが平滑さに欠く	
72710 PL.79	41	敲石	完形	埋上下位	石英閃緑岩	長:12.2、幅:7.9、厚:5.1cm、重:776.9g。種かな最打痕が上下端部に集中する。表裏面に平滑面を見る	

51区16号住居跡

種別 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
74710 PL.79	1	深鉢	口縁部破片	床直	粗砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	底頂部欠損。隆線による平渦巻文を配す。円文を配し、無線は太い沈線。R L充填施文。内外面研磨。外面付着層	中期後葉
74710 PL.79	2	深鉢	口縁部破片	埋上	細砂粒・輝石/良好/ にぶい、赤褐色	内湾する口縁部。隆線による渦巻文と区画文構成。無線は沈線。R Lを充填する。内外面研磨	中期後葉
74710 PL.79	3	深鉢	口縁部破片	埋上	細砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	直線的に開く口縁部。横位隆線による平渦巻状意匠を配し以下縦位L Rを施す。内外面研磨	中期後葉
74710 PL.79	4	深鉢	口縁部破片	埋上	細砂粒・石英/良好/ 褐色	口縁部外反し横位隆線を設ける。以下地文縦位R Lに沈線文を加える。隆部上には原体を伴する。内外面研磨	中期後葉
74710 PL.79	5	深鉢	口縁部破片	床直	粗砂粒・石英/良好/ 灰褐色	口縁部横位沈線2条間に円形刻突文を埋める。体部地文はR Lで沈線文を加える。内面丁寧な撫で	中期後葉
74710 PL.79	6	深鉢	口縁部破片	床直	細砂粒・石英/良好/ 褐色	波状縁波頂部。低位隆部による弧状、渦巻状意匠を配す。沈線が治う。R Lは隆部上まで及ぶ	中期後葉?
74710 PL.79	7	深鉢	口頂部破片	埋上	粗砂粒・石英/良好/ 黒褐色	2条隆線による渦巻文を配す。無線は撫で	中期後葉
74710 PL.79	8	深鉢	体部破片	床直	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	沈線2条に画された幅状磨面部によるU字状懸垂文構成。無部L縦位充填施文。内面弱い縦位研磨	中期後葉
74710 PL.79	9	深鉢	体部破片	床直	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	垂下沈線2条に画された幅状磨面部による懸垂文構成。無部L縦位充填施文。内面弱い縦位研磨	中期後葉

種目 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第74回 PL.79	10	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒/良好/褐色	沈殿で逆U字状意匠を施し、施文部・磨消部に横す状意匠を加える。施文部縄文はR1単位充填施文、内外面研磨	中期後葉
第74回 PL.79	11	深鉢	体部破片	床直	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	横位沈線を設け土位が斜位、下位は縦位密接条線を施す。縦位条線施文前後の沈線施文が観察される。内面磨	中期後葉
第74回 PL.79	12	深鉢	体部破片	床直	粗砂粒・石英/良好/ よい/褐色	垂下沈線に両された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位密接条線が充填され縦位沈線が重なる	中期後葉
第75回 PL.79	13	深鉢	口縁部破片	床直	粗砂粒・石英・輝石/ やや軟/褐色	口縁部内外面肥厚し隆線による渦巻文を配す。側縁は沈線で斜位短沈線を施す。器面磨	中期後葉
第75回 PL.79	14	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒/やや軟/褐色	弧状隆線を配す。以下縦位矢羽状短沈線を施す。器面磨	中期後葉
第75回 PL.79	15	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 黒褐色	2条隆線による弧状・渦巻状意匠。側縁は沈線。空白部は斜位短沈線を充填する	中期後葉
第75回 PL.79	16	深鉢	体部破片	床直	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	2条隆線が垂下し下端は弧状区画する。区画内は横位弧状短沈線を充填する	中期後葉
第75回 PL.79	17	深鉢	体部破片	床直	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/明赤褐色	縦位波状隆線による懸垂文構成。空白部は斜位短沈線を充填する	中期後葉
第75回 PL.79	18	深鉢	体部破片	床直	粗砂粒/良好/暗褐色	弧状隆線を配す。あるいは渦巻状意匠か。斜位短沈線は深い充填施文。内面磨	中期後葉
第75回 PL.79	19	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英少/やや軟/明赤褐色	2条垂下隆線と波状隆線による懸垂文構成。横位隆線2条が繋ぐ。空白部は斜位短沈線を充填する	中期後葉
第75回 PL.79	20	石蓋	先端部欠損	床直	黒曜石	長：(1.5)、幅：1.6、厚：0.3cm、重：0.6g。円基無蓋。完成状態。薄く剥離して形状を整えている。表面とも素材面が残る。基部をU字状に深く挟り込む	
第75回 PL.79	21	打製石斧	刃部破片	床直	珪質頁岩	長：(6.1)、幅：(4.3)、厚：(1.0)cm、重：22.6g。短冊形？完成状態。被熱破損した石斧刃部破片で、残存部には著しい刃部摩耗が残されている	
第75回 PL.79	22	不明石製品	1/2残存	床直	粗粒輝石安山岩	長：6.3、幅：4.6、厚：2.5cm、重：48.8g。小形扁平の片側を研磨して平坦面を形成している。13往36と同形だが、機能的評価は難しい	
第75回 PL.79	23	多孔石	定形	床直	粗粒輝石安山岩	長：16.6、幅：14.9、厚：16.1cm、重：1270.0g。やや扁平な多孔質。表面中央に孔を集中する	

51区17号住居跡

種目 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第79回 PL.80	1	深鉢	口縁～体部 残存	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ よい/褐色	口縁部4/5欠損。大型深鉢。口径31.0cm。2条隆線による口縁部渦巻文と区画構成。9単位を散入する。体部は単隆線による大柄の渦巻文と蛇行隆線を配す。3単位。口縁部区画内は沈線と横位短沈線を充填する。体部空白部は鱗状短沈線を施す。内面強い研磨。内面体部下半被熱粗線	中期後葉
第79回 PL.80	2	深鉢	口縁～体部 上半2/3残存	埋土上土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/よい/褐色	緩やかな波状隆。5・6単位か。口縁部は隆線による小渦巻文と区画構成。区画内は側縁を沈線とし縦位短沈線を充填する。体部は波頂部対応に縦位蛇行沈線を配し、空白部は縦位矢羽状短沈線を施す。内面少量の付着	中期後葉
第79回 PL.80	3	深鉢	口縁～体部 1/3残存	埋土上土	細砂粒・石英・雲母/ 良好/灰褐色	口径：(15.5)cm。隆線による口縁部渦巻文と区画文が一体化する。体部は垂下隆線による懸垂文構成か。中に渦巻文を配す。側縁沈線。区画内は斜位短沈線を充填する	中期後葉
第79回 PL.80	4	深鉢	口縁3/4・体部 1/2残存	床直上	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/黒褐色	口径：16.8cm。口縁部は一体化した渦巻文と区画構成。おそらく6単位。区画内は縦位短沈線を充填。体部は接続する2条隆線による懸垂文構成か。空白部は縦位矢羽状短沈線を充てる	中期後葉
第79回 PL.80	5	深鉢	口縁～体部 2/3残存	床直上	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/暗褐色	平縁の大型深鉢。口径：42.8cm。隆線による縦位鱗状意匠を4単位設ける。波底部対応に隆線による横状意匠を上下に配し、渦巻文に横位接続する。体部下半は2条隆線・蛇行隆線による懸垂文構成。空白部は相向かう斜位短沈線や鱗状短沈線を充填する	中期後葉
第79回 PL.80	6	深鉢	体部4/5残存	床直上	粗砂粒・石英・雲母/ やや軟/明赤褐色	大型の深鉢。上半部は意匠的な欠損か。2条隆線による大柄な渦巻文を配す。4単位か。単隆線の渦巻文も弧状に接続する。大柄渦巻文下端より2条隆線が懸垂する。空白部は斜位短沈線と鱗状短沈線を埋める。下半部は被熱のため磨減・割落著しく、図の文様還元部分が多い	中期後葉
第80回 PL.80	7	深鉢	口縁～体部 1/2残存	床直上	粗砂粒・石英/良好/ よい/褐色	口径：21.2cm。平縁。隆線による口縁部渦巻文と区画構成。渦巻文と区画文は一体化し相向かう渦巻文同士が単位化する。4単位であろう。体部は垂下隆線と蛇行隆線による懸垂文構成。縦位・斜位短沈線を充填する	中期後葉
第80回 PL.81	8	深鉢	口縁～体部 下半残存	床直上	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/黒褐色	口径：17.5cm。あるいは台付深鉢か。口縁部無文。横位隆線に渦巻文を付し、弧状隆線を懸架しU字状区画を配す。4単位構成である。区画中に蛇行隆線を付し、空白部は弧状短沈線を充填する	中期後葉

種目 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第80図 PL.81	9	深鉢	口縁～体部 上半1/2残存	埋土上位	粗砂粒・輝石・雲母 少/良好/にぶい 褐色	波状縁4単位か。波頂部口径:(24.0)cm。隆縁による口縁部渦巻文と区画文構成。区画内は縦位短沈線を充填し波状部対応部に渦巻状小突起を付す。体部は4条の垂下沈線による懸垂文構成。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉
第80図 PL.81	10	台付深鉢	口縁部1/3・ 体部2/3残存	床直上	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明褐色	台部欠損。口径:(14.2)cm。口縁部は渦巻状突起より派生したS字状意匠と小区画文が一体化する。おそらく5・6単位か。突起間隆縁と円形刺突文が繋ぎ、中位に逆字状の小意匠が施される。体部はU字状区画文が4単位配される。区画内は縦位短沈線隆縁で区画し、斜位・弧状沈線が充填する。体部下半は2条の深い縦位沈線をスリット状に施す。6単位を数える。台部は復元である。	中期後葉
第80図 PL.81	11	深鉢	体部1/3・底 部残存	室内	細砂粒/良好/にぶ い褐色	底径:5.6cm。小型深鉢。底面に粘土粒が貼り付くため、不安定。体部は隆縁による渦巻文下縁を弧状隆縁で繋ぎ、渦巻文と一体化した区画文を配す。空白部は放射状・縦位矢羽状沈線を充填する。内底面に保留着	中期後葉
第80図 PL.81	12	深鉢	口縁～体部 破片復元	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい/赤褐色	口径:(14.8)cm。内湾する筒状の器形。口縁部に波状突起を付す。口内面に細かな刻みを施す。口縁部隆縁による区画文と体部と一体化した渦巻状・刺状意匠を配す。内湾意匠は体部下半の横位弧状隆縁で繋ぐ。区画内は斜位沈線を充填する。広い範囲で復元図を施した	中期後葉
第80図 PL.81	13	深鉢	口縁～体部 上半4/5残存	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/黒褐色	口径:17.6cm。平縁で凹凸を見る。幅広無文の口縁部。下縁に横位隆縁を設け垂下隆縁による分割7単位か。区画内は縦位矢羽状短沈線を充填する	中期後葉
第80図 PL.81	14	深鉢	口縁～体部 1/4残存	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/黒褐色	器形に歪み有り。口径:(23.6)cm。口縁部横位隆縁を設け、平縁で貫孔する環状突起を付す。突起下端より2条隆縁が懸垂する。体部には隆縁による刺状意匠が配され、空白部は斜位短沈線を充填する	中期後葉
第80図 PL.81	15	深鉢	体部のみ残 存	床直	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい/赤褐色	内湾する体部中位。2条隆縁と蛇行隆縁による懸垂文構成。空白部は横位短沈線を充填する。内面上半部に被焼痕跡。内面研磨	中期後葉
第80図 PL.81	16	深鉢	体部1/3残 存	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	体部下半。隆縁によるU字状区画文。側縁は沈線。区画中に縦位蛇行沈線を配し斜位短沈線を充填する	中期後葉
第80図 PL.81	17	深鉢	体部1/3残 存	埋土下位・Y-14	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい/褐色	体部中位の括れ部か。垂下隆縁2条と蛇行隆縁による懸垂文構成。縦位矢羽状短沈線を充填する。内面弱い研磨	中期後葉
第80図 PL.81	18	深鉢	口縁～体部 1/4残存	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/灰赤色	取りを加えた小突起で画されたU字状区画文。体部は連続する2条隆縁による懸垂文構成。弧状隆縁と半渦巻状文を単位文として配す。空白部は横位沈線群を重ね、交互刺突文を加える	中期後葉
第80図 PL.81	19	小型土器	体部下半・ 底部残存	埋土下位	細砂粒/良好/暗褐 色	底径:4.4cm。沈線による渦巻状・弧状意匠を配す。不規則な配置ながら4単位を数える。外面に黒色付着物を見るが、漆塗布か。内面も煤及び同様の黒色付着物を体部下半に見る。外底面には白色付着物。内面横位へラビで	中期後葉
第80図 PL.81	20	深鉢	口縁～体部 破片3点	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	口径:29.0。無文の幅広口縁部。頸部は横位蛇行隆縁で画され取りを付す把手状突起を付し、斜位平行沈線と細隆縁による斜格子文を埋める。体部は2条の隆縁が懸垂し、縦位沈線を充填する。口縁部及び内面は丁寧な研磨。覆土大か	中期後葉
第81図 PL.82	21	深鉢	口縁部4/5 残存	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	平縁。口径:17.8cm。口縁部は隆縁による多重区画文を配す。7単位かやや不規則な配置である。区画内は縦位短沈線を充填する。体部上半は沈線による連続意匠、下半は垂下沈線と縦位蛇行沈線による懸垂文構成か。4単位である。垂下沈線間は弱い研磨を加える。体部端文は縦位LRを地文とする。内面研磨	中期後葉
第81図 PL.82	22	深鉢	口縁～体部 残存体部 4/5残存	埋土下位	粗砂粒・輝石/やや 軟/明黄褐色	口径:26.0。隆縁による口縁部渦巻文と区画文構成。5単位である。区画上位は沈線で画す。区画内は側縁を沈線とし横位矢羽状短沈線を充填する。体部は縦位LRが覆う。器面滑減	中期後葉
第81図 PL.82	23	深鉢	体部・底部 3/4残存	床直上	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい/黄褐色	底径:6.6cm。垂下沈線2条に画された滑消部懸垂文構成。4単位。端文はR/L縦位充填飾文。内面・滑消部は縦位研磨を加える。内外面に煤が付着する	中期後葉
第81図 PL.82	24	深鉢	口縁部破片	室内・埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい/褐色	大型の深鉢。平縁。口縁部内面折返し状に肥厚。幅広隆帯による口縁部渦巻文と楕円区画文が連続する。区画間に沈線による小渦巻文を施す。下縁は2条隆帯となる。体部は縦位沈線を見るが、懸垂文構成か。側縁は沈線。区画内及び体部は縦位LRを充填する。内面弱い研磨	中期後葉
第81図 PL.82	25	深鉢	口縁部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/黒褐色	2条の横位隆縁で口縁部を画し渦巻文を配す。体部は沈線による環状・渦巻状意匠を配す。縦位LRを施す	中期後葉
第81図 PL.82	27	深鉢	体部破片	床直上	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	体部下半。垂下沈線3条による懸垂文構成。空白部に縦位R/Lを充填し、縦位刺状波状文を加える	中期後葉

種別 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄/色/調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第81図 PL.82	28	深鉢	体部大破片	埋上下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	大型の深鉢体部中位。2条沈線で囲まれた磨消部懸垂文構成。L R縦位充墳施文後波底部対応の垂下沈線2条を加える。外面上半 に優付着	中期後葉
第81図 PL.82	29	深鉢	体部破片	埋上位	粗砂粒・石英・輝石/ 軟にぶい赤褐色	内湾する体部上半。磨消面減のため利然としないが、縦位R Lが 器面を覆う	中期後葉?
第81図 PL.82	30	深鉢	体部→底部 残存	埋上下位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	小型深鉢。底径:4.8cm。器厚薄手。体部は緩やかに開く。上半で 若干内湾する。縦位密接線施す	中期後葉
第81図 PL.82	31	浅鉢	体部下半→ 底部残存	埋上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい赤褐色	あるいは悪か。底径7.4cm。底部は僅かに上げ底。体部下半に横 位弧状沈線を多段に配し、施文部と磨消部を交互に配す。施文部 隅文はL R充墳。磨消部及び底部、内面は丁寧な研磨を施し、赤 彩痕を見る。内面に顕著だが意匠文は不明。丁寧な作りである	中期後葉
第81図 PL.82	32	有孔罇付	口縁部一部 体部1/2残 存	埋上位	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	口径:(23.0)cm。口縁部直立し無文。頸は強く突出し跨上下で 貫孔する。体部上半に最大径を持たせ、低位の2条隆線による消 巻文を配す。無線は幅広の沈線で丁寧な施文。消巻文間は無整形 区画文や小渦巻文が配され、細渦文L Rを充墳する。体部下半は 沈線による逆U字状や餅手状懸垂文を充てず。内外面赤彩を施す。 内面に顕著だが意匠文としては利然としない。内面研磨	中期後葉
第82図 PL.83	33	深鉢	口縁部破片	床直	粗砂粒・輝石/良好/ 暗褐色	緩やかに内湾する幅広無文の口縁部。横位2条隆線と縦位腕付状 意匠文を配す。空白部は縦位矢羽状沈線を充墳する。口縁部及び 内面は強い研磨を施す	中期後葉
第82図 PL.83	34	深鉢	口縁部破片	埋上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	幅広無文の口縁部。1条の横位隆線を設け以下斜位短沈線を施す。 内面強い研磨	中期後葉
第82図 PL.83	35	深鉢	口縁部破片	床直	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/黒褐色	樽状の器形。口縁部は内湾し無文。体部上半に横位隆線で囲まれた 幅狭の文様帯を設け消巻文と区画文を配す。体部下半はY字状 懸垂文か。2条隆線間に刺突文、空白部に斜位短沈線を施す	中期後葉
第82図 PL.83	36	深鉢	口縁部破片	埋上位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	隆線による口縁部消巻文と区画文構成。区画内は縦位短沈線を充 墳する。体部は割落するが垂下隆線1条による懸垂文構成か。弧 状短沈線を施す。内面強い研磨	中期後葉
第82図 PL.83	37	深鉢	口縁部破片	埋上下位	粗砂粒・輝石/良好/ 明褐色	平縁。薄手の器形。縦位隆線による口縁部縦位区画。区画内は 細隆線と沈線が沿い斜位短沈線を充墳する。内面研磨	中期後葉
第82図 PL.83	38	深鉢	口縁部破片	埋上	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	平縁。隆線による口縁部消巻文より横位弧状隆線が派生する。側 縁は沈線。空白部には短沈線を充墳する。内面研磨剥落している	中期後葉
第82図 PL.83	39	深鉢	口縁部破片	埋上位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	緩やかな波状縁。波頂部に縦位S字状意匠文を配し、口縁部は幅狭 2部に分かれ下位が区画文構成。体部はS字状意匠下端からの懸 垂文構成か。縦位弧状短沈線を充墳する。内面強い研磨	中期後葉
第82図 PL.83	40	深鉢	口縁部破片	埋上	粗砂粒/良好/にぶ い赤褐色	突出する波状突起。内外面とも波頂部に隆線による消巻文を配し、 外面は2条隆線が垂下する。内面内縁も強く突出する。体部内面 強い研磨	中期後葉
第82図 PL.83	41	深鉢	頭部→体部 破片	ビット2	粗砂粒・石英・輝石・ 雲母/良好/明褐色	頭部外反し、体部上半に強い内湾を持つ。頭部無文。横位隆線と 横位沈線を加えた縦位隆線による小区画文。区画内は細隆線による 環状意匠が配され、縁辺を刺突文が沿う。隆線側は幅広連続 刺突文	中期中葉
第82図 PL.83	42	深鉢	口縁部破片	埋上下位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	頭部に消巻状小突起を付し、弧状の横位把手が派生する。下端も 消巻状突起を配す。区画文は隆線で囲まれ、横位交互刺突文上下 に細かな斜位短沈線を充墳する。把手及び区画文下端より隆線が 派生する。内外面優付着	中期後葉
第82図 PL.83	43	深鉢	口縁部突起 片	埋上	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/黒褐色	円錐状の突起。器面割落著しい。頭部は沈線が重なり状に施される あるいは懸垂状か。突起下端内縁には沈線による消巻文を配す	中期後葉
第82図 PL.83	44	深鉢	体部破片	床直	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/灰褐色	頭部前部に横位沈線帯を設け、交互刺突文を1条加える。体部 上半に横位沈線に囲まれた幅狭の文様帯を配し、沈線による小渦 巻文を充て、縦位R Lを充墳する。内面頭部は研磨を施す	中期後葉
第82図 PL.83	45	深鉢	体部破片	室内	粗砂粒・石英・輝石・ 雲母/良好/褐色	体部中位か。2条隆線による大柄の消巻文を配す。無線は沈線。 消巻文中心より2条隆線が弧状派生し他の意匠文と連繋する。下 端より2条隆線が懸垂する。空白部は短沈線を充墳する	中期後葉
第82図 PL.83	46	深鉢	体部破片	埋上位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい赤褐色	体部上半か。隆線による縦位S字状を配し、内縁より弧状隆線、 下端より垂下隆線が派生する。空白部は斜位短沈線を充墳する。 内面研磨	中期後葉
第83図 PL.84	47	深鉢	体部大破片	埋上位	粗砂粒・石英・雲母 少/や軟/底黄褐色 ・褐色にぶい赤 褐色	2点を同一個体とした。大型の深鉢体部。頭部は緩やかに外反し 無文。体部の湾曲も緩やかである。頭部隆線より1条の隆線が懸 架し弧状区画を配し、各区画は隆線で連続する。区画内及び区画 下端より縦位腕付隆線が懸垂する。無線は沈線で区画内は斜位短 沈線を充墳する。外面体部下半は親熱による変色か、器面割落す る	中期後葉
第83図 PL.84	49	深鉢	体部破片	埋上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	内湾する体部中位か。隆線による弧状区画下端より垂下隆線が 懸垂する。無線は沈線。区画内・空白部は斜位短沈線を充墳する	中期後葉

種目 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第83図 PL.84	50	深鉢	体部破片	埋上下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい赤褐色	2条降線による渦巻文を配し、下端より同降線による懸垂文が派生する。隣接して降線による弧状区画状意匠も配される。側縁は沈線、空白部は斜位短沈線を充満する。	中期後葉
第83図 PL.84	51	深鉢	体部破片	伊勢	粗砂粒・石英・輝石・ 雲母/良好/褐色/褐色	体部中位か、2条降線による大形の渦巻文を配す。側縁は沈線。渦巻文中位より2条降線が弧状派生し他の意匠文と連繋する。下端より2条降線が懸垂する。空白部は短沈線を充満する。	中期後葉
第83図 PL.84	52	深鉢	体部破片	床直上	粗砂粒・石英・輝石・ 雲母/良好/褐色	薄手。被熱のためか内面凹陥部落着し、2条降線による弧状意匠、おそらく渦巻文。中位より1条の降線が連繋する。側縁は沈線。空白部は斜位短沈線を充満する。	中期後葉
第83図 PL.84	53	深鉢	体部破片	伊内	粗砂粒・輝石/やや 軟/明赤褐色	垂下降線2条の下端が縦位蛇行降線と連繋し縦長の区画を画する。空白部は斜位短沈線を充満する。内面弱い研磨。外面面磨減	中期後葉
第83図 PL.84	54	深鉢	体部破片	床直上	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい赤褐色	2条降線による懸垂文構成か。空白部は短沈線による縦位矢羽状文を充満する。	中期後葉
第83図 PL.84	55	深鉢	体部破片	床直上	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい赤褐色	2条降線による懸垂文構成か。破片右端には弧状降線も見られる。空白部は短沈線による縦位矢羽状文を充満する。内面弱い研磨	中期後葉
第83図 PL.84	56	深鉢	体部破片	埋上位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい赤褐色	垂下降線1条による懸垂文構成か。側縁は沈線。空白部は横位短沈線を充満する。内面弱い研磨	中期後葉
第84図 PL.85	57	深鉢	体部破片	埋上位	粗砂粒・石英・雲母 少/やや軟/灰黄褐色 ・褐色・にぶい赤 褐色	2点を同一個体とした。大型の深鉢部。頸部は緩やかに外反し無文。体部の曲面も緩やかである。頸部降線より1条の降線が懸架し弧状区画を配し、各区画は降線と連続する。区内及び区間下端より縦位蛇行降線が懸垂する。側縁は沈線で区画内には斜位短沈線を充満する。外面体部下平は被熱による変色か。器面磨減する	中期後葉
第84図 PL.85	59	深鉢	口縁部破片	埋上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/黒褐色	平縁。口唇部外面肥厚部より蛇行降線・弧状降線・垂下降線が派生する。空白部は斜位短沈線の充満。口唇部肥厚部の粘土結晶付着が極めて明瞭	中期後葉
第84図 PL.85	60	深鉢	体部下平～ 底部残存	床直上	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/赤褐色	底径:9.0cm。体部下平・弧状降線下端を見る。内面上位に被熱による帯状の黒変部あり	中期後葉
第84図 PL.85	61	深鉢	底部残存	埋上位	粗砂粒・石英・輝石/ やや軟/褐色	底径:8.6cm。外面面磨減。僅かに垂下沈線2条による懸垂文が観察される。内面復付着	中期後葉
第84図 PL.85	62	深鉢	底部残存	埋上位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	底径:8.8cm。外面撫で調整後弱い研磨。無文	中期後葉
第84図 PL.85	63	深鉢	底部破片	埋上位	粗砂粒・石英/やや 軟/明褐色	緩やかに開く体部下平。弧状垂下沈線1条を見る。縄文は器面磨減のため判然としない。縦位Lか	中期後葉
第84図 PL.85	64	浅鉢	口縁～底部 1/4残存	床直上	粗砂粒・片岩/良好/ 明赤褐色	口径:(56.0)、底径:(10.0)、器高:(30.0)cm。大型の浅鉢。平縁で口縁部肥厚し体部上半に曲面を持たせる。内外面を丁寧に研磨し、外面弧状、内面渦巻状の赤色・黒色の塗彩文様を施す。塗彩痕はこの他にも点状し、その他の意匠文も予想される	中期中葉～後 葉
第84図 PL.85	65	浅鉢	口縁～体部 1/5残存	埋上下位	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	口縁部肥厚し体部上半に内湾を持たせる。内外面研磨。赤彩痕を見る	中期後葉
第84図 PL.85	66	浅鉢	口縁部破片	埋上	粗砂粒・片岩/良好/ 褐色	口縁部肥厚。体部器厚薄い。内外面丁寧な研磨を施し、赤彩を加える。意匠文は不明	中期後葉
第84図 PL.85	67	有孔罍付	罍部破片	床直上	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	罍状降帯はほぼ水平に強く突出する。小孔は罍上下を貫孔する。体部に沈線による横位弧線文が配されるが、判然としない。赤彩は内外面に施される。内外面研磨	中期後葉
第84図 PL.85	68	無頸壺	罍部破片	埋上位	粗砂粒・雲母/良好/ 黒褐色	罍状降線を設け小型の楕状把手を付す。体部は幅広い沈線による弧状意匠。赤彩は内外面に見られ、内面に黒色付着物とともに顕著。内面研磨	中期後葉
第84図 PL.85	69	壺	体部破片	埋上	粗砂粒・片岩/良好/ にぶい赤褐色	罍部破片か。降線による渦巻状意匠を配す。内外面研磨し、内面に赤彩痕を見る	中期後葉
第85図 PL.85	70	壺	体部破片	埋上位	粗砂粒/良好/灰褐色	罍部破片か。降線による渦巻状意匠を配す。縄文はLか。内外面研磨を施し、外面一部に赤彩痕を見る	中期後葉
第85図 PL.85	71	無頸壺	体部破片	埋上	粗砂粒・雲母/良好/ 黒褐色	罍部破片か。低位降線による環状意匠を配す。内面赤彩痕と黒色付着物を帯状に見る。意匠文は不明。外面も黒色部があるが判然としない。内外面研磨	中期後葉
第85図 PL.85	72	無頸壺	罍部破片	埋上	粗砂粒・雲母/良好/ 黒褐色	罍状降線を設け小型の楕状把手を付す。体部は幅広い弧状沈線を施す。赤彩は内外面に見られ、内面は黒色付着物も見られる。弧状意匠か。内外面研磨	中期後葉
第85図 PL.85	73	無頸壺	体部破片	埋上	粗砂粒・輝石/良好/ 灰黄褐色	体部上半か。低位降線による弧状意匠文を配す。あるいは渦巻文か。内外面に赤彩痕。内面に顕著で帯状に赤彩と黒色付着物を見る。内外面研磨	中期後葉
第85図 PL.85	74	無頸壺	体部破片	埋上	粗砂粒・輝石・雲母/ 良好/灰色	低位降線による内形状区画。内外面に赤彩痕を見る。内外面研磨	中期後葉
第85図 PL.86	75	無頸壺	体部破片	埋上	粗砂粒・輝石・雲母/ 良好/黄灰色	低位降線による渦巻文。外面に僅かに赤彩痕、内面は黒色漆の付着か。内外面研磨	中期後葉

種別 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第85回 PL.86	76	浅鉢	体部～底部 1/4残存	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい黄褐色	底径:(10.0)cm。直線的に強く開く体部下平。内外面とも丁寧な研磨を施し、上半には僅かながら赤彩痕を見る。外底面縁辺擦れる	中期前半～中葉
第85回 PL.86	77	浅鉢	体部下平の み残存	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい黄褐色	厚手で強く開く体部下平。あるいは大型の深鉢底部か。内外外面面滑。外面縦位削り。内面強い磨で調整か	中期
第85回 PL.86	78	浅鉢	底部残存	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	底径:8.0cm。直線的に強く開く体部下平。内面丁寧な研磨。外面削り調整後低位研磨を加える	中期前半～中葉
第85回 PL.86	79	浅鉢	口縁部破片・ 体部下平 ～底部1/3 残存	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/灰褐色/褐色	2点か同一個体か。双波状突起と單波状突起2種を口縁部に付す2単位構成。区画内を配した口縁部文様等をも有し。体部は無文である。区画内は単独施文の結節状線を充填する。口唇部に刻みを連続する。内面研磨。赤彩痕は少量を見るが判然とし無い。底径(15.0)cm	中期前半
第85回 PL.86	80	浅鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/灰褐色	平縁。口唇部に深い刻みを施す。他は無文。外面強い低位研磨。煤少量付着	中期前半
第85回 PL.86	81	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/灰褐色	平縁。口唇部に深い刻みを施す。他は無文。外面強い低位研磨。煤少量付着	中期前半
第85回 PL.86	82	深鉢	口縁部破片	埋土・Y14	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	双波状口縁。波底部に鰭状小突起付す。波頂部及び口唇部に深い刻みを施す。他は無文。波頂部の一部に赤彩痕を見る。外面に煤付着	中期前半
第85回 PL.86	83	深鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい褐色	長:1.9、幅:1.5、厚:0.3cm、重:0.5g。円基無笠蓋。完成状態。押圧割離が全面を覆い、丁寧な作り。左辺割加工時にアクシオンが生じたらしく、この部分の加工は厚い。石器基部を大きく抉り込む	中期前半
第86回 PL.86	84	石鐮	完形	埋土	黒曜石	長:1.9、幅:1.3、厚:0.5cm、重:1.0g。円基無笠蓋。未製品。加工は粗く、肉厚。概形は完成されているが、先端部が尖らず、未製品を見た	
第86回 PL.86	85	石鐮	完形	埋土上位	黒曜石	長:2.0、幅:1.3、厚:0.5cm、重:1.1g。上下両端から対向する割離部が並んでいる。素材としては薄く、石器に加工しようとして両極割離を選択したものか	
第86回 PL.86	86	楔形石器	完形	埋土	黒曜石	長:(8.4)、幅:2.6、厚:1.4cm、重:28.8g。柳葉形。未製品。表面面とも素材面を大きく残す。加工は粗く、器軸は振している。表面部作目を明らかに意識している	
第86回 PL.86	87	石槍?	基部欠損	床直	珪質頁岩	長:11.3、幅:4.7、厚:1.4cm、重:87.1g。短冊形。完成状態。刃部摩耗が著しい。刃部は屈折気味だが、これは使用中刃部が破損したためで、そのまま継続使用している	
第86回 PL.86	88	打製石斧	ほぼ完形	埋土下位	黒色頁岩	長:12.5、幅:5.8、厚:1.7cm、重:151.9g。短冊形。完成状態。粗粒石材を用いるため、摩耗等は不明瞭だが、側縁のエッジは鈍く、使用状態にあるだろう	
第86回 PL.86	89	打製石斧	完形	炉内	粗粒輝石安山岩	長:12.9、幅:5.9、厚:2.4cm、重:189.5g。短冊形。完成状態。刃部摩耗あり。側縁が潰れ、柄に装着されたことは確実。やや幅広く、側縁は開き気味	
第86回 PL.86	90	打製石斧	ほぼ完形	床直	黒色頁岩	長:16.0、幅:5.3、厚:2.5cm、重:25.2g。短冊形。完成状態。刃部摩耗が著しい。刃部再生は明らかであるが、石斧の変形度は低い	
第86回 PL.86	91	打製石斧	完形	埋土下位	変質安山岩	長:(9.2)、幅:5.9、厚:1.7cm、重:110.8g。短冊形。未製品?刃部には摩耗が見られず、エッジは新鮮である。製作の途中、破損した可能性が高い	
第86回 PL.86	92	打製石斧	上半部欠損	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:(7.2)、幅:5.0、厚:2.1cm、重:144.6g。定向式。全面を丁寧に研磨する。破損後、上端破損面および刃部を最打する	
第86回 PL.86	93	磨製石斧	上半部欠損	床直上	変玄武岩	長:2.4、幅:1.0、厚:0.6cm、重:2.2g。ミニチュア。全面を丁寧に研磨する。上端部破損	
第86回 PL.86	94	磨製石斧	上半部欠損	床直上	変質蛇紋岩		

51区18号住居跡

種別 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第88回 PL.87	1	深鉢	体部のみ残存	炉内	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	体部中位。下半は隆線による懸垂文構成か。上半は方形状区画文が連続する。側縁は沈線。R.Lを充填する。内面上半は被熱痕跡を見る	中期後半
第88回 PL.87	2	深鉢	口縁一部・ 体部1/2残存	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい赤褐色	縦やかな波状縁。波底部のみ口縁残存。口縁部は内屈し無文。体部は沈線で両された磨消部による弧状意匠が横位に連続する。下半に分岐懸垂文上端を見る。縄文はLR充填施文。磨消部・内面弱い研磨	中期後半
第88回 PL.87	3	両耳壺	口縁部残少・ 体部4/5残存・ 底部欠損	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい黄褐色	大型品。口縁部は無文で外反。肩周縁部隆線を設け大型の橋状把手を2単位付す。体部は沈線による透り字状意匠を配し、意匠内空白部には縦位矢羽状沈線を充填する。外面面削落多	中期後半

種目 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄/色/調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第88回 PL_87	4	深鉢	口縁部破片	埋土上位	細砂粒・輝石/良好/ にぶい・赤褐色	波状縁。口縁部隆縁を設け以下弧状沈線を配す。R L 充填施文。内面強い研磨	中期後葉
第88回 PL_5	5	深鉢	口縁部破片	床直上	細砂粒・輝石/良好/ にぶい・黄褐色	厚手の器厚。口縁部隆縁より弧状隆縁が生ずる。浅い沈線を側縁とする。無胎 L を充填する。内面強い研磨	中期後葉
第88回 PL_6	6	深鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい・褐色	小型の弧状突起に隆縁による渦巻文を配す。体部は浅い沈線による逆U字状意匠と縦位帯後縁条線を施す。内面強い研磨。口縁部四隅	中期後葉
第88回 PL_7	7	深鉢	口縁部破片	床直上	細砂粒・石英・輝石/ 良好/黒褐色	波状縁波頂部。隆縁による渦巻文を配す。無胎は撫で。内面強い研磨	中期後葉
第88回 PL_8	8	深鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・輝石/やや 軟/にぶい・黄褐色	器面滑順。口唇部沈線を設け、以下沈線による逆U字状意匠を配す。縄文は判然としないが縦位 L R か	中期後葉
第88回 PL_9	9	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい・黄褐色	口縁部内湾し口唇部に沈線を設ける。以下2条沈線に画された磨消部逆U字状意匠が配される。縄文はR L 充填施文。内面強い研磨	中期後葉
第88回 PL_10	10	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい・褐色	口縁部内湾し口唇部沈線を設ける。以下2条沈線に画された幅狭磨消部による区画状意匠が配される。施文部縄文はR L 充填。縦位帯行沈線が重なる。内面研磨	中期後葉
第88回 PL_11	11	深鉢	体部破片	埋土上位	細砂粒・輝石/良好/ にぶい・褐色	体部上半。沈線で画された施文部逆U字状意匠が連続する。R L 縦位充填施文。磨消部研磨を加える	中期後葉
第88回 PL_12	12	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい・黄褐色	体部上半。頸部は外反し体部は緩やかな内湾。頸部沈線を設け体部は沈線による逆U字状意匠が連続する。地文縄文縦位 L R を施す。内面強い研磨	中期後葉
第88回 PL_13	13	深鉢	体部破片	床直	粗砂粒・輝石/やや 軟/黒褐色	体部中位。垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は無胎 L 縦位充填施文。内面強い研磨	中期後葉
第88回 PL_14	14	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	体部下半。2条の沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文部は短沈線による縦位矢羽状文を充填する	中期後葉
第88回 PL_15	15	深鉢	体部破片	ビット8	粗砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	体部中位か。上半は外反し下半は内湾する。上半部に沈線3条による懸垂文下部を見る。以下研磨部を経て内湾部に縄文施文。縦位 L を施す。異質な文様構成である。内面研磨	中期後葉
第88回 PL_16	16	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい・褐色	体部中位。垂下隆縁による懸垂文構成。無胎は撫で。縄文はR L 縦位充填施文	中期後葉
第88回 PL_17	17	深鉢	体部破片	ビット8	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	垂下沈線1条による懸垂文構成。地文は無胎 L の縦位・斜位施文	中期末葉
第88回 PL_18	18	深鉢	体部破片	ビット8	粗砂粒・石英・輝石/ 明褐色	垂下沈線1条による懸垂文構成。地文は無胎 L の縦位・斜位施文	中期後葉
第88回 PL_19	19	深鉢	台部のみ残存	埋土上位	粗砂粒・石英/やや 軟/にぶい・褐色	小型の台付き深鉢台部。底径:5.4cm。体部器厚も薄手。無文で器面滑順する	中期後葉
第88回 PL_20	20	深鉢	底部1/3残存	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい・褐色	体部下半は外反し底部突出。無文で底面に二側面を見る。内面掘付着	後期前葉
第88回 PL_21	21	深鉢	把手片?	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい・褐色	把手付深鉢か。両面に刺突文を施し、上端は溝状に沈線を設ける。下端は角状に整形する。全面研磨を加える	後期前葉
第88回 PL_22	22	土製円盤	2/3残存	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	径:4.2×、厚:0.8cm、重:13.2g。深鉢体部破片を利用。僅かに内湾する。無文で強い研磨を施す磨消部か。周縁を打ち欠き六角形に仕上げ	中期後葉か
第88回 PL_23	23	石錐	完形	埋土	黒曜石	長:2.0、幅:1.2、厚:0.3cm、重:0.5g。円錐無芽。完成状態。押圧割離が全面を覆う。加工は丁寧だが、左辺側に球状を含む不純物があり、観形を整える程度に止まる	中期後葉
第88回 PL_24	24	石錐	ほぼ完形	埋土	黒曜石	長:1.8、幅:1.3、厚:0.4cm、重:0.8g。円錐無芽。未製品。観形を整える程度の加工で、側縁加工は踏向。器縁は鋭利、対称性には程よい	中期後葉
第88回 PL_25	25	石錐	完形	埋土	黒曜石	長:2.9、幅:0.9、厚:0.5cm、重:1.0g。表裏面から加工。断面菱形に近い機能部を作出する。機能部先端は著しく磨耗する	中期後葉
第88回 PL_26	26	楔形石器	完形	埋土	チャート	長:4.0、幅:3.6、厚:0.9cm、重:16.7g。両端割離による対向する割離面が上下両端および左右の側縁にある。大型で、片側には踵面を大きく残す	中期後葉
第88回 PL_27	27	加工痕ある剥片	完形	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:10.0、幅:12.6、厚:4.1cm、重:544.3g。幅広剥片の形状を大きく変えることなく、両器縁対面を作出する。石片両面に似た左辺側の対面は著しく磨耗。激しく使われたことが分かる	中期後葉
第88回 PL_28	28	敲石	完形	埋土上位	変質安山岩	長:10.3、幅:4.6、厚:4.6cm、重:306.5g。上下端部に敲打痕を集中する。上端に顕著。裏面に平面面を見る	中期後葉
第88回 PL_29	29	凹石	完形	埋土上位	石英閃緑岩	長:12.3、幅:8.0、厚:4.2cm、重:605.0g。楕円状裏面中央に小型の凹みを各1箇所設ける。両辺は平面面を見る	中期後葉
第90回 PL_87	30	石棒	体部のみ残存	埋土上位	デイスサイト	長:(14.2)、幅:11.1、厚:10.1cm、重:1780.0g。敲打による丁寧な体部の仕上げ。転用のためか上下を意図的に欠削する	中期後葉
第90回 PL_87	31	多孔石	一部欠損	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:(16.3)、幅:13.5、厚:8.8cm、重:2530.0g。多孔質向縦。表裏面・左側面にやや大型の孔を集中する。側面は縦。孔断面形は円錐状	中期後葉

種図 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL-88	32	磨石	完形	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:26.4、幅:18.6、厚:14.3cm、重:11340.0g。大型の楕円状円盤。表面に平滑な凸やかな磨打痕を見る	
PL-88	33	多孔石	破片	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(10.3)、幅:(11.9)、厚:(8.0)cm、重:1225.0g。円盤か。部表面割著しい。小型で深い孔を裏面に有る	

51区19号住居跡

種図 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第91図 PL-88	1	深鉢	口縁部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/黄褐色	口唇部欠損。隆線による口縁部区画文。凹線を側縁としLRを充填する	中期後葉
第91図 PL-88	2	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/灰黄褐色	内湾する体部上半。沈線による逆U字状凹線が縦位に連続する。地文に縦位LR	後期前葉
第91図 PL-88	3	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・良好/ に赤い黄褐色	体部上半。横位隆線を設け円形貼付文を付す	後期初葉
第91図 PL-88	4	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	横位沈線を設け上位に沈線による弧線文を施す。地文は無彫L	後期中葉
第91図 PL-88	5	深鉢	口縁部破片	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	口縁部内屈し突起を付す。円文沈線を配す。体部は細隆線2条による弧状・楕状意匠を配す。内外面研磨	後期前葉
第91図 PL-88	6	土製円盤	完形	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ に赤い黄褐色	径:3.5×3.3、厚:1.0cm、重:14.2g。深鉢体部破片を利用。無文。磨消部か。周縁を丁寧に磨滅する	中期後葉か
第91図 PL-88	7	深鉢	口縁～体部 破片	埋土下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/浅黄褐色	口径:(38.0)cm、バケツ状の器形。横位沈線2条を一組として多段に配し逆Z字状の区切り文を加える。地文は無彫L。口唇部内面太い横位沈線2条を設ける。内面弱い研磨	後期中葉
第91図 PL-88	8	石鏝	完形	埋土下位	粗粒輝石安山岩	長:1.7、幅:1.4、厚:0.4cm、重:0.7g。円錐無茎錐。完成状態。加工は粗く、やや雑な作り。基部を浅く挽り、先端は鋭り気味	
第91図 PL-88	9	打製石斧	完形	埋土下位	粗粒輝石安山岩	長:10.7、幅:5.4、厚:1.8cm、重:122.6g。短冊形。完成状態。側縁には磨滅痕が残る。現状で対部磨耗は見られないが、これは対部再生によるもの。側縁は開き気味	
第91図 PL-88	10	不明石製品	破片	埋土	軽石	長:(4.3)、幅:(2.4)、厚:1.3cm、重:3.8g。目が粗く研磨痕は不明瞭だが、無縁は切り取られたように平出で、全面を研磨していることは確実。破損品だが、装飾品素材ということになろう	

51区20号住居跡

種図 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第94図 PL-88	1	深鉢	口縁～体部 1/4残存	埋土上位・279坑	細砂粒・石英・雲母 良好/灰褐色	小型深鉢。平縁で口径:(18.2)cmを測る。口縁部は横位隆線で幅状に画され縦位短沈線を充填する。体部は隆線による剣先状意匠が配される。おそらく4単位。空白部は1本描きの縦位沈線を充填する。内面研磨	中期後葉
第94図 PL-88	2	深鉢	体部のみ残存	坑内	細砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	体部上半は外反し、中位で僅かに内湾する。縄文のみの施文で縦位R Lを施す。内面弱い研磨。外面上半に加熱磨痕を見る	中期後葉
第94図 PL-88	3	深鉢	口縁～体部 1/2残存	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/に赤い赤褐色	小型深鉢。口径:11.8cm。口縁部は開き、体部内湾する。器面磨滅のため判然としないが、体部に沈線による逆U字状意匠が配される。縄文は無彫L	中期後葉
第94図 PL-88	4	深鉢	体部1/4残存	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	頸部は強く開き体部中央で屈折する。頸部横位沈線を設け、体部は沈線による意匠文が配される。下端は懸垂文か。地文は無彫LR。内面弱い研磨を施す	中期後葉
第94図 PL-88	5	深鉢	口縁～体部 下半3/4残存	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	口縁部幅広で無文。頸部に隆線による楕円状区画文を連続する。体部は2条隆線による大柄の渦巻文を配し、小型の渦巻文と剣先状意匠を介して横位隆線と繋ぐ。渦巻状意匠下端より隆線が懸垂する。空白部は楕状短沈線や斜位短沈線を充填する。体部は4単位構成。内面体部下半に覆付着。被熱磨跡	中期後葉
第94図 PL-89	6	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 明赤褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。幅状である。区画内側縁は沈線。縦位短沈線を充填する。内面保付着	中期後葉
第94図 PL-89	7	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	口縁部隆線を設け、2条隆線による渦巻文を配す。側縁は沈線。縄文は斜位R L。口唇部・内面弱い研磨	中期後葉
第94図 PL-89	8	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/に赤い褐色	樽状の器形か。口縁部下位に隆線による渦巻文を配す。体部は2条隆線による縦位楕円状区画文が連続する。区画内や空白部は斜位短沈線を充填する	中期後葉
第94図 PL-89	9	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/灰黄褐色	緩やかな波状縁。2条隆線による渦巻文と懸垂文。沈線と剣先文を側縁とする。口唇部にも沈線を加える	中期後葉
第94図 PL-89	10	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	隆線による渦巻文を配し2・3条の隆線が横位・縦位に派生する。側縁に沈線や円形剣先文。下位は細かな縦位矢羽状沈線を施す	中期後葉
第94図 PL-89	11	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・多/ 良好/赤褐色	体部上半に横位2条隆線が連続し幅状の文様帯を設ける。楕状把手が上位に派生し、上位には2条沈線による弧状意匠と剣先文が沿う。体部は2条隆線が懸垂し、縦位矢羽状沈線が施される	中期後葉

種目 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第94図 PL.89	12	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母 多/良好/灰褐色	波状縁。おそらく楕状把手を付す。把手向下部に渦巻文を配し頸部隆線と接す。口縁部区画内は縦位矢羽状短沈線を充填する。頸部は無文。内面研磨	中期後葉
第95図 PL.89	13	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい褐色	2条隆線と渦巻文、胸背意匠区画。無縁は沈線。空白部に垂下沈線を設け、細かな縦位矢羽状短沈線を充填する	中期後葉
第95図 PL.89	14	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	垂下隆線による無重文構成。おそらく2条隆線。空白部は太かな縦位矢羽状短沈線を充填する	中期後葉
第95図 PL.89	15	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/黒褐色	2条の横位隆線1位は垂下沈線と無縁。下位は垂下沈線2条と縦位矢羽状短沈線を備す。丁寧な施文	中期後葉
第95図 PL.89	16	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	2条隆線による渦巻意匠区画と斜位連絡。空白部は斜位単沈線を充填する	中期後葉
第95図 PL.89	17	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	横位隆線2条以下隆線による剣先状意匠を配す。無縁は沈線。斜位短沈線を充填する	中期後葉
第95図 PL.89	18	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	体部中位屈曲部。2条隆線による渦巻意匠重文。あるいは胸背文か。空白部は細かな縦位矢羽状短沈線を埋める。下半の器面磨減する	中期後葉
第95図 PL.89	19	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	頸部無文。横位隆線2条を設け斜位平行沈線と浮線により格子目状文を配す	中期後葉
第95図 PL.89	20	浅鉢	口頸部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい黄褐色	頸部屈曲部に横位2条隆線を設け、隆線による渦巻文を付す。渦巻文より縦位隆線が派生し、口頸部を画す。区画内は沈線による横位格四状区画文が多段に配される。地文は横位R上	中期後葉
第95図 PL.89	21	浅鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒/良好/黒褐色	角頭状の口頸部を呈し、口縁部は肥厚する。体部上半に内湾を持たせる。内外面丁寧な研磨と赤彩を施す。赤彩意匠は不明。口縁部下に補修痕を穿つ	中期後葉
第95図 PL.89	22	浅鉢	口縁部1/5 残存	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい赤褐色	口縁部内屈し、体部は強く開く。外面削い研磨。口頸部及び内面は丁寧な研磨を施す。赤彩痕は口頸部に僅かに残る	中期後葉
第95図 PL.89	23	石鏡	返し部欠損	埋土	黒曜石	長:2.2、幅:(1.3)、厚:0.4cm、重:0.6g。凹基無芽。完成状態。押圧剥離により丁寧に加工して仕上げている。基部をU字状に深く抉るタイプ。無縁は断面状を呈する	中期後葉
第95図 PL.89	24	石鏡	完形	埋土上位	黒曜石	長:2.0、幅:1.1、厚:0.3cm、重:0.5g。凹基無芽。完成状態。長身で、全面が押圧剥離に覆われている	中期後葉
第95図 PL.89	25	石鏡	完形	埋土	黒曜石	長:1.9、幅:1.5、厚:0.4cm、重:0.7g。凹基無芽。完成状態。全面が押圧剥離に覆われ、丁寧に作り、両無縁は断面状に近い	中期後葉
第95図 PL.89	26	石鏡	ほぼ完形	埋土	黒曜石	長:2.4、幅:1.4、厚:0.4cm、重:0.9g。凹基無芽。完成状態? 全面が押圧剥離に覆われ、加工は丁寧。両端の返し部を欠損する	中期後葉
第95図 PL.89	27	石鏡	完形	埋土	黒色頁岩	長:6.5、幅:1.9、厚:0.9cm、重:9.3g。縦型。加工は鋸的的で、表面とも素材面を残す。積み部の作出は不十分だが、機能的には完成されている	中期後葉
第95図 PL.89	28	打製石斧	ほぼ完形	埋土	黒色頁岩	長:9.2、幅:5.6、厚:2.0cm、重:104.8g。短冊形。完成状態。対部摩耗が激しい。背面側摩耗は裏面側に比べ広い。裏面側に捲轉痕が残る。無縁は開き気味	中期後葉
第95図 PL.89	29	打製石斧	ほぼ完形	埋土	黒色頁岩	長:10.4、幅:4.3、厚:1.7cm、重:93.8g。短冊形。完成状態。背面側摩耗は広く、裏面側の倍程度。対部両生が明らかである。歯部を被損する	中期後葉
第95図 PL.89	30	打製石斧	下半部欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(10.0)、幅:5.8、厚:2.6cm、重:201.8g。短冊形。完成状態。やや幅広く、無縁は並行する。着柄を想定してエッジを激しく潰す	中期後葉

51区21号住居跡

種目 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第95図 PL.89	1	石鏡	完形	住居外	珉質頁岩	長:2.3、幅:1.6、厚:0.5cm、重:1.4g。凹基無芽。完成状態。基部を浅く抉る。周辺加工して器体を作出。裏面加工はトリミング程度	

51区22号住居跡

種目 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第97図 PL.89	1	深鉢	口縁-体部 1/3残存	床直	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい褐色	口径:(24.0)cm。口縁部把手を付すが欠損。遺存部から図は波底部を正面とした。口縁部は無文で横位2条隆線で体部を画す。体部は2条隆線による胸背意匠重文を配す。4単位か。空白部は沈線により縦位区画文が配され、縦位矢羽状短沈線を充填する。器面磨減、剥落多い	中期後葉

51区23号住居跡

棟目 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第999 PL.90	1	深鉢	体部破片	ビット7	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/黒褐色	弧状隆線を配し、隆線による環状意匠を配す。無線は連続刺突文と沈線。三叉文と凹形刺突文を施す	中期中葉
第999 PL.90	2	深鉢	口縁部突起 片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/灰褐色	粗砂粒・石英・雲母、正面に沈線による環状意匠を配す。口縁部文様帯は幅狭で縦位短沈線を充填する。体部は縦位R.Lを施す	中期後葉
第999 PL.90	3	浅鉢	口縁部1/4 残存	埋土	粗砂粒・輝石/やや 軟/明褐色	口径：(42.0) cm。口縁部内外面厚直立気味に開く。体部上半に膨らみを持たせる。内外面に赤彩痕を見る。内面に顕著。体部中位器面磨滅	中期後葉

51区24号住居跡

棟目 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第1000 PL.90	1	深鉢	底部残存	埋土下位	粗砂粒・繊維/良好/ 明黄褐色	尖底部。丸底を呈す。0段多条R.L及び0段多条L.R斜位施文。内底面に縦が付着する	前期初頭
第1000 PL.90	2	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・繊維・石英/ 良好/褐色	体部下平か。0段多条R.L斜位施文。外器面磨滅。内面平滑	前期初頭
第1000 PL.90	3	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・繊維・石英/ 良好/明褐色	0段多条R.L横位施文。内面平滑	前期初頭
第1000 PL.90	4	磨石	完形	埋土下位	粗粒輝石安山岩	長:9.3、幅:7.5、厚:3.2cm、重:313.7g。扁平な楕円状。表裏面に平滑面を有す。中央に敲打による孔を見るが顕著ではない。裏面は凍結による割落か	
第1000 PL.90	5	石皿?	破片	埋土下位	緑色片岩	長:(17.3)、幅:(12.1)、厚:2.8cm、重:762.0g。縁も突出しないが、表裏面中央に磨面を見るため石皿とした。おそらく掘入品。裏面は平滑面を有し、縦状痕を見る	
PL.90	6	凹石	一部欠	埋土下位	粗粒輝石安山岩	長:(11.5)、幅:9.0、厚:3.6cm、重:411.5g。やや扁平な楕円状円盤。表裏面に凹みと平滑面を持つ	
PL.90	7	磨石	一部割落	埋土下位	粗粒輝石安山岩	長:11.4、幅:7.3、厚:4.1cm、重:633.5g。楕円状円盤。表面に平滑面。裏面の多くは割落。被熱によるものか	
PL.90	8	割片	完形	埋土下位	粗粒輝石安山岩	長:10.2、幅:6.9、厚:2.6cm、重:115.0g。不定形な長横割片。縦状痕跡がある	
PL.90	9	割片	完形	埋土下位	変質安山岩	長:9.8、幅:6.2、厚:4.5cm、重:300.5g。節理による割断を主とするが、一部に打撃による調整痕を見る	

51区25号住居跡

棟目 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第1020 PL.90	1	深鉢	口縁~体部 3/4残存	床直	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/ぶい褐色	口径:29.0cm。平縁で口縁部は外反し体部中位で内湾する。口唇部に凹形刺突文を施す。幅広の無文帯を設ける。頸部隆線は2条で小溝巻文を配し下端より2条隆線が懸垂する。体部中位に隆線による弧状意匠を配し下端より隆線が垂下する。縦位R.L充填施文	中期後葉
第1020 PL.90	2	深鉢	口縁部破片	床直・埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/明赤褐色	大型の深鉢。口径:(40.0) cm。口縁部は強く外反し、沈線による弧状意匠を配す。末端が剣先状と渦巻状の小意匠とする。2条の頸部隆線と渦巻状意匠を設け、体部は2条隆線が懸垂し、縦位波状沈線と口縁部意匠を配される。地文は縦位R.L。口縁部内外面弱い研磨。外面口唇部に少量の煤付着	中期後葉
第1020 PL.90	3	深鉢	体部1/5残 存	床直	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	大型の深鉢体部中位。2条隆線による懸垂文構成。さらに垂下沈線で内湾させ、縦位波状沈線を施す。地文は縦位R.Lを間隔状に施す。地文上に垂下沈線・波状沈線を重ねる。内面帯状に煤付着	中期後葉
第1020 PL.90	4	深鉢	体部破片	床直	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/ぶい褐色	内湾する体部中位。渦巻文を配した垂下隆線による懸垂文構成。隆線には内皮沈線が重なる。空白部は垂下沈線数条と縦位R.Lが施される	中期後葉
第1020 PL.90	5	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	3条隆線による懸垂文構成。渦巻文を配しおそく旋背文か。沈線による同様の意匠も配れ、空白部は細かな縦位矢羽状文を充填する。内面煤付着	中期後葉
第1020 PL.91	6	深鉢	体部破片	中内	粗砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	器形の差があるが、2点を同一個体とした。体部上半は縦やかに外反し、中位が内湾する。垂下隆線3条による懸垂文構成。無節Lを縦位に施す	中期後葉
第1020 PL.91	7	深鉢	体部破片	床直	粗砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	同部破片か。短沈線を縦位矢羽状に施し縦位波状文が加わる。内面弱い研磨	中期後葉
第1020 PL.91	9	石籬	完形	床直上	珪質頁岩	長:3.2、幅:1.8、厚:0.5cm、重:2.0g。円基無茎籬。完成状態。石籬として長身の部類に入る。加工は丁寧だが、最終段階の細かな形状修正的な加工らしい。チョコレート色白岩を用いる	

51区26号住居跡

神田 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第104区 PL-91	1	鉢?	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ 暗褐色	あるいは小型深鉢か。口径:(22.2) cm。割みを付す隆線による 大型渦巻文を口縁部に配す	中期中葉末
第104区 PL-91	2	深鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・輝石/やや 軟/にぶい黄褐色	波状縁か。口縁部内面肥理。割みを付す口縁部隆線を設け、2条 隆線による弧状意匠が配される。外面面磨盤。内面研磨	中期末葉
第104区 PL-91	3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/明赤褐色	内湾する体部上半。小型の双環状突起付し、弧状隆線が派生する。 無縁は深い内湾沈線。三叉文や刺突文も加わる	中期中葉
第104区 PL-91	4	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・片岩・雲母/ 良好/褐色	強く内湾する肩部破片か。平行沈線2条による懸垂文構成。別種 工具による縦位波状有筋沈線が内縁を沿う。内面弱い凹で調整の み	中期中葉
第104区 PL-91	5	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	縦位懸垂1が器面を覆う	中期中葉末～ 後葉初
第104区 PL-91	6	石皿	完形	埋土上位	黒曜石	長:2.1, 幅:1.8, 厚:0.3cm, 重:0.7g。円基無蓋盤。未数品?加工 は粗く。左右のバランスを欠く	
第104区 PL-91	7	打製石斧	完形	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:14.1, 幅:5.6, 厚:1.7cm, 重:154.2g。梨形。完成状態。表 裏面とも激しく刃部摩耗するほか、器体上部に懸神痕が残る。こ れに対して側縁のエッジは新鮮	
第104区 PL-91	8	台石か	2/3残存	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:(31.3), 幅:(23.3), 厚:11.5cm, 重:1160.0g。大型の楕円 状円盤。表裏面ともに平滑面を見る。敲打による顕著な凹みかほ ぼ中央に設けられる	

51区27号住居跡

神田 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第106区 PL-91	1	深鉢	口縁～体部 下半残存	伊体	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	口径:29.2cm。重量感ある深鉢。口縁部は無文で直立気味に開く。 押圧を加える縦位隆線を設け、他は無文。外面は入念な研磨を備 す。体部下半に加熱による色調変化を明確に見る	後期初頭
第106区 PL-91	2	深鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	波状縁波頂部の口縁部突起を欠す。沈線による弧状意匠を施す。 内外面研磨。縦付筋	後期初頭
第106区 PL-91	3	深鉢	口縁部破片	伊内	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	幅広い無文口縁部。横位隆線を設け内凹形付文を付し、重下隆線 が派生する懸垂文構成。内面弱い研磨。縦付筋	後期初頭
第106区 PL-91	4	深鉢	体部破片	伊内	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい赤褐色	無文。外面強い縦位研磨。内面強い調整後強い研磨を加える	後期初頭
第106区 PL-92	5	深鉢	頸部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	強い押圧を加える縦位隆線を設ける。他は無文	後期初頭
第106区 PL-92	6	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい黄褐色	強い刺突文が密接施文される	後期初頭
第106区 PL-92	7	深鉢	体部下半 1/4残存	床直	粗砂粒・石英/やや 軟/褐色	大型の深鉢体部下半。無文。外面縦位削り調整。内面横位削り調 整。外面上半に覆付する。使用による里面を見る	後期初頭
第106区 PL-92	8	深鉢	体部1/3残 存	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/濁灰色	隆線による縦位紡錘状区画文が連続する。下縁は分岐懸垂文。側 縁・充填文とも1本筋状沈線で三叉文も加える	中期中葉末
第106区 PL-92	9	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:7.2, 幅:5.8, 厚:4.6cm, 重:265.3g。やや歪な球状を呈す。 表裏面中央に強い平滑面を持つ。敲打痕は全面に広がる	
第106区 PL-92	10	石皿 ?	1/2残存	床直	粗粒輝石安山岩	長:(14.9), 幅:18.3, 厚:6.1cm, 重:2015.0g。顕著な皿状の凹 みもなく、僅かな凹みが見られる。磨面があるが平滑面ではない。 裏面は孔が中央に集まる	
第106区 PL-92	11	打製石斧	下半欠損	埋土上位	変質安山岩	長:10.9, 幅:5.1, 厚:1.8cm, 重:126.3g。短冊状を呈し、頭部を 扁平に仕上げ、両側縁に入念な調整を備す	
第106区 PL-92	12	割片	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:5.5, 幅:9.0, 厚:1.7cm, 重:392.5g。	

51区28号住居跡

神田 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第110区 PL-92	1	深鉢	把手・口縁 ～体部1/4 欠損	埋土上位 伊内	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/灰褐色	口径:31.4, 器高:41.6, 底径11.0cm。波状縁波頂部を欠損。2単位 の楕円状把手を付す。内縁を突出する。波頂部下に内孔を設け、 渦巻状意匠下縁より隆線が垂下する。頸部に横位隆線2条を付し、 胸骨状懸垂文を体部に4単位配す。沈線による同様の意匠と波状 懸垂文も充てられる。視野R1Rを縦位に充填する。体部下半は 磨滅著しい	中期後葉
第110区 PL-92	2	深鉢	口縁部2/3・ 体部1/3欠 損	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい赤褐色	緩やかな4単位波状縁。口縁部は外反し体部は緩やかに内湾する。 体部上半に小型の楕円状把手を設ける。4単位か。口内面隆線を付し、 幅広い内縁を持つ。波頂部の渦巻状突起より2条隆線が垂下し、 体部区画文に接する。2条隆線間には刺突文を重ねる。体部 区画文も2条隆線で囲われ斜位平行沈線を充填する	中期後葉

種目 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄/色/調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第11080 PL-93	3	深鉢	体部下平～ 底部3/4欠損	埋上下位・Y-10	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	口径:19.8、器高:25.5、底径:7.0cm。波状突起4単位、3単位を欠す。突起には隆線による渦巻文を配し、下端より縦位楕円状意匠を懸垂し、体部にも連続する。隆線間には平直管状工具による刺突文を施す。頸部隆線1条を設け、体部懸垂文間には縦位平行沈線で再区画する。空白部は細かな平行沈線を斜位に充填する体部中位で強く内湾する。2条隆線による弧状意匠を配す。おそらく4単位。意匠内及び体部下平は縦位沈線を密に施す。内面強い研磨。使用直上して内面に黒色変色部を帯状に見る	中期後葉
第11084 PL-93	4	深鉢	体部下平 4/5残存	埋上下位	細砂粒・石英/良好/ 明赤褐色	内径沈線3条による区画文。区画内は渦巻状小意匠やスリット状の短沈線を配す。縄文は縦位R Lを地文とする	中期後葉
第11086 PL-93	5	深鉢	体部破片	床直上	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	底径:(8.6)cm。垂下沈線2条に画された滑消部懸垂文構成。胎文部縄文はL R縦位充填施す。胎文磨減	中期後葉
第11088 PL-93	6	深鉢	底部1/3残存	埋土	粗砂粒・石英/やや 軟/にぶい黄褐色	縦位滑車状突起。正面孔・背面孔もあり中空状をなす。突起外縁は隆線で縁取られ、突起下位より逆U字状隆線が垂下する	中期後葉
第11090 PL-93	7	深鉢	口縁部突起	埋上下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/黒褐色	体部上下平か。2条隆線を横位に設け、以下横位矢状短沈線を施す	中期後葉
第11092 PL-93	8	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/灰褐色	体部上下平か。2条隆線を横位に設け、区画文を配すか。下位は2条隆線による逆U字状意匠を配す。隆線間には深い刻みを施す。空白部は横位沈線部を充填し。縦位沈線を加える	中期後葉
第11094 PL-93	9	深鉢	体部破片	床直上	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	外反する体部上下平。3条隆線による縦位渦巻文より横位隆線が派生する。斜位短沈線を充填する。内面強い研磨。強く内湾する体部上下平。2条隆線による縦位渦巻文を配し、横位・縦位に隆線が派生する。斜位短沈線を充填する。内面強い研磨。10と同一個体か	中期後葉
第11096 PL-93	10	深鉢	体部破片	埋上下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい褐色	体部小径で、縦位隆線による縦位渦巻文を連続して配す。側縁は短沈線。内外面丁寧な撫で及び研磨。丁寧な作りで輸入品を想起させる	中期後葉
第11100 PL-93	11	深鉢	体部破片	埋上下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい褐色	2条隆線による懸垂文構成か。側縁は沈線。空白部は斜位短沈線を充填する。内面少量の塚付着	中期後葉
第11102 PL-93	12	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	2条隆線による懸垂文構成か。側縁は沈線。空白部は斜位短沈線を充填する。内面研磨	中期後葉
第11104 PL-93	13	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい赤褐色	垂下隆線による懸垂文構成。縦位沈線で小径画され斜位短沈線を充填する。沈線は平行沈線の施文で深く掘り	中期後葉
第11106 PL-93	14	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	垂下隆線1条と縦位沈線による懸垂文構成か。空白部は横位弧状短沈線や斜位短沈線を充填する	中期後葉 「郷土式」
第11108 PL-93	15	深鉢	体部破片	床直上	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/明赤褐色	蛇行隆線による懸垂文構成。縦位密接条線を充填施文する	中期後葉
第11110 PL-93	16	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	体部上下平に凹線部と平行沈線による斜格子目文を設ける。以下2条隆線を横位配し、Y字状懸垂文を付す。空白部は縦位平行沈線を埋める	中期後葉
第11112 PL-93	17	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	横位蛇行隆線に画された斜格子文を配し、以下弧状・垂下隆線が付され、縦位平行沈線部が施される	中期後葉
第11114 PL-93	18	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	体部中位か。横位沈線3条を設ける。地文は斜位L R。内面研磨	中期後葉
第11116 PL-93	19	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	口唇部内屈し口縁部破片に内湾する。無文で内外面強い研磨を加える。内面腹量の赤彩を見るが明瞭ではない	中期後葉
第11118 PL-93	20	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・片岩/良好/ 明赤褐色	屈面部に刻みを付し、口縁部には隆線による大型の渦巻文を配す。渦巻文端部は強く突出する。深い沈線を無断とし、縦位沈線を充填する。内面研磨	中期後葉
第11120 PL-93	21	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 明赤褐色	大型の浅鉢。口径:(54.0)cm。器厚も2.5cmを測り重量感を持つ。口縁部外傾し、口縁部下に撫でによる浅い凹部を設ける。内縁は丸みを帯びるが明瞭。内外面研磨。赤彩は口縁部内外面に痕跡を見る	中期後葉
第11122 PL-93	22	深鉢	口縁部1/5 残存	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	口縁部に波状突起を付す。口縁部文様帯は小型の環状突起と弧状突起を横位弧状隆線で繋ぐ。2・3条の沈線を側縁とし、弧状短沈線を充填する。頸部は屈曲し横位隆線以下斜位沈線を施す。内縁強い	中期中葉
第11124 PL-93	23	浅鉢	口縁部破片	床直	粗砂粒・輝石/良好/ 明赤褐色	平縁。縦位環状小突起を付し弧状隆線が派生する。側縁は沈線。内縁顕著。内面に少量の塚が付着する	中期中葉
第11126 PL-93	24	浅鉢	口縁部破片	床直	粗砂粒・輝石/良好/ 明赤褐色	長:1.8、幅:2.0、厚:0.6cm、重:1.5g。円基無蓋。完成状態。基部は強く折れる程度。先端部は鋭り気味	中期後葉
第11128 PL-93	25	浅鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 明赤褐色	長:2.4、幅:1.8、厚:0.8cm、重:1.9g。縦型?小形剥片の先端側に機能部を作出する。先端部を破損。機能部の詳細は不明	中期後葉
第11130 PL-93	26	石鏃	完形	埋土	チャート	長:12.3、幅:5.8、厚:2.4cm、重:175.7g。梨形。完成状態。裏面に比べて背面側の摩耗が強い。側縁は開き気味である	中期後葉
第11132 PL-93	27	石鏃	先端部破損	埋土	赤碧玉		
第11134 PL-93	28	石鏃	先端部破損	埋土	赤碧玉		
第11136 PL-93	29	打製石斧	完形	埋土上位	変質安山岩		

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄/色/調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第1118R PL.93	30	打製石片	上半部欠損	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:(9.8)、幅:5.7、厚:2.4cm、重:139.8g。短冊形。完成状態。刃部摩耗が著しい。装着を意図して向側縁ともエッジを潰している。刃部再生が明らか	
第1118R PL.93	31	打製石片	下半部欠損	埋土	蛇紋岩	長:(9.4)、幅:4.8、厚:2.4cm、重:157.4g。短冊形。完成状態。現状で、エッジは激しく潰れ、首柄されたものと見られる。表裏面とも摩耗しているようだが、本来石材が持つ光沢かもしれない	
第1120R PL.94	32	磨石	完形	床直	石英閃緑岩	長:11.8、幅:8.9、厚:6.3cm、重:1027.2g。表裏面に平滑面を持つ。敲打痕は細かく強く集中しない	
第1120R PL.94	33	凹石	完形	埋土下位	粗粒輝石安山岩	長:15.3、幅:12.2、厚:6.2cm、重:1530.0g。楕円状。表面中央に細かな敲打の集中による凹みを見る。表裏面とも強い磨面を持つ	
第1120R PL.94	34	石皿	完形	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:26.2、幅:23.5、厚:6.8cm、重:7350.0g。やや扁平な円盤。縁は突出し細き出し部にかけて、敲打により丁寧に整形する。皿部は磨面を見るが平滑ではない。裏面は小孔を少数設ける	
PL.94	35	台石	破片	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(13.4)、幅:(20.4)、厚:6.2cm、重:2350.0g。扁平な円盤。表面に顕著な平滑面。裏面に敲打痕を見る	
第1120R PL.94	36	深鉢	体部下半～ 底部1/3残	不明	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	垂下隆線3条。波状隆線による懸垂文構成。波状隆線上部には渦巻状意匠を配し、刺突文が沿う。縦位密着縁を充填する	中期後葉

51区29号住居跡

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄/色/調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第1130R PL.94	1	浅鉢	口縁部破片	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ 明赤褐色	口唇部肥厚し口縁部は強く内湾する。赤色が内外面に見られる。外面意匠は弧状か	
第1130R PL.94	2	凹石	完形	炉内	粗粒輝石安山岩	長:16.1、幅:14.4、厚:4.3cm、重:1680.0g。扁平な円盤。敲打による凹みが表裏面中央に集まる。磨面もあり表面は平滑面となる。左側面に敲打痕を見る	
PL.94	3	石核	完形	埋土	黒曜石	長:3.4、幅:2.8、厚:2.4cm、重:34.8g。種子状を呈す。明確な石核消費は行われていない。透患で、径1cm弱の球跡を多く含む	

52区1号住居跡

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄/色/調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第1180R PL.94	1	深鉢	口縁～体部 残存	南壁際床直	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/濁灰色	口径:23.0cm。括弧の弱いキヤリバー状深鉢。口縁部は隆線による渦巻文と区両文構成。渦巻文は中に配される。区両上位は沈線で両す。縦位短沈線を充填する。体部は縦位沈線3条で上位を両され、2・3条の沈線で渦巻状意匠と縦位波状沈線を配す。口縁部は7単位。体部は5単位構成である。地文は燃赤R縦位施文	中期後葉
第1180R PL.94	2	深鉢	口縁～体部 残存	ビツト6南伏裏 床直	粗砂粒・石英・輝石/ やや軟/浅黄褐色	口径:22.5cm。頸部で屈曲するキヤリバー状深鉢。口縁部は2条隆線による渦巻文と区両文構成。渦巻文は小型で上位に付される。区両上位は沈線のみで両す。縦位短沈線を充填する。頸部無文帯は幅状で屈曲部に沈線による長楕円状意匠を横位に配す。円形刺突文を埋める。体部も沈線のみ施文で中心の渦巻文を中核に横位・縦位に2・3条の沈線が派生する。縦位波状沈線も配される。地文は縦位LR。口縁部・体部とも6単位構成	中期後葉
第1180R PL.94	3	深鉢	体部破片	床直	粗砂粒・輝石/やや 軟/褐色	内湾する体部上半。頸部に横位沈線と刺突文を設け、体部は沈線による「田」字状意匠を配す。中核に小渦巻文を施し、縦位波状沈線が重なる。地文は縦位LR	中期後葉
第1180R PL.94	4	深鉢	体部残存	炉内	粗砂粒・輝石/やや 軟/ぶい黄褐色	内湾する体部器形。体部中に横位沈線を施し、以下渦巻文を意図した突起を付す。突起下端より2条隆線が懸垂する。地文に縦位沈線群を施す。やや複雑な施文。被熱のため体部中心及び内面器壁剥落著しい	中期後葉
第1180R PL.94	5	釣手上器	釣手欠損	南壁際床直	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	口径:21.3、底径:10.5、高さ:9.6cm。釣手上半は欠損。釣手基部に横位楕円状把手を設ける。おそらく釣手に沿って幾つか付される。基部向下端に隆線による渦巻状意匠を配し、口唇部と釣手縁辺に円形刺突文を連続する。口縁直文輪にも渦巻状小突起を付す。内面底面に黒面、口縁部付近も変色する。重量感ある	中期後葉
第1180R PL.94	6	ミニチュ ア	体部下半残 存	床直上	粗砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	底径:4.1cm。深鉢か。下半は内湾するがやや凸みを見る。内皮平行沈線による分岐懸垂文とU字状意匠を配す。浅い・細沈線を縦線状に施す。内面に覆付着	中期後葉
第1180R PL.94	7	深鉢	口縁部破片	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	波状縁か。口唇部内縁突出。口縁部は隆線による区両文構成。側縁は沈線。縦位短沈線を充填する。内面研磨	中期後葉
第1180R PL.94	8	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/赤褐色	2条隆線による懸垂文構成。空白部は斜位短沈線を網格子状に充填する	中期後葉

神田 PL. No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第11990 PL.95	9	深鉢	口縁部～体 部破片2点	埋上下位	粗砂粒・石英多・輝 石/良好/灰褐色	樽状の器形を呈す。口唇部端部に沈線を施す。頸部に隆線による 縦線S字状意匠と渦巻文を配し2条隆線を縦位に派生する。隆線 上位には何文かが沿う。体部はS字状意匠下端より3条の隆線が 垂下し、渦巻文下端には沈線による縦位S字状意匠S弧状隆線が 配される。浅い沈線による横位綾杉文を施す	中期後葉
第11990 PL.95	10	深鉢	頸部～体部 破片	埋上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	口縁部に2条隆線による渦巻文と区画文を配し斜位短沈線を充填す る。体部は縦位波状隆線を懸垂し、縞状短沈線を充填する	中期後葉
第11990 PL.95	11	深鉢	体部1/4残 存	床直	粗砂粒・石英/やや 軟/にぶい黄褐色	体部径50cm近い大型深鉢。緩やかに内湾し体部上半に横位隆線を 設け以下2条隆線によるU字状意匠や垂下隆線を配す。U字状意 匠下端より2条隆線が懸垂する。地文に縦位沈線群を施し、横位 長楕円状意匠を多段に加える。器面磨滅著しい	中期後葉
第11990 PL.95	12	深鉢	体部破片	埋上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/暗褐色	体部上半。頸部は無文か。横位沈線3条を設け以下弧状短沈線が 施される	中期後葉
第11990 PL.95	13	深鉢	底部破片	埋上位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい赤褐色	波状隆線による懸垂文横成下端。横位沈線2条を配し、縦位短沈 線を乱雑に施すなど。内面壓付着	中期後葉
第11990 PL.95	14	石皿	完形	床直	黒曜石	長:1.6、幅:1.2、厚:0.4cm、重:0.5g。円皿無蓋型。未製品?粗く 周辺加工して器体を作出する。左右のバンスを欠く	
第11990 PL.95	15	磨石	完形	埋上下位	粗粒輝石安山岩	長:6.9、幅:6.7、厚:2.7cm、重:158.6g。小型の扁平な円盤状表 面に平滑面を持つ。最打痕は細かく散発する	
第11990 PL.95	16	凹石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:9.7、幅:6.4、厚:14.1cm、重:389.8g。最打痕を表面中央に集め、 門みをなす。右側面にも最打痕は集中する	
第11990 PL.95	17	敲石	完形	埋上位	粗粒輝石安山岩	長:13.3、幅:5.1、厚:3.2cm、重:338.5g。棒状円盤下部に細か な最打痕を集める。裏面に平滑面	
第11990 PL.95	18	多孔石	破片	埋上下位	粗粒輝石安山岩	長:(15.1)、幅:(13.1)、厚:8.7cm、重:2400.0g。表表面に孔を 見るが、表面孔は最打痕の集中と考える。石材も比較的緻密で、 別種多孔石か	
PL.95	19	加工痕あ る割片	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:9.3、幅:6.2、厚:1.3cm、重:69.2g。	
PL.95	20	立石	完形	南壁際	粗粒輝石安山岩	長:55.5、幅:22.0、厚:17.4cm、重:27140.0g。	

52区2号住居跡

神田 PL. No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第12290 PL.95	1	浅鉢	口縁部破片	埋上下位	粗砂粒・石英/良好/ 明赤褐色	口唇部外面突出。体部上半に弱い内湾を持たせる。内外面丁寧な 研磨、赤彩彩が残る	中期後葉
第12290 PL.95	2	深鉢	口縁部破片	埋上下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/暗褐色	口縁部渦巻文と区画文横成。無線は沈線で縦位短沈線を充填する。 頸部に無断し斜位無文	中期後葉
第12290 PL.95	3	深鉢	口縁部破片	埋上下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/明赤褐色	小型深鉢。内面に歪みを見る。おそらく波状突起を付し、口唇部 は隆線により突出する。波頂部より太い隆線が垂下する	中期中葉
第12290 PL.95	4	深鉢	体部破片	埋上下位	細砂粒・輝石・雲母/ やや軟/褐色	体部上半。3条の垂下沈線と横位沈線を設ける。区画内は縦位波 状沈線や斜先状意匠を配す。地文は縦位LR	中期後葉
第12290 PL.95	5	深鉢	体部破片	埋上下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい赤褐色	縦位内皮沈線が器面を覆う。内面弱い横位研磨	中期後葉
第12290 PL.95	6	深鉢	体部破片	埋上下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	隆線による縦位渦巻文が連続する。あるいは腕背状意匠か。側線 は沈線で細かな縦位綾杉文を充填する	中期後葉
第12290 PL.95	7	石皿?	下半部欠損	埋上下位	黒色頁岩	長:(1.9)、幅:2.0、厚:0.6cm、重:1.7g。完成状態?先端を突出 気味に作出するほか、側縁はノッチ状を呈する。欠損するため器 体の形状等詳細は不明	
第12290 PL.95	8	打製石斧	上半部欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(7.2)、幅:6.1、厚:2.7cm、重:153.6g。短冊形。完成状態。 表裏面とも濃しく対面摩耗する。石斧頭部を欠く	
第12290 PL.95	9	打製石斧	ほぼ完形	室内	粗粒輝石安山岩	長:9.4、幅:4.4、厚:1.8cm、重:92.5g。短冊形。完成状態。表裏 面とも濃しく対面摩耗する。石斧頭部を欠く	
第12290 PL.95	10	凹石	完形	埋上下位	粗粒輝石安山岩	長:10.0、幅:5.1、厚:3.5cm、重:249.2g。最打痕が表面中央に集 中し凹みとなる。上下端部にも細かな最打痕を見る	
第12290 PL.95	11	不明石製 品	完形	埋上下位	デイスایت	長:9.1、幅:5.9、厚:2.3cm、重:140.0g。扁平盤。表裏面とも研 磨され、側縁に強い鋭が生じている。研磨痕は不明だが、砥石 様に使われたものか	
第12290 PL.95	12	磨石	完形	埋上下位	粗粒輝石安山岩	長:12.8、幅:9.5、厚:3.7cm、重:715.1g。扁平な円盤の表裏面に 平滑面を持つ。最打痕は表面中央に集中するが凹みは弱い	
第12290 PL.95	13	磨石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:13.1、幅:9.5、厚:5.0cm、重:895.0g。表面中央が凹み平滑 面となる。最打痕は細かく散発する	

52区3号住居跡

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/構成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第126区 PL.96	1	浅鉢	口縁部破片	埋土上位	細砂粒・輝石/良好/ 良い/褐色	沈線を重ねた横位隆線による分帯で、楕円状区画文を配し小型の橋状把手を付す。把手は下位からも貫孔する。把手上端と側面に沈線による渦巻文を施す。区画内はやや細かな横位矢羽状沈線を充填する。内外面弱い研磨	中期後葉
第126区 PL.96	2	深鉢	口縁部突起 片	埋土下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	隆線による渦巻文を配した環状突起。下端より2条隆線が垂下する。口唇部に沈線を施し、縦位短沈線を充填	中期後葉
第126区 PL.96	3	深鉢	口縁部破片	埋土下位	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	弧状突起を付す。2条隆線に面された口唇部区画文。波頂部に把手を設けるか。区画内は斜位短沈線を充填する	中期後葉
第126区 PL.96	4	深鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	口唇部内傾し端部弱い。研磨を加える。横位沈線以下刻み付す隆線が垂下する。縦線は沈線	中期後葉
第126区 PL.96	5	深鉢	体部1/3残 存	埋土上位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/明赤褐色	体部中位～下平。2条隆線によるU字状意匠を配す。横位単隆線で繋ぎ、意匠内は隆線によるV字状・U字状意匠が充てられる。沈線を側線とし短沈線を放射状に充填する	中期後葉
第126区 PL.96	6	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/灰褐色	2条隆線による大柄の渦巻文。側線は沈線、横位・斜位短沈線を充填する	中期後葉
第126区 PL.96	7	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	2条隆線による大柄の渦巻文。側線は沈線、縦位・斜位短沈線を充填する。6と同一か	中期後葉
第126区 PL.96	8	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/良い/褐色	体部中位か。2条隆線による弧状意匠。おそろく下平で区画化する。側線は沈線、斜位短沈線を充填する。器面滑	中期後葉
第126区 PL.96	9	深鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	楕円の器形か。隆線による渦巻文を配す。側線は沈線。縦位沈線を充填し、縦位交互刺突文を加える。器面剥落著しい	中期後葉
第126区 PL.96	10	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/赤褐色	体部中位の括れ部か。縦位沈線が覆う。11と同一個体か	中期後葉
第126区 PL.96	11	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/赤褐色	器厚薄手。体部中位の括れ部か。縦位沈線が覆う。内面煤付着	中期後葉
第126区 PL.96	12	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	体部下平。1条の隆線による懸垂文構成。平行沈線を側線とし、空白部は縦位密接線を入れる	中期後葉
第126区 PL.96	13	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/黒褐色	外反する体部上平。3条の垂下沈線に横位沈線が派生する。区画内は縦位波状沈線が配される。地文は縦位・R	中期後葉
第126区 PL.96	14	浅鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・片岩・石英/ 良好/暗赤褐色	口唇部外面突出し、内面は弱い内縁を持つ。内外面丁寧な研磨を施し、赤彩を加える	中期後葉
第127区 PL.96	15	浅鉢	口縁～底部 2/3残存	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/良い/赤褐色	口径:44.2、底径:7.0、高さ:22.0cm。口唇部外面肥厚。体部上平に弱い彫らみを設ける。内面及び内面上下丁寧な研磨。内面下平は器面滑減。赤彩は外面に僅かに見られる	中期後葉
第127区 PL.96	16	浅鉢	口縁部破片	床直	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	口唇部外面肥厚。体部上平に弱い彫らみを設ける。外面弱い研磨、内面は丁寧。内外面に僅かに赤彩が残る	中期後葉
第127区 PL.97	17	石鏝	完形	埋土	黒色頁岩	長:3.5、幅:2.7、厚:0.4cm、重:4.8g。円基無茎鏝。未製品。幅広割片を用い、周辺加工を施し器体の形状を作出する。先端部、返し部の作出とも粗く、概形を整えたのみ	
第127区 PL.97	18	石鏝	完形	埋土	黒曜石	長:2.7、幅:1.0、厚:0.6cm、重:1.7g。縦型?側縁加工し、厚い機能部を作出する。小形・板状割片を用い、割片形状を巧く利用して器面を作出している	
第127区 PL.97	19	打製石斧	完形	埋土上位	細粒輝石安山岩	長:10.2、幅:4.6、厚:1.6cm、重:90.0g。短冊形。完成状態。対部摩耗が著しいほか、擦痕が残る	
第127区 PL.97	20	打製石斧	完形	室内	細粒輝石安山岩	長:10.3、幅:4.7、厚:2.1cm、重:100.7g。短冊形。完成状態。裏面側に背骨面側の対部摩耗が広い。擦痕あり	
第127区 PL.97	21	打製石斧	完形	埋土下位	黒色頁岩	長:9.4、幅:4.6、厚:2.3cm、重:129.9g。短冊形。完成状態。対部摩耗が著しいほか、着柄部として左辺エッジが潰れている。これ以上対部再生できないほど。対部再生が進んでいる	
第127区 PL.97	22	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:10.3、幅:6.8、厚:4.3cm、重:414.5g。平滑面は表面と右側に顕著。右側面は強い稜線。細かな縦打痕を左側面を中心に見る	
第127区 PL.97	23	敲石	完形	埋土上位	石英閃緑岩	長:11.3、幅:7.5、厚:5.4cm、重:700.0g。細かな浅い縦打痕を下端部に集中する。両側面にも散漫に見られる	
第127区 PL.97	24	不明石製品	完形	埋土	軽石	長:3.3、幅:4.4、厚:1.4cm、重:6.2g。石材が粗く研磨は確認できないが、各面とも研磨していることは確実。全体として半円状に整形されている	
第127区 PL.97	25	不明石製品	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:11.3、幅:7.3、厚:2.9cm、重:247.0g。背骨面に確かな確かな有す断面三角形状の確を用いる。石材が粗く、摩耗面認定が困難だが、右側縁は明らかに研ぎ出され、明瞭なエッジが形成されている。用途不明	
PL.97	26	不明石製品?	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:5.1、幅:4.3、厚:3.7cm、重:389.6g。円盤。摩耗して石の目が潰れる。磨石様だが小型過ぎ、詳細は不明。被熱して部分的に煤ける	

52区4号住居跡

神岡 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第13100 PL.97	1	深鉢	口縁～体部 上半1/2残存	南壁際床直	粗砂粒・石英・輝石/ やや黄/浅黄褐色	口径:47.0cm。大型の深鉢。幅広い口縁部文様帯は隆線による渦巻文と区画文を配す。6～7単位。区画内は横矢羽状短沈線を充填する。側縁は施さない。体部は沈線のための施文。縦位波状文3条と1条による懸垂文構成。縦位矢羽状短沈線を充填する。器面磨減。体部下平外面に少量の煤付痕	中期後葉
第13100 PL.97	2	深鉢	口縁～体部 上半1/2残存	床直	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	口径:39.0cm。波状突起を付す。おそく4単位。波頂部に隆線と沈線による環状意匠を配し、口縁部区画文が連続する。頸部隆線下に円文を連続する。体部は沈線による逆U字状懸垂文が配される。體文はR L充填施文	中期後葉
第13100 PL.97	3	深鉢	口縁部破片	埋上下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	沈線による渦巻文を施す波状突起を付す。波頂部より弧状隆線が派生し口縁部文様帯を区画する。区画内側縁は沈線。横位R Lを施す	中期後葉
第13100 PL.97	4	深鉢	体部破片	埋上下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい褐色	体部上半。頸部は外反し体部は緩やかに内湾する。頸部隆線以下体部上半に横位波状沈線、横円状意匠を配す。斜位沈線を充填する。体部下平は垂下隆線2条による懸垂文構成。鱗状短沈線を施す	中期後葉
第13100 PL.97	5	深鉢	口縁部突起 片	埋上下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/赤褐色	側面に渦巻文を配した波状突起。下端部より垂下隆線が派生し、側面に割裂文や沈線を施す	中期後葉
第13100 PL.97	6	深鉢	口縁部突起 片	埋上位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/黒褐色	頂部双波状突起。側面に沈線による渦巻文を施し、下位は横位把手を配す。把手側面は割裂文や沈線を施す。突起内面に渦巻文を配す	中期後葉
第13100 PL.97	7	深鉢	把手破片	床直	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	口縁～体部上半を繋ぐ縦位2連の横位把手。隆線で縁取られ渦巻文を各所に配す。交互割裂文も施される	中期後葉
第13200 PL.98	8	深鉢	体部下平残 存	埋裏	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/浅黄褐色	深く開く体部下平。無文で体部中位が煎熱のため外表面変色する。内面上端部も炭状痕跡を見る。内面斜位研磨、黒色を呈す	中期後葉
第13200 PL.98	9	石鏝	完形	埋上下位	黒曜石	長:2.3、幅:1.3、厚:0.4cm、重:0.5g。円縁無縁鏝。完成状態。全面に押し凹線が施され、薄く仕上がる	
第13200 PL.98	10	石鏝	完形	埋土	黒曜石	長:1.3、幅:0.5、厚:0.2cm、重:0.1g。縦型?極小サイズの部類。側縁の摩耗等も確認できない。サイズの単独使用は困難で、装着して使用したものでしょう	
第13200 PL.98	11	打製石斧	上半部欠損	埋上下位	黒色頁岩	長:(5.8)、幅:4.9、厚:1.1cm、重:39.3g。短冊形。完成状態。表裏面とも激しく摩耗する。上端破損部裏面には破損後の加工が見られ、器種転用しようとした痕跡が表面	
第13200 PL.98	12	打製石斧	側部破片	埋上位	変質安山岩	長:(8.7)、幅:5.7、厚:1.5cm、重:108.0g。短冊形。完成状態?片部摩耗等も確認できないため詳細は不明だが、左辺エッジは弱く摩耗しているように見える	
第13200 PL.98	13	打製石斧	完形	埋上下位	粗粒輝石安山岩	長:7.7、幅:3.5、厚:1.5cm、重:41.7g。短冊形。完成状態。背面側に広く摩耗痕が広がる状況。及び、これを切る周辺加工の存在から、相当な再生加工が行われたものと見られる	
第13200 PL.98	14	磨製石斧	上半部欠損	埋土	蛇紋岩	長:(6.3)、幅:5.1、厚:(2.1)cm、重:95.0g。定向式。扇対気味で、ある程度消耗しているように見える。破損部や側面に打撃痕があり、破損後に敲き石として使用されたものと見られる	
第13200 PL.98	15	磨石	完形	埋上位	粗粒輝石安山岩	長:8.2、幅:7.1、厚:6.8cm、重:598.0g。球状を呈し表面中央に強い平滑面を見る。敲打痕は顕著ではない	
第13200 PL.98	16	敲石	完形	埋土	変質安山岩	長:14.2、幅:3.9、厚:3.5cm、重:282.4g。棒状の円盤上下端部に敲打痕が集まる。上端に顕著	
第13200 PL.98	17	石棒	下半欠損	北東壁際床直	粗粒輝石安山岩	長:(28.7)、幅:12.3、厚:11.5cm、重:630.0g。大型石棒。敲打による頭部整形は丁寧。体部表面も僅かながら平滑面を見る。切断面は意図的な欠損か	
第13200 PL.98	18	敲石	完形	埋上下位	粗粒輝石安山岩	長:11.1、幅:10.8、厚:5.5cm、重:896.3g。円盤下部に敲打痕を集中する	
第13200 PL.98	19	凹石	完形	埋上位	変質安山岩	長:11.7、幅:9.0、厚:5.0cm、重:813.1g。細かな敲打痕を表面に集めるが凹みに至らない。平滑面は表面に顕著で光沢を見る	
第13300 PL.98	20	石皿?	破片	床直上	溶結凝灰岩	長:(23.5)、幅:20.7、厚:5.4cm、重:496.0g。表面中央が僅かに凹み周縁に小孔を設ける。裏面は石面状に凹み平滑面を持つ。縦位擦痕を見る	
PL.98	21	不明石製 品	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:5.3、幅:4.6、厚:3.0cm、重:97.6g。楕円盤。表裏面とも磨減する。3位26と同形。堅果類用磨石としてはやや小形で、別の用途を考えるべきか	

52区5号住居跡

神岡 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第13400 PL.98	1	深鉢	体部破片	埋上下位	粗砂粒・燧石・石英/ 良好/にぶい褐色	バケツ状に開く体部下平。O段多条L RとR Lによる縦位羽状短沈線文構成。内面強い磨で調整	前期初葉

種図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第134図 PL.98	2	磨石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:11.8、幅:8.2、厚:4.7cm、重:752.7g。表裏面に平滑面を持つ。敲打痕は散漫に見るが上下端部に集まる。	
第134図 PL.98	3	敲石	半欠	床直	粗粒輝石安山岩	長:11.0、幅:8.5、厚:5.0cm、重:699.5g。敲打痕を上端部に集める。	
第134図 PL.98	4	凹石	端部欠	床直	粗粒輝石安山岩	長:(10.1)、幅:7.9、厚:4.8cm、重:588.9g。表裏面中央に縦位に凹みが見え連続する。内側縁も顕著に敲打痕が集まり、縦位2箇所 の集中を見る。上端部敲打痕は敲石としての用途か	

52区 G・10号住居跡

種図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第137図 PL.99	1	深鉢	口縁1/3・体部3/4残存	埋設土器	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	口径:40.0cm。口縁部は幅広で無文。頸部に横位隆線で画された幅狭の文様帯を設け、振り状突起による方形区画を配す。区画内は横位矢羽状短沈線を充填する。体部は隆線による渦巻文下端より派生した垂下隆線が縦位波状隆線と体部下半で連続する。斜位短沈線を埋める。体部文様は4単位構成、体部下半は加熱による部厚割渡を見る。	中期後葉
第137図 PL.99	2	深鉢	底部欠損	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい/褐色	口径:24.2、底径:(5.7)、現存高:33.2cm。波状突起3単位を配す。口縁部文様帯は隆線による渦巻文と区画文構成。頸部区画は沈線になる。区画内側縁は沈線で斜位R Lを充填する。体部は垂下隆線2条に画された幅狭的消部懸垂文構成。R Lを充填する。内面削り調整後強い研磨を加える。	中期後葉
第137図 PL.99	3	深鉢	底部破片	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい/赤褐色	2条隆線に画された磨消部懸垂文構成。縦位R Lを充填し、縦位波状沈線を重ねる。	中期後葉
第137図 PL.99	4	深鉢	口縁・体部1/2残存	埋土下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい/赤褐色	口径:(19.6)cm。口唇部僅かに残る。口縁部に横位隆線を設け渦巻文を配す。下端より隆線が垂下し、連続する連字U状意匠に繋ぐ。空白部は斜位短沈線を充填する。	中期後葉
第137図 PL.99	5	深鉢	口縁部突起片	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	隆線による渦巻文を縦位2連に配する。縁辺は隆線で縁取られ、中に孔を設ける。	中期後葉
第137図 PL.99	6	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/黒褐色	横位隆線で画された幅狭の頸部文様帯。振り状突起で方形状の区画をなす。斜位短沈線を充填する。体部は隆線による渦巻文と波状隆線を配す。斜位短沈線を施す。	中期後葉
第137図 PL.99	7	鉢	口縁・体部1/5残存	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい/赤褐色	口縁部僅かに内湾し体部は強く開く。口縁部横位沈線を設け以下縦位密接条線が施される。口縁部及び内面削り。	中期後葉
第137図 PL.99	8	浅鉢	口頸部・体部1/5残存	埋土上位	粗砂粒・石英/やや軟/ 褐色	口縁部外傾し口頸部内湾する。口頸部に隆線による渦巻文と楕円状区画文を配す。屈曲部隆線は2条で突起文を埋める。区画内は沈線を縦線とし弧状短沈線を充填する。	中期後葉
第137図 PL.99	9	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい/黄褐色	体部上半か、横位沈線以下磨消部懸垂文構成。施文部縦文は縦位R L充填施文。	中期後葉
第137図 PL.99	10	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	薄手で強く開く体部下半。あるいは鉢か、縦位密接条線が覆う。内面研磨。	中期後葉
第138図 PL.99	11	石鏝	完形	埋土上位	黒曜石	長:1.8、幅:1.3、厚:0.4cm、重:0.6g。円鼻無茎錐。完成状態?表裏面とも素材面を残す。加工は薄く、対称性も欠いている。	
第138図 PL.99	12	石鏝	下半部欠損	埋土下位	チャート	長:(1.9)、幅:(1.4)、厚:0.6cm、重:1.0g。未製品?石鏝としてはやや厚く、完成間際の欠損ということだろう。細身・長身の石鏝を製作しようとしたものか	
第138図 PL.99	13	楔形石器	完形	埋土	黒曜石	長:2.0、幅:1.8、厚:0.8cm、重:2.4g。両縁割離して、厚い素材を薄く割離しようとしたもの。表裏面に上下両端から対向する割離面がある。	
第138図 PL.99	14	敲石	完形	埋土	変質安山岩	長:10.0、幅:3.4、厚:2.3cm、重:118.0g。棒状の内湾内側縁及び上下端部に敲打痕を集める。下端部は尖る。	
第138図 PL.100	15	砥石	下半部欠損	埋土上位	黒灰質砂岩	長:(4.3)、幅:(5.8)、厚:1.1cm、重:30.0g。板状。表裏面とも砥面として使用され、特に背面側は良く研ぎ減る。背面側に3mm程度の浅い研磨溝が縦位に残る。	
第138図 PL.100	16	磨石	完形	埋土下位	石英閃緑岩	長:11.8、幅:6.5、厚:2.4cm、重:333.0g。扁平な円盤の表裏面に平滑面を持つ。敲打痕は端部に僅かに認められる。	
第138図 PL.100	17	台石	完形	埋土下位	粗粒輝石安山岩	長:17.4、幅:18.1、厚:5.1cm、重:2190.0g。扁平円盤。表裏面に平滑面が広がる。裏面の一部に光沢面を見る。裏面の凹みは敲打によるもので浅い。	

52区7号住居跡

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第14500 PL-101	1	深鉢	口縁～体部 中位残存	埋裏	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	口径:40.3cm。大型の深鉢。口縁部は強く開き幅広の無文部を設ける。横位隆線2条を体部上半に付し以下隆線による渦巻文と斜先状意匠を4単位配す。意匠文下部より1・2条の隆線が垂下する。隆線側縁は沈線で斜位短沈線を充填する。口縁部に補修孔を穿つ	中期後葉
第14500 PL-101	2	深鉢	口縁～体部 1/4残存	床直	粗砂粒・輝石/良好/ 灰黄褐色	口径:(26.0)cm。波状縁。口縁部隆線と波頂部渦巻文。体部は垂下隆線による無文溝構成。沈線による横位長柄円状意匠を配し、縦位短沈線を埋める。隆線には刻みを付す	中期後葉
第14500 PL-101	3	深鉢	口縁部破片	炉内	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい褐色	小型深鉢か。波状縁呈し隆線による渦巻文下部より2条隆線が懸垂する。体部中位で隆線による区画がなされ、縦位短沈線を充填する	中期後葉
第14500 PL-101	4	深鉢	口縁部破片	床直	粗砂粒・石英/良好/ 灰褐色	口縁部に隆線による渦巻文を配し、下部より垂下隆線が再生する。縦位・斜位短沈線を縦らに施す	中期後葉
第14500 PL-101	5	深鉢	口縁部破片	床直	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/暗赤褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画構成。弧状短沈線を充填する。口辺部及び内面研磨を施す	中期後葉
第14500 PL-101	6	深鉢	口縁部破片	床直	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/暗赤褐色	口縁部隆線による渦巻文と区画構成か。斜位短沈線を充填する。内外面弱い研磨。外面に傷付き	中期後葉
第14500 PL-101	7	深鉢	口縁部破片	床直	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	強く開く無文の口縁部。口唇部内面突出。内外面丁寧な研磨	中期後葉
第14500 PL-101	8	深鉢	口縁部破片	床直	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	波状突起。隆線による渦巻文を波頂部に配す。楕円状区画文を連続し、R L Rを充填する。側縁は太い沈線。口縁部及び内面に丁寧な研磨を施す	中期後葉
第14500 PL-101	9	深鉢	口頭部～体 部破片	床直上・炉内	粗砂粒・石英・輝石/ 軟質/褐色	器面磨滅。口縁部は隆線による渦巻文と区画構成。体部は沈線による弧状意匠が単位状に配される。地文は斜位 R L	中期後葉
第14500 PL-101	10	深鉢	体部1/4残 存	床直上	粗砂粒・石英/今や 軟/にぶい赤褐色	大型深鉢体部湾曲部。2条隆線による逆U字状意匠が連続する。下部より隆線が懸垂する。意匠内は縦位沈線2条で小区画され交互斜位短沈線を充填する。外器面磨滅	中期後葉
第14500 PL-101	11	石鏝	先端部欠損	床直	黒曜石	長:(2.7)、幅:(2.2)、厚:0.4cm、重:1.7g。円基無茎錐。完成状態?全面が押し剥離に覆われ、薄く仕上がる。先端部の破損は加工の最終段階に生じたことが確実。大型品	
第14500 PL-101	12	石鏝	ほぼ完形	埋土	黒曜石	長:2.4、幅:0.8、厚:0.5cm、重:0.9g。錐型?板状削片の側縁を厚く加工して機能部を作出したものの。機能部の先端に甲殻な摩耗痕は見られない	
第14600 PL-101	13	打製石斧	完形	埋土	黒色頁岩	長:12.1、幅:5.1、厚:2.6cm、重:172.8g。短冊形。完成状態。刃部摩耗が著しい。両側縁は表裏面が、刃部は裏面側が内加工されている	
第14600 PL-101	14	打製石斧	ほぼ完形	床直	変質安山岩	長:11.6、幅:5.2、厚:1.6cm、重:126.1g。短冊形。完成状態。表裏面とも摩耗するほか、両側縁に弱い棒刺痕もある。上部部を節理面で破損する	
第14600 PL-102	15	磨石	完形	炉内	粗粒輝石安山岩	長:14.6、幅:11.1、厚:9.5cm、重:2250.0g。丸石。球状円礫の全体に敲打痕が見られる。平滑面は強く裏面に偏る	
第14600 PL-102	16	磨石	左側面欠	埋裏南の立石	粗粒輝石安山岩	長:30.6、幅:16.4、厚:11.0cm、重:9200.0g。大型品。表裏面及び上端部に強い平滑面を持つ。敲打痕も表裏面に認められ、表面下半部に集中する	
第14600 PL-102	17	磨石	完形	埋裏北床直	ひん岩	長:15.4、幅:5.7、厚:4.7cm、重:650.0g。棒状隆下部に微細な敲打痕。裏面に弱い平滑面を持つ	
第14600 PL-102	18	多孔石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:12.8、幅:13.1、厚:9.0cm、重:1351.3g。多孔円角礫。表裏面・下端部に疎らに孔を配す。孔断面形は浅く皿状を呈す	
PL-102	19	多孔石	一部欠	床直上	粗粒輝石安山岩	長:(19.5)、幅:16.3、厚:13.6cm、重:3110.0g。不定形の垂角礫。孔は表裏面に疎らに設ける。一部殺熱	
PL-102	20	磨石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:21.0、幅:13.1、厚:9.6cm、重:4150.0g。大型の楕円状円礫。表裏面に平滑面を持つ。表面が顕著	

52区8号住居跡

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第14700 PL-102	1	楔形石器	完形	埋土	黒曜石	長:1.8、幅:1.7、厚:0.6cm、重:1.4g。内縁割離して、厚い表材を薄く剥離しようとしたもの。裏面側に上下両端から斜向する剥離面がある	
第14700 PL-102	2	凹石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:9.5、幅:8.0、厚:3.8cm、重:455.3g。表裏面中央・下端に敲打痕を集中する。弱い平滑面を見る	

52区9号住居跡

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第15180 PL_102	1	深鉢	口唇部、体 部下欠損	炉内	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/赤褐色	口縁部内外面煎熱のため器壁剥落。口縁部内湾し棒状突起を弧 状に付す。頸部に刺突文、体上半に横位隆線を設け、渦巻状突 起より2条隆線、波状隆線を加える。区内内は綾杉状短沈線を 施す	中期後葉
第15180 PL_102	2	深鉢	口縁部破片	床直上	粗砂粒・石英/良好/ 暗赤褐色	口縁部内湾。低い斜位隆線に斜位隆線を加える斜格子文	中期後葉
第15180 PL_102	3	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	2条隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。区内内側は沈線。地 文は縦位R.L。頸部は無文	中期後葉
第15180 PL_102	4	深鉢	口縁部破片	埋土下位	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	強く開く。口唇部に沈線を施す。口縁部は幅広い無文を設け頸 部に横位隆線2条と渦巻文を配す。渦巻文下端より隆線が垂下す る	中期後葉
第15180 PL_102	5	深鉢	口頸部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	相向かう隆線渦巻文を配す。一方は大型で横位隆線3条が派生す る。下位は縦位L.Rを充填する	中期後葉
第15180 PL_102	6	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/赤灰色	双環状突起を付し沈線による渦巻文を施す。おそろく橋状把手を 付す。上位は2条隆線が縦位に派生し、下位は縦位沈線を施す	中期後葉
第15180 PL_102	7	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 明褐色	弧状隆線、横位隆線の投点。隆線には沈線が重なり、側縁も沈線 を施す。乱雑な施文	中期中葉末?
第15180 PL_102	8	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英/良好/ 灰褐色	体部上半。横位隆線以下渦巻文を配した蛇行隆線が垂下する 側縁は沈線、斜位短沈線を充填する	中期後葉
第15180 PL_102	9	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	隆線による剣先状意匠先部部か。沈線を側縁とし斜位短沈線を充 填する	中期後葉
第15180 PL_102	10	浅鉢	口縁部破片	埋土下位	細砂粒・片岩/良好/ にぶい赤褐色	口唇部面を持ち、体部は強く内湾する。内外面丁寧な研磨を施し、 赤彩を加える	中期後葉
第15180 PL_102	11	石鐏	完形	埋土下位	黒曜石	長:2.2、幅:1.3、厚:0.4cm、重:0.8g。平基無茎錐。完成状態。 細身・長身のタイプで、やや内厚	
第15180 PL_102	12	石鐏	上半部欠損	埋土	黒曜石	長:(2.1)、幅:0.6、厚:0.6cm、重:0.6g。断面三角形を呈し、内厚 先端の稜部は弱く磨耗する	
第15180 PL_102	13	削器	完形	埋土下位	黒色頁岩	長:7.2、幅:4.7、厚:1.7cm、重:52.0g。右刃調整削片。幅広い削片 の左辺部を粗く打ち欠き、刃部を作出する。背面側に広く磨耗面 を残していることから、石坪に由来する削片を素材とすることが 分かる	
第15180 PL_103	14	打製石斧	完形	埋土下位	黒色頁岩	長:8.3、幅:4.0、厚:1.6cm、重:62.1g。短冊形。完成状態。刃部 磨耗・捲破がある。刃部両生は明らかであるが、タイプのには 小形石斧の部類に入る	
第15180 PL_103	15	打製石斧	上半部欠損	埋土下位	変質安山岩	長:(9.0)、幅:5.5、厚:2.8cm、重:174.8g。完成状態。やや幅広い のタイプで重量感がある。側縁に磨耗痕が残る。刃部両生が明ら か	
第15180 PL_103	16	垂飾	完形	炉内	玉髓	長:2.8、幅:0.9、厚:0.8cm、重:4.6g。方形の断面形状を呈す。 入念な研磨を加え、土壌部に顕著である	
第15180 PL_103	17	多孔石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:10.5、幅:8.1、厚:4.8cm、重:435.9g。表裏面中央に大型の孔 を設け、周縁に浅い孔を配す	
第15180 PL_103	18	磨石	完形	埋土下位	粗粒輝石安山岩	長:11.6、幅:9.2、厚:4.5cm、重:624.0g。細かな敲打痕を表裏面 ・両側縁に見る。特に端部及び側縁に集中する。平滑面は表面に 顕著	
第15180 PL_103	19	多孔石	完形	埋土下位	粗粒輝石安山岩	長:11.0、幅:8.3、厚:5.8cm、重:692.5g。表裏面・両側面に大型 の凹みを持つ	

52区10号住居跡

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第13800 PL_100	18	深鉢	口縁部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/灰褐色	口縁部内湾する樽状の器形。無文の幅広い口縁部を設け、体部上半 に振り状突起と隆線による楕円状区画文を配す。区内内は刺突文 や交互刺突文を充填する。体部中位は弧状区画を配し短沈線を施 す	中期後葉
第13800 PL_100	19	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/黒褐色	内湾する体部中位。2条隆線による環状意匠を配し短沈線を充填 する。下位は縦位楕円状隆線が懸垂し、縦位沈線群に縦位波状 線を重ねる	中期後葉
第13800 PL_100	20	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ やや軟/褐色	2条隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。側縁は沈線、斜位短 沈線を充填する	中期後葉
第13800 PL_100	21	深鉢	口縁部突起 片	埋土下位	粗砂粒・石英/やや 軟/褐色	波状突起頂部に隆線による渦巻文を配す。突起中位より横位隆線 が派生し、以下横位交互刺突文を施す。器面磨滅	中期後葉
第13800 PL_100	22	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 暗赤褐色	2条隆線による大柄の渦巻文。短沈線を放射状に施す	中期後葉
第13800 PL_100	23	石鐏	完形	埋土下位	黒曜石	長:2.2、幅:1.5、厚:0.3cm、重:0.8g。円錐無茎錐。完成状態。 全面が押圧的磨に覆われ、丁寧な作り。左辺部が弱く磨らみ、対 称性には欠ける	

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第1389R PL.100	24	石灘	完形	埋土	流紋岩	長:3.2、幅:2.5、厚:1.0cm、重:5.1g。未製品。背面側に硬面を大きく残し、完成状態には違い、石灘として欠かせない先端部や基部が作出できていない。	
第1389R PL.100	25	打製石斧	完形	埋土下位	粗粒輝石安山岩	長:12.7、幅:5.9、厚:2.5cm、重:210.1g。短冊形。完成状態。表裏面とも刃部は激しく摩耗する。両側縁は鋭気味で、重量感があふ。両側縁の摩耗も著しい。	
第1389R PL.100	26	敲石	完形	住居外?	変質安山岩	長:13.5、幅:5.7、厚:3.2cm、重:407.6g。棒状隆土上部部に強い敲打痕を持つ。表裏面の平滑面は弱い。	
第1399R PL.100	27	台石	完形	住居外?	粗粒輝石安山岩	長:17.4、幅:15.4、厚:3.7cm、重:1213.2g。扁平な円盤。表裏面に平滑面が広がる。裏面中央に敲打痕が集中する。表面に少量の黒色付着物を見る。	
第1399R PL.100	28	磨石	完形	埋土下位	粗粒輝石安山岩	長:14.5、幅:7.3、厚:4.2cm、重:672.9g。表裏面とも平滑面を持つ。	
第1399R PL.100	29	台石	一部欠損	埋土下位	粗粒輝石安山岩	長:37.8、幅:19.9、厚:9.2cm、重:1080.0g。大型品。表面に浅く細かな敲打痕を見る。中央に集中する。裏面の敲打痕は少なく凹凸が顕著。	
第1399R PL.100	30	多孔石	完形	埋土下位	粗粒輝石安山岩	長:32.8、幅:23.1、厚:11.2cm、重:6700.0g。大型の多孔質円盤。表面中央の縁周辺に孔を集める。裏面・側面には見られない。	

52区11号住居跡

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第1559R PL.103	1	深鉢	口縁~体部 1/3残存	埋土	粗砂粒・石英・雲母 少・良好/赤褐色	小型深鉢。口径:(11.4)cm。器厚厚手で口縁部緩やかに内湾する。口唇部に刻みを加える。体部は縦位無筋しが覆う。内面研磨。黒色を呈す。	中期後葉
第1559R PL.103	2	深鉢	口縁部破片	埋土下位	細砂粒・石英/良好/ にぶい褐色	隆線による渦巻文と楕円状区画文構成。側縁は太い。沈線、区画内は縦位R1を充填する。内外面研磨。黒色付着物あり。	中期後葉
第1559R PL.103	3	深鉢	口縁部破片	埋土下位	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	口縁部は短く、縦位隆線が突出する。体部は縦位L Rを施す。	中期後葉
第1559R PL.103	4	深鉢	口縁部破片	床直上	細砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	液頂部。口唇部は肥厚し横位沈線を施す。口縁部は隆線による渦巻文と区画文構成。側縁部で縦位R1を充填する。頸部は無文。	中期後葉
第1559R PL.103	5	深鉢	口縁部破片	埋土下位	細砂粒・石英・や 軟/にぶい黄褐色	口縁部内湾し斜位棒状付文を付す。短部間に横位蛇行隆線と円形刻付文を付す。縦位沈線を施す。	中期後葉
第1559R PL.103	6	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	口唇部強く内凹。口縁部内湾し頸部緩やかに外反する。無文の口縁部	中期後葉
第1559R PL.103	7	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母 少/良好/にぶい褐色	横位隆線に瘤状突起を付し縦位沈線を重ねる。弧状隆線が懸垂し、内皮沈線を充填する。	中期中葉
第1559R PL.103	8	深鉢	体部破片	床直上	細砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	横位隆線より派生する弧状隆線。区画内は内皮沈線を充填する。以下は1本筋き沈線or二文を施す。	中期中葉
第1559R PL.103	9	深鉢	体部破片	床直	細砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	体部中位内湾。頸部隆線以下2条隆線と沈線による長楕円状意匠による懸垂文構成。隆線には渦巻状突起を付す。空白部は縦位矢羽状沈線を施す。	中期後葉
第1559R PL.103	10	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母 少/良好/にぶい赤褐色	体部中位に括れを有し下半は内湾する。2条隆線による弧状区画を配し、下端より隆線が懸垂する。区画内・区画間は斜位沈線を充填する。外面上半に覆付着	中期後葉
第1559R PL.103	11	ミニチュ ア	口縁~体部 1/3残存	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 浅黄褐色	深鉢。口径:8.0cm。口縁部沈線を設け、体部は縦位沈線群の懸垂文構成。斜位沈線を充填するが、無文部を1箇所所見。口縁部及び内面研磨を施す。	中期後葉
第1559R PL.103	12	ミニチュ ア	口縁部一部 欠	埋土下位	細砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい赤褐色	深鉢。口径:8.0、底径:4.4、高さ:8.0cm。口縁部に凸みを見る。口縁部沈線を設け、体部は横位楕円状意匠を配し、縦位沈線を充填する。凹正面以外はU字状意匠は施されない。	中期後葉
第1559R PL.103	13	石灘	先端部欠損	埋土	チャート	長:(1.6)、幅:1.4、厚:0.4cm、重:0.9g。円基無芽蓋。完成状態。背面側加工は面だが、裏面側のそれは部分的で、雑な作り。概形は完成されている。	
第1559R PL.103	14	石灘	先端部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.8)、幅:1.4、厚:0.4cm、重:1.0g。未製品?概形は完成しており、加工の最終段階に破損したもののか。破損面に径1mmの球帯があり、これが破損に影響した可能性が高い。	
第1559R PL.103	15	打製石斧	完形	埋土下位	変質安山岩	長:11.5、幅:4.7、厚:2.0cm、重:122.1g。短冊形。完成状態。刃部中央付近を除き、強い摩耗痕が残る。刃部中央をリダクションされているが、初期の刃部形状は残されている。	
第1559R PL.103	16	磨製石斧	ほぼ完形	床直上	蛇紋岩	長:11.9、幅:5.5、厚:2.3cm、重:260.8g。定角式。完成状態。全面研磨され、丁寧な仕上げ。裏面側刃部を大きく熱炭破損部	
第1559R PL.103	17	敲石	完形	埋土下位	変質安山岩	長:12.5、幅:6.6、厚:2.7cm、重:353.7g。比較的扁平な円盤端部に強い敲打痕を持つ。平滑面は見られない。	

52区12号住居跡

検出 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第1589B PL_104	1	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・繊維・輝石/ 良好/褐色	口唇部外反し口縁部に横位隆線を設ける。口唇部は縦位、隆線上及び体部には横位L Rを施す	前期前葉?
第1589B PL_104	2	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・繊維・石英/ 良好/褐色	無筋LとRによる横位羽状隅文構成。内面凹凸がある	前期中葉?
第1589B PL_104	3	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・繊維・石英/ 良好/褐色	器厚薄手。口縁部に縦位梯状突起を付す。横位平行沈線と連続的隅文を多段に設け、波状文を重ねる。体部は斜位連続的隅文を施す。内面研磨	前期中葉
第1589B PL_104	4	深鉢	口縁部破片	埋土下位	粗砂粒・繊維・輝石/ 良好/にぶい褐色	縦やかな波状線。波頂部に棒状の縦位貼付文を付し、強い押圧を加える。口縁部は内皮平行沈線を横位多段に配し、以下細かな横位コンパス文を重ねる	前期中葉
第1589B PL_104	5	深鉢	口縁部破片	埋土下位	粗砂粒・繊維・雲母/ 良好/赤褐色	口唇部に刻み。横位平行沈線部を施し、複列の横位刺突文を重ねる	前期中葉
第1589B PL_104	6	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・繊維・石英/ 良好/褐色	3と同一個体か。斜位平行沈線と連続的隅文を対向する。隙間を波状文が充填される	前期中葉
第1589B PL_104	7	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・繊維・輝石/ 良好/褐色	横位平行沈線を多段に設け、その間を波状文が理める。沈線施文は浅い	前期中葉?
第1589B PL_104	8	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	口縁部内湾。2条一組の横位浮線文を多段に配し、矢羽状刻み目を加える	前期後葉
第1589B PL_104	9	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	横位隆線による体部横帯文構成。幅狭の楕円状区画か。側線は幅広連続爪形文と三角連続刺突文を施す	中期中葉
第1589B PL_104	10	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・雲母/良好/ 灰褐色	弧状隆線に太い沈線を側線とする。2条の波状沈線文を施す。隅文は斜位R L	中期中葉
第1589B PL_104	11	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・片岩/良好/ 褐色	頸部は外反し無文。横位隆線を設け斜位隆線が派生する。隆線には刻み。側線は幅広連続刺突文を施す	中期中葉
第1589B PL_104	12	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	内皮沈線による方形区画文。区画内は横位沈線を充填。連続爪形文も施す	中期中葉
第1589B PL_104	13	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/明赤褐色	弧状隆線を配し、内皮沈線重複施文による側線を重ねる。斜位沈線も施す	中期中葉
第1589B PL_104	14	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	2条沈線に画された方形区画文。上位に弧線文を配す。区画中に縦位波状文を充てる。地文は燃系L	中期後葉
第1589B PL_104	15	深鉢	口縁部突起片	埋土	細砂粒・石英・雲母/ 良好/灰褐色	沈線による溝巻文を配した環状突起を付す。下端より垂下隆線2条が懸垂する	中期後葉
第1589B PL_104	16	深鉢	口縁部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	口縁部波状突起。隆線による環状意匠を配し、幅広の沈線による区画文を配す。横位L Rを充填する。内面は沈線による溝巻文を施し、強い研磨を加える	中期後葉
第1589B PL_104	17	深鉢	体部破片	床直	粗砂粒・石英/良好/ 黒褐色	胴部の強い内湾か。沈線で画された幅状器肩部による横位溝巻文。隅文はR L充填施文	中期後葉
第1589B PL_104	18	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい褐色	2条沈線に画された幅状器肩部による横位溝巻文。隅文は斜位R L充填施文	中期後葉
第1589B PL_104	19	深鉢	体部破片	床直	粗砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	外反する体部中位。2条沈線によるU字状意匠を配し、R Lを充填施文する。内面弱い研磨	中期後葉
第1589B PL_104	20	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/やや 軟/にぶい黄褐色	口縁部区画文下端か。細隆線を付す。縦位条線を密接に施す	中期後葉
第1589B PL_104	21	深鉢	底部1/2残存	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	底径:9.0cm。外反気味に開く体部下平。縦位波状沈線の下端を見る。内底面中央盛り上がる。内面少量の履付着	中期後葉
第1589B PL_104	22	深鉢	底部1/3残存	埋土下位	粗砂粒・石英/良好/ 明赤褐色	底径:(8.0)cm。直立気味に立ち上がる体部下平。筒状の器形か。縦位平行沈線による懸垂文下端	中期後葉
第1589B PL_104	23	刮器	完形	埋土下位	黒色安山岩	長:8.7、幅:4.5、厚:1.8cm、重:73.5g。横長割片。素材を横位に用い、両側縁を加工する。短冊状を呈し、形的に石押と類似しているが、エッジが鋭く、これを対照と見た。両側縁とも対照は摩耗する	
第1589B PL_104	24	磨石	完形	埋土	変質安山岩	長:12.9、幅:7.2、厚:4.2cm、重:689.6g。表裏面に平滑面を持つ。上下端部に僅かな鋸打痕を見る	
第1589B PL_104	25	石皿	完形	炉石	粗粒輝石安山岩	長:34.3、幅:21.4、厚:4.4cm、重:6796.3g。形状の平面形を呈す。両面を石皿として使用か。表面は縁が高く、底面の平滑面も明確。底面縁部に断面円錐状の孔を設ける。裏面の縁は低く、周縁を孔が密着する。中央部が凹み平滑面を見る	

52区13号住居跡

検出 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第1639B PL_105	1	深鉢	口縁～体部 1/3残存	埋土上位 埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	口径:(32.0)cm。波状突起を付す。4単位か。口唇部に太い沈線2条が沿う。口縁部は2条の沈線による連続的意匠を配す。頸部屈曲部に2条の沈線を設け、体部は縦位波状沈線、垂下沈線による懸垂文構成。地文はR L横位・斜位施文	中期後葉

種図 PL. No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第163図 PL.105	2	深鉢	口縁部～体 部2/3残存	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	口径:15.8cm。口縁部は開き体部は内湾する。口縁部無文。頸部 隆線以下縦位L Rを縦らに施す。口縁部及び内面弱い研磨。口縁 部内面保付着	中期後葉
第163図 PL.105	3	深鉢	口縁～体部 1/3残存	埋土下位	粗砂粒・輝石/やや 軟/浅黄褐色	口径:(18.0)cm。口縁部渦巻文と区画文は一体化する。隆線側 面に円形刺突文を施し充填文を充てない。体部は波状隆線で1本 描き比類で弧状・渦巻状意匠などを配す。やや乱雑な施文。地文 は縦位・斜位L R	中期後葉
第163図 PL.105	4	深鉢	口縁部～頸 部3/4残存	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	波状線。4単位。6方向から貫孔する中空状の突起を波頂部に設 ける。上端に比類による渦巻文を配し、下位に小型の楕状把手を 2個連接する。口縁部は波状部に渦巻状突起を付した区画文構成。 縦位短沈線を充填する。頸部無文帯は短位。内面少量の保付着	中期後葉
第163図 PL.105	5	深鉢	底部1/2残	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	底径:8.0cm。2条の垂下隆線と縦位波状沈線による懸垂文構成。 地文は無顔L縦位施文。内面保付着	中期後葉
第163図 PL.105	6	台付深鉢	脚部残存	床直上	粗砂粒・石英/良好/ 明赤褐色	底径:8.2cm。脚部の開きはやや弱く貫孔を設けない。縦位L Rを 施す	中期後葉
第163図 PL.105	7	深鉢	口縁～体部 3/4残存	埋土上位 床直上	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	口径:17.0cm。隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。4単位。 区画下辺の側縁は円形刺突文で充填文を施さない。体部は縦位波 状沈線や垂下沈線による懸垂文構成。地文は無顔L	中期後葉
第163図 PL.105	8	深鉢	口縁部1/3 残存	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	口径:(15.0)cm。口縁部は短く外傾し無文。頸部に縦位沈線2 条を設け、内湾する体部は黒赤Rを地文とし2条沈線による意匠 文を配す。口縁部及び内面に丁寧な研磨を施し赤彩を加える 口縁部は内湾し斜位沈線帯を埋める。直立する頸部は短く、縦位 沈線2条に画された円形刺突列が沿う。体部上半に内湾を持たせ隆 線による長楕円状意匠と縦位波状沈線を配する懸垂文構成。4単 位を数える。縦位沈線帯を施す	中期後葉
第163図 PL.105	9	深鉢	体部のみ残 存	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/灰褐色	口径:15.0cm。口縁部は短く外傾し無文。頸部に縦位沈線2 条を設け、内湾する体部は黒赤Rを地文とし2条沈線による意匠 文を配す。口縁部及び内面に丁寧な研磨を施し赤彩を加える 口縁部は内湾し斜位沈線帯を埋める。直立する頸部は短く、縦位 沈線2条に画された円形刺突列が沿う。体部上半に内湾を持たせ隆 線による長楕円状意匠と縦位波状沈線を配する懸垂文構成。4単 位を数える。縦位沈線帯を施す	中期後葉
第163図 PL.105	10	深鉢	底部残存	埋土下位	粗砂粒・輝石/やや 軟/にぶい赤褐色	底径:9.4cm。垂下隆線2条による懸垂文構成。4単位。縦位短沈 線帯を地文とし縦位波状沈線を重ねる	中期後葉
第163図 PL.105	11	深鉢	体部1/2残存	埋土下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい赤褐色	内湾する体部中位。1条の垂下隆線による懸垂文構成。隆線による U字状意匠を配す。側縁は沈線。斜位短沈線を密接に充填する 体部下半は内湾し上半は外反する。2条隆線による懸垂文構成か。 中位で渦巻文や弧状突起を付す。側縁は沈線。縦位矢羽状短沈線 を充填する	中期後葉
第163図 PL.105	12	深鉢	体部1/4残 存	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	口径:11.0cm。器厚は厚く、体部下半は直線的に開く。隆線 2条の懸垂文構成で下端を厚める。一方は波状隆線か。隆線間には 縦位沈線を施す	中期後葉
第163図 PL.105	13	深鉢	底部1/3残	埋土下位	粗砂粒・石英・輝石 多/良好/にぶい赤 褐色	口径:16.0cm。底径:9.4。器高12.0cm。波状線。波頂部突起を配し、 楕状把手を設けるか。波頂部に隆線による渦巻文を配し、内湾す る口縁部には楕状楕円状沈線文を配す。体部は無文。内面体部上 半に少量の保付着	中期後葉
第163図 PL.105	14	深鉢	口縁～底部 3/4残存	埋土下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	隆線による口縁部区画文構成。口唇部の区画線は沈線。側縁は沈 線で、剣先状の変化を有する。地文縄文は縦位L R。短位の頸部無 文帯を設ける	中期後葉
第163図 PL.105	15	釣手上器	口縁～底部 3/4残存	埋土下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	口径:16.0。底径:9.4。器高12.0cm。波状線。波頂部突起を配し、 楕状把手を設けるか。波頂部に隆線による渦巻文を配し、内湾す る口縁部には楕状楕円状沈線文を配す。体部は無文。内面体部上 半に少量の保付着	中期後葉
第163図 PL.105	16	深鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	隆線による口縁部区画文構成。口唇部の区画線は沈線。側縁は沈 線で、剣先状の変化を有する。地文縄文は縦位L R。短位の頸部無 文帯を設ける	中期後葉
第164図 PL.105	17	深鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・石英・雲母 少/良好/黒褐色	口縁～頸部外反する。口唇部内面厚肉。2条隆線による口縁部渦 巻文を配し、体部は比類による渦巻文を中核とした意匠文を配す。 地文は無顔L R	中期後葉
第164図 PL.105	18	深鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・石英/良好/ にぶい褐色	頂部を双波状とした中空状突起を付す。円孔を4方に設ける。孔 縁部に沈線が沿い、突起側縁には沈線による渦巻文を配す。頸部 内外面に横位隆線と沈線を設ける。体部は垂下沈線3条による懸 垂文構成か。地文は無顔L Rを間隔施す。	中期後葉
第164図 PL.106	19	深鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	口縁～体部一体化し直線的に開く小型深鉢。口縁部に隆線による 渦巻文と相接の区画文を配す。区画内は縦位短沈線を充填する。 体部は無顔L Rの縦位施文	中期後葉
第164図 PL.106	20	深鉢	口縁部破片	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	小型深鉢。平縁で頸部屈曲部を跨ぎ楕状把手を付す。口縁部及び 把手に赤みを認める。横位・縦位L Rが横う	中期後葉
第164図 PL.106	21	深鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/黒褐色	内湾する楕状の器形。波状線を呈し波頂部及び口縁部に隆線による 渦巻文を配す。側縁に刺突文を施し、楕状弧状隆線以下は斜位 短沈線を埋める。内面に保付着	中期後葉
第164図 PL.106	22	深鉢	口縁部突起 片	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ やや軟/褐色	大型の双波状突起。下位は楕状把手で裏面からも貫孔する。突起 縁部は沈線で縁取られ、刺突文や短沈線を充填する。口唇部は隆 線と渦巻状沈線を配す	中期後葉
第164図 PL.106	23	深鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ やや軟/褐色	口唇部厚肉し無文。内面は弱い内縁を付す。口縁部は2条隆線に よる渦巻文と区画文構成。弧状短沈線を充填する。体部は2条隆 線が渦巻文下端より垂下する。縦位波状沈線も配され、斜位短沈 線を充填する	中期後葉

種別 PL. No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第164図 PL.106	24	深鉢	口縁部突起 片	埋土上位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい赤褐色	戒状縁頂部に設けられた橋状把手。両側縁に沈線による渦巻文を 施し、両下端より2条隆線が横位に派生する。把手下端からも渦 巻文を配した隆線が垂下する。波部内面にも沈線による渦巻文 が配される	中期後葉
第164図 PL.106	25	深鉢	口縁部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/灰褐色	口唇部隆線を設け、体部は2条隆線による弧状意匠を配す。体 部上半は縦位平行沈線、中位は細かな沈線が斜位に施す。工具の差 を見る	中期後葉
第164図 PL.106	26	深鉢	口縁～体部 破片	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母 少/良好/赤褐色	橋状の器形で戒状縁を呈す。口縁部沈線を設け体部は2条隆線に よる橋手状態垂文を配す。縦位沈線群を施し、縦位波状沈線が重 なる	中期後葉
第164図 PL.106	27	深鉢	把手破片	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	橋状把手。長軸に沿って太い沈線を施す。下端は横位沈線に接続 する。平滑な撫で調整で丁寧な作り	中期後葉
第164図 PL.106	28	深鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/灰褐色	口唇部肥厚。以下2条隆線による橋手状態垂文を配し、空白部は 弧状短沈線を埋める	中期後葉
第164図 PL.106	29	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	体部上半か、横位沈線以下隆線による横位S字状意匠を配し、銅 先状意匠や縦位波状隆線を重ねる。地文は縦位短沈線	中期後葉
第164図 PL.106	30	深鉢	口縁部破片	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	緩やかに内湾する口縁部。口唇部は無文で、縦位条線を疎らに施 す	中期後葉
第164図 PL.106	31	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 雲母/良好/明赤褐 色	2条隆線による懸垂文構成。側縁は無く、区画間には斜位短沈線を 充填する	中期後葉
第165図 PL.106	32	深鉢	口縁部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/灰褐色	口縁部内湾し頸部で屈曲する鬚状を呈す。口縁部は斜位沈線群、 体部は縦位沈線群を施す。頸部屈曲部に複列の刺突文を配すが交 互ではない	中期後葉
第165図 PL.106	33	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	体部は横位隆線2条で分帯され、上位は斜位隆線を配し、平行沈 線と浮線による斜格字文。下位は垂下隆線を派生し方形の区画 構成か。斜位短沈線を充填する	中期後葉
第165図 PL.106	34	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	体部上半か、浮線と平行沈線による斜格字目文下端に波状浮線文。 以下隆線による弧状意匠と方形状意匠が配される平行沈線による 縦位条線群を埋める	中期後葉
第165図 PL.106	35	浅鉢	口縁～体部 1/4残	埋土下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	口径:(40.2)cm。口唇部外面三角形に突出。体部は緩やかに 内湾する。内外面滑い研磨。外面口縁部に黒色付着物を見る。口 唇端部に僅かに赤彩痕跡	中期後葉
第165図 PL.106	36	浅鉢	体部中位～ 底部1/2残	埋土上位	粗砂粒・石英/良好/ にぶい赤褐色	底径:6.9cm。比較的強く固く体部下。内外面丁寧な研磨を施す/ 底面磨滅著しい	中期後葉
第165図 PL.106	37	浅鉢	口縁～底部 1/2残	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい赤褐色	口径:40.0cm。口唇部外面三角形に突出。体部は緩やかに内湾し/ 、底部外周には磨滅を見る。内外面滑い研磨。口縁部内外面に黒色付 着物を見る	中期後葉
第165図 PL.106	38	深鉢	体部1/4・底 部残存	埋土下位	粗砂粒・石英・雲 母/良好/褐色	底径:8.8cm。区画化した縦位波状隆線による懸垂文構成。4単位。 側縁は複列の結節沈線。底面撫で。内面体部下半に復付着	中期中葉
第165図 PL.106	39	石鏡	完形	埋土上位	黒曜石	長:1.3、幅:1.1、厚:0.3cm、重:0.2g。凹基無葉鏡。完成状態。 表裏面とも素材面を残し、周辺加工して鏡面を作出する。基部を 大きくU字状に挟る	
第165図 PL.106	40	石鏡	完形	埋土下位	チャート	長:2.3、幅:1.4、厚:0.5cm、重:1.0g。凹基無葉鏡。完成状態。 やや肉厚だが、全面が割離で覆われる。基部は深く挟り込まれ、 返し部は棒状に近い	
第165図 PL.106	41	石鏡	ほぼ完形	埋土下位	黒色安山岩	長:2.5、幅:1.6、厚:0.4cm、重:1.9g。凹基無葉鏡。未製品?表 裏面とも素材面を大きく残し、周辺加工して鏡面を作出する。先 端部作出ができていない	
第165図 PL.106	42	石鏡	完形	埋土上位	黒曜石	長:2.9、幅:1.8、厚:0.4cm、重:1.2g。凹基無葉鏡。完成状態。 全面が押圧割離で覆われ、丁寧な作り。大型の部類に入る割に薄 く仕上げる。優品	
第165図 PL.106	43	石鏡	先端部破片	埋土下位	黒曜石	長:(1.7)、幅:(1.1)、厚:0.3cm、重:0.4g。完成状態。隨身・長 身で、全面が押圧割離で覆われる	
第165図 PL.106	44	石鏡	先端部破片	埋土上位	チャート	長:(2.2)、幅:(1.2)、厚:0.3cm、重:0.6g。完成状態?隨身・長 身で、全面が押圧割離で覆われる。側縁は扇状に近い	
第165図 PL.106	45	石鏡	先端部欠損	床直上	黒色頁岩	長:(1.5)、幅:(1.5)、厚:0.3cm、重:0.6g。凹基無葉鏡。未製品。 側縁は直線的で、先端部と返し部に欠損する。基部を浅く挟る	
第165図 PL.107	46	石鏡	完形	埋土上位	チャート	長:3.9、幅:0.8、厚:0.5cm、重:1.7g。棒状。握み部のないタイ プでエッジは強く摩耗、両端が機能部として使われたことが分か る。断面形状は菱形状を呈す	
第165図 PL.107	47	打製石斧	完形	埋土	黒色頁岩	長:8.3、幅:4.2、厚:1.6cm、重:58.1g。完成状態。刃部摩耗・捨 師痕が著しい。これ以上、刃部再生ができないまで使い込んでいる	
第165図 PL.107	48	打製石斧	完形	埋土上位	黒色頁岩	長:8.0、幅:4.0、厚:1.1cm、重:41.7g。短冊形。完成状態。刃部 摩耗・捨師痕が残る。背面側の割落は凍て付によるものか	

種目 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第16598 PL-107	49	打製石斧	完形	埋土下位	黒色頁岩	長:9.9、幅:5.3、厚:1.5cm、重:84.7g。短冊形。完成状態。対部 摩耗が著しい。対部付近に最大幅があり、胴部中央付近で括れる。 石斧頭部を破損したのちも、継続使用した可能性が高い。	
第16598 PL-107	50	打製石斧	完形	埋土	黒色頁岩	長:10.1、幅:5.2、厚:2.4cm、重:117.0g。短冊形。完成状態。対 部摩耗が著しい。対部摩耗は背面側が広く、裏面側は狭い。	
第16598 PL-107	51	打製石斧	完形	埋土上位	変質安山岩	長:12.9、幅:6.5、厚:2.5cm、重:216.4g。短冊形。完成状態。両 側縁が「ハ」字状に大きく開くタイプで、対部に最大幅がある。対 部摩耗は弱い。	
第16600 PL-107	52	打製石斧	完形	埋土	変質安山岩	長:15.3、幅:6.4、厚:3.5cm、重:368.4g。短冊形。完成状態。対 部摩耗が著しく、側縁の「潰れ」も明確。大型で重量感がある	
第16600 PL-107	53	磨製石斧	胴部破片	埋土	蛇紋岩	長:(6.7)、幅:6.5、厚:2.6cm、重:214.3g。定向式。完成状態。 全面を丁寧に磨き上げる。破損後、対部付近を大きく打ち欠き、 磨打する。敲き石として転用か	
第16600 PL-107	54	磨石	半欠	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:(7.1)、幅:6.4、厚:3.9cm、重:268.4g。表裏面・右側縁に強い 平滑面を持つ。特に右側縁は面を有す	
第16600 PL-107	55	凹石	完形	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:7.8、幅:5.3、厚:2.9cm、重:154.5g。表裏面中央に敲打痕を 集中する。表面平滑面は比較的強い	
第16600 PL-107	56	凹石	半欠	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(8.9)、幅:6.8、厚:5.4cm、重:498.6g。表面中央に細かな敲 打痕が集中し凹みをなす。裏面に平滑面を持つ	
第16600 PL-107	57	垂飾?	完形	床直上	輝石	長:6.5、幅:6.4、厚:1.5cm、重:18.7g。ほぼ円形・板状に整形。 中央付近に径1.8cmの孔1を、上端側に径8mm前後の孔2を内側穿 孔する	
第16600 PL-107	58	石皿	下半欠損	床直	デイサイト凝灰岩	長:(16.6)、幅:(25.6)、厚:2.4cm、重:2110.0g。表裏面を石皿と する。因表面が下半部、裏面が上半部として使用か。皿部縁辺 に小孔を見る。中央は平滑面を持つ	
第16600 PL-107	59	石皿	下半欠損	床直	粗粒輝石安山岩	長:(17.6)、幅:(24.2)、厚:7.2cm、重:5120.0g。大型で楕円状 の平面形か。縁は高く、底面は平滑面が顕著で中央部に光沢を持つ。 裏面孔は不明瞭で散漫な在り方か。磨打による整形	
PL-107	60	多孔石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:28.2、幅:26.5、厚:19.1cm、重:12420.0g。大型の垂形礫。表 裏面に疎らな孔を設ける	
PL-107	61	多孔石	破片	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(19.0)、幅:(14.2)、厚:9.2cm、重:2280.0g。表裏面・側面 に孔を疎らに設ける。表面孔は大型で深い	

52区14号住居跡

種目 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第16998 PL-107	1	深鉢	口縁~体部 3/4残存	埋土下位	粗砂粒・輝石・雲母 少/良好/褐色	口径:21.0cm。波状縁、正副2単位の波状突起を付す。両者とも 波面部意匠は縦位S字状文を配す。口縁部区画内は斜位短沈線と 充填する。体部は垂下隆線と波状隆線による懸垂文構成。交互斜 位短沈線を埋める。内面体部下半は変色、焼熱によるものか	中期後葉
第16998 PL-107	2	深鉢	口縁部残存	埋土下位	粗砂粒・石英・輝石/ やや軟/褐色	口径:23.0cm。弧状隆線と上位の横位沈線に画された口縁部区画 文構成。5単位を数える。区画内は沈線を側縁とし縦位・斜位短 沈線を充填する。体部は3条の沈線が懸垂し、斜位短沈線が矢羽 状に施す。波状沈線も垂下する。器面磨滅	中期後葉
第16998 PL-107	3	深鉢	口縁部破片	床直上	粗砂粒・石英/良好/ 灰黄褐色	器厚薄手。2条隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。体部は縦 位整形隆線による懸垂文構成か。縦位矢羽状短沈線を施す	中期後葉
第16998 PL-107	4	浅鉢	口頭部破片	埋土	粗砂粒・輝石/やや軟/ 淡黄褐色	幅広隆線による渦巻文と区画文構成。区画内側縁は良縁、斜位短 沈線を充填する。隆線帯には研磨を加える	中期後葉
第16998 PL-107	5	深鉢	口頭部~体 部破片	砂・床直上	粗砂粒・石英/やや軟/ にぶい黄褐色	2条隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。渦巻文下端より2条 隆線が垂下する。縦位沈線厚を施す。焼熱のため器面磨滅	中期後葉
第16998 PL-108	6	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/暗褐色	内湾する体部。頸部は外反し無文か。横位隆線を付し円形割突文 が沿う。以下2条隆線による渦巻文を配し、弧状・U字状短沈線 を充填する	中期後葉
第16998 PL-108	7	深鉢	口頭部~体 部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/灰褐色	2条隆線による口縁部区画文構成。側縁は沈線で区画内は斜位短 沈線を充填する。体部は口縁部区画文下端より1条の弧状隆線が 垂下派生し、斜位沈線を施す	中期後葉
第16998 PL-108	8	深鉢	体部破片	床直上	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	単隆線による渦巻文を配し、外縁に弧状短沈線を施す	中期後葉
第16998 PL-108	9	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 暗灰色	内湾する体部。2条隆線によるU字状区画か。中位に縦位波状隆 線を加える。区画内は地文に横位短沈線を施し、弧状の小意匠を 重ねる	中期後葉
第16998 PL-108	10	深鉢	体部破片	床直	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	縦位弧状隆線を付し、斜位短沈線を充填する。側縁は無い	中期後葉
第16998 PL-108	11	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい赤褐色	口頭部内面折返し状に肥厚。2条隆線による渦巻文と区画文構 成。区画内は沈線を側縁とし斜位短沈線を充填する。体部は縦位 L Rを施す	中期後葉

種図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第169図 PL.108	12	浅鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・石英/良好/ 褐色	口縁部内外面僅かに突出。体部上半に内湾を持たせる。内外面弱い傾位隆起。外縁に赤彩画と黒色付着物を見る	中期後葉
第169図 PL.108	13	浅鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい褐色	口縁部外面僅かに突出。体部上半に弱い内湾を持たせる。内外面丁寧な研磨。赤彩画を見る	中期後葉
第170図 PL.108	14	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/雲母/ 良好/にぶい赤褐色	横位隆起を設け弧状隆起が上位に派生する。太い沈線2条を御線とし、斜位R Lを充填する	中期中葉
第170図 PL.108	15	深鉢	底部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	縦位波状隆起と垂下隆起による懸垂文構成で下端。横位短沈線を充填する。底面外縁に副代彫線	中期後葉
第170図 PL.108	16	深鉢	体部破片	床直上	粗砂粒・石英/雲母/ 良好/赤褐色	大型の環状突起を配し下端より隆起が3方向に派生する。側縁は太い沈線	中期中葉
第170図 PL.108	17	石甕	返し部欠損	埋土	黒曜石	長:2.0、幅:1.3、厚:0.5cm、重:0.7g。凹基無彫線。完成状態? 全面が剝離面で覆われているが、雑な作り。やや肉厚で、左辺側の返し部を欠く	
第170図 PL.108	18	石甕	返し部欠損	埋土	黒曜石	長:1.6、幅:1.5、厚:0.4cm、重:0.7g。凹基無彫線。未製品。全面が剝離面で覆われているが、雑な作り。裏面御線基部に径3mmの球磨の抜けた跡があり、これが加工時に影響したものとみられる	
第170図 PL.108	19	鴨状石器	完形	埋土	黒曜石	長:2.8、幅:6.7、厚:1.0cm、重:12.6g。鴨状の先端部を有する両面加工石器。やや粗い研磨が全面を覆う。先端に近い下端側エッジは剝離後の研磨面が残されているほか、上端側エッジにも同様の研磨面が部分的に残る	
第170図 PL.108	20	打製石斧	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:10.1、幅:5.5、厚:2.3cm、重:147.2g。短冊形。完成状態。対部摩耗が著しく、相当に使い込んでいる。裏面側には対部両生の痕跡が残し、使用可能な状態にある	
第170図 PL.108	21	打製石斧	完形	床直上	黒色頁岩	長:12.1、幅:5.0、厚:2.8cm、重:163.2g。完成状態。対部摩耗が著しい。対部は副代気味であり、器体は振れる	
第170図 PL.108	22	敲石	完形	ビット6	粗粒輝石安山岩	長:20.0、幅:8.2、厚:7.3cm、重:1713.1g。大型の棒状円錐上下端部に敲打痕が集まる。下端部に顕著	

52区15号住居跡

種図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第172図 PL.108	1	深鉢	口縁～体部 下半残存	東壁際床直	粗砂粒・石英/輝石/ 良好/にぶい褐色	口径:32.0cm。口縁部上位は扁平な印象。下位は隆起による平渦巻文と区画文構成。区画下端に横位隆起と凹形刺突文を加える。区画内は縦位短沈線を充填する。体部は沈線無文でいわゆる「田」字状意匠を配す。渦巻文を中核に3条の垂下沈線が懸垂し、単位弧状沈線末端は刺状になる。地文は縦位・斜位R L。文様単位は口縁部は4単位、体部は6単位構成	中期後葉
第172図 PL.108	2	深鉢	口縁部破片	床直上	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	2条隆起による口縁部渦巻文と区画文構成。区画内は沈線を御線とする。地文は縦位R L。頸部は無文。内面弱い研磨	中期後葉
第172図 PL.108	3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/雲母/ 良好/褐色	縦位密接条線を地文とし、縦位波状沈線文を重ねる	中期後葉

52区18号住居跡

種図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第176図 PL.108	1	深鉢	ほぼ完形	床直上	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	口径:26.0、底径:9.0、器高:32.8cm。キャリバー状を呈し頂部渦巻文の波状突起を2単位配す。口縁部は隆起による渦巻文と区画文構成。沈線を御線とする。頸部は無文。体部上半に横位沈線3条を設け以下縦位R Lが覆う。内面体部下半に少量の煤付着。外面面割落多く、遺存状態は良くない	中期後葉
第176図 PL.109	2	深鉢	口頸部1/5・ 体部残存。 底面欠損	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	底径:(25.0)cm。口頸部深く凹き隆起による渦巻文と区画文構成。頸部隆起に太い彫みを施す。体部上半に2条の横位隆起を設け、体部は沈線による渦巻文、刺状意匠、垂下沈線が配される。地文は縦位・斜位R L	中期後葉
第176図 PL.108	3	深鉢	口縁～体部 中位残存	床直	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	口径:12.8cm。口縁部派生する。頸部隆起で口縁部文様帯を画し、1・2条隆起による弧状意匠を配す。地文は横位R L縦位施文	中期後葉
第176図 PL.108	4	深鉢	口縁部破片	埋土下位	粗砂粒・石英/雲母/ 良好/にぶい褐色	波状突起を付し、口縁部区画内に横位把手を設ける。突起下は桶状で沈線によるコイル状意匠を施す。区画内は縦位短沈線を充填する。内面強い研磨	中期後葉
第176図 PL.109	5	深鉢	体部下手～ 底部1/2残	床直上	粗砂粒・石英/良好/ にぶい褐色	底径:7.0cm。緩やかな内湾を持たせて直立する。斜位R Lが覆う。体部内面に煤付着。底面に種子痕あり	中期後葉
第177図 PL.109	6	深鉢	口縁～体部 下半1/4残 存	埋土下位	粗砂粒・石英/輝石/ 良好/にぶい褐色	口径:(17.0)cm。口縁部文様帯下端に渦巻状突起を付す。口縁部は横位沈線4条を施し、一部に2条単位で交互刺突文を加える。体部上半は3条の横位沈線で画し、体部中位に沈線による横位波状文を配す。地文は縦位横位R L。内面体部下半に煤付着	中期中葉末

神田 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第17708 PL.109	7	深鉢	口縁～体部 下半1/2残存	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい・褐色	口縁部強く内湾し無文。頸部に横位隆線3条を設け沈線が沿う。沈線は屈曲し隆線に達する。体部は垂下隆線2条による懸垂文構成。2条隆線による懸垂状区画を配す。区画内は縦位沈線群を地文とし斜交文を加える。体部下半に保持す。	中期後葉
第17708 PL.109	8	深鉢	口縁部破片	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	小型深鉢か。口縁部は外反し無文。頸部は横位隆線2条に画され、横位蛇行隆線が重なる。体部は縦位条線が施される。	中期後葉
第17708 PL.109	9	浅鉢	口縁部破片	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	口縁部肥厚し体部上半に膨らみをつけたせる。中に屈曲文を見る。内外面丁寧に研磨を施し、赤彩を加える。意匠は不明。	中期後葉
第17708 PL.109	10	深鉢	体部下半～ 底部1/2残	埋土下位	粗砂粒・石英/良好/ 浅黄褐色	底径:12.0cm。大型の深鉢。体部下半は強く開く。縦位・斜位 R L を施す。	中期後葉
第17708 PL.109	11	石鐏	先端部欠損	床直上	チャート	長:3.0、幅:1.9、厚:0.5cm、重:2.0g。凹基無葉蓋。完成状態。細身・長身で、大型の部類に入る。加工は丁寧に、全面を剥離が覆う。	
第17708 PL.109	12	楔形石器	完形	埋土	黒曜石	長:1.6、幅:1.5、厚:0.5cm、重:1.2g。上下内端の相対する位置に敲打痕が見え、両極剥離の典型例とするには無理があるだろうが、これにより器種認定した。	
第17708 PL.109	13	打製石斧	完形	埋土下位	黒色頁岩	長:9.6、幅:4.5、厚:2.6cm、重:132.0g。短冊形。完成状態。明確な刃部摩耗は見られないが、刃部は丸彫状に加工され、石斧刃部としては特異である。	
第17708 PL.109	14	垂飾?	左辺欠損	埋土下位	軽石	長:(4.8)、幅:3.6、厚:1.7cm、重:11.2g。径8mmほどの孔を内側穿孔する。平面形は蒲葺状に近い。孔が中央付近に穿たれたものであれば、長さ6cmほどになる。	
第17708 PL.109	15	凹石	完形	埋土下位	粗粒輝石安山岩	長:9.9、幅:7.0、厚:4.0cm、重:389.6g。表裏面中央・内側縁に細かな敲打痕を集中する。側縁の集中は対称的である。平滑面は弱い。	
第17708 PL.109	16	磨石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:21.6、幅:18.7、厚:14.3cm、重:8630.0g。大型の丸石。表裏面に僅かな平滑面を見る。両下側に敲打痕が集中	

61区 5・13号住居跡

神田 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第17908 PL.109	1	深鉢	口縁部破片	床直上	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	口縁部波状に内屈。幅広の頸部無文部に斜位隆線が垂下する。口縁部内面には凹文を設け形彫斜交文を施す。	後期前葉
第17908 PL.109	2	深鉢	口縁部破片	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい・褐色	口縁部内屈。横位沈線以下、幅広の頸部無文部を設ける。下端に横位沈線を配す。	後期前葉
第17908 PL.109	3	深鉢	口縁部破片	床直上	粗砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	口縁部幅広に内屈。無文。	後期前葉
第18008 PL.109	4	深鉢	口縁部破片	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい・褐色	口縁部内屈。凹文を中心に重垂文を配す。口縁部沈線を施す。頸部は無文。内外面研磨	後期前葉
第18008 PL.109	5	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい・褐色	頸部の横位沈線2条に小型の8字状凹付文を付す。体部は沈線による弧状意匠。縄文は R L 充填施文	後期前葉
第18008 PL.109	6	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい・褐色	縦位波状条線を施す	後期前葉
第18008 PL.109	7	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい・黄褐色	垂下隆線に波状隆線が接する懸垂文構成。内外面研磨	後期前葉
第18008 PL.109	8	注口土器	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 灰褐色	口縁部外傾し体部は強く垂る。頸部屈曲部に横位沈線を設け他は無文。口唇部内面に沈線を施す。内外面とも丁寧に研磨を施す	後期前葉
第18008 PL.109	9	注口土器	底部破片	埋土	粗砂粒/良好/にぶい・褐色	内外面丁寧に研磨が施される。底面に網代文	後期前葉
第18008 PL.109	10	石鐏	先端部欠損	13号住埋土	黒曜石	長:1.8、幅:1.5、厚:0.5cm、重:1.0g。平基無葉蓋?未製品。片面を薄く面的に剥離。片面を厚く周辺加工する。製作途中で先端部を破損する	
第18008 PL.109	11	磨製石斧	完形	ビット12	変質蛇紋岩	長:5.5、幅:3.0、厚:0.8cm、重:23.9g。定向式。完成状態。全面が丁寧に研磨されている。刃部に明確な使用痕は見られない	
第18008 PL.110	12	敲石	完形	埋土下位	粗粒輝石安山岩	長:13.2、幅:8.8、厚:5.9cm、重:1021.5g。上下端部に敲打痕が集中するが表裏面片側に偏る。平滑面は表裏面に見られ裏面は強い	
第18008 PL.110	13	磨石	完形	ビット7	粗粒輝石安山岩	長:9.5、幅:9.8、厚:7.2cm、重:1030.0g。光沢を持つ平滑面を表裏面に見る。裏面中央・内側面に敲打痕を集める	
第18008 PL.110	14	磨石	完形	埋土下位	石英閃緑岩	長:19.1、幅:15.0、厚:13.7cm、重:5900.0g。丸石。大型の凹溝。表裏面に強い平滑面を持つ。細かな敲打痕が散見に見られる	
第18008 PL.110	15	敲石	完形	ビット2	粗粒輝石安山岩	長:13.6、幅:7.3、厚:4.0cm、重:496.9g。小型の長方形凹溝。下端部から右側面にかけて敲打痕を見る。裏面平滑面は強く光沢面となる	
PL.110	16	凹石	完形	埋土下位	粗粒輝石安山岩	長:32.8、幅:19.5、厚:15.4cm、重:13720.0g。大型の楕円状凹溝。表裏面。無面に敲打による浅い凹みを持つ	

61区6号住居跡

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第1818区 PL-110	1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	あるいは浅鉢か。隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。無縁は沈線、L Rを充填する。頸部隆線と沈線が重なる。頸部は無文	中期後葉
第1819区 PL-110	2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい褐色	体部下平か。縦位R Lの間隔施文	中期後葉
第1819区 PL-110	3	浅鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 暗褐色	口唇部内面肥厚。内外面丁寧に研磨を施し、外面に赤彩痕残る	中期後葉

61区14・15号住居跡

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第1838区 PL-110	1	深鉢	口縁～体部 1/4残存	埋土下位	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	渦巻文を配した環状突起を2個1対に付す。底辺部にも小型の突起を付す。体部は沈線で画された磨消部による施文部と区画文を配し下部を渦巻文に接続する。踵文はL R充填施文。磨消部・内面とも研磨。内面肥付着	後期初頭
第1839区 PL-110	2	深鉢	口縁～体部 破片	埋土下位	粗砂粒・輝石/やや 軟/褐色	薄手の器厚。口縁部に凹窪を加えた横位隆線を設ける。体部は無文。内面体部中位に裾付着。器面磨減	後期初頭
第1839区 PL-110	3	深鉢	口縁部破片	ビット1	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	幅広い無文部を設け、口縁部隆線を付す。体部は無文。口縁部内外面強い研磨	後期初頭
第1839区 PL-110	4	深鉢	口縁部破片	ビット1	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	口縁部に環状突起を付す。口縁部に面を持ち、円形刺突文・横位沈線を施す。頸部は斜位隆線2条を配し、体部の横位隆線に繋ぐ。凹文を分岐点に付す。内外面丁寧に研磨	後期初頭
第1839区 PL-110	5	石鏡	ほぼ完成形	ビット12	黒曜石	長:3.0、幅:2.2、厚:0.7cm、重:3.3g。未製品。観形を整えた程度で製作を終えている。石鏡としての最終形態は不明だが、基部は突出気味で、少なくとも基部を挟り込もうとする意図はないように見える	
第1839区 PL-110	6	打製石斧	上半部欠損	埋土下位	変質安山岩	長:(9.0)、幅:6.2、厚:2.2cm、重:144.4g。短冊形。完成状態。刃部摩耗が著しく、裏面側より背面側の摩耗範囲が広い。側縁は強く聞き味	
第1839区 PL-110	7	磨製石斧	下半部欠損	ビット2	変玄武岩	長:(9.7)、幅:(5.0)、厚:3.2cm、重:273.1g。乳棒状。完成状態。頭部側は断面四角形状を呈し、首柄を明らかに意識している	
第1839区 PL-110	8	不明石製 品?	完成形	ビット1	玉髓	長:3.5、幅:2.1、厚:2.0cm、重:19.8g。何れ種?原産地には爪状痕が残り、それが河床産であることを示している。石材間ほぼ透明で、淡黄褐色を呈する。とりわけ加工されているわけではないが、石材の特殊性から掲載した	
PL-110	9	磨石	破片	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(7.0)、幅:(7.2)、厚:(7.1)cm、重:452.0g。多孔質軟門礫。磨り面は平坦で平滑面を持つ。あるいは石皿片か	

61区15号住居跡

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第1848区 PL-110	10	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	口唇部内屈。刻みを付す横位隆線を配し、体部は横位沈線で画された縄文施文部を充てる。L Rを充填施文	後期前葉
第1848区 PL-110	11	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	口縁部外反し無文。頸部屈曲部に横位沈線2条を配し、沈線間に刺突文を埋める。内面研磨	後期前葉
第1848区 PL-110	12	鉢	頸部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい褐色	頸部隆線に小型の横位把手を付し体部に隆線による弧状意匠を配す。大柄の渦巻文か	中期後葉
第1848区 PL-110	13	注口土器	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい黄褐色	体部内湾部。沈線で画された施文部による弧状意匠。縄文L Rを充填する。内面丁寧に研磨	後期前葉
第1848区 PL-110	14	注口土器	注口部のみ 残存	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	基部近くか。先端部は欠損後摩耗。無文で削り後施で調整を施す	後期前葉
第1848区 PL-110	15	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	10～13本単位の櫛歯状工具による縦位波状条線を施す。縦位細沈線を見るが、波状条線施文後である	後期前葉
第1848区 PL-110	16	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	内湾する体部上平か。横位隆線を配し、L Rを縦位施文する。縄文は隆部上に及ぶ。内面強い研磨	後期前葉
第1848区 PL-110	17	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい赤褐色	口唇部破片か。横位隆線を設け、他は無文。内外面とも強い研磨を施す	後期前葉
第1848区 PL-110	18	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい赤褐色	体部下平。沈線で画された施文部懸垂文下平。中位は渦巻文か。施文部縄文はL R縦位・斜位充填施文。磨消部。内面研磨	後期前葉
第1848区 PL-110	19	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい褐色	体部上平。沈線で画された磨消部逆U字状懸垂文。L R縦位・斜位充填施文。内面強い研磨	中期後葉
第1848区 PL-110	20	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	体部上平か。頸部は横位斜隆線を設け、体部は太い沈線で画された磨消部逆U字状懸垂文を配す。施文部縄文は縦位R L充填施文。磨消部・内面を研磨する	中期後葉
第1848区 PL-110	21	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	口唇部内湾。横位沈線を設け、体部は沈線で画された磨消部弧状意匠を配す。逆U字状意匠か。縄文はR L充填施文。内面研磨	中期後葉

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第18490 PL.110	22	土製円盤	一部欠	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	径:4.8×4.4、厚:0.9cm、重:23.9g。深鉢体部磨部を利用。周縁は丁寧な磨調整を施す。無文	後期前葉
第18490 PL.113	23	石甌	右側縁破損	埋土	黒曜石	長:1.6、幅:1.4、厚:0.4cm、重:0.6g。円縁無蓋蓋。未製品。押圧剥離に全面が覆われているが、先端部出っ歯は平く、形態的に完成状態にはない。右辺を基部側から大きく破損する	
第18490 PL.110	24	石甌	先端部破片	埋土	黒曜石	長:(1.7)、幅:(1.2)、厚:0.3cm、重:0.3g。完成状態。押圧剥離が全面を覆う。石甌としては細身の部部に入る	
第18490 PL.111	25	敲石	1/2残存	埋土	変質安山岩	長:(10.0)、幅:5.8、厚:3.9cm、重:270.0g。棒状の円縁。上端に敲打面を集める。表面に平滑面を見る	
第18490 PL.111	26	多孔石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:23.2、幅:21.3、厚:13.5cm、重:6400.0g。多孔質角礫。孔断面形は円錐状で表裏面に設けられる。側面には見られない	

61区25号住居跡

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第18690 PL.111	1	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい赤褐色	太い隆線による口縁部区画文と渦巻文か、無縁は撫で及び研磨。無縁L縦位施文。体部は密接条線と縦位沈線と上端を見る。内面研磨	中期後葉
第18690 PL.111	2	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部端文は縦位L R 充填施文。内面丁寧な研磨を施す	中期後葉
第18690 PL.111	3	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英/良好/ にぶい褐色	体部上半。横位沈線2条を配し、弧状沈線が垂下する。地文は斜位L R	中期後葉
第18690 PL.111	4	直	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 灰黄褐色	同部か。弧状横位隆線を付し、2条の弧状隆線が派生する。内外面丁寧な研磨を施す	中期後葉
第18690 PL.111	5	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英/良好/ にぶい褐色	隆線による逆U字状懸垂文か。区内には沈線を無縁とし縦位L R を充填する。磨消部は研磨を施す	中期後葉
第18690 PL.111	6	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	磨消部懸垂文構成。縦位密接条線を地文としL縦位波状沈線を重ねる	中期後葉
第18690 PL.111	7	深鉢	口頭部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい黄褐色	口縁部は2条隆線による区画文と渦巻文構成か。区内には縦位短沈線と横位交互刻突文を充填する。体部は2条隆線が懸垂し、縦位矢羽状短沈線を施す	中期後葉
第18690 PL.111	8	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/赤褐色	垂下隆線2条による懸垂文構成。無縁は沈線。斜位短沈線を充填する	中期後葉
第18690 PL.111	9	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	体部下半。2条の沈線に画された磨消部懸垂文構成。縦位R L を充填し、縦位波状文を加える	中期後葉
第18690 PL.111	10	深鉢	底部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	底端部やや張り出す。垂下隆線2条による懸垂文構成。波状隆線の下部端か。沈線を施文する	中期後葉
第18690 PL.111	11	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	波状突起。小孔を貫孔する。円文を配し口縁部沈線を施す。頸部は削みを付す隆線が垂下する。内面口縁部に円文と縦位沈線を施す	後期前葉
第18690 PL.111	12	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 黄褐色	外反する口縁部。外面は無文。内面は横位沈線を多段に設け円文を配す	後期前葉
第18690 PL.111	13	深鉢	底部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	底端部張り出し外反気味に開く。無文で内外面研磨を施す	後期前葉
第18690 PL.111	14	石甌?	下半部欠損	埋土	黒曜石	長:1.5、幅:1.9、厚:0.4cm、重:0.9g。未製品。製作の初期状態にあり、観形作出も不十分で、石甌としての最終形状は判断できない	
第18690 PL.111	15	石甌?	先端部破片	埋土	黒曜石	長:(1.7)、幅:(0.6)、厚:0.2cm、重:0.2g。完成状態?細身の石甌先端破片で、押圧剥離が全面を覆う。側縁は剝離状に近い	

土坑 1 51区

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第19690 PL.111	65坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土下位	細砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	横位隆線に画された幅狭の口縁部文様帯。無縁は沈線で縦位短沈線を充填する。頸部は無文か	中期後葉
第19690 PL.111	65坑 2	深鉢	体部破片	埋土下位	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	縦位平行沈線による懸垂文構成。縦位R L を地文とする	中期後葉
第19690 PL.111	65坑 3	石甌	完形	埋土下位	黒曜石	長:2.0、幅:1.5、厚:0.6cm、重:0.9g。横型。完成状態。小形の幅広割片を用い、割片端部を加えて円部としたもの。観形は石甌様だが、返し部に相当する部分の無縁が狭く、これを石甌「狭み部」と判断した	
第19690 PL.111	65坑 4	打製石斧	面部破損	埋土下位	黒色頁岩	長:(9.8)、幅:5.0、厚:1.6cm、重:81.3g。短形。完成状態。密しく使い込まれ、これ以上ないほど刃部摩耗は進行している。側縁は摩耗しているが、着柄部とするにはエッジが薄く、摺損痕というより刃部(削型)的である	

種図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第196図 PL-111	65坑 5	凹石	完形	埋上下位	粗粒輝石安山岩	長:11.0、幅:7.2、厚:4.3cm、重:510.2g。楕円状円盤。表裏面中央に敲打痕跡による凹みを持つ。側面・上下端部にも敲打痕跡はあり、敲石としての用途も強い。磨面も表裏面に見られ、表面は光沢面を持つ	
第196図 PL-111	65坑 6	石棒	体部のみ	埋上下位	デイスサイト	長:(22.3)、幅:13.5、厚:11.0cm、重:5010.0g。大型石棒。敲打による磨面。上下欠欠が意図的な欠損と思われる。磨面は凹面ではない	
第196図 PL-111	81坑 1	深鉢	口縁部1/2残存	埋上下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/明赤褐色	口縁部内外肥厚。無文部を外反し、体部は内湾する大型の深鉢。口径:36.0cm。口唇部に円形刺突文を連続し、頸部隆線は横位2条隆線で体部と両するが3条隆線に置換する箇所もある。体部は2条隆線による筒状懸垂文を配すが、沈線への置換も見られる。空白部は縦位R.L.を充填し、縦位波状沈線が加わる。内面弱い研磨	中期後葉
第196図 PL-111	81坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/赤褐色	2条隆線による懸垂文構成。斜位短沈線を充填する	中期後葉
第196図 PL-111	81坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/赤褐色	隆線による弧状意匠。おそらく渦巻文。斜位短沈線を備す	中期後葉
第196図 PL-111	81坑 4	打製石斧	完形	埋上下位	粗粒輝石安山岩	長:10.9、幅:5.3、厚:2.0cm、重:131.6g。短冊形。完成状態。刃部摩耗あり。右辺側刃部がダクシオンされ、やや歪んでいる	
第196図 PL-111	81坑 5	磨石	半欠	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(13.8)、幅:14.3、厚:8.2cm、重:2610.0g。大型の楕円状円盤。表面中央に平滑面を見る	
第197図 PL-112	118坑 1	深鉢	完形	底面	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/赤褐色	口径:16.7、底径:11.0、器高:27.7cm。波状突起を付す。突起中に孔を設け、弧状隆線で囲う。頸部隆線には刻みを重ねる。体部は凹筒状で無筋L縦位施文。体部内面埋付着	中期後葉初
第197図 PL-111	143坑 1	深鉢	口縁部1/2欠損	北西壁際底面	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/明赤褐色	小型深鉢。口径:11.7、底径:6.4、器高:17.0cm。器形に歪みを見る。口縁部突起は1単位か。口縁部にU字状意匠を配し、頸部隆線と斜位短沈線による懸垂文構成。6単位を数える。内面に埋付着	中期中葉
第197図 PL-112	153坑 1	深鉢	口頸部破片	埋上下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	2条の弧状隆線を配す。口縁部区画文か。頸部は無文	中期後葉
第197図 PL-112	153坑 2	敲石	完形	埋上下位	霞雲安山岩	長:9.2、幅:3.3、厚:2.1cm、重:105.9g。小型の楕円状円盤上下端部に僅かな敲打痕跡を見る	
第197図 PL-112	156坑 1	鉢	口唇部・体部一部欠損	東壁際底面	粗砂粒・輝石/良好/ 赤・黄褐色	口縁部に横位沈線と円形刺付文を配す。4単位構成。体部上半に沈線による渦巻状意匠を配し弧状隆線2条で繋ぐ。口縁部に補綴孔を見る。内外面丁寧な研磨を加える。赤彩痕は判然としない	後期前葉
第197図 PL-112	159坑 1	深鉢	口縁部・体部1/3残存	壁外	粗砂粒・大粒石英/ 良好/褐色	外反する口縁部にS字状意匠を付した横状把手を配す。単位は不明。4単位か。頸部隆線以下強く刺突文が体部を覆う。口縁部内外面研磨を施す	後期前葉
第197図 PL-112	159坑 2	深鉢	体部破片	埋上下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/赤褐色	体部上半。数条の横位沈線を設け、上位に縦位沈線を派生する。下位は懸垂R縦位施文。沈線は内湾施文。内面埋付着	中期後葉
第197図 PL-112	159坑 3	深鉢	体部破片	埋上下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/暗褐色	体部上半。横位沈線に交互刺突文を重ねる。体部地文は懸垂R縦位施文で横位波状沈線文を加える。器厚厚手	中期後葉
第198図 PL-112	166坑 1	深鉢	口縁部1/3・底部欠損	埋上上位へ～ 中位	粗砂粒・輝石/良好/ 赤・褐色	口径:50.0cm。大型のキャリバー状深鉢。器厚も厚手で重量感ある。小波状突起を付し、口縁部文様帯は2条隆線で両す。隆線による横位S字状意匠を配し横位隆線や弧状隆線で繋ぐ。頸部は横位波状沈線3条と横位沈線1条を設ける。口縁部地文に懸垂R縦位・斜位施文。体部は縦位施文が覆う。口縁部内面に弱い研磨を施す	中期後葉
第198図 PL-112	166坑 2	石皿	破片	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(8.7)、幅:(8.5)、厚:1.3cm、重:1866.0g。底面破片。内底面に平滑面。外底面に浅く敲打痕跡を見る	
第199図 PL-113	171坑 1	浅鉢	完形	北東壁際埋上下位	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	口径:突起間40.2・波底部27.3、底径:9.8、器高:27.2cm。注口付浅鉢。4単位波状隆線。波頂部に円文と渦巻文を施す突起を付し直下に横状把手を設ける。注口は一箇所のみ把手に付く。把手には弧線文と円文を配す。口縁部文様帯は沈線による渦巻文で両され楕円状区画文を連ねる。中位には横位沈線と円文を充填する。把手内面及び片側にも貫孔する。体部は無文で下半に被熱痕跡。上半に少量の煤の付着を見る。内外面とも研磨を施す。底面に副代痕を残す	後期前葉
第200図 PL-112	172坑 1	深鉢	完形	東壁際埋上下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/赤褐色	横状を呈す。口径:25.0、底径:9.0、器高:28.5cm。口唇部沈線と円形刺突文。外反する頸部は無文で横位沈線3条で体部と両す。体部は沈線による対弧状意匠を配し、下端より沈線懸垂文が派生する。分岐懸垂文も充てられる。口唇部円形刺突文と体部意匠文は5単位を数える。内外面弱い研磨を施す	後期前葉
第200図 PL-113	215坑 1	深鉢	口縁部突起片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 黒褐色	大型の環状突起外縁に鞍形隆線を加える。下端に小型の環状突起を付す。内面は沈線や三文文を施す	中期中葉末
第200図 PL-113	215坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	弧状隆線を設け、体部に棒状付付文を付す。側面は内湾沈線。地文は懸垂R斜位施文	中期後葉

種目 No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第2008 PL-113	215坑 3	凹石	完形	埋土中位	変質安山岩	長:20.6、幅:8.5、厚:3.4cm、重:729.1g。扁平な棒状円盤。表裏面に敲打痕の集中による凹みを縦位に連ねる。断面形状は深く凹線状を呈する。平滑面は顕著ではない	
第2008 PL-113	215坑 4	白石	完形	埋土中位	粗粒輝石安山岩	長:24.6、幅:18.6、厚:10.0cm、重:6350.0g。大型の楕円状円盤。裏面を平坦とする。表裏面中央に敲打集中による孔が散在する。磨面も表裏面にあり裏面に平滑面を見る	
第2010 PL-113	215坑 5	石棒	下半部欠損	埋土中位	滑結凝灰岩	長:(24.8)、幅:11.5、厚:11.3cm、重:5790.0g。大型石棒。敲打による丁寧な整形。頭部に凹みを見るが敲打が集中した箇所である。頭面部に意図的な円形の凹みを有する。下部の欠損も意図的か。頭部上位に素材混在物による帯状の痕が見られる	
第2010 PL-113	226坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/灰褐色	厚手の器厚を呈す。隆線による口縁部凹状区画文。浅い沈線と側線とし縦位LRを施す。頸部は無文	中期後葉
第2010 PL-113	227坑 1	浅鉢	口縁部1/2 欠損。底面 欠損	北西壁際底面	細砂粒・輝石/やや 軟/暗赤褐色	口径:36.2、底径:(9.0)、器高:13.0cm。富士山形の4単位波状縁。波頂部に凹孔を設ける。口縁部内外面に赤彩を見るが、器面の遺存が悪く全容は把握できない。内面凹孔周辺に顕著に見る。内外面研磨	中期中葉
第2010 PL-113	230坑 1	深鉢	口縁部1/4 残存	埋土中位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい赤褐色	棒状の器形。口径:(14.0)cm。平縁で小波状突起を付す。おそらく4単位。波頂下に内皮沈線による渦巻文を配す。内皮沈線は、体部上半の横位沈線に繋がる。体部は縦位沈線が施される。沈線施文は深い	中期後葉
第2010 PL-113	230坑 2	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい褐色	横位隆線より重く隆線が生じ方形区の区画が連続する。縦位沈線を充填する	中期後葉
第2010 PL-113	230坑 3	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	削みを付す重下隆線による懸垂文構成。側線は沈線。器底LR縦位施文	中期後葉
第2010 PL-113	230坑 4	深鉢	体部破片	埋土中位	細砂粒・輝石・雲母/ 良好/にぶい褐色	体部下平。振りを加えた隆帯によるU字状意匠か。側線・充填文は深い沈線に施す。内面付着	中期後葉
第2020 PL-114	239坑 1	深鉢	口縁部1/5 欠損	西壁際底面	粗砂粒・片岩/良好/ 暗赤褐色	口径:13.2、底径:7.3、器高:17.8cm。小型深鉢。筒状の体部器形を呈し口縁部は短く外反する。無文で体部中位～下半研磨。内面体部下平に付着	中期中葉
第2020 PL-114	239坑 2	浅鉢	口縁部一部 欠損	西壁際底面	粗砂粒・片岩/良好/ にぶい赤褐色	口径:25.0、底径:10.2、器高:10.2cm。小型浅鉢。口縁部は内傾し面を持つ。内縁は明瞭で、内面体部は内湾し整う。外面削り調整。内面丁寧な研磨を加える	中期中葉
第2020 PL-114	239坑 3	石盤	返し部欠損	埋土	直紋岩	長:3.0、幅:(1.6)、厚:0.4cm、重:1.2g。凹基無蓋蓋。完成状態。全面が押圧距離で覆われ、丁寧な作り。縁身・長身で、基部を深く挟み込む。左辺側の返し部を欠く	
第2020 PL-114	241坑 1	深鉢	口縁～体部 2/3残存	埋土上位	細砂粒・石英・輝石/ 良好/黒褐色	緩やかな波状縁。5単位か。口径:21.6cm。口縁部は隆線による渦巻文と区画構成。側線は沈線。縦位短沈線を充填する。体部は沈線のみの施文で、垂下沈線2条による懸垂文構成。空白部は斜位短沈線を施す	中期後葉
第2020 PL-114	241坑 2	深鉢	口縁～体部 1/2残存	埋土上位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/灰褐色	口径:18.2cm。棒状の器形を呈す。口縁部に横位隆線1条を設け、大型の渦巻文を4単位配す。渦巻文より2条隆線が懸垂する。空白部は縦位密接沈線帯を地文とし、横位沈線2条を多段に配り小区画文を構成する。内面斜位施で調整痕顕著	中期後葉
第2020 PL-114	241坑 3	深鉢	口縁部破片	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	隆線による口縁部双渦巻文と区画構成。区内内は縦位短沈線を充填。体部は横位短沈線を施す	中期後葉
第2020 PL-114	241坑 4	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい赤褐色	沈線による渦巻文下端より蛇行沈線が重下する。弧状短沈線を施す	中期後葉
第2020 PL-114	256坑 1	深鉢	口縁～体部 残存	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/浅黄褐色	4単位波状縁。口径:26.8cm。波頂部下に隆線による渦巻文を配す。区画文と接続し幅広の沈線を側線とする。体部は2条の垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。縄文LR充填施文。内面削り・横位研磨。比較的丁寧な作り	中期後葉
第2020 PL-114	256坑 2	深鉢	口縁～体部 1/2残存	埋土上位	粗砂粒・石英・輝石/ やや軟/黒褐色	口径:23.8cm。波状突起を付す。おそらく3単位。波頂部渦巻文を配し口縁部は連続した渦巻文と区画構成。区内内は横位RL。体部は2条沈線で画された磨消部懸垂文構成。空白部は縦位密接条線を充填する	中期後葉
第2020 PL-114	256坑 3	深鉢	口縁～体部 1/5残	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	口径:(26.0)cm。隆線による一体化した口縁部渦巻文と区画。側線施で。区内内は斜位条線を施す。体部2条沈線による懸垂文構成。縦位波状条線を充填する	中期後葉
第2020 PL-114	256坑 4	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画構成。側線は沈線。縄文はRL充填施文。内外面研磨	中期後葉
第2020 PL-114	256坑 5	深鉢	口頸部破片	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	隆線による口縁部渦巻文。以下隆線の弧状沈線を設け斜位RLを施す。外面褐色付着物が顕著。塗彩文様か	中期後葉
第2030 PL-114	256坑 6	深鉢	体部破片	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	沈線で画された幅狭磨消部懸垂文構成。施文部には縦位蛇行沈線が加わる。縄文は縦位RL充填施文	中期後葉
第2030 PL-114	256坑 7	深鉢	体部下平～ 底部残存	埋土上位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	底径:6.6cm。沈線で画された磨消部懸垂文構成。7単位か。縄文は縦位LR充填施文。内面削り及び磨消状付着物を見る	中期後葉

種目 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第20398 PL.114	256坑 8	深鉢	底部残存	理土上位	細砂粒・輝石/良好/ 明赤褐色	垂下沈線下部を見る。隆線の痕跡も見ることが判然としにくい。底面 外縁擦れる	中期後葉
第20398 PL.115 1	261坑 1	深鉢	口縁部破片	底面	細砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	緩やかな波状線を呈す浮線文。口縁部と頸部に矢羽状の刻みを付 す横位浮線3条を設け、幅広い口縁部文様帯を画す。文様帯内は 浮線による弧線文が配される。体部は内湾し2・3条の横位浮線 を多段に設ける。横位L Rを地文とする。結節部の施文も見 る。内面横位研磨	前期後葉
第20398 PL.115 2	261坑 2		体部破片			矢羽状刻みを付す浮線文。横位浮線を多段に設ける。地文は横位 L Rで結節部施文も見 る。内面研磨	前期後葉
第20398 PL.115 3	261坑 3		口縁部破片			口径:(27.0)cm。平縁で口縁部小突起を付す。口唇部には刻み を加え、以下平行沈線を多段に配す。地文は横位・斜位R L。内 面強い研磨	前期後葉
第20398 PL.115 4	267坑 4	深鉢	体部破片	底面	細砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	深く内湾し、斜位平行沈線によるX字状意匠も見られ る。地文は横位L R。内面研磨	前期後葉
第20398 PL.115 1	267坑 1	深鉢	口縁部破片	理土中位	細砂粒・石英・輝石/ 良好/暗赤褐色	上半の外反部器薄。横位浮線文を設け矢羽状刻みを施す。地 文は横位R L	前期後葉
第20398 PL.115 2	267坑 2	深鉢	体部破片	理土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/黒褐色	矢羽状刻みを付す2条一組の横位浮線文を多段に設け、上位に満 巻状意匠や斜位浮線文を配す。地文は横位L Rか。内面は強い研 磨	前期後葉
第20398 PL.115 3	267坑 3	深鉢	体部破片	理土	粗砂粒・片岩/良好/ 褐色	垂下隆線に画された施文部と磨消部による懸垂文構成。縄文はL R 縦位充填施文。磨消部は強い縦位研磨	中期末葉
第20398 PL.115 4	267坑 4	深鉢	体部破片	理土上位	細砂粒・石英・輝石/ 良好/黒褐色	口径:16.0cm。口縁部波状突起を付す。輪やや違えた2単位構成。 突起直下及び区画文下端に満巻文を配す。区画内は沈線を側線と し横位R Lを施す。頸部は無文で下位に横位沈線を設ける。内面 研磨。少量の覆付着。外器面剥落多い	中期後葉
第20398 PL.115 5	267坑 5	深鉢	体部破片	理土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	口径:(26.0)、底径:12.0、器高:35.8cm。縦位波状突起を2単位 付す。波直下に弧状意匠を配す。隆線によるY字状懸垂文を口縁 部から懸垂する例と体部から懸垂する例を見る。頸部隆線を設け るが口縁部区画意匠は弱くI区画が配される。口縁部は平行沈線 による横位波状文、体部は縦位波状文が施される。R Lを施すが、 体部の一部は撫で調整を重ねる。器形の歪みが著しく、口縁径は 確認が強い	中期末葉
第20418 PL.115 1	273坑 1	深鉢	口縁・頸部 残存	理土上位	粗砂粒・輝石/良好/ 明赤褐色	口径:25.2、底径:7.4、器高:34.0cm。平縁。口縁部は短く緩やか に内湾し、体部は外反味に開く。底端部は張り出す。口縁部に 小突起2條を設ける2単位構成。粗隆線と単列の結節沈線により 口縁部文様帯を画す。内形小突起下端に満巻文を配す。体部は無 文で丁寧な斜位撫で調整。底面外縁に副代紋が見るが撫でが及ぶ。 内面体部下半に少量の覆付着	中期前葉
第20418 PL.115 2	280坑 2	深鉢	口縁部と体 部の一部欠 損	理土上位～底 面	粗砂粒・石英・雲母/ 長石/良好/にぶい 赤褐色	口径:(21.0)、底径:(8.4)、器高:(24.7)cm。緩やかな波状線 を呈す。口縁部沈線を設け、体部は沈線による分岐懸垂文を配す 縦位L Rを施す。器面は磨減し、器形の歪みも見 る。遺存度は極 めて悪い	中期末葉
第20518 PL.116 1	284坑 1	深鉢	1/2残存	底面	粗砂粒・石英/良好/ にぶい黄褐色	平縁。幅広い無文口縁部。横位隆線を設け垂下隆線を生ずる。 縄文は縦位L Rか。器面磨減	中期末葉
第20518 PL.116 2	284坑 2	深鉢	口縁部破片	理土中位	粗砂粒・石英多/や や軟/にぶい黄褐色	直状線。口縁部横位沈線を設け、分岐懸垂文を生ずる。縄文施文 も看取されるが器面磨減のため判然としにくい	中期末葉
第20518 PL.116 3	284坑 3	深鉢	口縁部破片	理土中位	粗砂粒・石英多/や や軟/にぶい褐色	体部下半か。垂下隆線による懸垂文下部部。他は無文か。器面磨 減	中期末葉
第20518 PL.116 4	284坑 4	深鉢	体部破片	理土上位	粗砂粒・石英・輝石/ 軟質/にぶい褐色	長:33.2、幅:27.6、厚:8.0cm、重:12100.0g。大型の石皿。上半 部が広く、下半部に狭くなる素材形状を利用する。但し底面の傾 きは逆となり、設置方法に難を想定できる。皿部中央に平滑面、 裏面全面に小孔が散らばる	中期中葉
第20518 PL.116 5	284坑 5	石皿	完形	理土中位	粗粒輝石安山岩	口径:(42.5)cm。口縁～頸部は開き、体部は小径の長脚状の器形。 口縁部は突起を付し槽状区画文を配列する。突起単位は不明。 頸部は広く無文で、体部は横位隆線による多段区画文構成。隆線 による横位三角区画文を基準とするが、区画の変化も見られる。 側縁は幅広連続弧状文と連続三角刺突文。中位に三叉文や蛇行刺 突文を配す	中期中葉
第20618 PL.116 1	297坑 1	深鉢	口縁部は一 部、体部残 存	底面	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色		

種別 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第20708 PL-117	297坑 2	深鉢	口縁部突起 の一部、体 部の一部を 欠損	底面	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	口径:27.6、底径:10.6、器高:36.7cm。正面突起1単位を欠損。 環状突起と隅状突起を組み合わせた意匠を3単位付す。口縁部は 環状突起と隅状突起を組み合わせた意匠を3単位付す。口縁部は 環状突起を頸部隆線に付し、横位弧状隆線に繋ぐ。区画線は無い。 頸部は無文。体部は隆線による横位S字状意匠を2単位配し、下 端より隆線あるいは分枝状隆線が懸垂する。隆線側線は太い沈線 2条、空白部は横位波状沈線や短沈線、三叉文を充てる。隅文は R L充填施文だが、磨滅のため判別し難い。内面体部下平に少 量の保付着。内面口縁部一体部上半強い研磨	中期中葉
第20708 PL-116	297坑 3	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/片岩/ 良好/明褐色	口縁部交互三角区画構成。下位に小型の環状突起を付す。側線 は横位連続爪形文と三角連続斜突文。体部上半に横位平行沈線を 多段に配ける	中期中葉
第20708 PL-116	297坑 4	深鉢	口縁～体部 下半残存	底面	粗砂粒・石英・輝石/ やや軟/褐色	口径:22.0cm。平縁で頸部は強く開き、体部は小径で高状を呈す。 口縁部文様帯は半内彫り状の横位蛇行文と縦位平行沈線を配す。 おそらく4単位。頸部は無文。体部は隆線で2帯に分帯され上位 が横位蛇行文、下位は沈線による交互三角区画構成。三叉文も 中位に配される。内面体部下平に保付着	中期中葉
第20808 PL-117	309坑 1	深鉢	体部上半 1/2欠損	埋土上位～下 位	粗砂粒・石英/良好/ 黄褐色	口径:36.6、底径:11.5、器高57.2cm。大型の深鉢。口縁部正面に 大型突起を配し、背面には中空状突起を付す。側面下部には両端 環状の横位棒状突起を配す。大型突起も中空状で4方から貫孔し 中位を橋状とする。両側には小型の橋状把手を付すが欠損する。 口縁部は横位交互斜突文を2段状にする。頸部屈曲部に横位沈線5 条。体部は3条の沈線による渦巻状意匠を配し、横位弧状隆線で 連続する。地文は懸糸L縦位施文	中期後葉
第20808 PL-117	309坑 2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	口縁部強い内湾。2条隆線による半弧状突起を設け区画文を画す。 区画内は細い短沈線による横位矢羽状文を充てる。頸部は 無文	中期後葉
第20808 PL-117	309坑 3	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい赤褐色	波状縁か。2条隆線で画された口縁部区画文。区画内側線は沈線。 縦位R Lを施す	中期後葉
第20808 PL-117	309坑 4	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 灰黄色	横位弧状沈線3条を施す。あるいは渦巻状意匠か。破片下端にも 沈線文を見る。地文は懸糸L斜位施文	中期後葉
第20808 PL-117	309坑 5	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ やや軟/暗褐色	縦やかに外反する。懸糸L縦位密接施文	中期後葉
第20708 PL-117	315坑 1	深鉢	口縁～底部 1/2残存	埋土上位	粗砂粒・雲母/良好/ にぶい褐色	体部上半に突出部を2単位設ける。希有な器形である。口径:18.2、 底径:11.5、器高:36.5cm。口縁部は短く内湾し、頸部屈曲する。 体部上半は内湾部と突出部を2単位設ける。下半は直線的に開き、 やや強出底を呈す。口縁部は沈線による弧状意匠が横位に配され る。頸部は環状意匠と楕円状区画文。体部は隆線懸垂文と沈線懸 垂文を各2単位設け、区画内の各所に小波状意匠を配す。弧線文 に接して三角陰刻文を埋める。隅文は縦位R L。器形に歪みを見 る	初期前葉

土坑 1 52区

種別 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第20808 PL-118	74坑 1	深鉢	口縁～体部 上半残存	底面	粗砂粒・輝石/今や 軟/褐色	口縁部強く内湾。沈線による渦巻状・重環状意匠を配す。10単位 を敷入る。頸部の幅広隆線上に交互斜突文を重ねる。体部は沈線 施文だが磨滅が著しく判別し難い。口縁部内面に保付着	中期後葉
第20808 PL-118	77坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/黒褐色	横位弧状沈線文を配し以下斜位短沈線を施す	中期後葉
第20808 PL-118	77坑 2	打製石斧	下半部欠損	埋土上位	珪質頁岩	長:(7.7)、幅:4.9、厚:2.1cm、重:74.0g。短形部?完成状態。 刃部摩耗については不明だが、側縁を濃し明らかに着跡を意図し ている。破損面は摩耗するようにみえ、磨石転用されたものかもし れない	
第20908 PL-118	78坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい褐色	横位沈線以下縦位R Lを施す	中期後葉
第20908 PL-118	78坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/灰褐色	弧状隆線による区画文か。沈線を側線とし斜位短沈線を充填する	中期後葉
第20908 PL-118	78坑 3	石皿	上下端部欠 損	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:(23.9)、幅:24.4、厚:6.0cm、重:7450.0g。大型で楕円状の 平面形か。縁は高いが欠損部が多い。底面に平滑面が広がり中央 部には光沢面を見る。裏面に孔が破らに散在するが長く鋭角な孔 ではない。敲打による整形	
第20908 PL-118	78坑 4	白石	完形	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:33.7、幅:25.8、厚:10.0cm、重:11700.0g。大型のやや扁平な 円盤。平滑面は表裏面に見えるが表面中央に顕著。僅かに凹む。表 裏面とも敲打による凹みがある	

土坑 1 61区

神岡 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第210区 PL-118	42坑 1	深鉢	完形	埋上下位	細砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	口径:14.6、底径:6.7、器高:15.3cm。小型深鉢。球状突起を4単位付す。口縁下に切みを備す横位細線紋を配し、以下横位沈線に画された縄文帯を置く。体部は無文。内面口縁部に横位沈線3条を配す。内外面とも丁寧な研磨。外面煤付著しい	後期前葉
第210区 PL-118	42坑 2	深鉢	底部残存	埋上下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/赤褐色	底径:6.2cm。外反気味に開く体部下平。2条の隆線による懸垂文構成下端	中期後葉
第210区 PL-118	42坑 3	深鉢	底部残存	埋上下位	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	底径:8.5cm。厚手の器厚。縦位LRを施す。器面磨滅	後期前葉
第210区 PL-118	42坑 4	石鏝	1/3残存	埋土	黒曜石	長:(1.2)、幅:2.0、厚:0.4cm、重:0.6g。円基無蓋錐。完成状態。全面を押し剥離が覆う。右辺側の変形が大きい。製作途中、形状修正を余儀なくされたものか	
第210区 PL-118	42坑 5	播磨	左側欠損	埋土	黒色頁岩	長:4.8、幅:(6.3)、厚:0.7cm、重:18.4g。薄手の横長割片を素材。下端部を対部とし、上位には対置した凹調整を施す	
第210区 PL-118	42坑 6	磨製石斧	完形	埋上下位	緑色岩	長:17.8、幅:6.2、厚:2.9cm、重:569.2g。やや扁平な体部。対部に最打痕を集中するが、対部再調整か。頭部にも最打痕を見る	
第210区 PL-118	42坑 7	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:8.2、幅:5.3、厚:2.5cm、重:191.2g。表裏面に強い平滑面を持つ	

土坑 2 51区

神岡 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第233区 PL-119	1坑 1	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	弧状沈線群を配す。あるいは渦巻文か	後期前葉
第233区 PL-119	2坑 1	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:38.3、幅:15.4、厚:14.0cm、重:13380.0g。大型の棒状垂直円錐。表裏面中央に平滑面を見る	
第233区 PL-119	6坑 1	深鉢	口縁部破片	埋上下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/赤褐色	器厚薄手。口唇部僅かに肥厚し下端に横位沈線を設ける。他は無文	中期初頭～前葉
第233区 PL-119	10坑 1	深鉢	体部破片	埋上下位	細砂粒・輝石/良好/ にぶい/黄褐色	深い沈線による弧状意匠。施文部は無彫LR位施文充填施文。内外面研磨	後期初頭
第233区 PL-119	10坑 2	深鉢	体部破片	埋上下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい/褐色	体部上半か。浅い沈線による磨消部弧状意匠。外面少量の煤付着	後期初頭
第233区 PL-119	10坑 3	深鉢	体部破片	埋上下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	器厚薄手。強い刺突文が器面を覆う。横方向の施文だが規則性や意匠性は看取できない	後期初頭
第233区 PL-119	10坑 4	深鉢	体部破片	埋上下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	強い刺突文が器面を覆う。横位施文だが規則性は判然としなない。内外面に微量の煤付着	後期初頭
第233区 PL-119	10坑 5	深鉢	口縁部破片	埋上下位	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	波状縁頂部。口唇部に刺突文と横位沈線を設ける。体部は沈線で画された施文部弧状意匠か。LR充填施文。口唇部・内面丁寧な研磨を施す	後期初頭
第233区 PL-119	18坑 1	深鉢	口縁～体部 2/3残存	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/赤褐色	口縁部内湾し横位沈線を設ける。体部は上下2帯に分かれ上位は波状文とS字状意匠。下位はU字状意匠とS字状意匠が配される。RLを口縁部は横位。体部は縦位に施す	中期後葉
第233区 PL-119	18坑 2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/浅黄褐色	厚手の器厚。大型深鉢か。無文の口縁部で強く開く	中期後葉
第233区 PL-119	18坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・繊維・石英/ 良好/にぶい/黄褐色	体部下平。0段多条LRとRL斜位施文による縦位羽状縄文構成	前期初頭
第233区 PL-119	18坑 4	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・繊維・石英/ 良好/にぶい/黄褐色	体部中位。LRとRLによる羽状縄文構成	前期初頭
第233区 PL-119	22坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい/黄褐色	隆線による逆U字状懸垂文か。側縁は沈線及び凸部。LR縦位充填施文	中期後葉
第233区 PL-119	22坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/赤褐色	隆線による弧状意匠。側縁は無文。RL縦位施文	中期後葉
第233区 PL-119	29坑 1	深鉢	口頸部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい/黄褐色	隆線による口縁部相対円状画文構成。側縁は沈線。横位RLを充填する。内面研磨	中期後葉
第233区 PL-119	31坑 1	深鉢	口頸部破片	埋土	粗砂粒・石英/やや 軟/灰黄色	頸部隆線波状部。以下沈線による弧状意匠を配す。逆U字状意匠か。LR充填施文	中期後葉
第233区 PL-119	34坑 1	深鉢	口縁部突起 片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	平帯状突起より弧状隆線が派生する。口唇部には沈線と渦巻文。裏面は内縁が突出し、渦巻意匠が配される	中期後葉
第233区 PL-119	34坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 暗灰黄色	軟条の沈線による弧状意匠。施文は深い	中期後葉
第233区 PL-119	34坑 3	打製石斧	上半部欠損	埋土	珪質頁岩	長:(6.2)、幅:4.0、厚:1.4cm、重:45.4g。短冊形。完成状態。対部摩耗が著しい。表裏面には鉄色の原礫面が残る。これに軽い肌状痕がある。石斧が破損した後の再利用を示唆するものかもしれない	
第233区 PL-119	37坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 灰黄色	波状縁。口縁下に孔を設ける。沈線文を施す	中期?

種別 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第2339Q PL_119	37坑 2	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい/褐色	縦位沈線群を施す。内面器壁脱落	中期後葉
第2339Q PL_119	40坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/灰褐色	2条隆線による弧状・渦巻状意匠。隆線間は刻突文を埋める。空白部は短沈線を充填する	中期後葉
第2339Q PL_119	40坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい/褐色	2条隆線が重下する。無線は沈線。空白部は縦位短沈線を充填する	中期後葉
第2339Q PL_119	40坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい/褐色	外反する体部上半。縦位R Lを施す。内面弱い研磨	中期後葉
第2339Q PL_119	44坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい/黄褐色	縦位沈線を見る。縄文は斜位R L	中期後葉
第2339Q PL_119	44坑 2	打製石斧	下半部欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長：(7.7)、幅：(4.9)、厚：1.8cm、重：70.1g。短冊形。完成状態。表面とも擦痕が残る。内側縁の器内は薄く、肩部側まで摩耗しており、着柄によるという刃器様に使われたことで摩耗したということかもしれない	
第2339Q PL_119	53坑 1	深鉢	把手破片?	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい/褐色	小型の横状把手か。縁部間に沈線を施し、R Lを充填施す	中期末葉
第2339Q PL_119	54坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	縦位R Lを施す	中期後葉
第2339Q PL_119	55坑 1	深鉢	頸部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 暗褐色	頸部隆線突出し、口縁部区画文を配す。区画内は幅広連続爪形文と三角連続刺突文が沿う	中期中葉
第2339Q PL_119	55坑 2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 軟質/にぶい/褐色	口縁部内湾。隆線による楕円状区画文を配し、幅広連続爪形文を横位に充填する。器面磨減	中期中葉
第2339Q PL_119	55坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ やや軟/にぶい/黄褐色	体部上半か。横位隆線を設け、縦位隆線が上位に延びる。おそらく区画文。沈線を側線とする。体部は斜位沈線を施すが凡雑な施文。器面磨減	中期中葉
第2339Q PL_119	58坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・繊維/良好/ にぶい/赤褐色	横位L Rを施す	前期中葉
第2339Q PL_119	59坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石・雲母 少/良好/にぶい/褐色	縦位沈線4条を見るが、あるいは細長の縦位刺突文か	中期後葉
第2339Q PL_119	59坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい/褐色	体部下半。垂下沈線に画された幅広器酒部懸垂文構成。縄文はR L縦位充填施文。磨酒部は研磨を加える	中期後葉
第2340Q PL_119	60坑 1	浅鉢	頸部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい/褐色	屈曲部隆線突出し、口縁部は2条隆線による区画文構成か。地文に縦位沈線を施す	中期後葉
第2340Q PL_119	60坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/灰黄褐色	横位隆線以下に低位隆線による渦巻文を配す。無線は平行沈線を施す	中期後葉
第2340Q PL_119	60坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい/赤褐色	体部下半。外器面を欠く。体部下半に横位平行沈線3条を設ける。以下無文	中期後葉
第2340Q PL_119	66坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 暗褐色	口縁部屈曲。斜位浮線文と平行沈線による斜格子文	中期後葉
第2340Q PL_119	66坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/灰褐色	隆線による渦巻文を配す。無線は撫で及び無調整	中期中葉末か
第2340Q PL_119	66坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい/褐色	体部上半か。横位隆線を設け、横位内皮沈線を側線とする。下位に弧状意匠を配す	中期中葉末か
第2340Q PL_120	67坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/暗赤褐色	刻みを付す2条隆線が懸垂する。沈線を側線とする	中期中葉末か
第2340Q PL_120	69坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/やや軟/ にぶい/褐色	内皮沈線を斜位・弧状に施すあるいは大柄の渦巻文か。地文は縦位L R	中期後葉
第2340Q PL_120	70坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい/赤褐色	縦位L Rを密接に施す	中期後葉
第2340Q PL_120	72坑 1	深鉢	口頸部破片	埋土	粗砂粒・石英/多/ 好/褐色	横位細隆線を設け、単列の角稜文を側線とする	中期前葉
第2340Q PL_120	73坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい/赤褐色	刻みを付す2条隆線による縦位楕円状意匠。側線は内皮沈線を重ねる	中期中葉末か
第2340Q PL_120	74坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい/赤褐色	垂下沈線に画された器酒部懸垂文構成。施文部縄文は縦位R L充填施文。磨酒部・内面は研磨を施す	中期後葉
第2340Q PL_120	74坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	2条の垂下沈線による懸垂文構成。無線は沈線。斜位短沈線を充填する	中期後葉
第2340Q PL_120	76坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	2条隆線による弧状意匠。おそらく渦巻文。短沈線が放射状に充填される。内面弱い研磨	中期後葉
第2340Q PL_120	76坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい/褐色	外反する体部上半。縦位L Rを施す。器厚薄手	中期後葉
第2340Q PL_120	77坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	縦位斜行隆線による懸垂文構成。沈線を側線とし、弧線文を描く。地文は斜位R L	中期中葉末か
第2340Q PL_120	80坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい/黄褐色	口縁部肥厚。沈線による断手状懸垂文上端か。縦位R Lを施す	中期後葉

種図 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第23490 PL_120	80坑 2	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/灰褐色	内径太い。口縁部隆線を設け、以下斜位短沈線を施す。内外面研磨	中期後葉
第23490 PL_120	80坑 3	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	体部下平か。縦位沈線を施すが乱雑な施文。削り調整が顕著	中期後葉
第23490 PL_120	80坑 4	石灘	先端部破損	埋土	チャート	長:(1.2)、幅:1.5、厚:0.3cm、重:10.4g。凹基無蓋蓋。完成状態。押圧距離が全面を覆う。破損はチャート特有の痕(節理面)で生じている	
第23490 PL_120	82坑 1	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英/良好/にぶい赤褐色	横位平行沈線を多段に重ねる。地文は横位L R	中期後葉
第23490 PL_120	82坑 2	深鉢	口頸部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/黒褐色	隆線による粗狭の口縁部区画文か。太い沈線を側線とし下位に弧状短沈線を施す	中期後葉
第23490 PL_120	82坑 3	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/良好/褐色	内湾する体部。平行沈線3条による懸垂文構成。地文は無彫L線/位施文	中期後葉
第23490 PL_120	82坑 4	打製石斧	刃部破損	埋上下位	粗粒輝石安山岩	長:(9.5)、幅:5.1、厚:1.7cm、重:95.4g。短冊形。完成状態。刃部摩耗が著しい。両側縁は聞き気味。刃部再生は明らかだが、刃部の再生作業を途中放棄している	
第23490 PL_120	83坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/良好/黒褐色	横位R Lを施す	中期後葉
第23490 PL_120	83坑 2	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・石英・雲母/未/良好/黒褐色	緩やかに内湾する口縁部に小突起を付す。口縁部内面に横位沈線を施文する。	中期前葉
第23490 PL_120	85坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/良好/黒褐色	体部外反。縦位L Rを施す。内面弱い研磨	中期後葉
第23490 PL_120	88坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/良好/暗褐色	小突起より弧状隆線が派生する。側縁は設けず。弧状沈線や切交文を施す。内面弱い研磨	中期中葉末
第23490 PL_120	88坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/良好/褐色	沈線で画された磨消部懸垂文構成。縄文は縦位R L充填施文。磨消部/内面弱い研磨。器厚薄手。	中期後葉
第23490 PL_120	88坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/良好/褐色	垂下沈線3条による懸垂文構成か。弧状短沈線を充填する	中期後葉
第23490 PL_120	88坑 4	打製石斧	完形	埋上下位	霞貫安山岩	長:11.1、幅:5.8、厚:2.8cm、重:219.2g。短冊形。完成状態。刃部摩耗が著しいのに対して握柄縁は弱い。刃部再生が明らかで、石斧刃部は大きく後退している	
第23490 PL_120	88坑 5	凹石	完形	埋上下位	粗粒輝石安山岩	長:12.0、幅:7.0、厚:3.8cm、重:490.0g。楕円状。表面に浅い凹みを1箇所設け、裏面とも平滑面を持つ。上下端部に僅かな敲打痕を見る	
第23490 PL_120	90坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/良好/褐色	弧状沈線を施す。縄文は縦位R L、おそらく地文。内面弱い研磨	中期後葉
第23500 PL_120	91坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・繊維・輝石/良好/にぶい褐色	0段多条L R縦位/斜位施文。体部下平か。含繊維量多い	前期初葉
第23500 PL_120	91坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/良好/褐色	コイル状突起と弧状突起が接し、下端より1条の隆線が懸垂する。平行沈線を側線/充填文とする	中期中葉末
第23500 PL_120	91坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/良好/赤褐色	垂下隆線による懸垂文構成。側縁は内皮沈線。隆線上も内皮面を重ねる。空白部は沈線を施文する	中期中葉末
第23500 PL_120	91坑 4	打製石斧	完形	埋土	霞貫安山岩	長:11.8、幅:4.8、厚:2.3cm、重:122.4g。短冊形。完成状態。刃部再生が明らかで、刃部摩耗は部分的に残る程度。両側縁は直線的だが、左辺中央がリダクションされ、変形する。石斧としての消耗度は低い	
第23500 PL_120	92坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/良好/褐色	垂下沈線3条による懸垂文構成	中期後葉
第23500 PL_120	93坑 1	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:6.7、幅:5.8、厚:5.4cm、重:293.1g。球状をなし裏面に弱い平滑面を持つ。敲打痕も少量見られる	
第23500 PL_120	99坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/暗褐色	小型深鉢。波状縁で後部部に円形貼付文を付す。口縁部は無文で下端に横位沈線を設ける	後期前葉
第23500 PL_120	100坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/良好/にぶい黄褐色	内径太い。口縁部隆線はやや突出気味。沈線を側線とし、斜位平行沈線を充填する	中期後葉
第23500 PL_120	100坑 2	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・雲母/良好/にぶい赤褐色	2条隆線による弧状意匠。おそらく渦巻文。上位は斜位短沈線。下位は放射状短沈線を充填する	中期後葉
第23500 PL_120	107坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/良好/にぶい褐色	あるいはミニチュアか。直立気味の口縁部に横位短沈線を付す。内面少量の埋付着	中期後葉
第23500 PL_120	107坑 2	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/褐色	沈線による横位弧状意匠と縦位波状文。地文は無彫L線施文	中期後葉
第23500 PL_120	113坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/褐色	垂下沈線による懸垂文下端部。磨消部と縄文施文部。原体は不明	中期後葉
第23500 PL_120	119坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/やや軟/暗褐色	横位沈線を設け、垂下沈線が派生する。L R縦位/横位施文を地文とする	中期後葉

種図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第23509 PL.120	120坑 1			埋土	粗砂粒・石英多・雲 母/良好/明褐色	体部中位(1・2)と下平(3)の破片からなる。外反する体部。沈 線による弧状底辺及び懸垂文構成。縄文は地文で縦位LRを施す。 体部下平に太い斜位沈線を見る。器厚や薄手	中期後葉
第23509 PL.120	120坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英多・雲 母/良好/明赤褐色		
第23509 PL.120	120坑 3			埋土	粗砂粒・石英多・雲 母/良好/明赤褐色		
第23509 PL.120	120坑 4	深鉢	底部/3残 存	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい黄褐色	底端部僅かに張り出し。体部は外反気味に立ち上がる。縦位RL を施す	中期後葉
第23509 PL.120	121坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/今や 軟/にぶい黄褐色	浮線2条を縦位多段に配し矢羽状の刻みを加える。地文は縦位 LRを施す	前期後葉
第23509 PL.120	124坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 明赤褐色	体部中位か。上半はU字状底辺、下平は分岐懸垂文を配す。沈線 施文。縄文は縦位LR充填施文。磨消部・内面弱い研磨を施す	中期末葉
第23509 PL.120	124坑 2	円石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:7.0、幅:5.0、厚:3.2cm、重:182.9g。小型で細かな敲打痕を 表面中央と右側面中央に集める。右側縁が顕著で深い。	
第23509 PL.120	128坑 1	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	体部小破片。沈線で両された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RL を充填し縦位並行沈線が加わる。内面研磨	中期後葉
第23509 PL.120	129坑 1	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	縦線と平行沈線による斜格子文を配し、以下横位縦線2条と縦 位沈線群を施す	中期後葉
第23509 PL.120	131坑 1	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 赤褐色	体部小破片。縦位密接縁線を施す	中期後葉
第23509 PL.120	132坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	隆線による口縁部区画文か。側縁は幅広沈線、LRを充填する	中期後葉
第23509 PL.120	135坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	垂下沈線による懸垂文構成か。縄文は地文で縦位RLを施す。内 面研磨	中期後葉
第23509 PL.120	135坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	平行沈線による逆U字状底辺。縦位RLを充填する。内面弱い研 磨	中期後葉
第23509 PL.120	135坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	垂下隆線3条による懸垂文構成か。空白部は斜位短沈線を充填す る。内面弱い研磨	中期後葉
第23509 PL.121	138坑 1	打製石斧	頭部破片	埋土	黒色頁岩	長:(6.9)、幅:4.2、厚:1.5cm、重:56.7g。短冊形。裏面側に捲 脚痕が残る	
第23509 PL.121	141坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	口縁部に沈線による多重連弧文を配す。口縁部内面肥厚	中期後葉
第23509 PL.121	141坑 2	深鉢	体部破片	埋土下位	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	縦位沈線を設け、空白部に対向する弧状短沈線を埋める。内面研 磨	中期後葉
第23509 PL.121	141坑 3	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	隆線による懸垂文構成。おそらく2条隆線で両されるか。施文部 は縦位LRを施す。器厚薄	中期後葉
第23509 PL.121	144坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・繊維/良好/ にぶい黄褐色	含雑質量少ない。横位LRを施す	前期中葉
第23509 PL.121	144坑 2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・片岩/良好/ 明赤褐色	波状口縁頂部。おそらく規状波か。無文で内縁を設ける	中期初頭
第23609 PL.121	151坑 1	円石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:10.5、幅:6.0、厚:3.8cm、重:140.5g。円形を呈する。表面 中央、両側縁に敲打による孔を設ける。磨面は表面に顕著で、 裏面に平滑面を見る	
第23609 PL.121	154坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 暗赤褐色	2条の隆線による縦位長楕円状懸垂文。側縁は沈線。縦位LRを 充填する。内面研磨	中期後葉
第23609 PL.121	162坑 1	磨石	完形	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:48.2、幅:17.2、厚:14.1cm、重:17400.0g。柱状の歪角錐。表 裏面・両側面に弱い平滑面を見る	
第23609 PL.121	167坑 1	鉢	口頸部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	隆線による口縁部区画文。2条隆線で体部端を丁寧に両す。区画 内は沈線を側縁とし横位LRを充填する。内外面丁寧な研磨を施 す。赤彩痕は外面に少量見る	中期後葉
第23609 PL.121	173坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明褐色	弧状隆線を配し、斜位短沈線を施す。側縁は沈線	中期後葉
第23609 PL.121	174坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 黒褐色	口縁部外縁。口頸部が強く内湾し突起を付す。隆線による楕円状 底辺を配す	中期中葉末
第23609 PL.121	174坑 2	深鉢	底部	埋土	粗砂粒・石英/軟質/ にぶい黄褐色	体部器厚薄手。底部中央盛り上がる。体部は無文。器面磨滅	中期中葉末
第23609 PL.121	174坑 3	磨製石斧	完形	埋土	珪化凝灰岩	長:6.3、幅:2.6、厚:1.1cm、重:33.2g。定向式。完成状態。全面 研磨され、丁寧な仕上げ。石斧刃部としては使用されていないよ うに見える	
第23609 PL.121	182坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	弧状隆線を配す。側縁は沈線で横状短沈線を充填する	中期後葉
第23609 PL.121	192坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・片岩/良好/ 灰赤色	矢羽状刻みを付す横位浮線文を多段に配す。地文は横位RL	前期後葉
第23609 PL.121	192坑 2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/黒褐色	口縁部隆線による交互区画文構成か。側縁に幅広連続刺突文と三 角連続刺突文。内縁鋭く弱い研磨を加える	中期中葉
第23609 PL.121	192坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	垂下沈線、弧状沈線を施す。地文は縦位RL	中期後葉

種図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第236図 PL.121	193坑 1	凹石	1/2残存	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(12.3)、幅:7.0、厚:3.8cm、重:399.5g、楕円状。下半を欠損する。表面に浅い最打の集中による凹みを設ける。磨面は顕著ではない	
第236図 PL.121	194坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・石英/良好/ 褐色	小径の小型深鉢か。口縁部にV字状突起を斜めに付す。以下弧状隆線が配される。重直文意匠か	中期中葉末?
第236図 PL.121	203坑 1	磨製石斧	対部破損	埋土	珪化凝灰岩	長:(16.3)、幅:(6.1)、厚:3.4cm、重:554.6g。定角式。完成状態。両側面とも丁寧に研磨され、その断面は四角形状を呈す。対部側で破損。破損面は裏面側に磨ける	
第236図 PL.121	207坑 1	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.0、幅:1.7、厚:0.4cm、重:0.8g。凹基無葉鎌。完成状態。全面が押し剥離で覆われ、丁寧な作り。無縁形状は顕微鏡で見ると、基部を深く挟り込む	
第236図 PL.121	208坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	波状口縁波頂部。口縁部隆線を設け、以下区画が配される。内外面とも丁寧に研磨され区画内も無縁隆線の痕跡を見るのみである。あるいは鉢か	中期後葉
第236図 PL.121	208坑 2	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	薄手の器厚で口縁部外反する。0段多条横線R Lを施す。器面磨滅	中期後葉
第236図 PL.121	208坑 3	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	垂下沈線で画された滑消部懸垂文構成。縄文はR L縦文充填施文	中期後葉
第236図 PL.121	216坑 1	磨石	完形	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:43.2、幅:13.3、厚:11.0cm、重:1100.0g。大型型で角柱状の形態。2面の体部中央に平滑面を見る	
第237図 PL.121	220坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・繊維・石英/ 良好/褐色	薄手の器厚で口縁部外反する。0段多条横線R Lを施す	前期初頭
第237図 PL.121	220坑 2	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・繊維・石英/ 良好/褐色	薄手の器厚。0段多条横線R Lと0段多条L Rによる縦位羽状構成	前期初頭
第237図 PL.121	220坑 3	深鉢	底部破片	埋土	細砂粒・繊維・輝石/ 良好/にぶい褐色	尖底部。0段多条R Lを横位・斜位に施す	前期初頭
第237図 PL.121	238坑 1	口縁～体部 破片	埋土	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	口縁部V字状貼付文。2条の沈線が深い、下位沈線がV字文を描く。頸部隆線を設け横位波状沈線が沿う。地文は縦位L R。口縁部内面弱い研磨	中期前葉
第237図 PL.121	238坑 2	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	垂下隆線1条による懸垂文構成。無縁隆線の他、1条の垂下沈線も見られる。縄文は縦位L R。内面壁付磨	中期前葉
第237図 PL.121	247坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/少/ 好/にぶい赤褐色	あるいはミニチュアか。無文で体部に強い縦位削り調整を施す。内外面弱い研磨	中期後葉
第237図 PL.121	247坑 2	凹石	完形	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:9.9、幅:7.7、厚:4.1cm、重:440.8g。楕円状の内縁。最打直の集中による凹みを表面中央に配す。最打痕は下部端と無面にもある。併せて光沢ある平滑面も表面に見る	
第237図 PL.121	248坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	口縁部内屈部欠損。沈線で画された帯縄文と環状意匠。縄文L Rを充填する。内外面研磨	後期前葉
第237図 PL.121	248坑 2	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/灰黄褐色	沈線で画された帯縄文。斜位沈線も見られる。地所学学区区画か。縄文L Rを充填する	後期前葉
第237図 PL.121	250坑 1	深鉢	体部破片	埋土上位	細砂粒・繊維・輝石/ 良好/にぶい赤褐色	L R・R Lによる横位羽状縄文構成。内面弱い磨で調整	前期中葉
第237図 PL.122	251坑 1	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・繊維・輝石/ やや軟/にぶい褐色	横位L Lの条に斜位沈線が重なる。含雑量は少ない	前期後葉初
第237図 PL.122	254坑 1	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	沈線による小弧線文以下3条の平行沈線が懸垂する。縦位R Lを地文とする。内面研磨	中期後葉
第237図 PL.122	254坑 2	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい褐色	2条隆線による懸垂文構成か。無縁は磨で。縦位R Lを充填する	中期後葉
第237図 PL.122	259坑 1	深鉢	体部破片	埋土上位	細砂粒・石英・輝石/ 良好/黒褐色	内湾する肩部か。2条沈線が垂下する。内面調整は弱い	後期前葉
第237図 PL.122	259坑 2	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	横位弧状短沈線が施される	中期後葉
第237図 PL.122	259坑 3	鉢	肩部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	横位細隆線を2条設ける。内外面とも丁寧に研磨を施し、赤彩を加える	後期初頭
第237図 PL.122	259坑 4	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 灰黄褐色	口縁部内屈。刻みを付す横位細隆線を設け、横位沈線に画された縄文施文部を配す。L R充填施文	後期前葉
第237図 PL.122	260坑 1	多孔石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:15.2、幅:11.3、厚:6.8cm、重:669.7g。多孔質角錐。表面にのみ孔を設ける	
第237図 PL.122	262坑 1	壺?	口縁部1/2 残存	埋土	細砂粒・輝石・雲母/ 良好/暗褐色	器形・器種不明。口径:(6.0)cm。口縁部は短く直立し、肩部に蛇行隆線を付す。体部中に弧状の屈曲を持たせ、沈線が沿う。大型の双環状突起。上位も波状に延長する。内面環状意匠を配し中位孔を併せて中空状突起となす。突起中位より隆線が垂下し、平脚起縁が施される	中期中葉
第237図 PL.122	265坑 1	深鉢	口縁部突起 片	埋土上位	細砂粒・石英・雲母/ 良好/黒褐色	低位隆帯による蛇行文と弧線文。高い隆帯も付される。蛇行文は羊肉彫り手法で陰刻される。外面丁寧な磨で加える	中期中葉末
第237図 PL.122	265坑 2	深鉢	体部破片	埋土上位	細砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	低位隆帯による蛇行文と弧線文。高い隆帯も付される。蛇行文は羊肉彫り手法で陰刻される。外面丁寧な磨で加える	中期中葉
第237図 PL.122	265坑 3	深鉢	頸部破片	埋土	細砂粒・石英少/ 好/暗赤褐色	強く屈曲する。上位は口縁部文様帯か。沈線による幅狭の施文部を設ける。縦位R Lを施す。内面研磨	中期中葉

種図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第237回 PL.122	265坑 4	石罨	返し部欠損	埋土	黒曜石	長:2.7、幅:(2.0)、厚:0.5cm、重:1.7g。円基無笠蓋。未製品。加工それ自体は丁寧だが罨形を整えただけであり、加工の途中「返し部」を欠き、製作を終えている	
第237回 PL.122	266坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・石英/良好/ 黒褐色	口唇部面を持ち内傾する。口縁部は内湾し、横位短沈線以下弧状沈線と縦位短沈線を施す。口唇部内面研磨	中期中葉
第237回 PL.122	266坑 2	打製石斧	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:10.4、幅:4.9、厚:2.3cm、重:106.2g。短冊形。完成状態? 刃部摩耗は不明瞭で、両側面のエッジも新鮮に見える。形態的には完成されているが、未使用に近い	
第238回 PL.122	268坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/灰黄褐色	斜位・弧状短沈線を施す	中期後葉
第238回 PL.122	268坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	器表面の輪積み痕明顯。意図的な残存か。横位R Lを施す。内面強い横位研磨	弥生か
第238回 PL.122	268坑 3	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	口唇部内面に沈線を設ける。2条沈線に画された帯縄文を設ける。細縄文横位L Rを充填する	後期中葉か
第238回 PL.122	268坑 4	石罨	ほぼ完形	埋土上位	黒曜石	長:1.7、幅:1.4、厚:0.6cm、重:0.8g。円基無笠蓋。未製品。罨形を整える程度の粗い割磨を施す。左辺側の返し部は本来的に内にする古いキズで破損する	
第238回 PL.122	268坑 5	敲石	完形	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:21.0、幅:10.9、厚:17.7cm、重:2730.0g。楕円状円錐。表面中央に小型の孔を設ける。上下端部・両側面に敲打痕を見る。磨面も表面面にあるが平滑さに欠ける	
第238回 PL.122	268坑 6	多孔石	完形	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:20.8、幅:16.2、厚:13.7cm、重:3880.0g。不定形多孔状角錐。表面に疎らに孔を設ける	
第238回 PL.122	270坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・礫粒・石英/ 良好/にぶい黄褐色	横位R L・L Rによる羽状縄文。菱形横溝成か	前期中葉
第238回 PL.122	271坑 1	鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 明赤褐色	頸部屈曲部に横位短沈線を設け円形刺突文を加える。内外面研磨	中期後葉
第238回 PL.122	271坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/黒褐色	縦位R Lを施す	中期後葉
第238回 PL.122	272坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/やや 軟/にぶい褐色	横位L Rを施す	中期後葉
第238回 PL.122	272坑 2	凹石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:9.6、幅:8.8、厚:4.1cm、重:437.0g。扁平円錐。敲打痕の集中による浅い凹みを表面面中央に配す。併せて磨面も表面面に見えるが平滑さに欠ける	
第238回 PL.122	274坑 1	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英少/ 良好/暗褐色	垂下沈線1条を施す。懸垂文構成か。縦位L Rを地文とする。丁寧な施文である	前期前葉
第238回 PL.122	275坑 1	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・礫粒・石英/ 良好/明褐色	体部下平か。横位・斜位R Lを施す	前期初頭
第238回 PL.122	275坑 2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	口唇部内折し内縁を設ける。沈線による垂弧状凹配を配し、横位短沈線を埋める	中期後葉
第238回 PL.122	276坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	刻みを付す垂下沈線による懸垂文構成か。無縁は沈線。斜位短沈線を施す	中期後葉
第238回 PL.122	277坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい褐色	刻みを付す垂下沈線による懸垂文構成か。無縁は沈線。横位・斜位沈線を間隔を保ち施文する	中期中葉末
第238回 PL.122	278坑 1	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・礫粒・石英/ 良好/にぶい赤褐色	外反する頸部破片か。沈線による波状文を多段に配す	前期中葉
第238回 PL.122	279坑 1	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	体部上手か。横位沈線と斜位以下縦位平行沈線を施す。破片端部に斜位沈線の痕跡を見る。地文L R	中期後葉
第238回 PL.123	281坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	口唇部突り口縁部内外面研磨。器部内面丁寧な研磨。頸部は縦位・斜位L Rを施す	中期後葉
第238回 PL.123	281坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい赤褐色	垂下沈線による懸垂文構成。無縁は横位・斜位短沈線を充填する。内面研磨	中期後葉
第238回 PL.123	281坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/明赤褐色	小径の体部。縦位R Lが器面を覆う	中期後葉
第238回 PL.123	281坑 4	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	2条の垂下沈線による懸垂文構成。地文は縦位・斜位L R Lを施す	中期後葉
第238回 PL.123	281坑 5	石罨	完形	埋土	黒曜石	長:1.5、幅:1.4、厚:0.2cm、重:0.4g。円基無笠蓋。未製品? ほぼ三角形形状を呈し、未加工部分がある。それを取り込んで石罨を製作したといえはそれまでであるが、加工技術は低い	
第238回 PL.122	282坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい赤褐色	横位弧状沈線が損し、突起が付すと思われる。無縁は1本掘きの太い沈線	中期中葉末
第238回 PL.122	282坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	縦位懸系Lを施す	中期後葉初
第238回 PL.123	283坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい褐色	垂下沈線による懸垂文構成。無縁は平行沈線を重ねるが内皮施文ではない。内面埋付着	中期中葉末
第238回 PL.123	283坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい褐色	縦位短沈線を配す。無縁は浅い沈線。横位短沈線を充填する	中期後葉

種図 PL. No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第238図 PL.123	283坑 3	石灘	返し部欠損	埋土	黒曜石	長:2.9、幅:(2.0)、厚:0.5cm、重:1.5g。平基無芽線。完成状態。細身・長身のタイプで、押圧割離が全面を覆い、傷品の部類に入る。左辺割離は斜向押圧割離に近い。	
第238図 PL.123	285坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・繊維・石英/ 良好/にぶい赤褐色	浅い斜位沈線を施す。内面研磨	前期中葉
第238図 PL.123	285坑 2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・繊維・石英/ 良好/にぶい褐色	若干の器形の跡もあり、内湾気味に開口縁部。無彫R縦位施文が覆う。内面強い研磨	前期中葉
第238図 PL.123	285坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・繊維・石英/ 良好/にぶい褐色	2と同一個体か。僅かな内湾を持たせる体部器形。縦位無彫Rを施す。内面凹凸あり	前期中葉
第239図 PL.123	288坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/赤褐色	弧状隆線による平楕円状区画文。区画接点より分岐懸垂文が派生する。区画内は縦位短沈線を充填する	中期後葉
第239図 PL.123	288坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 明赤褐色	内皮沈線を垂下する。懸垂文構成か。縄文はR L縦位充填施文	中期後葉
第239図 PL.123	289坑 1	深鉢	口縁部把手 片	埋土	粗砂粒・石英/やや 軟/にぶい褐色	小型の環状把手。外縁は沈線が沿い、円形刺突文を施す。突起向下端より隆線が派生する。内面に首孔を設ける	後期初頭
第239図 PL.123	292坑 1	深鉢	口縁～体部 1/3残存	底面	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい黄褐色	波状4単位。口径:32.8m。口縁部は強く内屈し、波面下に小突起を付す。浮線文で矢羽刻みを加える。波面部に対称矢小窓匠を配し体部は横位浮線文を多段に設ける。地文は横位R Lを施す。内面強い横位研磨	前期後葉
第239図 PL.123	292坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	体部上半の外反部に低位隆線を多段に付す。内外面とも丁寧な撫で調整が及ぶ。異系統であろう	前期後葉
第239図 PL.123	292坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・繊維・石英/ 良好/にぶい褐色	横位L RとR Lによる羽状縄文。おそらく菱形構成か。器面剥落著しい。内面強い研磨。凹凸顕著	前期中葉
第239図 PL.123	292坑 4	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい褐色	横位R Lを施す。器面凹凸顕著。内面無調整	前期末葉
第239図 PL.123	292坑 5	石灘	完形	埋土	チャート	長:3.1、幅:2.0、厚:0.4cm、重:1.6g。凹基無芽線。完成状態。細身・長身のタイプで、押圧割離が全面を覆い、傷品の部類に入る。基部を浅く抉る	
第239図 PL.123	292坑 6	石灘	完形	埋土	黒曜石	長:1.7、幅:1.6、厚:0.5cm、重:0.3g。凹基無芽線。未製品。概形を整えた程度で、概して加工は粗い。先端部が大きく変形しており、欠損したのちに、再加工して再度先端を作出しようとしたものか	
第239図 PL.123	293坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母 多/良好/にぶい褐色	器厚薄手。緩やかに外反する体部。ヒダ状匠線を多段に設ける	中期前葉
第239図 PL.123	295坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・片岩/良好/ にぶい赤褐色	口縁部内湾。口唇端部角頭状をなす。口唇部に単列の横位結節沈線を設け縦位クランク状に派生する。細縄文縦位L Rを施す。内面強い研磨	中期初頭
第239図 PL.123	303坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい赤褐色	口縁部内面肥厚。弧状隆線・垂下隆線を配す。内面研磨	中期後葉
第239図 PL.123	305坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	口縁部隆線を設け以下横位沈線を多段に施し交互刺突文を重ね。内面丁寧研磨	中期後葉
第239図 PL.123	305坑 2	深鉢	口頸部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい黄褐色	隆線で画された口縁部区画文と渦巻文か。区画内は細かな横位矢羽状短沈線を充填する	中期後葉
第239図 PL.123	305坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/明赤褐色	2条隆線による懸垂文構成か。沈線を佛顔とし細かな縦位矢羽状短沈線を充填する	中期後葉

土坑2 52区

種図 PL. No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第244図 PL.123	30坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい赤褐色	渦巻が隆線による渦巻文と懸垂文。横位隆線には押圧と刺突文が加わり鋸状となす。佛顔は内皮沈線。縦位沈線は集合し、区画中は弧状意匠を配す	中期後葉
第244図 PL.123	30坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 黒褐色	横位沈線に画された磨消部。施文部との交互配列ではない。細縄文L Rを充填する。内外面研磨を加える	後期初頭
第244図 PL.123	54坑 1	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・繊維・石英/ 良好/にぶい褐色	横位0段多条R LとL Rによる縦位羽状縄文構成	前期初頭
第244図 PL.123	55坑 1	石灘	完形	埋土下位	流紋岩	長:3.7、幅:4.4、厚:1.1cm、重:11.5g。横型。完成状態。周辺加工して器体作出する。平面的に見た対部は弧状を呈しているが、側縁から見ると対部は交互割離したようにジグザグしている。エッジは新鮮に見える	
第244図 PL.123	58坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	2条隆線による弧状意匠を配し下端より同隆線が懸垂する。空口部は縦位・斜位沈線を充填する	中期後葉
第244図 PL.123	59坑 1	鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 黒褐色	内湾部器面に横位沈線と縦位刻みを施す。体部は沈線で画された無文区画文か。施文部縄文はR L充填	後期中葉
第244図 PL.123	61坑 1	打製石斧	製部破片	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(10.2)、幅:(5.3)、厚:1.5cm、重:106.3g。短冊形。完成状態。左辺部に強い稜料痕が残る。石斧部・対部を欠損する	

種目 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第24490 PL.123	62坑 1	石皿	一部欠損	底面	粗粒輝石安山岩	長:19.1、幅:14.7、厚:6.8cm、重:2588.6g。小型楕円形の平面形を呈す。表面の縁は低く裏面の凹みも浅い。上端と下端に最打痕が残る。裏面は最打による凹みが全面に集中する。未使用品か。	
第24490 PL.124	64坑 1	深鉢	口縁部破片	埋上下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい褐色	波状部を欠する。波頂下に陰線による渦巻文を配す。内縁突出する。	中期後葉
第24490 PL.124	64坑 2	凹石	完形	埋上下位	粗粒輝石安山岩	長:12.9、幅:5.4、厚:4.3cm、重:507.3g。棒状の内縁表面中央上下2箇所に最打痕を集中する。右側面も同様に2箇所に集める。表面とも平滑面を持つ。	中期後葉
第24490 PL.124	65坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい赤褐色	頸部に刺突を加える横位陰線2条を設ける。小突起より陰線が分岐状に懸垂する。体部は斜位沈線を施す。	中期後葉
第24490 PL.124	65坑 2	磨石	1/3残存	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(8.5)、幅:7.8、厚:5.0cm、重:385.5g。上端部及び裏面中央に最打痕を集中する。表裏面とも平滑面を持ち滑沢である。	
第24490 PL.124	65坑 3	台石?	完形	埋上下位	粗粒輝石安山岩	長:23.9、幅:18.6、厚:12.8cm、重:5610.0g。大型の臺形。表面に弱い平滑面を持つ。	
第24490 PL.124	67坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明褐色	斜位短沈線を施す。器面若干磨滅	中期後葉
第24490 PL.124	67坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/暗褐色	緩やかな内湾を示す。筒状短沈線を施す	中期後葉
第24490 PL.124	67坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 明褐色	内湾意味に開く体部上平。縦位沈線を設け、器系Lを縦位に施す。破片上端は視熱粗粒を見る	中期後葉
第24490 PL.124	68坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	横位陰線2条を設け、下位は斜位沈線を施す	中期後葉
第24490 PL.124	68坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 黒褐色	縦位沈線による懸垂文構成。波状沈線を加える。地文はL R斜位施文	中期後葉
第24490 PL.124	68坑 3	打製石斧	完形	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:14.6、幅:6.3、厚:2.8cm、重:221.4g。短冊形。完成状態。対部摩耗・摺擦痕が著しい。側縁は大きく開く。対部は屈打気味で、再生され大きく変形している	
第24490 PL.124	72坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・繊維/良好/ にぶい黄褐色	横位L RとR Lによる羽状縦文構成	前期中葉
第24490 PL.124	72坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	浅い縦位波状沈線。地文は横位R L R	中期後葉
第24490 PL.124	75坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	口脣部より弧状陰線が配される。側縁は深い平行沈線の重複施文	中期中葉
第24490 PL.124	76坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	内湾する体部。縦位波状陰線を配し、斜位交互沈線を充填する	中期後葉
第24490 PL.124	80坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	2条沈線で画された滑潤部懸垂文構成。施文部には縦位R Lを充填し縦位波状沈線を加える	中期後葉
第24590 PL.124	81坑 1	釣手土器	口縁部破片	坑外	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	口縁部強く突出し施文部となる。刻みを施す陰線で画され、内縁に沈線による渦巻文を配す	中期後葉
第24590 PL.124	81坑 2	深鉢	口頸部破片	埋上下位	粗砂粒・輝石/良好/ 灰黄褐色	口縁部は無文で口脣部肥厚か。頸部に横位陰線3条を設ける	中期後葉
第24590 PL.124	81坑 3	深鉢	体部破片	埋上下位	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/黒褐色	体部上平か。波状陰線を付すか。縦位波状沈線を配し、横位・縦位L Rを施す	中期後葉
第24590 PL.124	82坑 1	打製石斧	頭部欠損	埋上下位	粗粒輝石安山岩	長:(12.1)、幅:5.1、厚:2.0cm、重:135.1g。短冊形。完成状態。表裏面とも対部は著しく摩耗する。視熱して裏面側を大きく欠く	
第24590 PL.124	82坑 1	深鉢	体部破片	埋上下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	体部中位か。縦位波状沈線を設け、2・3条の横位沈線を多段に配す。地文は縦位L R	中期後葉
第24590 PL.124	82坑 2	深鉢	体部破片	埋上下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	縦位波状陰線を設ける。側縁はなく、斜位短沈線を充填する	中期後葉
第24590 PL.124	86坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	厚手の器厚。縦位器系Lを施す	中期後葉初
第24590 PL.124	92坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい黄褐色	横位L Rを施す。原体幅広い。内面横位磨	前期後葉
第24590 PL.124	93坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい黄褐色	口脣部に沿って、単列の結節沈線を施す。斜位結節沈線を充填する	中期中葉
第24590 PL.124	94坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/灰褐色	内皮沈線の縦位重複施文。深い施文	中期後葉
第24590 PL.124	94坑 2	深鉢	口頸部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	内湾する口頸部。横位沈線以下弧状突起を付す。2条沈線を側縁とする	中期中葉
第24590 PL.124	96坑 1	打製石斧	下半部欠損	埋土	黒色頁岩	長:(9.7)、幅:5.0、厚:2.0cm、重:107.0g。短冊形。完成状態。斜め方向に破損した結果、これを利用して対部として使用したもの。対部摩耗・摺擦痕ともある。	

土坑2 61区

探洞 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第24890 PL.124	40坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい褐色	垂下隆線を付し、弧状短沈線を施す	中期後葉
第24890 PL.124	40坑 2	凹石	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:13.4、幅:7.0、厚:4.9cm、重:662.2g。敲打痕の集中による凹みを表裏面中央やや下位に見る。表裏面に強い平滑面を持つ	
第24890 PL.124	41坑 1	深鉢	口頸部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	隆線による口縁部区画文。区画内は斜位短沈線を充填し、体部は垂下沈線と縦位L Rを施す	中期後葉
第24890 PL.124	46坑 1	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	縦位R Lが覆う	中期後葉
第24890 PL.124	46坑 2	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	内皮沈線による筋文。交互三角刺突文を施す	中期初葉
第24890 PL.124	47坑 1	深鉢	口頸部破片	埋土	粗砂粒・褐色粒/良 好/にぶい黄褐色	内湾する口縁部に浮線による渦巻意匠を配す。頸部に2条一組の浮線を設ける。地文は縦位L R	前期後葉
第24890 PL.124	47坑 2	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・片岩粒/良 好/灰黄褐色	体部上半。2条の横位沈線に画された施文帯。L Rを施す	後期前葉
第24890 PL.125	49坑 1	深鉢	口頸部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	横位隆線2条で画される。口縁部は沈線を側線とし縦位R Lを施す。頸部は無文	中期後葉
第24890 PL.125	50坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい黄褐色	2条隆線による懸垂文構成か。弧状意匠も配され、斜位短沈線を充填する。側線は沈線	中期後葉
第24890 PL.125	52坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	2条の沈線に画された磨消部懸垂文構成。縦位R Lを充填する	中期後葉
第24890 PL.125	50坑 3	打製石斧	上半部・対 部欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:(6.9)、幅:4.5、厚:1.1cm、重:44.3g。短冊形。扁平な横長割片。四縁加工を主とし、対部は表面調整のみで作出する。顕著な摩耗痕・縦状直線は見られない	
第24890 PL.125	51坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい褐色	2条隆線による渦巻文と区画文構成。区画内側線は沈線、斜位短沈線を充填する	中期後葉
第24890 PL.125	51坑 2	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	垂下沈線2条による懸垂文構成。縦位矢羽状沈線を充填する	中期後葉
第24890 PL.125	51坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	横位隆線に凹文を付し垂下隆線と弧状隆線が派生する。垂下隆線には斜位を付す。弧状沈線を施す	後期前葉
第24890 PL.125	51坑 4	打製石斧	肩部欠損	埋土	安山岩	長:(13.8)、幅:6.2、厚:2.0cm、重:290.3g。短冊形。内側縁の加工が著しく、直線的な側縁形状を呈す。対部加工は粗く摩耗痕も見られない	
第24890 PL.125	51坑 5	凹石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:10.6、幅:8.4、厚:4.5cm、重:670.1g。表裏面に強い平滑面。敲打痕を上下部部に集中する	
第24890 PL.125	52坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい褐色	屈面部に沈線に画された横位磨消部を設け、上位に斜位磨消部を配す。L Rを充填施文する	後期前葉
第24890 PL.125	52坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。縦位L Rを充填する	中期後葉
第24890 PL.125	53坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	縦位R Lを施す	中期後葉
第24890 PL.125	53坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	懸糸Rを縦位に施す	中期後葉
第24890 PL.125	53坑 3	深鉢	口頸部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	横位・斜位懸糸Lを地文とし弧状沈線を施す。おそらく隆線の削落か	中期後葉
第24890 PL.125	53坑 4	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	懸糸Rを縦位に施す	中期後葉
第24890 PL.125	53坑 5	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	沈線による三文文と縦位沈線を施す。三角連続刺突文も加わる	中期中葉末
第24890 PL.125	55坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 暗褐色	無文。口唇部内属する。内外面とも強い研磨を施す	
第24890 PL.125	56坑 1	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/やや 軟/褐色	口縁部は隆線による渦巻文と区画文構成か。縦位R Lを施す。体部は渦巻文下部に沈線による箠手状懸垂文上端を見る	中期後葉
第24890 PL.125	56坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ にぶい褐色	内湾する体部上半。横位沈線以下2条沈線による連弧状意匠を配す。縦位R Lを地文とする	中期後葉
第24890 PL.125	56坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい赤褐色	隆線による懸垂文構成か。弧状短沈線を交互に施す	中期後葉
第24890 PL.125	56坑 4	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	2条隆線による懸垂文構成か。斜位短沈線を交互に施す	中期後葉
第24890 PL.125	56坑 5	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	口唇部に横位隆線を設け以下横位沈線群を充填する。沈線間には交互刺突文を埋める	中期後葉
第24890 PL.125	56坑 6	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	緩やかな波状線。波頂部に小突起を付し細隆線が派生。突起下端より沈線による分岐懸垂文が派生する。L Rを充填施文する。内外面履付着	中期末葉
第24890 PL.125	56坑 7	石鏃	先端部欠損	埋土	黒曜石	長:(2.1)、幅:2.0、厚:0.3cm、重:0.8g。凹基無茎鏃。側縁形状も対称性を保ち、丁寧に押圧研磨により薄手に仕上げられる	

52区1号竪穴状遺構

神洞 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第249区 PL.125	1	深鉢	体部破片	埋土下位	細砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい褐色	弧状隆線を配す。反転する意匠か。無線は幅広い内皮沈線と1本 描きの太い沈線	中期中葉
第249区 PL.125	2	深鉢	体部破片	埋土下位	細砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	横位浮線文を多段に設け斜位弧状の浮線文を配す。浮線には矢 羽状刻みを施す。地文は縦位L Rか	前期後葉
第249区 PL.125	3	石皿	完形	埋土	黒色頁岩	径:2.9、幅:1.4、厚:0.4cm、重:1.2g。円筒無蓋皿。完成状態。 細身・長身のタイプで、丁寧な作り。基部は浅く狭り込まれ、小 さな返し部が付く	

埋設土器

神洞 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第250区 PL.125	51区 1埋1	深鉢	体部～底部 残存	51-023	細砂粒・輝石・雲母/ 良好/にぶい赤褐色	底径:7.6cm。体部は外反し底部は屈折成を呈す。頸部は内湾気味に 開く。横位隆線と屈折部で体部文様帯を画す。横位隆線には2 連の鎖状突起を4単位付し、派生する渦巻状隆線と斜位隆線に よって、体部区画文を画す。2 a + 2 b の2単位構成。隆線には 刻みを寄せ、無線に比線2条を施す。区画内は横位比線部を充填 し、横位連続刺突文、円形刺突文、三叉文を加える。内面体部下 半に煤付着	中期中葉
第250区 PL.125	52区 1埋1	深鉢	体部中位～ 底部残存	52-C13	細砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	底径:7.2cm。沈線無文。渦巻文を各所に配し、2条沈線による弧 状意匠に連繫する。縦位波状沈線、刺突文も加える。細かい斜位 短沈線を充填する。内面研磨。体部中位に煤付着。	中期後葉

51区1号B

神洞 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第260区 PL.125	1号 1	深鉢	体部下半～ 底部残存	51-025	細砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい赤褐色	大型深鉢底部。底径:10.0cm。歪みを持つが緩やかな内湾気味に 開く。2条の垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦 位R L充填施文。施文部に新たに沈線を加え、対称性を崩してい る。単位は9単位か。磨消部は研磨を施す。内面中位の器壁は被 熱のため剥落を見る	中期後葉

土器 51区

神洞 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第260区 PL.125	1号 1	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	体部上手。8字状付文を付し横位弧状沈線が派生する。器面磨 滅のため施文部の縄文などは不明	後期前葉
第260区 PL.125	1号 2	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	斜位沈線3条を施す。沈線間は磨消す。施文部はL R充填施文。 内面弱い研磨	後期前葉
第260区 PL.125	1号 3	割片	破片	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(14.5)、幅:(9.5)、厚:2.2cm、重:400.0g。扁平な板石縁辺 に調整刻線が見える	
第260区 PL.126	4号 1	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	口唇部内外面肥厚。頸部は強く外反し無文。内面弱い研磨を施す	後期初頭
第260区 PL.126	4号 2	深鉢	頸部破片	埋土	細砂粒・石英・良好/ にぶい黄褐色	頸部に横位隆線を設ける。他は無文	後期初頭
第260区 PL.126	5号 1	深鉢	頸部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	口縁部は無文。頸部に押圧を加えた横位隆線を設ける。内外面弱 い研磨を施す	後期初頭
第260区 PL.126	6号 1	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英/良好/ 褐色	2条の沈線による弧状意匠。弧線下端に斜位沈線が連する。器面 磨滅	後期初頭
第260区 PL.126	6号 2	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・良好/ にぶい褐色	2条の沈線による横位弧状意匠。沈線間に短沈線を埋める	後期初頭
第260区 PL.126	8号 1	深鉢	頸部破片	埋土	細砂粒・石英/良好/ 褐色	刻みを施す横位隆線を設ける。他は無文	後期初頭
第260区 PL.126	8号 2	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	縦位R Lを施す	中期後葉
第260区 PL.126	9号 1	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	波状の中空突起。突起両下端に円文を付し、頸部外反部は2条隆 線が垂下し円文と弧状隆線を配す。内面は突起下端、頸部に円文 を付す。器面磨滅	後期前葉
第260区 PL.126	10号 1	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	口唇部突出。横位沈線を設け弧状沈線を施す。器面磨滅する。L Rか	後期初頭
第260区 PL.126	10号 2	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	頸部に押圧を加えた横位隆線を付す	後期初頭
第260区 PL.126	12号 1	鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・石英/良好/ 褐色	薄手の器壁。口縁部強く外反する。外面は無文で内面口唇部に横 位隆線と沈線を施す	後期前葉
第260区 PL.126	12号 2	鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・石英/良好/ 褐色	12号1と同一個体	後期前葉

種別 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第26090 PL_126	12焼 3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい黄褐色	斜位態で調整痕が残る	後期前葉
第26090 PL_126	12焼 4	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい黄褐色	12焼3と同一個体	後期前葉
第26090 PL_126	12焼 5	石盥	返し部欠損	埋土	黒曜石	長:一、幅:一、厚:一cm、重:0.8g。未製品。全面が押し割離で覆われているが、やや粗く雑な作り。先端部の作出も不十分で、加工時に返し部を欠く	
第26090 PL_126	25焼 1	石盥	返し部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.3)、幅:(1.1)、厚:0.5cm、重:0.6g。円基無蓋蓋。未製品。全面が割離面で覆われているが、雑な作り。甲高で、左辺の加工は粗い	
第26090 PL_126	31焼 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英/やや 軟/にぶい黄褐色	頂部が平肩状の口縁部突起を付す。凹文を配し口縁部沈線と屈曲部に設ける。頸部も屈曲し横位沈線と8字状貼付を付す	後期前葉
第26090 PL_126	31焼 2	注口上器	底部残存	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	体部下平は外反気味に開く。無文で外面は丁寧な研磨、内面は撫で調整。底面に削代直	後期前葉
第26090 PL_126	32焼 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	2条隆線による縦位弧状意匠。側線は沈線、斜位短沈線を施す	中期後葉
第26090 PL_126	32焼 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい褐色	円形貼付文より縦位弧状に隆線が派生し、密接条線を充填する	中期後葉
第26090 PL_126	32焼 3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 暗褐色	垂下隆線による無垂文構成。側線は撫で、縦位LRを充填文とする	中期後葉
第26100 PL_126	33焼 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	口唇部に瘤状小突起を付す。口縁部は強く外反し頸部は縦やかに屈曲。体部厚は薄手。無文	後期前葉
第26100 PL_126	33焼 2	深鉢	体部下平	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	体部下平。無文で内外面とも撫で調整を施す	後期前葉
第26100 PL_126	33焼 3	深鉢	頸部～体部 破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	頸部屈曲。体部強い内湾を呈す。無文で内外面撫で調整	後期前葉
第26100 PL_126	34焼 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	外面は無文。内面口唇部に凹線が巡る	後期前葉
第26100 PL_126	36焼 1	浅鉢	口頸部4/5 残存	底面	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	大型の浅鉢。口頸部は隆線による渦巻文と区画文構成。7単位か、区画下に横位5字状意匠を配し、一部が渦巻文と連繫する。区画内は縦位短沈線を充填する。内面研磨。赤彩痕跡は判然としな	中期後葉
第26100 PL_126	36焼 2	浅鉢	口縁部破片	底面	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	口縁部内面肥厚。内外面とも研磨を施し、赤彩痕跡を見る	中期後葉
第26100 PL_126	36焼 3	石皿	ほぼ完形	焼上下	粗粒輝石安山岩	長:16.5、幅:13.4、厚:4.0cm、重:1250.0g。小型の石皿。皿部中央の磨面に平滑面は見られず、未使用の可能性もある。裏面中央に断面円錐形の孔を設ける。敲打による整形	
第26100 PL_127	54焼 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	沈線による縦位波状文を配す。縦位矢羽状沈線を充填する	中期後葉
第26100 PL_127	54焼 2	深鉢	底部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	厚手の器厚。外器面磨滅	中期後葉
第26100 PL_127	57焼 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/明赤褐色	体部下平。隆線による渦巻状突起と2条隆線によるU字状区画文。縦位波状隆線を配し、縦位矢羽状沈線を充填する	中期後葉
第26100 PL_127	57焼 2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/灰褐色	内湾する口縁部。横位隆線2条を設け、脱落するが渦巻状突起を付す。隆線上位に載置列状の刺突が沿う。体部は横位隆線より縦位波状隆線が派生し、斜位短沈線を充填する	中期後葉
第26100 PL_127	57焼 3	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/灰褐色	57焼2と同一個体	中期後葉
第26200 PL_127	60焼 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	口唇部内面強く突出。横位隆線1条で口縁部を両す。口縁部、体部とも縦位沈線を施す	中期後葉
第26200 PL_127	60焼 2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	口縁部内湾。横位隆線2条で口縁部を両し、沈線による方形区画内に渦巻文を配す。体部は斜位短沈線を施す	中期後葉
第26200 PL_127	61焼 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	隆線による口縁部区画文構成。隆線には沈線が重なる。区画上位は横位沈線が両す。区画内は縦位短沈線を充填する。体部は縦位・斜位沈線を施す	中期後葉
第26200 PL_127	63焼 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 明褐色	縦位波状隆線を配す。無側沈線。横位弧状沈線を施す	中期後葉
第26200 PL_127	63焼 2	打製石斧	上半部欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(7.4)、幅:(5.3)、厚:1.5cm、重:94.7g。短冊形。完成状態。刃部摩耗が残る	
第26200 PL_127	68焼 1	深鉢	口縁部破片	焼上下	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい黄褐色	平縁。内湾する口縁部は横位細隆線で両され、X字状貼付により区画文を両す。区画内は無文。体部は横位ヒタ状区画で連続する	中期中葉
第26200 PL_127	68焼 2	深鉢	体部破片	焼上下	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい黄褐色	横位ヒタ状区画を見る。1と同一個体か	中期中葉
第26200 PL_127	72焼 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 明赤褐色	懸架する2条隆線による弧状意匠。沈線を側線とし横位弧状意匠を施す	中期中葉
第26200 PL_127	72焼 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ やや軟/褐色	体部下平か。横位隆線を設け上位に隆線による弧状区画文を配す。側線は沈線	中期中葉

挿入 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第26209 PL-127	75焼 1	打製石斧	完形	埋土	黒色頁岩	長:9.5、幅:4.0、厚:1.9cm、重:72.9g。短冊形。完成状態。刀部 摩耗が著しい。軸身のタイプで、軸線が固く開き気味。	
第26209 PL-127	80焼 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/黒褐色	口縁部は波面部より垂下した高い隆線と横位隆線で画される。側 縁は無く横位斜み目列を施す	中期中葉
第26209 PL-127	80焼 2	石盥	完形	埋土	黒色頁岩	長:3.2、幅:1.9、厚:0.4cm、重:1.3g。凹基無蓋型。完成状態。 全面が押し剥離に覆われ、丁寧な作り。大型で優品の部類に入る	
第26209 PL-127	80焼 3	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:15.0、幅:9.0、厚:4.8cm、重:1072.8g。表面面に強い平滑面 を持つ。光沢を見る。敲打痕は全面に広がるが、上下端部に集まる	
第26209 PL-127	82焼 1	深鉢	底部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 明赤褐色	底径:(9.0)cm。体部下半は強く開く。無文。底面に朝代前残る	後期前葉
第26209 PL-127	86焼 1	浅鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	平縁。隆線による口縁部稍凹状区画文。無縁は同時施文の複列結 節状沈線。充填文無し。体部も無文。内面の研磨は丁寧で平滑	中期中葉
第26209 PL-127	86焼 2	石盥	先端部欠損	埋土	黒曜石	長:1.4、幅:1.1、厚:0.3cm、重:0.3g。凹基無蓋型。未製品?裏 面側を除き剥離面が全面を覆う。右辺の形状が歪み、完成前に磨 製されたものかもしれない	

焼土 52区

挿入 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第26309 PL-127	9 焼 1	壺?	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/暗灰色	低位隆帯による弧状意匠か。内外面丁寧な研磨を施し、外面赤彩 を加える	中期後葉
第26309 PL-127	16焼 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	2条隆線と縦位波状沈線による懸垂文構成。地文は縦位沈線	中期後葉
第26309 PL-127	16焼 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	1条の細隆線による渦巻文。空白部を短沈線が充填される	中期後葉
第26309 PL-127	17焼 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 明赤褐色	小型品か。口縁部内面肥厚。口縁部内湾し頸部で強く屈曲する。 縦位密接条線が覆う	中期後葉
第26309 PL-127	17焼 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	沈線で画された磨消部懸垂文構成。R L縦位充填施文	中期後葉
第26309 PL-127	19焼 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・繊維・石英/ 良好/にぶい赤褐色	幅状の平行沈線による菱形状意匠か	前期中葉
第26309 PL-127	19焼 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・繊維・石英/ 良好/にぶい黄褐色	0段多条L R横位施文か	前期中葉

集石 51区

挿入 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第26709 PL-128	2 集 1	深鉢	把手破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明褐色	2条隆線による縦位楕状把手。両面とも隆線による渦巻文を配 す	中期後葉
第26709 PL-128	2 集 2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい黄褐色	波状縁か。口縁部内湾し横位隆線を設ける。波面部下に2条隆線 による弧状意匠を配す。横位L R充填施文	中期末葉
第26709 PL-128	2 集 3	多孔石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:16.3、幅:14.3、厚:10.6cm、重:2256.9g。多孔質角礫。表裏 面中央に孔を集める。裏面の孔はやや大型で密集する。孔断面形 は円錐状を主とする	
第26709 PL-128	6 集 1	口縁~体部 上半1/4残 存	埋土下位	埋土下位	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/灰褐色	緩やかな波状縁。単位は不明。口径:(21.2)cm。波面部に凹孔 を設け凹形刺突文を3方に付し沈線で繋ぐ。口縁部は段を有し無 文。頸部は屈曲し体部は沈線で画された施文部による弧状意匠。 列点状刺突文を充填する。外面及び内面口縁部に研磨を加える。 内面口縁部に少量の埋付着	後期前葉
第26709 PL-128	6 集 2	深鉢	体部破片	埋土下位	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	体部下平か。厚手の器型を呈す。R L縦位・斜位施文	後期前葉
第26709 PL-128	6 集 3	石盥	先端部欠損	埋土下位	黒曜石	長:(2.0)、幅:1.6、厚:0.5cm、重:1.2g。凹基無蓋型未製品。剥 離調整も粗く中央部に厚みを強く残す。脚部調整も大まかで途上 の感が強い。あるいは先端部欠損のため製作中断が想起される	
第26709 PL-128	12集 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	2条隆線による大柄の弧状意匠。渦巻文か。沈線を無縁とし短沈 線を施す	中期後葉
第26709 PL-128	13集 1	深鉢	突起破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい褐色	縦位環状突起。側面孔を貫通する。突起正面は縦位隆線を配す。 凝結を受け、器面は発泡している	中期後葉
第26709 PL-128	13集 2	凹石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:17.6、幅:18.8、厚:12.7cm、重:5210.0g。厚みのある多孔質円礫。 表裏面に敲打痕の集中による浅い凹みを配す。滑い磨面も見られ る	
第26709 PL-128	14集 1	多孔石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:18.7、幅:15.4、厚:10.0cm、重:3327.5g。角礫。やや緻密な素材。 表裏面中央にやや大型の孔が集まる。表面孔は縦位に連なる形状 で配される。孔断面形は円錐状	
第26709 PL-128	14集 2	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:7.0、幅:6.2、厚:3.6cm、重:243.1g。小型でやや扁平な円礫 表裏面に強い平面を持つ	

種図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第268図 PL.128	14番 3	台石?	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:21.8、幅:18.2、厚:7.2cm、重:4035.0g。やや扁平な円盤。表面上端に断面状の孔を設ける。表裏面とも磨面を見るが顕著ではない	
第268図 PL.128	20番 1	石皿	上半欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(22.3)、幅:22.2、厚:8.5cm、重:5950.0g。厚手の多孔質円盤。皿部磨面は密く平滑面は見られない。敲打痕が集中する。裏面は僅かな小孔が散在する	
PL.128	20番 2	台石	一部欠	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(18.1)、幅:16.1、厚:5.3cm、重:2010.0g。扁平な円盤。表面に平滑面を見る	

列石 51区

種図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第275図 PL.129	1列 1	石鐮	先端部欠損	—	黒曜石	長:(1.0)、幅:(1.2)、厚:0.3cm、重:0.3g。円基無茎鐮。完成状態。全面が割離面に覆われ、加工は丁寧。被熱して割離面が荒れる	
第275図 PL.129	1列 2	凹石	下半欠	1群	粗粒輝石安山岩	長:(8.3)、幅:5.7、厚:4.0cm、重:227.0g。比較的強い敲打痕を表面中央に集め凹みとなす	
第275図 PL.129	1列 3	凹石	完形	1群	粗粒輝石安山岩	長:25.0、幅:18.8、厚:12.5cm、重:8020.0g。大型の楕円状円盤。敲打痕による浅い凹みが表裏面中央に広がる。一部は深く断面形が円錐状を呈す。平滑面は見られない	
PL.129	1列 4	多孔石	完形	1群	粗粒輝石安山岩	長:32.7、幅:25.3、厚:19.2cm、重:17900.0g。不定形的大型垂直円盤。表面頂部と側面に孔を集中する	
第275図 PL.128	1集 1	深鉢	体部破片	II群	細砂粒・輝石/良好/にぶい赤褐色	垂下沈線3条による懸垂文構成。縦位LRを充填施す	中期後葉
第275図 PL.128	1集 2	深鉢	体部破片	II群	細砂粒・石英/輝石/良好/浅黄褐色	押圧を加える口縁部隆線を設ける。体部は無文。器厚はやや薄手	後期前葉
第275図 PL.128	1集 3	注口上蓋	体部破片	II群	粗砂粒・石英・輝石/良好/褐色	弧状隆線による環状意匠を配し、縦沈線による弧状意匠や懸垂文を描く	後期前葉
第275図 PL.128	1集 4	深鉢	体部破片	II群	粗砂粒・輝石/良好/にぶい褐色	斜位沈線と斜位細隆線による斜格子文を配す	中期後葉
第275図 PL.128	1集 5	深鉢	体部破片	II群	粗砂粒・輝石/良好/にぶい褐色	垂下沈線2条による懸垂文構成。無飾LR位充填施す	中期後葉
第275図 PL.128	1集 6	深鉢	頸部破片	II群	細砂粒・石英/良好/にぶい黄褐色	頸部反し無文。体部上半に切みを付す環状隆線を設け、体部に横位沈線を施す	後期前葉
第275図 PL.128	1集 7	深鉢	体部破片	II群	粗砂粒・輝石/良好/にぶい褐色	横位沈線2条以下沈線による弧状意匠が配される。無文部及び内面研磨を加える	後期前葉
第275図 PL.128	1集 8	深鉢	底部破片	II群	細砂粒・石英/良好/にぶい黄褐色	貼出し底部。外反気味に開く体部下。無文で内外面弱い研磨を加える。底面は撫で	後期前葉
第275図 PL.128	1集 9	石鐮	ほぼ完形	II群	褐色碧玉	長:2.1、幅:1.2、厚:0.3cm、重:0.8g。円基無茎鐮。完成状態。割離面が全面を覆う。先端部・裏面側に衝撃割離面がある	
第275図 PL.128	1集 10	凹石	完形	II群	粗粒輝石安山岩	長:11.3、幅:7.7、厚:4.3cm、重:423.5g。楕円状円盤。敲打による凹みが表裏面中央に配される。下端部にも敲打痕。平滑面は表裏面に広がる。被熱凹跡を持つ	
第275図 PL.129	2列 1	深鉢	体部破片	III群	粗砂粒・石英/やや軟/褐色	体部下。垂下沈線2条による懸垂文構成。弧状短沈線を充填する。外器面磨減。内面弱い研磨	中期後葉
第275図 PL.129	2列 2	石鐮	完形	II群	黒曜石	長:1.7、幅:1.6、厚:0.3cm、重:0.6g。円基無茎鐮。完成状態? 全面が割離面に覆われ、加工は丁寧。先端部の作り出しが甘く、鋭利さに欠ける	
第275図 PL.129	2列 3	石鐮	左辺欠損	I群	黒曜石	長:1.8、幅:(1.2)、厚:0.4cm、重:0.6g。円基無茎鐮。未製品。全面が割離面で覆われているが、左辺を加工時に欠く。鋭り気味の先端部が再加工なら、ドリル様に使用した可能性も残る	
第275図 PL.129	2列 4	石鐮	先端部破片	—	黒色安山岩	長:(2.2)、幅:(1.6)、厚:0.4cm、重:1.2g。未製品? 粗い加工が全面を覆う。観察からみて返し部として捉えることも可能だがやや大型に過ぎる。背面側縁部は摩耗しているように見える	
第275図 PL.129	2列 5	打製石斧	頸部欠損	III群	粗粒輝石安山岩	長:(8.3)、幅:4.7、厚:1.5cm、重:73.0g。短冊形。完成状態。対部摩耗・擦痺痕とも著しい。対部は斜位で、裏面側が再加工されている	
第275図 PL.129	2列 6	磨石	完形	I群	粗粒輝石安山岩	長:7.6、幅:7.2、厚:4.8cm、重:356.5g。円盤表面に平滑面を持つ。敲打痕は裏面・下端部に偏る	
第276図 PL.129	2列 7	磨石	完形	II群	粗粒輝石安山岩	長:16.3、幅:13.5、厚:12.6cm、重:3945.0g。丸石。弱い平滑面を表面に見る。敲打痕は全面に広がる	
第276図 PL.129	2列 8	磨石	1/2残存	III群	粗粒輝石安山岩	長:(17.1)、幅:13.0、厚:8.8cm、重:3040.0g。棒状の円盤。表裏面に平滑面を見る。裏面に顕著で光沢を持つ。上端に少量の敲打痕	
第276図 PL.129	2列 9	凹石	完形	II群	粗粒輝石安山岩	長:15.6、幅:11.7、厚:5.9cm、重:1060.0g。多孔質円盤。やや扁平。表面・内側面に敲打による凹みが散在する。裏面に磨面を見るが平滑さに欠ける	

種目 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/装成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第276図 PL.129	2列 10	円石	完形	Ⅲ群	粗粒輝石安山岩	長:16.3、幅:8.8、厚:4.2cm、重:920.0g。楕円状隆。やや多孔質。表裏面に敲打による小孔を見る。磨面も全面に広がるが平滑面は見られない。	
第276図 PL.129	2列 11	敲石	完形	Ⅰ群	溶結凝灰岩	長:15.1、幅:8.1、厚:5.0cm、重:725.0g。楕円状の円隆。表裏面に敲打による凹み、磨面を見る。上下端部に敲打痕が集中する。	
第277図 PL.130	2列 12	磨石	完形	Ⅰ群	粗粒輝石安山岩	長:41.3、幅:22.8、厚:15.4cm、重:18200.0g。大型の多孔質角礫。断面三角形で表面に稜を持つ。磨面は内側面に見られるが平滑面としては見られない。	
第277図 PL.129	2列 13	石皿	破片	Ⅱ群	粗粒輝石安山岩	長:(18.1)、幅:(17.2)、厚:4.9cm、重:2555.0g。方形の平面形か。上下は不明。縁はやや低く底面には平滑面を見る。裏面には断面円錐状の孔を縁らに配す。表面に発熱による黒痕がある。	
第277図 PL.129	2列 14	石皿	破片	Ⅱ群	粗粒輝石安山岩	長:(18.6)、幅:(14.5)、厚:4.8cm、重:1685.0g。楕円状の平面形か。縁は高く、底面に平滑面を見る。裏面には断面円錐状の孔を縁らに配す。表面に発熱による黒痕がある。	
第278図 PL.130	2列 15	台石か	破片	Ⅱ群	粗粒輝石安山岩	長:(21.6)、幅:(24.9)、厚:(15.1)cm、重:9350.0g。不定型な垂角礫。表面に僅かな凹みを持ち、底面に平滑面を見る。小孔も中央に1箇所設ける。裏面は磨面を見るが平滑さ欠ける。	
第278図 PL.129	2列 16	多孔石	完形	Ⅲ群	粗粒輝石安山岩	長:11.7、幅:13.7、厚:9.7cm、重:1238.0g。多孔質の角礫。表面に孔を集中する。裏面・側面には見られない。	
第278図 PL.129	2列 17	多孔石	一部欠損	Ⅲ群	粗粒輝石安山岩	長:(16.8)、幅:10.5、厚:4.7cm、重:720.0g。扁平で小型の多孔質角礫。表裏面に断面円錐状の孔を集中する。表面中央には縁らに設ける。	
第278図 PL.130	2列 18	多孔石	完形	Ⅲ群	粗粒輝石安山岩	長:11.6、幅:8.4、厚:5.1cm、重:535.0g。小型の多孔質角礫。表裏面中央にやや大型の孔を設ける。凹石の可能性もあるが、孔が敲打痕の集合ではないことから、多孔石とした。	
第278図 PL.130	2列 19	多孔石	完形	Ⅲ群	粗粒輝石安山岩	長:21.6、幅:14.6、厚:11.3cm、重:3975.0g。多孔質角礫。表裏面・内側縁に孔を集中する。特に表裏孔は深く入念な作為が窺える。孔断面形は円錐状。	
第279図 PL.130	2列 20	多孔石	完形	Ⅲ群	粗粒輝石安山岩	長:23.5、幅:20.8、厚:16.1cm、重:6500.0g。大型の多孔質角礫。孔は表面に集中する。中央の孔を中心に縦位に連なる傾向を見るが意図的な配置とは見られない。周縁孔は散漫な配置。	
第279図 PL.130	2列 21	多孔石	一部欠損	Ⅲ群	溶結凝灰岩	長:46.8、幅:(26.9)、厚:14.6cm、重:157500.0g。大型の楕円状円隆。発熱による破砕著しい。表面に比較的大型の孔を集中する。裏面は少数。孔断面形は円錐状。	
PL.130	2列 22	多孔石	完形	Ⅲ群	粗粒輝石安山岩	長:17.9、幅:14.8、厚:11.0cm、重:3000.0g。	
PL.131	2列 23	多孔石	完形	Ⅲ群	粗粒輝石安山岩	長:22.0、幅:15.4、厚:9.5cm、重:2570.0g。不整楕円状の多孔質垂角礫。孔は表裏面に見られ中央部に集中する。	
PL.131	2列 24	多孔石	完形	Ⅲ群	粗粒輝石安山岩	長:20.7、幅:12.6、厚:10.4cm、重:2505.0g。不定形の多孔質垂角礫。孔は表裏面と右側面に縁らに設ける。	
PL.131	2列 25	多孔石	完形	Ⅲ群	粗粒輝石安山岩	長:23.5、幅:13.3、厚:10.2cm、重:2650.0g。不定形の垂角礫。孔は縁らに表面と裏面の一部に見られる。	
PL.131	2列 26	円石	半欠	Ⅱ群	粗粒輝石安山岩	長:(11.9)、幅:12.5、厚:9.1cm、重:1710.0g。表面に敲打による凹みを見る。発熱による剥落が著しい。	
PL.131	2列 27	円石	半欠	Ⅱ群	粗粒輝石安山岩	長:(18.2)、幅:13.2、厚:10.1cm、重:3180.0g。表裏面に敲打痕を見る。表面に敲打による凹みを見る。	
PL.131	2列 28	円石	半欠	Ⅱ群	粗粒輝石安山岩	長:(17.3)、幅:18.0、厚:12.5cm、重:5820.0g。大型の円隆表裏面に敲打痕が散漫に見られる。	
PL.131	2列 29	多孔石	完形	Ⅲ群	粗粒輝石安山岩	長:23.3、幅:18.0、厚:11.7cm、重:4710.0g。不定形の多孔質垂角礫。孔は表裏面に見るが、表面中央に集中する。	
PL.131	2列 30	多孔石	完形	Ⅱ群	粗粒輝石安山岩	長:16.6、幅:13.1、厚:9.9cm、重:2140.0g。不定形の多孔質垂角礫。表面～側面にかけて孔を縁らに設ける。	
PL.131	2列 31	多孔石	完形	Ⅱ群	粗粒輝石安山岩	長:17.9、幅:13.7、厚:9.7cm、重:2750.0g。不定形の垂角礫。表面に縁らな孔を設ける。	
PL.131	2列 32	磨石	完形	Ⅱ群	粗粒輝石安山岩	長:41.7、幅:21.4、厚:12.3cm、重:16600.0g。不整形の垂角礫。表裏面とも強い平滑面を持つ。	
PL.131	2列 33	台石	完形	Ⅱ群	粗粒輝石安山岩	長:38.2、幅:21.3、厚:16.2cm、重:20100.0g。不整形の垂角礫。表面に弱い平滑面を見る。	
PL.131	2列 34	多孔石	破片	Ⅲ群	粗粒輝石安山岩	長:(28.5)、幅:(26.8)、厚:(21.0)cm、重:18350.0g。遺存部は僅か。大型不定形角礫。表面に浅い孔を縁らに設ける。	
PL.132	2列 35	多孔石	完形	Ⅲ群	粗粒輝石安山岩	長:39.5、幅:24.2、厚:23.4cm、重:20000.0g。大型の不定形垂角礫。表面頂部から側面にかけて孔を集中する。	
PL.132	2列 36	磨石	半欠	Ⅲ群	石英閃緑岩	長:(33.6)、幅:16.5、厚:15.1cm、重:13150.0g。大型の棒状円隆。表裏面に平滑面を見る。	
PL.132	2列 37	多孔石	完形	Ⅱ群	粗粒輝石安山岩	長:20.6、幅:23.7、厚:16.5cm、重:7700.0g。大型不定形の垂角礫。表裏面に孔を縁らに設ける。	

種別 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL-132	2列 38	多孔石	半欠	Ⅱ群	粗粒輝石安山岩	長:32.2、幅:26.5、厚:15.6cm、重:18250.0g。大型楕円状の円盤。表面中央に浅い孔を集める。裏面に平滑面	
PL-132	2列 39	多孔石	完形	Ⅲ群	粗粒輝石安山岩	長:29.6、幅:25.8、厚:20.9cm、重:14660.0g。大型で不定形な垂直角盤。表裏面に孔を偏在する	
PL-132	2列 40	磨石	半欠	Ⅲ群	粗粒輝石安山岩	長:(29.6)、幅:25.5、厚:17.6cm、重:17000.0g。大型の楕円状円盤。表裏面に浅い磨打痕と平滑面を見る	
PL-132	2列 41	磨石	ほぼ完形	Ⅲ群	粗粒輝石安山岩	長:29.1、幅:27.6、厚:18.8cm、重:23250.0g。大型の円盤。表裏面・端部に平滑面を見る。器表面剥落多い	
PL-132	2列 42	多孔石	半欠	Ⅱ群	粗粒輝石安山岩	長:34.5、幅:30.8、厚:(29.9)cm、重:46200.0g。裏面欠損。表面に浅い孔を縦らに設ける	
第280図 PL-132	3列 1	深鉢	底部	—	粗砂粒・輝石/やや軟/にぶい・褐色	底径:12.8cm。底部部は僅かに突出し、外気味に立ち上がる。無文で器面厚減する。内面に保付着	後期前葉
第280図 PL-132	3列 2	多孔石	裏面欠損	Ⅱ群	粗粒輝石安山岩	長:17.2、幅:12.3、厚:7.5cm、重:1200.0g。多孔質角盤。表面に孔を少数設ける。裏面には見られない	
第280図 PL-132	3列 3	多孔石	1/2残存	Ⅰ群	粗粒輝石安山岩	長:(18.5)、幅:20.0、厚:9.2cm、重:3380.0g。楕円状の多孔質円盤。表裏面にやや大型の孔を集中する。孔断面は円錐状	
第280図 PL-132	3列 4	多孔石	完形	Ⅰ群	粗粒輝石安山岩	長:14.9、幅:13.1、厚:6.8cm、重:1485.0g。多孔質角盤。表裏面・側面に孔を設けるが散漫な分布である	
第280図 PL-132	3列 5	多孔石	完形	Ⅲ群	粗粒輝石安山岩	長:11.3、幅:16.3、厚:9.9cm、重:1480.0g。多孔質角角盤。孔は表裏面・側面に散漫に設けられる。断面は円錐状を呈す	
PL-132	3列 6	多孔石	完形	Ⅲ群	粗粒輝石安山岩	長:37.7、幅:30.1、厚:23.9cm、重:26300.0g。大型不定形の角盤。表裏面に浅い孔を縦らに配す	

ビット 51区

種別 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第284図 PL-133	56ビット 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/良好/暗褐色	横位隆線以下幅広の平行沈線による縦位楕円文や弧線文が配される。横位隆線を充てる	中期中葉
第284図 PL-133	56ビット 2	深鉢	口縁部突起片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/多良好/褐色	大型の環状突起。中位に凹孔を設け、上端はコイル状、内側面は小環状突起を加飾する。体部は削落するが横位隆線と斜位隆線を配す。おそらくY字状懸垂文か	中期中葉
第284図 PL-133	56ビット 3	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/良好/赤褐色	口縁部内外面に突出し面を持つ。縦位隆線を横位に付し、縦位隆部を生じる	中期中葉
第284図 PL-133	56ビット 4	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/良好/褐色	体部上平か。横位隆線を設け幅広の平行沈線を側線とする。以下縦位沈線群を施し平行沈線による弧状意匠を配す。横位波状沈線を充てる	中期中葉
第284図 PL-133	65ビット 1	凹石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:13.0、幅:8.2、厚:5.5cm、重:935.8g。厚手の楕円状円盤。表裏面中央に磨打痕の集中による凹みを配す。表裏面の平滑面は強く光沢を持つ。下端部にも磨打痕を見る	
第284図 PL-133	102ビット 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/浅黄褐色	横位浮線文を多段に配し小型のC字状斜刺文を重ねる。地文は無節R位施文	前期後葉
第284図 PL-133	125ビット 1	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:11.0、幅:6.3、厚:4.7cm、重:404.0g。細かな磨打痕を下端に集中する	
第284図 PL-133	135ビット 1	凹石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:11.4、幅:6.6、厚:3.9cm、重:459.7g。楕円状の円盤。磨打痕の集中による凹みを表裏面中央と側面に配す。併せて平滑面も表裏面と側面に及び一部光沢を帯びる。側面平滑面は強く、面として確立している	
第284図 PL-133	139ビット 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・繊維・石英/良好/にぶい・褐色	0段多変R LとL R斜位施文による縦位羽状縄文構成	前期初葉
第284図 PL-133	139ビット 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・繊維・石英/良好/にぶい・褐色	0段多変R L斜位施文	前期初葉
第284図 PL-133	189ビット 1	深鉢	体部下平 1/3残存	埋土	粗砂粒・輝石/良好/にぶい・褐色	大型深鉢。密接した重下隆線3条による懸垂文構成。体部中位の渦巻状突起は削落。沈線による弧状意匠・渦巻状意匠を配し下端より3条の沈線が懸垂する	中期後葉
第284図 PL-133	244ビット 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/良好/暗赤褐色	隆線による口縁部区画文構成。2条隆線による区画線か。渦巻文も下位に付される。地文は斜位R L	中期後葉
第285図 PL-133	297ビット 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/良好/灰褐色	波状隆線部に指環状突起を設ける。突起中に貫孔を設ける。口縁部は幅状で下位に刻みを施す横位隆線を付す	中期中葉
第285図 PL-133	297ビット 2	深鉢	口頸部破片	埋土	粗砂粒・片岩・石英/良好/にぶい・赤褐色	口縁部欠損。屈曲部に刻みを付す。頸部は2条の沈線による渦巻状意匠を配し三角連続斜刺文を埋める。体部上平に横位沈線3条を設け、截首状に斜刺文を連続する。以下弧状沈線を施す突起を付す。口縁部文様帯は幅状で隆線による交互三角区画文構成。無節に幅連続爪形文と三角連続斜刺文。頸部隆線に環状小突起を付す。頸部は横位沈線を多段に施し、体部端に幅連続爪形文を横位に設ける	中期中葉

種図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第28508 PL.133	302ビット 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/良好/にぶい褐色	口縁部強い内湾。2条隆線による口縁部区画文。隆線間に小突起を付す。側縁は沈線。斜位短沈線を充填する	中期後葉
第28508 PL.133	325ビット 1	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/明褐色	横位筋状隆帯より縦位隆帯が派生する。隆帯による対角状凸筋を配す。意匠文片辺には切みを施す	中期中葉
第28508 PL.133	431ビット 1	凹石	下半欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(11.0)、幅:6.2、厚:3.5cm、重:304.9g。楕円状の内縁。表面中央に敲打による浅い凹みが集まる。平滑面も表面裏面に見る	
第28508 PL.133	432ビット 1	打製石斧	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:12.4、幅:6.0、厚:2.5cm、重:180.2g。短冊形。完成状態。刃部が強く摩耗する。側縁は開き気味で、やや大型の部部に入る	
第28508 PL.133	451ビット 1	深鉢	頸部～体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/明褐色	小型の深鉢。頸部に2条隆線による長柄状隆線を設ける。地文は縦位懸糸Lを施す	中期後葉
第28508 PL.133	471ビット 1	浅鉢	頸部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/良好/にぶい褐色	口縁部外傾し無文。口頸部文様帯は隆線による渦巻文と区画構成。側縁は沈線で区画内は縦位短沈線を充填する。内面弱い研磨。赤彩痕跡は見られない	中期後葉
第28508 PL.133	563ビット 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/灰白色	2条隆線による懸垂文構成。斜位短沈線を充填する。二次変色か、外器面は灰色を呈し異色な感を受ける	中期後葉
第28508 PL.133	607ビット 1	石皿か	下半欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(13.5)、幅:17.1、厚:5.5cm、重:1646.4g。扁平で楕円状の平面形。表面が僅かに凹みか縁などは磨削ではなく、あるいは台石か。表面裏面に平滑面と敲打痕を見る	
第28508 PL.134	639ビット 1	敲石	完形	埋土	石英閃緑岩	長:17.1、幅:7.3、厚:5.4cm、重:885.1g。棒状の内縁。下端部に敲打痕が集まる。側縁～表面に疎かに敲打痕を見る	中期中葉
第28608 PL.134	714ビット 1	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	平行沈線が垂下し、一方に沿って大型の三叉文を交互に配す。内面弱い研磨	中期中葉
第28608 PL.134	719ビット 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/良好/明赤褐色	体部下平。厚手の器厚を呈す。縦位内皮沈線による懸垂文構成下部部。隆線下端もあり縦位波状文か。地文はL R縦位施文。文様下位は削り調整により無文化する	中期中葉末
第28608 PL.134	719ビット 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/良好/明赤褐色	縦位矢羽状短沈線。横状短沈線を施す。剥落するが隆線も見られる	中期後葉
第28608 PL.134	756ビット 1・2	深鉢	体部下平破片2点	埋土下位	細砂粒・石英・輝石/良好/明赤褐色	底部は直立気味で体部下平は外反する。縦位・斜位 R Lが覆う。外面に保留着	中期中葉
第28608 PL.134	756ビット 3	深鉢	口縁～体部上半3/4残存	埋土下位	粗砂粒・石英・雲母/良好/にぶい赤褐色	小型深鉢。内縁突出し小型突起を付す。4単位か。突起片は環状で、一方は口唇部沈線と一体化する。体部は突起下端より派生する斜位隆線が体部中央で連続し三角状区画文を構成する。側縁は沈線で区画中央は初変文・三叉文を充てる。内面少量保留着	中期中葉
第28608 PL.134	784ビット 1	注口土器	体部下平～底部残存	埋土上位	細砂粒・石英・輝石・雲母少/良好/にぶい黄褐色	瓢形注口土器体部下平。強い内湾部を呈し体部下平を横位隆線で囲す。小型の横位橋状把手と瘤状突起を付す。2単位か。把手下端より縦位隆線が派生し、体部上半の橋状把手に対応すると思われる。弧状沈線下端を見るが全否は不明。内外面とも器面磨減。底面に径1.5cm程の孔を穿つ。内面に保留着	後期前葉

ビット 52区

種図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第28608 PL.134	25ビット 1	深鉢	口縁部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/灰褐色	口縁部突起と区画文。突起は剥落する。区画内は沈線を側縁とし縦位短沈線を充填する	中期後葉
第28608 PL.134	111ビット 1	深鉢	口頸部破片	埋土	細砂粒・石英・雲母/良好/灰黄褐色	薄手の器厚。小型品か。2条隆線による口縁部区画文。斜位短沈線を充填する。体部は縦位 R Lを施す	中期後葉
第28608 PL.134	115ビット 1	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英/良好/灰褐色	横位隆線剥落。地文に縦位懸糸Lを施す	中期後葉初
第28608 PL.134	127ビット 1	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・燧石・輝石/良好/にぶい褐色	横位無部 R が覆う	前期中葉
第28608 PL.134	127ビット 2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/良好/にぶい褐色	波状縁か。口唇部より複相同時施文の結節沈線が施される。	中期中葉

遺構外出土遺物 1 51区

種別 PL. No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第28789 PL.134	1	深鉢	体部破片	南西	細砂粒・繊維/石英/ 良好/褐色	やや厚手。0段多条Rを横位に施す	前期初葉
第28789 PL.134	2	深鉢	体部のみ残存	51-Q22	細砂粒・繊維/輝石/ 良好/にぶい黄褐色	長胴状に開く。体部上半に補修孔を穿つ。縦位LとRによる 縦位羽状襷文構成。施文は乱唐で整っていない。内面凹凸磨す	前期中葉
第28789 PL.134	3	深鉢	口縁-体部 破片3点	51-Q28	細砂粒・繊維/良好/ にぶい褐色	口径:(28.0)cm。口唇部内湾状で口縁部外傾する。体部に僅か な内湾を見るが、バケツ状の形態。横位LとRによる縦位羽 状襷文構成。割付襷を残す。内面研磨	前期中葉
第28789 PL.134	4	深鉢	底部3/4残 存	51-M21	細砂粒・輝石/良好/ 明赤褐色	底径:16.0cm。底径広く、僅かに内湾気味に直立する。横位R を施す。底部端部、底部、体部内面研磨により平滑	前期後葉
第28789 PL.135	5	深鉢	口縁部破片	51-Q23	粗砂粒・石英/片岩/ 良好/明赤褐色	強く内湾する口縁部。2条を接した横位浮線文を多段に設け、浮 線による弧線文や種子状文を配す。浮線には矢羽状刻みを付す	前期後葉
第28789 PL.135	6	深鉢	体部破片	51-B1	細砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	外反する体部中位。横位浮線文を多段に配し、矢羽状刻みを加え る。地文は横位R L。内面弱い研磨	前期後葉
第28789 PL.135	7	深鉢	口縁部-体 部1/5残存	51-Q16	細砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	口縁部残存少ない。突起を付すか。口縁部は強く開き体部は直立 気味。横位R Lが覆う	前期後葉
第28789 PL.135	8	深鉢	口縁部一部 ・体部-底 部1/5残存	51-Q16	細砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	口径:(14.7)、底径:6.5、器高:18.3cm。口縁部は外傾し体部は 筒状を呈す。頸部に2条の沈線と設け体部は結節沈線と沈線による 方角を基調とした意匠文と渦巻文を配す	中期中葉
第28789 PL.135	9	深鉢	口縁部破片	51-A13	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/暗褐色	波状突起を付す。波頂部より垂下した隆線が頸部でクラックし区 画文を画す。一方は結節沈線2条で案ずる。製練・充填文ともに結 節沈線単独施文。内面丁寧研磨	中期中葉
第28789 PL.135	10	深鉢	口縁部破片	南西	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/灰褐色	波状線、波頂部より垂下した刻みを付す隆線と頸部隆線で画す。 頸線は複列の結節沈線で横位波状文2条を充填する	中期中葉
第28800 PL.135	11	深鉢	口縁-体部 破片	51-Y14	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	口縁部内湾し体部直立する。口縁部文様帯は隆線による弧状区画。 おそらく突起を付す。頸部無文帯には割落痕跡を見るため把手を 付すか。体部は隆線による横位多段文様帯構成。2段目は弧状隆 線を付す事から幅広か。頸線は連続爪形文を施す	中期中葉
第28800 PL.135	12	深鉢	体部下手~ 底部3/4残 存-底部欠 損	51-Q16	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	底径:11.4cm。体部は直立し底部は丸みを帯びる。2条の垂下隆 線による懸垂文構成。4単位か。頸線に内湾沈線3条を施す。縦 位交互三叉文を刻む。地文は縦位・斜位R L。	中期中葉
第28800 PL.135	13	深鉢	体部破片	51-Y14	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	体部下手か。縦位R Lが覆う	中期前葉
第28800 PL.135	14	深鉢	体部-底部 1/5残存	51-P16	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい赤褐色	底径:(15.0)cm。底径広く直立気味の体部器形。上半の横位隆 線で文様帯を画し以下下半は幅広の無文部を設ける。文様帯内は 縦位隆線により方角区画文を配し・3条の沈線を側線とする。 区画中に沈線による環状意匠や交互連続三叉文を埋める。内面 弱い研磨。外面に吹きこぼれ状の黒色付着物	中期中葉
第28800 PL.135	15	深鉢	体部-底部 1/3残存	51-Q14	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	底径:(9.0)cm。2帯構成か。隆線による縦位楕円状区画文上端 に瘤状突起を付し分岐懸垂文が派生する。刺突文を充填する。上 位は隆線による渦巻文を施す。三叉文や沈線文を埋める。下位は 幅狭で横位沈線帯を充填する。体部下半は広く無文。内面底部下に 留付着	中期中葉
第28800 PL.135	16	深鉢	口縁-体部 1/4残存	51-U17	粗砂粒・輝石/良好/ 暗褐色	口径:(30.2)cm。縦位の筒車状突起を付す。口縁部は内湾し隆 線による環状区画間を弧状隆線が繋ぐ。頸線は1本幅き沈線。内 面面磨磨減	中期中葉
第28800 PL.135	17	深鉢	体部-底部 残存	不明	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	体部中に横位弧状隆線を設け、小型の斜位双環状突起を4単位 配す。突起下端より分岐懸垂文が派生する。製練・充填沈線は1 本幅き。分岐懸垂文内は刺突文を充填する。空白部には三叉文や 円形刺突文を埋める。内面留付着	中期中葉
第28800 PL.135	18	深鉢	口縁-体部 残存	51-M17	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/赤褐色	口径:14.5cm。口唇部が内湾する小型深鉢。口唇部に刻みを加え、 口縁部下に横位沈線と強い押し引き文を施す。以下横位突起向隅 より弧状隆線が派生し進行懸垂する意匠文を4単位配す。縦位沈 線、環状意匠を埋め、縦位R Lを施す	中期中葉末
第28800 PL.135	19	深鉢	口縁-体部 1/2残存	51-Q15	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/赤褐色	口径:21.0cm。口唇部内湾・口縁部外傾し無文。口唇部には隆帯に よる環状意匠と横位S字状意匠が配される。隆帯上には刻み、隆 帯間には三叉文が施される。頸部は無文で体部上位の横位隆線で 画される。体部は垂下隆線を付す。地文は縦位懸系L。内面弱い 研磨	中期中葉末
第28800 PL.136	20	深鉢	口縁部1/3 残存	51-O17	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	口径:(20.0)cm。口唇部に横位隆線と沈線を設ける。口唇部は 田畑状突起を4単位配し、連続爪形文を充填する2条隆線による 渦巻意匠を配し、横位沈線帯と交互刺突文が施される。頸部以 下は縦位懸系Lを地文とする	中期中葉末

種図 PL. No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第288図 PL.136	21	深鉢	体部1/2残存	51-R16	細砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	内湾気味に直立する体部器形。上半に横位波状線を設け以下内皮沈線によるU字状意匠と懸垂文を配す。意匠間は5条の垂下沈線を懸垂する。おそらく5・6単位。地文は縦位・斜位R Lで不定方向の施文。内面弱い研磨	中期中葉末
第288図 PL.136	22	深鉢	体部3/4残存	51-017	粗砂粒・輝石/やや 軟/にぶい黄褐色	緩やかに内湾する体部器形。内皮沈線4条を横位段に遣らし横帯文構成とする。上位の文様帯は縦位沈線4条を加える。地文は懸垂R縦位・斜位施文	中期中葉末
第289図 PL.136	23	深鉢	突起片	51-R23	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい褐色	中央の柱状突起。1本描きの縦位沈線を主な施文とし、短沈線を放射状に加える。右側面には弧状隆線が配される。胎土中に棒状の圧痕を見る	中期中葉末
第289図 PL.136	24	深鉢	体部破片	南西	粗砂粒・輝石/良好/ 明褐色	薄手の器厚。外反する体部器形。横位隆線以下垂下隆線による懸垂文構成。交互斜位短沈線を施す	中期後葉
第289図 PL.136	25	深鉢	口縁部破片	51-S14	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい赤褐色	口縁部内湾し下端に切みを付す横位隆線を配す。体部は垂下隆線による懸垂文構成から。縦位R Lを充填する	中期後葉
第289図 PL.136	26	深鉢	底部1/2残存	51-R14	粗砂粒・石英/良好/ にぶい赤褐色	底径:12.6cm。体部下半は内湾気味。斜位・縦位R Lが器面を覆う。内面見込み部に保付着。底面に削代直	中期後葉初
第289図 PL.136	27	深鉢	口縁～体部 1/3残存	51-X17	粗砂粒・輝石/良好/ 暗褐色	口径:16.8cm。隆線による口縁部楕円状区画文構成。区画内は縦位短沈線を充填する。頸部に無文帯を設け、体部は垂下沈線3条と波状沈線による懸垂文構成。地文は縦位R L。内面体部下半に保付着	中期後葉
第289図 PL.136	28	深鉢	体部1/4・底 部残存	51-Y17	粗砂粒・石英/やや 軟/にぶい褐色	底径:11.5cm。大型の深鉢。緩やかに内湾気味に開く体部下半。垂下沈線3条による懸垂文構成。縦位波状沈線も配される。地文は縦位・斜位R L。内面沈線のため器壁剥落多い。環状に黒変を見る	中期後葉
第289図 PL.136	29	深鉢	口縁部～体 部1/3残存	51-014	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	口径:16.8cm。瘤状突起を波頂部に付す。口縁部文様帯は幅広く、沈線による楕円状意匠等が配される。体部は垂下隆線による懸垂文構成から。渦巻文や楕円状意匠を配す	中期後葉
第289図 PL.136	30	深鉢	底部残存	51-X17	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	底径:7.0cm。内湾気味に開く体部下半。縦位R Lを施す。内面に保付着	中期後葉
第289図 PL.136	31	浅鉢	体部～底部 1/3残存	51-N19	粗砂粒・石英・片岩/ 良好/にぶい赤褐色	底面欠損。口頸部はやや内傾し頸部隆線強く突出する。体部は外反気味に強く開く。口頸部は隆線による渦巻文と区画文を配す。区画文はやや小型か。側面は沈線が縦位・斜位R Lを施す。内外面丁寧な研磨	中期後葉
第289図 PL.136	32	浅鉢	口縁部破片	51-016	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい赤褐色	口縁部外傾し口頸部内湾する。切みを付す横位隆線で口頸部を画し弧状隆線で区画する。斜位弧状隆線で繋ぐ。区画内は沈線を連続的突文を充填する。内外面研磨。赤彩痕は僅かに残る	中期後葉
第289図 PL.136	33	浅鉢	口頸部～底 部1/3残存	51-P22	粗砂粒・石英・片岩/ 良好/明赤褐色	底径広く22.0cmを測る。口縁部内湾し頸部の屈曲は強く、体部も球脚状に内湾する。内湾強い。内外面丁寧に研磨。赤彩痕を口縁部内外面に見るが明瞭ではない	中期
第289図 PL.137	34	壺	体部破片	51-Y19	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	両耳垂把手。口縁部は無文で横位隆線に大型の橋状把手を付す。内面弱い研磨	中期後葉
第289図 PL.137	35	鉢	口頸部破片	51-X21	粗砂粒・石英/良好/ にぶい褐色	隆線による口縁部区画文。沈線を飾るとし横位R Lを充填する。体部は縦位密接条線を施す	中期後葉
第290図 PL.137	36	深鉢	口縁～体部 1/2・底部残存	51-S18	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/赤褐色	口径:18.2。底径:9.5。器高:29.1cm。口縁部内湾するキャリバー状深鉢。口頸部に幅広い横位沈線を設ける。以下縦位密接条線が覆う。体部下半は加熱のため器面磨滅	中期後葉
第290図 PL.137	37	深鉢	口頸部～体 部破片	51-X16	粗砂粒・輝石/良好/ 褐灰色	隆線による口縁部区画文。体部は2・3条の垂下沈線と縦位波状沈線による懸垂文構成。縦位・細R Lを充填する。内面研磨	中期後葉
第290図 PL.137	38	深鉢	底部2/3残存	51-X20	粗砂粒・石英/良好/ にぶい黄褐色	小型品。垂下沈線による懸垂文下隆。沈線間に円形突文を充填する。地文は縦位R L。底部端部及び底面に丁寧に研磨する	中期後葉
第290図 PL.137	39	深鉢	口縁部1/3・ 体部3/4残存	51-015	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	口径:(14.0)cm。口縁部渦巻文は上位に付され温帯化する。2条隆線が下隆を区画し、上位は沈線のみで区画で斜位短沈線を充填する。渦巻文下隆より体部に2条沈線による懸垂文を設け、空白部は斜位短沈線を埋める。口縁部・体部文様帯とも5単位構成。器面磨滅	中期後葉
第290図 PL.137	40	深鉢	体部～底部 残存	51-N18	粗砂粒・輝石・雲母/ 良好/にぶい褐色	底径:9.4cm。体部中に緩やかな内湾を持たせる器形。中に渦巻文を配した2条隆線による懸垂文構成。4単位。2条の垂下沈線で区画され、縦位矢羽状短沈線を埋める。内面弱い研磨を加える	中期後葉
第290図 PL.137	41	深鉢	体部下半～ 底部残存	51-H16	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい赤褐色	底径14.0cm。大型の深鉢。3条の垂下隆線による懸垂文構成。波底部対応域には2条隆線を配す。空白部には縦位綾文を充てるが、やや太く乱雑な施文	中期後葉
第290図 PL.137	42	深鉢	体部中位 1/5残存	51-Y14	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/赤褐色	2条隆線と単隆線による懸垂文構成。斜位交互短沈線を施す	中期後葉

種図 PL. No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/黄/色/調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第2908 PL.137	43	深鉢	体部破片	51-Y19	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	頸部外反し体部上半は内湾する。隆線による縦位S字状意匠を配し横位弧状隆線を繋ぐ。小渦巻状隆線も付す。空白部は弧状短沈線を充填する。内面研磨	中期後葉
第2909 PL.137	44	深鉢	口縁部破片	51-Y14	粗砂粒・石英・輝石/ やや軟/にふい褐色	口縁部内湾する樽状の器形。隆線による縦位渦巻文を配し、口縁部に横位2条隆線を設ける。口縁部は無文。2条隆線間に横位波状沈線を埋める。体部は2条沈線で多段に区画され縦位短沈線を充填する	中期後葉
第2909 PL.137	45	深鉢	体部破片	51-U22	粗砂粒・輝石/良好/ 明褐色	弧状隆線によるU字状意匠下端部か。条線施文の一部を見る	中期末葉
第2909 PL.137	46	深鉢	底部残存	51-S21	粗砂粒・石英/良好/ 明褐色	底径:10.0cm。体部下半は強く開く。無文で外面弱い研磨、内面器面磨減する	中期後葉
第2910 PL.138	47	深鉢	口縁～体部 1/4残存	51-W23	粗砂粒・石英/良好/ 浅黄褐色	口縁部隆線を設け、縦位波状隆線と弧状隆線が派生する。円形貼付を付す。口縁部内外面研磨。体部内外面は強い縦位研磨	後期初頭
第2910 PL.138	48	深鉢	口縁部破片	51-R21	粗砂粒・石英/良好/ 明黄褐色	口縁部隆線を設ける。他は無文。内外面とも弱い磨で調整	後期初頭
第2910 PL.138	49	深鉢	体部破片	51-O17	粗砂粒・石英・雲母/ やや軟/褐色	体部下半。踏状隆線を横位・縦位に設ける。空白部は沈線による意匠文を配す	後期初頭
第2910 PL.138	50	深鉢	口縁～体部 破片	51-T21	粗砂粒・輝石/良好/ にふい黄褐色	押圧を加える口縁部隆線。以下無文。内面削り調整後磨で。少量の縦位着	後期初頭
第2910 PL.138	51	深鉢	口縁部～頸 部1/2残存	51-S22 51-S23	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にふい黄褐色	口径:23.5cm。平縁で双波状突起を付す。おそらく3単位。突起中に凹文を配し弧線を埋める。口縁部は内屈し凹文と横位沈線を施す。頸部は無文で体部上半に3条の横位沈線を設ける。頸部及び内面弱い研磨を施す	後期前葉
第2910 PL.138	52	深鉢	口縁部破片	51-R23	粗砂粒・輝石/やや 軟/にふい褐色	口縁部内屈し凹形刺突文を連続する。器面磨減	後期前葉
第2910 PL.138	53	深鉢	口縁部破片	51-V23	粗砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	波頂部に弧状意匠を配し、口縁部横位沈線を設ける。頸部は屈出し、横位沈線と刺突文を施す	後期前葉
第2910 PL.138	54	深鉢	口縁部破片	51-V22	粗砂粒・石英/良好/ にふい褐色	口縁部に環状小突起を付し横位沈線を配す。頸部無文部は短く頸部屈曲部に凹形貼付区画され、沈線による横位沈線を設ける	後期前葉
第2910 PL.138	55	浅鉢	口縁部破片	51-W23 51-X22	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	注口付浅鉢。口縁部下位に注口を設け、頂部に把手を付す。口縁部は8字状貼付区画され、沈線による楕円状区画文を配す。沈線には凹形刺突文が重なる	後期前葉
第2920 PL.138	56	鉢	口縁部1/5・ 体部1/2残 存	51-Q21 51-R20 51-R21	粗砂粒・輝石/良好/ にふい褐色	口径:(24.0)cm。口縁部外屈し体部上半内湾を示す。口縁部小突起を付し凹文と横位沈線を充てる。頸部は幅広で無文。頸部屈曲部に凹文と2条の横位沈線を配す。体部は沈線による渦巻文と弧状文を配す。おそらく4単位。無彫り充填施文	後期前葉
第2920 PL.139	57	深鉢	体部2/3残 存	51-O17	粗砂粒・輝石/良好/ にふい褐色	頸部強く屈曲する。体部は上半に沈線による施文。渦巻文を付加した弧状区画文を配す。体部中心位の渦巻文を横位弧状隆線で繋ぐ。縄文はR L充填施文	後期前葉
第2920 PL.139	58	深鉢	口縁～体部 1/4残存	51-X22	粗砂粒・輝石・雲母/ 良好/にふい黄褐色	口径:21.4cm。腕れた環状突起を付す。4単位か。突起中心は径1.5cmの孔を穿ち、上端は沈線を施し凹文を繋ぐ。頸部は屈出し弧状沈線3条と磨消部による意匠文を配す。縄文はR L充填施文。口縁部及び内面研磨を施す	後期前葉
第2920 PL.139	59	深鉢	口縁部破片	51-W21	粗砂粒・輝石/良好/ にふい褐色	口縁部に凹文を配した環状突起を付し、横位沈線を配す。頸部から体部は双環状突起を連続する。体部縄文は斜位R	後期前葉
第2920 PL.139	60	深鉢	口縁部破片	51-R21	粗砂粒・輝石・雲母/ 良好/灰黄褐色	口縁部沈線を設け、体部は斜位沈線を相向して配す。区画文か。区画内は無彫りを充填する。内面研磨	後期前葉
第2920 PL.139	61	鉢	体部破片	51-W21	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にふい赤褐色	大型品。横位隆線を設け以下太い沈線で画された磨消部環状意匠や斜位意匠を配す。施文部はR L充填施文	後期前葉
第2920 PL.139	62	深鉢	口縁部1/5 残存	51-P20	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	口径:(40.0)cm。頸部屈出し口縁部は強く開く。無文で外面弱い研磨。内面傾削り調整後磨で	後期前葉?
第2920 PL.139	63	深鉢	体部1/4残 存	51-P20	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	頸部～体部上半。頸部屈出し体部強く内湾する。無文で外面弱い磨で調整。内面傾削り調整。62と同一体か	後期前葉?
第2920 PL.139	64	深鉢	口縁～体部 1/4残存	51-S21	粗砂粒・輝石少/良 好/にふい褐色	口径:(34.0)cm。隆線で画された口縁部は幅狭で8字状貼付文を付す。体部は深い刺突文が覆う。横位方向の施文。体部に斜位沈線を見るが、意図的な施文かは不明。内面弱い研磨	後期前葉
第2920 PL.139	65	深鉢	体部破片	南西	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	内湾する体部中心か。厚手で5・6条単位の櫛歯状工具による刺突文を施す	後期前葉
第2930 PL.139	66	深鉢	体部破片	51-Y13	粗砂粒・輝石/良好/ にふい褐色	体部下半。弧状沈線の下端を見る。地文は縦位・斜位R L	後期前葉
第2930 PL.139	67	深鉢	体部下半～ 底部残存	51-R20	粗砂粒・輝石/良好/ 浅黄褐色	底径:9.0cm。体部中心で緩やかに内湾する。無文。内外面器面磨減する。外面は帯状に黒色の汚れ。内面下半に加熱痕跡を見る	後期初頭～前 葉
第2930 PL.139	68	深鉢	体部1/3残 存	51-R22	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	大型の深鉢体部下半。無文で内外面磨で調整。内面厚付着。外面帯状の黒色焼熱痕跡を見る	後期前葉
第2930 PL.140	69	深鉢	底部1/2残 存	51-M21	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にふい褐色	底径:9.6cm。内湾気味に開く体部下半。外面器面磨減。内面丁寧な研磨。体部中心に焼熱痕跡を見る	後期初頭～前 葉

種別 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/装成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第2939R PL_140	70	深鉢	底部1/3残存	51-Y20	粗砂粒・石英/良好/ にふい・赤褐色	底径:10.0cm。外反気味に開く体部下平。無文で外面は縦位 研磨を加える。厚手の器厚で大型品か	中期後葉～後 期前葉
第2939R PL_140	71	深鉢	体部下平～ 底部残存	51-T20	粗砂粒・輝石/良好/ にふい・赤褐色	底径:9.0cm。直線的に開く体部下平。無文で外面が研磨、 撫で調整。底面に網代痕残る	後期初葉～前 葉
第2939R PL_140	72	深鉢	口縁部破片	51-S21	粗砂粒・輝石/良好/ にふい・赤褐色	口縁部横位隆線2条を8字状屈付が付く。体部は横位沈線に 画された施文部意匠文。横位LRを充填する	後期前葉
第2939R PL_140	73	注口土器	口縁部破片	51-X22	粗砂粒・石英少/良好/ 灰褐色	液状縁。体部中位で屈曲し、口縁部は凹文を配し横位隆線と 縦線による区画文を配す。口縁部中位に小孔を穿つが補修孔か。 外面研磨	後期前葉
第2939R PL_140	74	鉢?	底部残存	51-P22	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にふい・黄褐色	底径:13.0cm。体部下平は直立気味に開く。横位沈線間を縦線状 に沈線文を充填する。底面に網代痕残る	後期前葉
第2939R PL_140	75	深鉢	体部破片	51-U22	粗砂粒・輝石/良好/ にふい・黄褐色	横位沈線に画されたLR施文帯を弧状沈線で区画する。無文部、 内面は丁寧な研磨を施す	後期中葉
第2949R PL_140	76	土製円盤	完形	51-R20	粗砂粒・輝石/良好/ にふい・褐色	径:2.4、厚:0.8cm、重:5.9g。深鉢体部上半を利用。周縁は丁寧 な割離調整。LRを施す	中期後葉
第2949R PL_140	77	土製円盤	完形	51-R20	粗砂粒・石英/良好/ にふい・黄褐色	径:2.4、厚:1.0cm、重:7.0g。深鉢体部を利用。周縁は丁寧な 磨減調整。無文	中期後葉
第2949R PL_140	78	土製円盤	完形	51-Q20	粗砂粒・輝石/良好/ にふい・褐色	径:2.4、厚:1.3cm、重:8.5g。深鉢口頸部を利用。周縁は丁寧な 磨減調整。横位隆線を施す	中期後葉
第2949R PL_140	79	土製円盤	完形	51-X21	粗砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	径:2.9、厚:1.0cm、重:10.2g。深鉢体部中位を利用。周縁は丁寧 な磨減調整。磨消部と浅い沈線を見る	中期後葉
第2949R PL_140	80	土製円盤	完形	51-U22	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	径:2.9、厚:1.1cm、重:11.7g。深鉢体部を利用。周縁は丁寧な 磨減調整。無文	後期前葉
第2949R PL_140	81	土製円盤	完形	51-W21	粗砂粒・輝石/良好/ にふい・赤褐色	径:2.8、厚:1.0cm、重:11.8g。深鉢体部を利用。周縁は丁寧な 磨減調整。磨消部沈線を見る	中期後葉
第2949R PL_140	82	土製円盤	完形	51-Y21	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	径:3.0、厚:1.2cm、重:14.4g。深鉢口頸部を利用。周縁は磨減 調整。横位隆線以下擦糸しを施す	中期後葉
第2949R PL_140	83	土製円盤	完形	51-X22	粗砂粒・石英/良好/ にふい・黄褐色	径:3.0、厚:0.8cm、重:9.9g。深鉢体部を利用。周縁は磨減調整。 R.Lを施す	中期後葉
第2949R PL_140	84	土製円盤	完形	51-X20	粗砂粒・石英/良好/ にふい・褐色	径:2.6、厚:0.7cm、重:7.9g。深鉢体部を利用。周縁は丁寧な 磨減調整。縦位接条線を施す	中期後葉
第2949R PL_140	85	土製円盤	完形	51-Q20	粗砂粒・石英/良好/ にふい・褐色	径:3.5、厚:0.9cm、重:14.9g。深鉢体部を利用。周縁は丁寧な 磨減調整。LRを施す	中期後葉
第2949R PL_140	86	土製円盤	完形	51-P24	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/灰褐色	径:4.6×3.7、厚:1.2cm、重:26.0g。深鉢体部を利用。周縁は丁寧 に割離。短沈線を施す	中期後葉
第2949R PL_140	87	土製円盤	完形	51-Y21	粗砂粒・石英/良好/ にふい・黄褐色	径:6.5、厚:1.0cm、重:62.8g。深鉢体部上半を利用。周縁は丁寧 な割離。横位隆線が付す	中期末葉
第2949R PL_140	88	土製円盤	完形	51R	粗砂粒・輝石/良好/ にふい・黄褐色	径:2.8×2.7、厚:1.1cm、重:11.4g。深鉢体部を利用。周縁は 丁寧に磨減し凹形に整える。器面磨減	後期前葉?
第2949R PL_140	89	土製円盤	完形	51-R23	粗砂粒・石英/軟質/ にふい・黄褐色	径:3.7×3.2、厚:0.8cm、重:10.4g。薄手の深鉢体部を利用。周 縁は磨減調整。無文	後期前葉
第2949R PL_140	90	土製円盤	完形	51-Q20	粗砂粒・石英/良好/ にふい・黄褐色	径:4.0、厚:1.0cm、重:16.7g。深鉢体部を利用。周縁は丁寧に 割離後一部磨減調整。LRを施す	後期前葉
第2949R PL_140	91	土製円盤	完形	51-R24	粗砂粒・輝石/良好/ にふい・褐色	径:4.5、厚:0.7cm、重:19.3g。深鉢体部中位を利用。周縁は丁寧 な割離。沈線による調整文。施文はLRか	後期前葉
第2949R PL_140	92	土製円盤	完形	51-W22	粗砂粒・石英/良好/ にふい・褐色	径:6.3×4.8、厚:1.1cm、重:31.8g。深鉢体部中位を利用。周縁 は丁寧な割離後一部磨減調整。無文	後期前葉
第2949R PL_140	93	土製円盤	完形	51-Q25	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	径:5.2、厚:0.8cm、重:28.1g。深鉢体部を利用。周縁は丁寧な 磨減調整。沈線を施文	後期前葉
第2949R PL_140	94	土製円盤	完形	51-Q21	粗砂粒・輝石/軟質/ 淡黄色	径:5.2×4.5、厚:0.5cm、重:18.2g。薄手の鉢体部屈折部を利用。 周縁は磨減調整。無文	後期前葉
第2949R PL_140	95	石鐮	完形	51-Q16	玉髄	長:1.4、幅:1.6、厚:0.6cm、重:1.0g。凹基無茎部。基部に厚み を有し、左側縁に丁寧な割離及び若干湾曲を示す。右側縁は直 線的に仕上げる	
第2949R PL_140	96	石鐮	脚端部僅かに欠損	51-Q16	黒曜石	長:(2.3)、幅:1.0、厚:0.4cm、重:0.6g。やや厚みのある長身の 凹基無茎部。丁寧な押圧割離が覆い、側縁は割面状を呈す	
第2949R PL_140	97	石鐮	先端部・左 脚端部欠損	51-Q16	黒曜石	長:(1.7)、幅:2.0、厚:0.8cm、重:1.3g。凹基無茎部。中央に厚 みを持つ。押圧割離が全面を覆うが表面調整はやや雑な印象を受 ける	
第2949R PL_140	98	石鐮	先端部・左 脚端部欠損	51-S-6	玉髄	長:(2.0)、幅:(1.8)、厚:0.5cm、重:1.2g。凹基無茎部。基部 湾曲は弱い。中央部に厚みを有し、比較的大きな調整で占めら れる	
第2949R PL_140	99	石鐮	完形	51-Y21	黒曜石	長:1.4、幅:1.5、厚:0.4cm、重:0.4g。凹基無茎部。完成状態。 全面を割離面が覆い、丁寧な作り。小形三角形状を呈する	
第2949R PL_140	100	石鐮	完形	51-X19	黒曜石	長:1.7、幅:1.0、厚:0.3cm、重:0.3g。凹基無茎部。完成状態。 全面を押圧割離が覆う。小振りな作りで、封蝕性に欠ける	

種別 PL-番号	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/装成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第2948区 PL-140	101	石鏡	ほぼ完形	51-X22	黒曜石	長:1.9、幅:0.9、厚:0.3cm、重:0.3g。円基無茎鏡。完成状態? 全面が剥離面で覆われているが、左辺・基部は対置加工1層で、通常の加工法と異なる。大型石鏡が他の小形石器類を再生加工した可能性が指摘されよう	
第2948区 PL-141	102	石鏡	完形	51区	黒曜石	長:2.1、幅:1.8、厚:0.4cm、重:0.7g。円基無茎鏡。完成状態。剥離面が全面を覆い、丁寧な作り。基部は大きく抉れ、返し部は細く長い。全体として対称性に欠ける	
第2948区 PL-141	103	石鏡	完形	51-R14	黒曜石	長:2.6、幅:1.3、厚:0.3cm、重:0.9g。円基無茎鏡。完成状態。表面面とも素材面を残し、周辺加工して器体を作出している。基部をU字状に深く挟り込む	
第2948区 PL-141	104	石鏡	完形	51-K18	チャート	長:3.0、幅:1.5、厚:0.5cm、重:1.7g。円基無茎鏡。完成状態。全面が剥離面で覆われ、丁寧な作り。基部を深く挟り込んでU字状の接合部は103に相似する	
第2948区 PL-141	105	石鏡	完形	51-P16	流紋岩	長:2.8、幅:1.8、厚:0.5cm、重:1.6g。円基無茎鏡。完成状態。全面が押圧剥離で覆われる。薄く仕上がりが、丁寧な作り。やや大型の器類	
第2948区 PL-141	106	石鏡	完形	51-022	黒色頁岩	長:2.4、幅:1.6、厚:0.5cm、重:1.1g。平基無茎鏡。完成状態。加工は雑だが、薄く仕上がる	
第2948区 PL-141	107	石鏡	完形	51-W22	珪質頁岩	長:3.0、幅:1.6、厚:0.4cm、重:1.8g。平基無茎鏡。完成状態。加工は丁寧で、押圧剥離が全面を覆う。側縁は扇形状を呈する。石材はチョコレート頁岩ほど磨光はない	
第2948区 PL-141	108	石鏡	完形	51-X20	流紋岩	長:1.9、幅:1.2、厚:0.5cm、重:0.5g。円基無茎鏡。未製品? 全面加工され、観形は整えられているが、全体として雑な作り	
第2948区 PL-141	109	石鏡	完形	51-016	黒色頁岩	長:2.6、幅:1.3、厚:0.5cm、重:1.3g。円基無茎鏡。完成状態。表面面とも素材面が残る。加工は雑で、器体の対称性に欠ける	
第2948区 PL-141	110	石鏡	2/3残存	51-T21	流紋岩	長:(2.0)、幅:1.6、厚:0.7cm、重:1.8g。平基無茎鏡? 未製品。加工が粗く、また、先端部作出以前の段階にある。石鏡としての最終形態は不明	
第2948区 PL-141	111	石鏡	完形	51-X20	流紋岩	長:2.4、幅:1.5、厚:0.5cm、重:1.0g。有茎鏡。完成状態。やや粗い加工で観形が作出されている。基部に変色した接着剤の痕跡が残る	
第2958区 PL-141	112	石槍	1/2残存	表採	黒色頁岩	長:(7.6)、幅:4.9、厚:1.6cm、重:52.6g。木葉形。未製品。幅広の大型剥片を横位に用い、周辺加工して器体を作出する。石槍としてみた場合、作出途上ということになるが、両側縁は直線的で、刃縁を意識しているように見える	
第2958区 PL-141	113	石匙	完形	51-021	黒色頁岩	長:6.1、幅:14.2、厚:1.7cm、重:104.4g。横型。大型剥片を縦位に用い、周辺加工して作出する。刃部は直線的で、握み部が小さく付く。大型品で、特別視されることになるが、周辺域の類例が注目されよう	
第2958区 PL-141	114	石匙	ほぼ完形	51-N22	流紋岩	長:2.8、幅:4.2、厚:0.7cm、重:6.1g。横型。幅広剥片を用い、周辺加工して器体を作出する。エッジはシヤープで、新鮮に見える	
第2958区 PL-141	115	石匙	完形	51-P17	黒曜石	長:1.8、幅:2.5、厚:0.7cm、重:2.5g。斜めタイプ。小形幅広剥片を横位に用い、周辺加工して器体を作出する。刃部や周辺の加工は対置1層で、剥離角は厚い	
第2958区 PL-141	116	石匙	4/5残存	51-022	硬質頁岩	長:10.6、幅:1.9、厚:0.9cm、重:17.2g。押出型。楕圓形の石匙。器体全面が押圧剥離で覆われ、上端内面縁を小さく抉る。両側縁から剥離した最終剥離面は奥深く入り込んでいるが、器体内部に残された古い剥離面には摩耗面が広がる点が特徴的である	
第2958区 PL-141	117	石匙	1/2残存	51-N18	黒色頁岩	長:6.7、幅:3.0、厚:0.7cm、重:13.0g。縦型。縦長剥片を縦位に用いる。刃部は側縁を整える程度である。握み部は打面を除去するよう加工されている	
第2958区 PL-141	118	石鎌	完形	51-V15	珪質頁岩	長:5.0、幅:2.1、厚:0.5cm、重:2.7g。握み付。握身で長身の体部に心臟形した握み部が付く。断面三角形形状を呈し、先端部には摩耗痕が著しい。備品。在地石材使用	
第2958区 PL-141	119	石鎌	完形	51-S22	黒曜石	長:1.9、幅:0.6、厚:0.5cm、重:0.5g。断面四角形状を呈す。両端に機能部を有したものであろうが、摩耗痕等は確認できない	
第2958区 PL-141	120	石鎌	完形	51-X19	黒色頁岩	長:3.4、幅:2.7、厚:0.9cm、重:7.8g。表面面とも上下、左右両辺から対向する剥離痕で構成されている。比較的形狀が整い、左辺上端縁は突出気味で、下リル縁の先端に見える	
第2958区 PL-141	121	楔形石器	完形	51-W18	黒曜石	長:1.8、幅:1.6、厚:0.6cm、重:1.7g。表面面とも対向する剥離面で構成されている。上端側に打面が残る	
第2958区 PL-141	122	楔形石器	完形	51-Y14	黒曜石	長:1.8、幅:1.0、厚:0.6cm、重:1.1g。表面面とも対向する剥離面で覆われる。右側縁に見える	

種別 PL. No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第29598 PL.141	123	打製石斧	完形	51-X20	粗粒輝石安山岩	長:10.1、幅:4.4、厚:1.7cm、重:78.8g。短冊形。完成状態。刃部摩耗・擦痕が残る。図示した状態の裏面に大きく摩耗面が広がる	
第29598 PL.141	124	打製石斧	上半部欠損	51-J24	黒色頁岩	長:(8.6)、幅:4.5、厚:1.5cm、重:67.8g。短冊形。完成状態。表面面とも刃部摩耗が残る	
第29598 PL.141	125	打製石斧	上半部欠損	51-P20	粗粒輝石安山岩	長:(9.5)、幅:5.1、厚:1.6cm、重:98.2g。短冊形。完成状態。背面側の摩耗痕が大きく広がり、裏面側のそれが伏いタイプ	
第29598 PL.141	126	打製石斧	完形	51-X14	粗粒輝石安山岩	長:14.6、幅:5.3、厚:1.9cm、重:222.3g。短冊形。完成状態。刃部摩耗が著しいほか、擦痕値が残る。刃部再生は明らかである	
第29598 PL.141	127	打製石斧	完形	51-X16	粗粒輝石安山岩	長:10.9、幅:7.7、厚:2.2cm、重:245.0g。指形。完成状態。内側縁が大きく開く。刃縁はシャープで、摩耗痕は見られない。上端側を強く折り、着柄部としたもの	
第29598 PL.141	128	打製石斧	上半部欠損	51-X18	変質安山岩	長:(10.7)、幅:7.2、厚:2.0cm、重:214.9g。短冊形。完成状態。表面面とも刃部摩耗が残る。刃部再生した後、破損した可能性が高い。幅広で大型	
第29598 PL.141	129	打製石斧	完形	51-Q24	黒色頁岩	長:10.8、幅:7.1、厚:2.0cm、重:180.3g。分銅形。完成状態。器体中央の内側縁を小さく折り、着柄部とする。刃部は円状を呈し、摩耗痕が著しい。上端側は再生加工で大きく変形、直線的な形状を示す	
第29598 PL.141	130	磨製石斧	完形	51-P20	蛇紋岩	長:4.5、幅:2.1、厚:0.8cm、重:15.6g。ミニチュア。定角式。完成状態。丁寧に全面研磨する。刃部には対こぼれがあり、使用されたことが分かる	
第29598 PL.141	131	磨製石斧	頭部欠損	51-W20	蛇紋岩	長:(3.8)、幅:2.5、厚:0.7cm、重:12.6g。ミニチュア。定角式。完成状態。丁寧に全面研磨する。刃部には対こぼれがあり、使用されたことが分かる。破損の原因は不明だが、背面側から打撃されたもので、偶発的なものではないだろう。	
第29598 PL.141	132	磨製石斧	完形	51-X20	蛇紋岩	長:9.2、幅:4.8、厚:2.2cm、重:151.7g。定角式。完成状態。丁寧に全面研磨しており、光沢を帯びる。刃部には使用痕が明らかで、これを再研磨したもの	
第29600 PL.141	133	磨製石斧	上半部欠損	51-R18	蛇紋岩	長:(9.6)、幅:6.0、厚:2.4cm、重:243.3g。定角式。完成状態。全面を丁寧に研磨。刃部には再研磨された使用痕が残る。被熱破損か、湯でハゼにより破損	
第29600 PL.141	134	磨製石斧	完形	51-Q20	変玄武岩	長:15.5、幅:5.0、厚:2.6cm、重:321.5g。乳棒状。完成状態。全面研磨され、丁寧な作り。使用状態にあることは確実で、頭部には装着時の打撃痕が残る	
第29600 PL.141	135	磨製石斧	完形	51-Q20	変玄武岩	長:16.7、幅:5.8、厚:3.5cm、重:548.2g。乳棒状。完成状態。全面研磨され、丁寧な作り。使用状態にある。134同様、頭部に装着時の打撃痕が残る	
第29600 PL.142	136	石鎌?	完形	51-Q23	黒色頁岩	長:11.7、幅:10.1、厚:1.4cm、重:186.7g。完成状態?刃部・側縁はシャープで、明確な使用痕は確認できない。背面側刃部(踵面)には摩耗痕が明らかであるが、これが石斧使用に伴う使用痕か断言は難しい	
第29600 PL.142	137	石錘	完形	51-Q21	変玄武岩	長:4.8、幅:3.8、厚:1.1cm、重:30.4g。扁平盤。上下両端をV字状に削り込む	
第29600 PL.142	138	石製円盤	完形	51-Y15	緑色片岩	長:3.5、幅:3.3、厚:1.0cm、重:20.4g。外縁を研磨してはぼ円形状に形状を整えている	
第29600 PL.142	139	玉	ほぼ完形	51-O15	蛇紋岩	長軸:1.7、短軸:1.5、厚:1.0cm、重:3.2g。径1cm前後の孔を内側穿孔する。素材は不明だが、孔の内面に粗い研磨痕が残る。体部は丁寧に研磨され、光沢を放つ	
第29600 PL.142	140	玉	2/3残存	51-W14	粗粒輝石安山岩	長軸:3.0、短軸:(2.4)、厚:2.2cm、重:13.4g。楕円盤。径1cm前後の孔を内側穿孔する	
第29600 PL.142	141	石皿	破片	51-Q21	粗粒輝石安山岩	長:(11.1)、幅:(7.1)、厚:4.5cm、重:202.9g。脚付き石皿上半部か。脚部周辺に敲打による成形痕を見る。内底面に斜位擦痕と平滑面を持つ	
第29600 PL.142	142	石皿	破片	51-P20	緑色片岩	長:(15.7)、幅:(9.3)、厚:3.8cm、重:954.4g。内底面に平滑面。表面面、側面とも敲打痕を見る。側面は連続的で成形時の敲打である	
第29600 PL.142	143	石皿	上半欠損	51-Y19	粗粒輝石安山岩	長:(12.2)、幅:15.5、厚:6.6cm、重:1630.0g。小型の石皿ながら厚手。縁は強く突出する。皿部中央の磨面は顕著ではない。裏面に断面円盤状の孔を設ける	
第29600 PL.142	144	石皿	上半欠損	51-R17	粗粒輝石安山岩	長:(18.1)、幅:18.8、厚:3.8cm、重:1230.0g。外縁の長さが非対称。右側縁に歪みを見る。内底面の平滑面は希薄でざらつく。側縁・外底面は敲打による整形	

採石場 PL. No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第29798 PL.142	145	石皿	上半欠損	51-015	粗粒輝石安山岩	長:(20.2)、幅:21.5、厚:7.5cm、重:5000.0g。重量感ある石皿。掻き出し口を下位に持つが、上部縁辺を凹ませた補修品か。内底面中央に平滑面。凹縁は敲打による整形。内面の凹みも敲打の集中によるものである	
第29798 PL.142	146	石皿	下半欠損	51-P22	粗粒輝石安山岩	長:(19.0)、幅:32.6、厚:11.0cm、重:7600.0g。大型品。細かな敲打により成形する。深く凹み、底面に平滑面を見る。裏面は多孔隙。孔は小型でやや浅い	
第29798 PL.142	147	台石	半欠	51-V19	ひん岩	長:(11.3)、幅:(13.1)、厚:5.0cm、重:1174.3g。表裏面とも平滑面を持つ。表面は僅かに凹凸。裏面は敲打を集める	
第29798 PL.142	148	磨石	完形	51-Q21	粗粒輝石安山岩	長:37、幅:6.5、厚:3.7cm、重:334.2g。小型で表裏面に光沢を持つ平滑面を持つ	
第29798 PL.142	149	磨石	完形	51-L19	粗粒輝石安山岩	長:8.2、幅:7.7、厚:7.2cm、重:604.5g。球状を呈し表裏面に弱い平滑面を持つ。敲打痕は全体に散らばる	
第29798 PL.142	150	台石	ほぼ完形	51-S22	変質安山岩	長:26.7、幅:22.4、厚:7.5cm、重:6990.0g。大型品。表裏面とも敲打痕が散漫に分布する。表面中央に強い平滑面を見る	
第29898 PL.142	151	磨石	完形	51-Q20	粗粒輝石安山岩	長:8.8、幅:8.7、厚:7.2cm、重:629.7g。球状を呈し、表裏面側面に敲打痕を見る。側面に顕著。平滑面は表面が広い	
第29898 PL.143	152	磨石	完形	51-X22	粗粒輝石安山岩	長:9.9、幅:8.9、厚:4.9cm、重:604.8g。細かな敲打痕が箇面全体に施される。裏面中央に集中するが凹みは浅い。平滑面は内面に見られる	
第29898 PL.143	153	磨石	下端欠	51-T21	粗粒輝石安山岩	長:(10.3)、幅:5.6、厚:4.4cm、重:480.8g。表裏面に光沢を持つ平滑面を持つ。両側面と上部面に敲打痕が集まる。方形の断面形を呈す	
第29898 PL.143	154	凹石	完形	51-T21	粗粒輝石安山岩	長:14.1、幅:9.3、厚:3.5cm、重:807.7g。細かな敲打痕が表裏面中央に集中するが凹みは浅い。平滑面は内面に見られる	
第29898 PL.143	155	磨石	完形	51-V19	粗粒輝石安山岩	長:17.0、幅:10.0、厚:5.3cm、重:1344.6g。敲打痕が上下端部に集中する。表裏面に平滑面を見る	
第29898 PL.143	156	凹石	完形	51-P25	粗粒輝石安山岩	長:7.4、幅:6.6、厚:4.3cm、重:317.7g。小型の円盤面に細かな敲打痕が集中し浅い凹みをなす。表裏面に平滑面。裏面は顕著で光沢を持つ	
第29898 PL.143	157	凹石	完形	51-P22	粗粒輝石安山岩	長:11.0、幅:6.2、厚:2.3cm、重:237.8g。表面中央に細かな敲打痕が集中し浅い凹みをなす。裏面は散漫な分布。表裏面とも弱い平滑面を持つ	
第29898 PL.143	158	凹石	完形	51-015	粗粒輝石安山岩	長:8.6、幅:8.0、厚:4.0cm、重:360.5g。表裏面中央に強い敲打痕が集中し深い凹みをなす。側縁にも敲打は集まる	
第29898 PL.143	159	凹石	完形	51-Q19	粗粒輝石安山岩	長:11.7、幅:6.9、厚:4.1cm、重:587.7g。表面中央やや上位に敲打痕が集中し凹みをなす。両側縁下位にも集中し挟り状となる。両端部にも多く敲打が集まり敲石の用途も想起せよう	
第29998 PL.143	160	凹石	完形	51-V20	粗粒輝石安山岩	長:12.4、幅:8.7、厚:5.3cm、重:737.9g。表面中央及び両側面に敲打痕が集中し凹みをなす。両側縁の凹みは挟り状である	
第29998 PL.143	161	凹石	完形	51-R14	粗粒輝石安山岩	長:13.9、幅:5.2、厚:3.0cm、重:298.5g。棒状の内縁表裏面に強い敲打痕が集中する。裏面は縦位之箇所集中し凹みをなす	
第29998 PL.143	162	敲石	完形	51-X19	粗粒輝石安山岩	長:10.6、幅:3.8、厚:2.1cm、重:203.2g。棒状の内縁下部に敲打痕を集中する。裏面に平滑面を見る	
第29998 PL.143	163	敲石	半欠	51-R24	粗粒輝石安山岩	長:(9.9)、幅:6.8、厚:5.3cm、重:537.4g。円柱状の内縁端部に敲打痕が集中する。表面の一部に平滑面を見る	
第29998 PL.143	164	敲石	完形	51-V20	粗粒輝石安山岩	長:13.3、幅:6.0、厚:3.5cm、重:468.0g。下部に細かな敲打痕が集中する。平滑面は表裏面に見られる	
第29998 PL.143	165	敲石	完形	51-S19	粗粒輝石安山岩	長:14.6、幅:7.3、厚:5.2cm、重:774.6g。端部に細かな敲打痕が集中し下部面に顕著。裏面に平滑面が見られる	
第29998 PL.143	166	敲石	完形	51-Q19	変輝緑岩	長:14.0、幅:7.1、厚:4.3cm、重:901.8g。大型の磨製石斧再利用品か。上下端部に敲打痕が集中する。裏面の縦状痕は製作時の摺痕か	
第29998 PL.143	167	敲石	半欠	51-R15	ひん岩	長:(5.2)、幅:2.6、厚:1.9cm、重:48.7g。器身の棒状端部から側面にかけて細かな敲打痕が集中する。上端は磨減し平滑。裏面磨付着	
第29998 PL.143	168	敲石	半欠	51-X19	珪質変質岩	長:(7.2)、幅:3.0、厚:2.3cm、重:57.9g。器身の棒状端部から側縁にかけ敲打痕を集中し端部が尖る。表面中央にも集まる	
第30098 PL.143	169	敲石	完形	51-Q21	粗粒輝石安山岩	長:9.5、幅:11.0、厚:5.9cm、重:730.0g。石核状の礫を素材とし、裏面下部から右側縁に敲打痕を見る	
第30098 PL.143	170	多孔隙	半欠	51区	粗粒輝石安山岩	長:(17.3)、幅:(10.8)、厚:5.5cm、重:1296.2g。表面に深い孔を集中する。裏面は数個を見るが、器表面剥落のためである	
第30098 PL.143	171	多孔隙	完形	51-W19	粗粒輝石安山岩	長:21.9、幅:20.7、厚:8.9cm、重:4595.0g。大型角礫。表裏面全面に孔を設ける。側面孔は見られない	
第30098 PL.144	172	多孔隙	完形	51-M18	粗粒輝石安山岩	長:18.6、幅:16.5、厚:13.2cm、重:4170.0g。断面内縁状の孔を表裏面に設ける	

種別 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第3009 PL-144	173	多孔石	完形	51-X20	粗粒輝石安山岩	長:13.1、幅:10.9、厚:5.6cm、重:838.2g。表裏面中央に大きく凹みを配す。左側面にも浅い凹みを有す	
第3010 PL-144	174	多孔石	完形	51-020	粗粒輝石安山岩	長:48.9、幅:36.2、厚:16.3cm、重:2440.0g。大型の多孔質凹縁。大型の孔を表裏面に集中する。面中央からずらして設けられる傾向。裏面に窪位窪痕が顕著	
第3010 PL-144	175	石棒	頭部破片	51-S20	雲母石英片岩	長:(11.1)、幅:(7.9)、厚:(3.6)cm、重:479.1g。頭部を長軸方向に欠損する。先端部を丁寧に磨削し平面面を持つ	
第3020 PL-144	176	石棒	体部のみ残存	51-020	デイサイト	長:(13.0)、幅:13.0、厚:13.7cm、重:3279.8g。体部中位であろう。上下は不明。敲打による整形で磨面は見られない。上下欠損部は意図的な所産か	
第3020 PL-144	177	不明石製品	完形	51-W14	粗粒輝石安山岩	長:8.9、幅:6.2、厚:3.4cm、重:141.8g。概形は皿状に近く、敲打して概形を整えている。口縁に近い内側面を軽く磨く程度で、速な作り	
第3020 PL-144	178	不明石製品	1/2残存	51-L25	粗粒輝石安山岩	長:8.3、幅:(6.7)、厚:5.2cm、重:141.7g。内面は浅く窪み、概形は方形状を呈す。敲打後磨削して概形を整えている。外面・内側面は丁寧に磨削されている。石材は軽石質で軽量、軟質、明らかに石材の選択意図がある	
第3020 PL-144	179	不明石製品	ほぼ完形	51-X13	粗粒輝石安山岩	長:7.7、幅:7.4、厚:3.8cm、重:78.1g。断面三角形状を呈す。各面とも磨削整形されているが、底面は目が見られるほど丁寧に磨削されている。石材は多孔質・軽石質で、軟質である	
第3020 PL-144	180	不明石製品	完形	51-X14	粗粒輝石安山岩	長:6.8、幅:7.0、厚:3.6cm、重:134.1g。楕円縁。楕円縁を分別、その分割面を磨削整形したもので、周辺を面取り整形する。同様な磨削面が外面にも部分的に残る。平坦な磨削面にはより目の潰れた磨削面が広がり、これを使用痕とすることも可能だが、確認はない	
PL-145	181	石鏝	完形	51-X15	黒曜石	長:1.1、幅:1.0、厚:0.2cm、重:0.2g。凹基無茎鏝。完成状態?極小サイズの石鏝。面的加工が働いているが、基本的には周辺加工によるものだろう	
PL-145	182	石鏝?	略完形	51区	黒曜石	長:1.3、幅:1.1、厚:0.4cm、重:0.4g。平基無茎鏝?未製品	
PL-145	183	石鏝	完形	51-U15	黒曜石	長:2.2、幅:1.6、厚:0.3cm、重:1.0g。凹基無茎鏝。完形状態。全面を押し磨削が覆う。石材に球磨が取り込まれている	
PL-145	184	石鏝	完形	51-V15	黒曜石	長:1.9、幅:1.5、厚:0.2cm、重:0.5g。凹基無茎鏝。完成状態。全面を押し磨削が覆う。薄く仕上げられ、椀品の部類。基部は割く決れる	
PL-145	185	石鏝	完形	51-Y19	黒曜石	長:1.5、幅:1.2、厚:0.2cm、重:0.4g。凹基無茎鏝。完成状態。表裏面とも素材面を残す。全面が熟成して変色。先端部は調査時の欠損	
PL-145	186	石鏝?	完形	51-X18	黒曜石	長:2.3、幅:2.1、厚:1.2cm、重:5.1g。未製品。素材が厚く、これを剥離で除去できないまま、剥離を終えている。削磨類を製作しようとした可能性も否定できない	
PL-145	187	石鏝	略完形	51-P14	流紋岩	長:2.3、幅:2.0、厚:0.5cm、重:1.7g。凹基無茎鏝。未製品。先端部作出し十分だが、基部を挟り込んだ程度で、返し部は作出不出でない	
PL-145	188	石鏝	完形	51-U16	黒色安山岩	長:3.0、幅:1.3、厚:0.3cm、重:1.0g。凹基無茎鏝。完成状態。薄手・細身の石鏝で、周辺加工して器体を作出。表裏面とも素材面を大きく残す	
PL-145	189	石鏝	完形	51-R22	チャート	長:1.9、幅:1.1、厚:0.4cm、重:0.7g。凹基無茎鏝。完成状態。左辺縁が歪み、対称性を欠く	
PL-145	190	石鏝	完形	51-S15	流紋岩	長:2.3、幅:1.7、厚:0.5cm、重:1.6g。平基無茎鏝。完成状態。加工は粗く、やや雑な作り。基部は平坦で、先端を絞り気味に加工する	
PL-145	191	石鏝 (フリル)	完形	51-Y19	黒曜石	長:2.4、幅:0.7、厚:0.4cm、重:0.7g。断面三角形状を呈する。機能部の作出し十分ではなく、製作途上にあるのかもしれない。側縁の摩耗は見られない	
PL-145	192	石鏝 (フリル)	完形	51-Q25	黒曜石	長:1.7、幅:0.5、厚:0.3cm、重:0.4g。断面三角形状を呈する。加工は粗く十分でないように見えるが、両側縁は明らかに摩耗、使用状態にある。単独使用は困難で、柄に装着使用したのだろう	
PL-145	193	石鏝 (フリル)	完形	51-N17	黒曜石	長:1.9、幅:0.7、厚:0.3cm、重:0.4g。加工は丁寧だが、側縁に未加工部分を残す。石鏝としてみた場合、刃部が鋭く、器種認定が妥当か疑問も残る	
PL-145	194	楔形石器	完形	51-Q22	黒曜石	長:1.9、幅:1.2、厚:0.8cm、重:1.7g。表裏面とも対向する剥離面で構成されている。素材は厚く、これを両側剥離して除去しようとしたものだろう	

種図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL-145	195	打製石斧	完形	51-K20	黒色頁岩	長:12.5、幅:4.4、厚:1.4cm、重:126.6g。完成状態。対部摩耗が著しい。対部摩耗は対部再生により回避されるのが通常であり、サイズ的にもまだ使用が可能だが、頭部側に対部を作出しようとした加工があり、これを対部とした	
PL-145	196	打製石斧	完形	51-M25	粗粒輝石安山岩	長:11.4、幅:5.5、厚:1.9cm、重:160.9g。短冊形。完成状態。対部摩耗・摺神痕とも著しい。対部摩耗は背面側が広いタイプで、対部は対部再生により大きく変形する	
PL-145	197	打製石斧	完形	51-X14	粗粒輝石安山岩	長:11.3、幅:5.4、厚:1.5cm、重:136.9g。短冊形。完成状態。対部摩耗・摺神痕とも著しい。対部摩耗は背面側が広く、裏面側は狭い。側縁が弱く括れる	
PL-145	198	打製石斧	略完形	51-N16	黒色頁岩	長:11.9、幅:7.2、厚:1.9cm、重:162.4g。楕形。本製品?両側縁が大きく開き、着柄部は潰れる。対部加工はエッジを整える程度で、摩耗痕は見られない。頭部破損	
PL-145	199	打製石斧	下半部欠損	51-Y14	変質安山岩	長:(10.4)、幅:(5.5)、厚:(2.6)cm、重:202.5g。短冊形。完成状態。対部側を欠き詳細は不明だが、裏面側の着柄部に相当する部分には摺神痕が明らかである	
PL-145	200	磨製石斧	上半部欠損	51-P20	珪化凝灰岩	長:(7.6)、幅:(5.4)、厚:(2.7)cm、重:217.3g。定角式。完成状態。対部は激しく使い込まれ、摩耗が著しい。破損面は摩耗するほか体側に衝撃剝離痕があり、破損後使用されたものだろう	
PL-145	201	石鏃	頭部破損	51-S16	粗粒輝石安山岩	長:(11.8)、幅:10.5、厚:(3.4)cm、重:517.5g。完成状態。左辺エッジに対部摩耗が残る。側縁形状の対称性を欠いているが、これは右辺が再加工されているため。大型で、重量感がある	
PL-145	202	磨石	完形	51-X14	粗粒輝石安山岩	長:6.1、幅:7.2、厚:4.1cm、重:169.1g。楕円。背面側側面は石の目が潰れるほどである。磨石としてはやや小形である	
PL-145	203	石槌	完形	51-P16	粗粒輝石安山岩	長:13.3、幅:17.8、厚:9.7cm、重:3610.0g。大型の円錐を不定方向より打撃を加え、主に横長割片を作出する	
PL-145	204	多孔石	一部欠	51-Q17	粗粒輝石安山岩	長:14.4、幅:11.8、厚:8.7cm、重:1580.0g。不定形多孔質垂直角錐。深い孔を表面に密接する	
PL-145	205	凹石	完形	51-N18	デイサイト凝灰岩	長:18.4、幅:17.2、厚:6.3cm、重:2250.0g。扁平な円錐。敲打による凹みを表面に集中する。孔断面形状は楕円状	
PL-145	206	石皿	破片	51-Q16	粗粒輝石安山岩	長:(19.2)、幅:(7.5)、厚:7.8cm、重:1170.0g。右面外縁部破片。おそらく右側縁か。敲打による整形	
PL-145	207	多孔石	完形	51-S16	粗粒輝石安山岩	長:17.2、幅:15.9、厚:10.9cm、重:2380.0g。不定形な垂直角錐。浅い孔を側縁と裏面に集中する	
PL-145	208	凹石	完形	51-U17	粗粒輝石安山岩	長:11.7、幅:10.9、厚:6.4cm、重:980.0g。不整形の多孔質垂直角錐。表面に孔を2個設ける	
PL-145	209	凹石	完形	51-R15	粗粒輝石安山岩	長:11.2、幅:6.9、厚:7.1cm、重:1148.0g。円錐。表面は平滑面を持ち中央に凹みを見る。上下端部に敲打痕	
PL-145	210	凹石	完形	51-P17	粗粒輝石安山岩	長:14.6、幅:6.4、厚:4.5cm、重:897.5g。楕円状円錐。表面に浅い平滑面を持つ凹みを持つ	
PL-146	211	磨石	一部欠	51-Q16	粗粒輝石安山岩	長:8.3、幅:6.9、厚:4.3cm、重:417.8g。小型の円錐。表面面に平滑面。割落箇所を見るが焼熱によるものか	
PL-146	212	凹石	完形	51-Q16	粗粒輝石安山岩	長:12.1、幅:8.2、厚:4.7cm、重:818.3g。やや扁平な楕円状円錐。表面面に平滑面と浅い凹み。側面に敲打痕	
PL-146	213	磨石	完形	51-X 8	粗粒輝石安山岩	長:17.7、幅:16.8、厚:15.5cm、重:5990.0g。球状の円錐。表面面に比較的大きな平滑面を持つ	
PL-146	214	多孔石	完形	51-M18	粗粒輝石安山岩	長:17.0、幅:14.7、厚:8.6cm、重:2080.0g。不整形の角錐。表面中央に孔を集中する	
PL-146	215	多孔石	破片	51-U21	粗粒輝石安山岩	長:(22.9)、幅:(15.0)、厚:(7.2)cm、重:2650.0g。不定形な角錐。裏面も割落する。浅い孔を表面に疎らに設ける	
PL-146	216	多孔石	完形	51-Y21	粗粒輝石安山岩	長:17.2、幅:12.7、厚:10.6cm、重:2050.0g。不定形な多孔質垂直角錐。表面、両側面に深い孔を集中する	
PL-146	217	磨石	完形	51-M17	ひん岩	長:27.3、幅:7.1、厚:8.7cm、重:2920.0g。棒状の非円錐。方形の断面形状を呈し各面に平滑面を見る	
PL-146	218	磨石	完形	51区表土	緑色片岩	長:16.7、幅:7.1、厚:2.3cm、重:403.5g。扁平な円錐。表面面に浅い平滑面を持つ	
PL-146	219	多孔石	完形	51-K19	粗粒輝石安山岩	長:21.8、幅:15.7、厚:12.0cm、重:4610.0g。不定形な多孔質垂直角錐。表面面に小型の孔を集中する	
PL-146	220	多孔石	破片	51-Y21	粗粒輝石安山岩	長:(23.0)、幅:(16.3)、厚:11.6cm、重:3660.0g。不定形な角錐。表面面に浅い孔を疎らに設ける	
PL-146	221	石皿	破片	51-T21	石筴閃緑岩	長:(17.0)、幅:(14.8)、厚:9.5cm、重:2990.0g。下手右側縁。縁を設け突き出し部に至る。底面は平滑	
PL-146	222	凹石	裏面一部欠	51-X22	粗粒輝石安山岩	長:15.2、幅:14.1、厚:7.4cm、重:1750.0g。多孔質な円錐。表面中央に小型の凹みを集中する	
PL-146	223	台石	ほぼ完形	51区表土	粗粒輝石安山岩	長:18.4、幅:17.0、厚:6.4cm、重:3170.0g。扁平な円錐。表面面に平滑面を持つ。周縁に敲打痕を集中する	

種別 PL-No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL-146	224	凹石	完形	3礎石建物	粗粒輝石安山岩	長:21.6、幅:17.4、厚:7.3cm、重:3690.0g。扁平な円盤。表裏面とも敲打痕を見る。表面に凹み1箇所	
PL-147	225	磨石	完形	3礎石建物	粗粒輝石安山岩	長:14.0、幅:12.9、厚:11.0cm、重:2780.0g。球状を呈する円盤。表裏面に平滑面を持つ	
PL-147	226	多孔石	完形	3礎石建物	粗粒輝石安山岩	長:33.1、幅:28.8、厚:21.9cm、重:24590.0g。大型で不定形の多孔質角礫。大型孔を疎らに表裏面に設ける	
PL-147	227	凹石	完形	3礎石建物	粗粒輝石安山岩	長:34.2、幅:24.8、厚:19.8cm、重:24110.0g。大型の楕円状円盤。表裏面・側面に浅い敲打痕を見る	
PL-147	228	多孔石	完形	3礎石建物	粗粒輝石安山岩	長:18.8、幅:12.3、厚:8.2cm、重:1780.0g。方形の多孔質垂直角礫。表裏面ともに孔を密接に設ける	
PL-147	229	多孔石	完形	3礎石建物	粗粒輝石安山岩	長:15.4、幅:15.0、厚:13.5cm、重:3190.0g。不定形の多孔質垂直角礫。表面頂部に欠けて孔を集中する	
PL-147	230	凹石	完形	3礎石建物	粗粒輝石安山岩	長:14.3、幅:10.0、厚:5.3cm、重:1298.0g。楕円状円盤。表面に2箇所の浅い凹み。周縁は平滑面	
PL-147	231	台石	半欠	3礎石建物	粗粒輝石安山岩	長:(28.2)、幅:23.8、厚:12.6cm、重:8810.0g。表裏面に敲打痕を見る。表面に弱い平滑面	
PL-147	232	多孔石	一部欠	3礎石建物	粗粒輝石安山岩	長:22.4、幅:16.5、厚:13.6cm、重:4480.0g。大型の多孔質垂直角礫。不定形。表面に浅い孔を疎らに配す	

遺構外出土遺物 I 52区

種別 PL-No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第30309 PL-148	1	深鉢	口縁部破片	52-111	細砂粒・繊維・石英/ 良好/にぶい黄褐色	口縁部内傾し横位器系圧痕を斜位に施す。屈曲部以下体部は0段多条L RとR Lによる縦位羽状縄文構成	前期初頭
第30309 PL-148	2	深鉢	体部破片	52-111	細砂粒・繊維・石英/ 良好/にぶい褐色	0段多条L RとR Lによる縦位羽状縄文構成	前期初頭
第30309 PL-148	3	深鉢	体部破片	52-C14	細砂粒・繊維・石英/ 良好/褐色	器系LとRを一組とした圧痕を多段に施す	前期初頭
第30309 PL-148	4	深鉢	体部破片	52-114	細砂粒・繊維・石英/ 良好/にぶい黄褐色	0段多条L RとR Lによる縦位羽状縄文構成	前期初頭
第30309 PL-148	5	深鉢	口縁部破片	52-B12	細砂粒・繊維/やや 軟/にぶい褐色	口唇部は尖り口縁部は反転する。2条一組の器系圧痕を斜位・横位に施す	前期初頭
第30309 PL-148	6	深鉢	口頸部破片	52-115	細砂粒・繊維/良好/ 明褐色	口縁部に縦位器系圧痕を連続し、以下2条一組の器系圧痕を横位に施す	前期初頭
第30309 PL-148	7	深鉢	体部破片	52-C14	細砂粒・繊維・石英/ 良好/にぶい褐色	2条一組の器系側面圧痕。原体端部結東部の施文	前期初頭
第30309 PL-148	8	深鉢	体部破片	52-D19	細砂粒・繊維・石英/ 良好/にぶい褐色	0段多条L R・R Lによる縦位羽状縄文	前期初頭
第30309 PL-148	9	深鉢	体部破片	52-E13	細砂粒・繊維・石英/ 良好/灰褐色	0段多条L Rと斜位R Lによる縦位羽状縄文構成	前期初頭
第30309 PL-148	10	深鉢	体部破片	52-G18	細砂粒・繊維・石英/ 良好/褐色	0段多条R LとL Rによる横位羽状縄文構成	前期初頭
第30309 PL-148	11	深鉢	体部破片	52-A13	細砂粒・繊維/良好/ 明褐色	体部下手。おそらく尖底。縦位・斜位R Lを施す	前期初頭
第30309 PL-148	12	深鉢	体部破片	52-B14	細砂粒・繊維・片岩/ 良好/褐色	L Rと0段多条R Lによる縦位羽状縄文構成	前期初頭?
第30309 PL-148	13	深鉢	口縁部破片	52-C15	細砂粒・繊維/良好/ にぶい褐色	波状縁。口唇部内面内削状。無節LとRによる縦位羽状縄文構成	前期前葉
第30309 PL-148	14	深鉢	口縁部破片	52-C16	細砂粒・繊維/良好/ 明褐色	口縁部に幅状の無文部を設け、以下無節LとRを乱雑に施文する	前期前葉
第30309 PL-148	15	深鉢	体部破片	52-B12	細砂粒・繊維・石英/ 良好/にぶい黄褐色	0段多条L RとR Lによる横位羽状縄文構成。丁寧な施文	前期初頭
第30309 PL-148 a ~ c	16	深鉢	体部破片3 点	52-C12・13	細砂粒・繊維・石英/ 良好/褐色	体部上半で屈曲する。ルーペ文を3段と横位無節Rを施す。屈曲部上半は弱い研磨を加える	前期前葉
第30309 PL-148	17	深鉢	体部破片	52-B12	細砂粒・繊維/良好/ 褐色	原体端部が明瞭な無節R横位施文。内面研磨	前期中葉
第30309 PL-148	18	深鉢	体部破片	52-C15	細砂粒・繊維・石英/ 良好/灰褐色	付加条(L R + 1)横位施文	前期中葉
第30309 PL-148	19	深鉢	体部破片	52-F11	細砂粒・繊維・石英/ 良好/にぶい褐色	体部上半か、横位隆線を設け無節Rの斜位・縦位施文	前期中葉
第30309 PL-148	20	深鉢	体部破片	52-C14	細砂粒・繊維/微少/ 良好/黒褐色	0段多条R LとL Rの羽状縄文構成。菱形状構成か	前期中葉?
第30309 PL-148	21	深鉢	体部破片	52-B12	細砂粒・繊維/良好/ にぶい黄褐色	L RとR Lによる横位羽状縄文構成	前期中葉
第30309 PL-148	22	深鉢	体部破片	52-A15・16	細砂粒・繊維/良好/ にぶい黄褐色	L RとR Lによる横位羽状縄文構成。硬質の原体か	前期中葉

種図 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/装成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第303図 PL_148	23	深鉢	体部破片	52-I15	細砂粒・繊維/石英/ 良好/褐色	縦位 R L が覆う	前期中葉
第303図 PL_148	24	深鉢	体部破片	52-II18	粗砂粒・繊維/やや 軟/にぶい褐色	横位 L R と R L による羽状縄文構成	前期中葉
第303図 PL_148	25	深鉢	体部破片	52-B13	細砂粒・繊維/石英/ 良好/にぶい黄褐色	無節 L 横位施文	前期中葉
第303図 PL_148	26	深鉢	体部破片	52-A13	細砂粒・繊維/良好/ 褐色	懸系 L による網目状文を施す	前期中葉
第303図 PL_148	27	深鉢	体部破片	52-D12	細砂粒・繊維/良好/ にぶい赤褐色	懸系 L による網目状意匠	前期中葉
第303図 PL_148	28	深鉢	体部破片	52-B12	粗砂粒・繊維/輝石/ 良好/にぶい黄褐色	体部中位。無節 R と L R の横位羽状縄文構成	前期中葉
第303図 PL_148	29	深鉢	口縁部破片	52-C14	細砂粒・繊維/石英/ 良好/褐色	器厚薄手。波状線を呈す。口唇部に刻みを施し口縁部に横位刺突文を連続する。体部は横位 L R と R L による縦位羽状縄文構成。あるいは菱形状縄文か	前期中葉?
第303図 PL_148	30	深鉢	体部破片	52区	細砂粒・繊維/やや 軟/明褐色	横位 L R を施す。内面器面剥落多い	前期中葉
第303図 PL_148	31	深鉢	底部1/3残 存	52-A15	細砂粒・繊維/石英/ 良好/褐色	底径: (12.0) cm。大型深鉢底部。上げ底を呈す	前期中葉
第304図 PL_148	32	深鉢	口縁部1/3 残存・頭部 破片	52-B13	細砂粒・繊維/良好/ 明褐色	口径: (26.0) cm。波状線。幅広い口縁部文様部。平行沈線と刺突文による菱形状縄文。内面研磨	前期中葉
第304図 PL_149	33	深鉢	口縁部破片	52-D14	細砂粒・繊維/良好/ にぶい黄褐色	緩やかな波状線。口唇部は幅広い無文。波直部下に円形刺突文を設け無節 R L を横位に施す	前期中葉
第304図 PL_149	34	深鉢	口縁部破片	52-B19	細砂粒・繊維/良好/ にぶい褐色	口縁部に横位密接連続爪形文を3条配す	前期中葉
第304図 PL_149	35	深鉢	体部破片	52-D13	細砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	横位 R L と横位 L による羽状縄文構成	前期後葉
第304図 PL_149	36	深鉢	体部破片	52-D13	細砂粒・石英/輝石/ 良好/にぶい褐色	内湾する体部。懸系 L 無面任意を横位に付す。以下横位 L R と R L による羽状縄文構成	前期後葉
第304図 PL_149	37	深鉢	口縁部破片	52-D13	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	口唇部は尖る。横位 L R と R L の羽状縄文構成。乱雑な施文	前期後葉
第304図 PL_149	38	深鉢	体部破片	52-C12	細砂粒・繊維/良好/ にぶい黄褐色	頸部外反。幅広い内皮平行沈線を横位多段に設け、以下横位 R L を施す	前期後葉
第304図 PL_149	39	深鉢	体部破片	52-F11	細砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	内皮平行沈線を横位に施文。地文は横位 R L	前期後葉
第304図 PL_149	40	深鉢	口縁部破片	52-C12	細砂粒・繊維/良好/ にぶい黄褐色	波状線波直頂部。平行沈線と小型の連続爪形文により菱形状意匠を描く	前期中葉
第304図 PL_149	41	深鉢	口縁～体部 破片3点	52-A15・16	細砂粒・繊維/良好/ にぶい黄褐色	緩やかな波状線。やや幅広い連続爪形文を横位多段に配す。地文は横位 L R が占めるが一部横位 R L が加わる。内面研磨	前期中葉
第304図 PL_149	42	深鉢	体部破片	52-D12	細砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	上半は強く外反する。横位平行沈線群を施し、中に刻みを付す横位隆線を設ける。下半は横位 R L を施すが撫で調整が強く判然としにくい	前期後葉
第304図 PL_149	43	深鉢	体部破片	52-D12	粗砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	横位平行沈線を施す。地文は無節 L 横位施文	前期後葉
第304図 PL_149	44	深鉢	体部破片	52-D12	細砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	横位平行沈線以下斜位平行沈線を施す。地文は無節 L しか	前期後葉
第304図 PL_149	45	深鉢	体部破片	52-D12	細砂粒・石英/輝石/ 良好/灰褐色	平行沈線による菱形状意匠か。内皮施文が顕著	前期後葉
第304図 PL_149	46	深鉢	口縁部破片	52-C14	粗砂粒・片岩/良好/ にぶい褐色	直状線。口縁部強く内屈する。刺突を加えた浮線文が横位多段に配される	前期後葉
第304図 PL_149	47	深鉢	口縁部・体 部破片2点	52-B12・B13	細砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	口縁部内湾し浮線文による X 字状文を付す。以下浮線文を横位多段に付し矢羽状刻みを施す。体部下は横位 R L を施す	前期後葉
第304図 PL_149	48	深鉢	体部破片	52-C12	粗砂粒・片岩/輝石/ 良好/にぶい褐色	刺突を加えた浮線文を横位多段に配す	前期後葉
第304図 PL_149	49	深鉢	体部破片	52-C12	細砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	横位浮線を多段に配す。横位 R L を加えるが浮線の上にとどまり、器面には閉東部のみが施文	前期後葉
第304図 PL_149	50	深鉢	体部破片	52-C14	細砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	横位浮線文を多段に配し、横位 R L を重ねる。浮線は低位	前期後葉
第304図 PL_149	51	深鉢	体部破片	52-B12	細砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	幅広い浮線文を多段に設け横位 L R を施す	前期後葉
第304図 PL_149	52	深鉢	体部破片	52-C12	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	横位浮線文を多段に配し、横位 R L を重ねる	前期後葉
第304図 PL_149	53	深鉢	体部破片	52-A15	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	浮線文を多段に配し、横位 R L を重ねる	前期後葉
第304図 PL_149	54	深鉢	体部破片	52-B13	細砂粒・輝石/良好/ 明褐色	横位浮線文を多段に配す。地文は横位 R L	前期後葉

種図 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第304図 PL_149	55	深鉢	底部破片	52-B13	細砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	直立気味の体部下。横位浮線文を多段に配す。地文は横位 R L	前期後葉
第304図 PL_149	56	深鉢	体部破片	52-C12	細砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	底部直上。横位浮線文を多段に配す。地文に横位 R L を備す	前期後葉
第305図 PL_149	57	深鉢	口縁～体部 1/5残存	52-B18	細砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	口縁部強く凹き体部中に内湾を持つ。口縁部は無文、体部は無 彫しを縦位に備す	前期後葉
第305図 PL_149	58	深鉢	体部破片	52-B13	細砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	口唇部尖る。口縁部は横やかに反し横位 L R が覆う	前期後葉
第305図 PL_149	59	深鉢	体部破片	52-D12	細砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	横位 L R が覆う。閉東部の飾文も見る	前期後葉
第305図 PL_149	60	浅鉢	口縁部1/2 残存	52-B19	粗砂粒・片岩・石英/ 良好/にぶい褐色	口径:13.0cm。口縁部強く屈曲し、体部は扁平か。口縁部は無文 で体部に横位浮線文3条を配し矢羽状刻みを加える。体部は平 行沈線と横かなを刻みによる意匠文が配される	前期後葉
第305図 PL_149	61	浅鉢	体部破片	52-C12	細砂粒・石英・雲母/ 良好/明褐色	体部屈曲し扁平な浅鉢体部上半か。平行沈線による木の葉文を配 す。沈線間は刻みによる意匠文が配される	前期後葉
第305図 PL_150	62	浅鉢	体部破片	52-D11 52-D14	細砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	扁平な横位沈線に画された体部上半。上端に円孔を穿つ。平行沈 線と爪形文による木の葉文。器面剥落下に横位飾で調整が顕著。 外面無文部に赤彩	前期後葉
第305図 PL_150	63	浅鉢	体部破片	52-E12	細砂粒・雲母/良好/ にぶい褐色	強く内縮する口縁部下。横位浮線を設け以下深い沈線による木の 葉状意匠文を配す	前期後葉
第305図 PL_150	64	浅鉢	体部破片	52-D12	細砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	刻みを加えた平行沈線による意匠文。屈曲部には浮線文を付す	前期後葉
第305図 PL_150	65	浅鉢	口縁部・体 部破片2点	52-D12	細砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	口縁部強く内湾する扁平な浅鉢。口縁部に円孔を穿つ。他は無文。 外面丁字な研磨を備す。赤彩痕は口唇部に僅かに残る	前期後葉
第305図 PL_150	66	浅鉢	体部破片	52-D12	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	扁平な体部上半か。無文で研磨を加える。赤彩痕は見られない	前期後葉
第305図 PL_150	67	浅鉢	体部破片	52-D14	細砂粒・輝石・雲母/ 良好/にぶい赤褐色	扁平な体部上半か。無文で研磨を加える。赤彩痕は見られない	前期後葉
第305図 PL_150	68	浅鉢	体部破片	52-D12	細砂粒・輝石/平や 軟/浅黄褐色	扁平な体部上半。円孔が穿たれる	前期後葉
第305図 PL_150	69	深鉢	体部破片	52-B12	細砂粒・片岩・輝石/ 良好/灰褐色	屈曲浮線文3条による弧状意匠を配す。地文は縦位 L R か。撫で 調整が加わるため判然としない	前期末葉
第305図 PL_150	70	深鉢	体部破片	52区	細砂粒・輝石/良好/ 明赤褐色	横位隆線を設け、内皮沈線を側縁とす。以下同沈線による方形 小区画文を横位に配す。斜位沈線を充満する	中期初葉
第305図 PL_150	71	深鉢	体部破片	52-D19	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	僅かに内湾する体部。中央の球状突起を配し、弧状隆線が派生す る。突起には小孔を穿つ。1本指き沈線を側縁とし刺突文を施す。 三叉文も刻む	中期前葉
第305図 PL_150	72	深鉢	口縁部破片	52-A15	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/黒褐色	平縁か。口唇部外反気味に突出。口縁部は横位隆線で画され、横 位爪形状刻み目列を施す	中期中葉
第305図 PL_150	73	深鉢	頸部破片	52-A15	粗砂粒・片岩・石英/ 良好/暗褐色	屈曲部上位を横位平行沈線で画し、平行沈線による横位波状文、 爪形状刻み目列を施す。以下弧状沈線を配すが意匠は不明。内面 研磨	中期中葉
第305図 PL_150	74	深鉢	体部破片	52区	細砂粒・石英/良好/ にぶい褐色	横位沈線1条による懸垂三構成か。横位沈線が加わる	中期中葉
第305図 PL_150	75	深鉢	口縁部突起 片	52-B13	粗砂粒・片岩/良好/ にぶい褐色	口縁部に大型の渦巻状突起を付し、下端より弧状隆線が派生する。 側縁は平行沈線	中期中葉
第305図 PL_150	76	深鉢	体部破片	52-A14	細砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	双環状突起に下端より弧状隆線が派生する。側縁は1本指き沈線 で2条単位か。弧状短沈線を施す	中期中葉
第305図 PL_150	77	深鉢	口縁部破片	52-A15	粗砂粒・片岩・石英/ 良好/暗褐色	口縁部小突起に渦巻文を配す。突起下位より斜位隆線が派生し、 区画文を画す。側縁は平行沈線を充て区画内縁を截直列状に刺突 文を施す	中期中葉
第305図 PL_150	78	深鉢	体部破片	52-A15	粗砂粒・石英/良好/ 赤褐色	刻みを付す斜位隆線で区画し、平行沈線で三角形状に小区画する 小型の爪形文を截直列とする	中期中葉
第306図 PL_150	79	深鉢	体部下～ 底部破片	52-A14	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	底端部肥厚。体部下は屈曲部と横位沈線で画され、弧状隆線に よる区画文を配す。側縁は幅広連続刺突文と三角連続刺突文を施 す。隆線以上は刻みを加える	中期中葉
第306図 PL_150	80	深鉢	体部破片	52-A14	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	横位隆線以下斜位隆線による区画文か。隆線に刻みを加え側縁 として幅広連続爪形文と三角連続刺突文を施す。区画中に三叉 文を刻む	中期中葉
第306図 PL_150	82	深鉢	口縁部破片	52区	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	波状縁頂部より縦位隆線を芯材として凹形貼付文を施す。口縁 部は2条隆線による交互三角区画文構成。側縁は幅広連続爪形文 を施す	中期中葉
第306図 PL_150	83	深鉢	口縁部破片	52-B17	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/黒褐色	幅狭の口縁部に方形区画文を配す。頸部縦位隆線に矢羽状刻み を加える。体部は内皮沈線による飾文か。口縁部内面も楕円状の 区画文が配される。内外面丁字な研磨	中期中葉

種図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第3060R PL-150	84	深鉢	体部破片	52-F12	粗砂粒・片岩/良好/ 赤褐色	低位隆帯による環状意匠を配す。側線は沈線	中期中葉
第3060R PL-150	85	深鉢	体部破片	52-D19	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい黄褐色	双環状突起を中核として横位隆線・U字状隆線・分岐懸垂文が派生する。隆線には刻みを加え沈線を側線とする。突起主軸延長にコイル状意匠も配す。縦位沈線や三文も施す	中期中葉末
第3060R PL-150	86	深鉢	体部破片	52-A17	細砂粒・輝石/良好/ 明赤褐色	横位隆線と面を設け、上位に斜位隆線が派生する。側線は無く外面は丁寧な研磨を施す	中期中葉
第3060R PL-150	87	深鉢	口頸部破片	52-A21	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	内湾部の文様帯。横位隆線と面を設け、隆線による環状・渦巻意匠を配す。刻みを付す斜位隆線と面を設け、縦位短沈線を充填する	中期中葉末
第3060R PL-150	88	深鉢	底部残存	52-C13	細砂粒・石英・輝石/ 良好/赤褐色	底径:7.4cm。体部下下に2条の沈線による環状意匠下端を見る。	中期中葉?
第3060R PL-151	89	浅鉢	口縁～体部 1/4残存	52-A16	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	口径:(50.0) cm。器厚厚手の大型浅鉢。口縁部内面肥厚し、内縁を設ける。体部境に凹みを持たせる。内面研磨。外面は撫で調整。外面口縁部に黒色付着物を見るが彩色ではない	中期中葉
第3060R PL-151	90	浅鉢	口縁部破片	52-A15	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/黒褐色	波状口縁を呈す。内面に浅い内縁を設ける。内外面研磨。赤彩痕は外面・口頸部に僅かに認められる	中期中葉
第3060R PL-151	91	浅鉢	体部破片	52-F12	粗砂粒・石英/良好/ にぶい赤褐色	浅鉢体部下下。内外面丁寧な研磨を施し彩色を加える。内面は黒色彩色を見る	中期中葉
第3060R PL-151	92	浅鉢	口頸部破片	52-F13	粗砂粒・石英/良好/ にぶい赤褐色	2条の内皮沈線に面された幅狭の施文帯に横位交互三文文と円文を配す。内面研磨。僅存	中期中葉
第3060R PL-151	93	深鉢	口縁～体部 破片3点	52-B16 52-B18 52-B19	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/黒褐色	口径:(27.2) cm。キヤリヤリ状を呈し頸部無文帯は幅広。口縁部は隆線による渦巻文と区画文。渦巻文は下位に配される。区画内は横位矢羽状短沈線を充填する。体部は横位沈線3条で面を設け、垂下沈線や弧状沈線が施される。地文は縦位L R	中期後葉
第3060R PL-151	94	深鉢	口縁部破片	52-A21	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	口縁部内湾。口縁部沈線と面を設け2条隆線による横位弧状意匠を配す。S字状意匠を配す。地文は帯系Lを施す	中期後葉
第3060R PL-151	95	深鉢	底部破片	52-A14	細砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	2条隆線による懸垂文構成。区画内は浅い短沈線による縦位綾杉文を施す。底面滑減	中期後葉
第3070R PL-151	96	深鉢	口頸部破片	52-D15	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい赤褐色	口縁部外反し口頸部は横位隆線と面を設ける。2条隆線による横位S字状意匠を配し、斜位短沈線を施す。頸部隆線は突出し頸部は無文	中期後葉
第3070R PL-151	97	深鉢	体部破片	52-A21	細砂粒・輝石/良好/ 赤褐色	大型の深鉢体部。器系Lを縦位・斜位に施す	中期後葉
第3070R PL-151	98	深鉢	口縁～底部 1/3残存	52-B18	細砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	口径:(15.0)、底径:6.8、器高:21.8cm。低位波状突起を付す。2・3単位か。口縁部は素文で頸部に横位沈線2条を設ける。体部は垂下沈線3条による懸垂文構成で弧状意匠を配す。地文はL Rで口縁部は横位、体部は縦位に施す。口縁部内外面に少量の煤付着	中期後葉
第3070R PL-151	99	深鉢	口縁～体部 破片	52-C13	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。区画下位は2条隆線と面を設ける。側線は沈線。縦位短沈線を充填する。体部は垂下沈線3条による懸垂文構成。縦位波状沈線も配される。斜位R Lを地文とする	中期後葉
第3070R PL-151	100	深鉢	口縁部破片	52-I18	細砂粒・輝石/良好/ 明褐色	口頸部隆線と面を設け、渦巻文を施した双環状突起を口縁部中位に配し、突起下端より弧状隆線が派生する。横位沈線を施す	中期後葉
第3070R PL-151	101	深鉢	口縁部破片	52-B12	細砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	2条隆線による幅狭口縁部文様帯。渦巻文を配し細かな横位矢羽状短沈線を充填する。体部は縦位R Lを地文とし縦位波状沈線を施す	中期後葉
第3070R PL-151	102	深鉢	口縁部破片	52-B11	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/暗褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。側線は内皮沈線と縦位短沈線を充填する。体部は2条隆線が垂下する。口縁部内面に内縁を付す	中期後葉
第3070R PL-151	103	深鉢	口頸部破片	52-C13	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。区画内側線は沈線。無脚Rを縦位に施す。頸部の横位2条隆線以下2条の沈線が垂下する懸垂文構成か	中期後葉
第3070R PL-152	104	深鉢	体部破片	52-B19	細砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	垂下隆線による懸垂文構成。垂下沈線・縦位波状沈線も加わる。地文は縦位R L	中期後葉
第3070R PL-152	105	深鉢	体部破片	52-A17	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	外反する体部中位。2条の沈線が懸垂する。地文は縦位L R	中期後葉
第3070R PL-152	106 a～d	深鉢	体部破片4 点	52-B14 52-B16	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/灰褐色	体部上半に沈線による環状・渦巻意匠を配し垂下沈線3条を派生する。縦位波状沈線も施される懸垂文構成か。地文は縦位・斜位L R	中期後葉
第3070R PL-152	107	深鉢	体部破片	52-B18	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	内皮沈線による施文。垂下沈線による懸垂文構成。対向するU字状意匠を配す。縦位L Rを地文とする	中期後葉
第3070R PL-152	108	深鉢	体部破片	52-B18	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	垂下沈線2・3条による懸垂文構成。U字状意匠・横位縦手状意匠を配す。地文は縦位L R	中期後葉
第3080R PL-152	109	深鉢	体部破片	52-E19	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	横位沈線群より縦位沈線群が派生し、渦巻文が配される。縦位R Lを施す。器面滑減	中期紅葉

種図 PL. No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第308図 PL.152	110	深鉢	体部破片	52-C18	細砂粒・石英・輝石/ 雲母/良好/に ぶい/褐色	体部下平に緩やかな湾曲を持たせる。重下沈線3条による懸垂文 構成。縦位波状沈線、逆U字状意匠、弧状意匠などが配される。 地文は縦位R L。内面研磨	中期後葉
第308図 PL.152	111	深鉢	体部破片	52-B20	細砂粒・石英・輝石/ 良好/灰褐色	体部上半か弧状隆線を配し以下縦位R L R Lを施す	中期後葉
第308図 PL.152	112	深鉢	底部3/4残 存	52-A19	細砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	底径:7.4cm。重下沈線2条及び波状沈線による懸垂文下部部を見る。 地文は縦位R L	中期後葉
第308図 PL.152	113	深鉢	底部1/3残 存	52-B19	細砂粒・輝石/良好/ にぶい/褐色	底径:(9.0)cm。隆線3条による懸垂文下部部。沈線による弧線 文や縦位波状文も施される。地文は縦位R L	中期後葉
第308図 PL.152	114	浅鉢	口縁部破片	52-C18	細砂粒・片岩/良好/ 明赤褐色	口唇部に面を持ち内屈する。体部に隆線による弧状意匠を配す。 内外面丁寧な研磨を施し、赤彩を加える	中期後葉
第308図 PL.152	115	浅鉢	口縁部破片	52区	細砂粒・石英・輝石/ 良好/赤褐色	口縁部外面肥厚。体部上半に膨らみを持たせる。内外面丁寧な研 磨を施し赤彩を加える	中期後葉
第308図 PL.152	116	浅鉢	口縁部破片	52-B14	細砂粒・石英/良好/ にぶい/黄褐色	口縁部外面肥厚。体部上半に膨らみを持つ。内外面とも研磨。赤 彩痕は見られない	中期後葉
第308図 PL.152	117	浅鉢	体部破片	52-B20	細砂粒・石英/良好/ にぶい/赤褐色	体部上半は内湾し下位に屈曲部を持たせる。内外面とも丁寧な研 磨を施し赤彩を加える	中期後葉
第308図 PL.152	118	深鉢	突起片	52-B21	細砂粒・輝石/少 良好/にぶい/赤褐色	頂部に渦巻文を配し楕状把手が重下する。内面も貫孔し中空状と なす。突起下位は細隆線による不整形小区間文を配し縦位隆線 を充填する	中期後葉
第308図 PL.152	119	深鉢	口縁部破片	52-E13	細砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	小型深鉢か。口唇部沈線を設け、隆線による口縁部区間文。側線 は沈線。横位R Lを施す	中期後葉
第308図 PL.152	120	深鉢	体部破片	52-B17	細砂粒・石英/良好/ にぶい/黄褐色	体部上半に横位内皮沈線数条を設け以下縦位沈線群による懸垂文 構成。横位沈線を加え弧状/方形状意匠を配す。地文は縦位R L を施す	中期後葉
第308図 PL.152	121	深鉢	体部破片	52-B21	細砂粒・石英/良好/ にぶい/黄褐色	横位内皮沈線より縦位沈線群が派生する。沈線による方形状意匠 も見られる	中期後葉
第308図 PL.152	122	深鉢	口縁部破片	52-A14	細砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい/褐色	僅かに内湾する。口縁部に棒状貼付文を斜位に連続し強い押圧を 加えた横位隆線を設ける。体部は斜位R Lを施す。内面強い研磨	中期後葉
第308図 PL.152	123	深鉢	口縁部破片	52-B19	細砂粒・輝石/良好/ にぶい/褐色	口縁部内湾し頸部括れ部に横位隆線を設ける。口縁部は縦位沈線 を密接に施文。頸部隆線に渦巻文を配し隆線が重下する。体部 縄文施文する。縦位R L。内面研磨	中期後葉
第308図 PL.152	124	深鉢	口縁部破片	52-I18	細砂粒・石英・輝石/ 良好/明褐色	口縁部強く内湾し斜位沈線を密接に施す。頸部屈曲部に横位隆線 を付し。沈線が沿う	中期後葉
第308図 PL.153	125	深鉢	口縁部破片	52-H11	細砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい/赤褐色	緩やかに内湾し頸部屈曲か。沈線による重弧状意匠を配す。意匠 間は横位短沈線を施す。口唇部に瘦骨筋	中期後葉
第308図 PL.153	126	深鉢	体部破片	52-A13	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	重下隆線による懸垂文構成か。2条隆線による平渦巻意匠を配し し楕状の内皮平行沈線を充填する	中期後葉
第308図 PL.153	127	深鉢	口頸部破片	52-F13	細砂粒・石英/良好/ にぶい/褐色	口唇部一部残るが貫孔の組織か。双渦巻状突起を中核として2条 隆線が横位・縦位に派生する。口縁部は横位縞文を充填する。 口縁部内面に渦巻文を配し、内縁は強く突出する	中期後葉
第308図 PL.153	128	深鉢	頸部破片	52-C19	細砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい/黄褐色	頸部と体部境に小型の楕状把手を設ける。側面は沈線による渦巻 状意匠。把手上位に沈線渦巻文を配し、両下縁からは横位隆線が 派生する。体部は細かな楕状短沈線を施す。内面研磨。外面も 滑らかな質感	中期後葉
第308図 PL.153	129	深鉢	体部破片	52-A13	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	厚手の器厚。幅広い弧状隆線に沈線による渦巻文を配す。側縁は 沈線数条を充て、縦位波状沈線も施される	中期後葉?
第308図 PL.153	130	深鉢	口頸部破片	52-A21	細砂粒・輝石/良好/ 黄褐色	口頸部に段を持ち6条単位の縞状工具による刺突文を施す	中期後葉?
第308図 PL.153	131 a ~ c	深鉢	口縁部破片 3点	52-E18	細砂粒・輝石/良好/ にぶい/黄褐色	波状突起を付し隆線による渦巻文と区間文構成。側縁は太い沈線、 R Lを充填する。体部は重下沈線2条に画された幅狭渦巻部懸垂文 構成	中期後葉
第309図 PL.153	132	深鉢	口頸部破片	52-F18	細砂粒・輝石/良好/ にぶい/黄褐色	波状突起を付す。波頂部に隆線による渦巻文を配し、口縁部区間文 を接す。側縁は太い沈線、R Lを充填する。体部は重下沈線2 条に画された幅狭渦巻部懸垂文構成。内面強い研磨	中期後葉
第309図 PL.153	133	深鉢	口縁部破片	52-F20	細砂粒・輝石/良好/ 赤褐色	口縁部内湾。口縁部沈線を設け以下沈線による逆U字状意匠を配し 縦位R L Rを充填施文する。内面強い研磨	中期後葉
第309図 PL.153	134	深鉢	口縁部破片	52区	細砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい/褐色	隆線による口縁部区間文構成。側縁は幅広い沈線。区間内は横位 R Lを施す。区間接点下位に円文を施し、体部は沈線による逆U 字状意匠を配す。縦位R Lを充填する	中期後葉
第309図 PL.153	135	鉢	体部破片	52区	細砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい/褐色	両耳曲か。頸部外反し無文。横位隆線以下体部は沈線で画された 方形状の区間文を配す。逆U字状沈線も施される。縄文は縦位R L を充填施文	中期後葉
第309図 PL.153	136	深鉢	口頸部破片	52-A20	細砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	隆線による口縁部区間文構成。側縁は横位R Lを充填する。体部は 沈線に画された縞部懸垂文構成。縦位R Lを充填する	中期後葉

種図 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第30909 PL-153	137	深鉢	体部破片	52-C19	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	沈殿で画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文は段々反り返りR L+L履位施文	中期後葉
第30909 PL-153	138	深鉢	体部破片	52-A21	細砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	内湾する体部中位。垂下沈殿3条に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位・履位R L充填施文。内面器壁割落多い	中期後葉
第30909 PL-153	139	深鉢	体部破片2点	52-E18	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい赤褐色	垂下沈殿に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位R L充填施文。施文部に縦位波状沈殿が加わる	中期後葉
第30909 PL-154	140	深鉢	体部破片	52-B16	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	外反する体部中位。垂下沈殿に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位R L充填施文。磨消部及び内面研ぎを施す	中期後葉
第30909 PL-154	141	深鉢	体部破片	52-D19	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	垂下沈殿に画された磨消部/施文部の懸垂文構成。施文部縄文は無筋L履位充填施文	中期後葉
第30909 PL-154	142	深鉢	体部破片	52-B16	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい赤褐色	垂下沈殿に画された磨消部懸垂文構成。縄文は縦位R L充填施文。磨消部及び内面履位研ぎを施す	中期後葉
第30909 PL-154	143	深鉢	体部下半～ 底部残存	52-A17	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	底径:10.0cm。垂下沈殿2条に画された幅狭磨消部による懸垂文構成。9条の磨消部を散らす。施文部縄文は縦位R L R。内面上位に被熱痕跡を見る	中期後葉
第31010 PL-154	144	深鉢	体部破片2点	52-A21	細砂粒・輝石/良好/ 明褐色	体部中位の括れ部。履位L Rを間隔施文する。縄文間はスリット状に撫でを加える	中期後葉
第31010 PL-154	145	深鉢	体部破片	52-D12	細砂粒・石英/良好/ にぶい黄褐色	体部上半。横位隆線で画されたL履位文様帯。区画文構成か。体部は2条沈殿で画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位条線密着後施文	中期後葉
第31010 PL-154	146	深鉢	体部破片	52-A13	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	垂下沈殿3条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位波状条線を施す。磨消部、内面研ぎを加える	中期後葉
第31010 PL-154	147	浅鉢	口縁部破片	52-A13	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	口縁部僅かに肥厚。体部上半に膨らみを持たせる。内外面研ぎ。赤彩痕跡は不明瞭	中期後葉
第31010 PL-154	148	浅鉢	口縁部破片	52-A13	粗砂粒・輝石・雲母/ 良好/明褐色	口縁部外面肥厚。体部上半に膨らみを持たせる。内外面研ぎ。赤彩痕跡は不明瞭	中期後葉
第31010 PL-154	149	浅鉢	口縁～体部 1/4残存	52-A13	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	口径:(36.0)cm。口縁部外面肥厚。体部上半に膨らみを持たせる。内外面研ぎ。外面体部下半は強い研ぎ。赤彩痕跡は不明瞭。150と同一個体か	中期後葉
第31010 PL-154	150	浅鉢	口縁～体部 1/4残存	52-A13	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	口径:(36.0)cm。口縁部外面肥厚。体部上半に膨らみを持たせる。内外面研ぎ。外面体部下半は強い研ぎ。赤彩痕跡は不明瞭	中期後葉
第31010 PL-154	151	浅鉢	口縁部破片	52-A21	粗砂粒・輝石/良好/ 黄褐色	口縁部僅かに肥厚し。体部上半に膨らみを持つ。内外面研ぎ。赤彩痕跡は外面に僅かに見られる	中期後葉
第31010 PL-154	152	浅鉢	口縁部破片	52-B16	粗砂粒・石英/良好/ 灰褐色	体部上位に僅かな膨らみを持たせる。内外面とも研ぎを施す。赤彩痕跡は外面と口縁部に僅かに見られる	中期後葉
第31010 PL-154	153	浅鉢	口縁～体部 破片	52-C12+13	粗砂粒・石英/やや 軟/にぶい黄褐色	口唇部僅かに肥厚し。体部は内湾気味に開く。器面増減するため判断としないが、研ぎは顕著ではない	中期後葉?
第31010 PL-154	154	浅鉢	頸部～体部 1/5残存	52-C12 52-C13	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/浅黄色	口縁部は幅広く無文。口唇部に隆線による勾玉状区画文。区画内は短沈殿を充填する。頸部屈曲部から隆線による幅狭弧状区画文を連続する	中期後葉
第31010 PL-155	155	深鉢	口縁～体部 1/2残存・体部 下半破片	52-C13	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい赤褐色	口径:17.0、底径:(8.0)、器高:(24.4)cm。口縁部は隆線による渦巻文と区画文構成。いわゆる勾玉状区画文。区画内は縦位沈殿を充填する。体部は沈殿施文・履位長楕円状意匠による懸垂文構成。履位矢羽状短沈殿を施す	中期後葉
第31110 PL-155	156	深鉢	口縁～体部 1/4残存	52-B16	粗砂粒・輝石/良好/ 明赤褐色	口径:(27.0)cm。樽状の器形。突起単位は1・2単位か。履位S字文意匠を配し下端より弧状隆線が派生し渦巻文に連繋する。渦巻文相互も横位に繋がる。隆線側線は沈殿、橋状短沈殿を充填する	中期後葉
第31110 PL-155	157	深鉢	口縁部突起 片	52-A18	粗砂粒・輝石/良好/ 灰黄褐色	強く突出する双環状突起。両側面に沈殿による渦巻文を配し、突起下端に2条隆線による橋状把手を設ける。把手下端より横位隆線が派生する。斜位短沈殿や渦巻文を施す。突起表面も渦巻文を配す	中期後葉
第31110 PL-155	158	深鉢	口縁部突起 片	52-F12	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	大型の柱状突起。頂部に渦巻文を配し、正面は隆線による渦巻文と隆線3条が斜位に配される。浅い短沈殿を施す。内面に少量の層付着	中期後葉
第31110 PL-155	159	深鉢	口縁部破片	52-B18	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/暗褐色	波頂部より垂下する橋状把手下端。渦巻文を配す。横位隆線が派生し、口縁部区画内は縦位短沈殿を充填する。頸部は無文、口縁部内縁は強く突出する	中期後葉
第31110 PL-155	160	深鉢	口頸部破片	52-B13	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/周灰色	上下両側面に渦巻文を配した橋状把手。2条隆線が横位に派生する。体部は把手下端より垂下隆線3条が懸垂し、斜位短沈殿を施す	中期後葉
第31110 PL-155	161	深鉢	体部破片	52-B13	粗砂粒・石英/良好/ にぶい黄褐色	体部上半か。渦巻状突起L端が強く延びる。あるいは橋状把手か。弧状沈殿を配し頂部に刺突文が沿う。以下履位矢羽状短沈殿を施す	中期後葉
第31110 PL-155	162	深鉢	口縁部破片 2点	52-C13	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	緩やかな波状縁部線。隆線による大柄の渦巻文を配す。側線は沈殿、斜位短沈殿を充填する	中期後葉

種目 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第31100 PL-155	163	深鉢	口縁部破片	52-F18	細砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	直立気味の波状突起。やや扁平な印象。波頂部に渦巻文、口縁部 区画内はR1を充填する。内面皿・皿で調整	中期後葉
第31100 PL-155	164	深鉢	口縁部破片	52-B17	粗砂粒・石英・輝石/ 雲母/良好/黒褐色	口縁部内面肥厚。隆線による口縁部渦巻文を配す。横位隆線2条 が派生し、下位には横位平行沈線を充てる。沈線の幅文は深い、 頸部隆線を設ける	中期後葉
第31100 PL-155	165	深鉢	口縁部破片	52-C18	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	口縁部は幅広く無文。頸部に横位沈線2条を配し、瘤状突起を付 す。体部は縦位隆線、縦位・弧状沈線を施す。口縁部内面幅広く 肥厚	中期後葉
第31100 PL-155	166	深鉢	口縁部破片	52-B21	粗砂粒・石英・輝石/ 雲母/良好/灰褐色	口縁部内外面薄く隆線取付し肥厚。口縁部は幅広く無文。頸部隆 線を設け、2条隆線による弧状意匠が派生する。あるいは渦巻文 か。空白部は斜位短沈線を充てる	中期後葉
第31100 PL-155	167	深鉢	口縁部破片	52-B13	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	強く開く口縁部。内縁は隆線により突出する。口縁部に刺突文と 沈線による弧線文を施す	中期後葉
第31100 PL-155	168	深鉢	口縁部破片	52-D19	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい赤褐色	大型深鉢。幅広く無文口縁部は外反し、頸部隆線を設ける。内外 面鋭い磨手を施す	中期後葉
第31100 PL-155	169	深鉢	口縁部破片	52-E19	細砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	厚手の器厚を呈し、口縁部は外反する。内外面とも磨手を施す	中期後葉
第31200 PL-155	170	深鉢	口縁部破片	52-B14	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	口縁部内湾し内縁を付す。横位隆線より2条隆線による縦位渦巻 状懸垂文を配し、縦位矢羽状沈線を充てる	中期後葉
第31200 PL-155	171	深鉢	口縁部破片	52-E13	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/灰褐色	樽状の器形か。口縁部横位隆線に縦位S字状意匠を配し下端より 垂下隆線が派生する。弧状意匠も接す。横位隆線上位に刺突文を 施す	中期後葉
第31200 PL-155	172	深鉢	体部破片	52-A13	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	体部上手。2条隆線による渦巻文下端より隆線が懸垂する。渦巻 文には刺突文が混入する。内皮使用の斜位短沈線を充てる	中期後葉
第31200 PL-155	173	深鉢	口頸部破片	52-B17	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	隆線による口縁部渦巻文。下端より垂下隆線2条が派生する	中期後葉
第31200 PL-155	174	深鉢	体部破片	52-B16	粗砂粒・輝石/良好/ 明赤褐色	隆線による渦巻状意匠。短沈線を放射状に施す	中期後葉
第31200 PL-155	175	深鉢	体部破片	52-B16	細砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	隆線による弧状意匠。渦巻文か。斜位短沈線を施す	中期後葉
第31200 PL-155	176	深鉢	体部破片	52-D19	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/黒褐色	体部上手か。横位隆線2条を設け以下2条隆線による弧状意匠を 配す。斜位短沈線を充てる	中期後葉
第31200 PL-156	177	深鉢	体部破片	52-B19	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい褐色	体部上手。頸部無文部に隆線による側先状意匠が突出する。体部 は横位楕円状沈線文で多段に分割され、隆線による磨片状意匠が 配される。地文に縦位沈線を施す	中期後葉
第31200 PL-156	178	深鉢	体部破片4 点	52-B16	粗砂粒・石英・輝石/ やや軟/褐色	器面磨滅。2条隆線による弧状意匠と懸垂文構成。空白部には斜 位短沈線を充てる。やや乱雑な文	中期後葉
第31200 PL-156	179	深鉢	体部破片	52-C14	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/明黄褐色	2条隆線が垂下し下半でU字状区画となる。斜位短沈線を充てる 。器面磨滅	中期後葉
第31200 PL-156	180	深鉢	体部破片	52-A19	細砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	弧状隆線を付す。側縁は沈線。鱗状沈線を施す	中期後葉
第31200 PL-156	181	深鉢	口頸部破片	52-A19	細砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	隆線による口縁部区画文と渦巻文か。区画内側縁は沈線、縦位短 沈線を充てる。頸部無文	中期後葉
第31200 PL-156	182	深鉢	体部破片	52-E13	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/灰褐色	垂下隆線2条と弧状隆線2条を配し相互に接続するか。斜位短沈 線を充てる	中期後葉
第31300 PL-156	183	深鉢	頸部～体部 1/4残存	52-A19	粗砂粒・輝石/良好/ 赤褐色	体部上手に横位隆線で囲す。頸部は無文。体部は垂下隆線による 懸垂文構成か。沈線を無視し縦位弧状短沈線を充てる	中期後葉
第31300 PL-156	184	深鉢	体部破片	52-B16	粗砂粒・石英/良好/ にぶい褐色	内湾気味の体部上手。沈線による幅文で渦巻文を中心に弧状沈線 や垂下沈線で縦位弧状沈線を重ねる。いわゆる田・U字状意匠	中期後葉
第31300 PL-156	185	深鉢	体部破片	52-B16	細砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	体部中位。沈線による渦巻文と垂下沈線による懸垂文構成。縦位 波状沈線を加える	中期後葉
第31300 PL-156	186	深鉢	体部破片	52-C19	粗砂粒・石英/良好/ にぶい赤褐色	弧状隆線による口縁部区画文。体部は逆U字状沈線を配し、縦位 矢羽状短沈線を埋める	中期後葉
第31300 PL-156	187	深鉢	体部破片	52-A16	細砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	厚手の器厚。体部下半か。横位沈線2条を多段に配し、縦位細沈 線を充てる	中期後葉
第31300 PL-156	188	深鉢	体部1/3残 存	52-A13	粗砂粒・輝石/良好/ 明赤褐色	体部下半。垂下隆線2条による懸垂文構成下端。内皮沈線3条が 縦位に再分割し斜位短沈線を充てる	中期後葉
第31300 PL-156	189	深鉢	体部破片	52-E19	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	地文に縦位密接条線を施し縦位平行沈線が重なる	中期後葉
第31300 PL-156	190	深鉢	体部破片	52-A18	粗砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	2条沈線で囲まれた器口部と縦位波状沈線による懸垂文構成。地 文に縦位密接条線を施し、垂下沈線を加える	中期後葉
第31300 PL-156	191	深鉢	底部残存	52-A20	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	底径:5.0cm。僅かに外反気味に開く体部下半。無文	中期後葉
第31300 PL-156	192	深鉢	底部残存	52-F19	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	底径:8.4cm。外反気味に開く体部下半。無文で内外面とも皿で調 整。底面一部磨滅	中期後葉
第31300 PL-156	193	深鉢	底部残存	52-G18	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	底径:6.5cm。無文で内外面・底面も皿で調整。底面器面剥落多い	中期後葉

種図 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第3130R PL-156	194	台付深鉢	脚部残存	52-D18・19	細砂粒・輝石/良好/褐色	小型の深鉢脚部か。上半が欠す。中に円孔を3箇所配す。端部は僅かに摩耗	中期後葉
第3130R PL-157	195	深鉢	口縁部破片	52-B21	粗砂粒・石英・輝石/良好/にぶい褐色	波状口縁波頂部欠損。口唇部欠す。波頂部に楕状把手を付すか。口縁部細隆線を設け、体部は隆線による不定形区画文か。履位R Lを充填施文する。内面研磨	中期後葉
第3130R PL-157	196	深鉢	口縁部破片	52-A21	細砂粒・石英・輝石/良好/黄褐色	口縁部細隆線を設け垂下隆線が体部に派生する。懸文構成。施文部はR Lを充填施文する	中期末葉
第3130R PL-157	197	深鉢	口縁部破片	52-C20	細砂粒・輝石/良好/にぶい褐色	波状隆線。楕状把手を付す。把手下端より口縁部隆線が派生し体部は垂下隆線と履位L Rを施す	中期末葉
第3130R PL-157	198	深鉢	口縁部破片	52-A20	細砂粒・輝石/良好/黄褐色	口縁部にやや幅広い横位沈線と楕状把手を設け、体部は沈線で画された磨消部弧状意匠上端を見る。履文は横位・斜位R Lを充填する	中期末葉
第3130R PL-157	199	深鉢	口縁部破片	52-A20	粗砂粒・輝石/やや軟/黄褐色	波状線か。口縁部に横位沈線と楕状把手を設け、体部は沈線で画された磨消部弧状意匠上端を見る。履文は横位・履位R Lを充填する	中期末葉
第3130R PL-157	200	深鉢	口縁部破片	52-A20	粗砂粒・輝石/良好/黒褐色	波状線か。口縁部細隆線と楕状把手を設け、体部は沈線で画された磨消部による逆U字状意匠を配す。履文は履位R Lを充填施文。内面研磨	中期末葉
第3130R PL-157	201	深鉢	口縁部破片	52-G18	細砂粒・輝石/良好/にぶい褐色	緩やかな波状線。口縁部沈線と楕状把手を設け以下無文L横位・履位施文。内焼扱い	中期末葉
第3130R PL-157	202	深鉢	口縁部破片	52-Q21	細砂粒・石英・輝石/良好/にぶい褐色	波状線波頂部に尖状突起を付す。口縁部は無文で、体部は2本の沈線に画された磨消部による弧状意匠が配される。細文施L Rを充填施文する	中期後葉
第3130R PL-157	203	深鉢	体部破片	52-G19	粗砂粒・石英・雲母少/良好/褐色	体部上半か。沈線による分岐懸垂文か。斜位R Lを充填施文する	中期末葉
第3140R PL-157	204	深鉢	体部・底部破片5点	52-F18 52-F19	細砂粒・輝石/良好/明赤褐色	内湾する体部中位。沈線による分岐懸垂文。施文部履文は履位・斜位L R。磨消部は研磨を施す。履文は強い撫で調整。底部下半の器厚は薄手	中期後葉
第3140R PL-157	205	台付深鉢	脚部破片	52-H13	粗砂粒・石英・雲母/良好/にぶい褐色	小型の台付か。脚部中に径7mm程の円孔を穿つ。隆線が垂下し無部Lを履位に施す。施文は器端部と示す。206と同一個体か	中期後葉
第3140R PL-157	206	台付深鉢	脚部破片	52-H13	粗砂粒・石英・雲母/良好/にぶい褐色	あるいは205と同一個体か。体部中に7mm程の円孔を穿つ	中期後葉
第3140R PL-157	207	鉢?	口縁部破片	52-A19	粗砂粒・輝石/良好/にぶい褐色	口縁部外傾し頸部で強く屈曲する。円形貼付文より沈線を重ねた弧状隆線が派生する。内面研磨	後期前葉
第3140R PL-157	208	深鉢	口縁部破片	52I区	粗砂粒・輝石/良好/灰褐色	口縁部直立し突起付す。頸部は無文。内外面研磨を施す	後期前葉
第3140R PL-157	209	深鉢	体部破片	52-C20	粗砂粒・石英/良好/褐色	体部下半か。横位沈線と楕状把手以下は無文。内面研磨	後期前葉
第3140R PL-157	210	深鉢	体部破片	52-E19	細砂粒・石英/良好/明黄褐色	横位・斜位R Lと横位L Rによる羽状履文が覆う	後期前葉
第3140R PL-157	211	注口上部	体部破片	52-A21	粗砂粒・輝石/良好/黒褐色	体部下半か。中位で強く内湾する。無文で内外面研磨を加える	後期前葉
第3140R PL-157	212	深鉢	底部残存	52-F19	細砂粒・石英/やや軟/褐色	底径:11.0cm。体部下半は強く開く。底面に刷代痕残る。器面磨滅	後期前葉
第3140R PL-157	213	深鉢	口縁部破片	52-111	粗砂粒・輝石/良好/暗褐色	口唇部内傾し口縁部に横位隆線を設ける。体部は沈線に画された施文部幾何学文を配す。磨消部、内面研磨を加える。L Rを充填する	後期前葉
第3140R PL-157	214	深鉢	体部破片	52-B20	粗砂粒・石英・輝石/良好/灰黄褐色	屈曲部に刺突文。以下横位沈線を多段に配し、施文部に履文横位L Rを施す	後期中葉
第3140R PL-157	215	深鉢	体部破片	52-111	粗砂粒・輝石/良好/にぶい黄褐色	沈線に画された施文部幾何学文下端の区画部。L Rを充填する。磨消部、内面研磨を加える	後期前葉
第3140R PL-157	216	深鉢	体部破片	52-H12	粗砂粒・繊維/やや軟/黒褐色	沈線で画された施文部と磨消部による幾何学文構成。施文部履文はL R充填施文。内面研磨	後期前葉
第3140R PL-158	217	深鉢	体部破片	52I区	粗砂粒・石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	器厚薄手。斜位横位沈線を格子目状に施す	後期中葉
第3140R PL-158	218	注口上部	体部破片	52-112	粗砂粒・輝石/良好/にぶい黄褐色	内湾する体部中位。下半に横位沈線による区画線と楕状把手を配す。L Rを充填する	後期前葉
第3140R PL-158	219	深鉢	体部破片	52-111	粗砂粒・輝石/良好/にぶい黄褐色	体部下半か。沈線に画された下端の施文部区画部。L Rを充填する。下半は無文で研磨を加える	後期前葉
第3140R PL-158	220	深鉢	口縁部破片	52I区	粗砂粒・石英・輝石/良好/にぶい褐色	口縁部内傾し対弧状沈線を配す。屈曲部には横位沈線2線を設け沈線間に刺突文を施す。体部に斜位沈線のみが附き取り状の施文である。内面に黒色付着物を見る	後期中葉
第3140R PL-158	221	土製円盤	完形	52I区	粗砂粒・石英/良好/明赤褐色	径:約9.9、厚:約1.1cm、重:4.5g。小型器。深鉢無文部を利用。周縁を丁寧に磨滅する。外面器壁割落	中期後葉
第3140R PL-158	222	土製円盤	完形	52-G19	粗砂粒・輝石/良好/にぶい褐色	径:2.5、厚:1.5cm、重:7.0g。深鉢体部を利用。周縁は丁寧に磨滅する。弧状短沈線を見る	中期後葉
第3140R PL-158	223	土製円盤	完形	52-A20	粗砂粒・石英/良好/にぶい黄褐色	径:約2.6、厚:約1.1cm、重:7.5g。深鉢体部を利用か。弧状隆線と側線沈線。周縁を丁寧に磨滅する	中期後葉
第3140R PL-158	224	土製円盤	完形	52-G18	粗砂粒・輝石/良好/にぶい褐色	径:2.2×2.6、厚:1.1cm、重:8.3g。深鉢体部を利用。歪な楕円形を呈す。周縁は丁寧に磨滅する。R Lを施文	中期後葉

種目 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第31490 PL-158	225	土製円盤	完形	52-G18	細砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	径:2.6×2.7、厚:0.8cm、重:7.6g。深鉢体部を利用。周縁は丁寧に磨る。無文部か	中期後葉
第31490 PL-158	226	土製円盤	完形	52-B19	細砂粒・輝石/良好/ 明褐色	径:約3.1、厚:約1.2cm、重:16.1g。深鉢体部無文部を利用。周縁を丁寧に磨滅する	中期後葉
第31500 PL-158	227	石籬	完形	52-C19	黒曜石	長:1.3、幅:0.9、厚:0.2cm、重:0.1g。凹基無茎跡。完成状態。表裏面とも押圧割離に覆われているが、裏面側に表材面が残る	
第31500 PL-158	228	石籬	完形	52-F12	黒曜石	長:1.3、幅:1.2、厚:0.3cm、重:0.3g。平基無茎跡。完成状態。押圧割離が全面を覆い、薄く仕上がる。小形で、概形は三角形状を呈す	
第31500 PL-158	229	石籬	ほぼ完形	52-C12	黒曜石	長:1.3、幅:1.3、厚:0.4cm、重:0.2g。凹基無茎跡。完成状態。割離面が全面を覆い、丁寧に作り。基部は大きく抉れ、返し部は細く長い	
第31500 PL-158	230	石籬	完形	52-A20	珪質頁岩	長:2.2、幅:1.4、厚:0.3cm、重:0.6g。凹基無茎跡。完成状態。裏面側に平坦な節理面(素材面)が残る。やや甲高な印象を受ける。石材は黄褐色を呈し、光沢が乏しい	
第31500 PL-158	231	石籬	完形	52-D12	黒曜石	長:2.7、幅:2.3、厚:0.3cm、重:1.0g。凹基無茎跡。完成状態。全面が押圧割離に覆われる。大型で、履品の部類に入る	
第31500 PL-158	232	石籬	返し部欠損	52-B14	黒曜石	長:3.2、幅:(1.5)、厚:0.3cm、重:1.0g。凹基無茎跡。完成状態。押圧割離が全面を覆う。大型で薄く仕上がりが、履品の部類に入る	
第31500 PL-158	233	石籬	完形	52-B19	珪質変質岩	長:2.8、幅:1.6、厚:0.6cm、重:1.9g。凹基無茎跡?未製品。加工が全体に粗く、先端部の作出は不十分である。表裏面とも部分的に割離面の光沢差がある	
第31500 PL-158	234	石籬	1/2欠損	52-B13	流紋岩	長:3.0、幅:(3.7)、厚:0.9cm、重:7.5g。横型石籬。周縁加工による成形で特に対部集中する。対部角度は厚く平角を呈す。損部は種々な作出	
第31500 PL-158	235	石籬	完形	52-A19	黒曜石	長:2.9、幅:1.3、厚:0.5cm、重:1.6g。縦型。縦長割片を縦位に用い、周辺加工して器体を作成する。左辺エッジは粗く加工されているが、右辺エッジは直線的で、対部として機能したものと見られる	
第31500 PL-158	236	石籬	完形	52-D19	珪質頁岩	長:2.3、幅:5.6、厚:0.8cm、重:16.6g。横型。幅広割片を横位に用い、周辺加工して器体の概形を整える。対部は直線的であり、対部角は厚い。石材はチョコレート頁岩に近い光沢がある	
第31500 PL-158	237	石籬	ほぼ完形	52-E20	黒曜石	長:2.0、幅:0.5、厚:0.4cm、重:0.3g。断面三角形状を呈する。機能部は両端にあるだろうが、上端部エッジのみ摩耗痕を確認することができる	
第31500 PL-158	238	石籬	完形	52-C18	黒曜石	長:2.5、幅:0.7、厚:0.4cm、重:0.6g。断面三角形状を呈する。機能部は両端にあるだろうが、製作途上にあるためか、エッジの摩耗は確認できない	
第31500 PL-158	239	石籬	ほぼ完形	52-B18	黒曜石	長:2.9、幅:0.9、厚:0.6cm、重:1.6g。断面三角形状を呈する割片を加工して、機能部を作成しようとしたもの。加工が粗く、加工途上に破損したものか	
第31500 PL-158	240	打製石斧	完形	52-B14	安山岩	長:10.3、幅:5.2、厚:1.2cm、重:100.2g。短冊形。扁平な横長割片が素材。両側縁に加工が集中し、対部も凸状に作出する。対部表裏面に磨耗痕、左側縁に着柄痕を見る	
第31500 PL-158	241	打製石斧	完形	52-B14	細粒輝石安山岩	長:12.0、幅:6.3、厚:2.5cm、重:208.9g。短冊形。断面を大きく残す。頭部に割離が集中し両側縁は僅かに削る。対部に斜位方向の磨耗痕を見る	
第31500 PL-158	242	打製石斧	上半部欠損	52-A13	砂岩	長:(5.5)、幅:7.1、厚:2.3cm、重:130.0g。扇形?下平が開く形態。表裏面より大まかな割離が及ぶ。対部は平角を呈す	
第31500 PL-158	243	打製石斧	頭部欠損	52-A14	細粒輝石安山岩	長:(11.6)、幅:5.6、厚:2.7cm、重:162.1g。短冊形。長軸上に僅かに反る。両側縁の加工が顕著で、対部角度はやや厚い。対部表裏面に僅かに磨耗痕を見る	
第31500 PL-158	244	削器	完形	52-E19	細粒輝石安山岩	長:8.6、幅:6.1、厚:2.6cm、重:165.7g。背面側に断面を大きく残す幅広割片を用いる。両側縁ともエッジが著しく摩耗する。激しく使った結果、エッジは完全に消滅している	
第31500 PL-158	245	打製石斧	上半部欠損	52-E19	細粒輝石安山岩	長:(10.5)、幅:6.9、厚:2.8cm、重:179.0g。短冊形。完成状態?対縁部はシャープで、未使用状態にあるかもしれないが、両側縁とも着柄を意識して側縁は消れる	
第31500 PL-158	246	打製石斧	ほぼ完形	表上	細粒輝石安山岩	長:11.2、幅:5.6、厚:2.0cm、重:131.4g。短冊形。完成状態。対部摩耗が著しい。頭部を欠いているが、石斧の上端付近には着柄部があり、良く消れている	
第31500 PL-158	247	打製石斧?	下半部欠損	52-A20	緑色片岩	長:(10.5)、幅:6.5、厚:3.5cm、重:335.0g。未製品。概形は括弧部を有し石斧様だが、詳細は明らかではない。側縁は縦して敲打されているが、頭部エッジは摩耗が著しい。当該地域では、通常石籬に片岩を使用することはなく、割型に注視していきたい	
第31600 PL-158	248	磨製石斧	完形	52-B12	緑色片岩	長:15.2、幅:6.0、厚:3.2cm、重:443.2g。やや厚手で対部は丁寧に作出される	

種目 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/装成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第31609 PL-148	249	磨製石斧	頭部欠損	52-B12	緑色岩	長:19.1、幅:5.6、厚:3.4cm、重:586.5g。乳棒状を呈す。やや長身で凸状の対部を呈す。下半の研磨が著しく斜位断面を見る	
第31609 PL-158	250	磨製石斧	上半部欠損	52-F19	変玄武岩	長:(7.9)、幅:5.1、厚:2.8cm、重:178.7g。定向式。完成状態。対部は激しく使い込まれ、対こぼれがある。破損後最打され、敲き石として転用されている	
第31609 PL-158	251	敲石	上端欠	52-C20	変玄武岩	長:(9.6)、幅:4.7、厚:2.1cm、重:162.5g。磨製石斧の転用あるいは再利用か。敲打痕は対部及び裏面中央に顯著。頭部の研磨は対部への作り替えか	
第31609 PL-158	252	磨石	完形	52-F13	粗粒輝石安山岩	長:4.6、幅:14.9、厚:3.4cm、重:97.5g。小型の円礫表面に平滑面を見る	
第31609 PL-159	253	磨石	完形	52-D19	粗粒輝石安山岩	長:10.7、幅:8.0、厚:3.5cm、重:516.9g。表裏面に強い平滑面を持つ。表面には光沢を見る。細かな敲打痕を散漫に見るが、裏面中央に集中する	
第31609 PL-159	254	磨石	完形	52-I13	粗粒輝石安山岩	長:14.4、幅:10.9、厚:5.5cm、重:1450.0g。表裏面に弱い平滑面を持つ。上下端部に敲打痕が集中する	
第31609 PL-159	255	磨石	完形	52-A13	粗粒輝石安山岩	長:9.4、幅:7.3、厚:3.2cm、重:374.2g。表裏面の強い平滑面のため断面形状をなす。表面は滑沢である	
第31609 PL-159	256	磨石	完形	52-D20	石英閃緑岩	長:9.2、幅:8.2、厚:6.4cm、重:696.0g。やや凸な球状を呈し、表裏面中央に強い平滑面を持つ	
第31609 PL-159	257	敲石	完形	52-A13	粗粒輝石安山岩	長:6.1、幅:6.1、厚:2.8cm、重:146.4g。細かな敲打痕が上端に集中する。表裏面とも強い平滑面を持つ	
第31609 PL-159	258	敲石	完形	52-C20	変質安山岩	長:7.2、幅:7.6、厚:2.9cm、重:259.4g。扁平な円礫下端部に敲打痕が集中する。表裏面に強い平滑面	
第31709 PL-159	259	敲石	半欠	52-A21	粗粒輝石安山岩	長:(7.7)、幅:5.3、厚:3.9cm、重:272.4g。棒状礫端部に細かな敲打痕を集中する。表裏面とも強い平滑面を持つ	
第31709 PL-159	260	敲石	半欠	52-A21	変質安山岩	長:9.3、幅:7.2、厚:3.9cm、重:409.5g。敲打痕を両側面及び上端部に見る。側面の敲打が顯著で右側面は強く凹む	
第31709 PL-159	261	敲石	完形	52-C19	粗粒輝石安山岩	長:8.9、幅:6.3、厚:3.2cm、重:292.4g。敲打痕は下端及び側面に集中する。下端は複雑な敲打で礫面を失う。平滑面を表裏面に見る	
第31709 PL-159	262	磨石か	下半残存	52-F19	粗粒輝石安山岩	長:(16.1)、幅:14.5、厚:12.8cm、重:4417.2g。大型の円礫。石棒頭部の可能性もある。下端に敲打痕を集中し、表裏面に平滑面が広がる。表面には光沢を見る	
第31709 PL-159	263	凹石	完形	52-B18	変質安山岩	長:15.3、幅:5.3、厚:3.8cm、重:420.6g。棒状礫表面中央と右側面中央に敲打痕を集める。平滑面は見られない	
第31709 PL-159	264	凹石	完形	52-C20	変質安山岩	長:11.7、幅:8.1、厚:5.8cm、重:782.1g。厚手の円礫表面中央に敲打痕が集中する。端部に僅かに見られる	
第31709 PL-159	265	凹石	完形	52-A13	粗粒輝石安山岩	長:8.0、幅:6.0、厚:3.7cm、重:232.4g。細かな敲打痕が表裏面中央に集中する。平滑面は見られない	
第31709 PL-159	266	凹石	完形	52-D19	粗粒輝石安山岩	長:11.5、幅:10.4、厚:7.2cm、重:1145.2g。やや大きめの円礫表裏面中央に敲打痕を集中し浅い凹みをなす	
第31709 PL-159	267	多孔石	完形	52-C20	粗粒輝石安山岩	長:22.1、幅:16.4、厚:14.5cm、重:6100.0g。大型の多孔質円礫。表裏面にやや大型の孔を集中する。表面は種籜を踏ぎ置かれる。側面孔は散漫	
第31809 PL-159	268	多孔石	完形	52-E19	粗粒輝石安山岩	長:14.2、幅:8.8、厚:5.7cm、重:700.1g。表裏面の大型の凹みを中心に小型の凹みを散漫に設ける	
第31809 PL-159	269	多孔石	完形	52-E19	粗粒輝石安山岩	長:17.6、幅:16.4、厚:10.8cm、重:3466.5g。角礫。やや緻密な素材。表裏面にやや小型の孔を集めるが裏面は疎ら。孔断面形は円礫状を主とする	
第31809 PL-160	270	多孔石	完形	52-C20	粗粒輝石安山岩	長:28.4、幅:18.9、厚:12.1cm、重:5850.0g。大型の多孔質円礫。表裏面全面に断面円礫状の孔が集中する。両側面にも散漫に孔を設ける	
PL-160	271	石礫	完形	52-A14	黒曜石	長:1.8、幅:2.0、厚:0.3cm、重:1.0g。凹基無芽識。完成状態? 大型石礫が破損、それを再加工したもの。暴状構造が入る透明な良質石で、径3mmの球礫が入る	
PL-160	272	石礫	返し部欠損	52-E13	チャート	長:(3.6)、幅:(0.8)、厚:0.3cm、重:1.6g。凹基無芽識。完成状態。押圧距離が器体全面を覆う。大型である割に薄く仕上が、最品の部類に入る。返し部は長く、棒状に近い	
PL-160	273	石礫	完形	52-A17	流紋岩	長:2.5、幅:1.8、厚:0.4cm、重:1.4g。平基無芽識? 完成状態。加工は丁事で、押圧距離が全面を覆う。基部は返し部を若干意識する程度	
PL-160	274	石礫	略完形	52-B19	黒曜石	長:1.6、幅:1.2、厚:0.3cm、重:0.5g。凹基無芽識。未製品。全体的に粗い作り。基部は大きく挟り込まれ、U字状を呈す。先端部を欠く	
PL-160	275	石礫	完形	52-A14	流紋岩	長:2.0、幅:1.6、厚:0.5cm、重:1.1g。凹基無芽識。完成状態。やや中高だが、全面を加工が優しい、丁事な作り	

種目 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL-160	276	模形石器	完形	52-A20	黒曜石	長:2.1、幅:2.2、厚:0.7cm、重:3.8g。表裏面とも上下内端から対向する割離がある。断面は紡錘状というよりD字状に近く、対称性に欠ける。	
PL-160	277	模形石器	完形	52-C20	黒曜石	長:2.8、幅:2.3、厚:0.5cm、重:3.0g。表裏面とも上下内端から対向する割離がある。模形は方形状を呈している。	
PL-160	278	打製石斧	頭部破損	52-C21	粗粒輝石安山岩	長:(8.6)、幅:4.4、厚:1.3cm、重:74.2g。短冊形。完成状態。対部摩耗が著しい。	
PL-160	279	打製石斧	上半部欠損	52-C20	変質安山岩	長:(10.1)、幅:5.7、厚:2.1cm、重:162.1g。短冊形。未製品。やや幅広のタイプ。側縁のエッジはシャープで、摩耗したような痕跡は見られない。	
PL-160	280	打製石斧	上半部欠損	52-G11	粗粒輝石安山岩	長:(8.9)、幅:6.5、厚:2.2cm、重:163.9g。短冊形。完成状態。対部摩耗が著しい。やや幅広のタイプで、直線的に後退するよう対部再生が行われている。	
PL-160	281	打製石斧	対部破損	52-D20	粗粒輝石安山岩	長:12.5、幅:8.0、厚:2.7cm、重:371.5g。短冊形?完成状態。重量感があり石跡にも見える。長幅だからで、これ以上は再生できないまでに対部は消耗している。	
PL-160	282	磨製石斧	対部破片	52-E13	変質緑岩	長:(3.8)、幅:(5.5)、厚:(2.0 cm、重:79.1g。定向式。完成状態。裏面側の対部は大きく割れ、対部再生を試みたものであろう。背面側には破損部に接して打痕がある。	
PL-160	283	不明石製品	完形	52-A20	粗粒輝石安山岩	長:4.2、幅:2.7、厚:1.8cm、重:23.7g。楕円形。線状痕は確認できないが、端面が摩耗するよう見える。研削具が想定可能だが、やや小さいかもしれない。	
PL-160	284	多孔石	破片	52-B21	粗粒輝石安山岩	長:(25.3)、幅:(13.5)、厚:9.4cm、重:3650.0g。楕円状の多孔質円盤。表面に多数の孔を集中する。裏面は少量	
PL-160	285	磨石	完形	52-A19	石英閃緑岩	長:24.2、幅:15.9、厚:10.4cm、重:5820.0g。大型の楕円状円盤。表裏面に弱い平滑面を持つ	
PL-160	286	多孔石	裏面欠	2石垣	粗粒輝石安山岩	長:23.6、幅:17.3、厚:(11.5) cm、重:4600.0g。不定形の多孔質垂角錐。表面にやや大型の孔を集中する。	
PL-160	287	石棒	破片	2石垣	デイサイト	長:(14.9)、幅:(12.6)、厚:(7.5) cm、重:1425.0g。裏面の平面は節理による欠損か。厚縁を打ち欠く	
PL-161	288	多孔石	完形	52-Q19	粗粒輝石安山岩	長:24.3、幅:20.2、厚:18.3cm、重:10200.0g。大型の垂角錐。表裏面・側面に深い孔を密接に設ける	
PL-161	289	台石	1/4残存	52-B20	石英閃緑岩	長:(33.5)、幅:(24.8)、厚:15.8cm、重:25850.0g。大型の円盤。表裏面強い平滑面。頂部に強い平滑面を見る	
PL-161	290	多孔石	完形	2石垣	粗粒輝石安山岩	長:34.5、幅:17.1、厚:13.1cm、重:6040.0g。大型不定形の多孔質垂角錐。孔は大型で表裏面に密接に設ける	

遺構外出土遺物 1 61区

種目 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第319区 PL-161	1	浅鉢	口縁部破片	61-N 2	細砂粒・輝石/良好/ 褐色	強く屈曲する。口縁部は幅広連続孔形文と三角連続刺突文を横位に施し、縦位三角連続刺突文を充填する。	中期後葉
第319区 PL-161	2	深鉢	底部残存	61-N 2	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい褐色	垂下隆線 2 条による懸垂下端。頸縁は沈線。縦位波状沈線も施される	中期後葉
第319区 PL-161	3	深鉢	口縁～体部破片	61-V 9	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/にぶい褐色	樽状を呈し波状突起を付す。隆線による渦巻文下端より 2 条線縁が垂下し体部中位で区画化する。頸縁は沈線。横位沈線を充填する。	中期後葉
第319区 PL-161	4	深鉢	口縁部破片	61-N 2	細砂粒・石英少/良好/ 褐色/褐色	口縁部内屈し波状突起を付す。口縁部沈線を設け頸部は無文。体部に横位沈線 2 条を配す。内外面丁寧研磨	後期前葉
第319区 PL-161	5	深鉢	口縁部破片	61-N 2	細砂粒・輝石・雲母/ 良好/褐色	口縁部内屈し口縁部沈線を設ける。頸部は無文。外面丁寧研磨を施す	後期前葉
第319区 PL-161	6	深鉢	口縁部破片	61-N 2	細砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	口唇部内屈し小突起を横位沈線で繋ぐ。頸部に円形貼付文を付し刺突文と横位沈線 3 条を施す	後期前葉
第319区 PL-161	7	深鉢	口縁部破片 2 点	61-N 2	細砂粒・黒英・輝石/ 良好/褐色	波状突起を付す。口縁部は幅状で段を持つ。横位沈線 2 条を施し波頂部に円文と孤線文を設ける。頸部は無文。突起内面も外面意匠と同様。外面保付痕。内外面研磨	後期前葉
第319区 PL-162	8 ab	深鉢	口縁～体部下 半1/5残存/ 体部 1/3残存	61-D 1	粗砂粒・輝石/良好/ 暗赤褐色	取り戻した横状把手を口縁部に付す。頸部沈線 3 条以下体部は斜位沈線による三角区画を交互に連続する。区画内には縦位波状文や半渦巻文が沈線で隔られる。縄文は L R 充填文。口縁部及び内面研磨を施す。外面口縁部に保付痕	後期前葉
第319区 PL-162	9	深鉢	口縁部破片	61-L 1	細砂粒・石英・輝石/ 良好/明褐色	波状縁。口縁部外反し隆線が垂下する。頸部屈曲面に円形貼付文と横位沈線を施す。口縁部内面も横位隆線を付し波頂部に円文と孤線文を施す	後期前葉
第319区 PL-162	10 a-c	深鉢	体部破片 3 点	61-N 2	細砂粒・輝石・雲母/ 良好/褐色	太い沈線による渦巻文・同心円状意匠を配す	後期前葉

種目 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第32009 PL_162	11	深鉢	口縁部破片	61-N 2	粗砂粒・片岩/良好/ 褐色	口内面内屈し内面沈線を施す。体部は横位沈線2条を多段に配し、 斜位沈線を埋める。無胎L横位充填施文	後期前葉
第32009 PL_162	12	鉢	口縁部破片	61-N 2	粗砂粒・輝石/良好/ 黒褐色	体部下半で屈曲する。口内面内屈し内面沈線を施す。体部は沈線 で画された施文部による重三角区画文を配す。内外面研磨。外面 体部下半に埋付着	後期前葉
第32009 PL_162	13	深鉢	体部破片	61-N 2	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	頸部は外反し屈曲部に沈線による横位長楕円状凹文を配す。体部 は縦位沈線2・3条を施す。内外面研磨を加え、体部文様に重なる	後期前葉
第32009 PL_162	14	鉢	体部破片	61-N 2	粗砂粒・輝石少/良好/ にぶい赤褐色	体部上半に横位隆線を設ける。以下深い割突文が覆う。施文方向 は横位だが連続性は見られない	後期前葉
第32009 PL_162	15	凹石	完形	61-0 1	粗粒輝石安山岩	長:11.6、幅:10.8、厚:4.4cm、重:755.2g。表裏面中央に敲打痕 が集中し浅い凹みをなす。平滑面も内面に見られる。裏面は加熱 による表裏剥落がある	

遺構外出土遺物2

種目 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第32109 PL_163	51-9 坑1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	縦位沈線と無胎L縦位施文	中期後葉
第32109 PL_163	51-17坑1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英多/良 好/にぶい黄褐色	体部上半か。横位隆線を設け以下無文。器面磨減	後期初頭
第32109 PL_163	51-19坑1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 明赤褐色	縦位沈線による懸垂文構成。施文は深い	後期初頭
第32109 PL_163	51-19坑2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 明赤褐色	底部上破片。縦位LRを施す	中期後葉
第32109 PL_163	51-20坑1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	内面肥厚。2条隆線による口縁部渦巻文。円形割突文を側縁とす る	中期後葉
第32109 PL_163	51-20坑2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 明赤褐色	懸垂L縦位施文。内面埋付着	中期後葉
第32109 PL_163	51-20坑3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい黄褐色	斜位沈線下端部。縄文は縦位RL	中期後葉
第32109 PL_163	51-23坑1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	体部下半。器厚薄手。浅い垂下沈線下端を見る	中期後葉か
第32109 PL_163	51-24坑1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	縦位沈線群と蛇行沈線を配す。おそらく懸垂文構成	中期後葉
第32109 PL_163	51-27坑1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	体部上半か。沈線による分岐懸垂文。施文部縄文は縦位LR充填 施文。磨消部・内面研磨	中期末葉
第32109 PL_163	51-46坑1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	縦位線端部を見る。無胎L縦位施文	中期末葉
第32109 PL_163	51-48坑1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石少/良 好/にぶい黄褐色	波状縁頂部。隆線による渦巻文。凹線を側縁とし斜位平行沈線 を充填する。内外面研磨	中期後葉
第32109 PL_163	51-48坑2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	平縁。口縁部沈線を設け、弧状沈線で磨消部両す。縄文は斜位R L充填施文	中期後葉
第32109 PL_163	51-48坑3	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/灰黄褐色	口内面欠損。2条の横位隆線を設ける。以下無胎Lを斜位充填施 文する	中期後葉
第32109 PL_163	51-48坑4	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい褐色	体部上半。横位隆線を付すか。以下縦位密接条線を施す。頸部及 び内面研磨	中期後葉
第32109 PL_163	51-48坑5	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい黄褐色	垂下沈線を施し、斜位沈線を充填する	中期後葉
第32109 PL_163	51-48坑6	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 灰褐色	体部中位か。横位沈線1条で画する。横位LRを充填する。体部 下半及び内面平滑	後期中葉
第32109 PL_163	51-103坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にぶい黄褐色	縦位RLを施す。外器面の凹凸顕著。内面埋付着	中期後葉
第32109 PL_163	51-150坑 1	深鉢	口頸部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい黄褐色	2条隆線で画され、小型の楕状把手を付す口縁部文様部。把手上 端は渦巻文を配す。区画内は縦位短沈線を充填する。短沈線は押 し引きの痕跡を見るが強い。内面研磨	中期後葉
第32109 PL_163	51-150坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	弧状隆線と渦巻文。渦巻文端部は欠損するが強く突出する。空白 部は斜位短沈線を充填する	中期後葉
第32109 PL_163	51-150坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ にぶい黄褐色	垂下隆線1条による懸垂文構成か。空白部は縦位欠弱状短沈線を 充填する	中期後葉
第32109 PL_163	51-150坑 4	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 褐色	2・3条の横位沈線を多段に設け、地文縦位RLを施す。内面研 磨	中期後葉
第32109 PL_163	51-178坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	2条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成で下部部。斜位短沈線 の痕跡を見る	中期後葉

種図 PL_No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第32100 PL_163	51-179坑 1	浅鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 暗赤褐色	器厚やや薄手。内縁を持つ。内面研磨丁寧。外面は弱い研磨	中期後葉
第32100 PL_163	51-180坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/ 暗赤褐色	垂下隆線3条による懸垂文構成。斜位短沈線を充填する。器面剥 落	中期後葉
第32100 PL_163	51-180坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	垂下隆線による懸垂文構成。沈線を側線とし斜位短沈線を充填する	中期後葉
第32100 PL_163	51-184坑 1	深鉢	口頸部破片	埋土	粗砂粒・輝石/やや 軟/褐色	口縁部は隆線による渦巻文と区画文構成。体部は縦位沈線1条に よる懸垂文構成か。鱗状短沈線を充填する。器面磨減。二次焼成 か体部が灰色を呈す	中期後葉
第32100 PL_163	51-184坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	体部上半で波状形態の腹口縁とする。内面からも丁寧に磨減し素 口縁に仕上げ。沈線で画された磨消部懸垂文構成。腹文部はR L縦位充填施文。内面研磨	中期後葉
第32100 PL_163	51-190坑 1	深鉢	口縁+体部 1/3残存	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にふい黄褐色	平縁で稜状を呈す小型深鉢。口径:(15.2)cm。口縁部に2条隆 線を横位に付し、縦位S字状意匠に繋ぐ。おそらく4単位。S字 状意匠下端より弧状隆線がU字状に派生し単位文として配され る。上位は太い沈線で繋ぎ、空白部は横位矢羽状短沈線を埋める 口径:(18.6)cm。隆線による口縁部渦巻文と楕円状区画文構成。 体部境に横位隆線を付し幅状の無文帯を設ける。体部は2条沈線 で画された磨消部懸垂文構成。腹文はR L縦位充填施文。内面弱 い研磨	中期後葉
第32100 PL_163	51-190坑 2	深鉢	口縁部/4 残存	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にふい赤褐色	隆線による口縁部区画文構成。区内には縦位短沈線を充填する。 体部は蛇行隆線による懸垂文構成。他は無文。内面弱い研磨	中期後葉
第32100 PL_163	51-190坑 3	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/灰褐色	隆線による口縁部渦巻文と楕円状区画文構成。区内には沈線を 側線とし縦位短沈線を充填する。体部は斜位短沈線を施す	中期後葉
第32100 PL_163	51-190坑 4	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 褐色	此状縁。波頂部下に隆線による渦巻文を配し平円状区画文が接す る。区内には縦位短沈線を充填する。横位・弧状隆線により各意 匠が連繋する	中期後葉
第32100 PL_163	51-190坑 5	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英多・輝 石/やや軟/褐色	2条の沈線で画された磨消部懸垂文構成。腹文部腹文はR L R L縦 位充填施文。磨消部・内面は研磨を施す	中期後葉
第32100 PL_163	51-190坑 6	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明赤褐色	垂下隆線と蛇行隆線による懸垂文構成。側線は側で。外面保及び 吹きこぼれ痕付き。内面下半は黒色に変色	中期後葉
第32100 PL_163	51-190坑 8	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明黄褐色	2条隆線による懸垂文構成。隆線の一方が渦巻文と連続する。空 白部は縦位矢羽状短沈線を充填する	中期後葉
第32100 PL_164	51-190坑 9	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にふい黄褐色	縦位沈線付沈線文による懸垂文構成。縦位矢羽状短沈線を充填する 内面弱い研磨	中期後葉
第32200 PL_164	51-190坑 10	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:8.4,幅:7.7,厚:4.8cm,重:419.5g。表裏面に強い平滑面を持つ。 敲打痕は細かく裏面中央と下端に集中する	
第32200 PL_164	51-190坑 11	磨石	半欠	埋土	変質安山岩	長:29.0,幅:8.7,厚:(3.3)cm,重:1000.0g。不定型な稜状垂円蹄。 縦位面短欠損。表面一部に平滑面を見る	
第32200 PL_164	51-253坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・片岩/ 良好/褐色	弧状隆線と蛇行隆線を乗せる。平行沈線による小区画文が配され、 載重列を施す	中期中葉
第32200 PL_164	51-253坑 2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ にふい赤褐色	波状縁。斜位・横位R Lを施す。器厚薄手。内面研磨	中期後葉
第32200 PL_164	51-253坑 3	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 灰褐色	幅状の横位沈線を設け、弧状沈線・縦位沈線を施す。沈線のみ の区画文か。R Lを充填する。口縁部及び内面研磨。内面に埋付着	中期後葉
第32200 PL_164	51-253坑 4	石灘	完形	埋土	黒曜石	長:2.0,幅:1.5,厚:0.4cm,重:0.9g。円基無蓋部。完成状態。 全面を押し潤滑感が残る。薄く仕上げり。履品の部類。裏面側に径 6mmを圍る球磨が残る	
第32200 PL_164	51-253坑 5	打製石斧	対部破損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(9.9),幅:4.9,厚:1.7cm,重:70.9g。短冊形。完成状態。 刃部厚粒・格納痕とも残る。側縁は弱い聞き気味	
第32200 PL_164	51-269坑 1	石灘	返し部欠損	埋土	流紋岩	長:(1.5),幅:(1.3),厚:0.4cm,重:0.3g。円基無蓋部。完成状態? 左辺側の返し部の破片。右器基部を深く取り込むタイプで、返し 部は稜状を呈する。加工は粗い	
第32200 PL_164	52-6坑1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 明赤褐色	弧状隆線を配す。沈線を側線とし斜位沈線を充填する。内面研磨	中期後葉
第32200 PL_164	52-7坑1	深鉢	口頸部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/ 明赤褐色	波状縁か。太い沈線が口縁に沿い、波頂部に沈線による渦巻文を 配す。地文は斜位L R	中期後葉
第32200 PL_164	52-11坑1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/にふい赤褐色	鱗状短沈線を施す。器面磨減	中期後葉
第32200 PL_164	52-12坑1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/明赤褐色	体部中位の括れ部。2条の沈線による横位渦巻状意匠を配し、鱗 状短沈線を充填する	中期後葉
第32200 PL_164	52-12坑2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/明褐色	横位内皮沈線を集合施文する。内面研磨	中期後葉
第32200 PL_164	52-12坑3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/明褐色	垂下隆線3条による懸垂文構成。地文は縦位R L	中期後葉

種目 Pl.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/装成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第32200 Pl_164	52-12坑4	打製石片	ほぼ完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:9.0、幅:4.7、厚:1.6cm、重:70.5g。短冊形。完成状態。対部厚耗・擦痕直が著しい。側縁は割く開き気味で、対部内生が明らかである	
第32200 Pl_164	52-13坑1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・片石・石英/良好/暗赤褐色	弧状沈線 2条間を爪形文が施される。截直状の刻みも看取される	中期中葉
第32200 Pl_164	52-15坑1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/やや軟/褐色	器厚やや薄手。横位隆線 3条を配す。側縁は沈線	中期中葉?
第32200 Pl_164	52-16坑1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/明褐色	縦位波状沈線を配す。地文は縦位 R L	中期後葉
第32200 Pl_164	52-21坑1	深鉢	口頸部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/にふい褐色	隆線による口縁部区画文。側縁は沈線、縦位短沈線を充填する。内面強い研磨	中期後葉
第32200 Pl_164	52-24坑1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/良好/褐色	厚手の器厚。口縁部外面厚し、以下斜位沈線を充填する。口唇部研磨	中期後葉
第32200 Pl_164	52-24坑2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/良好/明褐色	沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部陶文は縦位 R L 充填施文	中期後葉
第32200 Pl_164	52-25坑1	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・雲母/良好/明赤褐色	縦位 L R の間隔施文	中期中葉
第32200 Pl_164	52-25坑2	注口上器	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/にふい黄褐色	沈線で画された施文部・磨消部による渦巻状意匠。施文部陶文は L R 充填施文	後期前葉
第32200 Pl_164	52-27坑1	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/褐色	縦位波状沈線か。地文は斜位 R L R	中期後葉
第32200 Pl_164	52-27坑2	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/褐色	垂下隆線による懸垂文構成か。空白部は魚鱗状沈線を充填する	中期後葉
第32200 Pl_164	52-28坑1	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/良好/灰褐色	体部上平か。横位隆線 2条以下弧状沈線や垂下沈線を配す。地文は R L 斜位施文	中期後葉
第32200 Pl_164	52-34坑1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/明赤褐色	横位隆線 2条による長橋門状意匠を配し、以下斜位短沈線を施す	中期後葉
第32200 Pl_164	52-35坑1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/褐色	斜位沈線 2条によるされた陶文施文部。おそらく幾何学状意匠か L R を充填する。磨消部。内面研磨を施す	後期前葉
第32200 Pl_164	52-38坑1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/黒褐色	垂下隆線 1条による懸垂文構成か。縦位沈線を充填する	中期後葉
第32200 Pl_164	52-41坑1	盃	頸部小破片	埋土	粗砂粒・輝石/やや軟/にふい黄褐色	器面磨滅。横位隆線に波状小突起を付す。突起下端より斜位隆線が派生する	中期後葉
第32200 Pl_164	52-45坑1	深鉢	口頸部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/にふい黄褐色	頸部屈曲。2条隆線による渦巻文を配し、頸部隆線には交互列突文を施す。地文は縦位 R L	中期後葉
第32200 Pl_164	52-45坑2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/良好/赤褐色	内湾する体部中位。縦位波状沈線、垂下沈線による懸垂文構成 地文は縦位 R L	中期後葉
第32200 Pl_164	52-45坑3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/褐色	弧状隆線を繋ぐ。側縁は沈線。空白部は弧状短沈線を充填する	中期後葉
第32200 Pl_164	52-45坑4	凹石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:13.8、幅:5.7、厚:4.3cm、重:425.0g。棒状の内環表裏面中央に敲打痕を集中し凹みとなす。右側面に縦位の線状痕を見る	
第32200 Pl_165	52-47坑1	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英/良好/暗褐色	弧状沈線を施す。弧線内は無文	中期後葉
第32200 Pl_165	52-91坑1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・繊維・輝石/良好/にふい褐色	外反する体部中位。横位ループ文を多段に配し、横位無節 R を施す	前期中葉
第32300 Pl_165	61-29坑1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/にふい黄褐色	体部下平か。浅い沈線の痕跡を見る	後期前葉
第32300 Pl_165	61-32坑1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/良好/褐色	垂下隆線 2条による懸垂文構成。斜位短沈線を充填する	中期後葉
第32300 Pl_165	61-57坑1	注口上器	底部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/褐色	口径:5.0cm。体部中位で屈曲する。弧状沈線で画された磨消部と施文部の交互構成。施文部陶文は L R 充填施文	後期初葉
第32300 Pl_165	61-57坑2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/灰褐色	横位隆線 2条を配し以下短沈線を施す	中期後葉
第32300 Pl_165	61-57坑3	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/良好/にふい褐色	2条隆線による弧状意匠。あるいは渦巻文か。側縁は沈線。弧状短沈線を充填する	中期後葉
第32300 Pl_165	61-59坑1	深鉢	口縁部突起	埋土	粗砂粒・石英/良好/にふい黄褐色	上端に瘤状意匠を配した中空状突起。沈線を重ねた弧状隆線が分岐派生する	後期初葉
第32300 Pl_165	61-59坑2	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・輝石/良好/にふい赤褐色	2条隆線による弧状意匠を配す。側縁は沈線。弧状短沈線を充填する	中期後葉
第32300 Pl_165	61-59坑3	深鉢	口頸部破片	埋土	粗砂粒・輝石/良好/にふい褐色	低位隆線による渦巻文と区画文構成か。縦位 L R を施す	中期後葉
第32300 Pl_165	61-60坑1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/褐色	波頂部か。隆線による渦巻文を配す。側縁は沈線	中期後葉
第32300 Pl_165	61-60坑2	浅鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/にふい褐色	内縁を持つ。内外面とも研磨を施す	中期後葉
第32300 Pl_165	61-60坑3	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英/良好/黄褐色	垂下隆線による懸垂文構成か。縦位隆線群と弧状沈線群を地文とする	中期後葉

種別 PL. No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第32300 PL.165	51-48號1	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/灰褐色	横位隆線に双環状把手を付し、低位隆線による渦巻文を懸架する。 把手外縁、隆線直線に沈線を施し、R Lを充填する	中期後葉
第32300 PL.165	51-48號2	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	隆線による渦巻文を配し下端より垂下隆線2条が派生する。斜位 弧状短沈線を充填する	中期後葉
第32300 PL.165	51-48號3	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	垂下沈線2条に画された帯消部懸垂文構成。施文部は縦位密接条 線を施し縦位波状沈線を重ねる	中期後葉
第32300 PL.165	51-49號 1・2	深鉢	底部破片2 点	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/褐色	内湾気味に立ち上がる体部下平。隆線による懸垂文下部を見る	中期中葉
第32300 PL.165	52-2號1	深鉢	体部破片	埋土	細砂粒・石英/良好/ 黒褐色	体部中位の小破片。隆線が垂下し細かな綾杉文を施す	中期後葉
第32300 PL.165	52-18號1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/灰褐色	内面器壁剥落。口縁部上位は沈線による区画文。区画内は斜位短 沈線を充填する	中期中葉
第32300 PL.165	52-18號2	深鉢	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/灰褐色	器厚薄手。弧状隆線を付し角押文と沈線を兼ねとする。区画中位 に三叉文を配し連続爪形文を縁部に施す。縦位短沈線2条も加え る	中期中葉
第32300 PL.165	51-7集1	深鉢	体部破片	7集石	粗砂粒・纈雜・石英/ 良好/にぶい褐色	器厚やや薄手。0段多条R LとL R縦位施文による縦位矢羽隅文	前期初頭
第32300 PL.165	51-7集2	深鉢	体部破片	7集石	粗砂粒・纈雜・石英/ 良好/にぶい褐色	体部下平か。尖底。0段多条R LとL R縦位・斜位施文による縦 位矢羽隅文	前期初頭
第32300 PL.165	51-7集3	深鉢	体部破片	7集石	粗砂粒・纈雜・石英/ 良好/にぶい褐色	体部下平か。尖底と思われる。0段多条R Lを斜位施文する。武 面に黒色付着物を見る	前期初頭
第32300 PL.165	51-7集4	深鉢	体部破片	7集石	細砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	横位浮線文を多段に設け、浅い矢羽状刻みを加える。地文は横位 R L	前期後葉
第32300 PL.165	51-7集5	深鉢	口縁部破片	7集石	細砂粒・石英・輝石/ 良好/黒褐色	口縁部隆線を設け、隆線による口縁部区画文を配す。区画内は円 形刺突文と縦位短沈線を充填する	中期後葉
第32300 PL.165	51-7集6	深鉢	体部破片	7集石	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/褐色	薄手の器厚を呈す。縦位波状隆線を配す。鱗状短沈線を充填する	中期後葉
第32300 PL.165	51-7集7	深鉢	口縁～体部 破片	7集石	粗砂粒・石英・雲母/ 少/良好/褐色	口唇部欠損。押圧を加える口縁部細隆線を設け、以下横位沈線で 画された施文部帯状意匠を配す。内面磨き	後期前葉
第32300 PL.165	51-7集8	打製石斧	完形	7集石	細粒輝石安山岩	長:12.4、幅:4.8、厚:1.9cm、重:128.9g。短冊形。完成状態。刃 部摩耗は背面側が広く、裏面側が狭い。着柄部は頭部側にあり、 著しく摩耗する	
第32300 PL.165	51-7集9	楔形石器	完形?	7集石	黒曜石	長:1.6、幅:1.5、厚:0.4cm、重:1.0g。表裏面とも上下両端から 対向する剥離がある。縦形は方形状を呈しているが、右側縁の横 断面は両縁交離時に生じたもの	
第32300 PL.165	51-1井1	深鉢	体部破片	1井戸	粗砂粒・纈雜・石英/ 良好/褐色	小径。襷糸Rによる欄目状懸垂文を施す	前期中葉
第32300 PL.165	51-1井2	浅鉢	口縁部破片	1井戸	粗砂粒・輝石/良好/ にぶい褐色	波状縁。口縁部は屈曲し2条の太い沈線で画す。円形刺突文を横 位に充填する。屈曲部下に貫孔の痕跡を見る。あるいは注口部 か。口縁部内面に円形刺突文を施す	後期前葉
第32300 PL.165	52-147 ビット1	注口土器	体部破片	埋土	粗砂粒・石英・輝石/ 良好/灰褐色	大型品か。体部上平に横位沈線を多段に配し、体部中位に注口を 設ける。外面赤彩	後期初頭
第32300 PL.165	52-147 ビット2	土偶	脚部破片	埋土	粗砂粒・石英・雲母/ 良好/赤褐色	左足か? 3方を縦位沈線が覆う。1面のみ沈線を外縁に施す	中期後葉